Syllabus2026

シラバス（教授要目）

北陸学院大学

Realize Your Mission

あなたの使命を実現しよう

2026年度学事暦

	日	月	火	水	木	金	土
3月	3/22	3/23	3/24	3/25	3/26	3/27	3/28
4月	3/29	3/30	3/31	1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	1	2
5月	3	4	5	6	7 水	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
6月	31	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
7月	28	29	30	1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
8月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
9月	30	31	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19

	日	月	火	水	木	金	土
9月	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	1	2	3
10月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
11月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11 金	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
12月	29	30	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
1月	27	28	29	30	31	1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
2月	31	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
3月	28	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31	4/1	4/2	4/3

3月23日（月）～27日（金）	新2・3・4年生前期履修登録期間
3月31日（火）・4月3日（金）	オリエンテーション期間
3月31日（火）～4月3日（金）	新1年生前期履修登録期間
4月2日（木）	入学礼拝（入学式）〔午前：2学部合同〕
4月4日（土）	健康診断（在学生・新入生）
4月6日（月）	前期授業開始
4月15日（水）～17日（金）	前期履修登録変更期間
5月7日（木）	水曜代替講義日
5月22日（金）～23日（土）	フレッシュマン・セミナー（1年）
5月22日（金）	2～4年休講
7月20日（月・祝）	通常授業日
7月24日（金）	前期授業終了
7月25日（土）	全学休校予備日
7月27日（月）～7月31日（金）	前期定期試験期間
8月3日（月）～9月19日（土）	夏期休業　（補講・集中講義・学外実習）
8月3日（月）～7日（金）	追試験期間
9月3日（木）～9日（水）	後期履修登録期間
9月9日（水）	北陸学院創立記念日
9月24日（木）	後期授業開始
10月7日（水）～9日（金）	後期履修登録変更期間
10月12日（月・祝）	通常授業日
10月15日（木）	大学祭準備
10月16日（金）～17日（土）	大学祭
10月31日（土）	全学休校予備日
11月11日（水）	金曜代替講義日
11月13日（金）～14（土）	オータム・セミナー（1・2年生）
11月13日（金）	3・4年生休講
11月13日（金）	キャリアガイダンス
11月23日（月・祝）	通常授業日
11月25日（水）	ツリー点灯式
12月12日（土）	全学休校予備日
12月23日（水）	クリスマス礼拝
12月24日（木）～1月5日（火）	冬期休業
1月23日（土）	全学休校予備日
1月27日（水）	後期授業終了
2月1日（月）～5日（金）	後期定期試験期間
2月8日（月）～10日（水）・12日（金）	追試験期間
2月8日（月）～3月31日（水）	春期休業（補講・集中・学外実習）
3月5日（金）	卒業者発表
3月16日（火）	卒業礼拝（卒業式）

授業　補講日　曜日振替

定期試験　追試験　全学休校予備日

教育学部　幼児教育学科 科目見取表
2・3・4年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの									ディプロマポリシー						
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践																	
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤幼児教育において、保育者・教育者の役割や職務内容を良く理解している。	⑥子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子ども一人一人の個性を認め、個に応じた専門的指導と養育が実践できる。	⑦子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子どもや保護者に寄り添って自らの保育観・子ども観を自分の言葉で語ることができる。
HG200	北陸学院セミナーⅡ	2	1	必修	演習		○	○				○	○		○								○		○				○	○	○			
HG130	キリスト教人間論Ⅰ	2	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○	○		○	○					
HG140	キリスト教人間論Ⅱ	2	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○	○		○	○					
LE170	アクティブ・イングリッシュC	※	3	選択	演習				○						○				○				○	○	○		○		○		○			
LC100	中国語Ⅰ	2	1	必選	演習			○			○	○						○		○		○	○	○	○				○					
LC110	中国語Ⅱ	2	1	必選	演習			○			○	○						○		○		○	○	○	○				○					
LF100	フランス語Ⅰ	2	1	必選	演習		○				○	○			○			○		○				○	○				○					
LF110	フランス語Ⅱ	2	1	必選	演習		○				○	○			○			○		○				○	○				○					
LK100	韓国語Ⅰ	2	1	必選	演習															○	○		○		○				○					
LK110	韓国語Ⅱ	2	1	必選	演習															○	○		○		○				○					
EB400	キリスト教と教育	4	2	必修	講義	○		○				○			○						○		○	○	○			○							○
EB200	データ分析と教育	2	1	必修	演習		○	○	○	○		○	○								○									○				
EB205	キャリアデザインⅢ	2	1	必修	演習	○		○				○	○						○		○		○		○			○	○	○	○				
EB210	キャリアデザインⅣ	2	1	必修	演習		○	○				○	○		○						○		○	○	○			○	○	○	○	○			
EB300	キャリアデザインⅤ	3	1	必修	演習	○	○				○	○	○		○			○					○	○	○		○	○		○	○	○			
EB405	キャリアデザインⅥ	4	1	必修	演習		○	○			○	○	○					○					○	○	○			○		○	○	○			
EB215	プロゼミA	2	2	必修	演習							○	○		○						○			○	○	○				○	○				
EB220	プロゼミB	2	2	必修	演習							○	○		○						○			○	○	○				○	○				
EB305	専門ゼミⅠ	3	4	必修	演習							○	○		○								○	○	○					○	○				
EB410	専門ゼミⅡ	4	4	必修	演習							○	○		○						○			○	○				○	○	○	○	○	○	○
EB415	卒業研究	4	4	選択	演習							○	○		○						○			○	○				○	○	○	○	○	○	○
EB225	教職論	2	2	必修	講義		○				○	○									○		○		○							○	○	○	○
EL200	スピーチ＆ドラマ	2	2	選択	演習						○	○	○		○			○						○	○		○				○		○		
EL205	エクステンシブ・リーディング	2	2	選択	演習			○			○				○								○	○	○					○	○		○		
EL220	プレゼンテーション	2	2	必修	演習		○				○	○	○		○							○	○	○	○					○	○		○		
EL310	ビジネス・イングリッシュA	3	2	選択	演習			○	○		○	○			○			○				○	○	○	○								○		
EL315	ビジネス・イングリッシュB	3	2	選択	演習			○	○		○	○			○			○				○	○	○	○								○		
EL320	インテンシブ・リーディング	3	2	選択	演習		○	○			○	○	○		○							○	○	○	○								○		
EL325	エッセイ・ライティング	3	2	選択	演習		○	○			○	○	○		○							○	○	○	○								○		
EA300	教育史	3	2	必選	講義		○		○												○		○		○										○
EA405	比較教育学	4	2	必選	講義	○		○				○			○	○					○		○	○	○	○									
EA305	教育学文献講読A1	3	2	必選	演習								○		○								○	○	○				○				○	○	
EA315	教育学文献講読B1	3	2	必選	演習								○		○								○	○	○				○				○	○	
EA410	教育実践研究（幼保）	4	2	必選	講義							○	○						○				○		○	○	○								
EA325	教育実践研究（小中高）	3	2	必選	講義	○		○					○		○	○			○				○	○	○		○			○		○	○	○	○
CB200	発達心理学	2	2	必修	講義		○	○	○											○			○		○					○		○	○	○
CB205	教育心理学	2	2	必選	講義		○	○	○											○			○		○					○		○	○	○
CB300	教育社会学	3	2	必修	講義															○					○							○		
CB400	幼児理解	4	2	必修	演習		○	○			○	○	○					○	○				○	○	○					○	○	○	○	○
CB210	教育課程論	2	2	必修	講義			○				○	○		○							○	○		○		○					○	○	
CB215	保育内容総論	2	1	必修	演習			○		○	○	○			○								○		○		○					○	○	
CB220	保育内容・健康指導法	2	2	必修	演習		○	○			○	○	○					○			○		○	○	○					○		○	○	○
CB225	保育内容・人間関係指導法	2	2	必修	演習		○	○				○	○					○				○	○	○	○		○			○		○	○	○
CB230	保育内容・表現指導法	2	2	必修	演習			○			○	○	○										○		○		○			○		○	○	○
CB305	環境	3	2	必修	講義	○	○	○				○	○						○			○	○	○	○					○	○	○	○	○
CB310	健康活動	3	2	必修	講義		○	○			○	○	○		○			○			○		○	○	○					○	○	○	○	○

教育学部　幼児教育学科 科目見取表
2・3・4年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの										ディプロマポリシー						
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践																		
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤幼児教育において、保育者・教育者の役割や職務内容を良く理解している。	⑥子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子ども一人一人の個性を認め、個に応じた専門的指導と養育が実践できる。	⑦子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子どもや保護者に寄り添って自らの保育観、子ども観を自分の言葉で語ることができる。
CB315	言葉	3	2	必修	講義		○	○			○	○	○					○			○		○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○
CB320	人間関係	3	2	必修	講義	○	○	○			○	○	○					○				○	○	○	○								○	○
CB325	表現	3	2	必修	講義			○				○	○										○		○					○	○	○	○	○
CB405	教職実践演習（幼保）	4	2	選択	演習		○	○	○			○	○		○									○	○							○	○	○
CB330	児童文学	3	2	必修	講義			○	○						○						○			○	○					○			○	
CK300	教育・方法の技術（幼栄）	3	2	必修	講義		○			○					○					○			○		○					○				
CK200	国語	2	2	必修	演習	○			○			○			○			○		○			○		○							○	○	
CK205	算数	2	2	必選	演習			○	○			○	○							○			○	○	○							○	○	
CK210	音楽	2	2	必選	演習		○		○		○	○						○				○	○		○							○	○	
CK215	英語	2	2	選択	演習		○	○			○	○	○		○			○				○	○	○	○								○	○
CK220	教育実習指導Ⅰ（幼）	2	1	選択	演習	○	○	○				○	○		○			○	○				○	○	○		○				○		○	○	○
CK305	教育実習指導Ⅱ（幼）	2・3	1	選択	演習	○	○	○			○	○	○		○			○	○				○	○	○		○						○	○	○
CK225	教育実習Ⅰ（幼）	3	2	選択	実習	○	○	○					○					○	○				○		○		○				○		○	○	○
CK310	教育実習Ⅱ（幼）	2・3	2	選択	実習	○	○	○					○						○				○		○		○						○	○	○
CN200	保育者論	2	2	選択	講義			○	○	○	○	○	○					○			○		○		○	○	○						○	○	○
CN300	子どもの理解と援助	3	1	選択	演習			○			○	○	○					○					○		○	○	○							○	○
CN205	子ども家庭福祉論Ⅰ	2	2	選択	講義		○	○				○	○					○				○	○	○	○								○	○	○
CN305	子ども家庭福祉論Ⅱ	3	2	選択	講義	○	○				○	○	○					○			○	○	○	○	○									○	○
CN310	家庭支援の心理学	3	2	選択	講義		○	○			○	○	○					○			○			○	○									○	○
CN210	社会的養護	2	2	選択	講義		○					○						○			○	○			○							○		○	○
CN215	社会的養護内容	2	2	選択	演習		○	○			○	○	○		○	○		○			○	○	○	○	○	○	○						○	○	○
CN220	子どもの保健	2	2	選択	講義				○		○	○	○							○		○	○		○							○		○	
CN315	子どもの健康と安全	3	2	選択	演習							○	○										○	○			○							○	○
CN320	子どもの食と栄養	3	2	選択	演習			○	○			○			○					○	○	○	○	○	○									○	○
CN325	家庭支援論	3	2	選択	講義		○	○			○	○	○		○			○				○	○	○	○		○							○	○
CN225	乳児保育Ⅰ	2	2	選択	講義		○	○			○	○	○							○			○		○						○		○	○	○
CN330	乳児保育Ⅱ	3	2	選択	演習		○	○			○	○	○		○					○			○	○	○						○		○	○	○
CN230	障がい児保育	2	2	選択	演習			○	○		○	○	○		○					○			○	○	○						○			○	
CN400	子育てと支援	4	2	選択	演習		○				○	○	○					○				○		○	○	○	○							○	
CN235	器楽Ⅱ	2	1	選択	演習							○													○		○							○	
CN335	身体表現	3	1	選択	演習			○			○	○	○					○			○		○	○	○							○	○	○	○
CN240	児童文化	2	2	選択	演習		○					○			○					○			○	○	○							○			○	
CN345	保育実習指導Ⅰ（保育所）	3	1	選択	演習	○		○			○	○	○		○				○				○	○	○								○	○	○
CN350	保育実習Ⅰ（保育所）	3	2	選択	実習	○		○											○				○	○	○		○						○	○	○
CN355	保育実習指導Ⅱ（保育所）	3	1	選択	演習	○		○			○	○	○		○				○				○	○	○								○	○	○
CN360	保育実習Ⅱ（保育所）	3	2	選択	実習	○		○											○				○	○	○		○						○	○	○

教育学部　初等中等教育学科 科目見取表
2・3・4年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー						
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践																
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤初等中等教育において、教育者の役割や職務内容を良く理解している。	⑥子どもの育ちや発達、英語・英語教育に関する専門的知識に基づき、小・中・高の教育連携を意識した教育が実践できる。	⑦子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子どもや保護者に寄り添って自らの教育観、子ども観を自分の言葉で語ることができる。
HG200	北陸学院セミナーⅡ	2	1	必修	演習		○	○				○	○		○														○	○	○			
HG130	キリスト教人間論Ⅰ	2	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○	○		○	○					
HG140	キリスト教人間論Ⅱ	2	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○	○		○	○					
LE170	アクティブ・イングリッシュC	※	3	選択	演習				○						○				○				○	○	○		○		○		○			
LC100	中国語Ⅰ	2	1	必選	演習			○			○	○						○		○		○	○	○	○				○					
LC110	中国語Ⅱ	2	1	必選	演習			○			○	○						○		○		○	○	○	○				○					
LF100	フランス語Ⅰ	2	1	必選	演習		○				○	○			○			○		○				○	○				○					
LF110	フランス語Ⅱ	2	1	必選	演習		○				○	○			○			○		○				○	○				○					
LK100	韓国語Ⅰ	2	1	必選	演習															○	○		○		○				○					
LK110	韓国語Ⅱ	2	1	必選	演習															○	○		○		○				○					
EB400	キリスト教と教育	4	2	必修	講義	○	○		○			○	○		○			○	○			○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
EB200	データ分析と教育	2	1	必修	演習		○	○	○	○		○	○								○									○				
EB205	キャリアデザインⅢ	2	1	必修	演習	○		○				○	○						○		○		○		○			○	○	○	○			
EB210	キャリアデザインⅣ	2	1	必修	演習	○	○	○				○	○		○				○		○		○		○			○	○	○				
EB300	キャリアデザインⅤ	3	1	必修	演習	○	○				○	○	○		○			○					○	○	○		○	○		○	○	○		
EB405	キャリアデザインⅥ	4	1	必修	演習		○	○			○	○	○					○					○	○	○			○		○	○	○		
EB215	プロゼミA	2	2	必修	演習							○	○		○						○			○	○	○				○	○			
EB220	プロゼミB	2	2	必修	演習							○	○		○						○			○	○	○				○	○			
EB305	専門ゼミⅠ	3	4	必修	演習							○	○		○								○	○	○					○	○		○	○
EB410	専門ゼミⅡ	4	4	必修	演習							○	○		○						○			○	○				○	○	○	○	○	○
EB415	卒業研究	4	4	選択	演習							○	○		○						○			○	○				○	○	○	○	○	○
EB225	教職論	2	2	必修	講義		○				○	○								○			○		○							○	○	○
EL200	スピーチ&ドラマ	2	2	必修	演習						○	○	○		○			○						○	○		○				○		○	
EL205	エクステンシブ・リーディング	2	2	選択	演習			○			○				○								○	○	○				○	○		○		
EL220	プレゼンテーション	2	2	必修	演習		○				○	○	○		○							○	○	○	○				○	○		○		
EL310	ビジネス・イングリッシュA	3	2	選択	演習			○	○		○	○			○			○				○	○	○								○		
EL315	ビジネス・イングリッシュB	3	2	選択	演習			○	○		○	○			○			○				○	○	○								○		
EL320	インテンシブ・リーディング	3	2	選択	演習		○	○			○	○	○		○							○	○	○								○		
EL325	エッセイ・ライティング	3	2	選択	演習		○	○			○	○	○		○							○	○	○								○		
EA300	教育史	3	2	必選	講義		○		○												○		○		○									○
EA405	比較教育学	4	2	必選	講義			○		○		○			○				○		○		○	○	○	○	○			○		○	○	○
EA305	教育学文献講読A1	3	2	必選	演習								○		○								○	○	○					○		○	○	
EA315	教育学文献講読B1	3	2	必選	演習								○		○								○	○	○					○		○	○	
EA410	教育実践研究（幼保）	4	2	必選	講義	○		○					○		○	○			○				○	○	○		○			○	○	○	○	
EA325	教育実践研究（小中高）	3	2	必選	講義	○		○					○		○	○			○				○	○	○		○			○	○	○	○	
TB200	英語学概論	2	2	必修	講義				○											○					○							○		
TB205	発達心理学	2	2	選択	講義		○	○	○											○			○		○					○		○	○	
TB210	教育心理学	2	2	必修	講義		○	○	○											○			○		○					○		○	○	
TB300	教育社会学	3	2	必修	講義				○					○						○					○					◯		○		
TB305	総合的な学習の時間の指導法	3	1	必修	講義		○			○					○					○			○		○					○				
TB310	教育の方法・技術（ICT活用の理論と実践を含む）	3	2	必修	講義		○			○					○					○			○		○					○				
TB315	道徳教育指導論	3	2	必修	講義		○			○		○								○		○	○		○									○
TB320	教育課程編成論	3	2	必修	講義		○					○								○		○	○		○								○	○
TB325	特別活動の理論と方法	3	1	必修	講義		○					○								○		○	○		○								○	○
TB330	生徒指導論	3	1	必修	講義		○			○		○						○		○			○		○									○
TB335	進路指導論	3	1	必修	講義		○			○		○						○		○			○		○									○
TB400	教育相談	4	2	必修	講義							○	○		○						○		○	○							○	○	○
TB340	英語科指導法	3	2	必修	講義			○			○	○	○	○				○				○	○	○	○	○						○	○	
TB405	教職実践演習（小中高）	4	2	選択	演習		○	○				○	○		○						○		○		○	○				○	○	○		○
TB345	介護等体験	3	2	選択	実習	○	○					○							○		○		○		○							○		
TB350	児童文学	3	2	選択	講義			○	○						○						○			○	○					○			○	
TE200	国語	2	2	必修	演習	○			○			○			○			○		○			○		○							○	○	

教育学部　初等中等教育学科 科目見取表
2・3・4年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相										Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相				成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー						
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習					Exercise 演習			Practice 現場実践																
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ＩＣＴ等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	ＬＩＴＥ（Ｌｅａｒｎｉｎｇ ｉｎ ｔｅａｃｈｉｎｇ）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（１６回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Ｍｉｓｓｉｏｎ）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④４年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤初等中等教育において、教育者の役割や職務内容を良く理解している。	⑥子どもの育ちや発達、英語・英語教育に関する専門的知識に基づき、小・中・高の教育連携を意識した教育が実践できる。	⑦子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子どもや保護者に寄り添って自らの教育観、子ども観を自分の言葉で語ることができる。
TE205	社会	2	2	必選	演習	○	○		○		○	○	○					○			○		○		○						○	○	
TE210	算数	2	2	必選	演習			○	○			○	○							○			○	○	○						○	○	
TE215	理科	2	2	必選	演習		○					○									○	○	○								○	○	
TE220	音楽	2	2	必選	演習		○		○		○	○						○				○	○		○						○	○	
TE300	体育	3	2	必選	演習						○	○													○		○				○	○	
TE230	英語	2	2	必修	演習			○			○	○	○		○			○				○	○	○							○	○	
TE305	国語科指導法（書写を含む）	3	2	選択	講義		○	○		○	○	○	○	○	○			○					○	○	○					○	○	○	○	
TE310	社会科指導法	3	2	選択	講義				○			○	○						○		○		○	○	○						○	○	
TE235	算数科指導法	2	2	選択	講義			○	○			○	○		○					○			○	○	○						○	○	
TE240	理科指導法	2	2	選択	講義		○					○	○		○							○	○	○							○	○	
TE245	生活科指導法	2	2	選択	講義				○			○	○								○		○	○	○						○	○	
TE250	音楽科指導法	2	2	選択	講義		○		○		○	○	○		○			○					○	○	○		○				○	○	
TE255	図画工作指導法	2	2	選択	講義			○				○			○					○					○					○	○	
TE260	家庭科指導法	2	2	選択	講義		○	○				○	○		○				○	○			○				○				○	○	
TE315	体育科指導法	3	2	選択	講義			○			○	○	○					○			○		○	○	○					○	○	○	○	
TE320	教育実習指導（小）	3	1	選択	演習	○					○	○	○					○	○				○		○						○	○	○	
TE325	教育実習Ⅰ（小）	3	4	選択	実習	○		○	○									○	○				○		○	○					○	○	○	
TE400	教育実習Ⅱ（小）	4	2	選択	実習	○		○	○									○	○				○		○	○					○	○	○	
TS200	英語学	2	2	選択	講義			○				○								○		○			○					○		○		
TS300	英語文学Ⅰ	3	2	選択	講義		○	○												○		○	○		○			○						
TS305	英語文学Ⅱ	3	2	選択	講義		○				○	○	○	○						○		○	○	○	○			○						
TS310	英語圏の児童文学	3	2	選択	講義			○				○			○						○	○	○		○							○	○	
TS205	コミュニカティブ・イングリッシュA	2	2	選択	演習			○			○	○	○		○			○				○	○	○	○							○		
TS210	コミュニカティブ・イングリッシュB	2	2	選択	演習			○			○	○	○		○	○		○		○			○	○	○						○		○	○
TS215	英語科教育法Ⅰ	2	2	選択	演習			○				○	○	○	○					○		○	○	○	○						○	○	○	
TS220	英語科教育法Ⅱ	2	2	選択	演習			○				○	○	○	○			○				○	○	○	○						○	○	○	
TS315	英語科教育法Ⅲ	3	2	選択	演習			○			○	○	○	○	○							○	○	○	○						○	○		
TS320	英語科教育法Ⅳ	3	2	選択	演習			○	○			○	○		○			○				○	○	○	○						○	○		
TS325	教育実習指導（中高）	3	1	選択	演習			○					○	○	○			○					○	○	○						○	○	○	
TS330	教育実習Ⅰ（中高）	3	4	選択	実習	○		○					○						○				○	○	○						○	○	○	
TS400	教育実習Ⅱ（中高）	4	2	選択	実習	○		○					○						○				○	○	○						○	○	○	

社会学部　社会学科 科目見取表
1〜4年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相								Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー			
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践													
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤現代社会が直面する問題を、社会学を中心に心理学、社会福祉学などその他関連領域の理論と実証的データに基づいて理解できる。	⑥現代社会が直面する問題の解決のために、自ら設定した課題を探求し、貢献できる。	⑦現代社会が直面する問題の解明のために、実験・社会調査・フィールドワークができる。
HG100	北陸学院セミナーⅠ	1	1	必修	演習		○	○				○	○		○								○		○			○	○	○				
HG200	北陸学院セミナーⅡ	2	1	必修	演習		○	○				○	○		○								○		○			○	○	○				
HG110	キリスト教概論Ⅰ	1	1	必修	講義			○												○		○	○		○	○		○	○	○				
HG120	キリスト教概論Ⅱ	1	1	必修	講義			○												○		○	○		○	○		○	○	○				
HG130	キリスト教人間論Ⅰ	2	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○	○		○	○					
HG140	キリスト教人間論Ⅱ	2	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○	○		○	○					
GE100	郷土の文学	1	2	必選	講義			○				○			○						○		○		○			○	○	○				
GE110	日本国憲法	1	2	必選	講義				○											○		○	○						○					
GE120	青年の心理	1	2	必選	講義		○				○	○								○			○		○				○					
GE130	食と健康	1	2	必選	講義		○					○											○		○				○					
GE140	政治学	1	2	必選	講義		○	○	○													○	○				○		○	○		○	○	
LE150	英語AⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○		○			
LE155	英語AⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○		○			
LE140	英語BⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○		○			
LE145	英語BⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○		○			
LE130	英語CⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE135	英語CⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE120	英語DⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE125	英語DⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE110	英語EⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE115	英語EⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE100	英語FⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE105	英語FⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE170	アクティブ・イングリッシュC	※	3	選択	演習				○						○				○				○	○	○		○		○		○			
LC100	中国語Ⅰ	2	1	必選	演習			○			○	○						○		○		○	○	○	○				○					
LC110	中国語Ⅱ	2	1	必選	演習			○			○	○						○		○		○	○	○	○				○					
LF100	フランス語Ⅰ	2	1	必選	演習		○				○	○			○			○		○				○	○				○					
LF110	フランス語Ⅱ	2	1	必選	演習		○				○	○			○			○		○				○	○				○					
LK100	韓国語Ⅰ	2	1	必選	演習															○	○		○		○				○					
LK110	韓国語Ⅱ	2	1	必選	演習															○	○		○		○				○					
PE100	生涯スポーツA	1	1	必修	実技						○	○						○				○	○		○		○		○	○				
PE110	生涯スポーツB	1	1	必修	実技						○	○						○				○	○		○		○		○	○				
PE120	健康科学	1	2	必修	講義		○													○	○		○		○				○	○				
FE100	情報機器演習A	1	1	必修	演習			○		○		○			○								○	○	○	○			○		○			
FE110	情報機器演習B	1	1	必修	演習			○		○		○			○								○	○	○	○			○		○			
FE120	基礎ゼミⅠ	1	2	必修	演習		○	○		○	○	○	○		○								○	○	○					○			
FE130	基礎ゼミⅡ	1	2	必修	演習					○			○		○								○	○	○				○	○	○	○		
SO300	キリスト教と社会	3	2	必修	講義			○												○		○	○		○	○		○						
SO100	データサイエンス入門	1	2	必修	講義			○	○	○		○	○	○	○		○					○	○		○	○			○					
SO105	統計データの読み方	1	2	選択	講義		○	○	○												○	○	○		○					○		○	○	○
SO110	キャリアデザインⅠ	1	1	必修	演習			○				○	○		○								○	○	○				○		○			
SO115	キャリアデザインⅡ	1	1	必修	演習		○	○		○	○	○	○		○								○	○	○				○					
SO200	キャリアデザインⅢ	2	1	必修	演習			○				○	○		○								○	○	○				○		○			
SO205	キャリアデザインⅣ	2	1	必修	演習	○	○	○	○		○	○	○		○				○		○	○	○	○	○				○		○			
SO305	キャリアデザインⅤ	3	1	選択	演習		○	○				○	○										○		○		○		○					
SO310	キャリアデザインⅥ	3	1	選択	演習		○	○				○	○		○								○	○	○				○					
SO210	プロゼミA	2	2	必修	演習							○	○		○						○		○		○					○	○			
SO215	プロゼミB	2	2	必修	演習							○	○		○						○				○	○				○	○			
SO315	専門ゼミⅠ	3	4	必修	演習																		○	○	○			○	○					
SO400	専門ゼミⅡ	4	4	必修	演習																		○	○	○				○	○	○	○		
SO405	卒業研究	4	4	選択	演習																		○	○	○				○	○	○	○	○	
SO120	ソーシャルサイエンス概説	1	2	必修	講義					○																		○	○	○	○	○		
SO125	社会学概論A	1	2	必修	講義				○	○										○											○	○		
SO130	社会学概論B	1	2	選択	講義		○	○	○											○			○								○			
SO135	社会調査論	1	2	必修	講義		○													○			○								○			
SO140	社会調査法	1	2	選択	講義		○													○			○								○			

社会学部　社会学科 科目見取表
1〜4年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相								Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー			
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習			Exercise 演習		Practice 現場実践															
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤現代社会が直面する問題を、社会学を中心に心理学、社会学などその他関連領域の理論と実証的データに基づいて理解できる。	⑥現代社会が直面する問題の解決のために、自ら設定した課題を探求し、貢献できる。	⑦現代社会が直面する問題の解明のために、実験・社会調査・フィールドワークができる。
SO220	質的研究法	2	2	選択	講義		○	○	○		○	○									○		○							○			○
SK200	データ処理基礎	2	2	選択	演習		○	○	○			○			○						○	○		○	○				○			○	○
SK205	心理学統計法	2	2	選択	講義		○	○	○											○			○										○
SK210	社会学理論	2	2	選択	講義			○													○	○			○							○	
SK215	家族社会学	2	2	選択	講義								○		○					○			○	○								○	
SK220	都市社会学	2	2	選択	講義		○						○								○		○									○	
SK225	環境社会学	2	2	選択	講義		○		○			○								○		○	○		○							○	
SK100	現代社会と福祉Ⅰ	1	2	選択	講義		○	○			○	○								○			○		○							○	
SK105	現代社会と福祉Ⅱ	1	2	選択	講義		○	○			○	○								○			○		○							○	
SK110	心理学概論A	1	2	選択	講義		○	○		○											○				○							○	
SK115	心理学概論B	1	2	選択	講義		○	○	○		○	○								○			○									○	
SK300	教育社会学	3	2	選択	講義				○				○							○					○				○			○	
SK230	グローバル社会論	2	2	選択	講義		○				○	○	○		○	○					○	○	○	○	○				○				○	
SL300	応用心理社会統計法	3	2	選択	講義		○		○											○			○									○	
SC200	ビジネス・イングリッシュA	2	2	選択	講義			○	○		○	○			○			○				○	○	○	○				○		○			
SC205	ビジネス・イングリッシュB	2	2	選択	講義			○	○		○	○			○			○				○	○	○	○				○		○			
SL305	社会調査実習	3	4	選択	実習		○					○									○				○								○
SC210	観光と社会	2	2	選択	講義		○		○			○	○								○		○		○							○	
SC300	地域と観光	3	2	選択	演習		○						○		○								○	○	○				○				
SC215	ホテルサービス論	2	2	選択	講義		○	○		○	○	○	○		○						○		○	○	○				○	○		○		
SC220	インバウンドツーリズム	2	2	選択	講義						○	○			○						○		○	○	○				○	○		○		
SL200	多文化共生論	2	2	選択	講義		○						○								○		○									○		
SL205	社会病理学	2	2	選択	講義		○		○												○		○									○		
SL310	メディア文化論	3	2	選択	講義				○				○							○					○				○			○	○	
SL315	地方行政入門	3	2	選択	演習			○		○			○								○		○			○			○					
SL320	政治行動論	3	2	選択	講義		○	○	○													○	○			○			○				
SL210	経済学Ⅰ	2	2	選択	講義								○									○			○			○	○	○	○			
SL215	経済学Ⅱ	2	2	選択	講義								○									○			○			○	○	○	○			
SL325	経済学Ⅲ	3	2	選択	講義								○									○			○			○	○	○	○			
SL330	経済学Ⅳ	3	2	選択	講義								○									○			○			○	○	○	○			
SL335	法律学	3	2	選択	講義				○	○						○				○		○								○				
SL220	地域社会政策論	2	2	選択	講義		○					○								○		○	○		○							○		
SC100	経営学入門	1	2	選択	講義				○												○		○		○							○		
SC305	マーケティング論	3	2	選択	講義				○												○		○		○							○		
SC225	財務諸表の読み方	2	2	選択	講義				○												○		○		○							○		
SC230	経営組織論	2	2	選択	講義				○												○		○		○							○		
SC310	経営戦略論	3	2	選択	講義				○												○		○		○					○		○		
SC235	簿記A	2	1	選択	演習															○		○						○					
SC240	簿記B	2	1	選択	演習															○		○						○					
SL225	社会貢献論	2	2	選択	講義		○		○			○								○		○	○		○							○		
SL340	社会貢献実習	3	2	選択	実習	○						○	○		○								○									○		
SL230	環境と開発	2	2	選択	講義		○		○			○								○		○	○		○							○		
SL345	地域環境マネジメント論	3	2	選択	演習	○	○						○		○					○		○	○									○		
SL235	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2	2	選択	講義		○		○				○		○					○		○	○	○	○							○	○	
SL350	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	3	2	選択	講義		○		○				○							○		○	○									○		
SL100	児童福祉論	1	2	選択	講義		○	○	○				○			○					○	○	○		○							○		
SL240	高齢者福祉論	2	2	選択	講義		○	○			○	○								○			○		○							○		
SL105	障害者福祉論	1	2	選択	講義			○														○	○		○	○					○		
SL245	社会保障論	2	2	選択	講義			○												○			○	○	○							○		
SL355	権利擁護を支える法制度	3	2	選択	講義			○			○	○	○									○	○						○			○		
SL360	刑事司法と福祉	3	2	選択	講義															○		○							○			○		
SB200	図書館概論	2	2	選択	講義															○		○			○							○		
SB205	情報技術論	2	2	選択	講義							○		○	○						○	○	○		○	○						○		
SC315	データベース演習	3	2	選択	演習					○													○		○					○				
SC245	プログラミング入門	2	2	選択	演習				○	○													○		○					○				
SP100	臨床心理学概論	1	2	選択	講義						○	○						○			○		○		○						○	○		

社会学部　社会学科 科目見取表
1～4年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相								Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー			
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習			Exercise 演習			Practice 現場実践														
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤現代社会が直面する問題を、社会学を中心に心理学、社会福祉学などその他関連領域の理論と実証的データに基づいて理解できる。	⑥現代社会が直面する問題の解決のために、自ら設定した課題を探求し、貢献できる。	⑦現代社会が直面する問題の解明のために、実験・社会調査・フィールドワークができる。
SP200	心理学実験Ⅰ	2	2	選択	実習						○	○										○		○						○		○
SP205	心理学実験Ⅱ	2	2	選択	実習																	○		○						○		○
SP210	心理学研究法	2	2	選択	講義		○	○	○		○	○									○	○	○							○		○
SP215	心理的アセスメント	2	2	選択	講義						○	○						○			○		○		○					○	○	○	○
SP220	発達心理学	2	2	選択	講義		○	○	○											○			○		○					○		○	
SP225	教育心理学	2	2	選択	講義		○	○	○											○			○		○					○		○	
SP230	人格心理学（感情・人格心理学A）	2	2	選択	講義		○	○	○		○										○		○		○					○		○	
SP300	社会・集団・家族心理学	3	2	選択	講義			○	○		○	○								○			○							○			
SP305	産業・組織心理学	3	2	選択	講義		○	○	○		○	○								○			○							○			
SP310	知覚・認知心理学	3	2	選択	講義			○	○											○			○							○			
SP315	感情心理学（感情・人格心理学B）	3	2	選択	講義		○	○	○		○	○	○							○					○					○		○	
SP320	障害者・障害児心理学	3	2	選択	講義			○													○	○	○		○					○		○	
SP325	心理学的支援法	3	2	選択	講義		○	○	○		○	○									○	○	○							○		○	
SP330	学校心理学（教育・学校心理学）	3	2	選択	講義		○				○	○	○							○			○	○	○					○		○	
SP335	心理演習	3	2	自由	演習		○	○			○	○	○					○			○				○					○		○	
SW200	ソーシャルワークの基盤と専門職	2	2	選択	講義						○	○	○		○							○	○		○							○	
SW205	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	2	選択	講義						○	○	○		○							○	○		○							○	
SW210	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	2	選択	講義						○	○	○		○							○	○		○							○	
SW300	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	3	2	選択	講義		○	○			○	○	○							○			○		○							○	
SW305	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3	2	選択	講義		○	○			○	○	○							○			○		○							○	
SW310	福祉サービスの組織と経営	3	2	選択	講義			○				○									○	○	○		○							○	
SW315	公的扶助論	3	2	選択	講義							○	○		○					○		○	○	○	○							○	
SW320	保健医療サービス	3	2	選択	講義						○	○								○					○							○	
SW215	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	2	選択	演習		○	○			○	○	○					○		○			○	○	○							○	○
SW220	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	2	選択	演習		○	○			○	○	○					○		○			○	○	○							○	○
SW325	ソーシャルワーク演習Ⅲ	3	2	選択	演習		○				○	○	○		○		○	○				○	○	○	○							○	○
SW330	ソーシャルワーク演習Ⅳ	3	2	選択	演習		○				○	○	○		○		○	○				○	○	○	○							○	○
SW335	ソーシャルワーク演習Ⅴ	3	2	選択	演習		○				○	○	○		○		○	○		○			○	○	○							○	○
SW225	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	2	選択	演習		○	○			○	○	○					○					○	○	○							○	○
SW340	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3	2	選択	演習		○	○			○	○	○		○								○	○	○							○	○
SW350	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3	2	選択	演習		○	○			○	○	○		○								○	○	○							○	○
SW230	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2	1	選択	実習	○													○				○	○	○		○					○	○
SW345	ソーシャルワーク実習Ⅱ	3	4	選択	実習	○													○				○	○	○		○					○	○
SS300	精神保健学	3	2	選択	講義		○	○														○	○		○	○						○	
SS305	スクールソーシャルワーク論	3	2	選択	講義		○	○														○	○		○	○						○	
SS400	スクールソーシャルワーク演習	4	1	選択	演習		○	○			○	○	○		○			○				○	○	○	○							○	
SS405	スクールソーシャルワーク実習指導	4	1	選択	演習		○				○	○											○	○	○							○	○	○
SS410	スクールソーシャルワーク実習	4	2	選択	実験・実習	○													○				○		○		○					○	○	○
SB100	生涯学習概論	1	2	選択	講義				○		○	○	○		○				○		○		○	○	○						○	○		
SB210	図書館サービス概論	2	2	選択	講義																○		○		○						○		
SB215	情報サービス論	2	2	選択	講義														○			○			○						○		
SB300	児童サービス論	3	2	選択	講義				○			○							○				○		○						○		
SB220	情報資源組織論	2	2	選択	講義														○			○			○						○		
SB305	図書館制度・経営論	3	2	選択	講義				○										○				○		○							○	
SB310	情報サービス演習Ⅰ	3	1	選択	演習																		○		○							○	
SB315	情報サービス演習Ⅱ	3	1	選択	演習		○								○								○		○							○	
SB320	情報資源組織演習Ⅰ	3	1	選択	演習																		○		○							○	
SB325	情報資源組織演習Ⅱ	3	1	選択	演習		○																○		○							○	
SB330	図書館情報資源概論	3	2	選択	講義														○						○							○	
SB400	図書・図書館史	4	2	選択	講義				○												○		○		○								○	
SB405	図書館実習	4	1	選択	実験・実習														○				○		○								○	○
ST100	公認心理師の職責	1	2	自由	講義		○		○				○		○					○			○		○							○		
ST200	学習・言語心理学	2	2	選択	講義			○				○	○								○		○									○		
ST205	神経・生理心理学	2	2	選択	講義		○	○												○		○	○									○		
ST210	人体の構造と機能及び疾病	2	2	選択	講義		○	○			○			○						○					○							○		
ST300	福祉心理学	3	2	選択	講義		○	○			○	○	○					○						○	○							○		

社会学部　社会学科 科目見取表
1〜4年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相								Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー							
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践																
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤現代社会が直面する問題を、社会学を中心に心理学・社会福祉学などその他関連領域の理論と実証的データに基づいて理解できる。	⑥現代社会が直面する問題の解決のために、自ら設定した課題を探求し、貢献できる。	⑦現代社会が直面する問題の解明のために、実験・社会調査・フィールドワークができる。
ST305	司法・犯罪心理学	3	2	自由	講義							○	○		○						○		○	○	○							○		
ST310	精神疾患とその治療	3	2	選択	講義		○	○	○		○	○	○					○			○	○	○		○							○		
ST315	健康・医療心理学	3	2	選択	講義		○	○												○			○									○		
ST320	関係行政論	3	2	自由	講義			○				○										○			○							○		
ST400	心理実習	4	2	自由	実験・実習	○		○											○								○						○	○	○

社会学部　社会マネジメント学科 科目見取表
1年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー				
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践														
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②高い倫理観を持ち、他者とのかかわりの中で誠実な態度と行動を示すことができる。	③社会学および経営学の諸理論と、実証的データに基づいて、現代社会・組織経営が直面する問題を発見することができる。（知識／技能）	④現代社会・組織経営が直面する問題について、論理的思考能力と、実証的方法論、情報分析技術に基づいて解決する方法を判断し、表現することができる。（判断力／思考力／表現力）	⑤言語・国籍・価値観の多様なチームにおいて円滑にコミュニケーションをとり、目標に向かってチームの力を引き出すことができる。（主体性／多様性／協働性）
HG100	北陸学院セミナーⅠ	1	1	必修	演習		○	○				○	○		○									○		○			○			
HG110	キリスト教概論Ⅰ	1	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○	○		○				
HG120	キリスト教概論Ⅱ	1	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○	○		○				
EC100	英会話入門	1	1	必選	演習															○					○		○					○
EC110	英会話 Lv.1	1	2	必選	演習																				○		○					○
EC120	英会話 Lv.2	1	3	必選	演習																				○		○					○
EC130	英会話 Lv.3	1	3	必選	演習																				○		○					○
EC140	英会話 Lv.4	1	3	必選	演習																				○		○					○
EC150	英会話 Lv.5	1	3	必選	演習																				○		○					○
EC160	英会話 Lv.6	1	3	必選	演習																				○		○					○
EC170	英会話 Lv.7	1	3	必選	演習																				○		○					○
FE100	情報機器演習A	1	1	必修	演習			○		○		○			○								○	○	○	○					○	
FE110	情報機器演習B	1	1	必修	演習			○		○		○			○								○	○	○	○					○	
FE120	基礎ゼミⅠ	1	2	必修	演習																○			○	○				○			
FE130	基礎ゼミⅡ	1	2	必修	演習																○			○	○				○			
FE140	オンラインディスカッション概論	1	2	必修	演習			○	○	○	○	○	○					○					○		○	○			○			○
FE150	データサイエンス入門	1	2	必修	講義			○	○			○	○	○	○		○	○			○	○	○	○	○					○	○	○
FE160	食と健康	1	2	必修	講義		○					○											○		○							
MA100	統計データの読み方	1	2	必修	講義		○	○	○												○	○	○		○							
MA105	キャリアデザインⅠ	1	1	必修	演習							○			○								○		○							
MA110	社会学概論A	1	2	必修	講義				○	○										○												
MA115	社会学概論B	1	2	必修	講義		○	○	○											○			○									
MA120	社会調査論	1	2	必修	講義		○													○			○									
MA125	社会調査法	1	2	必修	講義		○													○			○									
MK100	データ処理基礎	1	2	必修	演習		○	○	○			○			○						○	○		○	○							
MK105	家族社会学	1	2	必修	講義								○		○					○			○	○								
MS100	メディア文化論	1	2	選択	講義				○				○							○					○							
MS105	地域社会貢献論	1	2	必選	講義		○		○			○								○		○	○		○							
MI100	インターネットとITリテラシー	1	2	選択	講義								○										○				○					
MB100	経営戦略基礎Ⅰ	1	2	必選	講義																		○		○		○					
MB105	会計入門	1	2	選択	講義																		○		○		○					
MB110	マーケティング入門	1	2	必修	講義																		○		○		○					
MB115	プロジェクトマネジメント	1	2	選択	講義																		○		○		○					
MP100	問題解決入門	1	2	必修	講義																		○		○							

健康科学部　栄養学科 科目見取表
1〜4年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相								Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー						
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習			Exercise 演習			Practice 現場実践																
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観・自然観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤栄養と健康において、管理栄養士の役割や職務内容を良く理解している。	⑥現代社会及び地域社会における栄養と健康に関する課題を、専門的知識に基づき理解し、問題の解決のために、意欲的に関わり貢献できる。	⑦栄養と健康に関する専門的知識及び実践力に基づき、「食」を通して地域社会や他者に寄り添い自らの使命観に基づき行動できる。
HG100	北陸学院セミナーⅠ	1	1	必修	演習		○	○				○	○		○								○		○			○	○	○				
HG200	北陸学院セミナーⅡ	2	1	必修	演習		○	○				○	○		○								○		○				○	○	○			
HG110	キリスト教概論Ⅰ	1	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○	○		○	○	○				
HG120	キリスト教概論Ⅱ	1	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○	○		○	○	○				
HG130	キリスト教人間論Ⅰ	2	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○	○		○	○					
HG140	キリスト教人間論Ⅱ	2	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○	○		○	○					
GE100	郷土の文学	1	2	必選	講義			○				○			○						○		○		○			○	○	○				
GE110	日本国憲法	1	2	必修	講義				○											○		○	○						○					
GE120	青年の心理	1	2	必選	講義		○				○	○	○							○			○		○				○					
GE140	政治学	1	2	必選	講義		○	○	○													○	○				○		○	○		○	○	
LE150	英語AⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○					
LE155	英語AⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○					
LE140	英語BⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○					
LE145	英語BⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○					
LE130	英語CⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE135	英語CⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE120	英語DⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE125	英語DⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE110	英語EⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE115	英語EⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE100	英語FⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE105	英語FⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE170	アクティブ・イングリッシュC	※	3	選択	演習				○						○				○				○	○	○		○		○					
LC100	中国語Ⅰ	2	1	必選	演習			○			○	○						○		○		○	○	○	○				○					
LC110	中国語Ⅱ	2	1	必選	演習			○			○	○						○		○		○	○	○	○				○					
LF100	フランス語Ⅰ	2	1	必選	演習		○				○	○			○			○		○				○	○				○					
LF110	フランス語Ⅱ	2	1	必選	演習		○				○	○			○			○		○				○	○				○					
LK100	韓国語Ⅰ	2	1	必選	演習															○	○		○		○				○					
LK110	韓国語Ⅱ	2	1	必選	演習															○	○		○		○				○					
PE100	生涯スポーツA	1	1	必修	実技						○	○						○				○	○		○		○		○	○				
PE110	生涯スポーツB	1	1	必修	実技						○	○						○				○	○		○				○	○				
PE120	健康科学	1	2	必修	講義		○													○	○		○						○					
FE100	情報機器演習A	1	1	必修	演習			○		○		○			○								○	○	○	○			○		○			
FE110	情報機器演習B	1	1	必修	演習			○		○		○			○								○	○	○	○			○		○			
FE120	基礎ゼミⅠ	1	2	必修	演習		○					○	○		○						○		○	○	○	○			○	○				
FE130	基礎ゼミⅡ	1	2	必修	演習		○					○	○		○						○		○	○	○	○			○	○				
NK400	キリスト教といのち	4	2	必修	講義			○												○		○	○		○	○		○	○					
NK215	データサイエンス入門	1	2	必修	講義			○	○	○		○	○	○	○		○					○	○		○	○			○					
NK215	健康とデータ解析	2	1	選択	演習								○		○						○		○		○					○		○	○	○
NK105	キャリアデザインⅠ	1	1	必修	演習		○	○		○	○	○	○			○	○				○	○	○		○		○		○	○				
NK110	キャリアデザインⅡ	1	1	必修	演習		○	○		○	○	○	○			○	○				○	○	○		○		○		○	○				
NK300	キャリアデザインⅢ	2	1	選択	演習		○	○		○		○	○			○					○	○	○		○		○		○	○				
NK220	キャリアデザインⅣ	2	1	選択	演習		○	○		○		○	○			○					○	○	○		○		○		○	○				
NK300	キャリアデザインⅤ	3	1	選択	演習		○	○		○		○	○			○					○	○	○		○		○		○	○				
NK305	キャリアデザインⅥ	3	1	選択	演習		○	○		○		○	○			○					○	○	○		○		○		○	○				
NK205	プロゼミA	2	2	必修	演習	○									○						○		○		○	○				○	○	○	○	○
NK210	プロゼミB	2	2	必修	演習	○									○						○		○		○	○				○	○	○	○	○
NK310	専門ゼミⅠ	3	4	必修	演習	○							○		○				○		○		○		○	○				○	○	○	○	○

健康科学部　栄養学科 科目見取表
1〜4年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相								Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー						
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習			Exercise 演習			Practice 現場実践																
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観・自然観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自らの課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤栄養と健康において、管理栄養士の役割や職務内容を良く理解している。	⑥現代社会及び地域社会における栄養と健康に関する課題を、専門的知識に基づき理解し、問題の解決のために、意欲的に関わり貢献できる。	⑦栄養と健康に関する専門的知識及び実践力に基づき、「食」を通して地域社会や他者に寄り添い自らの使命観に基づき行動できる。
NK405	専門ゼミⅡ	4	4	必修	演習	○							○		○				○														
NK410	卒業研究	4	4	選択	演習	○							○		○				○											○	○			
NG110	管理栄養士への道Ⅰ	1	1	必修	演習			○			○				○						○		○		○					○				
NG115	管理栄養士への道Ⅱ	1	1	必修	演習			○				○									○				○					○				
NF100	分析化学	1	2	必修	講義							○	○		○					○			○											
NG105	食事計画論	1	1	必修	実習			○			○				○						○		○		○					○				
NH100	健康管理概論	1	2	必修	講義			○												○		○	○							○				
NH200	公衆衛生学	2	2	必修	講義															○		○	○		○					○				
NM100	生化学Ⅰ	1	2	必修	講義		○													○			○		○									
NM200	解剖生理学Ⅰ	2	2	必修	講義			○												○		○												
NM210	医学一般Ⅰ	2	2	必修	講義			○												○		○												
NF120	食品学Ⅰ	1	2	必修	講義							○	○		○					○			○											
NF215	食品衛生学	2	2	必修	講義															○		○												
NF105	調理学	1	2	必修	講義			○												○		○	○											
ND100	基礎栄養学	1	2	必修	講義			○												○		○	○											
ND200	応用栄養学Ⅰ	2	2	必修	講義	○	○													○	○	○	○		○									
NP200	栄養教育論Ⅰ	2	2	必修	講義		○	○	○	○	○	○	○		○					○	○	○	○	○	○									
NC200	臨床栄養学Ⅰ	2	2	必修	講義			○												○		○												
NP210	公衆栄養学Ⅰ	2	2	必修	講義															○			○		○									
NL100	給食経営管理論Ⅰ	1	2	必修	講義				○											○		○	○											
NH205	公衆衛生学実験	2	1	必修	実験		○		○			○								○			○		○									
NH105	社会福祉概論	1	2	必修	講義															○					○									
NM105	生化学Ⅱ	1	2	必修	講義		○													○			○		○									
NM110	生化学実験	1	1	必修	実験							○	○							○			○											
NM300	解剖生理学Ⅱ	3	2	必修	講義			○												○		○												
NM205	解剖生理学実験	2	1	必修	実験		○													○		○												
NM305	医学一般Ⅱ	3	2	必修	講義			○												○		○												
NM310	医学一般Ⅲ	3	2	必修	講義			○												○		○												
NF200	食品学Ⅱ	2	2	必修	講義							○	○		○					○			○											
NF220	食品機能学	2	2	選択	講義							○	○		○					○			○											
NF315	食品分析学	3	2	選択	講義		○														○		○		○									
NF300	食品加工学	3	2	必修	講義							○	○		○					○			○											
NF110	分析化学実験	1	1	必修	実験	○	○					○								○			○		○									
NF205	食品学実験	2	1	必修	実験								○							○			○											
NF310	食品加工学実習	3	1	必修	実習								○							○			○											
NF305	食品衛生学実験	3	1	必修	実験							○								○			○											
NF115	調理学実習Ⅰ	1	1	必修	実習	○	○					○								○			○		○									
NF125	調理学実習Ⅱ	1	1	必修	実習	○	○					○								○			○		○									
NF210	調理学実習Ⅲ	2	1	必修	実習	○	○					○								○			○		○									
ND205	基礎栄養学実験	2	1	必修	実験							○			○						○		○		○									
ND210	応用栄養学Ⅱ	2	2	必修	講義	○	○													○	○	○	○		○									
ND300	応用栄養学Ⅲ	3	2	必修	講義	○	○													○	○	○	○		○									
ND305	応用栄養学実習Ⅰ	3	1	必修	実習	○	○													○	○	○	○		○									
ND310	応用栄養学実習Ⅱ	3	1	必修	実習	○	○													○	○	○	○		○									
NP205	栄養教育論Ⅱ	2	2	必修	講義		○	○	○	○	○	○	○		○					○	○	○	○	○	○									
NP300	栄養教育論Ⅲ	3	2	必修	講義		○	○	○	○	○	○	○		○					○	○	○	○	○	○									
NP305	栄養教育論実習Ⅰ	3	1	必修	実習		○	○	○	○	○	○	○		○			○			○	○	○	○	○									
NP310	栄養教育論実習Ⅱ	3	1	必修	実習		○	○	○	○	○	○	○		○			○			○	○	○	○	○									
NC205	臨床栄養学Ⅱ	2	2	必修	講義			○												○		○												

健康科学部　栄養学科 科目見取表
1〜4年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相								Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー						
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習			Exercise 演習			Practice 現場実践																
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観・自然観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤栄養と健康において、管理栄養士の役割や職務内容を良く理解している。	⑥現代社会及び地域社会における栄養と健康に関する課題を、専門的知識に基づき理解し、問題の解決のために、意欲的に関わり貢献できる。	⑦栄養と健康に関する専門的知識及び実践力に基づき、「食」を通して地域社会や他者に寄り添い自らの使命観に基づき行動できる。
NC300	臨床栄養学Ⅲ	3	2	必修	講義			○												○		○									○	○	○
NC210	臨床栄養学演習	2	2	必修	演習		○	○	○		○								○	○			○		○						○	○	○
NC305	臨床栄養学実習Ⅰ	3	1	必修	実習		○	○	○		○	○	○						○	○			○	○	○						○	○	○
NC310	臨床栄養学実習Ⅱ	3	1	必修	実習		○	○	○		○	○	○						○	○			○	○	○						○	○	○
NP315	公衆栄養学Ⅱ	3	2	必修	講義														○	○			○		○						○	○	○
NP320	公衆栄養学実習	3	1	必修	実習		○	○	○		○	○	○		○				○				○		○						○	○	○
NL200	給食経営管理論Ⅱ	2	2	必修	講義			○	○											○		○	○								○	○	○
NL205	給食経営管理実習Ⅰ	2	1	必修	実習		○	○	○											○			○								○	○	○
NL300	給食経営管理実習Ⅱ	3	1	必修	実習		○	○	○											○			○								○	○	○
NG300	総合演習Ⅰ	3	2	必修	演習		○					○	○		○								○								○	○	○
NG400	総合演習Ⅱ	4	2	必修	演習		○					○	○		○								○								○	○	○
NL305	臨地実習Ⅰ（給食の運営）	3	1	必修	実習		○								○								○							○	○	○	○	○
NL310	臨地実習Ⅱ（給食経営管理論分野）	3	1	必選	実習		○								○								○			○				○	○	○	○	○
NC315	臨地実習ⅢA（臨床栄養学分野）	3	1	必選	実習		○								○								○			○				○	○	○	○	○
NC400	臨地実習ⅢB（臨床栄養学分野）	4	2	必選	実習		○								○								○			○				○	○	○	○	○
NP400	臨地実習Ⅳ（公衆栄養学分野）	4	1	必選	実習		○								○								○			○				○	○	○	○	○
NG100	地域の食と健康・環境Ⅰ	1	1	必修	演習			○				○	○								○		○		○						○		○	○	○
NG200	地域の食と健康・環境Ⅱ	2	1	必修	演習			○				○	○								○		○		○						○		○	○	○
NG305	地域の食と健康・環境Ⅲ	3	1	必修	演習			○				○	○								○		○		○						○		○	○	○
NG405	健康・栄養総合演習Ⅰ	4	1	必修	演習			○				○	○								○		○		○						○		○	○	○
NG410	健康・栄養総合演習Ⅱ	4	1	必修	演習			○				○	○								○		○		○						○		○	○	○
NT200	教職論	2	2	自由	講義		○				○	○								○			○		○						○				
NT315	特別活動の理論と方法	3	1	自由	講義		○					○								○		○	○		○						○				
NT320	道徳教育指導論	3	2	自由	講義		○			○		○								○		○	○		○						○				
NT325	教育課程編成論	3	2	自由	講義		○					○								○		○	○		○						○				
NT300	教育社会学	3	2	自由	講義			◯					◯							○					○						○				
NT205	発達心理学	2	2	自由	講義		○	○	○											○			○		○						○				
NT400	教育相談	4	2	自由	講義							○	○		○						○		○	○							○		○	○	○
NT305	教育の方法・技術（幼栄）	3	2	自由	講義		○			○					○					○			○		○						○				
NT330	総合的な学習の時間の指導法	3	1	自由	講義		○			○					○					○			○		○						○				
NT310	生徒指導論	3	1	自由	講義		○			○		○						○		○			○		○						○				
NT210	学校栄養指導論Ⅰ	2	2	自由	講義		○	○	○		○	○			○					○			○		○						○		○	○	○
NT335	学校栄養指導論Ⅱ	3	2	自由	講義	○	○										○			○	○	○	○		○						○		○	○	○
NT405	栄養教育実習指導	4	2	自由	演習		○					○			○								○		○						○		○	○	○
NT410	栄養教育実習	4	2	自由	実習		○								○								○			○					○	○	○	○	○
NT415	教職実践演習（栄養）	4	2	自由	演習	○	○	○				○	○		○								○	○	○						○		○	○	○

2026年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【教育学部　幼児教育学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要
上田　ますみ	国立大学附属幼稚園の教諭及び管理職として31年間、公立小学校教員として7年間勤務	表現	2	幼稚園及び小学校での実践経験を活かし、具体的な実践事例や保育観察参観等を通して、表現の視点から子どもの姿や学び、教師の役割を考える授業を行う。
桑田　千代	厚生労働省認定・Happy&Smileカレッジ・医療的ケア等教員講習会・医療的ケア等講習会講師 現在、医療的ケア児のための保育・療育通所施設代表管理者 保育教諭として12年、看護師（小児、救命救急）として11年勤務	健康活動	2	看護師として、養護教諭として、保育士として、幼稚園教諭として、また教育者としての経験を活かし、福祉事業の現場で起こっている現状を事例も交えながら実践的な授業を行う。
		保育内容・健康指導法	2	看護師として、養護教諭として、保育士として、幼稚園教諭として、また教育者としての経験を活かし、福祉事業の現場で起こっている現状を事例も交えながら実践的な授業を行う。
齊藤　英俊	公認心理師・臨床心理士、非常勤のカウンセラー（主にスクールカウンセラー・学生相談員）として16年間勤務	発達心理学	2	スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。
		教育心理学	2	スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例（いじめや不登校など）をもとに、子どもへの関わり方や解決策について検討する時間を設けている。
		幼児理解	2	心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して子ども理解における心理的視点について説明している。
		家庭支援の心理学	2	心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して家族の理解や家族支援について心理的視点から説明している。
谷　昌代	・幼稚園、幼保連携型認定こども園、保育所等乳幼児教育保育施設にて約14年間勤務。 ・金沢市教育プラザ統合保育巡回指導員を2018年度より担当。 ・保育士等キャリアアップ研修講師を2019年度より担当。 ・金沢市幼児教育センター「障がい児保育」研修、他講師。 ・こども家庭庁子ども・子育て支援調査研究委員2023年度	キャリアデザインⅣ	1	保育施設での勤務経験、子育て支援、学童支援の経験をもとに、保育・教育現場の現状や課題、やりがいなどについて具体例を示しながら，授業を行う。
		キャリアデザインⅤ	1	保育施設での勤務、子育て支援、学童支援の経験をもとに、保育・教育現場の現状や課題、やりがいなどについて具体例を示していく。学生自身が職業選択に向けて自己理解、適性を考える契機として様々な機会(就職相談会・イベント等）に参加していく。
		キャリアデザインⅥ	1	保育施設での勤務経験、子育て支援、学童支援の経験をもとに、保育・教育現場の現状や課題、やりがいなどについて具体例を示していく。学生自身が職業選択に向けて自己理解をしていけるよう、様々な機会を提供していく。
		幼児理解	2	幼稚園教諭、保育士の経験を活かし、子どもを様々な側面から理解するということを事例を通して学ぶ機会を提供している。実際の子どもの関わり場面（実際の保育現場ビデオ）から、学生自身が分析し、子どもを理解することの意味や難しさを知る。
		環境	2	幼稚園教諭、園内研修の外部講師としての経験を活かし、幼稚園、保育所、こども園で指導助言者として介入した実践や、幼稚園における様々な事例を紹介し展開する。
		子育てと支援	2	保育教諭、子育て支援の経験をもとに具体的な事例を提示し、保護者の背景や思いの理解に努め援助しようとする姿勢を学びます。
		保育内容・人間関係指導法	2	幼稚園教諭、保育教諭の経験をもとに、学生たちが模擬保育（保育者・子ども）を通して体験していることを、実際の保育場面における子どもの姿と照らし合わせながら、実践後の講義の中で紹介している。
		乳児保育Ⅰ	2	保育教諭、子育て支援の経験をもとに、乳児保育の意義や役割について現代の課題と共に歴史的背景と照らし合わせて伝えていく。乳児の発達や生活の捉え方をビデオ映像や保育事例を通して伝えながら、乳児期における適切な環境のあり方と人との関わりの質について考えていく。
		乳児保育Ⅱ	2	保育士、保育教諭、子育て支援の経験をもとに、乳児保育における保育者の役割について、乳児人形等を使用しながら、援助や関わり方を実践的に学ぶ機会を提供している。乳児の発達や生活の捉え方を具体的な保育事例を通して伝えながら、乳児期における適切な環境のあり方と人との関わりの質について考えていく。
		障がい児保育	2	保育の現場で関わってきた障がいのある子どもたちの姿や当該児を含むクラスの子どもたちとの事例を提示し、多様な子どもたちの立場で感じたり考えたりする機会を大切にしている。インクルーシブ保育の実現に向け、支援の在り方を考え、当該児や保護者のよき理解者となれるよう学び合っていく。
		教職実践演習（幼保）	2	乳幼児を取り巻く環境、子育て支援等保育、教育についての諸問題に学生自身が課題意識を持ち、仲間との活動や討議を重ね学びを深めていく機会を提供する。その中で多様な考えに触れ、自身の子ども観や保育観への気付きとなることに期待したい。
		人間関係	2	幼稚園教諭、保育士等の経験から子どもの関係の具体例を提示する。ヒトと関わりながら生きていることを学生自身が幼少期からのエピソードや実習記録、保育場面のビデオ分析等を中心に捉えて話し合う。、個・集団・仲間などの捉え方を実際に学生自身が遊びや体験を通して学ぶ機会を提供している。
中島　賢介	・高等学校で国語科教諭として5年間勤務 ・北陸学院小学校校長として3年間勤務	教職論	2	高等学校教諭における教科指導、生徒指導、進路指導に関する経験から教職としての仕事全般を、小学校校長の経験から学校経営全般について、特に安全指導や地域との連携、幼保小中連携接続、教職のキャリア形成などを解説する。
		キリスト教と教育	2	小学校における勤務経験をもとに、北陸学院小学校でのキリスト教育の経験を授業内で紹介し、協議する。
		国語	2	小学校における勤務経験をもとに、小学校の国語科の授業で取り上げられている事柄について取り上げ、理解を深めている。
村井　万寿夫	・小学校教員として26年間勤務。 ・現在でも、教育の原理や方法、評価に関する研究会の委員（日本教育工学協会理事、石川県教育工学研究会長、NHK学校放送番組活用アドバイザー）として小中高等学校の教員との関わりを持つとともに、教育の原理や方法、評価について研究を行い、成果を全国大会や学会において発表している。	データ分析と教育	1	石川県教育委員会が実施する小中学生対象の「基礎学力調査」において、児童生徒の「意識調査」のデータ分析を担当した。このときのデータを示しながら、教育におけるデータ分析の必要性について理解することができる授業を行う。
		教育史	2	教育史に見られる教育方法の不易なものについて小学校の教員と議論し、媒体は異なっても教え方には共通性があり、現代のメディアを活用する際のヒントにしている。
		教育の方法・技術（幼栄）	2	幼稚園、小学校、中学校の教育方法について取材（写真、動画、資料収集）して提示し、各校種における教育方法の特徴について理解を促したり、レポート作成したりしている。

2026年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【教育学部　初等中等教育学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要
植田　峰悠	・公認心理師・臨床心理士 ・小学校、中学校、高等学校のスクールカウンセラーとして13年勤務 ・大学における学生相談業務に19年間従事 ・石川県スクールカウンセラースーパーヴァイザー（2024年度）	教育相談	2	学校および教育領域での実務経験を活かし、現代の児童生徒が直面する様々な心理的課題について、架空事例をとりあげてわかりやすく解説する。また、それらの問題の背後にある現代社会の特徴や多様な価値観にも理解を深め、チーム学校の一員として自分に何ができるかを考えるきっかけとしたい。
石上　佐知子	公立小・中学校の教諭及び管理職として18年間勤務（小学校教諭として8年間、中学校教諭（国語科）として6年間、小学校教頭として2年間、中学校教頭として2年間勤務）	教育実践研究（小中高）	2	公立小中学校の教諭及び管理職の経験を生かし、学校現場における教育実践を具体的かつ俯瞰的に示しながら学級経営に関する授業を展開する。
		生徒指導論	1	公立小中学校において教諭及び管理職の立場から、「チーム学校」として生徒指導・支援に取り組んだ経験を生かし、学校現場における課題や実践事例を交えて授業を行う
		国語	2	公立小中学校における国語教育実践の経験を生かし、国語科の本質について問いをもちながら、小学校国語科の内容について実践的に授業を行う。
		国語科指導法（書写を含む）	2	公立小中学校における国語教育実践の経験を生かし、学びの連続性を踏まえた授業内容を構成する。また理論と実践の両輪からなる初等国語科教育について、言語活動を交えながら実践的に授業を展開する。
		教職実践演習（小中高）	2	公立小中学校における教諭及び管理職経験を生かし、学びの連続性を踏まえながら、理論と実践を往還する実践的学修を展開する。
		教育実習指導（小）	1	公立小中学校の教諭及び管理職の経験を生かし、学校現場における教育実習に関わる実践事例を示しながら授業を展開する。
齊藤　英俊	公認心理師・臨床心理士、非常勤のカウンセラー（主にスクールカウンセラー・学生相談員）として16年間勤務	発達心理学	2	スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。
		教育心理学	2	スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例（いじめや不登校など）をもとに、子どもへの関わり方や解決策について検討する時間を設けている。
谷　昌代	・幼稚園、幼保連携型認定こども園、保育所等乳幼児教育保育施設にて約14年間勤務。 ・金沢市教育プラザ統合保育巡回指導員を2018年度より担当。 ・保育士等キャリアアップ研修講師を2019年度より担当。 ・金沢市幼児教育センター「障がい児保育」研修、他講師。 ・こども家庭庁　子ども・子育て支援調査研究委員　2023年度	キャリアデザインⅣ	1	保育施設での勤務経験、子育て支援、学童支援の経験をもとに、保育・教育現場の現状や課題、やりがいなどについて具体例を示しながら，授業を行う。
		キャリアデザインⅤ	1	保育施設での勤務、子育て支援、学童支援の経験をもとに、保育・教育現場の現状や課題、やりがいなどについて具体例を示していく。学生自身が職業選択に向けて自己理解、適性を考える契機として様々な機会(就職相談会・イベント等）に参加していく。
		キャリアデザインⅥ	1	保育施設での勤務経験、子育て支援、学童支援の経験をもとに、保育・教育現場の現状や課題、やりがいなどについて具体例を示していく。学生自身が職業選択に向けて自己理解をしていけるよう、様々な機会を提供していく。
中島　賢介	・高等学校で国語科教諭として5年間勤務 ・北陸学院小学校校長として3年間勤務	教職論	2	高等学校教諭における教科指導、生徒指導、進路指導に関する経験から教職としての仕事全般を、小学校校長の経験から学校経営全般について、特に安全指導や地域との連携、幼保小中連携接続、教職のキャリア形成などを解説する。
		キリスト教と教育	2	小学校における勤務経験をもとに、北陸学院小学校でのキリスト教育の経験を授業内で紹介し、協議する。
村井　万寿夫	・小学校教員として26年間勤務。 ・現在でも、教育の原理や方法、評価に関する研究会の委員（日本教育工学協会理事、石川県教育工学研究会長、NHK学校放送番組活用アドバイザー）として小中高等学校の教員との関わりを持つとともに、教育の原理や方法、評価について研究を行い、成果を全国大会や学会において発表している。	データ分析と教育	1	石川県教育委員会が実施する小中学生対象の「基礎学力調査」において、児童生徒の「意識調査」のデータ分析を担当した。このときのデータを示しながら、教育におけるデータ分析の必要性について理解することができる授業を行う。
		教育の方法・技術（ICT活用の理論と実践を含む）	2	小学校、中学校、高等学校の教育方法（ICT活用を含む）について取材（写真、動画、資料収集）して提示し、各校種における教育方法の特徴について理解を促したり、レポート作成したりしている。
		道徳教育指導論	2	小学校や中学校の道徳科の授業を動画記録して視聴させて、グループ討議したりレポート作成したりしている。
		教育課程編成論	2	小学校、中学校、高等学校の教育課程に関する資料を収集し、特色ある教育課程やカリキュラム・マネジメントなどを提示して理解を促したり、グループ討論したりしている。
		進路指導論	1	小学校、中学校、高等学校における教育アドバイザーを経験している。その際に入手した各学校の「管理運営計画」を基に学習資料を作成し授業で配付して、学生の理解度を高めている。
		総合的な学習の時間の指導法	1	総合的な学習の時間の指導経験があり、その取り組みがいくつかの書籍に事例として掲載されていることから、書籍内容を通して本来求められている総合的な学習の時間の学習を紹介し、深い理解に繋げる。
		特別活動の理論と方法	1	小学校、中学校、高等学校の教育課程に関する資料を収集し、特色ある教育課程やカリキュラム・マネジメントなどを提示して理解を促したり、グループ討論したりしている。
		教育史	2	教育史に見られる教育方法の不易なものについて小学校の教員と議論し、媒体は異なっても教え方には共通性があり、現代のメディアを活用する際のヒントにしている。
		社会科指導法	2	小学校での社会科指導経験を有する。教科書研究センター研究員として社会科主査を務める、文部科学省デジタル教科書活用委員会にて社会科を担当する。帝国書院の地図帳＆デジタル地図帳活用のアドバイザーを務める。これらの経験から得られた知見を授業に生かしている。
		教職実践演習（小中高）	2	教師として必要な資質・能力について石川県教育委員会、富山県教育委員会、福井県教区委員会が求める教師像をもとに伝え、意識できるようにしている。
		教育実習指導（小）	1	小学校における教科等の学習指導資料を集め、写真や活字資料等を学生に提示したり、グループ討議に役立てたりしている。
		介護等体験	2	特別支援学校を訪問したりして介護等体験を行うために必要な連携体制づくりを行うとともに、指導計画や施設・設備について提示し、理解できるようにしている。

2026年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【教育学部　初等中等教育学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要
山本　良一	公立・国立・私立の学校（主として高校）に41年間勤務	英語科教育法Ⅱ	2	41年間にわたる中学校・高等学校の教員としての経験を生かして、授業場面の具体を紹介し、中高における英語の授業をするために必要な「英語力」「知識」「実践的活動」「教授法」「指導技術」などを身につけるための指導をしている。
		英語科教育法Ⅲ	2	41年間にわたる中学校・高等学校の教員としての経験を生かして、授業場面の具体を紹介し、中高における英語の授業をするために必要な「英語力」「知識」「実践的活動」「教授法」「指導技術」などを身につけるための指導をしている。

2026年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【社会学部　社会学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要
井上　克洋	公益社団法人 日本監査役協会に8年勤務	経済学Ⅰ	2	経済学で語られる基本的な経済現象が、実際の社会や会社、役所、家庭などにどのような影響を与えているのか、経験に基づき具体例をあげて講義を行う。
		経済学Ⅱ	2	経済学で語られる基本的な経済現象や思想が、実際の社会や会社、役所、家庭などにどのような影響を与えているのか、経験に基づき具体例をあげて講義を行う。
植田　峰悠	・公認心理師・臨床心理士 ・心療内科クリニックに5年間勤務 ・小学校、中学校、高等学校のスクールカウンセラーとして13年勤務 ・大学における学生支援業務に19年間従事 ・石川県スクールカウンセラースーパーヴァイザー（2024年度）	臨床心理学概論	2	これまでの実務経験に基づいて、それぞれの理論や実際の支援内容がイメージしやすくなるような具体例等を適宜紹介しつつ講義を行う。
		心理学実験Ⅰ	2	それぞれの実験課題が公認心理師としての職務にどのように活かされるのかについて、実務経験に基づいて適宜解説を加える。
		心理演習	2	これまでの実務経験をふまえ、特に臨床を行う上で重要な視点については多側面から繰り返し取り上げつつ、授業で取り上げた内容がどのように臨床現場で活かされるのか具体的にイメージできるよう演習を行う。
		心理実習	2	実習生としての心構えやふるまい方、注意点、必要な知識、具体的な活動などについて、実務経験に基づく実践的な指導を行う。
宇根本　聡	カウンセラーとして20年以上勤務	青年の心理	2	青年期の課題について、スクールカウンセラーや発達相談センター相談員としての経験を教材として取り上げ、ディスカッションを通じて、学生の学びを深めていく。
		学校心理学(教育・学校心理学)	2	スクールカウンセラーや発達相談センター相談員としての経験を教材として取り上げ、ディスカッションを通じて、学生の学びを深めていく。
大矢　正則	小学校・中学校・高等学校の校長として勤務、児童相談所や、市区の子ども家庭支援センターの職員等と連携・協同して、困難な状況下におかれた子どもたちの安全・安心の確保に努めている。 その間、病院倫理委員として終末期医療を受ける高齢者および家族に対する職員の倫理に関して、心理学的観点から意見を発信している。 特定非営利法人ストレス対処法研究所にて、監事を務めている。監事となる前はカウンセラーとして若者の就労支援にあたっていた。また路上生活者支援を教育活動にも携わっている。	福祉心理学	2	小・中・高等学校の校長として勤務する中で、児童相談所等の職員との連携により子どもの安全・安心の確保に努めている。また、病院倫理委員として高齢者および家族に対する職員の倫理に関して心理学的観点から意見を発信している。 自身の経験を踏まえ、福祉の対象となる側(乳児・児童・障害者・高齢者)を軸に章立てをし，その分野の福祉的な諸問題に，心理学がどのように役立つのかをペア・グループワークやディスカッションを交えながら説明する。
菊池　義人	・臨床心理士・公認心理師・精神保健福祉士 ・精神科病院の心理職として22年勤務 ・少年鑑別所の心理技官として3年勤務 ・大学、大学院の教員として勤務し、附属の心理相談施設で18年間相談活動に従事する。 ・児童福祉施設1年勤務 ・兼務で，公立学校のスクールカウンセラー19年勤務 ・都道府県の社会福祉審議会及び児童福祉専門分科会委員を9年務める。	心理学概論B	2	実務者の視点から話を構成し、有名な研究例や事例研究、歴史的な背景に関するエピソードなどを多く盛りこむ。
		心理学実験Ⅰ	2	それぞれの実験課題が公認心理師としての職務にどのように生かされるのか、実務経験に基づき適宜解説を加える。
		心理学実験Ⅱ	2	心のメカニズムについて、実践的な興味を持って実験によって確かめることができるように、実務経験を活かした指導を行う。
		心理学研究法	2	公認心理師等の実務や研究にもつなげられるように講義を構成・補足し、統計の歴史に関する話題なども盛り込んで話す。
		社会・集団・家族心理学	2	実務経験に基づき、対人関係や集団の葛藤、裏切り、傷つき、支配、争いなどの現象，また家族関係で虐待や暴力などが起こるメカニズムについて例を挙げて解説する。また、人々の和解、調和、均衡、協力などに向けた変化が起こるメカニズムやそのための支援の方法についても心理療法・家族療法等の例を挙げながら解説する。
		知覚・認知心理学	2	感覚・知覚・認知・思考・注意・意識・記憶など人間の情報処理過程について、研究の歴史的な視点の変化にあわせ、具体例を盛り込んで講義する。特に、この領域でトピックスとなっている認知思考のバイアスや障害については実務経験も生かして十分に焦点を当てて解説する。
		感情心理学（感情・人格心理学B）	2	実務経験を活かしながら歴史的な研究の系譜やエピソードや事例研究などを盛り込んで話し、感情の障害については精神病理学の歴史と障害の機序、さらに心理的な支援の方法にもつなげながら解説していく。
		心理学的支援法	2	実務経験や研究実績に基づいて、サイコセラピーの原理などについて、その技法開発の歴史や系譜に沿って、また有名な事例研究など具体例を織りまぜながら解説する。そうすることで、解決すべきクライエントや地域の問題に対して柔軟に技法を選択し、介入・支援できる力を身に着けるようにする。
		学習・言語心理学	2	実務経験に基づいて内容を拡充し、公認心理師等の資格にもつながるように工夫する。また、具体例などを補足し、歴史的な背景に関するエピソードなども盛り込んで話す。
		心理実習	2	実習を通じて観察し、体験した現場での臨床的な実践と講義等で得た知識や技術とが結びつけられるように、実務経験に基づく指導や解説を行っていく。
齊藤　英俊	公認心理師・臨床心理士、非常勤のカウンセラー（主にスクールカウンセラー・学生相談員）として16年間勤務	発達心理学	2	スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。
		教育心理学	2	スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例（いじめや不登校など）をもとに、子どもへの関わり方や解決策について検討する時間を設けている。
		心理演習	2	心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して心理面接の演習を行う。
		心理実習	2	実習生としての基本的な心構えやふるまい方、必要な知識、具体的な活動などについて、実践経験に基づいた指導を行う。

2026年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【社会学部　社会学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要
杉本　嵩龍	企業における管理職としてのマネジメント経験等を経て独立。 現在は、SDGsコンサルティングをはじめ、組織開発や人材育成を主軸とした事業を展開。	グローバル社会論	2	担当教員はLEGO®シリアスプレイ®やSDGsゲームの公認ファシリテーターとして、企業や地域で多数の実務経験を持つ。本講義ではそのファシリテーション技術を全面的に活かし、ゲームやレゴを用いた対話手法で学生の潜在的思考を言語化させる。学術理論の解説にとどまらず、能登半島地震や里山保全等の現場視点を交えてローカルからグローバルを捉え直すことで、将来社会で求められる実践的な「対話力」と「構想力」を育成する。
高橋　律子	学芸員として20年間勤務	生涯学習概論	2	学芸員としての経験をもとに、金沢市内の図書館及び美術館などの社会教育施設の現場見学を取り入れつつ、具体的な学習支援の方法と内容の理解を深められるよう講義を行う。
中村　准子	企業での就業・管理職経験および企業との共同研究・学術指導の経験	産業・組織心理学	2	企業での就業・管理職経験および企業との共同研究・学術指導の経験を活かし、現代の働く人を取り巻く環境や組織課題に関する具体的事例や実務的視点を授業に取り入れる。
前川　直樹	社会福祉法人職員として15年以上勤務	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	社会福祉の実施機関、事業所での相談員としての実務経験をもとに、近年の動向も取り入れながら、社会福祉の理論や歴史、制度、方法等について話をしている。
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	2	
		ソーシャルワーク演習Ⅴ	2	
真砂　良則	福祉施設において16年間勤務	現代社会と福祉Ⅰ	2	社会福祉について、各種委員会等（契約締結審査会、権利擁護センター委員等）の委員の経験をもとに具体例をあげて講義している。
		現代社会と福祉Ⅱ	2	
		高齢者福祉論	2	高齢者福祉について、各種委員会等（施設職員研修、介護老人福祉施設第三者委員等）の経験をもとに具体例をあげて講義している。
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	毎年実施している施設職員向けの研修や本学の出張講座等の経験をもとに、面接や記録等の相談援助についてのロールプレイやディスカッションを行っている。
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	毎年実施している施設職員向けの研修や本学の出張講座等の経験をもとに、ケアマネジメントの演習を行っている。
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2	ネットワークやカンファレンス等のソシャルワークの理論と方法について、毎年実施している施設職員向けの各種研修会の経験をもとに具体的なテーマを設定し、ディスカッションを取り入れている。
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	2	社会資源の活用・調整・開発等のソシャルワークの理論と方法について、毎年実施している施設職員向けの各種研修会の経験をもとに具体的なテーマを設定し、ディスカッションを取り入れている。
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	職能団体である社会福祉士会の現場職員との定期的な交流、意見交換をもとに現場で求められる社会福祉士像について、ディスカッション等により指導をおこなっている。
真砂　良則	福祉施設において16年間勤務	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2	職能団体である社会福祉士会の現場職員との定期的な交流、意見交換をもとに現場で求められる社会福祉士像について、ディスカッション等により指導をおこなっている。
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2	
松多　岳史	医療機関において20年以上勤務	保健医療サービス	2	実務経験をもとに、学生がイメージしやすいよう、病院で医療ソーシャルワーカーがどのような業務を行うか事例を紹介する。また、病院内連携、地域包括ケアシステムなどをミクロ・メゾ・マクロレベルに分けて情報提供し、学生の知識に落とし込めるようディスカッションを行う。
三田村　悦子	公立図書館に正規職員（司書）として勤務（23年半） 公立図書館長として勤務（10年）	児童サービス論	2	子どもたちへ、児童サービス（絵本の読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク、わらべうた）を数多く実践してきた経験から、学生たちにその手法を実際に見せ、より具体的に教えている。
		図書館制度・経営論	2	館長の経験を活かして、図書館制度の重要性および図書館経営の在り方を実例を挙げてより具体的に説明している。

2026年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【健康科学部　栄養学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要
中川　明彦	医療機関における管理栄養士として約40年勤務	臨床栄養学Ⅰ	2	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。各疾患、症状、合併症、栄養摂取量（投与）身体指標、検査値などにより標準的な栄養養評価による栄養管理を学習する。医療現場では、標準化に属さない個々に状態に応じた栄養評価や実際の症例により栄養管理を学習する。
		臨床栄養学Ⅱ	2	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。各疾患、症状、合併症、栄養摂取量（投与）身体指標、検査値などにより標準的な栄養養評価による栄養管理を学習する。医療現場では、標準化に属さない個々に状態に応じた栄養評価や実際の症例により栄養管理を学習する。
		臨床栄養学Ⅲ	2	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。各疾患による身体機能低下に必要な栄養素摂取（投与）量を加減、制限することを理解し、チーム医療のスタッフとの連携を計るために必要な食事・栄養管理の評価、計画、栄養教育などの知識、実際の医療施設のマニュアル用いて、管理栄養士の業務について総合的に学習し、実習に繋げる。
		臨床栄養学演習	2	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療施設は医療法に基づき、栄養部門では栄養管理業務と給食管理業務の相互が運営されている。栄養部門の業務が適正に行われ、業務の結果を帳票で保存され、実務（栄養管理、給食管理、衛生管理など）が確認できるまでの、実務の基本を演習を通して、学習する。
		臨床栄養学実習Ⅰ	1	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療施設は医療法に基づき、栄養部門では栄養管理業務と給食管理業務の相互が運営されている。栄養部門の業務が適正に行われ、業務の結果を帳票で保存され、教科書には記載されていない、実際の厚労省の医療監視における管理栄養士の対応、役割を学習する。
		臨床栄養学実習Ⅱ	2	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療施設は医療法に基づき、栄養部門では栄養管理業務と給食管理業務の相互が運営されている。栄養部門の業務が適正に行われ、業務の結果を帳票で保存され、教科書には記載されていない、実際の厚労省の医療監視における管理栄養士の対応、役割を学習する。
		臨地実習ⅢA（臨床栄養学分野）	1	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療・介護施設の10日間の実習期間において、医療チームの一員である管理栄養士の実務（栄養管理、給食管理、衛生管理など）を確認し、理解することにより、教科書に記載されていない、管理栄養士の集約的な実務と責務を学習する。全ての患者さんは、両親と想い、心から接することにより手厚い栄養管理ができることを実感することが大切である。
		臨地実習ⅢB（臨床栄養学分野）	2	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療・介護施設の10日間の実習期間において、医療チームの一員である管理栄養士の実務（栄養管理、給食管理、衛生管理など）を確認し、理解することにより、教科書に記載されていない、管理栄養士の集約的な実務と責務を学習する。全ての患者さんは、両親と想い、心から接することにより手厚い栄養管理ができることを実感することが大切である。
		総合演習Ⅰ	2	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療機関における各疾患における各献立の栄養算出量において、ビタミン13種類、ミネラル13種類などのが過不足量を評価し、不足する場合、どのような栄養補助食品を利用し、不足量を改善するのかを検討する。管理栄養士の業務の基本であり、栄養素の過不足が検査データに反映されるため、栄養算出は大切なであることを理解する。
		総合演習Ⅱ	2	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。各献立の栄養算出量において、ビタミン13種類、ミネラル13種類などのが過不足量を評価し、不足する場合、どのような栄養補助食品を利用し、不足量を改善するのかを検討し、食事摂取基準（2025年版 ）と比較し場合、過不足について、統計処理し、その有意差の有無を統計的に評価する作業能力を身に付けることにより、研究、調査が進展する。
		健康・栄養総合演習Ⅰ	1	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。厚生労働省の健康日本21・第2次の食事・栄養項目の達成度が低い結果、第3次の目標設定、国民健康・栄養調査結果により管理栄養士はどのように啓発が必要なのかを理解する。健康になる栄養管理ができる方と栄養教育を受けていない一般の方とは、食習慣や食事バランス（1日に摂取する栄養素）の違いを評価、調査依頼する。 食事調査を行い、摂取するエネルギー量、各栄養素量の過不足を評価する。
		健康・栄養総合演習Ⅱ	1	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。厚生労働省の健康日本21・第2次の食事・栄養項目の達成度が低い結果、第3次の目標設定について、国民健康・栄養調査結果、国立がん研究センター、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所による日本の健康・栄養、各学会のガイドラインなどから、日本人に必要な栄養管理と運動指針を集約し、評価することにより、日本人の総合的な健康・栄養指針を検討する。さらに健康度は、個人差があるが、個人の遺伝子検査結果に基づく、疾患のリスク、栄養管理リスクなどを認識 することにできるようになった。 新しい栄養管理については、教科書には反映されていないが、個人レベルの検査として、通販の検査で容易にでき、検査結果は医学的に確立されている。このように常に最先端の栄養管理について、個人へのエイジングケアに移行している背景を学習し、管理栄養士の視野を広げる。
齊藤　英俊	公認心理師・臨床心理士、非常勤のカウンセラー（主にスクールカウンセラー・学生相談員）として16年間勤務	発達心理学	2	スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。
宇根本　聡	カウンセラーとして20年以上勤務	青年の心理	2	青年期の課題について、スクールカウンセラーや発達相談センター相談員としての経験を教材として取り上げ、ディスカッションを通じて、学生の学びを深めていく。
村井　万寿夫	・小学校教員として26年間勤務。 ・現在でも、教育の原理や方法、評価に関する研究会の委員（日本教育工学協会理事、石川県教育工学研究会長、NHK学校放送番組活用アドバイザー）として小中高等学校の教員との関わりを持つとともに、教育の原理や方法、評価について研究を行い、成果を全国大会や学会において発表している。	教育の方法・技術（幼栄）	2	幼稚園、小学校、中学校の教育方法について取材（写真、動画、資料収集）して提示し、各校種における教育方法の特徴について理解を促したり、レポート作成したりしている。
		特別活動の理論と方法	1	小学校、中学校、高等学校の教育課程に関する資料を収集し、特色ある教育課程やカリキュラム・マネジメントなどを提示して理解を促したり、グループ討論したりしている。
		道徳教育指導論	2	小学校や中学校の道徳科の授業を動画記録して視聴させて、グループ討議したりレポート作成したりしている。
		教育課程編成論	2	小学校、中学校、高等学校の教育課程に関する資料を収集し、特色ある教育課程やカリキュラム・マネジメントなどを提示して理解を促したり、グループ討論したりしている。
		総合的な学習の時間の指導法	1	総合的な学習の時間の指導経験があり、その取り組みがいくつかの書籍に事例として掲載されていることから、書籍内容を通して本来求められている総合的な学習の時間の学習を紹介し、深い理解に繋げる。
畑山　千春	石川県内小中学校にて、学校栄養職員、栄養教諭として40年以上勤務 （石川県教育委員会指導主事として7年間勤務）	学校栄養指導論Ⅰ	2	教育委員会指導主事の経験から、栄養教諭の職務内容について伝える。また、教科における栄養教諭の関わりについて事例を紹介し、栄養教諭としての在り方や課題についてディスカッションさせる。
長井　直子	金沢市職員として40年以上勤務（公衆栄養業務等）	公衆栄養学Ⅰ	2	自治体勤務管理栄養士として経験した実務内容を各授業の解説に加えて理解を深める。
		公衆栄養学Ⅱ	2	自治体勤務管理栄養士として経験した実務内容を各授業の解説に加えて理解を深める。
		公衆栄養学実習	1	自治体勤務管理栄養士として経験した実務内容を各授業の解説に加えて理解を深める。（長井）
		臨地実習Ⅳ（公衆栄養学分野）	1	自治体勤務管理栄養士として経験した実務内容を各授業の解説に加えて理解を深める。（長井）

SDGs の 17 の目標

目標 1. あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる【国地総:全般】

目標 2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する【経安、国地総:全般】

目標 3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

目標 4. すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

目標 5. ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う

目標 6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

目標 7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

目標 8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する

目標 9. 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

目標 10. 各国内及び各国間の不平等を是正する

目標 11. 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する

目標 12. 持続可能な生産消費形態を確保する

目標 13. 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる*【国地気候:全般】
*国連気候変動枠組条約（UNFCCC）が、気候変動への世界的対応について交渉を行う基本的な国際的、政府間対話の場であると認識している。

目標 14. 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

目標 15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

目標 16. 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

目標 17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

2026年度 SDGs17の目標と科目の関連性（社会、健康科学部共通科目）

教員名	科目名	目標番号	科目と目標の関連性
宇根本　聡	青年の心理	3.4.5.10.16	思春期・青年期は、発達的に、メンタルヘルスの課題が顕在化しやすく、またジェンダー観が形成される時期でもあり、平等や公正さの価値を形成する時期であり、キャリア教育や学習意欲が大切な時期である。これらが、包括的に扱われる。
髙木　顕心	政治学	5.8.10.16	政治学を学ぶことは、その国の将来を決める選挙や政治制度について学ぶことになるため、進んでいない日本の政治面でのジェンダー平等や、持続可能な経済成長のための政策の比較の仕方、不平等解決のための仕組みについて学ぶ。また、民主主義が効果的で説明責任のある制度としてどのように工夫されているのかについても学ぶ。
土屋 仁美	日本国憲法	1～17	日本国憲法は人権保障を目的としている。また、17 の持続可能な開発のための目標（SDGs）と、169 のターゲットも、「すべての人々の人権を実現し、ジェンダー 平等とすべての女性と女児の能力強化を達成することを目指す」ものである(「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」)。

2026年度 SDGs17の目標と科目の関連性（教育学部幼児教育学科）

教員名	科目名	目標番号	科目と目標の関連性
北川　節子	子どもの健康安全	3	乳幼児が健康的な生活を送るための食事、排泄、清潔、衣服などを支援する知識と技術を学ぶ。また生活上の危険と安全確保の方法、緊急時の対応についても学ぶ。これらを通して子どもの福祉を促進する。
丸井　一誠	身体表現	4.5	本科目は男女問わず、すべての人類に身体や表現について学び続けるための資質・能力を育み、次世代に向けて生涯学習の機会を促進する科目である。

2026年度 SDGs17の目標と科目の関連性（教育学部初等中等教育学科）

教員名	科目名	目標番号	科目と目標の関連性
荒井　紀子	家庭科指導法	1.2.3.4.5.6 11.12.13	本科目は、家庭や生活を取り巻く問題への理解を深め、より良い生活を営むための実践力を育む小学校家庭科の教授法を学ぶ科目である。学習内容は、衣食住や家族、経済、環境、消費などを含み、SDGの各ゴールと親和性が高い。具体的には、1「貧困」、2「飢餓」、3「健康・福祉」、4「質の高い教育」、5「ジェンダー平等」、6「水・衛生」、11「人間居住」、12「生産消費形態」、13「気候変動の軽減」と関連性がある。
石上　佐知子	国語科指導法 （書写を含む）	4.1 4.6 4.7 4.c	言葉の学びを通して、質の高い教育の実現(4.1)、および読み書き能力の獲得(4.6)、日本の言語文化の理解(4.7)を図るとともに、それらを通して質の高い教員の育成(4.c)に取り組む。これらの取組により、SDGsの目標4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」の達成へ向け貢献する。
	国語	4.1 4.6 4.7	言葉の学びを通して、質の高い教育の実現(4.1)、および読み書き能力の獲得(4.6)、日本の言語文化の理解(4.7)を図る。これらの取組により、SDGsの目標5「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」の達成へ向け貢献する。
髙島 英公子	理科指導法	13	この科目を学び，気候変動による影響や災害発生の原因を理解し，防災・減災につなげる理科の指導法を身に付けることにより、SDGs13「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる【国地気候:全般】」ことを目指す。
	理科	13	この科目を学び，気候変動による影響や災害発生の原因を理解し，防災・減災につなげる理科の指導法を身に付けることにより、SDGs13「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる【国地気候:全般】」ことを目指す。
丸井　一誠	体育科指導法	4.5	本科目は男女問わず、すべての人類に体育や運動について学び続けるための資質・能力を育み、次世代に向けて生涯学習の機会を促進する科目である。

2026年度 SDGs17の目標と科目の関連性（社会学部社会学科）

教員名	科目名	目標番号	科目と目標の関連性
宇根本　聡	学校心理学 （教育・学校心理学）	3,4,5,10,16	この科目では、発達障害、合理的配慮、インクルージョン教育、いじめ、不登校における教育を受ける権利、性自認等、子どもや教職員のメンタルヘルスとともに、公正さ、平等、質の高い教育、ジェンダーについて、包括的に扱われる。
小堺　有希	刑事司法と福祉	3	「最後の砦」として司法分野に福祉ニーズが集まる場所となっている現状がある中，そのニーズを救い上げ，健康的で主体的な生活につなげる役割を司法分野のソーシャルワークは担っている。
		16	生活における課題を解決したり，課題と付き合いながら生活を送る際に，福祉サービスとの調整のみならず，医療や教育，司法等との連携，協働を通して生活全体を捉える。
末松 良浩	権利擁護を支える法制度	3	本科目は法制度を通じて人の権利を守り、必要な支援につなぐ力を養う科目であり、すべての人の健康と福祉の実現を目指すSDGs目標3に貢献する。
杉本 嵩龍	グローバル社会論	1,10,11,12, 13,17	本講義は、SDGsの17目標を個別の課題としてではなく、相互に影響し合う「複雑なシステム」として捉える。 前半のゲーム学習では、資源消費や経済活動を通じて「つくる責任・つかう責任（目標12）」や「気候変動（目標13）」の本質を体感する。中盤以降は、サプライチェーンの裏側にある「貧困（目標1）」や「不平等（目標10）」を可視化し、能登・里山の事例から「住み続けられるまちづくり（目標11）」のあり方を探究する。 最終的に、社会課題のトレードオフ（二律背反）を乗り越え、「パートナーシップ（目標17）によって持続可能な解決策を構想する実践力を養う。
曺　由寛	精神疾患とその治療	3,5,8,10	目標3：本授業では、精神疾患や心理的問題を扱うこと、リエゾン、多職種協働、医療連携を学びます。これらのことが、健康的な生活の確保や福祉をすすめる目標に繋がると考えられます。 目標5：本授業では、ジェンダー及び女性における心理的問題について扱う章があります。女性における精神的、心理的知識の習得により、女性に対する理解の促進に繋がります。また、LGBTQのメンタルヘルスも含まれており、ジェンダー平等に貢献しうると考えられます。 目標8：本授業では、働く上で精神疾患に繋がるケース等、学ぶことによって、間接的にどのように働くか、人間らしく働くこととはどのようなことであるかを考え、学びに繋がると考えられます。 目標10：本授業では、様々な精神疾患や発達症等について学びますが、社会的問題について触れることも少なくありません。精神疾患への社会的な差別や不平等さも内容に含まれていたり、間接的な学びに繋がると考えられます。
髙木　顕心	政治行動論	5,8,10,16	政治学を学ぶことは、その国の将来を決める選挙や政治制度について学ぶことになるため、進んでいない日本の政治面でのジェンダー平等や、持続可能な経済成長のための政策の比較の仕方、不平等解決のための仕組みについて学ぶ。また、民主主義が効果的で説明責任のある制度としてどのように工夫されているのかについても学ぶ。
陳 萍	社会保障論	1-1.33-3.8	目標1「貧困をなくそう」においては、「各国において最低限の基準を含む適切な社会保護制度及び対策を実施し、2030年までに貧困層及び脆弱層に対し十分な保護を達成する。」（ターゲット1.3）とされている。 社会保障は貧困の未然防止（防貧）と貧困からの救済（救貧）の両面から、貧困の社会的責任に対応しており、貧困の克服において重要な役割を果たしている。社会保障は防貧・救貧の基本的制度と言える。本科目である社会保障論は貧困の克服について考える機会になる。 目標3「すべての人に健康と福祉を」においては、「全ての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成する。」（ターゲット3.8）とされている。 日本政府はすべての国民が健康的・文化的な最低限度の生活を営む権利を保護するため、社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生との社会保障制度を制定している。社会保障制度は国家責任による国民生活の基盤と言える。本科目である社会保障論は生活者の視点から現代生活をめぐる諸問題や、尊厳ある生活の実現のための対策について考える機会になる。
堂田 俊樹	公的扶助論	1	貧困の防止、貧困救済、ｾｨﾌﾃｨﾈｯﾄ
中野　修	関係行政論	3	「関係行政論」では、保健医療・教育・福祉・司法・産業の５領域における法律・制度を学ぶ。専門職である公認心理師として、法律・制度を通して、将来的にあらゆる年齢のクライエントの健康的な生活を確保し、福祉を促進するための力を養い・知識を得ることを目標としている。
松多　岳史	保健医療サービス	1、3、10、11	保健医療サービスでは医療が必要になった患者・家族の、経済的問題、介護の問題、療養方法の問題などを解決するために、関係するステークホルダーと多機関・多職種連携を行うことを講義します。
中村　准子	産業・組織心理学	8	産業・組織心理学は，働く人の心理や職場環境を科学的に理解し，働きやすく生産性の高い組織づくりに活かすことを目的とする学問である。本講義では，職場の人間関係，ワークモチベーションなどの働きがい，キャリア発達などについて学び，働く人が尊厳をもって能力を発揮できる職場や働き方について考える。これらは，SDGs目標8が掲げるディーセント・ワークの実現と関連している。

2026年度 SDGs17の目標と科目の関連性（健康科学部栄養学科）

教員名	科目名	目標番号	科目と目標の関連性
木村　敏行	公衆衛生学	6	環境保健：水の衛生と水質汚濁
		13	人間の環境：生態系（温室効果ガス、フロンガス）
林　宏一	公衆衛生学実験	3	公衆衛生学はすべての人々の健康を目指すものである。本科目では、保健統計の利活用や環境問題の学習をとおして、この目標に直接関わっている。
		6	安全な水の供給、確保は公衆衛生学に課された重要なテーマである。本科目では、生活者が利用する水の分析をとおして水質基準の学習を行い、この目標に直接関わっている。
矢野 俊博	食品衛生学	6	食品に起因する多くの疾病に対し、食品衛生学で得た知識を活用することによって、健康的な生活が持続できる。

授業科目名	北陸学院セミナーⅡ			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教の学びに基づいた礼拝行事への参加、オータム・セミナーへの参加を中心とする。授業時間を設けず、礼拝出席に伴う奨励感想小レポート、セミナー参加による課題提出により評価を行う。オータム・セミナーにおいては上級生としてセミナー運営にかかわることで、調整力と実行力を身につける。セミナー活動を通じて自己と他者の違いを尊重する心をはぐくみ、キリスト教精神についての学びを深める。またセミナーと礼拝以外に実施される大学礼拝と諸行事への参加を求める。 ※SDGs目標番号3関連科目	1）聖書の言葉を、心を落ち着け、静かに聴いて親しみ、その意味を聴き取る方法を体得する。 2）賛美歌に親しみ、キリスト教精神を感得する。 3）祈りに加わり、有限な世界を越えた永遠の世界に思いを馳せる。 4）生の意味について考え、自分の存在の意味を考える。 5）世界と歴史の意味に触れる。 6）自己を発見し、職業選択を含めた、自分に与えられた使命を自覚する。 7）教職員や友人と交流し、価値観を広げるとともに、意思伝達能力や集団における行動力を育む。

教授方法	大学礼拝および秋のセミナーへの参加
履修条件	「北陸学院セミナーⅠ」を修得済であること。「キリスト教概論Ⅰ」および「キリスト教概論Ⅱ」の単位を取得していることが望ましい。オータム・セミナーについての学科オリエンテーションと準備作業に参加する。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	礼拝行事、セミナーの詳細は以下の通り。	
	1．大学礼拝	
	①礼拝：毎週平均2.5回以上礼拝でメッセージを聴き、定期的にミニレポートを提出する。	
	②献金: 礼拝でささげる献金をキリスト教行事や世界の子ども支援に用いる。	
	③花の日：6月　花を諸施設に届ける。	
	④特別伝道礼拝：牧師を招き秋は２・４年生を対象に行う。２年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	⑤創立記念礼拝：９月　メッセージを通して学院の歴史、建学の精神に触れる。	
	⑥収穫感謝：11月　果物を各所に届ける。	
	⑦クリスマス礼拝：学外説教者を招き、特別な礼拝を行う。２年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	2．オータム・セミナー	
	全学科教員で実施に当たる本学独自の行事。全学科１・２年生が聖書の世界に触れ、自分の生き方を考える。学科ごとに準備を行う。	
	①前期・後期それぞれ礼拝出席規程回数以上の礼拝出席をし、礼拝出席押印カードを提出すること、②オータム・セミナーに参加すること、③クリスマス礼拝に出席することが本科目の単位認定要件となる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
礼拝ミニレポート	50	聖書・讃美歌を持参し、週平均2.5回以上大学礼拝でメッセージを聴き、定期的に感想レポートを提出している。	セミナー課題レポート	30	・セミナーでの講演を主体的に聴いて理解し、グループで話合いを行い、レポートで振り返りを行っている。 ・セミナーの課題やレポートが期日までに提出されている。指示どおり適切に作成されている。
クリスマス礼拝	20	クリスマス礼拝に出席する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1）日頃より、聖書・讃美歌に親しむことが望ましい。 2）地域の諸教会で行われている日曜日の礼拝に出席することが望ましい。出席する教会については学生要覧を参照、または宗教主事に質問する。 3）セミナーの準備に主体的に参加する。 4）セミナー参加後に、レポート等により問題意識を深める。 5）１年生もオータム・セミナーに参加する。	セミナーに対する感想や疑問の要点を捉え、大学礼拝での奨励の主題に取り入れて語る。

受講生に望むこと	1）毎日の大学礼拝に聖書と讃美歌を持って主体的に参加する。携帯電話等は持ち込まない。万が一持ち込んだ場合は電源を切り、鞄にしまう。私語を慎み、礼拝に集中する。終了時にカードに押印を受け、押印が終了したページを、裏面に感想を記し、前期・後期ともに、定められた提出期限内に提出する。私語や携帯使用など姿勢に問題がある場合、またカードが未提出の場合、欠席したとみなされる。 2）セミナーに主体的に参加することを望む。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会、2019年、ISBN978-4-8202-1344-4 『讃美歌21』日本基督教団出版局、2006年、ISBN978-4818437135
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	本科目は「北陸学院科目」として、全教職員の理解と協力の下における大学礼拝・セミナー準備・実施から成る。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教人間論Ⅰ			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	髙田　恵嗣						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、聖書およびキリスト教思想に基づいて、人間とは何者であるのかを根本から問い直す。キリスト教は、人間を単なる理性的存在や社会的存在としてではなく、「神によって創造され、愛され、関係の中で生きる存在」として理解してきた。本講義では、「創造」「自由」「罪」「弱さ」「赦し」「愛」といった主題を通して、キリスト教的人間観の基礎を学ぶとともに、現代を生きる私たち自身の生き方や価値観との関係を考察する。宗教的前提を強いることなく、人間理解の一つの視座としてキリスト教思想に触れ、主体的に考える力を養うことを目指す。	① キリスト教における人間理解の基本的枠組みを理解する ②「神のかたち」「自由」「罪」などの概念を、現代的課題と関連づけて考察できるようになる ③ 人間の弱さや有限性を否定ではなく問いとして捉える視点を身につける ④ 自分自身の人間観を言語化し、他者と共有する力を養う

教授方法	毎回の授業では資料プリントを配布し、PowerPointを用いた講義を中心に進める。 加えて、理解の定着と主体的な学びを促すため、質疑応答やグループワークを適宜取り入れ、学生同士の対話を重視した授業を行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：本授業の目的と進め方を確認するとともに、「人間とは何者か」という本講義全体を貫く問いを提示し、キリスト教人間論を学ぶ意義について考察する。	
2	創造された存在としての人間：創世記を手がかりに、人間が「神のかたち」として創造された存在であるというキリスト教的人間理解を学び、人間の尊厳の根拠について考える。	
3	自由と責任：自由意志と責任の問題を取り上げ、人間が自由を与えられた存在であることの意味と、その自由がもたらす可能性と困難について考察する。	
4	罪とは何か：キリスト教における「罪」の概念を、道徳的過失ではなく関係の破れとして理解し、人間の自己中心性や孤立の問題を検討する。	
5	弱さ・有限性としての人間：人間の弱さや有限性に注目し、死・病・限界と向き合う存在としての人間をどのように理解するかをキリスト教的視点から考える。	
6	赦しと回復：赦しの思想を中心に、人間が失敗や罪を抱えながらも回復へと導かれる存在であることについて、聖書の物語を通して学ぶ。	
7	愛される存在としての人間：無条件の愛（アガペー）の概念を取り上げ、人間が努力や成果以前に「愛される存在」であるという人間観について考察する。	
8	前期まとめ、定期考査：授業の前半は前期の内容を総括し、キリスト教的人間理解の全体像を整理するとともに、自らの人間観を言語化するための振り返りを行う。後半の４５分で定期考査を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
到達度テスト	50	前期の授業内容に関する基本的理解度を到達度テストによって評価する。授業で扱った主要概念（創造・自由・罪・赦し・愛など）を的確に説明できているかを基準とする。	ミニレポート	30	授業内容について、自らの考えや疑問を自分の言葉で表現できているかを評価する。単なる要約ではなく、授業内容と自己の経験や問題意識との関連づけが見られるかを重視する。
参加態度	20	授業への主体的な関与を評価する。具体的には、質疑応答や意見交換への積極的な参加、グループワークにおける協働的姿勢から総合的に判断する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。 ②その週の授業内容をプリントで復習し、到達度テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。 ④花の日礼拝にあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。	講義後に提出されるミニレポートを確認し、学生の疑問や意見を授業に反映させる形でフィードバックを行う。

受講生に望むこと	授業に主体的に参加し、他者とともに問いを探究する姿勢を大切にしてほしい。自分なりの関心を持ち、楽しみながら学びに取り組むことを期待する。	教科書・テキスト	『聖書　聖書協会共同訳』日本聖書協会
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	指定日開講

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教人間論Ⅱ			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	髙田　恵嗣						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
後期の授業では、前期で学んだキリスト教的人間理解を基盤として、イエス・キリストの生と教え、さらに現代社会における人間の課題へと視野を広げていく。苦しみ、排除、沈黙、死といった人間の根源的問題に対し、キリスト教はどのようなまなざしを向けてきたのかを考察する。また、平和、人権、隣人愛といった社会的テーマを取り上げ、キリスト教人間論が現代世界にどのような示唆を与えうるのかを検討する。信仰の有無にかかわらず、現代人が直面する問いに対して思考を深めることを目指す。	① イエス・キリストの言動を通して、人間理解の具体的展開を学ぶ ② 苦しみや沈黙といったテーマを、人間存在の問題として考察する ③ 他者・社会・世界との関係の中で人間を捉える視点を養う ④ 現代社会における価値観や生き方を批判的かつ建設的に考える力を身につける ⑤ キリスト教人間論を踏まえ、自らの生き方について深く省察す

教授方法	毎回の授業では資料プリントを配布し、PowerPointを用いた講義を中心に進める。 加えて、理解の定着と主体的な学びを促すため、質疑応答やグループワークを適宜取り入れ、学生同士の対話を重視した授業を行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イエスは人間をどう見たか：イエス・キリストの言動を通して、人間を評価や能力ではなく存在そのものとして受けとめるまなざしについて考察する。	
2	沈黙・苦しみの中の人間：十字架の出来事を中心に、苦しみや沈黙の中に置かれた人間と神の関係について考え、人間存在の痛みと向き合う視点を学ぶ。	
3	他者と生きる存在としての人間：隣人愛の教えを通して、他者と共に生きる存在としての人間のあり方を考え、違いをもつ他者との関係性について検討する。	
4	社会の中の人間：社会の中で生きる人間に焦点を当て、正義、平和、人権といったテーマとキリスト教人間論との関係を考察する。	
5	現代社会と人間理解：現代社会における成果主義や競争の問題を取り上げ、評価や有用性に基づく人間理解をキリスト教的視点から問い直す。	
6	死と希望：死と希望の問題を扱い、キリスト教における復活信仰が人間の生と死にどのような意味を与えてきたのかを考える。	
7	現代人への問い：キリスト教人間論が現代社会において持つ意義と限界について批判的に検討し、多様な価値観との対話を試みる。	
8	総まとめ、到達度テスト：授業の前半は授業全体を振り返り、人間とは何者であるのかという問いに対する各自の到達点を整理し、学びの総括を行う。後半の４５分間の到達度テストを実施する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
到達度テスト	50	後期の授業内容に関する理解度を到達度テストによって評価する。イエスの人間理解、苦しみ・沈黙の問題、隣人愛、平和や人権などを的確に説明し、自らの言葉で整理できているかを基準とする。	ミニレポート	30	授業内容について、自らの考えや疑問を自分の言葉で表現できているかを評価する。単なる要約ではなく、授業内容と自己の経験や問題意識との関連づけが見られるかを重視する。
参加態度	20	授業への主体的な関与を評価する。具体的には、質疑応答や意見交換への積極的な参加、グループワークにおける協働的姿勢から総合的に判断する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。 ②その週の授業内容をプリントで復習し、到達度テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。 ④クリスマス礼拝にあたり、神に感謝し、諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。	講義後に提出されるミニレポートを確認し、学生の疑問や意見を授業に反映させる形でフィードバックを行う。

受講生に望むこと	授業に主体的に参加し、他者とともに問いを探究する姿勢を大切にしてほしい。自分なりの関心を持ち、楽しみながら学びに取り組むことを期待する。	教科書・テキスト	『聖書　聖書協会共同訳』日本聖書協会
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	指定日開講

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＡＩ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	リチャード ポーター						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語科目最上位として位置づけられており、ＣＥＦＲＢ２＋～Ｃ１の能力を有すると判断された者、また英語BI, BIIを学修した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く)の向上を目指す。	・現代社会のさまざまな問題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。 ・それぞれのテーマについてデータからの情報を利用して論理的なディスカッションを行うことができる。 ・ディスカッションや新たな情報も取り入れて自分の意見をまとめ、スピーチ、プレゼンあるいはライティングで発表できる。 ・CEFRのB2+～C1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	1年次に「英語BI」「英語BII」を履修し、少なくとも1科目単位修得済みの者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等) Self-introduction	
2	Unit 1 (1)Pandemic and People's Lifestyleをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
3	Unit 1 (2) Pandemic and People's Lifestyleについてデータを用いて意見を発表する。	
4	Unit 2 (1) The Circular Economyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
5	Unit 2 (2) The Circular Economyについてデータを用いて意見を発表する。	
6	Unit 3 (1) Road to Decarbonizationをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
7	Unit 3 (2) Road to Decarbonizationについてデータを用いて意見を発表する。	
8	Unit 4 (1) Online Learning and School Lifeをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
9	Unit 4 (2) Online Learning and School Lifeについてデータを用いて意見を発表する。	
10	Unit 5 (1) Delivery Robotsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
11	Unit 5 (2) Delivery Robotsについてデータを用いて意見を発表する。	
12	Unit 6 (1) Discrimination against Asian Americansをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
13	Unit 6 (2) Discrimination against Asian Americansについてデータを用いて意見を発表する。	
14	Unit 7 Gendered Division of Houseworkをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、自分の意見をまとめる。	
15	Unit 1～Unit 7で学んだテーマから1つを選び、スピーチまたはプレゼンテーションを行う。 これまでに学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、前期の振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『CLIL Discuss the Changing World 2』. Miyako Nakaya et al. 2023. 成美堂. ISBN:978-4791972685
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＡⅡ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	リチャード ポーター						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＡⅠを学修した者を対象に開講する。またCEFRのB2+～C1程度の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す〈やり取り/発表〉・書く）の向上を目指す。	・現代社会のさまざまな問題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。 ・それぞれのテーマについてデータからの情報を利用して論理的なディスカッションを行うことができる。 ・ディスカッションや新たな情報も取り入れて自分の意見をまとめ、スピーチ、プレゼンあるいはライティングで発表できる。 ・CEFRのB2+～C1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語 AI」を履修した者(単位未修得可)

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション Unit 8（1）Preparing for Emergenciesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
2	Unit 8（2） Preparing for Emergenciesについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
3	Unit 9（1）Ukraine and Afghanistanをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
4	Unit 9（2）Ukraine and Afghanistanについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
5	Unit 10（1）Digital Societyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
6	Unit 10（2）Digital Societyについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
7	Unit 11（1）Climate and Infectious Diseasesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
8	Unit 11（2） Climate and Infectious Diseasesについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
9	Unit 12（1） Overtourism and Undertourismをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
10	Unit 12（2） Overtourism and Undertourismについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
11	Unit 13 Multicultural Exchange in Japanをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、自分の意見をまとめる。	
12	Unit 14 Changing Africaについて内容を理解した後、データを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
13	Unit 15 Helping People Make Better Choicesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う。	
14	Unit 8～Unit 15で学んだテーマから1つを選び、データを用い反論も考慮に入れてプレゼンテーションを行う。	
15	これまでに学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、後期の振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『CLIL Discuss the Changing World 2』. Miyako Nakaya et al. 2023. 成美堂. ISBN:978-4791972685
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＢⅠ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	グレン　ノリス						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者CEFR B2の能力を有すると判断された者、また英語ＣⅠ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業ではSDGsに関連するテーマを様々な活動を通して学び発信することにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・SDGsに関連するテーマについて映像教材も利用して情報を得て、グローバル、ローカルの両方の視点から理解する。 ・統計データを利用してディスカッションやライティングを行い、自分の考えを発信することができる。 ・CEFR B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1) Good Health and Well-beingをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
3	Unit 1 (2)　Good Health and Well-beingについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
4	Unit 2 (1) Life on Landをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
5	Unit 2 (2) Life on Landについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
6	Unit 3 (1) Reduced Inequalityをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
7	Unit 3 (2) Reduced Inequalityについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
8	Unit 4 (1) Climate Actionをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
9	Unit 4 (2) Climate Actionについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
10	Unit 5 (1) Sustainable Cities and Communitiesをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
11	Unit 5 (2) Sustainable Cities and Communitiesについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフライティンを行う。	
12	Unit 6　Gender Equalityをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、テーマについてデータも用いて意見交換する。	
13	Unit 7　Quality Educationをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、意見交換する。	
14	Unit 1～Unit 7でこれまで学んたことがらから各自 1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする。	
15	Unit 1～Unit 7でこれまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］ ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。［30分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Facing Challenges』. 2025. Peter J. Collins･小林めぐみ. 金星堂. ISBN: 978-4764742239
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＢⅡ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	グレン　ノリス						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者CEFR B2の能力を有すると判断された者、また英語ＣⅠ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業ではSDGsに関連するテーマを様々な活動を通して学び発信することにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・SDGsに関連するテーマについて映像教材も利用して情報を得て、グローバル、ローカルの両方の視点から理解する。 ・統計データを利用してディスカッションやライティングを行い、自分の考えを発信することができる。 ・CEFR B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語ＢⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、Unit 8 (1) Responsible Consumption and Productionをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
2	Unit 8 (2)　Responsible Consumption and Productionについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
3	Unit 9 (1) Life Below Waterをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
4	Unit 9 (2) Life Below Waterについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
5	Unit 10 (1) Decent Work and Economic Growthをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
6	Unit 10 (2) Decent Work and Economic Growthについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
7	Unit 11 (1) No Povertyをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
8	Unit 11 (2) No Povertyについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
9	Unit 12 (1) Affordable and Clean Energyをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
10	Unit 12 (2) Affordable and Clean Energyについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
11	Unit 13 (1) Clean Water and Sanitationをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
12	Unit 13 (2) Clean Water and Sanitationについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
13	Unit 14 Industry, Innovation and Infrastructureをテーマにビデオ視聴、リーディング、リスニング活動を通じて内容理解し、それについての意見交換を行う。	
14	Units 8-14からテーマを各自一つ選びスピーチ/プレゼンテーションをする。Peer reviewを行う。	
15	Unit 8～Unit 14の復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］ ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。［30分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Facing Challenges』. 2025. Peter J. Collins・小林めぐみ. 金星堂. ISBN: 978-4764742239
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＣＩ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	カーラ　カリー						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者、CEFR B1～ B2の能力を有すると判断された者、また英語　ＤＩ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力が求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・日常的な身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。 ・得た情報をもとに言語使用ができる。 ・会話ストラテジーや適切な文法を用いてコミュニケーションが行えるようになる。 ・CEFR B1～B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1: Staying Connected (1) smartphonesをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､現在進行形・過去進行形が正しく使えるようになる。	
3	Unit 1: Staying Connected (2) リーディングによりsmartphonesの問題について理解し、グループディスションやライティングを通じて自分の考えをまとめ、発信する。グループワークでリサーチ、ディスカッションを行い、クラスで共有する。	
4	Unit 2: Eat Your Way around the World (1) international foodをテーマにリスニング、英会話、内容を理解する。必要語彙、分詞形容詞が正しく使えるようになる。	
5	Unit 2: Eat Your Way around the World (2) リーディングによりtable mannersについて理解し、グループディスカッションやライティングを通じて自分の考えをまとめ､発信する。グループワークでdinner menuを考案しクラスで共有する。	
6	Unit 3: The Magic of Music (1) musicをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､関係代名詞が正しく使えるようになる。	
7	Unit 3: The Magic of Music (2) リーディングによりmusic festivalについて理解し、グループディスカッションやライティングを通じて自分の考えをまとめ､発信する。グループワークでmusicについての共通点を見つけ、クラスで共有する。	
8	Unit 1 ～Unit 3の復習 Unit 1～Unit 3で学んだテーマから1つを選び､ショートスピーチを行う。	
9	Unit 4: It's Travel Time (1) travelをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､現在完了が正しく使えるようになる。	
10	Unit 4: It's Travel Time (2) リーディングによりbackpacking tripsについて理解し、グループディスカッションやライティングを通じて自分の考えをまとめ､発信する。グループワークで旅の経験を質問し合い、クラスで共有する。	
11	Unit 5: For the Love of Shopping (1) shoppingをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙、take/cost/spend等の動詞が正しく使えるようになる。	
12	Unit 5: For the Love of Shopping (2) リーディングによりshopping habitsについて理解し、グループディスカッションやライティングを通じて自分の考えをまとめ､発信する。グループワークで買物行為の共通点を見つけ共有する。	
13	Unit 6: A Nod to Nature (1) natureをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､倒置文､時を表す従属節が正しく使えるようになる。	
14	Unit 6: A Nod to Nature (2) リーディングによりThe Northern Lightsについて理解し、グループディスカッションやライティングを通じて自分の考えをまとめ､発信する。グループワークでSeven Natural Wondersをリサーチし共有する。	
15	Unit 4～Unit 6で学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションをする。 これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末ト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Live　Horizons, Book 2』. Teruhiko Kadoyama et al. 2026. 成美堂. ISBN: 978-4-7919-7333-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＣⅡ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	カーラ　カリー						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＣⅠを学修した者を対象に開講する。またCEFR B1～B2程度の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力が求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・日常的な身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。 ・得た情報をもとに言語使用ができる。 ・会話ストラテジーや適切な文法を用いてコミュニケーションが行えるようになる。 ・CEFR B1～B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語ＣⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、 Unit 7:People's Many faces (1) people's looksをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､It's … that等の分裂文が正しく使えるようになる。	
2	Unit 7: People's Many Faces (2) リーディングによりfirst impressionsについて理解し、グループディスションやライティングを通じて自分の考えをまとめ、発信する。グループワークで人物描写のゲームを行い、クラスで共有する。	
3	Unit 8: Fighting for Wildlife (1) endangered animalsをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､used to/be used to/get used to等が正しく使えるようになる。	
4	Unit 8: Fighting for Wildlife (2) リーディングによりfights for wildlifeについて理解し、グループディスションやライティングを通じて自分の考えをまとめ、発信する。グループワークでリサーチを行い、クラスで共有する。	
5	Unit 9: Sweeping through the Supermarket (1) grocery shoppingをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､可算/不可算名詞が正しく使えるようになる。	
6	Unit 9: Sweeping through the Supermarket (2) リーディングによりself-checkout machines等について理解し、グループディスションやライティングを通じて自分の考えをまとめ、発信する。グループワークでshoppingのゲームを行い､クラスで共有する。	
7	Unit 7～Unit 9の復習 Unt 7～Unit 9から1つのテーマを選び､スピーチを行う。	
8	Unit 10: When Disaster Strikes (1) natural disastersをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､条件文が正しく使えるようになる。	
9	Unit 10: When Disaster Strikes (2) リーディングによりpreparation for disasterについて理解し、グループディスションやライティングを通じて自分の考えをまとめ、発信する。グループワークでリサーチを行い､クラスで共有する。	
10	Unit 11: The Heart of Art (1) artをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､冠詞 a/an/theが正しく使えるようになる。	
11	Unit 11: The Heart of Art (2) リーディングによりartistsについて理解し、グループディスションやライティングを通じて自分の考えをまとめ、発信する。グループワークでexhibitionについてリサーチを行い、クラスで共有する。	
12	Unit 12: Essential Everyday Devices (1) electric appliancesをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､句動詞が正しく使えるようになる。	
13	Unit 12: Essential Everyday Devices (2) リーディングによりsmart homesについて理解し、グループディスションやライティングを通じて自分の考えをまとめ、発信する。グループワークでsmart home designを行い、クラスで共有する。	
14	Review (Unit 7 - Unit 12)に取り組む。プレゼンテーションの準備をする。	
15	Unit 7～Unit 12から1つのテーマを選び、プレゼンテーションを行う。 これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Live Horizons, Book 2』. Teruhiko Kadoyama et al. 2026. 成美堂. ISBN: 978-4-7919-7333-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＤⅠ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	エリック　モーニン						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当する者、CEFR A2+ ～ B1の能力を有すると判断された者、また英語ＥⅠ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力が求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・海外メディアのビデオ映像を手がかりに現代社会の様々なトピックについて知り、リスニング、リーディングを通じて理解を深め、発信に活かすことができる。 ・得た情報を元に批判的思考ができる。 ・CEFR A2+～B1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい、履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1) Unique Travel Experiences　旅行について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
3	Unit 1 (2) Unique Travel Experienceについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
4	Unit 2 (1) Our Future Under Water? 気候変動について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
5	Unit 2 (2) Our Future Under Water?について要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
6	Unit 3 (1) A DIY-Sushi Party with Friends 和食について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
7	Unit 3 (2) A DIY-Sushi Party with Friendsについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
8	Unit 1～Unit 3の中から1つのテーマを選びショートスピーチを行う Unit 4 (1) Australia's Cockatoos ペットについての質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する	
9	Unit 4 (2) Australia's Cockatoosついてビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。 Unit 5 (1) How to Become a Good Journalist 報道について質問に答えた後でビデオ視聴する。	
10	Unit 5 (2) How to Become a Good Journalistについてリーディング、要約で理解を深め、職業について自分の意見をまとめる。	
11	Unit 6 (1) Universal Credit 貧困問題について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する。	
12	Unit 6 (2) Universal Creditについてビデオ視聴で理解を深め、リサーチをして意見をまとめる。	
13	Unit 7 Cooling is Heating? エネルギー問題についてリーディング、要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
14	Unit 1～Unit 7で学んだテーマから一つを選びプレゼンテーションを行う。Peer reviewを行う。	
15	前期の学習の確認(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Integrity　Beginner』竹内理他. 2023年.　金星堂 ISBN:9784764741744
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＤⅡ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	エリック　モーニン						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語DIを学修した者を対象に開講する。またCEFR A2+～B1程度の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す〈やり取り/発表〉・書く）の向上を目指す。	・海外メディアのビデオ映像を手がかりに現代社会の様々なトピックについて知り、リスニング、リーディングを通じて理解を深め、発信に活かすことができる。 ・得た情報を元に批判的思考ができる。 ・CEFR A2+～B1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語ＤⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 8（1）Fashion's Resale Revolution ファッションに関連する質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
2	Unit 8（2）Fashion's Resale Revolutionについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
3	Unit 9（1）Finding Treasures in the Trash リサイクルについて質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
4	Unit 9（2）Finding Treasures in the Trashについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
5	Unit 10（1）Climate Protesters Going to Prison 社会運動について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
6	Unit 10（2）Climate Protesters Going to Prisonについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
7	Unit 8～Unit 10の中から1つのテーマを選び、ショートスピーチを行う。 Unit 11（1）The Changing Meaning of "Home" 家庭について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
8	Unit 11（2）The Changing Meaning of "Home" 家庭について要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
9	Unit 12（1）Women Still Dying in Pregnancy 発展途上国に関連する質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する。	
10	Unit 12（2）Women Still Dying in Pregnancyについてビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
11	Unit 13（1）Struggling to Gain the Right to Vote　参政権について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する。	
12	Unit 13（2）Struggling to Gain the Right to Vote　ビデオ視聴で理解を深め、リサーチをして意見をまとめる。	
13	Unit 14　Feeling Alive throughout Life 長寿についてリーディング、要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
14	Unit 8～Unit 14で学んだテーマから一つを選びプレゼンテーションを行う。Peer reviewを行う。	
15	後期の学習の確認(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Integrity Beginner』竹内理他. 2023年.　金星堂 ISBN:9784764741744
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＥＩ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者、CEFR A2程度の能力を有すると判断された者、また英語　ＦＩ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法等を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す〈やり取り/発表〉・書く)の向上を目指す。	・日常のさまざまなテーマについて、リスニング、リーデングにより正しく内容理解ができる。 ・学んだ内容について、要点を確認した後、発信に用いることができる。 ・CEFR A2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等) Self-introduction	
2	Module 1 人物紹介 Unit 1 Match,Scan,Focus,Listenの活動で紹介の仕方を学び、自己紹介の準備をする。	
3	Module 1 人物紹介　 Unit 1 Communicateの活動で実践。Unit 2 Readの活動で自己紹介文を理解する。	
4	Module 1 人物紹介 Unit 2　Readの内容確認、Writeの活動のあと、3段落の自己紹介を書く。	
5	Module 1 人物紹介 Unit 2　Writeで書いた自己紹介を修正し、Vocabulary、言語形式を確認する。	
6	Module 1 到達度確認テスト Module 2 ファッション　Unit 3 Match,Scan,Focus,Listenの活動でファッションについての表現を学ぶ。	
7	Module 2 ファッション　Unit 3 Listen, Communicationの活動でファッションについてペア活動をする。	
8	Module 2 ファッション　Unit 4 Readの活動で内容を確認し、Writeの活動の後、自分のファションスタイルについて書く。	
9	Module 2 ファッション　Unit 4　Writeで書いた英文を修正し、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
10	Module 2 到達度確認テスト Unit 1～Unit 4から1つテーマを選び､ショートスピーチをする。	
11	Module 3 食べ物 Unit 6 Match,Scan,Focus,Listenの活動で外国の料理について学ぶ。	
12	ModModule 3 食べ物 Unit 6 Listen, Communicationの活動で食べ物についての好みについて､及びCommunication Bの追加質問を用いて世界の料理についてペア活動をする。	
13	Module 3 食べ物 Unit 7 Readでレストランについての文章を理解し、Writeの活動の後、お気に入りのレストランについて英文を書く。	
14	Module 3 食べ物 Unit 7　お気に入りのレストランについての英文を修正して口頭発表する。Vocabulary、言語形式の確認をする。	
15	Unit 6～Unit 7から1つテーマを選び、プレゼンテーションを行う。 これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Framework English A』 Colin Thompson, Tim Woolstencroft著. 2024年.　金星堂 ISBN:9784764742000
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＥⅡ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＥⅠの単位を修得した者を対象に開講する。またCEFR A2程度の能力を有すると判断された者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法等を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・日常のさまざまなテーマについて、リスニング、リーデングにより正しく内容理解ができる。 ・学んだ内容について、要点を確認した後、スピーキング、ライティングに適切に用いることができる。 ・CEFR A2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語EⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション、前期の振り返り等 Module 4 ライフスタイル　Unit 8 Match, Scanの活動でライフスタイルについての表現を学ぶ。	
2	Module 4 ライフスタイル　Unit 8 Focus, Listenの活動でライフスタイルについての表現を学美、ペア活動をする。	
3	Module 4 ライフスタイル　Unit 9 Readの内容確認、Writeの活動の後、自分のライフスタイルについて書く。	
4	Module 4 ライフスタイル　Unit 9　英文修正の後、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
5	Module 4 到達度確認テスト Module 5 旅行　Unit 11 Match, Scan, Focus, Listenの活動で世界の観光地について学ぶ。	
6	Module 5 旅行　Unit 11 Listenの活動を参考に自分の意見をまとめ、Communicateでグループ活動を行う。	
7	Module 5 旅行　Unit 12 Readで旅行についての文章を理解し、Writeの活動の後、旅行について3段落の英文を書く。	
8	Module 5 旅行　Unit 12 Writeで書いた英文を修正し、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
9	Module 5 到達度確認テスト Unit 8～Unit 12から1つテーマを選び、ショートスピーチをする。	
10	Module 6 規則　Unit 13 Match, Scan, Focus, Listenの活動で世界のさまざまな規則について学ぶ。	
11	Module 6 規則　Unit 13 Communicateで規則についてのペア活動を行う。	
12	Module 6 規則　Unit 14 Readで高校・大学の規則について読み、Writeの活動の後、高校・大学の規則について英文を書く。	
13	Module 6 規則　Unit 14　Writeで書いた英文を修正し、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
14	これまで学んだテーマから1つを選び、プレゼンテーションを行う。Peer reviewをする。	
15	これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Framework English A』 Colin Thompson, Tim Woolstencroft著. 2024年.　金星堂 ISBN:9784764742000
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＦⅠ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者を対象に開講する。またCEFR A1程度の能力を有する者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話すくやり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・自己紹介など日常生活で使用する身近な表現や簡単な語彙、基礎的表現を用いて、理解、発信できるようになる。 ・基本文型、現在形、過去形等、文法の基礎を理解し、発信に用いることができるようになる。 ・CEFR A1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。または「英語基礎」の単位を修得済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1) 動詞の現在時制(be動詞)の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて朝の日課の表現を学ぶ。	
3	Unit 1 (2) 人物紹介の英文を理解し､自己紹介と朝の日課についてのライティングと発表を行う。	
4	Unit 2 (1) 動詞の現在時制(一般動詞)の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて朝食についての表現を学ぶ。	
5	Unit 2 (2) 朝食について述べる英文を理解し､朝食についてのライティングと発表を行う。	
6	Unit 3 (1) 名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて通学準備についての表現を学ぶ。	
7	Unit 3 (2) 通学準備について述べる英文を理解し､自分の通学準備についてのライティングと発表を行う。 Unit 1 ～ Unit 3の振り返り、到達度確認テスト	
8	Unit 4 (1) 代名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて大学の授業についての表現を学ぶ。	
9	Unit 4 (2) アメリカの大学授業について述べる英文を理解し､自分の大学の授業についてのライティングと発表を行う。	
10	Unit 5 (1) 前置詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて昼食についての表現を学ぶ。	
11	Unit 5 (2) アメリカの大学での昼食について述べる英文を理解し、自分の大学での昼食についてライティングを行う。 Unit 6 (1) Wh-疑問文の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてショッピングについての表現を学び、ライティングを行う。	
12	Unit 6 (2) 様々な活動を通じてさらにショッピングについての表現を学び、ライティングの発表を行う。 Unit 7 (1) 過去時制の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて街の様子や交通機関についての表現を学び、ライティングを行う。	
13	Unit 7 (2)様々な活動を通じてさらに街の様子や交通機関についての表現を学び、ライティングの発表を行う。	
14	Unit 4 ～ Unit 7の振り返り、到達度確認テスト。 Unit 1～Unit 7で学んだことから各自 1つのテーマを選び、スピーチ/プレゼンテーションを行う。Peer review を行う。	
15	これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)､振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『English Day!』,Robert Hickling著,2023年,金星堂,ISBN: 9784764741690
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＦⅡ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＦⅠの単位を修得した者を対象に開講する。またCEFR A1程度の能力を有すると判断された者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・自由時間の過ごし方など日常生活で使用する身近な表現や語彙を用いて、理解、発信できるようになる。 ・現在完了形、受動態等を理解し、適切に用いることができるようになる。 ・CEFR A1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト等）。
履修条件	「英語FⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 8（1）現在進行形/過去進行形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて美術/芸術についての表現を学ぶ。	
2	Unit 8（2）美術/芸術について述べる英文を理解し、自分の趣味についてライティングと発表を行う。	
3	Unit 9（1）未来表現の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてカフェについて述べる。	
4	Unit 9（2）アメリカのカフェについて述べる英文を理解し、レストラン/カフェについてのライティングと発表を行う。	
5	Unit 10（1）現在完了形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてアルバイトについて述べる表現を学ぶ。	
6	Unit 10（2）アメリカのアルバイトについて説明する英文を理解し、自分の経験についてライティングと発表を行う。	
7	Unit 11（1）助動詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて趣味についての表現を学ぶ。	
8	Unit 11（2）様々な活動を通じて自由時間についての表現を学び、自分ことについてのライティングと発表を行う。 Unit 8～Unit 11の復習、振り返り。　到達度確認テスト	
9	Unit 12（1)不定詞と動名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて家事についての表現を学ぶ。	
10	Unit 12（2）家事について述べる英文を理解し、自分のことについて発表を行う。 Unit 13（1）比較級と最上級の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて自宅での自由時間について説明する表現を学ぶ。	
11	Unit 13（2）リーディング活動の後、自宅での自由時間について発表を行う。 Unit 14（1）接続詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて余暇についての表現を学び、ライティングの準備をする。	
12	Unit 14（2）余暇についての英文を理解し、ライティングの発表を行う。 Unit 15（1）受動態の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて運動についての表現を学び、ライティングの準備をする。	
13	Unit 15（2）運動について　ライティングを行い、お互いに発表し合う。	
14	Unit 12 ～ Unit 15の振り返り、到達度確認テスト。 これまでに学んだテーマから各自が選んだテーマについてプレゼンテーションを行う。Peer reviewを行う。	
15	これまでに学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	小テスト・発表・タスク・リフレクション等） ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	（単元テスト/中間テスト + 定期テスト） 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①1回目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『English Day!』,Robert Hickling著,2023年,金星堂,ISBN: 9784764741690
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	アクティブ・イングリッシュC			開講学科	教育学部	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	2・3年	開講時期	通年	単位	3単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は，大学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。 本科目は、学内の手続きを経て承認された学生が、本学の提携校で、英語力向上をめざして3週間以上の研修を行う。学生は担当教員の指導の下、計画段階（事前学習）から実施（留学）及び終了段階（事後学習）まで見通しをもって主体的に取り組む。留学先では、英語研修、寮滞在の経験を通じ、また留学先アドバイザーの指導の下で、英語力や専門に関する学びを深めるだけでなく、現地の人々等と交流し、国際的な視野を広げる。帰国後は、事後学習においてレポートを作成、発表し、個々の学びの共有化を図る。	・留学目的を明確にし、指導教員等のアドバイスに留意しつつ留学計画立案・諸準備等に計画的かつ主体的に取り組むことができる。 ・事前学習では、英語力を高め、異文化理解への態度・スキルを養うとともに、授業の全体計画や留学先での研修内容や記録の仕方を理解することができる。 ・提携校での研修では、研修の目的や計画に沿った研修を行うとともに地域の人々との交流を英語で積極的に実行することができる。また、日々の研修内容を英文で記録するなど、帰国後の発表活動の準備も自力で行うことができる。 ・事後学習では、研修中の記録をもとにレポートを英文で作成する。その際、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。作成したレポート内容をもとに海外留学報告を英語で行うことができる。

教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、提携校での研修(オリエンテーション、提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)
履修条件	英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、大学および施設でのルールが守れる者。以上の条件を満たして、学科指定の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前学習① オリエンテーション：渡航・留学先での研修及び事後学習までの本授業の目標と内容を正しく理解するとともに、主体的に取り組む姿勢や意欲を高める。	
2	事前学習②　研修先で自己紹介、故郷紹介、日本文化紹介がスムーズにできるようにグループで役割分担して練習をする。また、留学先及び現地での生活や学修に必要な英語表現を学ぶ。	
3	事前学習③　留学先機関・地域についての調査を行いまとめる。研修先での学修についての自己のテーマや計画を明確にし、英文にまとめ、研修先に伝えられるようにする。	
4	提携校での研修、オリエンテーション、ホームステイまたは寮滞在	
5	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
6	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
7	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
8	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
9	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
10	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
11	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
12	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
13	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
14	事後学習①　研修中の記録に基づき、英文でレポートを作成する。その際に、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。また、海外留学報告会を学生主体で準備をする。(開催案内のチラシ作成と告知)	
15	事後学習② 海外留学報告会において、作成したレポートをもとに、英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行う。運営全般や進行なども学生主体で行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	15	①留学への取り組み､計画書等諸書類作成に適切かつ積極的に取り組んでいるかどうかを評価する ②英語運用力測定	留学先での英語学習・調査研究に関する評価	60	研修先での成績や活動に基づき総合的に評価する
留学中の報告書	10	定期的に留学に関する報告書が提出されているかどうかを評価する	事後学習	15	①帰国後にレポートを提出するとともに日本語と英語で留学の報告を行い、これを評価する ②英語運用力測定

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
留学の目的を明確にし、1年以上前から継続して英語の学習をすること。［毎日40分］英語研修が目的の学生は目的とするレベルを明確にし、英語の授業等をできるだけ多く履修し、積極的に参加すること。調査研究が目的の学生はアドバイザーの指導の下、専門的な内容をまとめておき、渡航先での調査目的・方法等を明確にしておくこと。英語で説明できるように準備する。［毎日30分］	適宜行う。

受講生に望むこと	現地では独力で問題解決する必要に迫られるため、日ごろから情報収集・計画の立案・実施・評価等をする力を養うこと。英語力は4技能が必要である、会話だけではなく読み書き・論理的思考力向上にも励むこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『今日から使える！留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、バーウィック妙子・著、アルク、2016年（ISBN: 978-4757426658）	その他・特記事項	・提携校指定英語集中クラスについてはアドバイザーから別途詳細についてのガイダンスを受ける。 ・英検2級程度の英語力がある者に限る。準備の過程で、学生生活および学業の面で問題があると判断した場合には、留学を中止することもある。「留学の手引き」をよく読むこと。 ・事前・事後学習の一環として英語力測定を受ける ・留学時期によって報告会が年度内に不可能な場合は別途指示する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	中国語Ⅰ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	渡邉　彩奈						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、中国語の「話す・聞く・読む・書く」技能をバランスよく身につけ、自らの考えを口頭や文章によって他者に伝えられるようになることを目的とする。中国語を単に「知識」として知るだけでなく、実際に運用できる能力を習得し、社会においてもこれを活用できるようにする。実際の授業では、まず単語と文法を学び、その後対話文や長文を通して文法の定着を図る。中国語を学びながら中国の文化や社会に関する理解を深める。	①発音の基礎を身につけ、中国語を正確に発音できるようになる。 ②中国語を用いてコミュニケーションがとれるようになる。 ③中国語の文法を理解する。 ④中国語の基本的な知識を身につけ、文章を作ることができるようになる。

教授方法	基本的に講義形式による授業となるが、学生同士でのロールプレイなどの表現練習も行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス(授業の進め方と成績評価の方法についての説明)後、声調（音の高低）・軽声・単母音を習得する。	
2	声調・軽声・単母音を復習後、子音の発音を習得する。	
3	子音を復習後、複母音と鼻母音の発音を習得する。	
4	声調変化やｒ化など、ピンインを読む際のルールを習得する。	
5	発音編を総復習後、簡単な日常会話を習得する。 自分の名前を中国語で言えるようになる。	
6	第1課「我是中国留学生」（新出語句・文法要点・会話文） 中国語を用いた自己紹介、さらに相手の専攻を尋ねたり自分の身分を言えるようになる。	
7	第1課「我是中国留学生」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
8	第2課「你今年多大？」（新出語句・文法要点・会話文） 年齢や誕生日、出身の尋ね方と答え方などを習得する。	
9	第2課「你今年多大？」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
10	第3課「你会做包子　？」（新出語句・文法要点・会話文） 曜日、時刻の言い方、助動詞“会”と“能”「～できる」の使い方を習得する。	
11	第3課「你会做包子　？」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
12	第4課「我　去快餐店」（新出語句・文法要点・会話文） 進行形、指示代名詞、連動文、比較文を習得する。	
13	第4課「我　去快餐店」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
14	前期に学んだ学習内容をもとに、自己紹介文を作成する。	
15	期末試験に備えて、前期の学習内容の総復習を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内の活動・課題（毎回）	10	授業内で行われる質疑応答やペアでの表現練習などに積極的に参加する姿勢、課題の完成度で評価する。	小テスト（適宜）	30	1課が終了するごとに、学習到達度確認のための小テストを行う。
自己紹介文の完成度（第14回）	10	前期に習得した文法を用いて自己紹介文を作成する。その完成度で評価する。	期末試験（第16回）	50	授業内容を十分に理解できているか確認するために、筆記試験を実施する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それから音声を聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[30分] ②授業後は新出単語（発音、ピンイン、簡体字）、新たに学習した文法項目を復習し、授業で課された練習問題に取り組むこと。[50分] ③自己紹介文を作成することを考えて、あらかじめ内容を準備すること。[10分]	①小テストや課題は添削・採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 ②第14回授業で作成する自己紹介文は添削後に返却する。 ③採点や評価等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	語学は積み重ねが大事です。多くの中国語を聞き、積極的に話すようにしてください。授業後は復習をしっかりおこない、語彙や文法の知識を積み上げていきましょう。単語を調べるときは辞書を用いてください。	教科書・テキスト	『バンバン（棒棒）！中国語』　艾玉霞・符麗紅・渡邉彩奈・趙菁 著　朝日出版社　2026年　ISBN 978-4-255-45422-1
指定図書／参考書等	なし／『日中辞典[第３版]』小学館　2015年　ISBN 978-4095-156538 『中日辞典[第３版]』小学館　2016年　ISBN 978-4095-156040 『Ｗｈｙ？にこたえるはじめての中国語の文法書＜新訂版＞』相原茂・石田知子・戸沼市子 著　同学社　2016年　ISBN 978-4-8102-0327-1	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	中国語Ⅱ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	渡邉　彩奈						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では中国語を用いて自らの考えや意見を表現できるようになることを目的とする。前期に習得した「話す・聞く・読む・書く」スキルをさらにレベルアップさせ、表現の幅を広げる。実際の授業では、まず単語と文法を学び、その後対話文や長文を通して文法の定着を図る。語学を身につけると同時に、教科書の会話や本文を通して、中国への知識や理解をより一層広める。中国語を単に「知識」として知るだけでなく、実際に運用できる能力を習得し、社会においてもこれを活用できるようにする。	①中国語を正確に発音できるようになる。 ②中国語でコミュニケーションを取れるようになる。 ③中国語の構造に関する知識を身につけ、いくつかの文法が混在した複雑な構造の文を作ることができるようになる。 ④習得した文法や語彙を用いて、自分の考えを他者に伝えられるようになる。

教授方法	基本的に講義形式による授業となるが、学生同士でのロールプレイなどの表現練習も行う。
履修条件	「中国語Ⅰ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス(授業の進め方と成績評価の方法についての説明)後、前期学習内容（第1課から第4課）を復習する。	
2	第5課「　来的礼物」(新出語句・文法要点・会話文) 方向補語、結果補語、動詞の重ね型、動詞“喜　”「好む」、“是～的”構文を習得する。	
3	第5課「　来的礼物」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
4	第6課「去百元店」(新出語句・文法要点・会話文) 助動詞“想”「～したい」、形容詞述語文、可能補語、お金の言い方、数量詞、存現文を習得する。	
5	第6課「去百元店」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
6	第7課「一定会　得更好的」(新出語句・文法要点・会話文) 選択疑問文、“因　”、主述述語文、様態補語、断定を表す助動詞“会”を習得する。	
7	第7課「一定会　得更好的」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
8	第8課「在听中国歌曲」(新出語句・文法要点・会話文) 使役文、連体修飾語、助詞“　”「～したことがある」、受け身文、二重目的語構文を習得する。	
9	第8課「在听中国歌曲」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
10	第9課「成人　快要到了」(新出語句・文法要点・会話文) 近未来表現、助動詞“要”、反復疑問文、処置文、離合動詞を習得する。	
11	第9課「成人　快要到了」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
12	第10課「越学越有意思」(新出語句・文法要点・会話文) 比喩表現、「少し」を表す副詞“有点儿”と数量詞“一点儿”などを習得する。	
13	第10課「越学越有意思」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
14	前期と後期の学習内容をもとに、自由なテーマで長文を作成する。	
15	期末試験に備えて、後期の学習内容の総復習を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内の活動・課題（毎回）	10	授業内で行われる質疑応答やペアでの表現練習などに積極的に参加する姿勢、課題の完成度で評価する。	小テスト（適宜）	30	1課が終了するごとに、学習到達度確認のための小テストを行う。
自由テーマ文の完成度（第14回）	10	習得した文法を用いてテーマを自由に文章を作成する。その完成度で評価する。	期末試験（第16回）	50	授業内容を十分に理解できているか確認するために、筆記試験を実施する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それから音声を聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[30分] ②授業後は新出単語（発音、ピンイン、簡体字）、新たに学習した文法項目を復習し、授業で課された練習問題に取り組むこと。[50分] ③自由テーマ文を作成することを考えて、あらかじめ内容を準備すること。[10分]	①小テストや課題は添削・採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 ②第14回授業で作成する自由テーマ文は添削後に返却する。 ③採点や評価等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	前期に比べて複雑な文法項目が多いので、必ず復習をしましょう。 学期末には一年間で習得した文法を用いて文章を作成してもらいます。 あらかじめどのような内容にするのかを考えておきましょう。	教科書・テキスト	『バンバン（棒棒）！中国語』　艾玉霞・符麗紅・渡邉彩奈・趙菁 著　朝日出版社　2026年　ISBN 978-4-255-45422-1
指定図書／参考書等	なし／『日中辞典[第３版]』小学館　2015年　ISBN 978-4095-156538 『中日辞典[第３版]』小学館　2016年　ISBN 978-4095-156040 『Ｗｈｙ？にこたえるはじめての中国語の文法書＜新訂版＞』相原茂・石田知子・戸沼市子 著　同学社　2016年　ISBN 978-4-8102-0327-1	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	フランス語Ⅰ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	ロイック　メノウ						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語科目として開講される。前期にフランス語を学んだ学生を対象に、基礎の上に更に時制やテキストの後半部分の文法や基本文型などを一通り説明する。前期と同じく口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学ぶ。また言葉だけでなく言葉の背景となるフランスの文化について様々な角度から知り、体験していく。フランス社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学ぶ。	①フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要なフランス語表現を理解できるようにする。 ②言葉だけではなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することはその国の文化を深く知り、また世界的な視野が展がることあり、言語を通してその実感を体験する。

教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	フランス語の基礎，アルファベ，綴り字の読み方，発音のルール，リエゾン・アンシェヌマン Eléments de base / prononciation	
2	挨拶，授業で使う表現　Salutations Bonjour, Madame.　Salut, Paul.　Ça va?	
3	自己紹介・国籍・身分・名前の言い方，人称代名詞　je/tu の使い方，動詞　êtreの活用形・否定形・疑問形 Est-ce que tu es japonais?　verbe négation, questions fermées	
4	名詞の性・数　masculin/féminin canadien（s）　canadienne（s）chinois (e)(s)	
5	定冠詞・不定冠詞　un, une, des, le, la, l', les C'est une école.	
6	住んでいるところ・言語・学科を言う，第一群規則動詞，否定形ne...pas J'habite à Tokyo.　Je parle français.　Je n'habite pas à Paris.	
7	第一群規則動詞 -er　疑問形・否定形の口頭練習 Vous parlez français?　Non, je ne parle pas français.	
8	動詞 avoirの活用，年齢・好みをいう，数(11～20) J'ai un frère.　J'ai vingt ans.　J'aime le cinéma	
9	動詞 avoirの否定形・疑問形の口頭練習，不定冠詞，否定文中のde，avoirを使った表現 Je n'ai pas de frère.　j'ai faim.　J'ai froid.	
10	食べる，飲む，たずねる（何？　いくつ？），部分冠詞 Tu manges du fromage.　Je prends du café.	
11	部分冠詞の否定形，カフェでの飲み物の注文の仕方の口頭練習 Je bois de l'eau. Je ne bois pas d'eau. Il y a une voiture. Il n'y a pas de voiture. Qu'est-ce que tu prends le matin? Je prends du café au lait.	
12	人・物を描写する，たずねる（誰？，どんな？），形容詞の性・数・位置，指示代名詞，所有形容詞 Il est grand. Elle est gentille. C'est un étudiant intelligent.　C'est mon père. Ce sont mes amis.	
13	形容詞の女性/男性形の例外 beau-belle gentil-gentille ennuyeux-ennuyeuse	
14	動詞aller/venirの活用　行先・国名，冠詞縮約(à) à+le-au/ (de) de+le-du Je vais en France.　Je vais à l'école.　Je vais aux Etats-Unis.　Je viens du bureau.	
15	行く・来る，人称代名詞強勢形，数（60～） Je suis étudiant.　Et toi?	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	学習内容をきちんと習得している。	受講態度	30	講義に積極的に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。 自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]	テキスト中にある練習問題を自主学習し、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします

受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び、理解することが容易になります。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	授業中に随時紹介します。	その他・特記事項	プリントや資料等は随時配布します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	フランス語Ⅱ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	ロイック　メノウ						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語科目として開講される。前期にフランス語を学んだ学生を対象に、基礎の上に更に時制やテキストの後半部分の文法や基本文型などを一通り説明する。前期と同じく口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学ぶ。また言葉だけでなく言葉の背景となるフランスの文化について様々な角度から知り、体験していく。フランス社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学ぶ。	①フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要なフランス語表現を理解できるようにする。 ②言葉だけではなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することはその国の文化を深く知り、また世界的な視野が展がることあり、言語を通してその実感を体験する。

教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。
履修条件	『フランス語Ⅰ』の単位を修得済みの者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	動詞aller/venirを使った近接未来・近接過去　futur proch/passé récent Tu vas sortir ce week-end ?　Je viens de finir mon travail.	
2	時刻，たずねる（何時？何時に？いつ？）（何をする？），第二群規則動詞finir/faireの慣用表現，家事について Quelle heure est-il?　Il est trois heures. A quelle heure …? quel? quand?　Je fais　la cuisine.	
3	代名動詞（再帰動詞）の疑問形 se coucher/s'appeler Je me couche à dix heures. Je m'appelle Sophie.	
4	時制や頻度を表す名詞や副詞　toujours, souvent, tous les jours, aujourd'hui, hier, demain	
5	pouvoir/vouloirの活用と表現　Je veux voyager.　Je peux sortir.	
6	たずねる（なぜ？），痛みに関する表現，Pourquoi?に対して　～ Parce-que の答え方 J'ai mal à la tête.	
7	日常の行動をいう，午前・午後・週などをいう，代名動詞／指示形容詞 Tu te lèves tôt?　A　quelle heure vous vous couchez?	
8	天気をいう，季節・月・週・午前・午後などの語彙 Il fait beau.　Il neige.　lundi,　hiver,　janvier	
9	場所をいう，道順をいう，冠詞の縮約(de)，前置詞，序数 Où est le café?　Il est en face de la maison.　dans, sur,　sous	
10	命令・義務の表現　命令形／il faut… Allez tout droit.　Il faut travailler.　Sois sage!	
11	過去のことを語る（1）-1　複合過去(passé composé) avoir + pp.　様々な否定（1） J'ai fait du tennis.　Je n'ai pas téléphoné.	
12	過去分詞の作り方，中性代名詞en Il a travaillé.　J'ai fini mon étude.　Je n'en ai plus.	
13	過去のことを語る（2）-1　複合過去(passé composé) être + pp.　様々な否定（2）・ être動詞を伴う動詞の種類 aller/venir/sortirなど・過去分詞は主語の性・数に一致する　Elle est allée au musée.	
14	複合過去(passé composé)の疑問分・否定文の作り方 Il est venu de la piscine?　Non, il n'est pas venu	
15	外国に行ったことがありますか？Il y aの使いかた（過去を表現する場合），中性代名詞　場所を表す副詞 y，半過去形 Tu　est déjà allé(e) à l'étranger?　Quad ça?　Il y a dix ans, j'étais à Paris.（10年前私はパリにいました	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	学習内容をきちんと習得している。	受講態度	30	講義に積極的に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。 自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]	テキスト中の練習問題を自主学習し、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。

受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び理解することが容易になります。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	授業中に随時紹介します。	その他・特記事項	プリントや資料等は随時配布します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	韓国語Ⅰ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	金　正逸						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語科目として開講される。韓国語を初めて学ぶ学生を対象に、ハングルの読み方や書き方、発音の基礎などを中心に、文法表現など一通りを学ぶ。韓国語はアルタイ語に属する子音１９個母音２１個で構成されている表音文字である。日本語と同じく漢字の音読みや固有語で形成されているために言語としての共通点が非常に多いのが特徴である。前期では１課から６課を中心に文字の練習を重点的に行う。各単語に付けられているイラストによって楽しく反復学習ができる。言語の学習は何よりも興味を持つことが大事で、ネットを通じる情報の確認や映画、ドラマ、歌など自分の好みに基づく様々なことに接するのを授業に応用する。	ハングルの子音と母音の読み書きができると共に簡単な単語の構成について理解ができる。言語学的に日本語や英語との共通点と違いを理解する。２１個の母音と１９個の子音の組み合わせによる文字としての表現の学習力を高めて後期から始める会話学習に備えることができる。自分の名前や簡単な単語の表現ができるようになる。

教授方法	グループ授業を原則として与えられた課題をグループの中で解決する方式で行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ハングルとは何?/ハングルの基本構成を理解して日本語との共通点と違いを理解する。	
2	ハングルの基本母音について/基本母音を理解し、読み書きができる。	
3	ハングルの母音の活用について/母音の役割を理解し、言語としての活用法を理解する。	
4	ハングルの基本子音について/基本子音を理解し、読み書きができる。	
5	ハングルの子音の活用について/子音の役割を理解し、言語としての活用法を理解する。	
6	子音と母音の組み合わせについて/子音と母音を組み合わせて自分の名前や家族の名前が書ける。	
7	子音と母音の復習/子音と母音を理解し、読み書きができる確認をする。	
8	パッチムとは?/日本語にはないパッチムの構造を理解する。	
9	パッチムの役割について/単語の練習を通じてパッチムの役割が理解できる。	
10	簡単な単語の練習/教科書を中心にグループ別に書く練習をする。	
11	ハングルキ-ボ-ドの打ち方/携帯電話やパソコンを用いてハングルキ-ボ-ドの打ち方ができる。	
12	韓国の文化について①/韓国の食文化や地域の特徴について理解する。	
13	韓国の文化について②/韓国の社会や教育、大学の文化を理解する。	
14	前期の復習①/前期の全般的な内容を理解する。	
15	前期の復習②/前期の全般的な内容についてグループ別に理解度を確認する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業の参加態度	20	授業に積極的に参加し、グループ内で活発な意見交換などを行う。	レポート	30	与えられたレポートを自分の意見として作成する。
試験	50	ハングルの読み書きに対する理解を基準とする。 １６回目に実施する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教科書を中心として予習と復習を前提とする。[30分] ハングルは漢字を使わ ないので英文字やひらがなのように基礎の段階では書く練習に基づく事前学習が必要である。[60分]	レポートは子音と母音に対する理解を確認する内容や単語の書く練習を兼ねたことが主になる。試験はハングルの音読みを基本として子音、母音、パッチムの理解を確認する。

受講生に望むこと	ハングルは基本子音と母音が理解できれば一年ほどで簡単な日記を書くことや基本会話ができる言語で、初めての言葉に対する難しそうという先入観を捨てることが大事である。 韓国語に興味を持ち韓国の様々な文化に対する知識を高めたいという意識を持って受講してほしい。	教科書・テキスト	『マルプンソンで学ぶ韓国語初級』李熙卿・白　仁子著,白帝社,2016年,ISBN9784863982093 必要に応じてプリントなどを用いる。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	韓国語Ⅱ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	金　正逸						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語として開講される。前期の韓国語Ⅰを学んだ学生を対象に、口頭表現の発展を目指す。日常的に用いられるハングル文字の読み方や書き方を中心として、簡単な会話ができることをめざす。韓国語はアルタイ語に属する子音１９個母音２１個で構成されている表音文字である。日本語と同じく漢字の音読みや固有語で形成されているために言語としての共通点が非常に多いのが特徴である。後期では７課から１８課までに至る日常会話を中心とする授業になる。自己紹介から趣味などの多様な会話を身に付けることができる。言語の学習は何よりも興味を持つことが大事で、ネットを通じる情報の確認や映画、ドラマ、歌など自分の好みに基づく様々なことに接するのを授業に応用する。	個性的な自己紹介ができる。簡単な買い物ができる会話力を身につける。学校生活や週末、日常日課のことが表現できる。食べものの選び方や家族の呼び名、旅行時の簡単な会話ができる。交通手段の利用方法、約束のやり方、自分の能力の表現ができる。様々な趣味のことや自分のことが言えるようになる。

教授方法	グループ授業を原則として与えられた課題をグループの中で解決する方式で行う。
履修条件	「韓国語Ⅰ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	前期の全般的な復習/ハングルの基礎について理解している。	
2	自己紹介/みんなの前で自己紹介ができる。	
3	ショッピングのやり方/自分でショッピングができる。	
4	学校生活について/学校内にある色々な場所が言える。	
5	週末の時間過ごしの表現/週末の過ごし方が表現できる。	
6	一日の日課の表現/自分の日課の表現ができる。	
7	食べ物について/韓国の食べ物を言えることや味の表現ができる。	
8	家族の呼び名/自分の家族関係や数字が言える。	
9	旅行関係の表現/旅行時の簡単な会話ができる。	
10	交通便について/交通手段による乗り方ができる。	
11	約束の仕方/約束する時の表現ができる。	
12	自分の能力を表現する/自分ができることの能力について言える。	
13	趣味に対する表現/自分の趣味について言える。	
14	後期の復習①/後期に学習した会話の全般的なことが分かる。	
15	後期の復習②/後期に学習した会話をグループ別の理解度として確認する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業の参加態度	20	授業に積極的に参加し、グループ内で活発な意見交換などを行う。	レポート	30	与えられたレポートを自分の会話力を活用して作成する。
試験	50	聞き取りと会話力を基準とする。16回目に実施する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教科書を中心として基本会話の予習と復習を徹底して行う。[30分] 映画やドラマ、ネットなどを通じて聞き取りを反復して練習する。[30分] 授業時の会話文は次の時間まで覚えて置くこと。[30分]	レポートは自分と関わりを持つ内容として会話文を作成する。 試験は会話テストとして口述試験を行う。

受講生に望むこと	ハングルの語順は日本語と同じなので、単語力と助詞の活用法が分かれば簡単な日常会話を身に付けることができる。 韓国語に興味を持ち韓国の様々な文化に対する知識を高めたいという意識を持って受講してほしい。	教科書・テキスト	『マルプンソンで学ぶ韓国語初級』李熙卿・白　仁子著,白帝社,2016年,ISBN9784863982093 必要に応じてプリントなどを用いる。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教と教育			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	ポーター　倫子・中島　賢介　（代表教員　ポーター　倫子）						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、キリスト教保育・教育の基礎である旧・新約聖書の人間観に立ち返り、子どもの人格の重要性を確認する。その上で、「一人ひとりが輝き、ともに響きあう」キリスト教保育のあり方、またそれに続くキリスト教小学校教育との連携のあり方、それぞれの基本を、子どもの発達段階を確認しながら学び、考える。さらに、キリスト教保育・教育の具体的な展開を、体験学習を通して理解する。	①保育・教育の展開の基礎に、キリスト教、とくに聖書の人間観があること、その重要性を理解する。 ②保育・教育史におけるキリスト教保育・教育の位置と特徴、意義を理解する。 ③キリスト教保育・教育の実際に触れ、その根底にある子ども観と、一人ひとりの子どもへの基本的な関わり方、また集団形成の視点を知る。 ④礼拝のお話を作り、子どもに語ること、子どもとともに祈ること、幼児賛美歌・こども賛美歌を理解して歌い、伴奏すること、聖劇を作り演じること、神の創造の業である自然環境に親しみ、それを保育・教育に活かすことを経験し、その準備、実行、振り返りの流れを理解する。 ⑤子どもの発達段階を理解し、キリスト教保育の役割と小学校教育への接続の重要性と課題を知る。 ⑥幼児、初等・中等教育者となる意味と喜びを理解し、意欲を持つ。

教授方法	毎回配布するレジュメに基づく講義、グループによる活動と発表、学外保育者・教育者との交流、体験学習。
履修条件	キリスト教関連科目、および教育に関する基本科目の履修済が望ましい（単位未修得も可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：授業の概要説明、進め方、スケジュールを確認する。 講義編１　：キリスト教保育・教育とは何かを「新・キリスト教保育指針」やキリスト教学校教育同盟の冊子を通して理解する。	中島
2	講義編２　：教育の基礎を築いた先人たち（海外）について理解を深める。	ポーター
3	講義編３　：教育の基礎を築いた先人たち（国内）について理解を深める。	中島
4	講義編４　：聖書の中で子どもがどのように描かれているかを学び、キリスト教における子ども観を理解する。	中島
5	講演と交流１　：「キリスト教小学校教育の喜び」 キリスト教初等教育の実際について、北陸学院小学校教諭から、という主題で話を聞く。その教育実践から、キリスト教と初等教育の関係を理解する。	中島
6	講義編５　：前回の授業内容を復習し、幼保小連携について、キリスト教学校教育同盟の冊子を通して理解を深める	中島
7	講演と交流２　：「キリスト教中等教育の喜び」 キリスト教初等教育の実際について、北陸学院中学高等学校の元教諭から、「キリスト教教育の喜び」という主題で話を聞く。その教育実践から、キリスト教と中等教育の関係を理解する。その後、交流し、教育の喜びと課題を分かち合う。	中島
8	演習編１　：保育・教育の場としての礼拝について理解する。 キリスト教園において実際の保育の礼拝の場面を視聴し、グループごとに検討する。	ポーター
9	演習編２　：キリスト教保育・教育特有の行事について理解する。 園や学校ではどのような行事を展開されているかを視聴し、グループごとに検討する。	中島
10	演習編３　：子どもと一緒に歌う讃美歌について理解する。 キリスト教園で歌われている讃美歌を紹介し、グループごとにメロディーと歌詞について検討する。	中島
11	演習編４　：聖書のお話（聖話）を作成する。印象に残っている聖書箇所とその内容についてグループごとに検討する。	中島
12	演習編５　：聖劇を作成する。幼稚園の降誕劇を視聴し、グループで聖劇の特徴について検討する。その後、印象に残っている聖書箇所を題材にして聖劇の台本を作成する。	中島
13	キリスト教教育にとって、自然は神が創造し、人間に与えられた重要な環境であり、保育・教育の重要な要素である。その自然に実際に触れる。保育・教育の素材を探し、どんな自然物をどう使うことができるか、考え、体験する。	中島
14	自然環境から素材を選び、保育・教育に生かすために、どのような方法があるか、経験し、学ぶ。自然体験レポートを作成し、提出する。	中島
15	キリスト教保育・教育についての小テストと、キリスト教保育・教育についての振り返りとまとめを行い、最終課題に取り組む。	中島

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加度	20	講義での発言、グループ活動への参加、発表、お祈りなどの積極性	提出物	30	評価基準:　祈りの原稿、聖話の原稿、聖劇の台本などの作成と出来栄え
毎回のミニレポート	25	その講義で学んだことの理解度	最終課題	25	キリスト教保育・教育についての理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①前回授業のレジュメ・資料を振り返り、本シラバスにより次回内容を確認した上で、次の授業に臨む。［15分］ ②提出物（聖話原稿、聖劇台本、自然観察レポートなど）を作成し、提出する。［60分］ ③祈りの作成など、授業に臨む準備をする。［30分］	毎回の授業で、前回の授業内容の振り返りと、シートに基づき、必要なコメントをする。

受講生に望むこと	①受け身ではなく、主体的に授業に参加すること。 ②聖書、賛美歌を持参すること。 ③遅刻や欠席をせず、グループによる、お話しや劇の作成作業に進んで参加すること。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳聖書』日本聖書協会　2018年 『讃美歌21』日本基督教団出版局　1997年
指定図書／参考書等	なし／『キリスト教保育』2007年　聖公会出版、ISBN978-4-88274-181-7C3037、『新キリスト教保育指針』2011年　キリスト教保育連盟、「キリスト教保育」誌　キリスト教保育連盟、各種絵本など。	その他・特記事項	①通常授業時間以外に、野外実践を２コマ続けて行う。適切な服装で必ず参加すること。 ②北陸学院幼稚園や小学校などのキリスト教園の活動に自主的に参加し、キリスト教保育・教育の実際に触れることが望ましい。

実務経験を活かした授業の概要

中島：小学校における勤務経験をもとに、北陸学院小学校でのキリスト教育の経験を授業内で紹介し、協議する。

授業科目名	データ分析と教育			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
GIGAスクール構想によって1人1台端末が実現され、小・中・高の学校段階や、使用するサービス・ソフト等に関わらず、学習等の記録をデジタルで記録することが可能となり、児童生徒自らのふり返り等に活用したり、教員が学習等の記録を活用することで、個別最適な学習指導や生徒指導（生活指導を含む）ができるようになっている。このような状況から本科目では教育にデータを利活用する意義や目的と教育データの種類及びその活用方法について演習をもとに実践知が得られるように授業を進める。	①教育にデータを利活用する意義や目的について知る。 ②教育データの種類とその活用方法について理解する。 ③これまで教育におけるデータ分析について体験的に知る。 ④教育データのアナログ的分析とデジタル的分析について体験し、実用性を考えることができる。 ⑤本科目で学修したことを今後に生かそうとしている。

教授方法	講義・演習
履修条件	小中高校の教員免許取得を希望する者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教育データとは：教育にデータを利活用する意義や目的について理解する。	
2	教育データの種類と活用方法：教育データの種類とその活用方法について理解する。	
3	データ分析１：これまで教育のどのようなデータがどのように分析（活用）されていたのか、経験を思い出しながら整理し、その長短について考える。	
4	データ分析２：教育データの分析方法について、アナログ（カード法）の面から体験的に行い、その実用性について考える。	
5	データ分析３：教育データの分析方法について、デジタル（テキストマイニング法）の面から体験的に行い、その実用性について考える。	
6	データ活用の実際１：GIGAスクール構想が実現し、1人1台端末環境下において、どのようなデータ活用が行われているか、事例をもとに知る。	
7	データ活用の実際２：学習指導だけでなく、健康面や生活面からもデータ活用が行われていることを事例をもとに知る。	
8	学習のまとめ：これまでの学習内容を振り返るとともに、プロゼミB（後期）の探究学習においてどのようなデータを集め、どのように分析していきたいか展望する。（プロゼミＢMyビジョン「私の探究活動におけるデータ活用」）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学習態度	28	毎回の授業における学び方（意欲、関心、態度）を評価する。（4点×7回）	授業感想	28	１～７回の授業終末に書く「ミニッツコメント」を評価する。（4点×7回）
グループワーク	24	自分の考えを伝えたり、他者の考えを肯定的に聞いたりしているか。（グループワーク時に配付するリーブリックをもとに行う自己評価を含む。）	期末レポート	20	第8回授業時に作成する「プロゼミＢMyビジョン：私の探究活動におけるデータ活用」を評価する。（観点：探究中のデータ収集と整理・分析について構想できているか。）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教育だけでなく私生活や社会生活の中にあるデータにアンテナを張り、気づいたことをgoogleドキュメントにメモする。（60分）	毎回の授業時「ミニッツコメント」に教員コメントを書いて次回返却する。（これを繰り返します。）

受講生に望むこと	教育だけでなく私生活や社会生活の中にあるデータにアンテナを張るようにしてほしい。	教科書・テキスト	なし。毎回資料を準備・配付する。
指定図書／参考書等	1年次必修科目「データサイエンス入門」のテキスト「教養としてのデータサイエンス」を参考書とするので、持参すること。	その他・特記事項	なし。

実務経験を活かした授業の概要

石川県教育委員会が実施する小中学生対象の「基礎学力調査」において、児童生徒の「意識調査」のデータ分析を担当した。このときのデータを示しながら、教育におけるデータ分析の必要性について理解することができる授業を行う。

授業科目名	キャリアデザインⅢ			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	松本　理沙						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、学部共通科目のうち、学部の基幹科目に位置付く。キャリアデザインⅡに引き続き、自己の人生を主体的に構想・設計・実現する当事者としての力を高めたい。 具体的には、様々な事業から自己決定し、「運営スタッフ活動」を経験する。運営側として主催者や仲間、参加者等の想いに触れ、社会で協働する一員としてどのようなことが求められ、自分がどのように在るべきか、今後の自己課題を明確にする機会としたい。 ※SDGs目標番4、17関連科目	①「理想の自己実現」のためのキャリアプランニング能力 ②教師・保育者としての専門的な職業能力 （または、一般職としての社会参加を見据えた汎用的能力） ③自己理解・自己管理能力 ④課題対応能力、対人対応能力 以上4点の資質・能力を、各自の自己課題に基づき、活動を通じて総合的に高めることができる。

教授方法	講義、演習、体験学習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、成績評価の方法等を知る。	
2	プレ実習を活用したキャリア考察について（※春季学童保育体験振り返り）	
3	「運営スタッフ活動」（選択）予定の立案を行う。	
4	「運営スタッフ活動」①に向けての事前学習	
5	「運営スタッフ活動」①（選択）	
6	「運営スタッフ活動」①の振り返りと②に向けての事前学習	
7	「運営スタッフ活動」②（選択）	
8	「運営スタッフ活動」②の振り返りと③に向けての事前学習	
9	「運営スタッフ活動」③（選択）	
10	「運営スタッフ活動」③の振り返りと④に向けての事前学習	
11	「運営スタッフ活動」④（選択）	
12	「運営スタッフ活動」④の振り返り。発表のきまりについて理解し、準備を行う。	
13	発表に向けて打合せを進める。	
14	発表に向けて準備を進める。	
15	まとめ：「運営スタッフ活動を通して学んだこと～社会とのつながりの中で～」に関する発表。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
最終課題	40	「運営スタッフ活動を通して学んだこと～社会とのつながりの中で～」をテーマにしたレポートを作成することができているか(1600字)。	PDCAシート	30	①学びや自己課題の分析が行われているか。 ②学びや自己課題を踏まえたPDCAサイクルができているか。（10×3回）
主体的態度	20	事前準備、事後の振り返りや自己管理、報告・連絡・相談を含めて、主体的に運営スタッフ活動に参加できたか。	社会的態度	10	講義及びグループでの授業に積極的に取り組むことができていたか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①自分で選択した「運営スタッフ活動」に関し、PDCAシートを用いて自己分析を行う。[60分] ②本科目も含め、前期期間の予定を適切に管理する。[30分]	課題は「最終課題」と「PDCAシート」を期末にまとめて提出することとする。評価後、速やかに返却する。

受講生に望むこと	将来の社会参加を念頭に、一つひとつの活動に目当てをもって取り組んでほしい。 また、社会の一端を担うものとしての自覚をもち、適切な報告・連絡・相談の在り方を実践的に学んでほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	各自が選択した「運営スタッフ活動」を以て講義のコマに充てる。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインⅣ			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	谷　昌代・中島　賢介　（代表教員　谷　昌代）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、学部の基幹科目に位置付く。キャリアデザインⅢの学外での「運営スタッフ活動」に引き続き、キャリアデザインⅣでは学内外での主体的活動を通して、さらに構想・設計・実現する力を高めたい。具体的には、社会人インタビューを学生自ら主催し、その企画運営の過程の中で、社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）を身につけることを目指す。延いては、教育職・保育職としての専門的な職業能力についても身につける。	①「理想の自己実現」のためのキャリアプランニング能力 ②教師・保育者としての専門的な職業能力（または、一般職としての社会参加を見据えた汎用的能力） ③自己理解、自己管理能力 ④課題対応能力、対人対応能力 ⑤プレゼンテーション能力 以上5点の資質・能力を活動を通じて総合的に高め、社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）を身につけることができる。

教授方法	講義・演習・体験学習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方、到達目標、成績評価の方法等の説明。 担当教員から卒業生へのインタビューやプレゼンテーションの目標について伝える。チーム決めを行い、メンバーを知り合う。	全員
2	2年次前期までに経験したチーム活動からの課題を明確にし、自身のキャリアデザインのために2年次中にすべきことを考える。 これからの大学生活をより充実させるため、これからの人生をより充実させるための講座（外部講師）	外部講師
3	挨拶、服装と身だしなみ、話し方、電話応対のマナー講座 社会人（卒業生）へインタビューする際の身だしなみ、話し方、話の聴き方などのマナーを学び理解する。（外部講師）	外部講師
4	【チームによる企画・運営】社会人（卒業生）インタビューのための事前学習① インタビュー対象者（卒業生）の職業や在学中の学びの過程などについて調べてきたことをチームに報告する。 アポイントの取り方の確認をする。	全員
5	【チームによる企画・運営】社会人（卒業生）インタビューのための事前学習② 進捗状況の確認。インタビューの事前準備について知り、質問項目をまとめる。インタビュー当日のタイムスケジュール（案）を作成する。	全員
6	【チームによる企画・運営】社会人（卒業生）インタビューのための事前学習③ 進捗状況の確認。依頼状の作成とチームの役割分担を行い、各自が行うことを確認する。インタビュー会場の環境の設定を確認する。	全員
7	【チームによる企画・運営】社会人（卒業生）インタビューのための事前学習④ 進捗状況の確認。タイムスケジュール（案）や質問項目などを再確認し、修正を行う。	全員
8	【チームによる企画・運営】社会人（卒業生）インタビューのための事前学習⑤ 進捗状況の確認。最終確認をする。	全員
9	時間やスケジュール管理の大切さを知るための講座（外部講師）	外部講師
10	【チームによる企画・運営】社会人（卒業生）インタビューを実施する。①	全員
11	【チームによる企画・運営】社会人（卒業生）インタビューを実施する。②	全員
12	【チームによる企画・運営】社会人（卒業生）インタビューのプレゼンテーションを準備する。	全員
13	【チームによる企画・運営】社会人（卒業生）インタビューのプレゼンテーションのリハーサルを行う。	全員
14	【チームによる企画・運営】社会人（卒業生）へのインタビュー内容をまとめ，プレゼンテーション（報告）する。 報告から、様々な職業の魅力とやりがい、働き方、大学生活の過ごし方についての学びをまとめる。	全員
15	【全体のまとめ】社会人（卒業生）へのインタビューの企画・運営・報告を通して学んだこと「～なんのために学び、なんのためにその職業を目指すのか～」についてまとめ、発表する。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	40	①学びを振り返り、自己課題の分析や、それを踏まえたPDCAを構築しようとする態度で「振り返り」を行っている。②チーム活動に主体的・協働的に取り組んだかという視点をもち「振り返り」を行っている。	プレゼンテーション	30	①課題に即した内容になっている。 ②指定された時間を守っている。 ③スライドの内容がわかりやすくまとめられている。 ④質問に対して、的確に答えている。
最終レポート	30	①課題に即した内容になっている。 ②指定された分量で記載されている。 ③学びや気づきが具体的に記載されており、振り返りができている。 ④わかりやすい文書になっている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・2年次前期までに経験したチーム活動からの課題（自らの強みと弱み）について、具体的にまとめておく。【30分】 ・職業調べ【60分】 ・プレゼンテーションの準備を進める。【60分】	必要に応じて都度フィードバックする。

受講生に望むこと	・前期科目「キャリアデザインⅢ」での学びの成果を今後の活動に活かしてほしい。また、前期に引き続いて社会の一端を担うものとしての自覚をもち続け、日頃から報告・連絡・相談をその場に応じて臨機応変にできるように期待する。 ・チームでの活動においては、各学生が積極的かつ主体的に活動することを希望する。また、チームのメンバーと協働しながら取り組んでほしい。	教科書・テキスト	随時資料を配布する
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	・外部講師や社会人（卒業生）の都合により、日程の変更がある可能性がある。 ・社会人（卒業生）へのインタビューは通常時限ではなく、土曜日開講を予定する。日程は事前にお知らせする。

実務経験を活かした授業の概要

谷：保育施設での勤務経験、子育て支援、学童支援の経験をもとに、保育・教育現場の現状や課題、やりがいなどについて具体例を示しながら，授業を行う。

授業科目名	キャリアデザインV			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	谷　昌代・中島　賢介　（代表教員　谷　昌代）						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、学部の基幹科目に位置付けられている。保育・教育、行政機関及び一般企業への就職活動の取り組みにあたり、これまでの自分の学びを整理し、自分の特性を正確に把握することが求められる。そのためには、体験活動に対して自己課題をもって臨み、その成果を分析する必要がある。具体的には、地方自治体との連携事業や本学の地域貢献活動、インターンシップの意義や目的、手段、望まれる態度などを十分に把握し設定した上でこれらの活動に参加する。	①自己分析より長所を伸ばすための体験学習に取り組む。 ②インターンシップの意義や目的、手段、望まれる態度を理解している。 ③体験学習やインターンシップなどから得た学びを自分の言葉で表現できる。

教授方法	講義、インターンシップなどの体験学習、学習者による口頭発表
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	これまでの学びを整理する。これからの授業計画を理解する。	
2	就職活動に関する準備：就活スケジュールの立案、就活サイトへの登録	
3	就職活動に関する書類作成①：履歴書の作成、採用試験模擬問題	
4	就職活動に関する書類作成②：履歴書の添削指導、採用試験模擬問題	
5	就職活動に関する書類作成③：履歴書の添削指導、採用試験模擬問題	
6	インターンシップ説明会	
7	インターンシップへの参加（1回目）	
8	インターンシップへの参加（2回目）	
9	インターンシップへの参加（3回目）	
10	インターンシップへの参加（4回目）	
11	インターンシップへの参加（5回目）	
12	インターンシップへの参加（6回目）	
13	インターンシップへの参加（7回目）	
14	インターンシップの振り返り	
15	授業のまとめ：就職活動の準備を体験して	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	20	授業に積極的に参加している。	体験学習参加状況	60	①体験学習に自己課題をもって取り組んでいる。 ②体験の記録等が適切に示され、期日までに提出されている。
事後レポート	20	今後の課題を明確に示している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
体験学習の事前事後学習（各60分）	適宜該当学生にフィードバックする。

受講生に望むこと	自己課題を明確にして取り組んでほしい。 学外のインターンシップにおける姿勢、事前事後報告等は各自、責任をもって取り組んでほしい。	教科書・テキスト	北陸学院大学就活navi
指定図書／参考書等	特になし	その他・特記事項	インターンシップの情報など、classroom等で配信する。定期的に必要な情報を自身で確実に入手し、計画的に行動するようにしてほしい。

実務経験を活かした授業の概要

谷：保育施設での勤務、子育て支援、学童支援の経験をもとに、保育・教育現場の現状や課題、やりがいなどについて具体例を示していく。学生自身が職業選択に向けて自己理解、適性を考える契機として様々な機会(就職相談会・イベント等）に参加していく。

授業科目名	キャリアデザインⅥ（教育学部）			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	谷　昌代・中島　賢介　（代表教員　谷　昌代）						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、学部のキャリア教育科目に位置付けられている。この授業はキャリア教育科目の集大成として、実際の就職活動の流れと並行し、より現実的な就活スキルについて実践的な学びを深める。具体的には、自己分析や自己表現能力について演習やディスカッションを通して理解を深める。また、インターンシップの体験を通して、自分のキャリア形成についての課題を明確にする。到達目標としては、自分の人柄や意欲などを相手に伝わりやすい表現で対応することができることとする。	①自己分析から長所を伸ばすための体験学習に取り組む。 ②インターンシップの意義や目的、手段、望まれる態度を理解している。 ③就職活動やインターンシップなどから得た学びを自分の言葉で表現できる。 ④自分の人柄や意欲などを相手に伝わりやすい表現で対応することができる。

教授方法	講義、インターンシップなどの体験学習、学習者による口頭発表
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要説明、教育学部におけるインターンシップとは何か	
2	学部別ガイダンス、必須項目と選択項目の説明とスケジュール立案	
3	インターンシップへの参加	
4	インターンシップへの参加	
5	インターンシップへの参加	
6	インターンシップへの参加	
7	インターンシップへの参加	
8	インターンシップへの参加	
9	インターンシップへの参加	
10	インターンシップへの参加	
11	インターンシップへの参加	
12	インターンシップの振り返り	
13	報告会の準備	
14	報告会の準備	
15	報告会	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	20	授業に積極的に参加している。	体験学習参加状況	60	①体験学習に主体的に参加している。 ②体験の記録等が適切に示され、提出されている。
報告会	20	報告会に参加し、今後の展望を明確にする。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
参加する体験等のスケジュール、企画等の立案（60分） 報告会準備資料作成（60分）	適宜該当学生にフィードバックする。

受講生に望むこと	大学におけるキャリアデザインの最終科目であることを自覚し、積極的にインターンシップに臨んでほしい。	教科書・テキスト	北陸学院大学就活navi
指定図書／参考書等	特になし	その他・特記事項	インターンシップの情報など、classroom等で配信する。定期的に必要な情報を自身で確実に入手し、計画的に行動するようにしてほしい。

実務経験を活かした授業の概要

谷：保育施設での勤務経験、子育て支援、学童支援の経験をもとに、保育・教育現場の現状や課題、やりがいなどについて具体例を示していく。学生自身が職業選択に向けて自己理解をしていけるよう、様々な機会を提供していく。

授業科目名	プロゼミA（教育学部）			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	松本　理沙・宮浦　国江・齊藤　英俊・永山　亮一　（代表教員　松本　理沙）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
プロゼミは、3年次より始まる専門ゼミの前段階として位置づけられる。前期プロゼミAでは、基礎ゼミで培った文献講読やレポート作成、ディスカッションの経験を生かして調査研究を進め、それらを深めていく。その中で、諸々のアカデミック・スキルを磨き、より専門性に根ざしたアプローチを目指す。	①ゼミ運営に積極的に協力し、学びを深めていくことができる。 ②専門ゼミで必要とされる、議論する力、分析する力、文献を読み解く力、自分なりの意見をまとめる力を身につける。

教授方法	各ゼミによる演習
履修条件	「基礎ゼミ」を履修済の者または「基礎ゼミ」履修中の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	前半：（合同）オリエンテーション①ゼミの位置付け ②授業概要 後半：（各ゼミ）発表分担等を設定、自己紹介、ゼミ代表の選出など	全員
2	前1/3:（各ゼミ）プロゼミで研究したい内容の共有 後2/3:（合同）文献の収集について ※図書館	全員
3	レポート、レジュメの書き方について理解する。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	ゼミ内における発表Ⅰ：各ゼミ内で学生が発表を行う。	各担当教員
12	ゼミ内における発表Ⅱ：各ゼミ内で学生が発表を行う。	各担当教員
13	ゼミ内における発表Ⅲ：各ゼミ内で学生が発表を行う。	各担当教員
14	ゼミ内における発表Ⅳ：各ゼミ内で学生が発表を行う。	全員
15	前半：2年次後期の履修登録等についての説明（合同）　後半：各ゼミのまとめ	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	意欲的に参加30点、概ね参加15点、意欲的でない5点を基準とする。	レジュメの作成と発表	30	①わかりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聴き手が理解しやすい発表となっているか。
レポート	40	要点をおさえて、概要と意見を分けた文になっているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①ゼミ担当者が指定・推薦する文献の講読など［90分］ ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、オリジナルなレポートを準備すること。［60分］	テーマ設定やレポート作成についての質問には適宜対応する。

受講生に望むこと	プロゼミでの学びが3年次からの専門ゼミへとつながっていくので、自ら学ぶ姿勢を持って参加すること。	教科書・テキスト	ゼミ担当教員の指示に従う。
指定図書／参考書等	ゼミ担当教員の指示に従う。／ゼミ担当教員の指示に従う。	その他・特記事項	不明な点はゼミ担当教員に問い合わせること。 課題はClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	プロゼミB（教育学部）			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	宮浦　国江・谷　昌代・松本　理沙・永山　亮一　（代表教員　宮浦　国江）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
プロゼミAに引き続き、自己課題を明確に持ち、自分の興味関心のある分野に関する調査研究を進めていく。その中で、ディスカッションを通して専門ゼミで深めたいテーマに関する問いの質を高め、アプローチの仕方を絞りこめるよう、専門性を追究していく。	①ゼミ運営に協力的にかかわることができる。 ②専門ゼミで必要とされる、課題を設定する力、討論する力、分析する力、文脈を読み解く力、自分なりの意見をまとめる力が身につく。

教授方法	各ゼミごとによる演習
履修条件	「プロゼミA」を履修した者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	前半：（合同）オリエンテーション①ゼミの位置付け ②授業概要 後半：（各ゼミ）発表分担等を設定、自己紹介、ゼミ代表の選出など	全員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	オータム・セミナーの事前準備を行う。	全員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	来年度所属を希望する専門ゼミの担当教員を訪問し、専門ゼミ選択に見通しをもつことができるようにする。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	ゼミ内における発表Ⅰ	各担当教員
13	ゼミ内における発表Ⅱ	各担当教員
14	ゼミ内における発表Ⅲ	各担当教員
15	3年次の履修登録、専門ゼミ・卒業研究発表会参加および専門ゼミ選択について理解し、学科の仲間と共に履修計画を立てる。（合同）	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	①研究テーマに熱心に取り組んでいる。 ②ディスカッション等では、人の意見を聞きつつ、自分の意見をしっかりと述べることができる。	レポート	40	①文章構成が適切か。 ②事実と自分の考えをと区別して書いているか。 ③意見の根拠が明示されているか。 ④分かりやすい文章であるか。
レジュメの作成と発表	30	①分かりやすくポイントをまとめた資料を作成している。 ②時間内で聞き手に分かりやすく発表している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①学内外の講座・セミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の講読など。［60分］ ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、オリジナルなレポートの準備をする。［60分］	テーマ設定やレポート作成等についての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	ゼミ内で各自の研究計画に関する情報交換を積極的に行い、視野を広めつつ自分が興味関心をもつ分野についての専門性を深めて、3年次から始まる専門ゼミに臨む。	教科書・テキスト	各ゼミごとに教員の指示に従うこと。
指定図書／参考書等	各ゼミごとに教員の指示に従うこと。／各ゼミごとに教員の指示に従うこと。	その他・特記事項	ゼミ単位で指導を行うので、不明な点は自分の所属するゼミ教員に問い合わせること。 課題はClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	専門ゼミⅠ			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一・谷　昌代・ポーター　倫子・松本　理沙・宮浦　国江・石上　佐知子・齊藤　英俊　（代表教員　永山　亮一）						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
基礎ゼミ・プロゼミでの学修及び研究方法を土台として、各自が関心をもつ研究テーマをより深く考察するために、選択したゼミ担当教員のもとで学修及び研究を進める。 具体的には、各ゼミで示されるゼミプランに従い、専門分野に関する文献講読、ディスカッションを中心に理解に努める。 その後、ゼミ担当教員のもとで、各自の研究テーマに沿って文献・資料調査、データの収集等を行い、ゼミレポート（8000字程度：該当年度の１月下旬締切）の完成を目指す。	①ゼミプランに従って専門分野に関する多くの文献に触れている。 ②各自が設定した研究テーマに沿って文献・資料検索、データ収集等を行うことができる。 ③ゼミレポートの作成を通して、研究テーマをより深く理解し、文章化することができる。 ④グループディスカッションを通して、教員やゼミ内の学生の考えも理解しながら自分の知見を広げる。

教授方法	ゼミごとに担当教員の指示のもと演習形式で行う。
履修条件	基礎ゼミⅠ・Ⅱ、プロゼミA・Bを履修し、単位を修得していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	専門ゼミⅠの概要や到達目標の説明を聴く。 各ゼミ内での自己紹介、ゼミの進め方、ゼミプラン等の説明を聴き見通しを持つ。	各担当教員
2	個別の関心テーマについてディスカッションする。	各担当教員
3	第2回でディスカッションしたことをもとに関心事を絞り、調べ活動に入る。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
12	これまでの研究進捗をゼミ内でディスカッションする。	各担当教員
13	前期期間内にどこまで研究を進めるか、担当教員とディスカッションする。	各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指示に従う。	各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。後期における研究へ進め方を確認する。	各担当教員
16	前期の後半においてゼミで確認したことをもとに、専門ゼミⅠレポート作成の見通しを持つ。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指示に従う。	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
27	これまでの進捗をゼミ内でディスカッションする。	各担当教員
28	今後の進め方についてゼミ教員とディスカッションする。	各担当教員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	専門ゼミⅠレポート内容を最終確認し、印刷する。（各ゼミ担当教員にレポートを提出する。）	各担当教員
30	専門ゼミⅠの活動総括を行う。	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業 参加態度	50	①ディスカッションへ積極的に参加している。 ②文献等の調査を積極的に行っている。 ③意欲的に研究テーマ等に取り組み学ぼうとしている。	レポート	50	①指定された文字数、書式等が守られている。 ②内容（テーマ設定、論旨の根拠、意見等）が適切に記述されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
積極的に図書館等を利用するなど、専門分野に関する文献を多く読む。［60分］ 詳細は各ゼミの担当教員の指導に従う。	ゼミごとに随時行う。

受講生に望むこと	①「専門ゼミⅠ概要についての資料」と「専門ゼミⅠレポート様式資料」を熟読すること。 ②研究テーマに主体的に取り組んでほしい。 ③Google classroom等を通して専門ゼミⅠに関する情報や資料を配信するので、確認すること。	教科書・テキスト	各ゼミの担当教員の指示に従う。
指定図書／参考書等	各ゼミの担当教員の指示に従う。	その他・特記事項	不明な点は各ゼミの担当教員に問い合わせること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	専門ゼミⅡ（教育学部）			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	谷　昌代・永山　亮一・ポーター　倫子・松本　理沙・宮浦　国江・石上　佐知子・齊藤　英俊　（代表教員　谷　昌代）						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
「基礎ゼミ」・「プロゼミ」・「専門ゼミⅠ」での学修及び研究方法を土台として、各自の関心のある研究テーマをより深く考察するために、選択したゼミ担当教員の指導のもとで学修及び研究を進める。 具体的には、各ゼミで示されるゼミプランに基づき、専門分野に関する文献講読とディスカッションを中心に行い、理解を深める。 その後、ゼミ担当教員の指導のもと、各自の研究テーマに沿って文献・資料調査やデータ収集等を行い、卒業研究・ゼミレポート（該当年度の1月締切）の完成を目指す。	① ゼミプランに基づき、専門分野に関する多くの文献に触れる。 ②各自が設定した研究テーマに沿って、文献・資料検索やデータ収集等を行うことができる。 ③レポートの作成を通して、研究テーマをより深く考察し、文章化できる。 ④グループディスカッションを通して、教員やゼミ内の学生の考えを理解し、多様な視点を取り入れることができる。 ⑤「卒業研究・専門ゼミⅡレポート 発表会」にて研究成果を発表するとともに、他の学生（含他学年）と意見交換できる。

教授方法	ゼミごとに担当教員の指示のもと演習形式で行う。
履修条件	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」、「プロゼミA・B」、「専門ゼミⅠ」を履修し、単位を修得していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	（前半）ゼミプランに基づきオリエンテーションを行い、年間の見通しを持つ。 （後半）３年次の専門ゼミレポート内容を確認しながら4年次の研究テーマを設定し、研究計画を立てる。	各担当教員
2	各自のテーマと研究計画についてゼミ内でディスカッションし、研究テーマの方向性を決める。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
7	これまでの研究進捗をゼミ内でディスカッションする。 調査などを含め、前期中にどこまで研究を進めるかを担当教員とディスカッションし、共有する。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
14	前期までの研究を各自でまとめ（結果の考察、データ処理、文書作成など）、ゼミ内で共有する。	各担当教員
15	前期の進捗状況（中間報告など）を行うとともに、各自が後期への見通しを持つ。	各担当教員
16	前期の最終ゼミで確認したことをもとに、卒業研究・専門ゼミⅡレポート作成への見通しを持つ。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
23	卒業研究・ゼミレポートの進捗状況を共有する。 今後の進め方についてディスカッションを行い、ゼミ内で共有する。	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
28	卒業研究・専門ゼミⅡレポートを仕上げる。印刷して自己チェックを行い、提出に向けてまとめる。 各自の作成した卒業研究・専門ゼミⅡレポートについて、ゼミ内でディスカッションし、共有する。	各担当教員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	「卒業研究・専門ゼミⅡレポート 発表会」に向けた準備（発表順や役割分担）、リハーサルを行う。	各担当教員
30	「卒業研究・専門ゼミⅡレポート 発表会」で発表を行う。	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業 参加態度	50	①ディスカッションへ積極的に参加をしている。 ②文献等の調査を積極的に行っている。 ③意欲的に研究テーマ等に取り組み学ぼうとしている。	卒業研究または専門ゼミⅡレポート	50	①指定された文字数、書式等が守られている。 ②内容（テーマ設定、論旨の根拠、意見等）が適切に記述されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
積極的に図書館等を利用するなど、専門分野に関する文献を多く読む。［60分以上］ 詳細は各ゼミの担当教員の指導に従う。	ゼミごとに随時行う。

受講生に望むこと	①「専門ゼミⅡ・卒業研究概要についての資料」と「専門ゼミⅡ・卒業研究様式資料」を熟読すること。 ②研究テーマに向かって、計画的に、主体的に取り組んでほしい。 ③Google classroom等を通して専門ゼミⅡに関する情報や資料を配信するので、確認すること。	教科書・テキスト	各ゼミの担当教員の指示に従う。
指定図書／参考書等	各ゼミの担当教員の指示に従う。	その他・特記事項	不明な点は各ゼミの担当教員に問い合わせること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	卒業研究（教育学部）			開講学科	教育学部	必修・選択	選択
担当教員名	谷　昌代・永山　亮一・ポーター　倫子・松本　理沙・宮浦　国江・石上　佐知子・齊藤　英俊　（代表教員　谷　昌代）						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
４年間の学びの集大成として、「基礎ゼミ」・「プロゼミ」・「専門ゼミⅠ」での基礎知識・専門知識の学修及び研究方法を土台として、各自の関心のある研究テーマをより深く考察するために、ゼミ担当教員の指導のもとで、学修及び研究を進める。 研究を進める際には、各自の研究テーマに沿って文献・資料調査やデータ収集等を行い、学修内容を論理的・体系的にまとめ、考察する。また、自身の研究を省察し、実社会において科学的・論理的視点から物事を捉えることができるようにする。 研究の手順としては、各ゼミプランと個別の研究計画をもとに遂行し、担当教員による個別指導に加え、ゼミ内ディスカッションを行う。そして、卒業研究としてまとめ、研究の成果を発表する（24,000字以上）。卒業制作を行う場合は、作品の製作とその内容を説明し、補強する副研究を作成して研究の成果を発表する（16,000字以上）。	①各自が設定した研究テーマに沿って、文献・資料検索やデータ収集等を行うことができる。 ②卒業研究や卒業製作（作品と副研究）を通して、設定した研究テーマをより深く考察し、文章化できる。 ③卒業研究を通して、洞察力・分析力・考察力・省察力などを身につける。 ④学修内容を論理的・体系的にまとめ、効果的に発表できる。 ⑤「卒業研究・専門ゼミⅡレポート 発表会」にて研究成果を発表するとともに、他の学生（含他学年）と意見交換できる。

教授方法	ゼミごとに担当教員の指導のもと各自の研究課題をまとめる。
履修条件	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」、「プロゼミA・B」、「専門ゼミⅠ」を履修し、単位を修得していること。３年次終了時点で累積GPA2.5以上を確保していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	（前半）ゼミプランに基づきオリエンテーションを行い、年間の見通しを持つ。 （後半）３年次の専門ゼミレポート内容を確認しながら4年次の研究テーマを設定し、研究計画を立てる。	各担当教員
2	各自のテーマと研究計画についてゼミ内で共有し、互いの研究方法についてディスカッションする。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
7	これまでの研究進捗をゼミ内でディスカッションする。 調査などを含め、前期中にどこまで研究を進めるかを担当教員とディスカッションし、共有する。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
14	前期までの研究を各自でまとめ（結果の考察、データ処理、文書作成など）、ゼミ内で共有する。	各担当教員
15	前期の進捗状況（中間報告など）を行うとともに、各自が後期への見通しを持つ。	各担当教員
16	前期の最終ゼミで確認したことをもとに、卒業研究作成への見通しを持つ。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
23	卒業研究の進捗状況を共有する。 今後の進め方についてディスカッションを行い、ゼミ内で共有する。	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
27	指定された書式に従って、卒業研究要旨の作成を行う。	各担当教員
28	卒業研究を仕上げる。印刷して自己チェックを行い、提出に向けてまとめる。 各自の作成した卒業研究について、ゼミ内でディスカッションし、共有する。	各担当教員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	「卒業研究・専門ゼミⅡレポート 発表会」に向けた準備（発表順や役割分担）、リハーサルを行う。	各担当教員
30	「卒業研究・専門ゼミⅡレポート 発表会」で発表を行う。	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業 参加態度	10	担当教員の指示に従い、ゼミ内における役割を意識している。	卒業研究の作成	70	①指定された文字数、書式等が守られている。 ②定められた期日を守って提出している。 ③内容（テーマ設定、論旨の根拠、意見等）が適切に記述されている。
卒業研究の発表	20	「卒業研究・専門ゼミⅡレポート 発表会」において、研究の内容を効果的に発表している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
研究テーマに沿って、綿密な研究計画を立てた上で、調査研究・文献研究を行い、テーマをより深く理解するように努めること。	ゼミごとに随時行う。

受講生に望むこと	・4年間の学びの集大成であるため、主体的に取り組み、納得のいく卒業研究を作成すること。 ・卒業研究に取り組む者として、研究上のルール（アンケートの取り方、出典の明示、引用の仕方等）を守ること。 ・担当教員の指導助言に真摯に耳を傾け、学ぶ姿勢で取り組むこと。 ・「卒業研究概要についての資料」と「卒業研究報告書様式資料」を熟読すること。 ・Google classroom等を通して卒業研究に関する情報や資料を配信するので、確認すること。	**教科書・テキスト**	各ゼミの担当教員の指示に従う。
指定図書／参考書等	各ゼミの担当教員の指示に従う。	**その他・特記事項**	・「専門ゼミⅡ」とともに「卒業研究」を履修した場合は、卒業研究の作成により、専門ゼミⅡレポートの作成は不要とする。 ・不明な点は各ゼミの担当教員に問い合わせること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教職論			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	中島　賢介						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭及び栄養教諭の免許状取得に関わる科目で、教師という仕事の概観をつかみ、自らの適性を問う。教職の意義及び教員の今日的役割、それを実現するための職務内容の実際を知り、教職に対する適性について考え、教師としての意義を自覚を形成する。子どもとしての体験から形成されている教職観、あるいはメディアを通じて形成されている一般的教職観がそれぞれの内にあるだろう。本科目では、それぞれのもつ教職観を、社会が求める今日的教職観へと変容させることが目指される。教師に求められる資質能力、社会性・人間性、指導力、職務内容、家庭や地域との連携のあり方、学校間連携によって一人一人の学びと育ちをつなぐことなどについて考える。	1 幼・小・中・高・栄の校種を超えて教職の意義と専門性いついて理解する。 2 教員の職務と服務について理解する。 3 教師をめぐる現状と課題について知る。 4 教師の求められる資質能力について理解し、自らの進路として教職を選択することの可否を考える。

教授方法	講義とワークを組み合わせた方法を採用する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	これからの時代を生きる子どもにとっての教師のあり方についてについて理解する。	
2	子どもの主体的で多様な学びを生み出すための教職者としてあるべき姿について考える。	
3	教育の専門職としての社会的意義、資格・要件、役割・職務内容、専門性等について理解する。	
4	教員としての職務の全体像、校務分掌上の職務の全容と各人が分担する分掌を理解する	
5	現代の教育に求められる「資質・能力」とは何かについて幼小接続の観点から理解する。	
6	幼児教育から学校教育へ：幼児教育がなぜ教育の原点であると言われるのか、その理由について考える。	
7	研修の必要性と教員研修制度　研修の意義や重要性等を法規定を通して理解する。	
8	教員の義務と身分保障　服務上の義務と身分上の義務、待遇等を法規定を通して理解する。	
9	チーム学校の組織と指導体制　共通理解の下で対応する事例と、その指導体制を理解する。	
10	公教育の理念と学習指導要領　公教育の理念等を、学習指導要領の記載を通して理解する。	
11	教育制度関係法規の理解　教育法規の記載を通して、我が国の教育制度を理解する。	
12	我が国の教育制度と課題　現代教育制度が抱える課題を知り、その改善方針を理解する。	
13	地域連携と特色ある学校づくり　地域連携の重要性を知り、必要な手法を理解する。	
14	学校の危機管理と安全教育　安全管理の重要性と、必要な具体的取り組みを理解する。	
15	これまでの学びを踏まえて、改めて教師の使命について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度・授業参加状況	50	将来教職に就こうとする者としてふさわしい姿勢で授業に臨んでいる。	課題レポート	50	授業における気付き・発見・学びや討議のまとめと考察（授業内のワーク、自分に対する省察を含む）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各授業回での理解に必要な用語・法令等についての事前調べや事後確認をミニレポートにまとめる。［30分から60分］ ②園行事や学校公開週間など、保育者・教育者の姿を見ることができる機会を逃さない。［適宜］	当日提出、あるいは授業外課題としてのミニレポートに記される履修者の興味・関心・疑問を次回の授業に反映させる。

受講生に望むこと	取得を希望する資格・免許に対応する年齢の子どもだけでなく、乳児から青年までの幅広い年齢層の生活と環境に興味を持つこと。夏休みや春休みの現場体験（幼稚園・放課後等児童クラブその他）を経験していることが望ましい。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814475 『教職論　（ミネルヴァ教職専門シリーズ３）』津田徹・広岡義之　ミネルヴァ書房　2021年 ISBN：9784623089567
指定図書／参考書等	なし／『小学校学習指導要領解説　総則編』『中学校学習指導要領解説　総則編』『高等学校学習指導要領解説　総則編』	その他・特記事項	毎回PCを持参すること。

実務経験を活かした授業の概要

高等学校教諭における教科指導、生徒指導、進路指導に関する経験から教職としての仕事全般を、小学校校長の経験から学校経営全般について、特に安全指導や地域との連携、幼保小中連携接続、教職のキャリア形成などを解説する。

授業科目名	スピーチ&ドラマ			開講学科	教育学部	必修・選択	学科による
担当教員名	アンソニー　ダガン						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、人前で英語を話せるようになるためのスキルを学ぶ。テキストのToday's Menu, Warm-Up, Presentation Skills, Language focus, Practice Activitiesのタスクをしながら、各Unitの終わりのProjectで少しずつ人前での発表に備えていき、第8回、第14・15回にはクラスの前でのパワーポイントを使用した発表を行う。このように実際に使いながら確かな英語力を育てていく。	・人前で自分の考えや調べたことを英語でもはっきりと伝えようとする。 ・相手に伝えるための英語表現だけでなく、視線、ジェスチャなどノンバーバルな要素にも気を配ることができる。 ・課題のスピーチやミニドラマなどを個人で、またクラスメートと協力して準備し、発表をする。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラス・イントロダクション(概要、授業の進め方、クラスルール、自己紹介など)	
2	Unit 1: Getting Started さまざまな活動の後、自己紹介をする	
3	Unit 2: Voice　活動を通して、聞き手に伝わりやすい声の出し方を学ぶ	
4	Unit 3: Gestures 活動を通して、ジェスチャーの効果的な使い方を学ぶ	
5	Unit 4: Q & A Skills 人前で話した後の質疑応答について学ぶ	
6	Unit 5: Visualsと並行して、有名なスピーチなどを視聴し、感想を述べ合う	
7	Unit 6: Rehearsalこれまで学んだことを振り返りながら、スピーチの練習をする	
8	Unit 7: On Stage スピーチと相互評価	
9	Extra Skill Unit 1: Group Brainstorming ミニドラマ発表に向けてグループ活動 内容について	
10	Extra Skill Unit 2: Group Outline, Phrases ミニドラマ発表に向けてグループ活動 流れ、表現など	
11	Extra Skill Unit 3: Group Script　ミニドラマ発表に向けてグループ活動 内容の確定	
12	Extra Skill Unit 4: Group Practice ミニドラマ発表に向けてグループ活動 練習	
13	Extra Skill Unit 5: Group Rehearsal ミニドラマ発表に向けてグループ活動 リハーサル	
14	Group Mini-Drama　グループ・ミニドラマ発表	
15	Group Mini-Drama　グループ・ミニドラマ発表予備日、振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	・毎回の授業に予習して臨んでいるか ・授業のさまざまな活動に積極的に取り組んでいるか	グループ・ミニドラマ	40	・グループで協力してミニドラマを準備、練習、発表したか ・ミニドラマの内容・発表・相互評価
スピーチ	30	・スピーチに向けての準備、練習に自主的に取り組んだか ・スピーチの内容・発表・相互評価			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・次回授業に向けて予習、発言準備など[40分] ・スピーチに向けての準備、原稿、発音練習など[60分] ・グループでのミニドラマに向けての準備、原稿、練習など[70分]	随時

受講生に望むこと	・毎回、次回のための課題が出るので準備して授業の臨む。 ・恥ずかしがらずに、元気に取り組み、大きな声ではっきりと英語を話そう。	教科書・テキスト	Tomoko Sugihashi, Mark Christianson & Kota Ohata. Effective Presentation Skills for Beginners. 2015年.朝日出版社. ISBN: 9784255155661 他に必要な教材は適宜配布
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	スピーチ、ミニドラマの形態や内容については教員の指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	エクステンシブ・リーディング			開講学科	教育学部	必修・選択	選択
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は平易な英語で書かれた文章や物語を読み速読読解力を習得する。教科書各単元のテーマ及び内容の背景知識に関心をもち、さらに多読用図書から自分の関心や英語力に応じて自身で選択した本の読解感想記録をつけていく。	①英文を速読読解で話しの内容を理解することに慣れていく。 ②多読用図書から自分の関心や英語力に合わせて読む本を選択できるようになる。 ③読んだ本についてタイトル・レベル・ページ数・評価・感想を記録し目標累計ページ数を達成する。 ④読書感想を英語で紹介する。

教授方法	教科書各単元を学習、読書記録の確認、読書感想の発表を取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：教科書、授業概要、ねらい、進め方、成績評価について説明する。(多読リーディングについて知る)	
2	Unit 1 The Dog Walker (209 words ： 各単元の読解速度WPMを記録する) Unit 2 An Interview with a Paramedic (218 words: 救急救命士の仕事について内容を予測しながら読む)	
3	Unit 3 The Video Game Tester – not all Fun and Games (251 words: ゲームテスターという仕事の大変さについて読み取る) Unit 4 The Trainee Chef (221 words: 見習いシェフについて内容を読み取る)	
4	多読記録：多読記録シート提出のためのまとめ　小テスト① Reading：応用編① 教科書以外の読み物で速読読解を行う。	
5	多読記録：多読記録シート提出① Unit 5 Working on an Oil　Platform (227 words: 石油採掘に従事する仕事について読み取る)	
6	Unit 6 The Hippopotamus-Dangerous on Land and in the Water (209 words: 動物の生態について読み取る) Unit 7 Amazing Travelers-Animal Migration (277 words: アフリカで見られる動物大移動について読み取る)	
7	Unit 8 The Animal of the Camargue (219 words: 南フランスに生息する動物について読み取る) Unit 9 Just a Piece of Seaweed ? – The Leafy Sea Dragon (215 words: 絶滅危惧種の生き物と環境問題について読み取る)	
8	多読記録：多読記録シート提出のためのまとめ　小テスト② Reading：応用編② 教科書以外の読み物で速読読解を行う。	
9	多読記録：多読記録シート提出② Unit 10 Racing Across Snow and Ice　(257 words: アラスカで毎年行われる過酷な犬ぞりレースについて読み取る)	
10	Unit 11 Learning a Musical Instrument (221 words ： 楽器演奏とその効果について読み取る) Unit 12 How to Make a Glass Orchestra (160 words: グラスで曲を奏でる楽しさについて読み取る)	
11	Unit 13 Rock School (227 words: ロックを学べる学校について読み取る) Unit 14 An Ancient Musical Instrument (213 words: 古代の楽器について読み取る)	
12	多読記録：多読記録シート提出のためのまとめ　小テスト③ Reading：応用編③ 教科書以外の読み物で速読読解を行う。	
13	多読記録：多読記録シート提出③ 読書感想発表：多読記録を参考に関心をもった本、お薦めしたい本とその理由、心に残った英語表現を紹介する。	
14	読書感想発表コメント：フィードバックを行う。	
15	総まとめ：Unit 1～Unit 14 WPM記録シートレビュー（読解速読時間の自己評価を行う）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	毎回の授業に予習して臨み授業中積極的に取組む姿勢を評価する。	小テスト	20	教科書学習内容確認小テストを行う。
多読図書及び読書記録	30	選択図書の読解と読書記録及び目標累計数達成を確認する。	発表	20	選択図書の中で特に関心を持った本の内容及び英語表現及び読書感想の発表を行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書各単元の学習内容（語い）の予習及び指定された項目について事前に調べておくこと。(20分) ②多読図書を選択し読書記録をつける。(20分) ③発表準備を行う。(30分)	①多読図書及び読書記録は、読書記録シートに適宜記録し指定提出日に提出する。 ②小テストは、実施後回収採点した上でコメントし返却する。 ③発表は、指定日に実施後クラスコメントを提示する。

受講生に望むこと	①適切なレベルの本を選択し読み進める。 ②図書館の多読用図書を借りる際丁寧に扱い、貸出・返却ルールを守ること。	教科書・テキスト	『Break Away 1 最新速読演習-基礎編-』Gillian Flaherty他著 成美堂 2017年 ISBN 978-4-7919-6021-7
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	プレゼンテーション			開講学科	教育学部	必修・選択	学科による
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目はアカデミック、ビジネスなどの分野で必要とされるプレゼンテーションの基本を学ぶ。(1)プレゼンテーションの定義、構造、必要なスキル(2)情報型4つのタイプと説得提案型4つのタイプ別プレゼンテーションを具体例（サンプル・プレゼンテーション）と共に学習する。さらに学んだことを活かしながら実際にテーマを考えプレゼンテーションを行い相互評価することで客観的視点を養う。	①効果的なプレゼンテーションとその基本構造を理解する。 ②テーマや目的に沿ってより効果的なプレゼンテーションのタイプを選択することができるようになる。 ③ 自分の考えやリサーチした内容を英語で聴衆に伝えられるようになる。 ④ライティング・スピーキング・表現力を高めることができるようになる。

教授方法	教科書各単元を学習の上スピーチ及びプレゼンテーションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：教科書、授業概要、ねらい、進め方、成績評価について説明する。 Part Ⅰ: Basic Knowledge for Presentation（Unit 1～Unit 4 概要を紹介する）	
2	Unit 1 Presentation Structure：プレゼンテーションの基本構造を学ぶ。（プレゼンテーションとは何かを考える）	
3	Unit 2 Presentation Skills：話の展開を明確にするポイントを学ぶ。（Non Verbal Communicationについて知る） Unit 3 Prepare for Your Presentation：情報収集と情報倫理について知る。（参考文献リストのスタイルを知る）	
4	Unit 4 How to Arrange a Presentation Setting：視覚情報の提示について確認する。（プレゼンテーションのタイプと備品について考える） 発表①スピーチ事前準備を行う。	
5	Part Ⅰ：発表①スピーチを実施する。（スピーチの構造を鑑みショートスピーチを試みる）	
6	発表①スピーチ：フィードバックを行う。小テスト① Part Ⅱ: Informative Presentations（Unit 5～Unit 8 概要を紹介する）	
7	Unit 5 Listing：列挙型プレゼンテーションについて学ぶ。（テーマに該当する事柄を順序立てて説明する） Unit 6 Classification：分類型プレゼンテーションについて学ぶ。（共通点を整理し分かりやすく提示する）	
8	Unit 7 Process：プロセス型プレゼンテーションについて学ぶ。（手順に沿って説明する ） Unit 8 Investigation：調査型プレゼンテーションについて学ぶ。（調査研究の成果をわかりやすく伝える） 発表②プレゼンテーション事前準備を行う。	
9	Part Ⅱ：発表②プレゼンテーションを実施する。（報告型プレゼンテーションの実施）	
10	発表②報告型プレゼンテーション：フィードバックを行う。小テスト② Part Ⅲ：Persuasive Presentations (Unit 10～Unit 13　概要を紹介する）	
11	Unit 10 Persuasion：説得型プレゼンテーションについて学ぶ。（企画案や提案をわかりやすく伝える） Unit 11 Problem and Solution：問題解決型プレゼンテーションについて学ぶ。（問題に対する解決策を論理的に説明する）	
12	Unit 12　Cause and Effect：原因・結果型プレゼンテーションについて学ぶ。（物事の因果関係を説明する ） Unit 13　Comparison and Contrast：比較対照型プレゼンテーションについて学ぶ。(類似する物事の共通点と相違点及び利点と欠点を述べる） 発表③プレゼンテーション事前準備を行う。	
13	Part Ⅲ：発表③プレゼンテーションを実施する。（説得・提案型プレゼンテーションの実施）	
14	発表③ 説得・提案型プレゼンテーション：フィードバックを行う。小テスト③	
15	総まとめ：プレゼンテーション実践レビューを行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	毎回の授業に予習と準備して臨み授業中積極的に取組む姿勢を評価する。	小テスト3回	30	教科書学習内容確認小テストを行う。
プレゼンテーション	30	プレゼンテーションの基本・構成を習得した上で発表内容と準備を整え、聴衆に伝えるプレゼンテーションを行う。	相互評価	10	聴き手としてクラスメンバーのプレゼンテーションを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
① 教科書各単元の学習内容に目を通しておくこと。指定された項目について事前にリサーチをしておくこと(20分) ②プレゼンテーション課題のリサーチ、資料収集、英文原稿作成、ビジュアルエイド作成(90分)	①小テスト実施後回収採点した上でコメントし返却する。 ②プレゼンテーション実施後口頭でコメントし相互評価をまとめた上で提示する。

受講生に望むこと	① 授業を通してプレゼンテーションの基本を学習する。 ②発表までの作業過程を一つずつ積み重ねていき、自信をもち発表できる力をつけていくよう心がける。 ③教科書提示Web動画及び音声をストリーミング再生可能であるので積	教科書・テキスト	『Winning Presentation 8 Types of Successful Presentation』Akira Morita他著 成美堂 2018年 ISBN 978-4-7919-3424-9
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	ビジネス・イングリッシュA			開講学科	教育学部	必修・選択	選択
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は前期教科書前半 Getting Started...及びSearch & Explain より、電話応対、ビジネスレター、e-mail文、受付、製品仕様などビジネスの場で用いられる英語表現を学ぶ。情報社会における発信力を養っていくために英語で伝えることを意識すると共に発話力をつけていく。適宜TOEIC L&R対策練習を実施する。	①ビジネスの場で必要なコミュニケーション力をつける。 ②ビジネスの現場を想定し基礎的な対応力を習得する。 ③英語でプレゼンテーションを行うコツをつかむ。

教授方法	教科書各単元を学習の上、ロールプレイ及びプレゼンテーションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：教科書、授業概要、ねらい、進め方、成績評価について説明する。(多岐にわたるビジネス英語について理解する)	
2	Chapter 1 Telephone 1：電話を受ける、取次、不在対応についての表現を学ぶ。(英日大きな桁の数字の聞き取り練習をする)	
3	Chapter 2 Business Email：Eメール文の定型表現、定型フォーマットについて学ぶ。(簡単なemail文を書く)	
4	Chapter 3 Telephone 2：電話でのメッセージを正確に聞き取る練習を行う。(聞き取り確認のためのスペリングを練習する)	
5	Chapter 4 Business Letter：ビジネスレター文の定型表現、定型フォーマットについて学ぶ。(レター文書を書く)	
6	Chapter 5 At the Reception Desk：社内受付での応対についての表現を学ぶ。(場面想定練習をする) 小テスト①：Chapter1～Chapter4の復習	
7	Chapter 6 Corporate Website：企業の顔であるウエッブサイトの情報分類について知る。(R&Dなど分類例を確認する) 発表①：発表事前準備を行う。	
8	発表①：場面を設定しロールプレイを行う。	
9	Chapter 7 Company Profile：企業概要についての英語表現を学ぶ。(発話練習を行う)	
10	Chapter 8 Product Advertisements：企業の広告文キャッチコピーを読む。(キャッチコピーをリサーチし比較表現を用いて製品を紹介する)	
11	Chapter 9 Your Job：自分が関わる業務内容を英語で説明する。(英語版名刺を作成し初対面の挨拶を練習する) 小テスト②：Chapter 5～Chapter 8の復習	
12	Chapter 10 Product Specification：製品の仕様書についての表現を学ぶ。(頭文字、略語、単位の表し方を確認する) Chapter 11 Business Plan：企業の組織、事業計画、企業戦略についての語いを学ぶ。(音の連続に留意しながら聞き取る)	
13	Chapter 12 Operating Instruction：機器の操作方法についての英語表現を学ぶ。(ビジネス英語のまとめを行う) 発表②：発表事前準備を行う。 小テスト③：Chapter 9～Chapter12の復習	
14	発表②：プレゼンテーション（自社製品の販売促進や企画開発など場面を設定し発表を行う）	
15	総まとめ：プレゼンテーションのリフレクションを行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	毎回の授業に予習して臨み授業中積極的に取り組む姿勢を評価する。	小テスト3回	20	教科書学習内容確認小テストを行う。
課題	30	毎回の授業予習指定項目の確認を行う。	発表	20	英語で発信する運用力がついているか評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書の授業単元の学習内容の予習及び指定された項目について事前に調べておくこと。(20分) ②聞き取り力を強化するために教科書音声ファイルを利用し学習すること。(20分) ③発表準備を行う。(30分)	①課題は、授業内で口頭でコメントする。 ②小テストは、実施後回収採点した上でコメントし返却する。 ③発表は、指定日に実施後クラスコメントを提示する。

受講生に望むこと	①ビジネスに関する知識や情報を得られる機会は多い。積極的にクラス内外でより多くの情報を得るように心がける。 ②日英いずれの言語でも論理的に自分の考えを述べることができるように学習する。 ③自身で目標を設定し自己研鑽を積むこと。	教科書・テキスト	『Getting Global! Engineer Your Future with English 将来のキャリアに活かす大学生のためのコミュニケーション英語』辻本智子他著 金星堂 2017年 ISBN 978-4-7647-4007-5
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	ビジネス・イングリッシュB			開講学科	教育学部	必修・選択	選択
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は後期教科書後半 Read & Explore 及び Research & Presentationより時事英語、英字新聞、標識、歓談、論文アブストラクト、会議などの多岐にわたるビジネス英語に関する事柄を学び、ビジネス分野の英語力を強化していく。適宜TOEIC L&R対策練習を実施する。	①ビジネスの場で必要なコミュニケーション力をつける。 ②ビジネスの現場を想定し基礎的な対応力を習得する。 ③英語でプレゼンテーションを行うコツと発話力をつける。

教授方法	教科書各単元を学習の上、ロールプレイ及びプレゼンテーションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：教科書、授業概要、ねらい、進め方、成績評価について説明する。(多岐にわたるビジネス英語について理解する)	
2	Chapter 13 Talking about the News：時事的な話題をとりあげる。(意見を述べる際同意や反対を表する話し方を学ぶ)	
3	Chapter 14 Science News：英字新聞の記事の構成を知り英文の話法や表現の特徴を読みとる。(英字新聞の記事を読む)	
4	Chapter 15 Tourist Information：クライアントを観光地へ同行案内する場面を練習する。(案内したい観光地と行程を作成する)	
5	Chapter 16 Safety Signs：英語標識についての表現を学ぶ。(英語標識事例による表現を知る) 小テスト①：Chapter13～Chapter16の復習	
6	Chapter 17 Dinner Talk：レストランでの会食とメニューの選択についての語いを学ぶ。(和食メニューを英語で紹介する) 発表①：発表事前準備を行う。	
7	発表①：場面を設定しロールプレイを行う。	
8	Chapter 18 Abstracts：英語論文抄録について学ぶ。(アブストラクトについて知る)	
9	Chapter 19 Preparation for Meetings：会議を円滑に進める基本的な英語表現を学ぶ。(ゲストスピーカーとの事前打合せについて練習する)	
10	Chapter 20 Data and Graphs：データーやグラフについて知る) 小テスト②：Chapter17～Chapter20の復習	
11	Chapter 21 Presentation 1：プレゼンテーションの際に役立つ表現を学ぶ。(原稿を作成する) Chapter 22 Presentation 2：プレゼンテーションで用いるスライドの説明を練習する。(特許出願の例を参照する)	
12	Chapter 23 Various Requests：依頼に対応する英語表現を学ぶ。(英文発声練習をする) Chapter 24 Patent Description：特許申請の流れを学ぶ。(特許について知る) 発表②：発表事前準備を行う。	
13	発表②：プレゼンテーション(ビジネス分野における場面を設定し発表を行う)	
14	発表②：プレゼンテーションのリフレクションを行う。 小テスト③：Chapter21～Chapter24の復習	
15	総まとめ：後期のまとめを行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	毎回の授業に予習して臨み授業中積極的に取り組む姿勢を評価する。	小テスト3回	20	教科書学習内容確認小テストを行う。
課題	30	毎回の授業予習指定項目の確認を行う。	発表	20	英語で発信する運用力がついているか評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書の授業単元の学習内容の予習及び指定された項目について事前に調べておくこと。(20分) ②聞き取り力を強化するために教科書音声ファイルを利用し学習すること。(20分) ③発表準備を行う。(30分)	①課題は、授業内で口頭でコメントする。 ②小テストは、実施後回収採点した上でコメントし返却する。 ③発表は、指定日に実施後クラスコメントを提示する。

受講生に望むこと	①ビジネスに関する知識や情報を得られる機会は多い。積極的にクラス内外でより多くの情報を得るように心がける。 ②日英いずれの言語でも論理的に自分の考えを述べることができるように学習する。 ③自身で目標を設定し自己研鑽を積むこと。	教科書・テキスト	Getting Global! Engineer Your Future with English 将来のキャリアに活かす大学生のためのコミュニケーション英語』辻本智子他著 金星堂 2017年 ISBN 978-4-7647-4007-5
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	インテンシブ・リーディング			開講学科	教育学部	必修・選択	学科による
担当教員名	セナン　フォックス						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
重要な英文法のポイントを含む英文の解釈に丁寧に取り組み、英文の「分析力」を向上させ、正確な読解力を鍛えることを目的とする。演習に基づいた反復トレーニングを通して、知識を確かなものにすることを目指す。	①英文読解に必要な英文法の知識を身に着ける。 ②精読により正確に長文を理解できる。 ③繰り返し学習で知識を定着させる。

教授方法	演習・講義
履修条件	英語力がSTEP２級以上であることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、授業の進め方の説明（解説担当表の作成）	
2	第１章　主語と動詞の把握（１） 第１回講義「名詞」	
3	第１章　主語と動詞の把握（２） 第２回講義「動詞」	
4	第２章　準動詞（１） 第３回講義「形容詞」	
5	第２章　準動詞（２） 第４回講義「副詞」	
6	第３章　関係詞（１） 第５回講義「主語」	
7	第３章　関係詞（２） 第６回講義「動詞と文型」	
8	前半の振り返り、復習テスト	
9	第４章　接続詞（１） 第７回講義「目的語」	
10	第４章　接続詞（２） 第８回講義「補語」	
11	第５章　比較（１） 第９回講義「前置詞　名詞」	
12	第５章　比較（２） 第１０回講義「句と節・句と節の働き」	
13	第６章　その他の重要項目（１） 第１１回講義「助動詞」	
14	第６章　その他の重要項目（２） 第１２回講義「to不定詞」	
15	後半の振り返り、復習テスト	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	意欲的に参加・発言　30点 概ね参加　15点 無関心・意欲がない　5点 を目安に、積極的な姿勢を評価する。	課題	40	予習として教科書の課題に取り組み、答え合わせをして解説を熟読する。解説担当のときは文法のポイントと文の構造の分析について分かりやすく説明する。
復習テスト	30	学習内容に関する復習の小テストを行う。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①予習として、教員が指定する教科書の演習に取り組み、答え合わせをして解説を熟読する。（60分） ②復習として、授業で取り組んだ演習を正確に読解できるまで取り組む。（40分）	課題に取り組んだ際の疑問点について授業中に解説する。

受講生に望むこと	①予習と復習が非常に大切になるので、基礎力強化のため、しっかりと取り組んでほしい。 ②解説担当になったときは、文法のポイントと文の構造の分析について分かりやすく説明してほしい。	教科書・テキスト	『入門英文問題精講』（４訂版）竹岡広信著　旺文社　2019年　ISBN978-4010345719
指定図書／参考書等	なし／『大学受験のための英文熟考　上』（改訂版）竹岡広信著　旺文社　2023年　ISBN978-4010351253	その他・特記事項	・Classroomを用いて課題等を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	エッセイ・ライティング			開講学科	教育学部	必修・選択	学科による
担当教員名	セナン　フォックス						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
「つなぎ言葉」の習得を通じて、まとまったパラグラフが書けるようになることを目指す。ライフスタイル、コミック、科学技術、自然、スポーツなどの幅広いトピックを扱うモデル文を読みながら、状況に応じたつなぎ言葉の使い方やパラグラフの構成を身に付ける。	①ライティング演習により、効果的に伝わるパラグラフの組み立て方を理解する。 ②４技能を使った練習を通して、正しい英文、つながりのあるパラグラフを書くことができる。 ③さまざまなテーマについて、適切なつなぎ言葉を使った複数のパラグラフで自分の考えを表現することができる。 ④与えられたテーマで、パラグラフを書き、他者からの助言や、自発的な見直しによって、より良いものに仕上げることができる。

教授方法	講義・演習
履修条件	英語力が、STEP準２級以上であることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	Chapter 1　The Midnight Sun Baseball Game：白夜の野球試合 つなぎ言葉：ADDITION	
2	Chapter 2　Comic Heroes for the Modern Times：現代のコミックヒーローズ つなぎ言葉：EXAMPLES	
3	Chapter 3　Permafrost　永久凍土が溶けてゆく つなぎ言葉：CONSEQUENCE	
4	Chapter 4　Indoor Gardening with Hydroponics：インドアガーデニングしませんか つなぎ言葉：SEQUENCE	
5	Chapter 5　The Tiny House Movement：持続可能な暮らし方 つなぎ言葉：SUMMARY	
6	Chapter 6　Pervious Concrete：水はけのよいコンクリート つなぎ言葉：CONTRAST	
7	Chapter 7　Melt in Your Mouth!：アメリカの伝統的なお菓子 つなぎ言葉：EMPHASIS	
8	Chapter 8　The Story of Peaunuts：チャーリー・ブラウンと仲間たち つなぎ言葉：CONCESSION	
9	Chapter 9　The Sport of Horse Dancing-Dressage：馬術というスポーツ つなぎ言葉：GENERALIZING	
10	Chapter 10　The Great American Road Trip：車で旅するアメリカ大発見 つなぎ言葉：LOGICAL RELATIONSHIP	
11	Chapter 11　Writing a Strong Main Character：ソーシャルメディアに投稿する つなぎ言葉：PREPARATION	
12	Chapter 12　Effective Email Writing Standards：効果的なメールを書く つなぎ言葉：DETAILS	
13	Chapter 13　Skills for Job-Hunting：就活に必要なスキルを身につける つなぎ言葉：RESTATEMENT	
14	Chapter 14　How to Prepare for a Speech：人前でうまく話すには つなぎ言葉：SIMILARITY	
15	Chapter 15　Review of Paragraph Writing：パラグラフライティングのおさらいをする つなぎ言葉：EXCEPTION	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	意欲的に参加・発言　20点 概ね参加　15点 無関心・意欲がない　5点 を目安に、積極的な姿勢を評価する。	課題	30	正しい英文を書くための基礎力強化問題集に取り組む。範囲は授業内に指示する。
小テスト	20	授業での学習内容に関する復習の小テストを実施する。	作文	30	指示したテーマについてエッセイを書く。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①予習として、教科書を読み、教員が指定する問題を解いておく。（60分） ②復習として、授業で学んだことを参考にしながら課題に取り組む（40分）	課題に取り組んだ際の疑問点について授業中に解説する。

受講生に望むこと	①予習と復習が非常に大切になるので、基礎力強化のため、しっかりと取り組んでほしい。 ②客観的に見直しをすることで、正しく表現力豊かな英文がかけるようになってほしい。	教科書・テキスト	『Tell Your Story!-Using Transition Words in English Writing-』（初版）中川　準治 / Joe Alloway / Ayden Harris 共著　成美堂　2024年　ISBN：978-4791972920
指定図書／参考書等	なし／『決定版 竹岡広信の 英作文が面白いほど書ける本』竹岡広信著　KADOKAWA/中経出版　2009年　ISBN：978-4046025265	その他・特記事項	・Classroomを用いて課題等を提示することがある。 ・ライティング演習のためにルーズリーフノートを準備する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育史			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
教育の歴史を通して過去の様々な思想や出来事について知るとともに、現代の教育にどのように反映されているか考える。このことは未来の教育について考えることにもつながる。本科目はこのような視点で、先に西洋における教育史について学ぶ。次に日本における教育史について学ぶ。これによって、日本の教育はヨーロッパやアメリカの影響を受けながら現代に至っていることが分かる。	①西洋の教育史：古代ギリシャから現代までの西洋の教育史について理解している。 ②日本の教育史①：江戸期から大正期までの日本の教育史について理解している。 ③日本の教育史②：現代の日本の教育の現状をもとに未来の教育について自分なりに考えることができる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業内容を概観し評価方法について理解する。）／古代ギリシャ・ルネサンス期の教育者（ソクラテスの哲学的問答やコメニウスの『世界図絵』について知る。）	
2	近代国家の形成と教育学（ロックの紳士教育論やルソーの消極教育について知る。）	
3	近代教育学の確立１（カントの自律的で道徳的な人間、ペスタロッチの直観教授法について知る。）	
4	近代教育学の確立２（ヘルバルトの教授方法の段階化、フレーベルの幼稚園の創設について知る。）	
5	社会と教育／労働と教育（デュルケームの教育社会学について知る。／クルプスカヤの教育と労働をつなぐことについて知る）	
6	新教育運動の成立と展開（エレン・ケイの個性的教育、デューイの経験主義教育、モンテッソーリの感覚教育について知る。）	
7	精神科学的教育学の潮流（ボルノウの信頼と希望の教育学について知る。）	
8	現代における教育思想の展開（ブルーナーの動機付け、イリイチの脱学校論について知る。）※西洋教育史の終了	
9	多様化する教育機関と近世的“学び”の特質（藩校、手習塾、私塾について知る。）※日本教育史の開始	
10	近世の教育思想と教育家たち（貝原益軒のメディア活用、広瀬淡窓の能力主義、吉田松陰の情熱と感化の教育思想について知る。）	
11	明治時代の教育とその思想１（福沢諭吉の教育思想や「学問のすゝめ」について知る。）	
12	明治時代の教育とその思想２（国民教育制度の「学制」、啓蒙主義教育者としての田中不二麿、徳育推進派としての元田永孚について知る。）	
13	教育における国家主義路線の構築（初代文部大臣森有礼の思想について知る。）	
14	大正新教育の思想と実践１（及川平治の教授法改革、木下竹次の学習原理の探求について知る。）	
15	大正新教育の思想と実践２（沢柳政太郎の実践的教育学、小原国芳の全人教育論について知る）／学習のまとめ（西洋教育史や日本教育史に登場した人物から自己がレポートした人物以外を選んで期末レポートを作成する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
人物レポート（含口頭発表）	25	西洋教育史や日本教育史から自己が担当する人物を決めてレポートにまとめ、口頭で発表している。	学修成果物	40	西洋教育史の人物年表と日本教育史の人物年表を丁寧に整理して書いてある。
授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。	期末レポート	20	レポートの要件に基づいて作成してある。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①自己が担当する人物の教育における思想などを「人物レポート」にまとめ、発表用の板書計画も書く。［90分］	①人物レポートについての質問に応じる。 ②人物年表の整理の仕方について例示して解説する。 ③第15回授業時にそれまでの授業の取り組みについて評価する。

受講生に望むこと	過去の教育史が現在の教育につながっていることを意識して受講してほしい。	教科書・テキスト	『教育の歴史と思想［第２版］』石村華代・軽部勝一郎編著、2023年、ミネルヴァ書房、ISBN978-4-623-09844-6
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	・小レポート課題はClassroomに投稿して提出する。 ・人物年表作成時に使う赤、黒、青、緑のボールペンを持参してください。

実務経験を活かした授業の概要

教育史に見られる教育方法の不易なものについて小学校の教員と議論し、媒体は異なっても教え方には共通性があり、現代のメディアを活用する際のヒントにしている。

授業科目名	比較教育学			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	ポーター　倫子						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要

私たちが日本の学校生活で「当たり前」だと思ってきた風景は、世界から見ると驚きや不思議に満ちています。本授業では、アメリカ、ヨーロッパ、アジアの教育現場と日本を比較しながら、日本の教育の「隠れた特徴（文化的カリキュラム）」を再発見します。具体的には、日本独自の「見守る（Mimamoru）保育」「甘え（Amae）」「行事」「反省（Hansei）」が、信頼関係や集団形成に果たす教育的意義を捉え直します。あわせて、OECD Education 2030が提唱する主体性（エージェンシー）など、世界の教育改革の最新動向を学びます。さらに、日本の教員の多忙さをデータで捉え、子どもと向き合う時間をどう確保するかという働き方の課題を考察します。

授業の到達目標

1．日本型教育の言語化：「見守る」「甘えの受容」「班活動」といった日本の教育慣習が、子どもの社会性や非認知能力（忍耐力・協調性）をどう育んでいるか、海外との比較を通じて自分の言葉で説明できる。
2．異文化への理解と応用：欧米の「個人の尊重」の考え方を知り、日本の教室でも取り入れられるアイデアや視点を持つことができる。
3．客観的な視座の獲得：「日本はすごい／遅れている」という単純な二元論ではなく、それぞれの教育がその国の文化や社会背景に基づいていることを理解し、将来、多様な背景を持つ子どもや保護者と関わる際の広い視野を養う。

教授方法	講義、グループ討議
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション ― 「掃除」をするのは日本だけ？ 世界の学校には「掃除の時間」がない国が多い？ 給食当番や日直など、日本の「特別活動」が育む力について考える。	
2	日本独自の魔法(1)「甘え」と信頼関係 日本で言う「甘え」は悪いこと？ 海外では自立の妨げと見られることもあるが、日本では「先生と子どもの信頼のベース」になっていることを学ぶ。	
3	日本独自の魔法(2) 喧嘩を止めない先生たち ― 「見守る」教育 なぜ日本の先生はすぐに喧嘩を仲裁しないのか？ アメリカの「タイムアウト（隔離）」法と比較し、子供同士で解決させる日本の「見守る」アプローチの意図を知る。	
4	日本独自の魔法(3)「運動会」は誰のため？ 西洋の「スポーツ・デー（個人の競争）」と日本の「運動会（集団の団結）」の違い。なぜ全員が逆上がりの練習をするのか？「帰属意識」と「達成感」を育む行事の力について考える。	
5	魔法の言葉「ハンセイ（反省）」 日本の教室に溢れる「反省」。悪いことを認めるだけでなく、明日の目標を立てるポジティブな活動としての「Hansei」と、自己肯定感の関係について考える。	
6	日米の母親像と期待 日本（情緒的成熟・従順さの重視）と米国（言語による自己主張の重視）の母親の期待の違いおよび間接的アプローチ vs 直接的教授について知る。	
7	海外の保育・教育の紹介（その1） 学生が興味を持った国の学校生活や文化について調べ、写真やクイズを交えて紹介し合う。	
8	海外の保育・教育の紹介（その2） 学生が興味を持った国の学校生活や文化について調べ、写真やクイズを交えて紹介し合う。	
9	遊びが学び？ ― 北欧（フィンランド・スウェーデン）の暮らし 宿題が少ないのに学力が高いのはなぜ？「遊び」を中心にした学びと、ウェルビーイング（幸福度）を大切にする教育について学ぶ。	
10	お勉強ヒートアップ！ ― 中国・韓国・シンガポール 3歳から塾？ アジアの激しい競争社会と、そこでの親子の葛藤。「生きる力」への転換を目指す各国の改革を知る。	
11	自由の国アメリカの現実 ― 「ご褒美」で釣る教育？ テストの点数でお金がもらえる実験？「目の前のニンジン」作戦は効果があるのか、科学的根拠（エビデンス）から考える。	
12	到達度試験	
13	日本の先生は忙しすぎる？ ― 働き方の国際比較 世界一長い労働時間と、事務作業の多さ。「子どもと関わらない時間」をどう減らすか？ データで見る日本の現場のリアルについて考える。	
14	グループディスカッション ― 理想の園・学校をデザインする これまでの授業を踏まえ、日本の良さを残しつつ、課題を解決する具体的な園・学校のモデルを提案する。	
15	総括 グループディスカッションで話し合ったことを発表する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加	25	学習意欲、履修態度， リフレクションペーパーなど	異文化体験	10	カルチャーショックにつながるような異文化体験に積極的に参加し、そのレポートを提出し、発表する。
グループ活動および発表	30	海外の保育・教育の紹介および理想の園・学校のデザインについて、よく調べ、準備し、わかりやすく発表する。	到達度試験	35	授業の内容をどれぐらい理解しているかを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前学習：次回のテーマに関する短い読み物を読み、自分ならどう対応するか考えてきてください（１５分）。事後学習：授業で扱ったデータや事例をよく理解するため、パワポを読み直すこと。異文化体験に参加したり、海外の文化、保育や教育制度を調べること。（４５分）。

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

大体１週間以内に採点して返却します。

受講生に望むこと	この機会に、異文化に触れながら自分の考え方や価値観を見つめ直してみてください。慣れた考え方から一歩踏み出すことで、新しい発見がきっとあります。自分の殻から抜け出すような気持ちで、前向きに、そして英語への苦手意識も乗り越えながら学んでいきましょう。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	難しい理論を暗記するのではなく、具体的なエピソードや映像、データを通じて、「自分ならどうするか？」を考える参加型の授業です。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育学文献講読Ａ１			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
認知科学の視点から人の「学び」について書かれた文献を読む。私たちが知識を身につけたり、学びを深めていくプロセスの中ではどのようなことが起こっているのだろうか。文献を通して、私たちにとって身近な「学び」とはどういったものかについて考察を深めていきたい。	①レジュメを作成し、文献の要点を整理し発表することができる。 ②学びのプロセスについて理解している。 ③人の学びについて、自分なりの意見を持てるようになる。

教授方法	参加者によるレジュメ作成および発表、ディスカッションを中心に進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	第1章「記憶と知識」の前半	
2	第1章「記憶と知識」の後半	
3	第2章「知識のシステムを創る」の前半	
4	第2章「知識のシステムを創る」の後半	
5	第3章「乗り越えなければいけない壁」の前半	
6	第3章「乗り越えなければいけない壁」の後半	
7	第4章「学びを極める」の前半	
8	第4章「学びを極める」の後半	
9	第5章「熟達による脳の変化」の前半	
10	第5章「熟達による脳の変化」の後半	
11	第6章「生きた知識」を生む知識観」の前半	
12	第6章「生きた知識を生む知識観」の後半	
13	第7章「超一流の達人になる」の前半	
14	第7章「超一流の達人になる」の後半	
15	終章「探究人を育てる」	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	30	ディスカッションでの発言等を評価する。	担当回の発表	30	レジュメの完成度、補足的に調べた内容、発表内容を評価する。
最終レポート	40	文献の内容を踏まえて、人の学びについて自らの意見や考察をまとめられているかどうかを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前に各回でとりあげる該当する箇所を読んでおく。[30分] ②発表に向けて、担当個所を読んでレジュメを作成する。必要に応じて、参考書等により補足情報を調べる。[50分]	最終レポートについては、希望者には次学期に内容に関するコメント等を含めて返却を行う。

受講生に望むこと	受動的な態度での受講ではなく、積極的な授業参加を望む。	教科書・テキスト	『学びとは何か』　今井むつみ　岩波書店　2016年 ISBN:978-4004315964
指定図書／参考書等	なし/『新・人が学ぶということ』今井むつみ・野島久雄・岡田浩之 北樹出版　2012年　ISBN:978-4779303210	その他・特記事項	受講者の人数や理解度に応じて、授業の内容や進め方を修正する場合がある。 classroomを用いて課題を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育学文献講読Ｂ１			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	中島　賢介						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
子どもと関わる上で知っておきたいことを通して子どもが育つ上でのむずかしさ、また、子どもを育てる側のむずかしさや社会に出ていくことのむずかしさといった大きく４つの内容の検討を通して、子どもの育ちや子どもを育てる側の思いについて考察してみたい。	①レジュメを作成し、文献の要点を整理し発表することができる。 ②子どもの育ちについて理解している。 ③子どもの発達や子どもを育てる側の思いについて、自分なりの意見を持てるようになる。

教授方法	講義、要約発表、ディスカッション
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業概要の説明、『「愛と知の循環」としての保育実践』まえがき	
2	第1章　「愛と知の循環」を実現する幼児教育・保育とは　を読む	
3	第2章 保育者が保育することの深部へ　を読む	
4	第3章 幼児教育・保育の可能性の展開へ　を読む	
5	第4章 「もっとこうしたい」「やってみたい」から広がる「愛と知の循環」　を読む	
6	第5章 生き物との出会いから多様に広がる「愛と知の循環」　を読む	
7	第6章 探索を楽しむことから深まる「愛と知の循環」　を読む	
8	第7章 ときめき・ひらめきから生まれる「愛と知の循環」　を読む	
9	第8章 創造力を育む「愛と知の循環」　を読む	
10	第9章 おしゃべり（対話）が紡ぐ「愛と知の循環」　を読む	
11	第10章 一人一人の思いが広がり，みんなで世界を味わう「愛と知の循環」　を読む	
12	第11章 命との出会いを重ね生まれる「愛と知の循環」　を読む	
13	第12章 夢中になって遊ぶことから生まれる「愛と知の循環」　を読む	
14	あとがきを読み、改めて「愛と知の循環」とは何か、その実践の意義とは何かを考える	
15	『「愛と知の循環」の保育実践』から自己課題について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	20	持参物、欠席連絡、毎回の課題など、授業に対する基本的な姿勢が取れている。	担当部分の発表	40	担当部分を要約し、プレゼンテーションする。
ディスカッションへの取り組み	20	主体的にディスカッションに参加している。	最終課題	20	保育・教育に対する自己課題を明確にしている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
担当箇所の予習（90分～120分）	適宜課題内容についてフィードバックする。

受講生に望むこと	楽しく保育・教育について語り合いたい。	教科書・テキスト	『「愛と知の循環」としての保育実践 』無藤隆編著 2025年　北大路書房　ISBN：9784762832840
指定図書／参考書等	なし／『「愛と知の循環」としての保育』無藤隆著　2026年　北大路書房 ISBN：9784762833069	その他・特記事項	無藤隆理論を実践研究を通して理解したいと考えている。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育実践研究（幼保）			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	ポーター　倫子・改田　陽子　（代表教員　ポーター　倫子）						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要

本授業は、保育実践における「プロジェクト・アプローチ」と「ドキュメンテーション」の理論と技法、および具体的な保育環境構成や指導計画の立案について、演習形式で学びます。 前半（担当：ポーター）では、子どもの興味・関心を起点として活動を展開するプロジェクト・アプローチの三つのフェーズに加え、遊びの中に潜む「数・科学・言語」などの学びを読み解く視点を養います。また、日本の保育現場でも応用可能な「ドキュメンテーションについて学び、単なる記録者にとどまらず、子どもの探究を支え、保育の質を向上させる「研究者」としてのスキルを習得します。 後半（担当：改田）では、子どもの主体的な遊びを支える環境構成や行事の指導計画について、ザリガニ釣りや運動会ごっこなど、実際の保育現場の事例を通して実践的に学びます。

授業の到達目標

・子どもの興味から始まる活動の流れを理解し、遊びの中にある言葉・数・自然などの学びを捉えて説明できる。
・ドキュメンテーションを循環的に活用し、子どもの考えや学びを可視化して、保護者や同僚と共有できる。
・自然物や廃材を活かした環境構成により、子どもの主体的な遊びや探究心を引き出すことができる。
・マインドマップを用いて活動の広がりを考え、子どもの姿に応じた柔軟な指導計画を立て、実践・振り返りができる。
・一人ひとりの子どもの特性を尊重し、保護者と協力しながら育ちを支える関わりを理解する。
・職員同士の対話と協働の大切さを理解し、自身の専門性向上や将来の成長を考えられる。

教授方法	講義、プロジェクト、ディスカッションなど
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	子どもの権利と「100の言葉」 ～レッジョ・エミリアの再考～　100の言葉（The Hundred Languages）：言葉だけでなく、描画、粘土、影、光、動きなど、子どもが持つ多様な表現方法（象徴的言語）について知る。	ポーター
2	プロジェクトの開始（フェーズ1） ～予期的ウェビングとトピック選定～　教師はいかにして学びを「予測」し、環境を準備するかを理解する。	ポーター
3	調査・探求（フェーズ2） ～フィールドワークと「数・科学」の統合～「本物」に出会うフィールドワークの技法を身につける。	ポーター
4	ドキュメンテーションの理論 ～「8の字モデル」と循環～　記録することによる「子ども理解」と「保育の質」の向上を理解する。	ポーター
5	ドキュメンテーションの実践 ～写真と「語り」の構成～伝わる記録の作り方について学ぶ。	ポーター
6	プロジェクトのまとめ（フェーズ3）と評価 ～真正の評価～学びの結実（Culmination）と、テストによらない評価について学ぶ。	ポーター
7	総括 ～「プロジェッタツィオーネ」と教師の役割～共に創るカリキュラム（Emergent Curriculum）について学ぶ。	ポーター
8	子どもの主体的な遊びと環境構成：子どもの主体的な遊びをどのように援助していくのか、環境構成や教材研究を通して学ぶ。	改田
9	遊びの指導計画① ～マインドマップの作成～ 子どもの主体的な遊びをどのように援助していくのか、環境構成や教材研究を通して学ぶ。	改田
10	遊びの指導計画② ～模擬保育の実践～ 子どもの主体的な遊びをどのように援助していくのか、環境構成や教材研究を通して学ぶ。	改田
11	子ども理解の深化 ～個と集団～ 「個を生かし集団を生かす保育者」になるために、「子ども理解」に努めるとはどういうことなのか、実践例を通して学ぶ。	改田
12	専門職としての成長 ～職場環境と人間関係～ 「専門性を活かして成長する保育者」として、よりよい職場環境を築くために何が必要か、互いに学び育ちあう必要性を考える。	改田
13	多様な支援ニーズと保護者対応 「多様な子どもの理解と支援する保育者」として、気になる子や特別な配慮が必要と言われる子ども理解と保護者支援について、事例を基に再考察する。	改田
14	行事の指導計画① ～企画と立案～ 「日本文化に触れる体験」「園行事」「地域行事」などから、グループで一つ選び、「指導計画」を作成する。	改田
15	行事の指導計画② ～実践と総括～ グループで作成した「指導計画」に基づいた実践をし、互いに評価反省し、今後に繋げる。	改田

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
平常点、参加態度	30	授業態度。グループワークへの貢献度。クラスでの発言。リフレクションペーパー。	ポートフォリオ	35	前半の学びは、毎回ポートフォリオに記入し、それを最後にまとめて提出してもらいます。単なる活動報告でなく、学び手の工夫、努力、主体性を評価します。
レポート、指導計画	35	後半の学びは、指導計画、レポートなどで評価します。レポートはAIに頼らず、自分の言葉で書いてください。			

授業外における学習（事前・事後学習等）

前半　事前学習：ドキュメンテーションの素材集めなど（30分）、事後学習：振り返りペーパー、指導案作成など（30分）；後半　事前学習：次回授業の概略や準備する。（30分）、事後学習：振り返りシート返却後、復習をする。（30分）

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

提出締切日から約１週間以内に評価とフィードバックを提示します。

受講生に望むこと	本授業は演習形式のため、AI生成に頼らない、自身の「目」と「手」を使った準備・振り返りを求めます。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	幼稚園教育要領解説	その他・特記事項	積極性を求めます。またグループ学習の時は周りの人に頼るのではなく、自分はどのように貢献できるかを常に考えてください。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育実践研究（小中高）			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	石上　佐知子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
小学校の学級担任教師には、学級における一人一人の児童を育成する力とともに、学級成員相互の関係性を調整し、集団として目標に向かって学びを進めていく力、すなわち学級経営力が求められる。 本授業では、学校現場での教育実践に根ざした具体的事例と、学級経営に関する理論的知見とを往還しながら、学級経営の構造と実際、及び現代的課題について理解を深める。 あわせて、学級経営を捉える視点を段階的に学び、最終的には自らが目指す学級経営像を構想し、他者に伝えることができる力の育成を目指す。	① 学級集団及び学級経営の特性について、制度・実践の両面から理解することができる。 ② 各回の授業内容を踏まえ、学級経営を考える視点を整理し、自分なりの考えを形成することができる。 ③ 現代の学級経営に関わる課題について理解し、課題に対する自分なりの見解をもつことができる。 ④ 視点を明確にしながら、自らが目指す学級経営について創造的に構想し、他者に伝わる形で「学級経営案」を作成することができる。

教授方法	講義
履修条件	小学校一種免許状を取得予定で小学校教員を志望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション 授業の目的・内容・評価方法を理解し、学修の見通しをもつ	
2	学級経営とは何か 学級経営の概念、学級という場の特質、学校制度との関係を理解する	
3	学級集団の特性 個と集団の関係から学級経営を捉える視点を学ぶ	
4	カリキュラムマネジメントと学級経営 教育課程全体との関連から学級経営を考える	
5	授業と学級経営 日常の授業が学級づくりに果たす役割を理解する授業と学級経営の関係について考える	
6	学級の立ち上げと年間経営 学級開きと年間を見通した学級経営の構想	
7	言葉の力を育てる学級経営 自分の言葉と他者の言葉を大切にする学級づくり	
8	学級経営の危機管理① 子どもが言うことを聞かないときに何が起きているのか	
9	学級経営の危機管理② いじめが発生した場合の学級経営の在り方	
10	学級経営の危機管理③ 保護者対応における課題と教師の専門性	
11	集団の教育力を生かす学級経営① グループアプローチと学級活動の理論と実践	
12	集団の教育力を生かす学級経営② インクルージョンの視点から学級経営を再考する	
13	ディスカッション 学級経営に関する自らの問題意識を整理する	
14	学級経営案の作成 学んだ視点を踏まえ、自らの学級経営案を構想する	
15	学修のまとめ 「私の学級経営案」の発表と振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学級経営案の発表	50	視点を明確にしながら目指す学級経営について考え、それを他者に伝わるように「学級経営」案にまとめている。	最終・振り返りレポート	20	学修を振り返り、印象に残った授業を挙げながら、学級経営について得た視点について考えを書き表している。
小レポート	30	各授業内で出された課題について小レポートを提出する。理解した内容と自身の考えを適切にまとめている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・事前学習：授業の各回に示されているテキストの章等を読み、課題意識をもって授業に臨む。[60分] ・事後学習：「私の学級経営案」の発表へ向け、授業内容及び考えたこと等を各自が主体的に記録し整理する。小レポートを書く。[60分] ※小レポートの課題は授業内で提示する。	各授業で適宜レポートを課す。

受講生に望むこと	・各回の授業における学びや思考を自分なりに工夫して記録し、最終の「学級経営案」発表および振り返りレポートに統合的に表現する。 ・主体的にディスカッションに参加し、思考を深める。	教科書・テキスト	・『日本の学級集団と学級経営』河村茂雄著、2010年出版、厚徳社 ISBN 978-4810005608 ・その他(各回適宜資料を配付する。)
指定図書／参考書等	なし／『学級経営の教科書』白松賢著、2017年出版、東洋館出版社、ISBN 978-4491033419、『子どもの力を引き出す学級担任 クラスをきちんとまとめるコ ツ！』寶迫芳人著、2012年出版、ナツメ社、ISBN 978-4-8163-5184-6 『教師の資質』諸富祥彦著、2013年出版 朝日新書 ISBN 978-4-02273518-8	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

公立小中学校の教諭及び管理職の経験を生かし、学校現場における教育実践を具体的かつ俯瞰的に示しながら学級経営に関する授業を展開する。

授業科目名	発達心理学			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・准学校心理士				

授業の概要	授業の到達目標
人間がどのような発達過程をたどるかを理解することは、保育や教育に携わるうえで重要な視点である。本講義では、発達心理学の具体的成果をもとに、乳幼児期から青年期を中心に、人間の心理的発達のしくみについて学ぶ。	①発達心理学の諸理論に関する基礎知識を答えられる。 ②生涯における心身の発達について答えられる。 ③各年齢期において達成されるべき発達課題を答えられる。 ④発達心理学の知見を踏まえ、乳幼児期から青年期の子どもに対する基本的な関わりについて考察できる。

教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問なのか。発達心理学を学ぶ意義を理解する。	
2	「発達」を考える①：人の発達において、各発達段階で達成しておくことが望まれる「発達課題」について理解する。また、発達課題と教育との関連について考える。	
3	「発達」を考える②：「発達を決めるのは遺伝か環境か」、「年をとるのは衰退か成熟か」などの疑問をもとに、人の「発達」について考える。	
4	胎児期～乳児期①：お腹のなかにいる赤ちゃんに意識はあるのだろうか。生後間もない赤ちゃんはただ泣いているだけだろうか。胎児や新生児の発達と有能さについて理解する。	
5	胎児期～乳児期②：赤ちゃんはどのように外界と関わっているか。乳児期の情動、認知、言語の発達について考える。	
6	胎児期～乳児期③：対人関係の基盤となるものは何か。情緒的な絆である「愛着（アタッチメント）」について考える。	
7	幼児期①：「ぼく・わたし」はいつ成立するか。子どもの言語発達や自己概念の成立について考える。	
8	幼児期②：なぜ子どもにとって「遊び」は重要なのか。「象徴機能」や社会性の発達を通して考える。	
9	幼児期③：子どもはどのように「賢く」なっていくか。幼児期における認知発達について考える。	
10	児童期①：子どもの対人関係はどう変わっていくか。友人関係の展開を中心に、学童期の子どもが抱えやすい問題について考える。	
11	児童期②：物事の善し悪しや思いやりはどのように育つか。学童期の子どもの「道徳性」や「向社会性」の発達について考える。	
12	児童期③：子どもはどのように物事を捉え、思考していくのだろうか。児童期の認知発達について考える。	
13	青年期：青年期における身体と心の変化、周囲との関係の変化について考える。また、「自分らしさ」とは何だろうか。青年期の重要な発達課題とされる「自我同一性（アイデンティティ）」について考える。	
14	成人期・老年期：家庭を持ち親になることの意味、老いや病がもたらすもの、死を目前にした人間について考える。	
15	「発達障害」の理解と対応：発達障害は親のしつけや本人の性格が原因ではない。では、発達障害とは何だろうか。発達障害など非定型発達の基礎的な知識や考え方について理解し、適切な関わりを考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	20	講義内容に対する意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	ブックレポート	20	発達心理学に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。
定期試験	60	発達心理学の諸理論、発達課題、子どもに対する適切な関わりなど、授業で取り上げる内容の知識が獲得されていることが評価基準となる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、発達心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] ③発達心理学の下位領域・関連領域である「乳幼児心理学」「児童心理学」「青年心理学」「発達障害」などの参考書を用いて、知識を深める。[60分]	①毎回の授業レポートについては、次回授業時に内容に関する振り返りを行う。 ②定期試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応する。

受講生に望むこと	授業の内容が今後の自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的に受講することを望む。	教科書・テキスト	坂上裕子・山口智子・林 創・中間玲子（2024）．『問いからはじめる発達心理学　改訂版』 有斐閣　ISBN: 978-4641151291
指定図書／参考書等	なし／本郷一夫・飯島典子編（2019）．『保育の心理学』　建帛社　ISBN：978-4767950914、若尾良徳・岡部康成（2010）．『発達心理学で読み解く保育エピソード』　北樹出版　ISBN：978-4779302510、岡本祐子・深瀬裕子編（2013）．『エピソードでつかむ生涯発達心理学』　ミネルヴァ書房　ISBN: 978-4623065318、伊藤亜矢子編（2011）．『エピソードでつかむ児童心理学』　ミネルヴァ書房　ISBN:978-4623058259	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。

授業科目名	教育心理学			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・准学校心理士				

授業の概要	授業の到達目標
教育心理学における主要な領域（発達、学習、評価、集団・適応）について講義する。本講義では、教育活動について心理学の視点から理解を深め、効果的な学びを促すにはどうすればよいかについて考える。	①子どもの心身の発達過程を答えられる。 ②心理的発達の特徴を踏まえた上で、学習過程で生じる心理的メカニズムについて答えられる。 ③主体的な学習を支える集団づくりと集団への適応に関して正しい知識を答えられる。 ④教育活動の評価の意義および役割を答えられる。

教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：教育心理学は、どのような学問なのか。教育心理学の主な領域である「発達」「学習」「評価」「集団・適応」の概要と、教育心理学の研究法を理解する。	
2	発達と教育「発達における教育の役割」：ピアジェやヴィゴツキーの発達理論を通して発達における教育の役割を考える。	
3	学習①「学習理論①」：学びはどのようにして生じるか。条件づけ理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。	
4	学習②「学習理論②」：学びはどのようにして生じるか。学習に関する様々な理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。	
5	学習③「学習と教授理論」：どのような教え方が効果的だろうか。さまざまな教授理論を比較しながら各教授法の特徴を考える。	
6	学習④「動機づけ」：やる気はどこから生じるか。動機づけに関する研究を通して、学ぶ意欲について考える。	
7	学習⑤「記憶」：学びの基礎になる記憶の理論を学ぶ。記憶に関する研究成果を紹介し、学習においてどのように活用できるか考える。	
8	学習⑥「学習指導と個人差」：すべての子どもに同じ教え方でよいだろうか。教授方法と個人差との関係を通して、学習指導について考える。	
9	評価①「パーソナリティ」：パーソナリティ（性格）とは何だろうか。パーソナリティに関する様々な理論を学び、パーソナリティを理解することについて考える。	
10	評価②「知能」：知能とは何だろうか、どのように測定できるだろうか。知能に関する様々な理論と測定方法を学び、「知能が高い（低い）」とはどのようなことか考える。	
11	評価③「教育評価」：教育評価とは何か、誰が誰の何を評価するのだろうか。教育評価の意義を理解し、教育における評価の役割を考える。	
12	集団・適応①「学級集団」：学級は単なる個人の集まりだろうか。集団心理や成員間の相互作用などを通して、学級集団について考える。	
13	集団・適応②「不登校・いじめ」：不登校やいじめの問題を通して、学校や学級集団への適応を考える。	
14	集団・適応③「発達障害・精神障害」：発達障害や精神障害を抱えた子どもの学校や学級集団への適応を考える。	
15	集団・適応④「学校カウンセリング」：学校や家庭において、子どもの心の問題にどのように取り組んでいくことができるだろうか。学校現場での心理支援活動について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	20	講義内容に対する感想や意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	ブックレポート	20	教育心理学に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。
定期試験	60	教育心理学の主要な内容（発達、学習、評価、集団・適応）に関する基礎知識が獲得されていることが評価基準となる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、教育心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分]	①各回の授業レポートについては、次回授業時に内容に関する振り返りを行う。 ②定期試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応する。

受講生に望むこと	授業の内容が自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的な受講態度を望む。	教科書・テキスト	服部環・外山美樹編（2022）．『スタンダード教育心理学　第2版』　サイエンス社　ISBN: 978-4781915340
指定図書／参考書等	なし/石津憲一郎 ・下田芳幸 ・ 横田晋務（2022）．『教育・学校心理学』 サイエンス社　ISBN: 978-4781915272、大村彰道編（1996）．『教育心理学Ⅰ』　東京大学出版会　ISBN: 978-4130520720、下山晴彦編（1998）．『教育心理学Ⅱ』　東京大学出版会　ISBN: 978-4130520744、藤田哲也編（2021）．『絶対役立つ教育心理学　第2版』ミネルヴァ書房　ISBN :978-4623091638 、尾高邦生 ・橋本創一 他編（2025）．『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育　第2版』　福村出版　ISBN: 978-4571121500	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例（いじめや不登校など）をもとに、子どもへの関わり方や解決策について検討する時間を設けている。

授業科目名	教育社会学			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	内田　啓太郎						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
わたしたちの社会において教育は必要なもの、欠かせないものだと思われている。確かに教育のあり方が社会へ大きな影響を与える一方で、社会もまた教育のあり方へ強い影響を与えている。では、教育と社会はお互いどのように結びつき、影響を与える関係であるのか。この授業の目的は、教育にまつわる様々な要素（子ども、教師、制度、集団、労働など）を社会学の考え方を通じて理解することである。	1.教育を構成する諸要素について社会学の考え方から理解する。 2.近代以降の社会において学校教育がどのように制度設計され、実践されてきたのか理解する。 3.わたしたちの社会が抱えている教育問題について社会学の考え方から理解する。 4.わたしたちの社会、特に地域社会のあり方と教育の関わりについて社会学の考え方から理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の概要と目的、到達目標を理解し、「教育を社会学するとは何か」について学ぶ	
2	学説史①：教育社会学の誕生から「新しい教育社会学」への転換、文化的再生産論の登場まで、主要な学説を学ぶ	
3	学説史②：「新しい教育社会学」以降、現代の社会問題に答える形で登場した主要な学説を学ぶ	
4	階層と教育①：社会における階層の構造と移動について理論・概念と事例から学ぶ	
5	階層と教育②：社会階層の問題を格差問題と捉え、問題発生のプロセスと解決に向けて理論・概念と事例から学ぶ	
6	マイノリティ／ジェンダーと教育：現代社会においてマイノリティが抱える問題、またはジェンダーに起因する問題について理論・概念と事例から学ぶ	
7	教師と子どもの社会学：学校教育または学校現場において教師と子どもの役割・機能について理論・概念と事例から学ぶ	
8	ライフコース：ライフコース形成における教育の主要な役割・機能について理論・概念と事例から学ぶ	
9	非行／逸脱と教育問題：教育問題としての非行／逸脱が持つ構造について理論・概念と事例から学ぶ	
10	教育改革：これまで日本社会にて議論され、実施されてきた教育改革について政策と実践の両面よりそのあり方と問題点を学ぶ	
11	学校教育（初等・中等教育）：学校教育の成立と発展の歴史を学び、その構造と問題点についても学ぶ	
12	高等教育（大学教育）：高等教育の成立と発展の歴史を学び、その構造と問題点についても学ぶ	
13	労働市場へのトランジション：日本社会の雇用慣行・市場に対して教育（特に高等教育）があたえる影響について理論・概念と事例から学ぶ	
14	教育と経済：「社会と経済」の視点から学校教育および高等教育が抱える問題点について理論・概念と事例から学ぶ	
15	全体のまとめ：今学期の授業を振り返り、「教育を社会学するとは何か」について再考する	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	授業の到達目標および内容をふまえつつ、設問に対する自らの考えを論理的な解答としてまとめることができるか評価する。	授業への参加態度	30	毎回の授業で提出するリアクションペーパーの提出状況およびその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．教科書の該当する範囲を事前に公開、配布する資料とあわせて読む。［45分］ 2．授業中の解説を配布資料や自分で取ったノートとあわせて読む。［45分］	授業に関する質問および期末レポートの講評などを対面またはオンラインで集約したうえで、受講者全体と共有する。

受講生に望むこと	教育は日常生活や人生のさまざまな場面において、わたしたちの誰もが関わりを持つ。受講生の皆さんへは、自分がこれまで受けたきた、また今受けている教育に関心を持ちつつ、わたしたちの社会が抱えている教育問題に対し、社会学の考え方を学び、その解決に向かおうという積極性を望む。	教科書・テキスト	酒井朗・中村高康・多賀太編『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房，2012年、ISBN 9784623062935
指定図書／参考書等	（参考書）相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子『これからの教育社会学』有斐閣，2023年、ISBN 9784641200036 （参考書）中村高康・松岡亮二編『現場で使える教育社会学』ミネルヴァ書房，2021年、ISBN 9784623092604	その他・特記事項	毎回の授業資料（スライド／レジュメ）はオンラインで公開する（印刷物を配布しない）。資料の閲覧、ノートテイキングのためChromebookを持参することを推奨する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	幼児理解			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	谷　昌代・齊藤　英俊・松本　理沙　（代表教員　谷　昌代）						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
幼児一人ひとりは異なった発達の姿を示す。そのため、幼児期における保育には、一人ひとりの幼児に対する理解が必要である。そこで保育者は、幼児一人ひとりの発達の特性を理解し、幼児が抱える発達の課題に応じた援助を考えることが求められる。 本授業では、これから教育・保育の場に向かうための、子ども一人ひとりの内面を理解する意義について、実践的及び理論的な学びを目指すとともに幼児の保育・教育相談（カウンセリングに関する基礎的事項を含む）の理論及び方法について学ぶ。	①幼児理解の視点を理解している。 ②子どもの姿の事例（ビデオを含む）から客観的に読み取ったり、実際に子どもと関わったりすることで、幼児の動線や心が動くポイントを捉えることができる。 ③幼児理解の方法（アセスメント）を捉えることができる。 ④幼児の保育・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事項を含む）を身に付ける。 ⑤「保育を評価する」とはどういうことかを理解している。

教授方法	講義・個人ワーク・グループワーク
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション 幼児理解の視点について理解する。環境を通して行う教育、発達や学びの連続性の確保、保育を評価するとはどういうことかを捉え、その意義について考える。	谷
2	自身の保育・教育実践のエピソードより考察する。 生活・遊びの実践を通しての幼児理解①：子どもの生活・遊びの姿の事例から子どもの内面を読み取るとともに、遊びの動線や幼児の心が動く場面について考える。	谷
3	遊びの実践を通しての幼児理解②：子どもの生活・遊びの姿の事例から、個と集団の育ちについて考え、生活を支える援助について考える。	谷
4	子ども主体の保育実践に向けて：安全管理・衛生管理を徹底して守られた環境の中で、子どもたちの主体性はいかに発揮されるのか。保育者の思いと子どもの思いのズレについて考える。	谷
5	障がいのある幼児等の実態に応じた合理的配慮、及び合理的配慮を含む必要なアセスメントについて学ぶ。	松本
6	一人ひとりの幼児の背景を理解した関わりを目指し、保育・教育におけるソーシャルワークの視点について考える。	松本
7	乳幼児、児童を取り巻く環境の諸問題に目を向け、子育てにおける保護者の相談事を知る。 子育て支援の在り方と今日的課題について学ぶ。	松本
8	保育・教育相談の視点から幼児期の心理的特徴や課題、支援のあり方について学ぶ。	齊藤
9	幼児期の発達支援におけるカウンセリングの理論や方法の活用について学ぶ。	齊藤
10	子ども理解における保育・教育相談の意義や方法について学ぶ。	齊藤
11	観察法・評定法・面接法・事例研究法など子どもを理解する上での研究法について、事例などを通して実際的に学ぶ。	齊藤
12	配慮の必要な子どもや気になる子どもの保育について考える。 どの子にもやさしい保育となる実践に向けて、読み取りから援助、指導計画の立案について学ぶ。	谷
13	幼児理解の方法①：保育記録の作成において必要な視点、記録の種類、方法を知る。 記録から援助の方法を探り、子どもと共に創る保育への展開を考える。	谷
14	幼児理解の方法②：保育記録・省察・保育計画について 指導要録や保育の評価及び就学に向けての連携について理解する。	谷
15	『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』につながる子どもたちの姿と保育の可能性を考える。 子どもたちとの関わりから保育者、教育者、支援者として、自身に育ってほしい、資質・能力について考える。	谷

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	授業への積極的な参加、意欲的な取り組みができている。	課題レポート	60	授業内に提示される課題について、適切な資料等を調べ、分かりやすくまとめられている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①テキスト等を事前に読んで、課題レポートの作成の参考にする。[50分] ②実習ファイル等でこれまでのエピソードを検証し、改めて自分なりの読み取りを見直しておく。[60分] ③幼児の保育・教育相談（カウンセリングに関する基礎的事項を含む）の理論及び方法について学びの振り返りを行う。[50分]	課題については、担当教員からそれぞれ提示するので、指定日までにその都度指示された方法で提出する。 提出された課題レポートのやり取りを通して、内容についてその都度振り返りを行い、自分の学びを積み重ねていく。 課題におけるAIの使用については、担当教員の指示に従うこと。

受講生に望むこと	保育や教育現場で働くという自覚を持ち、意欲的に授業や課題に取り組み、積極的に意見交換をしてほしい。	教科書・テキスト	『幼児理解に基づいた評価』文部科学省　チャイルド本社　2019年 ISBN:4805402830 『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814499
指定図書／参考書等	なし／ 『子ども理解と援助』高嶋景子・砂上史子・森上史朗編　ミネルヴァ書房　2011年　ISBN:9784623059621 『子ども理解と保育・教育相談』小田豊・秋田喜代美編　みらい　2008年　ISBN:978-4860151430	その他・特記事項	課題や授業に関する補足、連絡等がある場合には、Google Classroomを通じて提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

谷：幼稚園教諭、保育士の経験を活かし、子どもを様々な側面から理解するということを事例を通して学ぶ機会を提供している。実際の子どもの関わり場面（実際の保育現場ビデオ）から、学生自身が分析し、子どもを理解することの意味や難しさを知る。
齊藤：心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して子ども理解における心理的視点について説明している。

授業科目名	教育課程論			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	福井　逸子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、教育課程の意義及び編制の方法（カリキュラム・マネジメントを含む)について学ぶ。	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」についての知識を得る。長期指導計画と短期指導計画の関係が理解でき、計画を立てることで保育の質が向上することを理解する。実際に長期及び短期指導計画の立案ができるようになる。

教授方法	講義と演習を中心として行う。また、授業外課題として、各自が保育現場に出かけ指導計画の作成を行う。
履修条件	幼稚園教諭免許状、保育士資格の取得を目指す学生、保育を深く学びたい学生の履修を希望する。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の目的と概要について	
2	幼稚園教育要領の性格と位置づけ及び改定について	
3	「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」の内容について	
4	保育における計画と評価の意義につい‐実際の指導計画から‐	
5	保育の目標と計画の考え方について‐実際の指導計画から‐	
6	全体的な計画と指導計画の関係性について‐実際の指導計画から‐	
7	全体的な計画の作成について‐グループ活動‐	
8	長期指導計画、短期指導計画の作成について‐グループ活動‐	
9	指導計画の作成の留意点について	
10	保育の記録と省察及び自己評価について	
11	保育の資質向上に向けた改善の取り組み（PDCA）について	
12	カリキュラム・マネジメントの考え方について	
13	カリキュラム・マネジメントの意義、重要性について	
14	様々な指導計画の作成に関わる取組事例‐国内外‐	
15	授業全体の振り返りとまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への取り組み	30	集中講義の日程の中で前向きに授業に参加しているか、出席状態も考慮する。	・授業内での討議、発表等	40	授業内での課題において、意欲的に取り組んでいるかを評価する。
課題への取り組み	30	提示された課題について真摯に取り組み、期日までに課題を提出しているかを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
実際の課題については、後日掲示する。	各自提出された課題については、集中講義の授業内でも用いる予定である。

受講生に望むこと	集中講義の期間は、欠席のないように日頃より健康管理に気をつける	教科書・テキスト	厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館）2018 ISBN-13: 978-4577814482 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）2018 ISBN-13:978-4577814475 内閣府・厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）2018　ISBN-13:978-4577814499
指定図書／参考書等	河邉 貴子著 新3法令対応 幼児教育・保育カリキュラム論 東京書籍	その他・特記事項	限られた日数での集中講義のため、欠席しないように気をつける

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	保育内容総論			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	改田　陽子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
乳幼児期の保育は「遊び」が中心であり「遊び」は「学び」に繋がる。「遊び」は、保育者が「子どもの主体的な活動]を尊重し、「環境」を通して「養護と教育」を一体的に行い、「一人ひとりの発達の特性」に応じて保育することで保障される。それらを具体的に学び、保育者の専門性に繋げる。	・「遊び」がどのように「学び」に繋がるのか、理解できる。 ・幼児教育と小学校教育の連携を知り、人格形成の基礎となることを説明できる。 ・保育の専門性を学ぶことにより、保育内容を総合的に捉え、指導計画作成や保育実践へ繋げることができる。 ・「子ども」への興味関心が益々向上し、「子ども理解」に繋げる。

教授方法	演習・講義・グループワーク
履修条件	保育内容科目、教育課程論、教育実習Ⅰ（幼）を履修している。（履修中を含む、単位修得は問わない）ことを原則とする。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：アイスブレーキングゲームやパーソナルポートフォリオ（今後作成予定）を通して、保育者を目指す、新たな目標設定やコミュニケーション能力を身に付ける。	
2	「泥団子作り」「鬼ごっこ」「わらべ歌」などを通して、学生自身が子どもになって遊び、「遊び」の重要性を確認する。「遊び」から育まれる資質・能力を学ぶ。	
3	事例を通して「環境を通して行う保育」について学ぶ。中でも、自然環境を活かした保育での保育者の役割を学ぶ。	
4	事例を通して「生活や遊びを通しての総合的な保育」について、５領域の視点から学ぶ。	
5	「保育計画」と「子どもの主体性を尊重する保育」との関連から「子ども理解」を深める。	
6	「園」と「家庭や地域」との間に求められる連携について、事例を通して学ぶ。	
7	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」などを通して、幼児教育と小学校教育を繋ぐ重要性を学ぶ。	
8	保育における「多様性」～「子ども一人一人違う人格を持っていること」を前提とする保育とは何か～を学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	30	授業の出欠状況、積極的な参加態度や学習への意欲について評価する。	レポート	30	毎回授業後の、授業で学んだこと、理解したことの振り返りシートに基づき、評価する。
ワーク	20	積極的かつ協力的にグループ討議を進める姿勢、発表内容などに基づき、評価する。	課題	20	課題の取組姿勢や提出状況、授業内容の理解度などを総合的に評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前に指定された教科書の個所を読む。または、指定された課題を達成させて、授業に臨む。（60～120分） 事後、返却された「振り返りシート」を基に復習する。（60分）	毎回の「振り返りシート」で、コメントやアドバイスを行い、次回授業に返却します。

受講生に望むこと	応答的な授業、教員と学生とのコミュニケーシを図るため、活発なリアクションを期待します。	教科書・テキスト	「保育内容概論」汐見稔幸（監修）大豆生田啓（監修・編著）北野幸子・佐上史子（編著）（2025年3月・ミネルヴァ書房発行）ISBN978－４－623－09690－９
指定図書／参考書等	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領（2017年）	その他・特記事項	授業中のスマートフォン使用は、教員の指示ある時のみ可。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	保育内容・健康指導法			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	桑田　千代						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
幼稚園教育要領に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。具体的には子どもにとっての心身の健康とはどのような状態を指すのか、その特徴と意義を理解する。 また、身体的・精神的・運動的側面の発達過程や基本的な生活習慣の特徴について大人との相違点を踏まえながら、その違いが指導法にも関連していることを理解する。	幼稚園教育要領　領域「健康」のねらいと内容について理解を深めることを到達目標とする。幼児の健康に関する知識を習得し理解を深めるとともに、事例を活用しながら一人ひとりの個別性を考慮した上で、子どもの発達を踏まえた適切な援助や指導法、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

教授方法	対面授業による講義、模擬授業、グループディスカッション、グループワーク、個人によるワーク、課題
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	領域「健康」のねらいと内容、内容の取扱いについて理解する。	
2	子どもの身体の特徴と生理的機能の特徴について理解する。	
3	子どもの発達の概要とその援助について理解する。	
4	子どもの運動発達・体力とその援助について理解する。	
5	乳幼児期の病気やけがの特徴とその予防について理解する	
6	乳幼児期に日々の遊びを通して健康習慣を身につける方法について理解する	
7	子どもの運動（身体的特徴）について理解する	
8	基本的生活習慣とその指導について理解する（睡眠）	
9	基本的生活習慣とその指導について理解する（食事）	
10	基本的生活習慣とその指導について理解する（排泄・衣服の着脱）	
11	基本的生活習慣とその指導について理解する（清潔）	
12	実際の子ども達の映像から子どもの姿をイメージし、具体的に想定した基本的生活習慣に関する指導案を作成する。	
13	基本的生活習慣に関する模擬保育。振り返りと評価を踏まえた学び合いから、幼児の基本的生活習慣の指導について考える。	
14	幼児の特性と起こりやすい事故について理解する。	
15	保育現場における安全管理と安全対策の実際について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題	20	基本的な内容を理解しているか。	レポート	20	課題に対して独りよがりな思いに終始することなく、基本的な内容を踏まえて考えを述べているか。
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢。	模擬授業	30	①健康に関する基本的理解がされているか。 ②模擬授業に向けた丁寧な準備がされていたか。 ③正しい知識が子どもたちに伝えられているか。 ④具体的な子どもの姿を想定しているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書を読み授業に備える[20分] ②授業で配布した資料を読む[20分] ③子どもの健康に関するニュースや新聞記事に目を通し理解を深める[60分]	課題及びレポートは理解度の把握に利用し、次週以降の授業の中で振り返りと確認を必要に応じて行う。

受講生に望むこと	子ども達が様々な活動に自ら積極的に取り組み、楽しむためには健康であることが重要です。子ども達の心身の健康に関する基本的な知識を学び理解するとともに、一人ひとりが違う環境で育っていることを念頭に置いた上で、自分が子ども達の前に立った時「自分ならどうするか」を常に考えながら受講してほしい。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814499 演習　保育内容健康―大人から子どもへつなぐ健康の視点、井狩芳子著、萌文書林、2018年、ISBN：9784893472755
指定図書／参考書等	関連図書や関連記事は授業の中で随時提示またはプリントを配布する。	その他・特記事項	健康とは「病気でないこと」ではなく、心も身体も満たされている状態であることを理解してもらう。

実務経験を活かした授業の概要

看護師として、養護教諭として、保育士として、幼稚園教諭として、また教育者としての経験を活かし、福祉事業の現場で起こっている現状を事例も交えながら実践的な授業を行う。

授業科目名	保育内容・人間関係指導法			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	谷　昌代						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
「領域　人間関係」は非認知能力として注目される内容が多く含まれ、幼稚園教育要領の「幼児期に育ってほしい姿」にも具体的な姿が多く示される領域である。本科目では、模擬保育でのロールプレイを通じて「領域・人間関係」に関わる子どもの心の動き、保育者の心の動きを疑似体験し、「領域　人間関係」に関連するテーマと概念について理解を深め、保育者の協働を体験する。振り返りでは、同一場面において異なる多様な感覚や感情、思考が生まれていることに気付き、子どもの遊ぶ姿に学びを読み取る感覚を掴む。更に振り返りで深めた体験から子ども一人一人の姿を予想する力、指導を構想する力を養う。	①幼児の興味、考え方、行動、言葉を丁寧に見て、その意味を考え、指導計画につなげようとする。 ②模擬保育とその振り返りを通して「領域　人間関係」に関わる幼児の実際の生活体験を想像し、幼児の心の動きに沿った教材の活用法を工夫できる。 ③模擬保育とその振り返りを通して「領域　人間関係」に関わる指導の特性を理解し、具体的な保育場面を想定して指導計画を作成することができる。 ④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点と姿勢を身に付けている。 ⑤乳幼児期の人との関わり、コミュニケーションの発達のポイントを理解している。 ⑥乳幼児をめぐる今日的環境が潜む危険性について理解している。

教授方法	模擬保育・ロールプレイ・討議・発表・講義
履修条件	

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「領域　人間関係」の概説。教材準備と指導計画作成を含む模擬保育と授業外活動となる乳幼児の人間関係エピソード収集について、方法と目的を理解する。[模擬保育担当グループの決定]	
2	子どもになって遊ぶ①：自身の心の動きをとらえる。振り返りを通じて同じ場面での遊びにおいて多様な心の動きと行動が発生していることを知る。キーワード：「共に過ごす」	
3	子どもになって遊ぶ②：2人で遊ぶ、3人で遊ぶ、多数で遊ぶ等、状況を変化させ、子どもの遊びにおける他者の存在について考える。キーワード：「友達」「自己発揮」 指導計画①：「モノ・人・コト」と出会い関係性が生まれることについて考え、指導計画を立案する。	
4	指導計画②：異年齢との関わりが深まる活動を指導計画として立案する。「相手の気持ちを考える」「自分が役に立つ喜び」について考える。	
5	幼児の姿の読み取り①：「自分で」が起こる遊びを準備し実践する。自己主張・自我について考える。	
6	幼児の姿の読み取り②：「やり遂げようとする気持ち」が起こる遊び。達成感・自信について考える。	
7	模擬保育①：「伝える・気づく」が起こる遊び。自己発揮・自己抑制について考える。	
8	模擬保育②：「協力」が起こる遊び。協同・充実感について考える。	
9	模擬保育　：「よいことや悪いことがあることに気づく」遊び。異なる視点について考える。	
10	模擬保育④：「思いやり」が生まれる遊び。共感・心の理論について考える。	
11	模擬保育⑤：「ルールをつくる」遊び。道徳性・規範意識について考える。	
12	模擬保育⑥：「共同の」を感じる遊び。公共心について考える。	
13	社会生活における人々との多彩な出会いが地域の幅広い人々に対する「親しみ」をもつようになる活動を指導計画として立案する。乳幼児と地域とのつながりについて考える。	
14	3歳未満児の人間関係のエピソードから、0歳から3歳までの人間関係の発達を知る。	
15	3歳以上児の人間関係のエピソードから、3歳から就学までの人間関係の発達を知る。 まとめ　[授業内　小テスト]	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
模擬保育	40	遊びのプランの作成・遊びの工夫・独創的な教材・遊びの提示と展開	小テスト	30	「領域　人間関係」キーワードと関連する基礎的概念の理解・エピソードからの読み取り・遊びのプランの作成
課題	30	エピソードの内容・エピソードの記述記載方法・収集した資料の整理の仕方（丁寧にまとめられている）・適切な資料を基に調べたり、自身の考えをまとめられている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・キーワードについて保育関連の事典、心理学の辞書で調べること[40分程度] ・模擬保育の実践に向けて計画、教材作り等グループでの事前準備［時間をかけて取り組む］ ・模擬保育の実践後の記録・振り返りを中心に各授業回に設定される課題について[60分程度] ・エピソードの収集[適宜]	提出されたレポート内容や模擬保育の指導案について、次回（以降）の授業においてに反映させる。

受講生に望むこと	・子どもになって遊べるスタイルで授業に参加すること。 ・教材の材料となるものを身近に見つけ収集しておくこと。 ・「子どもの目」に関心を持ち、生活で出会う子どもたちの動きや言葉、視線に関心を寄せること。
教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814482
指定図書／参考書等	なし／　『遊びづくりの達人になろう！子どもが夢中になってグーンと成長できる　※歳児の遊び55』（5歳児・4歳児・3歳児の全巻） 竹井　史　編著　明治図書出版　2011年
その他・特記事項	・授業内容及び課題等をClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

幼稚園教諭、保育教諭の経験をもとに、学生たちが模擬保育（保育者・子ども）を通して体験していることを、実際の保育場面における子どもの姿と照らし合わせながら、実践後の講義の中で紹介している。

授業科目名	保育内容・表現指導法			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	武田　恵美・鷲山　靖　（代表教員　武田　恵美）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
幼稚園教育要領に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。身体表現、音楽表現、造形表現に関する理解を深めるとともに、子どもの発達を踏まえた適切な援助や指導法を学び、具体的な指導場面を想定して、保育を構想する力を身につける。また、情報機器及び教材の活用方法を理解し、それらを保育の実践に生かすことについても学ぶ。	幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいと内容について理解する。 幼児の表現に関する知識を習得し、理解を深めるとともに、子どもの発達を踏まえた適切な援助や指導法を学び、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。

教授方法	対面授業およびオンデマンドによる講義と演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	子どもにとっての表現とは（1） 子どもの表現を自己実現やコミュニケーションの視点から捉え、その意義と保育者の関わりや環境構成について理解する。	武田
2	子どもにとっての表現とは（2） 子どものイメージが表出・模倣を経て表現へと発展していく過程を、子どもの表現の特質を踏まえて理解する。	武田
3	発達と子どもの表現 子どもの発達と表現との関係を、発達の特徴や個人差を踏まえて理解する。また、保育内容の構造について、領域「表現」に焦点を当てて理解する。	武田
4	領域「表現」の変遷（1） 「幼稚園教育要領」の変遷から領域「表現」について考える。幼児教育において育みたい資質・能力および「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解する。	武田
5	領域「表現」の変遷（2） 「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の変遷と内容について理解する。また、領域「表現」の成立および改訂（改定）の概要について理解する。	武田
6	領域「表現」とは（1） 乳児期から3歳以上児の、発達段階に応じた領域「表現」の「ねらい」を理解する。また、発達に応じた表現の育ちと保育の関わりについて考える。	武田
7	領域「表現」とは（2） 領域「表現」の「内容」、「内容の取り扱い」を理解する。また、領域「表現」の指導および指導における留意点について考える。	武田
8	子どものさまざまな表現を探る（1） 子どもにとっての身体表現・音楽表現の意味について理解する。また、子どもの発達、保育者の受容、子どもを取り巻く現状との関係から表現の特徴について理解する。	武田
9	子どものさまざまな表現を探る（2） 子どもにとっての音楽表現・言語表現の意味について理解する。また、子どもの発達、保育者の受容、子どもを取り巻く現状との関係から表現の特徴について理解する。	武田
10	子どもの主体性と保育者の専門性について考える 一般的な保育実践をもとに、子どもの表現に見られる主体性の捉え方を理解し、子どもの表現を支える保育者の専門的な関わりについて考える。	武田
11	造形活動の指導について、開発主義と注入主義の比較，演習（造形活動）により理解する。	鷲山
12	造形活動の指導について、領域「表現」と学習モデル，演習（造形活動）により理解する。（タブレット等の情報機器の活用を含む）	鷲山
13	造形活動の指導について、フレーベル・モンテッソーリ・シュタイナーの思想比較、演習（造形活動）により理解する。（タブレット等の情報機器の活用を含む）	鷲山
14	造形活動の指導について、レッジョ・エミリア教育と演習（造形活動）により理解する。（タブレット等の情報機器の活用を含む）	鷲山
15	造形活動の指導について、授業の振り返りと小課題により、その理念・歴史・方法の理解を深める。	鷲山

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	振り返りシートの提出状況と内容（武田） 授業への取り組み姿勢（鷲山）	授業で出される課題や発表	50	取り組む姿勢と内容
レポート	20	・講義内容に関するレポート（武田） ・造形活動の指導について、その理念・理論・歴史に関するレポート（鷲山）			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回の授業後に自身で振り返り、不明点を調べてくる[60分] ②次回授業のための課題について準備する[60分]	・コメント又は個別指導をする。

受講生に望むこと	この授業は2名の教員が担当するオムニバス科目である。また、演習科目で系統的に授業が展開する。積極的な授業参加を望む。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814499 『楽しい音楽表現』高御堂愛子，植田光子，木許隆監修・編著、主文社、2017、ISBN:9784874460672. 『うたうソルフェージュ』木許隆監修、主文社、2024、ISBN:9784874460931. 『コードネームとリズムによるBasic and Variations』、木許隆，武田恵美，長井典子編著、主文社、2022年、ISBN:9784874460917.
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	環境			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	谷　昌代						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
「保育内容・環境指導法」での学びと実習等における体験を踏まえて、領域「環境」の内容を深く考察する科目である。保育現場を活用しながら、幼児が身近な環境に関わることで、何と出会い、発見し、考え、それらを取り入れようとしているのかを観察し、エピソード記録や幼児のつぶやきをもとにディスカッションを通して考えていく。 幼児の遊びや生活からは、領域「環境」にとどまらず、他の領域にも広がる資質・能力の育成に寄与するものである。受講生が実際に遊びの体験をはじめ、自ら環境に働きかける体験を基に他の遊びの環境へと発展させ、「環境を通して行う教育」や領域「環境」のねらいおよび内容が示す意義を考察する。これにより、幼児が身近な環境に対して心を動かし、主体的に関わることを促進させるための知識・技能を習得し、実践力の向上を目指していく。	①遊びや生活を通して、幼児の発達に沿った望ましい環境構成や援助について実践的に考察する。 ②遊びや生活の環境構成において、幼児の発達の視点を考慮した適切な教材の研究を行う。 ③幼児の心の動きから主体的な活動へと発展させる環境構成や援助の方法および工夫点についての理解を深める。 ④①②③を通じて、「環境を通して行う教育」および領域「環境」を考察し、実践力を身に付ける。

教授方法	講義、演習
履修条件	「保育内容・環境指導法」の単位を修得済みであること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：幼児を取り巻く環境の変化と幼児教育における「環境」に関する課題について	
2	「環境」を通して行う教育、保育内容「環境」のねらいについて理解を深める 各自のエピソードを領域「環境」の視点から考え、その内容を分析する	
3	子どもの好奇心・探求心を育む環境構成や保育方法について 遊びを通して、幼児の学びを促すための環境づくりについて実践的に考える（1）	
4	思考の発達を踏まえた保育について 遊びを通して、幼児の学びを促すための環境づくりについて実践的に考える（2）	
5	人的環境である教師、保育者たちの関わり、物的環境である保育室、園内環境の在り方 遊びや生活を通して、幼児の学びを促すための環境づくりについて実践的に考える（3）	
6	地域・行事・多文化との関わり 行事と自然との関連性や行事の意義について考え、幼児が多文化に触れていく意味を考える	
7	日常生活において、幼児が数量・図形・標識・文字等に触れる機会を考え、その扱いについても考える 幼児の遊びや生活を通して学ぶ場面の分析より、「幼稚園教育における育みたい資質・能力」および「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と関連づけて理解する。	
8	石・砂・泥を用いた遊び ３・４・５歳児の発達の違いを考慮し、ねらいを達成させるための遊びの環境構成について考察する（1）	
9	植物を用いた遊び ３・４・５歳児の発達の違いを考慮し、ねらいを達成させるための遊びの環境構成について考察する（2）	
10	身近な小動物・昆虫との出会い ３・４・５歳児の発達の違いを考慮し、ねらいを達成させるための遊びの環境構成について考察する（3）	
11	身の回りの素材を活かした保育・教材研究・指導案 「環境を通して行う教育」を実現するための遊び環境モデル（３・４・５歳児）を開発し、教材研究を踏まえて実践的に考察する（1）	
12	自然物をを活かした保育・教材研究・指導案 「環境を通して行う教育」を実現するための遊び環境モデル（３・４・５歳児）を開発し、教材研究を踏まえて実践的に考察する（2）	
13	保育に活用できる教材研究 「環境を通して行う教育」を実現するための遊び環境モデル（３・４・５歳児）を開発し、教材研究を踏まえて実践的に考察する（3）	
14	保育に活用できる教材研究　　発表 「環境を通して行う教育」を実現するための遊び環境モデル（３・４・５歳児）を開発し、教材研究を踏まえて実践的に考察する（4）	
15	まとめ：幼児教育の基本である「環境を通して行う教育」と「身近な環境との関わりに関する領域「環境」」の意義と実践的な課題について	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	授業への積極的参加姿勢や学習に対する意欲について評価する。	ワーク	30	フィールドワークやグループ活動において、積極的に他者と協力しているかどうか、また教材準備や発表の内容および取り組み方に基づき評価する。
課題	20	提出状況、授業内容の理解度、および取り組み方に基づいて評価する。	最終課題	30	授業内容の要点を理解しているかどうかを総合的に評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業の振り返りと予習を行う。［60分］ 次の授業までに各自およびグループで必要な準備（記録、教材、発表、計画など）を行う。［120分］	授業内で適宜コメントやアドバイスを行う。授業内容に関して質問や疑問等がある場合には随時対応する。

受講生に望むこと	分からないことや疑問があればすぐに質問し、実践力の向上を目指して意欲的に受講してほしい。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814475
指定図書／参考書等	『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814499 ／適宜紹介する。	その他・特記事項	受講生の質問や興味・関心、理解度などに応じて、授業形式や内容を変更して実施する可能性がある。

実務経験を活かした授業の概要

幼稚園教諭、園内研修の外部講師としての経験を活かし、幼稚園、保育所、こども園で指導助言者として介入した実践や、幼稚園における様々な事例を紹介し展開する。

授業科目名	健康活動			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	桑田　千代						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
健康は子どもの生活の基盤である。未来ある子ども達が生涯にわたって心身ともに健康な生活を築くために私たちは何をすべきだろうか。この授業では、「保育内容・健康指導法」での学びを踏まえ、幼児の健康な心身の発達や安全に関する理解を更に深めるとともに、保育活動として進めていくための方法を実践的に学ぶ。	①乳幼児の心身の健康に関する園と家庭のあり方や連携について理解する。 ②保育現場において、適切な指導・援助の出来る保育者を目指す。

教授方法	対面授業による講義、プレゼンテーション、模擬授業、グループディスカッション、個人によるワーク
履修条件	「保育内容・健康指導法」の単位を修得済みであることが望ましい（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食事と睡眠に関する基本的生活習慣とその指導について理解する。	
2	排泄に関する基本的生活習慣とその指導について理解する。	
3	清潔に関する基本的生活習慣とその指導について理解する。	
4	衣服の着脱に関する基本的生活習慣とその指導について理解する。	
5	子どもの姿をイメージし、具体的に想定した基本的生活習慣に関する指導案を作成する。	
6	基本的生活習慣に関する模擬保育を行う。	
7	模擬保育における気づきとディスカッションを通して基本的生活習慣に関する保育者の支援、家庭との連携について考える。	
8	子どもの様々な遊びと健康について理解する。	
9	子どもの運動遊びと健康・安全・応急処置について理解する。	
10	実際の子ども達の映像から、子どもの運動遊びの実際と指導について理解するとともに、具体的に想定した運動遊びに関する指導案を作成する。	
11	子どもの運動遊びに関する模擬保育（模擬保育にはデジタルビデオ等を使用する）。振り返りと評価を踏まえた学びあいから、子どもの運動遊びについて考える。また、保育者の役割や家庭との連携についても考える。	
12	保育における安全教育について理解する。	
13	具体的な子どもの姿を想定し、教材やデジタル教材を用いた安全教育に関する指導案を作成する。	
14	安全教育に関する模擬保育、振り返りと評価を踏まえた学びから、幼児の安全教育について考える。	
15	子どもの健康について、これまでの学びを振り返るとともに、現代社会における今日の課題を理解し、保育者の役割と家庭との連携や支援、幼小連携について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
模擬保育	20	①内容を理解しているか ②子ども達にわかりやすく伝える工夫がされているか ③子ども達が生活の中で実践できるような工夫がされているか	レポート	30	課題に対して独りよがりな思いに終始することなく、基本的な内容を踏まえて述べられているか。
課題	20	基本的な内容を理解しているか	授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書を読み、授業に備える[20分] ②授業で配布した資料を読む[20分] ③子どもの健康に関するニュースや新聞記事に目を通し、考えを深める[60分]	課題及びレポートは理解度の把握に利用し、次週以降の授業の中で振り返りと確認を行う。

受講生に望むこと	子ども達にとって健康であることは、様々な活動を積極的に取り組み、楽しむために必要なことである。受講生の皆さんには、子ども達が健康な日々を送るために何が必要か考えるとともに、現代社会が抱える様々な問題点に目を向ける姿勢を持っていただきたい。実習で接した子どもたちの姿や場面を思い出しながら受講していただき授業内容の理解を深めてほしい。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814499 『演習保育内容　健康―大人から子どもへつなぐ健康の視点』、井狩芳子　著、萌文書林、2018年、ISBN978-4-89347-275-5
指定図書／参考書等	関連資料及び関連図書は随時提示またはプリント配布する。	その他・特記事項	子どもにとっての心身の健康とはどのような状態を指すのか理解できるような講義を展開する。

実務経験を活かした授業の概要

看護師として、養護教諭として、保育士として、幼稚園教諭として、また教育者としての経験を活かし、福祉事業の現場で起こっている現状を事例も交えながら実践的な授業を行う。

授業科目名	言葉			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	ポーター　倫子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、子どもの言葉の育ちを支えるための理論と具体的な指導法を学ぶ。言葉を単なる伝達手段としてではなく、子どもの心の育ちや想像の世界と深く関わるものとして捉え、音声言語に加えて表情や仕草、沈黙に表れる内面の言葉にも目を向ける感性を養う。さらに、発達理論の学習に加え、絵本や紙芝居などの児童文化財の実演・制作を通して実践的指導力を高め、不適切な関わりや保育におけるICT活用といった現代的課題についても考察し、保育者に求められる専門性を深める。	1．乳幼児期の言葉の発達過程と、領域「言葉」のねらい・内容を理解する。 2．子どもの「心の言葉」を汲み取り、受容的・応答的に関わる重要性を理解する。 3．絵本、紙芝居、物語（ファンタジー）などの児童文化財の特性を知り、保育実践において適切に選択・活用・制作できる能力を身につける。 4．自身の言葉かけや関わりを振り返り、肯定的な援助や環境構成を計画・実践する基礎的な力を養う。

教授方法	講義、教材作成と実演、ロールプレイ
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション・言葉の意義 人間における言葉の役割と、子どもの心の言葉に「耳を澄ませる」保育者の姿勢について学ぶ。	
2	子どもの言葉の発達過程 乳幼児期の言葉の発達（前言語期から話し言葉、文字への関心まで）と個人差について理解する。	
3	領域「言葉」のねらいと内容 幼稚園教育要領、保育所保育指針等における領域「言葉」の位置づけと内容を理解する。	
4	言葉を育む環境と保育者の援助 人的環境（保育者の応答的な関わり）と物的環境の構成について学ぶ。「不適切な保育」を防ぐ肯定的な言葉かけについて考える。	
5	言葉と生活・遊び 生活場面や遊び（ごっこ遊び等）の中で育つ言葉と、指導計画の立案方法について学ぶ。	
6	特別な配慮を要する子どもへの支援 言葉の発達に課題がある子どもや、日本語を母語としない子どもへの支援と多文化共生について学ぶ。	
7	【演習】 児童文化財の特性と活用1（言葉遊び・わらべうた） 言葉のリズムや響きを楽しむ「わらべうた」「言葉遊び」の実践と指導法を学ぶ。	
8	【演習】 児童文化財の特性と活用2（絵本・読み聞かせ） 絵本の特性、選び方、読み聞かせの技術について学ぶ。絵本の構造を理解し、制作課題の導入を行う。	
9	【講義・演習】 物語とファンタジーの世界 ファンタジー（空想）の世界を楽しむ子どもの心理と、「行って帰りし物語」の構造について学ぶ。	
10	【課題制作】 オリジナル絵本・紙芝居の作成 子どもの言葉を豊かにするオリジナル教材（絵本、紙芝居等）の構想・プロット作成を行う。ファンタジー要素をどう取り入れるか検討する。	
11	【演習】 表現を楽しむ（劇遊び・シアター） イメージを共有し、身体と言葉で表現する劇遊びやパネルシアター等の指導法を学ぶ。物語の世界を演じる楽しさを知る。	
12	【討議】 現代社会とICT・メディア活用 現代の子どもを取り巻くメディア環境（スマホ育児等）と、保育におけるICT機器の有効活用について、ディスカッションする。	
13	制作課題の発表 作成したオリジナル絵本や教材の実演・発表を行う。学生同士で良い点や改善点をフィードバックし合う。	
14	小学校教育との連携・接続 幼児期の「言葉」と小学校国語科との連続性、「架け橋期」の指導について学ぶ。	
15	まとめ：言葉を育む保育者とは 全体の振り返り。子どもの「心の言葉」に耳を澄ませ、豊かな言葉の環境となる保育者像を再確認する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加	30	授業への積極的な参加態度、リアクションペーパー、ディスカッションでの発言内容。	課題制作	20	オリジナル絵本（または紙芝居・パネルシアター等）の完成度。
レポート	50	期末レポート・小レポート、ルーブリックに基づいて評価			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
【事前学習】 各回のテーマに沿って、テキストの指定された章の「事前学習（Work）」に取り組むこと（30分）、【事後学習】 授業で得た知識を基に、テキストの「事後学習」の課題に取り組むこと（30分）。	通常、１週間以内に採点やフィードバックを行います。

受講生に望むこと	本授業では、言葉への感性を磨き、子どもの表情や沈黙に表れる「心の言葉」に耳を傾ける姿勢を身につけることを望む。あわせて、自身の関わりを常に省察し、子どもを尊重する専門的視点に基づいた保育を探求してほしい。また、絵本などの教材研究にも主体的に取り組み、その過程を楽しむ姿勢を大切にしてほしい。	教科書・テキスト	仲本美央・吉永安里編『保育内容「言葉」と指導法 子どもの心の言葉に耳を澄ませて』萌文書林　ISBN 978-4-89347-442-1
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	人間関係			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	谷　昌代						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の「領域　人間関係」の内容の理解を深める演習科目である。 ①保育実践例（エピソード・クラス便り・連絡帳等より）を取り上げ、その中で子どもの心や他者との関係性の読み取りを中心に考察し、安心、安定した人間関係について考える。②遊びやゲームを体験し、自己の心の動きや他者との感じ方の違いに気付き、幼児の仲間集団における人間関係の捉え方を学ぶ。③遊びやゲームによる人間関係の発達支援や保育における個別支援の在り方を学ぶ。④『森の幼稚園・こども園』や地域の子育て支援の場に参加し子どもの姿からを子どもの思いを捉える。また、保護者の思いに触れ、子育て支援の在り方を考える。 ※SDGs目標番号11関連科目	①保育実践資料を通して、子ども達が「人間関係」を育んでいく過程で表す様々な姿を読み取り、どのように受け止めるか、行動の背景や意味を考えることができる。 ②遊びやゲームを通して、自己や他者の行動・心を捉えることができる。 ③「領域　人間関係」に関わるねらいを持った指導計画を考え、そのための環境構成を考えることができる。 ④子ども同士・保育者と子ども・保護者と子ども・地域と子ども等、保育実践における関係性のアセスメント及びプランニング、他機関との連携の持ち方を知る。

教授方法	講義・保育資料を用いた事例検討・遊び、ゲームの立案、作成、体験活動
履修条件	「保育内容・人間関係指導法」を履修していることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	現代の人間関係に関わる諸問題：履修者による実習を含む、実体験から人間関係に関わるエピソードを紹介し、今後深めていきたい課題について考えていく。	
2	乳児期の人との関わりの発達について（1）：「愛着形成」を中心に考える。	
3	乳児期の人との関わりの発達について（2）：「共同注意」の獲得により乳児の生活がどのように変わるのか学ぶ。	
4	幼児期前期の人との関わりの発達について：3歳未満児のエピソードから「言葉で伝わること」と「言葉以外の方法で伝わること」について考え、相手を「理解する」ことについて深める	
5	乳幼児のモノ・ヒト・環境との出会い、関わり方を捉える。	
6	コミュニケーションについて考える。	
7	ノンバーバルでルールのある遊びを遊んでみる。自分の心と周りの人の思いを捉えることの難しさを知る。遊びによって他者についての見え方が異なることを知る。［体験］	
8	ノンバーバルでの遊びを通じて「一緒に遊ぶ」ことの意味を考える。	
9	幼児期後期の人との関わりの発達について：エピソードにより「集団参加」の観点から考える。	
10	幼児期の仲間関係の捉え方について：エピソードにより子ども同士の「関係性」を読み取る。	
11	環境や素材の変化は子ども達の人間関係に影響をもたらすのか考える（1）：自然体験活動等、参加体験（可能であれば）	
12	環境や素材の変化は子ども達の人間関係に影響をもたらすのか考える（2）：保育室、戸外遊びにおける環境の違いから	
13	特別な配慮が必要な子どもを含んだクラスにおける「人間関係づくり」（1）：生活・自由遊びを中心に考え	
14	特別な配慮が必要な子どもを含んだクラスにおける「人間関係づくり」（2）：設定による活動を中心に考える。	
15	領域「人間関係」：地域社会・小学校とのつながりを考えて、支え合う関係、連携の在り方を探る。 ［授業内　小テスト］	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	①授業内で行われる遊びやゲーム、その他体験活動に対して真剣に準備し取り組んでいる。 ②毎回、討議時間を設けるので、積極的に参加している。	課題	30	①提出状況　②与えられたテーマに沿って学習が進められ、適切にまとめられている。
小テスト	30	様々な人間関係に関わる出来事の対応を基本事項、発達に基づいて考えることができる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①実習を含む資料や自身の体験から、人間関係に関わるエピソードを収集しておくこと。［30～60分程度］ ②「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」の「人間関係」項目について読み、用語の確認をしておくこと。［30～60分程度］ 期間中出題される2つの課題について資料等を参考にしながらレポートを作成する。（調べる、まとめる、長時間かけて取り組む）［60～120分程度］	・授業内の討議の中でコメントする。

受講生に望むこと	・演習（遊び・ゲーム等）の際には子どもになって遊べるスタイルで授業に参加すること。 ・教材の材料となるものを身近に見つけ収集しておくこと。 ・「子どもの目」に関心を持ち、生活で出会う子どもたちの動きや言葉、視線に関心を寄せること。	教科書・テキスト	・『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2008年 ＩＳＢＮ978―4―577―81245―7 ・『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館 2008年ＩＳＢＮ978－4－577－81242－6 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2015年ＩＳＢＮ978－4－577－81373－7
指定図書／参考書等	なし／必要に応じて資料等配布する	その他・特記事項	・個人情報を含む資料を用いるため、充分取り扱い、行動に注意すること。（学外での参加体験等含む） ・一部学外体験の可能性があり、日程調整のため学習内容の順序変動があることを理解いただきたい。 ・課題をClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

幼稚園教論、保育士等の経験から子どもの関係の具体例を提示する。ヒトと関わりながら生きていることを学生自身が幼少期からのエピソードや実習記録、保育場面のビデオ分析等を中心に捉えて話し合う。、個・集団・仲間などの捉え方を実際に学生自身が遊びや体験を通して学ぶ機会を提供している。

授業科目名	表現			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	上田　ますみ						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
『保育内容・表現指導法』の学びを踏まえ、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における領域「表現」のねらい及び内容についての理解を深め、子どもの感性や表現する姿、教師の役割等について学ぶ。事例や実際の保育を観察参観、グループワーク等を通して、子どもの表現する姿を見とり、その姿を支え育む保育について考え、実践につなげる基礎を築く。	①領域「表現」のねらい及び内容を理解し、子どもの表現を育む環境や教師の援助について具体的に考えることができる。 ②子どもの具体的な姿を領域「表現」の視点から捉え、子どもの表現を受容したり、共感したりすることができる。 ③表現することの楽しさを実感すると共に、他者の表現を受け入れ、より豊かな表現につなげていくことができる。

教授方法	講義・グループワーク・保育観察参観
履修条件	『保育内容・表現指導法』の履修済が望ましい（単位未習得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：今後の授業の流れ、受講方法等を知る。 領域「表現」について、これまでの学びを振り返る。	
2	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における、領域「表現」のねらい及び内容の全体構造を理解する。	
3	事例（5歳児の事例を中心に）から、領域「表現」を視点に子どもの姿・学び、教師の役割を考える。	
4	事例（3歳児の事例を中心に）から、領域「表現」を視点に子どもの姿・学び、教師の役割を考える。	
5	領域「表現」の視点から、実際の保育（したい遊びの場面）を観察参観する。	
6	領域「表現」の視点から、実際の保育（クラス活動の場面）を観察参観する。	
7	グループワーク（劇づくり）の計画を立てる。	
8	グループワーク（お面づくり、ストーリーづくり）を行う。	
9	グループワーク（小物づくり、劇の練習）を行う。	
10	グループワークの成果を発表し、学びを共有する。	
11	領域「表現」の評価について考える。	
12	行事「表現会」に取り組む子どもの姿（4歳児、5歳児）、教師の役割を観察参観する。	
13	行事「表現会」に取り組む子どもの姿（満3歳児、3歳児）、教師の役割を観察参観する。	
14	領域「表現」と行事について考える。	
15	前回参観時との変容に注目しながら、行事「表現会」に取り組む子どもの姿、教師の役割を観察参観する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢、態度、課題への取り組み方や積極性を重視する。	振返りシート	40	授業内容を理解し、自分なりの考えを記しているか。
グループワーク	40	グループワークに積極的に取り組んでいるか。 協同的にグループワークに参加しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回の授業後に自分で振返り、課題を見つける。【30分】 ②次時の授業の課題について、自分なりに考えて準備をする。【30分】	毎回の授業における振返りシートにコメントをつけ、次回の授業に返却する予定である。

受講生に望むこと	ディスカッションやグループワーク等に積極的に参加したり、自分の課題を見つけたり等、主体的に取り組んで欲しい。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』　文部科学省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』　厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』　内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814499
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	使用施設の関係により、人数制限を設ける場合がある。 授業内容及び日程については変更の場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

幼稚園及び小学校での実践経験を活かし、具体的な実践事例や保育観察参観等を通して、表現の視点から子どもの姿や学び、教師の役割を考える授業を行う。

授業科目名	教職実践演習（幼保）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊・谷　昌代　（代表教員　齊藤　英俊）						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
１年次から学修してきた「幼児・子ども教育」についての総括的な科目が本科目である。特に、保育・教育実習を終えることにより、保育の現場・幼稚園の教職課程の全課程（本科目を除く）を履修したことになる。そのため、これまで（３年半）の学修で保育士・教育者としての力がどの程度身に付いたかを演習によって確かめる。その過程で、自分に足りない力や伸ばすべき力を明確にしていく。さらに、その力をどうやって身に付けていくか演習などを通して考えていく。このように、保育士・教育者として必要な力について継続的、かつ、実践的に取り組む。	①保育実習・教育実習を振り返りながら、自己のどのような力が発揮できたか明確にすることができる。 ②保育の現場・幼稚園の教職課程における学びを履修カルテによって振り返ることができる。 ③自己が身に付けるべき力についてボランティア活動などを通して実践的に取り組んでいくことができる。 ④必要な力（幼児・子ども理解力、環境構成力、対人関係能力、学習指導力、自己啓発力など）をどのように高めていくかについて考えることができる。 ⑤保育者・教育者を目指す上で必要な力としてどんな力があるか知る。

教授方法	演習
履修条件	保育士資格取得・教員免許状取得に必要な教育実習を含む全科目（本科目を除く）の単位を修得し、保育士資格取得・教員免許状取得見込みであること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の概要・目的・評価方法を知る／教育実習の振り返り：保育実習・教育実習ノートをもとに、必要だと感じた保育士・幼稚園教諭、保育教諭としての資質を考えてみる。	全員
2	実習ノートをもとに実習中に発揮できた力を洗い出し、その到達度について考えてみる。	全員
3	保育者・教育者を目指す上で求められる力にはどんなものがあるか、その力をどのように高めていくかについてレポート（レポート①）を作成する。	全員
4	作成したレポートをもとに、保育士・幼稚園教諭、保育教諭としての資質・到達度・課題と解決方法について、グループ別に発表する。	全員
5	カリキュラムマップの計画と作成：履歴カルテによる学びのふり返りとカリキュラムマップ作成の見通しを持つ。そして、どのように構造的に表すか計画し、作成する。	全員
6	カリキュラムマップの完成と発表：おおかた作成してあるカリキュラムマップに「自己の課題」を補足して完成させる。そして、グループ内でお互いに発表し、相互評価する。	全員
7	自己の課題の達成状況：カリキュラムマップをもとに「自己の課題」についての達成状況をレポートするためのルーブリックを参照しつつ、レポート（レポート②）を作成する。	全員
8	全体学修：作成したレポート①または②の内容についての発表会（代表学生）。	全員
9	保育・教育現場への参加：保育の現場・幼稚園における今日的課題について各自で整理する。※ボランティア活動に代替することも可。	全員
10	今日的課題の探究１：深めたい今日的課題：前回整理した内容を紹介しながら、今後、討論を深めていきたいことを明確にし各自で調べてレポート（レポート③）を作成する。	全員
11	今日的課題の探究２：前時に各自で調べたことをもとに校種別グループで討論する。校種混合による新たなグループをつくり、レポート内容を紹介し合う。	全員
12	保育実習・教育実習の経験やカリキュラムマップや今日的課題とその解決方法をもとに、「つけたい力」を考えてみる。	全員
13	4年間の集大成として、過去のレポートをもとに、「つけたい力」をまとめレポート（レポート④）を作成する。	全員
14	作成したレポートをもとに、グループ別に発表する。	全員
15	全体学修：作成したレポート③または④の内容についての発表会（代表学生）。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート①②③④の4回分	60	課題に即して書いている。	全体学修メモ（2回分）	20	発表者の内容を理解している。
授業態度	20	ディスカッション等に積極的に参加している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各年次の「履修カルテ」に必要事項を記入し、自己の課題を見出す。［30分］ ②「実習ファイル」（保・幼）の記入内容を確認し、「できたこと」「できなかったこと」を明確にする。［30分］ ③カリキュラムマップを完成させるために自己の時間を見つけて取り組む。［60分］ ④学外学習（保・幼訪問など）には事前に学習課題を設定して臨み、事後に課題整理する。［60分］	各担当の教員が講義中に指示する「レポート①②③④」に取り組み、期限までに担当教員に提出する。※「カリキュラムマップ」は栄光祭の際、教育学部ブースで展示する可能性がある。

受講生に望むこと	保育者、教育者を目指して最後まで意欲的、主体的に授業に臨むことを期待する。	教科書・テキスト	なし（資料は適宜配付する。）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	・「実習ファイル」（保・幼），「履修カルテ」、『学生要覧2023』を携行して臨むこと。 ・レポート課題はClassroomに投稿・提出してもらうことがある。

実務経験を活かした授業の概要

谷：乳幼児を取り巻く環境、子育て支援等保育、教育についての諸問題に学生自身が課題意識を持ち、仲間との活動や討議を重ね学びを深めていく機会を提供する。その中で多様な考えに触れ、自身の子ども観や保育観への気付きとなることに期待したい。

授業科目名	児童文学			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	中島　賢介						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は、明治期以降の日本における児童文学を、定義、諸分野、歴史的流れといった視点から概観する。また、作品を輪読したり、精読したりすることでそれらが持つ特性や魅力について考察し、日本児童文学史上における位置づけと意義を明らかにする。また、受講生同士が毎回のブックトークを通して児童文学をより身近に感じ親しむ。なお、授業の中で児童文学とキリスト教との関連についても触れる。	①明治以降の児童文学の流れを理解し、分かりやすく説明ができる。 ②児童文学作品に対する調査研究の方法を修得する。 ③児童文学作品の持つ特徴や作品価値について、分かりやすく説明ができる、を掲げる。

教授方法	講義、ディスカッション、研究発表
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要説明、序章　児童文学の定義について理解する。	
2	子どもの本の分類について、形式別、対象年齢別、ジャンル別に理解する。	
3	英米の子どもの本の歴史について、当時の時代背景や「子ども観」を中心に理解する。	
4	日本の子どもの本の歴史について、特に明治以降の子どもの本の歴史を概観する。	
5	伝承から子どものための物語への変遷について理解する。神話・伝説・昔話それぞれの特徴を把握する。	
6	ファンタジー（空想と魔法、架空の世界）について、ファンタジーの描かれ方の違いについて理解する。	
7	児童文学のリアリズム（日常、家族、学校、友情、人生）について理解する。	
8	冒険物語（探索、試練、挑戦、救出、サバイバル）について理解する。	
9	歴史物語（歴史上の事実を重視し、過去を再現することを目的とした作品）について理解する。	
10	ノンフィクション（事実に基づいた作品）を概観し、分野別に理解する。	
11	子どものための詩（わらべうたから現代詩）について理解する。	
12	読んでおきたい古典を読み、保育者・教育者が読むことの意義を理解する。 欧米以外の世界の児童文学について理解する。	
13	児童文学が戦争と平和をどのように描いているかを理解する。	
14	幼年文学とYA文学について、作品の特徴と内容について理解する。	
15	まとめ：各自が研究した内容について発表する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢と態度	レポート	50	毎回の授業に関する考察が文章で表現しているか。
研究発表	30	自分で選んだ作品作家について研究した内容を口頭で表現しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回の課題作成【30分】 研究発表の準備と振り返り【120分】	個別の質問やコメントについては個別に回答し、全体で共有すべき内容については授業の中で触れる。

受講生に望むこと	この授業を児童文学作品を読み、子どもと物語世界に親しんでほしい。	教科書・テキスト	「児童文学の教科書　改訂新版」川端有子　玉川大学出版部　2025年　（ISBN：9784472406430）
指定図書／参考書等	なし／「今こそ読みたい児童文学100」赤木かん子　ちくまプリマー新書214　2014年　（ISBN:4480689176）、「アプローチ児童文学」関口安義編　2008年　（ISBN:4877372571）	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育の方法・技術（幼栄）			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
「子どもは環境で育つ」と言われます。そして、環境はヒト・モノ・コトに大別することができます。これらは子どもの育てるための方法、すなわち、教育の方法にもなります。そこで、幼児や児童に対する教育方法について、物的環境、人的環境、社会的環境、さらにICT環境から学びます。。履修生は幼稚園教諭、栄養教諭の免許状取得を希望する学生なので、幼稚園や小学校の子どもたちの教育の方法や技術について理論だけでなく、実際に教材を作ってみましょう。とりわけ、幼稚園や小学校ではICTを活用した教育の方法も見られるので、履修生自らがICTを使って教材を作ることにもチャレンジしてみましょう。	①子どもの学びの場の始まりとしての幼稚園の教育方法の基礎理論や歴史について理解している。 ②子どもの育ちにはさまざまな環境が影響することを理解している。 ③「生きる力」「主体的・対話的で深い学び」について理解している。 ④アフォーダンスやシグニファイアの理論を用いて手作り教材を考えることができる。 ⑤ICTを活用した幼児教育、食に関する教育の教材を作成することができる。

教授方法	講義・演習
履修条件	幼稚園教諭一種免許状の取得を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業の概要、到達目標、授業計画、評価計画、使用テキスト）／２つの学科が一緒に学ぶ理由（本科目では、幼児期と児童期の子どもを対象とする。子どもの育ちには「幼児教育」とともに「食に関する教育」も重要である。これらのことを共通理解する。）	
2	幼稚園の目的（現代的な幼児教育を作り出したことで有名なフレーベルの教育思想と教育方法について学び、フレーベルが使った幼稚園の目的について理解する。）	
3	幼稚園教育の方法（日本における幼稚園教育の方法である「環境を通して行う教育」の考え方について理解する。）	
4	子どもとモノとの関係（子どもが周囲のさまざまなモノと適切に関われるよう、子どもとモノlとの関係に焦点化して考える。）	
5	「環境」とは何か（子どもの経験を理解するためのアフォーダンス、環境との関わり方を示すためのシグニファイアについて知り、手作りのアフォーダンス教材、または、シグニファイア教材を考える。）【教材作成Ａ】	
6	手作り教材の作成と紹介（前時で考えたアフォーダンス教材、または、シグニファイア教材を作成し、お互いに見合う。）	
7	子どもの育ちと社会的環境（子どもの周囲にある社会的環境に着目し、地域社会を中心とした子どもの育ちについて考える。）	
8	「生きる力」とカリキュラム・マネジメント（幼稚園教育と「生きる力」、食に関する指導と「生きる力」について考え、そのための方法としてのカリキュラム・マネジメントについて知る。）	
9	「主体的・対話的で深い学び」（幼稚園教育における「主体的・対話的で深い学び」、食に関する指導における「主体的・対話的で深い学び」について考える。）	
10	ICTの活用（幼稚園や小学校におけるICT活用の意義について考える。）	
11	情報活用能力の必要性（情報社会の進展に主体的に対応できる子どもを育むためのあり方について考える。）	
12	教材の計画（ICTを活用した幼児教育、食に関する授業のための教材をフラッシュ型教材の観点から計画する。）【教材作成Ｂ】	
13	教材の作成（計画に基づきフラッシュ型教材を作成し、完成させる。）	
14	教材発表会（フラッシュ型教材を完成させ、お互いに見合う。）	
15	学習のまとめとレポート（これまで学んだ内容の要点を整理し、レポートする。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	30	教育の方法や技術について理解している。	教材作成Ａ	25	アフォーダンス教材、または、シグニファイア教材の要件に合う教材を作成している。
教材作成Ｂ	25	フラッシュ型教材の要件に合う教材を作成している。	授業態度	20	意欲的に授業に臨み、グループワークでは積極的に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。［30分］ ②幼稚園や小学校の教育方法に関しインターネット等で調べる。［30分］	①小レポートについての質問に応じる。 ②作成した教材について講評する。

受講生に望むこと	幼稚園、小学校において「どのような教育の方法が採られているか」の意識で受講してほしい。	教科書・テキスト	『幼児教育・保育のための教育方法論』，垂見直樹・池田竜介編著，ミネルヴァ書房，2021年出版，ISBN978-4-623-09091-4
指定図書／参考書等	なし／『幼稚園教育要領解説』文部科学省2018年，ISBN978-4-577-81447-5、『小学校学習指導要領』文部科学省2017年,ISBN978-4-491-03460-7	その他・特記事項	小レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	国語			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	中島　賢介						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
小学校学習指導要領の国語科の目標各項の理解や教育の内容の基礎的な理解を図るとともに、言語活動例の体験的な学びを通して小学校教諭および幼稚園教諭としてふさわしい言語感覚や国語力を高める。 ※SDGs目標番号4関連科目	①日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようになること。 ②日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 ③言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 ④小学校学習指導要領国語を正しく理解し、教育や保育活動に活用することができる。

教授方法	講義、言語活動、グループ活動、フィールドワーク
履修条件	幼稚園教諭の教職課程登録者に限る

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要説明、進め方、課題等の説明を聞き、授業への見通しを持つ。	
2	学習指導要領改訂の要点及び国語科改訂の要点、国語科の目標について解説などを参考に理解する。	
3	「話すこと・聞くこと」領域について　（1）目標について解説などを参考に理解する。	
4	「話すこと・聞くこと」領域について　（2）指導事項について解説などを参考に理解する。	
5	「話すこと・聞くこと」領域について　（3）言語活動例について、実際に体験することで理解を深める。	
6	「書くこと」領域について　（1）目標について解説などを参考に理解する。	
7	「書くこと」領域について　（2）言語活動例について、実際に体験することで理解を深める。	
8	「書くこと」領域について　（3）指導事項について解説などを参考に理解する。	
9	「読むこと」領域について　（1）目標について解説などを参考に理解する。	
10	「読むこと」領域について　（2）指導事項について解説などを参考に理解する。	
11	「読むこと」領域について　（3）言語活動例について、図書館の持つ機能などを深く理解する。	
12	我が国の言語文化について　（1）映像番組を基にして、伝統的な言語文化について理解を広げる。	
13	我が国の言語文化について　（2）書写や読書に関して、体験的に理解を深める。	
14	我が国の言語文化について　（3）俳句や短歌を実際に創作することで理解を深める。	
15	我が国の言語文化について　（4）創作した俳句や短歌を、句会・歌会を実施することで披露し互いに批評する機会を持つ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	授業内容の基本的な理解や知識を習得しているかを評価する。筆記試験の詳細については授業内で指示する。	事前事後レポート	30	事前にこれから学ぶ事項を整理している。 事後に学んで理解したこと、考えたことなどについて表現している。
授業参加態度	20	授業内容をもとに言語を運用し、言語感覚を磨く態度で振り返りを書いている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前課題として、『小学校学習指導要領解説国語編』の特定範囲を読み、レポートにまとめる。[90分] 上記以外の事前・事後学習については、毎回の授業時に具体的に指示する。「マイことわざ集」「マイ歳時記」等の表現活動を伴う準備が主となる。[30分]	事前授業課題については、提出前に評価のポイントをコメントする。 課題に関する質問には随時回答する。

受講生に望むこと	国語はすべての教科の基礎であり、確固たる土台があってこそ、それぞれの学習活動が展開できることを十分に認識して授業に臨んでほしい。また、学習した内容を小学校や幼稚園でどのように活用するかを考えながら授業に臨んでほしい。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説国語編』文部科学省　東洋館出版社　2018　ISBN978-4491034621 『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018　ISBN978-4577814475
指定図書／参考書等	なし／『小学校新学習指導要領ポイント総整理　国語』吉田裕久、水戸部修治編　東洋館出版社　2017　ISBN978-4491033976	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

小学校における勤務経験をもとに、小学校の国語科の授業で取り上げられている事柄について取り上げ、理解を深めている。

授業科目名	算数			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	伊藤　伸也						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
算数科の各領域・内容に関する教育的な分析に取り組む。具体的には、数学的な概念や構造、アイディアと、それらによって説明される、日常生活や社会の事象や数学の事象との関係について、児童の学習過程を踏まえて検討する。	算数科の内容と、それに関連する日常生活や社会の事象や数学の事象に関する知識及び技能や考え方が身についている。

教授方法	講義と演習
履修条件	算数科指導法（後期）を受講する学生が望ましい。高等学校数学Ⅰおよび中学校数学科の内容を復習して受講すること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	小学校算数科の目標と内容の概要および数学的活動の意味を知る。	
2	「数と計算」領域の内容に関する教育的な分析を行う。（１）数（整数）	
3	「数と計算」領域の内容に関する教育的な分析を行う。（２）数（小数・分数）	
4	「数と計算」領域の内容に関する教育的な分析を行う。（３）計算（加法・減法）	
5	「数と計算」領域の内容に関する教育的な分析を行う。（４）計算（乗法）	
6	「数と計算」領域の内容に関する教育的な分析を行う。（５）計算（除法）	
7	「数と計算」領域の内容に関する教育的な分析を行う。（５）式	
8	「図形」領域の内容に関する教育的な分析を行う。（１）図形の概念	
9	「図形」領域の内容に関する教育的な分析を行う。（２）図形の構成	
10	「図形」領域の内容に関する教育的な分析を行う。（３）図形の計量	
11	「測定」領域の内容に関する教育的な分析を行う。	
12	「変化と関係」領域の内容に関する教育的な分析を行う。（１）割合	
13	「変化と関係」領域の内容に関する教育的な分析を行う。（２）関数	
14	「データの活用」領域の内容に関する教育的な分析を行う。	
15	算数科の各領域・内容に関する教育的な分析を総括し展望を得る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	50	授業の到達目標および授業内容・目標を踏まえて、第16回として期末試験を行い評価する。	課題レポート・提出物	20	授業内容・目標を踏まえて、課題に応じたレポート・提出物を作成することができたかを評価する。
口頭発表・ロールプレイング	20	授業内容・目標を踏まえて、課題に応じた発表をすることができたかを評価する。	授業への積極性、態度	10	授業に積極的に参加しようとしていたかを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業に関連する教科書・テキストの内容を予習する。［40分］ 課題レポート・提出物作成のため、授業内容を復習する。［50分］	課題レポート・提出物等に対するフィードバックは授業時に行う。

受講生に望むこと	小学校で児童に算数科の指導をすることの責任の自覚を望む。	教科書・テキスト	小学校学習指導要領解説　算数編（平成３０年２月　文部科学省） ISBN978-4536590105 授業中に適宜資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし 授業中に適宜資料を配布する。	その他・特記事項	特になし。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	音楽			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	武田　恵美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
幼稚園教諭や小学校教諭として必要な音楽科教育に関する基礎的知識と技術を養うために、歌唱や器楽の土台となる音楽理論やソルフェージュを学ぶ。初等音楽の教科書から様々な楽曲を取り上げ、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の教材について理解を深める。また、様々な表現形態について学ぶことで、豊かな感性を育む。	①小学校学習指導要領における音楽科の目標及び内容を理解する。 ②音楽科の指導内容について理解する。 ③正しい発声法を理解し、歌うことができるようになる。 ④打楽器・鍵盤楽器・ソプラノリコーダー・和楽器の演奏法、取り扱いについて理解し、演奏できるようになる。

教授方法	オンデマンドと対面による講義と演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について、シラバスを通して理解する。音楽理論Ⅰ：拍、拍子とリズムについて理解する。低学年Ⅰ：低学年の歌唱教材及び指導内容について学び、実践を行う。	
2	音楽理論Ⅱ：五線、譜表、音部記号について理解する。低学年Ⅱ：低学年の器楽教材及び指導内容について学び、実践を行う。共通事項Ⅰ：小学校学習指導要領（音楽）の、各学年の〔共通事項〕に示された「音楽を形づくっている要素」について学ぶ。「音楽の仕組み」について理解する（反復①）。	
3	音楽理論Ⅲ：音名について理解する。低学年Ⅲ：低学年の音楽づくり教材及び指導内容について学び、実践を行う。共通事項Ⅱ：「音楽の仕組み」について理解する（反復②）。	
4	音楽理論Ⅳ：変化記号について理解する。低学年Ⅳ：低学年の鑑賞教材及び指導内容について学ぶ。共通事項Ⅲ：「音楽の仕組み」について理解する（呼びかけとこたえ①）。	
5	音楽理論Ⅴ：音符と休符について理解する。中学年Ⅰ：中学年の歌唱教材及び指導内容について学び、実践を行う。共通事項Ⅳ：「音楽の仕組み」について理解する（呼びかけとこたえ②）。	
6	音楽理論Ⅵ：音程について理解する。中学年Ⅱ：中学年の器楽教材及び指導内容について学び、実践を行う。共通事項Ⅴ：「音楽の仕組み」について理解する（変化）。	
7	音楽理論Ⅶ：速度記号について理解する。中学年Ⅲ：ソプラノリコーダーの取り扱い、奏法及び指導内容について学び、実践を行う。共通事項Ⅵ：「音楽の仕組み」について理解する（反復と変化）。	
8	音楽理論Ⅷ：強弱記号について理解する。中学年Ⅳ：中学年の音楽づくり教材及び指導内容について学び、実践を行う。共通事項Ⅶ：「音楽の仕組み」について理解する（音楽の縦と横との関係①）。	
9	音楽理論Ⅸ：奏法に関する記号について理解する。中学年Ⅴ：中学年の鑑賞教材及び指導内容について学ぶ。共通事項Ⅷ：「音楽の仕組み」について理解する（音楽の縦と横との関係②）。	
10	音楽理論Ⅹ：反復記号について理解する。高学年Ⅰ：高学年の歌唱教材及び指導内容について学び、実践を行う。共通事項Ⅸ：「音楽の仕組み」について理解する（音楽の縦と横との関係　）。	
11	音楽理論Ⅺ：長調と短調について理解する。高学年Ⅱ：高学年の器楽教材及び指導内容について学び、実践を行う。共通事項Ⅹ：「音楽の仕組み」について確認する（反復,呼びかけとこたえ,変化,音楽の縦と横との関係①）。	
12	音楽理論Ⅻ：和音について理解する。高学年Ⅲ：高学年の音楽づくり教材及び指導内容について学び、実践を行う。共通事項Ⅺ：「音楽の仕組み」について確認する（反復,呼びかけとこたえ,変化,音楽の縦と横との関係②）。	
13	高学年Ⅳ：高学年の鑑賞教材及び指導内容について学ぶ。共通事項Ⅻ：「音楽の仕組み」について確認する（反復,呼びかけとこたえ,変化,音楽の縦と横との関係　）。	
14	和楽器（和太鼓）の取り扱い及び奏法について学び、実践する。	
15	和楽器（箏）の取り扱い及び奏法について学び、実践する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学修振り返りシート	40	提出状況と内容。授業内容を適切に理解し、学修振り返りシートにおいて、自身の学びや気付き、課題等を具体的に記述できているか。	課題	30	提出状況および取り組み内容。講義内容を踏まえ、課題の趣旨を理解し、指示に沿って適切に取り組めているか。
演習課題	30	提出状況および取り組み内容。講義内容を理解したうえで、課題の趣旨を理解し、適切に取り組めているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①音楽の基礎的な技術を高めるための課題に積極的に取り組むこと。［40分］ ②講義内容について自身で振り返り、疑問点や不明点を調べること。［20分］ ③次回授業のための課題に取り組み、準備すること。［30分］	学修振り返りシートおよび演習課題については、必要に応じてコメントを付すなどし、適切な時期に返却する。

受講生に望むこと	毎回の授業で出される課題に積極的に取り組むこと。特に演習課題については、練習時間を確保し、授業内容を踏まえたうえで、歌唱や演奏などの実践に取り組むこと。	教科書・テキスト	『小学校 音楽科教育法 2022年改訂版』有本真紀・阪井恵・津田正之編著、教育芸術社 、2021、ISBN978-4-87788-969-2.『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018、ISBN978-4-87446-066-5.『うたうソルフェージュ』木許隆監修、圭文社、2024、ISBN978-4-87446-093-1.プリント
指定図書／参考書等	なし／『小学校学習指導要領解説　音楽編』東洋館出版社、2018、ISBN978-4-49103-465-2.『保育者、教員をめざす人のための 初級ピアノ・テクニック速習ステップス』木許隆監修、音楽之友社、2015、ISBN978-4-276-82073-9.『コードネームとリズムによる Basic and Variations』木許隆, 武田恵美, 長井典子編著、圭文社、2022、ISBN978-4-87446-091-7.	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な実践的英語運用力を、話し合いや問題練習を通して身に付ける。また、英語に関する背景的な知識の具体例を教科書や発表活動から学ぶ。	①英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法等）を実際の授業場面を意識しながら身に付ける。 ②第二言語習得に関する基本的な事柄を意識しながら、児童と楽しくコミュニケーション活動ができるようになる。 ③児童文学（絵本、子供向けの歌やチャンツや詩等）の役割を理解し、授業に活かすことができる。 ④異文化理解に関する基本的な事柄を理解し、授業に活かすことができる。

教授方法	英語の4技能に関する演習、ディスカッション、プレゼンテーション
履修条件	保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭（英語）、高等学校教諭（英語）のうち、いずれかの資格・免許を取得予定の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：本授業の進め方と評価方法を理解する。 Unit 1　ALT's First Visit to Minami Elementary School　初対面の人とのやりとりの仕方を学ぶ。 発展活動：JTEがALTに学校のことを知ってもらうためやりとりをする方法を知る。	
2	Unit 2　Getting to Know Each Other　相手をより知るための話の進め方を学ぶ。 発展活動：JTEがALTに学校のことを知ってもらうためのやりとりを準備する。	
3	Unit 3　School Lunch　相手を歓迎会にお誘いする話し方を学ぶ。 発展活動：JTEがALTに学校のことを知ってもらうためのやりとりを練習する。	
4	Unit 4　Play Time　休み時間の遊びについての話し方を学ぶ。 発展活動：JTEがALTに学校のことを知ってもらうためのやりとりを発表する。（発表①）	
5	Unit 5　The First English Class　最初の Team Teaching の授業の始め方を学ぶ。 発展活動：TT で ALT 紹介をする方法を知る。	
6	Unit 6　Teaching Numbers 1　TTの授業の始めから活動に入る所までの進め方を学ぶ。 発展活動：TT での ALT 紹介を準備する。	
7	Unit 7　Teaching Numbers 2　TTで活動を進める方法を学ぶ。 発展活動：TT での ALT 紹介を練習する。	
8	Unit 8　Reflection　授業の最後に行う振り返りの仕方を学ぶ。 発展活動：TT での ALT 紹介を練習する。（発表②）	
9	Unit 9　Activities at a Kindergarten　ゲストとして訪問する幼稚園での活動についての打ち合わせの仕方を学ぶ。 発展活動：TTで歌・チャンツ・ゲームなどを楽しく活動させる方法を知る。	
10	Unit 10　Growing Plants & Observing the Butterfly Lifecycle　他教科の学びについてのやりとりを学ぶ。（理科の観察） 発展活動：TTで歌・チャンツ・ゲームなどを楽しく活動させる準備をする。	
11	Unit 11　Making Onigiri and Curry　他教科の学びについてのやりとりを学ぶ。（家庭科の調理実習） 発展活動：TTで歌・チャンツ・ゲームなどを楽しく活動させる練習をする。	
12	Unit 12　Making a Town Map　他教科の学びについてのやりとりを学ぶ。（社会科の地域の地図作成） 発展活動：TTで歌・チャンツ・ゲームなどを楽しく活動させる発表をする。（発表③）	
13	Unit 13　Introducing Japanese Culture　国際交流に向けての打ち合わせの仕方を学ぶ。 発展活動：TT で絵本を使ったやりとりを行うための準備をする。	
14	Unit 14　Evacuation Drills　避難訓練についての説明の方法を学ぶ。 発展活動：TT で 絵本を使ったやりとりを行うための練習をする。	
15	Unit 15　Graduation　卒業に向けて行われる活動についての説明の方法を学ぶ。 発展活動：TT で 絵本を使ったやりとり を発表をする。（発表④）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	30	①予習して授業に臨み、積極的に活動に取り組んでいるか。 ②発表課題の準備を協力して行えているか。③(小テスト)英語の語彙、文構造、文法、発音、正書法などを身に付けているか	発表 ①②③④	30	英語の自己紹介・歌指導、絵本を使ったやりとり等を相手を意識しながら発表できているか。
期末テスト	40	授業で学んださまざまな場面で英語を自分のことばとして使えるか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・毎回の小テストの準備を十分にすること。[20分] ・授業のための予習[40分] ・英語で発表するために、教室で児童生徒の前で実践する時のように自信をもってできるまで練習すること。[60分]	①小テストについては、次時に返却する際にコメントする。 ②パフォーマンステストについては、終了直後にコメントする。

受講生に望むこと	人前で英語を話すことに慣れ、上手くなるには練習することだということを体感してほしい。	教科書・テキスト	『Hello, English ―English for Teachers of Children』相羽千州子・藤原真知子・Brian Byrd・Jason Barrows 著　成美堂　2016　ISBN:9784791947973
指定図書／参考書等	なし／『最新 小学校英語内容論入門』樋口忠彦監修、泉惠美子他編　研究社　2023　ISBN: 978-4327411091	その他・特記事項	Classroomを用いて課題等を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育実習指導Ⅰ（幼）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	ポーター　倫子						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、幼稚園教諭一種免許状取得のための「教育実習Ⅰ（幼）」に向けた事前・事後指導を行う。学生から「保育者」への意識の転換を図るとともに、社会人としてのマナー、守秘義務、危機管理意識を醸成する。特に、観察実習・参加実習において基盤となる「子ども理解」に重点を置く。子どもの表情や行動の意味、保育者の援助や環境構成の意図を読み取る力を養い、事実と解釈を区別した記録の作成方法を習得する。事後指導では、実習での気づきを言語化し、自己の保育観を形成する第一歩とする。	1．実習の意義と心構えの確立：教育実習の目的を理解し、社会人としてのマナー、守秘義務、基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。 2．保育の構造理解：幼稚園の1日の生活の流れと幼児の発達的特徴、および保育者の役割を理解する。 3．実習日誌の記録と省察：観察した事実と考察を区別した記録方法を習得する。また、日誌を自己の課題発見のツールとして活用できる。 4．指導計画の基礎：部分実習に向けた指導案の構成要素と作成方法を理解する。

教授方法	講義、演習
履修条件	保育原理・教育課程論及び保育内容の各科目を履修済あるいは履修中であることを原則とする。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：実習の意義と目的を理解する。	
2	実習生としての心構え：身だしなみ、挨拶、守秘義務、社会人としてのマナーを理解する。	
3	幼稚園の理解：1日の生活の流れ、保育者の職務、幼児の発達について学ぶ	
4	見学・観察実習時の記録法：時系列による記録と環境構成の図示について学ぶ。	
5	参加実習時の記録法：子どもとの関わりと保育者の援助の記録について学ぶ。	
6	実習日誌の意義、基本形式、文体、エピソード記録の基礎について学ぶ。	
7	指導案の作成基礎：部分実習指導案の構成要素と書き方について学ぶ。	
8	教材研究：手遊び、絵本読み聞かせ等の実技指導と実演　その１	
9	教材研究：手遊び、絵本読み聞かせ等の実技指導と実演　その２	
10	事前訪問の準備：電話のかけ方、訪問時のマナー、オリエンテーションの要点について学ぶ。	
11	プレ実習：一回目（自由あそび）を行う。	
12	プレ実習：一回目（部分実習）を行う。	
13	実習直前指導：健康管理、持ち物確認、トラブルへの対応、提出書類の確認を行う。	
14	【事後指導】実習の振り返り①：実習１について個人で振り返りを行う。	
15	【事後指導】実習の振り返り①：実習１についてグループで振り返りを行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	授業への参加態度、時間の遵守、演習への取り組み。	課題・提出物	60	指導案作成、日誌書き方演習、事前事後レポート等。
実習後の学び	20	自己評価および報告会での発表内容。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教材研究、観察レポートや指導計画の作成（60分）	授業内外で適宜コメントやアドバイスを行う。

受講生に望むこと	まず時間を守ること。次に、幼稚園教師に求められるふさわしい服装、話し方、態度を身に付け、積極的かつ協力的に取り組むことを心がけること。	教科書・テキスト	1．玉置哲淳・島田ミチコ監修『幼稚園教育実習』(2010) 建帛社 ISBN:978-4-7679-3255-2 2．相馬和子・中田カヨ子編『実習日誌の書き方 幼稚園・保育所実習』(2023) 萌文書林 9784893472977
指定図書／参考書等	• 文部科学省『幼稚園教育要領解説』(2018)フレーベル館 ISBN:9784577814475	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育実習指導Ⅱ（幼）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	ポーター　倫子						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
「教育実習Ⅰ（幼）」での観察・参加体験を基盤とし、「教育実習Ⅱ（幼）」における責任実習（全日・半日）に向けた指導計画の立案と実践力の向上を目指す。 本授業では、幼児の実態や興味・関心に基づいた「ねらい」と「内容」の整合性を学び、指導案作成のプロセスというPDCAサイクルを回す力を養う。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」も視野に入れ、幼児が主体的に活動できる環境構成や言葉かけを学び、保育者としての専門性を高める。	1．実践的指導計画の立案：幼児の実態即した「指導案（全日・半日）」を作成し、ねらいと内容、環境構成を具体化する。 2．指導技術の向上：導入・展開・まとめにおける具体的な援助技術や言葉かけを学ぶ。 3 PDCAサイクルの理解：計画（Plan）→実践（Do）→評価（Check）→改善（Action）のプロセスを理解する。 4．実習後の自己評価を行い、保育者としての専門的成長を確認するとともに、今後の学習課題を設定できる。

教授方法	講義、模擬保育、グループディスカッションなど
履修条件	「教育実習指導Ⅰ（幼）」、「教育実習Ⅰ（幼）」を履修中であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：教育実習Ⅱの目的と到達目標を確認する。	
2	実習園について理解する。	
3	部分実習の深掘り：活動の選び方、ねらいと内容の整合性について学ぶ。	
4	指導案作成演習①：責任実習（半日）の指導案を作成する。	
5	指導案作成演習②：責任実習（全日）の指導案を作成する。	
6	実習日誌の応用：責任実習時の日誌の書き方について学ぶ。	
7	模擬保育：グループによる模擬保育の実践と相互評価を行う。	
8	教材・教具の研究：責任実習で使用する製作物や環境構成を準備する。	
9	教材・教具の研究：責任実習で使用する製作物や環境構成を準備する。	
10	プレ実習：一回目（自由遊び）を行う。	
11	プレ実習：二回目（部分実習）を行う。	
12	実習直前指導：指導案の最終確認、実習園との打ち合わせ事項の確認を行う。	
13	実習の振り返り①：自己評価チェックリストを用いた振り返りを行う。	
14	実習の振り返り②：実習日誌の再読と修正、お礼状を作成する。	
15	まとめ：実習報告会の実施と総括を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	積極的な発言、演習への取り組み。	課題・提出物	50	指導案作成、日誌書き方演習、事前事後レポート等。
実習報告	30	自己評価および報告会での発表内容。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教材研究、指導計画の作成、報告会の準備（60分）	授業内外で、適宜コメントやアドバイスを行う。

受講生に望むこと	まず時間を守ること。次に、幼稚園教諭に求められるふさわしい服装、話し方、態度を身につけ、積極的かつ協働的に取り組むことを心がけること。	教科書・テキスト	1．玉置哲淳・島田ミチコ監修『幼稚園教育実習』(2010) 建帛社 ISBN:978-4-7679-3255-2 2．相馬和子・中田カヨ子編『実習日誌の書き方 幼稚園・保育所実習』(2023) 萌文書林 9784893472977
指定図書／参考書等	• 文部科学省『幼稚園教育要領解説』(2018)フレーベル館 ISBN:9784577814475	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育実習Ⅰ（幼）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	ポーター　倫子						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
本授業は、実習園における教育・保育の実践を通して、保育者として必要な基礎的資質・能力を身につけることを目的とする。実習園の教育方針や生活規律を理解し、規則正しい生活態度と責任ある行動を実践できるようになることを目指す。また、幼児一人ひとりの発達段階や興味・関心を丁寧に観察し、意図をもった関わりを行う力を養う。保育者の援助や環境構成に込められた意図を読み取り、その気づきを実習日誌に具体的かつ適切に記録する力を高める。さらに、部分実習を通して、保育の計画・実践・反省という一連のプロセスを経験し、実践的な保育力の向上を図る。	1．実習園の教育方針を理解し、規則正しい生活と責任ある行動がとれる。 2．幼児一人ひとりの発達や興味・関心を観察し、意図的に関わることができる。 3．保育者の援助や環境構成の意図を読み取り、その気づきを実習日誌に具体的に記録できる。 4．部分実習を通じて、計画・実践・反省のプロセスを経験する。

教授方法	実習を通して、園や指導教員より学ぶ。
履修条件	「教育実習指導Ⅰ（幼）」を履修し、本学の定める実習履修条件を満たしていること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	園長・指導教諭との打ち合わせを行い、園内環境を把握する。	
	幼児の名前と顔を覚える。1日の生活の流れを把握する	
	保育者の補助的役割を担い、幼児の遊びや生活支援に参加する	
	指導教諭と相談し、部分実習の指導案を作成・提出する。	
	作成した指導案に基づき保育を行い、事後の反省会で指導を受ける。	
	実習日誌を作成する。	
	日々の保育終了後、指導教諭から助言を受け、翌日の課題を設定する。	
	10日間の実習を振り返り、自分の課題を明らかにする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習園による評価	60	実習態度、保育技術、資質・能力等。	実習ファイル	40	適切に記述されているか。指導案の立案、実践、評価、改善の循環が記録にみられるか。必要書類がそろっているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前：ピアノ・手遊びなどの練習、日誌の書き方の予習。 事後：実習日誌の再読と自己評価、お礼状の作成、「教育実習指導Ⅰ」での振り返り学習。	教育実習指導Ⅰ（幼）の事後指導を通して行う。

受講生に望むこと	体調管理を徹底し、笑顔と挨拶を忘れず、誠実な態度で実習に臨んでください。実習日誌は、その日のうちに必ず記入し、翌朝提出することを厳守してください。	教科書・テキスト	1．玉置哲淳・島田ミチコ監修『幼稚園教育実習』(2010) 建帛社 ISBN:978-4-7679-3255-2 2．相馬和子・中田カヨ子編『実習日誌の書き方 幼稚園・保育所実習』(2023) 萌文書林 9784893472977
指定図書／参考書等	• 文部科学省『幼稚園教育要領解説』(2018)フレーベル館 ISBN:9784577814475	その他・特記事項	無断欠席や遅刻、早退が多かったり、記録や指導計画の未提出や遅延がある場合には、実習の継続を認めない。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	教育実習Ⅱ（幼）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	ポーター　倫子						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、学級担任として求められる役割や視点を理解し、幼児一人ひとりの実態を踏まえた保育を総合的に実践できる力を養うことを目的とする。具体的には、クラス全体を見通した保育の在り方を学ぶとともに、全日・半日・部分といった指導計画の立案から実践、評価、改善までの一連の保育過程について理解を深める。また、幼児の内面理解に基づいた適切な援助や環境構成の方法について考察し、他の教職員との連携・協力を通した報告・連絡・相談の重要性についても学ぶ。さらに、実習日誌の記述を通して、保育における「計画―実践―省察」のプロセスを明確に捉え、自己の保育を振り返り、改善につなげる力の育成を図る。	1．学級担任としての役割を理解し、クラス全体を視野に入れた保育ができる。 2．幼児の実態に即した指導計画（全日・半日・部分）を作成し、実践、評価、改善ができる。 3．幼児の内面を理解し、個々に応じた適切な援助や環境構成ができる。 4．他の教職員と連携・協力し、報告・連絡・相談を適切に行うことができる。 5．実習日誌において、保育のプロセス（計画→実践→省察）を明確に記述できる。

教授方法	実習を通して、園や指導教員より学ぶ。
履修条件	「教育実習指導Ⅰ（幼）」「教育実習Ⅰ（幼）」の単位を修得済みであること。「教育実習指導Ⅱ（幼）」を履修し、本学の定める実習履修条件を満たしていること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	オリエンテーション・担当クラスの1日の流れや子どもについて学ぶ。	
	積極的に保育に参加し、責任実習に向けた幼児との信頼関係を深める。	
	部分的な指導を担当する。	
	全日（または半日）指導案を提出し、指導教諭の指導を受ける。	
	自己の保育を客観的に記録・省察する。	
	責任実習後の反省会で詳細なフィードバックを受け、自己課題を明確にする。	
	実習の御礼、借用物の返却、実習日誌を完成する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習園による評価	60	実習生や保育者としての態度、保育技術、省察、資質、努力	実習ファイル	40	適切に記述されているか。指導案の立案、実践、評価、改善の循環が記録に見られるか。必要書類が整っているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前：責任実習に向けた指導案の推敲、教材準備、体調管理。 事後：実習全体の振り返り、報告会の準備、感謝状の送付。	教育実習指導Ⅱ（幼）の事後指導を通じて行う。

受講生に望むこと	責任実習は失敗を恐れず挑戦する場です。うまくいかないことも学びと捉え、指導教諭のアドバイスを真摯に受け止めて改善に努めてください。実習期間中は、子どもたちにとっての「先生」として責任ある行動を求めます。	教科書・テキスト	1．玉置哲淳・島田ミチコ監修『幼稚園教育実習』(2010) 建帛社 ISBN:978-4-7679-3255-2 2．相馬和子・中田カヨ子編『実習日誌の書き方 幼稚園・保育所実習』(2023) 萌文書林 9784893472977
指定図書／参考書等	• 文部科学省『幼稚園教育要領解説』(2018)フレーベル館 ISBN:9784577814475	その他・特記事項	無断欠席や遅刻、早退が多かったり、記録や指導計画の未提出や遅延がある場合には、実習の継続を認めない。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	保育者論			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	ポーター　倫子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、保育という営みの専門性と、それを担う「保育者」という職業の社会的意義について深く探究します。単に子どもと遊ぶだけではない、子どもの命を守り、育ちを支え、保護者や地域社会と連携する高度な専門職としての役割を学びます。	1. 保育者の社会的・制度的な位置づけ（資格・免許、倫理）を説明できる。 2. 保育における「養護」と「教育」の一体的な展開や、環境構成の重要性を理解する。 3. 「省察的実践家」として、自らの実践を振り返り、改善していくPDCAサイクルの意義を理解する。 4. 現代社会の課題（少子化、多様性など）を踏まえ、これからの保育者に求められる資質・能力について自分の考えを持つことができる。

教授方法	講義、事例検討、視聴覚教材の活用、アクティブラーニング
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、保育者とはどのような職業か：保育者という仕事の全体像と、自身の志望動機を再確認する。	
2	変わりゆく、変わらない保育者の役割：歴史的変遷と、時代を超えた「保育の心」を知る。	
3	保育者の制度的な位置づけと倫理：資格・免許制度と専門職倫理、守秘義務などを理解する。	
4	保育者の資質：子どもへの共感、受容、応答性など求められる資質を考察する。	
5	遊びにおける保育者の役割：遊びを通した指導、環境としての保育者の役割を学ぶ。	
6	計画的な環境構成：子どもの主体性を引き出す環境構成の重要性を学ぶ。	
7	保育における評価、PDCAサイクル：指導計画の作成、実践、省察、改善のサイクルを理解する。	
8	保育の質；「省察」を通して保育の質を高める意義を学ぶ。	
9	保育者の専門性向上：キャリア形成、研修、自己研鑽の必要性を理解する。	
10	保育者の協同と連帯：チーム保育、職場の人間関係、地域との連携を学ぶ。	
11	到達度試験	
12	世界の保育；海外の保育事情を知り、日本の保育を相対化する。	
13	多文化保育・インクルーシブ保育：多様な背景を持つ子どもへの支援を考える。	
14	気になる子どもの援助：特別な配慮を必要とする子どもへの関わりと保護者支援について学ぶ	
15	まとめ：これからの保育者像と自己の課題を明確にする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加・平常点	20	出席状況、グループワークへの貢献度、リアクションペーパーの内容（振り返りの質）	ミニレポート・課題	20	業内で課す小レポートやワークシートの記述内容
到達度試験	35	基本的な用語、制度、理論の理解度を確認します。	期末レポート	25	授業全体を通して形成された自身の「保育者像」や、具体的な課題に対する考察を論述させます。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
• 事前学習（予習）： 指定された教科書の該当章を読むこと（約30分）。 • 事後学習（復習）： 授業で扱ったテーマについて、配布資料やノートを見返し、自分の言葉で要約する。また、日常生活の中で見かける子どもや親子の姿に関心を持ち、授業内容と関連付けて考察すること（約30分）。	• 提出されたレポートやリアクションペーパーは、次回の授業内で優れた記述を紹介したり、全体的な講評を行ったりします。 • 個別の質問や記述に対しては、可能な限りコメントをつけて返却します（1週間以内を目途）。

受講生に望むこと	• 保育者は「人」とかかわる専門職です。授業中の私語は慎み、聴くときは聴く、話すときは話すというメリハリをつけ、他者の意見を尊重する態度を身につけてください。	教科書・テキスト	『保育者論（MINERVAはじめて学ぶ保育 3）』 ◦ 編著者： 山下 文一 ◦ 監修： 名須川 知子、大方 美香 ◦ 出版社： ミネルヴァ書房（2019） ◦ ISBN： 978-4-623-07964-3
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	レポートでのAIの使用については、担当教員の指示に従ってください。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	子どもの理解と援助			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	ポーター　倫子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
子ども理解は、保育の出発点であり基本となるものである。本講義では、子どもの表面的な行動だけでなく、その背後にある内面や「行動の意味」を読み解く「まなざし」を養う。 具体的には、発達的な観点と人間学的な理解の双方から子どもを捉え、適切な環境構成や援助方法（養護と教育の一体化）を修得する。	1．基本的姿勢の確立： 子どもの行動を「問題」として裁くのではなく、その子なりの「意味」や「発達的根拠」として捉える受容的・共感的な姿勢を身につける。 2．実践技法の習得： エピソード記録、チェックリスト、ドキュメンテーションなどの記録手法を使いこなし、子どもの姿を具体的に可視化・共有できる力を習得する。 3．援助技術の応用： 「活動の移行」「葛藤（いざこざ）」、「特別なニーズ」といった具体的な保育場面において、個と集団の育ちを支える適切な援助や環境構成を構想できる。

教授方法	講義、グループワーク（事例検討・模擬カンファレンス）、ロールプレイ、視聴覚教材（ビデオ観察）の活用
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	保育における「子ども理解」の意義と視点；なぜ子ども理解が必要なのか。保育者の専門性としての「理解」と「援助」の循環について学ぶ。また子どもの発達は個人の能力だけでなく、環境（人、モノ、場）との相互作用で生じることを理解する。	
2	観察の技法と記録：子どもの姿を捉える観察法と、エピソード記録などの具体的な記述方法を学ぶ。また保育を可視化し、対話を生む「ドキュメンテーション」の作成と活用法について学ぶ。	
3	生活の流れと「活動の移行」への援助:「片付け」などの場面で、子どもが納得して次の活動へ移行するための言葉かけや環境の工夫などを事例から学ぶ。また入園、進級などの変化に対しての保育者の援助や環境の工夫について学ぶ。	
4	個と集団の関係:一人遊びから並行遊び、そして集団活動へと至るプロセスを通し、個を大切にしながら集団を育む視点を学ぶ。また トラブルや喧嘩における保育者の立ち位置と介入技術について学ぶ。	
5	特別なニーズのある子どもへの援助：いわゆる「気になる子」や発達障害のある子どもの特性を理解する。また共に育ち合うクラスづくりと具体的な支援手立てを学ぶ。	
6	保護者との連携と支援: 保護者を「共に育てるパートナー」として支える援助のあり方について学ぶ。	
7	保育の質の向上と保育カンファレンス: 同僚との協働による子ども理解の深化を経験し、省察や保育カンファレンスの重要性を知り、保育の質とどう繋がるかを考察する。	
8	まとめ：具体的な複合事例（特別なニーズ、保護者対応、集団内の葛藤などが含まれるケース）を用い、これまで学んだ知識を総動員して「援助の方針」を立案するグループワークを行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加・平常点	20	授業時の受講姿勢、グループワークでの発言・貢献度、振り返りシートの内容。	課題レポート	40	授業内で作成する記録、ドキュメンテーション、指導計画案などの提出物。ガイドラインに沿って作成されているかを評価する。また授業で学んだことが理解されているかを確認するために、ミニレポートを二回課す。
ポートフォリオ	40	学習の集大成としてのポートフォリオ。ルーブリックを使用し、評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業で扱った事例や演習内容を振り返り、自身のポートフォリオに整理・記録する（４0分）。	提出されたレポートや作成したドキュメンテーションについては、コメントを付して返却するか、次回の授業内で全体への講評としてフィードバックを行う。

受講生に望むこと	子どもの行動には必ず「その子なりの理由（わけ）」があります。正解を急ぐのではなく、「なぜそうしたのか？」「その時どう感じていたのか？」を想像力を働かせて考え抜く姿勢を求めます。また、演習では他者の意見を聴くことで自分の「子どもを見る色眼鏡（バイアス）」に気づくことが大切です。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	授業課題における AIの利用については、教員の指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	子ども家庭福祉論Ⅰ			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	松本　理沙						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
子ども家庭福祉の歴史的展開と理念を踏まえ、児童憲章や児童の権利宣言、子どもの権利条約に示された基本原則について理解を深める。あわせて、児童家庭の生活実態とそれを取り巻く社会状況を把握し、児童福祉法の理念に基づく「子どもの最善の利益」の考え方と、権利主体としての子どもの権利保障の体系を学ぶ。さらに、子ども家庭福祉制度の仕組み、親権と子どもの権利擁護の関係、児童福祉施設の基本的機能について理解し、子ども家庭福祉の現代的課題を明確にする。 少子高齢化の進行や社会環境・家族構造の変化を踏まえ、児童・家庭分野に関わる社会問題を多角的に考察する。また、家族・家庭の定義と社会制度としての家族の役割を検討し、家族観や子ども観の変容を把握する。少子化の進行、子育て環境をめぐる現状、家族の多様化と社会的要因を踏まえ、家族機能の変化と子ども家庭福祉に求められる支援ニーズについて理解を深める。	①現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解している。 ②子ども家庭福祉と保育との関連性及び権利主体としての子どもの権利保障について理解している。 ③子ども家庭福祉の制度の仕組みと実施体制、関係機関の役割および連携について理解している。 ④子ども家庭福祉を取り巻く現状と社会的課題について理解している。 ⑤子ども家庭福祉の政策動向と今後の展望について理解している。

教授方法	講義を中心に展開するが、提示課題によるグループディスカッションも含む。
履修条件	「社会福祉」を履修済であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	子ども家庭福祉の理念と概念	
2	子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向	
3	子ども家庭福祉の制度と実施体制	
4	子ども家庭福祉の施設と専門職	
5	少子化対策と子育て支援	
6	母子保健と子どもの健全育成	
7	多様な保育ニーズへの対応	
8	学齢期の子どもの教育と福祉	
9	障害のある子どもとその家庭の背景と支援	
10	子ども虐待の背景と支援	
11	貧困家庭の子どもの背景と支援	
12	ひとり親家庭の背景と支援	
13	社会的養護	
14	非行少年の背景と支援	
15	総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	講義内容を理解している。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。	リアクションペーパー	40	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
子ども家庭福祉に関する文献やメディア報道などを調べ、その要因・課題について意見をまとめる。	必要に応じて、リアクションペーパーに対して教員からコメントする。

受講生に望むこと	本科目は、子ども家庭福祉の基本となる内容で、保育・教育において根幹をなす。「保育実習指導Ⅰ（施設）」の内容とも関連づけて理解する必要がある。	教科書・テキスト	『子ども家庭福祉　よりそう・とらえる・考える　社会のなかの子どもと家族』　垣内国光・岩田美香・板倉香子・井原哲人・宮地さつき編　生活書院　2026年 ISBN：978-4-86500-196-9
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	子ども家庭福祉論Ⅱ			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	松本　理沙						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
近年、ヤングケアラーが社会問題として取り上げられている。ヤングケアラーは、「子ども・子育て支援法等の一部を改正する法律」において、子ども・若者育成支援推進法が改正され、「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」として、国・地方公共団体等が各種支援に努めるべき対象であることが明記された。本講義では、ヤングケアラー支援の現状と課題について、特に事例検討を通して理解を深めていく。	①ヤングケアラー支援の現状と課題について理解する。 ②事例検討を通して、ヤングケアラーの子どもが置かれた状況を理解する。 ③当事者及び支援者による支援のあり方について理解する。

教授方法	配付資料を用いる。演習の要素を取り入れた講義となる。
履修条件	「子ども家庭福祉論Ⅰ」を履修済であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	子ども家庭福祉におけるヤングケアラーの位置づけ、「ケア」の捉え方	
2	日本及び世界におけるヤングケアラー支援の現状と課題	
3	ヤングケアラーに関する事例検討①難病の親をケアする子ども	
4	ヤングケアラーに関する事例検討②統合失調症の親をケアする子ども	
5	ヤングケアラーに関する事例検討③うつの親をケアする子ども	
6	ヤングケアラーに関する事例検討④アルコール依存症の親をケアする子ども	
7	ヤングケアラーに関する事例検討⑤若年性認知症の親をケアする子ども	
8	ヤングケアラーに関する事例検討⑥聞こえない親をケアする聞こえる子ども	
9	ヤングケアラーに関する事例検討⑦外国籍の親をケアする子ども	
10	ヤングケアラーに関する事例検討⑧認知症の祖父母をケアする子ども	
11	ヤングケアラーに関する事例検討⑨障害のある兄弟姉妹をケアする子ども（きょうだい児・きょうだい）（1）	
12	ヤングケアラーに関する事例検討⑩障害のある兄弟姉妹をケアする子ども（きょうだい児・きょうだい）（2）	
13	当事者による支援のあり方について考える①セルフヘルプ、ピアサポート	
14	当事者による支援のあり方について考える②当事者研究	
15	ヤングケアラー支援の実践・啓発のあり方について考える	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
最終レポート	60	講義内容の全体像がまとめられている。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。	リアクションペーパー	40	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の振り返りを行う。 ②ヤングケアラーに関するメディア報道等があれば都度確認し、その内容に対する自分の意見をまとめる。	最終レポートやリアクションペーパーに対して、可能な限りコメントする。

受講生に望むこと	①ヤングケアラー支援の現状と課題について理解する。 ②事例検討を通して、ヤングケアラーの子どもが置かれた状況を理解する。 ③当事者及び支援者による支援のあり方について理解する。	教科書・テキスト	『子ども・若者ケアラーの声からはじまる　ヤングケアラー支援の課題』斎藤真緒・濱島淑恵・松本理沙・京都市ユースサービス協会編　クリエイツかもがわ　2022年 ISBN:9784863423251
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	家庭支援の心理学			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
生涯発達に関する知識を習得し、人の発達を捉える視点を身につける。また、発達初期の経験の重要性、発達の各時期における家族・家庭の意義や機能について理解を深め、子育て家庭の社会的状況やその課題、子どもの精神保健の現状とその課題について学ぶ。	①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性や発達課題等について理解する。 ②子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 ③家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもを包括的に捉える視点を習得する。 ④子どもの精神保健とその課題について理解する。

教授方法	講義を中心にワークやディスカッションなどを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	生涯発達①：生涯発達とは何かについて理解する。	
2	生涯発達②：乳児期から学童期前期の発達について理解する。	
3	生涯発達③：学童後期から青年期の発達の特徴について理解する。	
4	生涯発達④：成人期・老年期における発達の特徴を理解する。	
5	子育て①：子育てを取り巻く社会的状況を理解する。	
6	子育て②：子育ての経験と親としての育ちについて理解する。	
7	家族・家庭①：家族・家庭の意義とその機能について、家族システムや家族の発達から理解する。	
8	家族・家庭②：家族の問題について家族システムから理解し、支援の方法を考える。	
9	家族・家庭③：多様な家庭形態について把握し、援助の方法を考える。	
10	家族・家庭④：特別な配慮を必要とする家庭への支援を考える①：虐待などにおけるトラウマケアについて。	
11	家族・家庭⑤：特別な配慮を必要とする家庭への支援を考える②：保育者・支援者としての傾聴について。	
12	家族・家庭⑥：特別な配慮を必要とする家庭への支援を考える③：配慮・支援をする際に必要なことについて。	
13	子どもの精神保健①：子どもの心の健康への支援について、精神分析の視点から考える。	
14	子どもの精神保健②：子どもの心の健康への支援について、認知行動療法の視点から考える。	
15	子どもの精神保健③：子どもの心の健康への支援について、ストレスマネジメントの視点から考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	30	講義内容に対する感想や意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	ブックレポート	20	家族、家庭支援に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。
最終レポート	50	「家庭支援の心理学」の基礎知識が獲得されている。「家庭支援の心理学」のテーマについて論理的考察がされている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、家族心理学など家庭支援の心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分]	①各回の授業レポートについては、次回授業時に内容に関する振り返りを行う。 ②課題レポートや最終レポートについては、希望者に授業内や次学期に内容に関してコメントなど対応する。

受講生に望むこと	授業の内容が自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的な受講態度を望む。	教科書・テキスト	青木久代編（2026）．『子ども家庭支援の心理学　第2版』　みらい　ISBN : 978-4860156671
指定図書／参考書等	なし/本郷一夫・神谷哲司編（2019）．『子ども家庭支援の心理学』　建帛社　ISBN:978-4767950921、沼山博・三浦主博編（2020）．『子どもとかかわる人のための心理学』　萌文書林　ISBN:978-4893473691、中釜洋子・ 野末武義・布柴靖枝 ・ 無藤清子編（2019）．『家族心理学　第2版』　有斐閣　ISBN:978-4641184466、中釜洋子（2001）．『いま家族援助が求められるとき 』垣内出版　ISBN: 978-4773401431、団士郎（2013）．『対人援助職のための家族理解入門』　中央法規出版　ISBN:978-4805838600、柏木恵子・平木典子（2009）．『家族の心はいま』　東京大学出版会　ISBN:978-4130111249	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して家族の理解や家族支援について心理的視点から説明している。

授業科目名	社会的養護			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜　和昭						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
家族の機能低下が顕著になっている現代社会において、家庭を支えるさまざまな制度政策が展開されている。その中でも家庭養護を社会的に担う「社会的養護」の制度政策・機能を学ぶ。各種「児童福祉施設」の実践内容や「里親制度」のあり方、方向性などを理解する。また「子どもの権利擁護」や「自立支援」「児童指導員及び保育士」の専門性を理解する。	1　現代社会における社会的養護の意義と歴史 2　子どもの権利の理解とその支援のあり方 3　現代社会の家庭で起きる子どもの問題 4　社会的養護の制度と体系 5　施設養護と家庭養護の役割と目的 6　社会的養護制度及び課題と展望

教授方法	「講義」及び「ケース研究」をはじめとするグループディスカッションなども取り入れる。
履修条件	保育士資格取得希望者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	社会的養護の大枠を理解し、各施設で暮らす子どもの思いや願いを理解する。	
2	施設養護の特性及びその実際を学び、養育理論の系譜と現代の児童養護の課題を検証する。	
3	社会的養護の歴史・系譜、特に先駆者である「石井十次」、「留岡幸助」の実践を通じて理念や具体的養育を学ぶ。	
4	「乳児院」の実践事例から、その課題とあり方について学ぶ。	
5	「児童養護施設」の実践事例(1)から、その課題とあり方について学ぶ。	
6	「児童養護施設」の実践事例(2)から、その課題とあり方について学ぶ。	
7	「児童自立支援施設」の実践事例から、その課題とあり方について学ぶ。	
8	「児童心理治療施設」の実践事例から、その課題とあり方について学ぶ。	
9	「母子生活支援施設」の実践事例から、その課題とあり方について学ぶ。	
10	「児童養護施設」の心理担当職員の実践から、社会的養護と心理治療の関係、その具体的実施などについて学ぶ。	
11	各児童福祉施設などの業務及び施設保育士の専門性にかかわる知識・技術とその応用を学ぶ。	
12	「児童養護施設」の実践事例から、リービングケア、アフターケアなど、児童の自立へのプロセスを学ぶ。	
13	「里親家庭」や「里親ファミリーホーム」の実践事例から、今日的課題を学び、施設養護との対比、特徴や里親独自の課題などを学ぶ。	
14	「被措置児童等虐待（施設内虐待）」の現状と発生要因を学び、その対応、予防を学ぶ。	
15	「自立支援計画」とアセスメントについて、その策定と運用の実際について学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	70	児童養護施設、乳児院などの社会的養護の実践現場の課題を明確に記載し、その今後のあり方などを論述、理解している。	リアクションペーパー	30	毎回の演習内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている。自らの課題が設定されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①社会的養護にかかる児童福祉施設の種別・機能・養育内容について「社会福祉」「子ども家庭福祉論Ⅰ」で学んだ内容を整理しておくこと。[30分] ②授業における演習内容からの学びについて、具体的な展開を考察する［40分］	期末レポートの講評、評価視点などについて、Google Classroomなどを用いて総括を行う。

受講生に望むこと	現代の家族問題から社会的養護の抱える問題を自ら発見する姿勢を期待したい。積極的なディスカッションへの参加と能動的な学びを求める。	教科書・テキスト	教科書は特に使用しない。毎回の講義時に配布する資料により授業を行なう。
指定図書／参考書等	なし／『児童養護施設と被虐待児』　森田喜治著　創元社　2009 年 ISBN　4-422-11380-1	その他・特記事項	講義科目であるが演習的要素を取り入れ、積極的な発言など講義への前向きな参加姿勢が望まれる。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会的養護内容			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	松本　理沙						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、社会的養護に関する理解を深めることを目的とする。家庭に代わる養育の場として位置づけられる児童養護施設、乳児院、児童自立支援施設、児童心理治療施設、母子生活支援施設等における実践の具体的内容を把握するとともに、里親養育やファミリーホームなど家庭的養護の推進を含む社会的養護の全体像について理解する。さらに、施設入所に至る背景要因として、子ども虐待、家庭機能の不全、貧困、養育困難などの家族問題に焦点を当て、現代社会における社会的養護の構造的課題を明確化する。そのうえで、子どもを権利の主体として捉える視点に立ち、最善の利益の保障、意見表明権の尊重および権利擁護の仕組みについて理解を深める。また、家庭養育優先の原則を踏まえ、家庭復帰支援や親子関係の再構築、並びに代替的かつ永続的な養育の確保（パーマネンシー保障）を含む家族支援のあり方について考察する。	① 社会的養護における子どもの権利擁護の理念および専門職としての倫理について具体的に理解している。 ② 施設養護並びに里親養育等の家庭養護および家庭的養護を含む社会的養護の実際について理解している。 ③ 個々の児童の状況に応じた支援計画の意義を理解し、日常生活支援および自立支援の内容と方法について具体的に説明できる。 ④ 社会的養護におけるソーシャルワークの方法論及び技術について理解している。 ⑤ 社会的養護を通して、家庭支援、子ども家庭福祉、地域福祉、司法との連携等の関連領域との関係性について理解している。

教授方法	ケースを読み込み、そのケースについて、提示課題によるグループディスカッションを中心とした演習とする。
履修条件	「子ども家庭福祉論Ⅰ」及び「社会的養護」を履修済であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	社会的養護の機能と枠組み	
2	社会的養護の課題	
3	社会的養護を利用する子どもの権利擁護	
4	社会的養護にかかわる保育士の倫理および責務	
5	社会的養護における支援の計画と記録および評価	
6	施設入所と個別支援計画（アドミッションケア）	
7	施設における日常生活支援（インケア）	
8	施設における治療的支援（インケア）	
9	自立支援と退所後の支援（リービングケア・アフターケア）	
10	基本的生活習慣にかかわる専門的技術	
11	学習・学校にかかわる専門的技術	
12	対人関係・社会生活にかかわる専門的技術	
13	家庭支援のためのソーシャルワーク	
14	里親委託児童の支援	
15	総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	講義内容を理解している。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。	リアクションペーパー	40	毎回の演習内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「子ども家庭福祉論Ⅰ」「社会的養護」で学んだ内容を整理し、授業に備える。 ②授業内容の振り返りを行う。	必要に応じて、リアクションペーパーやレポートにコメントする。

受講生に望むこと	現代の家族問題から社会的養護の抱える問題を自ら発見する姿勢を望む。積極的なディスカッションへの参加と能動的な学びを期待する。	教科書・テキスト	『図解で学ぶ保育　社会的養護Ⅰ〈第２版〉』原田旬哉・杉山宗尚編　萌文書林　2024年　ISBN：978-4-89347-411-7 『図解で学ぶ保育　社会的養護Ⅱ〈第２版〉』杉山宗尚・原田旬哉編　萌文書林　2023年　ISBN：978-4-89347-412-4
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	子どもの保健			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	津田　朗子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
子ども個々の育ちを理解し、適切な環境を整え支援することは、保育専門職の重要な役割である。子どもの保健では、子どもの発達の特徴や現代社会における課題をふまえ、乳幼児期に多く見られる健康問題や子どもを取り巻く環境について考え、その健全な発達が保障されるよう、健康問題の予防・早期発見や子ども・家族への支援方法、他職種との連携・協働など、保育専門職としての適切な対応について学ぶ。	①子どもの身体発育や生理機能の特徴を理解している。 ②子どもの疾病とその予防法、及び適切な対応について理解している。 ③子どもの精神保健とその課題等について理解している。 ④子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解している。 ⑤保育現場における事故防止、安全対策・危機管理と、組織的対応について理解している。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：子どもを取り巻く環境の変化と子どもの健康 オリエンテーション、近年の子どもを取り巻く環境の変化をふまえ、子どもの発達保障における課題について考える	
2	子どもの健康と保健の意義、地域における保健活動	
3	子どもの発達・発育と保健①：発達の原則と特徴　アタッチメントとこころの発達	
4	子どもの発達・発育と保健②：身体発育の評価　運動機能の発達と評価	
5	子どもの発達・発育と保健③：生理機能の特徴（呼吸・循環・体温調節） 子どもの生体リズム発達とと生活習慣	
6	子どもの発達・発育と保健④：摂食・消化機能、排せつ、水分代謝、免疫など 子どもの栄養と食習慣の確立（授乳・離乳）、歯と口の健康（むし歯）	
7	アレルギーのある子どもとその対応	
8	感染症とその予防、予防接種	
9	その他の子どもの病気（先天性疾患含む）	
10	子どもの病気と健康状態の観察（アセスメント）、体調不良時の対応	
11	小児救急、事故予防	
12	発育・発達の把握と健診（発達診断とアセスメント）、保護者との情報共有と親支援（GW）	
13	障害のある子どもへの理解と対応	
14	子ども虐待とその予防：虐待の現状、虐待が子どもに与える影響、虐待予防と子育て支援	
15	まとめ：子どもの健やかな育ちを保障するために（多様な支援の展開と関連機関との連携・協働）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題	60	期間内に複数回実施。講義内容の理解度を確認する。	定期試験	40	学期末に実施。基礎的知識の理解度を確認する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義終了時に、次回の講義内容に関連した資料または情報を提示するので、熟読し頭づくりをしておくこと[30分]。	課題は理解度の把握に活用し、次回講義の中で全体にコメントすることによりフィードバックする。

受講生に望むこと	真摯な態度で授業に臨むこと	教科書・テキスト	「子どもの保健　第1版」 遠藤郁夫編　株式会社学建書院　2021年 (ISBN: 978-4-7624-0889-2)
指定図書／参考書等	『子どもって・・ね』木村留美子著　エイデル研究所　ISBN4-87168-393-1／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	子どもの健康と安全			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	北川　節子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
近年、新型コロナウイルス感染症やその他の感染症の拡大、保育所等における食事での窒息事故、通園バスでの事故など、園児の健康・安全を揺るがす事件がみられる。保育所等において園児の健康を保持・増進し、園生活の安全を守ることは最重要事項である。ここでは２年次に学んだ「子どもの保健」を基礎に、保健的環境、保健・安全の観点からの生活支援、衛生管理、感染症対策、健康観察、体調不良児への対応、応急処置、救急蘇生、事故防止、事故発生時の対応、災害の備え、保健計画などについて学ぶ。 ※SDGs目標番号5関連科目	①保育における保健的観点を踏まえた保育環境や生活支援について理解する。 ②保育における衛生管理、事故対策、災害対策の方法を具体的に理解する。 ③子どもの体調不良時の対応について理解する。 ④保育における感染症対策について具体的に理解する。 ⑤子どもの健康や安全の管理にかかわる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価について理解する。

教授方法	講義　演習
履修条件	「子どもの保健」が履修済み、又は履修中であること

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	保育における健康と安全の位置づけを理解する。 保育施設における保健的環境の現状と課題を理解する。 健康の保持・増進を目的とした保育の環境を理解する。	
2	発達と安全確保の観点から、子どもへの生活支援を理解する。	
3	保育施設における乳幼児の健康管理の方法を理解する。 乳幼児の身体計測の方法を習得する。（実習）	
4	保育施設における衛生管理の方法を学ぶ。 保育施設における消毒方法を理解する。	
5	保育施設における健康観察の重要性と方法を理解する。 体調不良の子どもへの適切な対応方法を理解する。	
6	保育施設における与薬について理解する。 乳幼児の体温、脈拍、呼吸の測定方法を習得する。（実習）	
7	乳幼児に起こりやすい病気やけがなどに対する応急処置の方法を学ぶ。	
8	乳幼児の心肺蘇生と異物除去の方法を習得する。（実習）	日赤指導員
9	保育施設における乳幼児への保健的対応を発達段階別に考える。 保育施設における個別の配慮が必要な子への保健的対応を考える。	
10	保育施設における健康・安全を守るための職員間の連携・協働、地域や家庭との連携を考える。 保健安全計画を考え、計画の必要性と保育計画との関連を理解する。	
11	保育施設における事故発生の現状と、事故防止の方法を学ぶ。 保育施設における重大事故発生の要因を考える。	
12	保育施設における事故発生時の対応を学ぶ。 事故発生直後の対応方法や職員間の連携について学ぶ。	
13	保育施設における危機管理の重要性を学ぶ。 保育施設における災害の備えについて理解する。	
14	保育施設における感染症対策の具体的な方法を理解する。 病児保育の現状と課題を知る。	
15	正しい手洗いの方法を習得する。（実習） 保育施設における、おう吐時の対応について具体的に学ぶ。（実習）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
予習レポート	40	教科書・資料等を読み、的確に解答しているか。日本語が適切に使われ、誤字・脱字がないか。	課題レポート	60	課題について的確に書かれているか。授業内容を踏まえてているか、さらに深められているか。日本語が適切に使われ、誤字・脱字がないか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①予習レポート：教科書、資料の指定された範囲を読み解答する。（30分） ②課題レポート：課題について考えたり、問題の解答をする。（30～90分） ③レポートの提出先はgoogle classroom。締め切りまでに提出できない場合は0点となる。	google classroomから個別にコメントする。

受講生に望むこと	①予習や課題レポートが毎回あるが、これらを通して授業内容の理解が深まる。毎回、丁寧に取り組むことを期待する。 ②実習は実際の場面を想定して行う。積極的に取り組んでほしい。	教科書・テキスト	①「子どもの健康と安全」遠藤郁夫／三宅捷太編　学建書院　2021年５月第１版第2刷　ISBN:978-4-7624-0890-8 ②「保育所保育指針解説」フレーベル館　2018年 ISBN:978-4-577-81448-2
指定図書／参考書等	①「保育所における感染症対策ガイドライン　2018年改訂版」　厚生労働省 2022（令和4）年10月一部改訂 ②「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」【事故防止のための取組み】～施設・事業者向け～　平成28年3月 ③「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」【事故発生時の対応】～施設・事業者、地方自治体共通～　平成28年3月	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	子どもの食と栄養			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	三田　陽子・俵　万里子　（代表教員　三田　陽子）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
子どもの食生活は、生涯にわたる心身の健康と生活の基礎となる。保育所は通う子どもが一日の大半を過ごす場である。毎日の食事や食育活動を通して、子どもの健やかな成長を助け、食への興味関心を高めるために重要な役割を担っている。本授業では、保育所等における食生活支援に必要な食に関する基礎知識、食育、食物アレルギー対応について講義と実習を通して学ぶ。	1.健康と食生活のかかわりから望ましい食生活の意義を理解している。特に小児期の食事が生涯にわたる健康につながることを理解している。 2.栄養に関する基本的知識を得ている。 3.乳幼児期の食事について、望ましい形態や量、取り扱い上の留意点を理解している。 4.食物アレルギーへの対応の要点を理解している。 5.家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解している。 6.保育所における食育の意義及び計画・評価の方法を理解している。

教授方法	講義、実習
履修条件	2年次までに開講された保育士に関する科目を履修済みであることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	子どもの健康と食生活の意義①：食生活と健康のかかわりや子どもの心身の発育・発達と栄養について学習する。（子どもの食生活が成長や健康に大きく関わることを理解する。）	三田
2	子どもの健康と食生活の意義②：子どもの食生活の現状と課題について学習する。（子どもの食生活について問題意識を持てるようになる。）	三田
3	実習①調乳：調乳の操作（無菌操作法）の要点を学習する。（調乳の操作及び冷凍母乳の扱い方を理解する。）	俵
4	実習②離乳食の進め方：離乳初期の調理形態や食事量の目安、調理や取り扱う上での留意点を学習する。（離乳初期の調理形態や食事量の目安を理解する。出来上がった離乳食を適切に扱うことができるようになる。）	俵
5	栄養に関する基礎知識①：栄養の概念と栄養素の消化・吸収のしくみについて学習する。（食事と栄養素の関係を理解している。食べたものが体の中にどのように取り込まれ、どのようにはたらくのかを理解する。）	三田
6	栄養に関する基礎知識②：栄養素とそのはたらきについて学習する。（食品に含まれる主な栄養素とそのはたらきを理解する。）	三田
7	実習③離乳食の進め方：離乳中期の調理形態や食事量の目安、調理や取り扱う上での留意点を学習する。（離乳中期の調理形態や食事量の目安を理解する。出来上がった離乳食を適切に扱うことができるようになる。）	俵
8	実習④離乳食の進め方：離乳後期の調理形態や食事量の目安、調理や取り扱う上での留意点を学習する。（離乳後期の調理形態や食事量の目安を理解する。出来上がった離乳食を適切に扱うことができるようになる。）	俵
9	栄養に関する基礎知識③：栄養に関する様々な制度のうち、献立作成に関わる制度や基準について学習する。（栄養管理は『日本人の食事摂取基準』に準ずることをはじめ調理法や衛生管理など、献立作成には様々な工夫が必要であることを理解する。）	三田
10	家庭や児童福祉施設における食事と栄養：家庭、児童福祉施設それぞれの食事と栄養について学習し、配慮や支援の方法を理解する。（それぞれの食事と栄養について理解する。配慮や支援の方法にどのようなものがあるか理解する。）	三田
11	実習⑤幼児期の食事：幼児期の咀嚼や食べ方の機能の発達について学習し、食事の形態や食環境への配慮について考える。（幼児期に適した食事の形態や食環境などの配慮と支援方法を理解する。）	俵
12	実習⑥幼児期の食事：幼児期の食事や間食などの適量、組み合わせ、与え方を学習する。（幼児期の正しい食生活のあり方を理解する。）	俵
13	食育の基本と内容①：食育の意義、保育所における食育の位置づけについて学習する。（食育の意義を理解する。保育所の食育に関する指針や目標を理解する。）	三田
14	食育の基本と内容②：食育の計画や評価、環境づくり、保護者支援・地域支援について学習する。（食育の計画と評価の方法を理解する。子どものみならず保護者や地域に向けた食育の必要性について理解する。）	三田
15	実習⑦食物アレルギーへの対応：食物アレルギーの子どもに対し安全に食事を提供するために必要な食品の選択や提供方法について理解する。（食物アレルギーの子どもに対し、安全に食事を提供するための要点を理解する。）	俵

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート（講義）	40	指定の書式を用い、期日までに提出する。要点を理解しているかを評価する。	レポート（実習）	50	指定の書式を用い、調理のポイント、盛り付け図、振り返り、感想を記載する。期日までに提出する。
授業参加状況	10	必要なものを準備し、クラスルールやマナーを守って積極的に参加している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
（講義）シラバスに準じて教科書に目を通し予習して授業に臨む。[20分]課題レポートは復習をしながら取り組む。[20分] （実習）実習レポートは、実習で配布されたプリントやその他の資料も参考にしながら、じっくり取り組む。[60分]	レポートは確認の上返却する。返却されたレポートは保管しておくこと。

受講生に望むこと	①授業を通して子どもの食事と健康だけでなく、自分自身や周りの人の食事と健康について興味関心を高めてほしい。 ②調理実習はグループの仲間と協力しながら積極的に取り組む。 ③私語やスマートフォンの使用、実習室使用上のルールを守らないなどの受講態度が、注意喚起によって改められず授業に重大な悪影響を与えていると認められた場合、退出などの措置をとることがある。	教科書・テキスト	子どもの食と栄養 第3版　保育現場で活かせる食の基本　太田百合子、堤ちはる編著　羊土社　2025年　ISBN 978-4-7581-1380-9
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	別途調理実習費が必要となる。開講までに教材室を通して納めること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	家庭支援論			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	松本　理沙						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
子育てと家族・家庭に焦点をあて、子どもが育つ場所としての位置づけを理解する。そのうえで、家族・家庭の動向について、急速な少子高齢化による家族の危機的状況に対する支援方法を理解する。そうした社会環境の中、子育て意識の変化、子育ての困難、負担感、不安感を抱く家庭を支援する「子育て支援機能」が保育所の重要な機能であることを学ぶ。保育所の中心的機能の位置づけられた家庭支援の具体的な展開、保育所の社会的責任を確認し、子育て家庭支援の政策動向を学ぶ。また、特別なニーズを持つ家庭である、育てにくさや障害のある子ども、子ども虐待、ひとり親家庭、ステップファミリー、外国籍の家族などへの具体的支援方法を理解する。地方自治体における子育て支援施策の実践例を理解する。	①家庭の意義とその機能について理解している。 ②子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解している。 ③子育て家庭の支援体制について理解している。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解している。 ⑤保育ソーシャルワークの基礎を理解している。

教授方法	講義及び提示課題によるグループディスカッション
履修条件	「子ども家庭福祉論Ⅰ」を履修済であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	子ども家庭支援の役割	
2	子どもや子育て家庭の育ちと社会の変容	
3	保育士が担う子ども家庭支援の基本姿勢と倫理	
4	保育所等を利用する全ての子育て家庭を対象とした支援	
5	保育所等を利用する特別な配慮を必要とする子育て家庭への支援	
6	地域の子育て家庭への支援	
7	保育所等を利用していない子どもを対象とした支援	
8	社会的養護を必要とする家庭への支援	
9	子ども家庭支援に関わる法制度	
10	子ども家庭支援における社会資源との連携	
11	子ども家庭支援に関する事例検討(1)	
12	子ども家庭支援に関する事例検討(2)	
13	子ども家庭支援に関する事例検討(3)	
14	子ども家庭支援に関する事例検討(4)	
15	子ども家庭支援に関する事例検討(5)	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	講義内容を理解している。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。	リアクションペーパー	40	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業終了後に自身で振り返りを行う。次回授業のための予習、課題に取り組む。	必要に応じて、レポートやリアクションペーパーにコメントする。

受講生に望むこと	自らが保育や教育現場等において、家族支援を行うことを想定し、講義に臨んでもらいたい。	教科書・テキスト	『事例で楽しく学ぶ　子ども家庭福祉』芝野松次郎編集代表、新川泰弘・榎本祐子編集　中央法規　2025年 ISBN:978-4-8243-0204-5
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	乳児保育Ⅰ			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	谷　昌代						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
乳児期は、人間形成の基礎ができる重要な時期である。 乳児保育の意義や目的、役割を理解し、成長や発達の特性を理解する。また、低年齢児の発育、発達を踏まえた援助や関わりについて学び、乳児保育が担う社会的意味及び保育現場における乳児保育の課題について討議し考察する。 ※SDGs目標番号3、4関連科目	①乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解している。 ②保育所・乳児院等の多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解している。 ③3未満児の発達を踏まえた保育の内容と運営体制について考えることができる。 ④乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解している。

教授方法	講義・ワーク（個人・グループ）
履修条件	保育士資格取得希望者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション ・赤ちゃんの不思議、赤ちゃんの親になるということは人や家庭にどのような変化をもたらすのか考える。 ・乳児とは何か。乳児保育はなぜ必要なのか、乳児保育の意義を知る。	
2	乳児保育の理念と概念 乳児保育の理念と目標について学ぶ。「三つの視点」から述べられる「ねらい」により、この時期に育てたいことについて考え、「特定の他者」の重要性を知る。	
3	乳児保育の歴史について ・日本の乳児保育の始まり ・諸外国における保育、幼児教育の現状と諸施設の機能等について学ぶ。	
4	乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり（1） ゼロ歳児（生後6か月未満児）：身体・運動的発達の特徴・生活リズム（睡眠・食事・排泄）・遊びをとらえる。	
5	乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり（2） ゼロ歳児（生後6か月以上）から1歳3か月未満児：発達と保育内容を考える。言葉の発達に注目して、やりとりの中で育つ言葉・この時期の大人の役割について考える。	
6	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容（1） 1歳児（1歳3か月から2歳未満児）：生活リズム（睡眠・食事・排泄・着脱）をとらえる。 自我の育ち「イヤ」「ジブンデ」表現・他者との関係性・イメージする力の育ちに注目して考える。	
7	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容（2） 2歳児とは：生活リズム（食事・生活習慣の確立に向けて）をとらえる。意欲の発達に注目する。 言葉の発達「考えることの始まり」・遊びの豊かさ・他者関係「まねっこ」「仲良し」について理解する。	
8	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容（3） 乳幼児の戸外遊び、自然遊びの事例から発達をとらえ、環境について考える。安全、衛生面の配慮と見守りについて考える。	
9	保育所・認定こども園における乳児保育（1） 保育所、認定こども園における乳児の生活の流れについて知る。	
10	保育所・認定こども園における乳児保育（2） ・保育所、認定こども園、各施設について機能や保育体制等について知る。 ・乳児保育の物的環境や人的環境について考える。	
11	乳児保育における配慮事項 乳幼児期の特別な配慮が必要な子どもへの支援について考える。	
12	乳児保育における全体的な計画について 省察・評価から再計画の往還について理解する。	
13	保護者とのパートナーシップ：乳児保育における保護者支援について考える。保護者と共に子どもの育ちを喜び支えるために必要となる連携のあり方を考える。	
14	乳児保育における保育士等の関わりについて：子どもの行為の意味を理解しようとし、適切な関わりについて考える。また、職員間の連携、地域の関係機関との連携について学ぶ。	
15	乳児保育の現状と課題：乳児保育の実践における課題点、子育て家庭に対する支援、支援をめぐる社会的状況の課題点について考え、多様な保育、支援の場があることを知る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	30	授業に対して積極的に参加し、グループワーク等に協働的に取り組む姿勢。	課題	40	乳児保育について適切な資料を活用して調べ、丁寧にまとめられている。
定期試験	30	乳児保育についての基本的な理解を問うもの。授業内で学んだことや自分で学習したことを含め総合的に理解している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・自分の出生に関する資料（母子手帳・保育所等の成長記録等）を見たり、自身のことを知る人たちに乳幼児期のことを尋ねたりして成長過程を知る。[60分] ・乳児を対象とした歌遊びやふれあい遊びについて考え、学んでおく。[120分]	前回授業について振り返り、補足、助言を適宜行う。また、課題については授業内にて学びを共有していく。

受講生に望むこと	・保育者を目指す学生として、乳児期を保育の原点として捉えて学んでほしい。 ・授業で学ぶ乳幼児の姿に心を動かし、イメージしながら受講してほしい。	教科書・テキスト	・『保育所保育指針解説書』厚生労働省編　フレーベル館（2018年）ISBN978－4－577－81448―2 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府　文部科学省　厚生労働省（2018年）ISBN978-4-577-81449-9
指定図書／参考書等	なし／なし（必要な資料は随時配布する。また、薦めたい良書については授業内にて紹介する。）	その他・特記事項	・本科目は保育士資格取得に関わる内容である。「子どもの保健」「保育者論」等の授業と関連づけながら乳幼児期の保育について学びを深めていきたい。 ・授業内容及び課題等をClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

保育教諭、子育て支援の経験をもとに、乳児保育の意義や役割について現代の課題と共に歴史的背景と照らし合わせて伝えていく。乳児の発達や生活の捉え方をビデオ映像や保育事例を通して伝えながら、乳児期における適切な環境のあり方と人との関わりの質について考えていく。

授業科目名	乳児保育Ⅱ			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	谷　昌代						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
乳児（３歳未満児）は、一人では生きられず、身近な大人に支え見守ってもらうことを通して、生活習慣を獲得していく。そのため、保育者は３歳未満児の発育・発達過程を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方と具体的な支援の仕方を理解する必要がある。ここでは、乳児保育Ⅰの知識を基に、乳児（３歳未満児）の「基本的生活習慣の獲得と支援」や「子どもの生活や遊びを支える環境」を学ぶ。また、個々（集団）に適した援助を行うための指導計画の作成と評価について学ぶ。	1.3歳未満児の発育・発達過程を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2.3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に理解する。 3.乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4.乳児保育における計画の作成（個別・集団等）や評価について、具体的に理解する。

教授方法	講義・演習
履修条件	乳児保育Ⅰを修得済みであること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	保育における「乳児保育」の重要性（意義・目的）について理解する。（乳児保育Ⅰ：講義の復習）	
2	3歳未満児の基本的生活習慣の獲得と自立支援について理解する：生活リズム（睡眠のリズム）をつかみ援助することと、排泄の自立支援を理解する。	
3	3歳未満児の基本的生活習慣の獲得と自立支援について理解する：乳幼児の食べる機能の発達と自立支援を理解する。	
4	3歳未満児の基本的生活習慣の獲得と自立支援について理解する：抱き方とおむつ交換の方法を習得する。「演習」	
5	3歳未満児の基本的生活習慣の獲得と自立支援について理解する：清潔（手洗い、うがい）・衣服・靴の自立支援を理解する。	
6	3歳未満の心身の健康と安全、情緒の安定を図るための配慮：子どもの健康・安全に関する事故や事件からその要因を理解し、防止策を考える。	
7	3歳未満児の基本的生活習慣の獲得と自立支援について理解する：調乳と授乳の方法を習得する。「演習」	
8	3歳未満児の主体性を尊重した生活と遊びの展開について理解する。：①積極的・意欲的だけでなく、拒否する権利を受け止めた関わりと環境について考える。	
9	3歳未満児の主体性を尊重した生活と遊びの展開について理解する。：②子ども同士の関わりとその環境について考える。	
10	個別的な指導計画と集団の指導計画について：ICTを活用してのドキュメンテーションの作成を行う。	
11	個別的な指導計画と集団の指導計画について：ドキュメンテーションを基に計画を見直しや評価を行う。	
12	環境の変化や移行に対する配慮：人的・物的・空間的環境から考える。	
13	3歳未満児の基本的生活習慣の獲得と自立支援について理解する：①沐浴と衣服の交換の方法を習得する。「演習」	
14	3歳未満児の基本的生活習慣の獲得と自立支援について理解する：②沐浴と衣服の交換の方法を習得する。「演習」	
15	動画（実際の乳児の保育の場面）を視聴し、3歳児未満児の体験と学びの援助を考える。（まとめ）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	講義・演習への取り組み姿勢 ディスカッションや演習に主体的かつ積極的に参加をしている。	演習レポート	40	演習についての支援方法や注意点が理解されている。丁寧でわかりやすく記載されている。
試験	30	基本的な知識を理解している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回、授業後に復習を行う【30分】 ②ドキュメンテーションの作成を行う【90分】 ③乳児保育に関する資料を読む【60分】	・提出された課題を授業で反映する。 ・必要に応じて他の学生の課題を見せ合う。

受講生に望むこと	授業内容を考え、服装や容姿を整えて参加する。	教科書・テキスト	『改訂 乳児保育:一人ひとりが大切に育てられるために』　吉本和子　郁洋舎　2023年 ISBN:978-4-910467-11-5
指定図書／参考書等	なし/必要に応じて随時提示する。	その他・特記事項	連絡事項はClassroomで配信する。

実務経験を活かした授業の概要

保育士、保育教諭、子育て支援の経験をもとに、乳児保育における保育者の役割について、乳児人形等を使用しながら、援助や関わり方を実践的に学ぶ機会を提供している。乳児の発達や生活の捉え方を具体的な保育事例を通して伝えながら、乳児期における適切な環境のあり方と人との関わりの質について考えていく。

授業科目名	障がい児保育			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	谷　昌代						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
障害の有無に関わりなくすべての人々が共生する、インクルーシブ社会の実現のためには、障害のある子とない子が共に活動し育ち合う、インクルーシブ保育が重要である。本科目では、新しい障害概念を理解したうえで、障害のある子の育ちの援助について、理論的側面と実践的側面から理解を深めていきたい。さらに、障害のある子を含むクラスにおける保育や当該児の周囲の子どもたちへの援助など、インクルーシブ保育の実際について理解を深めていく。また、障害児を持つ保護者やきょうだいの思いに触れ、家庭への援助とともに地域社会の理解を踏まえ関係機関との連携の在り方についても考えていく。 ※SDGs目標番号4、10関連科目	①障害者権利条約や改正障害者基本法、障害者差別解消法などをベースとして、新しい障害概念を理解する。 ②障害のある子を一人の子どもとして捉えることの大切さを学び、その子とのより良い関わり方について理解する。 　障害のある子の育ちの援助の実際について理解する。 ④障害のある子の家族の心理とその援助について理解する。 ⑤障害のある子とない子が共に育ち合う、インクルーシブ保育の重要性とその実際について理解する。

教授方法	講義・個人ワーク・グループワーク
履修条件	保育士資格取得希望者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：自分と障害児の関わりについて振り返る。 障害児保育を支える理念（1）：「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷	
2	障害児保育を支える理念（2）：地域社会への参加・包容および合理的配慮の理解	
3	障害児等の理解と保育における発達の援助（1）：肢体不自由児の理解と援助	
4	障害児等の理解と保育における発達の援助（2）：知的障害児の理解と援助	
5	障害児等の理解と保育における発達の援助（3）：視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助	
6	障害児等の理解と保育における発達の援助（4）:発達障害児の理解と援助（ADHD・LD・ASD）	
7	重症心身障害児・医療的ケア児・その他の特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助（5）	
8	指導計画および個別の支援計画の記載内容を理解し、作成を試みる。作成後の活用の仕方を考える。	
9	発達をうながす生活や遊びの環境と子ども同士の関わり・育ち合い 保育者が考慮すべき具体的な関わりや環境構成について考える。	
10	障害児保育における子どもの健康と安全について学ぶ。	
11	職員間の連携・協働 インクルージョンの理念を理解し、障害のある子とない子が共に育つ保育の重要性について考える。	
12	保護者に対する理解および保護者間の交流や支え合いの意義と支援 障害のある子の保護者の心理について理解を深める。	
13	保育施設が地域の専門機関との連携に求めるニーズの現状を知り、専門機関との連携のシステムを知る。	
14	就学に向けて、当該児の思いを理解し、小学校との連携の在り方を学ぶ。	
15	障害児の支援として地域で育ち、地域で暮らせるよう、地域との連携の意義や課題について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	30	授業に対して積極的に参加し、グループワーク等に積極的、協働的に取り組む姿勢。	課題	40	①テーマについて適切な資料を活用して調べ、丁寧にまとめられている。 ②グループ発表の際にはわかりやすくまとめ発表されている。
定期試験	30	障害児保育についての基本的な理解を問うもの。授業内で学んだことや自分で学習したことを含め総合的に理解している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・これまでの自分と障害児との関わりについて振り返る。［60分］ ・グループで模擬授業の準備をする。［時間をかけて］ ・出題される課題について資料等を参考にしながらレポートを作成する。［120分］	前回授業について振り返り、補足、助言を適宜行う。また課題については授業内にて学びを共有していく。

受講生に望むこと	・新しい障害概念を理解すること。そのうえで障害のある子を大切な一人の子どもとして受け止めるために基本的な人間観や保育観を身につけ、その育ちの援助の実際について深く学んでほしい。 ・よい保育者、教育者になるために、自分を見つめる姿勢を養ってほしい。 ・障害をもつ子どもやその家庭の個人情報を扱う場合もあるので、授業で知り得た情報の取り扱いは十分に注意してほしい。 ・テキストの購入を早めにして授業の臨んでほしい。	教科書・テキスト	新基本保育シリーズ17『障害児保育』監修　公益財団法人　児童育成協会　編集　西村重稀　水田敏郎　2021年　中央法規　ISBN978-4-8058-5797-7C3036
指定図書／参考書等	なし／『共に生き、共に育つ』徳田茂　ミネルヴァ書房　2019年 ISBN978 -4-623-08775-4	その他・特記事項	授業または課題をclassroomに投稿し、参加、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

保育の現場で関わってきた障がいのある子どもたちの姿や当該児を含むクラスの子どもたちとの事例を提示し、多様な子どもたちの立場で感じたり考えたりする機会を大切にしている。インクルーシブ保育の実現に向け、支援の在り方を考え、当該児や保護者のよき理解者となれるよう学び合っていく。

授業科目名	子育てと支援			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	ポーター　倫子・谷　昌代　（代表教員　ポーター　倫子）						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、教科書に収録された15のストーリー（事例）を軸に、現代の子育て家庭が抱える課題と、それに対する保育者の支援方法を学びます。さらに、関連する他の専門書やデータを参照することで、事例の背後にある「制度」「理論」「技法」への理解を深め、根拠に基づいた実践力（エビデンス・ベースド・プラクティス）を養います。	① 保育者が子ども・家庭支援を行う理由と意義を理解し、保育の専門性を活かした子育て支援の基礎を身につける。 ② 子育て支援の基本的な展開方法を学び、個々のケースに応じた適切な対応 ができる技能を習得する。 ③ 具体的な事例を通じて、貧困、虐待、障害、外国ルーツなど多様な支援ニーズを持つ子どもや家庭への支援内容、方法、技術について理解を深める。

教授方法	講義、ディスカッション、ロールプレイ
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、子育て支援とは（Lesson 1）　夜型の生活リズムの家庭の事例から、子育て支援の法的根拠と保育者の役割を学ぶ。	ポーター
2	子育て支援の意義（Lesson 2）オムツ外しに悩む保護者の事例を通じ、社会の変化と保育所の専門性（養護と教育）を理解する。	ポーター
3	基本的価値・倫理（Lesson 3）気になる子の事例から、子どもの最善の利益と保護者の自己決定の尊重を学ぶ。	谷
4	基本的姿勢（Lesson 4）貧困家庭の事例を通じ、受容・共感などのカウンセリングマインドとラポール形成を学ぶ。	谷
5	基本的技術（Lesson 5）父子家庭の事例から、支援プロセス（インテーク～終結）と面接技術を学ぶ。	谷
	連携と社会資源（Lesson 6）虐待傾向のある家庭への支援を通じ、関係機関との連携（要対協等）を学ぶ。	谷
7	記録・評価・研修（Lesson 7）ステップファミリーの事例を通じ、アセスメントツールと記録の技法を学ぶ。	ポーター
8	子育てシンポジウム：実際に子育てをしている保護者の話を聞き、子育ての実態や支援の必要性について理解を深める。また、対話を通じて多様な視点 を学び、支援者としての姿勢を考える。	ポーター
9	日常会話の活用（Lesson 8　トラブル（かみつき等）対応を通じ、送迎時の会話や苦情対応の基本を学ぶ。	谷
10	文書の活用（Lesson 9）アレルギー児への対応事例から、連絡帳やおたより（クラスだより）の書き方を学ぶ。	谷
11	行事の活用（Lesson 10）外国籍家庭の事例を通じ、多文化共生と保護者参加行事のあり方を学ぶ。	ポーター
12	環境の活用（Lesson 11）新入園児の事例から、親子が安心できる人的・物的環境構成を学ぶ。	谷
13	到達度試験	ポーター
14	地域子育て支援拠点（Lesson 12）専業主婦の孤立事例から、ひろば事業とアウトリーチを学ぶ。	ポーター
15	これまでの学びを振り返り、子育て支援の基本的な知識や技術の習得状況を確認する。また、今後の課題を明確にし、支援者としてのさらなる成長に向けた展望を考える。	ポーター

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
平常点	35	学習意欲、履修態度、予習復習状況	到達度試験	35	授業内容がどれだけ理解されているかを評価
レポート	30	ルーブリックを用いて評価			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業前に、教科書を予習する［30分］。②各章のチェックリスト及び授業内で解け なかった演習問題を行う［30分］。	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ すべての提出物は、締切から１～２週間内にフィードバックをつけ て返却する。試験は、１週間以内に採点する。

受講生に望むこと	教室内での私語は避けること。課題におけるAIの使用については、担当教員の指示に従うこと。	教科書・テキスト	二宮 祐子（2018）『子育て支援：15のストーリーで学ぶワークブック』萌文書林　ISBN 13 ： 9784893472847、ISBN 10 ： 4893472844
指定図書／参考書等	授業内で適宜、他テキストや公的資料の抜粋を配布・紹介します。	その他・特記事項	必ず教科書を持参すること。また中古の教科書を購入する場合、ワークシートが入ったものかどうかを確認して購入すること。

実務経験を活かした授業の概要

谷：保育教諭、子育て支援の経験をもとに具体的な事例を提示し、保護者の背景や思いの理解に努め援助しようとする姿勢を学びます。

授業科目名	器楽Ⅱ			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	ポーター　倫子・種池　有美子・福田　真紀　（代表教員　ポーター　倫子）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
「器楽Ⅰ」で身につけた個々の技能をさらに高め、実践的な演奏能力を養うことを目的とする。保育現場や小学校の授業で求められる弾き歌いや伴奏法の理解を深め、保育現場や初等教育で扱われる楽曲を用いて、実践に必要な知識と技能を身につける。授業は、グループレッスンと個人レッスンを並行して行う。グループレッスンでは、より豊かな表現力を養い、課題を通して演奏技術をさらに向上させる。個人レッスンでは、各学科の特性に応じた楽曲を学び、より実践的な演奏技術の向上を目指す。	①ピアノ演奏に必要な基礎知識を習得し、楽譜の指示に応じた表現で演奏できるようになる。 ②様々な音楽に触れ、曲想に応じた演奏表現ができるようになる。 ③コードネームを理解し、小学校音楽科の共通教材や子どものうたの弾き歌いを演奏できるようになる。 ④様々なリズムの特徴を理解し、リズムに応じた適切な演奏ができるようになる。 ⑤発表の機会を通じて、演奏準備を計画的に進め、本番に向けて仕上げられるようになる。

教授方法	講義、演習及び実技指導
履修条件	「器楽Ⅰ」を履修した者、または、バイエルピアノ教則本80番以上を演奏できる者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について、シラバスを通して理解する。各自に応じたピアノ曲、リズム曲、弾き歌いの課題を理解し、練習計画を立てる。リズム曲の演奏法について学び、実践する。	全員
2	曲想・奏法に関する用語・記号について楽譜を通して理解を深め、様々な演奏技術を習得する。 変ロ長調の音階と主要三和音のコードネームについて理解し、主要三和音を用いた4つの和音進行を習得する。	全員
3	クラス授業：変ロ長調の主要三和音を用いた和音進行の発表。ハ長調のコード伴奏の発展として、様々な伴奏パターンを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅰ、リズム曲Ⅰ、子どものうたⅠ	各担当教員
4	クラス授業：ハ長調の子どものうたのコード伴奏付けを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅱ、リズム曲Ⅱ、子どものうたⅡ	各担当教員
5	クラス授業：ト長調のコード伴奏の発展として、様々な伴奏パターンを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅲ、リズム曲Ⅲ、子どものうたⅢ	各担当教員
6	クラス授業：ト長調の子どものうたのコード伴奏付けを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅳ、リズム曲Ⅳ、子どものうたⅣ	各担当教員
7	クラス授業：ハ長調・ト長調の子どものうたのコード伴奏付けを確認する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅴ、リズム曲Ⅴ、子どものうたⅤ	各担当教員
8	発表Ⅰ：各自に応じたピアノ曲、リズム曲、弾き歌い（暗譜）を発表する。	全員
9	クラス授業：ヘ長調のコード伴奏の発展として、様々な伴奏パターンを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅵ、リズム曲Ⅵ、子どものうたⅥ	各担当教員
10	クラス授業：ヘ長調の子どものうたのコード伴奏付けを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅶ、リズム曲Ⅶ、子どものうたⅦ	各担当教員
11	クラス授業：ニ長調のコード伴奏の発展として、様々な伴奏パターンを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅷ、リズム曲Ⅷ、子どものうたⅧ	各担当教員
12	クラス授業：ニ長調の子どものうたのコード伴奏付けを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅸ、リズム曲Ⅸ、子どものうたⅨ	各担当教員
13	クラス授業：ヘ長調・ニ長調の子どものうたのコード伴奏付けを確認する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅹ、リズム曲Ⅹ、子どものうたⅩ	各担当教員
14	発表Ⅱ：各自に応じたピアノ曲、リズム曲、弾き歌い（暗譜）を発表する。	全員
15	クラス授業：即興演奏の方法について学ぶ。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲XI、リズム曲XI、子どものうたXI	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢。	発表Ⅰ	30	発表への取り組みと内容。
発表Ⅱ	30	発表への取り組みと内容。	クラス授業内発表	30	発表への取り組みと内容。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①クラス授業で学んだ課題を習熟できるように、毎日練習すること。[30分] ②個人レッスンで出された、各自に応じたピアノ曲、リズム曲、子どものうたの弾き歌いを演奏できるように、毎日練習すること。[60分]	コメント又は個別指導を行う。

受講生に望むこと	①毎授業で出される課題に積極的に取り組むこと。 ②単にピアノを練習するだけではなく、ピアノ曲をＣＤなどで聴き、わからない音楽用語や記号は調べること。 ③毎日のピアノ練習時間を確保するために、僅かな空き時間を有効活用するなどの工夫をすること。 ④発表に向けて計画的に練習し、準備をすること。	教科書・テキスト	『うたのファンタジー 』木許隆監修・編著、圭文社、 2017、ISBN978-4-87446-064-1.『保育者、教員をめざす人のための 初級ピアノ・テクニック速習ステップス』木許隆監修、音楽之友社、2015、ISBN978-4-276-82073-9.『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018、ISBN978-4-87446-066-5.『コードネームとリズムによる Basic and Variations』木許隆，武田恵美，長井典子編著，圭文社、2022、ISBN978-4-87446-091-7.『うたうソルフェージュ』木許隆監修、圭文社、2024、ISBN978-4-87446-093-1.プリント
指定図書／参考書等	なし／『小学校 音楽科教育法 2022年改訂版』有本真紀・阪井恵・津田正之編著、教育芸術社 、2021、ISBN978-4-87788-969-2.	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	身体表現			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	丸井　一誠						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
子どもの発育発達や運動機能、そして身体表現に関する内容を理解したうえで、運動遊びや身体表現活動の実践に必要な基礎的技能や指導力を身につける。また、身体を積極的に動かす経験を通して健康・安全について理解し、子どもと共に楽しく明るい健康な生活を営むための内容と方法について学ぶ。 ※SDGs目標番号4、5関連科目	①自ら積極的に身体を動かして表現したり、子どもに対して積極的に表現することを誘発することができるようになる ②子どものための身体運動または身体表現について理解することができる

教授方法	対面授業による演習
履修条件	保育士資格取得希望者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業概要説明：授業の進め方、成績評価の方法 「身体表現」について考える。	
2	幼児期運動指針と指導法	
3	身体運動を創発する環境と安全	
4	保育計画と評価	
5	実技　身体運動・表現を通じて運動を楽しむ資質の基礎を育む	
6	模擬保育①　走ることを中心とした運動遊び	
7	模擬保育②　跳ぶことを中心とした運動遊び	
8	模擬保育③　投げることを中心とした運動遊び	
9	模擬保育④　蹴ることを中心とした運動遊び	
10	模擬保育⑤　教具を用いた運動遊び	
11	模擬保育⑥　身近なものを用いた運動遊び	
12	模擬保育⑦　単純な鬼遊び	
13	模擬保育⑧　役割分担をともなう鬼遊び	
14	模擬保育⑨　音を用いた身体表現遊び	
15	ふりかえりとまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	50	授業への取り組み姿勢	模擬保育	30	伝え方、活動内容、相互作用、授業に取り組む準備や態度
課題の提出	20	授業内奥を踏まえ、基本的な項目に対して適切な表現で伝えることができているか 提出期限を守ることができるか			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
子どもの運動に関する情報に興味を持つ ①ニュースや新聞で報じられている、子どもの運動に関する情報に接する［60分］ ②子どもの明るく元気な姿や活動を導くために何が必要か常にアンテナを広げ、適宜、考える［60分］	課題等は理解度の把握に利用し、授業の中で振り返りと確認を行う。

受講生に望むこと	子どもが明るく元気に伸び伸びと遊ぶために、自分は大人として、将来の保育者としてどのようにあるべきか、何をすべきなのかを考えながら受講してください。	教科書・テキスト	授業中に適宜資料を配布する
指定図書／参考書等	授業を進める中で随時提示またはプリント配布する。	その他・特記事項	運動できる服装に着替え、体育館履きに履き替えて受講すること。 人数や進度に応じて授業内容を調整・変更することがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	児童文化			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	山下　のぞみ						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
伝承の遊びとおはなしに親しみ、それらが子どもの様々な発達といかに関わっているかを考える。さらに、子どもに手渡す際の留意点を探る。また、課題としておはなしを覚えて語ることを経験する。	①わらべ唄で遊ぶ体験を通して、それぞれのわらべ唄を覚えている。 ②子どもの発達段階に応じてどのわらべ唄がふさわしいかを知っている。 ③わらべ唄の音楽的特徴を理解している。 ④昔話の特徴を理解している。 ⑤子どもの発達に応じた、おはなしを選ぶことができるようになる。 ⑥ストーリーテリングを体験することによって、お話を聞くことの楽しさを知る。 ⑦ストーリーテリングを実際に経験している。 （他の学生のおはなしを聞き、おはなしを覚える練習をする。）

教授方法	実際に身体を動かしてわらべ唄を体験する。（体験が難しい場合は、DVDを視聴する）　伝承のおはなしである昔話を、語り伝えられたと同じように、耳だけで聞く体験をする。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	わらべ唄とは何か：わらべ唄にはどのような特徴があるか考えたい。地域性、旋律やリズムの特徴について、口伝えであることが深く関わっていることを認識する。	
2	わらべ唄と子どもの成長との関わり：わらべ唄を楽しむ条件として、子どもの身体的・言語的・社会的発達が重要であることを知る。	
3	言語発達とわらべ唄：わらべ唄には、日本語の拍感・リズム感・発音また地域のイントネーションがそのまま入っており、母語の獲得時期にくりかえしうたって聞かせることが子どもの言語発達にとって重要であると知る。	
4	運動機能・空間認知の発達とわらべ唄：新生児から学童期まで、子どもの運動発達を粗大運動と微細運動の面からとらえ、どのようなわらべ唄遊びを取り入れられるか考える。	
5	伝統行事の中でのわらべ唄：日本人が行ってきた祭り、年中行事の中で、特に子どもが関わってきた行事に注目し、その中で伝承されてきたわらべ唄を紹介する。	
6	音楽としてのわらべ唄：子どもの音楽的能力の発達とそれに沿った大人の働きかけについて考える。月齢に応じて育てていきたい能力（リズム感・聴感）を意識した課業を考える。	
7	わらべ唄を課業に取り入れるための留意点：わらべ唄遊びを楽しむには、仲間関係や運動発達が大きく関わることをふまえ、一人一人の子どもをよく観て子どもたちに沿った課業案を立てることが大切だと認識する。	
8	昔話とは何か（昔話の分類）：神話、民話、伝説、昔話といった用語を整理し、昔話を定義する。その上で、昔話には語りの特徴が見出されることを知る。	
9	昔話とは何か　（昔話の語り口　1）：昔話の文芸学的研究に基づき、語りの特徴（一次元性、孤立性、平面性）について例をあげて解説する。	
10	昔話とは何か　（昔話の語り口　2）：引き続き、昔話の語りの特徴（固定性、極端性、抽象的様式）について例をあげて解説する。	
11	昔話とは何か　（昔話の残酷性）：なぜ、昔話は残酷だといわれているのか、伝承であるがゆえに残る刑罰と、語り口の面から考察する。	
12	昔話とは何か　（昔話に込められたメッセージ）：昔話には民衆の人間観・世界観・人生観が込められている。特に子どもに向けて語られた昔話にみられる、主人公の成長する姿について読み解いていきたい。	
13	おはなしに道具を取り入れるための留意点：子どもたちは、自分でも作って遊べる人形や、大人が演じてみせてくれる人形、自分自身も演ずることのできる人形を通して、さらにおはなしの世界を深く体験できる。その際のいくつかの留意点を考える。フェルトを使った動物の人形の製作方法を確認する。	
14	即興のおはなしと大人のための練習：昔話の語りの特徴を復習し、子どもが好むおはなしのパターンと結末を整理して、目の前の子どもたちを主人公にしたおはなしを即興で作れるよう練習する。	
15	子どもにとっての文学とは：子どもたちがその発達に応じて求めるおはなしについて知る。また、おはなしを楽しむ中で様々な関係を追体験したり消化したりできることを知る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題の発表	50	子どもと一緒に楽しみたい詩を、自分が設定した月齢に応じて選んで、発表できているか。おはなしをきちんと覚えて、語れているか。	授業参加態度	30	演習で、わらべ唄を積極的に覚えようと努めているか、他の学生の発表から学ぼうとしているかを重視する。また、授業内での質問に対しての発言も考慮する。
試験	20	授業内容についてどれだけ理解しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
ストーリーテリングの発表はグループで行うため、その分担や練習などを各グループで行ってもらう。[1ケ月以上、各自覚えられるまで] 各自、子どもの月齢を設定した上で詩を選んで朗読してもらう。事前に詩集を読み、発表する詩を準備して、授業に臨んでほしい。[90分以上]	①発表の際にコメントする。 ②評価やコメント等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	演習形式の授業のため、積極的な参加と出席が望まれる。動きやすい服装で参加することを望む。	教科書・テキスト	『わらべうたと子どもの育ち』 木村はるみ著　エイデル研究所　2019年 ISBN：9784871686334 ※教科書は授業時に販売予定
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	谷　昌代						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、保育士資格を得るために必要な保育実習Ⅰ（保育所実習2単位）を行うための事前指導と事後指導からなっている。事前指導では、保育実習の意義と目的、保育現場に対する理解を深める。具体的には保育士に求められる倫理綱領をはじめ、実習に臨む基本姿勢、年齢・発達の段階に応じた子ども理解・実習日誌の記入方法や指導計画の書き方、保育に必要な知識・技能の確認等、実習に向けた準備を行う。事後実習では、実習で体験したことの意味付けと自己評価を行い、これまでの保育観を省察する。それに基づいて自己課題を明確にし、次のステップである保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲに臨む。	①保育実習の意義と目的を理解している。 ②保育所の役割と機能を理解している。 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にすることができる。 ③子ども（一人一人）の発達過程や生活の流れを理解し、個に応じた関わりや集団における関わりについて理解している。 ④実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解している。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。 ⑥実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解している。

教授方法	講義・演習・ディスカッション・プレ実習と事前訪問・実習報告会等
履修条件	「保育実習Ⅰ（保育所）」を履修中、「保育実習Ⅰ（施設）」を履修済み、履修中または履修予定の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	保育実習Ⅰ（施設）、教育実習Ⅰ・Ⅱ（幼稚園）を通しての自己の学び（課題）を振り返る。 保育実習の意義（1）：実習の意義と目的、保育実習の概要の説明	
2	子育て支援の体験：子育て支援の役割を考え、子ども（乳幼児）や保護者との関わりを学ぶ。 プレ実習日誌の書き方を理解する。	
3	保育実習の意義（2）授業概要の説明、実習の内容と課題、保育士の責務について 実習の意義と目的、保育実習の概要、実習の内容と課題、保育士の責務について	
4	子どもの人権や最善の利益、プライバシーの保護と守秘義務について： 『全国保育士会倫理綱領学習シート』をもとに学び、実習生の心構えを確認する。	
5	教材作成について（1）：手作り教材の意味と選ぶポイントについて 指導計画の立案について（1）：指導計画の意味と作成のポイントについて理解する。	
6	子育て支援の活動（赤ちゃんサロン等）でのプレ実習：観察、記録及び評価 ・子どもや保護者との関わりについて実地から学ぶ。 ・年齢別の発達の違いや個性について実地から学ぶ。	
7	実習園事前訪問とオリエンテーション（実習園プレ実習日）： ・実習先の保育方針、概要を理解する。 ・実習担当クラスの乳幼児の発達・年齢に合わせた関わりを考える。	
8	実習における計画と記録（1）時系列日誌について：記入する目的、記入の仕方 個と集団の観点から教育実習（幼稚園）との共通点と異なる点について学ぶ。 指導計画の立案について（2） ・指導計画の作成のポイントを復習する。	
9	保育実習Ⅰ（保育所）の目的、概要、事前訪問（オリエンテーション&プレ実習）、実践内容（教材・手作り玩具・遊び等・指導計画）、部分実習について確認をする。	
10	実習における計画と記録（2） エピソード記録日誌について：記入する目的，記入の仕方，時系列日誌との違い 教材作成について（2） 手作り教材作成のポイントと実習担当クラスの子どもの発達・年齢に応じた教材とその関わりを考える。	
11	保育施設職員との学び合い（外部講師） ・保育施設職員が大切にしていることについて。（保育士の資質） ・年齢別保育と異年齢保育の違いについて ・保育現場が考える保育実習の意義について（実習生に求めるもの）	
12	直前指導/実習内容や準備物・配布物の確認 ・教育実習（幼稚園）から保育所に学びを繋げる。 ・日誌や指導計画等の書き方についての疑問点等の確認をする。 ・自己課題をもとに自己の目標を明確にする。	
13	保育実習Ⅰ（保育所）事後指導（1）自己評価 ・実習終了アンケートや事後レポートを作成し、自己の学びを振り返る。 ・実習Ⅰ報告会の準備を行う。 ・お礼状の作成を行う。	
14	保育実習Ⅰ（保育所）事後指導（2） ・実習Ⅰ報告会の準備を行う。（各グループの進行状況の報告と準備）	
15	保育実習Ⅰ（保育所）報告会 ・実習報告会に参加し、学びについて発表する。 ・保育実習Ⅰ（保育所）報告会を終え、自己の学びを振り返り、自己課題を明確にする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度（実習報告会内容含む）	50	①実習の目的を明確に理解している。②主体的に討議に参加している。③保育士の職務や保育を理解している。	課題提出	50	①課題を期日までに提出している。②課題内容を理解し、工夫して取り組んでいる。③実習日誌の書き方を理解している。④指導計画を作成することできる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①ホームページ等を活用して、各園の保育方針やねらいについて読み取り、概要をまとめ、レポートを提出する。［30分］ ②実習日誌のモデル案に従って日誌を書いてみることを通し、実習日誌の作成に慣れておく。［60分］ ③実習で求められる教材を実演できるように、作製・練習しておく。（手遊び・絵本・視聴覚教材（手作り教材）・季節に合った歌やゲーム・活動・製作など）［90分］ ④身近に見かける乳幼児や親子の姿を気に留めて観察し、記録する。［30分］ ⑤報告会の準備［60分］	個別指導及び授業内での振り返りを行う。また、授業内で学生同士の記録や指導計画を見せ合い学び合う。

受講生に望むこと	①「教育実習Ⅱ（幼）」「教育実習指導Ⅱ（幼）」も同時に履修することが望ましい。 ②保育士が子どもの成長・安全にかかわる仕事であることを十分に認識して授業に臨むこと。 ③事前にテキストを熟読し、演習課題に取り組むことが望ましい。 ④「社会的養護内容」「乳児保育」「子どもの食と栄養」の授業と関連づけて理解するように努めること。	教科書・テキスト	教科書は使用せず、授業資料として配付する。
指定図書／参考書等	なし／『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814482	その他・特記事項	・無断欠席・遅刻・早退が多い、記録や指導計画が未提出の場合は、実習を認めない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	保育実習Ⅰ（保育所）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	谷　昌代						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
保育実習指導Ⅰで受けた事前指導に従って、配属先の保育所で90時間の実習（10～11日間）を行う。大学が依頼した実習先に、通勤の事情を考慮して一保育所に1名または2名の実習生を配属する。実習は、主に3歳未満児のクラスで行い、観察実習から入り、参加、部分実習までを行う。実習は授業で学んだ知識を実践する場であり、毎日の実習内容と気づきを指定の書式に記録し、実習担当者の助言を受ける。 以上の体験を通して、保育の実際を学び、保育士としての自己課題を明らかにすると共に自己理解し、今後の学びにつなげていく。	①保育所の役割や機能を具体的な実践を通して理解している。 ②子どもの観察や子どもとの関わりから子どもを見る視点を明確にし、保育の理解を深める。適切に記録を作成することができる。 ③大学の授業で習った内容（既習事項）を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について実践や保育士との事例検討から学び、考察することができる。 ④保育の計画、観察、実践、記録及び自己評価と改善について具体的に理解している。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学び、説明できる。 ⑥保育士としての自己課題を明確にし、今後の学びを説明することができる。

教授方法	配属施設において「10日～11日間」及び「90時間以上」の実習を行い、実習担当保育士から学ぶ。
履修条件	教育実習指導Ⅰ（幼）及び教育実習Ⅰ（幼）の単位を修得済（中）の者。また、保育実習指導Ⅰ（保育所）を履修し、本学の定める実習履修条件を満たしていること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	90時間（約11日間）の実習において、観察、参加、部分実習の段階を踏んで、次の内容を行う。	
	保育所の一日の流れを理解する。	
	保育所の役割と機能を理解する。	
	子ども（一人一人）の生活の流れを理解する。	
	子どもの発達過程・生活の流れ・子どもへの援助や関わり等を観察と関わりから記録し、理解する。	
	子ども一人一人の発達過程や生活の流れ等に応じた援助や関わりを考察し、実践する。	
	指導計画を立案の上での留意点や観察の視点を具体的に学び理解する。また、計画を実践し、自身の計画を客観的に振り返ることができる。	
	指導計画を立案し、実践することで子どもの発達過程に応じた保育内容を理解する。	
	指導計画を立案し、実践することで子どもの生活や遊びと保育環境を理解する。	
	子どもの健康と安全を守る保育士の役割を理解する。	
	指導計画に基づき省察し、自己評価を実践する。	
	部分実習の実践や記録をもとにした保育士との協議から自己の課題を明確にする。	
	保育士と保護者との関わりや保護者とのコミュニケーションから家庭との連携の方法について理解する。	
	部分実習の実践や記録をもとにした保育士との協議から自己の課題を明確にする。	
	専門職としての保育士の業務内容や職業倫理について理解する。また、職員間の役割分担やチームワークについて理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習先の評価	40	実習評価表における項目（実習の態度、知識・技術）ごとに評価する。	提出物（実習日誌・レポート・教材　等）	40	①具体的なねらいを持って計画、実践を行い、適切に記録されている。 ②前半の実習を見直し、気づきを後半の実習にいかしている。 ③実習を通して自己理解し、自己課題をまとめている。
実習訪問指導時の担当教員の評価	20	訪問指導時のヒアリングや面談内容によって評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①『保育所保育指針』を充分に読み込み、保育計画を立てる際に必ず参考にすること。［30分］ ②乳幼児の保育に必要となる表現技術を磨く。［30分］ ③子どもの年齢や発達に応じた歌や手遊び、教材製作などを事前に準備し、いつでもできるようにしておく。［30分］ ④実習日誌や指導計画を期日に遅れないよう作成する。［60分］ ⑤指定された項目に従って、事後レポートを作成し、実習を振り返る。［60分］	実習記録・レポート・指導計画の紹介及び助言指導。 実習における反省や改善は実習指導Ⅱまた、実習Ⅰ事後の個別面談にて伝達する。

受講生に望むこと	①保育実習Ⅰ（保育所）の目標を理解して実習に臨むこと。 ②教育実習Ⅰ・Ⅱ（幼稚園）でとらえた子どもの姿から、子どもの育ち、学びのつながりを考え臨むこと。 ③関連科目（保育原理・乳児保育Ⅰ・Ⅱ・子どもの保健・子どもの食と栄養等）を復習しながら受講すること。 ※実習生であっても、子どもにとっては一人の保育者であることを自覚し実習に臨んでほしい。	教科書・テキスト	教科書等は使用せず、授業資料を配付する。
指定図書／参考書等	なし／『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814482	その他・特記事項	・「実習の手引き」を熟読し、実習に臨むこと。 ・無断欠席、遅刻、早退等が多い、記録や指導計画の未提出や延滞がある場合、実習の継続を認めない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	保育実習指導Ⅱ（保育所）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	谷　昌代						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
保育実習指導Ⅰで学んだ知識及び保育実習Ⅰで体得した学びを土台として保育実習Ⅱを行うための、事前指導・事後指導の授業である。 事前指導では、保育実習Ⅰを通して得た学びと自己課題を明確にし、保育実習Ⅱでは保育士の専門性についても理解を深める。保育実習Ⅰと同じ保育所で実習を行うことで、子どもの発達・成長を具体的に把握し、適切な保育・援助を行えるように十分な準備をする。 事後指導では、学びの共有となる実習報告会を行った後、実習園からの評価や授業での振り返りをもとに、履修カルテへの記入を行う。	①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学んでいる。 ②保育や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を身につけている。 ③保育の観察・記録・自己評価などを踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学んでいる。 ④保育士の専門性と職業倫理について理解している。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にしている。 ⑥実習日誌の記入や指導計画の作成を適切に行うことができる。

教授方法	講義・演習・ディスカッション・プレ実習と事前訪問・実習報告会等
履修条件	「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習指導Ⅰ（保育所）」の単位を修得済みの者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	保育実習Ⅰ（保育所）の振り返りと今後に向けて 保育実習Ⅰ（保育所）報告会について：目的、日時、参加者、実習Ⅱ・Ⅲへ繋がる内容等の伝達と検討 保育実習Ⅰ（保育所）を終えての振り返り①：保育の観察参加・記録・実習終了アンケート・事後レポートを基にし、学びの共有を行い、自己課題を整理する。	
2	保育実習Ⅰ（保育所）報告会について 保育実習Ⅰ（保育所）を終えての振り返り②：各グループで報告会準備を行う。	
3	保育実習Ⅱの目的、概要、事前訪問（オリエンテーション&プレ実習）、実践内容（教材・手作り玩具・遊び等・指導計画）、半日・一日実習の確認、子育て支援レポート作成についてを理解する。	
4	時系列日誌、エピソード記録、指導計画の作成における留意点を明確にし、理解を深める。（保育実習Ⅰにおいて保育所保育指針を参考にし、発達的観点や実習担当年齢、実習時期を考慮して作成できたか）	
5	エピソード記述の書き方を理解し、作成する。（1） 子どもに寄り添い感じ取る、子どもの姿から背景・文脈などを読み取ることについて考える。	
6	エピソード記述の書き方を理解し、作成する。（2） 子どもの状態や個々に応じた適切な関わりについて多角的に見つめ、その関わりを考える。	
7	実習園事前訪問とオリエンテーション（実習園プレ実習日）： ・実習先の保育方針、概要を理解する。 ・実習担当クラスの乳幼児の発達・年齢に合わせた関わりを考える。	
8	事前訪問を終えて、学んだことを共有し、実習Ⅱへ繋げる。 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解や保護者支援の具体的理解に繋げる。	
9	・直前指導：保育実習Ⅱの目的、概要、事前訪問（オリエンテーション&プレ実習）、実践内容（教材・手作り玩具・遊び等・指導計画）、部分・半日・一日実習の確認をする。 ・自己課題、自己のねらいの確認 ・実習訪問相談についての確認	
10	保育実習Ⅱ事後指導（1） ・実習の記録を見直しながら実習終了アンケートや事後レポートを作成することにより、自己の学びを振り返る。（自己評価）	
11	保育実習Ⅱ事後指導（2） ・実習終了アンケートや事後レポートを作成し、自己の学びと振り返る。 ・実習Ⅰ報告会の準備を行う。	
12	保育実習Ⅱの振り返りと今後に向けて 保育実習Ⅱ報告会について：目的、日時、参加者、内容等の伝達と検討 保育実習Ⅱを終えての振り返り①：保育の観察参加・記録・実習終了アンケート・事後レポートを基にし、学びの共有を行い、自己課題を整理する。	
13	実習Ⅱ報告会の準備（各グループの進捗状況の報告と準備） 保育実習Ⅱを終えての振り返り②：各グループでの学びの報告準備を行う。	
14	・実習Ⅱ報告会の準備（各グループの進捗状況の報告と準備） 保育実習Ⅱを終えての振り返り③：各グループでの学びの報告準備を行う。	
15	保育実習Ⅱ報告会 ・実習報告会に参加し、学びについて発表する。 ・保育実習Ⅱ報告会を終え、自己の学びを振り返り、自己課題を明確にする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	50	①実習の目的を理解している。②主体的に討議に参加している。③表現技術を身につけ実践しようとしている。④保育士の職務や専門性について理解している。⑤実習報告会に積極的に参加している。	課題提出	50	①課題を期日までに提出している。②課題内容を理解し教材や指導計画を作成している。③日誌の書き方を理解し、書き分けることができている。④子どもの姿に適した指導計画を作成することができている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①保育実習Ⅰで課題となった保育技術を磨くよう、家庭において練習や復習を行う。［30分］ ②実習先でのプレ実習に参加し、記録を書く。回数や期間は授業内で指示する。［一日：7時間］ ③子どもの年齢に応じた歌や手遊び、製作、手作り教材による活動など、事前に準備しておくこと。［早めにとりかかり準備する］ ④指導計画案を作成する。［60分］ ⑤授業内で出された実習日誌の作成課題をする。［60分］	個別指導及び授業内での振り返りを行う。また、授業内で指導計画の実演紹介を行い、助言する。

受講生に望むこと	①「保育所実習Ⅰ」で気づいた自己課題を意識して、授業に参加すること。 ②保育士に求められる技能や知識、資源を自ら高める努力をすること。 ③「保育内容・健康指導法」「保育内容・人間関係指導法」「保育内容・環境指導法」「保育内容・言葉指導法」「保育内容・表現指導法」「子ども家庭福祉論Ⅱ」「家庭支援論」「乳児保育」「社会的養護内容」等の授業に関連づけて。理解するよう努めること。 ④子どもの育ち、遊びによる学びが乳児から幼児期、学童期と繋がりを持っていることを意識して子どもの姿をとらえてほしい。	教科書・テキスト	・『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814482 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814499
指定図書／参考書等	なし／必要に応じて授業内で配付する。	その他・特記事項	無断欠席・遅刻・早退が多い、記録や指導計画等の課題が未提出の場合は、実習を認めない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	保育実習Ⅱ（保育所）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	谷　昌代						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
保育実習Ⅰで学んだ内容を土台として、さらに保育士としての知識・技術を実践的に学ぶための実習である。原則として、保育実習Ⅰと同じ実習先で90時間の実習を行う。観察・参加実習・部分実習と段階を踏んで、一日実習までを行う。毎日の実習は日々のねらいをもって臨み、実習後は指定の書式で記録し、実習担当者の助言を受ける。	①保育所の役割や機能について、実践を通して理解を深める。 ②子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ③大学の授業で習った内容（既習事項）を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援、地域の子育て家庭への支援について実践や保育士との事例検討から学び、総合的に学んでいる。 ④保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価と改善について、実際に取り組み、理解を深める。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解している。 ⑥保育士としての自己の課題を明確にし、今後の学びを説明することができる。

教授方法	配属施設において「10～11日間」及び「90時間以上」の実習を行い、実習担当保育者から学ぶ。
履修条件	「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習指導Ⅰ（保育所）」の単位を修得済みであること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	90時間（約11日間）の実習において、観察・参加・部分実習の段階を踏み、一日実習を行うことを通して、次の内容を行う。	
	保育所の一日の流れを具体的な実践を通して理解を深める。	
	保育所の役割と機能について具体的な実践を通して理解を深める。	
	子ども（一人一人）の生活の流れを具体的な実践を通して理解を深める。	
	子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。	
	個に応じた援助法と集団（クラス）における援助法を実践から理解する。	
	保育の指導計画の作成、実践、観察、記録及び自己評価について、実践から理解を深める。	
	保育の指導計画、実践、観察、記録及び自己評価と保育の改善、環境構成について実践や事例から学ぶ。	
	指導計画を立案し、実践することで子どもの生活や遊びと保育環境を多面的に捉える視点をもつ。	
	具体的な実践を通して、子どもの健康と安全を守る保育士の役割を理解する。	
	部分・半日・一日の指導計画に基づき実践し、自己評価を行う。	
	大学の授業で既習した内容や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援を総合的に学び、理解する。	
	子育て支援活動に参加し、入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援を学び、理解する。	
	実習の実践や記録をもとにした保育士との協議から自己の課題を明確にする。また、保育士に求められる資質・能力・技術と自身を照らし合わせて自己課題を明確にする。	
	専門職としての保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践を通して理解を深める。また、職員間の役割分担やチームワークについても実践から理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習先の評価	40	実習評価表における項目（実習の態度、知識・技術）ごとに評価する。	提出物（実習日誌・指導計画・レポート・教材）	40	①具体的なねらいをもって計画、実践を行い、適切に記録している。 ②担当年齢（子どもの姿）に適した指導計画・教材を作成し、実践している。 ③実習での学びを振り返り、レポートを作成している。
訪問指導時の担当教員の評価	20	訪問指導時のヒアリングや面談内容によって評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①保育実習Ⅰ（保育所）の自己課題に基づき、自分に不足している表現技術を磨く。［30分］ ②実習先でのプレ実習に積極的かつ主体的に参加する。［一日：7時間］ ③子どもの年齢や発達にわらべ歌や手遊び、製作、教材などを事前に準備しておく。［30分］レパートリーを増やしておくこと。 ④実習日誌や指導計画を期日に遅れずに作成する。［60分］ ⑤その他、実習先の指示に従って必要な準備を行う。［30分］	実習における振り返りは保育実習Ⅱ事後の面談にて伝達する。

受講生に望むこと	①保育実習Ⅱの目標を理解して実習に臨むこと。 ②保育実習Ⅱでとらえた子どもの姿から、子どもの育ち、学びのつながりを考え臨むこと。 ※実習生であっても、子どもにとっては一人の保育者であることを自覚し実習に臨んでほしい。	教科書・テキスト	教科書等は使用せず、授業資料で配付する。
指定図書／参考書等	なし/『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814482	その他・特記事項	・無断欠席・遅刻・早退等が多い、記録や指導計画の延滞がある場合、実習の継続を認めない。 ・連絡事項はclassroomにて配信する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語学概論			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この講義は中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)の「教科及び教科の指導法に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。 言語を学ぶとはどういうことか、英語ということばの輪郭と背景を身近なところから考え、ことばのもつさまざまな側面のうち、歴史的変化、音声、語彙、基本的な文構造、意味についての基礎を学ぶ。	・英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語学についての基本的知識を身につける。 ・英語という言語の特性について基礎知識を身につける。

教授方法	講義、ディスカッション
履修条件	①中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、②小学校教諭一種免許状取得希望者、③高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：「英語学」を学ぶとはどういうことかを知る	
2	ことばの起源と人間のことばの特徴を考える	
3	語族について概観し、言語研究の概要を英語を中心に学ぶ	
4	さまざまな言語研究の方法を知り分析的観点で英語を捉える	
5	英語の歴史を知り、関連させて英語の語彙の多様性や、発音･語彙・文法の変化や標準英語の成立を知る	
6	英語の発音とスペリングの仕組み、記述方法、法則性を理解する	
7	英語の変種、ことばの変化、現在の英語を巡る状況を理解する	
8	ものの捉え方とことばの意味	
9	言語音についての基本を理解し、音声言語としての英語の特徴を知る	
10	単語ができるしくみ、形態論と形態素について、実例とともに理解する	
11	英語の語形成について実例とともにさらに学ぶ	
12	英語の文の基本的な構造を理解する	
13	英語の文の内部構造に対する理解を深める	
14	ことばの意味について英語の例に基づいて理解し、意味ネットワークや意味拡張について知る	
15	全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度･理解度、毎回の課題	50	質問をする、言語資料を示す等、講義内容に対して積極的に取り組んでいるか。毎回課題とともに講義終了時に書いて提出するリフレクションの内容。	定期試験	50	講義内容の理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
･日常的に英語学習を行い、さまざまな英語の実例に触れておくこと。 ･テキストの該当部分を予習する。同様の実例を収集しておく。［50分］ ･講義内容に照らし、日本語と対照してみる。また関連する英語学関係の書籍を読む。［40分］	返却時に行う

受講生に望むこと	・日常的に英語に触れ(聞く・話す･読む・書く)、英語に親しむ。 ・日頃から英語･日本語を問わず「ことば」に関心を持つと良い。	教科書・テキスト	『はじめての英語学<改訂版>』　長谷川瑞穂編著　大井京子他著　2014年　研究社 ISBN: 978-4327401658 ・他に必要な教材は適宜配布する
指定図書／参考書等	開講時に指示する	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	発達心理学			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種（栄）・高一種（英語）・准学校心理士				

授業の概要	授業の到達目標
人間がどのような発達過程をたどるかを理解することは、保育や教育に携わるうえで重要な視点である。本講義では、発達心理学の具体的成果をもとに、乳幼児期から青年期を中心に、人間の心理的発達のしくみについて学ぶ。	①発達心理学の諸理論に関する基礎知識を答えられる。 ②生涯における心身の発達について答えられる。 ③各年齢期において達成されるべき発達課題を答えられる。 ④発達心理学の知見を踏まえ、乳幼児期から青年期の子どもに対する基本的な関わりについて考察できる。

教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問なのか。発達心理学を学ぶ意義を理解する。	
2	「発達」を考える①：人の発達において、各発達段階で達成しておくことが望まれる「発達課題」について理解する。また、発達課題と教育との関連について考える。	
3	「発達」を考える②：「発達を決めるのは遺伝か環境か」、「年をとるのは衰退か成熟か」などの疑問をもとに、人の「発達」について考える。	
4	胎児期～乳児期①：お腹のなかにいる赤ちゃんに意識はあるのだろうか。生後間もない赤ちゃんはただ泣いているだけだろうか。胎児や新生児の発達と有能さについて理解する。	
5	胎児期～乳児期②：赤ちゃんはどのように外界と関わっているか。乳児期の情動、認知、言語の発達について考える。	
6	胎児期～乳児期③：対人関係の基盤となるものは何か。情緒的な絆である「愛着（アタッチメント）」について考える。	
7	幼児期①：「ぼく・わたし」はいつ成立するか。子どもの言語発達や自己概念の成立について考える。	
8	幼児期②：なぜ子どもにとって「遊び」は重要なのか。「象徴機能」や社会性の発達を通して考える。	
9	幼児期③：子どもはどのように「賢く」なっていくか。幼児期における認知発達について考える。	
10	児童期①：子どもの対人関係はどう変わっていくか。友人関係の展開を中心に、学童期の子どもが抱えやすい問題について考える。	
11	児童期②：物事の善し悪しや思いやりはどのように育つか。学童期の子どもの「道徳性」や「向社会性」の発達について考える。	
12	児童期③：子どもはどのように物事を捉え、思考していくのだろうか。児童期の認知発達について考える。	
13	青年期：青年期における身体と心の変化、周囲との関係の変化について考える。また、「自分らしさ」とは何だろうか。青年期の重要な発達課題とされる「自我同一性（アイデンティティ）」について考える。	
14	成人期・老年期：家庭を持ち親になることの意味、老いや病がもたらすもの、死を目前にした人間について考える。	
15	「発達障害」の理解と対応：発達障害は親のしつけや本人の性格が原因ではない。では、発達障害とは何だろうか。発達障害など非定型発達の基礎的な知識や考え方について理解し、適切な関わりを考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	20	講義内容に対する意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	ブックレポート	20	発達心理学に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。
定期試験	60	発達心理学の諸理論、発達課題、子どもに対する適切な関わりなど、授業で取り上げる内容の知識が獲得されていることが評価基準となる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、発達心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] ③発達心理学の下位領域・関連領域である「乳幼児心理学」「児童心理学」「青年心理学」「発達障害」などの参考書を用いて、知識を深める。[60分]	①毎回の授業レポートについては、次回授業時に内容に関する振り返りを行う。 ②定期試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応する。

受講生に望むこと	授業の内容が今後の自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的に受講することを望む。	教科書・テキスト	坂上裕子・山口智子・林 創・中間玲子（2024）．『問いからはじめる発達心理学　改訂版』 有斐閣　ISBN: 978-4641151291
指定図書／参考書等	なし／本郷一夫・飯島典子編（2019）．『保育の心理学』　建帛社　ISBN：978-4767950914、若尾良徳・岡部康成（2010）．『発達心理学で読み解く保育エピソード』　北樹出版　ISBN：978-4779302510、岡本祐子・深瀬裕子編（2013）．『エピソードでつかむ生涯発達心理学』　ミネルヴァ書房　ISBN: 978-4623065318、伊藤亜矢子編（2011）．『エピソードでつかむ児童心理学』　ミネルヴァ書房　ISBN:978-4623058259	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。

授業科目名	教育心理学			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）・准学校心理士				

授業の概要	授業の到達目標
教育心理学における主要な領域（発達、学習、評価、集団・適応）について講義する。本講義では、教育活動について心理学の視点から理解を深め、効果的な学びを促すにはどうすればよいかについて考える。	①子どもの心身の発達過程を答えられる。 ②心理的発達の特徴を踏まえた上で、学習過程で生じる心理的メカニズムについて答えられる。 ③主体的な学習を支える集団づくりと集団への適応に関して正しい知識を答えられる。 ④教育活動の評価の意義および役割を答えられる。

教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：教育心理学は、どのような学問なのか。教育心理学の主な領域である「発達」「学習」「評価」「集団・適応」の概要と、教育心理学の研究法を理解する。	
2	発達と教育「発達における教育の役割」：ピアジェやヴィゴツキーの発達理論を通して発達における教育の役割を考える。	
3	学習①「学習理論①」：学びはどのようにして生じるか。条件づけ理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。	
4	学習②「学習理論②」：学びはどのようにして生じるか。学習に関する様々な理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。	
5	学習③「学習と教授理論」：どのような教え方が効果的だろうか。さまざまな教授理論を比較しながら各教授法の特徴を考える。	
6	学習④「動機づけ」：やる気はどこから生じるか。動機づけに関する研究を通して、学ぶ意欲について考える。	
7	学習⑤「記憶」：学びの基礎になる記憶の理論を学ぶ。記憶に関する研究成果を紹介し、学習においてどのように活用できるか考える。	
8	学習⑥「学習指導と個人差」：すべての子どもに同じ教え方でよいだろうか。教授方法と個人差との関係を通して、学習指導について考える。	
9	評価①「パーソナリティ」：パーソナリティ（性格）とは何だろうか。パーソナリティに関する様々な理論を学び、パーソナリティを理解することについて考える。	
10	評価②「知能」：知能とは何だろうか、どのように測定できるだろうか。知能に関する様々な理論と測定方法を学び、「知能が高い（低い）」とはどのようなことか考える。	
11	評価③「教育評価」：教育評価とは何か、誰が誰の何を評価するのだろうか。教育評価の意義を理解し、教育における評価の役割を考える。	
12	集団・適応①「学級集団」：学級は単なる個人の集まりだろうか。集団心理や成員間の相互作用などを通して、学級集団について考える。	
13	集団・適応②「不登校・いじめ」：不登校やいじめの問題を通して、学校や学級集団への適応を考える。	
14	集団・適応③「発達障害・精神障害」：発達障害や精神障害を抱えた子どもの学校や学級集団への適応を考える。	
15	集団・適応④「学校カウンセリング」：学校や家庭において、子どもの心の問題にどのように取り組んでいくことができるだろうか。学校現場での心理支援活動について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	20	講義内容に対する感想や意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	ブックレポート	20	教育心理学に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。
定期試験	60	教育心理学の主要な内容（発達、学習、評価、集団・適応）に関する基礎知識が獲得されていることが評価基準となる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、教育心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分]	①各回の授業レポートについては、次回授業時に内容に関する振り返りを行う。 ②定期試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応する。

受講生に望むこと	授業の内容が自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的な受講態度を望む。	教科書・テキスト	服部環・外山美樹編（2022）．『スタンダード教育心理学　第2版』　サイエンス社　ISBN: 978-4781915340
指定図書／参考書等	なし/石津憲一郎 ・下田芳幸 ・ 横田晋務（2022）．『教育・学校心理学』 サイエンス社　ISBN: 978-4781915272、大村彰道編（1996）．『教育心理学Ⅰ』　東京大学出版会　ISBN: 978-4130520720、下山晴彦編（1998）．『教育心理学Ⅱ』　東京大学出版会　ISBN: 978-4130520744、藤田哲也編（2021）．『絶対役立つ教育心理学　第2版』ミネルヴァ書房　ISBN :978-4623091638 、尾高邦生 ・橋本創一 他編（2025）．『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育　第2版』　福村出版　ISBN: 978-4571121500	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例（いじめや不登校など）をもとに、子どもへの関わり方や解決策について検討する時間を設けている。

授業科目名	教育社会学			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	内田　啓太郎						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
わたしたちの社会において教育は必要なもの、欠かせないものだと思われている。確かに教育のあり方が社会へ大きな影響を与える一方で、社会もまた教育のあり方へ強い影響を与えている。では、教育と社会はお互いどのように結びつき、影響を与える関係であるのか。この授業の目的は、教育にまつわる様々な要素（子ども、教師、制度、集団、労働など）を社会学の考え方を通じて理解することである。	1.教育を構成する諸要素について社会学の考え方から理解する。 2.近代以降の社会において学校教育がどのように制度設計され、実践されてきたのか理解する。 3.わたしたちの社会が抱えている教育問題について社会学の考え方から理解する。 4.わたしたちの社会、特に地域社会のあり方と教育の関わりについて社会学の考え方から理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の概要と目的、到達目標を理解し、「教育を社会学するとは何か」について学ぶ	
2	学説史①：教育社会学の誕生から「新しい教育社会学」への転換、文化的再生産論の登場まで、主要な学説を学ぶ	
3	学説史②：「新しい教育社会学」以降、現代の社会問題に答える形で登場した主要な学説を学ぶ	
4	階層と教育①：社会における階層の構造と移動について理論・概念と事例から学ぶ	
5	階層と教育②：社会階層の問題を格差問題と捉え、問題発生のプロセスと解決に向けて理論・概念と事例から学ぶ	
6	マイノリティ／ジェンダーと教育：現代社会においてマイノリティが抱える問題、またはジェンダーに起因する問題について理論・概念と事例から学ぶ	
7	教師と子どもの社会学：学校教育または学校現場において教師と子どもの役割・機能について理論・概念と事例から学ぶ	
8	ライフコース：ライフコース形成における教育の主要な役割・機能について理論・概念と事例から学ぶ	
9	非行／逸脱と教育問題：教育問題としての非行／逸脱が持つ構造について理論・概念と事例から学ぶ	
10	教育改革：これまで日本社会にて議論され、実施されてきた教育改革について政策と実践の両面よりそのあり方と問題点を学ぶ	
11	学校教育（初等・中等教育）：学校教育の成立と発展の歴史を学び、その構造と問題点についても学ぶ	
12	高等教育（大学教育）：高等教育の成立と発展の歴史を学び、その構造と問題点についても学ぶ	
13	労働市場へのトランジション：日本社会の雇用慣行・市場に対して教育（特に高等教育）があたえる影響について理論・概念と事例から学ぶ	
14	教育と経済：「社会と経済」の視点から学校教育および高等教育が抱える問題点について理論・概念と事例から学ぶ	
15	全体のまとめ：今学期の授業を振り返り、「教育を社会学するとは何か」について再考する	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	授業の到達目標および内容をふまえつつ、設問に対する自らの考えを論理的な解答としてまとめることができるか評価する。	授業への参加態度	30	毎回の授業で提出するリアクションペーパーの提出状況およびその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．教科書の該当する範囲を事前に公開、配布する資料とあわせて読む。［45分］ 2．授業中の解説を配布資料や自分で取ったノートとあわせて読む。［45分］	授業に関する質問および期末レポートの講評などを対面またはオンラインで集約したうえで、受講者全体と共有する。

受講生に望むこと	教育は日常生活や人生のさまざまな場面において、わたしたちの誰もが関わりを持つ。受講生の皆さんへは、自分がこれまで受けたきた、また今受けている教育に関心を持ちつつ、わたしたちの社会が抱えている教育問題に対し、社会学の考え方を学び、その解決に向かおうという積極性を望む。	教科書・テキスト	酒井朗・中村高康・多賀太編『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房，2012年、ISBN 9784623062935
指定図書／参考書等	（参考書）相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子『これからの教育社会学』有斐閣，2023年、ISBN 9784641200036 （参考書）中村高康・松岡亮二編『現場で使える教育社会学』ミネルヴァ書房，2021年、ISBN 9784623092604	その他・特記事項	毎回の授業資料（スライド／レジュメ）はオンラインで公開する（印刷物を配布しない）。資料の閲覧、ノートテイキングのためChromebookを持参することを推奨する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	総合的な学習の時間の指導法			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
総合的な学習の時間の時間の創設の経緯を知り、目標について考えながら、実践例によって総合的な学習の時間の意義について考える。その過程で自己の経験を思い出しながら意見交換し、現在における総合的な学習の時間の課題について考える。このような授業を総合的な学習の時間の目標に照らし、自己の学びの目標を設定したり、事例を調べて考えたことをグループで話し合ったりレポートしたりすることで、総合的な学習の時間の目標や意義を体得する。	①この授業における自己の学びの目標を設定し、見通しを持って、調べたり考えたり、話し合ったりすることができる。 ②「総合的な学習（探究）の時間」の全体計画や年間指導計画の例を総合的な学習の時間の目標に照らして考え、議論することができる。 ③自己の学びの過程を振り返り、レポートにまとめることができる。

教授方法	講義・演習
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語）の取得を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業の概要・目標・授業計画・評価方法）／総合的な学習の時間の創設（総合的な学習の時間が創設された経緯について知る。）	
2	総合的な学習の時間の変遷（創設後の総合的な学習の時間の取り組みと当時の課題を知り、第１次改訂、第２次改訂の趣旨をもとに総合的な学習（探究）の時間の意義について考える。）	
3	総合的な学習の時間の学習経験（自己が小中高等学校のときの総合的な学習の時間の学習経験を思い出し、グループで各々の経験を紹介し合う。）	
4	総合的な学習の時間の計画（現在の小中高等学校の総合的な学習（探究）の時間の全体計画や年間指導計画の考え方を理解する。）	
5	総合的な学習の時間の実践例１（小学校の総合的な学習の時間の実践例を共通資料として読み調べ、感想等について話し合う。）	
6	総合的な学習の時間の実践例２（小中高等学校の総合的な学習（探究）の時間のいくつかの実践例から選択して読み調べ、自分なりに考える。）	
7	グループ討論（調べて考えたことをグループで紹介し合い、話し合う。）	
8	学習のまとめとレポート（学習のまとめを行い、その内容をレポートする。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
グループ討論	20	積極的にグループ討論に参加している。	小レポート	40	授業の過程でグループで話し合ったことをもとに書いてある。
期末レポート	30	自己の学びの過程を振り返って書いてある。	授業態度	10	積極的に授業に臨んでいる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業で終末に、次時までに考えたり調べてきてほしいことの指示に対して事前学習する。［30分］ ②何回の授業の終末に、本時の感想（小レポート）を求めるので解決してclassroomに提出する。［30分］	①提出された小レポートについて講評する。 ②提出された期末レポートについて講評する。

受講生に望むこと	小中高等学校において「どのような総合的な学習の時間の学習が行われていたか」の意識で受講してほしい。	教科書・テキスト	小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編、文部科学省、ISBNISBN978-4-491-03469-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	小レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

総合的な学習の時間の指導経験があり、その取り組みがいくつかの書籍に事例として掲載されていることから、書籍内容を通して本来求められている総合的な学習の時間の学習を紹介し、深い理解に繋げる。

授業科目名	教育の方法・技術（ICT活用の理論と実践を含む）			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
知識・技能を教える授業から、自ら考え判断し表現する学習に変わってきており、評価の方法も多様になっている。この授業観を具体化するためには教育の方法と技術について検討しなければならない。自ら考え判断し表現する授業とはどういったものなのかについて、カリキュラム論、授業論、教育の技術、教育評価の観点から授業を展開していく。	①教育方法史に登場する人物の教育思想について理解している。 ②カリキュラム論の諸相、カリキュラム編成と類型、近年の教育課程などについて理解している。 ③授業の構造、学習指導案、教材研究、発問の機能などについて理解している。 ④教育技術の特質、ICT活用、板書とノート、机間指導の意義と方法などについて理解している。 ⑤学力とは何か、評価の考え方と方法などについて理解している。

教授方法	講義・演習
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校・高等学校教諭一種免許状(英語)のいずれか取得希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業の計画、到達目標、評価方法、テキストなど）／教育方法史１（ソクラテス、コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルトの教育思想や方法を調べ、グループ討論する。）	
2	教育方法史２（西洋の新教育運動、明治期の近代学校制度、大正自由教育、昭和戦時期教育について知る。）	
3	カリキュラム論１（児童中心カリキュラム、学問中心カリキュラム、人間中心カリキュラムについて調べ、グループ討論する。）	
4	カリキュラム論２（教育課程の編成、顕在的カリキュラム、潜在的カリキュラムなどについて知る。）	
5	カリキュラム論３（総合的な学習（探究）の時間、特別活動、特別の教科 道徳、小学校英語教育の意義と課題について考える。）	
6	授業論１（授業の構造と意義、学習指導案の意義と作成手順、授業の目標、問題解決学習について知る。）	
7	授業論２（授業における対話の役割、集団で学ぶ意義、体験的学習、アクティブラーニングについて知る。）	
8	授業論３（教材研究と教材解釈、展開のある授業、仮説実験授業、発問の種類と機能について考える。）	
9	授業論４（生活綴方的教育方法、安全教育（防災教育）、主権者教育、ジェンダー・性的マイノリティと教育について考える。）【小レポート】	
10	教育の技術１（集団づくりの意義と方法、習熟度別指導の実践と課題、ティーム・ティーチングについて知る）	
11	教育の技術２（ICT活用、プログラミング教育、教育メディアの種類、インターネットの教育利用、情報モラルの育成について考える。）	
12	教育の技術３（板書とノート指導のあり方、調べ学習のあり方、机間指導の意義と方法について調べ、グループ討論する。）	
13	教育の技術４（練習の意義と方法、模擬授業の意義と方法、授業記録の取り方について考える。）	
14	教育評価１（絶対評価、相対評価、目標に準拠した評価、個人内評価、到達目標、方向目標、規準と基準について知る。）	
15	教育評価２（自己評価、相互評価、ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価の意義と課題について調べ、グループ討論する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート	15	教育の方法や技術について理解している。	グループ討論	20	積極的にグループ討論に参加している。
定期試験	50	教育の方法や技術についての知識を有している。	授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業はテキストの各章の問題（1~61）に基づいて進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。［40分］ ②小中高等学校の教育方法に関しインターネット検索して調べる。［20分］	①小レポートについての質問に応じる。 ②第15回授業時に定期試験の観点を示す。

受講生に望むこと	小中高等学校において「どのような教育の方法が採られているか」の意識で受講してほしい。	教科書・テキスト	『教育の方法と技術［第三版］』, 柴田義松・山崎準二編, 学文社, 2025年, ISBN978-4-7620-2869-4
指定図書／参考書等	『小学校学習指導要領』文部科学省2017年,ISBN978-4-491-03460-7、『中学校学習指導要領』文部科学省2017年,ISBN978-4-8278-1558-0、『高等学校学習指導要領』文部科学省2018年, ISBN978-4-8278-1567-2／なし	その他・特記事項	レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

小学校、中学校、高等学校の教育方法（ICT活用を含む）について取材（写真、動画、資料収集）して提示し、各校種における教育方法の特徴について理解を促したり、レポート作成したりしている。

授業科目名	道徳教育指導論			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
道徳教育の重要性が叫ばれている。新学習指導要領において道徳の時間が「特別の教科　道徳」になり、「考え、議論する道徳」の授業が求められている。道徳は人間としてどうよりよく生きるか子どもたち一人一人が考え議論しながらそれぞれに自分らしい生き方を目指していくよう育むことが重要である。そこで本科目では、道徳教育とは何か、道徳性はどのように発達するか、道徳教育がどのように行われてきたか諸外国の例も参考にして考える。また、現在、どのような道徳教育が行われているかについて考え、議論する授業を目指す。そして、終盤では多様な道徳授業についても探究する。	①道徳教育とは何か：道徳教育の今日的意義と重要性について理解している。 ②心の成長と道徳性の発達：心の成長とはどういうことなのか、道徳の意味内容と道徳性の発達とはどういうことなのかについて理解している。 ③道徳教育の歴史：道徳教育はどのように行われてきたか、歴史的な観点から理解している。 ④現在の道徳教育：現在の道徳教育がどのように行われているか様々な観点から考えることができる。 ⑤多様な道徳授業：多様な道徳授業について具体例をもとに自分なりに考えることができる。

教授方法	講義
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)の取得を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業の概要と評価方法について知る。）／道徳教育とは何か（道徳教育の本質について考える。）	
2	道徳教育の意義（日本社会に求められる人間像と道徳教育の必要性についてテキストをもとに考える。）	
3	道徳性の発達（道徳性はどのように発達するか、ピアジェとコールバーグの理論について知る。）	
4	道徳教育の歴史①（明治時代の道徳教育についてテキストをもとに考える。）	
5	道徳教育の歴史②（大正時代、昭和時代戦前までの道徳教育についてテキストをもとに考える。）	
6	道徳教育の歴史③（昭和時代戦後の道徳教育についてテキストをもとに考える。）	
7	特別の教科　道徳①（学校における道徳教育の基本的押さえについて知る。）	
8	特別の教科　道徳②（道徳の特質と内容についてテキストをもとに考えながら実際の教材について知る。）	
9	特別の教科　道徳の指導過程（道徳の指導過程について学習指導案をもとに考える。）	
10	特別の教科　道徳の指導方法（道徳指導におけるさまざまな方法にテキストや解説「道徳編」をもとに知る。）	
11	道徳の授業の実際（小学校の道徳の授業でどのように考え議論する道徳が行われているか知る。）	
12	幼・小・中連携による道徳教育（異年齢の子供同士の交流で育まれる道徳性について考える。）	
13	外国の道徳教育（アメリカ、ドイツ、韓国から１つ選んで資料を読み自分なりに考えて議論する）	
14	多様な道徳授業の探究①（対話を促す道徳授業について中学校の授業例をもとに考える。）	
15	多様な道徳授業の探究②（デジタル道徳教材の開発と道徳授業について資料や自身の経験から考える）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
ミニッツコメント	20	道徳教育について自分の考えを持っている。	小テスト	15	道徳教育についての基礎的知識を有している。
授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。	定期試験	50	道徳教育についての知識・理解を有している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。［30分］ ②各回の授業で配付するワークシート内のミニッツコメントにコメントする。［20分］ ③「特別の教科　道徳」に関し、インターネット検索して調べる。［20分］	①小レポートについての質問に応じる。 ②小テストの結果について解説する。 ③第15回授業時に定期試験の観点を示す。

受講生に望むこと	自己の小学校時代、中学校時代に「どのような道徳の授業があったか」の意識で受講してほしい。	教科書・テキスト	『自ら学ぶ道徳教育』〔第1版〕，押谷由夫編著，教育情報出版，2021年12月発行，ISBN978-4-909378-40-8
指定図書／参考書等	『小学校学習指導要領解説特別の教科　道徳編』，文部科学省，2017年告示，ISBN978-4-908255-35-9，『中学校学習指導要領解説特別の教科　道徳編』，文部科学省，2017年告示，ISBN978-4-316-30084-9　※小学校、中学校いずれかで可／なし	その他・特記事項	小レポート課題はClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

小学校や中学校の道徳科の授業を動画記録して視聴させて、グループ討議したりレポート作成したりしている。

授業科目名	教育課程編成論			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
学校（小学校、中学校、高等学校）は子どもたちに何を教え、子どもたちは何を学ぶのか。この「何を」に当たるものが小学校、中学校、高等学校の教育課程（カリキュラム）である。そこで、本科目においては、教育課程の概念と構造、学習指導要領の歴史的変遷と教育課程、教育課程編成の方法、小学校、中学校、高等学校それぞれの教育課程編成の実際、教科と教科外活動の教育課程、社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価などについて学ぶ。これらを通して小学校、中学校、高等学校の教育課程についての理解を深める。	①教育課程：教育課程の概念と構造や学習指導要領をもとに、小学校、中学校、高等学校の教育課程について理解することができる。 ②学習指導要領の変遷：我が国最初の学習指導要領から最新の学習指導要領の変遷を概観し、現在の「令和の日本型教育」が目指す教育について知る。 ③教育課程の編成：小学校、中学校、高等学校における教育課程編成の方法と実際について理解することができる。 ④教育課程のマネジメント：カリキュラム・マネジメントの理論と実際及びカリキュラム評価について理解することができる。

教授方法	講義
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)の取得を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業計画と評価の方法について知る）／教育課程（問いを解決しながら、教育課程（カリキュラム）について知り、カリキュラムの構造と類型について理解する。）	
2	教育課程行政（問いを解決しながら、教育課程行政の構造や法体系及び教育の目的について理解する。）	
3	学習指導要領の歴史的変遷１（問いを解決しながら、我が国最初の学習指導要領と戦後教育について教科課程と教育課程の面から理解する。）	
4	学習指導要領の歴史的変遷２（問いを解決しながら、学習指導要領の改訂と戦後教育の見直しについて教育内容の現代化から理解する。）	
5	学習指導要領の歴史的変遷３（問いを解決しながら、「新しい学力観」「生きる力」「ゆとり教育」をもとに平成時代の教育課程について理解する。）	
6	学習指導要領の歴史的変遷４（問いを解決しながら、「ゆとり教育」から「確かな学力」へと移った経緯について知り、「令和の日本型教育」を目指していることを理解する。）【レポートＡ】	
7	教育課程編成の方法（問いを解決しながら、教育課程の意義と教育課程編成の原則及び教育課程編成の手順について理解する。）	
8	学校におけるカリキュラム開発（問いを解決しながら、学校や地域の実態を踏まえたカリキュラム開発の必要性、学習指導要領の記述に見るカリキュラム開発の留意点について理解する。）	
9	小学校の教育課程（問いを解決しながら、小学校の教育課程の過去から現在まで通観し、現在の教育課程の内容と特徴について理解する。）	
10	中学校・高等学校の教育課程（問いを解決しながら、学校教育法体制下の中学校と高等学校の歩みを通観し、新学習指導要領による中学校と高等学校の教育課程について理解する。）	
11	教科と教科外活動の教育課程（問いを解決しながら、教科と教科外の教育課程の特徴をつかみ、教科外の教育課程の内容について理解する。）	
12	地域と連携した教育課程編成（問いを解決しながら、従前の学習指導要領をもとに学校と家庭・地域社会の連携による教育課程の重要性について理解する。）【レポートＢ】	
13	カリキュラム・マネジメントの理論（問いを解決しながら、カリキュラム・マネジメントが生まれた背景を知り、カリキュラム・マネジメントの可能性と課題について理解する。）	
14	カリキュラム・マネジメントの実際（問いを解決しながら、小学校と中学校における地域連携カリキュラムの取り組みや高等学校における中高一貫教育の取り組みを知る。）	
15	カリキュラム評価（問いを解決しながら、カリキュラム評価の意義、対象、方法について理解する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	授業の到達目標（①～④）を達成している（達成状況：40点以上「十分達成している」、30～39点「概ね達成している」29点以下「努力を要する」）。	グループ討論	30	積極的に発言してグループ討論に貢献している。【自己評価、相互評価、教師評価】
レポート	20	レポート観点をもとに自己の考えを明解に書いてある。【レポートＡＢ】			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
テキストを用いて「問い」を解決する授業が毎回続くので、次回の範囲を読んで予習する。(40分) 授業内容の復習をする。（30分）	・定期試験の範囲と出題方法を提示する。 ・レポート作成の観点をもとに提出されたレポートについて講評する。

受講生に望むこと	小中高等学校における教科等の学習指導は、各学校ごとに編成する教育課程によって行われていたことについて認識する機会としてほしい。	教科書・テキスト	『教育課程編成論』改訂版、森山賢一編著、学文社、2021年、ISBN978-4-7620-3073-4
指定図書／参考書等	なし／小学校学習指導要領（2017）、中学校学習指導要領（2017）、高等学校学習指導要領（2018）	その他・特記事項	レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

小学校、中学校、高等学校の教育課程に関する資料を収集し、特色ある教育課程やカリキュラム・マネジメントなどを提示して理解を促したり、グループ討論したりしている。

授業科目名	特別活動の理論と方法			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
学校（小学校、中学校、高等学校）は子どもたちにとって楽しい場であることが前提である。この前提となるものの一つが特別活動である。特別活動は学級活動、ホームルーム、児童会活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事の領域がある。この領域について学びながら、自己が小中高校生だった頃の活動を思い出し、各領域の活動内容や意義について考える。また、自己が取得を希望している免許種からどのような取組ができるかについても考える。	①教育課程における特別活動の位置づけについて知る。 ②各領域の目標や内容について知る。 ③各領域の活動について自分が児童生徒だった頃のことを思い出しながら、その意義について考えることができる。 ④学校教育における特別活動の意義についてレポートにまとめることができる。

教授方法	講義
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語）の取得を希望する者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教育課程と特別活動：教育課程における特別活動の位置づけ（学習指導要領に見る歴史的変遷を知る。）	
2	特別活動とは何か①：特別活動の今日的意義と目的論（自己実現等について理解する。）	
3	特別活動とは何か②：小中高等学校における特別活動の領域（各活動と内容について理解する。）	
4	学級活動・ホーム：小中学校の学級活動と高校のホームルーム活動（内容と展開の方法について理解する。）	
5	児童会・生徒会活動：小学校の児童会活動と中高校の生徒会活動（内容と展開の方法について理解する。）＋小学校のクラブ活動	
6	小中高等学校における学校行事（行事の種類と内容について理解する。）	
7	体育的行事におけるジェンダー教育：運動会の種目（種目によって男女別になっていたことについて考える。）	
8	学習のまとめとレポート（学習を振る返りながら特別活動の意義について再考し、レポート作成する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート	30	特別活動の各領域の目標や内容を理解している。	期末レポート	30	特別活動の意義について自分なりに考えている。
グループ討論	30	自分の考えを述べたり、討論の進行に寄与したりしている。	授業態度	10	積極的に授業に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
次時の授業で取り上げる内容について資料等を読んで予習する。（30分） 授業内容の復習をする。（30分）	レポート作成の観点をもとに提出されたレポートについて講評する。

受講生に望むこと	小中学校の頃の学校生活で、なぜ、特別活動が楽しかった思い出として残っているのかを考えながら学んでほしい。	教科書・テキスト	小学校学習指導要領解説特別活動編、文部科学省、2017年、ISBN978-4-491-03469-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

小学校、中学校、高等学校の教育課程に関する資料を収集し、特色ある教育課程やカリキュラム・マネジメントなどを提示して理解を促したり、グループ討論したりしている。

授業科目名	生徒指導論			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	石上　佐知子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要

生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、その個性の伸長を図りながら、社会的資質及び行動力を育成することを目的とする教育活動である。生徒指導は、特定の問題場面への対応にとどまらず、日常の教育活動全体を通して行われるものであり、学習指導と並んで学校教育の基盤をなす重要な機能を担っている。
本授業では、生徒指導の意義・役割及び方法原理について理論的に理解するとともに、「いじめ」「不登校」「SNS利用」等の現代的課題を取り上げ、具体的事例を通して生徒指導の在り方を考察する。さらに、生徒指導と法との関係や、教師・学校組織が連携して取り組むことの重要性について理解を深める。
れらを通して、小学校段階から高等学校段階に至るまでの生徒指導を、専門性を有する教育実践として捉え、教師としての判断力及び対応力の基盤を育成することを目指す。

授業の到達目標

① 生徒指導の意義・役割及び目的について理解するとともに、生徒指導の３機能及び教育相談との関係を説明することができる。
② 教育課程全体における生徒指導の位置づけを理解し、各教科及び教科外活動との関連から生徒指導の意義を捉えることができる。
③ 集団指導及び個別指導の方法原理について理解し、学級担任・教科担任の役割や教師間の連携について考えることができる。
④ いじめ問題の現状と課題を理解し、事例をもとに適切な対応の在り方について考えることができる。
⑤ 不登校の背景や変遷を踏まえ、児童生徒の心理に配慮した支援や対応の在り方について考えることができる。
⑥ インターネット社会における生徒指導の課題を理解し、SNS利用等への指導の在り方について考えることができる。
⑦ 生徒指導と法との関係について理解し、校則・体罰・懲戒等をめぐる判断の難しさと教師の責任について説明することができる。

教授方法	講義
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)の取得を希望する者。受講までにプレ実習（学習支援員）などで学校現場を体験していることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション／生徒指導の意義と役割 生徒指導の目的、３機能、生徒指導と教育相談の関係を理解する。	
2	教育課程と生徒指導 各教科・道徳・特別活動・総合的な学習（探究）の時間における生徒指導の位置づけを理解するる。	
3	生徒指導の方法 集団指導と個別指導の方法原理を、「成長を促す指導」「予防的な指導」「課題解決的な指導」の観点から捉え、教師間連携の重要性を考える。	
4	いじめ問題と生徒指導 いじめの定義・認知件数を踏まえ、事例分析を通して対応の在り方を考える。	
5	不登校問題と生徒指導 不登校の概念と変遷を理解し、背景に応じた支援の在り方を考える。	
6	インターネット社会における生徒指導 SNS利用の実態やリスクを理解し、現代に求められる指導の在り方を考える。	
7	生徒指導と法・連携 校則、体罰、懲戒等に関する法的枠組みを理解し、「チーム学校」による生徒指導の重要性を考える。	
8	学修のまとめ 第1回～第7回の学修を振り返り、生徒指導に対する自らの考えを整理・表現する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	20	積極的にディスカッションに参加し、議論の深まりに寄与している。振り返りシートに考えを書き表している。	小レポート	30	課題に沿って自己の考えを明解に書き表している。
テスト	50	生徒指導についての知識・理解を有し、生徒指導に対する考えを表現している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）

①テキストや「生徒指導提要」の内容を事前に読み、授業に臨む。[30分]
②課題に応じ、振り返りシートやレポート等を作成する。[30分]
③学修のPDCAサイクルを踏まえたノートテイクや記録作成に取り組む[20分]

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

①レポートの観点や質問に応じる。
②グループワークを行う際にはテーマや観点を示す。
③テスト（第8回）の観点について事前に示す。

受講生に望むこと	①毎回の授業における学修の記録を、自分なりのノートテイク等を通して主体的に作成する。 ②毎回の授業内容について、自分が教師だったらという視点で考える。	教科書・テキスト	『生徒指導・進路指導の理論と方法』、会沢信彦・渡部昌平編著、北樹出版、2021年、ISBN978-4-7793-0648-8
指定図書／参考書等	なし/「生徒指導提要」（令和４年12月　文部科学省）※授業内でQRコードを提示する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

公立小中学校において教諭及び管理職の立場から、「チーム学校」として生徒指導・支援に取り組んだ経験を生かし、学校現場における課題や実践事例を交えて授業を行う

授業科目名	進路指導論			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
進路指導は、自分の将来の生き方への関心を高め、将来の展望を持たせる教育活動であり、社会的・職業的自己実現を達成していくことに必要な自己実現能力の伸長を目指すものである。そのためには、キャリア教育の観点から小中高校を通じた教育活動が重要である。本科目ではこのようなことを学び、自己の教育者としての考え方を深める。	①進路指導とキャリア教育の位置付けについて理解している。 ②教育課程と進路指導・キャリア教育について理解している。 ③進路決定・キャリア形成の支援について理解している。

教授方法	講義
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)の取得を希望する者で受講までにプレ実習（学習支援員）などで学校現場を体験していることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業計画、到達目標、評価方法などについて理解する）／進路指導とは（自己の小中高校のときの進路指導のイメージや思い出について話し合う。）	
2	進路指導・キャリア教育（進路指導は入学期から卒業期までの教育活動であること。進路指導はキャリア教育の中に位置付くこと、キャリア教育は小学校から行われていることを理解する。）	
3	教育課程と進路指導・キャリア教育（「基礎的・汎用的能力」における「４領域・８能力」を知り、これがどのような教育活動の中で計画・推進されているか小中学校の事例をもとに考える。）	
4	体験活動を通じた進路指導・キャリア教育（中学校における職場体験が進路指導・キャリア教育であることを知り、自己の経験を振り返りながら、その後の自己実現について考える。）	
5	職業教育（職業教育の定義や職業教育導入の経緯を理解するとともに、職業教育の方法を義務教育と専門高校における教育について俯瞰し、自己の高校選択、大学選択を振り返る。）	
6	進路決定・キャリア形成の支援（進路決定やキャリア形成について「基礎的・汎用的能力」の観点から再整理し、教育活動全体で取り組むキャリア教育の重要性について理解する。）	
7	進路決定・キャリア形成の具体（小学校教師だからこそできる進路決定・キャリア形成の支援、中学校教師だからこそできる進路決定・キャリア形成の支援について具体例をもとに考える。）	
8	学習のまとめとレポート作成（進路指導・キャリア教育の要点を整理し、レポートを作成する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
グループ討論	30	積極的に参加したり、議論の深まりに寄与したりしている。	小レポート	30	グループ討論したことをもとに内省的に書いてある。
期末レポート	30	進路指導やキャリア教育についての知識・理解を有している。	授業態度	10	積極的に授業に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業は章ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。[30分] ②各回の授業で配付するワークシート内のミニッツコメントにコメントする。[20分] ③児童生徒が将来就きたい職業について調べる。[30分] ④「小学校キャリア教育の手引き（改訂版）」を読む。[30分]	①レポートの観点や質問に応じる。 ②グループ討論を行う際にはテーマや観点を示す。

受講生に望むこと	①学習支援員やボランティア活動などで、できるだけ小中高校生と触れ合う機会を持ち、教員がどのように児童生徒と関わっているかを観察するようにしてほしい。 ②毎回の授業で学ぶ内容について、自分が教師だったらの視点で考えるようにしてほしい。	教科書・テキスト	『生徒指導・進路指導の理論と方法』、会沢信彦・渡部昌平編著、北樹出版、2021年、ISBN978-4-7793-0648-8
指定図書／参考書等	なし／参考資料「小学校キャリア教育の手引き（改訂版）」（文部科学省平成23年5月）	その他・特記事項	レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

小学校、中学校、高等学校における教育アドバイザーを経験している。その際に入手した各学校の「管理運営計画」を基に学習資料を作成し授業で配付して、学生の理解度を高めている。

授業科目名	教育相談			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	植田　峰悠						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
子どもたちを取り巻く諸問題についての実情を把握し、教育相談の目的や意義を学ぶ。また、教育相談における幼児・児童・生徒への関わり方を対象問題別に学ぶとともに、幼児・児童・生徒の理解及び支援のいくつかのアプローチを学び、教育相談について理解を深める。	1)教育現場で遭遇する問題を理解すること。 2)基本的な相談技術を理解すること。 3)多職種の連携・協働を理解すること。 4)科学研究の知識を修得すること。 5)科学研究の技術を修得すること。

教授方法	演習、講義、ディスカッション。
履修条件	教職課程登録者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教育相談とは：教育相談の目的、意義、方法について考える。	
2	現代社会と子どもたち：子どもの貧困や、子どもを取り巻く社会状況について理解を深める。	
3	自閉スペクトラム症：自閉スペクトラム症（ASD）の特徴と支援について理解を深める。	
4	その他の発達障害：限局性学習症（LD）や注意欠如多動症（AD/HD）などの特徴と支援について理解を深める。	
5	不登校：不登校とその支援について理解を深める。	
6	いじめ：いじめとその支援について理解を深める。	
7	非行：非行とその支援について理解を深める。	
8	虐待：虐待とその支援について理解を深める。	
9	自殺：自殺とその予防、支援について理解を深める。	
10	統合失調症：統合失調症の特徴および支援について理解を深める。	
11	抑うつ障害：うつ病の特徴と支援について理解を深める。	
12	カウンセリングの理論と態度：教育相談において求められるカウンセリングの知識と技術を理解する。	
13	カウンセリングの実践：教育相談においてカウンセリングをどのように実践するかについて理解する。	
14	連携・協働：教育相談において求められる多職種の連携や協働について理解を深める。	
15	総括：教育相談の目的、意義、方法について改めて考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の意見や感想を記述すること。講義内容のメモではなく、内容から発展させた自分の考えなどを記述することが求められる。	講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
与えられたテーマについて予習し、レジュメを作成すること。[90分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[90分]	講義中に課す小レポートについては返却時に適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	各回の学びを通じ、教員として修得することが推奨される科学研究の知識と技術を身に着けることを目指す。毎回相当量の予習と講義における他者との協働が不可欠である。	教科書・テキスト	なし。必要な資料は随時配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。

実務経験を活かした授業の概要

学校および教育領域での実務経験を活かし、現代の児童生徒が直面する様々な心理的課題について、架空事例をとりあげてわかりやすく解説する。また、それらの問題の背後にある現代社会の特徴や多様な価値観にも理解を深め、チーム学校の一員として自分に何ができるかを考えるきっかけとしたい。

授業科目名	英語科指導法			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要

前年度開講した「英語」での学びを基盤に、小学校外国語活動及び外国語科指導（以下「小学校英語教育」）に必要な基礎的な知識を学ぶ。具体的には、小学校外国語教育の背景や諸外国の状況、英語指導に関わる理論（言語習得、教授法、到達目標と指導計画、授業の構想、評価のあり方）などを学ぶ。一方、模擬授業を通じて具体的な指導技術（指導案作成、題材やコミュニケーション活動設定、教材研究、パフォーマンス評価、英語での語りかけ、Small Talk、絵本の読み聞かせ、ALTとの協働等）への理解を深め、身につける。
小学英語教育は、中・高等学校の外国語科との連携・協力を常に意識して行うものであることを具体的に体験的に理解する。

授業の到達目標

①小学校英語教育の変遷、目標、内容について、中・高等学校の外国語科との関連も踏まえて理解する。
②第二言語習得の特徴を理解した上で、小学校英語教育における音声によるインプットと場面・状況等の設定、及び十分な音声言語経験から文字指導のステップを経ることの重要性を理解する。
③英語によるコミュニケーション場面で、児童の理解を容易にし、発話を促すような Classroom English、Small Talk、絵本活用などの基本的な指導技術や英語での語りかけを実践を通して身につける。
④学習到達目標に基づく指導計画の在り方を理解した上で、模擬授業を通じて、学習指導案の作成、教材研究、評価方法、ICTの効果的活用等を身につけ、改善につなげる方法及びティームティーチング指導についても理解する。

教授方法	講義・演習・およびディスカッション
履修条件	①小学校教諭一種免許状取得希望者であること。②英語力がSTEP英検2級相当以上である者が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、クラスルール、シラバスの概要を理解し、達成目標を設定 小学校英語教育をめぐる状況	
2	小学校英語教育の経緯と目的、理念、役割、配慮事項 Ｃlassroom English（1）	
3	関連分野から見る外国語教育の意義と方向性 Ｃlassroom English（2）	
4	言語習得の特徴、音声によるインプットのあり方、意味あるやり取りの重要性（聞く、話す） Ｃlassroom English（3）	
5	指導者の役割、資質と研修 Ｃlassroom English（4）	
6	さまざまな指導法（CLT,CBI,CLIL,TPR）、指導技術 Chants	
7	評価のあり方、小・中・高の連携のあり方と小学校の役割 絵本読み聞かせ準備・練習	
8	言語材料と４技能の指導 絵本読み聞かせ	
9	教材研究 Small talk準備・練習	
10	指導案作成 Small talk 模擬授業準備・練習（1）	
11	教材・教具 模擬授業準備・練習（2）	
12	模擬授業（1）外国語活動 Let's Try! 1 指導案作成、準備、実施、振り返り	
13	模擬授業　（2）　外国語活動 Let's Try! 2 指導案作成、準備、実施、振り返り	
14	模擬授業　（3）小学校5年生教科書 指導案作成、準備、実施、振り返り	
15	模擬授業　（4）小学校6年生教科書　　指導案作成、準備、実施、振り返り まとめ　これまでの学びとこれから取り組むこと	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	20	小学校英語教育に必要な知識技能を理解し、積極的に授業の活動に取り組んでいるか。	小テスト	10	前時までに学んだ英語教育に関わることが定着しているか。
模擬授業・パフォーマンス	30	①授業案を作成し、到達目標に向けて模擬授業をすることができるか。②Chants,絵本の読み聞かせなど小学校英語授業にふさわしいパフォーマンスができているか。	期末テスト	40	「英語科指導法」で学んだことを正しく理解し、自分のことばで表現できる。

授業外における学習（事前・事後学習等）

①教科書等について予習をして臨むこと。（30分）
②学習したことについて復習して、知識を整理して自分の言葉で説明することができること。（30分）
③Classroom English や絵本の読み聞かせなど英語らしい音調で生き生きと語りかけることができること。（15分）
④小学校での外国語活動・外国語科の授業に関連した書籍・ビデオ等も含めてできるだけ多く触れて、自身の模擬授業の質を高める努力をすること。（50分）

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

小テストの結果等から、理解が難しかった部分については解説をする。

受講生に望むこと	①小学校に外国語活動、外国語科が行われていることを踏まえて、幼保、中・高との連携という視点からも積極的に取り組んでほしい。 ②小学校で英語教育が行われることについて、何を大切にすべきなのか、どのような世の中の動きがあるのか意識してほしい。 ③優れた実践から多くのことを吸収して、まずは模倣するところから始めてほしい。	教科書・テキスト	①『最新小学校英語教育法入門』樋口忠彦監修、加賀田哲也(代表)編著、　研究社　2023年（ISBN：978-4-327-41108-4） ②『小学校学習指導要領(平成29年公示)解説　外国語活動・外国語編』　文部科学省 2018年 開隆堂出版（ISBN：978-4304051685） 『Let's Try! 1』文部科学省　2018年　ISBN：978-4487258703)『Let's Try! 2』　文部科学省　2018年（ISBN：978-4487258710） ③『Let's Try! 1　指導編』　文部科学省　2018年（ISBN978-4-487-259700)『Let's Try! 2 指導編』文部科学省　2018年　（ISBN：978-4-487-259717） ④適宜配布されるプリント 小学校英語教科書については、授業内で別途指示します。
指定図書／参考書等	なし/『最新 小学校英語内容論入門』樋口忠彦監修、泉惠美子他編　研究社　2023　ISBN：978-4327411091 英語絵本 『Baby Bear, Baby Bear, What Do You See?』Henry Holt and Company　2007年 ISBN：　9781250766076 『No, David!』The Blue Sky Press Scholastic Inc　1998年　　ISBN:9781338299588　など	その他・特記事項	詳細な内容は、1回目に説明する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教職実践演習（小中高）			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	村井　万寿夫・石上　佐知子・宮浦　国江　（代表教員　村井　万寿夫）						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
１年次から学修してきた「初等中等教育」についての総括的な科目が本科目となる。特に、教育実習を終えることにより、小学校・中学校・高等学校の教職課程の全課程（本科目を除く）を履修したことになる。そのため、これまで（３年半）の学修で教育者としての力（教師力）がどの程度身に付いたかを演習によって確かめる。その過程で、自分に足りない力や伸ばすべき力を明確にする。さらに、その力をどうやって身に付けていくか演習などを通して考える。このように、教育者として必要な力について継続的、かつ、実践的に取り組んでいくようにする。	①教育実習を振り返りながら、自己のどのような力が発揮できたか明確にすることができる。 ②小学校・中学校・高校の教職課程における学びを履修カルテによって振り返ったり、カリキュラムマップで表すことができる。 ③自己が身に付けるべき力についてボランティア活動や学校訪問などを通して実践的に取り組んでいくことができる。 ④必要な力（児童理解力、生徒理解力、環境構成力、対人関係能力、学習指導力、自己啓発力など）をどのように高めていくかについて考えることができる。 ⑤教育者を目指す上で必要な力としてどのようなものがあるかを考えたり知ったりする。

教授方法	演習
履修条件	教員免許状取得に必要な教育実習を含む全科目（本科目を除く）の単位を修得し、教員免許状取得見込みであること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の概要・目的・評価方法を知る／教育実習の振り返り：教育実習中に経験したことや考えたりしたことを伝え合う。（グループで意見交換する。）	全員
2	実習ノートをもとに実習中に発揮できた力を洗い出し、その到達度について考えてみる。	全員
3	教員を目指す上で求められる力にはどのようなものがあるか、その力をどのように高めていくかについてレポート(レポート①)を作成する。	全員
4	作成したレポートをもとに、教員としての資質･到達度･課題と解決方法について、グループ別に発表する。	全員
5	学校訪問計画：「いしかわ教育ウィーク（11月2日～11月6日）に訪問する学校を決め事前調査する。（教育実習校訪問を前提に計画する。）	全員
6	学校訪問実施：学外授業として、計画した学校訪問を実施する。（授業づくりや学級経営などについて調べて記録に残す。）	全員
7	学校訪問整理：記録した内容を整理し、グループで結果を伝え合う。（どんなことが分かったか、どんなことを自分に生かせるか考える。）	全員
8	小学校、中学校・高校の教育実践における今日的課題について各自で整理する。	全員
9	今日的課題の探究１：深めたい今日的課題：前回整理した内容を紹介しながら、今後、討論を深めていきたいことを明確にし各自で調べてレポート（レポート②）を作成する。	全員
10	今日的課題の探究２：前時に各自で調べたことをもとに校種別グループで討論する。校種混合による新たなグループでレポート内容に基づきディスカッションを通して今日的課題について考えを深める。	全員
11	カリキュラムマップの計画と作成：履歴カルテによる学びのふり返りとカリキュラムマップ作成の見通しを持つ。（どのように構造的に表すか計画し作成する。）	全員
12	カリキュラムマップの仕上げ：前時に作成し始めたカリキュラムマップの完成を目指す。（カリキュラムマップにタイトルを付けたり「自己の課題」を明示したりして完成させる。）	全員
13	カリキュラムマップの発表と相互評価：ローテーションを組みながらお互いのカリキュラムマップを発表し合う。（発表ごとに「よいところ見つけ」をする。）	全員
14	児童生徒理解：教員として児童生徒理解を深める。（児童生徒性暴力等の防止、性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性について理解する。）	全員
15	学習のまとめ：教員として求められる力、自己の課題、自分に付けたい力などについてまとめる。（自己でテーマ化してレポート（レポート③）を作成する。）	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート ①②③	60	課題に即して書いている。	学習成果物	20	ルーブリックに基づいてカリキュラムマップを作成している。
授業態度	20	意欲的に授業に臨み、グループ討論にも積極的に参加している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各年次の「履修カルテ」に必要事項を記入し、自己の課題を見出す。［30分］ ②「実習ファイル」（小・中・高）の記入内容を確認し、「できたこと」「できなかったこと」を明確にする。［30分］ ③カリキュラムマップを完成させるために自己の時間を見つけて取り組む。［60分］ ④学校訪問（小・中・高）には事前に学習課題を設定して臨み、事後に課題整理する。［60分］	各担当の教員が講義中に指示する「レポート①②③」に取り組み、期限までに担当教員に提出する。

受講生に望むこと	教育者を目指して最後まで意欲的、主体的に授業に臨むことを期待する。	教科書・テキスト	なし（資料は適宜配付する。）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	・「実習ファイル」（小・中・高），「履修カルテ」、『学生要覧2023』を携行して臨んでください。 ・レポート課題はClassroomに投稿・提出してもらうことがある。

実務経験を活かした授業の概要

村井：教師として必要な資質・能力について石川県教育委員会、富山県教育委員会、福井県教区委員会が求める教師像をもとに伝え、意識できるようにしている。
石上：公立小中学校における教諭及び管理職経験を生かし、学びの連続性を踏まえながら、理論と実践を往還する実践的学修を展開する。

授業科目名	介護等体験			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
県内の高齢者施設や児童施設などの社会福祉施設において５日間、特別支援学校において２日間の介護等体験活動を行う。体験に入る前に事前指導を行い、体験後には事後指導を行う。このように、［事前指導］＋［7日間の介護体験］＋［事後指導］のセットによる授業が本科目の概要である。事前指導には、介護等体験に係る書類等の説明と作成を含む。書類は大学が一括して石川県社会福祉協議会や石川県教育委員会に提出する。なお、５日間体験、2日間体験、いずれも実施日は受講生の希望をもとに県が調整・決定する。	①教職を目指す学生にとって介護等体験がなぜ必要なのか理解している。 ②ノーマライゼーションの理念について理解している。 ③高齢の人や障がいがある子どもへの接し方について考えながら体験することができる。 ④体験によって何を学んだか、自己の考え方がどう変わったかを整理して書くことができる。

教授方法	講義（事前・事後）、体験（5日間＋2日間）
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)の取得を希望する者で２年次までに必要な教員免許状取得のための科目を履修していて、３年次に教育実習が予定されている者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業概要をもとに学びの見通しを持つとともに介護等体験の意義と手続きについて理解する。	
2	人間の障がいの理解：ノーマライゼーションの理念について理解するとともに介護等体験で出会う障がいについて知る。	
3	社会福祉についての理解：社会福祉の理念（基本的人権と社会福祉）や内容（児童福祉、高齢者福祉、障がい者福祉）について理解する。	
4	特別支援教育についての理解：特別支援教育の基本的な考え方（インクルーシブ教育）や教育内容（教育課程など）について理解する。	
5	体験活動の実際①：福祉施設における活動中の注意点について理解するとともに、『介護等体験日誌』の記録の仕方を理解する。	
6	福祉施設での介護等体験①：施設利用者の１日の生活に寄り添う。【体験１日目】	
7	福祉施設での介護等体験②：施設利用者に必要で、自己ができる介護、援助、補助などを見つける。【体験２日目】	
8	福祉施設での介護等体験③：自己ができる介護、援助、補助などを行う。【体験３日目】	
9	福祉施設での介護等体験④：自己ができる介護、援助、補助などを繰り返したり、新たに見つける意識をもって臨む。【体験４日目】	
10	福祉施設での介護等体験⑤：自己の経験や学びをもとに感謝の気持ちを持って施設利用者と会話するようにする。【体験５日目】	
11	福祉施設での介護等体験の振り返り：５日間を振り返り、何を学んだか、自己の考え方がどう変わったかを整理して書く。（介護等体験レポートAの作成と提出）	
12	体験活動の実際②：特別支援学校における活動中の注意点について理解するとともに、『介護等体験日誌』の記録の仕方を理解する。	
13	特別支援学校での体験①：児童生徒の１日の学校生活に寄り添い、自分がどんな支援・援助ができるか考えながら接する。【体験１日目】	
14	特別支援学校での体験②：１日目の体験で気付いたり考えたりしたことをもとに、２日目はどのように関わっていくか考えて接する。【体験２日目】	
15	特別支援学校での介護等体験の振り返り：２日間を振り返り、何を学んだか、自己の考え方がどう変わったかを整理して書く。（介護等体験レポートBの作成と提出）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
介護等体験日誌（7日間）	40	福祉施設及び特別支援学校での体験内容を丁寧に記載するとともに、どのような学びがあったのかを明確に書いている。	介護等体験レポートAB	30	福祉施設及び特別支援学校の体験終了後、規定の書式でレポートを書いている。
小レポート	20	福祉施設や特別支援学校の事前調査結果及び講義内容の感想を分かりやすく書いている。	授業態度	10	積極的に授業に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①第１回目の授業後に課す「ノーマライゼーションとは何か」について自己で調べて第２回目に授業に臨む。（事前学習） ②第３回目の授業後に課す「インクルーシブ教育と何か」について自己で調べて第４回の授業に臨む。（事前学習） ③７日間の体験中、その日の体験が終わったら毎回、『介護等体験日誌』を書く。（事後学習） ④体験終了後１週間以内に介護等体験レポートABを提出する。（事後学習） ⑤『介護等体験日誌』を学内の「教材室」に提出する。（事後学習）	①小レポート課題の取り組みについてコメントする。 ②福祉施設及び特別支援学校での介護等体験レポートABにコメントする。

受講生に望むこと	①教職を目指す学生にとって介護等体験がなぜ必要なのか理解した上で実際の体験に臨むようにしてほしい。 ②高齢の人や障がいがある子どもへの接し方について考え、機会があるときには積極的に交流できるようにしてほしい。 ③ノーマライゼーションの考え方を理解し、今後の生き方の中でそれを大切にしていこうとする意識を持つようにしてほしい。	教科書・テキスト	『介護等体験安心ハンドブック』，庄司和史著，学事出版，2018年版，ISBN978-4-7619-2477-5
指定図書／参考書等	『介護等体験ハンドブック』，現代教師養成研究会編，大修館書店，2014年版，ISBN4-469-26534-9，『介護等体験ガイドブック　フィリア』，全国特別支援学校校長会編著，2014年版，ジ アース教育新社，ISBN978-4-86371-522-6／なし	その他・特記事項	介護等体験レポートABはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

特別支援学校を訪問したりして介護等体験を行うために必要な連携体制づくりを行うとともに、指導計画や施設・設備について提示し、理解できるようにしている。

授業科目名	児童文学			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	中島　賢介						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は、明治期以降の日本における児童文学を、定義、諸分野、歴史的流れといった視点から概観する。また、作品を輪読したり、精読したりすることでそれらが持つ特性や魅力について考察し、日本児童文学史上における位置づけと意義を明らかにする。また、受講生同士が毎回のブックトークを通して児童文学をより身近に感じ親しむ。なお、授業の中で児童文学とキリスト教との関連についても触れる。	①明治以降の児童文学の流れを理解し、分かりやすく説明ができる。 ②児童文学作品に対する調査研究の方法を修得する。 ③児童文学作品の持つ特徴や作品価値について、分かりやすく説明ができる、を掲げる。

教授方法	講義、ディスカッション、研究発表
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要説明、序章　児童文学の定義について理解する。	
2	子どもの本の分類について、形式別、対象年齢別、ジャンル別に理解する。	
3	英米の子どもの本の歴史について、当時の時代背景や「子ども観」を中心に理解する。	
4	日本の子どもの本の歴史について、特に明治以降の子どもの本の歴史を概観する。	
5	伝承から子どものための物語への変遷について理解する。神話・伝説・昔話それぞれの特徴を把握する。	
6	ファンタジー（空想と魔法、架空の世界）について、ファンタジーの描かれ方の違いについて理解する。	
7	児童文学のリアリズム（日常、家族、学校、友情、人生）について理解する。	
8	冒険物語（探索、試練、挑戦、救出、サバイバル）について理解する。	
9	歴史物語（歴史上の事実を重視し、過去を再現することを目的とした作品）について理解する。	
10	ノンフィクション（事実に基づいた作品）を概観し、分野別に理解する。	
11	子どものための詩（わらべうたから現代詩）について理解する。	
12	読んでおきたい古典を読み、保育者・教育者が読むことの意義を理解する。 欧米以外の世界の児童文学について理解する。	
13	児童文学が戦争と平和をどのように描いているかを理解する。	
14	幼年文学とYA文学について、作品の特徴と内容について理解する。	
15	まとめ：各自が研究した内容について発表する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢と態度	レポート	50	毎回の授業に関する考察が文章で表現しているか。
研究発表	30	自分で選んだ作品作家について研究した内容を口頭で表現しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回の課題作成【30分】 研究発表の準備と振り返り【120分】	個別の質問やコメントについては個別に回答し、全体で共有すべき内容については授業の中で触れる。

受講生に望むこと	この授業でさまざまな児童文学作品を読み、子どもと一緒に作品世界に親しんでほしい。	教科書・テキスト	「児童文学の教科書　改訂新版」川端有子　玉川大学出版部　2025年　（ISBN：9784472406430）
指定図書／参考書等	なし／「今こそ読みたい児童文学100」赤木かん子　ちくまプリマー新書214　2014年　（ISBN:4480689176）、「アプローチ児童文学」関口安義編　2008年　（ISBN:4877372571）	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	国語			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	石上　佐知子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要

本授業では、小学校学習指導要領に示された国語科の目標及び内容の構造を踏まえ、児童の思考形成に寄与する言葉の指導の在り方について理解を深める。とりわけ、学習者が自らの言葉を書き記す営みは、思考を形成し、表現を深化させるという国語科の本質と密接に結び付いている。
本授業では、「書き記すこと」に着目しながら言語活動の意義を捉え直すとともに、明治期以降の教育制度や学習用具の変遷にも触れ、国語科における目標・内容・指導法がどのような構造をもって成立してきたのかを理論と実践の両面から学ぶ。
講義と体験的な言語活動を往還させる学修を通して、児童の自律的・主体的な学びを支える国語科の内容構成及び指導の在り方を理解し、受講者自身が小学校教諭に求められる言語感覚及び国語力を形成することを目指す。

※SDGs目標番号4関連科目

授業の到達目標

本授業を通して、受講者は次の力を身に付けることを目標とする。
（１）小学校国語科の目標及び内容の構造を理解し、国語科言語活動の教育的意義を説明できる。
（２）書き記すことを重視した言語活動が、児童の思考形成や表現の深化に果たす役割を理解できる。
（３）教育制度や学習用具の変遷を踏まえ、国語科指導の成立背景を構造的に捉えることができる。
（４）児童の主体的な学びを支える国語科の内容及び指導法、ならびに言語活動の組織化について構想できる。

教授方法	講義、演習、グループ活動、ワークショップ形式の言語活動を組み合わせて行う。授業内外においてノートテイクに継続的に取り組み、学習内容の記録、思考の整理、振り返りを通して、学びのPDCAサイクルを意識した学修を行う。
履修条件	小学校教諭の教職課程登録者に限る

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	国語科とは何か 国語科を自明のものとして捉えず、歴史的三観点（教育制度・物的文化・学校文化）から構造と本質を問い直し、学修の見通しを持つ。	
2	国語科の成立と教育制度 近代学校制度の成立を踏まえ、国語科の目標及び内容が学校教育制度の枠組みの中でどのように形成されたかを理解する。	
3	学校文化としての国語科 授業の型や学び方が学校文化として形成・継承される過程を捉える。	
4	国語学習とノートという学習用具（物的文化） ノートを物的文化として捉え、言葉を媒介して児童の学びを主体化するノート指導の成立条件や役割を理解する。	
5	言語活動はいかに成立したか 制度・学校文化・物的文化の重なりの中で、言語活動がどのように成立してきたのかを構造的に理解する。	
6	理論と実践の往還―理論はいかに生成されたか 歴史的実践を手がかりに、個別の実践がどのように理論として生成され得るのかを捉える。	
7	読むこと①―学習を成立させる要素 学習指導要領に示される「読むこと」の目標及び内容を踏まえ、読むことを思考形成として捉える視点を整理する。	
8	読むこと②―授業設計の視点 書き記す活動の位置付けを踏まえ、読むことの授業を設計する視点を体験的に学ぶ。	
9	話すこと・聞くこと①―学習を成立させる要素 学習指導要領「話すこと・聞くこと」の目標及び内容を手がかりに、話す・聞く活動が学習として成立するための要素を整理する。	
10	話すこと・聞くこと②―授業設計の視点 書き記す活動の位置付けを踏まえ、「伝え合う読書」活動を通して、対話が思考を深める授業設計の視点を体験的に学ぶ。	
11	話すこと・聞くこと③―ビブリオトーク・ワークショップ 読書を統合的な言語活動として組織する視点を、ワークショップ実践を通して身に付ける。	
12	書くこと①―学習を成立させる要素 学習指導要領に示される「書くこと」の目標及び内容を踏まえ、書くことを思考形成として捉える視点を理解する。	
13	書くこと②―授業設計の視点 書き記す活動の位置づけを踏まえ、作文・詩・俳句等の言語活動を通して、書くことの授業を設計する視点を体験的に学ぶ。	
14	我が国の言語文化に関する事項①―書写に関する授業設計の視点 学習指導要領における書写の位置付けを踏まえ、主体的な学びを実現する言語活動を通して、書写授業を設計する視点を体験的に学ぶ。	
15	我が国の言語文化に関する事項②―伝統的な言語文化に関する授業設計の視点 合同句会を通して、伝統的な言語文化に関わる学習意義と授業設計の視点を学ぶ。さらに、学修全体を振り返り、国語科言語活動（授業）の意義を捉える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
テスト	40	授業内容及び学習指導要領の理解を踏まえ、国語科教育を担う教員としての自己の到達状況と課題を、理論と実践の関連を意識して具体的に論じているか。	小レポート	15	事前に学習事項を整理したうえで、事後に理解や思考の深まりを適切な言葉で表現し、自己の学びを省察できているか。
授業参加態度	15	課題意識をもって言語活動に主体的に参加し、言語感覚や能力を高めようとする姿勢が、発言やノートテイクに表れているか。	体験的活動参加態度	30	言語活動を中心とした体験的活動に主体的に参加し、自ら考え、表現しようとしているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前学習として、『小学校学習指導要領解説 国語編』の指定範囲を読み、要点や疑問点をレポートまたはノートに整理する（60分）。
事後学習として、指定された小レポートを提出するとともに、自身の課題意識に基づきノートテイクを行う（60分）。

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

事前課題については、提出前に評価の観点や留意点をコメントとして示す。
また、課題内容に関する質問には、授業内外を通して随時対応する。

受講生に望むこと	国語はすべての教科の学習を支える基盤であることを十分に理解したうえで、主体的に授業に取り組んでほしい。あわせて、学修内容を小学校の教育実践にどのように生かすかを意識し、そのために必要な自己の国語力を高める姿勢で受講することを期待する。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説国語編』文部科学省　東洋館出版社　2018　ISBN978-4491034621 『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018　ISBN978-4577814475
指定図書／参考書等	なし／『小学校新学習指導要領ポイント総整理　国語』吉田裕久、水戸部修治編　東洋館出版社　2017　ISBN978-4491033976	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

公立小中学校における国語教育実践の経験を生かし、国語科の本質について問いをもちながら、小学校国語科の内容について実践的に授業を行う。

授業科目名	社会			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	清水　和久						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
・初等社会科教育とはどのような目的で，どのような学習内容があり，どのような授業の進め方がなされるのかをつかむ。また，授業実践例から教育現場における授業づくりのあり方を学ぶ。 ・ICTを活用した授業形式を講義中に取り入れ、受講しながら、社会科における個別最適な学び方や協働的な学び方を体験する	①小学校社会科教育の目標・内容・方法について理解する。 ②小学校社会科教育の学習評価のあり方について理解する。 ③社会認識，公民的資質の育成の側面から授業を分析・評価できる。 ④社会認識を通して公民的資質を育成する単元をグループで構想できる。 ⑤知識・技能，思考力・判断力・表現力，学びに向かう力を意識した本時計画を作成で ⑥ICTを活用した授業設計方法を知る。

教授方法	新規のよく使われているアプリなども活用した授業をおこなう。授業形式は、小学校でのICTを活用した授業形式でおこなう
履修条件	小学校教員免許取得を目指す学生

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：小学校社会のシラバスの紹介と小学校社会の学び方 学校でよく使われているアプリの紹介と使い方の説明（シンキングツール） 教育情勢：デジタル化とグローバル化の進展	
2	小学校社会科の目標とICTの活用場面 ICTの活用場面は？	
3	小学校社会科教育の教材研究の方法 ICTの活用場面	
4	３・４学年の初等社会科カリキュラムの内容（１）：（地域の地理を中心に） ICT活用：グーグルマップとVRゴーグル	
5	３・４学年の初等社会科カリキュラムの内容（２）：（地域の歴史を中心に） ICT活用：用水開発　地域見学　360度カメラ　VRゴーグル	
6	５年生の初等社会科カリキュラムの内容（１）：（産業と経済を中心に） 農業の未来 ICT活用：ドローンでの農薬散布　プログラミング	
7	５年生の初等社会科カリキュラムの内容（２）：（産業の構造を中心に） 自動車工業、情報化社会 ICT活用：生成AI	
8	協働学習　６学年の初等社会科カリキュラムの内容（１）：（歴史の学習を中心に） ICT活用：戦国の武将　シンキングツール	
9	６学年の初等社会科カリキュラムの内容（２）：（政治や法律の学習を中心に） ICT活用：外国と交流学習の学び　台湾	
10	小学校社会科の評価方法	
11	小学校社会科教育とSGDsとＥＳＤ	
12	グループによる教材研究単元構想	
13	グループによる本時の指導案構想	
14	グループごとの模擬授業の実施	
15	模擬授業の評価と改善	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小課題	30	複数回の小課題レポートで授業の理解度を判定する	振り返り小テスト	20	複数回の授業の振り返りの小テストを実施し授業の理解度を判定する
模擬授業	20	グループで社会科の指導案を作成し模擬授業を行う	期末レポート	30	授業のまとめとして，重要点を3点に絞って書くことができる

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前にレジメを配布するので、必ず目を通しておき、当日の授業の思考ポイントを考えておくこと、また授業後には参加者の感想を共有するでの。学んだことを復習することにつかうこと	小レポートはコメント入れて、その都度返却する

受講生に望むこと	社会科は世の中の仕組みを児童に発見させることが大事でなので学生自身が社会事象について興味関心をもち、それを他の人にいかにわかりやすく伝えられるかを考えて欲しい	教科書・テキスト	文部科学省『小学校学習指導要（平成29年告示）領解説社会編』
指定図書／参考書等	とくにありません	その他・特記事項	常時クロームブックを使用するので忘れないこと

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	算数			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	伊藤　伸也						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
算数科の各領域・内容に関する教育的な分析に取り組む。具体的には、数学的な概念や構造、アイディアと、それらによって説明される、日常生活や社会の事象や数学の事象との関係について、児童の学習過程を踏まえて検討する。	算数科の内容と、それに関連する日常生活や社会の事象や数学の事象に関する知識及び技能や考え方が身についている。

教授方法	講義と演習
履修条件	算数科指導法（後期）を受講する学生が望ましい。高等学校数学Ⅰおよび中学校数学科の内容を復習して受講すること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	小学校算数科の目標と内容の概要および数学的活動の意味を知る。	
2	「数と計算」領域の内容に関する教育的な分析を行う。（１）数（整数）	
3	「数と計算」領域の内容に関する教育的な分析を行う。（２）数（小数・分数）	
4	「数と計算」領域の内容に関する教育的な分析を行う。（３）計算（加法・減法）	
5	「数と計算」領域の内容に関する教育的な分析を行う。（４）計算（乗法）	
6	「数と計算」領域の内容に関する教育的な分析を行う。（５）計算（除法）	
7	「数と計算」領域の内容に関する教育的な分析を行う。（５）式	
8	「図形」領域の内容に関する教育的な分析を行う。（１）図形の概念	
9	「図形」領域の内容に関する教育的な分析を行う。（２）図形の構成	
10	「図形」領域の内容に関する教育的な分析を行う。（３）図形の計量	
11	「測定」領域の内容に関する教育的な分析を行う。	
12	「変化と関係」領域の内容に関する教育的な分析を行う。（１）割合	
13	「変化と関係」領域の内容に関する教育的な分析を行う。（２）関数	
14	「データの活用」領域の内容に関する教育的な分析を行う。	
15	算数科の各領域・内容に関する教育的な分析を総括し展望を得る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	50	授業の到達目標および授業内容・目標を踏まえて、第16回として期末試験を行い評価する。	課題レポート・提出物	20	授業内容・目標を踏まえて、課題に応じたレポート・提出物を作成することができたかを評価する。
口頭発表・ロールプレイング	20	授業内容・目標を踏まえて、課題に応じた発表をすることができたかを評価する。	授業への積極性、態度	10	授業に積極的に参加しようとしていたかを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業に関連する教科書・テキストの内容を予習する。［40分］ 課題レポート・提出物作成のため、授業内容を復習する。［50分］	課題レポート・提出物等に対するフィードバックは授業時に行う。

受講生に望むこと	小学校で児童に算数科の指導をすることの責任の自覚を望む。	教科書・テキスト	小学校学習指導要領解説　算数編（平成３０年２月　文部科学省） ISBN978-4536590105 授業中に適宜資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし 授業中に適宜資料を配布する。	その他・特記事項	特になし。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	理科			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	高島　英公子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
小学校学習指導要領における理科の目標及び各領域、各学年の内容、系統性について理解する。また、具体的な授業場面を例示し、どのような観察・実験を行うのか、どのように評価するのかについて理解する。 ※SDGs目標番号13関連科目	1）小学校学習要領における理科の目標及び主な内容を理解する。 2）理科の各領域、各学年の学習内容・観察・実験等についての指導上の留意点について理解する。 3）理科の学習評価の考え方を理解する。 4）理科の背景となる物理・科学・生物・地学等とのつながりを理解し、教材研究に活用しようとする。 5）理科における自然災害の取扱いについて理解する。

教授方法	講義と演習
履修条件	理科指導法を後期に受講することが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	理科を学ぶ意義、本授業の到達目標・評価方法について理解する。	
2	理科の目標及び内容構成について理解する。	
3	A物質・エネルギー（１）「粒子の保存性」について理解する。	
4	A物質・エネルギー（２）「粒子の存在」について理解する。	
5	A物質・エネルギー（３）「粒子の結合」について理解する。	
6	A物質・エネルギー（４）「粒子のもつエネルギー」について理解する。	
7	A物質・エネルギー（５）「エネルギーの保存と変換」について理解する。	
8	A物質・エネルギー（６）「エネルギーの捉え方」について理解する。	
9	A物質・エネルギー（７）「エネルギーの保存と変換」について理解する。	
10	B生命・地球（１）「生物の連続性」について理解する。	
11	B生命・地球（２）「生物の外部の構造と機能」について理解する。	
12	B生命・地球（３）「生物の内部の構造と機能」について理解する。	
13	B生命・地球（４）「地球の内部の地表面の様子」について理解する。	
14	B生命・地球（５）「地球の大気と水の循環」について理解する。	
15	B生命・地球（６）「地球と天体の運動」について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題レポート	40	学修内容を活用し、課題に応じたレポートを書くことができたかを評価する。	授業内小テスト	20	第14回の授業において、小テストを行い評価する。
期末レポート	40	学修内容を活用し、課題に応じたレポートを書くことができたかを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業に関連する教科書の内容を予習する。(40分) レポート作成のため、授業内容を復習する。(50分)	レポートや小テストの評価及び解説を授業で行う。

受講生に望むこと	資質・能力の育成を目指す理科授業を実現するために、理科の目標及び内容の系統性等を理解してほしい。	教科書・テキスト	「小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　理科編」文部科学省(2024)　ISBN 978-4-487-28704-8
指定図書／参考書等	授業中に適宜資料を配布する。	その他・特記事項	Classroomを用いた課題等の提示・提出を基本とする。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	音楽			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	武田　恵美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
幼稚園教諭や小学校教諭として必要な音楽科教育に関する基礎的知識と技術を養うために、歌唱や器楽の土台となる音楽理論やソルフェージュを学ぶ。初等音楽の教科書から様々な楽曲を取り上げ、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の教材について理解を深める。また、様々な表現形態について学ぶことで、豊かな感性を育む。	①小学校学習指導要領における音楽科の目標及び内容を理解する。 ②音楽科の指導内容について理解する。 ③正しい発声法を理解し、歌うことができるようになる。 ④打楽器・鍵盤楽器・ソプラノリコーダー・和楽器の演奏法、取り扱いについて理解し、演奏できるようになる。

教授方法	オンデマンドと対面による講義と演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について、シラバスを通して理解する。音楽理論Ⅰ：拍、拍子とリズムについて理解する。低学年Ⅰ：低学年の歌唱教材及び指導内容について学び、実践を行う。	
2	音楽理論Ⅱ：五線、譜表、音部記号について理解する。低学年Ⅱ：低学年の器楽教材及び指導内容について学び、実践を行う。共通事項Ⅰ：小学校学習指導要領（音楽）の、各学年の〔共通事項〕に示された「音楽を形づくっている要素」について学ぶ。「音楽の仕組み」について理解する（反復①）。	
3	音楽理論Ⅲ：音名について理解する。低学年Ⅲ：低学年の音楽づくり教材及び指導内容について学び、実践を行う。共通事項Ⅱ：「音楽の仕組み」について理解する（反復②）。	
4	音楽理論Ⅳ：変化記号について理解する。低学年Ⅳ：低学年の鑑賞教材及び指導内容について学ぶ。共通事項Ⅲ：「音楽の仕組み」について理解する（呼びかけとこたえ①）。	
5	音楽理論Ⅴ：音符と休符について理解する。中学年Ⅰ：中学年の歌唱教材及び指導内容について学び、実践を行う。共通事項Ⅳ：「音楽の仕組み」について理解する（呼びかけとこたえ②）。	
6	音楽理論Ⅵ：音程について理解する。中学年Ⅱ：中学年の器楽教材及び指導内容について学び、実践を行う。共通事項Ⅴ：「音楽の仕組み」について理解する（変化）。	
7	音楽理論Ⅶ：速度記号について理解する。中学年Ⅲ：ソプラノリコーダーの取り扱い、奏法及び指導内容について学び、実践を行う。共通事項Ⅵ：「音楽の仕組み」について理解する（反復と変化）。	
8	音楽理論Ⅷ：強弱記号について理解する。中学年Ⅳ：中学年の音楽づくり教材及び指導内容について学び、実践を行う。共通事項Ⅶ：「音楽の仕組み」について理解する（音楽の縦と横との関係①）。	
9	音楽理論Ⅸ：奏法に関する記号について理解する。中学年Ⅴ：中学年の鑑賞教材及び指導内容について学ぶ。共通事項Ⅷ：「音楽の仕組み」について理解する（音楽の縦と横との関係②）。	
10	音楽理論Ⅹ：反復記号について理解する。高学年Ⅰ：高学年の歌唱教材及び指導内容について学び、実践を行う。共通事項Ⅸ：「音楽の仕組み」について理解する（音楽の縦と横との関係　）。	
11	音楽理論Ⅺ：長調と短調について理解する。高学年Ⅱ：高学年の器楽教材及び指導内容について学び、実践を行う。共通事項Ⅹ：「音楽の仕組み」について確認する（反復,呼びかけとこたえ,変化,音楽の縦と横との関係①）。	
12	音楽理論Ⅻ：和音について理解する。高学年Ⅲ：高学年の音楽づくり教材及び指導内容について学び、実践を行う。共通事項Ⅺ：「音楽の仕組み」について確認する（反復,呼びかけとこたえ,変化,音楽の縦と横との関係②）。	
13	高学年Ⅳ：高学年の鑑賞教材及び指導内容について学ぶ。共通事項Ⅻ：「音楽の仕組み」について確認する（反復,呼びかけとこたえ,変化,音楽の縦と横との関係　）。	
14	和楽器（和太鼓）の取り扱い及び奏法について学び、実践する。	
15	和楽器（箏）の取り扱い及び奏法について学び、実践する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学修振り返りシート	40	提出状況と内容。授業内容を適切に理解し、学修振り返りシートにおいて、自身の学びや気付き、課題等を具体的に記述できているか。	課題	30	提出状況および取り組み内容。講義内容を踏まえ、課題の趣旨を理解し、指示に沿って適切に取り組めているか。
演習課題	30	提出状況および取り組み内容。講義内容を理解したうえで、課題の趣旨を理解し、適切に取り組めているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①音楽の基礎的な技術を高めるための課題に積極的に取り組むこと。［40分］ ②講義内容について自身で振り返り、疑問点や不明点を調べること。［20分］ ③次回授業のための課題に取り組み、準備すること。［30分］	学修振り返りシートおよび演習課題については、必要に応じてコメントを付すなどし、適切な時期に返却する。

受講生に望むこと	毎回の授業で出される課題に積極的に取り組むこと。特に演習課題については、練習時間を確保し、授業内容を踏まえたうえで、歌唱や演奏などの実践に取り組むこと。	教科書・テキスト	『小学校 音楽科教育法 2022年改訂版』有本真紀・阪井恵・津田正之編著、教育芸術社 、2021、ISBN978-4-87788-969-2.『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018、ISBN978-4-87446-066-5.『うたうソルフェージュ』木許隆監修、圭文社、2024、ISBN978-4-87446-093-1.プリント
指定図書／参考書等	なし／『小学校学習指導要領解説　音楽編』東洋館出版社、2018、ISBN978-4-49103-465-2.『保育者、教員をめざす人のための 初級ピアノ・テクニック速習ステップス』木許隆監修、音楽之友社、2015、ISBN978-4-276-82073-9.『コードネームとリズムによる Basic and Variations』木許隆, 武田恵美, 長井典子編著、圭文社、2022、ISBN978-4-87446-091-7.	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	体育			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
平成29年度に告示された新小学校学習指導要領体育編の目標には「心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協同的な学習活動を通して、『知識・技能』、『思考力・判断力・表現力』、『学びに向かう力・人間性』を育成すること」とある。この授業では、将来教員となる学生達がこれらのねらいや目標を踏まえ、実践につなげることが出来る内容を自ら習得し、実践的に学んでいくことをねらいとする。小学校の体育を指導していくために、小学校の学習内容として構成されている運動領域を基に、基礎的な実技能力の習得に主眼を置き指導する。	学習指導要領（体育編）の内容を理解し、実技の実践及び指導ができるようになる。

教授方法	スポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	体つくりの運動系①　「体ほぐしの運動（遊び）」を実践し、指導上の留意事項などを学習する。	
3	体つくりの運動系②　「多様な動きをつくる運動（遊び）」を実践し、指導法などを学習する。	
4	器械運動系①「機械・器具を使っての運動遊び、器械運動（マット）」を実践し、指導法などを学習する。	
5	器械運動系②「機械・器具を使っての運動遊び、器械運動（鉄棒）」を実践し、指導法などを学習する。	
6	器械運動系③「機械・器具を使っての運動遊び、器械運動（跳び箱）」を実践し、指導法などを学習する。	
7	陸上運動系①「走・跳の運動遊び、走・跳の運動及び陸上運動」を実践し、指導法などを学習する。	
8	陸上運動系②「走・跳の運動遊び、走・跳の運動及び陸上運動」を実践し、指導法などを学習する。	
9	陸上運動系③「走・跳の運動遊び、走・跳の運動及び陸上運動」を実践し、指導法などを学習する。	
10	ボール運動系①「ゲーム、ボール運動（ボールゲーム、鬼遊び）」を実践し、指導法などを学習する。	
11	ボール運動系②「ゲーム、ボール運動（ネット型ゲーム）」を実践し、指導法などを学習する。	
12	ボール運動系③「ゲーム、ボール運動（ゴール型ゲーム）」を実践し、指導法などを学習する。	
13	ボール運動系④「ゲーム、ボール運動（ベースボール型ゲーム）」を実践し、指導法などを学習する。	
14	水泳　各種泳法、及び、指導法などを学習する。（水泳実習における留意事項など理論を中心に。）	
15	まとめ　これまで学習してきた内容を整理する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・他人へ体育実技を指導する上で何が大切なのかを学び取ろうとする姿勢がある。	ミニレポート	20	・指定したフォーマットにて記載されている。 ・指定した課題に対して的確に調べられている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各講義を振り返り、実技内容と学習指導要領の内容をつなげる。[30分] ②各講義を振り返り、できない実技に関しては自主練習を行う。[30分] ③各自の実技実践能力を発達させるとともに、指導する立場となったときのシミュレーションを行い、指導力の向上につなげる。[30分]	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則である。 運動のできる服装で参加する。 主に体育館にて行いますので、内履きの運動靴を用意する。 なお、この科目は学習指導要領に則った実技の研修科目である。 学ぶ姿勢、及び教える側としての意識を持って参加する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	参考書：『小学校学習指導要領解説　体育編』文部科学省　東洋館出版社 平成30年2月28日初版　ISBN 978-4-491-03467-6	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出ること。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意する。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な実践的英語運用力を、話し合いや問題練習を通して身に付ける。また、英語に関する背景的な知識の具体例を教科書や発表活動から学ぶ。	①英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法等）を実際の授業場面を意識しながら身に付ける。 ②第二言語習得に関する基本的な事柄を意識しながら、児童と楽しくコミュニケーション活動ができるようになる。 ③児童文学（絵本、子供向けの歌やチャンツや詩等）の役割を理解し、授業に活かすことができる。 ④異文化理解に関する基本的な事柄を理解し、授業に活かすことができる。

教授方法	英語の4技能に関する演習、ディスカッション、プレゼンテーション
履修条件	保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭（英語）、高等学校教諭（英語）のうち、いずれかの資格・免許を取得予定の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：本授業の進め方と評価方法を理解する。 Unit 1　ALT's First Visit to Minami Elementary School　初対面の人とのやりとりの仕方を学ぶ。 発展活動：JTEがALTに学校のことを知ってもらうためやりとりをする方法を知る。	
2	Unit 2　Getting to Know Each Other　相手をより知るための話の進め方を学ぶ。 発展活動：JTEがALTに学校のことを知ってもらうためのやりとりを準備する。	
3	Unit 3　School Lunch　相手を歓迎会にお誘いする話し方を学ぶ。 発展活動：JTEがALTに学校のことを知ってもらうためのやりとりを練習する。	
4	Unit 4　Play Time　休み時間の遊びについての話し方を学ぶ。 発展活動：JTEがALTに学校のことを知ってもらうためのやりとりを発表する。（発表①）	
5	Unit 5　The First English Class　最初の Team Teaching の授業の始め方を学ぶ。 発展活動：TT で ALT 紹介をする方法を知る。	
6	Unit 6　Teaching Numbers 1　TTの授業の始めから活動に入る所までの進め方を学ぶ。 発展活動：TT での ALT 紹介を準備する。	
7	Unit 7　Teaching Numbers 2　TTで活動を進める方法を学ぶ。 発展活動：TT での ALT 紹介を練習する。	
8	Unit 8　Reflection　授業の最後に行う振り返りの仕方を学ぶ。 発展活動：TT での ALT 紹介を練習する。（発表②）	
9	Unit 9　Activities at a Kindergarten　ゲストとして訪問する幼稚園での活動についての打ち合わせの仕方を学ぶ。 発展活動：TTで歌・チャンツ・ゲームなどを楽しく活動させる方法を知る。	
10	Unit 10　Growing Plants & Observing the Butterfly Lifecycle　他教科の学びについてのやりとりを学ぶ。（理科の観察） 発展活動：TTで歌・チャンツ・ゲームなどを楽しく活動させる準備をする。	
11	Unit 11　Making Onigiri and Curry　他教科の学びについてのやりとりを学ぶ。（家庭科の調理実習） 発展活動：TTで歌・チャンツ・ゲームなどを楽しく活動させる練習をする。	
12	Unit 12　Making a Town Map　他教科の学びについてのやりとりを学ぶ。（社会科の地域の地図作成） 発展活動：TTで歌・チャンツ・ゲームなどを楽しく活動させる発表をする。（発表③）	
13	Unit 13　Introducing Japanese Culture　国際交流に向けての打ち合わせの仕方を学ぶ。 発展活動：TT で絵本を使ったやりとりを行うための準備をする。	
14	Unit 14　Evacuation Drills　避難訓練についての説明の方法を学ぶ。 発展活動：TT で 絵本を使ったやりとりを行うための練習をする。	
15	Unit 15　Graduation　卒業に向けて行われる活動についての説明の方法を学ぶ。 発展活動：TT で 絵本を使ったやりとり を発表をする。（発表④）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	30	①予習して授業に臨み、積極的に活動に取り組んでいるか。 ②発表課題の準備を協力して行えているか。③(小テスト)英語の語彙、文構造、文法、発音、正書法などを身に付けているか	発表 ①②③④	30	英語の自己紹介・歌指導、絵本を使ったやりとり等を相手を意識しながら発表できているか。
期末テスト	40	授業で学んださまざまな場面で英語を自分のことばとして使えるか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・毎回の小テストの準備を十分にすること。[20分] ・授業のための予習[40分] ・英語で発表するために、教室で児童生徒の前で実践する時のように自信をもってできるまで練習すること。[60分]	①小テストについては、次時に返却する際にコメントする。 ②パフォーマンステストについては、終了直後にコメントする。

受講生に望むこと	人前で英語を話すことに慣れ、上手くなるには練習することだということを体感してほしい。	教科書・テキスト	『Hello, English ―English for Teachers of Children』相羽千州子・藤原真知子・Brian Byrd・Jason Barrows 著　成美堂　2016　ISBN:9784791947973
指定図書／参考書等	なし／『最新 小学校英語内容論入門』樋口忠彦監修、泉惠美子他編　研究社　2023　ISBN: 978-4327411091	その他・特記事項	Classroomを用いて課題等を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	国語科指導法（書写を含む）			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	石上　佐知子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要

本授業は、初等国語科の授業づくりを、学習指導要領に基づきつつ、児童実態を踏まえた独創的な授業を構想・設計・改善する力を養うことを目的とする。受講者は個及びグループ単位で教材研究を行い、学習内容の価値を吟味した上で、指導要領に根拠を置きながら独創的な授業を組み立てていく。特に、模擬授業とその後のリフレクション（省察）を「研究協議」として位置付け、対話を通して授業改善の具体的な方法を実践的に習得する。以上の学修を通して、教師の主体的な授業創出の在り方を実践的に理解することを目指す。

※SDGs目標番号1、4、6関連科目

授業の到達目標

（１）『小学校学習指導要領解説 国語編』を、「国語」で学んだ構造的視点から深く理解し、活用できる。
（２）国語科の目標及び各領域の指導事項に沿って、児童の思考を深める言語活動を軸とした単元の流れ（学習目標・言語活動・評価規準）を構想できる。
（３） 教材の価値を批判的・独創的に分析し、独自の教材開発ができる。
（４）「指導と評価の一体化」を踏まえ、児童の学びを可視化する学習指導案を作成できる。
（５）模擬授業及び研究協議を行い、省察を通して改善点を言語化できる。

教授方法	講義、教材研究、指導案作成、模擬授業及び研究協議を組み合わせ、学校現場の授業づくりに近い形で実践的に理解を深める。あわせて、授業内外におけるノートテイクを通して、学習内容の整理及び振り返りを行う。
履修条件	「国語」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション 「国語」での学び（歴史的構造・思考形成）を振り返り、本授業の「授業創出」への見通しをもつ。	
2	国語科授業づくりの理論 「主体的・対話的で深い学び」を、書き記す活動（記録）による思考の深化という視点から捉え直し、指導と評価の一体化を学ぶ。	
3	単元構想と学習指導案 児童の実態に基づき、単元目標から評価規準、言語活動・評価までを論理的に構成する技術を習得する。	
4	領域別授業づくり―話すこと・聞くこと 「対話の型」「伝え合う読書」等の視点を活かし、対話が思考を深める独創的な授業を構想・設計する過程を学ぶ。	
5	領域別授業づくり―書くこと 思考形成としての「書くこと」を軸に、推敲や共有等を取り入れた独創的な授業を構想・設計する過程を学ぶ。	
6	領域別授業づくり―読むこと 児童の多様な読み（思考形成）を引き出す発問と、書き記す活動（記録）を連動させた授業を構想・設計する。	
7	我が国の言語文化に関する授業づくり―書写 「物的・学校文化」の視点を踏まえながら、主体的な学びを実現する書写の授業を構想・設計する過程を学ぶ。	
8	教材研究と指導案検討①（グループまたは個人） 独創的な視点で教材を分析し、単元の「山場」を構想する。各自指導案を作成する。	
9	教材研究と指導案検討②（グループまたは個人） 指導案検討を重ねつつ、学習用具の妥当性や形成的評価の場面を協働的に精査する。	
10	教材研究と指導案検討③（グループまたは個人） 指導案検討を重ねつつ、模擬授業へ向け、板書や発問等を具体的・協働的に精査する。	
11	模擬授業とリフレクション１ 学習指導案に基づき授業を実践する。その後、自評と協議を通して、全体で指導と評価の妥当性・改善点を検証する。	
12	模擬授業とリフレクション２ 学習指導案に基づき授業を実践する。その後、自評と協議を通して、全体で指導と評価の妥当性・改善点を検証する。	
13	模擬授業とリフレクション３ 学習指導案に基づき授業を実践する。その後、自評と協議を通して、全体で指導と評価の妥当性・改善点を検証する。	
14	模擬授業とリフレクション４ 学習指導案に基づき授業を実践する。その後、自評と協議を通して、全体で指導と評価の妥当性・改善点を検証する。	
15	学修のまとめ「目指す国語科授業」	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学習指導案	30	グループでの教材研究の深化、独創的な視点、指導と評価の一体化が図られているか。	模擬授業	30	十分な教材研究・事前準備により児童役の学びを引き出し、積極的・協働的に模擬授業を実施することができたか。
期末レポート	20	学修を振り返り、自らの目指す国語科授業について考察し、わかるように文章に書きまとめているか。	授業参加態度	20	他グループの模擬授業に対する建設的な意見や、ノートテイクを通した学びのPDCAに十分に取り組んだか。

授業外における学習（事前・事後学習等）

（１）模擬授業準備／ 教材研究、指導案作成、教具準備等に、グループまたは個人で計画的・協働的に取り組む。[60分]
（２）リフレクション／ 模擬授業後、研究協議での議論を振り返り、自らの課題を明確にしノート等に記録する。[60分]
（３）授業の振り返りのほか、授業内学習を再解釈・再構築してノートに書きまとめる等して、学びのPDCAサイクルを構築する。[60分]
※授業に沿って上記の内容に適宜取り組む。

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

・授業内課題や期末レポートについて、観点を示し、質問に応じる。
・ノートテイク等についてフィードバックを行う。

受講生に望むこと	自らが受けて来た国語科授業を、様々な角度・視点から再考し、めざす国語科授業について自らの言葉で語れる力を身に付けて欲しい。そのためには、授業はもちろん事前・事後の学習にも自覚的に言葉を駆使し、積極的に学ぶ姿勢が必要。そうした学びを通して、国語科授業づくりの楽しさを味わって欲しい。	教科書・テキスト	①『小学校国語科授業研究』田近洵一、中村和弘、大熊徹、塚田泰彦編 2018年 ISBN：9784316804651 ②『小学校学習指導要領解説　国語編』文部科学省　東洋館　2018年 ISBN：9784491034621 ③「国語科　考えるノート（国語編）」「国語科　考えるノート（漢字編）」「国語科　考えるノート（作文編）」正進社（※合計３冊。これはノートで、毎回の授業、教材研究等で使用する。購入については授業時に案案内する。）
指定図書／参考書等	『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』国立教育政策研究所教育課程研究センター 東洋館 2020年 ISBN：9784491041209／『小学校国語学習指導書（1年～6年）』光村図書出版株式会社ISBN：978-4-89528-850-7～978-4-89528-861-3／『初等国語科教育』塚田康彦、甲斐雄一郎、長田友紀 ミネルヴァ書房 2018年 ISBN：9784623082926	その他・特記事項	この授業はchromebookを持参する回がある。授業で案内する。

実務経験を活かした授業の概要

公立小中学校における国語教育実践の経験を生かし、学びの連続性を踏まえた授業内容を構成する。また理論と実践の両輪からなる初等国語科教育について、言語活動を交えながら実践的に授業を展開する。

授業科目名	社会科指導法			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
小学校社会科は３年生から始まる学習である。６年生までの各学年でどのようなことを学習するのか、段階的、系統的に把握する。その中で紙の教科書やデジタル教科書の使い方をはじめ、紙の地図帳やデジタル地図帳の使い方についての理解を深める。その過程で実際の授業を参観し、授業づくりや指導法について学ぶ。	①教科書や地図帳の活用の仕方を理解している。 ②デジタル教科書やデジタル地図帳の活用の仕方を知っている。 ③社会科資料集や副読本の役割や効果について考えている。 ③授業を参観していくつもの気づきを得ている。 ④ある単元の授業づくりができている。

教授方法	講義
履修条件	小学校教諭一種免許状の取得を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教科書の概観（３～６年の教科書を見ながら、どんな内容をどのように学習するのかについて理解する。）	
2	資料集の概観（社会科資料集や副読本を見ながら、その役割や活用効果について考える。）	
3	教科書会社の人に聞く（教科書やデジタル教科書をどのような思いで作っているのか、どのように活用してほしいのかなどについて聞き、意見交換する。）	
4	教科書の活用の仕方（教科書やデジタル教科書の活用の仕方について、３～６年の学年グループを作って討論する。）	
5	地図帳の概観（地図帳を見ながら、各学年での活用の仕方について理解する。）	
6	地図帳作成会社の人に聞く１（地図帳をどのような思いで作っているのか、どのように活用してほしいのかなどについて聞き、意見交換する。）	
7	地図帳作成会社の人に聞く２（デジタル地図帳をどのような思いで作っているのか、どのように活用してほしいのかなどについて聞き、意見交換する。）	
8	前半の学習内容の整理（教科書、デジタル教科書、地図帳、デジタル教科書、社会科資料集、副読本の活用の仕方を整理する）【レポートＡ】	
9	授業を考える（授業参観予定の単元についてついて、どのような授業づくりが考えられるか、グループで討論する。）	
10	授業の参観（北陸学院小学校を訪問し、ある学年の社会の授業を参観し、いろいろな気づきを得る。）	
11	参観授業の整理（参観して得られた気づきを各自で整理したのち、グループをつくって伝え合い討論する。）	
12	授業づくり１（５年選択単元「あたたかい土地のくらし」「寒い土地のくらし」のどちらかを選択して、授業展開を考える。）	
13	授業づくり２（選択して考えた単元の授業展開を模擬的にやりながら、よりよい授業について考える）	
14	授業づくり３（教員による模範授業を見ながら、自己が考えた授業の改善点を見つける。）	
15	後半の学習内容の整理（授業づくり、授業参観、模擬体験、模範授業などについて整理する）【レポートＢ】	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
グループ討論	25	意欲的にグループ討論に参加し、意見などを述べている。	レポート	40	前後半の学習を振り返り、自分なりに焦点化して書いてある。【レポートＡＢ】
授業づくり	20	授業づくりにおいて自ら授業を考えたり、積極的に模擬的な授業を行おうとしている。	授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・金沢市の様子、石川県の様子、日本の様子、世界の様子のいずれかに興味をもって「気づき」をメモする（30分） ・学習ボランティア活動の中で社会科の授業を参観する（45分）	レポートA、レポートBを作成するための要件を示し、提出後に採点して返却と講評を行う。

受講生に望むこと	学生自身が身近な社会の事象や出来事に興味をもってほしい。	教科書・テキスト	小学校学習指導要領解説社会編、日本文教出版、2017年、ISBN9784536590099
指定図書／参考書等	なし／新しい社会３，児童用教科書（新しい社会４、新しい社会５上、新しい社会５下、新しい社会６歴史編、新しい社会政治・国際編）、東京書籍、2025年，児童用地図帳（楽しく学ぶ小学生の地図帳３・４・５・６年）、帝国書院、2025年	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

小学校での社会科指導経験を有する。教科書研究センター研究員として社会科主査を務める、文部科学省デジタル教科書活用委員会にて社会科を担当する。帝国書院の地図帳＆デジタル地図帳活用のアドバイザーを務める。これらの経験から得られた知見を授業に生かしている。

授業科目名	算数科指導法			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤　伸也						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
算数科の目標とその特質、内容とその構造についての知見を基に、各領域における授業の視聴とその検討を通して、個別の学習内容における児童の認識・思考や、指導上の留意点等、算数科の指導法についての知見を得る。また、算数科における教材研究、授業の設計、情報機器及び教材の活用、学習評価についての知見を得て、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を実現する授業を設計し、模擬授業とその振り返りを行い、さらに算数科の実践研究とその課題について学ぶ。	算数科の指導法についての実践的な知識及び技能や考え方が身についており、算数科の授業を設計することができる。

教授方法	講義と演習
履修条件	「算数」を履修した学生が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	小学校算数科の目標とその特質について理解する。	
2	小学校算数科の内容とその構造について理解する。	
3	「数と計算」領域の学習指導について理解を深める。	
4	「図形」領域の学習指導について理解を深める。	
5	「測定」領域の学習指導について理解を深める。	
6	「変化と関係」領域の学習指導について理解を深める。	
7	「データの活用」領域の学習指導について理解を深める。	
8	算数科における教材研究とその方法についての知見を得る。	
9	数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する授業の設計のための知見を得る。	
10	算数科における情報機器及び教材の活用についての知見を得る。	
11	算数科における学習評価についての知見を得る。	
12	算数科授業の構想と学習指導案の作成に取り組む。	
13	模擬授業とその振り返りを行う。	
14	算数科の実践研究とその課題について知る。	
15	総括と展望	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	50	授業の到達目標および授業内容・目標を踏まえて、第16回として期末試験を行い評価する。	課題レポート・提出物	20	授業内容・目標を踏まえて、課題に応じたレポート・提出物（学習指導案を含む）を作成することができたかを評価する。
口頭発表・ロールプレイング	20	授業内容・目標を踏まえて、課題に応じた発表（模擬授業を含む）をすることができたかを評価する。	授業への積極性、態度	10	授業に積極的に参加しようとしていたかを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業に関連する教科書・テキストの内容を予習する。［40分］ 課題レポート・提出物作成のため、授業内容を復習する。［50分］	課題レポート・提出物等に対するフィードバックは授業時に行う。

受講生に望むこと	小学校で児童に算数科の指導をすることの責任の自覚を望む。	教科書・テキスト	小学校学習指導要領解説　算数編（平成３０年２月　文部科学省） ISBN978-4536590105 授業中に適宜資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし 授業中に適宜資料を配布する。	その他・特記事項	特になし。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	理科指導法			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	高島　英公子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
小学校教員として理科の学習指導に関する基礎的な知識を習得するために、小学校理科の目標や指導内容、教材研究や指導計画、学習評価、学習指導法等を学修する。 ※SDGs目標番号13関連科目	1）理科の指導方法や目標、内容、評価等に関する基本的な事項を理解する。 2）理科の教材研究や学習指導案の作成方法について理解し、模擬授業を行う。 3）問題解決の過程で、児童が見方・考え方を働かせる理科授業の在り方について考える。 4）理科で自然災害をどう教えるかを理解する。

教授方法	講義と演習
履修条件	「理科」を履修した学生が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法を知る。理科教育の意義について理解する。	
2	理科の目標の構造、指導内容とその概観、授業改善の視点について理解する。	
3	理科で何をどのように学ばせるのかについて、4つの領域から考える。	
4	資質・能力を育成する授業づくりについて理解する。	
5	問題解決の授業、ＩＣＴ機器の活用、学習評価・評定について理解する。	
6	実験と観察、基本的な実験器具の使い方、試薬の扱い方、理科室の整備と管理について理解する。	
7	学習指導要領と学習指導案の関連について理解する。	
8	問題解決の活動を具体化する学習指導案の作成方法について理解する。	
9	模擬授業を実施し、授業のねらいが達成できたかどうかについて協議する。	
10	模擬授業を実施し、授業のねらいが達成できたかどうかについて協議する。	
11	模擬授業を実施し、授業のねらいが達成できたかどうかについて協議する。	
12	模擬授業を実施し、授業のねらいが達成できたかどうかについて協議する。	
13	模擬授業を実施し、授業のねらいが達成できたかどうかについて協議する。	
14	模擬授業を実施し、授業のねらいが達成できたかどうかについて協議する。	
15	理科で自然災害をどう教えるかを理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	学修内容をもとに、課題に応じたレポートを書くことができたかを評価する。	模擬授業	40	要件を満たす学習指導案が作成できたかを評価する。教材研究を行い、模擬授業を行うことができたかを評価する。
授業内小テスト	20	学修内容についての理解度を小テストで評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業に関連する教科書の内容を予習する。(40分) 授業で示す課題に取り組み、締切期限内に提出する。(60分)	レポートや小テストは評価し、評価内容は授業で活用する。

受講生に望むこと	小学校の教員として、資質・能力を育成する理科授業をするためにどのようなことに留意するのかについて具体的に理解してほしい。	教科書・テキスト	「知識とスキルがアップする小学校教員と教育学部生のための理科授業の理論と実践」講談社　2021 ISBN 978-4-06-522944-6
指定図書／参考書等	なし／「小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　理科編」文部科学省(2024)　ISBN 978-4-487-28704-8	その他・特記事項	Classroomを用いた課題等の提示・提出を基本とする。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生活科指導法			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	中野　淳子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
戦前戦後の日本における生活科教育思想の系譜、小学校低学年における社会科・理科の廃止と生活科新設の経緯、授業づくりの諸課題等についての理解を深める。 1、2 年生の発達の段階に応じた生活科の授業づくりや適切な支援を行うために必要な技能を身に付けることを目指し、実践的に学んでいく。	①生活科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識および技能を身に付ける。 ②生活科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める

教授方法	講義および教材研究、単元計画・指導案の作成の課題、模擬授業など
履修条件	基礎となる「生活」を履修済であることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。	
2	生活科の目標と内容を理解する。	
3	生活科新設の経緯と生活科教育思想の系譜について理解する。	
4	授業展開、評価について理解する。	
5	生活科授業づくりにおける「気付き」について理解する。	
6	教材研究、指導計画立案について理解する	
7	生活科学習指導計画の作成について理解する。	
8	指導計画の作成、質問教室①　実施単元や展開の大枠を決定する。	
9	指導計画の作成、質問教室②　主要な教材、展開の詳細等を吟味する。	
10	指導計画の作成、質問教室③　展開の詳細、発問、板書等を吟味する。（生活科学習指導案①の提出）	
11	学生による模擬授業の実施と反省、評価①（1学年）	
12	学生による模擬授業の実施と反省、評価②（1学年）	
13	学生による模擬授業の実施と反省、評価③（2学年）	
14	学生による模擬授業の実施と反省、評価④（2学年）	
15	模擬授業全体を通じての全体振り返り、まとめ。生活科学習指導案②（修正版）の提出	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学習指導案計画	25	模擬授業実施のための学習指導計画案を作成する。その際、十分に教材研究をし、創意工夫を行っている。	模擬授業	30	授業づくりに積極的に参加することができる。
修正指導案・期末レポート	25	模擬授業や担当教員による助言を踏まえ、修正版指導案を提出する。また、授業づくりについての学びを簡潔にまとめることができる。	講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
三小牛山周辺の自然に興味を持ち、生物や暮らしについて学ぶ。[20分] 単元計画・指導案の作成、模擬授業の準備のため、授業時間外に積極的に教材研究を行う。[60分] 金沢市近郊の小学校、あるいは母校等の学習支援に積極的に参加する。[60分以上]	学習指導計画案は、初回に提出されたものに担当教員が指導助言を行い、いったん返却する。模擬授業等を踏まえて修正を行ったものを期末に再提出するものとする。2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	生活科実践に興味をもって教材研究を進めたり、仲間とともに授業をつくったりすることを大切にしてほしい。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 生活編』文部科学省、東洋館出版社，2018年、ISBN:978-4491034645
指定図書／参考書等	授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	課題はClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	音楽科指導法			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	武田　恵美						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
小学校学習指導要領「音楽」の教科目標には、「表現及び鑑賞の活動を通して，音楽的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。」と示されている。本授業では、学習指導要領に示された各学年の目標および内容に基づき、第１学年から第６学年までの音楽科の学習指導を行うために必要な技能について、実践的に学ぶ。	①小学校音楽科の目標、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的な知識及び技能を身に付ける。 ②音楽科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。

教授方法	オンデマンドと対面による講義と演習
履修条件	「器楽Ⅰ」「器楽Ⅱ」「音楽」の履修済が望ましい（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について、シラバスを通して理解する。小学校音楽科における教科の本質について理解する。 教材研究Ⅰ：第１学年で取り扱う共通教材について理解を深め、弾き歌いによる発表ができるようにする。	
2	小学校音楽科の「目標」、「各学年の目標」、「内容」の構成を理解する。 教材研究Ⅱ：第２学年で取り扱う共通教材について理解を深め、弾き歌いによる発表ができるようにする。	
3	小学校音楽科の「目標」、「各学年の目標」、「内容」について理解する。 教材研究Ⅲ：第３学年で取り扱う共通教材について理解を深め、歌唱による発表ができるようにする。	
4	音楽科の「指導計画の作成と内容の取扱い」について理解する。 教材研究Ⅳ：第３学年で取り扱う共通教材について理解を深め、ピアノ伴奏による発表ができるようにする。	
5	音楽科の「評価」について理解する。 教材研究Ⅴ：第４学年で取り扱う共通教材について理解を深め、歌唱による発表ができるようにする。	
6	Ａ表現（１）歌唱の指導法と教材について学ぶ。 教材研究Ⅵ：第４学年で取り扱う共通教材について理解を深め、ピアノ伴奏による発表ができるようにする。	
7	Ａ表現（２）器楽の指導法と教材について学ぶ。 教材研究Ⅶ：第５年で取り扱う共通教材について理解を深め、歌唱による発表ができるようにする。	
8	Ａ表現（３）音楽づくりの指導法と教材について学ぶ。 教材研究Ⅷ：第５学年で取り扱う共通教材について理解を深め、ピアノ伴奏による発表ができるようにする。	
9	Ｂ鑑賞の指導法と教材について学ぶ。 教材研究Ⅸ：第６年で取り扱う共通教材について理解を深め、歌唱による発表ができるようにする。	
10	学習指導案について理解を深め、学習指導案①を作成する。 教材研究Ⅹ：第６学年で取り扱う共通教材について理解を深め、ピアノ伴奏による発表ができるようにする。	
11	教材研究Ⅺ：高学年の共通教材について、ピアノ伴奏による発表を行う。 学生による模擬授業Ⅰ：指導案①に基づいて実践を行い、振り返りを通して指導案の改善を図る。	
12	学生による模擬授業Ⅱ：指導案①に基づいて実践を行い、振り返りを通して指導案の改善を図る。	
13	学生による模擬授業Ⅲ：指導案①に基づいて実践を行い、振り返りを通して指導案の改善を図る。	
14	学生による模擬授業Ⅳ：指導案①に基づいて実践を行い、振り返りを通して指導案の改善を図る。	
15	学生による模擬授業Ⅴ：指導案①に基づいて実践を行い、振り返りを通して指導案の改善を図る。模擬授業Ⅰ～Ⅴを振り返り、A表現およびB鑑賞の指導方法についてまとめる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学習指導案①	20	課題の提出状況および記述内容。授業の内容を理解したうえで、指示に従って作成できているか。	模擬授業	30	模擬授業の内容。授業の内容を理解したうえで、該当学年の学習指導要領に応じた指導ができているか。
学習指導案②	25	題材及び教材の目標や内容を理解したうえで、学習指導案②を作成しているか。模擬授業時の指導内容を踏まえ、指導案①を適切に修正しているか。	演習課題	25	提出状況および演奏内容。各回の講義内容を理解したうえで、必要な技術を習得しているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①音楽の基礎的な技術を高めるための課題に積極的に取り組むこと。［50分］ ②講義内容について自身で振り返り、疑問点や不明点を調べること。［20分］ ③学習指導計画案作成において基本的な要件を漏れなく記載することができるよう、多くの学習指導計画を調べること。［20分］	指導案①および模擬授業については、コメントを付す、または、授業内で助言を行う。演習課題については、必要に応じてコメントを付すなどし、適切な時期に返却する。

受講生に望むこと	①毎授業で出される課題に積極的に取り組むこと。 ②僅かな空き時間を有効活用するなど工夫をして、ピアノと歌唱の練習を継続して行うこと。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説　音楽編』東洋館出版社、2018年、ISBN978-4-49103-465-2.『小学校 音楽科教育法 2022年改訂版』有本真紀・阪井恵・津田正之編著、教育芸術社 、2021年、ISBN978-4-87788-969-2.プリント
指定図書／参考書等	なし／『保育者、教員をめざす人のための 初級ピアノ・テクニック速習ステップス』木許隆監修、音楽之友社、2015、ISBN978-4-276-82073-9.『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018、ISBN978-4-87446-066-5.『コードネームとリズムによる Basic and Variations』木許隆, 武田恵美, 長井典子編著、圭文社、2022、ISBN978-4-87446-091-7.『うたうソルフェージュ』木許隆監修、圭文社、2024、ISBN978-4-87446-093-1.	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	図画工作指導法			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	鷲山　靖						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
1．カリキュラムにおける位置付け ①この科目は資格取得に必要な科目である。 ②この科目は「図画工作」に連接する科目である。 ③この科目は保育内容の表現に関する科目と関連がある。 2．授業のねらい ①図画工作科教育の理念と歴史を学び、図画工作を教える信念を持つ。 ②図画工作科の学習指導の基本的技術を習得する。 3．授業の進め方 ①テーマごとに講義・作品制作・評価・鑑賞・ノート作成を行う。 ②期末に基礎知識・技能に関する筆記試験を行う。	①図画工作科の教育理念及びその歴史を理解している。 ②図画工作科授業の計画・実践に関する基本的な知識・技能を習得している。 ③図画工作科授業の評価に関する基本的な知識・技能を習得している。

教授方法	スライドによる講義の他、教科書検討・口頭発表・グループ学習による演習を行い、期末の筆記試験により基礎知識の理解を深める。
履修条件	「図画工作」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の計画、到達目標、成績評価の方法、事前・事後学習を理解する。 基礎知識①：図画工作科の教育理念とその歴史を理解する。	
2	基礎知識②：図画工作科の授業時数・目標・内容・配慮事項について、学習指導要領と学校教育法施行規則を検討し理解する。	
3	基礎知識③：図画工作科の表現・鑑賞指導の共通事項について、学習指導要領及び図画工作科教科書を検討し理解する。	
4	基礎知識④：図画工作科が主に取り扱う材料・用具とその安全な使い方および表現技法について、図画工作科教科書を検討しを理解する。	
5	基礎知識⑤：児童の描画の発達過程について、図画工作科教科書及び関係資料を検討し理解する。	
6	基礎知識⑥：図画工作科における題材の系統性や道徳・環境問題・人権尊重・国際理解・文化の伝承や文化遺産の尊重との関連について、 図画工作科教科書を検討し理解する。	
7	基礎知識⑦：図画工作科授業の成立要件と図画工作科題材の特性について理解する。	
8	授業構想・演習①：図画工作科の年間指導計画の要点・立案方法について、演習を通じて理解・習得する。	
9	授業構想・演習②：図画工作科の学習指導案の要点・立案方法について、演習を通じて理解・習得する。	
10	授業構想・演習③：図画工作科における指導言とその要点を理解する。	
11	授業構想・演習④：図画工作科における発問・説明の要点・方法について理解する。	
12	授業構想・演習⑤：図画工作科における発問・説明の要点・方法について、発表（個人）・相互評価形式による演習を通じて理解・習得する。	
13	授業構想・演習⑥：図画工作科における学習評価の理論と方法を理解する。	
14	授業構想・演習⑦：図画工作科題材の評価規準の要点・作成方法について、演習（グループ）を通じて理解・習得する。	
15	授業構想・演習⑧：図画工作科題材の評価規準に基づく学習評価・評定の要点・方法について、演習（グループ）を通じて理解・習得する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小課題	40	授業内容を理解できているか。	定期試験	60	図画工作科教育の視野を広げ、その理論・授業方法を理解できているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業内容に対する自分の考えや意見、気付きをノートに書き留める。［10分］ ②教科書・テキストを読み直し、授業に関係なく各自読み進む。［30分］	課題（演習）の成果は，担当教員による評価（口頭）に加えて、受講者による相互評価（口頭）を行う。

受講生に望むこと	①スライド進行が早いと感じたら、その事を遠慮なく担当教員に伝えること。 ②考えたこと、思ったことなど気付きをどんどんノートしておくことを勧める。	教科書・テキスト	①『図画工作１・２上～５・６下』（令和7年度版もしくは令和6年度版）日本文教出版 ②『小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　図画工作編』日本文教出版 2018年　ISBN9784536590112 ③『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 図画工作』 東洋館出版社　2020年　ISBN978449104126
指定図書／参考書等	なし／授業時に随時紹介する	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	家庭科指導法			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	荒井　紀子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
家庭科は、子どもに、現在の暮らしを見つめさせ、さらに将来の生活をどうつくるかを考えさせ、生活力を身につけさせる教科である。ここで扱う「生活」は、自分や家族など人に関わる内容と、衣食住、消費、環境など暮らしの営みに関わる内容からなり、各内容は密接につながっている。本授業では、生活の様々な側面をとりあげながら、子どもの生活自立を促し、暮らしへの興味や関心を高めることのできる家庭科の授業について、SDGsとの関連にも注目しながら、理論と実践の両面から学んでいく。講義の前半では、主に、文献や視聴覚資料を用いて、家庭科の歴史やカリキュラムの内容、諸外国の家庭科などについて理論的な理解を深める。後半は、具体的な授業づくりの方法について、授業計画から授業の準備と実践、省察まで、グループ活動も取り入れながら体験的に学んでいく。	①家庭科教育の歴史や教科の目標・内容についての基礎的理解を深める。 ②児童の生活力を高める学習の構造やカリキュラムについて認識を深める。 ③児童の意欲を引き出す探究的な学習方法を習得し授業づくりの力をつける。

教授方法	講義、視聴覚教材や文献にもとづくディスカッション、個人の実践的学習、模擬授業などのグループ活動、これらを組み合わせて行う
履修条件	「家庭」を履修していることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション（学校教育で育みたい力と家庭科との関係について、受講生自身が学んできた家庭科の授業を振り返りながら考える）	
2	家庭科教育とは何か（小学校の家庭科教諭、名取弘文先生の授業実践を読み、生徒の自発性や意欲を引き出す家庭科の特性や可能性について考える。また、食生活指導の基礎能力の確認として簡単な実習ワークを行う）	
3	家庭科の歴史と男女共修（1947 年誕生の家庭科の60年の歴史を概観し、時代背景との関係を考える。また家庭科の男女共修の実現の経緯とプロセスについて理解する）	
4	家庭科の目標・内容とSDGsとの関連（学習指導要領の目標、内容や資質・能力、深い学びについてに理解するとともに、SDGsと家庭科との関連について検討する）	
5	諸外国の家庭科（米国、ヨーロッパ、アジアの家庭科教育について、カリキュラムや学習内容・方法を各国の教科書や資料、写真をもとに検討する）	
6	家庭科における探究的な学びとカリキュラム（１）（三国清三氏の食の授業の動画をもとに、地域の食材と自らの五感を生かした食の学習について検討する）	
7	家庭科における探究的な学びとカリキュラム（２）（子供の自発性や生活自立力を育む家庭科のカリキュラムの構造について理解するとともに、探究的な学びのカリキュラムの作り方を学び、その理論を用いて、前回の三国清三氏の食の授業を分析する）	
8	家庭科における探究的な学びとカリキュラム（３）（消費者学習の実際の授業動画をみて、子どもの探究を促すジグゾー型の授業の構造を理解し、その効果について検討する）	
9	授業を読む（１）（テキストに掲載されたSDGsに関わる家族や食の授業実践を読み、その長所と改善点について検討する）	
10	授業を読む（２）（テキストに掲載されたSDGsに関わる消費や住居などの授業を読み検討すると共に、各自の授業案を作成する）	
11	模擬授業（１）授業計画を立てる（各自の授業案をもとに、グループごとに授業テーマを確定し、授業の構想をたてる）	
12	模擬授業（２）細案を完成させ、模擬授業の準備を行う（細案に関わる資料や教材、教具を作成する）	
13	模擬授業（３）グループごとに授業の最終準備をした後で、授業の実施（前半）（グループごとに実施し、生徒役と教師役の両方を体験する）	
14	模擬授業（４）授業の実施（後半）	
15	各グループの模擬授業についての省察と、講義全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題レポート	30	課題に求められていることを理解し、それを発展させているか、実習や調査を探究的に工夫し、的確に行っているか、まとめ方や表現は適切か。	個人作成の授業案	20	授業構想がしっかりたてられているか、教材教具が適切に準備されているか、授業実践の子どもへの問いかけは適切か。
記述試験	50	講義全体に関する各自の理解度と省察の中身を問う。具体的には、本講義で学んだことを理解しているか、それぞれの問いに対して、自分の言葉でしっかり考察できているかをみる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・授業計画に必要な教材研究の一環として、食生活と衣生活に関わる実践的な問題解決のレポートを作成する。［180分程度］ ・各自の授業案の作成に当たっては、事前にテーマ設定と教材研究、授業構造についてあらかじめ検討し原案を作成しておく。［120分程度］	講義期間中に出した課題については、簡単なコメントをつけて返却するとともに、授業でもその中身をクラスで紹介し、学生の授業計画の作成等の参考となるよう配慮する。

受講生に望むこと	受講前に教科書の「はじめに」「目次」と、関心のある章や授業のひとつに目を通しておくこと。	教科書・テキスト	『SDGsと家庭科カリキュラム・デザイン』（増補版） 教育図書㈱　2022年　荒井紀子、高木幸子ほか ISBN：9784877304621 ※購入については授業前に指示する
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし／なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	体育科指導法			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	丸井　一誠						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
学習指導要領に示された体育科教育の目標や内容を理解する。実践的指導のための基礎的知識と技能を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。各領域の特性に応じた学習活動を行うことができるように工夫することについても学ぶ。 ※SDGs目標番号4、5関連科目	小学校体育科における各運動領域の特性を理解し、体育授業に必要な技能と発達段階や系統性を踏まえた具体的な指導法や授業設計を身に付ける。

教授方法	対面授業による講義、教材研究、模擬授業
履修条件	「体育」を履修中もしくは履修済みであることが望ましい(単位未修得可)

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方	
2	学習指導要領の目標と内容	
3	指導計画の立案・教材研究	
4	学生の模擬授業① -体つくり運動-	
5	学生の模擬授業② -マット運動-	
6	学生の模擬授業③ -跳び箱運動-	
7	学生の模擬授業④ -走の運動-	
8	学生の模擬授業⑤ -跳の運動-	
9	学生の模擬授業⑥ -ゴール型ゲーム-	
10	学生の模擬授業⑦ -ネット型ゲーム-	
11	学生の模擬授業⑧ -ベースボール型ゲーム-	
12	学生の模擬授業⑨ -表現-	
13	学生の模擬授業⑩ -リズム-	
14	学生の模擬授業⑪ 保健	
15	ふりかえりとまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	授業への取り組みの態度	模擬授業の発表内容	20	①模擬授業に向けた丁寧な準備がされているか。 ②安全でこどもが積極的に体を動かしたいと思える指導が行われたか。 ③運動が得意な児童だけでなく苦手な児童への配慮がなされたか
指導案の内容	30	①十分な教材研究がなされているか。 ②異なる能力の児童の姿を想定しているか。 ③安全への配慮が考えられているか	レポート	20	「体育」に関する正しい知識を習得し、論理的に考えることができているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①ニュースや新聞で報じられている運動や健康に関する情報や参考書に接し、様々な角度から考える［60分］ ②授業中に配布した資料を読む［30分］ ③指導案及びレポートの作成［60分］ 小学校低学年体育、文部科学省‐You Tube 小学校中学年体育、文部科学省‐You Tube 小学校高学年体育、文部科学省‐You Tube	課題等は授業の理解度の確認に用い、必要な場合は個人指導を行う。

受講生に望むこと	体育は単に運動技能を高めるためだけでなく、すべてのこどもが運動することを通して学びあい、楽しむことができる科目である。そのため、体育の楽しさを教えるためには、運動に関する正しい知識と指導法に加え、授業内容の工夫が必要になる。自分自身のこれまでの経験は大切だが、それが全てとは考えず、多様な視点をもって授業に臨んでほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	小学校学習指導要領解説　体育編、文部科学省、2017年 体育科教育学入門　三訂版、大修館書店、2021年 小学校体育（運動領域）指導の手引　～楽しく身に付く体育の授業～ https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/jsa_00003.htm	その他・特記事項	模擬授業は、運動できる服装に着替え、体育館履きに履き替えて受講すること。 人数や進度に応じて授業内容を調整・変更することがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育実習指導（小）			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	村井　万寿夫・石上　佐知子　（代表教員　村井　万寿夫）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は小学校教諭一種免許状取得にあたって必須の科目であり、教育実習に向けた事前指導（事前学習）の場である。これまでの教科指導法や教職関連科目で学びながら自己の教師像を描いてきたことをどのように教育実習で実体験するか思いを巡らせる場である。そこで、実習に必要な知識・技術のみならず、教師としてあるべき態度についても実践的に学ぶ。	①実習の意義を理解し準備や見通しをもち実習校との円滑な関係づくりの知識・理解を深める。 ②小学校について理解を深める。 ③実習中における子どもや先生、学級とのかかわり方や配慮すべきことを理解する。 ④「観察実習」「参加実習」「授業実習」について理解する。 ⑤実習計画や実習日誌の書き方を習得する。 ⑥実習での学びの整理と反省・自己評価ができる。 ⑦実習報告会を計画・運営・実施することができる。

教授方法	講義、グループ討論
履修条件	小学校学習支援ボランティアに参加済であり、小学校の実習要件を満たしていること。【必須】 各教科指導法が履修済（または履修中）であることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教育実習とは何か。その意義と教育実習生に求められる姿勢・態度について、学習支援ボランティアの経験を踏まえて理解する。	全員
2	教育実習を控え、実習受け入れまでには文部科学省と教育委員会と実習校との三者の関係があることを知り、実習に向けた更なる意欲をもつ。	全員
3	実習校への連絡の取り方や事前オリエンテーションの内容について理解する。	全員
4	小学校における外国語活動と英語教育が行われるようになった経緯を知り、自己が外国語活動あるいは英語の授業を担当する場合の留意点について理解する。	全員
5	実習日誌の書き方、授業記録の取り方を実例を通して理解する。	全員
6	観察実習・参加実習・授業実習の目的を理解し、観点や方法について十分な計画を立てることができる。(1)	全員
7	観察実習・参加実習・授業実習の目的を理解し、観点や方法について十分な計画を立てることができる。(2)	全員
8	低、中、高学年 それぞれの発達段階の違いについて理解する。	全員
9	幼・保・小の連携の必要性について理解する。	全員
10	小学校における道徳教育（「特別の教科　道徳」）がどのように行われているかを知り、自己が道徳の授業を担当する場合の留意点について理解する。	全員
11	小学校においてICTがどのように活用されているかを知り、自己が担当する場合の留意点について理解する。	全員
12	実習中、教師として子どもや教職員、保護者の方々とどのように接したらよいか、また、留意すべきことについて理解する。	全員
13	学級の児童とのかかわり方で配慮すべきことを理解する。	全員
14	実習報告会を主体的に計画し、実習での学びを伝え合う準備をする。（この回の授業は全員が実習を終了した後に行う。）	全員
15	学科教員や下級生を招いて実習報告会を行う。（この回の授業は第14回授業の後に行う。）	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
グループ討論	30	討論のテーマに基づきグループ討論に積極的に参加している。	レポート/リフレクションカード等	50	各授業ごとの内容を十分に理解している。
授業態度	20	教育実習に臨む者として相応しい態度で、真剣に学習に取り組んでいる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・各学校での公開授業に参加する。 ・実習校で学校支援ボランティアに継続的に参加する。 ・日程の変更や事前打ち合わせの日程は後日連絡する。	各授業で出されたレポート等への応答は次の授業で行う。また、適宜質問を受け付ける。

受講生に望むこと	実習校での躓きをなくすため、積極的に学習支援ボランティアに参加すること。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領』文部科学省、東洋館出版社、2018　ISBN 978-4491034607 『小学校教育実習ガイド』石橋裕子他、萌文書林2019　ISBN 978-4-89347-352-3　※教育実習Ⅱ（小）の指定図書／参考書等と兼ねる。
指定図書／参考書等	講義内で適宜紹介する。	その他・特記事項	・実施回については、調整の上変更することがある。 ・第14回・15回は教育実習終了後、日程調整の上行う。 ・課題はClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

村井：小学校における教科等の学習指導資料を集め、写真や活字資料等を学生に提示したり、グループ討議に役立てたりしている。
石上：公立小中学校の教諭及び管理職の経験を生かし、学校現場における教育実習に関わる実践事例を示しながら授業を展開する。

授業科目名	教育実習Ⅰ（小）			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	村井　万寿夫・石上　佐知子　（代表教員　村井　万寿夫）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	4単位	授業形態	実習
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、小学校教諭一種免許状取得にあたって必須の科目である。実習校は履修生の母校を原則とし、実習期間は４週間とする。教育実習を履修するにあたり、必要な知識・技術のみならず、教師としてあるべき態度についても実践的に学ぶ。	①実習の意義を理解し準備や見通しをもち実習校との円滑な関係づくりの知識・理解を深める。 ②小学校について理解を深める。 ③実習中における子どもや先生、学級とのかかわり方や配慮すべきことを理解する。 ④観察実習・参加実習・授業実習について理解し、授業記録を作成できる。 ⑤実習計画や実習日誌の書き方を習得する。 ⑥実習での学びの整理と反省・自己評価ができる。 ⑦実習報告会を計画・運営・実施することができる。

教授方法	講義、グループ討議、フィールドワーク
履修条件	小学校学習支援ボランティアへ参加済であること。実習要件を満たしていること。各教科指導法が履修済（または履修中）であることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教育実習とは何か。その意義と教育実習生に求められる姿勢・態度について、学習支援ボランティアの経験を踏まえて理解する。	全員
2	教育実習を控え、実習受け入れまでには文部科学省と教育委員会と実習校との三者の関係があることを知り、実習に向けた更なる意欲をもつ。	全員
3	小学校における外国語活動と英語教育が行われるようになった経緯を知り、自己が外国語活動あるいは英語の授業を担当する場合の留意点について理解する。	全員
4	実習校への連絡の取り方や事前オリエンテーションの内容について理解する。	全員
5	実習日誌の書き方、授業記録の取り方を実例を通して理解する。	全員
6	観察実習・参加実習・授業実習の目的を理解し、観点や方法について十分な計画を立てることができる。(1)	全員
7	観察実習・参加実習・授業実習の目的を理解し、観点や方法について十分な計画を立てることができる。(2)	全員
8	低、中、高学年 それぞれの発達段階の違いについて理解する。	全員
9	幼・保・小の連携の必要性について理解する。	全員
10	小学校における特別支援教育について理解する。	全員
11	小学校における道徳教育（「特別の教科　道徳」）がどのように行われているかを知り、自己が道徳の授業を担当する場合の留意点について理解する。	全員
12	実習中、教師として子どもや教職員、保護者の方々とどのように接したらよいか、また、留意すべきことについて理解する。	全員
13	学級の児童とのかかわり方で配慮すべきことを理解する。	全員
14	実習での学びの整理と反省・自己評価が適切にでき共有できる。（グループ討議）手紙のマナーをもとに礼状を書くことができる。	全員
15	実習報告会を主体的に計画し実習での学びを伝え合うことができる。履修カルテを記入に自己課題を明確にする。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	50	教育実習に臨む者として相応しい態度で、真剣に学習に取り組んでいたか。	レポート/リフレクションカード等	50	毎授業ごとの内容を正確に把握し理解していたか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・各学校での公開授業に参加する。 ・実習校で学校支援ボランティアに継続的に参加する。 ・日程の変更や事前打ち合わせの日程は後日連絡する。	各授業で出されたレポート等への応答は次の授業で行う。また、適宜質問は受け付ける。

受講生に望むこと	実習校での躓きをなくすため、積極的に学習支援ボランティアに参加すること。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領』文部科学省、東洋館出版社、2018　ISBN 978-4491034607 『小学校教育実習ガイド』石橋裕子他、萌文書林2019 ISBN 978-4-89347-352-3 ※教育実習Ⅱ（小）の指定図書／参考書等と兼ねる。
指定図書／参考書等	講義内で適宜紹介する。	その他・特記事項	・実施回については、調整の上変更することがある。 ・第14回・15回は教育実習終了後、日程調整の上行う。 ・課題はClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育実習Ⅱ（小）			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	村井　万寿夫・石上　佐知子　（代表教員　村井　万寿夫）						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
本実習は、原則として実習生の母校等において実施するものとする。 前年度の中学校あるいは高等学校における教育実習（4週間）を「基礎実習」と位置づけ、小学校におけるあらゆる教育活動を経験し、教師としての自覚と責任、その喜びを実感し、経験を通して実践的理解を深める「応用実習」（2週間）とする。	①子どもや他の教師との積極的なコミュニケーションをとることができる。 ②各教科の教材研究や研究授業を通して教師としての基本的な技能とその心構えを身につける。 ③日々の記録を適切に記録することができる。 ④教師としての仕事の魅力や職責に気付く。

教授方法	実習　参観　研究授業　教材研究　個別指導
履修条件	教育実習指導(小）を履修していること

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	配属校の学校長より学校の概要の説明を受け、教育実習期間中の指導計画等を理解する。	
2	各学級に入り、授業を参観して学級の実態を知ると同時に、子どもたちや指導教諭との意思疎通を図る。	
3	授業を参観し、子どもの実態を知るとともに、休み時間を共有して子どもとの信頼関係を築く。	
4	授業を参観し、指導教諭の授業の進め方を学ぶ。また、各教科の学習状況を把握する。	
5	授業実習の準備をする。12～15回程度の授業実習を行い、指導教諭の指導を受ける。	
6	研究授業の学習指導計画案を作成し、指導教諭の指導を受ける。（本時における目標を明確に、板書計画も準備する）	
7	研究授業を実施する。	
8	研究授業反省会を通して、担当教諭、管理職その他の教員等から指導を受ける。	
9	学校行事の補助を通して学校全体の動きを理解し、それを踏まえて動くことの大切さを知る。	
10	学級会活動の計画を立て、子どもの主体的な活動を生み出す工夫をする。	
11	クラブ活動や委員会活動を参観し、その運営の方法を知る。	
12	他学年（特別支援学級等）の授業も参観し、それぞれの学年、学級に応じた指導のあることを知る。	
13	教育実習日誌を整理し、授業の記録、指導された内容を基に自分の課題に気付く。	
14	学級運営、生徒指導についてなど実習期間中の疑問点を整理し、指導教諭から指導を受ける。	
15	実習期間を振り返り、配属学級への感謝の気持ちを学級お別れ会等で表す準備をする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
コミュニケーション能力	50	子どもたちや教職員と適切なコミュニケーションがとれていたか(※各実習校による評価を元に）。	研究授業	20	教科・領域の本質に基づいた教材研究が充分になされ子どもの把握と指導が適切であったか。
教育実習日誌	30	日々の記録と考察、次時への留意点等が適切に記述されていたか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
各実習校指導教諭等の指導・指示に従う。	実習での反省や改善のための指導は、実習指導における事後指導において行う。実習中担当教員の巡回により、適宜指導する。

受講生に望むこと	小学校教育実習は、実習生だけでなく、配属校においても決して小さな物事ではない。他校種志望であっても小学校実習への熱意を充分にもち、実習生も子どもにとっては一人の教師であること、現場教職員にとっては北陸学院大学の代表として受け止められることを自覚し、実習に臨むようにしてほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『小学校学習指導要領』文部科学省、東洋館出版社、2018 ISBN 978-4491034607 『小学校教育実習ガイド』石橋裕子他、萌文書林2019　ISBN 978-4-89347-352-3 ※教育実習指導（小）の教科書・テキストと兼ねる。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語学			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この講義は中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)の「教科及び教科の指導法に関する科目」の内、「英語学」の選択科目である。 「英語学概論」で学んだことを基礎に、ことばのもつさまざまな側面のうち、英語の形態素、文構造、意味にいての理解をさらに深めると同時に、コミュニケーション場面における言語の特徴や、ことばと認知/社会/文化との関係について言語使用の観点から学ぶ。	・英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な、さまざまな側面からの英語学的知見を身につける。 ・英語という言語の統語論・意味論・語用論・社会と言語の関係・文化と言語の関係を理解する。 ・講義の中で学んだことを踏まえて、日本の英語教育と今日の英語について概観し、今後の方向性や課題について考えることができる。

教授方法	講義、ディスカッション
履修条件	①中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、②小学校教諭一種免許状取得希望者、③「英語学概論」を履修済みが望ましい

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	英語学概論で学んだことをふり返り、英語の歴史的変化、現代英語の特徴(語彙・音声・形態・意味)についての理解を確認する	
2	英語の文構造、文の内部構造、構文について、分析的に理解する	
3	認知と関連させた文法研究について知る	
4	メタファ、メトニミなど意味拡張について理解する	
5	ことばの意味に見られる主観性について理解する	
6	ことばの意味とコンテクストについて考える	
7	まとまりのある文章とはどのようなものか理解する	
8	文章中の情報構造を理解する	
9	ことばのやりとりにおける原理があることを理解し、実例で確認する	
10	協調の原理と関連性理論について理解する	
11	ことばのやりとりにおけるポライトネスの考え方を、実例とともに理解する	
12	ことばと文化の関係を日本語・英語を比較対照しながら考える	
13	ことばと社会の関係について、具体例を挙げながら考える	
14	言語習得と外国語学習について理解する	
15	全体のまとめと日本における英語教育についての展望	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度、小課題	40	質問をする、言語資料を示す等、講義内容に対して積極的に取り組んでいる。毎回課題とともに講義終了時に書いて提出するリフレクションの内容。	定期試験	60	講義内容の理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・日常的に英語学習を行い、さまざまな英語の実例に触れておくこと。 ・テキストの該当部分を予習する。同様の実例を収集しておく。［50分］ ・講義内容に照らし、日本語と対照してみる。また関連する英語学関係の書籍を読む。［40分］	返却時に行う

受講生に望むこと	・日常的に英語に触れ(聞く・話す・読む・書く)、英語に親しむ。 ・日頃から英語・日本語を問わず「ことば」に関心を持つと良い。	教科書・テキスト	『はじめての英語学<改訂版>』　長谷川瑞穂編著　大井京子他著　2014年　研究社 ISBN: 978-4327401658 ・他に必要な教材は適宜配布する
指定図書／参考書等	なし／開講時に指示する	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語文学Ⅰ			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	木梨　由利						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
英米において英語で書かれた文学作品を、文学史の中で、あるいは個別に捉えることで、英語による表現への理解を深めると共に、英語が使われている地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。	①　文学を論じる時に使用されている様々な英語表現について理解している。時代によって言語の用い方や意味が変化してきたことも併せて理解する。 ②　文化や歴史など、多様な文学作品が生まれた背景を広い視野を持って理解している。 ③　イギリスおよびアメリカで、英語を用いて書かれた代表的な文学作品について理解している。

教授方法	基本的には講義科目となるが、時に受講者に質問をしたり、作品への解釈を求めるなど、受講者の発言を促しつつ進める。
履修条件	中学または高等学校の英語教諭免許の取得を希望する者、または、英語や英文学の学習に関して同程度の意欲を持つ者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業に関するガイダンス。イギリスという国のなりたちと、『ベオウルフ』など、古英語で書かれた文学について理解する。	
2	中英語の文学の時代（11世紀頃～14世紀末）からルネサンス期初めまでの文学について。代表的な作品を通して、詩の発展や、演劇の発生など、文学作品の形態が多様化していく過程を理解する。	
3	シェイクスピア(1564-1616)を中心とする、16世紀～17世紀初頭の演劇の隆盛について理解する。『ロミオとジュリエット』、『ハムレット』などの有名なセリフにも触れる。	
4	17世紀の文学。清教徒革命の勃発や王政復古が文学に及ぼした影響や、動乱の時代を生きた詩人ミルトンなどの作品について学び、その人生にも着目する。	
5	18世紀の文学。理性や秩序を重視する新古典主義の文学が主流だった18世紀初頭から、ロマン主義の詩人たちが登場する世紀末までの間の、特に詩の変遷について理解する。	
6	小説の始まりと発展（18世紀中期～19世紀初期）。小説というジャンルの創始者であるリチャードソンたち4人の作家と、女性作家の登場について理解する。	
7	主として、ロマン主義時代（18世紀末～19世紀中期）の詩について。ワーズワースやキーツなどの詩を実際に鑑賞する。	
8	ヴィクトリア時代(1837-1901)の小説。「小説の世紀」とも呼ばれる19世紀に活躍した、ディケンズ、ブロンテ姉妹、G．エリオット、ハーディなどの作品について理解する。	
9	20世紀初頭の文学。とりわけ、コンラッド、ジョイス、ウルフなどの小説に焦点を当てる。	
10	アメリカ植民地時代の文学（17～18世紀）。　エドワーズやフランクリンなどを中心に、ピューリタニズムやヤンキーイズムなど、アメリカ文学の特性を理解する。	
11	独立から19世紀半ばころまでの文学。アメリカ独自の文学が育ち始める時代の、特に散文を、その背景との関係において理解する。アーヴィング、クーパー、ポーの作品など。	
12	19世紀中葉から末に至るころに書かれた作品中、特に詩を中心に学習する。ホイットマン、ディキンソンの詩のなどの一部を読み、その特質を理解する。	
13	リアリズムの時代（19世紀後期～20世紀初頭）について。　トウェインやジェイムズなどの作品について理解する。	
14	リアリズムの時代において、自然主義の作家とされるクレイン、ドライサーなどの作品について学習する。	
15	第一次世界大戦以後の文学（1920年代と30年代）について。　フィッツジェラルド、ヘミングウェイ、フォークナーなどの文学の一端を知る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	授業の内容を正確に理解しているか、また、理解したことを自分の言葉で表現できているか。	小テスト及び提出物	30	講義の内容を正確に理解できているか。また、家庭で行うように指示された課題をこなせているか。
授業中での貢献度	20	授業中に発言などを求められた時、それに的確に応え、他の受講者をも利することができるか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業では、テキストにある情報を取捨選択し、時には情報の追加もするので、テキストや配布資料に事前に目を通すことが必須である。［60分以上］ ②また、課題を解いたり、小テストの準備をするために、学習したことを整理しておくことが必要である。［30分以上～60分程度］	小テストやその他の課題は次回の授業時に返却する。

受講生に望むこと	限られた時間の中で、それぞれの作品について深く語ることは不可能であるので、自分で作品を実際に読んでみるなど、主体的、積極的に勉強に取り組んでいただきたい。そうすれば、理解度も楽しみも増すはずである。	教科書・テキスト	『イギリス文学史』　川崎寿彦著　成美堂　1991年　ISBN:978-4791934034　『アメリカ文学史』　西田実著　成美堂　1991年　ISBN: 978-4791934003 随時プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし/参考図書は多数あるが、クラスで指示する。	その他・特記事項	授業時には辞書を持参すること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語文学Ⅱ			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	木梨　由利						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
主として子どもや青少年を中心とする英文学作品を精読し、英文を正確に理解できることが最初の一歩となる。その上で、テーマや技法、作者の意図などについて、ディスカッションを通じて理解を深めていく。評論や文学辞典なども活用し、単なる思い付きではない、根拠のある議論を進めることができるようにする。同時に、作品の背景となっている英米の社会や文化、歴史などについての認識を深めていく。このようなプロセスを通じて、英語の総合的な力を養うとともに、人間や人間の心理に対する理解を深め、自分の「読み」を表現する力も養成する。	英語文学Ⅰで学んだ知識・理解を土台として、本講義では英語で書かれた文学作品の講読とディスカッションを通じて、英語による表現への理解を深め、運用能力の向上を図り、同時に、文学の鑑賞眼を養う。英検でいえば、2級から準1級程度の難度の英語が苦労せずに読め、また、自分の「読み方」を、英語でも紹介できるようになる。また、英語が使われている地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。

教授方法	作品を読んで、表現や内容について教師や他の受講生と意見を交換したり、時には受講生に教師の役を担ってもらう演習方式で行う。
履修条件	中学校または高等学校の教諭の資格を取得できるための学力や意欲を備えていること。また、英語文学Ⅰを取得済みであることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業についてのガイダンス。導入として、ジャーナリズムの英語などと比較して。文学の英語とはどういうものか、どのような読み方をするのが適当か考える。	
2	事前にスキャン（辞書などを用いず、ざっと読むこと）をしてもらっておいたイギリスの作品（A)の、登場人物や物語の設定などについてクラスで話し合うことによって理解を深める。	
3	作品（A）を事前に精読、クラスでは、前半の内容や表現について発表したり、受講者同士が話し合うことによって表現や内容について正確に理解する。	
4	作品（A）の後半の内容や表現について、クラスで発表したり、受講者同士が話し合うことによって表現や内容について正確に理解する。	
5	作品（A）の特徴（構成、人物造形、描写、語り方など）についての議論。作者や作品の背景についても考察し、作者の意図を考える。	
6	アメリカの短篇小説（B）の講読と鑑賞。事前に作品をおおまかに読んでその枠組みを読み取り、クラスで議論する。	
7	作品（B）を事前に精読、クラスでは、前半の内容や表現について発表したり、受講者同士が話し合うことによって表現や内容について正確に理解する。	
8	作品（B）の後半について理解したことをクラスで発表したり、受講者同士が話し合うことによって表現や内容について正確に理解する。	
9	作品（B）の特徴（構成、人物造形、描写、語り方など）についての議論。作者や作品の背景についても考察し、作者の意図を考える。	
10	アメリカもしくはイギリスの作品（C）をおおまかに読んでおいて、読み取ったことをクラスで議論する。	
11	作品（C）を事前に精読しておいて、前半の内容や表現について、クラスで発表したり、受講者同士が話し合うことによって正確に理解する。	
12	作品（C）の後半の内容や表現について、クラスで発表したり、受講者同士が話し合うことによって正確に理解する。	
13	作品（C）について、作品の特徴（構成、人物造形、描写、語り方など）についての議論。作者や作品の背景についても考察し、作者の意図を考える。	
14	三作品の内容や特徴を改めて比較考察した上で、もっとも気になる作品とその理由などをそれぞれクラスで発表する。また、特に重要と思われる英語表現を復習する。	
15	全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	語彙や文法が正しく理解ができているか。また、作品の理解の仕方に説得力があるか。	提出物や発言の内容	30	課題に積極的に、真剣に向きい、自分の意図を的確に伝えられているか。
小テスト	20	英語の表現について正しい理解がなされているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①作品を自分で講読したり、作者について調べ、レポートにまとめたり、クラスで発表をしてもらうことになる。辞書を丹念に引くことが必須で、2時間程度の予習は必要。②作品中の表現を自分で使えるものにしたり、ディスカッションの後に問題点を整理するために、毎回1時間程度の復習も必要と考えていただきたい。	小テストやレポートは、原則として次回の授業ででコメントを添えて返却する。その他、疑問や議論に対してその都度、解答やコメントを示す。

受講生に望むこと	必ずしも日常的でない英語表現に出会って、必要と判断された場合、辞書を引くことを厭わないこと。インターネットの記事などに安易に頼らず、然るべき文学事典や批評書を使えること。理詰めで考えるだけでなく、フィクションを楽しめる柔軟な考え方を持てることが望ましい。	教科書・テキスト	プリントを配布する。最初はイギリスの小説家、キャサリン・マンスフィールドの作品から読み始める。
指定図書／参考書等	なし/『20世紀英語文学辞典』　上田和夫・渡辺利雄編著　研究社 2005年　ISBN 4-7674-9066-9　『英語文学事典』 木下卓・高田賢一他編著　ミネルヴァ書房　2007年　ISBN 978-4-623-04129-9 その他英語での参考文献などについては授業で紹介する。	その他・特記事項	辞書は必ず持参すること。 演習形式であるし、作品の長さ、難易度の違いによって、必ずしも計画通りには行かないことも予想できる。二作目以降で取り上げる作品、進度などについては、受講者と相談をしながら柔軟に進めて行きたい。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語圏の児童文学			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	木梨　由利						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
小学校での外国語活動や英語教育を経て、中学校での本格的な英語を学び始める際にスムーズな導入になるように、中学校英語教員として知るべきこととして、児童文学における発生と発展の歴史を学ぶ。また、代表的な作品を、実際に英語または日本語で講読し、個々の作品について、歴史的・文化的背景を知り、また、作者の実人生とのかかわりの中で理解を深める。	児童文学のの歴史や個々の作品について、単に知識として吸収するのではなく、実際に作品を読み、それに関する意見を発表できるようになる。文学を理解し、発表するという能動的な学びを通して、「子どもを読者対象とした狭義の児童文学」という概念を超えて、最終的には、児童文学とは何か、その特質は何なのかについて理解し、考えたことを表現できることが目標である。

教授方法	児童文学の大まかな歴史はスライドを用いての講義形式となるが、作品を実際に知っている受講者があれば、読後感等を発表してくれるのは歓迎したい。また、歴史を知るだけではなく、実際に作品の一部を英語、または日本語の翻訳で読む。また、各自、作品を一編読み、その作品を他の受講者に紹介するという形で、プレゼンテーションをしてもらう。講義の理解度をはかるための小テストも随時実施する。
履修条件	中学校または高等学校の教諭の資格を取得できるための学力や意欲を備えていること。また、英語文学Ⅰを取得済みであることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業に関するガイダンス　児童観の変遷による「児童文学」の始まりについて。	
2	ヨーロッパにおける児童文学のの始まりと、19世紀半ば頃までにイギリスで子どもに愛読された文学（『ロビンソン・クルーソー』、『シェイクスピア物語』、『クリスマス・キャロル』など）について理解し、また、作品の一部を講読する。	
3	19世紀後半のイギリスの児童文学（『不思議の国のアリス』、『北風のうしろの国』、『宝島』など）について理解し、また、作品の一部を講読する。	
4	20世紀前半のイギリスの児童文学（『砂の妖精』、『たのしい川べ』、『クマのプーさん』など）について理解し、また、作品の一部を講読する。	
5	20世紀半ば頃のイギリスの児童文学（『ツバメ号とアマゾン号』、『ホビットの冒険』、『ライオンと魔女』など）について理解し、また、作品の一部を講読する。	
6	20世紀後半のイギリスの児童文学（『トムは真夜中の庭で』、『黄金の羅針盤』、『ハリーポッターと賢者の石』など）について理解し、また、作品の一部を講読する。	
7	19世紀半ばまでのアメリカの子どもたちに愛読された文学（『モヒカン族の最後』、『スケッチ・ブック』、『アンクル・トムの小屋』など）につて理解し、また、作品の一部を講読する。	
8	19世紀後半のアメリカの児童文学（『若草物語』、『トム・ソーヤーの冒険』、『小公子』など）について理解し、また、作品の一部を講読する。	
9	20世紀前半のアメリカの児童文学（『オズの魔法使い』、『大草原の小さな家』、『小鹿物語』など）について理解し、また、作品の一部を講読する。	
10	20世紀後半のアメリカの児童文学（『クローディアの秘密』、『影との戦い』、『テラビシアにかける橋』など）について理解し、また、作品の一部を講読する。	
11	カナダの文学　（『私が知っている野生動物』、『赤毛のアン』、『パパの最後の贈り物』など）について理解し、また、作品の一部を講読する。	
12	ニュージーランド・オーストラリアの文学　（『青さぎ牧場』、『燃えるアッシュ・ロード』、『目覚めれば魔女』など）について理解し、また作品の一部を講読する。	
13	これまでの振り返りとプレゼンテーションの準備	
14	受講者によるプレゼンテーション、及びプレゼンテーションに基づく質疑応答（第1回）	
15	受講者によるプレゼンテーション、及びプレゼンテーションに基づく質疑応答（第2回）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
プレゼンテーション	20	発表と、そのために作成したハンドアウトに説得力があるか。	最終提出物	40	作品全体をよく理解し、かつ、そのことを自分の言葉できちんと表現できているか。
小テスト及び提出物	30	知識が正確に定着しているか。また家庭で行うように指示された課題をこなせているか。	授業への参加状況	10	授業に積極的に取り組む姿勢が見られるか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義を十分に理解するためには、配布するプリントを事前に読んでおくことが必要である。［60分程度］ また、講義で触れられたことを整理して、小テストの準備をしたり、提出物を作成する時間も必要である。［最低60分］　プレゼンテーションやレポートのために作品そのものを読み、資料を準備する時期には、さらに多くの時間を求められることになる。	小テストやワークシートは、原則として、次回の授業で返却する。プレゼンテーションについてのコメントは当日、または後日オンラインなどで示す。

受講生に望むこと	子どもや子どもの本が好きであること。できるだけ多くの作品を読み、楽しみ、作品や作者のメッセージについても考えるように努めてほしい。なるべく英語で読めむことで、英語での表現力も高められることが望ましい。	教科書・テキスト	プリントを使用する。
指定図書／参考書等	なし/『たのしく読める英米児童文学』　本多英明・桂宥子・小峰和子編著　ミネルヴァ書房、2000年　ISBN 4-623-03156-X 『オックスフォード　世界児童文学百科』ハンフリー・カーペンター／マリ・プリチャード著　神宮輝夫監訳　原書房、1999年　ISBN 4-562-03104-2 その他はクラスで指示。	その他・特記事項	授業時には辞書を持参のこと。 Chromebookが必要な時もあるが、その際には事前に指示する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	コミュニカティブ・イングリッシュA			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
日本の大学生が社会生活の中で遭遇しそうな場面を想定した教材を用いて、毎回1つの場面・言語機能に焦点を当てて、リスニング・リーディングで内容を理解し、インタラクティブ・アクティビティを通じて自分の考えをスピーキング、ライティングで表現する。4技能統合型の活動を通じて、コミュニケーション場面で他者を理解し、自分の意見を発信できる力をつける。また、絵やプレゼン・ソフトを活用し物語や説明文ををわかりやすく導入・展開する技能を身に付ける。	①様々なコミュニケーション場面で必要な英語表現をリスニング、リーディングで理解し、インタラクティブな活動を通じて、簡潔に自分の考えを英語で話したり書いたりできるようになる。 ②各コミュニケーション場面・言語機能に必要な語彙・文法を確認し、スピーキング、ライティングで正しく使うことができるようになる。 ③音声学・英文法で得た知識を実際のコミュニケーション場面で使えるようになる。 ④聞き手を意識したストーリーテリングができるようになる。

教授方法	演習
履修条件	①基本的には中学/高校英語教免、小学校教免取得を目指す者、②すべて英語で行う授業に見合う英語力を有する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション　この授業で学ぶこと	
2	Unit 1: Welcome to Hotel Daily!　リスニングでホテルのフロントでの客や同僚との会話を、リーディングでホテルスタッフの心得を理解する。それらのインプットを活かして、初対面の人との挨拶や会話を行い、自分の意見を書く。	
3	Unit 2: Here's a suggestion for you.リスニングでホテルのショップでの接客について提案する場面を、リーデングで商品紹介の仕方を理解する。それらのインプットを活かして、様々な提案をする会話を行い、自分の意見を書く。	
4	Unit 3: How can I handle costomer complaints? リスニングでホテルの客からの苦情に対応する場面を、リーディングで苦情対応マニュアルを理解する。それらのインプットを活かして、苦情を言う/対応する会話を行い、自分の意見を書く。	
5	Unit 4: I was refused entry. リスニングで客が入場を拒否された場面を、リーディングで温泉でのマナーついての掲示を理解する。それらのインプットを活かして、誘いを断る会話を行い、自分の意見を書く。	
6	Unit 5: A Japanese-style room, please. リスニングで好みの部屋をリクエストする場面を、リーディングでホテルの予約の仕方を理解する。それらのインプットを活かして、ホテルに好みの部屋を予約する会話を行い、自分の意見を書く。	
7	Unit 6: Are we on the first or the second floor? リスニングで会場やレストランへの行き方を説明する場面を、リーディングで地図や案内図の説明を理解する。それらのインプットを活かして、特定の場所への行き方を説明する会話を行い、自分の意見を書く。	
8	Unit 7: I'm terribly sorry. リスニングで客が部屋を汚したことを謝る場面を、リーディングで客からホテル支配人への謝罪と感謝の手紙を理解する。それらのインプットを活かして、自分のミスを相手に詫びる会話を行い、自分の意見を書く。	
9	これまでのreview イソップ物語を用いて聞き手を意識したストーリーテリングを行う。	
10	Unit 8: I really respect your effort. リスニングでホテルの方針に対して同意を示す場面を、リーディングでホテルの環境に配慮したポリシーを理解する。それらのインプットを活かして、相手が困っていることに対して同意する会話を行い、自分の意見を書く。	
11	Unit 9: Your outfit is beautiful. リスニングで相手の装いやイベント内容を褒める場面を、リーディングでイベントの素晴らしさを伝えるメッセージを理解する。それらのインプットを活かして、友人の達成した快挙を褒める会話を行い、自分の意見を書く	
12	Unit 10: He invited me to Japan. リスニングで店の開店パーティに招待する場面を、リーディングでレストランの開店サービス案内を理解する。それらのインプットを活かして、友人を招待する会話を行い、自分の意見を書く。	
13	Unit 11: You should keep your shifts. リスニングでアルバイトのシフトについて話す場面を、リーディングでシフト変更を促す場面を理解する。それらのインプットを活かして、友人を説得する会話を行い、自分の意見を書く。	
14	Unit 12: Thank you for choosing our products. リスニングで客が商品に関心を持ったことに感謝する場面を、リーディングでfair trade商品についての説明を理解する。それらのインプットを活かして、友人に感謝の気持ちを伝える会話を行い、自分の意見を書く。	
15	これまでのReview 日本の昔話を用いて聞き手のインタラクションを意識したストーリーテリングを行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	予習した状態で授業に臨み、授業中のListening, Reading, Speaking等の活動に積極的に取り組んでいる。	課題	20	各回のコミュニケーション場面・機能に合わせたライティング課題を仕上げて提出する。
ストーリーテリング	10	聞き手を意識したストーリーテリングができている。	テスト	40	授業で学んだ社会生活の様々な場面での会話内容や英語表現を理解し、使うことができる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
各回の授業の復習と課題提出［20分］ 次時のUnitの予習［40分］ ストーリーテリング・プレゼンテーションの準備・練習［30分］	随時行う。

受講生に望むこと	①積極的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとすること。 ②また、そのための練習方法を身に付けること。	教科書・テキスト	『Daily English for College Students, Book 2』 Noriko Nakanishi他著　成美堂 2026年. ISBN 978-4-7919-7337-8
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	①授業に英英/英和・和英辞書を持参し、活用すること。 ②Classroomを用いて課題を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	コミュニカティブ・イングリッシュ B			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「コミュニカティブ・イングリッシュA」に続いて、中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得を目指す者が英語教員として必要な高度な英語運用力を習得するための必修科目である。Bでは、毎回、身近で興味深いテーマについてリスニング・リーディングを通じて賛否両論を知り、様々な練習問題を通じて理解を深めた後、自分の考えをスピーキング・ライティングで表現する。基本、授業はすべて英語で行う。	・様々なテーマについての賛否をリスニング・リーディングを通じて内容理解できる。 ・得た情報・表現を用いて簡潔に自分の考えをスピーキング・ライティングにより発信できる。 ・得た情報・表現だけでなく、新たな情報を加えて、自分の主張に説得力を持たせて発信できる。

教授方法	演習
履修条件	①基本的には中学/高校英語教免、小学校教免取得を目指す者、②すべて英語で行う授業に見合う英語力を有する者③「コミュニカティブ・イングリッシュA」を履修した者(単位未修得可)が望ましい

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション　この授業で学ぶこと	
2	Unit 1: 大学生の住生活をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
3	Unit 2: 学生の勉強場所をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
4	Unit 5: コンビニエンス・ストアをテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
5	Unit 6: 日本の年号をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
6	Unit 8: 災害ボランティアをテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
7	Units 9: 旅行をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
8	Units 11: 外国人観光客をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
9	Units 12: 日本の年末行事をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
10	Units 13: 季節行事と異文化をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
11	Units 15: 欧米と日本の行事をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
12	Unit 18: インターネット時代の娯楽をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
13	Unit 19: インターネット時代の買い物をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
14	Unit 20: 最新翻訳技術をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
15	これまでのテーマから1つを選びプレゼンテーション	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度	30	授業の中でテーマについての発言など貢献ができている	英文エッセイ	30	学んだテーマについて正しい英語で論理的に組み立てたエッセイを書くことができる
プレゼンテーション	10	自分が設定したテーマについて、新しい情報や自分の考えを加えて英語プレゼンテーションができる	テスト	30	授業で学んだ様々なテーマについて内容や表現を理解し、自分のことばとして使うことができる

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回授業で扱う課題の英文を読み、すべてに解答を記入した上で授業に臨む。［45分］ ②毎回宿題の英文エッセイを仕上げ、指定日までに提出する。［45分］ ③スピーチやプレゼンテーションの回は、各自原稿、スライド、発音など準備をする。［60分］	毎回課題の英文エッセイについては、次回に添削して返却。 スピーチ、プレゼンについては、授業内で相互評価、自己評価とともに教員からコメントをする。

受講生に望むこと	・毎回、異なるテーマについて英文を読み、聞き、それを土台にしてスピーキング、ライティングで表現することを着実に積み重ねていこう。授業中は、細かい文法にこだわるより、自身の意見を英語で声に出すことが大事なので、そのためにも予習は十分して話す内容を用意してくること。	教科書・テキスト	Johnathan Lynch・倭文光太郎著　『Two Sides of Every Discussion 2』2020年　成美堂　ISBN: 9784791972104 その他ディスカッションを深めるために必要な資料は適宜配布する
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	・英英辞書、英和/和英辞書を必ず持参すること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語科教育法Ⅰ			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得しようとする者にとって必修科目である。英語教育の目的と目標を明確にし、英語教師として必要な英語教育についての基礎知識を学ぶ科目である。これは今日小学校教諭にも求められる知識である。また、これまで学習してきた「英語」について、教える立場から捉える第一歩であり、広く外国語を学ぶことの意義や日本の英語教育、英語教師の役割等について考える。	①英語教育の目的、特に今日のグローバル化時代における英語教育の目的を理解する。 ②コミュニケーション能力の育成とはどのようなことかを理解する。 ③日本の外国語教育の歴史を学習指導要領の変遷を含めて振り返るとともに、学習指導要領のめざすものについて理解する。 ④英語教師に求められる資質・知識・技能について理解する。 ⑤主な英語教授法について実演も行いながら理解する。

教授方法	講義、ディスカッション、発表
履修条件	中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得を目指す者、小学校教諭一種免許状取得を目指す者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　英語教育の現在の状況を知る	
2	自分の受けてきた英語教育をふりかえる(英語教育目的論と教師論の導入)	
3	国際化時代の英語の役割と世界の英語教育、DVD等メディア教材、電子黒板、インターネットを活用した指導	
4	英語教育の現況 :「10年間の英語教育」、小学校・中学校・高校の一貫性と連携を考える	
5	コミュニケーション能力の育成と、評価について学ぶ	
6	日本の英語教育をふりかえる(1)　外国語との接触から1980年代まで	
7	日本の英語教育をふりかえる(2)　グローバル化とコミュニケーション重視の時代の英語教育	
8	学習指導要領(1):これまでの学習指導要領をたどる	
9	学習指導要領(2):現在の学習指導要領がめざすもの	
10	学習指導要領(3):英語教員に求められていることを考える	
11	主な英語教授法(1):文法訳読法等	
12	主な英語教授法(2):直接的口頭重視指導法	
13	主な英語教授法(3):コミュニカティブ教授法	
14	教授法・ICTを含む指導技術の変遷（LLからCALL、NBLTまで)と今後の展望をもとに今日求められている英語授業について考える	
15	まとめ　教育実習で必要とされる知識・技能・態度について知り、自身の課題と対策を考える	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況・ディスカッション	30	関連資料にあたるなど積極的に英語教育について知識を得た上で授業に積極的に取り組んでいる	課題、発表	20	課題を指示に従って仕上げ､発表できている
期末テスト	50	「英語科教育法Ⅰ」で学んだことを正しく理解し、自分のことばで表現できている			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①次回授業内容について下調べをして関連資料にあたる［50分］ ②課題がある時には、関連図書にあたるなどして課題をまとめる。［40分］ ③中学英語教員に求められる英語運用力をつけるため毎日英語多読図書、リスニングなど英語学習を進める。［30分］	課題にはコメントを付して返却し、注目すべきものについては授業中にも全体ディスカッションの中で取り上げる。

受講生に望むこと	中学/高校英語教員を目指す学生は、絶えず自身の英語力を高める努力を続けること。 英語教育にとって何が重要かを絶えず考えたり、良い実践に触れる機会を作る。	教科書・テキスト	・高梨庸雄他.2023.『新・英語教育学概論［改訂第2版］』. 東京:金星堂.ISBN: 9784764741867 ・『中学校学習指導要領科解説　外国語編』. 2018.文部科学省. 開隆堂出版. ISBN: 978-4304051692
指定図書／参考書等	なし／中学校英語教科書(図書館所蔵)。学習指導要領、その他については開講時に指示する。・『高等学校学習指導要領(平成30年告知)解説英語編』2019. 文部科学省.開隆堂出版. ISBN:978-4304051784	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語科教育法Ⅱ			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	山本　良一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
英語科教育法Ⅰに引き続き、英語コミュニケーション能力の育成に必要な知識と技能を学ぶ。小テーマごとに模擬授業を実践しながら指導法や指導技術を習得する。 ※SDGs目標番号4関連科目	①英語科教育法Ⅰで学んだ知識をもとに、学習指導要領の目標とする英語指導に必要な知識と技能を身につける。 ②聞き手や学習者を意識した、理解しやすい英語の話し方や導入方法を身に付け、実践できる。 ③英語授業の指導手順を理解し、それぞれの段階でどのような指導法・指導技術があるかを考えられるようになる。

教授方法	講義・演習・模擬授業・ディスカッション
履修条件	中学校・高等学校の英語教員免許取得希望者で英語科教育法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方と評価方法を説明する。英語科教育法Ⅰを踏まえ、各自に不足している英語教師としての資質をディスカッションを通して、客観的に把握することができる。またこれまで受けてきた英語の授業について考え、望ましい授業はどのようなものかディスカッションする。 その上で、Harold E. Palmer が提唱した the Oral Method とその意義について理解する。	
2	一斉授業型の一般的な英語授業の指導手順を理解し、中学校と高等学校の違いを理解する。また、それぞれのタイプの指導の留意点を理解する。指導手順としての、warm-upの具体例を挙げ、留意点を述べることができる。また、いくつかの warm-up 活動を実際に演じる。	
3	英語授業における「新教材の導入」には帰納法と演繹法の二種類があることと、英語授業への具体的な応用例を知る。Oral Introduction の基本について例に基づいて理解する。文法・文構造の Oral Introduction の模擬授業に向けて準備・練習を行う。	
4	文法・文構造の Oral Introduction の模擬授業を行い、意見交換・共有をする。教師の話す英語の accuracy が大切であることを理解する。さらに別の文法・文構造の Oral Introduction の準備・練習を行う。	
5	英語授業における「復習」の目的と具体例を理解する。また、特に「聞くこと・話すことの領域に関するもの」の具体例を挙げ、その目的や留意点を述べることができる。また、いくつかの復習の活動を実際に演じる。	
6	題材内容の Oral Introduction について、例に基づいて、押さえるべきポイントを理解する。模擬授業に向けて、準備・練習を行う。	
7	各自が用意した文法・文構造の Oral Introduction の模擬授業を行い、意見交換・共有をする。	
8	英語教師が身に付けておくべきさまざまな指導技術についてディスカッションを行い、実際に練習・実践をする。	
9	題材内容の Oral Introduction の模擬授業を行い、意見交換・共有をする。板書計画や生徒とのインタラクションが大切であることを理解する。さらに別の題材内容の Oral Introduction の準備・練習を行う。	
10	題材内容の Oral Introduction の模擬授業を行い、意見交換・共有をする。教師の話す英語の fluency が大切であることを理解する。	
11	Practice について、色々な方法・活動とその目的について理解する。また指導に際して必要なことがらをディスカッションする。実際に実演し、意見交換・共有をする。	
12	文法・文構造および題材内容の Oral Introduction の準備・練習を行う。	
13	文法・文構造および題材内容の Oral Introduction の模擬授業を行い、意見交換・共有をする。Oral Introduction がそのあとに行う活動に対していかに重要であるかを考え、理解する。	
14	Model Reading と Intensive Reading について、生徒の習熟度によってどのような指導が必要かをディスカッションする。また実際に模擬授業を行い、意見交換・共有をする。 Reading Aloud について、色々な方法とその目的について理解する。また指導に際して必要なことがらをディスカッションする。	
15	英語授業の指導手順を整理し、生徒の発達段階や学習レベルに応じて、どのような指導手順や指導法を用いるかを中学校と高等学校別に考え・整理し発表できる。 実際に行われた授業を視聴し、ディスカッションする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	30	小テストのために指定した範囲の基本的な内容を理解しているか。	指導案・レポート	40	模擬授業のための指導案が授業の目的を達成するものであるか。視聴した英語授業その良さや改善点をきちんとまとめられているか。
模擬授業・授業参加状況	30	模擬授業を計画に沿って実演できているか。模擬授業後のディスカッションに積極的に参加しているか。他の学生の模擬授業の際に学んだ知識を自分の模擬授業に活用しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
小テストに向けての準備をきちんと行う。［60分］ 模擬授業の準備・練習を入念に行う。［120分／１回］	返却時に行う

受講生に望むこと	①実際に授業を参観して、「授業を観る目を養う」こと。 ②講習会や研究に参加して、積極的に意見を発すること。 例：金沢大学附属中学校教育研究発表会（11月開催予定） 金沢大学附属高等学校高校教育研究協議会（11月開催予定）	教科書・テキスト	・高梨庸雄・高橋正夫・佐藤剛・野呂徳治・粕谷恭子・田縁眞弓著.2023.『新・英語教育学概論 改訂第２版』. 東京: 金星堂 ISBN: 9784764741867 ・『中学校学習指導要領科解説 外国語編』. 2018.文部科学省. 開隆堂出版. ISBN: 9784304051692
指定図書／参考書等	なし／中学校英語教科書、『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』2019 文部科学省 開隆堂出版 ISBN:9784304051784、『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』文部科学省 開隆堂 2018 ISBN-13: 978-4-304-05168-5	その他・特記事項	Classroomを用いて課題を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

41年間にわたる中学校・高等学校の教員としての経験を生かして、授業場面の具体を紹介し、中高における英語の授業をするために必要な「英語力」「知識」「実践的活動」「教授法」「指導技術」などを身につけるための指導をしている。

授業科目名	英語科教育法Ⅲ			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	山本　良一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語）を取得しようとする者にとっての必修科目である。「英語科教育法Ⅰ」及び「英語科教育法Ⅱ」で学んだ理論や知識を踏まえ、教育実習に必要な指導力や実践力を身につけるために教材研究と模擬授業、相互評価、省察を行う。 また、英語で書かれた文献を読み、外国語教育の専門性を理解し、日本の英語教育の歴史を概観する。 ※SDGs目標番号4関連科目	①英語で書かれた文献を読み、外国語教育の専門性を理解し、英語教育に関する基本的な考え方を深く理解するすること。 ②中学・高等学校の英語科教科書を用いて、指導計画を板書計画とともに作成できること。 ③他者の（模擬）授業等を観察し、その良さや改善点を客観的に述べることができること。

教授方法	講義・発表・模擬授業・ディスカッション・省察
履修条件	中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校一種免許状（英語）取得を目指す者。英語科教育法Ⅰ及び英語科教育法Ⅱを履修済みであることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方と評価方法を説明する。 Harold E. Palmer：Palmer がどのような功績を残したか、また彼の提唱した the Oral Method とその意義について理解する。著書 English Through Actions についての発表方法を理解する。	
2	Harold E. Palmer の著書 English Through Actions について（1）：著者の外国語教育の考え方を理解し、speech と language の相違を知る。	
3	Harold E. Palmer の著書 English Through Actions について（2）：著者の外国語教育の考え方を理解し、speech と language の相違について反例を交えながらを理解する。	
4	Harold E. Palmer の著書 English Through Actions について（3）：著者の言語運用に関する考え方を理解し、言語運用を習慣化するための4段階について学ぶ。	
5	Harold E. Palmer の著書 English Through Actions について（4）：著者の言語運用に関する考え方を理解し、言語運用を習慣化するための4段階を実際の授業に当てはめ、その連続性と緻密さを知る。	
6	Harold E. Palmer の著書 English Through Actions について（5）：言語運用の４段階に基づく刺激と反応のタイプを知る。	
7	Harold E. Palmer の著書 English Through Actions について（5）：言語運用の４段階に基づく刺激と反応のタイプを知り、著者が後述する Action Chains や Conventional Conversation の具体例を実演する。	
8	模擬授業（1）：中学校の教科書に基づいた Oral Introduction を実演する。また相互にそれぞれのよさや改善点を共有する。	
9	模擬授業（2）：高等学校の教科書に基づいた Oral Introduction を実演する。また相互にそれぞれのよさや改善点を共有する。	
10	模擬授業（3）：中学校の教科書に基づいた授業を実演する。また相互にそれぞれのよさや改善点を共有する。	
11	模擬授業（4）：中学校の教科書に基づいた授業を実演する。また相互にそれぞれのよさや改善点を共有する。	
12	授業研究（1）：ビデオに収められた中学校の授業を視聴し、気づいた点や学びになった点について意見を共有する。	
13	模擬授業（5）：高等学校の教科書に基づいた授業を実演する。また相互にそれぞれのよさや改善点を共有する。	
14	模擬授業（6）：高等学校の教科書に基づいた授業を実演する。また相互にそれぞれのよさや改善点を共有する。	
15	授業研究（2）：ビデオに収められた高等学校の授業を視聴し、気づいた点や学びになった点について意見を共有する。 全体のまとめ：授業の到達目標を達成できたかどうか自己評価する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題提出	40	H. E. Palmer の担当箇所のまとめ、指導案、授業研究レポートなどの完成度	模擬授業	40	実際の授業をイメージしながら模擬授業を計画・準備・運営できているか
発表と授業参加状況	20	わかりやすい発表を心がけているか、ディスカッションに積極的に参加し意見を述べているか			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
自分の担当箇所を入念に調べ発表できるように準備する［60分］ 模擬需要の計画・準備をしっかり行う［120分／１回］	発表や模擬授業など実施した直後に振り返る

受講生に望むこと	英検準１級以上を受験すること 積極的に英語の授業を参観したり、研究会などに参加すること （例）金沢大学附属中学校／高等学校教育研究大会（11月開催予定） 語学教育研究所研究大会（11月開催予定）	教科書・テキスト	２年次に使用した英語科教育法のテキスト（①または②） ①高梨庸雄・高橋正夫・佐藤剛・野呂徳治・粕谷恭子・田縁眞弓著．2023．『新・英語教育学概論　改訂２版』東京：金星堂　ISBN：8784764741867 ②望月昭彦編著、久保田章・磐崎弘貞・卯城祐司著．2018．『新学習指導要領に基づく英語科教育法 第３版』東京：大修館書店　ISBN：9784469246216
指定図書／参考書等	指定図書：なし 参考図書： ・『English Through Actions』H. E. Palmer 著　開拓社　2018　ISBN:758900876 C3082 ・『高等学校学習指導要領解説　外国語・英語編（平成30年７月）平成30年告示』文部科学省　開隆堂　2019　ISBN:978-4304051784	その他・特記事項	Classroom を用いて課題等を提示することがある

実務経験を活かした授業の概要

41年間にわたる中学校・高等学校の教員としての経験を生かして、授業場面の具体を紹介し、中高における英語の授業をするために必要な「英語力」「知識」「実践的活動」「教授法」「指導技術」などを身につけるための指導をしている。

授業科目名	英語科教育法Ⅳ			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は中学校及び高等学校教諭一種免許状（英語）を取得しようとする者にとっての必修科目であり、英語科教育法Ⅰ～Ⅲで学んだ知識を基に、またプレ実習や教育実習の経験を基に、さらなる指導技術の向上を目指す。並行して、授業を行うのに必要な英語運用力の向上や、英語教育分野の文献講読によって読解力の向上を目指す。	①英語科教育法Ⅰ～Ⅲで学んだ理論や知識、及び、中学校で教育実習またはプレ実習を経験した者は、その際に課題に感じたことを振り返り、英語の指導力を習得する。 ②他者の授業を参観・視聴することにより授業を観る目を養い、ディスカッションを通して指導技術を習得する。 ③授業を行うのに必要な英語力を身につける。

教授方法	講義、演習、模擬授業、ディスカッション
履修条件	中学校/高校教員免許（英語）を取得希望の者。英検2級を取得していて、英検準1級以上を取得しようとする者が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業のねらいとクラスルールを知る 現在の英語教育で求められている英語教師像について考える	
2	英語教師論:生徒の目線、英語力と授業力	
3	小学校英語教育 :目的･目標、言語材料と言語活動、具体的指導例、中学校との連携	
4	中学校英語教育: 目的･目標、言語材料と言語活動、具体的指導例、小学校との連携、高校との連携	
5	高校英語教育:目的･目標、言語材料と言語活動、具体的指導例、中学校との連携	
6	4技能を伸ばす活動及び評価と測定について学び、自分ならばどのように用いるかを考える	
7	授業運営　さまざまな学習形態やALTとのティームティーチングのあり方を学び、自分ならばどのように用いるかを考える	
8	教材研究と指導技術の向上	
9	ミニ模擬授業　picture storiesを用いたオーラル・イントロダクションを実践する	
10	ミニ模擬授業　picture storiesを用いた4技能統合型の言語活動を実践する	
11	模擬授業　中学1年の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する	
12	模擬授業　中学2年、３年の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する	
13	模擬授業　高校1年の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する	
14	模擬授業　高校2年、3年の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する	
15	まとめ　プレ実習や教育実習後の授業を通して、自分の教師としての資質や課題を客観的にとらえ、今後どのような努力をしていくべきかを考える	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	グループワークやディスカッションに積極的に参加し意見を述べている。	模擬授業	30	適切な教材研究に基づいて、目標に合った指導案を作成し、板書計画も含め十分な準備・練習をした上で模擬授業ができている。適切な自己評価･相互評価ができている。
小テスト･課題	20	授業を行うのに必要な英語力が身についている。	最終課題	20	指示に従って記述し、期日までに提出する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・模擬授業の準備[60分] ・中学校・高等学校の授業を積極的に参観すること [60分] （例）金沢大学附属中学校/高等学校教育研究発表会（11月開催予定） 石川県立錦丘中学校/高等学校公開研究発表会(11月開催予定）等 ・毎日英語学習を進め、英語教師として必要な英語力を高める。[30分]	返却時に行う

受講生に望むこと	英検準1級以上を受験すること	教科書・テキスト	・中学校学習指導要領解説　外国語編．2018．文部科学省．　ISBN:9784304051692 ・高等学校学習指導要領(平成30年告知)解説　英語編．2019．文部科学省．ISBN:978-4304051784
指定図書／参考書等	なし／中学校英語検定済教科書(NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍 2025 ISBN 9784487121311など)、高校(英語コミュニケーション)検定済教科書	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育実習指導（中高）			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本授業は、中学・高等学校教育実習のための事前及び事後指導である。1年次における中学・高等学校の英語授業参観や３・４年次におけるプレ実習（中学・高等学校免許取得のためのもの）の経験、及び英語科教育法Ⅰ～Ⅲで学んだ理論や指導技術を統合し、現場で生かす実践力を身につける。また、現場での経験を省察し、さらなる教師としての資質を向上させる。	①教育実習の１日目から最終日までをシミュレーションしながらイメージ化することができるようになる。 ②１時間の英語の授業を運営するための準備と工夫が手際よくできるようになる。 ③4技能別の指導技術を駆使しながら、英語を用いて英語を教えることができるようになる。 ④自分の授業のみならず、他者のものを観て、客観的に評価しながら授業を向上させることができるようになる。 ⑤教師としての、自分の資質を客観的に考察し、さらに一段上の資質を造り出す努力ができるようになる。

教授方法	講義、ディスカッション、模擬授業
履修条件	中学・高等学校（英語）の教育実習Ⅰまたは実習指導Ⅱを履修する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション・心構え　本授業の到達目標を理解し、教育実習への心構えを新たにし、その責任と現在の自分がなすべき準備を理解する。自分が教壇に立つことをイメージすることができる。	
2	教育実習の意義と目的　４週間の教育実習期間をシュミレーションしながら、英語科教科教育法Ⅰ～Ⅲで学んだことを統合し、教育実習の目的と意義をディスカッションを通して共有する。	
3	教育実習における「観察１」　生徒の登校から下校までの行動を観察する際の、さまざまな視点を共有し、学校におけるさまざまな教育活動を、教師として考える。	
4	教育実習における「観察２」　学校全体の行事や活動に目を向けることにより、学校が生徒に何を求めているかを知ることができることを理解する。	
5	教育実習における「観察３」　学級担任の学級経営や生徒指導が教科指導等に与える影響を知る。また、中学・高等学校における校務分掌の種類やそれぞれの役割を理解する。	
6	生徒指導上の問題解決のために、生徒を個別的に理解したり、共感的に理解したり、発達的に理解したりする指導方法を学ぶ。また、各自の指導法からお互いに相補的な学びができるように指導する。	
7	教師の担うさまざまな仕事内容に目を向け、勤務実態を理解し、近年の働き方改革のためのさまざまな手立て・体制・仕事の仕分けなどを知る。そうしたことから自らの働き方についても考える。	
8	教育現場が教育実習生に求める資質を考え、ディスカッションを通して、教師としての自らの課題を理解する。特に英語の教師として、必要な資質をコア・カリキュラム（文部科学省）を通して考えてみる。	
9	模擬授業に向けて、１時間の授業計画・準備について考え、その方法等について意見共有を行う。	
10	模擬授業を行い、各活動の意図や実施方法などについて、意見共有を行う。また、相互によかった点や改善点をディスカッションする。	
11	模擬授業を行い、各活動の意図や実施方法などについて、意見共有を行う。また、相互によかった点や改善点をディスカッションする。	
12	教育実習直前指導（1）：学習指導案や実習日誌の意義や書き方について指導する。また、学生の不安や心配を払拭するため、現時点での疑問点などを意見交換する。	
13	教育実習直前指導（2）：実習校に提出する各種書類の記入や整理。また、守秘義務等の確認と緊急時の際のリスクマネージメントについても意見交換する。	
14	まとめ　本授業を通して学んだことを基に、中学・高等学校教師に求められる資質とは何かを各自が発表する。また、英語教師に求められる資質とは何かを各自が発表する。	
15	中学・高等学校教育実習の報告会:　中学・高等学校における教育実習の振り返り、及び来年度、教育実習予定者へのアドバイスと諸注意を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
ディスカッション	30	ディスカッションに積極的に参加し意見交換ができたか。	学習指導案作成・模擬授業	30	模擬授業の準備と与えられた課題への考え方。
課題・報告会発表	40	授業内のポイントを把握しているか。実習後の各自の思いを後輩に伝えられているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教室で生徒に向かって自信を持って授業ができるよう、模擬授業の計画・準備を行う。［120分］ 市内の中学校・高等学校のホームページを見て学校現場の様子をシミュレーションしてみる。［30分］	返却時に行う。

受講生に望むこと	教育実習では、生徒の前でどういう話をし、どういう反応を求めるのか真摯に考えてほしい。文部科学省のホームページでもよいので中学校や高等学校の学習指導要領を一読してほしい。	教科書・テキスト	教科書等は使用せず、必要な資料は授業で配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	15回の「中学校・高等学校(英語)教育実習報告会」は後期に履修者全員の教育実習終了後に適切な日時を設定して実施する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育実習Ⅰ（中高）			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	4単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
教育実習指導(中高）で受けた事前指導に従って、北陸学院中学・高等学校または他の中学・高等学校等での4週間の教育実習を行う。教育の現場での実地体験を通して、教師として必要な知識、教育技術、態度、心構えなどを習得し、教師としてのさらなる資質向上に努める。	①コミュニケーション能力を身につける。対：生徒、教師、保護者 ②学校という組織内の校務を知り、自分の役割に責任を持つことができるようになる。 ③英語教師としての適性を知り、自分に足りない資質を見極めることができる。

教授方法	９月に４週間、教育実習校の担当者から指導を受ける。大学の担当者からの実習巡回指導を受ける。
履修条件	教育実習指導（中高）を履修していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	各実習校のプログラムに従って、以下の点について意識を持ちながら教育実習を行う。	
	各実習校の指導計画を理解する。わからないことは積極的に質問する。	
	学校教育実践の場において、教育の実態を知ること。大学の講義との違いを省察する。	
	大学で学んだ教科・教職に関する科目の理論・知識・技術を実習を通して実践・展開する。十分に機能しないことを記録する。	
	生徒を指導するために必要な専門的技術や能力を身につける。生徒指導や教科指導について何を身に着けたかを記録する。	
	授業参観、学級活動、放課後の特別活動を通して、生徒理解に努め教育者としての自覚と資質を高める。生徒理解のためには、ほかにどのような機会があるかを考える。	
	中学・高等学校において指導する教科（英語）の他に、その他の教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、学級活動及び学校行事、教育相談、進路指導などの学校教育全般にわたって体験し、理解を深める。	
	英語授業に関して：文法・語彙・音声の指導を実践する。うまく実践できなかったことを再度、試みる。	
	英語授業に関して：英語を用いて授業を運営してみること。十分に運営できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：聞くことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：話すことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：読むことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：書くことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：教科書の題材を英語で導入することに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：英語の文法を英語で導入することに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。最終日には、英語教師としての自分の資質を客観的に評価してみる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習校での評価	50	実習評価表の各項目	教育実習日誌	40	日々の実践の記録が必要十分に記録されているか
巡回指導担当者の評価	10	提出物や巡回時の取り組み姿勢等			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
実習校の担当教員の指導・助言に従うこと。	教育実習日誌を毎日、指導教員に提出し、指導・助言を受けること。

受講生に望むこと	実習生であっても、ひとたび生徒の前に立てば、彼らはあなたを「教師」とみなす。自覚を持って教育実習に臨んでほしい。	教科書・テキスト	「中学校学習指導要領(平成29年告示）解説 外国語」文部科学省 開隆堂 2018 ISBN 9784304051692 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編」文部科学省 開隆堂 2019 ISBN:9784304051784
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育実習Ⅱ（中高）			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
教育実習指導(中高）で受けた事前指導に従って、北陸学院中学・高等学校または他の中学・高等学校等での2週間の教育実習を行う。教育の現場での実地体験を通して、教師として必要な知識、教育技術、態度、心構えなどを習得し、教師としてのさらなる資質向上に努める。	①コミュニケーション能力を身につける。対：生徒、教師、保護者 ②学校という組織内の校務を知り、自分の役割に責任を持つことができるようになる。 ③英語教師としての適性を知り、自分に足りない資質を見極めることができる。

教授方法	９月に２週間、教育実習校の担当者から指導を受ける。大学の担当者からの実習巡回指導を受ける。
履修条件	教育実習指導（中高）を履修していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	各実習校のプログラムに従って、以下の点について意識を持ちながら教育実習を行う。	
	各実習校の指導計画を理解する。わからないことは積極的に質問する。	
	学校教育実践の場において、教育の実態を知ること。大学の講義との違いを省察する。	
	大学で学んだ教科・教職に関する科目の理論・知識・技術を実習を通して実践・展開する。十分に機能しないことを記録する。	
	生徒を指導するために必要な専門的技術や能力を身につける。生徒指導や教科指導について何を身に着けたかを記録する。	
	授業参観、学級活動、放課後の特別活動を通して、生徒理解に努め教育者としての自覚と資質を高める。生徒理解のためには、ほかにどのような機会があるかを考える。	
	中学・高等学校において指導する教科（英語）の他に、その他の教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、学級活動及び学校行事、教育相談、進路指導などの学校教育全般にわたって体験し、理解を深める。	
	英語の授業に関して：文法・語彙・音声の指導を実践する。うまく実践できなかったことを再度、試みる。	
	英語の授業に関して：英語を用いて授業を運営してみること。十分に運営できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：聞くことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：話すことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：読むことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：書くことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：教科書の題材を英語で導入することに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：英語の文法を英語で導入することに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。最終日には、英語教師としての自分の資質を客観的に評価してみる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習校での評価	50	実習評価表の各項目	教育実習日誌	40	日々の実践の記録が必要十分に記録されているか
巡回指導担当者の評価	10	提出物や巡回時の取り組み姿勢等			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
実習校の担当教員の指導・助言に従うこと。	教育実習日誌を毎日、指導教員に提出し、指導・助言を受けること。

受講生に望むこと	実習生であっても、ひとたび生徒の前に立てば、彼らはあなたを「教師」とみなします。自覚を持って教育実習に臨んでほしい。	教科書・テキスト	「中学校学習指導要領(平成29年告示）解説 外国語」文部科学省 開隆堂 2018 ISBN 9784304051692 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編」文部科学省 開隆堂 2019 ISBN:9784304051784
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	北陸学院セミナーⅠ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	1年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教の学びに基づいた礼拝行事への参加、フレッシュマン・セミナー、オータム・セミナーへの参加を中心とする。授業時間を設けず、礼拝出席に伴う奨励感想小レポート、セミナー参加による課題提出により評価を行う。また、セミナーと礼拝以外に諸行事への参加を求める。 フレッシュマン・セミナーにおいては自己と他者を尊重する心をはぐくむ。学生同士、また教員との交流を通じ、学生生活の基本とする。オータム・セミナーにおいては、1・2年生合同で実施することにより学年を越えた学びと交流を通じ、多様な考え方について共有を図る。 ※SDGs目標番号3、12、13関連科目	1）聖書の言葉を、心を落ち着け、静かに聴いて親しみ、その意味を聴き取る方法を体得する。 2）賛美歌に親しみ、キリスト教精神を感得する。 3）祈りに加わり、有限な世界を越えた永遠の世界に思いを馳せる。 4）生の意味について考え、自分の存在の意味を考える。 5）世界と歴史の意味に触れる。 6）自己を発見し、職業選択を含めた、自分に与えられた使命を自覚する。 7）教職員や友人と交流し、価値観を広げるとともに、意思伝達能力や集団における行動力を育む。

教授方法	大学礼拝およびフレッシュマン・セミナーならびにオータム・セミナーへの参加
履修条件	宗教オリエンテーションおよび「キリスト教概論Ⅰ」で礼拝への参加方法を学び、セミナーについての学科オリエンテーションと準備作業に参加する。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	礼拝行事、セミナーの詳細は以下の通り。	
	1．大学礼拝	
	①礼拝：毎週平均2.5回以上、礼拝でメッセージを聴き、定期的にミニレポートを提出する。	
	②献金：礼拝でささげる献金をキリスト教行事や世界の子ども支援に用いる。	
	③花の日：６月　花を諸施設に届ける。	
	④特別伝道礼拝：牧師を招き春は１・３年生を対象に行う。１年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	⑤創立記念礼拝：９月　メッセージを通して学院の歴史、建学の精神に触れる。	
	⑥収穫感謝：11月　果物を各所に届ける。	
	⑦クリスマス礼拝：学外説教者を招き、特別な礼拝を行う。１年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	2．フレッシュマン・セミナー	
	全学科教員で実施に当たる本学独自の行事。全学科１年生が聖書から本学の歴史、精神を学び、学びの姿勢を整える。	
	3．各学部で実施されるオータム・セミナーには２年生と一緒に１年生も参加する。	
	①前期・後期それぞれ礼拝出席規程回数以上の礼拝出席をし、礼拝出席押印カードを提出すること、②フレッシュマン・セミナーに参加すること、③オータム・セミナーに参加すること、④クリスマス礼拝に出席することが本科目の単位認定要件となる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
礼拝ミニレポート	50	聖書・讃美歌を持参し、週平均2.5回以上大学礼拝でメッセージを聴き、定期的に感想レポートを提出している。	セミナー課題レポート	30	・セミナーでの講演を主体的に聴いて理解し、グループで話合いを行い、レポートで振り返りを行っている。 ・セミナーの課題やレポートが期日までに提出されている。指示どおり適切に作成されている。
クリスマス礼拝	20	クリスマス礼拝に出席する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1）日頃より、聖書・讃美歌に親しむことが望ましい。 2）地域の諸教会で行われている日曜日の礼拝に出席することが望ましい。出席する教会については学生要覧を参照、または宗教主事に質問する。 3）セミナーの準備に主体的に参加する。 4）セミナー参加後に、レポート等により問題意識を深める。	セミナーに対する感想や疑問の要点を捉え、大学礼拝での奨励の主題に取り入れて語る。

受講生に望むこと	1）毎日の大学礼拝に聖書と讃美歌を持って主体的に参加する。携帯電話等は持ち込まない。万が一持ち込んだ場合は電源を切り、鞄にしまう。私語を慎み、礼拝に集中する。終了時にカードに押印を受け、押印が終了したページを、裏面に感想を記し、前期・後期ともに、定められた提出期限内に提出する。私語や携帯使用など姿勢に問題がある場合、またカードが未提出の場合、欠席したとみなされる。 2）セミナーに主体的に参加することを望む。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会、2019年、ISBN978-4-8202-1344-4 『讃美歌21』日本基督教団出版局、2006年、ISBN978-4818437135
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	本科目は「北陸学院科目」として、全教職員の理解と協力の下における大学礼拝・セミナー準備・実施から成る。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	北陸学院セミナーⅡ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教の学びに基づいた礼拝行事への参加、オータム・セミナーへの参加を中心とする。授業時間を設けず、礼拝出席に伴う奨励感想小レポート、セミナー参加による課題提出により評価を行う。オータム・セミナーにおいては上級生としてセミナー運営にかかわることで、調整力と実行力を身につける。セミナー活動を通じて自己と他者の違いを尊重する心をはぐくみ、キリスト教精神についての学びを深める。またセミナーと礼拝以外に実施される大学礼拝と諸行事への参加を求める。 ※SDGs目標番号3関連科目	1）聖書の言葉を、心を落ち着け、静かに聴いて親しみ、その意味を聴き取る方法を体得する。 2）賛美歌に親しみ、キリスト教精神を感得する。 3）祈りに加わり、有限な世界を越えた永遠の世界に思いを馳せる。 4）生の意味について考え、自分の存在の意味を考える。 5）世界と歴史の意味に触れる。 6）自己を発見し、職業選択を含めた、自分に与えられた使命を自覚する。 7）教職員や友人と交流し、価値観を広げるとともに、意思伝達能力や集団における行動力を育む。

教授方法	大学礼拝および秋のセミナーへの参加
履修条件	「北陸学院セミナーⅠ」を修得済であること。「キリスト教概論Ⅰ」および「キリスト教概論Ⅱ」の単位を取得していることが望ましい。オータム・セミナーについての学科オリエンテーションと準備作業に参加する。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	礼拝行事、セミナーの詳細は以下の通り。	
	1．大学礼拝	
	①礼拝：毎週平均2.5回以上礼拝でメッセージを聴き、定期的にミニレポートを提出する。	
	②献金: 礼拝でささげる献金をキリスト教行事や世界の子ども支援に用いる。	
	③花の日：6月　花を諸施設に届ける。	
	④特別伝道礼拝：牧師を招き秋は２・４年生を対象に行う。２年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	⑤創立記念礼拝：９月　メッセージを通して学院の歴史、建学の精神に触れる。	
	⑥収穫感謝：11月　果物を各所に届ける。	
	⑦クリスマス礼拝：学外説教者を招き、特別な礼拝を行う。２年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	2．オータム・セミナー	
	全学科教員で実施に当たる本学独自の行事。全学科１・２年生が聖書の世界に触れ、自分の生き方を考える。学科ごとに準備を行う。	
	①前期・後期それぞれ礼拝出席規程回数以上の礼拝出席をし、礼拝出席押印カードを提出すること、②オータム・セミナーに参加すること、③クリスマス礼拝に出席することが本科目の単位認定要件となる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
礼拝ミニレポート	50	聖書・讃美歌を持参し、週平均2.5回以上大学礼拝でメッセージを聴き、定期的に感想レポートを提出している。	セミナー課題レポート	30	・セミナーでの講演を主体的に聴いて理解し、グループで話合いを行い、レポートで振り返りを行っている。 ・セミナーの課題やレポートが期日までに提出されている。指示どおり適切に作成されている。
クリスマス礼拝	20	クリスマス礼拝に出席する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1）日頃より、聖書・讃美歌に親しむことが望ましい。 2）地域の諸教会で行われている日曜日の礼拝に出席することが望ましい。出席する教会については学生要覧を参照、または宗教主事に質問する。 3）セミナーの準備に主体的に参加する。 4）セミナー参加後に、レポート等により問題意識を深める。 5）１年生もオータム・セミナーに参加する。	セミナーに対する感想や疑問の要点を捉え、大学礼拝での奨励の主題に取り入れて語る。

受講生に望むこと	1）毎日の大学礼拝に聖書と讃美歌を持って主体的に参加する。携帯電話等は持ち込まない。万が一持ち込んだ場合は電源を切り、鞄にしまう。私語を慎み、礼拝に集中する。終了時にカードに押印を受け、押印が終了したページを、裏面に感想を記し、前期・後期ともに、定められた提出期限内に提出する。私語や携帯使用など姿勢に問題がある場合、またカードが未提出の場合、欠席したとみなされる。 2）セミナーに主体的に参加することを望む。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会、2019年、ISBN978-4-8202-1344-4 『讃美歌21』日本基督教団出版局、2006年、ISBN978-4818437135
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	本科目は「北陸学院科目」として、全教職員の理解と協力の下における大学礼拝・セミナー準備・実施から成る。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教概論Ⅰ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は全学生必修科目であり、北陸学院のキリスト教教育の基盤にある旧新約聖書について学ぶ入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。今日のグローバル・スタンダードの多くは、キリスト教の背景を持つ。本講義では、世界や人間存在の根幹にかかわる信仰および宗教とは何かを知ることから始める。続いて、キリスト教について、聖書に基づき、その概要を学び、他の宗教との違い、とくに各々の人間観・世界観・歴史観の相違を学ぶ。さらに、新約聖書の記述に直接触れつつ、代表的な主イエス・キリストのたとえ話に触れる。	北陸学院の建学の精神である「キリスト教の思想」を聖書によって知り、人間観、世界観、歴史観を広げる。 ①聖書について、キリスト教について、イエスの地上の生涯について、概略を理解することができる。 ②聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を身に付ける。 ③聖書を通して世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。 ④人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身に着ける。 ⑤他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。 ⑥北陸学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身につける。

教授方法	レジュメに基づく講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	・イントロダクション：自己紹介、本コースの概要説明、評価の仕方、使用テキストの説明。 ・礼拝の守り方、聖書の開き方、賛美歌の歌い方を学ぶ。大学礼拝の守り方、教会礼拝出席の姿勢について知る。	
2	・キリスト教、イスラム教、ユダヤ教、仏教をはじめとする世界の宗教状況について、基本知識を身につける。 ・自分自身の宗教観について改めて振り返ってみる。	
3	・世界宗教と呼ばれる諸宗教の中心的な教え（教理）を概観する。 ・マインドコントロールと信仰との違いについて考察する。	
4	・北陸学院の形成者たちと出会う。小テスト①準備。 ・史料編纂室特別講義	
5	・小テスト①：北陸学院の形成者 ・聖書という書物：聖書の描き出す神の大いなる物語（グランド・ストーリー）の大きな枠組みを理解し、それぞれの構成やジャンルを理解する。	
6	・小テスト②準備 ・主イエスのたとえ①：タラントンのたとえ　代表的な主イエスのたとえ話を通じて、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
7	・小テスト②：使徒信条 ・主イエスのたとえ②：放蕩息子を迎える父のたとえ　代表的な主イエスのたとえ話を通じて、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
8	・期末試験準備説明 ・授業評価アンケート	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	「振り返りシート」で授業内容について自分の言葉で感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。	小テスト	20	学期中2回（①「北陸学院の形成者」②「主の祈り」）、重要語句を書けるようにする小テストで評価。
教会出席レポート	20	教会の主日礼拝に出席し、説教内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。	学期末試験	40	講義内容の理解度を測る期末試験で評価。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。[30分] ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] ④収穫感謝・クリスマスにあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。[15分]	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「学期末試験」については全体講評をメソフィア等で告知する。

受講生に望むこと	・聖書・Chromebook を必ず持参すること。 ・遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ・本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『神学のよろこびーはじめての人のための「キリスト教神学」ガイド』新装増補改訂版、アリスター・E・マクグラス（芳賀力訳）、キリスト新聞社、2017年。ISBN: 978-4-87395-721-0　その他、授業内で紹介する。	その他・特記事項	・毎回、聖書並びに Chromebook を持参する。 ・授業中の他科目の内職、私語、スマホ操作など基本的社会マナー違反は放置せず注意する。繰り返されるマナー違反は厳しく減点する。他の受講生のためにも最低限のマナーは守ること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教概論Ⅱ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は全学生必修科目であり、北陸学院のキリスト教教育の基盤にある旧新約聖書について学ぶ入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。今日の世界標準（グローバル・スタンダード）の多くは、キリスト教の背景を持つ。聖書はキリスト教の信仰と生活の基準であり、現在もっとも広く読まれているベストセラーでもある。本講義では、「キリスト教概論Ⅰ」の内容を前提として、聖書の大きなストーリーラインを学ぶ。旧約聖書の描き出す神の民の歴史から新約聖書の証しするイエス・キリストの出来事、創造から終末に至る聖書のグランド・ストーリーが自己の人生観・世界観にもたらすインパクトを探る。	北陸学院の建学の精神である「キリスト教の思想」を聖書によって知り、人間観、世界観、歴史観を広げる。 ①聖書について、キリスト教について、イエスの地上の生涯について、概略を理解することができる。 ②聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を身に付ける。 ③聖書を通して世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。 ④人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身に着ける。 ⑤他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。 ⑥北陸学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身につける。

教授方法	レジュメに基づく講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：担当教員自己紹介、本授業の概要、評価の仕方の説明。	
2	創造物語：この世界は神が造られた被造世界であり、神と人間が関わり合う舞台として形づくられたものであるという聖書の世界観を発見する。	
3	アブラハムの旅立ち：神の約束に信頼して旅立ったアブラハムの信仰物語を通じて、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
4	小テスト①準備 モーセの召命：モーセの物語を通じて、神に呼ばれその務めに立てられ、使命に生きるという人生観を発見する。	
5	小テスト①：十戒 出エジプト：神が苦しみ悩む者を解放し導く主であることを見出し、それが自らの人生に示唆するインパクトを探究する。	
6	小テスト②準備 イエス・キリストの誕生、その教えとわざ：イエス・キリストの生涯と働きを知り、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
7	小テスト②：使徒信条 十字架と復活：イエス・キリストの死と復活、そこから始まっていった教会の伝道のわざについて知り、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
8	・期末試験準備説明 ・授業評価アンケート	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	「振り返りシート」で授業内容について自分の言葉で感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。	小テスト	20	学期中2回（①「十戒」②「使徒信条」）、重要語句を書けるようにする小テストで評価。
教会出席レポート	20	教会の主日礼拝に出席し、説教内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。	学期末試験	40	講義内容の理解度を測る期末試験で評価。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。 ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[30分] ④収穫感謝・クリスマスにあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「定期試験」については全体講評をメソフィア等で告知する。

受講生に望むこと	・聖書・Chromebook を必ず持参すること。 ・遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ・本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。	教科書・テキスト	『聖書』（聖書協会共同訳）（日本聖書協会）
指定図書／参考書等	なし／授業の中で別途紹介する。	その他・特記事項	・聖書・Chromebookを必ず持参すること。 ・映像や音楽も取り入れた興味深い授業展開を目指す。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教人間論Ⅰ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	髙田　恵嗣						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、聖書およびキリスト教思想に基づいて、人間とは何者であるのかを根本から問い直す。キリスト教は、人間を単なる理性的存在や社会的存在としてではなく、「神によって創造され、愛され、関係の中で生きる存在」として理解してきた。本講義では、「創造」「自由」「罪」「弱さ」「赦し」「愛」といった主題を通して、キリスト教的人間観の基礎を学ぶとともに、現代を生きる私たち自身の生き方や価値観との関係を考察する。宗教的前提を強いることなく、人間理解の一つの視座としてキリスト教思想に触れ、主体的に考える力を養うことを目指す。	① キリスト教における人間理解の基本的枠組みを理解する ②「神のかたち」「自由」「罪」などの概念を、現代的課題と関連づけて考察できるようになる ③ 人間の弱さや有限性を否定ではなく問いとして捉える視点を身につける ④ 自分自身の人間観を言語化し、他者と共有する力を養う

教授方法	毎回の授業では資料プリントを配布し、PowerPointを用いた講義を中心に進める。 加えて、理解の定着と主体的な学びを促すため、質疑応答やグループワークを適宜取り入れ、学生同士の対話を重視した授業を行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：本授業の目的と進め方を確認するとともに、「人間とは何者か」という本講義全体を貫く問いを提示し、キリスト教人間論を学ぶ意義について考察する。	
2	創造された存在としての人間：創世記を手がかりに、人間が「神のかたち」として創造された存在であるというキリスト教的人間理解を学び、人間の尊厳の根拠について考える。	
3	自由と責任：自由意志と責任の問題を取り上げ、人間が自由を与えられた存在であることの意味と、その自由がもたらす可能性と困難について考察する。	
4	罪とは何か：キリスト教における「罪」の概念を、道徳的過失ではなく関係の破れとして理解し、人間の自己中心性や孤立の問題を検討する。	
5	弱さ・有限性としての人間：人間の弱さや有限性に注目し、死・病・限界と向き合う存在としての人間をどのように理解するかをキリスト教的視点から考える。	
6	赦しと回復：赦しの思想を中心に、人間が失敗や罪を抱えながらも回復へと導かれる存在であることについて、聖書の物語を通して学ぶ。	
7	愛される存在としての人間：無条件の愛（アガペー）の概念を取り上げ、人間が努力や成果以前に「愛される存在」であるという人間観について考察する。	
8	前期まとめ、定期考査：授業の前半は前期の内容を総括し、キリスト教的人間理解の全体像を整理するとともに、自らの人間観を言語化するための振り返りを行う。後半の４５分で定期考査を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
到達度テスト	50	前期の授業内容に関する基本的理解度を到達度テストによって評価する。授業で扱った主要概念（創造・自由・罪・赦し・愛など）を的確に説明できているかを基準とする。	ミニレポート	30	授業内容について、自らの考えや疑問を自分の言葉で表現できているかを評価する。単なる要約ではなく、授業内容と自己の経験や問題意識との関連づけが見られるかを重視する。
参加態度	20	授業への主体的な関与を評価する。具体的には、質疑応答や意見交換への積極的な参加、グループワークにおける協働的姿勢から総合的に判断する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。 ②その週の授業内容をプリントで復習し、到達度テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げる。［30分］ ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。 ④花の日礼拝にあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。	講義後に提出されるミニレポートを確認し、学生の疑問や意見を授業に反映させる形でフィードバックを行う。

受講生に望むこと	授業に主体的に参加し、他者とともに問いを探究する姿勢を大切にしてほしい。自分なりの関心を持ち、楽しみながら学びに取り組むことを期待する。	教科書・テキスト	『聖書　聖書協会共同訳』日本聖書協会
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	指定日開講

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教人間論Ⅱ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	髙田　恵嗣						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
後期の授業では、前期で学んだキリスト教的人間理解を基盤として、イエス・キリストの生と教え、さらに現代社会における人間の課題へと視野を広げていく。苦しみ、排除、沈黙、死といった人間の根源的問題に対し、キリスト教はどのようなまなざしを向けてきたのかを考察する。また、平和、人権、隣人愛といった社会的テーマを取り上げ、キリスト教人間論が現代世界にどのような示唆を与えうるのかを検討する。信仰の有無にかかわらず、現代人が直面する問いに対して思考を深めることを目指す。	① イエス・キリストの言動を通して、人間理解の具体的展開を学ぶ ② 苦しみや沈黙といったテーマを、人間存在の問題として考察する ③ 他者・社会・世界との関係の中で人間を捉える視点を養う ④ 現代社会における価値観や生き方を批判的かつ建設的に考える力を身につける ⑤ キリスト教人間論を踏まえ、自らの生き方について深く省察す

教授方法	毎回の授業では資料プリントを配布し、PowerPointを用いた講義を中心に進める。 加えて、理解の定着と主体的な学びを促すため、質疑応答やグループワークを適宜取り入れ、学生同士の対話を重視した授業を行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イエスは人間をどう見たか：イエス・キリストの言動を通して、人間を評価や能力ではなく存在そのものとして受けとめるまなざしについて考察する。	
2	沈黙・苦しみの中の人間：十字架の出来事を中心に、苦しみや沈黙の中に置かれた人間と神の関係について考え、人間存在の痛みと向き合う視点を学ぶ。	
3	他者と生きる存在としての人間：隣人愛の教えを通して、他者と共に生きる存在としての人間のあり方を考え、違いをもつ他者との関係性について検討する。	
4	社会の中の人間：社会の中で生きる人間に焦点を当て、正義、平和、人権といったテーマとキリスト教人間論との関係を考察する。	
5	現代社会と人間理解：現代社会における成果主義や競争の問題を取り上げ、評価や有用性に基づく人間理解をキリスト教的視点から問い直す。	
6	死と希望：死と希望の問題を扱い、キリスト教における復活信仰が人間の生と死にどのような意味を与えてきたのかを考える。	
7	現代人への問い：キリスト教人間論が現代社会において持つ意義と限界について批判的に検討し、多様な価値観との対話を試みる。	
8	総まとめ、到達度テスト：授業の前半は授業全体を振り返り、人間とは何者であるのかという問いに対する各自の到達点を整理し、学びの総括を行う。後半の４５分間の到達度テストを実施する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
到達度テスト	50	後期の授業内容に関する理解度を到達度テストによって評価する。イエスの人間理解、苦しみ・沈黙の問題、隣人愛、平和や人権などを的確に説明し、自らの言葉で整理できているかを基準とする。	ミニレポート	30	授業内容について、自らの考えや疑問を自分の言葉で表現できているかを評価する。単なる要約ではなく、授業内容と自己の経験や問題意識との関連づけが見られるかを重視する。
参加態度	20	授業への主体的な関与を評価する。具体的には、質疑応答や意見交換への積極的な参加、グループワークにおける協働的姿勢から総合的に判断する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。 ②その週の授業内容をプリントで復習し、到達度テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げる。［30分］ ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。 ④クリスマス礼拝にあたり、神に感謝し、諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。	講義後に提出されるミニレポートを確認し、学生の疑問や意見を授業に反映させる形でフィードバックを行う。

受講生に望むこと	授業に主体的に参加し、他者とともに問いを探究する姿勢を大切にしてほしい。自分なりの関心を持ち、楽しみながら学びに取り組むことを期待する。	教科書・テキスト	『聖書　聖書協会共同訳』日本聖書協会
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	指定日開講

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	郷土の文学			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	中島　賢介						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
石川県は、金沢の三文豪をはじめ散文韻文ともに数多くの作家を輩出している。本講義では、小説やエッセイのみならず、短歌・俳句・川柳・自由詩なども紹介しながら「郷土の文学の楽しみ方」を提案する。担当教員が地元ゆかりの文学作品を紹介するだけでなく、受講生が金沢市内の文学館・博物館や文学碑を巡るフィールドワーク、調査研究や創作発表を通して体験的に郷土の文学を学び、より身近に感じる。	①石川県ゆかりの作家や作品について理解し、わかりやすく説明することができる。 ②フィールドワークによって、テーマに沿って金沢市内の文学館や博物館を巡り、作品や作家をより身近に感じることができる。 ③自分の深めたい作品作家について研究し、その成果を効果的にプレゼンテーションすることができる。

教授方法	プリントを使用した講義、フィールドワーク、研究発表会
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要、成績評価方法などの説明を行った上で、受動的態度から能動的態度をもって文学に関わる楽しさについて考える。	
2	江戸期以前の文学：歌枕として親しまれて、さまざまな古典文学に登場する北陸の地について理解する。	
3	江戸期の文学：松尾芭蕉、加賀千代女、勧進帳などを取り上げ、近世文学に登場する北陸の地について理解する。	
4	金沢の三文豪①：泉鏡花の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
5	金沢の三文豪②：徳田秋声の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
6	金沢の三文豪③：室生犀星の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
7	加賀の作家と作品①：加賀出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
8	加賀の作家と作品②：加賀出身ゆかりの詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
9	能登の作家と作品①：能登出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
10	能登の作家と作品②：能登出身ゆかりの詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
11	金沢の作家と作品①：金沢出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
12	金沢の作家と作品②：金沢出身ゆかりの詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
13	北陸学院の作家と作品：北陸学院ゆかりの作家詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
14	研究発表会１：これまでの学びをさらに発展させ、各自が研究成果を発表する。	
15	研究発表会２：これまでの学びをさらに発展させ、各自が研究成果を発表する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	課題提出状況、グループディスカッションへの参加。	課題	30	授業を理解した上で適切に記述されているか。
研究発表会	40	研究した内容について、独自の手法で成果を報告する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回、指定された作品箇所を読み、内容を把握する。［30分］ 各自、半日から一日をかけて金沢市内の文学館・博物館・文学碑を巡るフィールドワークを行う。［180分～240分］	毎回の冒頭に、前回提出されたコメントペーパーの内容を紹介しコメントする。

受講生に望むこと	この機会に郷土の文学に触れてほしい。 フィールドワークにかかる費用（交通費、入館料など）は実費とする。	教科書・テキスト	なし。適宜プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし／『ミリアニア　石川の近代文学』金沢近代文芸研究会編　能登印刷出版　2001年　ISBN：978-4890103898『文学への旅　金沢・名作の舞台』「文学への旅　金沢・名作の舞台』編集委員会　2000年　ISBN4－89010－335-XC0095	その他・特記事項	金沢の三文豪を始め、郷土作家の作品は、「青空文庫」（https://www.aozora.gr.jp）でも読むことができる。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	日本国憲法			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	土屋　仁美						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は一般教養科目として開講する。憲法と法律の違いや、憲法が目指すもの、憲法が自分たちの生活にどのように関わっているのか、憲法が定める平等などについて学び、実際に裁判となった事案や社会で議論されている事柄などをもとに学習する。現代社会を生きるうえで基盤となる憲法学的な視点や考察力を身につける。憲法を知ることで良き市民として社会に出て行くための知識と考える力を身につけることを目的とする。 ※SDGs目標番号1～17関連科目	①憲法の役割と機能を理解する。 ②憲法の基本的な知識や論点を理解する。 ③個人情報のデータ化、性的マイノリティ、子どもの貧困といった身近にある問題に対して、憲法学的な観点から考察する力を身につける。

教授方法	講義毎にレジュメと資料を配布します。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	憲法とは何か？：憲法の基礎知識について学びます。（授業の進め方と成績評価の方法について説明した後に、法と道徳の違い、法律と憲法の違い、日本国憲法の特徴について理解する。）	
2	日本国憲法がめざすもの：日本国憲法の基本原理について学びます。（日本国憲法の基本原理(基本的人権の尊重、国民主権、平和主義)とその関係性について理解する。）	
3	平和に生きる：平和主義、国際貢献について学びます。（前文と第9条から、平和主義と国際貢献、自衛隊について理解する。）	
4	「個」性のために：個人の尊重、憲法上の権利について学びます。（基本的人権総論として、人権の類型、享有主体、適用範囲について理解する。）	
5	データ化された個人情報：プライバシーの権利について学びます。（個人情報のデータ化に伴う問題点について、プライバシーの権利から理解する。）	
6	自分のことは自分で決める：自己決定権について学びます。（医療分野の患者の意思について、自己決定権の観点から理解する。）	
7	すぐそばにある差別：法の下の平等、不合理な差別について学びます。（性的マイノリティに関わる裁判例をもとに、法の下の平等について理解する。）	
6	なぜ差別は起きるのか？：「無意識の差別」について考えます。（第7回の授業内容に基づき、具体的な出来事を通して憲法学的な考察力を向上させる。）	
9	胸の内にあるもの：思想・良心の自由について学びます。（日の丸・君が代の強制の問題について、思想・良心の自由の観点から理解する。）	
10	信じていてもいなくても：信教の自由について学びます。（信教の自由、政教分離の原則について理解する。）	
11	インターネットで広がる表現空間：表現の自由について学びます。（表現の自由の意義、内容とその限界について理解する。）	
12	憲法と経済の関係は？：職業選択の自由について学びます。（職業選択の自由、規制目的と審査基準について理解する。）	
13	どうする？　子どもの貧困：生存権について学びます。（社会権の原則的な権利である生存権について、子どもの貧困の観点から理解する。）	
14	教えること、いじめのこと：教育を受ける権利について学びます。（教育を受ける権利の内容と「いじめ」について理解する。）	
15	基本的人権をまもるために:統治機構について学びます。（権力分立と立法、行政、司法の役割について理解する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト／確認テスト	70	授業内容の基本的な知識や論点の理解度についての評価します。	小レポート	5	具体的な出来事を通して憲法学的な考察力について評価します(第8回)。
期末テスト	25	憲法の基本的な知識や論点の理解度について評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習として、教科書の該当箇所を事前に読んで、授業に臨むことが望まれます。［20分］ 教科書の該当箇所は、第1回目の授業時で指示します。事後学習として、その日のうちに配布プリント・資料をもとに復習しましょう。［30分］	小テストの答え合わせは次回の講義時に掲載・解説します。

受講生に望むこと	日ごろから時事問題に関心を持ちましょう。 授業内容に関連する出来事については、授業内で積極的に取り上げます。自身の生活とのつながりを意識しましょう。	教科書・テキスト	『基本的人権の事件簿――憲法の世界へ』第7版,棟居快行・松井茂記・赤坂正浩・笹田栄司・常本照樹・市川正人著,有斐閣,2024年,ISBN978-4-641-28155-4
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	小テスト、確認テスト、小レポートは、Google Classroomを用います。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	青年の心理			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	宇根本　聡						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
青年心理学は、青年期の心理や行動を研究対象とする発達心理学の一領域であり、この領域の知見によって青年が自分自身の心理や行動を振り返り、より良く生きるきっかけをつかむことができる。この授業では、生涯発達の途上にある青年期の心理と行動について解説するとともに、青年期の心理臨床や援助について講義する。 ※SDGs目標番号3、4、5、10、16関連科目	①青年期の心理と行動について理解する。 ②青年の心理や行動を青年心理学の知見で説明できる。 ③自分自身の心理や行動を、青年心理学の知見を用いて振り返ることができる。

教授方法	講義を中心に、ワークを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	青年期とは：青年期の成立過程と時代的変化を理解する。	
2	思春期・青年期の心の在り方やともだち関係について振り返り理解する。	
3	青年期の発達課題：エリクソンのライフサイクル理論を理解する。	
4	発達障害：発達障害という概念や代表的な発達障害について理解する。	
5	学校と思春期・青年期①：学校における思春期の問題である「いじめ」について理解する。	
6	思春期・青年期と「異界」①：前思春期から思春期における「異界」の意味を理解する。	
7	思春期・青年期と「異界」②：「異界」を文学・芸術等を通して理解する。	
8	思春期・青年期と身体：思春期・青年期における身体的およびその変化がもたらす心理的影響、精神障害について理解する。 LGBTQ＋について理解を深める。	
9	学校と思春期・青年期②：増加する不登校や青年期以降のひきこもりについて理解する。	
10	思春期・青年期と家族：親からの分離個体化に関わる心理や行動について理解する。	
11	思春期・青年期とメディア：心理や行動に対して、コミュニケーションメディアの変化が与える影響について考える。	
12	青年期と非行：非行の実態を知り、非行に関わる心理を理解する。	
13	青年期の支援①：心理療法について理解する。発達障害の心理療法について理解する。	
14	ライフサイクルと、大人の思春期：社会の変化による青年期の変化をライフサイクル理論から捉える。	
15	青年期への支援とリソース：青年期への支援とリソース（社会資源）について知る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	40	講義内容に関する筆記テストを行い、講義内容の理解の程度を評価する。	提出物	40	授業中指示の提出物、ワークシートにより評価する。
授業への参加態度	20	授業中の質疑（ワークシートによる質疑）等での参加の程度により評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：事前に伝えた教科書の範囲を読んで、おおよその理解をしておく（30分/回）。事後学習：授業で配布した資料等を活用し、授業内容を復習する［60分/回］	随時行う。

受講生に望むこと	①授業内容と、自身の日常の生活とのつながりを意識し、自分自身の心理と行動に興味を持ち、積極的に参加してほしい。 ②ワークやディスカッションは、真剣に自身の心理や行動を振り返りながら行なってほしい。	教科書・テキスト	新訂　思春期・青年期の心理臨床（放送大学教材）　大山泰宏　著　放送大学教育振興会　2019年　ISBN 978-4595319259
指定図書／参考書等	なし/『よくわかる青年心理学［第2版］』　白井利明編　ミネルヴァ書房　2015年　ISBN: 978-4623072491	その他・特記事項	この授業は、毎回PCを持参する必要がある。

実務経験を活かした授業の概要

青年期の課題について、スクールカウンセラーや発達相談センター相談員としての経験を教材として取り上げ、ディスカッションを通じて、学生の学びを深めていく。

授業科目名	食と健康			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	俵　万里子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は一般教養科目として開講する。食事には、単に空腹を満たすだけではなく、生命維持や健康増進、活動のエネルギー源になることをはじめ、生活リズムの形成、人間関係やコミュニケーションの形成、食文化の継承など様々な役割がある。本科目では食事の栄養的側面や食事と健康との関わりを中心に学ぶ。また文化としての食事や生活を豊かにする食事について知り、理解を深める。他に、食品ロスや食の安全安心など食をとりまく今日的な課題についても知り、興味関心を高める。これらの学びを通して、自分自身の「健やかな食生活」について考える。	①食事の栄養的側面や食事と健康との関わりについて理解している。 ②食事の様々な役割や、食をとりまく課題について知り、興味関心が高まっている。 ③①②を踏まえ自分自身の「健やかな食生活」について考え、実践のきっかけを持つ。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業の概要、進め方、評価の方法等について理解している。） 食生活の変遷（戦前から現代までの日本人の食生活の変遷について理解している。）	
2	何をどのくらい食べたらよいか①：自分の食事を振り返る（食事記録や写真から自分の食べたものを整理することができる。）	
3	何をどのくらい食べたらよいか②：「食事バランスガイド」とその活用法（「食事バランスガイド」の活用法を理解し、自分の食事をセルフチェックできる。）	
4	何をどのくらいいつ食べたらよいか：時間栄養学（時間栄養学の視点から、主に朝食摂取の利点について理解している。）	
5	食べたものがはたらくしくみ①：三大栄養素の吸収、代謝（三大栄養素の消化吸収、代謝について知り、食と健康の関わりについて興味関心を持っている。）	
6	食べたものがはたらくしくみ②：ビタミン、ミネラルの消化吸収、代謝（ビタミン、ミネラルの吸収、代謝について知り、食と健康の関わりについて興味関心を持っている。）	
7	日常生活と栄養（生活活動・運動と栄養の関わり、ストレスと食欲や栄養との関わりについて理解している。）	
8	生活習慣病と栄養（生活習慣病とその予防につながる食生活について理解している。）	
9	日本の伝統的な食文化「和食」（和食文化について知る。）	
10	金沢の食文化（金沢の伝統食や食文化について知る。）	
11	食品ロス（食品ロスについて理解し、自分の身の周りの食品ロスとその削減を考えるきっかけを持っている。）	
12	食の安全安心（食中毒、食品添加物、食品表示などの知識を習得し、安全で安心な食生活について考えることができる。）	
13	食情報とのつきあい方（氾濫する食情報の取捨選択の方法を理解し、つきあい方を考えることができる。）	
14	食生活の多様化と共食（食生活の多様化と共食やこ食について理解し、共食の意義について考えることができる。）	
15	まとめ：健やかな食生活とは（これまで学んできたことを踏まえ、自分自身の「健やかな食生活」について考えている。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	授業内容の把握とそれらに対しての自分の考えを適切にまとめている	授業参加状況	10	積極的に参加している
課題	30	食事記録とセルフチェックに取り組み、期限までに提出している			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前に資料が配布された場合、授業内で内容に関連する資料等が紹介された場合は目を通す。［60分］	授業内で適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	授業をきっかけに食生活と健康の関わりについて興味関心を持ち、望ましい食生活に向けて行動してみて下さい。	教科書・テキスト	なし（必要に応じて資料を配布する。）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	政治学			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	髙木 顕心						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要

この授業では、政治学の基礎的な知識を身につけることで、現代の政治を理解する上で、重要なことがらを理解できるようになることを目標とします。民主主義とはどのようなものか。政治を担う人は私たちとどのようにつながっているのか、などの事柄を、政治学の基本的な理論、分析枠組み、事例に基づいて概説します。様々な政治的な現象がなぜ起きているのか、その背景にはどのようなことがあるのかを考える材料を得ることを目指します。
各回の授業では、政治学の中の個別分野を1つずつ取り上げて、その内容について深く掘り下げる形で解説していきます。まずは、民主主義の在り方に関する議論をします。その後、政党・政治家・国会・行政・地方政治・有権者の各アクターに焦点を当てて詳しく説明をしていきます。

※SDGs目標番号5、8、10、16関連科目

授業の到達目標

・基礎的な政治的知識・政治学の知識を身に着け、現実の政治現象に対して政治学的な観点から分析・理解する能力を身につける。
・民主主義のシステムが政治過程に与える影響について理論的に説明することができる。
・ニュースを見たときに政治に関する現象をこの授業で学んだ政治学の言葉を用いて説明できるようになる。

教授方法	授業はスライドを使った講義形式を中心に行います。
履修条件	受講にあたって、前提知識や条件はありません。初回授業で皆さんの興味関心をおたずねします。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション＆政治とは、政治学とは何か？：講義を始めるにあたって、注意事項や授業の進め方を説明します。また、そもそも政治とは、政治学とは何かについて学習します。	
2	民主主義体制：民主主主義体制の多様性（直接・間接、エリート、参加型）など、現代を動かすルールについて学びます。	
3	権威・全体主義体制と民主主義体制：民主主義体制以外の国の在り方について学びます。政治権力の類型についても学習します。	
4	地方自治　中央－地方関係：官僚と呼ばれる人々が果たす役割と、地方自治体の機能について学習します。	
5	政治参加と選挙：選挙制度の類型、選挙が政治過程に与える影響などを学習します。また、デモなどの投票外参加についても学びます。	
6	オンデマンド授業の振り返りと質疑応答	
7	投票行動：政党に対する投票、価値観、イデオロギー、合理的投票といった投票行動の類型について学びます。	
8	政党・政治家：政党・政治家が果たす役割に加えて、日本政治の特色についても学習します。	
9	国会：私たちの生活のルールである法律がどのように形成されていくのか、また議会内で政党はどのように競合し、協力しているのかについて学習します。	
10	議院内閣制と大統領制：トップリーダーが果たす役割とその違いについて学習します。	
11	政治とマスメディア：「第四の権力」といわれるマスメディアが、政治とどのようにかかわり、監視してきたかについて学びます。	
12	利益集団：利益集団が、政治的な決定や政治家の行動に与える影響について学びます。	
13	政治学方法論入門（科学としての政治学）：政治学は、その誕生以来長い歴史において、「因果関係の特定」を目指してきました。ここでは、科学としての政治学のたどった歴史について大まかに学習します。	
14	授業の振り返りと全体のまとめ：ここまで学習してきたことを自らの手でまとめて、到達度テストに取り組みます。	
15	政治学から見えるもの：到達度テストの振り返り・講評とともに、政治学を学んだ先に見える世界について学習します。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
確認クイズ	20	オンデマンド授業では毎回、講義の理解度を確認するためにの確認クイズを行う。	小テスト	40	集中講義1日目と2日目の終わりに、その日の内容をまとめた小テストを実施する。
到達度テスト	40	集中講義最終日に、到達目標を達成（理論の理解と実際の政治への応用）ができているかを評価するテストを実施する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）

・講義で使用するスライド資料は、Google Classroomを通じて授業前に配布するので必ず目を通しておいてください。[30分]
・毎日、新聞・ニュース等に目を配り、政治に関する様々なニュースに触れること。授業で学んだ理論に合致する現象かどうかを自分なりに考えるようにしてください。[60分]

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

・オンデマンド授業での課題は、対面授業初回に講評（答え合わせや解説）を行います。
・小テストは翌日の初めに講評（答え合わせや解説）を行います。
・授業では、Google Classroomを使用して授業内容について質問受付をする予定ですが、皆さんの意見をうかがい、他のシステムなどでの質問受付をすることも検討します。
・その他、提出する／しないは任意で、授業中あるいは授業後にネット上で取り組むExtra Credit課題を出します。この点数を成績評価項目の点数合計に加算します。

受講生に望むこと	・世界や日本の日々の政治ニュースに可能な限り目を配るようにしてください。 ・ほかの受講生の学びの権利を侵害する行為（授業の妨害、おしゃべり、においの伴う飲食…etc）を行った学生に対しては、退室等の厳しい処置を取ることがあります。	教科書・テキスト	特に指定しない。
指定図書／参考書等	特に指定しない。／坂本治也・石橋章市朗 編 『ポリティカル・サイエンス入門』(法律文化社、2020)ISBN:9784589041005．砂原庸介・稗田健志・多湖淳 『政治学の第一歩』(有斐閣、2020)ISBN:9784641150782．飯田健・松林哲也・大村華子 『政治行動論－有権者は政治を変えられるのか－』(有斐閣、2015)ISBN:9784641150294 ．宇野重規 『民主主義とは何か』(講談社現代新書、2020)ISBN:9784065212950．待鳥聡史 『代議制民主主義とは何か－「民意」と「政治家」を問い直す』(中公新書、2017)ISBN:9784121023476.	その他・特記事項	「政治」は、これから皆さんがどのようなキャリアを歩み、どのような分野に進まれるとしても必ずついてくる事柄です。皆さんの中には、「政治」は近づきにくく、理解しづらいもの、と考える人も多いかもしれません。本講義では、「政治」が皆さんの近くにあることを出発点とします。新聞・テレビ・ネットニュースを見る際にも、どの情報を取捨選択すればよいかについて、この講義はきっと皆さんのお役に立てると考えています。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＡＩ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	リチャード ポーター						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語科目最上位として位置づけられており、ＣＥＦＲＢ２＋～Ｃ１の能力を有すると判断された者、また英語BI, BIIを学修した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く)の向上を目指す。	・現代社会のさまざまな問題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。 ・それぞれのテーマについてデータからの情報を利用して論理的なディスカッションを行うことができる。 ・ディスカッションや新たな情報も取り入れて自分の意見をまとめ、スピーチ、プレゼンあるいはライティングで発表できる。 ・CEFRのB2+～C1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	1年次に「英語BI」「英語BII」を履修し、少なくとも1科目単位修得済みの者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等) Self-introduction	
2	Unit 1 (1)Pandemic and People's Lifestyleをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
3	Unit 1 (2) Pandemic and People's Lifestyleについてデータを用いて意見を発表する。	
4	Unit 2 (1) The Circular Economyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
5	Unit 2 (2) The Circular Economyについてデータを用いて意見を発表する。	
6	Unit 3 (1) Road to Decarbonizationをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
7	Unit 3 (2) Road to Decarbonizationについてデータを用いて意見を発表する。	
8	Unit 4 (1) Online Learning and School Lifeをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
9	Unit 4 (2) Online Learning and School Lifeについてデータを用いて意見を発表する。	
10	Unit 5 (1) Delivery Robotsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
11	Unit 5 (2) Delivery Robotsについてデータを用いて意見を発表する。	
12	Unit 6 (1) Discrimination against Asian Americansをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
13	Unit 6 (2) Discrimination against Asian Americansについてデータを用いて意見を発表する。	
14	Unit 7 Gendered Division of Houseworkをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、自分の意見をまとめる。	
15	Unit 1～Unit 7で学んだテーマから1つを選び、スピーチまたはプレゼンテーションを行う。 これまでに学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、前期の振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『CLIL Discuss the Changing World 2』. Miyako Nakaya et al. 2023. 成美堂. ISBN:978-4791972685
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＡⅡ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	リチャード ポーター						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＡⅠを学修した者を対象に開講する。またCEFRのB2+～C1程度の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す〈やり取り/発表〉・書く）の向上を目指す。	・現代社会のさまざまな問題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。 ・それぞれのテーマについてデータからの情報を利用して論理的なディスカッションを行うことができる。 ・ディスカッションや新たな情報も取り入れて自分の意見をまとめ、スピーチ、プレゼンあるいはライティングで発表できる。 ・CEFRのB2+～C1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語 AI」を履修した者(単位未修得可)

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション Unit 8（1）Preparing for Emergenciesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
2	Unit 8（2） Preparing for Emergenciesについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
3	Unit 9（1）Ukraine and Afghanistanをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
4	Unit 9（2）Ukraine and Afghanistanについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
5	Unit 10（1）Digital Societyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
6	Unit 10（2）Digital Societyについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
7	Unit 11（1）Climate and Infectious Diseasesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
8	Unit 11（2） Climate and Infectious Diseasesについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
9	Unit 12（1） Overtourism and Undertourismをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
10	Unit 12（2） Overtourism and Undertourismについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
11	Unit 13 Multicultural Exchange in Japanをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、自分の意見をまとめる。	
12	Unit 14 Changing Africaについて内容を理解した後、データを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
13	Unit 15 Helping People Make Better Choicesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う。	
14	Unit 8～Unit 15で学んだテーマから1つを選び、データを用い反論も考慮に入れてプレゼンテーションを行う。	
15	これまでに学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、後期の振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『CLIL Discuss the Changing World 2』. Miyako Nakaya et al. 2023. 成美堂. ISBN:978-4791972685
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＢⅠ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	グレン　ノリス						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者CEFR B2の能力を有すると判断された者、また英語ＣⅠ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業ではSDGsに関連するテーマを様々な活動を通して学び発信することにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。 *SDGs関連科目	・SDGsに関連するテーマについて映像教材も利用して情報を得て、グローバル、ローカルの両方の視点から理解する。 ・統計データを利用してディスカッションやライティングを行い、自分の考えを発信することができる。 ・CEFR B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい、履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1) Good Health and Well-beingをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
3	Unit 1 (2)　Good Health and Well-beingについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
4	Unit 2 (1) Life on Landをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
5	Unit 2 (2) Life on Landについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
6	Unit 3 (1) Reduced Inequalityをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
7	Unit 3 (2) Reduced Inequalityについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
8	Unit 4 (1) Climate Actionをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
9	Unit 4 (2) Climate Actionについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
10	Unit 5 (1) Sustainable Cities and Communitiesをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
11	Unit 5 (2) Sustainable Cities and Communitiesについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフライティンを行う。	
12	Unit 6　Gender Equalityをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、テーマについてデータも用いて意見交換する。	
13	Unit 7　Quality Educationをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、意見交換する。	
14	Unit 1～Unit 7でこれまで学んたことがらから各自 1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする。	
15	Unit 1～Unit 7でこれまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］ ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。［30分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Facing Challenges』. 2025. Peter J. Collins・小林めぐみ. 金星堂. ISBN: 978-4764742239
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＢⅡ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	グレン　ノリス						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者CEFR B2の能力を有すると判断された者、また英語ＣⅠ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業ではSDGsに関連するテーマを様々な活動を通して学び発信することにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。 *SDGs関連科目	・SDGsに関連するテーマについて映像教材も利用して情報を得て、グローバル、ローカルの両方の視点から理解する。 ・統計データを利用してディスカッションやライティングを行い、自分の考えを発信することができる。 ・CEFR B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語ＢⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、Unit 8 (1) Responsible Consumption and Productionをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
2	Unit 8 (2)　Responsible Consumption and Productionについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
3	Unit 9 (1) Life Below Waterをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
4	Unit 9 (2) Life Below Waterについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
5	Unit 10 (1) Decent Work and Economic Growthをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
6	Unit 10 (2) Decent Work and Economic Growthについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
7	Unit 11 (1) No Povertyをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
8	Unit 11 (2) No Povertyについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
9	Unit 12 (1) Affordable and Clean Energyをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
10	Unit 12 (2) Affordable and Clean Energyについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
11	Unit 13 (1) Clean Water and Sanitationをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
12	Unit 13 (2) Clean Water and Sanitationについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
13	Unit 14 Industry, Innovation and Infrastructureをテーマにビデオ視聴、リーディング、リスニング活動を通じて内容理解し、それについての意見交換を行う。	
14	Units 8-14からテーマを各自一つ選びスピーチ/プレゼンテーションをする。Peer reviewを行う。	
15	Unit 8～Unit 14の復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］ ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。［30分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Facing Challenges』. 2025. Peter J. Collins・小林めぐみ. 金星堂. ISBN: 978-4764742239
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＣＩ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	カーラ　カリー						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者、CEFR B1～ B2の能力を有すると判断された者、また英語　ＤＩ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力が求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・日常的な身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。 ・得た情報をもとに言語使用ができる。 ・会話ストラテジーや適切な文法を用いてコミュニケーションが行えるようになる。 ・CEFR B1～B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1: Staying Connected (1) smartphonesをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､現在進行形・過去進行形が正しく使えるようになる。	
3	Unit 1: Staying Connected (2) リーディングによりsmartphonesの問題について理解し、グループディスションやライティングを通じて自分の考えをまとめ、発信する。グループワークでリサーチ、ディスカッションを行い、クラスで共有する。	
4	Unit 2: Eat Your Way around the World (1) international foodをテーマにリスニング、英会話、内容を理解する。必要語彙、分詞形容詞が正しく使えるようになる。	
5	Unit 2: Eat Your Way around the World (2) リーディングによりtable mannersについて理解し、グループディスカッションやライティングを通じて自分の考えをまとめ､発信する。グループワークでdinner menuを考案しクラスで共有する。	
6	Unit 3: The Magic of Music (1) musicをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､関係代名詞が正しく使えるようになる。	
7	Unit 3: The Magic of Music (2) リーディングによりmusic festivalについて理解し、グループディスカッションやライティングを通じて自分の考えをまとめ､発信する。グループワークでmusicについての共通点を見つけ、クラスで共有する。	
8	Unit 1 ～Unit 3の復習 Unit 1～Unit 3で学んだテーマから1つを選び､ショートスピーチを行う。	
9	Unit 4: It's Travel Time (1) travelをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､現在完了が正しく使えるようになる。	
10	Unit 4: It's Travel Time (2) リーディングによりbackpacking tripsについて理解し、グループディスカッションやライティングを通じて自分の考えをまとめ､発信する。グループワークで旅の経験を質問し合い、クラスで共有する。	
11	Unit 5: For the Love of Shopping (1) shoppingをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙、take/cost/spend等の動詞が正しく使えるようになる。	
12	Unit 5: For the Love of Shopping (2) リーディングによりshopping habitsについて理解し、グループディスカッションやライティングを通じて自分の考えをまとめ､発信する。グループワークで買物行為の共通点を見つけ共有する。	
13	Unit 6: A Nod to Nature (1) natureをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､倒置文､時を表す従属節が正しく使えるようになる。	
14	Unit 6: A Nod to Nature (2) リーディングによりThe Northern Lightsについて理解し、グループディスカッションやライティングを通じて自分の考えをまとめ､発信する。グループワークでSeven Natural Wondersをリサーチし共有する。	
15	Unit 4～Unit 6で学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションをする。 これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末ト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Live　Horizons, Book 2』. Teruhiko Kadoyama et al. 2026. 成美堂. ISBN: 978-4-7919-7333-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＣⅡ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	カーラ　カリー						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＣⅠを学修した者を対象に開講する。またCEFR B1～B2程度の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力が求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・日常的な身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。 ・得た情報をもとに言語使用ができる。 ・会話ストラテジーや適切な文法を用いてコミュニケーションが行えるようになる。 ・CEFR B1～B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語ＣⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、 Unit 7:People's Many faces (1) people's looksをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､It's … that等の分裂文が正しく使えるようになる。	
2	Unit 7: People's Many Faces (2) リーディングによりfirst impressionsについて理解し、グループディスションやライティングを通じて自分の考えをまとめ、発信する。グループワークで人物描写のゲームを行い、クラスで共有する。	
3	Unit 8: Fighting for Wildlife (1) endangered animalsをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､used to/be used to/get used to等が正しく使えるようになる。	
4	Unit 8: Fighting for Wildlife (2) リーディングによりfights for wildlifeについて理解し、グループディスションやライティングを通じて自分の考えをまとめ、発信する。グループワークでリサーチを行い、クラスで共有する。	
5	Unit 9: Sweeping through the Supermarket (1) grocery shoppingをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､可算/不可算名詞が正しく使えるようになる。	
6	Unit 9: Sweeping through the Supermarket (2) リーディングによりself-checkout machines等について理解し、グループディスションやライティングを通じて自分の考えをまとめ、発信する。グループワークでshoppingのゲームを行い､クラスで共有する。	
7	Unit 7～Unit 9の復習 Unt 7～Unit 9から1つのテーマを選び､スピーチを行う。	
8	Unit 10: When Disaster Strikes (1) natural disastersをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､条件文が正しく使えるようになる。	
9	Unit 10: When Disaster Strikes (2) リーディングによりpreparation for disasterについて理解し、グループディスションやライティングを通じて自分の考えをまとめ、発信する。グループワークでリサーチを行い､クラスで共有する。	
10	Unit 11: The Heart of Art (1) artをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､冠詞 a/an/theが正しく使えるようになる。	
11	Unit 11: The Heart of Art (2) リーディングによりartistsについて理解し、グループディスションやライティングを通じて自分の考えをまとめ、発信する。グループワークでexhibitionについてリサーチを行い、クラスで共有する。	
12	Unit 12: Essential Everyday Devices (1) electric appliancesをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､句動詞が正しく使えるようになる。	
13	Unit 12: Essential Everyday Devices (2) リーディングによりsmart homesについて理解し、グループディスションやライティングを通じて自分の考えをまとめ、発信する。グループワークでsmart home designを行い、クラスで共有する。	
14	Review (Unit 7 - Unit 12)に取り組む。プレゼンテーションの準備をする。	
15	Unit 7～Unit 12から1つのテーマを選び、プレゼンテーションを行う。 これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Live Horizons, Book 2』. Teruhiko Kadoyama et al. 2026. 成美堂. ISBN: 978-4-7919-7333-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＤⅠ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	エリック　モーニン						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当する者、CEFR A2+ ～ B1の能力を有すると判断された者、また英語ＥⅠ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力が求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・海外メディアのビデオ映像を手がかりに現代社会の様々なトピックについて知り、リスニング、リーディングを通じて理解を深め、発信に活かすことができる。 ・得た情報を元に批判的思考ができる。 ・CEFR A2+～B1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい、履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1) Unique Travel Experiences　旅行について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
3	Unit 1 (2) Unique Travel Experienceについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
4	Unit 2 (1) Our Future Under Water? 気候変動について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
5	Unit 2 (2) Our Future Under Water?について要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
6	Unit 3 (1) A DIY-Sushi Party with Friends 和食について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
7	Unit 3 (2) A DIY-Sushi Party with Friendsについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
8	Unit 1～Unit 3の中から1つのテーマを選びショートスピーチを行う Unit 4 (1) Australia's Cockatoos ペットについての質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する	
9	Unit 4 (2) Australia's Cockatoosついてビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。 Unit 5 (1) How to Become a Good Journalist 報道について質問に答えた後でビデオ視聴する。	
10	Unit 5 (2) How to Become a Good Journalistについてリーディング、要約で理解を深め、職業について自分の意見をまとめる。	
11	Unit 6 (1) Universal Credit 貧困問題について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する。	
12	Unit 6 (2) Universal Creditについてビデオ視聴で理解を深め、リサーチをして意見をまとめる。	
13	Unit 7 Cooling is Heating? エネルギー問題についてリーディング、要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
14	Unit 1～Unit 7で学んだテーマから一つを選びプレゼンテーションを行う。Peer reviewを行う。	
15	前期の学習の確認(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Integrity　Beginner』竹内理他. 2023年.　金星堂 ISBN:9784764741744
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＤⅡ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	エリック　モーニン						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語DIを学修した者を対象に開講する。またCEFR A2+～B1程度の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す〈やり取り/発表〉・書く）の向上を目指す。	・海外メディアのビデオ映像を手がかりに現代社会の様々なトピックについて知り、リスニング、リーディングを通じて理解を深め、発信に活かすことができる。 ・得た情報を元に批判的思考ができる。 ・CEFR A2+～B1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語ＤⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 8（1）Fashion's Resale Revolution ファッションに関連する質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
2	Unit 8（2）Fashion's Resale Revolutionについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
3	Unit 9（1）Finding Treasures in the Trash リサイクルについて質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
4	Unit 9（2）Finding Treasures in the Trashについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
5	Unit 10（1）Climate Protesters Going to Prison 社会運動について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
6	Unit 10（2）Climate Protesters Going to Prisonについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
7	Unit 8～Unit 10の中から1つのテーマを選び、ショートスピーチを行う。 Unit 11（1）The Changing Meaning of "Home" 家庭について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
8	Unit 11（2）The Changing Meaning of "Home" 家庭について要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
9	Unit 12（1）Women Still Dying in Pregnancy 発展途上国に関連する質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する。	
10	Unit 12（2）Women Still Dying in Pregnancyについてビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
11	Unit 13（1）Struggling to Gain the Right to Vote　参政権について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する。	
12	Unit 13（2）Struggling to Gain the Right to Vote　ビデオ視聴で理解を深め、リサーチをして意見をまとめる。	
13	Unit 14　Feeling Alive throughout Life 長寿についてリーディング、要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
14	Unit 8～Unit 14で学んだテーマから一つを選びプレゼンテーションを行う。Peer reviewを行う。	
15	後期の学習の確認（定期試験に向けての質問タイムを含む）、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	（小テスト・発表・タスク・リフレクション等） ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	（単元テスト/中間テスト + 定期テスト） 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Integrity Beginner』竹内理他. 2023年.　金星堂 ISBN:9784764741744
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＥⅠ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者、CEFR A2程度の能力を有すると判断された者、また英語　ＦⅠ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法等を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く)の向上を目指す。	・日常のさまざまなテーマについて、リスニング、リーデングにより正しく内容理解ができる。 ・学んだ内容について、要点を確認した後、発信に用いることができる。 ・CEFR A2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等) Self-introduction	
2	Module 1 人物紹介 Unit 1 Match,Scan,Focus,Listenの活動で紹介の仕方を学び、自己紹介の準備をする。	
3	Module 1 人物紹介　 Unit 1 Communicateの活動で実践。Unit 2 Readの活動で自己紹介文を理解する。	
4	Module 1 人物紹介 Unit 2　Readの内容確認、Writeの活動のあと、3段落の自己紹介を書く。	
5	Module 1 人物紹介 Unit 2　Writeで書いた自己紹介を修正し、Vocabulary、言語形式を確認する。	
6	Module 1 到達度確認テスト Module 2 ファッション　Unit 3 Match,Scan,Focus,Listenの活動でファッションについての表現を学ぶ。	
7	Module 2 ファッション　Unit 3 Listen, Communicationの活動でファッションについてペア活動をする。	
8	Module 2 ファッション　Unit 4 Readの活動で内容を確認し、Writeの活動の後、自分のファションスタイルについて書く。	
9	Module 2 ファッション　Unit 4　Writeで書いた英文を修正し、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
10	Module 2 到達度確認テスト Unit 1～Unit 4から1つテーマを選び､ショートスピーチをする。	
11	Module 3 食べ物 Unit 6 Match,Scan,Focus,Listenの活動で外国の料理について学ぶ。	
12	ModModule 3 食べ物 Unit 6 Listen, Communicationの活動で食べ物についての好みについて､及びCommunication Bの追加質問を用いて世界の料理についてペア活動をする。	
13	Module 3 食べ物 Unit 7 Readでレストランについての文章を理解し、Writeの活動の後、お気に入りのレストランについて英文を書く。	
14	Module 3 食べ物 Unit 7　お気に入りのレストランについての英文を修正して口頭発表する。Vocabulary、言語形式の確認をする。	
15	Unit 6～Unit 7から1つテーマを選び、プレゼンテーションを行う。 これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Framework English A』 Colin Thompson, Tim Woolstencroft著. 2024年.　金星堂 ISBN:9784764742000
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＥⅡ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＥⅠの単位を修得した者を対象に開講する。またCEFR A2程度の能力を有すると判断された者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法等を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・日常のさまざまなテーマについて、リスニング、リーデングにより正しく内容理解ができる。 ・学んだ内容について、要点を確認した後、スピーキング、ライティングに適切に用いることができる。 ・CEFR A2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語EⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション、前期の振り返り等 Module 4 ライフスタイル　Unit 8 Match, Scanの活動でライフスタイルについての表現を学ぶ。	
2	Module 4 ライフスタイル　Unit 8 Focus, Listenの活動でライフスタイルについての表現を学美、ペア活動をする。	
3	Module 4 ライフスタイル　Unit 9 Readの内容確認、Writeの活動の後、自分のライフスタイルについて書く。	
4	Module 4 ライフスタイル　Unit 9　英文修正の後、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
5	Module 4 到達度確認テスト Module 5 旅行　Unit 11 Match, Scan, Focus, Listenの活動で世界の観光地について学ぶ。	
6	Module 5 旅行　Unit 11 Listenの活動を参考に自分の意見をまとめ、Communicateでグループ活動を行う。	
7	Module 5 旅行　Unit 12 Readで旅行についての文章を理解し、Writeの活動の後、旅行について3段落の英文を書く。	
8	Module 5 旅行　Unit 12 Writeで書いた英文を修正し、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
9	Module 5 到達度確認テスト Unit 8～Unit 12から1つテーマを選び、ショートスピーチをする。	
10	Module 6 規則　Unit 13 Match, Scan, Focus, Listenの活動で世界のさまざまな規則について学ぶ。	
11	Module 6 規則　Unit 13 Communicateで規則についてのペア活動を行う。	
12	Module 6 規則　Unit 14 Readで高校・大学の規則について読み、Writeの活動の後、高校・大学の規則について英文を書く。	
13	Module 6 規則　Unit 14　Writeで書いた英文を修正し、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
14	これまで学んだテーマから1つを選び、プレゼンテーションを行う。Peer reviewをする。	
15	これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Framework English A』 Colin Thompson, Tim Woolstencroft著. 2024年.　金星堂 ISBN:9784764742000
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＦⅠ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者を対象に開講する。またCEFR A1程度の能力を有する者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能(聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く)の向上を目指す。	・自己紹介など日常生活で使用する身近な表現や簡単な語彙、基礎的表現を用いて、理解、発信できるようになる。 ・基本文型、現在形、過去形等、文法の基礎を理解し、発信に用いることができるようになる。 ・CEFR A1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。または「英語基礎」の単位を修得済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい、履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1) 動詞の現在時制(be動詞)の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて朝の日課の表現を学ぶ。	
3	Unit 1 (2) 人物紹介の英文を理解し、自己紹介と朝の日課についてのライティングと発表を行う。	
4	Unit 2 (1) 動詞の現在時制(一般動詞)の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて朝食についての表現を学ぶ。	
5	Unit 2 (2) 朝食について述べる英文を理解し、朝食についてのライティングと発表を行う。	
6	Unit 3 (1) 名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて通学準備についての表現を学ぶ。	
7	Unit 3 (2) 通学準備について述べる英文を理解し、自分の通学準備についてのライティングと発表を行う。 Unit 1 ～ Unit 3の振り返り、到達度確認テスト	
8	Unit 4 (1) 代名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて大学の授業についての表現を学ぶ。	
9	Unit 4 (2) アメリカの大学授業について述べる英文を理解し、自分の大学の授業についてのライティングと発表を行う。	
10	Unit 5 (1) 前置詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて昼食についての表現を学ぶ。	
11	Unit 5 (2) アメリカの大学での昼食について述べる英文を理解し、自分の大学での昼食についてライティングを行う。 Unit 6 (1) Wh-疑問文の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてショッピングについての表現を学び、ライティングを行う。	
12	Unit 6 (2) 様々な活動を通じてさらにショッピングについての表現を学び、ライティングの発表を行う。 Unit 7 (1) 過去時制の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて街の様子や交通機関についての表現を学び、ライティングを行う。	
13	Unit 7 (2)様々な活動を通じてさらに街の様子や交通機関についての表現を学び、ライティングの発表を行う。	
14	Unit 4 ～ Unit 7の振り返り、到達度確認テスト。 Unit 1～Unit 7で学んだことから各自 1つのテーマを選び、スピーチ/プレゼンテーションを行う。Peer review を行う。	
15	これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『English Day!』,Robert Hickling著,2023年,金星堂,ISBN: 9784764741690
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＦⅡ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＦⅠの単位を修得した者を対象に開講する。またCEFR A1程度の能力を有すると判断された者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・自由時間の過ごし方など日常生活で使用する身近な表現や語彙を用いて、理解、発信できるようになる。 ・現在完了形、受動態等を理解し、適切に用いることができるようになる。 ・CEFR A1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト等）。
履修条件	「英語FⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 8（1）現在進行形/過去進行形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて美術/芸術についての表現を学ぶ。	
2	Unit 8（2）美術/芸術について述べる英文を理解し、自分の趣味についてライティングと発表を行う。	
3	Unit 9（1）未来表現の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてカフェについて述べる。	
4	Unit 9（2）アメリカのカフェについて述べる英文を理解し、レストラン/カフェについてのライティングと発表を行う。	
5	Unit 10（1）現在完了形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてアルバイトについて述べる表現を学ぶ。	
6	Unit 10（2）アメリカのアルバイトについて説明する英文を理解し、自分の経験についてライティングと発表を行う。	
7	Unit 11（1）助動詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて趣味についての表現を学ぶ。	
8	Unit 11（2）様々な活動を通じて自由時間についての表現を学び、自分ことについてのライティングと発表を行う。 Unit 8～Unit 11の復習、振り返り。　到達度確認テスト	
9	Unit 12（1)不定詞と動名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて家事についての表現を学ぶ。	
10	Unit 12（2）家事について述べる英文を理解し、自分のことについて発表を行う。 Unit 13（1）比較級と最上級の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて自宅での自由時間について説明する表現を学ぶ。	
11	Unit 13（2）リーディング活動の後、自宅での自由時間について発表を行う。 Unit 14（1）接続詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて余暇についての表現を学び、ライティングの準備をする。	
12	Unit 14（2）余暇についての英文を理解し、ライティングの発表を行う。 Unit 15（1）受動態の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて運動についての表現を学び、ライティングの準備をする。	
13	Unit 15（2）運動について　ライティングを行い、お互いに発表し合う。	
14	Unit 12 ～ Unit 15の振り返り、到達度確認テスト。 これまでに学んだテーマから各自が選んだテーマについてプレゼンテーションを行う。Peer reviewを行う。	
15	これまでに学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	小テスト・発表・タスク・リフレクション等） ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	（単元テスト/中間テスト + 定期テスト） 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①1回目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『English Day!』,Robert Hickling著,2023年,金星堂,ISBN: 9784764741690
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	アクティブ・イングリッシュC			開講学科	社会学部	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	2・3年	開講時期	通年	単位	3単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は，大学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。 本科目は、学内の手続きを経て承認された学生が、本学の提携校で、英語力向上をめざして3週間以上の研修を行う。学生は担当教員の指導の下、計画段階（事前学習）から実施（留学）及び終了段階（事後学習）まで見通しをもって主体的に取り組む。留学先では、英語研修、寮滞在の経験を通じ、また留学先アドバイザーの指導の下で、英語力や専門に関する学びを深めるだけでなく、現地の人々等と交流し、国際的な視野を広げる。帰国後は、事後学習においてレポートを作成、発表し、個々の学びの共有化を図る。	・留学目的を明確にし、指導教員等のアドバイスに留意しつつ留学計画立案・諸準備等に計画的かつ主体的に取り組むことができる。 ・事前学習では、英語力を高め、異文化理解への態度・スキルを養うとともに、授業の全体計画や留学先での研修内容や記録の仕方を理解することができる。 ・提携校での研修では、研修の目的や計画に沿った研修を行うとともに地域の人々との交流を英語で積極的に実行することができる。また、日々の研修内容を英文で記録するなど、帰国後の発表活動の準備も自力で行うことができる。 ・事後学習では、研修中の記録をもとにレポートを英文で作成する。その際、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。作成したレポート内容をもとに海外留学報告を英語で行うことができる。

教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、提携校での研修(オリエンテーション、提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)
履修条件	英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、大学および施設でのルールが守れる者。以上の条件を満たして、学科指定の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前学習① オリエンテーション：渡航・留学先での研修及び事後学習までの本授業の目標と内容を正しく理解するとともに、主体的に取り組む姿勢や意欲を高める。	
2	事前学習②　研修先で自己紹介、故郷紹介、日本文化紹介がスムーズにできるようにグループで役割分担して練習をする。また、留学先及び現地での生活や学修に必要な英語表現を学ぶ。	
3	事前学習③　留学先機関・地域についての調査を行いまとめる。研修先での学修についての自己のテーマや計画を明確にし、英文にまとめ、研修先に伝えられるようにする。	
4	提携校での研修、オリエンテーション、ホームステイまたは寮滞在	
5	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
6	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
7	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
8	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
9	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
10	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
11	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
12	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
13	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
14	事後学習①　研修中の記録に基づき、英文でレポートを作成する。その際に、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。また、海外留学報告会を学生主体で準備をする。(開催案内のチラシ作成と告知)	
15	事後学習② 海外留学報告会において、作成したレポートをもとに、英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行う。運営全般や進行なども学生主体で行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	15	①留学への取り組み、計画書等諸書類作成に適切かつ積極的に取り組んでいるかどうかを評価する ②英語運用力測定	留学先での英語学習・調査研究に関する評価	60	研修先での成績や活動に基づき総合的に評価する
留学中の報告書	10	定期的に留学に関する報告書が提出されているかどうかを評価する	事後学習	15	①帰国後にレポートを提出するとともに日本語と英語で留学の報告を行い、これを評価する ②英語運用力測定

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
留学の目的を明確にし、1年以上前から継続して英語の学習をすること。［毎日40分］英語研修が目的の学生は目的とするレベルを明確にし、英語の授業等をできるだけ多く履修し、積極的に参加すること。調査研究が目的の学生はアドバイザーの指導の下、専門的な内容をまとめておき、渡航先での調査目的・方法等を明確にしておくこと。英語で説明できるように準備する。［毎日30分］	適宜行う。

受講生に望むこと	現地では独力で問題解決する必要に迫られるため、日ごろから情報収集・計画の立案・実施・評価等をする力を養うこと。英語力は4技能が必要である、会話だけではなく読み書き・論理的思考力向上にも励むこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『今日から使える！留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、バーウィック妙子・著、アルク、2016年（ISBN: 978-4757426658）	その他・特記事項	・提携校指定英語集中クラスについてはアドバイザーから別途詳細についてのガイダンスを受ける。 ・英検2級程度の英語力がある者に限る。準備の過程で、学生生活および学業の面で問題があると判断した場合には、留学を中止することもある。「留学の手引き」をよく読むこと。 ・事前・事後学習の一環として英語力測定を受ける ・留学時期によって報告会が年度内に不可能な場合は別途指示する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	中国語Ⅰ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	渡邉　彩奈						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、中国語の「話す・聞く・読む・書く」技能をバランスよく身につけ、自らの考えを口頭や文章によって他者に伝えられるようになることを目的とする。中国語を単に「知識」として知るだけでなく、実際に運用できる能力を習得し、社会においてもこれを活用できるようにする。実際の授業では、まず単語と文法を学び、その後対話文や長文を通して文法の定着を図る。中国語を学びながら中国の文化や社会に関する理解を深める。	①発音の基礎を身につけ、中国語を正確に発音できるようになる。 ②中国語を用いてコミュニケーションがとれるようになる。 ③中国語の文法を理解する。 ④中国語の基本的な知識を身につけ、文章を作ることができるようになる。

教授方法	基本的に講義形式による授業となるが、学生同士でのロールプレイなどの表現練習も行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス(授業の進め方と成績評価の方法についての説明)後、声調（音の高低）・軽声・単母音を習得する。	
2	声調・軽声・単母音を復習後、子音の発音を習得する。	
3	子音を復習後、複母音と鼻母音の発音を習得する。	
4	声調変化やｒ化など、ピンインを読む際のルールを習得する。	
5	発音編を総復習後、簡単な日常会話を習得する。 自分の名前を中国語で言えるようになる。	
6	第1課「我是中国留学生」（新出語句・文法要点・会話文） 中国語を用いた自己紹介、さらに相手の専攻を尋ねたり自分の身分を言えるようになる。	
7	第1課「我是中国留学生」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
8	第2課「你今年多大？」（新出語句・文法要点・会話文） 年齢や誕生日、出身の尋ね方と答え方などを習得する。	
9	第2課「你今年多大？」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
10	第3課「你会做包子　？」（新出語句・文法要点・会話文） 曜日、時刻の言い方、助動詞“会”と“能”「～できる」の使い方を習得する。	
11	第3課「你会做包子　？」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
12	第4課「我　去快餐店」（新出語句・文法要点・会話文） 進行形、指示代名詞、連動文、比較文を習得する。	
13	第4課「我　去快餐店」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
14	前期に学んだ学習内容をもとに、自己紹介文を作成する。	
15	期末試験に備えて、前期の学習内容の総復習を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内の活動・課題（毎回）	10	授業内で行われる質疑応答やペアでの表現練習などに積極的に参加する姿勢、課題の完成度で評価する。	小テスト（適宜）	30	1課が終了するごとに、学習到達度確認のための小テストを行う。
自己紹介文の完成度（第14回）	10	前期に習得した文法を用いて自己紹介文を作成する。その完成度で評価する。	期末試験（第16回）	50	授業内容を十分に理解できているか確認するために、筆記試験を実施する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それから音声を聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[30分] ②授業後は新出単語（発音、ピンイン、簡体字）、新たに学習した文法項目を復習し、授業で課された練習問題に取り組むこと。[50分] ③自己紹介文を作成することを考えて、あらかじめ内容を準備すること。[10分]	①小テストや課題は添削・採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 ②第14回授業で作成する自己紹介文は添削後に返却する。 ③採点や評価等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	語学は積み重ねが大事です。多くの中国語を聞き、積極的に話すようにしてください。授業後は復習をしっかりおこない、語彙や文法の知識を積み上げていきましょう。単語を調べるときは辞書を用いてください。	教科書・テキスト	『バンバン（棒棒）！中国語』　艾玉霞・符麗紅・渡邉彩奈・趙菁 著　朝日出版社　2026年　ISBN 978-4-255-45422-1
指定図書／参考書等	なし／『日中辞典[第３版]』小学館　2015年　ISBN 978-4095-156538 『中日辞典[第３版]』小学館　2016年　ISBN 978-4095-156040 『Ｗｈｙ？にこたえるはじめての中国語の文法書＜新訂版＞』相原茂・石田知子・戸沼市子 著　同学社　2016年　ISBN 978-4-8102-0327-1	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	中国語Ⅱ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	渡邉　彩奈						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では中国語を用いて自らの考えや意見を表現できるようになることを目的とする。前期に習得した「話す・聞く・読む・書く」スキルをさらにレベルアップさせ、表現の幅を広げる。実際の授業では、まず単語と文法を学び、その後対話文や長文を通して文法の定着を図る。語学を身につけると同時に、教科書の会話や本文を通して、中国への知識や理解をより一層広める。中国語を単に「知識」として知るだけでなく、実際に運用できる能力を習得し、社会においてもこれを活用できるようにする。	①中国語を正確に発音できるようになる。 ②中国語でコミュニケーションを取れるようになる。 ③中国語の構造に関する知識を身につけ、いくつかの文法が混在した複雑な構造の文を作ることができるようになる。 ④習得した文法や語彙を用いて、自分の考えを他者に伝えられるようになる。

教授方法	基本的に講義形式による授業となるが、学生同士でのロールプレイなどの表現練習も行う。
履修条件	「中国語Ⅰ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス(授業の進め方と成績評価の方法についての説明)後、前期学習内容（第1課から第4課）を復習する。	
2	第5課「　来的礼物」(新出語句・文法要点・会話文) 方向補語、結果補語、動詞の重ね型、動詞“喜　”「好む」、“是～的”構文を習得する。	
3	第5課「　来的礼物」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
4	第6課「去百元店」(新出語句・文法要点・会話文) 助動詞“想”「～したい」、形容詞述語文、可能補語、お金の言い方、数量詞、存現文を習得する。	
5	第6課「去百元店」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
6	第7課「一定会　得更好的」(新出語句・文法要点・会話文) 選択疑問文、“因　”、主述述語文、様態補語、断定を表す助動詞“会”を習得する。	
7	第7課「一定会　得更好的」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
8	第8課「在听中国歌曲」(新出語句・文法要点・会話文) 使役文、連体修飾語、助詞“　”「～したことがある」、受け身文、二重目的語構文を習得する。	
9	第8課「在听中国歌曲」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
10	第9課「成人　快要到了」(新出語句・文法要点・会話文) 近未来表現、助動詞“要”、反復疑問文、処置文、離合動詞を習得する。	
11	第9課「成人　快要到了」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
12	第10課「越学越有意思」(新出語句・文法要点・会話文) 比喩表現、「少し」を表す副詞“有点儿”と数量詞“一点儿”などを習得する。	
13	第10課「越学越有意思」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
14	前期と後期の学習内容をもとに、自由なテーマで長文を作成する。	
15	期末試験に備えて、後期の学習内容の総復習を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内の活動・課題（毎回）	10	授業内で行われる質疑応答やペアでの表現練習などに積極的に参加する姿勢、課題の完成度で評価する。	小テスト（適宜）	30	1課が終了するごとに、学習到達度確認のための小テストを行う。
自由テーマ文の完成度（第14回）	10	習得した文法を用いてテーマを自由に文章を作成する。その完成度で評価する。	期末試験（第16回）	50	授業内容を十分に理解できているか確認するために、筆記試験を実施する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それから音声を聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[30分] ②授業後は新出単語（発音、ピンイン、簡体字）、新たに学習した文法項目を復習し、授業で課された練習問題に取り組むこと。[50分] ③自由テーマ文を作成することを考えて、あらかじめ内容を準備すること。[10分]	①小テストや課題は添削・採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 ②第14回授業で作成する自由テーマ文は添削後に返却する。 ③採点や評価等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	前期に比べて複雑な文法項目が多いので、必ず復習をしましょう。 学期末には一年間で習得した文法を用いて文章を作成してもらいます。 あらかじめどのような内容にするのかを考えておきましょう。	教科書・テキスト	『バンバン（棒棒）！中国語』　艾玉霞・符麗紅・渡邉彩奈・趙菁 著　朝日出版社　2026年　ISBN 978-4-255-45422-1
指定図書／参考書等	なし／『日中辞典[第３版]』小学館　2015年　ISBN 978-4095-156538 『中日辞典[第３版]』小学館　2016年　ISBN 978-4095-156040 『Ｗｈｙ？にこたえるはじめての中国語の文法書＜新訂版＞』相原茂・石田知子・戸沼市子 著　同学社　2016年　ISBN 978-4-8102-0327-1	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	フランス語Ⅰ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	ロイック　メノウ						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語科目として開講される。前期にフランス語を学んだ学生を対象に、基礎の上に更に時制やテキストの後半部分の文法や基本文型などを一通り説明する。前期と同じく口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学ぶ。また言葉だけでなく言葉の背景となるフランスの文化について様々な角度から知り、体験していく。フランス社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学ぶ。	①フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要なフランス語表現を理解できるようにする。 ②言葉だけではなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することはその国の文化を深く知り、また世界的な視野が展がることあり、言語を通してその実感を体験する。

教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	フランス語の基礎，アルファベ，綴り字の読み方，発音のルール，リエゾン・アンシェヌマン Eléments de base / prononciation	
2	挨拶，授業で使う表現　Salutations Bonjour, Madame.　Salut, Paul.　Ça va?	
3	自己紹介・国籍・身分・名前の言い方，人称代名詞　je/tu の使い方，動詞　êtreの活用形・否定形・疑問形 Est-ce que tu es japonais?　verbe négation, questions fermées	
4	名詞の性・数　masculin/féminin canadien（s）　canadienne（s）chinois (e)(s)	
5	定冠詞・不定冠詞　un, une, des, le, la, l', les C'est une école.	
6	住んでいるところ・言語・学科を言う，第一群規則動詞，否定形ne...pas J'habite à Tokyo.　Je parle français.　Je n'habite pas à Paris.	
7	第一群規則動詞 -er　疑問形・否定形の口頭練習 Vous parlez français?　Non, je ne parle pas français.	
8	動詞 avoirの活用，年齢・好みをいう，数(11～20) J'ai un frère.　J'ai vingt ans.　J'aime le cinéma	
9	動詞 avoirの否定形・疑問形の口頭練習，不定冠詞，否定文中のde，avoirを使った表現 Je n'ai pas de frère.　j'ai faim.　J'ai froid.	
10	食べる，飲む，たずねる（何？　いくつ？），部分冠詞 Tu manges du fromage.　Je prends du café.	
11	部分冠詞の否定形，カフェでの飲み物の注文の仕方の口頭練習 Je bois de l'eau. Je ne bois pas d'eau. Il y a une voiture. Il n'y a pas de voiture. Qu'est-ce que tu prends le matin? Je prends du café au lait.	
12	人・物を描写する，たずねる（誰？，どんな？），形容詞の性・数・位置，指示代名詞，所有形容詞 Il est grand. Elle est gentille. C'est un étudiant intelligent.　C'est mon père. Ce sont mes amis.	
13	形容詞の女性/男性形の例外 beau-belle gentil-gentille ennuyeux-ennuyeuse	
14	動詞aller/venirの活用　行先・国名，冠詞縮約(à) à+le-au/ (de) de+le-du Je vais en France.　Je vais à l'école.　Je vais aux Etats-Unis.　Je viens du bureau.	
15	行く・来る，人称代名詞強勢形，数（60～） Je suis étudiant.　Et toi?	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	学習内容をきちんと習得している。	受講態度	30	講義に積極的に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。 自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]	テキスト中にある練習問題を自主学習し、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします

受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び、理解することが容易になります。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	授業中に随時紹介します。	その他・特記事項	プリントや資料等は随時配布します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	フランス語Ⅱ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	ロイック　メノウ						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語科目として開講される。前期にフランス語を学んだ学生を対象に、基礎の上に更に時制やテキストの後半部分の文法や基本文型などを一通り説明する。前期と同じく口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学ぶ。また言葉だけでなく言葉の背景となるフランスの文化について様々な角度から知り、体験していく。フランス社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学ぶ。	①フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要なフランス語表現を理解できるようにする。 ②言葉だけではなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することはその国の文化を深く知り、また世界的な視野が展がることあり、言語を通してその実感を体験する。

教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。
履修条件	『フランス語Ⅰ』の単位を修得済みの者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	動詞aller/venirを使った近接未来・近接過去　futur proch/passé récent Tu vas sortir ce week-end ?　Je viens de finir mon travail.	
2	時刻，たずねる（何時？何時に？いつ？）（何をする？），第二群規則動詞finir/faireの慣用表現，家事について Quelle heure est-il?　Il est trois heures. A quelle heure …? quel? quand?　Je fais　la cuisine.	
3	代名動詞（再帰動詞）の疑問形 se coucher/s'appeler Je me couche à dix heures. Je m'appelle Sophie.	
4	時制や頻度を表す名詞や副詞　toujours, souvent, tous les jours, aujourd'hui, hier, demain	
5	pouvoir/vouloirの活用と表現　Je veux voyager.　Je peux sortir.	
6	たずねる（なぜ？），痛みに関する表現，Pourquoi?に対して　～ Parce-que の答え方 J'ai mal à la tête.	
7	日常の行動をいう，午前・午後・週などをいう，代名動詞／指示形容詞 Tu te lèves tôt?　A　quelle heure vous vous couchez?	
8	天気をいう，季節・月・週・午前・午後などの語彙 Il fait beau.　Il neige.　lundi,　hiver,　janvier	
9	場所をいう，道順をいう，冠詞の縮約(de)，前置詞，序数 Où est le café?　Il est en face de la maison.　dans, sur,　sous	
10	命令・義務の表現　命令形／il faut… Allez tout droit.　Il faut travailler.　Sois sage!	
11	過去のことを語る（1）-1　複合過去(passé composé) avoir + pp.　様々な否定（1） J'ai fait du tennis.　Je n'ai pas téléphoné.	
12	過去分詞の作り方，中性代名詞en Il a travaillé.　J'ai fini mon étude.　Je n'en ai plus.	
13	過去のことを語る（2）-1　複合過去(passé composé) être + pp.　様々な否定（2）・ être動詞を伴う動詞の種類 aller/venir/sortirなど・過去分詞は主語の性・数に一致する　Elle est allée au musée.	
14	複合過去(passé composé)の疑問分・否定文の作り方 Il est venu de la piscine?　Non, il n'est pas venu	
15	外国に行ったことがありますか？Il y aの使いかた（過去を表現する場合），中性代名詞　場所を表す副詞 y，半過去形 Tu　est déjà allé(e) à l'étranger?　Quad ça?　Il y a dix ans, j'étais à Paris.（10年前私はパリにいました	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	学習内容をきちんと習得している。	受講態度	30	講義に積極的に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。 自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]	テキスト中の練習問題を自主学習し、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。

受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び理解することが容易になります。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	授業中に随時紹介します。	その他・特記事項	プリントや資料等は随時配布します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	韓国語Ⅰ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	金　正逸						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語科目として開講される。韓国語を初めて学ぶ学生を対象に、ハングルの読み方や書き方、発音の基礎などを中心に、文法表現など一通りを学ぶ。韓国語はアルタイ語に属する子音１９個母音２１個で構成されている表音文字である。日本語と同じく漢字の音読みや固有語で形成されているために言語としての共通点が非常に多いのが特徴である。前期では１課から６課を中心に文字の練習を重点的に行う。各単語に付けられているイラストによって楽しく反復学習ができる。言語の学習は何よりも興味を持つことが大事で、ネットを通じる情報の確認や映画、ドラマ、歌など自分の好みに基づく様々なことに接するのを授業に応用する。	ハングルの子音と母音の読み書きができると共に簡単な単語の構成について理解ができる。言語学的に日本語や英語との共通点と違いを理解する。２１個の母音と１９個の子音の組み合わせによる文字としての表現の学習力を高めて後期から始める会話学習に備えることができる。自分の名前や簡単な単語の表現ができるようになる。

教授方法	グループ授業を原則として与えられた課題をグループの中で解決する方式で行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ハングルとは何?/ハングルの基本構成を理解して日本語との共通点と違いを理解する。	
2	ハングルの基本母音について/基本母音を理解する。	
3	ハングルの母音の活用について/母音の役割を理解し、言語としての活用法を理解する。	
4	ハングルの基本子音について/基本子音を理解する。	
5	ハングルの子音の活用について/子音の役割を理解し、言語としての活用法を理解する。	
6	子音と母音の組み合わせについて/子音と母音を組み合わせて自分の名前や家族の名前が書ける。	
7	子音と母音の復習/子音と母音を理解し、読み書きができる確認をする。	
8	パッチムとは?/日本語にはないパッチムの構造を理解する。	
9	パッチムの役割について/単語の練習を通じてパッチムの役割が理解できる。	
10	簡単な単語の練習/教科書を中心にグループ別に書く練習をする。	
11	ハングルキ-ボ-ドの打ち方/携帯電話やパソコンを用いてハングルキ-ボ-ドの打ち方ができる。	
12	韓国の文化について①/韓国の食文化や地域の特徴について理解する。	
13	韓国の文化について②/韓国の社会や教育、大学の文化を理解する。	
14	前期の復習①/前期の全般的な内容を理解する。	
15	前期の復習②/前期の全般的な内容についてグループ別に理解度を確認する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業の参加態度	20	授業に積極的に参加し、グループ内で活発な意見交換などを行う。	レポート	30	与えられたレポートを自分の意見として作成する。
試験	50	ハングルの読み書きに対する理解を基準とする。 １６回目に実施する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教科書を中心として予習と復習を前提とする。[30分] ハングルは漢字を使わないので英文字やひらがなのように基礎の段階では書く練習に基づく事前学習が必要である。[60分]	レポートは子音と母音に対する理解を確認する内容や単語の書く練習を兼ねたことが主になる。試験はハングルの音読みを基本として子音、母音、パッチムの理解を確認する。

受講生に望むこと	ハングルは基本子音と母音が理解できれば一年ほどで簡単な日記を書くことや基本会話ができる言語で、初めての言葉に対する難しそうという先入観を捨てることが大事である。 韓国語に興味を持ち韓国の様々な文化に対する知識を高めたいという意識を持って受講してほしい。	教科書・テキスト	『マルプンソンで学ぶ韓国語初級』李熙卿・白　仁子著,白帝社,2016年,ISBN9784863982093 必要に応じてプリントなどを用いる。
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	韓国語Ⅱ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	金　正逸						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語として開講される。前期の韓国語Ⅰを学んだ学生を対象に、口頭表現の発展を目指す。日常的に用いられるハングル文字の読み方や書き方を中心として、簡単な会話ができることをめざす。韓国語はアルタイ語に属する子音１９個母音２１個で構成されている表音文字である。日本語と同じく漢字の音読みや固有語で形成されているために言語としての共通点が非常に多いのが特徴である。後期では７課から１８課までに至る日常会話を中心とする授業になる。自己紹介から趣味などの多様な会話を身に付けることができる。言語の学習は何よりも興味を持つことが大事で、ネットを通じる情報の確認や映画、ドラマ、歌など自分の好みに基づく様々なことに接するのを授業に応用する。	個性的な自己紹介ができる。簡単な買い物ができる会話力を身につける。学校生活や週末、日常日課のことが表現できる。食べものの選び方や家族の呼び名、旅行時の簡単な会話ができる。交通手段の利用方法、約束のやり方、自分の能力の表現ができる。様々な趣味のことや自分のことが言えるようになる。

教授方法	グループ授業を原則として与えられた課題をグループの中で解決する方式で行う。
履修条件	「韓国語Ⅰ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	前期の全般的な復習/ハングルの基礎について理解している。	
2	自己紹介/みんなの前で自己紹介ができる。	
3	ショッピングのやり方/自分でショッピングができる。	
4	学校生活について/学校内にある色々な場所が言える。	
5	週末の時間過ごしの表現/週末の過ごし方が表現できる。	
6	一日の日課の表現/自分の日課の表現ができる。	
7	食べ物について/韓国の食べ物を言えることや味の表現ができる。	
8	家族の呼び名/自分の家族関係や数字が言える。	
9	旅行関係の表現/旅行時の簡単な会話ができる。	
10	交通便について/交通手段による乗り方ができる。	
11	約束の仕方/約束する時の表現ができる。	
12	自分の能力を表現する/自分ができることの能力について言える。	
13	趣味に対する表現/自分の趣味について言える。	
14	後期の復習①/後期に学習した会話の全般的なことが分かる。	
15	後期の復習②/後期に学習した会話をグループ別の理解度として確認する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業の参加態度	20	授業に積極的に参加し、グループ内で活発な意見交換などを行う。	レポート	30	与えられたレポートを自分の会話力を活用して作成する。
試験	50	聞き取りと会話力を基準とする。16回目に実施する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教科書を中心として基本会話の予習と復習を徹底して行う。[30分] 映画やドラマ、ネットなどを通じて聞き取りを反復して練習する。[30分] 授業時の会話文は次の時間まで覚えて置くこと。[30分]	レポートは自分と関わりを持つ内容として会話文を作成する。 試験は会話テストとして口述試験を行う。

受講生に望むこと	ハングルの語順は日本語と同じなので、単語力と助詞の活用法が分かれば簡単な日常会話を身に付けることができる。 韓国語に興味を持ち韓国の様々な文化に対する知識を高めたいという意識を持って受講してほしい。	教科書・テキスト	『マルプンソンで学ぶ韓国語初級』李熙卿・白　仁子著,白帝社,2016年,ISBN9784863982093 必要に応じてプリントなどを用いる。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯スポーツA（テニス）			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一・熊谷　史佳　（代表教員　永山　亮一）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、大学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 生涯スポーツとして実戦人口の多い「テニス」を実技種目とし、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「テニス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。	① テニスの競技特性を理解する。 ② テニスの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	対面授業によるスポーツ実技。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、用具の説明	熊谷
2	グリッピング、ラケットワーク	熊谷
3	基本ストローク（フォア）1：フォアハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。	熊谷
4	基本ストローク（フォア）2：フォアハンドストロークの打ち方の習得を目指す。	熊谷
5	基本ストローク（バック）：バックハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。	熊谷
6	基本ストローク（フォア・バック）：簡易ルールでフォアとバックを用いたゲームを楽しむ。	熊谷
7	基本ストローク（ボレー）：ボレーの打ち方を理解し、習得する。	熊谷
8	基本ストローク（サーブ）：サーブの打ち方を理解し、習得する。	熊谷
9	簡易ゲーム（フォア・バック・ボレー・サーブ）：簡易ルールでフォア、バック、ボレー、サーブを用いたゲームを楽しむ。	熊谷
10	講義：ルール説明と審判法：テニスの正式なルールと審判法を理解し、実際のゲームで活用できるようにする。	熊谷
11	ゲーム 1 ：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに審判の方法についてお互いに確認し合う。	熊谷
12	ゲーム 2 ：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに一人で審判ができるようにする。	熊谷
13	ゲーム 3 ：クラス内でダブルスのリーグ戦を行う。	熊谷
14	ゲーム 4 ：クラス内でダブルスのリーグ戦の続きを行う。	熊谷
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現ついて考える。	熊谷

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する ・実技に対して積極的に参加しているか ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか	種目毎に実施するスキルテスト	30	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につく。授業中に学んだことを自主練習することを勧める。その際の用具の貸し出しを行う。［準備体操を含め 60分程度］ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行うこと。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目のため、出席し実技に参加することを原則とする。 運動ができる服装で参加する。 主に屋外テニスコートで実技を行う。外履き用の運動靴を用意する。また、必要に応じて帽子など用意する。 詳しくは初回ガイダンスにて説明する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出ること。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意する。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯スポーツA（ゴルフ）			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、大学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ゴルフ」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ゴルフ」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。	① ゴルフの競技特性を理解する。 ② ゴルフの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	スポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ゴルフ競技の説明、用具の説明。ゴルフというスポーツを理解する。	全員
2	パッティングゲーム：パッティングゲームを通してゴルフのゲーム性に触れる。	全員
3	ショットの基礎①：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング 正しいグリップ、ポスチャー及びエイミングを理解し、ショートスイングを通して習得する。	全員
4	ショットの基礎②：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング ～ ハーフスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくしハーフショットまでの技術を習得する。	全員
5	ショットの基本①：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング ～ ハーフスイング ～ フルスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくしフルショットまでの技術を習得する。	全員
6	ショットの基本②：ボール弾道の法則とフェースコントロール ･･･スイング及びフェースの向きによって生じる９ 種類の弾道を理論として理解し、 各自のスイングの修正に結びつけることができるようになる。	全員
7	ショットの基本③：ＶＴＲによる視覚的フィードバック。 自分のスイングを映像で見ることで、体内感覚と実際の運動のずれを確認し、 修正することに結びつける。	全員
8	ショットの基本④：アプローチ 練習グリーンに向かってショットを行うことで、具体的な距離と方向を コントロールする技術を習得する。	全員
9	ショットの基本⑤：グリーン周りの技術 ～ パッティング グリーン周りの各種ショット技術及びパッティングの基礎技術を習得する。	全員
10	講義：ゴルフの歴史、ルールを理解する	全員
11	ショットの基本⑥：ショートアイアンとミドルアイアン～ウッドクラブ クラブを使い分けることで飛距離をコントロールする	全員
12	ターゲットバードゴルフ①：ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのゲーム性に触れる。	全員
13	ターゲットバードゴルフ②：ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのルール、ラウンド方法、マナーを 学習する。また、一回目のスコアを元に個人的に目標を立ててラウンドする。	全員
14	ショートゲームテストとまとめ	全員
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現ついて考える。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	種目毎に実施するスキルテスト	30	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につく。授業中に学んだことを自主練習することを勧める。その際の用具の貸し出しは行う。［準備体操を含め60分程度］ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行う。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目であるため、出席し、実技に参加することを原則とする。 運動のできる服装で参加する。 主にグランドで実技を行うので、外履きの運動靴を用意する。また、必要に応じて帽子、ゴルフグローブなどを用意する。 詳しくは初回ガイダンスにて説明する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/US PGA TOUR Golf Lesson Vol.1 ～ 7　MICO　ケンメディア	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出ること。 （事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意する。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯スポーツB			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、大学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 ここでは生涯スポーツとして実践人口も多く、社会体育としても積極的に導入されている「ニュースポーツ」を実技種目として採用する。 ニュースポーツは軽度な運動量に加え、初歩的な技術レベル及び筋力が低い者でも十分に楽しむ事ができるスポーツ群であると考えられ、スポーツに対して苦手意識を持つ者でも参加しやすく、スポーツの楽しみや喜びを感じやすいカテゴリーであると考えられる。そこからスポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的生活を営む能力と習慣の獲得につなげる。	① 各種ニュースポーツの競技特性を理解する。 ② 各種ニュースポーツの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	スポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：ニュースポーツというスポーツカテゴリーを理解する。	
2	フライングディスク①：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 各種投法を理解し、ディスクをコントロールして投げられるようになる。	
3	フライングディスク②：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 前回習得した技術を基に、ドッヂビーなどのゲームを楽しむ。。	
4	ソフトバレーボール①：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 オーバーパス、アンダーパスなどの基礎技術を習得する。	
5	ソフトバレーボール②：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基に簡易ゲームを行い、ルールを覚える。	
6	ソフトバレーボール③：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 リーグ戦形式で複数のゲームを楽しむ。	
7	インディアカ①：インディアカという競技を理解し、実践する。 インディアカボールを扱う基本的技術を習得する。	
8	インディアカ②：インディアカという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
9	フレッシュテニス①：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。 フレッシュテニスの基礎的技術を習得する。（ラケットワーク、フォアストローク、バックストローク）	
10	フレッシュテニス②：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。　習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
11	ユニホック①：ユニホックという競技を理解し、実践する。 ユニホックの基礎的技術を習得する。（スティックワーク、パス、ショット）	
12	ユニホック②：ユニホックという競技を理解し、実践する。　習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
13	タグラグビー①：タグラグビーという競技を理解し、実践する。　タグラグビーの基礎的技術を習得する。	
14	タグラグビー②：タグラグビーという競技を理解し、実践する。　習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
15	講義：小・中・高と体験してきた学校体育とは違ったスポーツの体験をまとめ、今後、生涯スポーツとして スポーツに親しむ礎とする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	70	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	授業中に実施するミニスキルテスト	20	スポーツ技術の習熟度をスキルテストによって確認する。 ・詳細は種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につく。授業中に学んだことを自主練習することを勧める。その際の用具の貸し出しは行う。〔準備体操を含め 60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行う。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目であるため、出席し実技に参加することを原則とする。運動のできる服装で参加する。主に体育館にて行うので、内履きの運動靴を用意する。 詳しくは初回ガイダンスにて説明する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出ること。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意する。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	健康科学			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 現在我々を取りまく生活環境は刻々と変化し、少子・高齢化社会・労働内容の合理化・自由時間の増大・食生活環境の変化といった様々な変化に適応・対処して行かなければならない。その中で健康的な生活を営んでいくためには、個人が自立して体力や健康の維持増進を図ることができる知識・能力を身につけること、各種スポーツの特徴を理解し積極的に余暇時間にスポーツ活動を取り入れていくこと、バランスのとれた運動と休養のタイミングを理解すること、肥満の解消に有効な運動の内容を理解し実践することなど、様々な事柄に対する理解を深める必要がある。本講義において、これらの基礎的な知識を学習することで、様々な環境に適応し、健康的で豊かな生活を送って行くための自己管理能力を身につける。	① 健康的な生活の意義を理解する。 ② 健康的な生活を営むために必要な事柄を理解する。 ③ 健康的な生活を自らデザインし、実践していく態度を身につける。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	健康の意義：健康的な生活の意義について理解を深める。	
2	健康的な生活①：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「栄養（食生活）」についての理解を深める。	
3	健康的な生活②：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「運動」についての理解を深める。	
4	健康的な生活③：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「休養」についての理解を深め、三大要素のバランスについて考える。	
5	健康を脅かすもの①：健康を脅かすものとして、「飲酒」「喫煙」に対する理解を深める。	
6	健康を脅かすもの②：健康を脅かすものとして、「薬害」「アレルギー」に対する理解を深める。	
7	健康を脅かすもの③：健康を脅かすものとして、「感染症」に対する理解を深める。	
8	健康を脅かすもの④：健康を脅かすものとして、「性感染症」について学ぶとともに「免疫機能」に関して理解を深める。	
9	健康を脅かすもの⑤：健康を脅かすものとして「生活習慣病」について理解を深める。 「肥満」「糖尿病」「高脂血症」「高血圧」	
10	健康を脅かすもの⑥：生活習慣病の理解とともに、代表的な死因との関係を学ぶ。 「虚血性心疾患」「脳血管障害」「悪性腫瘍」	
11	運動習慣と疾病の関係①：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。	
12	運動習慣と疾病の関係②：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。 「生活習慣病」と「肥満」の関連性を理解し、疾病予防についての運動習慣の有効性を学ぶ。	
13	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方① :健康を目的とした運動プログラミングの基本理論を理解する。	
14	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方②：健康を目的とした運動プログラミングの内容を考え、自分に合ったプログラムを作成できるようになる。	
15	まとめ：これまでに学習してきた内容をまとめ、各自において健康的な生活を営む計画を立案する。 また、その計画を実践できるような心構え・態度を獲得する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	40	受講態度を重視する。 ・学んだ内容を基に自分自身の生活を振り返り、健康的なモノへと変化させている。	学期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各講義を振り返り、分からなかった用語などを調べ、理解を深める。[30分] ②各講義の内容を自分の生活と結びつけ、健康的な生活へと改善を図る。[30分] なお、事前事後学習内容の詳細に関しては授業内で説明する。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	本講義で学ぶ内容を各々の生活に還元し、健康的な生活を営む礎とする。	教科書・テキスト	教員が作成するプリントを使用する。
指定図書／参考書等	なし/「現代人のための健康づくり」 石川県大学健康教育研究会編著　北國新聞社　2014年 ISBN：978-4-8330-1972-9	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	情報機器演習Ａ（社会学部）			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義の目的は２つある。第１は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。代表的なアプリケーションである文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法を習得する。第２は、AI活用が前提となる社会で活躍できる基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。これらの目的を満たすために、コンピュータを用いた演習形式の授業を行なう。	学内ネットワークを活用できる。 ②情報モラルについてNESSを用いた小テストに合格できる。 ③ゼミ活動のレポート作成に必要な文章編集能力を身につける。 ④基本的なExcel操作ができる。 ⑤プレゼンテーションソフトを用いた発表ができる。 ⑥タッチタイピングの能力が身につく。

教授方法	演習形式でおこなう。MicrosoftOfficeとGoogle Workspaceを活用する。NESSを用いたテストと振り返りを行なう。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：15回の流れと授業実施方法、評価方法を伝える。 学内環境・課題提出法レクチャー：学内ネットワーク活用・Google Workspace課題提出・情報モラルについて学ぶ	
2	汎用技能習得　：Microsoft Office とGoogle Workspace間のデータ往還について学ぶ。Word・Excel・PowerPoint、Googleドキュメント・スプレッドシート・スライドの基本的な利用方法について学習する。	
3	汎用技能習得②：授業で活用できるように。Word・PowerPointの最低限の使い方について学ぶ。あわせてタッチタイピングの学習方法について紹介する。	
4	セキュリティと情報モラル　：セキュリティを高めるための知識と、情報モラルを身につける。	
5	セキュリティと情報モラル②：AI社会における情報モラルを身につける。	
6	Word　：Step2 Lesson2レポート作成に必要な機能について学ぶ。様々な授業で求められる最低限のレポート作成技術を身につける。	
7	Word②：Step2 Lesson2レポート作成に必要な機能について学ぶ。様々な授業で求められる最低限のレポート作成技術を身につける。	
8	Excel　：Step1 Excelの基本操作方法について学ぶ。データ入力やシート管理、ブック管理などの方法について学習する。	
9	Excel②：Step2 表の作成・関数の入力について学ぶ。基本的な関数の取り扱いに加えて、レイアウトやデザインについて学習する。	
10	Excel③：Step3 グラフの作成方法について学ぶ。汎用的に使われるグラフの作成方法を学び、見やすいグラフを作ることができるようになる。	
11	PowerPoint　：Step1 Lesson1 プレゼンテーションの骨格である構成作りの方法について学ぶ。言い回しやパラランゲージなどの効果についても学習する。	
12	PowerPoint②：Step2 Lesson1 新規スライドを作成し、スライドの編集ツールの使い方について学ぶ。	
13	PowerPoint③：Step3 発表するときの注意点について学ぶ。発声方法や視線の動かし方などについての注意点について紹介する。	
14	PowerPoint④：発表スライド準備をおこなう。「自分の持ち物の魅力」について、3分程度で紹介するスライドを作成する。	
15	PowerPoint⑤：相互発表と評価①をおこなう。少人数グループに分かれて発表を行ない、相互に評価をおこなう。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
NESSによる理解度テスト	40	NESSを用いた理解度テストにより評価する。セキュリティと情報モラル・Word・Excel・PowerPointそれぞれの指定された箇所について期日までに回答する。	成果物提出	20	Word、Excelそれぞれの成果物について習熟度の評価をおこなう。
プレゼンテーション評価	20	PowerPointスライド作成、発表、相互評価について評価をおこなう。	タッチタイピング	20	NESSで実施するタッチタイピングテストにおいて、向上度合いに基づいて評価をおこなう。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。（30分程度） ②PowerPointのプレゼンテーションがスムースに行えるように練習する。（30分程度） ③WordやExcelの操作が教師の指示なしでもできるように練習する。（30分程度） ④パソコンの操作は慣れることが重要である。特にキーボードからの日本語入力の速度が課題完成に大きく影響するので、入力速度の向上のためのタッチタイピング練習を行う。（20分程度）	課題は随時評価の上で返却する。

受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。	教科書・テキスト	『イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル Microsoft365・Officeバージョンフリー 【NESS付】』noa出版(2026年)ISBN978-4-911200-06-3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	情報機器演習Ｂ（社会学部）			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義の目的は２つある。第１は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。「情報機器演習A」に続き、代表的なアプリケーションである文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方習得を深める。第２は、AI活用が前提となる社会で活躍できる基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。これらの目的を満たすために、コンピュータを用いた演習形式の授業を行なう。	学内ネットワークを活用できる。 ②情報モラルについてNESSを用いた小テストに合格できる。 ③ゼミ活動のレポート作成に必要な文章編集能力を身につける。 ④基本的なExcel操作ができる。 ⑤プレゼンテーションソフトを用いた発表ができる。 ⑥タッチタイピングの能力が身につく。

教授方法	演習形式でおこなう。MicrosoftOfficeとGoogle Workspaceを活用する。NESSを用いたテストと振り返りを行なう。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	前期の復習：Microsoft Office とGoogle Workspaceの往還とデータの取り扱い方法について復習する。Google Formsの作成方法について学習する。	
2	Excel④：Step2 Lesson1 表の書式設定と、Lesson2　印刷イメージについてより詳細な管理方法について学ぶ。Google Formsを用いたアンケートを実施する。	
3	Excel⑤：Step2 Lesson3　一般的によく使われる高度な関数の活用方法について学ぶ。Google Formsのデータ集計をおこなう。	
4	Excel⑥：Step3 Lesson1・2　分析やプレゼンテーションなどで用いられる高度なグラフを作成方法について学ぶ。	
5	Word③：Step2 Lesson2レポート作成に必要な機能について学ぶ。Excelで作成した表やグラフをWord文書内に取り入れたレポート作成の技術を身につける。	
6	セキュリティと情報モラル③：Step1 Lesson3　不正アクセスを防止する方法について詳しく学ぶ。	
7	セキュリティと情報モラル④：Step2 Lesson1・2・3　情報共有や論文作成の場面で求められる情報モラルを身につける。	
8	セキュリティと情報モラル⑤：Step3　AI社会で注意が必要な情報モラルを身につける。	
9	PowerPoint⑥：プレゼンテーションの骨格である構成作りの方法と、言い回しやパラランゲージなどの効果について復習する。	
10	PowerPoint⑦：スライドデザインの詳細な設定について学習する。図形描画機能について学習する。	
11	PowerPoint⑧：表やグラフを活用した効果的なプレゼンテーションを実現する方法について学習する。	
12	PowerPoint⑨：ノート機能を活用したスライド発表方法について学習する。表とグラフを用い、指定されたテーマで3分程度で紹介するスライドの構成を考える。	
13	PowerPoint⑩：発表スライド準備をおこなう。表とグラフを用い、指定されたテーマで3分程度で紹介するスライドを作成し、リハーサルをおこなう。	
14	PowerPoint⑪：相互発表と評価②をおこなう。少人数グループに分かれて発表を行ない、相互に評価をおこなう。	
15	PowerPoint⑫：相互発表と評価②をおこなう。少人数グループに分かれて発表を行ない、相互に評価をおこなう。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
NESSによる理解度テスト	40	NESSを用いた理解度テストにより評価する。セキュリティと情報モラル・Word・Excel・PowerPointそれぞれの指定された箇所について期日までに回答する。	成果物提出	10	Excel、Wordの成果物について習熟度の評価をおこなう。
プレゼンテーション評価	30	PowerPointスライド作成、発表、相互評価について評価をおこなう。	タッチタイピング	20	NESSで実施するタッチタイピングテストにおいて、向上度合いに基づいて評価をおこなう。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。（30分程度） ②PowerPointのプレゼンテーションがスムースに行えるように練習する。（30分程度） ③WordやExcelの操作が教師の指示なしでもできるように練習する。（30分程度） ④パソコンの操作は慣れることが重要である。特にキーボードからの日本語入力の速度が課題完成に大きく影響するので、入力速度の向上のためのタッチタイピング練習を行う。（20分程度）	課題は随時評価の上で返却する。

受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。	教科書・テキスト	『イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル Microsoft365・Officeバージョンフリー 【NESS付】』 noa出版(2026年)ISBN978-4-911200-06-3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	基礎ゼミⅠ（社会学部）			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	田中　純一・池村　努・井上　克洋　（代表教員　田中　純一）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
大学生としての基本的な学びの姿勢および知的探求の方法を修得することを目的とする。具体的には、①ノート・テイキングの基本的技術、②文章読解力の強化と文章作成能力の育成による要約力の強化、③図書資料などをはじめとする情報の収集方法と整理活用術、④レポート作成の基本的事項を修得する。また、ゼミ内での共同作業やディスカッションを通じて人間関係のあり方やコミュニケーションについても学ぶ。	①大学で学ぶために必要なスキルを身につけ、それを実践することができる。 ②学びに必要な情報の収集方法を知り集めることができる。 ③ポイントを正確に読み取ることができる。 ④書かれた内容を概要と意見に分けてまとめることができる。 ⑤学び合えるディスカッション方法を身につけ互いに学び合う姿勢を身につける。

教授方法	演習：毎回レジュメを作り、発表・ディスカッションをする形式で進める。
履修条件	社会学科1年生または社会学科の学生で再履修となった者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	期首オリエンテーション	全員
2	第5章　大学図書館における情報収集	全員
3	第１章　スタディスキルズとは：大学での学びに必要な事項を学び、長期目標を立てた上で、それを実現するための今学期の目標を立てる。	全員
4	第2章　ノート・テイキング	全員
5	フレッシュマン・セミナーにおける学部別協議の準備	全員
6	第3章　リーディングの基本スキル(1)：テキストを読むとはどういうことかを学ぶ。	各担当教員
7	第3章　リーディングの基本スキル(2)：二度読み方式について学ぶ。	全員
8	第4章　より深いリーディングのために	各担当教員
9	第1回発表：指定された課題についてレポートを作成し、発表する。	各担当教員
10	第8章　アカデミック・ライティングの基本スキル	各担当教員
11	第9章　効果的なアカデミック・ライティングのために	各担当教員
12	第11章　プレゼンテーションの基本スキル	各担当教員
13	第12章　わかりやすいプレゼンテーションのために	各担当教員
14	第2回発表：指定された課題についてレポートを作成し、発表する。	各担当教員
15	期末オリエンテーション	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	①指定した書式・字数・枚数にならっている。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文章になっている。	レジュメ作成とレポート発表	20	①分かりやすくポイントをまとめたレジュメ（含ノート・テイキング練習課題） ②第9回に提出する進捗状況レポート ③聞き手が理解しやすい発表
授業参加態度	20	①ディスカッションへの積極的な参加をしている。 ②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べている。 ③課題にまじめに取り組んでいる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①基礎ゼミⅠで学んだ事柄・スキルを他の授業でも活かすこと。 ②図書館やインターネットなど様々な文献・情報により視野を広め、知識を増やすと共に、集めたものは整理しておくこと。 ③学内外での学びは「ソーシャルサイエンス」の対象の1つと捉え、分析的に観察し、気づいたことはノートにメモしておくこと。 …上記①～③を踏まえつつ、 ・レポートのためにリサーチを重ね、執筆に取り組むこと。［60分］ ・学んだことはその日のうちに復習すること。［30分］	個々の教員の指導に従うこと。

受講生に望むこと	基礎ゼミⅠは大学の学びの最も土台となる科目である。これからの4年間を有意義に過ごすか否かがかかっていると言っても過言ではない。大学およびそれ以降の社会で必要なスキルを中心に学ぶので、この授業で学んだスキルが身につくよう積極的に授業に臨むこと。	教科書・テキスト	『知へのステップ』（第5版）学習技術研究会/編著 くろしお出版　2019年　ISBN：978-4-87424-789-1
指定図書／参考書等	特になし	その他・特記事項	課題提出日、発表日などに欠席することは評価に大きくかかわるので注意すること（なお、配慮される欠席理由については学生要覧を参照すること）。 不明な点は自分の所属するゼミ担当教員に問い合わせをすること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	基礎ゼミⅡ（社会学部）			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	俵　希實・池村　努・井上　克洋　（代表教員　俵　希實）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は初年次教育科目の一つとして開講する。大学生としての主体的・自主的な学びの姿勢・知的探求の方法及びアカデミックライティング技術を習得することを目的とする。具体的には、①文献・データの検索と整理、②レポートの文章作成（前期からの継続と発展）、③プレゼンテーションのしかた、④ディスカッションのしかた（１１月の「オータム・セミナー」でのグループ討論を念頭）に重点をおいて学ぶ。テーマに沿ったレポートを作成し、発表する。	①大学で学ぶために必要なスキルを身につけ、それを実践することができる。 ②文献の調べ方とデータの検索方法を身につける。 ③レポートの書き方を身につける。 ④プレゼンテーションのスキルを身につける。 ⑤新しいアイディアを生み出すためのグループ・ディスカッションのスキルを身につける。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	全体オリエンテーション：授業概要を理解する。	全教員
2	テキスト第6章　インターネットによる情報収集：レポート作成のために必要な情報をインターネットで収集する方法を習得する。 レポート課題の選定	全教員
3	テキスト第7章　情報の整理：レポート作成に用いる文献の整理方法と文献リストの作成方法を習得する。	各担当教員
4	レポートテーマについての検討。「基礎ゼミⅡ」で取り上げるテーマについて検討し、課題設定を行なう。	各担当教員
5	レポートの構想発表。前回に引き続き、レポートテーマを検討し、方針を報告する。	各担当教員
6	テキスト第8章　アカデミックライティングの基本スキル：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。	各担当教員
7	グループ・ディスカッション：オータム・セミナーのグループ討論を念頭に置いてディスカッションスキルを学ぶ。オータムセミナー開催時期に合わせて、実施内容は前後する。	全教員
8	オータム・セミナーグループ討議のふりかえりを行なう。オータムセミナー開催時期に合わせて、実施内容は前後する。	各担当教員
9	テキスト第9章　効果的なアカデミックライティングのために：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。	各担当教員
10	テキスト第11章　プレゼンテーションの基本スキル：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。各ゼミ必要に応じてレポート中間発表	各担当教員
11	レポート中間発表	各担当教員
12	テキスト第12章　わかりやすいプレゼンテーションのために：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。レポート内容の発表準備	各担当教員
13	レポート内容の発表準備　各ゼミ必要に応じてレポート最終発表	各担当教員
14	レポート最終発表	各担当教員
15	履修指導、プロゼミ説明会、学期末授業評価アンケート	全教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	①指定された書式・字数・枚数になっているか。②ポイントを押さえ、事実・データと意見を分けた文になっているか。	授業参加態度	20	①ディスカッションに積極的に参加したか。②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。③課題にまじめに取り組んでいるか。
レジュメ作成と発表	20	①わかりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業で指定された課題を事前に行う。[30分以上] ②レポート作成のための文献・情報の収集と整理を十分に行う。[30分以上] ③レポートの中間発表でのコメントを踏まえて、必要な文献等を読み、内容を改訂する。必要に応じて調査なども行う。 ④図書館やインターネットなどさまざまな文献・情報により視野を広め、知識を増やすとともに、集めたものは整理しておく。 ⑤学内外の学びは社会学の対象の一つととらえ、観察して気づいた点をメモする習慣をつける。	ゼミ・グループ活動、レポート、パワーポイントなど必要に応じて対応する。また、成績評価等の疑問・質問等には随時応じる。

受講生に望むこと	「基礎ゼミⅡ」は、「基礎ゼミⅠ」とともに大学の学びの土台となる科目である。大学およびそれ以降の社会で必要なスキルを中心に学ぶので受講生に 、学んだスキルが身につくよう積極的に授業にのぞむこと。	教科書・テキスト	『知へのステップ』（第5版）学習技術研究会/編著 くろしお出版　2019年　ISBN：978-4-87424-789-1
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	特になし。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教と社会			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
旧・新約聖書は、古代から現代に至るまでキリスト教社会の形成に大きな影響を与えてきた。近代以降、キリスト教社会の法や制度はグローバル化し、その影響は世界全体に及んでいる。宗教と社会との関係を見る方法論を整理しつつ、歴史上の人物や映画作品を通じて、キリスト教信仰が社会に与えるインパクトの諸相を探究する。 ※SDGs目標番号8、10、16関連科目	・宗教が単に、個人に安心立命を与えるだけではなく、社会を形成する上で、重要な役割を担っていることを理解し、複数の社会科学方法論の特徴と方向性を比較し、複数の視点を持つことができる。 ・歴史上の人物や映画作品を通じて、キリスト教信仰が社会に与えるインパクトの諸相を探究する中で、自分自身の生き方について学びとったことを自分の言葉で表現できるようになる。

教授方法	毎回配布するレジュメに基づく講義。
履修条件	「キリスト教概論Ⅰ」および「キリスト教概論Ⅱ」の履修済が望ましい（単位未修得も可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業概要、課題、スケジュール等を詳細シラバスに拠って紹介する。	
2	・大塚久雄と社会科学：社会経済学者大塚久雄の著作を通して、信仰と社会との関係に係るアプローチの方法を探究する。 ・小テスト①準備	
3	・宗教と科学技術　宗教は非科学的か。聖書の自然観と科学の芽生えとの関係を科学史的に概観し、科学技術成立に対する宗教の影響と役割を確認する。宗教と科学技術との基本的な関係を把握する。 ・小テスト①実施	
4	キリスト教と日本社会：明治期以降の「和魂洋才」思想を検討し、現代日本の問題を確認する。職業観と使命Missionについて考える。近代以降の日本の職業観の特徴と問題性を理解し、自分が働く意味を考える。	
5	キリスト教信仰と社会正義：杉原千畝①　杉原千畝の生涯を辿りつつ、自己の生きる時代状況の中でキリスト教信仰をもって生きることがどんな変化をもたらすのか考察する。	
6	キリスト教信仰と社会正義：杉原千畝②　杉原千畝の生涯を辿りつつ、自己の生きる時代状況の中でキリスト教信仰をもって生きることがどんな変化をもたらすのか考察する。	
7	キリスト教信仰と職業倫理：「ローマンという名の男」①　映画「ローマンという名の男」に描かれる弁護士ローマン・イスラエルの生涯を辿りつつ、職業倫理とキリスト教信仰との関わりを探究する。	
8	キリスト教信仰と職業倫理：「ローマンという名の男」②　映画「ローマンという名の男」に描かれる弁護士ローマン・イスラエルの生涯を辿りつつ、職業倫理とキリスト教信仰との関わりを探究する。	
9	キリスト教信仰と社会正義：キング牧師①　信仰における行動が社会のあり方に大きなインパクトを与えた実例を、キング牧師の人種差別との闘いから学ぶ。 小テスト②準備	
10	キリスト教信仰と社会正義：キング牧師②　信仰における行動が社会のあり方に大きなインパクトを与えた実例を、キング牧師の人種差別との闘いから学ぶ。 小テスト②実施	
11	キリスト教信仰と結婚・家庭：ファイアーストーム①　結婚と家庭形性におけるキリスト教信仰、特に契約の意義について、自分にあてはめつつ考察する。	
12	キリスト教信仰と結婚・家庭：ファイアーストーム②　結婚と家庭形性におけるキリスト教信仰、特に契約の意義について、自分にあてはめつつ考察する。	
13	キリスト教信仰とコミュニティ形成：フェイシング・ザ・ジャイアント①　キリスト教信仰において自己のアイデンティティーを形づくる時、それはコミュニティーとチームを刷新する力を持つことを発見する。	
14	キリスト教信仰とコミュニティ形成：フェイシング・ザ・ジャイアント②　キリスト教信仰において自己のアイデンティティーを形づくる時、それはコミュニティーとチームを刷新する力を持つことを発見する。	
15	まとめと期末試験準備、授業評価アンケート	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
興味・関心・態度	20	授業に出席し、積極的に発言し、振り返りシートを毎回提出する。	教会出席レポート	20	地域教会の礼拝に出席し、授業のテーマとの関連で説教内容を考察したレポートを提出する。
小テスト	20	キリスト教史に関わる重要人物に関する小テストを２回に分けて実施する。	期末試験	40	学期末に、この科目を通して自分の生き方との関わりで学んだことを表現する記述試験を実施する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への積極的参加を求める。[30分] ②その週の授業内容をプリントで復習し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、本学のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] ④神に感謝し、献金先の活動を理解しつつ、礼拝献金に加わる。[15分]	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「学期末試験」については全体講評をメソフィア等で告知する。

受講生に望むこと	・聖書・Chromebookを必ず持参すること。 ・遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ・本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。	教科書・テキスト	聖書
指定図書／参考書等	なし／授業内で紹介する。	その他・特記事項	・毎回聖書ならびに Chromebook を持参すること。 ・授業中の他科目の内職、私語、スマホ操作などのマナー違反が繰り返される場合は厳しく減点する。他の受講生のためにも最低限のマナーは守ること。 ・視聴覚教材も積極的に導入する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	データサイエンス入門			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は学部共通科目として開講する。我々が生活する社会には多くの情報やデータが存在する。これからの社会はデータを正しく取り扱い、適切に分析し、価値のある情報を見出すことが求められていく。本科目では1年前期の「情報機器演習A」を受け、ICT機器の取扱について一定の知識を得たことを前提に、AI利活用に関わる理解、データを扱うための知識、統計的な考え方と、統計解析の手法を学ぶ。これらを学ぶことにより、データサイエンス時代に対応できる知識と技術を身につける。 学習効果を高めるため、適宜反転学習や、グループディスカッション、Google Workspaceを活用する。	データサイエンスの時代とも言える21世紀を生きるうえで必要な、社会におけるデータ・AIの利活用について正しい知識を得て、説明できるようになる。 データリテラシーを身につけ、データの読み方、データの特徴抽出、データ分析を行ない、分析した内容について説明できるようになる。 データ・AI利活用における留意事項について理解し、説明できるようになる。

教授方法	テキスト・スライドを用いた講義形式で実施する。Google スプレッドシートを用いてデータ加工について学修する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	【導入・社会で起きている変化】現代社会はSociety5.0とも呼ばれ、仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の両立が求められている。社会に起きている変化について具体的内容について学ぶとともに、「データサイエンス入門」の概要について説明する。	
2	【社会で活用されているデータ】社会で活用されているデータの種類、データごとの取得方法、所有者について学習する。またデータを扱う上での注意点についても学習する。	
3	【データサイエンスにおける心得−１】データサイエンス本編について学ぶ前に、データ・AIを扱う上での留意事項について学習する。AIを使うことによるメリットも大きいが、倫理面の問題などについて正しく扱う必要もある。	
4	【データサイエンスにおける心得−２】データサイエンス本編について学ぶ前に、データ・AIを扱う上での留意事項について学習する。データ・AI活用における負の事例を紹介し、データを守るための留意事項について学ぶ。	
5	【データとAIの活用領域】事業活動と、活用目的ごとにデータ・AI活用の広がりについて学習する。反転授業（LITE)を行う。 【中間レポート１】反転授業を受けてレポートを作成する。	
6	【データ・AI利活用のための技術−１】データを解析し、可視化する方法について学ぶ。この回は特にデータ解析の方法と、それにまつわる話題について触れる。 【振り返り小テスト１】５回までの学習内容についての振り返り小テストを行う。	
7	【データ・AI利活用のための技術−２】データを解析し、可視化する方法について学ぶ。この回は特に画像や音などの非構造化データ処理、グラフ作成などによるデータ可視化、画像処理などで用いられるパターン認識技術について触れる。	
8	【データ・AI利活用のための技術−３】データを解析し、可視化する方法について学ぶ。この回は特に人工知能について扱う。今のAIで出来ること、出来ないことなどについても触れる。	
9	【データ・AI活用の現場】データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれ、そのような価値を生むために何に気を付けるべきかについて考える。	
10	【データ・AI利活用の最新動向】AIを活用した新しいビジネスモデルを紹介する。そして、今後ビジネスなどにも広く活用されるであろうAIに関する最新技術を紹介する。	
11	【データを守る上での留意事項】セキュリティ・プライバシーを守ることと、社会でデータを活用することの両立について学習する。反転学習を行う。 【中間レポート２】反転授業を受けてレポートを作成する。 【振り返り小テスト２】６～１０回までの学習内容についての振り返り小テストを行う。	
12	【データリテラシー−１】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。この回は「データを読む」ための基本事項について説明する。	
13	【データリテラシー−２】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。この回は特に調査などに用いられる方法について説明する。	
14	【データリテラシー−３】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。この回は特に図解などを用いて判りやすく説明するデータ表現の方法について説明する。	
15	【データリテラシー−４】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。この回は特に表計算ソフトをデータ解析ツールとして扱う方法について説明する。 【振り返り小テスト３】全15回を通した学習内容についての振り返り小テストを行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
振り返り小テスト	30	節末の練習問題から出題する3回の小テストによって理解度を評価する。	レポート	40	学期内に二度課す。設定されたテーマに沿ってレポートを作成する。これにより理解度を評価する。
課題学習	10	課題に対し、積極的に取り組んでいること。	授業への積極的関与	20	反転授業・反転学習でのグループワークにおいて、積極的に関与していることを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：予告した箇所について通読する。[30分]反転学習として指示があった場合は、その指示に従い準備をする。[60分] 事後学習：指示された振り返り課題に取り組む。[30分]	授業時間内の振り返りと、Google Classroomを通じてフィードバックを行う。

受講生に望むこと	Society5.0とも呼ばれる情報化社会でこれからの時代を担う人材となるべく、データサイエンスに関する知識を正しく身につけられるよう、興味を持って取り組んでほしい。	教科書・テキスト	『教養としてのデータサイエンス　改訂第2版』北川源四郎・竹村彰通編,講談社,2024年,ISBN978-4-06-537939-4
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	レジュメはGoogle Classroomから配信する。 毎回行う振り返りもGoogle Classroom経由で実施する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	統計データの読み方			開講学科	社会学部	必修・選択	選択
担当教員名	細貝　亮						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士				

授業の概要	授業の到達目標
社会の様々な現象を理解する上で、統計データや調査資料を利用することが多い。この授業では、官庁統計・資料や、それを利用した調査報告・研究論文が読めるようになることを目的とする。具体的には、（1）単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計データの読み方や算出方法、（2）様々なグラフの読み方やその作成方法、（3）相関係数などの基礎的統計手法や相関関係と因果関係の違い、（4）質的データの読み方と分析のための利用法について学習する。	①単純集計、度数分布、代表値、そしてクロス集計などの記述統計データの読み方や算出方法を習得する。 ②グラフの読み方や特性、さらに作成の仕方について習得する。 ③質的データの読み方と基本的なまとめ方について習得する。 ④日常生活の様々な側面で利用されている統計データの利用のされ方の正誤を判別できるようになる。

教授方法	基本的に講義形式による授業と並行して、Excelやフリーの統計ソフトHADを利用した実習を行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価の方法について説明した後、統計データとは何か、社会調査法とは何か、そしてなぜ社会調査法を学ぶ必要があるのかについて考える。（統計データの読み方や社会調査法を学ぶ意義を理解する。）	
2	データの特徴：データにはどのような特徴があるのか、変数と尺度という言葉を用いながら説明する。（統計データの特徴について理解する。）	
3	単純集計：世論調査等の統計データを単純に集計し、それを一覧表にまとめた度数分布表とヒストグラムについて説明した後、その作成法の実習を行う。（度数分布表とヒストグラムについて理解し、それらを作成できるようになる。）	
4	記述統計Ⅰ：データの中心的傾向を見る指標として平均、中央値、そして最頻値について説明した後、それらの算出法の実習を行う。（記述統計データからデータの中心的傾向を把握できるようになる。）	
5	記述統計Ⅱ：データのばらつきの大きさを測る指標として範囲、分散、そして標準偏差について説明した後、それらの算出法の実習を行う。（記述統計データからデータのばらつきの大きさを把握できるようになる。）	
6	クロス集計Ⅰ：二種類のデータの関係を捉える方法として、クロス集計表について説明する。（クロス集計表から 2 つのデータの関係を捉えることができるようになる。）	
7	クロス集計Ⅱ：世論調査等の統計データを使用したクロス集計表を作成する実習を行う。（クロス集計表を作成することで、2つの回答の関係性を推測できるようになる。）	
8	相関Ⅰ：二つのデータの直線的な関係を捉える方法として、相関の考え方と相関係数について説明する。（相関関係の基本的な考え方と、それを表す相関係数の算出法について理解する。）	
9	相関Ⅱ：二つのデータの関連性を見極める上で理解しておく必要のある相関関係と因果関係の違いや、擬似相関について説明する。（二つのデータの関連性を見極めることの難しさを理解する。）	
10	相関Ⅲ：実際の統計データを利用し、EXCELを使った散布図の描き方や相関係数の算出法などの実習を行う。（散布図の作成法や相関係数の算出法を実習することで、二つのデータの関連性の有無を自身で判断できるようになる。）	
11	様々なグラフ：実際の統計データを利用し、様々なグラフを作成する実習を行う。（適したグラフの選択とわかりやすいグラフについて理解する。）	
12	質的データの読み方Ⅰ：質的調査と呼ばれる研究法について説明した後、観察調査の諸類型やまとめ方について紹介する。（質的調査法と量的調査法の違いを理解する。そして観察調査の種類やまとめ方を理解する。）	
13	質的データの読み方Ⅱ：インタビュー調査とその手順について説明し、実際にインタビュー番組を見ながらインタビュー調査の有用性について考える。（インタビュー調査の意義を理解する。）	
14	質的データの読み方Ⅲ：ドキュメントの諸類型について説明した後、ドキュメント分析の方法を紹介し、その意義について考える。（ドキュメントを分析することの意義を理解する。）	
15	全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	30	授業に積極的に取り組んでいるか。	授業内容を理解しているか。	40	授業内容を理解しているか。
期末レポート	30	ポイントを押さえた読みやすいレポートを書くことができているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業で使用するレジュメ（資料）は、Google Classroom等を通じて配布するので必ず目を通しておくこと。[30分] ②講義後に統計データの読み方に関する練習問題を課題として出すので、期日までに提出すること。[50分]	①課題およびそれに付属するリアクションシートは、採点およびコメントを付けるなどして適切な時期に返却する。 ②到達度確認テストは、採点して返却する。

受講生に望むこと	統計データは、日常生活のあらゆる側面で使われている。日頃からそうした統計データの利用のされ方に注目するようにしよう。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『社会調査の基礎－社会調査士 A･B･C･D 科目対応』篠原清夫・清水 強志・榎本環・大矢根淳著　弘文堂　2010 年　ISBN-13: 978-4335551338.『社会調査の方法論』松本渉　丸善出版　2021 年 ISBN-13: 978-4621306314.『入門・社会調査法　2 ステップで基礎から学ぶ』第4版　轟亮・杉野勇（編）法律文化社　2021年　ISBN-13: 978-4589041418.	その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのC 科目「基本的な資料とデータの分析に関する科目」に準拠している。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインⅠ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	井上　克洋・内田　啓太郎　（代表教員　井上　克洋）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
授業の目的は２つある。1つ目は、社会で必要とされる力に気づき、その運用法を知ることである。もう1つは、その社会で必要な力を身につけるために、大学でいかに学ぶかを自らが考え、行動することである。これらの目的に従って、授業では実際の社会が抱える課題を知り、チームでその解決に取り組む。具体的には、2つの企業の担当者から実際に企業が直面している課題を受け取り、それを解決するためにチームで取り組む。そして、その成果について中間プレゼン・最終プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。	①社会に必要な力に気づく。 ②自分に足りない能力や知識、自分の興味、性格、能力の強みに気づく。 ③社会に出るまでにつけなければならない能力や知識を残りの大学生活の中でどのように習得していくのかを考えることができるようになる。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：授業の目的、流れ、方針と評価方法、チームに貢献するためのルールについて理解する。	全教員
2	課題とは何か？：「課題」とは何かを理解し、「課題」に取り組むために必要なディスカッションの基本的な手法を学ぶ。	全教員
3	Missionを受け取る：企業Aの担当者からMissionを受け取る。課題や目標となるゴールを正しく理解する。	全教員
4	第１次提案に向けて：チーム活動。第１次提案の目的や心構え、準備について理解し、どのように議論を進めるべきかをチームで検討する	全教員
5	第１次提案：企業担当者の前でプレゼンを行う。企業担当者からのフィードバック、他のチームのプレゼンなどから議論を再構築する。	全教員
6	第２次提案に向けて：チーム活動。簡潔にわかりやすく伝えるプレゼンをするための注意事項を理解し、準備を整える。	全教員
7	第２次提案：プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。チームで自分たちの議論および活動を振り返る。	全教員
8	問題解決に必要なスキルを知る：クリティカルシンキングの大まかな概要をつかむ。	全教員
9	Missionを受け取る：企業Bの担当者からMissionを受け取る。課題や目標となるゴールを正しく理解する。	全教員
10	第１次提案に向けて：チーム活動。企業担当者からどのようなアドバイスをもらえれば議論が進むのかを整理する。	全教員
11	第１次提案：企業担当者の前でプレゼンを行う。企業担当者からのフィードバック、他のチームのプレゼンなどから議論を再構築する。	全教員
12	第２次提案に向けて：チーム活動。簡潔にわかりやすく伝えるプレゼンをするための注意事項を理解し、準備を整える。	全教員
13	第２次提案：プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。チームで自分たちの議論および活動を振り返る。	全教員
14	全体の振り返り：授業での経験をもとに、残りの大学生活をどのように過ごすのかをまとめる。	全教員
15	前期の初めに各自が設定した中期目標と長期目標がどの程度達成されたか、今後の大学生活と授業にどのように臨むかについての「自分宣言」を行う。	全教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	30	積極的に授業およびグループワークに参加したか。	提出物	50	期限内に提出しているか。課題に即した内容となっているか（例えば、毎回提出するリアクションシートの場合は、振り返りが記され、規定文字数を満たしている）。
発表	20	発表内容。発表態度。質疑応答への応対。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
問題解決のための資料探しや企業研究、社会調査やディスカッションなど、中間プレゼンおよび最終プレゼンの準備をすすめること。準備はほぼ授業時間外ですすめることになる。［60分～120分］	プレゼンテーションや提出物などの課題については、授業中においてコメントする。

受講生に望むこと	常に主体的に考え、責任を持って動くように心がけること。	教科書・テキスト	『PROJECT SUPPORT NOTEBOOK』ベネッセコーポレーション、2014年。　ISBN:なし
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインⅡ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	内田　啓太郎						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は，学部共通科目に位置づけられるものである。「キャリアデザインⅡ」では，「キャリアデザインⅠ」で培われた気づきを拡張，深化させていく。そのために，MIP1の振り返りや批判的，論理的な思考力を高めるトレーニング，また，働き方や社会の動き，先達の話を聴く機会や仕事に就くにあたって考えるべきことなど様々な角度から自身の「キャリア」を考えるための時間とする。	①グループワークや発表をとおして，自身の意見を的確に他者に伝えることができる。 ②先達の話や社会の動き捉える活動から，現代社会の情勢などの知識を身につける。 ③仕事につく際に必要とされるが，現在は不足している力について，学生時代にどのようにして身につけるかの具体的プランが立てられる。

教授方法	教員による講義，ゲストスピーカーによる講演，グループワークおよび発表など多様な方法により演習を進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業概要の説明および前期の振り返りと自己評価の分析を行う。	
2	クリティカルシンキングの自己分析を行う。	
3	MIP1におけるプレゼンテーション修正版を考え，発表を行う。	
4	社会の情勢を把握し他者に伝える（1）：新聞を用い社会の出来事について考察する。	
5	社会の情勢を把握し他者に伝える（2）：新聞を用いたグループワークおよび発表を行う。	
6	会社の仕組み，仕事の仕組みについて考える。	
7	職業選択について（1）：周りの人の聞き取りを踏まえたグループワークを行う。	
8	職業選択について（2）：周りの人の聞き取りを踏まえたグループワークの結果を発表する。	
9	グローバル企業で働くことについて学ぶ。	
10	グローバル企業で働く際の問題点と解決策について具体的に考える（MIP2に向けて）。	
11	就職活動とは：4年生と卒業生の話を聞く。	
12	ワークライフバランスについて考える。	
13	労働者の権利について考える。	
14	企業の社長たちの学生時代の話を聞く（パネルディスカッション）。	
15	自己を振り返る（自分史を作る自己分析）。授業の総括とMIP２へのつながりの説明。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	授業中のワークの達成度，および演習への参加態度	リアクションシート	40	毎回提出するリアクションシートが授業の内容に沿って具体的に記入されている。
課題・レポート	20	授業時に課された課題やレポートの内容	グループ発表	10	グループ発表が論理的に構成されており，わかりやすい話し方である。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①グループ・個人に課された課題・レポートの作成。［120分］ ②日頃から新聞等を読み，社会の事象等に関心を持つ。［60分］	グループ発表やレポート提出時に学生と教員がコメントする。

受講生に望むこと	グループワークを中心とした授業なので，学生の活発な参加が求められる。社会学科の他の科目の学習とともに，社会の事象について関心を持つ姿勢が必要である。	教科書・テキスト	必要に応じて資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインⅢ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	内田　啓太郎・井上　克洋　（代表教員　内田　啓太郎）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、MIP2を実施する。前半と後半で二つの企業と連携し、授業を進めるところに本授業の特徴がある。企業が抱える普遍的（グローバル）かつ、ローカルな課題を知り、チームで課題解決に取り組む。具体的には、企業がテーマを出題し、学生はチームを組みテーマについてプレゼンテーションを行う。第一次提案と最終提案を行い、企業担当者からフィードバックを受ける。	①グローバルかつローカルな特徴を持つ「グローカル」社会で働くために必要な知識・コミュニケーション力とはどのようなものかを認識できるようになる。 ②課題を提示する企業とのコミュニケーションを通じて、実務に対する意識や必要とされる力と現在の自分の持つ意識や力のギャップに気づく。 ③課題解決のためにICTを用いて実践的経験を学び、グローカル社会で働くために必要な表現形式を習得する。 ④チームで協力したプレゼンテーションができるようになる。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション・MIP２［1］の課題提示に向けての準備：授業の目的、流れ、方針と評価方法、チームに貢献するためのルールについて学ぶ。グループメンバー発表、グループワーク①	全教員
2	MIP２［1］の課題提示：グループワーク②相手に対して、簡潔にわかりやすく自分の意図を伝えるための注意事項を確認し、第一次提案に向けての準備を整える。	全教員
3	MIP２［1］第一次提案に向けての準備：グループワーク③相手に対して、簡潔にわかりやすく自分の意図を伝えるための注意事項を確認し、第一次提案に向けての準備を整える。	全教員
4	MIP２［1］第一次提案：企業担当者に対して第一次提案を行う。企業担当者からのフィードバックや、他のチームのプレゼンテーションから自分たちのプレゼンテーションの改良すべき点に気づく。	全教員
5	MIP２［1］最終提案に向けての再構築：グループワーク④第一次提案における企業担当者からのフィードバックを受けて、各グループで振り返りを行い、最終提案に向けて課題に対するアプローチを再構築する。	全教員
6	MIP２［1］最終提案：最終提案を行い、企業担当者からフィードバックを受ける。	全教員
7	MIP２［1］振り返り：チームで、自分たちの活動（文献調査、社会調査、議論など）を振り返る。ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）ＡＩインストール。	全教員
8	MIP２［2］の課題提示、グループメンバー発表、グループワーク①	全教員
9	MIP２［2］第一次提案に向けての準備①：相手に対して、簡潔にわかりやすく自分の意図を伝えるための注意事項を確認し、第一次提案に向けての準備を整える。	全教員
10	MIP２［2］第一次提案に向けての準備②：相手に対して、簡潔にわかりやすく自分の意図を伝えるための注意事項を確認し、第一次提案に向けての準備を整える。	全教員
11	MIP２［2］第一次提案：企業担当者に対して第一次提案を行う。企業担当者からのフィードバックや、他のチームのプレゼンテーションから自分たちのプレゼンテーションの改良すべき点に気づく。	全教員
12	MIP２［2］最終提案に向けての再構築：第一次提案における企業担当者からのフィードバックを受けて、各グループで振り返りを行い、最終提案に向けて課題に対するアプローチを再構築する。	全教員
13	MIP２［2］最終提案：最終提案を行い、企業担当者からフィードバックを受ける。	全教員
14	MIP２［2］振り返り：チームで、自分たちの活動（文献調査、社会調査、議論など）を振り返る。	全教員
15	後期に向けての準備：マイナビ課題解決プロジェクトに向けて。	全教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	10	授業に参加し、チームに貢献しているか。	提出物（振り返りシートとプレゼン視聴コメント）	30	①期限内に提出しているか ②課題に即した内容となっているか ③指定された分量が書けているか ④指定された形式になっているか ⑤振り返りができているか
プレゼンテーション（前半）	30	①課題に即した内容となっているか ②指定された様式・時間を守っているか ③態度 ④質疑への応答	プレゼンテーション（後半）	30	①課題に即した内容となっているか ②指定された様式・時間を守っているか ③態度 ④質疑への応答

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
プレゼンテーションの準備を進める。準備はほぼ授業時間外で進めることになる。必要に応じて調査を行う場合も課外で進める。[90分]	プレゼンテーションに対して企業担当者および教員がコメントする。

受講生に望むこと	チームワークを高めるために、一人一人が常に主体的に考え、動くように心がける。	教科書・テキスト	『PROJECT SUPPORT NOTEBOOK』Ver1　ベネッセコーポレーション　2014　ISBN：なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	詳細はオリエンテーション等で説明する。協力企業の都合により、回によっては開講曜日が変わる場合もある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインⅣ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	内田　啓太郎						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業は、前期の「キャリアデザインⅢ」でのMIP2での学びを基に、マイナビ主催の課題解決プロジェクトに取り組む。すなわち、企業から提示された課題について、社員の立場に立って企画を作り、プレゼンを行う。さらに、授業後半回では社会人基礎力（経産省が提唱する、仕事を行っていく上で必要な基礎的能力）を高めるためのワーク等を通して、社会へ出るまでに各学生がどのような準備をすべきかを考える。	①グループワークを通して、課題解決力を身につける。 ②自分に足りない能力や知識、および、自分の強みを明確に認識する。 ③社会に出るまでに身につける必要がある能力や知識を、これからの学生生活の中でどのように習得していくかを考えることができるようになる。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要説明。チーム発表。 課題解決プロジェクト①：企業課題の説明・確認・グループエントリー前期課題解決プロジェクト（第１期）の優勝チームスライドの閲覧と分析（グループワーク）	
2	課題解決プロジェクト②：企画書案の作成と調査活動（グループワーク）	全教員
3	課題解決プロジェクト③：企画書案の作成と調査活動（グループワーク）	全教員
4	課題解決プロジェクト④：企画書案の作成と調査活動（グループワーク）	全教員
5	課題解決プロジェクト⑤：企画書案の作成と調査活動（グループワーク）	全教員
6	課題解決プロジェクト⑥：中間プレゼンテーション前半　15分/1チーム（11チーム予定） 担当者に対して第一次提案を行う。担当者からのフィードバックや、他のチームのプレゼンテーションから自分たちのプレゼンテーションの改良すべき点に気づく。	全教員・外部講師
7	課題解決プロジェクト⑦：中間プレゼンテーション後半 担当者に対して第一次提案を行う。担当者からのフィードバックや、他のチームのプレゼンテーションから自分たちのプレゼンテーションの改良すべき点に気づく。	全教員・外部講師
8	課題解決プロジェクト⑧：企画書案の作成と修正（グループワーク） 第一次提案における担当者からのフィードバックを受けて、各グループで振り返りを行い、最終提案に向けて課題に対するアプローチを再構築する。	
9	課題解決プロジェクト⑨：企画書案の作成と修正（グループワーク）	全教員
10	課題解決プロジェクト⑩：最終プレゼンテーション前半　20分/1チーム 最終提案を行い、教員からフィードバックを受ける。	全教員
11	課題解決プロジェクト⑪：最終プレゼンテーション後半 最終提案を行い、教員からフィードバックを受ける。	全教員
12	課題解決プロジェクト⑫：最終プレゼンテーションの振り返り マイナビへの企画書提出と活動の振り返りを行う。	全教員
13	就活準備の事前情報（外部講師による講座）・課題解決プロジェクト審査結果の開示を受けた振り返り	全教員・外部講師
14	大学の学びと就職後の仕事　（外部講師による講座）	全教員・外部講師
15	SPI　就職模擬テストの実施。	全教員・外部講師

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	10	積極的にグループワークや授業に参加している。	課題解決プロジェクト企画書	40	企画書内容がグループワークの成果を反映した内容になっている。
その他提出物	50	リアクションシートなど、その他提出物が、①期限内に提出されている、②課題に即した内容、③指定された分量や様式、④振り返りができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
課題解決プロジェクト企画書の作成は、授業時間内だけでは足りないので、授業外でも行う。［90分］	この授業の核となる課題解決プロジェクト企画書について、①担当教員との質疑応答、②外部スタッフ（マイナビ、企業・自治体担当者）からのアドバイスを踏まえたグループ間の相互コメントの側面からフィードバックを行う。

受講生に望むこと	グループワークにおいて、各学生が主体的に参加することを希望する。	教科書・テキスト	随時、資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	授業資料や授業外の課題はGoogleクラスルームから提供・指示する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインⅤ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択
担当教員名	乾　祐哉						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業は、「キャリアデザインⅠ」（ＭＩＰ１）、「キャリアデザインⅡ」、キャリアデザインⅢ」（ＭＩＰ２）、「キャリアデザインⅣ」で学んだことを活かして、就職活動に必要な実践力を養う。実践力を養う１つの方法として、夏休み期間を中心にインターンシップ・仕事体験に参加する。そのために、この授業では就職活動とは何か、自分に合う企業の探し方、自己分析の重要性などについて講義を受け、さらにインターンシップ・仕事体験の説明会への参加を積極的に行うことでインターンシップ・仕事体験参加のための準備を行う。	①就職活動の流れを把握する。 ②就職活動に必要な情報を収集することができるようになる。 ③インターンシップ・仕事体験に参加し、働く自分を具体的にイメージできるようになる。

教授方法	講義・演習
履修条件	「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」を履修済みであることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について理解する	教員・外部講師
2	インターンシップ・仕事体験について理解する	教員・外部講師
3	ジョブカフェ石川インターンシップ学内説明会	教員・外部講師
4	業界研究①インターンシップへのアクション：プレエントリー準備を行う	教員・外部講師
5	業界研究②業界・職種について理解する	教員・外部講師
6	自己分析：自己PR作成に向けて自己分析を行う	教員・外部講師
7	インターンシップへのアクション：プレエントリー準備を行う	教員・外部講師
8	自己分析：社会人基礎力の判定、 合同説明会の回り方：インターンシップ・仕事体験の探し方とイベント活用方法について理解する	教員・外部講師
9	ジョブカフェ石川のイベント参加：情報収集を行う	
10	マイナビイベント「インターンシップ&キャリア発見フェア」に参加：情報収集を行う	
11	インターンシップ準備：面接選考準備講座	教員・外部講師
12	面接練習	教員・外部講師
13	筆記試験：筆記試験・適性検査について理解する・SPI試験	教員・外部講師
14	ビジネスマナー：企業訪問マナーや参加の心構えについて理解する 客観的な自己理解：適性検査・ブログの見方を理解する	教員・外部講師
15	インターンシップや仕事体験（福祉コースの実習含む）への参加（夏休み期間中）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	①授業中のワークを達成できる。 ②講義・演習（グループワーク含む）に積極的に参加している。	インターンシップ等への参加	40	インターンシップ・仕事体験、その他就職イベントに参加する。
提出物	30	①課題に対して適切な内容となっている。 ②定められた期間内に提出している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
インターンシップ・仕事体験に参加するための準備を授業外でも進めること。指示された課題を行うこと。（60分）	授業内でコメントする

受講生に望むこと	就職活動に結びつく授業なので、真面目に、且つ積極的に取り組むことを望む。	教科書・テキスト	なし/なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	インターンシップ参加等については各自実費となる。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインVI			開講学科	社会学部	必修・選択	選択
担当教員名	乾　祐哉						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業は「キャリアデザインⅤ」に続いて行う内容である。「キャリアデザインⅤ」で体験したインターンシップや、その準備等で体験したことをふまえて、社会で求められる力を認識するとともに、実際の就職活動に必要な知識やスキルを獲得する。	①社会で求められる力を具体的に述べることが出来るようになる。 ②就職活動に必要な知識やスキルを獲得する。

教授方法	講義・演習
履修条件	キャリアデザインⅠ～Ⅴを履修済であることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について理解する	全教員・外部講師
2	インターンシップ参加報告会	全教員
3	自己分析と履歴書のたたき台の作成	全教員・外部講師
4	面接練習	全教員・外部講師
5	学内キャリアガイダンスへの参加①	全教員
6	学内キャリアガイダンスへの参加②	全教員
7	マイナビイベント参加	全教員・外部講師
8	エントリーシート作成：自己分析・自己PR・ガクチカを作ってみよう　※PROG結果持参	全教員・外部講師
9	採用担当者と語る会①	全教員
10	エントリーシート作成：志望動機を作ってみよう	全教員・外部講師
11	面接（対面・WEB）準備	全教員・外部講師
12	採用担当者と語る会②	全教員
13	面接実践：模擬面接（集団面接）①	全教員・外部講師
14	面接実践：模擬面接（集団面接）②	全教員・外部講師
15	就職活動本番に向けて	全教員・外部講師

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	①授業中のワークの達成度 ②講義・演習（グループワーク含む）に足して積極的に参加している。	提出物	30	①課題に対して適切な内容になっている。 ②定められた期間内に提出している。
発表	40	①発表内容 ②発表態度 ③質疑への応答			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
発表準備を進めること。業界・企業・職種研究を進めること（90分）	発表について授業内でコメントする。

受講生に望むこと	就職活動に直接結びつく授業なので、真摯に、かつ積極的に取り組むことを望む。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	プロゼミA			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	井上　克洋・植田　峰悠・田中　純一・俵　希實・真砂　良則　（代表教員　井上　克洋）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
1年次では、大学での学習に必要な基本的技術や作法（これをアカデミック・スキルという）を基礎ゼミⅠ・Ⅱにおいて学んできた。2 年次では、3年次から始まる専門ゼミの予行演習の位置づけとして設定されているプロゼミにおいて、自分の興味関心のある分野を選び、それを専門とする教員の指導の下にやや専門性の高い内容について学ぶ。	①指定テキストの内容を理解する。 ②指定テキストの担当部分のレジュメを作成できる。 ③自分が担当する部分について、レジュメにもとづき発表できる。 ④他者の発表を聞いて、自分の考えをもちディスカッションに参加できる。 ⑤プロゼミAで学んだ内容についてレポートにまとめることができる。

教授方法	ゼミごとによる演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ゼミ内での自己紹介、各ゼミのゼミ運営についての説明など。	各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
14	プロゼミ A の活動のまとめ（ゼミごとに半期のゼミ活動を総括する）	各担当教員
15	後期科目の履修指導、プロゼミB選択についての説明、その他諸連絡（合同）	全教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	①ゼミ内で指定した書式・文字数・枚数になっているか。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文になっているか。	レジュメ作成と発表	30	①分かりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。
ゼミへの参加態度と意欲	30	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 ②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。 ③課題にまじめに取り組み学ぼうとする姿勢があるか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
ゼミごとに求められる内容が異なるので、自分の所属するゼミの担当教員の指導に従うこと。 ゼミで指定されたテキスト、参考図書、資料等をよく読み考えをまとめる。[週平均90分以上] 日頃から新聞を読み、社会の事象を意識するように努める。	各担当教員から説明する。

受講生に望むこと	プロゼミでの学びが 3 年次からの専門ゼミの学びへとつながっていくので、指導教員の指示にしたがって指導を受けるのはもちろんのこと、自ら学ぶという強い意欲と授業への積極的な参加態度を望む。	教科書・テキスト	ゼミごとに教員の指示にしたがうこと。
指定図書／参考書等	ゼミごとに教員の指示にしたがうこと。	その他・特記事項	ゼミ単位で指導を行うので、不明な点は自分の所属するゼミ教員に問い合わせること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	プロゼミB			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	内田　啓太郎・池村　努・田引　俊和・若杉　亮平・菊池　義人　（代表教員　内田　啓太郎）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
1年次では、大学の学習に必要な基本的技術や作法（これをアカデミック・スキルという）を「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」において学んできた。2年次では、3年生から始まる専門ゼミの予行演習の位置づけとして設定されているプロゼミにおいて、自分の興味・関心のある分野を選び、それを専門とする教員の指導の下に、やや専門性の高い内容について学んでいく。PROGを用いた学生指導も含む。	①指定テキストの内容を理解する。 ②指定テキストの担当部分のレジュメを作成する。 ③自分が担当する部分について、レジュメに基づき発表する。 ④他者の発表を聞いて自分の考えを持ち、ディスカッションに参加する。 ⑤プロゼミにおいて学んだ内容について、レポートにまとめることができる。

教授方法	各ゼミごとの演習
履修条件	「プロゼミA」を履修した者（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	前半：成績についての指導（合同） 後半：ゼミ内での自己紹介・各ゼミ運営についての説明、履修・成績指導	全員
2	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
3	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
4	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
5	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
6	オータムセミナーについての説明・テーマに沿ったディスカッションと発表	全員
7	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
8	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
9	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
10	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
11	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
12	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
13	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
14	4年生卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会に参加し、簡単なレポートにまとめる（※特記事項参照）	全員
15	3年次前期履修説明・指導・専門ゼミⅠについての説明、その他連絡事項（合同）	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
ゼミへの参加姿勢	30	①議論への積極的な参加をしているか。 ②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。 ③課題にまじめに取り組み学ぼうとする姿勢があるか。	レジュメの作成と発表	30	①わかりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。
レポート	40	①ゼミ内で指定した書式・字数・枚数にならっているか。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文章になっているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①学内外の講座・セミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の購読など。 ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、レポートの準備をすること。 上記①・②を踏まえつつ、 ・講義に関するレジュメを事前に配布するので必ず目を通しておくこと[30分] ・学んだことはその日のうちに復習すること[30分]	各担当教員の指導に従う。

受講生に望むこと	プロゼミでの学びが3年次からの専門ゼミの学びへとつながっていくので、指導教員の指示・指導に従って学びを深めるのはもちろんのこと、自ら学ぶという強い意欲と授業への積極的な参加が望まれる。	教科書・テキスト	各担当教員の指導に従う。
指定図書／参考書等	各担当教員の指導に従う。	その他・特記事項	※卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会については、2月の試験期間後に行われる。具体的な日程等については別途案内する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	専門ゼミⅠ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	池村　努・井上　克洋・植田　峰悠・内田　啓太郎・菊池　義人・田中　純一・田引　俊和・倭　希實・真砂　良則・若杉　亮平　（代表教員　池村　努）						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
担当する教員の専門分野の中から自分の興味関心のあるテーマについての知見を深める。ゼミごとに文献等を設定し、演習形式で文献の輪読と担当者によるレジュメの作成と発表、内容についてのディスカッション等を通して、専門的な文献の読解力と内容の把握の方法を身につける。自分のテーマを追求するのに適した理論や方法論を見出し、ゼミレポートの作成を目指す。マイナビMATCH+による診断結果に基づいた学生指導も含む。	①専門分野に関する文献等を読んで理解する。 ②専門分野に関するディスカッション・フィールドワーク等を通して自分が取り組みたい研究テーマを見つける。 ③専門分野に関するディスカッション等を通して自分の研究テーマの追及に適した理論や方法を探す。 ④ゼミレポートを作成する。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
14	各ゼミにてアセスメントを実施する。	各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
16	各ゼミにてアセスメントに基づく解説を行う。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
28	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
30	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	50	①課題に誠実に取り組んでいるか。 ②積極的にディスカッション等に参加しているか。	レポート	50	①指定された書式に従っているか。 ②適切な内容となっているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
ゼミレポートの作成やゼミ発表の準備を進める[週平均90分以上] 詳細は各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。

受講生に望むこと	研究課題に主体的に取り組むこと。	教科書・テキスト	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。
指定図書／参考書等	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	その他・特記事項	全30回のなかで「リテラシー・コンピテンシーアセスメント」および「リテラシー・コンピテンシーアセスメント解説会」を実施する。実施時期は事情により変更される場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	専門ゼミⅡ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	井上　克洋・内田　啓太郎・田中　純一・田引　俊和・倭　希實・真砂　良則・若杉　亮平・池村　努・植田　峰悠　（代表教員　井上　克洋）						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
「専門ゼミⅠ」で学んだ研究方法を土台に、それぞれの専門分野で設定したテーマに沿って研究レポートを作成する。具体的には、先行研究の検討、研究上の仮説の構築、適切な方法論の構築などを行った上で、データ収集、分析、解釈を実施し合理的な結論を導く。この過程をゼミ担当教員の指導の下で行う。レポートを作成するとともに、その成果を卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会で報告する。	①各自の問題関心を深めて研究テーマを設定し、それについて論理的に考えることができるようになる。 ②設定した研究テーマについて、レポートを作成することができるようになる。 ③レポートの内容について、プレゼンテーションを通して効果的な報告を行うことができるようになる。 ④専門分野について自分の考えを持ち、ディスカッションに参加できるようになる。

教授方法	演習
履修条件	「専門ゼミⅠ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の目的、流れ、方針と評価方法等について説明する。	担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
16	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	担当教員
28	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会での報告準備。	担当教員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会での報告。	全教員
30	全体のふりかえり。	担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	30	①授業にまじめに取り組んでいるか（報告会を含む）。 ②積極的にディスカッションに参加しているか（報告会を含む）。	レポート	50	①期限内に提出しているか。 ②指定された字数、書式にしたがっているか。 ③適切な内容となっているか。
成果報告	20	①レポートの内容を効果的に伝えることができているか。 ②報告態度は適切か。 ③質疑への応答ができているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
レポートの作成および報告会の準備は、ほぼ授業外で行う。［120分以上］	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会において行う。

受講生に望むこと	レポートの作成は、早目に着手し、主体的に進めて欲しい。	教科書・テキスト	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。
指定図書／参考書等	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	その他・特記事項	不明な点は自分の所属するゼミ担当教員に問い合わせをすること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	卒業研究			開講学科	社会学部	必修・選択	選択
担当教員名	井上　克洋・内田　啓太郎・田中　純一・田引　俊和・倭　希實・真砂　良則・若杉　亮平・植田　峰悠　（代表教員　井上　克洋）						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				

授業の概要	授業の到達目標
大学での学びの集大成として、これまでの専門分野での学習を総合的に生かし、自ら研究テーマを設定し、その研究テーマの探究を通して、研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。具体的には、研究方法の選択、先行研究の検討、研究上の仮説の構築、適切な方法論の構築などを行った上で、データ収集、分析、解釈を実施し合理的な結論を導き、卒業論文を執筆する。また、卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会で研究成果を報告する。	①現代社会が抱える様々な問題に対しての関心を高め、研究テーマを設定し、それについて論理的に考えることができるようになる。 ②専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ③既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できるようになる。 ④研究内容について、論文執筆および口頭発表という形で的確に表現することができ、さらに他者と討論ができるようになる。

教授方法	演習
履修条件	3年次終了時点で累積GPAが2.5以上であること。3年次までに開講されている全必修科目の単位を修得していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：卒業研究の概要および注意事項等について説明する。	全教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
16	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
28	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会での報告準備	各担当教員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会での報告	全教員
30	卒業研究の総括	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	10	①研究にまじめに取り組んでいるか（報告会を含む）。 ②積極的にディスカッションに参加しているか（報告会を含む）。	卒業論文	80	①期限内に提出しているか。 ②指定された字数、書式にしたがっているか。 ③適切な内容となっているか。
成果報告	10	①卒業論文の内容を効果的に伝えることができているか。 ②報告態度は適切か。 ③質疑への応答ができているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
卒業論文の作成および卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会での報告準備は、ほぼ授業外で行う。［120分以上］	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会において行う。

受講生に望むこと	卒業論文の作成は、早めに着手し、主体的に進めて欲しい。	教科書・テキスト	担当教員の指示にしたがう。
指定図書／参考書等	担当教員の指示にしたがう。	その他・特記事項	不明な点は自分の所属するゼミ担当教員に問い合わせること。 履修条件についての詳細は、『学生要覧』の「卒業研究履修条件」を参照のこと。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	ソーシャルサイエンス概説			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	池村　努・井上　克洋・植田　峰悠・内田　啓太郎・田引　俊和・田中　純一・俵　希實・若杉　亮平・真砂　良則・菊池　義人　（代表教員　池村　努）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
社会学科で学んでいくにあたり、この学科で学ぶことができる研究領域や分野について理解することを目的に、社会学科の専任教員が、専門分野の内容についてわかりやすく講義する。これによって学生は、社会学を始めとしたソーシャルサイエンス領域の中から興味ある分野や自分が研究したいテーマを見出していく。評価は15回の内容に関係するテーマについてレポート・課題を課すことにより行う。	①社会学科で学ぶにあたり、強い好奇心をもって各分野の初歩を学び、向上心を高める。 ②講義で扱う各分野の内容を理解する。 ③５つの履修モデルの分野（現代社会・国際理解、政治経済・経営、心理・カウンセリング、環境福祉マネジメント、情報・図書館司書）の講義で学んだことを整理し、800文字以上のレポートにまとめることができる。

教授方法	社会学科専任教員による履修モデルオムニバス講義。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：全体説明	池村
2	環境福祉マネジメントカテゴリー： こころの不調や発達障害などがある人たちについて正しく理解するとともに、互いを認め合える共生社会・ノーマライゼーション理念について考える。	田引
3	環境福祉マネジメントカテゴリー： 自然災害からの復旧・復興過程における社会的課題について「人間の復興」の視点から考える。	田中
4	環境福祉マネジメントカテゴリー： 「社会福祉」がテーマ。人が生活者として生き続けることを社会全体で支える取り組みと考え方について学ぶ。	真砂
5	環境福祉マネジメントカテゴリー： 「高齢者の福祉」がテーマ。高齢化の現状や加齢に伴う課題等を理解しつつ、超高齢社会をどのように乗り越えていくかを考える。	真砂
6	現代社会・国際理解： 「多文化共生」をテーマとし、社会学的思考、社会調査結果を用いて、社会のあり方について考える。	俵
7	現代社会・国際理解： 日本のメディア文化を、UGC（ユーザ生成コンテンツ）の視点から事例分析を行い、その独自の「コンテンツの生態系」を理解する。	内田
8	現代社会・国際理解： コンテンツを支える「アーキテクチャ（設計思想）」に着目し、情報環境が私たちの社会秩序をいかに規定しているか考察する。	内田
9	政治・経済・経営カテゴリー： 経済と政治をテーマに、経済がいかに政治とかかわっているのか予算制度を中心に考える。	井上
10	政治・経済・経営カテゴリー： 経済と経営をテーマに、経済と経営との繋がりとマーケティングの基本的な考え方について学ぶ。	井上
11	心理・カウンセリングカテゴリー： カウンセリングや心理検査など、心理学の研究知見を対人援助に応用する臨床心理学について学ぶ。	植田
12	心理・カウンセリングカテゴリー： （仮）心とは何か、心を科学するとはどういうことか。心理学の考え方やその研究方法について学ぶ。	菊池
13	情報・図書館司書カテゴリー： 図書館情報学とは何かを考えるため図書館の役割について取り上げる。図書館に関わる歴史的な議論を踏まえ，知的自由と図書館への基本的な理解を目的とする。	若杉
14	情報・図書館司書カテゴリー： 「情報通信機器の役割と情報リテラシー」コンピュータや情報通信機器などが現代においてどのような役割を持つようになったか考えていく。また、正しく情報を扱うため何に気を付けるべきかについて学ぶ。	池村
15	情報・図書館司書カテゴリー： 「コンピュータの歴史と人工知能の発展」計算機の歴史と発展、そして人工知能の進化について学ぶ。	池村

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	90	①各分野ごとに出される課題レポートの提出（全５回分のレポート提出） ②レポート内容（「授業外における学習」欄を参照）	受講態度	10	授業への積極的な取り組み姿勢

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義で学んだことを整理・復習する。［30分以上］ ②講義中に紹介された図書や資料については講義後各自で読む、調べる。［30分以上］ ③講義によっては事前に関連する資料を配布するので熟読すること。 ④こころと体の健康、高齢社会などについて、社会のニュースを意識し、考えをまとめる（福祉分野）。 ⑤以下の評価基準に留意しレポートを作成すること。分量、文体の統一、漢字とかなの使い分け方針の一貫性、誤字・脱字、文頭と文末の対応、一文の長さ、段落の一字下げの有無等。	提出されたレポートについては、別途、総評をする。

受講生に望むこと	授業は、教員と学生双方の意欲と態度によって成り立つので、学生には積極的な授業への参加態度（教員の問いかけに答えるなど）を望む。	教科書・テキスト	各回の担当者がレジュメ・資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／各回の担当者の指示に従うこと。	その他・特記事項	①各分野による課題レポートの提出期日は厳守すること。期限後の提出は、いかなる理由があっても受理しない。 ②レポートは、Google Classroom を通じて、翌週の月曜日13：00までに提出。文字数は全コース共通で800文字以上。なお、個別に指示があった場合は、それに従う。 ③指定された日にはChromebookを持参。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会学概論Ａ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	内田　啓太郎						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	社会福祉士				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では社会学の基本的な理論と概念、そして社会学の基本的な考え方を理解し、現代社会の捉え方を学ぶ。授業では、具体的に社会問題や人々の生活を取り上げ、社会学の視点から解説する。それらを踏まえて社会学とはどのような学問であるのか、どのように社会に貢献しているのかについて考える。	①社会学の基本的な理論と概念について理解する。 ②社会学の基本的な考え方ができるようになる。 ③現代社会が直面する問題を社会学の理論や概念を用いて説明することができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	社会学とはどのような学問なのか①：社会学が対象としている「社会」とは何か、社会と人間との関わりについて考える。	
3	社会学とはどのような学問なのか②：他の社会科学との違いから社会学を捉える。社会学における「前近代」「近代」「脱近代」ついて理解する。	
4	【人と社会の関係を捉える】 行為論①：行為と行動の違い、行為の種類、行為の４類型について理解する。	
5	行為論②：準拠集団、社会規範について理解する。	
6	行為論③：社会化、個人主義、パーソナリティについて理解する。	
7	相互作用論①：地位と役割、役割の分類、役割葛藤、役割演技、ダブルコンティンジェンシーについて理解する。	
8	相互作用論②：予言の自己成就について理解する。	
9	【現代社会への理解を深める】 集団論①：集団とは何かを学び、その上で個人と集団との関係、社会と集団との関係を理解する。	
10	集団論②：内集団と外集団、集団の諸類型について学ぶ。	
11	集団論③：最も大規模な機能集団である官僚制組織の特徴やその組織の構成員に与える影響について理解する。	
12	【生活を理解する】 家族と社会：社会の基礎集団である家族について理解する。	
13	生活と社会：男女共同参画社会に着目して生活時間について考える。	
14	【社会学ア・ラ・カルト】 メディア文化：文化社会学の視点から現代社会におけるメディア文化について理解する。	
15	若者と社会：コミュニケーション論の視点から現代社会における若者のあり方について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	授業内容について理解しているか。	授業への参加態度	30	毎回の授業で提出するリアクションペーパーの提出状況およびその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
定期試験の準備は授業外で行うこと。授業中に配布するレジュメを事後に確認し、復習すること。講義内容にとどまらず、様々な情報を通じて、現代社会のあり方、諸問題の背景と原因について自己学習すること。[45分]	定期試験の終了後にコメントする。もしくは書面でコメントを提示する。

受講生に望むこと	意欲的な態度で授業に参加すること。	教科書・テキスト	教科書は指定しない。
指定図書／参考書等	指定図書：なし 参考書等：授業中に随時紹介する。	その他・特記事項	毎回の授業資料（スライド／レジュメ）はオンラインで公開する（印刷物を配布しない）。資料の閲覧、ノートテイキングのためChromebookを持参することを推奨する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会学概論Ｂ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択
担当教員名	内田　啓太郎						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では社会学における「コミュニケーション」の基本的な理論と概念を理解し、現代社会そのものを捉えなおしていく。授業では、具体的なコミュニケーション状況を取り上げ、社会学の視点から解説する。それらを踏まえて社会とはどのようなものであるのかについて考える。	①社会学におけるコミュニケーションに関する理論と概念について理解できるようになる。 ②社会学の応用的な考え方ができるようになる。 ③現代社会が直面する問題を社会学のコミュニケーションに関する理論や概念を用いて説明することができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方や成績評価について説明し、なぜ「コミュニケーション」をキー概念とするのかについて解説する。 教科書 → 第1章「いろいろあるメディア、いろいろあるコミュニケーション」	
2	メディア・コミュニケーションと人間関係（社会関係）について解説する。 教科書 → 第3章「スマホを使い続ける私たち」	
3	現代の大学生における日常生活のあり方について解説する。 教科書 → 第4章「運動部の学生にとっての大学生活とは？」	
4	流行のファッションを通して自己呈示とアイデンティティの関係について解説する。 教科書 → 第5章「『見せる』のではなく『見る』ためのロリータファッション」	
5	身近なキャラクターを題材により良い人間関係を構築するためのコミュニケーション戦略について解説する。 教科書 → 第6章「キャラに溢れた世界」	
6	ビデオゲームを題材にメディア・コンテンツの社会的影響とそれに対する社会的言説について解説する。 教科書 → 第7章「ビデオゲームに暴力的影響はあるのかないのか？」	
7	社会的行為としての「恋愛」を通して現代社会におけるジェンダー／セクシュアリティのあり方について解説する。 教科書 → 第11章「恋愛関係と出会いの変化」	
8	「近代家族」の成立過程をふまえ、現代社会における家族イメージと家族規範の変容について解説する。 教科書 → 第12章「家族は仲良くなければいけないのか」	
9	現代社会における労働観の変容を通じて、社会関係としての「労働」について解説する。 教科書 → 第13章「『好き』を仕事にする」	
10	現代社会におけるアイドル・ファン関係を通じて、ポップ・カルチャーとしてのアイドル文化／ファンダム文化について解説する。 教科書 → 第15章「それでもファンはアイドルを求める」	
11	ディズニーを題材に、プロパガンダとしてのポップ・カルチャーについて解説する。 教科書 → 第17章「ディズニーは『夢』を描く」	
12	マスメディア理論を通じて、フェイクニュース／うわさの社会的影響について解説する。 教科書 → 第18章「カウンターナレッジの強力効果」	
13	コト消費・体験型消費を題材に、古典的消費社会論から現代社会に適合した消費社会論への変容について解説する。 教科書 → 第19章「消費社会とモノの現在」	
14	現代社会のメディア環境を題材に、監視社会としての現代社会のあり方について解説する。 教科書 → 第20章「すすんで監視するアンバランスな私たち」	
15	総まとめ：授業において取り上げた様々な話題を振り返り、社会学的思考としての「コミュニケーションの社会学」について解説する。また定期試験について説明を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	授業内容について理解しているか。	調査発表	30	授業で解説した各内容をふまえ、各自が調べた内容を発表する。学期中に複数回実施する。
授業への参加態度	10	毎回の授業で提出するリアクションペーパーの提出状況およびその内容を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
定期試験の準備は授業外で行うこと。授業中に配布するレジュメを事後に確認し、復習すること。講義内容にとどまらず、様々な情報を通じて、現代社会のあり方、諸問題の背景と原因について自己学習すること。[45分]	定期試験の終了後にコメントする。もしくは書面でコメントを提示する。

受講生に望むこと	意欲的な態度で授業に参加すること。	教科書・テキスト	有田亘・松井広志（編著）2024年『いろいろあるコミュニケーションの社会学 Ver.3』北樹出版 （ISBN：9784779307492）
指定図書／参考書等	指定図書：なし 参考書等：授業中に随時紹介する。	その他・特記事項	毎回の授業資料（スライド／レジュメ）はオンラインで公開する（印刷物を配布しない）。資料の閲覧、ノートテイキングのためノートPCやChromebookを持参することを推奨する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会調査論			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	俵　希實						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・社会調査士				

授業の概要	授業の到達目標
社会学の基礎的な知識と関連させながら、学問の方法としての社会調査法を学ぶ。経験的社会学研究の方法論として、社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する。社会調査の種類・目的、実例、社会調査の倫理、社会調査の歴史等についての基礎知識を学び、これからの社会調査のあり方について考える。社会調査の方法の概要について、社会調査の全体像と個別作業との結びつきを実際例から把握する。以上によって、社会学を自ら学んでいく基礎を確立することを目指す。	①社会学の基礎的知識、特に経験的社会学の成果について説明できるようになる。 ②社会調査の意義、目的、種類、歴史について説明できるようになる。 ③現代の社会環境のなかで社会調査を実施する際の気をつけるべきポイントを理解する。 ④社会調査の全体像と、個別作業の結びつきについて理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	社会学の見取り図（理論社会学と経験社会学）と社会調査の位置について理解する。	
3	社会調査の定義と目的、歴史について知り、意義を構築する。	
4	調査倫理、統計法と個人情報保護、そして統計リテラシーについて知識を習得する。	
5	社会調査（質的調査）の種類と実際例を学ぶ。	
6	社会調査（量的調査）のプロセスの全体像を把握する。	
7	社会学の理論とリサーチクエスチョン、そして問題発見の仕方について理解し、実践的に考察する。	
8	社会調査（量的調査）の実際例を学び、その意義について考え、理解する。	
9	調査課題の設定について実践的に検討する。	
10	様々な実査の方法の長所と短所について理解する。	
11	調査票の構成について理解する。	
12	質問文の作成と、社会学で使われてきた尺度について具体例に基づいて理解する。	
13	サンプリングの概念について学び、調査対象者を決めるということの意味を理解する。	
14	サンプリングの実際の場面を模擬的に経験し、ポイントを理解する。	
15	調査の実施（郵送法）の具体的な手続きと注意点を理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
提出物	30	①課題に対して適切な内容になっているか。 ②定められた期間内に提出しているか。	期末試験	70	各回の講義内容について理解しているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書の該当範囲を事前に読んで、疑問点を考えてくる。 ②配付資料を事後に確認し、復習を行う。[60分]	課題についての解説を授業中に行う。

受講生に望むこと	①講義内容に関して疑問点があれば、積極的に質問してください。 ②社会学と社会調査の結びつきについて、常に念頭におくようにしてください。	教科書・テキスト	『入門・社会調査法』（第5版）轟亮・杉野勇・平沢和司　編 法律文化社　2026年 ISBN：9784589044730
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのA科目に準拠している。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会調査法			開講学科	社会学部	必修・選択	選択
担当教員名	俵　希實						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士				

授業の概要	授業の到達目標
社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく基本的な知識と具体的な方法を学ぶ。 構想・計画→準備→実査→データの入力と点検→分析→報告という社会調査（量的調査）の全過程について順を追って解説する。 実際に、仮説を立てたり、質問文を作成したりすることで理解を深める。	①社会調査（量的調査）の全過程についての基礎知識を習得する。 ②量的調査に係る実施作業のイメージをつかむことができるようになる。 ③他の人がおこなった調査データや分析結果を適切に読みとることができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	社会調査のデザイン：リサーチ・クエスチョンを立てる。	
3	社会調査のデザイン：仮説とは何かを学び、実際に仮説を立てる。	
4	実査の方法：量的調査における方法の選択について学ぶ。	
5	調査票の作成：調査票の構成、質問文の形式、質問文・回答選択肢の作成の手順について学び、実際に質問文と回答選択肢を作成する。	
6	調査の実施（1）：郵送法実査の具体的な手順と注意点について理解する。	
7	調査の実施（2）：個別面接法実査の具体的な手順と注意点について理解する。	
8	データの電子ファイル化（1）：データ構造化の流れについて理解する。	
9	データの電子ファイル化（2）：エディティングとコーディングについて学ぶ。	
10	データの電子ファイル化（3）：データ入力とデータクリーニングについて学ぶ。	
11	ウェブ調査の方法と実施：ウェブ法の利点および実際、ウェブ調査の標本抽出枠の側面について学ぶ。	
12	データの基礎的集計（1）：変数の種類、質的変数の要約、量的変数の要約（代表値）について学ぶ。	
13	データの基礎的集計（2）：量的変数の要約（散布度）について学ぶ。	
14	変数間の関連：相関係数とクロス表の作成について学ぶ。	
15	調査倫理とデータの管理：調査のフィナーレであるデータ管理と、社会調査のすべてのプロセスにかかわる調査倫理について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	授業内容を理解しているか。	提出物	30	①適切な回答を記述しているか。 ②定められた期間内に提出しているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習としてテキストの該当箇所を読んでくること。事後学習として授業中に配付されたレジュメを確認すること。ワークシートを指示されたところまで仕上げること。[60分]	課題についての解説を授業中に行う。

受講生に望むこと	粘り強く学習してください。 授業で得た知識を他の授業や授業外でも活用するようにしてください。	教科書・テキスト	『入門・社会調査法』（第5版）轟亮・杉野勇・平沢和司　編 法律文化社　2026年 ISBN：未定
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムの B科目に準拠している。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	質的研究法			開講学科	社会学部	必修・選択	選択
担当教員名	俵　希實						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士				

授業の概要	授業の到達目標
社会調査法における質的なアプローチを学ぶ。質的調査の歴史、考え方、特徴、仮説と理論についての説明、さらに事例を示しつつ、さまざまな質的データの収集方法や分析方法についての解説を行う。研究目的に適合した調査手法の選び方、調査設計の仕方、実査の進め方、調査結果の解釈の仕方を学ぶ。そして、学んだことをもとに調査を行い、実践的な知識とノウハウを習得する。	①質的研究法の基本的な考え方を理解する。 ②質的研究法を用いた研究事例について、分析手法の選択および研究手続きの妥当性が判断できるようになる。 ③質的調査を行うための実践的な知識および技術を習得する。

教授方法	講義
履修条件	学部生であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	イントロダクション：自分の日常生活を再発見することから質的調査のイメージをつかむ。	
3	質的調査の歴史と考え方：これまでの質的調査の歴史はどのように展開されてきたのか。調査を実際に進める中でうみだされてきた考え方について学習する。	
4	質的調査の特徴・魅力・難しさ：質的調査と量的調査の違い、質的調査と量的調査の関係、質的調査の難しさと魅力を理解する。	
5	仮説と理論：仮説とは何か、理論とは何か、基本的なことを理解する。	
6	リサーチ・クエスチョンを考える：リサーチ・クエスチョンの導き方を学ぶとともに、実際に考えてみることで理解を深める。	
7	観察法①：事例をもとに観察法の進め方を理解する。	
8	参与観察法：事例をもとに参与観察法の進め方を理解する。	
9	観察法②：実際にインタビュー法を用いた調査を行い、その結果を発表する。	
10	インタビュー法①：事例１をもとにインタビュー法の進め方を理解する。	
11	インタビュー法②：事例２をもとにインタビュー法の進め方を理解する。	
12	インタビュー法③：実際にインタビュー法を用いた調査を行い、その結果を発表する。	
13	文化資料分析法①：事例をもとに文化資料分析法の進め方を理解する。	
14	調査倫理：社会的行為としての社会調査であることを理解する。	
15	文化資料分析法②：実際に文化資料分析法を用いた調査を行い、その結果を発表する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
提出物	30	①課題に対して適切な内容になっているか。 ②定められた期間内に提出しているか。	発表	20	①課題に対して適切な内容となっているか。 ②論理的な構成となっているか。 ③聴衆にとってわかりやすい発表となっているか。
定期試験	50	授業内容について理解しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
調査課題を出すので、それに従って調査を実施、その結果をまとめ、パワーポイントでの発表の準備を行うこと。事前学習として、テキストの該当箇所を読んでくること。事後学習として、授業中に配付したレジュメの内容を確認し、復習すること。［60分］	各発表に対してコメントする。

受講生に望むこと	授業で得た知識やスキルを他の授業や授業以外でも活用するようにしてください。	教科書・テキスト	工藤保典・宮垣 元・寺岡伸悟編『質的調査の方法〔第3版〕―都市・文化・メディアの感じ方』法律文化社，2022年　ISBN 978-4589041906
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する 社会調査士資格取得カリキュラムの F科目に準拠しています。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	データ処理基礎			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	細貝　亮						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
ビッグデータなどが簡単に入手できるようになった現在、社会の様々な現象を理解する上でデータを適切に処理することのできる能力は社会でますます求められるようになっています。この授業の目的は、大学で社会調査を学んでいく前に求められるデータ分析に関する基本的な知識を学習することにあります。具体的には、データを実証的に分析する際に求められる方法論や分析を行うに際して求められるデータの基本的な見かた等を統計ソフトを用いたデータの簡単な処理を通じて学んでいきます。	①データを実証的に分析する方法論を習得する。 ②グラフの読み方や特性、さらに作成の仕方の基本について習得する。 ③日常生活の様々な側面で利用されている統計データの利用のされ方の正誤を判別できるようなデータリテラシーを身につける

教授方法	講義と演習によって進行します。演習は、ExcelあるいはExcelベースのフリー統計ソフトHADを用いて行う実習が中心になります。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価の方法について説明した後、データ分析を学ぶ意義について検討します。（データ分析を学ぶ意義を理解する。）	
2	データとは何か①：実際のデータをみながら、定義や基本構造を説明します。（データの定義や基本構造を理解する）	
3	データとは何か②：実際のデータを自分で作成したり、探してみることでデータの定義や基本構造について学びます。	
4	変数の中心を把握する：変数の平均的な傾向を確認する平均値、中央値、最頻値について学びます。（変数の中心を把握する方法を理解する）	
5	変数のばらつきを把握する：変数のばらつきを確認する範囲、分位数、分散、標準偏差などについて学びます。（変数のばらつきを把握する方法を理解する）	
6	相関分析①：二つの変数の双方向の関係を分析する相関分析について学びます。（相関分析の基礎を理解・習得する）	
7	相関分析②：Excelを使った相関分析の方法について学びます。	
8	クロス集計表分析①：二つの変数の関係を分析するクロス集計表分析について学びます。（クロス集計表分析の基礎を理解・習得する）	
9	クロス集計表分析②：Excelを使ったクロス集計表分析の方法について学びます。	
10	実証分析の基礎①：社会現象をデータによって明らかにするとはどういうことか。実証分析の枠組みについて説明します。	
11	実証分析の基礎②：因果関係の解明を目的とする理論とは何か、仮説とは何かについて説明します。（理論と仮説の意味を理解する）	
12	実証分析の基礎③：社会現象を事例としていくつか取り上げ、それがなぜ生じたのか、各自で仮説を立てて考えてみることで、理論や仮説について学びます。	
13	レポート課題の提示：社会問題をテーマに課題を提示します。受講者は、実証的な方法論に基づいて個人でこの課題に取り組んでいきます。	
14	個人学習：提示されたレポート課題に個人で取り組みます。	
15	まとめ：授業全体のふりかえりとして、データ処理を行うにあたって注意すべき点について説明します。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	ポイントを押さえた読みやすいレポートを書くことができているか。	各回の課題	60	毎回の内容を理解できているかをみる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業で使用する資料は、Google Classroomから提供するので事前に必ず目を通しておいてください。[30分] ②毎回の講義後に課題をGoogle Classroomから出すので、期日までに提出してください。[60分]	課題のフィードバックは、適切な時期にGoogle Classroomで公開します。

受講生に望むこと	①統計データは、日常生活のあらゆる側面で使われています。日頃からそうした統計データの利用のされ方に注目するようにしてください。 ②教室内での私語やスマホの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。	教科書・テキスト	特に用いません。授業資料（自作テキスト）を配布します。
指定図書／参考書等	なし／『Excelで今すぐはじめる心理統計 第2版 簡単ツールHADで基本を身につける』　小宮あすか・布井雅人著　2024年　講談社　ISBN:978-4065371800.　『社会調査のための統計データ分析』　廣瀬毅士・寺島拓幸著　2010年　オーム社　ISBN:978-4274067631	その他・特記事項	授業資料や授業の感想や疑問を記入するリアクションシートなどは、Google Classroomから提供します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	心理学統計法			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	劉 思良						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・社会調査士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、データを対象に、統計的分析の基本的な考え方と手法を体系的に学ぶ。記述統計、尺度水準、度数分布表、標本抽出といった基礎的内容から、仮説検定、t検定、分散分析、相関分析までを取り上げ、調査データをどのような手順で分析していくのかを解説する。	1．データ分析に用いられる基本的な統計手法について、その目的と前提条件を説明できるようになる。 2．与えられたデータや分析結果をもとに、適切な統計手法の選択および結果の解釈を行えるようになる。 3．統計分析の結果を読む際に、誤った解釈や不適切な利用を識別できるようになる。

教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：本授業全体の進め方と構成について説明し、統計学をどのような視点で学んでいくのかを示す。あわせて、今後の講義で使用される統計学の基本用語を紹介し、以後の内容を理解するための基礎を整える。	
2	調査データをどう分析する：社会調査データの分析における「記述」と「説明」の違いを具体例にもとづいて学ぶ。あわせて、度数分布や記述統計によるデータの記述方法を確認し、統計的説明がどのような意味をもつのかを理解する。また、統計的説明における仮説検定の位置づけについて、サンプリングの考え方をふまえて整理する。	
3	尺度水準と代表値・散布度：尺度水準と代表値・散布度：データに用いられる尺度水準の種類とその違いを確認し、各尺度に応じて用いることのできる代表値や散布度の考え方を学ぶ。あわせて、代表値や散布度がデータの特徴をどのように表しているのかを具体例にもとづいて理解する。	
4	度数分布表の作成：社会調査データを記述的に把握するための基礎として、度数分布表の作成や割合による整理の考え方を学ぶ。あわせて、分布の累積的な把握や位置づけを示す指標について、具体例を通じて理解を深める。	
5	度数分布表の記述：変数の度数分布を統計量によって要約・記述する方法を学ぶ。分布の中心や散らばりを表す代表値および変動の測度の考え方を整理し、異なる分布を比較する際の視点としてZ得点の意味について理解する。	
6	母集団と標本：社会調査における母集団と標本の基本的な考え方を確認し、調査データがどのような範囲や条件のもとで得られているのかを整理する。あわせて、標本を用いて全体を考える際の前提や注意点について理解する。	
7	データのサンプリング：社会調査においてデータがどのように抽出されるのかを確認し、サンプリングの基本的な考え方を学ぶ。あわせて、標本の取り方によって得られる結果の解釈がどのように左右されるのかについて、具体例を通じて理解する。	
8	統計の種類と仮説検定の考え方：社会調査データを分析する際に用いられる統計の基本的な分類を整理し、統計的推論がどのような考え方にもとづいて行われるのかを概観する。あわせて、仮説検定が果たす役割や、その前提となる考え方について、具体的な分析例を通じて理解する。	
9	クロス集計表の作成と分析：2つの離散変数の関係を整理する方法として、クロス集計表の作成と読み取り方を学ぶ。あわせて、標本調査において得られたデータから全体的な傾向を考える際の視点を確認し、クロス集計にもとづく仮説検定の位置づけを理解する。さらに、カイ二乗検定の考え方と結果の解釈について、具体例を通じて学ぶ。	
10	正規分布：連続変数の分布を理解するための基本的な枠組みとして、正規分布の特徴や性質を学ぶ。あわせて、平均値の差を検討する際に正規分布がどのように用いられるのかを概観し、仮説検定における正規分布の位置づけについて、具体例を通じて理解する。	
11	t検定：連続変数の平均値を比較する方法の一つとして、t検定の基本的な考え方を学ぶ。あわせて、正規分布を用いた検定との違いや、検定結果を解釈する際の視点について整理する。また、片側検定と両側検定の考え方についても確認する。	
12	分散分析：3つ以上の群の平均値を比較する方法として、分散分析の基本的な考え方を学ぶ。複数の群に分けられたデータにおいて、平均との差やばらつきに着目することで、群間の違いをどのように捉えるのかを整理する。あわせて、分散分析の結果を解釈する際の視点について、具体例を通じて理解する。	
13	ピアソンの積率相関係数：2つの連続変数の関係を把握する方法として、ピアソンの積率相関係数の基本的な考え方を学ぶ。散布図を用いて変数間の関連を視覚的に確認し、相関係数が示す関係の強さや方向の意味について理解する。あわせて、相関係数を解釈する際の注意点についても整理する。	
14	統計手法を選択するための視点：分析の目的やデータの性質に応じて、どの統計手法を用いるべきかを判断するための考え方を整理する。これまでに学んだ手法を比較しながら、手法選択において確認すべき前提条件や注意点を明確にし、実際の分析場面を想定して統計分析の組み立て方を確認する。	
15	講義のまとめ：本授業で扱った内容全体を振り返り、各回で学んだ考え方や手法がどのようにつながっているのかを整理する。あわせて、社会調査データや分析結果に向き合う際の基本的な視点を再確認し、本授業で得た知識を今後どのように位置づけるかを確認する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	40	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．　事前学習：各回の事前配布資料をあらかじめ読み、内容の理解に努めるとともに、疑問点を整理しておく。[30分／回] 2．事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容の復習を行う。［60分／回］ 3．その他、テレビ、新聞、雑誌、インターネット、商業広告等、日常生活の中にある統計情報に積極的に触れ、授業内容と照らし合わせながら、提示されているデータを適切に読み取る習慣を身につける。	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	本授業では、各回の内容が段階的に関連しているため、継続して受講することを重視する。講義中にすべてを完全に理解することよりも、用語や考え方の流れを把握し、疑問点を持ちながら学ぶ姿勢を期待する。また、配布資料や例題を通じて、データの見方や結果の読み取りを自分なりに考えることを求める。	教科書・テキスト	教科書は特に指定せず、各回の講義において電子資料を配布する。
指定図書／参考書等	指定図書／参考書については、授業の進行に応じて適宜指示する。	その他・特記事項	本科目は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのD科目に準拠している。体験的な学習を通じて理解を深めることを目的とし、授業の一環として、心理学における実験や調査への参加を求める場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会学理論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田邊　浩						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
多くの人々は社会のことをそのようにあるのは「当たり前だ」と思っており、その中で生きています。けれども、よく考えてみると、「当たり前だ」と思っていることの中にも、不思議なことはいっぱいあります。実はわたしたちが生きている社会はたまたまそのような社会としてあるだけで、決して「当たり前」のものではないし、必然でもないのです。でも、ふだん生活している時にはそのことにはなかなか気づきません。社会を違った目で見るための有効な道具が社会学の理論です。理論を使えば、さまざまな社会現象がバッサリと切れて、社会の出来事がスッキリみえてきます。社会学理論はやや抽象的で、その意味で多少難しいですが、それらを理解することができれば、これほど頼りになる道具はありません。みなさんにも、社会学理論の切れ味を確かめてみてほしいと思います。	①社会的行為、コミュニケーション、地位と役割、社会制度、社会システムと社会構造など、社会学の基礎的な概念を理解する。 ②デュルケーム、ヴェーバー、ジンメルなど、社会学を確立した古典理論を理解する。 ③ハーバーマスやルーマン、ギデンズ、ブルデューなど、近年影響力のある社会学理論を理解する。 ④これらを通じて、社会を理解するための道具として、社会学理論を使えるようになる。 ⑤社会学理論を通じて、自分自身や自分のまわり、日常生活について、理解を深める。 ⑥社会学理論を通じて、私たちがいま生きている社会（モダニティ）を理解する。

教授方法	講義形式で行いますが、講義中にみなさんの意見を求めることがあります。パワーポイントを使用します。
履修条件	社会学概論Aないし社会学概論Bを履修済みであることが望ましい（社会学の基礎知識がないと、理解がやや難しいかもしれません）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	社会とは何か：社会学は「社会」に関する学問です。では、社会とは何でしょうか。社会という言葉を知らない人はいないでしょうが、社会とは何かという問いに答えることは、難しいことです。社会学理論の出発点として、社会とは何かという問題について考えます。	
2	近代社会と社会学：社会学の研究対象である近代社会とはいかなる社会であるのか。社会学はどのように誕生したのか，社会学はどのような役割を担っているのかなど、社会学を学ぶことの意義について考えます。	
3	社会学の古典（1）：E. デュルケームの社会学：社会学という学問の基礎を確立したのは3人の社会学者ですが，そのうちの一人デュルケームは，社会は個人の外に実在し、個人を拘束するようなものだと考えました。そうした彼の社会学的方法について考察します。	
4	社会学の古典（2）M. ヴェーバーの社会学：ヴェーバーはデュルケームと並ぶ重要人物です。ヴェーバーは社会は実在するものではなく、個人の社会的行為からなっていると考えました。デュルケームと対比しながら、ヴェーバーの理論について紹介します。	
5	社会学の古典（3）G. ジンメルの社会学：G. ジンメルは、社会学の研究対象は、人と人、人と集団、集団と集団の「相互作用」にあると考えました。ジンメルはそれら相互作用の形式について考察しました。こうした「形式社会学」について検討します.	
6	社会的行為とはなにか：社会学理論の基礎概念は行為です。人びとのふるまいを表す言葉として、行動という言葉もありますが、行為はこれとどう区別されるのか、行為が社会学の中でなぜ中核概念となるのか、行為にはどのようなタイプがあるのかについて考察します。	
7	地位と役割：私たちはさまざまな集団に所属しています。そして、その集団の中では、ある地位が与えられ、その地位とセットになった役割を遂行するのにふさわしい行為をすることが求められます。この地位と役割の概念について理解を深めます。	
8	社会システムと社会構造：社会システムと社会構造は、社会学理論において、きわめて重要な役割を担う概念です。これらの概念を理解することなくしては、社会学を研究することはおぼつきません。具体例を交えながら、それらの概念を理解します。	
9	機能主義の社会学：機能主義は社会学理論においてきわめて大きな影響力をもったアプローチです。その代表的存在はT. パーソンズですが、機能主義はその名のとおり、社会システムの「機能」ということに注目するのがその特徴です。機能主義の考え方を理解します。	
10	意味学派の理論：機能主義社会学に対抗して、人間が「意味」をやりとりする、そしてそのことによって社会が成り立っていることに注目するさまざまな理論が現れました。現象学的社会学、象徴的相互作用論、エスノメソドロジーといった理論について紹介します。	
11	J. ハーバーマスのコミュニケーション的行為理論：ハーバーマスは相互行為の中でもとくにコミュニケーション的行為に注目して、独自の理論を作り上げました。人びとのコミュニケーションによる合意が社会を成り立たせているという意味について考えます。	
12	N.ルーマンの社会システム理論：パーソンズの遺産を受け継ぎながらも、それを批判的に消化して、さらに大胆に社会システム理論を革新した、ルーマンのオートポイエティック・システム理論について検討します。	
13	P. ブルデューの実践の理論：ブルデューは、行為と構造がハビトゥスによって媒介されていると考えました。ハビトゥスとは、人びとの慣習的行動を生み出す基盤になるような、ある種の性向の体系です。ハビトゥスとはなにかを中心に検討します。	
14	A.ギデンズの構造化理論：ギデンズは、行為と構造が相互に規定しあう関係にあると考えました。構造によって私たちの行為は拘束されている。けれども、構造によって私たちの行為は可能にもなっているということです。このことの意味について考えます。	
15	再び、社会学の理論とは：14回までの授業を振り返りながら、社会学をするうえでいかに理論というものが必要なものであるのか、大切なものであるのかを再確認します。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学期末レポート	40	論述式のレポートです。 ①講義で学んだ知識を習得していることが明確であること。 ②矛盾がなく、論理的であること。 ③自分なりの視点で構成されていること。	小レポート	30	毎回、課題を出し、200字程度で論述してもらいます。
授業への積極性・態度	30	リアクション・ペーパーを配布し、受講して考えたこと、疑問に思ったことを記述してもらいます。自分なりの考えが含まれていることを重視します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①自分で考えてみることが大切です。講義で学んだことを自分の身の回りを例にして具体的に考えてみましょう。［20分］ ②毎回の講義で学んだことがテキストのどの部分に書かれているかを指示します。講義の後で、指示された部分のテキストを丁寧に読んでみましょう。［60分］ ③テキスト、参考書以外の文献も適宜紹介します。それらを図書館などで探し、実際に手にとってみましょう。［100分］	リアクション・ペーパーに関して、参考になる質問や意見を次回の講義開始時に取り上げて、それらに対してコメントします。

受講生に望むこと	①講義中に受講者のみなさんに質問することがあります。正解があるような質問ではないので、あなたの考えを臆することなく回答してください。 ②パワーポイントに映し出されたことをすべてノートする必要はありません。重要なポイントのみ、きちんとノートを取りましょう。 ②著しく講義の進行の妨げになるような行為がある場合、退室してもらうなどの処置をすることがあります。	教科書・テキスト	A・ギデンズ＆P・サットン『社会学　第9版　（上）』而立書房 ISBN:9784880594460
指定図書／参考書等	なし/A・ギデンズ＆P・サットン『社会学　第9版　（下）』而立書房（2025年4月刊行予定），星野潔・杉浦郁子編『テキスト社会学』 学文社，井上俊・伊藤公雄編『社会学ベーシックス 2 社会の構造と変動』世界思想社	その他・特記事項	理論というと難しいように思うかもしれませんが、講義内容は具体例を用いて、なるべくわかりやすく、噛み砕いてお話しするようにいたします。 出席を重視します。4回以上の欠席は大きく減点されます。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	家族社会学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	俵　希實						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
現代の社会変動の中で、家族の形態と社会的機能、および個々人にとっての家族の意味は大きく変わってきた。過去および現在における日本の家族に関する様々な現象を取り上げ、その実態とメカニズムを解説する。さらに、家族社会学の基本的な概念や理論をふまえながら、現代社会における家族の諸相について考える。授業の前半は受講生による発表、後半は講義を行う。	①家族社会学に関する基本的な用語や概念を理解する。 ②現代日本における家族の動向を知る。 ③家族について、常識にとらわれない見方・考え方ができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	家族社会学の基礎（1）：家族の類型について学ぶ。	
3	家族社会学の基礎（2）：家族の機能について学ぶ。	
4	主婦の誕生：近代化と女性の主婦化について理解する。	
5	家事の誕生：家事とは何かを「主婦論争」から考える。	
6	少子化：戦後の合計特殊出生率の推移から少子化の変遷を捉える。	
7	近代化と子どもの数の減少(1)：産業構造の変化と子どもの価値について理解する。	
8	近代化と子どもの数の減少(2)：「子ども」の概念の誕生と子どもの価値について理解する。	
9	母の誕生：「母親」という役割について考える。	
10	核家族化：人口学的特殊性から考える。	
11	高齢化社会と家族(1)：現状と今後の見通しについて理解する。	
12	高齢化社会と家族(2)：家制度の崩壊による家族の変容について考える。	
13	結婚の動向(1)：恋愛結婚、婚姻率、離婚率、初婚年齢、未婚率についてのデータを読む。	
14	結婚の動向(2)：結婚への志向、収入と結婚についてのデータを読む。	
15	多様化する家族：家族単位の社会から個人単位の社会への変容について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
発表	10	①テーマ選択は適切か。 ②論理的な構成となっているか。 ③指定された時間以上の発表になっているか。	提出物	30	①指定された期日に提出しているか。 ②指定された書式にしたがっているか。 ③自分の意見を書くことができているか。
期末試験	60	授業内容について理解しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
個人発表を課すので、テーマを決め、それについて調べ、発表準備を行うこと。配付資料を事後に確認し、復習を行うこと。[60分]	各発表に対してコメントする。

受講生に望むこと	授業に関連するニュース等に関心を持ち、それについて考えるようにしてください。 発表についてのディスカッションでは、積極的に発言するように心がけてください。	教科書・テキスト	レジュメを配付する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	都市社会学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	俵　希實						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
現代社会は、一般に総都市化社会と言われる。社会学は、都市に住む人々の社会関係や生活様式の変化を説明する。この講義では、都市化がコミュニティ、人間関係、生活様式に及ぼす影響に関する研究を取りあげ、背景となる都市そのものの変化に目を配りながら、学説史的に都市を理解する。さらに、近年のグローバル化にともなう都市の変容について考える。	①都市社会学の基本的な概念を説明することができるようになる。 ②「都市化とコミュニティ」「都市化と人間関係」「都市化と生活様式」について説明することができるようになる。 ③自分たちが住んでいる実際の場（多くは都市社会）を、客観的に観察することができるようになる。 ④より快適な都市社会を創造するための基礎的な分析を行うことができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	村落的環境から都市的環境へ：村落的環境における生活様式から都市的環境における生活様式への変化を理解する。	
3	都市的環境の出現とシカゴ学派：アメリカの都市シカゴの発展と都市社会学の原型をつくったシカゴ学派との関連について理解する。	
4	シカゴ・モノグラフ：シカゴ学派の具体的な研究に触れ、シカゴ学派の研究課題や研究方法を理解する。	
5	都市の空間構造：E.W.バージェスの同心円地帯論と、都市の空間構造の生成過程を論じたR.E.パークの人間生態学について理解する。	
6	同心円地帯論への批判：E.W.バージェスとは異なる主張を展開している社会文化生態学について学び、空間構造をもたらす要因についての考察を深める。	
7	生活様式としてのアーバニズム：L.ワースのアーバニズム論について理解する。	
8	アーバニズム論への批判：L.ワースとは異なる主張が展開されている研究について学ぶ。	
9	コミュニティ喪失論とコミュニティ存続論：都市の人間関係をめぐる議論を整理し、考察する。	
10	コミュニティ解放論：都市の人間関係をめぐる議論において新しい視点を含んだB.ウェルマンのコミュニティ解放論について学ぶ。	
11	アーバニズムの下位文化理論：都市の人間関係をめぐる議論においてシカゴ学派の主張を修正したC・S・フィッシャーの都市下位文化理論について学ぶ。	
12	日本における下位文化理論の検証：C・S・フィッシャーの都市下位文化理論を用いた複数の社会調査の結果を比較する。	
13	日本型コミュニティの形成：日本におけるコミュニティ喪失論、コミュニティ存続論、そして社会目標としてのコミュニティについて理解する。	
14	グローバル化と都市再編：都市コミュニティ論と外国籍居住者研究について理解する。	
15	コミュニティ論再考：現代社会に対応した新しいコミュニティとはどのようなコミュニティかを考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
提出物	10	①課題に対して適切な内容になっているか。 ②定められた期間内に提出しているか。	授業態度	10	授業中に適切な意見を述べることができるか。
期末レポート	80	①課題に対して適切な内容となっているか。 ②定められた期限内に提出しているか。 ③指定された字数、書式に従っているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習については、授業中に発言を求めた際、適切な意見を述べることができるよう、日ごろから都市環境についての情報をメディア等からキャッチしておくこと。事後学習については、講義内容についてポイントを整理すること。専門用語は授業中に説明するが、事典等で調べること。[60分]	提出された課題について授業中にコメントする。もしくは書面でコメントを提示する。

受講生に望むこと	社会で生じている諸事象を客観的に把握・分析しようとする意欲をもって、講義に参加してください。	教科書・テキスト	レジュメを配付する。
指定図書／参考書等	講義の中で紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	環境社会学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この講義は、日常生活の身近な環境問題等を事例に、被害・加害構造論、社会的ジレンマ論などの分析視角から、問題発生のメカニズム、被害の特性、問題解決に向けたアクターの諸機能、法制度等について学ぶ。	①環境問題がもたらす派生的被害について説明できる。 ②環境社会学の基本的な分析アプローチについて説明できる。

教授方法	講義及びテーマに基づくディスカッション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	環境社会学の分析アプローチ（1）　被害論、加害・原因論について理解する。	
3	環境社会学の分析アプローチ（2）　解決論について理解する。	
4	環境保護の歴史的変遷（1）　欧米の環境思想の変遷から自然と人間との関係について理解する。	
5	環境保護の歴史的変遷（2）　欧米の環境思想の変遷から自然と人間との関係について理解する。	
6	環境保護の歴史的変遷（3）　日本の環境思想の変遷から自然と人間との関係について理解する。	
7	環境保護の歴史的変遷（4）　日本の環境思想の変遷から自然と人間との関係について理解する。	
8	映像資料　　映像資料から自然と人間との関係性について理解を深める。資料に関連したテーマについてグループで協議する。	
9	海は誰のものか　公共信託理論について理解する。共同管理システムとしての入会権、入浜権について理解する。	
10	野生生物との共存　　獣害問題を事例に、里山保全と野生生物との関係について理解する。	
11	アメニティとは何か　　運動論、政策論の立場からアメニティ論について理解する。	
12	社会的ジレンマ　　ごみ・リサイクルの取り組みを事例に、社会的ジレンマのメカニズムについて理解する。	
13	交通政策とまちづくり　我が国の交通政策と欧米の交通政策とを比較し問題点を明らかにするとともに、住民参加のまちづくりの意義について理解する。	
14	歴史的文化的環境とは何か　　歴史的文化的環境概念を通し、持続可能な地域社会について理解する。	
15	まとめと総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加態度	10	講義への積極的参加	レポート	30	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされている
小テスト	20	講義の理解度	期末試験	40	講義内容を理解し、要求されたレベルの論考がなされている

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①適宜資料を配布するので事前に目を通し内容を理解する［30分以上］ ②適宜小テストを実施するので、事前に復習し内容を理解する［30分以上］	講義時間内に小テストを複数回実施し、回答・解説する。

受講生に望むこと	時事問題や環境問題に関心を持ち、ニュースや新聞をチェックする。 あらゆる事象や考え方を相対化して捉える視点を持つ。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/講義時に適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	現代社会と福祉Ⅰ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
社会福祉の原理をめぐる思想・哲学の考え方として人間の尊厳、社会正義、平和主義等について理解する。社会福祉の理論の基本的な考え方について理解する。社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。社会問題と社会構造の関係の視点から、貧困や孤立、偏見と差別、社会的排除など現代の社会問題について理解する。福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。	①社会福祉の原理について理解できる。 ②社会福祉の歴史について理解できる。 ③社会福祉の思想・哲学・理論について理解できる。 ④社会問題と社会構造について理解できる。 ⑤福祉政策の基本的な視点について理解できる。 ⑥福祉政策におけるニーズと資源について理解できる。

教授方法	講義およびワークシートによる課題。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、社会福祉の原理を学ぶ視点について理解する。	
2	社会福祉の歴史（社会福祉の歴史を学ぶ視点、欧米の社会福祉の歴史：生成期）について理解する。	
3	社会福祉の歴史（欧米の社会福祉の歴史:発展期から転換期）について理解する。	
4	社会福祉の歴史（日本の社会福祉の歴史:萌芽期から成熟前期）について理解する。	
5	社会福祉の歴史（日本の社会福祉の歴史:成熟後期から転換期）について理解する。	
6	社会福祉の思想・哲学・理論（社会福祉の思想・哲学）について理解する。	
7	社会福祉の思想・哲学・理論（社会福祉の理論）について理解する。	
8	社会福祉の思想・哲学・理論（社会福祉の論点、社会福祉の対象とニーズ）について理解する。	
9	社会問題と社会構造（現代社会における社会問題）について、理解する。	
10	社会問題と社会構造（社会問題の構造的背景）について理解する。	
11	福祉政策の基本的な視点（福祉政策とは何か）について理解する。	
12	福祉政策の基本的な視点（福祉政策において重要な概念・理念）について理解する。	
13	福祉政策におけるニーズと資源（ニーズ）について理解する。	
14	福祉政策におけるニーズと資源（資源）について理解する。	
15	全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
テスト	80	・授業内容についてどれだけ理解しているか。	提出物	20	・ワークシート等の提出物（授業内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回の授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持てたことや疑問点に関して、自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③日頃から社会福祉や社会保障等の問題に関心をもち、新聞・ニュース等に触れる。	毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の授業等においてフィードバックを行う。

受講生に望むこと	受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んでほしい。	教科書・テキスト	『社会福祉の原理と政策』第２版　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編　　中央法規 2026年　ISBN:978-4824303479
指定図書／参考書等	なし／授業において紹介	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

社会福祉について、各種委員会等（契約締結審査会、権利擁護センター委員等）の委員の経験をもとに具体例をあげて講義している。

授業科目名	現代社会と福祉Ⅱ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
福祉政策の構成要素とその役割・機能について理解する。政策決定、実施、評価など福祉政策の過程について理解する。福祉政策の動向と課題を踏まえた上で関連施策（保健医療政策、教育政策、住宅政策、労働政策など）や包括的支援（地域包括ケアシステム等）について理解する。福祉政策の実施体制の中核を担う福祉サービスの供給部門と供給過程、及び利用過程について理解する。福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。	①社会福祉の構成要素と過程について理解できる。 ②福祉政策の動向と課題について理解できる。 ③福祉政策と関連政策について理解できる。 ④福祉サービスの供給と利用の過程について理解できる。 ⑤福祉政策の国際比較について理解できる。 ⑥これからの社会福祉について理解できる。

教授方法	講義およびワークシートによる課題。
履修条件	「現代社会と福祉Ⅰ」の単位の修得済が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	福祉政策の構成要素と過程（福祉政策の構成要素）について理解する。	
2	福祉政策の構成要素と過程（福祉政策の過程と評価）について理解する。	
3	福祉政策の動向と課題（福祉政策と包括的支援の現状）について理解する。	
4	福祉政策の動向と課題（福祉政策と包括的支援の課題）について理解する。	
5	福祉政策と関連施策（保健医療政策）について理解する。	
6	福祉政策と関連施策（教育政策、住宅政策）について理解する。	
7	福祉政策と関連施策（労働政策、災害政策）について理解する。	
8	福祉サービスの供給と利用の過程（福祉供給部門）について理解する。	
9	福祉サービスの供給と利用の過程（福祉供給過程）について理解する。	
10	福祉サービスの供給と利用の過程（福祉利用過程）について理解する。	
11	福祉政策の国際比較（国際比較の視点と方法、福祉政策の動向：欧米）について理解する。	
12	福祉政策の国際比較（国際比較の視点と方法、福祉政策の動向：東アジア、福祉政策の新しい潮流と課題）について理解する。	
13	これからの社会福祉（出発点、到達点）について理解する。	
14	これからの社会福祉（展望）について理解する。	
15	全体のまとめ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
テスト	80	・授業内容についてどれだけ理解しているか。	提出物	20	・ワークシート等の提出物（授業内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回の授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持てたことや疑問点に関して、自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③日頃から社会福祉や社会保障等の問題に関心をもち、新聞・ニュース等に触れる。	毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の授業等においてフィードバックを行う。

受講生に望むこと	受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んでほしい。	教科書・テキスト	『社会福祉の原理と政策』日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編　中央法規　2021年 ISBN:978-4-8058-8234-4
指定図書／参考書等	なし／授業において紹介	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

社会福祉について、各種委員会等（契約締結審査会、権利擁護センター委員等）の委員の経験をもとに具体例をあげて講義している。

授業科目名	心理学概論A			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	植田　峰悠						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー・認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
心理学の基礎知識を学び、人間のもつ様々な心理的機能について理解することを目的に、「心理学の定義・歴史」から、「基礎心理学・応用心理学」までの全般的・基礎的な事項を概説する。講義を通じて科学としての心理学について学習し、客観的かつ実証可能な手法で人の心を解明するという心理学の考え方に触れることで、以降の学びにつなげていく。	1．心理学の成り立ちについて学び、歴史の中での心理学および諸科学の発展についての知識を身につける。 2．人の心の基本的な仕組みおよび働きについて学び、自分自身の体験や身の回りの出来事を心理学の基礎理論から理解できるようになる。

教授方法	講義形式で行う。自分自身の体験や身の回りの出来事について心理学の基礎理論に基づいて考える機会も作る。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	心理学とは？：心理学の成り立ち・歴史について学ぶ。	
2	目は心の一部である：知覚心理学について理解する。	
3	心は見えないが行動は見える：学習心理学について理解する。	
4	ヒトの心の特徴：進化心理学について理解する。	
5	心は脳のどこにあるのか：神経心理学について理解する。	
6	それぞれの人にそれぞれの心：個人差心理学について理解する。	
7	心は機械で置き換えられるのか：認知心理学について理解する。	
8	ヒトは白紙で生まれてくるのか：発達心理学について理解する。	
9	勉強は本当に必要なのか：教育心理学について理解する。	
10	感情はどのような役割を果たすか：感情心理学について理解する。	
11	いい人？悪い人？：社会心理学について理解する。	
12	なんだかイヤな気持ち：ストレスと心の病気について理解する。	
13	発達の偏りと多様性：発達障害について理解する。	
14	心の問題へのアプローチ：心理的アセスメントと心理学的支援について理解する。	
15	心理学の展開：心理学とその応用領域について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
試験	70	試験の範囲や出題形式、配点等については、授業内で周知する。	出席・振り返りシート	30	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回、授業後に欠かさず復習する習慣をつける。また、次回に行う内容に関して、教科書に該当部分がある場合には目を通しておくこと。その他、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。［30分程度］	振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。

受講生に望むこと	初めて学ぶ内容であること・非常に多岐にわたるテーマを扱うことから、授業に参加するだけでは消化しきれない可能性があるので、教科書や配布資料も活用しながら知識の定着に努めてほしい。	教科書・テキスト	『ゼロからはじめる心理学・入門』改訂版　金沢創・市川寛子・作田由衣子（著）有斐閣，2025年，ISBN-13：978-4641151338／同時に、教員が作成した資料も配布する。
指定図書／参考書等	なし／『心理学 新版』無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治（著）有斐閣，2018年，ISBN-13：978-4641053861	その他・特記事項	授業中に適宜意見聴取・全体へのフィードバックを行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	心理学概論Ｂ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	菊池　義人						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、社会学科の基本・共通科目であり、心理学を学ぶ体系として位置づけられる。本科目では、心理学の基礎的な知識を身につけることを目的に、知覚、認知、学習、記憶、感情、動機づけ、発達、社会など「基礎心理学」全般を概説する。本科目のねらいは、人間一般に共通する心のはたらきと行動を科学的に理解することである。	①心理学という学問の成り立ちや性質を理解できる。 ②知覚、認知、学習、動機づけ、言語、思考、人格、社会、感情、発達など、人の基本的な心の仕組みやはたらきを理解できる。

教授方法	講義を中心に、一部ワークを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：心理学とは、どのような学問だろうか。科学的心理学の成立とその歴史について概説する。	
2	見る・聞く・感じる心：人が感覚器官を通して、どのように外の世界を知覚しているのかを理解する。	
3	心と脳：心の活動と脳の活動との関係について、生理心理学の視点から学習する。	
4	認知する心：人が外界から受け取った情報をどのように処理しているのかを理解する。	
5	覚える心・忘れる心：記憶のメカニズムや知識の構造を理解する。	
6	学ぶ心（１）：条件づけを学び、人や動物の行動の成り立ちを理解する。	
7	学ぶ心（２）：観察学習、模倣学習を中心に、人間特有の学習の仕組みについて理解する。	
8	やる気の心理：動機づけや欲求についての理論を学び、人の行動を引き起こす原因を理解する。	
9	考える心（１）：人がどのように問題解決を行っているかを理解する。	
10	考える心（２）：人がどのように概念や言語を獲得し、用いているかを理解する。	
11	その人らしさの心理：パーソナリティとは何かを学び、その形成に関わる要因を理解する。	
12	他者を知る心：人が身の回りの他者や集団をどのように認知しているかを理解する。	
13	喜怒哀楽の心：感情の基礎的理論を学習し、感情とは何かを理解する。	
14	発達する心：生涯発達の視点から、人が生まれてから死に至るまでの心身の変化について理解する。	
15	まとめ：講義全体の振り返りとともに、基礎心理学の展開について説明する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	40	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書（各回の授業内容に該当する箇所）をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。[60分/回] ③授業テーマと関連する本を１冊以上読む。[期間を通して合計38時間]	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	本科目で扱う内容は、一般的な「心理学」のイメージとは異なるかもしれないが、いずれも目には見えない「心」を「科学的に」理解するための先人たちの努力の賜物であり、人間理解につながるものである。本科目を通して、人間とはどんな生き物であるかを考えてみてほしい。	教科書・テキスト	『グラフィック心理学』北尾倫彦・中島　実・井上　毅・石王敦子　著　サイエンス社　1997年　ISBN：978-4-7819-0825-0。その他、適宜資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし/授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	シラバスの内容を話していくが、わかりやすく講義するために、いくつかの視点にあわせて順番を変えたり、特に有名な研究例や事例研究、歴史的な背景に関するエピソードなどを多く盛り込んで話す予定である。

実務経験を活かした授業の概要

実務者の視点から話を構成し、有名な研究例や事例研究、歴史的な背景に関するエピソードなどを多く盛りこむ。

授業科目名	教育社会学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	内田　啓太郎						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
わたしたちの社会において教育は必要なもの、欠かせないものだと思われている。確かに教育のあり方が社会へ大きな影響を与える一方で、社会もまた教育のあり方へ強い影響を与えている。では、教育と社会はお互いどのように結びつき、影響を与える関係であるのか。この授業の目的は、教育にまつわる様々な要素（子ども、教師、制度、集団、労働など）を社会学の考え方を通じて理解することである。	1.教育を構成する諸要素について社会学の考え方から理解する。 2.近代以降の社会において学校教育がどのように制度設計され、実践されてきたのか理解する。 3.わたしたちの社会が抱えている教育問題について社会学の考え方から理解する。 4.わたしたちの社会、特に地域社会のあり方と教育の関わりについて社会学の考え方から理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の概要と目的、到達目標を理解し、「教育を社会学するとは何か」について学ぶ	
2	学説史①：教育社会学の誕生から「新しい教育社会学」への転換、文化的再生産論の登場まで、主要な学説を学ぶ	
3	学説史②：「新しい教育社会学」以降、現代の社会問題に答える形で登場した主要な学説を学ぶ	
4	階層と教育①：社会における階層の構造と移動について理論・概念と事例から学ぶ	
5	階層と教育②：社会階層の問題を格差問題と捉え、問題発生のプロセスと解決に向けて理論・概念と事例から学ぶ	
6	マイノリティ／ジェンダーと教育：現代社会においてマイノリティが抱える問題、またはジェンダーに起因する問題について理論・概念と事例から学ぶ	
7	教師と子どもの社会学：学校教育または学校現場において教師と子どもの役割・機能について理論・概念と事例から学ぶ	
8	ライフコース：ライフコース形成における教育の主要な役割・機能について理論・概念と事例から学ぶ	
9	非行／逸脱と教育問題：教育問題としての非行／逸脱が持つ構造について理論・概念と事例から学ぶ	
10	教育改革：これまで日本社会にて議論され、実施されてきた教育改革について政策と実践の両面よりそのあり方と問題点を学ぶ	
11	学校教育（初等・中等教育）：学校教育の成立と発展の歴史を学び、その構造と問題点についても学ぶ	
12	高等教育（大学教育）：高等教育の成立と発展の歴史を学び、その構造と問題点についても学ぶ	
13	労働市場へのトランジション：日本社会の雇用慣行・市場に対して教育（特に高等教育）があたえる影響について理論・概念と事例から学ぶ	
14	教育と経済：「社会と経済」の視点から学校教育および高等教育が抱える問題点について理論・概念と事例から学ぶ	
15	全体のまとめ：今学期の授業を振り返り、「教育を社会学するとは何か」について再考する	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	授業の到達目標および内容をふまえつつ、設問に対する自らの考えを論理的な解答としてまとめることができるか評価する。	授業への参加態度	30	毎回の授業で提出するリアクションペーパーの提出状況およびその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．教科書の該当する範囲を事前に公開、配布する資料とあわせて読む［45分］ 2．授業中の解説を配布資料や自分で取ったノートとあわせて読む。［45分］	授業に関する質問および期末レポートの講評などを対面またはオンラインで集約したうえで、受講者全体と共有する。

受講生に望むこと	教育は日常生活や人生のさまざまな場面において、わたしたちの誰もが関わりを持ちます。受講生の皆さんへは、自分がこれまで受けたきた、また今受けている教育に関心を持ちつつ、わたしたちの社会が抱えている教育問題に対し、社会学の考え方を学び、その解決に向かおうという積極性を望みます。	教科書・テキスト	酒井朗・中村高康・多賀太編『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房, 2012年、ISBN 9784623062935
指定図書／参考書等	なし/相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子『これからの教育社会学』有斐閣, 2023年、ISBN 9784641200036 中村高康・松岡亮二編『現場で使える教育社会学』ミネルヴァ書房, 2021年、ISBN 9784623092604	その他・特記事項	毎回の授業資料（スライド／レジュメ）はオンラインで公開します（印刷物を配布しません）。資料の閲覧、ノートテイキングのためChromebookを持参することを推奨します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	グローバル社会論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	杉本　嵩龍						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要

本講義は、気候変動や格差等の現代課題を「体験」と「対話」で構造的に理解する。前半はSDGsゲームを用い、グローバル経済の仕組みやトレードオフを擬似体験する。中盤以降は世界規模の課題と能登半島などローカルな地域課題を接続し、日常と世界の繋がりを考察する。全編を通じて「レゴ®シリアスプレイ®」で思考を可視化し、ビジネスフレームワークも応用しながら、社会課題を持続可能に解決するデザイン力と実践力を養う。

※SDGs目標番号1、10〜13、17関連科目

授業の到達目標

本講義の到達目標は以下の4点である。
1.多角的な視点：グローカル、周縁、歴史等の視点から社会事象を立体的に分析できる。
2.構造的理解と共感力：VPC等のツールを用い、当事者の痛みや課題の構造的要因を論理的に説明できる。
3.構想力と実践力：BMC等を活用し、持続可能な社会課題の解決モデルを自らデザインできる。
4.対話と協働のスキル：LSP等を通じ、多様な価値観を持つ他者と建設的に対話し、協働する姿勢を身につける。

教授方法	本講義は完全参加型アクティブ・ラーニング形式で行う。ゲーム教材による社会構造のシミュレーション、レゴ®シリアスプレイ®を用いた抽象概念の可視化と対話、具体事例のディスカッションを主軸とする。毎回の授業後、成果物（レゴ作品の写真と省察）の提出を求める。
履修条件	受動的な聴講は認めない。グループ全体の学びに影響するため遅刻や欠席は厳に慎むこと。正解のない問いに対し、自らの考えを表現し他者を尊重して傾聴する「対話への意欲」を強く求める。特別なスキルは不要であり、自ら「考える」ことに意欲的な学生を歓迎する。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	第1回：オリエンテーション ― 教室から世界へ、そして能登へ／本講義の全体像と到達目標を共有する。アイスブレイクとしてレゴ®シリアスプレイ®（LSP）を体験し、手を動かして考える手法に慣れる。「グローバル」と「ローカル（能登）」をつなぐ視点を持つためのマインドセットを形成し、半年間の学びの土台を作る。	
2	第2回：資源と持続可能性 ― SDGsゲーム「Get The Point」／資源活用ゲーム「Get The Point」を行う。限られた資源を使ってアイテムを作成する過程を通じ、大量消費社会の構造と資源枯渇のリスクを体感する。個人の利益追求が全体（地球環境）に及ぼす影響を理解し、サステナビリティの本質について議論する。	
3	第3回：世界の相互依存 ― ゲーム「2030 SDGs」／カードゲーム「2030 SDGs」を実施する。経済・環境・社会の相互依存関係をシミュレーションし、一見無関係に見える自身の行動が世界全体に波及する「バタフライ効果」を学ぶ。グローバル経済のメカニズムと、協力の必要性を構造的に理解することを目標とする。	
4	第4回：トレードオフと解決 ― ゲーム「SDGsアクションカードゲーム X」／金沢工業大学開発の「SDGsアクションカードゲーム X（クロス）」を行う。社会課題解決におけるトレードオフ（二律背反）のジレンマを体験する。対話を通じて既存のリソースを組み合わせ、創造的な解決策（イノベーション）を導き出す力を養う。	
5	第5回：エシカル消費とは ― 「買い物」は投票である／「買い物は投票である」をテーマに、エシカル消費（フェアトレード等）について学ぶ。LSPを用いて、安価な製品の裏側にある労働搾取や環境負荷を可視化する。消費者の責任と、倫理的な選択が世界に与える影響について、自身の価値観をモデル化し言語化する。	
6	第6回：日本のローカル課題 ― 被災地の「痛み」と向き合う／能登半島地震を事例に、支援のミスマッチについて考える。「バリュー・プロポジション・キャンバス（VPC）」を用い、被災者（ユーザー）の抱える切実な「痛み（Pains）」と、それを取り除く「解決策（Relievers）」のズレを可視化する。独りよがりではない、相手のニーズに立脚した真の共生・支援のあり方をレゴで探究する。	
7	第7回：里山とサステナビリティ ― 循環型社会のモデル／里山の循環型システムと日本の農業自給率について学ぶ。グローバルな食料危機に対するローカルな解決策としての「里山資本主義」の可能性を検討する。自然と共生する持続可能な暮らしの知恵を現代社会にどう実装するか、LSPを用いて具体的なモデルを構築する。	
8	第8回：伝統と革新の融合 ― アップサイクルと文化継承／伝統工芸（輪島塗等）や地場産業を事例に、伝統と革新の融合について学ぶ。大量生産・廃棄からの脱却としての「アップサイクル」や「長く使う文化」の価値を再評価する。LSPを通じ、古いものに新しい価値を見出す視点を養い、文化継承の意義を理解する	
9	第9回：グローカルな統合 ― 能登と世界をつなぐ視点／第2〜4回の「世界の課題」と第6〜8回の「能登の課題」を接続する。気候変動と災害、グローバル経済と地方衰退など、マクロとミクロの因果関係をLSPで統合的にモデル化する。「世界の問題は地域の問題である」というグローカルな視座を確立することを目標とする。	
10	第10回：私たちの「問い」を立てる ― My Core Question／これまでの学習を踏まえ、受講生自身が最も解決したい「核心的な問い（Core Question）」を設定する。LSPの個人ワークを通じ、漠然とした問題意識を具体的な形状（モデル）として可視化する。他者との対話を経て、自身の問いを深掘りし明確化する	
11	第11回：未来のシナリオ構築 ― システム思考で描く／設定した問いに対し、望ましい未来のシナリオを構想する。LSPを用い、理想とする社会（2030年の姿）と、そこに至るまでの障壁や解決プロセスを表現する。システム思考に基づき、複数の要素がどう影響し合うかを俯瞰し、実現可能なロードマップを描く。	
12	第12回：具体的なアクション ― ソーシャル・ビジネスのデザイン／自身のアイデアを持続可能なプロジェクトに昇華させる。「ビジネスモデル・キャンバス（BMC）」を活用し、社会貢献と経済的自立を両立させる仕組み（ソーシャル・ビジネス）を設計する。誰がパートナーで、どのような価値循環を生むのか？レゴブロックをキャンバス上に配置し、システム全体を俯瞰しながら具体化する。	
13	第13回：プレゼン準備・対話 ― 相互メンタリング／最終プレゼンテーションに向けた準備と相互メンタリングを行う。作成したレゴ作品とストーリーをグループ内で共有し、フィードバックし合う。他者の視点を取り入れることで独りよがりな思考を脱し、説得力と共感性のあるナラティブ（物語）へと昇華させる。	
14	第14回：最終プレゼンテーション ― レゴで語る私のマニフェスト／最終プレゼンテーションを行う。レゴ作品を用いたストーリーテリング形式で、自身の「問い」と「解決への道筋」を発表する。知識の羅列ではなく、自身の体験と感情が込められた「自分ごとの言葉」で語ることを重視し、受講生同士で相互評価（講評）を行う。	
15	第15回：総括・リフレクション ― BMYで描く私のキャリア／半期の学びを統合し、自身のキャリアを設計する。「BMYパーソナル・キャンバス」を用い、自分自身を一つの「会社」に見立て、自身の強み（キーリソース）が誰（顧客・社会）の役に立つのかを可視化する。グローバル社会における自分の立ち位置と貢献の可能性をレゴで表現し、次なるアクションを宣言する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
平常点	40	ワークショップおよびグループワークへの能動的な参加姿勢、対話への貢献度。	ポートフォリオ	30	毎回の振り返りレポートの質（思考の深まり、理論との接続）。
最終課題	30	最終プレゼンテーションの内容（問いの独自性、解決策の具体性、表現力）。			

授業外における学習（事前・事後学習等）

体験と省察のサイクルを重視し、以下の学習を求める。
【事前学習：各回約60分】次回テーマに関するニュース閲覧や身近な製品の観察、指定資料の事前視聴・通読を通じて自分なりの「問い」を持参すること。
【事後学習：各回約90分】授業での体験やレゴ®作品（写真と意図）を、講義で扱う社会学的な概念を用いて論理的に言語化し、ポートフォリオとして学習システムへ提出すること。

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

筆記試験ではなく、思考プロセスへの継続的なフィードバックを行う。授業内のLSPでは教員の問いかけや学生間のピア・レビューで視点を深める。毎回の提出物は、優れた洞察を次回冒頭で全体共有すると共に、個別のコメントを通じて評価と助言を行う。最終発表は教員評価に加え相互評価を実施し、多面的に講評する。

受講生に望むこと	本講義は正解のない問いに向き合う場である。ゲームやLSPの体験を遊びで終わらせず、常に批判的な問いを持つ「知的好奇心」を求める。また、他者の意見や作品を否定せず背景を尊重して傾聴し、全員で「心理的安全性」の高い場を共創してほしい。扱う社会課題を遠い世界の話とせず、「自分事」として捉える当事者意識と想像力も不可欠である。失敗を恐れず、未完成な考えでも積極的に発言し、対話へ参加する姿勢を強く期待する。
教科書・テキスト	指定なし（毎回、必要な資料を配布する）
指定図書／参考書等	●『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』（単行本）Think the Earth編著、紀伊國屋書店、2018年、ISBN: 978-4-87738-513-2 ●『里山資本主義 日本経済は「安心の原理」で動く』（新書判）藻谷浩介・NHK広島取材班著、KADOKAWA、2013年、ISBN: 978-4-04-110512-2 ●『具体と抽象 世界が変わって見える知性のしくみ』（単行本）細谷功著、dZERO、2014年、ISBN: 978-4-907623-10-4 ●『ビジネスモデル・ジェネレーション ビジネスモデル設計書』（大型本）アレックス・オスターワルダー他著、翔泳社、2012年、ISBN: 978-4-7981-2297-7
その他・特記事項	本講義はワークショップ形式のため受講者数を制限（約40名）し、初回授業で選抜を行う場合がある。レゴ®やゲーム等の機材は教員が用意するため購入不要だが、共有資産として丁寧に扱うこと。講義中は教室内での移動や活発な対話を伴うため、他者を尊重し心理的安全性を守るマナーを徹底してほしい。また、振り返りの記録（写真撮影）用にスマホ等の使用を認めるが、授業と無関係な操作は厳禁とする。

実務経験を活かした授業の概要

担当教員はLEGO®シリアスプレイ®やSDGsゲームの公認ファシリテーターとして、企業や地域で多数の実務経験を持つ。本講義ではそのファシリテーション技術を全面的に活かし、ゲームやレゴを用いた対話手法で学生の潜在的思考を言語化させる。学術理論の解説にとどまらず、能登半島地震や里山保全等の現場視点を交えてローカルからグローバルを捉え直すことで、将来社会で求められる実践的な「対話力」と「構想力」を育成する。

授業科目名	応用心理社会統計法			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	劉 思良						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・社会調査士				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、心理学および社会学における実証研究を支える心理・社会統計学を体系的に学ぶための科目として位置づけられる。多変量解析の基本的な考え方を理解し、回帰分析および因子分析を中心に、知識と分析技法の習得を目指す。統計解析を通じてデータがどのように処理・分析されるかを学び、心理・社会現象をデータにもとづいて適切に読み解く力を養う。	多変量解析の基本的な考え方を理解し、心理学・社会学における研究課題やデータの特性に応じて、回帰分析および因子分析を中心とした適切な分析手法を選択・適用できるようになる。また、心理・社会データの分析結果を理論的・実証的に解釈し、適切に報告する力を身につける。

教授方法	講義を中心に実習を取り入れながら進める。
履修条件	心理学統計法の履修済みが望ましい（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：本授業で扱う多変量解析の基本的な考え方を概観し、分析に用いるHADの概要を紹介する。あわせて、推測統計や統計的検定の位置づけを整理し、レポートや論文で用いられる基本的な統計用語について確認する。	
2	記述統計：尺度水準やデータの分布、代表値と散布度といった記述統計の基本的な考え方を整理する。あわせて、HADを用いて度数分布表やヒストグラムを作成し、データの特徴を数値や図として表す方法を確認する。	
3	クロス集計表とカイ二乗検定：2つの離散変数の関係を把握する方法として、クロス集計表の作成と読み取り方を確認する。あわせて、クロス集計にもとづいてデータの偏りや違いを検討する際に、カイ二乗検定がどのような役割をもつのかを整理する。	
4	t検定（対応のある・ない）：連続変数の平均値を比較する方法として、対応のあるt検定と対応のないt検定の考え方を整理する。データの構造や比較の前提条件に応じて、どちらの方法を用いるべきかを確認し、検定結果を解釈する際の基本的な視点について理解する。	
5	一元配置分散分析（対応のある・ない）：1つの要因によって分けられた複数の群の平均値を比較する方法として、一元配置分散分析の基本的な考え方を整理する。対応のある場合と対応のない場合の違いに着目し、データの構造に応じた分析方法の選択と結果の解釈について理解する。	
6	二元配置分散分析（対応のある・ない）：2つの要因によって分けられた群のデータを分析する方法として、二元配置分散分析の基本的な考え方を整理する。対応のある場合と対応のない場合の違いに留意しながら、要因ごとの違いや組み合わせに着目した結果の読み取り方について理解する。	
7	多重比較：分散分析によって群間に違いがみられた場合に、その違いがどの群の間にあるのかを検討する考え方として、多重比較の位置づけを整理する。あわせて、多重比較を行う際に留意すべき点や、結果を解釈する際の基本的な視点について理解する。	
8	相関分析：2つの連続変数の関係を把握する方法として、相関分析の基本的な考え方を整理する。散布図を用いて変数間の関係を視覚的に確認し、相関係数が示す関係の強さや方向の意味について理解する。	
9	単回帰分析：2つの連続変数の関係を表す方法として、独立変数が1つの場合の回帰分析の基本的な考え方を学ぶ。散布図や回帰直線を用いて変数間の関係を捉える視点を整理し、回帰式が示す意味について、具体例を通じて理解する。	
10	重回帰分析：複数の変数を用いて連続変数の関係を表す方法として、重回帰分析の基本的な考え方を学ぶ。説明変数が複数ある場合に回帰式や出力結果がどのような情報を示すのかを整理する。	
11	因子分析：複数の観測変数の背後にある共通した構造を捉える方法として、因子分析の基本的な考え方を学ぶ。変数間の関連にもとづいてデータを整理する視点を確認し、因子分析の結果がどのような情報を示すのかを理解する。	
12	確認的因子分析：あらかじめ想定した構造にもとづいてデータを検討する方法として、確認的因子分析の位置づけを整理する。探索的因子分析との違いに着目しながら、分析結果をどのように解釈するのかについて基本的な視点を理解する。	
13	主成分分析：多くの変数をもつデータを少数の指標に要約する方法として、主成分分析の基本的な考え方を学ぶ。変数間の情報をまとめて捉える視点を整理し、主成分がどのような意味をもつのかを理解する。	
14	信頼性分析とサンプルサイズの決め方：測定尺度の一貫性を確認する方法として信頼性分析の考え方を整理する。また、調査や分析を行う際に必要となるサンプルサイズについて、基本的な考え方や留意点を確認し、分析結果を検討する際の前提条件について理解する。	
15	まとめ：講義全体を振り返り、これまでに学習した多変量解析の内容を整理し、主要な概念や分析手法に対する理解を定着させる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	50	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	50	各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．事前学習：各回の事前配布資料をあらかじめ読み、内容の理解に努めるとともに、疑問点を整理しておく。［30分／回］ 2．事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容の復習を行う。［60分／回］ 3．その他、テレビ、新聞、雑誌、インターネット、商業広告等、日常生活の中にある統計情報に積極的に触れ、授業内容と照らし合わせながら、提示されているデータを適切に読み取る習慣を身につける。	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	本授業では、基本的なパソコン操作を用いながらデータを扱うため、日常的な操作に慣れていることが望ましい。統計手法を覚えることよりも、データや分析結果をどのように読み取り、考えるかを大切にしている。講義中にすべてを完全に理解する必要はなく、疑問を持ちながら学び、回を重ねる中で少しずつ整理していってほしい。継続して授業に参加し、自分なりに考える姿勢を期待する。	教科書・テキスト	教科書は特に指定せず、各回の講義において電子資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし/授業の進行に応じて適宜指示する。	その他・特記事項	本科目は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのE科目に準拠している。体験的な学習を通じて理解を深めることを目的とし、授業の一環として、心理学における実験や調査への参加を求める場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	ビジネス・イングリッシュA			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は前期教科書前半 Getting Started...及びSearch & Explain より、電話応対、ビジネスレター、e-mail文、受付、製品仕様などビジネスの場で用いられる英語表現を学ぶ。情報社会における発信力を養っていくために英語で伝えることを意識すると共に発話力をつけていく。適宜TOEIC L&R対策練習を実施する。	①ビジネスの場で必要なコミュニケーション力をつける。 ②ビジネスの現場を想定し基礎的な対応力を習得する。 ③英語でプレゼンテーションを行うコツをつかむ。

教授方法	教科書各単元を学習の上、ロールプレイ及びプレゼンテーションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：教科書、授業概要、ねらい、進め方、成績評価について説明する。(多岐にわたるビジネス英語について理解する)	
2	Chapter 1 Telephone 1：電話を受ける、取次、不在対応についての表現を学ぶ。(英日大きな桁の数字の聞き取り練習をする)	
3	Chapter 2 Business Email：Eメール文の定型表現、定型フォーマットについて学ぶ。(簡単なemail文を書く)	
4	Chapter 3 Telephone 2：電話でのメッセージを正確に聞き取る練習を行う。(聞き取り確認のためのスペリングを練習する)	
5	Chapter 4 Business Letter：ビジネスレター文の定型表現、定型フォーマットについて学ぶ。(レター文書を書く)	
6	Chapter 5 At the Reception Desk：社内受付での応対についての表現を学ぶ。(場面想定練習をする) 小テスト①：Chapter1～Chapter4の復習	
7	Chapter 6 Corporate Website：企業の顔であるウエッブサイトの情報分類について知る。(R&Dなど分類例を確認する) 発表①：発表事前準備を行う。	
8	発表①：場面を設定しロールプレイを行う。	
9	Chapter 7 Company Profile：企業概要についての英語表現を学ぶ。(発話練習を行う)	
10	Chapter 8 Product Advertisements：企業の広告文キャッチコピーを読む。(キャッチコピーをリサーチし比較表現を用いて製品を紹介する)	
11	Chapter 9 Your Job：自分が関わる業務内容を英語で説明する。(英語版名刺を作成し初対面の挨拶を練習する) 小テスト②：Chapter 5～Chapter 8の復習	
12	Chapter 10 Product Specification：製品の仕様書についての表現を学ぶ。(頭文字、略語、単位の表し方を確認する) Chapter 11 Business Plan：企業の組織、事業計画、企業戦略についての語いを学ぶ。(音の連続に留意しながら聞き取る)	
13	Chapter 12 Operating Instruction：機器の操作方法についての英語表現を学ぶ。(ビジネス英語のまとめを行う) 発表②：発表事前準備を行う。 小テスト③：Chapter 9～Chapter12の復習	
14	発表②：プレゼンテーション(自社製品の販売促進や企画開発など場面を設定し発表を行う)	
15	総まとめ：プレゼンテーションのリフレクションを行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	毎回の授業に予習して臨み授業中積極的に取り組む姿勢を評価する。	小テスト3回	20	教科書学習内容確認小テストを行う。
課題	30	毎回の授業予習指定項目の確認を行う。	発表	20	英語で発表する運用力がついているか評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書の授業単元の学習内容の予習及び指定された項目について事前に調べておくこと。(20分) ②聞き取り力を強化するために教科書音声ファイルを利用し学習すること。(20分) ③発表準備を行う。(30分)	①課題は、授業内で口頭でコメントする。 ②小テストは、実施後回収採点した上でコメントし返却する。 ③発表は、指定日に実施後クラスコメントを提示する。

受講生に望むこと	①ビジネスに関する知識や情報を得られる機会は多い。積極的にクラス内外でより多くの情報を得るように心がける。 ②日英いずれの言語でも論理的に自分の考えを述べることができるように学習する。 ③自身で目標を設定し自己研鑽を積むこと。	教科書・テキスト	『Getting Global! Engineer Your Future with English 将来のキャリアに活かす大学生のためのコミュニケーション英語』辻本智子他著 金星堂 2017年 ISBN 978-4-7647-4007-5
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	ビジネス・イングリッシュB			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は後期教科書後半 Read & Explore 及び Research & Presentationより時事英語、英字新聞、標識、歓談、論文アブストラクト、会議などの多岐にわたるビジネス英語に関する事柄を学び、ビジネス分野の英語力を強化していく。適宜TOEIC L&R対策練習を実施する。	①ビジネスの場で必要なコミュニケーション力をつける。 ②ビジネスの現場を想定し基礎的な対応力を習得する。 ③英語でプレゼンテーションを行うコツと発話力をつける。

教授方法	教科書各単元を学習の上、ロールプレイ及びプレゼンテーションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：教科書、授業概要、ねらい、進め方、成績評価について説明する。(多岐にわたるビジネス英語について理解する)	
2	Chapter 13 Talking about the News：時事的な話題をとりあげる。(意見を述べる際同意や反対を表する話し方を学ぶ)	
3	Chapter 14 Science News：英字新聞の記事の構成を知り英文の話法や表現の特徴を読みとる。(英字新聞の記事を読む)	
4	Chapter 15 Tourist Information：クライアントを観光地へ同行案内する場面を練習する。(案内したい観光地と行程を作成する)	
5	Chapter 16 Safety Signs：英語標識についての表現を学ぶ。(英語標識事例による表現を知る) 小テスト①：Chapter13～Chapter16の復習	
6	Chapter 17 Dinner Talk：レストランでの会食とメニューの選択についての語いを学ぶ。(和食メニューを英語で紹介する) 発表①：発表事前準備を行う。	
7	発表①：場面を設定しロールプレイを行う。	
8	Chapter 18 Abstracts：英語論文抄録について学ぶ。(アブストラクトについて知る)	
9	Chapter 19 Preparation for Meetings：会議を円滑に進める基本的な英語表現を学ぶ。(ゲストスピーカーとの事前打合せについて練習する)	
10	Chapter 20 Data and Graphs：データーやグラフについて知る) 小テスト②：Chapter17～Chapter20の復習	
11	Chapter 21 Presentation 1：プレゼンテーションの際に役立つ表現を学ぶ。(原稿を作成する) Chapter 22 Presentation 2：プレゼンテーションで用いるスライドの説明を練習する。(特許出願の例を参照する)	
12	Chapter 23 Various Requests：依頼に対応する英語表現を学ぶ。(英文発声練習をする) Chapter 24 Patent Description：特許申請の流れを学ぶ。(特許について知る) 発表②：発表事前準備を行う。	
13	発表②：プレゼンテーション(ビジネス分野における場面を設定し発表を行う)	
14	発表②：プレゼンテーションのリフレクションを行う。 小テスト③：Chapter21～Chapter24の復習	
15	総まとめ：後期のまとめを行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	毎回の授業に予習して臨み授業中積極的に取り組む姿勢を評価する。	小テスト3回	20	教科書学習内容確認小テストを行う。
課題	30	毎回の授業予習指定項目の確認を行う。	発表	20	英語で発信する運用力がついているか評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書の授業単元の学習内容の予習及び指定された項目について事前に調べておくこと。(20分) ②聞き取り力を強化するために教科書音声ファイルを利用し学習すること。(20分) ③発表準備を行う。(30分)	①課題は、授業内で口頭でコメントする。 ②小テストは、実施後回収採点した上でコメントし返却する。 ③発表は、指定日に実施後クラスコメントを提示する。

受講生に望むこと	①ビジネスに関する知識や情報を得られる機会は多い。積極的にクラス内外でより多くの情報を得るように心がける。 ②日英いずれの言語でも論理的に自分の考えを述べることができるように学習する。 ③自身で目標を設定し自己研鑽を積むこと。	教科書・テキスト	Getting Global! Engineer Your Future with English 将来のキャリアに活かす大学生のためのコミュニケーション英語』辻本智子他著 金星堂 2017年 ISBN 978-4-7647-4007-5
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会調査実習			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	俵　希實・若山　将実　（代表教員　俵　希實）						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士				

授業の概要	授業の到達目標
「社会調査論」「社会調査法」「統計データの読み方」「心理学統計法」などで学んできたことを基礎とし、調査の構想・計画→準備→実査→データの入力と点検→分析→報告という社会調査の全過程を体験的に学び，社会調査士資格に相応の社会調査に関する実践能力を習得することを目的とする。同時に、調査組織のつくり方、運営していくためのコミュニケーション能力、マネジメント能力、作業のダブル･チェックの徹底、資料の保管方法、作業記録の作り方など、社会で働くために必要な基本的スキルを獲得することを目指す。	①社会調査の全過程を知る。 ②社会で働くために必要な基本的スキルを獲得する。

教授方法	実習
履修条件	「社会調査論」「社会調査法」「統計データの読み方」「心理学統計法」を履修済、もしくは現在履修していることが望ましい。履修していない場合は要相談。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準についての説明	全員
2	共通テーマ、年間スケジュールに関する説明、役割分担の決定	全員
3	調査テーマに関する先行研究論文の発表	全員
4	調査テーマに関する先行研究論文の発表	全員
5	調査テーマに関する先行研究論文の発表	全員
6	調査テーマに関する仮説の構築	全員
7	調査テーマに関する仮説の構築	全員
8	調査テーマに関する仮説の構築	全員
9	調査テーマに関する仮説の構築	全員
10	調査テーマに関する仮説の構築	全員
11	質問文の作成	全員
12	質問文の作成	全員
13	質問文の作成	全員
14	質問文の作成	全員
15	サンプリング　対象者リストの作成	全員
16	調査票の作成	全員
17	調査票の作成	全員
18	調査票の作成	全員
19	調査票の作成	全員
20	実査の準備	全員
21	実査の準備	全員
22	実査	全員
23	エディティング・コーディング	全員
24	エディティング・コーディング	全員
25	エディティング・コーディング	全員
26	分析についての説明：相関分析　クロス表　カイ二乗検定など	全員
27	データクリーニング　単純集計表の作成	全員
28	調査データの分析:各自の分析	全員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	調査データの分析:各自の分析	全員
30	報告書の作成	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	50	①授業にまじめに取り組んでいるか。 ②自分の役割を遂行しているか。 ③調査に貢献しているか。	レポート	50	①期限内に提出しているか。 ②指定された書式、分量に従っているか。 ③適切な内容となっているか。 ④図表が適切に作成されているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
仮説の構築、質問文の作成、分析などは主に授業外で進めること。調査票配布および回収、エディティングやコーディング作業など、受講生で協力して授業外で進めること。[120分]	仮説の構築や質問文の作成にあたり、完成するまで継続的にコメントする。

受講生に望むこと	着手から最終報告まで受講生が主体となるため、主体的に考え、他のメンバーに迷惑をかけないよう責任を持って行動してください。	教科書・テキスト	『入門・社会調査法』（第4版）轟亮・杉野勇・平沢和司　編 法律文化社　2021年 ISBN：978-4-589-04141-8 注：「社会調査論」「社会調査法」で使用していたテキストです。
指定図書／参考書等	授業中に紹介する。	その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのC科目に準拠している。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	観光と社会			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	大薮　多可志						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
観光は経済効果とともに歴史・文化の発信にも寄与する。また、観光促進により許容量以上の訪問者によりオーバーツーリズムなど地域住民の生活環境が脅かされたり影の面もある。本講義では、観光と社会の関わりを、少子高齢化、人口減少、インバウンド、データサイエンスなどの観点から多面的に講義する。さらに、持続可能な観光や地方創生のための観光の役割、ICTを活用した観光DXなど、現代社会における観光のあり方を考える。	①観光促進によるプラスの面とマイナスの面について把握する。 ②日本の観光産業の現状について理解する。 ③観光産業におけるDX（Digital Transformation)の応用について提案できる。 ④現代社会における観光のあり方について提案できる。

教授方法	講義とグループディスカッション
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価について説明、その後、日本（特に地方）における観光促進の必要性と社会との関わりについて考える。	
2	観光の定義と観光の意義（観光者と観光地へのプラスの影響）について把握する。	
3	観光によるマイナスの影響について理解する。特に、オーバーツーリズムの現状を知る。	
4	オーバーツーリズム対策について理解し、特定地域を抽出し解決策を検討するとともに現状を理解する。	
5	グループディスカッション・発表	
6	高齢者の観光動向を把握するとともに旅行の動機と阻害要因を理解する。	
7	高齢者の観光促進策の研究事例（観光行動力の把握）を知る。	
8	代表的な観光統計を把握し、統計分析法（代表値と散布度など）を理解する。	
9	観光データの統計分析法（散布図と相関関係など）を理解する。	
10	観光分野のオープンデータを調べ、データの利活用について考える。	
11	グループディスカッション・発表	
12	金沢における歴史資源の観光への活用を調査・検討し、実応用を考える。	
13	観光DXの応用事例を知る。	
14	特定地域を選出し観光DXの活用について考える。	
15	まとめ：現代社会における観光のあり方を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	講義、グループディスカッションに積極的に参加しているか。	期末レポート	40	講義で学んだ知識をもとに、課題について自分の意見が述べられているか。
課題	30	授業内容を理解しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①テキストの該当箇所について、講義前に一読しておくこと。「30分」 ②授業後に、適宜課題を出すので、期日までに提出すること。「50分」	提出された課題について、次回の授業中にコメントする。 リアクションシートへの質問は適宜回答する。

受講生に望むこと	ニュース報道や自ら観光地を訪問するなどの機会を介して、観光が個人や地域にもたらす影響について考察する。	教科書・テキスト	『DX時代の観光と社会』沢田史子・小越咲子・伴浩美・大薮多可志　近代科学社Digital ISBN: 978-4-7649-0687-7
指定図書／参考書等	なし／講義中にて適宜紹介。	その他・特記事項	観光統計分析やグループディスカッション時に統計の基礎的な値の意義についても述べる。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	地域と観光			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	大薮　多可志						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
人口の都市部集中とともに地域に整合した活性化策が切望されている。その手段の一つとして「観光」がある。過度な訪問者の増加により観光公害（オーバーツーリズム）などの課題が起こっている地域（京都など）もある。対策として、場所、時間、時期などを分散させる必要がある。本講義では、金沢市の観光戦略（含 DX）と主な観光資源を把握し、机上でのフィールドワークを実施し観光資源に資する地域資源を発掘する。さらに、観光公害を軽減するプランをグループなどで作成し、プレゼンテーションを実施する。	①金沢市の代表的な観光資源や既存のモデルルートについて理解する。 ②ディスカッションを介してコミュニケーション能力を高め、他者の気づきから自己の学びを深化させる。 ③机上フィールドワークを行い、金沢の地域資源を理解する。 ④地域資源を活用し観光の分散化を図る観光プランを企画する。 ⑤パワーポイントで発表資料を作成し、観光プランのプレゼンテーションができる。

教授方法	講義、グループディスカッション、机上フィールドワーク
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方、評価方法について説明する。観光による地域振興を考える。	
2	金沢の観光①：統計データをもとに金沢の観光動向を学び、課題を抽出する。	
3	金沢の観光②：金沢の観光資源について調査し、他地域との相違点を考える。	
4	金沢の観光③：金沢の観光モデルルートについて把握する。	
5	机上フィールドワークの準備①：グループでオリジナルプランの目標を決める。プランの場所を選定。	
6	机上フィールドワークの準備②：グループでターゲットとする場所と観光資源を検討。	
7	机上フィールドワーク①：金沢市における新しい観光プラン作成のための机上調査を行う。	
8	机上フィールドワーク②：金沢市における新しい観光プラン作成のための机上調査を行う。	
9	机上フィールドワーク③：金沢市における新しい観光プラン作成のための机上調査を行う。	
10	机上フィールドワークの検証：机上フィールドワークにおける調査結果をまとめ、対象資源についてグループディスカッションを実施。	
11	オリジナルプラン作成①：グループで机上フィールドワークの調査結果をもとにオリジナルプランを作成する。	
12	オリジナルプラン作成②：グループで机上フィールドワークの調査結果をもとにオリジナルプランを作成する。	
13	オリジナルプラン作成③：グループでオリジナルプランの発表準備を行う。	
14	オリジナルプランの発表：各グループがパワーポイントを用いてプレゼンテーションを実施する。質疑・応答も行う。	
14	レポート課題：オリジナルプランに関する課題を訴求し提示する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	積極的に授業やグループディスカッション、机上フィールドワークに参加しているか。	グループごとの観光プラン	30	観光プランが魅力的であるか、観光公害の解決策に寄与するか、独自性があるか、目的が明確であるか。観光プランが理解しやすく、興味を持てるプレゼンテーションであったか。
期末レポート	40	オリジナルなプランを構成し的確にまとめられているか、また、決められた書式に準じているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
発表準備[120分] 机上フィールドワークを実施する地域の調査[120分]	発表時にコメントを行う。

受講生に望むこと	グループワークやグループディスカッションが多いため、積極的な参加が求められる。机上フィールドワークでは、インフォメーションデスクなどを各自訪問し提案に資する情報を収集する。	教科書・テキスト	必要な資料は配布（配信）する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要となる観光資源は各自収集（webやインフォメーションデスク）する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	インバウンドツーリズム			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	葦名　理恵						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
日本の基幹産業となることを期待されている「観光」であるが、様々な外的要因に大きく左右される一面を持つ。この授業では日本の観光資源を把握し、訪日外国人からみたデスティネーションとしての日本の魅力を理解する。同時に日本国内の観光地のあり方についても理解を深める。また観光によって引き起こされる様々な問題の現状や解決方法について理解すると同時に、今後のインバウンド観光の方向性を考える。	・世界と日本の人気観光地域について把握する。 ・日本の観光特性・資源について理解し、説明できる。 ・北陸地域の観光資源とその特徴について説明できる。 ・地域の課題解決のための観光のあり方について自身の考えを述べることができる。

教授方法	講義、グループワーク、プレゼンテーション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　授業の進め方、成績評価の説明、諸注意、インバウンドツーリズムの基礎知識を理解する	
2	観光の歴史と現在を理解する	
3	世界と日本の有名観光地について：魅力と課題（オーバーツーリズム）を把握する	
4	世界と日本の観光地の「今」を把握する（ワーク）	
5	世界から見る日本の魅力①日本の有名観光地、ゴールデンルートなど広域観光について理解する	
6	日本の観光地の魅力②地方を訪れる外国人と着地型観光	
7	外国人から見た日本の魅力・観光資源と問題点を整理する	
8	外国人と日本人の視点の違いを把握する（ワーク）	
9	世界から見る日本の魅力①石川・金沢の観光コンテンツについて知る	
10	世界から見る日本の魅力②石川・金沢の観光コンテンツの魅力と課題を整理する　VRIO分析を用いて	
11	世界から見る日本の魅力③石川・金沢の観光コンテンツの魅力と課題を整理する　SWOT分析を用いて	
12	世界から見る日本の魅力④分析を基に着地型観光プログラムについて理解する	
13	持続可能な地域作りと観光②新しい人口形態「関係人口」について理解する	
14	最終課題説明とワーク	
15	最終課題発表	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
提出物	30	提出物の期限厳守と内容を評価する	最終課題	40	最終課題のプレゼンテーションについて内容、態度を評価する。提出課題を期日に遅れることなく作成、提出することとその内容を評価する。
授業参加態度	30	授業・グループワークでの発言・質問等、積極的参加姿勢を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
観光関係のニュースなどを日ごろからチェックし、常に新しい情報を仕入れるようにすること。［30分］	振り返りフォームについては次回の授業でフィードバックを行う。 最終課題については希望者にメールにて対応する。

受講生に望むこと	集中講義のため、スケジュールがタイトなので、時限ごとの振り返りと整理を各自行うように努めること。また積極的な授業参加態度を望む。	教科書・テキスト	「これでわかる！着地型観光 地域が主役のツーリズム」尾家健生・金井萬造 編著 学芸出版社 2008年 ISBN:978-4-7615-2445-6
指定図書／参考書等	「新・観光立国論」デービッド・アトキンソン 著 東洋経済新報社 2019年 ISBN：978-4-492-50275-4 参考図書なし	その他・特記事項	授業にはクロムブックなどの持参を推奨します

実務経験を活かした授業の概要

着地型観光プログラムの企画造成、営業販売、ツアーガイド、インバウンド事業アドバイザーの経験から総合的に地域にとってのインバウンドツーリズムを捉える視点を取り入れている。

授業科目名	多文化共生論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	俵　希實						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
外国人住民の増加とともに、「多文化共生」概念が注目されるようになってきた。家族関係、教育など、外国人住民の現状と課題を把握し、「多文化共生」と呼ばれる経験、努力が今の日本でどこまでできているかを総括する。また、オーストラリアやアメリカなど多文化主義の考え方を導入している国の歴史や社会的背景を学ぶことから、日本社会における多文化共生の未来に向けての条件と課題を考察する。	①多文化共生の基礎知識を身につけ、意味を理解する。 ②日本における外国人住民の現状と課題についてまとめ、考察することができるようになる。 ③多文化共生のパースペクティブを身につけ、異文化に理解を示すことができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	グローバライゼーションと多文化共生：「グローバライゼーション」という社会変動と「多文化共生社会」の意味を理解する。	
3	多文化共生のパースペクティブ：多文化共生社会に向けて求められる視点について考える。	
4	アメリカにおける多文化主義：移民社会アメリカの成り立ちについて理解する。	
5	ヨーロッパ諸国における多文化主義：社会的背景とその潮流について理解する。	
6	オーストラリアにおける多文化主義：白豪主義からの転換について理解する。	
7	外国人労働者から住民、市民へ：日本における定住外国人に対する受け入れ施策を検討する。	
8	外国人住民たちの文化とホスト社会：母国語が英語圏の住民とそれ以外の住民、それぞれについて考える。	
9	外国人住民の家族関係と家族問題①：外国人住民の家族関係と家族問題をアイデンティティの観点から考える。	
10	外国人住民の家族関係と家族問題②：外国人住民の家族関係と家族問題を子どもの視点から考える。	
11	外国籍児童生徒への学校教育の実態と課題：文化伝達の観点からマイノリティ児童生徒への学校教育を考える。	
12	多文化共生と言語：外国籍児童生徒の学習環境を知り、外国籍児童生徒が日本語で教育を受ける意義について考える。	
13	外国籍児童生徒の不就学・不登校：「制度の壁・心の壁・言葉の壁」から生じる外国籍児童生徒の「不就学」の構造について考える。	
14	文化の多様性および異文化交流の意義：文化的背景の異なる人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する。	
15	まとめ：共生が進むか、ナショナリズムの反転か、改めて多文化共生社会を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
提出物	20	①課題に対して適切な内容になっているか。 ②定められた期間内に提出しているか。 ③指定された字数、書式に従っているか。	期末レポート	80	①課題に対して適切な内容となっているか。 ②定められた期限内に提出しているか。 ③指定された字数、書式に従っているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
普段から日本における外国籍の人々についてのニュースや国際的なニュースに関心を持つこと。事後学習として授業で配付されたレジュメを確認すること。専門用語は授業中に説明するが、復習を兼ねて事典等で調べること。[45分]	提出された課題について授業中にコメントする。もしくは書面でコメントを提示する。

受講生に望むこと	授業で学んだことと社会情勢を常にリンクさせて自分なりの意見を持つように心がけること。	教科書・テキスト	レジュメを配付する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	子ども教育学科　中学校教諭一種免許状（英語）　関連科目

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会病理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	赤羽　由起夫						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、社会病理学の理論と現代社会における社会病理の実態について解説する。これを通じて、社会病理学の考え方や現代社会の社会病理の実態についての正確な知識を学び、社会病理の事例を社会学的に説明できる力を身につける。	①社会病理に対する社会学的な考え方を身につける。 ②現代社会の社会病理の実態についての正確な知識を身につける。 ③現代社会の社会病理の事例について、その実態を社会学的に説明できる。

教授方法	講義（オンデマンド）
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：本授業の導入として、授業の概要、到達目標、授業計画などを解説する。	
2	逸脱行動の社会学①　逸脱とは何か：逸脱の定義、逸脱化・非逸脱化、犯罪化・医療化といった点などについて理解する。	
3	逸脱行動の社会学②　逸脱行動論：逸脱行動を説明する理論である緊張理論、学習理論、統制理論について理解する。	
4	社会問題の社会学①　機能主義：社会問題を説明する理論である機能主義について理解する。	
5	社会問題の社会学②　構築主義：社会問題を説明する理論である構築主義について理解する。	
6	社会病理と統計：社会病理の統計を理解するために必要な基礎知識を理解する。	
7	薬物犯罪：薬物犯罪の実態と背景について社会病理学的に理解する。	
8	殺人：殺人の実態と背景について社会病理学的に理解する。	
9	暴力団：暴力団の実態と背景について社会病理学的に理解する。	
10	いじめ：いじめの言説と実態と背景について社会病理学的に理解する。	
11	少年犯罪：少年犯罪の言説と実態と背景について社会病理学的に理解する。	
12	自殺：自殺の実態と背景について社会病理学的に理解する。	
13	不登校：不登校の言説と実態と背景について社会病理学的に理解する。	
14	児童虐待：児童虐待の言説と実態と背景について社会病理学的に理解する。	
15	ひきこもり：ひきこもりの言説と実態について社会病理学的に理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
リアクションシート	30	授業の内容をふまえて自分の考えを記述できるかを評価する。	期末レポート	70	授業の到達目標の達成度を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①社会病理に関する情報を普段からニュースなどを通じて入手し、その内容や背景を知るようにする。［45分］ ②授業の内容を復習することで社会病理学の考え方を身につけるとともに、ニュースなどで入手した社会病理の内容や背景について社会病理学的に考える。［60分］	リアクションシートでの質問についてコメントする。

受講生に望むこと	この授業を通じて、「個人環境にかんする私的問題」と「社会構造にかんする公的問題」とを関連づけて考えることができる「社会学的想像力」（Mills 1959=1965）を身につけ、社会病理を社会学的に考えられるようになってください。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／授業中に適宜、紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	メディア文化論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	内田　啓太郎						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
「授業の到達目標」で示した目的を達成するために情報社会学と関連領域（メディア論、コミュニケーション論、理論社会学、文化社会学など）における基本概念（専門用語・学術語）や言説（すでにある研究成果）を解説する。また授業では内容への理解をスムーズにするためできる限り最新の事情を取り上げてケーススタディを行う。	現代社会においてインターネット、特にソーシャルメディアは情報が生産される場所であり、生産された情報が拡散、共有される場所である。同時にソーシャルメディアが情報の生産、拡散、共有を通じて人びとが相互につながり、集団を作り上げていく手段としても利用されている。したがって本授業の目標は、ソーシャルメディアを対象とした社会学の理論と方法について先行研究をふまえて学び、社会学の視点からソーシャルメディアのあり方とそこで生じる多様な社会現象を理解する力を修得することである。

教授方法	講義
履修条件	無し

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	【イントロダクション】 教科書序章「今、ソーシャルメディアを論じることについて」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
2	【ソーシャルメディアのプラットフォーム（1）】 教科書第1章「ソーシャルメディアとフェイクニュース・デマ情報の拡散」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
3	【ソーシャルメディアのプラットフォーム（2）】 教科書第2章「動画視聴は自由な意思でなされているのか?」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
4	【ソーシャルメディアのプラットフォーム（3）】 教科書第3章「小説投稿サイトがひらいた読書・創作・コミュニケーション」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
5	【ソーシャルメディアのプラットフォーム（4）】 教科書第4章「ソーシャルメディアと現実空間を横断するあらたな『場所』」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
6	【ソーシャルメディアと文化（1）】 教科書第5章「インターネットは音楽から何を奪ったか?」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
7	【ソーシャルメディアと文化（2）】 教科書第6章「ソーシャルゲームというメディア」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
8	【ソーシャルメディアと文化（3）】 教科書第7章「アニメ・マンガのソーシャルな体験」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
9	【ソーシャルメディアと文化（4）】 教科書第9章「YouTubeにおけるリアクターとエモ消費」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
10	【ソーシャルメディアと政治・経済（1）】 教科書第10章「プラットフォーム経済」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
11	【ソーシャルメディアと政治・経済（2）】 教科書第11章「ネット炎上の政治学」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
12	【ソーシャルメディアと政治・経済（3）】 教科書第12章「ソーシャルメディアが起こすフェミニズムの『波』」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
13	【ソーシャルメディア研究法入門】 指定図書の「はじめてのソーシャルメディア研究（飯田豊）」章の内容をふまえ、ソーシャルメディアで生じた社会現象やソーシャルメディアそのものを対象とする研究を行ううえで必要な概念となる「マスメディアとの共振作用」について社会学および社会心理学の知見より解説する。	
14	【ソーシャルメディアと「地域」】 教科書でも言及されている「プロト・ソーシャルメディア」概念をふまえ、ソーシャルメディアを含むインターネットによる地域社会／コミュニティの変容について、授業担当者が過去に実施したフィールドワークの成果をもとに解説する。	
15	【今学期のまとめ】 第14回の授業までに学んだ内容をふりかえり「いま・ここで」ソーシャルメディアを対象とした社会学を学ぶ意味を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	授業内容について理解しているか。	授業への参加態度	30	毎回の授業で提出するリアクションペーパーの提出状況およびその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
定期試験の準備は授業外で行うこと。授業中に配布する資料を事後に確認し、復習すること。講義内容にとどまらず、様々な情報を通じて現代社会におけるソーシャルメディアのあり方、諸問題の背景と原因について自己学習すること。[45分]	定期試験の終了後にコメントする。もしくは書面でコメントを提示する。

受講生に望むこと	意欲的な態度で授業に参加すること。	教科書・テキスト	松井広志・岡本健（編著）2021年『ソーシャルメディア・スタディーズ』北樹出版（ISBN：9784779306617）
指定図書／参考書等	浪田陽子・福間良明（編）2021年『はじめてのメディア研究〔第２版〕』世界思想社（ISBN：9784790717478）/授業中に随時紹介する。	その他・特記事項	毎回の授業資料はオンラインで公開する予定。資料の閲覧、ノートテイキングのため、Chromebook、タブレットPC、ノートPCを持参することを推奨する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	地方行政入門			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	宇野原 将貴						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、日本の地方政治・行政の歴史や構造、プロセスについて学びます。近年、地方における政治を通じた諸問題への取り組みにおいて企業や市民の参加が進んでおり、そこで暮らす人々に対してより開かれたものになりつつあります。そうした変化を踏まえつつ、本授業を通じて政治・行政の回路から地域の課題に取り組むための基礎的な能力を構築することを目指します。	①地方政治・行政の基盤となる概念を説明できる。 ②地方政治・行政についてその構成要素とそれらの相互作用について体系的に理解できる。 ③地域の諸問題に政治・行政の側面から取り組むための主体的な姿勢を身に付ける。 ④地方の政治行政に関する自らの意見を、社会的な要請に即して形成し、説明できる。

教授方法	この授業はオンデマンド講義とレポート作成に向けた5回の対面演習で構成されます。
履修条件	社会学部社会学科の学生のみ受講可能です。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要（対面【4月6日】）：授業の進め方や成績評価の説明を行います。また、地方の政治行政を学ぶ理由・意義について考えます。	
2	リサーチのテーマと問いを練る（対面【4月13日】）：地方の政治行政に関する根拠のある論理的な主張を行うために、自分の関心からスタートして、問いを立てる方法について学びます。	
3	中央地方関係（オンデマンド）：地方自治によって地域の問題に取り組むために、国と地方の関係が歴史の中で変化してきましたが、その経緯と要因について考えます。	
4	首長（オンデマンド）：住民を代表し行政活動を展開する首長の役割や権限、そして議会や住民との関係について学びます。	
5	行政組織（オンデマンド）：首長を補佐し、あるいは首長から独立して行政を担う地方自治体の組織について学びます。	
6	議会（オンデマンド）：首長に対してもう一方に立ち、住民を代表して行政活動を監視し、決定を行う議会および議会を構成する議員について学びます。	
7	住民参加・協働（オンデマンド）：地域に暮らす人々が政治・行政に関わるための諸制度を確認し、住民参加の新しい動きについて学びます。	
8	自らの問いに対する仮説を立てる（対面【6月1日】）：自分の立てた問いを、広く社会的・学術的な知見をもとに、批判的に考察し、問いに対する仮説を構築する方法を学びます。	
9	人事（オンデマンド）：地方の行政組織を構成する人々、すなわち公務員に焦点を当て、そうした人々がどのように働いているのかを学びます。	
10	財政（オンデマンド）：地方自治体が公共サービスを提供するための資金的根拠と、その構成要素について学びます。	
11	政策過程（オンデマンド）：地方の問題に取り組むための政策がいかにして生み出され、実施に至るのかについて概観し、そのプロセスを分析する方法について学びます。	
12	仮説を検討するための資料・データを集める（ライブ配信（予定）【6月29日】）：仮説について、様々な批判に耐えるような結論を求めるための地方政治や行政に関する情報の集め方を学びます。	
13	まとめ（オンデマンド）：これまでの講義を踏まえつつ、特定の事例をもとに地方の政治行政について考えます。	
14	仮説を検証する（対面【7月13日】）：集めたデータや資料を分析し、地方自治体に関する自らの仮説の妥当性を判断する方法について学びます。	
15	主張を構築する（対面【7月20日】）：地方自治体に関するリサーチ結果についてより広い文脈に再度位置づけ直し、自らの主張を構築する方法を学びます。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	60	地方の政治行政に関わる自らの問題関心から、自身に固有の問いを設定しており、かつその問いに対して論理的に回答しているレポートを評価する。※初回授業でルーブリック評価について説明する予定です。	授業後課題	40	Google Classroomを通じて提示する、授業に関わる課題に対する取り組みの姿勢を評価する。※初回授業でルーブリック評価について説明する予定です。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
この授業では、講義パートでは授業後課題（テキストの読み込みと回答、考察を含め、60分以上）、演習パートでは期末レポートに向けた事前準備と事後学習（事前・事後合わせて90分以上）が求められます。	各回の課題について、適宜コメントを付けてフィードバックを行います。 期末レポートに対するフィードバックについては、次学期までの対応を予定しています。

受講生に望むこと	・課題や授業に取り組み試行錯誤するプロセスを通じて、自らの能力を高める意識を持つことを望みます。 ・地方の政治行政に関わる方法には様々なものがあります。自分の関心に引き付けて授業の内容に向き合ってみてください。	教科書・テキスト	『テキストブック地方自治』 北山俊哉・稲継裕昭編 第3版 東洋経済新報社 2021年 ISBN-13:978-4492212486. ／必要に応じて資料等の配布も行います。
指定図書／参考書等	なし／『テキストブック地方自治の論点』 宇野二朗・長野基・山崎幹根編著 ミネルヴァ書房 2022年 ISBN-13:978-4623091690.『地方自治論：２つの自律性のはざまで 新版』 北村亘・青木栄一・平野淳一著 有斐閣 2024年 ISBN-13:978-4641151215.『政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法』伊藤修一郎著 東京大学出版会 2022年 増補版 ISBN-13:978-4130322324.『リサーチのはじめかた』 トーマス・S・メラニー＆クリストファー・レア著 安原和見訳 筑摩書房 2023年 978-4480837257.	その他・特記事項	Google Classroomを通じて適宜質問など受け付けます。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	政治行動論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	髙木 顕心						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
政治行動論という言葉に耳なじみがある方は少ないかもしれませんが、英語だとPolitical Behaviorといって、政治学の中でも比較的メジャーな分野です。代表民主制において人々が自分たちの意見を政治に反映させるための最も重要な手段は、なんと言っても選挙で投票し、政治家を選ぶことです。しかし、いったん選挙で選ばれた政治家が必ずしも多くの人々の意見に従っていないようにも見える状況がしばしば生じます。なぜこのようなことが起こるのでしょうか。どうすれば人々は政治に対して影響力を発揮し、政治家に自分たちの声を響かせ、必要なら政治を変えることができるのでしょうか。 本授業では、有権者の政治的態度の形成、政治参加、投票選択、などの行動を巡る理論と実際について、主に日本の選挙を事例とした調査データを豊富に用いながら政治行動論という学問分野の知見を学習します。 ※SDGs目標番号5、8、10、16関連科目	・政治行動論の理論的枠組みを理解できるようになる。 ・その枠組みがどのように現在の政治状況に当てはまるのかを説明できるようになる。 ・いかにして有権者が政治家や政府をコントロールできるのかについて理解できるようになる。

教授方法	授業はスライドを使った講義形式を中心に行います。
履修条件	社会学部の学生のみ可。政治学を既に履修していることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方や成績評価の方法とともに、政治行動論とはどのような学問分野なのかについて学習します。	
2	代表民主制：代表民主制において選挙が果たす役割と、民意への応答性について学習します。	
3	世論の形成と民意の分布：様々な要因が民意と世論の形成に与える影響を近年のデータをもとに学習します。	
4	有権者の能力：有権者が政治についてどれくらいの知識を持っているのか、そしてそれが政治行動にどのような影響を与えているのかについて学習します。	
5	イデオロギー：複雑な政治情報を簡略化して理解するための手がかりとして用いられてきたイデオロギーについて学びます。	
6	オンデマンド授業の振り返りと質疑応答	
7	党派性：政治情報を理解するための手がかりとしての党派性の役割と、その功罪について学習します。	
8	投票参加と投票外参加：どのような要因で投票率が下がっているのか、また投票以外の政治参加とはどのようなものなのかについて学習します。	
9	投票選択：有権者はどのようにして候補者間の違いを認識するのかについて様々な角度から行われてきた研究について学びます。	
10	選挙キャンペーンとメディア：マスメディアが有権者の投票行動に与える影響について学びます。	
11	民意と政策：有権者は政府の決定に影響を与えられているのかについて学習します。またそれを政治学者たちがどのようにして特定しようとしてきたのかについても簡単に学習します。	
12	選挙制度の影響：有権者に対する政府の応答性の違いが、選挙制度によってどのように異なるのかについて学びます。	
13	政治行動論研究の現在：これまで学んできた研究に加えて、近年の研究動向や最新の知見について学びます。	
14	授業の振り返りと全体のまとめ：ここまで学習してきたことを自らの手でまとめて、到達度テストに取り組みます。	
15	有権者は政治を変えられるのか：到達度テストの振り返り・講評とともに、政治行動論を学んだ先に見える世界について学習します。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
確認クイズ	20	オンデマンド授業では毎回、講義の理解度を確認するためにの確認クイズを行う。	小テスト	40	集中講義1日目と2日目の終わりに、その日の内容をまとめた小テストを実施する。
到達度テスト	40	集中講義最終日に、到達目標を達成（理論の理解と実際の政治への応用）ができているかを評価するテストを実施する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・講義で使用するスライド資料は、Google Classroomを通じて授業前に配布するので必ず目を通しておいてください。[30分] ・毎日、新聞・ニュース等に目を配り、政治に関する様々なニュースに触れること。授業で学んだ理論に合致する現象かどうかを自分なりに考えるようにしてください。[60分]	・オンデマンド授業での課題は、対面授業初回に講評（答え合わせや解説）を行います。 ・小テストは翌日の初めに講評（答え合わせや解説）を行います。 ・授業では、Google Classroomを使用して授業内容について質問受付をする予定ですが、皆さんの意見をうかがい、他のシステムなどでの質問受付をすることも検討します。 ・その他、提出する／しないは任意で、授業中あるいは授業後にネット上で取り組むExtra Credit課題を出します。この点数を成績評価項目の点数合計に加算します。

受講生に望むこと	・世界や日本の日々の政治ニュースに可能な限り目を配るようにしてください。 ・ほかの受講生の学びの権利を侵害する行為（授業の妨害、おしゃべり、においの伴う飲食…etc）を行った学生に対しては、退室等の厳しい処置を取ることがあります。	教科書・テキスト	飯田健・松林哲也・大村華子　『政治行動論－有権者は政治を変えられるのか－』(有斐閣、2015)ISBN:9784641150294 .
指定図書／参考書等	特に指定しない／善教将大 編　『政治意識研究の最前線』（法律文化社、2025年）ISBN:978-4-589-04378-8.	その他・特記事項	政治行動論という一見難しそうに見える講義名ですが、この授業では、代表民主制の主人公である私たちの視点から、代表民主制が抱える問題を、みなさんがあくまで自分のこととして考える際の良き「ガイド」となるよう意図しています。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	経済学Ⅰ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	井上　克洋						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、経済学に関する基本的な知識やお金の流れ、そして社会経済の仕組について分かりやすく解説していく。内容的には経済学入門であり、高校で経済に関する科目履修がなくても理解できるように進めていく予定である。時々意見交換も行う。	経済学に関する基本的な知識を習得し、新聞やネット及び雑誌記事で語られている経済的な事象や議論を凡そ理解できるようになること。

教授方法	講義形式
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	経済学とは：経済と生活の繋がりを学ぶ	
2	市場の原理とは：需要と供給、競争、独占について学ぶ	
3	経済成長とは：国富、GDP、豊かさと何かを学ぶ	
4	市場の失敗と政府の役割：市場万能主義の問題点を学ぶ	
5	景気循環とは：景気循環の仕組とその社会・生活への影響を学ぶ	
6	景気のコントロール：ケインズ経済学を学ぶ	
7	不景気に対する考え方：イノベーションとシュンペーターを学ぶ	
8	小テスト	
9	政治と経済：政官財～鉄のトライアングルについて学ぶ	
10	鉄のトライアングル：VTR鑑賞	
11	日本の財政Ⅰ：歳入と歳出、財政問題、上げ潮派、均衡財政派について学ぶ	
12	日本の財政Ⅱ：歳入と歳出、財政問題、上げ潮派、均衡財政派について学ぶ	
13	日本銀行の役割：物価のコントロールについて学ぶ	
14	日本の経済政策：日本列島改造論、小泉改革、アベノミクスについて学ぶ	
15	小テスト	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	80	問いに対する答えが適切で、かつ簡潔明瞭にまとめられているか。	受講態度	20	真剣に講義を聴講したか。与えられた問に対して積極的に意見交換を行ったか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の後に、よく理解できなかったことや納得できなかったことは必ず復習し（30分）、それでも解決できなければ、どんな些細な内容であっても次回の講義の最初に質問すること。ニュースや新聞等での報道を通して、「今」世界で起こっている事件や出来事に注目し、なぜそのような事件が起こったのか、講義の内容に結びつけて経済学的に説明できないか考察してみる。	課題提出後の講義において、総評と場合によっては個別のコメントを行う。

受講生に望むこと	受講後、その日のうちに1度講義内容について復習しておくこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	代替授業が発生した場合は、グーグルクラスルームを用いて課題を提示する。

実務経験を活かした授業の概要

経済学で語られる基本的な経済現象が、実際の社会や会社、役所、家庭などにどのような影響を与えているのか、経験に基づき具体例をあげて講義を行う。

授業科目名	経済学Ⅱ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	井上　克洋						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、前半は経済学Ⅰの知識をベースに国際経済に関する基本的な制度やその変遷を学び、後半は現代の経済学を支える主要な理論を学ぶ。時々意見交換も行う。	国際経済学に関する基本的な知識を習得し、現代の経済学を支える主要な理論を凡そ理解できるようになること。

教授方法	講義形式
履修条件	経済学Ⅰの受講

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イングランド銀行・FRB：世界の中央銀行と金融システムについて学ぶ	
2	IMF・GATT体制：戦後の国際経済システムを学ぶ	
3	金本位制と変動相場制：ニクソンショックの影響について学ぶ	
4	外国為替と国際貿易：為替レートの決定要因と国際貿易の功罪を考える	
5	ニューエコノミーと米国経済：米国経済の日本への影響を学ぶ①	
6	民主党と共和党の経済政策：米国経済の日本への影響を学ぶ②	
7	小テスト	
8	経済学の世界１：アダム・スミスと経済学の誕生	
9	経済学の世界２：自由貿易とリカード	
10	経済額の世界３：資本主義とマルクス	
11	経済学の世界４：新古典派経済学	
12	経済学の世界５：修正資本主義とケインズ	
13	経済学の世界６：イノベーションとシュンペータ	
14	経済学の世界７：マネタリズム・ゲーム理論・行動経済学	
15	小テスト	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	90	問いに対する答えが適切で、かつ簡潔明瞭にまとめられているか。	受講態度	10	真剣に講義を聴講したか。与えられた問に対して積極的に意見交換を行ったか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の後に、よく理解できなかったことや納得できなかったことは必ず復習し（30分）、それでも解決できなければ、どんな些細な内容であっても次回の講義の最初に質問すること。ニュースや新聞等での報道を通して、「今」世界で起こっている事件や出来事に注目し、なぜそのような事件が起こったのか、講義の内容に結びつけて経済学的に説明できないか考察してみる。	課題提出後の講義において、総評と場合によっては個別のコメントを行う。

受講生に望むこと	受講後、その日のうちに1度講義内容について復習しておくこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	代替授業日が発生した場合はグーグルクラスルームを用いて課題を提示する。

実務経験を活かした授業の概要

経済学で語られる基本的な経済現象や思想が、実際の社会や会社、役所、家庭などにどのような影響を与えているのか、経験に基づき具体例をあげて講義を行う。

授業科目名	経済学Ⅲ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	井上　克洋						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、資本主義社会が最初に誕生したイギリスを中心に、１６世紀から現代に至るまで西洋の人々の生活が具体的にどのように発展していったのか、そしてその背後にある社会の力関係や仕組の変化を経済の歴史を通して学んでいく。内容的には西洋経済史となるが、基本的な経済理論や経済政策についても必要に応じて説明してくため、必ずしもこれまでに経済に関する科目履修がなくても理解できるように進めていく。時々に応じて意見交換も行う。	資本主義社会がどういう条件の下で誕生し、それがどのように世界に広がっていったのか、そして我々の生活にどのような影響を及ぼしてきたのかを理解する。経済学というツールを使って、南北問題や地域格差などの現代の社会経済問題を分析把握できるようになる。

教授方法	講義形式
履修条件	経済学Ⅰ及びⅡの履修が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	工業化前のイギリス社会①：農村の経済を学ぶ	
2	工業化前のイギリス社会②：都市の経済を学ぶ	
3	工業化前のイギリス社会③：都市と農村との経済的関係について学ぶ	
4	工業化前のイギリス社会④：工業化前の社会保障制度を学ぶ	
5	プロト工業化：農村における手工業生産の拡大について学ぶ	
6	工業化①～毛織物と綿産業の興隆を学ぶ	
7	工業化②～帝国主義について学ぶ	
8	小テスト	
9	イギリスの工業化の波及：ベルギー・フランス・ドイツの工業化を学ぶ	
10	工業化の新たな段階：電気・化学・輸送・コミュニケーションについて学ぶ	
11	2つの世界大戦と国際経済：グローバリゼーションの時代を学ぶ	
12	戦後復興：復興から米ソ冷戦への流れを学ぶ	
13	EU：欧州経済の統合とユーロの誕生について学ぶ	
14	現在における国際経済の諸問題：環境、移民、租税回避について考える	
15	小テスト	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	90	与えられた問題にどれだけ正確にこたえられているか。	受講態度	10	講義内での議論や意見交換に関して、積極的に関わったか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の後に、よく理解できなかったことや納得できなかったことは必ず復習し（30分）、それでも解決できなければ、どんな些細な内容であっても次回の講義の最初に質問すること。ニュースや新聞等での報道を通して、「今」世界で起こっている事件や出来事に注目し、なぜそのような事件が起こったのか、講義の内容に結びつけて経済史的に説明できないか考察してみる。	課題提出後の講義において、総評と必要に応じて個別のコメントを行う。

受講生に望むこと	受講後、その日のうちに1度講義内容について復習しておくこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	代替授業がある場合は、 グーグルクラスルームを用いて課題を提示する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	経済学Ⅳ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	井上　克洋						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、明治以降の日本が西欧諸国をモデルに工業化を達成し経済大国といわれるまでに至った過程を理解し、加えて日本人の価値観、背後にある国際情勢、社会の力関係や仕組の変化を経済の歴史を通して学んでいく。取り扱う内容としては日本経済史となるが、基本的な経済理論や経済政策についても必要に応じて説明してくため、必ずしもこれまでに経済に関する科目履修や知識がなくても理解できるように講義を進めていく。	日本における工業化がどのような時代的背景や条件の下で誕生していったのか、そして我々の生活にどのような影響を及ぼしてきたのかを理解する。経済学というツールを使って、財政や移民・グローバル化などの現代日本の社会経済問題を分析把握できるようになる。

教授方法	講義形式
履修条件	経済学Ⅰ及びⅡの履修が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	江戸の社会と経済：都市と農村を学ぶ	
2	幕末と開港：幕末の経済発展とグローバル化について学ぶ	
3	明治維新：中央集権国家の経済的側面について学ぶ	
4	日本資本主義の確立①：日本の産業革命について学ぶ	
5	日本資本主義の確立②：明治期の社会構造について学ぶ	
6	帝国主義の経済構造：日露戦争、第一次大戦そして太平洋戦争を学ぶ	
7	小テスト	
8	戦後経済改革と復興：戦後改革、傾斜生産方式、朝鮮戦争について学ぶ	
9	高度経済成長（1954-1973年）①：消費社会の到来について学ぶ	
10	高度経済成長（1954-1973年）②：総中流化社会について学ぶ	
11	オイルショックと安定成長：経済大国日本と貿易摩擦について学ぶ	
12	バブル経済とその崩壊：プラザ合意、円高、複合不況について学ぶ	
13	失われた30年：小泉改革からアベノミクスまでの流れを学ぶ	
14	日米関係：戦後の日米関係について学ぶ	
15	小テスト	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	90	与えられた問題にどれだけ正確にこたえられているか。	受講態度	10	講義内での議論や意見交換に関して、積極的に関わったか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の後に、よく理解できなかったことや納得できなかったことは必ず復習し（30分）、それでも解決できなければ、どんな些細な内容であっても次回の講義の最初に質問すること。ニュースや新聞等での報道を通して、「今」世界で起こっている事件や出来事に注目し、なぜそのような事件が起こったのか、講義の内容に結びつけて経済史的に説明できないか考察してみる。	講義提出後の講義において、総評と必要に応じて個別のコメントを行う。

受講生に望むこと	受講後、その日のうちに1度講義内容について復習しておくこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	代替授業がある場合は、 グーグルクラスルームを用いて課題を提示する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	法律学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	名古　道功						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
法律は、社会生活を営む上で常に関わりを持つものである。 本講義では、法律が現実社会の中でどのような役割を果たしているのかを学生に身近な法律問題を通じて学び、法律の重要性を理解する。さらに、法的思考を身につけることによって、法学の視点で様々な社会問題について、各自が思考できることをめざす。	①法律問題の解決方法を自ら考える法的思考力を養成するとともに、直面した場合の対応方法を習得する。 ②各テーマのルールを理解し、社会生活で活かして法的紛争防止に役立てる。

教授方法	主として講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス・法の意義と役割　　①授業の概要・方法等を説明する。②最近の事例を素材にして、法の意義と役割を理解する。	
2	契約・成人年齢の引下げ　契約の意義や成人年齢18歳引下げの影響・留意点を理解する。	
3	消費者保護と法　消費者契約法などの規制と仕組みを学び、消費者保護の必要性・制度を理解する。	
4	クレジット契約・通販と法　クレジット契約や通販の規制と仕組みを学び、利用における留意点を習得する。	
5	ハラスメントと法　セクハラやパワハラの事例を取り上げ、法的対応を理解する。	
6	カスタマーハラスメント　店員等が顧客から受ける暴言や暴行の実情と法的対応を考える。	
7	交通事故と法①　交通事故の現状、影響、法的責任などを取り上げ、交通事故の重大性を学ぶ。	
8	交通事故と法②　交通事故の法的責任や自賠責保険などを取り上げ、不法行為や損害賠償の内容を理解する。	
9	アルバイトと法　アルバイトで直面する法律問題を取り上げる。いくつかの事例の考察を通じて、解決策と対応を学ぶ。	
10	少年犯罪と法　少年犯罪の実情と背景、「厳罰化」の議論などを通じて、少年犯罪への考え方や刑法の意義・機能を学ぶ。	
11	アパートの賃貸借　アパートの賃借で生じる法律問題を考える。契約内容（約款）、更新、現状回復義務、賃貸借期間などを理解する。	
12	家族と法　子供の養育、結婚、相続のほか、虐待に対する法的対応を学ぶ。	
13	食品製造販売と法　食品ロスや食品衛生法などの規制を理解する。	
14	社会保険と生活保護　労働者・家族の生活保障に不可欠の医療保険、年金保険、介護保険、雇用保険、労災保険を学ぶ。生活保護のあり方も考える。	
15	法律紛争解決システム　法律紛争の相談機関（消費者センター、弁護士など）や解決機関（裁判所、調停機関等）の状況と対応方法を学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	講義で学んだ知識に基づき設問に的確に答えているか。	小テスト	30	各回の講義内容を理解し、設問に正確に答えているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①次回講義のレジュメを配布するので、予習する（60分）。 ②復習は必ず行う（60分）。 ③新聞などを通じて、関連する社会問題の知識を増やす（30分）。	①講義内容理解向上をめざして小テストを適宜実施し、採点して返却する。 ②講義内容の理解度を知るため、毎回、ミニッツペーパーの提出を求め、わからない点などがあれば、補充説明を行う。

受講生に望むこと	社会問題に関心を持ってほしい。 予習・復習を欠かさず行う。	教科書・テキスト	なし。 毎回、レジュメを配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	地域社会政策論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この講義では自然災害で被災した住民生活の復旧・復興過程で生じるさまざまな課題を取り上げつつ、課題の発生原因と制度的課題を法制面、政策面から検討し、必要な施策について考える。	①被害の不平等性概念について理解する。 ②被災者支援に係る法律、条令等について内容を理解する。 ③「人間の復興」という考え方について理解する。

教授方法	講義、テーマに基づくディスカッション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	我が国の社会変動の特質と課題：超少子高齢社会の特徴、課題について理解する。	
3	超少子高齢社会の特質と社会政策①：人口政策、財政政策について理解する。	
4	超少子高齢社会の特質と社会政策②：社会保障政策、セーフティ・ネットについて理解する。	
5	過疎を生きる：過疎集落の住民の暮らしを捉えた映像資料を参照しつつ、集落の維持、住民生活の持続に必要な視点について理解する。	
6	映像研究①　映像資料から過疎集落の暮らしの課題と改善策を考える。	
7	内発的発展とは何か①：社会運動論の視点から内発的発展論について理解する。	
8	内発的発展とは何か②：政策論の視点から内発的発展論について理解する。	
9	グループワーク　与えられたテーマに基づきグループで協議し発表する。	
10	災害と避難：災害発生時の避難の現状および被害の不平等性について理解する。	
11	復旧・復興の課題①：被災者生活再建支援法を中心に、被災者支援の現状と課題について理解する。	
12	復旧・復興の課題②：国や地方自治体の復興政策と被災者生活再建を巡る諸課題について理解する。	
13	映像研究②　映像資料を参考に住民主体の復興まちづくりに必要な視点について理解する。	
14	地区防災計画：地区防災計画の考え方、計画づくりに必要な「一人ひとりの復興」の視点について理解する。	
15	まとめ・総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	10	講義への積極的参加	小テスト	20	講義内容の理解度
レポート	30	講義で学んだ知識などを適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考ができている	期末試験	40	講義内容の理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①配布された資料は、講義前に目を通し内容を理解する[30分以上] ②講義で学んだことはその日のうちに復習するとともに、わからなかった点や関心を持った内容について、他の文献等を参照しながら内容の理解に努めること[30分以上] ③適宜小テストを実施するので、テスト範囲の学習に取り組むこと[30分以上]	講義時間内に小テストを複数回実施し、答え合わせ・解説する。

受講生に望むこと	時事問題に関心を持ち、積極的に情報収集する。 あらゆる事象や考え方を相対化して捉える視点を持つ。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/講義時に適宜紹介する。	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	経営学入門			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	乾　祐哉						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、広義の経営学の視点から、経営学の主要な内容について学んでいきます。経営学の各分野の内容は、個別、バラバラなものではなく、相互に関連しており、実務ではどこかを動かせば他も動く構造になっています。このため、マネジメントの観点から、各分野のつながりなどにおいて理解を深めることができるよう、総括的に講義を進めます。 ※SDGs目標番号1～3、14関連科目	経営学の主要な考え方や分析の枠組みを理解し、マネジメントの観点から論理的思考に基づいた判断や考え方ができる力をつけることを目標とします。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス・経営学入門の概要：　この講義の進め方や評価方法などについて説明し、この講義の全体像について考察していきます。	
2	戦略（1）：　戦略とは何か、戦略を考えていくためのやり方について考察していきます。	
3	戦略（2）：　戦略の考え方を理解し、その考え方から戦略を立案する内容について考察していきます。	
4	マーケティング（1）：　マーケティングとは何か、マーケティングを行うためのやり方について考察していきます。	
5	マーケティング（2）：　マーケティングの考え方を理解し、環境や市場の分析、マーケティング戦略の立案などについて考察していきます。	
6	組織と人（1）：　組織のマネジメントやリーダーシップのやり方について考察していきます。	
7	組織と人（2）：　組織のマネジメントやリーダーシップの考え方から、組織（企業）の行動を考察していきます。	
8	組織と人（3）：　個人と集団の行動を理解し、そのための組織の運営などについて考察していきます。	
9	組織と人（4）：　個人と集団の行動の考え方から、人事システムの運営などについて考察していきます。	
10	アカウンティング（1）：　アカウンティング（会計）とは何か、その把握のやり方などについて考察していきます。	
11	アカウンティング（2）：　指標や分析、管理の考え方から、その利用などについて考察していきます。	
12	ファイナンス（1）：　ファイナンスとは何か、基本となる考え方について考察していきます。	
13	ファイナンス（2）：　基本の概念から、意思決定や資金調達、資本政策などについて考察していきます。	
14	事例研究：　これまで学んだ経営学の考え方に基づいて、実務などの事例を用いて組織（企業）に適用する考え方を学びます。	
15	総括（まとめ）：　この講義の総括（まとめ）を行います。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	50	内容の理解度を評価します。	小レポート	30	内容の理解度を評価します。
発言や記入シート、授業参加態度など	20	発言や記入シートでの貢献度、授業参加態度などを評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：　図書館やインターネットなどを活用し、その回のテーマに関する情報を調べておくようにしてください（60分）。 事後学習：　授業で特に重要なのは復習です。配布した授業資料や授業で説明した内容を基に、必ず復習し、理解を深めるようにしてください（90分）。	授業内で解説します。

受講生に望むこと	日頃から経営に関する雑誌記事を見たり、図書館やインターネットなどを活用して文献などを探したりするなど、関連した情報を調べておくようにしてください。	教科書・テキスト	指定しません。
指定図書／参考書等	指定図書なし／参考書等 グロービス経営大学院（2008）『グロービスMBAマネジメント・ブック（改訂3版）』ダイヤモンド社. ISBN：978-4478004968	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	マーケティング論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	乾　祐哉						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、マーケティングとは何かについて、組織（企業）活動における役割の点から学んでいきます。主に、STP（Segmentation, Targeting, Positioning）やマーケティングの4P（Product, Price, Place, Promotion）について、マネジメントの観点から考察します。また、商学関連の基礎となるものであり、各論の流通やサービスなどにおいて理解を深めることができるよう、総括的に講義を進めます。	主要なマーケティングの考え方や分析の枠組みを理解し、マーケティング志向に基づいた判断や考え方ができる力をつけることを目標とします。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス・マーケティング論の概要：　この講義の進め方や評価方法などについて説明し、この講義の全体像について考察していきます。	
2	マーケティングの概念：　マーケティングの考え方や体系、マーケティングの4Pの概要などについて考察していきます。	
3	事業機会の選択：　市場需要の創造、開拓、拡大や、成長ベクトル、事業戦略のポートフォリオなどについて考察していきます。	
4	事業領域の選択：　事業領域（ドメイン）、事業の多角化、組織（企業）アイデンティティ、組織（企業）イメージ、組織（企業）戦略とマーケティングなどについて考察していきます。	
5	標的市場の選択：　標的市場の選択における市場細分化の考え方や基本軸、体系、採用の手続きなどについて考察していきます。	
6	製品対応：　マーケティングにおける製品、新製品開発、製品ライフサイクル、ブランド・マネジメントなどについて考察していきます。	
7	価格対応：　価格設定の基本的な考え方、新製品や製品ミックス、心理面などを考慮した価格対応、割引による価格対応、需要の弾力性などについて考察していきます。	
8	チャネル対応：　チャネルの体系やチャネルの選択、チャネルの管理などについて考察していきます。	
9	プロモーション対応：　マーケティングにおけるコミュニケーションとその領域、コミュニケーション・ミックス、広告、セールス・プロモーションなどについて考察していきます。	
10	競争分析、競争対応：　組織（企業）を取り巻く競争要因、業界の競争構造や競争戦略の分析、変化する競争構造などや、競争における枠組みと対応などについて考察していきます。	
11	サービス・マーケティング、消費者行動：　サービスそのものや商品などに付随する機能としてのサービスに関するマーケティング、消費者行動における分析方法、新製品の普及過程、準拠集団、新しい消費者行動分析などについて考察していきます。	
12	ソーシャル・マーケティング、関係性マーケティング：　社会的な問題の解決や社会的な組織におけるマーケティング、顧客との関係性の構築と維持を目指して展開されるマーケティングについて考察していきます。	
13	デジタル・マーケティング、市場データ分析：　情報やネットなどのデジタルのマーケティング、市場におけるデータ分析の基本的な考え方について考察していきます。	
14	事例研究：　これまで学んだマーケティングの考え方に基づいて、事例を用いて組織（企業）に適用する考え方を学びます。	
15	総括（まとめ）：　この講義の総括（まとめ）を行います。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	50	内容の理解度を評価します。	小レポート	30	内容の理解度を評価します。
発言や記入シート、授業参加態度など	20	発言や記入シートでの貢献度、授業参加態度などを評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：　図書館やインターネットなどを活用し、その回のテーマに関する情報を調べておくようにしてください（60分）。 事後学習：　授業で特に重要なのは復習です。配布した授業資料や授業で説明した内容を基に、必ず復習し、理解を深めるようにしてください（90分）。	授業内で解説します。

受講生に望むこと	日頃から経営に関する雑誌記事を見たり、図書館やインターネットなどを活用して文献などを探したりするなど、関連した情報を調べておくようにしてください。	教科書・テキスト	指定しません。
指定図書／参考書等	指定図書なし／参考書等 和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦（2022）『マーケティング戦略〔第6版〕（有斐閣アルマ）』有斐閣. ISBN：978-4641221833	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	財務諸表の読み方			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	乾　祐哉						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
財務諸表は組織（企業）の経営状態などを表したものです。この授業では財務諸表のうち、主に、貸借対照表、損益計算書の意味と読み方を中心に学びます。また、事例から、会社の経営状況を見るポイントについて理解していきます。	・損益計算書、貸借対照表の意味と読み方を理解すること。 ・財務諸表の事例から、企業の経営状況を把握すること。 ・キャッシュフロー計算書の概要を理解すること。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス・財務諸表の読み方の概要：　この講義の進め方や評価方法などについて説明し、この講義の全体像について考察していきます。	
2	財務諸表の基礎：　財務諸表の基礎的な内容について考察していきます。	
3	損益計算書（1）：　損益計算書とは何かを理解し、損益計算書の読み方について考察していきます。	
4	損益計算書（2）：　損益計算書の構造から、損益計算書の読み方について考察していきます。	
5	貸借対照表（1）：　貸借対照表とは何かを理解し、貸借対照表の読み方について考察していきます。	
6	貸借対照表（2）：　資産、負債、純資産の視点から、貸借対照表の読み方について考察していきます。	
7	貸借対照表（3）：　貸借対照表の構造から、貸借対照表の読み方について考察していきます。	
8	キャッシュフロー計算書：　キャッシュ等の流れから、キャッシュフロー計算書を考察していきます。	
9	財務諸表のまとめ：　損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書のまとめの考察を行います。	
10	経営分析（1）：　収益性、成長性、安全性の視点から、財務諸表の分析について考察していきます。	
11	経営分析（2）：　収益性、成長性、安全性の視点から、財務諸表の分析について考察していきます。	
12	経営分析（3）：　収益性、成長性、安全性の視点から、財務諸表の分析について考察していきます。	
13	事例研究（1）：　財務諸表の例から、財務諸表の読み方について考察していきます。	
14	事例研究（2）：　財務諸表の例から、財務諸表の読み方について考察していきます。	
15	総括（まとめ）：　この講義の総括（まとめ）を行います。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	50	内容の理解度を評価します。	小レポート	30	内容の理解度を評価します。
発言・記入シート、授業参加態度など	20	記入シートや発言での貢献度、授業参加態度などを評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：　図書館やインターネットなどを活用し、その回のテーマに関する情報を調べておくようにしてください（60分）。 事後学習：　授業で特に重要なのは復習です。配布した授業資料や授業で説明した内容を基に、必ず復習し、理解を深めるようにしてください（90分）。	授業内で解説します。

受講生に望むこと	日頃から経営に関する雑誌記事を見たり、図書館やインターネットなどを活用して文献などを探したりするなど、関連した情報を調べておくようにしてください。	教科書・テキスト	指定しません。
指定図書／参考書等	指定図書なし／参考書等 石島洋一（2009）『［新会計基準対応版］決算書がおもしろいほどわかる本：損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書から経営分析まで』PHP研究所. ISBN：978-4569672526	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	経営組織論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	乾　祐哉						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
組織とは、複数の人々による、意識的に調整された諸活動、諸力の体系であり、共通の目的、貢献する意欲、諸活動などの調整のためのコミュニケーションがあるシステムのことです。また、組織は戦略を行うためのシステムであり、戦略とも関係のある内容になります。この授業では、組織そのものだけでなく、戦略との関係性の観点からも考察します。	組織の主要な考え方や分析の枠組みを理解し、実践的な視点に基づいた判断や考え方ができる力をつけることを目標とします。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス・経営組織論の概要：　この講義の進め方や評価方法などについて説明し、この講義の全体像について考察していきます。	
2	組織の概要、組織の定義：　組織の概要や組織の定義などについて説明し、組織とは何かについて考察していきます。	
3	組織の基本設計：　組織の目的や目標、分業の基本構造、調整などについて説明し、組織の基本的な設計について考察していきます。	
4	組織のメカニズム：　組織の基本的な構造や機能などについて説明し、組織を動かすメカニズムについて考察していきます。	
5	組織の構造：　組織の部門化や、組織における権限と責任などについて説明し、組織の効率的な目標達成のための組織構造について考察していきます。	
6	モチベーションとリーダーシップ：　人を動かすための動機づけなどについて説明し、そのためのモチベーションとリーダーシップについて考察していきます。	
7	組織文化：　組織文化などについて説明し、組織文化の特性やリーダーの役割などの視点から考察していきます。	
8	組織における意思決定：　組織における意思決定のバイアスやプログラムなどについて説明し、組織における意思決定について考察していきます。	
9	組織と環境：　組織を取り巻く環境などについて説明し、組織と組織を取り巻く環境との関係について考察していきます。	
10	組織におけるキャリア：　組織におけるキャリアなどについて説明し、組織における個々の人々の成長の視点からキャリアについて考察していきます。	
11	組織における学習：　個人の学習や共同での学習の考え方などについて説明し、組織における学習について考察していきます。	
12	外部資源とネットワーク：　外部の資源やネットワークなどについて説明し、組織における活用の視点から外部資源やネットワークについて考察していきます。	
13	組織変革：　組織のライフサイクルやマネジメントなどについて説明し、組織変革のプロセスやポイントなどについて考察していきます。	
14	事例研究：　これまで学んだ組織の考え方に基づいて、事例を用いて組織（企業）に適用する考え方を学びます。	
15	総括（まとめ）：　この講義の総括（まとめ）を行います。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	50	内容の理解度を評価します。	小レポート	30	内容の理解度を評価します。
発言や記入シート、授業参加態度など	20	発言や記入シートでの貢献度、授業参加態度などを評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：　図書館やインターネットなどを活用し、その回のテーマに関する情報を調べておくようにしてください（60分）。 事後学習：　授業で特に重要なのは復習です。配布した授業資料や授業で説明した内容を基に、必ず復習し、理解を深めるようにしてください（90分）。	授業内で解説します。

受講生に望むこと	日頃から経営に関する雑誌記事を見たり、図書館やインターネットなどを活用して文献などを探したりするなど、関連した情報を調べておくようにしてください。	教科書・テキスト	指定しません。
指定図書／参考書等	指定図書なし／参考書等 鈴木竜太（2018）『〈はじめての経営学〉経営組織論』東洋経済新報社．ISBN：978-4492502952	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	経営戦略論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	乾　祐哉						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、戦略とは何かについて、組織（企業）の目的（目標）を達成するための活動や、その活動を行うための長期的（中長期的）な計画と方向性の観点から学んでいきます。主に、組織（企業）における資源の配分（再配分）や組織（企業）の競争優位性の構築などについて考察します。また、いろいろな視座、視点から分析できるよう、総括的に講義を進めます。 ※SDGs目標番号1～3、14関連科目	主要な戦略の考え方や分析の枠組みを理解し、戦略的な視点に基づいた判断や考え方ができる力をつけることを目標とします。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス・経営戦略論の概要：　この講義の進め方や評価方法などについて説明し、この講義の全体像について考察していきます。	
2	経営環境と基本戦略：　戦略の概要、5つの競争要因や戦略グループなどの経営環境と環境の分析、基本戦略について考察していきます。	
3	製品ライフサイクル：　製品ライフサイクルの導入期、成長期、成熟期、衰退期と、ライフサイクルにおける戦略について考察していきます。	
4	市場地位と戦略：　市場における地位である、リーダー、チャレンジャー、フォロワー、ニッチャーと、それらの市場地位における戦略について考察していきます。	
5	資源ベース戦略：　資源ベース戦略における主な考え方である、VRIOとコア・コンピタンスについて考察していきます。	
6	事業システム：　組織（企業）の価値連鎖の仕組みのうち、主要な部分である事業システムについて考察していきます。	
7	事業領域：　組織（企業）戦略における主要な考え方である事業領域（ドメイン）について考察していきます。	
8	成長戦略：　組織（企業）戦略における主要な考え方である成長戦略について考察していきます。	
9	資源展開：　組織（企業）戦略における資源の展開について考察していきます。	
10	戦略の社会的側面：　戦略における社会的な側面について考察していきます。	
11	組織構造：　組織（企業）における様々な形態について、その主なものを考察していきます。	
12	組織文化：　組織（企業）における考え方や行動のベースとなり、戦略とも密接に関係している組織文化について考察していきます。	
13	組織（企業）変革：　組織の生存や盛衰に関係する組織（企業）変革について考察していきます。	
14	事例研究：　これまで学んだ戦略の考え方に基づいて、事例を用いて組織（企業）に適用する考え方を学びます。	
15	総括（まとめ）：　この講義の総括（まとめ）を行います。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	50	内容の理解度を評価します。	小レポート	30	内容の理解度を評価します。
発言や記入シート、授業参加態度など	20	発言や記入シートでの貢献度、授業参加態度などを評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：　図書館やインターネットなどを活用し、その回のテーマに関する情報を調べておくようにしてください（60分）。 事後学習：　授業で特に重要なのは復習です。配布した授業資料や授業で説明した内容を基に、必ず復習し、理解を深めるようにしてください（90分）。	授業内で解説します。

受講生に望むこと	日頃から経営に関する雑誌記事を見たり、図書館やインターネットなどを活用して文献などを探したりするなど、関連した情報を調べておくようにしてください。	教科書・テキスト	指定しません。
指定図書／参考書等	指定図書なし／参考書等 嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎（2016）『1からの戦略論<第2版>』碩学舎．ISBN：978-4502167416	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	簿記A			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田村　誠司						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
全ての企業が行う会計業務を遂行するために必要となる簿記の基礎的な知識を習得する。	日本商工会議所簿記検定試験３級受験に向けて、その基礎的な知識の修得を目指す。

教授方法	講義と問題演習の併用。
履修条件	簿記検定資格取得希望者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	簿記の基礎について理解する。	田村
2	日常の手続について理解する。	田村
3	商品の購入と販売の取引について理解する。	田村
4	返品、諸掛り、保管費について理解する。	田村
5	商品有高帳について理解する。	田村
6	簿記上の現金と預金の意味と記帳について理解する。	田村
7	小口現金とクレジット売掛金の意味と記帳について理解する。	田村
8	手形の意味と記帳について理解する。	田村
9	さまざまな帳簿の関係について理解する。	田村
10	貸付金、借入金、有形固定資産の取引と記帳について理解する。	田村
11	未収入金、未払金、仮払金、仮受金の取引と記帳について理解する。	田村
12	給与の取引と記帳について理解する。訂正仕訳について理解する。	田村
13	試算表について理解する。	田村
14	税金及び証ひょうと伝票について理解する。	田村
15	総復習演習を行う。	田村

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	定期試験の評点により評価を行う。	提出物	30	講義内容ごとに小テスト行い、その理解度により評価を行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
各回で学習した教科書の箇所を次回授業までに再度確認しておくこと。[50分] 学習した箇所について問題集（参考書推奨）を解いておくこと。[50分] 資格試験の受験前には、試験対策として演習問題を行う。[90分]	実施した小テストは、原則提出した次の授業で返却する。 分からないところを残したままにすると、資格試験受験の合格に支障を来すため、授業中や授業の前後に質問して速やかに解決をすること。 開講日には講師室でも質問対応を行う。

受講生に望むこと	電卓（スマホ電卓を除く）を携行すること。 分からないことは何でも、何度でも質問すること。	教科書・テキスト	『2026年度版 スッキリわかる 日商簿記3級』 滝澤ななみ著 2026年度版　TAC出版　ISBN:9784300120613 『2026年度版　スッキリうかる日商簿記３級　本試験予想問題集』 滝澤ななみ監修 TAC出版開発グループ(著/文)　2026年度版　TAC出版　ISBN:9784300120644
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	簿記Ｂ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田村　誠司						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
前期の講義を基礎として、簿記の知識の理解を一層深めます。特に決算についての手続を中心に講義を進め、取引の記帳から損益計算書・貸借対照表の作成まで、簿記の一連の流れを理解してもらいます。	日本商工会議所簿記検定試験３級の合格を目指します。

教授方法	講義と演習の併用による。
履修条件	資格簿記Aを履修した者または、高校において簿記を履修した者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	決算のあらましや手続きについて理解する。	田村
2	現金過不足、貯蔵品、当座借越について理解する。	田村
3	売上原価について理解する。	田村
4	貸倒れについて理解する。	田村
5	減価償却について理解する。	田村
6	収益・費用の見越し、繰延について理解する。	田村
7	決算整理後残高試算表及び精算表について理解する。	田村
8	帳簿の締め切りについて理解する。	田村
9	損益計算書と貸借対照表の形式について理解する。	田村
10	株式会社における資本（純資産）の概要と株式を発行するときの処理について理解する。	田村
11	剰余金の配当と処分について理解する。	田村
12	税金及び証ひょうについて理解する。	田村
13	伝票について理解する。	田村
14	日商簿記検定試験３級問題演習	田村
15	日商簿記検定試験３級問題演習	田村

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	定期試験の評価により評点を行う。	提出物	30	講義内容ごとに小テストを行い、その理解度により評価を行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
各回で学習した教科書の箇所を次回授業までに再度確認しておくこと。[50分] 学習した箇所について問題集（参考書推奨）を解いておくこと。[50分] 資格試験の受験前には、試験対策として演習問題を行う。[180分]	実施した小テストは、原則提出した次の授業で返却する。 分からないところを残したままにすると、資格試験受験の合格に支障を来すため、授業中や授業の前後に質問して速やかに解決をすること。 開講日には講師室でも質問対応を行う。

受講生に望むこと	電卓（スマホ携帯を除く）を必ず携行すること。 分からないことは、何でも何度でも質問すること。	教科書・テキスト	『2026年度版 スッキリわかる 日商簿記3級』 滝澤ななみ著 2026年度版　TAC出版　ISBN:9784300120613 『2026年度版　スッキリうかる日商簿記３級　本試験予想問題集』 滝澤ななみ監修 TAC出版開発グループ(著/文)　2026年度版　TAC出版　ISBN:9784300120644
指定図書／参考書等	なし／合格するための本試験問題集 日商簿記 3級 2026年SS対策 （よくわかる簿記シリーズ） TAC出版　　ISBN：9784300119198	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会貢献論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この講義では災害ボランティアを中心に、行為的主体としてのボランティアの特質、ボランティアの社会的役割・機能、課題等について考える。	①ボランティア行為の社会的意義について、自分のことばで説明できる。 ②受講者自身が地域の社会的課題に関心を持ち、積極的に参加する。

教授方法	講義、グループディスカッション、講義内プレゼンテーション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	自発性　　ボランティアの特質としての自発性概念について理解する。	
3	利他性　　ボランティアの特質としての利他性概念について理解する。	
4	共同性・公共性　ボランティアの特質としての共同性概念及び公共性概念について理解する。	
5	非営利性　　ボランティアの特質としての非営利性概念について理解する。	
6	先駆性・継続性・責任性　　ボランティアの特質としての先駆性概念、継続性概念、責任性概念について理解する。	
7	臨床性　　ボランティアの特質としての臨床性概念について理解する。	
8	映像研究：ここまでの講義で学んだ理論的視点を踏まえつつ、映像資料を通して学びを深める。	
9	自助・共助・公助とは　　自然災害緒の発災から復旧・復興過程における自助、共助・互助、公助の機能、役割、課題等について理解する。	
10	自然災害とボランティア（1）　　災害フェーズごとのボランティアの役割について理解する。	
11	自然災害とボランティア（2）　　災害フェーズごとのボランティアの役割について理解する。	
12	映像研究２：災害ボランティアの役割・意義について映像資料を通して理解を深める。	
13	事例研究①：国内外の具体的実践事例を通し、社会貢献活動の意義について考察する。	
14	事例研究②：国内外の具体的実践事例を通し、社会貢献活動の意義について考察する。	
15	最終レポート、総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加態度	10	講義への積極的参加	小レポート	20	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの資料作成、プレゼン内容となっている。
レポート	40	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考ができている	小テスト	30	講義で学んだことの習熟度を確認する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前配布資料は、次回講義までに目を通し内容を理解する。［30分以上］ ②講義中に紹介した資料や書籍については目を通す。［30分以上］	講義時間内に小テストを実施（複数回予定）し、答え合わせ・解説する。 講義期間中小レポート課題を複数回提示する。 最終回にレポート課題を課す。

受講生に望むこと	関心のある分野での社会貢献活動に積極的に取り組む。 あらゆる事象や考え方を相対化して捉える視点を持つ。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/講義時に適宜紹介する。	その他・特記事項	学内または学外のボランティア活動に積極的に参加して欲しい。 次年度「社会貢献実習」受講を検討している学生は、この講義の受講を強く推奨する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会貢献実習			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この実習は、集落等地域内に入り当該地域課題を調査し、課題改善に向けた実践活動及び提案を行うことを目的とする。 ①実施時期：講義・プレゼンテーション（平日、学内）＋現地実習（土・日、学外） ※具体的な実施日は受講者と相談し決定する。 ②実習先：石川県輪島市（予定） ③定員：7名 ④費用：5,000円程度（交通費、飲食費、保険代等）	①地域の課題を整理し改善策を提案する。 ②問いを探し、仲間と協議して提案する。

教授方法	フィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーション
履修条件	

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス　実習概要の説明、役割分担、スケジュールの確認	
2	現地概況の概説　対象地の社会動態、課題等についての概説、調べたことの共有	
3	現地活動（１）地域住民等と連携した活動実践	
4	現地活動（２）地域住民等と連携した活動実践	
5	現地活動（３）地域住民と連携した活動実践	
6	現地活動（４）地域住民等と連携した活動実践	
7	現地活動（５）地域住民と連携した活動実践	
8	現地活動（６）地域住民等と連携した活動実践	
9	現地活動（７）地域住民等と連携した活動実践	
10	現地活動（８）地域住民等と連携した活動実践	
11	現地活動（９）地域住民等と連携した活動実践	
12	地域課題分析（１）住民等への聞き取りによる課題の分析	
13	地域課題分析（２）住民等への聞き取りによる課題の分析	
14	プレゼンテーション準備	
15	プレゼンテーション　課題解決に向けたプレゼンテーションの実施	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習参加態度	30	グループワークへの積極的参加、住民聞き取り、現地活動への積極的参加	期末レポート	50	実習活動を通して得た情報などを活用し、要求されたレベルの考察ができている
プレゼンテーション	20	ポイントを押さえたわかりやすく、説得力のある内容及び説明になっている			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①当該地域に関する情報収集を行う［30分以上］ ②聞き取り調査に向け、情報収取と準備をする［30分以上］	実習を通した質問等については適宜助言指導を行う。

受講生に望むこと	・問いを立て、住民や地域住民団体関係者等に質問し、自ら情報を収集すること ・宿泊を伴う実習のため、体力に自信がある人、集団生活に抵抗のない人が望ましい	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	・天候、感染状況等外部要因により、実施時期やプログラム内容に変更が生じる場合がある。その場合は教員の指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	環境と開発			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この講義では、国内外で発生する開発問題、環境問題について問題発生の要因を探るだけでなく、問題の背後にある経済社会システムの限界について批判的に検討する。	①エンパワメント、内発的発展、人間開発概念など、講義で取り上げる重要概念について説明できる。 ②基本的人権について理解を深め、人権を通して社会的諸問題を捉える視点を持つ。 ③「開発」について自分のことばで説明できる。

教授方法	講義、講義内プレゼンテーション、グループワーク
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	貧困とは　　DAC指標などを通し貧困概念にについて理解する。	
3	豊かさとは　　消費社会における豊かさ、絶対的貧困、相対的貧困について理解しつつ、豊かさの意味について考える。	
4	人間の潜在能力と開発　　アマルティア・セン「人間の潜在能力」概念について理解する。	
5	グローバル化と不平等　途上国の現状を理解し不平等の構造について理解する。	
6	開発と人権（1）世界人権宣言を中心に人権概念について理解する。	
7	開発と人権（2）日本国憲法を中心に基本的人権について理解する。	
8	近代化と開発　従属理論、世界システム論について理解する。	
9	映像研究①　開発問題をテーマにした映像資料から、グローバルな開発問題の解決策について考える。	
10	相対的剥奪とは　　各種指標を用いて、格差及び貧困が生み出される社会経済構造について理解する。	
11	グローバルな不平等と格差　エコロジカル・フットプリント概念およびバーチャルウォーターの視点から、グローバルな不均衡の現状について学ぶ。	
12	持続可能な社会とは　SDG's概念の基本的な考え方を踏まえつつ、持続可能性を批判的に検討する。	
13	映像研究②　環境・人権問題をテーマにした映像資料から、グローバルな環境問題の現状を捉えつつ、解決策について考える。	
14	公正な貿易とは　　フェアトレードの考え方、社会的意義と限界について理解する。	
15	まとめ・総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加態度	10	講義への積極的参加	小テスト	20	講義内容の理解度
レポート	30	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされている	期末試験	40	講義で学んだことの理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①適宜資料を配布するので、事前に目を通し内容を理解する［30分以上］ ②適宜小テストを実施するので内容を復習する［30分以上］ ③講義で紹介した書籍等について、目を通し内容を理解する［30分以上］	講義時間内に小テストを複数回実施する。

受講生に望むこと	環境問題、開発問題に関連した新聞記事やニュースを関心をもって見る。あらゆる事象や考え方を相対化して捉える視点を持つ。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／講義時に適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	地域環境マネジメント論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この講義では、Sustainable Development Goals概念及びローカルなレベルでの具体的実践について検討しつつ、持続可能な社会や持続可能な暮らし方について受講者と考える。	「持続可能な社会」について、自分のことばで説明できる。

教授方法	学外研修、グループ・ディスカッション、プレゼンテーション
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	リスクとしての環境問題　U.ベックのリスク社会論について理解する。	
3	リスクと不確実性　不確実性概念について理解する。	
4	持続可能性とは　Sustainable Development概念について、概念の共有化に向けた歴史的過程について理解する。	
5	強い持続性、弱い持続性　ハーマン・デイリーにによる最適規模概念、「強い持続性」「弱い持続性」の考え方について理解する。	
6	SDGsとは何か　Sustainable Development Goalsの概要及び17の目標及びその内容について理解する。	
7	映像資料研究　SDGsに関する具体的な事例について映像資料を参照しつつ、持続可能な社会について話し合う。	
8	持続可能性を支える主体：社会的リスクを巡る民主的正当性を実現する手段としてのコンセンサス会議をについて理解する。	
9	映像資料研究　地域環境マネジメントに関する具体的な事例について映像資料を参照しつつ、持続可能な社会について話し合う。	
10	グループディスカッション：第10回以降の実習に向け、事前に提示された課題についてグループで協議する。	
11	持続可能な地域社会とは①　石川県内のSDGs実践事例について検討する。	
12	持続可能な地域社会とは②　石川県内のSDGs実践事例について検討する。	
13	持続可能な地域社会とは③　石川県内のSDGs実践事例について検討する。	
14	持続可能な地域社会とは④　石川県内のSDGs実践事例について検討する。	
15	総括・まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加態度	10	講義への積極的参加	小レポート	30	講義で学んだ知識を適切に用いて、要求されたレベルの内容になっている
講義内プレゼンテーション	20	与えられたテーマに基づいて、これまでの講義で学んだ知識を適切に用いて、要求されたレベルの発表になっている	最終レポート	40	講義内容を理解し、要求されたレベルに到達している

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①適宜資料を配布するので、事前に目を通し理解を深める［30分以上］ ②レポート作成に向け、自ら問を立て、関連する書籍・資料に目を通す［30分以上］	講義内プレゼンテーション課題および実施方法については、オリエンテーション時にアナウンスする。プレゼン実施時は、発表者以外の受講者の積極的な発言を求める。

受講生に望むこと	関連するニュースや新聞記事を興味関心をもって見る。 あらゆる事象や考え方を相対化して捉える視点を持つ。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/講義時に適宜紹介する。	その他・特記事項	第11～14回は週末を利用し、学外（金沢市内予定）で実施予定。 ※現地集合・現地解散。会場までの交通費は自己負担。 日程等詳細については、受け入れ先と協議の上決定し、講義開始後に受講者にアナウンスする（土曜または日曜に実施予定）。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、福祉専門職として必要となる地域福祉の知識の習得を目指すとともに理論や方法論について理解を深める。 本科目は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の【共通】科目であり、国家試験に準じた講義を行う。	①地域福祉の基本的考え方について理解する。 ②地域福祉の現状や課題について、自分の考えを述べることができる。

教授方法	講義、グループワーク
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題①　　地域社会の概念と理論	
2	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題②　地域社会の変化，多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズについて理解する。	
3	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題③　　地域福祉と社会的孤立について理解する。	
4	地域包括ケアシステム　　地域包括ケアシステムの考え方、生活困窮者自立支援の考え方について理解する。	
5	地域福祉ガバナンス　地域福祉ガバナンス、多職種連携について理解する。	
6	地域福祉の基本的な考え方　　地域福祉の概念と理論、地域福祉の歴史、地域福祉の推進主体について理解する。	
7	地域福祉の推進主体　地域福祉の推進主体について理解する。	
8	地域福祉の主体と福祉教育　　地域住民の地域福祉推進と福祉教育について理解する。	
9	地域を基盤としたソーシャルワーク①　ソーシャルワークの概念、コミュニティソーシャルワークとは何かについて理解する。	
10	地域を基盤としたソーシャルワーク②　住民の主体形成に向けたアプローチについて理解する。	
11	映像研究　映像資料から地域福祉課題について検討する。	
12	災害時における総合的・包括的支援体制①　非常時や災害時における法制度について理解する。	
13	災害時における総合的・包括的支援体制②　包括的支援体制の必要性について、過去の災害を事例にその課題から理解する。	
14	災害時における総合的・包括的支援体制③　個別避難支援、災害ケースマネジメントについて理解する。	
15	総括・まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加態度	10	講義への積極的参加	小テスト	20	講義で学んだことの理解度
レポート	30	講義で学んだ知識などを適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考ができている。	期末試験	40	講義内容の理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義前には指定されたテキストの範囲を熟読し、内容を理解する【30分以上】 ②講義終了後は必要に応じて他の参考書やネットを活用して調べ、理解を定着させる【30分以上】	講義時間内に小テストを複数回実施し、回答・解説する。

受講生に望むこと	地域福祉に関連した書籍を積極的に読む	教科書・テキスト	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制第２版』，中央法規出版 2026.2 ISBN　978-4824303486
指定図書／参考書等	なし/講義時に適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
この講義では、福祉行政の実施体制及び福祉財政の動向、福祉計画の意義・目的、方法、社会保障の財政、社会保障制度の体系など、社会福祉士として必要な知識の習得を目指す。	①福祉行財政のしくみ、現状及び課題について説明することができる。 ②社会保障制度について具体的に説明することができる。

教授方法	講義、グループディスカッション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	現代社会と社会保障　人口動態の変化、経済環境の変化、労働環境の変化について理解する。	
3	福祉行財政システム　　国の役割、都道府県の役割、市町村の役割、国と地方の関係について理解する。	
4	福祉財政　　国の一般会計予算と社会保障関係費の動向及び地方自治体の福祉行政と民生費の動向について理解する。	
5	福祉行政の組織　社会福祉の実施体制、社会福祉の専門機関及び専門職について理解する。	
6	社会保障の財政　社会保障財政を支える財源、社会保障支出の規模と動向、国民負担率等について理解する。	
7	社会保障概念　社会保障の概念とその範囲、社会保障の役割と意義、社会保障の対象について理解する。	
8	社会保障制度の展開　　社会保険、社会手当、公的扶助の展開、福祉国家体制の再編と社会居保障の変容、日本の社会保障の展開について学ぶ。	
9	社会保障の財政　社会保障財政を支える財源、社会保障支出の規模と動向、国民負担率について理解する。	
10	社会保険・社会扶助　社会保険と社会扶助の考え方について理解する。	
11	社会保障制度の体系　　医療保険制度、介護保険制度、年金制度、生活保護制度について理解する。	
12	福祉計画の意義と種類　　福祉計画の定義、目的、機能、地域福祉計画の歴史的展開について理解する。	
13	福祉計画の策定過程と方法　福祉計画の過程とその特徴、福祉計画の過程における方法・技術	
14	福祉計画における評価　　福祉計画における評価の方法・技術、留意点について理解する。	
15	まとめ・総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加態度	10	講義への積極的参加	小テスト	20	講義の理解度
レポート	30	講義で学んだ知識等を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされている	期末試験	40	要求されたレベルの論考がなされている

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①適宜資料を配るので、講義までに目を通し内容を理解する［30分以上］ ②適宜小テストを実施するので、先に学んだことを復習する［30分以上］ ③講義で紹介した書籍、論文等について目を通し知識を得る［30分以上］	社会福祉士国家試験過去問を中心とした小テストを講義時間内に適宜実施する。

受講生に望むこと	国家試験受験を目指す学生に照準を当て講義を展開する。受講生は高い目的意識をもって講義に臨んで欲しい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/①最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座『社会保障 第２版』、中央法規出版、2025.1　ISBN　978-4824301505 ②最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座『地域福祉と包括的支援体制第２版』中央法規出版、2026.2　ISBN　978-4824303486	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	児童福祉論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜　和昭						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
児童福祉の変遷、歴史、児童憲章、児童の権利宣言、子どもの権利条約などの基本理念を学ぶ。また児童福祉法の理念を理解し、子どもにとって最善の利益とは何か、子どもの権利保障の体系、子ども福祉制度政策、親権と子どもの権利擁護とは何かを学び、児童福祉施設の基本的機能についても理解する。また児童福祉の現代的課題を明確にすることによって少子化社会の影響、児童のみならずそれを取り巻く家庭、地域社会の中の子ども、社会環境、諸外国の児童福祉を理解する。	1．現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解している。 2．子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解している。 3．子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解している。 4．子ども家庭福祉の現状と課題について理解している。 5．子ども家庭福祉の動向と展望について理解している。

教授方法	講義を中心に展開するが、提示課題によるグループディスカッションも含む。
履修条件	特にない

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	家族・家庭とは何か、家族・家庭の定義と社会制度としての家族・家庭における子ども観を把握する。少子化の進行、子育て環境を巡る現状、家族の変容と社会的要因を考察し家族・家庭機能の変化、子ども家庭福祉のニーズを理解する。	
2	子ども家庭福祉の原理について、子どもの特性と発達ニーズ、理念、権利保障、児童憲章・児童福祉法の理念、子どもの権利条約について学ぶ。子どもの権利の特徴である受動的権利と能動的権利の二面性、その確立の過程を理解する。	
3	児童福祉の発展の理解。日本の児童福祉の歴史、特に明治期の児童福祉の萌芽から「石井十次」、「留岡幸助」をはじめとした足跡、その思想理念を理解する。欧米の歴史については、イギリスの児童保護から始まる歩みから、アメリカの近代的児童福祉思想を理解する。	
4	児童家庭の権利保障および支援の核となる児童福祉六法（児童福祉法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法、母子保健法、母子並び父子及び寡婦福祉法、児童手当法）の概要を理解する。また関連法である、児童虐待防止法、DV 防止法、などもあわせて学ぶ。	
5	子ども家庭福祉の実施体制、行政機関と関連機関の機能を理解する。国及び地方自治体、児童福祉の各審議機関の機能、児童相談所、福祉事務所、保健センターの概要を学ぶ。児童福祉施設の種類とその運営内容など基本的機能を理解する。	
6	子ども家庭福祉の専門職を学ぶ。児童相談所・福祉事務所・家庭児童相談室などの関係機関に配置されている職員の資格と職務を理解する。また、児童福祉施設の専門職員と資格について、その具体的な専門的機能を理解する。	
7	母子保健を中心に学ぶ。母子保健の目的、歴史、乳幼児死亡率の傾向、健康診査・健診内容や保健指導・訪問指導などの具体的な制度を理解する。母子健康手帳、予防接種、自立支援医療、小児慢性特定疾患治療研究事業を理解する。育児支援についても理解する。	
8	障害・難病のある子どもと家族への支援を学ぶ。障害児及び家族の実情とニーズ、障害児の支援に関する制度、障害児教育、特別児童扶養手当・障害児福祉手当などの経済的支援などに関する制度を学ぶ。	
9	児童健全育成を学ぶ。児童健全育成の目的と内容、健全育成施策の現状としての地域組織活動、児童厚生施設、放課後児童健全育成事業の現状と課題、児童手当制度の制度変更の内容などを中心に理解を深める。	
10	保育制度を学ぶ。保育制度の概要と保育の実施体制、保育制度の変遷、保育所の多機能化などを理解する。保育施策の現状について、認定こども園や認可保育所の運営・入所方法・保育内容を理解する。認定こども園や認可保育所の事業内容である、乳児保育・障害児保育・育児相談・子育て支援の概要を理解する。	
11	子ども子育て支援制度の内容を理解する。幼保連携型認定こども園を中心とする、認定こども園制度の具体的内容、認可外保育施設の種類と保育サービスを理解する。その他保育サービスとしての、家庭的保育事業（保育ママ）、ファミリーサポートセンター事業、幼稚園の預かり保育の実情を理解する。	
12	ひとり親家庭の福祉を学ぶ。ひとり親家庭の現代的様相、経済的支援策（児童扶養手当法・母子福祉資金など）、就業支援策、雇用対策、施設による支援としての母子生活支援施設の現状と課題、母子支援員や少年支援員の専門性を理解する。	
13	社会的養護を学ぶ。社会的養護を必要とする児童への具体的支援策を理解する。代表的施設サービスである、乳児院・児童養護施設・児童自立支援施設・児童心理治療施設の基本的機能、専門職の働きを理解する。	
14	非行児童・情緒障害児への支援を学ぶ。非行と情緒障害は不可分の関係があること、家族問題としての非行の動向と非行そのものの理解を深める。児童相談所のみならず、非行少年への対応の第一義機関である家庭裁判所の役割を理解する。	
15	児童虐待対策を学ぶ。児童虐待の定義、児童虐待の実態、子どもを虐待から保護する仕組み、子ども虐待の発見と通告、在宅支援と施設における保護などの実態を理解する。児童虐待対策の課題として、関係機関とのネットワーク、発生予防の具体的施策を理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	基本的知識を問う問題を中心とする。国の最新の制度政策も内容に含まれるが、その都度資料などを配付し講義されるので、内容などを正確に理解する。	リアクションペーパー	30	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている。自らの課題が設定されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業で学習した児童福祉に関わる用語や概念を正しく理解し、文章で説明できるように復習する。[45分] ②各回の授業で学習した児童福祉に関わる用語や概念を、社会福祉全般の中で正しく位置付ける、あるいは他の各論領域と比較することができるように理解を深めるため、書籍や論文を積極的に読み込む。[45分] ③各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]	・各回の授業で提出されるリアクションペーパーを活用し、そこでの質問等の内容について次回において全体共有する。

受講生に望むこと	子ども家庭福祉の基本となる内容が教授され、少子化対策において根幹をなす学科目であるから、確実に専門用語などについては内容の理解に努めること。	教科書・テキスト	『児童・家庭福祉』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 中央法規 2021年 ISBN 978-4-8058-8246-7
指定図書／参考書等	なし／『児童・家庭福祉』第2版、（一社）日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 中央法規 2025年 ISBN 978-4-8243-0155-0	その他・特記事項	日本社会が直面している最重要課題を学ぶ科目である。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	高齢者福祉論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
老いや高齢者の問題は、とかく否定的なイメージでとらえられがちである。確かに、介護問題等は深刻な社会問題ともなっている。しかし一方では、さまざまな形で社会参加し意欲的に暮らしている高齢者や、介護が必要になってもその人らしく生き生きと暮らしている高齢者も見受けられる。 授業では、超高齢社会を迎えたわが国において、すべての人が何らかのかたちで関わらざるを得なくなってきた高齢者や老いの問題について、理解を深めていく。さらに、支え合っていく仕組みの問題や豊かな老後等、高齢者福祉のあり方について考えていく。	①高齢者の特性、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解できる。 ②高齢者保健福祉制度の発展過程について理解できる。 ③介護保険制度について、目的と理念、制度の概要等を理解できる。 ④高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解できる。 ⑤介護の概念や対象及びその理念、介護過程、介護の技法、介護予防、終末期ケアのあり方について理解できる。

教授方法	講義およびワークシートによる課題。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業概要の説明。高齢化の進展とその特徴について理解する。	
2	高齢者の特性を理解する。	
3	高齢者の生活実態について理解する。	
4	高齢者を取り巻く環境を理解する。	
5	高齢者福祉施策の変遷について理解する。	
6	老人福祉法について理解する。	
7	介護保険制度：制度創設の背景、仕組みの概要①について理解する。	
8	介護保険制度：仕組みの概要②、現状と課題について理解する。	
9	介護保険等サービス：居宅・予防・地域支援について理解する。	
10	介護保険等サービス：施設サービスについて理解する。	
11	高齢者医療確保法、高齢者の権利擁護について理解する。	
12	高齢者のためのさまざまな環境の整備について理解する。	
13	高齢者の雇用安定と家族の就労上の介護休業支援について理解する。	
14	高齢者と家族を支援する組織と専門職、市民の役割と連携について理解する。	
15	高齢者と家族等への相談援助について理解する。まとめ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
テスト	80	・授業内容についてどれだけ理解しているか。	提出物	20	・ワークシート等の提出物（授業内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回の授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持てたことや疑問点に関して、自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③日頃から高齢者福祉や社会保障等の問題に関心をもち、新聞・ニュース等に触れる。	毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の授業でフィードバックを行う。

受講生に望むこと	講義中心の授業となるが、受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んでほしい。	教科書・テキスト	『新・エッセンシャル高齢者福祉論 』田中康雄編 みらい　2022年　ISBN:978-4-86015-564-3
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

高齢者福祉について、各種委員会等（施設職員研修、介護老人福祉施設第三者委員等）の経験をもとに具体例をあげて講義している。

授業科目名	障害者福祉論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
こころの不調や発達障害などを含め、現代社会における障害者福祉の諸問題、支援制度等を正しく理解する。また、社会福祉士資格に係るソーシャルワーク実習で必要となる基礎知識の習得、および社会福祉士国家試験に関する知識を身につける。 とくに障害のある人たちを取り巻く諸問題は社会全体の問題としてとらえ、国家試験受験、および専門職を目指すもの以外にも理解できる内容を展開する。	1．障害の概念と特性を踏まえ、障害のある人たちとその家族の生活と、これを取り巻く社会環境について理解し、説明できるようにする。 2．障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解し、説明できるようにする。 3．障害のある人たちに対する法制度と支援の仕組みについて理解し、説明できるようにする。 4．障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解し、説明できるようにする。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	障害の概念と特性の理解：各法律での障害者の定義、障害種別ごとの特性と支援内容	
2	障害者福祉の歴史：当事者による活動の意義、障害当事者・親の会の運動の展開過程、国連障害者政策の歴史と障害者権利条約、障害者基本法改正のポイント	
3	障害のある人たちに対する法制度と支援の仕組みの理解：障害者の虐待防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律	
4	障害のある人たちに対する法制度と支援の仕組みの理解：精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	
5	障害のある人たちの生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題：障害のある人たちを取り巻く情勢と暮らしの現状、生活問題と支援ニーズ	
6	障害のある人たちに対する法制度と支援の仕組みの理解：児童福祉法、発達障害者支援法	
7	障害のある人とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境：障害のある人たちの生活実態、家族の現状と背景、子育てする障害のある人のニーズと支援、家族支援のあり方	
8	障害の概念と特性：国際機能生活分類（ＩＣＦ）の意義と課題、医学モデルと社会モデル	
9	障害のある人たちに対する法制度：法制度の全体像、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法	
10	障害のある人たちに対する法制度と支援の仕組みの理解：高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、障害者の雇用の促進等に関する法律、国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律	
11	障害のある人たちと家族等の支援における関係機関と専門職の役割：行政機関、労働機関、教育機関、医療機関、相談支援専門員、ピアサポーター、養護教諭、家族等の役割	
12	障害のある人たちと家族等に対する支援の実際：ソーシャルワーカーの中核的使命と原理、障害領域におけるソーシャルワーカーの配置の現状、期待される役割、多職種連携	
13	障害のある人たちに対する法制度と支援の仕組みの理解：障害者総合支援法	
14	障害者福祉の歴史：制度の発展過程、障害者処遇の変遷、社会の背景と障害のある人たちが置かれていた状況の関連、国際社会のなかでの日本の障害者福祉施策の変化	
15	障害者福祉の歴史：障害観の変遷、障害のある人たちに向けられる差別や偏見、優生思想の概要、障害者福祉を支える代表的な理念	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内確認テスト・レポート等	50	授業内容の理解、レポート評価基準（初回に説明）	授業参加状況	50	提出物（リアクションペーパー、授業内の小テスト、授業内レポートを含む）、受講態度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．障害のある人たちの社会生活を意識する。 2．社会における障害者福祉サービスの意味を理解する。 3．国民福祉の動向、障害者白書等で最新の情報を確認する。 4．社会福祉士国家資格取得を目指すものはテキストや資料を繰り返し学習する。 5．社会における障害者福祉に関する事象について考え、まとめる。 ［1～5の全体で60分以上］	小テスト等は内容を解説する。課題やテスト内容、評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	こころの不調や発達障害などを含め、障害について正しく理解するとともに、社会全体の問題として関心を持ってください。	教科書・テキスト	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集、最新社会福祉士養成講座８『障害者福祉　第２版』中央法規出版、2025. ISBN:978-4-8243-0151-2
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じて講義内で資料を配布します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会保障論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	陳　萍						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
この授業の目的は、社会保障制度の基礎知識を学習することにある。具体的には、①社会保障の定義、方法、内容、機能；②社会保障の歴史（世界と日本）；③公的扶助（貧困と社会保障）；④社会保険（医療保険、年金保険、介護保険、労働保険）；⑤社会福祉（少子高齢化と社会保障）について学習する。 ※SDGs目標番号1、3関連科目	1. 社会保障制度の歴史、体系、内容等の基礎知識を習得する。 2. 社会保障の方法の一つである社会保険による方法の仕組み、社会保険と民間保険の相違について理解する。 3. 社会保障をめぐる現状と課題について理解する。 4. 生活者の視点から、現代社会における生活をめぐる問題、尊厳ある生活の実現のための対策などを主体的に考えるようになる。

教授方法	講義形式
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の主題や流れ、成績評価の方法などについて説明する。 社会保障とは：社会保障の概念、目的、仕組み及び人権と社会保障について考える。	
2	社会保障の方法と内容：社会保障の方法、社会保険による方法の仕組み、社会保険と民間保険の異なり、憲法第25条で定められた「健康で文化的な生活」の詳細などについて理解する。	
3	社会保障の機能：社会保障の最低生活保障機能、リスク分散機能、所得再配分機能、経済安定機能、社会統合・政治安定機能を明らかにする。	
4	社会保障の歴史（世界）：社会保障の形成（歴史的源流と歴史的起点）と確立（国家責任による生存権・生活権の保障、総合的な生活保障）について考察する。	
5	社会保障の歴史（日本）：戦前と戦後に分けて、日本の社会保障のあゆみについて考察する。	
6	貧困と社会保障：貧困の基本的な考え方、貧困が引き起こす問題、世界と日本の貧困の実態及び日本の生活困窮者自立支援制度と生活保護制度について明らかにする。	
7	少子化と社会保障：少子化の背景、少子化の社会影響、少子化の対策及び日本の子ども家庭福祉の仕組みなどについて明らかにする。	
8	労働と社会保障：労働法、労働保険制度（雇用保険、労働者災害補償保険）などについて理解する。	
9	年金保険（1）：年金の種類（公的年金と私的年金）、公的年金制度の概要（国民年金「基礎年金」、厚生年金）、体系及び受給などについて明らかにする。	
10	年金保険（2）：年金制度の給付の種類（老齢年金、障害年金、遺族年金）や年金制度の特徴を明らかにするとともに、年金制度の課題について考える。	
11	医療保険（1）：被保険者、保険料、保険給付などの内容を通して公的医療保険の仕組みを明らかにする。	
12	医療保険（2）：診療報酬、国民医療費、医療費の動向、公的医療保険の役割などについて理解する。	
13	介護保険（1）：介護保険導入の経緯、介護保険制度の仕組みなどを理解する。	
14	介護保険（2）：家族の規模や家族機能の変化と介護保険制度の関係を理解する。	
15	グループ発表(プレゼンテーション)	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	社会保障の基礎知識を習得できているか。	振り返りシート	30	授業内容を踏まえた理解や気づきを、自身の言葉で具体的に記述しているか。
グループ発表	10	授業内容を十分に理解できているか、グループ活動において、他の受講生と協力し、主体的に参加しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
国民生活に関する出来事について情報を収集する。（30分） 関心ある社会保障や国民生活の問題について文献などを活用して学習する。（30分）	毎回の講義後に振り返りシートに書かれた質問は次回の講義の冒頭で回答する。

受講生に望むこと	①日頃から国民生活に関するニュースに注目するようにする。 ②教室内での私語やスマートフォンの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがある。 ③教員及び他の受講生を尊重し、大学生としてふさわしい言動を心がける。	教科書・テキスト	特に使用せず、自作テキストに基づいて講義を行う。
指定図書／参考書等	指定図書なし／参考書：『はじめての社会保障：福祉を学ぶ人へ』椋野美智子・田中耕太郎　著　有斐閣2022年　ISBN-13:978-4641222021.『入門テキスト社会保障の基礎』西村淳　著 東洋経済新報社2022　ISBN-13:978-4492701546.『最新社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座7　社会保障』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編　中央法規2021	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	権利擁護を支える法制度			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	末松　良浩						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、権利擁護を支える法制度について解説する。とりわけ、ソーシャルワークと法のかかわり、法の仕組み、権利擁護の意義と支える仕組み、権利擁護と意思決定支援、権利擁護に関わる組織、団体、専門職、成年後見制度についてを中心に解説する。社会福祉士の国家試験に準じた講義を行う。 ※SDGs目標番号3関連科目	①ソーシャルワークと法のかかわりについて理解できる。 ②法の仕組みについて理解できる。 ③権利擁護の意義と支える仕組みについて理解できる。 ④権利擁護と意思決定支援について理解できる。 ⑤権利擁護活動にとって不可欠な、組織、団体、専門職について理解できる。 ⑥成年後見制度について理解できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：本授業の導入として、授業の概要、到達目標、授業計画などを解説する。	
2	ソーシャルワークと法のかかわり①（憲法）：ソーシャルワークと憲法のかかわりについて理解する。	
3	ソーシャルワークと法のかかわり②（民法）：ソーシャルワークと民法のかかわりについて理解する。	
4	ソーシャルワークと法のかかわり③（行政法）：ソーシャルワークと行政法のかかわりについて理解する。	
5	法の基礎：法の仕組みについて理解する。	
6	権利擁護の意義と支える仕組み①（権利擁護の意義、福祉サービスの適切な利用）：権利擁護の意義、福祉サービスの適切な利用について理解する。	
7	権利擁護の意義と支える仕組み②（苦情解決の仕組み、虐待・暴力防止関係法の概要、障害者差別解消法の概要）：苦情解決、虐待・暴力防止関係法、障害者差別解消法について理解する。	
8	権利擁護活動と意思決定支援①（意思決定支援とは、意思決定支援ガイドライン）：意思決定支援、意思決定支援ガイドラインについて理解する。	
9	権利擁護活動と意思決定支援②（インフォームド・コンセント、秘密・プライバシー・個人情報、権利擁護活動と社会の安全）：インフォームド・コンセント、秘密・プライバシー・個人情報などについて理解する。	
10	権利擁護に関わる組織、団体：権利擁護にとって不可欠な組織、団体について理解する。	
11	権利擁護に関わる専門職：権利擁護にとって不可欠な専門職について理解する。	
12	成年後見制度①（成年後見制度の概要、後見の概要）：成年後見制度の概要、後見の概要について理解する。	
13	成年後見制度②（保佐の概要、補助の概要、任意後見の概要）：保佐の概要、補助の概要、任意後見の概要について理解する。	
14	成年後見制度③（成年後見制度の最近の動向）：成年後見制度の最近の動向について理解する。	
15	成年後見制度④（成年後見制度利用支援事業、日常生活自立支援事業）：成年後見制度利用支援事業、日常生活自立支援事業について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小課題（小テスト）	50	毎回の授業の内容を理解できているかを評価する。	課題レポート	50	授業の到達目標の達成度を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前に各授業回の教科書の該当箇所を熟読しておく。［45分以上］ ②事後に各授業回の教科書の該当箇所を復習しておく。［45分以上］	小課題（小テスト）・課題レポートの解説をする。

受講生に望むこと	授業で扱う法制度・事例を、現実社会や地域の課題と関連づけて考えること。	教科書・テキスト	『権利擁護を支える法制度 第2版』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規、2025年、ISBN：978-4824301529
指定図書／参考書等	なし／授業中に適宜、紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	刑事司法と福祉			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	小堺　有希						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、刑事司法と福祉について理解を深める。刑事司法と福祉の関係、刑事司法の現状や課題、刑事司法をめぐるさまざまな支援対象者や主体について司法と福祉の連携・協働を中心に解説する。社会福祉士の国家試験に準じた講義を行う。 ※SDGs目標番号3、16関連科目	①刑事司法の枠組みを理解し，福祉との関係について、社会、犯罪原因論、刑罰の側面から理解できる。 ②刑事司法の現状や課題について、刑事司法、少年司法、施設内処遇、社会内処遇の側面から理解し，福祉的なニーズについて考えることができる。 ③刑事司法をめぐるさまざまな支援対象者や主体について、多様なニーズを有する犯罪行為者、犯罪被害者等支援、コミュニティの側面から理解できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：本授業の導入として、授業の概要、到達目標、授業計画などを解説する。	小堺　有希
2	社会と犯罪：犯罪の定義と測り方、犯罪統計の基本、日本の犯罪の状況、社会において犯罪という現象がどのように捉えられているのかについて理解する。	小堺　有希
3	犯罪原因論と対策：犯罪原因論の内容と変遷、その意義、犯罪原因論に基づく犯罪への対応、その限界について理解する。	小堺　有希
4	刑罰とは何か：刑罰制度の歴史、執行の形態、社会において刑罰がもつ意義について理解する。	小堺　有希
5	刑事司法：刑事手続の概要と重要な原則、犯罪の成立要件などについて理解する。	小堺　有希
6	少年司法：少年法の目的や機能、少年保護手続の流れ、少年司法制度上の処分とその適用状況について理解する。	小堺　有希
7	施設内処遇①（成人）：刑事施設における処遇のあり方、現状および課題、刑事施設における福祉専門職の業務内容とその様態、地域生活に向けた支援のあり方、対人援助職の連携のあり方について理解する。	小堺　有希
8	施設内処遇②（少年）：少年院および少年鑑別所の組織体制と処遇、少年院における矯正教育のあり方と社会復帰支援の実際について理解する。	小堺　有希
9	社会内処遇①（更生保護の理念と概要）：更生保護の意義と歴史、更生保護制度の概要、更生保護におけるソーシャルワーカーの役割・課題について理解する。	小堺　有希
10	社会内処遇②（更生保護の実際）：保護観察、仮釈放を中心とした更生保護の実際と、更生保護における関係機関のネットワークについて理解する。	小堺　有希
11	多様なニーズを有する犯罪行為者①（精神障害者を対象とした医療観察制度）：医療観察制度の概要および手続の流れ、社会復帰調整官の役割、医療観察制度にかかわる地域のソーシャルワーカーの役割について理解する。	小堺　有希
12	多様なニーズを有する犯罪行為者②（高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉）：「司法と福祉の連携」の展開、地域生活定着支援センターの役割と機能、犯罪・非行に至った高齢者・障害者の特徴などについて理解する。更生支援についての実際を知る。	小堺　有希
13	多様なニーズを有する犯罪行為者③（アディクションを抱える人と刑事司法）：アデイクションのメカニズムやその治療、回復に必要なもの、刑事司法におけるアディクション対応やソーシャルワークについて理解する。	小堺　有希
14	犯罪被害者等支援：犯罪被害者等支援に関する制度の概要、支援における考え方、支援の実際について理解する。	小堺　有希
15	コミュニティと刑事司法：刑事司法への市民参加のあり方、犯罪現象への向きあい方、対話という問題解決のあり方について理解する。	小堺　有希

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小課題（小テスト）	50	毎回の授業の内容を理解できているのかを評価する。	期末試験	50	授業の到達目標の達成度を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前に各授業回の教科書の該当箇所を熟読しておく。［45分以上］ ②事後に各授業回の教科書の該当箇所を復習しておく。［45分以上］	小課題（小テスト）・期末試験の解説をする。

受講生に望むこと	教科書を徹底して使う授業をする予定ですので、しっかりと教科書を読み込むようにしてください。	教科書・テキスト	『刑事司法と福祉 第2版』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規、2025年、ISBN：978-4824301536
指定図書／参考書等	なし／授業中に適宜、紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	図書館概論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目であり、現代における図書館の意義と役割について、その法的基盤や国民の知る権利を保障する理念を理解することをねらいとする。図書館種別にそれぞれの制度と機能について、その歴史的展開を含めて理解することを目指す。 また、一般的な教養として図書館を理解してもらうことも目指すため、司書資格取得を希望しない学生の履修を歓迎する。	①図書館の意義・役割について理解する。 ②これまでの図書館の歴史を振り返り、今日における図書館の理念の成立について理解する。 ③公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館、国立国会図書館の制度と機能を理解する。 ④図書館類縁機関，図書館関係団体について理解する。 ⑤今日の図書館の課題と今後の展望ついて主体的に考えることができる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	現代社会と図書館（1）図書館とは何か	
2	現代社会と図書館（2）図書館の種類と図書館の役割	
3	現代社会と図書館（3）司書の役割とは何か	
4	図書館の理念（1）図書館の自由	
5	図書館の理念（2）図書館員の倫理綱領	
6	図書館関係法規について	
7	公共図書館の制度と機能（1）図書館法	
8	公共図書館の制度と機能（2）公共図書館の機能	
9	公共図書館の制度と機能（3）管理運営	
10	学校図書館の制度と機能	
11	大学図書館の制度と機能	
12	専門図書館の制度と機能	
13	国立国会図書館の制度と機能	
14	図書館関係団体について・その他図書館について	
15	図書館についてまとめと復習	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	50	筆記試験（持ち込み不可）を実施する。図書館に関する基礎的な知識が身についている必要がある。	レポート課題	20	各回授業内容に合わせた小レポートの課題などを行う。授業内容に応じた記述がなされているか評価する。
授業への参加態度	30	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教科書を指定しているため、教科書を活用した予習復習を授業ごとに最低30分程度は行うこと。 図書館を日常的(できれば毎週1回以上)に活用することを心がける。また、図書館員には幅広い背景知識が求められるため、日頃から様々な領域に関心を持つことを求める。	希望に応じ試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	この科目は司書資格取得のための科目である。ただし，図書館に興味がある学生の履修も歓迎する。資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	『図書館概論　六訂版』塩見昇編著．日本図書館協会，2024．(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3;1) ISBN:978-4820424079
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	情報技術論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
本科目では現代社会で必要不可欠なツールとなっているコンピュータや情報通信機器などについて学び、道具として活用できるための基礎的知識を身につけることを目的とする。テキストを通して日常利用しているコンピュータの成り立ちや歴史、仕組みについて学ぶ。最新のトピックスを通じて、現代社会において情報通信機器がどのような役割を果たしているかを知る。また高度情報化社会の中で、情報がどのように我々に関わるのか、正しく情報を扱う上で必要となるマナーやモラルとは何かについて学習する。	情報とはなにかについて、説明することができるようになる。 電気で動くコンピュータがどのように計算処理を行っているかについて理解する。 スマートフォンを初めとするコンピュータが、どのように成長してきたかを理解する。 携帯電話ネットワークやインターネットなど、情報通信網の概要を理解する。 情報を適切に管理するための知識を身につける。

教授方法	テキストを用い、パワーポイントによる補足説明を用いて講義形式で実施する。適宜Google Classroomを用いて課題を課す。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業ガイダンス 本講義の概要を説明する。 情報とは・情報社会とICT：「情報とはなにか」「私たちとどのように関わっているのか」について社会の流れとともに学ぶ。	
2	インターネットと検索エンジン 身近なデータベースであるインターネットについて、その成り立ちと共に活用されている例について紹介する。	
3	1.1情報の概念、1.2情報の収集・整理 情報とは何か、情報収集・整理の方法について学ぶ。	
4	1.3情報加工・表現、1.4情報発信・交換と表現 情報収集・発信におけるモラル・ルール・マナーについて学ぶ。	
5	1.5情報の管理とセキュリティ 情報を扱うとき気を付けるべきセキュリティとモラルについて学ぶ。	
6	2.1問題解決の方法論とデータ 情報機器を使った問題解決に用いられている技法について学ぶ。	
7	2.2情報のディジタル表現と処理 身の回りに存在するディジタル機器がどのような方法で動いているのか学習する。	
8	2.3コンピュータのしくみ、2.4プログラミング コンピュータを構成する装置と、その中で実際の処理を行うプログラムについて学ぶ。	
9	2.5情報通信ネットワーク 当たり前のように存在して利用しているインターネットの仕組みについて学ぶ。	
10	2.6セキュリティを守る技術 安心してインターネットを利用するうえで必要になるセキュリティ技術について学ぶ。	
11	【ビデオ視聴とレポート】AIの進化 AIの現状についてビデオ視聴により学び、視聴内容に関すして意見交換した後、レポートを作成する。	
12	3.1情報伝達の多様化と社会の変化 情報伝達ツールの多様化高度化と、それに伴う社会の変化について学ぶ。	
13	3.2情報社会の進展 電気や水道と同じように重要インフラとなった情報システム発展に伴い、社会にどのような変化が起こっているか学ぶ。	
14	3.3情報社会のもたらす影響と課題 情報化社会の発展により、便利になった反面様々な問題が生じている。その影響と課題について学ぶ。	
15	3.4情報社会における個人の役割と責任 私たちは所属する社会や組織の一員として、高度に発展する情報社会の中でどのように働くべきかについて学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学期末試験	40	学習内容に基づいた試験を行う。	振り返り課題	20	Google Formsを使って課す。課題に対し、積極的に取り組んでいること
レポート課題	20	ビデオ視聴した内容に基づくレポートを課す。	授業への積極的取り組み	20	授業に対する積極的取り組みをもとに評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
次週の予告を行うので、該当するテキスト箇所を読み、疑問点をまとめておくこと。[30分] 授業終了後はレジュメとメモの整理を行うこと。[60分]	授業振り返りにより質問などを募り、翌週回答を行う。 また、授業時間外の質問も随時受け付け回答する。

受講生に望むこと	授業中は適宜メモをとり、聞き漏らさないようにしてほしい。 疑問点はそのままにしないこと。 ディスカッションにおいては積極的な関与を期待する。	教科書・テキスト	『情報基礎　ネットワーク社会における情報の活用と技術』岡田正・高橋参吉、実教出版(2019)ISBN978-4-407-34825-5
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	データベース演習			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
本科目ではリレーショナルデータベースの一つとしてMicrosoft Accessを題材にデータベースについて学ぶ。Accessを学習するにあたりExcelとの違いなどについて知り、それぞれの特徴を活かした利用ができる知識を身につける。Accessについてはテーブル作成とクエリの作成を中心に学ぶ。クエリを用いることで必要とするデータ抽出を容易にする。	データベースの一種であるリレーショナルデータベースについて学ぶ。リレーショナルデータベースを構成する以下の機能について学習する。テーブルの作成。リレーションシップ作成。クエリ作成。フォーム作成。レコード抽出。レポート作成。これらを通してMicrosoft Accessの操作方法について習熟し、最終的にデータベースの基本的な運用ができるようになることを目標とする。

教授方法	テキストを用いて演習形式で実施する
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	データベースとは何か：データベースの種類と特徴について学ぶ	
2	Accessの基礎知識：Accessの概要について学ぶ	
3	データベースの設計と作成：データベース構築の流れについて学び、新規に作成する	
4	テーブルによるデータの格納(1)：テーブルの概要について学び作成する	
5	テーブルによるデータの格納(2)：マスター作成を行う リレーションシップの作成：リレーションシップ作成を行う	
6	クエリによるデータの加工(1)：クエリについて学ぶ	
7	クエリによるデータの加工(2)：クエリについて学ぶ	
8	フォームによるデータの入力(1)：フォームについて学ぶ	
9	フォームによるデータの入力(2)：フォームについて学ぶ	
10	クエリによるデータの抽出と集計：クエリを用いた抽出と集計を行う	
11	レポートによるデータの印刷(1)：レポートについて学び印刷準備を行う	
12	レポートによるデータの印刷(2)：レポートを用い目的別印刷準備を行う	
13	便利な機能：Accessを用いるうえで知っておくとよい機能について学ぶ	
14	総合問題1：章末問題に取り組み、習熟度の確認を行う	
15	総合問題2：章末問題に取り組み、習熟度の確認を行う	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定課題	40	指定された課題の達成度をもとに評価する	練習問題・総合問題	20	章末練習問題、総合問題の完成度をもとに評価する
成果物提出	20	各章の完成ファイル完成度をもとに評価する	授業態度	20	授業に対する積極的取り組みを評価する

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
次回実施予定のテキスト箇所に目を通しておく。[30分] 授業で取り組んだ内容の復習を行う。[30分]	授業開始前、または終了後に質問を受け付ける。

受講生に望むこと	Accessは、リレーショナルデータベースの基本が理解できると他にも応用できるので、概念の理解が進むよう積極的に取り組んでいただききたい。	教科書・テキスト	『よくわかる Microsoft Access 2019 基礎』FOM出版(2019)ISBN978-4-86510-386-1
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	とくになし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	プログラミング入門			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目ではプログラミングの入門課程としてExcel VBAを用いた学習を行なう。はじめに始めにプログラムとは何かについて学習する。次にアルゴリズムを考え、物事の手順を可視化する方法について学ぶ。Excel VBAプログラミングの基本を学ぶことにより。簡単なマクロを作成しプログラムの構造を理解するところから始め、マクロの基本的な使い方について理解する。この科目で身につけた知識を深めることにより、最終的にVBAを用いた業務処理の効率化ができるようになることを目指す。	1. アルゴリズムの概念を理解し、説明できるようになる。 2. プログラムの手順を示す流れ図を作成できるようになる。 3. マクロを用いて簡単なプログラムを作成できるようになる。

教授方法	テキストを用いて演習形式で実施する
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	コンピュータとプログラム：プログラムとは何か、データとどう異なるのかを知り、取り扱い上の注意点について学ぶ。プログラムを考える上で必須となるアルゴリズムについて学び、プログラム実行手順を図解する。流れ図を作成できるようになる。	
2	マクロを知る：マクロとは何か、マクロを使うと何が便利なのか、マクロを使う上での注意点を知る。実行手順を記録するマクロの概要を学び、マクロを保存し、再利用できるようにする。	
3	マクロの編集：記録されたマクロを編集する。VBAを動かし、マクロがどのような構造になっていたか知る。 VBAの他にどのようなプログラミング言語が有るのか紹介する。	
4	モジュールとプロシージャ１：モジュールとプロシージャを学び、使いやすいマクロを作るための基本を身につける。オブジェクト、メソッド、プロパティが何を意味しているかについて学ぶ。	
5	モジュールとプロシージャ２：テキストに基づいてプロシージャを作成する。	
6	モジュールとプロシージャ２：テキストに基づいてプロシージャを作成する。 デバッグ：エラーが発生したときの対応と、解決手段を学ぶ。	
7	変数と制御構造１：プログラム実行において欠かせない変数、データ型、演算子について学ぶ。	
8	変数と制御構造２：プログラム実行において欠かせない変数、データ型、演算子について学んだ内容を元にプロシージャを作成する。	
9	変数と制御構造３：条件分岐とくり返し処理について学ぶ。	
10	変数と制御構造４：条件分岐とくり返し処理について学んだ内容を元にプロシージャを作成する。	
11	自動化処理プログラム作成１：販売管理プログラムを例に、自動化処理について学ぶ。対話形式処理を行う方法について学習する。	
12	自動化処理プログラム作成２：販売管理プログラムを例に、印刷処理について学ぶ。	
13	自動化処理プログラム作成３：販売管理プログラムを例に、アプリケーションを完成させる。	
14	単位認定章末問題実施１：指定の課題に沿ったマクロを作成し完成させる。	
15	単位認定章末問題実施２：指定の課題に沿ったマクロを作成し完成させる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
フローチャート課題	20	指定された課題の達成度をもとに評価する	練習問題・総合問題	40	章末練習問題、総合問題の完成度をもとに評価する
成果物提出	20	各章の完成ファイル完成度をもとに評価する	授業態度	20	授業に対する積極的取り組みを評価する

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
次回実施予定のテキスト箇所に目を通しておく。[30分] 授業で取り組んだ内容の復習を行う。[30分]	授業開始前、または終了後に質問を受け付ける。

受講生に望むこと	マクロやVBAの使い方をマスターすると、頻繁に行う操作をすばやく処理することができるため、効率的に業務をこなしたい人は積極的に履修してほしい。	教科書・テキスト	『よくわかるExcel マクロ/VBA office2021/2019/2016/microsoft365対応』FOM出版(2023)ISBN978-4-86775-030-8
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	Excel関数の使い方について参照することがあるので、「情報機器演習」で使用したテキストを準備しておくことが望ましい。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	臨床心理学概論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	植田　峰悠						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
臨床心理学は心理学の様々な知見を対人援助に用いることを目的とした、応用的な分野の一つである。その内容は多岐にわたるため、本講義では対象、査定方法、心理療法のモデル、心理療法の理論、心理療法の技法、心理師（心理士）が活躍する現場に焦点を当てて学習する。 臨床心理学では人を理解することが重要であるため、技法や検査を体験することで自己や他者の特徴について理解を深める機会と、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて人とのコミュニケーションの取り方について考える機会を設ける。	1)臨床心理学の成り立ちを説明できるようになること。 2)臨床心理学の代表的な理論を説明できるようになること。 3)臨床心理学の対象を説明できるようになること。 4)心理アセスメントを説明できるようになること。 5)臨床心理学の技法を説明できるようになること。 6)公認心理師が活躍する現場を説明できるようになること。

教授方法	講義、演習
履修条件	公認心理師、認定心理士、社会福祉士または対人援助職を目指す者、教職課程登録者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	臨床心理学の定義と歴史：臨床心理学とは何か、その定義と歴史を理解する。	
2	学校臨床心理学（不登校、いじめ、発達）：学校について臨床心理学的観点から理解する。	
3	発達障害：臨床心理学の対象のひとつである発達障害について、どのような特徴があるかを理解する。	
4	統合失調症：臨床心理学の対象のひとつである統合失調症について、どのような特徴があるかを理解する。	
5	双極性障害、抑うつ障害、不安障害：臨床心理学の対象である双極性障害、抑うつ障害、不安障害について、どのような特徴があるかを理解する。	
6	異常と正常、治療モデルと成長モデル：臨床心理学では異常と正常をどのように考えるのか、また、対象の変化をどのようなモデルに沿って考えるのかを理解する。	
7	心理査定（面接法、観察法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、面接法と観察法に焦点を当てて理解する。	
8	心理査定（投影法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも投影法に焦点を当てて理解する。	
9	心理査定（知能検査、作業検査、質問紙）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも知能検査、作業検査、質問紙に焦点を当てて理解する。	
10	心理面接（受理面接・終結、マイクロカウンセリング）：臨床心理学の面接はどのように行われるのか、面接の開始、面接の終了、面接の技法を理解する。	
11	精神分析の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである精神分析について、その歴史、精神分析理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。	
12	人間性心理学の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである人間性心理学について、その歴史、人間性心理学理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。	
13	行動療法・認知療法の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論である行動療法・認知療法について、その歴史、行動療法・認知療法の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。	
14	遊戯療法、家族療法、森田療法、内観、臨床動作法、自律訓練法：臨床心理学において頻繁に利用される様々な心理療法について理解する。	
15	心理師（心理士）が働く現場（医療、教育、福祉）：臨床心理学を対人援助に実際に利用している心理師（心理士）がどのような現場で活躍しているのかを理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の考えを記述すること。講義のメモではなく、内容から発展させた自分の考えを記述することが求められる。	講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義内容に関連する内容について、参考図書をはじめとする臨床心理学に関連する学術的な書籍や論文を読み、知識や理解を深める予習が求められる。[90分] 内容の理解や知識の定着のために復習を積極的に行うことが求められる。[30分] グループでプレゼンテーションを行う際には講義以外にも仲間と打ち合わせや発表の準備を行う必要性が生じる場合がある。[90分]	講義中に課す小レポートについては返却時に適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	公認心理師および認定心理士に関連する科目である。国家資格を目指す者に照準を合わせるため、相応の受講態度と結果が求められる。	教科書・テキスト	野島一彦・岡村達也編（2023）『公認心理師の基礎と実践③　臨床心理学概論　第２版』遠見書房 ISBN:9784866161679
指定図書／参考書等	なし/園田雅代・無藤清子（2011）『臨床心理学とは何だろうか:基本を学び、考える』新曜社　ISBN:9784788512269、岩壁茂・福島哲夫・伊藤絵美　(2013)『臨床心理学入門 ： 多様なアプローチを越境する』 有斐閣　ISBN：9784641220034	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

これまでの実務経験に基づいて、それぞれの理論や実際の支援内容がイメージしやすくなるような具体例等を適宜紹介しつつ講義を行う。

授業科目名	心理学実験Ⅰ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	植田　峰悠・菊池　義人　（代表教員　植田　峰悠）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
心理学研究を進める上で、必要とされる各種実験手法について、その基礎的知識獲得から実施までを、実習をとおして学びます。各実験後に実験レポートを作成してもらいます。	①実験計画の方法に習熟している。 ②実験器具の取り扱いを習得している。 ③実験で得られたデータの分析方法に習熟している。 ④実験レポートを的確に書くことができる。

教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後、実験について解説を行い、データの分析、レポートの作成を行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方の説明を行う。心理学実験についての基礎的な知識を説明する。	
2	面接場面における面談者と来談者の言語行動：面接場面の観察から言語行動を分析する手法の解説。	
3	ミューラー・リヤー錯視（長さの錯視）：錯視の実験実習を行う。	
4	「ミューラー・リヤー錯視（長さの錯視）」　レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	
5	P-Fスタディ：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。	
6	「P-Fスタディ」　レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	
7	触二点閾：皮膚感覚のありようを理解するための実験実習を行う。	
8	「触二点閾」　レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	
9	SD法：SD法の実験の実習を行う。	
10	「SD法」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	
11	鏡映描写：鏡に映された図形を見ながら、その図形を描くという課題に取り組む。	
12	「鏡映描写」　レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	
13	パーソナル・スペース：パーソナル・スペースの心理的効果についての実験の実習を行う。	
14	「パーソナル・スペース」　レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	
15	実験を含む、心理学の研究法について振り返る	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実験レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う。レポートとして重要な点は授業内に提示する。	授業参加態度	10	実験とデータ処理に取り組む姿勢等の参加態度をみる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①多様な種目が用意されているので、種目ごとに自分でその分野のテキストや先行研究を当たり、知識を深める。［90分］ ②各実験とも、実験レポートを作成し、次回の授業の時に提出する。［90分］ ③添削されたレポートによって復習する。［30分］	提出された実験レポートを添削した上で返却する。

受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが、実験実習であるため、すべての回に出席・参加することが原則となる。また、授業時以外に自分で調べ、レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので、授業への積極的な態度が求められる。他の講義や自習により統計学について十分修得しておくこと。	教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』　西口利文・松浦均（編）　ナカニシヤ出版　2008年　ISBN 978-4-77-950237-8
指定図書／参考書等	なし/『実践心理データ解析―問題の発想・データ処理・論文の作成―改訂版』　田中敏　新曜社　2006年　ISBN 978-4-78-851012-8　その他種目ごとに適宜授業内にて提示することがある。	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する。 授業計画は学生の理解状況に合わせて柔軟に対応する。

実務経験を活かした授業の概要

それぞれの実験課題が公認心理師としての職務にどのように活かされるのかについて、実務経験に基づいて適宜解説を加える。

授業科目名	心理学実験Ⅱ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊・菊池　義人　（代表教員　齊藤　英俊）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本実習は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。「心理学実験Ⅰ」に引き続き、心理学研究を進めるうえで必要とされる実験手法と実験計画の方法を、実習を通して学ぶ。本実習は、基礎的なものからやや応用的なものまで多様な手法を含んだ実習内容となっている。実験の枠組みの理解とともに実験器具の取り扱いの習得も目指す。	①実験計画の方法を理解する。 ②実験器具の取り扱いを習得する。 ③実験で得られたデータの分析方法を習得する。 ④実験レポートの書き方に習熟する。

教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後、実験について解説を行い、データの分析、レポートの作成を行う。
履修条件	心理学実験Ⅰの履修済みが望ましい（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方の説明を行う。心理学実験についての基礎的な知識を確認する。	全員
2	一対比較法：一対比較法の実験の実習を行う。	全員
3	「一対比較法」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	全員
4	単語記憶の再生：単語の記憶と系列位置効果に関する実験の実習を行う。	全員
5	「単語記憶の再生」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	全員
6	Y-G性格検査：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。	全員
7	「Y-G性格検査」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	全員
8	自己制御：自己制御の実験の実習を行うことで、実験操作の考え方について理解する。	全員
9	「自己制御」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	全員
10	顔面フィードバック：表情からの顔面フィードバックプロセスに関する実験の実習を行う。	全員
11	「顔面フィードバック」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、仮説の立て方、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	全員
12	社会的態度：社会的態度を測定するための手法を用いた実験の実習を行う。	全員
13	「社会的態度」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	全員
14	ストループ効果：ストループ効果のありようを理解するための実験の実習を行う。	全員
15	「ストループ効果」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う（計 7 本）。レポートとして重要な点は授業内に提示する。	実習への参加度	10	実験を行うにあたって担当者の指示を理解し、着実に実行されているかをみる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①種目ごとにテキストや配布されたプリントをよく読み、実験内容の理解を深める。［45分］ ②各実験種目のレポートを作成する。［120分］ ③各種目で適用された分析方法を復習する。［30分］ ④返却されたレポートを見直し、修正する。［30分］	各種目についてのレポートは、添削終了後返却し、コメントを行う。

受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが、実験実習であるため全ての回に出席・参加することが原則となる。また、授業時以外に自分で調べ、レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので、授業への積極的な参加態度が求められる。	教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』　西口利文・松浦均（編）　ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4779502378
指定図書／参考書等	なし／種目ごとに適宜授業内に提示する。	その他・特記事項	

実務経験を活かした授業の概要

心のメカニズムについて、実践的な興味を持って実験によって確かめることができるように、実務経験を活かした指導を行う。

授業科目名	心理学研究法			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	菊池　義人						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、心理学を学ぶ体系に位置づけられる。心理学は、目には見えない「心」を扱う学問分野である。そのような「心」を科学的に理解するためには、適切な方法論が必要不可欠である。本科目では、直接観察できない心のはたらきに科学的にアプローチするための心理学の方法論を概説する。そのうえで、受講生には実際に研究計画の立案に取り組んでもらう。	①心理学における実証的研究法、具体的には実験法と観察法を中心とした量的・質的研究の基礎知識を習得する。 ②データを用いた実証的な思考方法を身につける。 ③研究倫理を理解し、実践することができる。

教授方法	講義を中心に実習を取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：「心理学研究法」を学ぶ意義について考える。	
2	科学と実証：実証するとはどういうことか、因果関係と相関関係の違いを学ぶ。	
3	実証の２つの手続き：実験法と観察法のそれぞれの特徴や違いを概観する。	
4	実験法（１）：実験法の基本的な考え方について学ぶ。	
5	実験法（２）：原因をどのように作り出すか、独立変数の操作を学ぶ。	
6	実験法（３）：結果をどのように取り出すか、従属変数の測定を学ぶ。	
7	実験法（４）：原因を見誤らないために、剰余変数の統制を学ぶ。	
8	実験法（５）：質問紙実験やフィールド実験など、様々な実験法を学ぶ。	
9	中間テストとその解説：第１～８回の内容の理解度を問うテストを実施するとともに、前半の内容を振り返る。	
10	観察法（１）：観察法の基本的な考えについて学ぶ。	
11	観察法（２）：観察による心理学的研究を行う際の留意点について学ぶ。	
12	研究倫理：心理学研究に特有の倫理問題を学び、心理学研究に必要な倫理的配慮を理解する。	
13	研究計画の立て方　研究計画を実際に立てる際の手法と留意点について学ぶ。	
14	研究計画の実際（１）：具体的に研究計画を考える実践にとりくみ、これまでに学んだ内容を振り返る。	
15	研究計画の実際（２）：具体的な研究計画をまとめる実践をおこない、これまでに学んだ内容を振り返る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	40	第14～15回で立てた研究計画をレポートにまとめて提出を求める。レポートに授業で学んだ内容が反映されているかを評価する。	中間テスト	40	講義の中間段階で、学んだ内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。
提出物	20	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書（各回の授業内容に該当する箇所）をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。[60分/回] ③その他：学術雑誌に掲載されているような心理学の研究論文を、授業内容と照らし合わせながら１本以上読む。[期間を通して合計38時間]	各授業回の提出物については、必要に応じて次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	自分の興味ある事がらを研究として調べるためには、研究法を正しく理解する必要がある。研究のためには何をする必要があるのか、何をしてはいけないのかを考えながら講義に臨んでほしい。	教科書・テキスト	『心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし　第3版』高野陽太郎・岡隆 編　有斐閣　2025年　ISBN 978-4-641-222588。その他、適宜資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし/授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	シラバスの内容を話すが、さらにわかりやすく講義するために、そして公認心理師等の実務や研究にもつなげられるように順番を変えたり、補足して話していくことがある。また、統計などの歴史的な背景に関する話題なども盛り込んで話していく予定である。

実務経験を活かした授業の概要

心のメカニズムについて、実践的な興味を持って実験によって確かめることができるように、実務経験を活かした指導を行う。

授業科目名	心理的アセスメント			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	植田　峰悠						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
心理アセスメントの理論、方法、倫理について学ぶ。実際に心理検査（知能検査・質問紙法・投影法等）を体験しながら、実施方法、結果の分析、解釈などアセスメントの実施方法について学習し、得られた検査結果から具体的な支援計画を作成する方法までを修得する。 アセスメントを通して状態を把握する力を身につけ、支援計画を作成するスキルも高めていく機会とする。	1)心理的アセスメントの目的と倫理を説明できるようになること。 2)心理的アセスメントの観点と展開を説明できるようになること。 3)心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）を説明できるようになること。 4)心理測定の信頼性と妥当性を説明できるようになること。 5)心理検査を実施、採点、解釈できるようになること。 6)心理アセスメントの適切な記録と報告をできるようになること。

教授方法	講義、演習
履修条件	公認心理師または認定心理士を目指し、かつ統計法および心理学研究法に習熟した者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	心理アセスメントとは何か：心理アセスメントの目的、方法（面接、観察、検査）、倫理	
2	心理測定の基礎、データの尺度水準、分布、代表値、正規分布と確率、標準得点	
3	心理測定の信頼性と妥当性	
4	心理アセスメントと統計解析	
5	質問紙検査、STAIの理論と実施、解釈と所見作成（適切な記録と報告）	
6	性格検査、TEGの理論と実施	
7	性格検査、TEGの解釈と所見作成（適切な記録と報告）	
8	描画法、投映法、バウムテストの理論と実施	
9	描画法、投映法、バウムテストの解釈と所見作成（適切な記録と報告）	
10	知能検査、WAIS-Ⅳの理念と概要	
11	知能検査、WAIS-Ⅳの実施（言語理解・知覚推理）	
12	知能検査、WAIS-Ⅳの実施（ワーキングメモリー・処理速度）	
13	知能検査、WAIS-Ⅳ（結果の解釈）	
14	知能検査、WAIS-Ⅳ（所見作成）	
15	総括、心理アセスメントの観点および展開	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	30	講義中の演習や課題に従事すること、仲間と協力すること	課題と発表	30	出された課題を行うこと、小レポートを作成すること、必要に応じて発表すること
期末レポート	40	レポートを書式通りに作成し、期日を守り提出すること			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
心理アセスメントの演習を行うために、心理検査の実施方法を予習して修得すること。[120分] 心理アセスメントの所見を宿題として作成すること。[120分]	講義中に課す小レポートについては次回授業時に適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	公認心理師および認定心理士に関連する科目である。国家資格を目指す者に照準を合わせるため、負担の大きい科目であることを理解し履修すること。	教科書・テキスト	『心理アセスメント　心理検査のミニマム・エッセンス　心の専門家養成講座③』松本真理子・森田美弥子（編）　ナカニシヤ出版　2018年　ISBN-13:9784779511158
指定図書／参考書等	なし/『心理検査の実施の初歩　心理学基礎演習5』　願興寺礼子・吉住隆弘（編）　ナカニシヤ出版　2011年　ISBN-13:9784779503870、『心理テスト―理論と実践の架け橋―』　ホーガン、T．P．(著)繁桝算男・椎名久美子・石垣琢麿（共訳）　培風館　2010年　ISBN-13:978-4563052041	その他・特記事項	心理アセスメントの演習は他者とペアあるいはグループを作り実施する。予習を行わない場合は他者に迷惑をかけることになるため、大きな減点になる。 授業の進行は学生の受講状況に合わせて柔軟に対応する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	発達心理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー・認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
人間がどのような発達過程をたどるかを理解することは、保育や教育に携わるうえで重要な視点である。本講義では、発達心理学の具体的成果をもとに、乳幼児期から青年期を中心に、人間の心理的発達のしくみについて学ぶ。	①発達心理学の諸理論に関する基礎知識を答えられる。 ②生涯における心身の発達について答えられる。 ③各年齢期において達成されるべき発達課題を答えられる。 ④発達心理学の知見を踏まえ、乳幼児期から青年期の子どもに対する基本的な関わりについて考察できる。

教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問なのか。発達心理学を学ぶ意義を理解する。	
2	「発達」を考える①：人の発達において、各発達段階で達成しておくことが望まれる「発達課題」について理解する。また、発達課題と教育との関連について考える。	
3	「発達」を考える②：「発達を決めるのは遺伝か環境か」、「年をとるのは衰退か成熟か」などの疑問をもとに、人の「発達」について考える。	
4	胎児期～乳児期①：お腹のなかにいる赤ちゃんに意識はあるのだろうか。生後間もない赤ちゃんはただ泣いているだけだろうか。胎児や新生児の発達と有能さについて理解する。	
5	胎児期～乳児期②：赤ちゃんはどのように外界と関わっているか。乳児期の情動、認知、言語の発達について考える。	
6	胎児期～乳児期③：対人関係の基盤となるものは何か。情緒的な絆である「愛着（アタッチメント）」について考える。	
7	幼児期①：「ぼく・わたし」はいつ成立するか。子どもの言語発達や自己概念の成立について考える。	
8	幼児期②：なぜ子どもにとって「遊び」は重要なのか。「象徴機能」や社会性の発達を通して考える。	
9	幼児期③：子どもはどのように「賢く」なっていくか。幼児期における認知発達について考える。	
10	児童期①：子どもの対人関係はどう変わっていくか。友人関係の展開を中心に、学童期の子どもが抱えやすい問題について考える。	
11	児童期②：物事の善し悪しや思いやりはどのように育つか。学童期の子どもの「道徳性」や「向社会性」の発達について考える。	
12	児童期③：子どもはどのように物事を捉え、思考していくのだろうか。児童期の認知発達について考える。	
13	青年期：青年期における身体と心の変化、周囲との関係の変化について考える。また、「自分らしさ」とは何だろうか。青年期の重要な発達課題とされる「自我同一性（アイデンティティ）」について考える。	
14	成人期・老年期：家庭を持ち親になることの意味、老いや病がもたらすもの、死を目前にした人間について考える。	
15	「発達障害」の理解と対応：発達障害は親のしつけや本人の性格が原因ではない。では、発達障害とは何だろうか。発達障害など非定型発達の基礎的な知識や考え方について理解し、適切な関わりを考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	20	講義内容に対する意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	ブックレポート	20	発達心理学に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。
定期試験	60	発達心理学の諸理論、発達課題、子どもに対する適切な関わりなど、授業で取り上げる内容の知識が獲得されていることが評価基準となる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、発達心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] ③発達心理学の下位領域・関連領域である「乳幼児心理学」「児童心理学」「青年心理学」「発達障害」などの参考書を用いて、知識を深める。[60分]	①毎回の授業レポートについては、次回授業時に内容に関する振り返りを行う。 ②定期試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応する。

受講生に望むこと	授業の内容が今後の自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的に受講することを望む。	教科書・テキスト	坂上裕子・山口智子・林 創・中間玲子（2024）．『問いからはじめる発達心理学　改訂版』 有斐閣　ISBN: 978-4641151291
指定図書／参考書等	なし／本郷一夫・飯島典子編（2019）．『保育の心理学』　建帛社　ISBN：978-4767950914、若尾良徳・岡部康成（2010）．『発達心理学で読み解く保育エピソード』　北樹出版　ISBN：978-4779302510、岡本祐子・深瀬裕子編（2013）．『エピソードでつかむ生涯発達心理学』　ミネルヴァ書房　ISBN: 978-4623065318、伊藤亜矢子編（2011）．『エピソードでつかむ児童心理学』　ミネルヴァ書房　ISBN:978-4623058259	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。

授業科目名	教育心理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				

授業の概要	授業の到達目標
教育心理学における主要な領域（発達、学習、評価、集団・適応）について講義する。本講義では、教育活動について心理学の視点から理解を深め、効果的な学びを促すにはどうすればよいかについて考える。	①子どもの心身の発達過程を答えられる。 ②心理的発達の特徴を踏まえた上で、学習過程で生じる心理的メカニズムについて答えられる。 ③主体的な学習を支える集団づくりと集団への適応に関して正しい知識を答えられる。 ④教育活動の評価の意義および役割を答えられる。

教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：教育心理学は、どのような学問なのか。教育心理学の主な領域である「発達」「学習」「評価」「集団・適応」の概要と、教育心理学の研究法を理解する。	
2	発達と教育「発達における教育の役割」：ピアジェやヴィゴツキーの発達理論を通して発達における教育の役割を考える。	
3	学習①「学習理論①」：学びはどのようにして生じるか。条件づけ理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。	
4	学習②「学習理論②」：学びはどのようにして生じるか。学習に関する様々な理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。	
5	学習③「学習と教授理論」：どのような教え方が効果的だろうか。さまざまな教授理論を比較しながら各教授法の特徴を考える。	
6	学習④「動機づけ」：やる気はどこから生じるか。動機づけに関する研究を通して、学ぶ意欲について考える。	
7	学習⑤「記憶」：学びの基礎になる記憶の理論を学ぶ。記憶に関する研究成果を紹介し、学習においてどのように活用できるか考える。	
8	学習⑥「学習指導と個人差」：すべての子どもに同じ教え方でよいだろうか。教授方法と個人差との関係を通して、学習指導について考える。	
9	評価①「パーソナリティ」：パーソナリティ（性格）とは何だろうか。パーソナリティに関する様々な理論を学び、パーソナリティを理解することについて考える。	
10	評価②「知能」：知能とは何だろうか、どのように測定できるだろうか。知能に関する様々な理論と測定方法を学び、「知能が高い（低い）」とはどのようなことか考える。	
11	評価③「教育評価」：教育評価とは何か、誰が誰の何を評価するのだろうか。教育評価の意義を理解し、教育における評価の役割を考える。	
12	集団・適応①「学級集団」：学級は単なる個人の集まりだろうか。集団心理や成員間の相互作用などを通して、学級集団について考える。	
13	集団・適応②「不登校・いじめ」：不登校やいじめの問題を通して、学校や学級集団への適応を考える。	
14	集団・適応③「発達障害・精神障害」：発達障害や精神障害を抱えた子どもの学校や学級集団への適応を考える。	
15	集団・適応④「学校カウンセリング」：学校や家庭において、子どもの心の問題にどのように取り組んでいくことができるだろうか。学校現場での心理支援活動について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	20	講義内容に対する感想や意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	ブックレポート	20	教育心理学に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。
定期試験	60	教育心理学の主要な内容（発達、学習、評価、集団・適応）に関する基礎知識が獲得されていることが評価基準となる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、教育心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分]	①各回の授業レポートについては、次回の授業時に内容に関する振り返りを行う。 ②定期試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応する。

受講生に望むこと	授業の内容が自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的な受講態度を望む。	教科書・テキスト	服部環・外山美樹編（2022）．『スタンダード教育心理学　第2版』　サイエンス社　ISBN: 978-4781915340
指定図書／参考書等	なし/石津憲一郎 ・下田芳幸 ・ 横田晋務（2022）．『教育・学校心理学』 サイエンス社　ISBN: 978-4781915272、大村彰道編（1996）．『教育心理学Ⅰ』　東京大学出版会　ISBN: 978-4130520720、下山晴彦編（1998）．『教育心理学Ⅱ』　東京大学出版会　ISBN: 978-4130520744、藤田哲也編（2021）．『絶対役立つ教育心理学　第2版』ミネルヴァ書房　ISBN :978-4623091638 、尾高邦生 ・橋本創一 他編（2025）．『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育　第2版』　福村出版　ISBN: 978-4571121500	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例（いじめや不登校など）をもとに、子どもへの関わり方や解決策について検討する時間を設けている。

授業科目名	人格心理学（感情・人格心理学A）			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
人間の心理や行動には個人差が存在する。そのような個人差が生まれるメカニズムに関連しているものの1つとして人格（＝性格、パーソナリティ）があげられる。本講義では、心理学の知見を通して人格を捉えるための多様な観点を概観し、人間理解に向けた１つの基本的知識・視点を身につけることを目指す。	①人格を理解するための諸理論を説明できる。 ②人格を測定する方法と、測定における問題点を答えられる。 ③人格の形成過程について説明できる。 ④人格心理学の科学的知見をもとに、人間のパーソナリティについて幅広い視野から考えることができる。

教授方法	講義を中心に性格検査などワークを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：人格（性格、パーソナリティ）とは何か。人の内面の特徴とされるパーソナリティとはどのようなものか概説する。	
2	類型論：人格をとらえる視点の一つである「類型論」をとりあげ、性格をタイプに分けることの利点と欠点について考える。	
3	精神分析的人格論①：フロイトの精神分析的人格論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。	
4	精神分析的人格論②：ユングのパーソナリティ論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。	
5	特性論①　その考え方：人格をとらえる視点の一つである「特性論」をとりあげ、人をいくつかの特性からとらえることの利点と欠点を考える。	
6	特性論②　Big Five：パーソナリティは5つの主要な性格因子で構成されるとする「Big Fiveモデル」を学ぶ。	
7	状況論：状況要因や環境要因を重視した「状況論」について学び、人格における状況の影響について考える。	
8	相互作用論：人－状況論争を経て誕生した「相互作用論」をとりあげ、近年の性格研究の動向について学ぶ。	
9	物語論：物語論（ナラティヴ）の視点から人格について考える。	
10	人格の測定と研究法：人格はどのように測定することができるか考える。方法論（質問紙法、投影法、観察法、面接法）を理解し、研究方法について学ぶ。	
11	人格の発達①：一度つくられた人格が変わることはあるか、また人格の成熟とは何かについて考える。	
12	人格の発達②：遺伝や家庭をはじめとする環境が、どの程度、人格の形成に影響しているかを考える。	
13	人間関係と人格：「対人魅力」に関する研究成果をもとに、相手に好かれる性格とはどういったものかについて考える。	
14	文化と人格：東洋と西洋、日本と米国など、異なった文化環境は人格の形成にどういった影響を及ぼしうるかについて考える。	
15	人格の病理：人格における病理にはどのようなものがあるか、またそれらへの対応や治療について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	30	講義内容に対する意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	課題レポート	20	授業内容をもとに、課題テーマについて自らの意見や考察が行われているかどうかを評価基準とする。
定期試験	50	「人格心理学」の基礎知識が獲得されている。 「人格心理学」のテーマについて、実証的研究の知見を踏まえて論理的考察がされている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスを読み、授業内容について参考書などで予習をしておくこと。[30分] ②授業の後に各回の講義内容について、関連図書などを用いて復習しておくこと。[40分] ③普段自分が、自分の性格や他人の性格をどのようにとらえているのか意識して生活してみること。 ④授業内で習った理論に基づいて、自分の性格や他人の性格を分析してみること。	①授業レポートについては、次回授業時に振り返りの時間をもつ。 ②課題レポートや定期試験については、希望者に授業内や次学期に内容に関してコメントなど対応する。

受講生に望むこと	性格は身近なものであり、講義内容と自分の性格など自分自身とを結びつけながら受講してほしい。	教科書・テキスト	適宜プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし/詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊（2003）．『性格心理学への招待　改訂版』 サイエンス社　ISBN:978-4781910444、榎本博明・安藤寿康・堀毛一也（2009）．『パーソナリティ心理学』　有斐閣　ISBN:978-4641123779、鈴木公啓編（2012）．『パーソナリティ心理学概論』　ナカニシヤ出版　ISBN:978-4779506383	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会・集団・家族心理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	菊池　義人						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、心理学を学ぶ体系に位置づけられる。人は人との関わりの中で、互いに影響を与え合って生きている。本科目では、こうした「社会的存在」としての人間を理解することを目的に、社会心理学の代表的な理論を概説する。人間の行動を個人と状況との相互作用の産物として捉える社会心理学の視点を身に着けることで、身近な出来事や社会現象を科学的に理解できるようになると期待される。	①社会心理学の基礎知識を習得する。 ②対人関係ならびに集団における人の意識および行動についての心の過程を理解できる。 ③人の態度および行動との関わりを理解できる。 ④家族、集団、文化が個人に及ぼす影響を理解できる。

教授方法	講義を中心に、一部ワークを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：社会心理学とは何か、この科目を学ぶ意義を考える。	
2	対人認知：人の印象がどのように作られるのかを学習し、その印象に基づく他者への理解は正確であるかを考える。	
3	社会的推論：人は物事の原因をどのように推論し、その際どのような間違いを起こしやすいのかを理解する。	
4	態度：態度がどのように決定されるかを学び、人には認知的一貫性を求める基本的性質があることを理解する。	
5	説得：人に命令されるとやりたくなくなるのはなぜか？　説得と態度変容のプロセスを理解する。	
6	社会的自己：他者との関わりのなかで揺れ動く自己について理解する。	
7	対人行動：なぜ人は助け合い傷つけ合うのか、援助行動や攻撃行動のしくみを理解する。	
8	対人関係（１）：関係の成立から、発展、維持、崩壊まで、対人関係のしくみを理解する。	
9	対人関係（２）：家族に焦点を絞り、その特徴や機能について理解する。	
10	コミュニケーション：非言語的コミュニケーションを学び，心地よいコミュニケーションのあり方を考える。	
11	集団と個人（１）：他者の存在が個人にどのような影響を及ぼすのかを理解する。	
12	集団と個人（２）：多くの社会問題や迷惑行為に共通する「社会的ジレンマ」を理解する。	
13	健康と幸福：幸福や健康を支える人間関係を理解するとともに、SNS利用が健康や幸福に及ぼす影響を考える。	
14	文化と人間：文化的自己観を紹介し、心と文化には相互構成的な関係があることを理解する。	
15	まとめ：講義全体の総括を行い、社会的環境を生きる社会的存在としての自分自身を振り返る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート：対人関係・集団・家族関係の難しい問題の考察。	60	テーマの選び方やレポートの形式等は講義内で周知する。	提出物	40	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書（各回の授業内容に該当する箇所）をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。また、授業内容を自身の経験や社会問題、社会現象などと照らし合わせながら、ノートにまとめるなどして理解を深める。[60分/回] ③その他，日ごろから新聞やテレビなどの報道に触れ，社会で起こっている出来事に関心をもつ。授業テーマと関連する本を１冊以上読む。[期間を通して合計38時間]	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	社会は心に影響を及ぼし、そうして影響を受けた心もまた社会に影響を及ぼしていく。こうした心と社会との相互構成的な関係を念頭におき、授業内容と日常生活との接点を見つけ、自分と社会との関わりについて興味・関心を広げてほしい。	教科書・テキスト	『グラフィック社会心理学 第3版』池上知子・遠藤由美 著　サイエンス社　2024年　ISBN：978-4-7819-1610-1。その他、適宜資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし/講義の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	シラバスの内容を話すが、さらにわかりやすく講義するために、対人関係や集団の葛藤、裏切り、傷つき、支配、争いなどの現象，また家族関係で虐待や暴力などが起こるメカニズムについても、いろいろな例を挙げて解説する。また、人々の和解、調和、均衡、協力などに向けた変化が起こるメカニズムやそのための支援の方法についても心理療法・家族療法等の例を挙げながら解説する。

実務経験を活かした授業の概要

実務経験に基づき、対人関係や集団の葛藤、裏切り、傷つき、支配、争いなどの現象，また家族関係で虐待や暴力などが起こるメカニズムについて例を挙げて解説する。また、人々の和解、調和、均衡、協力などに向けた変化が起こるメカニズムやそのための支援の方法についても心理療法・家族療法等の例を挙げながら解説する。

授業科目名	産業・組織心理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	中村 准子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、社会学科の「心理と社会」科目であり、心理学を学ぶ体系に位置づけられる。産業・組織心理学は、企業や公的機関など、組織で働く人の心のはたらきと行動を明らかにする学問である。AIの活用やテレワークの導入など働く現場は変化を続け、多様な働き方が求められる今、そこに生きる人間を理解することはこれからますます重要となる。本科目では、産業・組織心理学の代表的な理論を紹介する。 ※SDGs目標番号8関連科目	①産業・組織心理学の基礎知識を習得する。 ②組織における人の行動を、心理学の視点から理解できる。 ③職場やキャリア形成に関する問題と必要な支援を理解できる。

教授方法	講義を中心に、一部ワークを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：産業・組織心理学とは何か、この科目を学ぶ意義を考える。	
2	人的資源管理：「雇用」「能力開発」「人事評価」など、働く人の個性や能力を活かす仕組みを理解する。	
3	ワーク・モチベーション：職場における「やる気」はどのように作られ、どのように維持されるのかを理解する。	
4	職場集団のダイナミクス（1）：職場集団の特性について理解する。	
5	職場集団のダイナミクス（2）：チームワークの意義を理解し、優れたチームワークに必要な条件を考える。	
6	職場のコミュニケーション（1）：職場に特有のコミュニケーションの性質や機能を理解し、効果的なコミュニケーションについて考える。	
7	職場のコミュニケーション（2）：集団での意思決定が必要な場面における、人の心の働きを理解する。	
8	職場の人間関係：職場の人間関係の特徴と、そこで生じる対人的葛藤について理解する。	
9	リーダーシップ：代表的なリーダーシップ理論を学習し、優れたリーダーシップのあり方について考える。	
10	消費者行動：消費者がモノやサービスを購入利用するプロセスの特徴を理解する。	
11	職場のメンタルヘルス（1）：　ストレスに関する基本的な概念を学習したうえで、働く人に特有のストレスを理解する。	
12	職場のメンタルヘルス（2）：　ストレスと上手に付き合っていく方法や対処について、個人と組織の双方の視点から理解する。	
13	作業管理・安全管理：仕事の能率や生産性に関わる「作業管理」と、労働災害や産業事故の防止対策に関わる「安全管理」について、理論と実践方法を紹介する。	
14	キャリア発達：キャリア発達に関する主要な理論を学習し、自身が歩んできた道を振り返る。	
15	まとめ：講義全体の振り返りとともに、将来へ向けて、主体的に歩む自身のキャリアを考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	40	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書（各回の授業内容に該当する箇所）をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。また、授業内容を自身の経験や社会問題、社会現象などと照らし合わせながら、ノートにまとめるなどして理解を深める。[60分/回] ③その他、日ごろから新聞やテレビなどの報道に触れ、社会で起こっている出来事に関心をもつ。授業テーマと関連する本を1冊以上読む。[期間を通して合計38時間]	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	産業・組織心理学は、組織で働く人を研究対象としているが、大学生にとっても、アルバイトやサークルといった組織での体験と関連づけて理解することが可能である。授業内容と日常生活との間に接点を見つけ、本科目で学んだ内容を、自身の就職活動やキャリアプランニングに活かしてほしい。	教科書・テキスト	各講義で配布する資料をテキストとする。
指定図書／参考書等	なし/授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	体験を通して学び深めることを目的に、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

企業での就業・管理職経験および企業との共同研究・学術指導の経験を活かし、現代の働く人を取り巻く環境や組織課題に関する具体的事例や実務的視点を授業に取り入れる。

授業科目名	知覚・認知心理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	菊池　義人						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、心理学を学ぶ体系に位置づけられる。知覚・認知心理学は、人が自分自身や自分をとりまく環境について、どのように知覚し処理しているのかを探る学問である。知覚・認知心理学の代表的な理論を学ぶことにより、「人間とはどのような生き物であるか」を知るための、はじめの1歩となることが期待される。	①知覚心理学および認知心理学の基礎知識を習得する。 ②人の感覚・知覚のメカニズムとその障害について理解できる。 ③人の認知・思考のメカニズムとその障害について理解できる。

教授方法	講義を中心に、一部ワークを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：知覚心理学、認知心理学とは何を明らかにする学問なのか、この科目を学ぶ意義を考える。	
2	感覚の基礎：人はどのように周囲の環境から情報を取り入れているのか、感覚の種類と構造について学ぶ。	
3	知覚の基礎：閾や順応など、知覚の基本的特性について学ぶ。	
4	視覚：視覚の基本的なはたらき、運動知覚、奥行き知覚、幾何学的錯視などについて学ぶ。	
5	聴覚：聴覚の基本的なはたらき、音源定位、知覚的補完などについて学ぶ。	
6	様々な感覚：体性感覚や自己受容感覚について、基本的なはたらきを学ぶ。	
7	対象認知：人の知覚、認知の対象は様々であり、物体や顔、絵画、さらには時間まで、様々な対象の知覚、認知を学ぶ。	
8	感覚・知覚の障害：視覚障害、聴覚障害など知覚における障害を学ぶ。	
9	認知の基本特性：情報処理システムとしての人間像を学び、その処理の二方向性を理解する。	
10	記憶（1）：基本的な記憶のメカニズムや知識の構造について学ぶ。	
11	記憶（2）：日常生活の中で経験する出来事の記憶に焦点を絞り、人の記憶が正確であるかを考える。	
12	注意：注意の特徴や種類、注意のはたらきや基本的なしくみについて学ぶ。	
13	思考：推論の特徴、確率判断の特徴やその影響について学ぶ。	
14	認知・思考の障害：認知や思考の障害にはどのようなものがあるのか、神経心理学の知見から学習する。	
15	まとめ：講義全体を振り返るとともに、授業内容と日常生活との接点を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	40	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：各回の事前配布資料をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。また、授業内容を自身の経験と照らし合わせながら、ノートにまとめるなどして理解を深める。[60分/回] ③授業テーマと関連する本を1冊以上読む。[期間を通して合計38時間]	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	知覚・認知心理学が扱う内容は、日ごろの生活では意識されずに「当たり前」に行われる心のはたらきである。この「当たり前」がなぜ、どのように成立するのか、本当に「当たり前」なのか、それが成立しなくなるとどうなるのかを意識しながら、講義に臨んでほしい。	教科書・テキスト	使用しない。資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし/授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	感覚・知覚・認知・思考・注意・意識・記憶など人間の情報処理過程についてシラバスに基づいて話していくが、わかりやすくするために、研究の歴史的な視点の変化にあわせて、順番を変えたり、具体例を盛り込んで講義する予定である。特に、この領域でトピックスとなっている認知思考のバイアスや障害については十分に焦点を当てて解説する。

実務経験を活かした授業の概要

感覚・知覚・認知・思考・注意・意識・記憶など人間の情報処理過程について、研究の歴史的な視点の変化にあわせ、具体例を盛り込んで講義する。特に、この領域でトピックスとなっている認知思考のバイアスや障害については実務経験も生かして十分に焦点を当てて解説する。

授業科目名	感情心理学（感情・人格心理学Ｂ）			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	菊池　義人						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。感情とは日常から私たちの生活を彩るものであり、誰しもが経験するものである。その一方で、それがどのようなものであるのかということはなかなかとらえ難いものである。心理学という科学の視点からそれがいかに捉えられるか。また、感情には疾患と診断される部分もあり、その機序と支援の方法を含め、「感情」について全体的に理解することを目指す。	①感情に関する理論及び感情喚起の機序について説明できる。 ②感情が行動に及ぼす影響について説明できる。 ③幸福感や対人不安などの個別の感情についてどのような研究があり、どのようなメカニズムで経験されるかを理解できる。 ④感情の病理について理解し、どのような支援を行うことができるかを考えられる。

教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　感情心理学とは何を明らかにしようとする学問なのか、この科目を学ぶ意義を考える。	松尾
2	感情とは何か　感情の基礎的な事項を説明し、感情の役割や機能について考える。	松尾
3	感情の理論　感情が生じる仕組みについて、古典的理論を中心に説明する。	松尾
4	感情の生物学的基礎　感情の生物学的基盤である脳と身体について、基礎的な神経生理学的理論を紹介する。	松尾
5	感情がもたらす影響　感情が認知や行動に及ぼす影響を説明する。また、行動経済学の知見を紹介し、人々の生活における理性と感情の役割を考える。	松尾
6	社会を支える感情　人間関係や集団の機能の維持に関わる感情について、進化心理学の視点を交えて説明する。	松尾
7	健康を支える感情　心身の健康を増進させる感情のはたらきを説明する。また、幸福感や畏怖などポジティブ感情の研究を紹介する。	松尾
8	感情の調整　感情が生じる仕組みについて現在主流の２つの理論を説明し、感情とうまく付き合っていくにはどうしたら良いかを考える。	松尾
9	感情の発達　感情について発達の観点から考える。	齊藤
10	精神疾患に関連する感情①　不安：不安感情が行動に与える影響や不安に関連する精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。	齊藤
11	精神疾患に関連する感情②　抑うつ：抑うつ感情が行動に与える影響や抑うつに関連する精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。	齊藤
12	精神疾患に関連する感情③　恐怖：恐怖感情が行動に与える影響や恐怖感情と精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。	齊藤
13	感情の病理への心理的アプローチ①　精神分析的心理療法：精神分析の視点から感情の病理のメカニズムや心理的支援について考える。	齊藤
14	感情の病理への心理的アプローチ②　フォーカシングの視点から感情の病理のメカニズムやその理論について理解を深める。	齊藤
15	感情の病理への心理的アプローチ③　エモーション・フォーカスト・セラピーなどの近年の感情の病理への心理的アプローチの視点から感情の病理のメカニズムやその理論について理解を深める。	齊藤

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	講義の理解がどの程度できているかで評価を行う。	小レポート	40	講義ごとに学んだことや印象に残ったことを簡単に振り返るリアクション・振り返りシートをつけて提出する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義の際に配布される資料や紹介された文献を読んで、予習復習を行う。［45分］ ②講義で学んだ内容を自分自身や他者の作品（小説、映画、漫画など）にあてはめて具体的に理解する。［30分］	各回での振り返り・リアクションシートの内容について、授業内でフィードバックを行う。

受講生に望むこと	「授業の概要」でも述べたように、日常経験するものでありながら、科学的・理論的に理解しようとするとそこには困難が多いのが「感情」である。自分自身のみの視点だけでなく、広い視野でとらえられるように励んでもらいたい。	教科書・テキスト	『感情心理学　感情研究の基礎とその展開』今田純雄・中村真・古満伊里　著　培風館　2018年　ISBN：4-563-05877-7。その他、適宜資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／講義の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	シラバスの内容を話すが、わかりやすく講義するために、歴史的な研究の系譜やエピソードや事例研究などを盛り込んで話す予定である。感情の障害については精神病理学の歴史と障害の機序、さらに心理的な支援の方法にもつなげながら解説していく。

実務経験を活かした授業の概要

実務経験を活かしながら歴史的な研究の系譜やエピソードや事例研究などを盛り込んで話し、感情の障害については精神病理学の歴史と障害の機序、さらに心理的な支援の方法にもつなげながら解説していく。

授業科目名	障害者・障害児心理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
各障害について、その概要や心理・行動特性、および基本的な支援に係る心理的側面を正しく理解する。また、同一障害であってもその特性は共通する部分と個人差がある部分があり、さらに社会環境・生活環境や発達、ライフサイクルと影響し合っているところがあるということを理解する。加えて、現代の様々な障害について、その原因・頻度・治療・リハビリテーションに関わる基本的知識や利用できる社会資源について概観し、障害および障害者・児に対する理解、および心理支援に係る多職種連携について理解を深める。	1．身体障害、知的障害、精神障害、および発達障害などに関する基本的な特性を説明できる。 2．障害者・障害児を取り巻く心理社会的課題と必要な支援について説明できる。 3．障害者・障害児の心理支援に係る多職種連携について説明できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション／障害とは何か？：国際社会における障害概念の捉えられ方とその変遷について理解する。	
2	身体障害者・児の心理と支援（1）：視覚障害、言語聴覚障害の概念、心理的特性と支援について理解する。	
3	身体障害者・児の心理と支援（2）：肢体不自由、運動障害、内部障害の概念、心理的特性と支援について理解する。	
4	知的障害者・児の心理と支援：知的障害の定義と判定基準、アセスメントの方法、心理的特性と支援について理解する。	
5	精神障害者・児の心理と支援（1）：統合失調症、気分障害・うつ病関連の障害、依存症、精神病性障害など主要な精神障害の概念、心理的特性と支援について理解する。	
6	精神障害者・児の心理と支援（2）：子どもの精神疾患、情緒障害、発達プロセスでみられる行動障害に関する特性、支援ついて理解する。	
7	発達障害者・児の心理と支援（1）：発達障害の概念、診断基準の変遷を概観し、自閉スペクトラム症の基本的な概念と心理的特性、支援について理解する。	
8	発達障害者・児の心理と支援（2）：注意欠如・多動性障害、局限性学習障害の基本的な概念と心理的特性、支援について理解する。	
9	健康障害・病弱者・児の心理と支援：代表的疾患等の概念、および健康障害・病弱児の心理的特性と支援について理解する。	
10	重度・重複障害者・児の心理と支援：発達との関係・影響、コミュニケーションの方法、心理的支援について理解する。	
11	障害の受容・受けとめ：障害受容・受けとめのプロセスにおける反応と、それに応じた心理的支援について理解する。	
12	障害者・児の社会生活と心理（1）：障害者・児の保護者、家族・きょうだい児への支援のあり方、ペアレントトレーニングについて理解する。	
13	障害者・児の社会生活と心理（2）：療育、特別支援教育における障害者・児の心理特性と課題、支援について理解する。	
14	障害者・児の社会生活と心理（3）：就労、福祉施設、地域生活における障害者・児の心理特性と課題、支援について理解する。	
15	障害者・児支援のこれから：コミュニティ支援、障害者・児を取り巻く環境へのアプローチとこれからの支援について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
確認テスト・レポート	60	授業内容の理解、レポート評価基準（別途説明）	授業参加状況	40	リアクションペーパー、提出物、受講態度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回取り扱うテーマ（障害など）について、自身の日常的な経験をもとに自分なりの考えを持つ。また、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行う。［30分程度］	リアクションペーパーで質問などがあった場合、必要に応じて個別にフィードバック、または全体に共有する。課題やテスト内容、評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	本授業では障害に関する基本的な知識とともに心理的支援の視点、方法について理解し、身につけることを目的としています。とくに社会学部で学ぶみなさんには、心理・行動特性だけでなく障害を取り巻く社会の実態や諸問題も積極的に意識し、考えるよう期待します。	教科書・テキスト	テキストは指定せずに講義毎に資料を配布します。
指定図書／参考書等	なし／ 『障害者心理学』太田信夫（監修）北大路書房，2017年，ISBN-978-4-7628-2984-0 『公認心理士スタンダードテキストシリーズ13　障害者・障害児心理学』本郷一夫・大伴　潔（編著）ミネルヴァ書房，2022年，ISBN-978-4-623-08623-8	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	心理学的支援法			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	菊池　義人						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
「代表的な心理療法の基礎知識」のみならず、「コミュニケーションの技法」、「訪問・地域支援」、「プライバシーへの配慮」、「支援者への支援」、「心の健康教育」等の心理学的支援にまつわる様々なトピックについて、事例に基づくディスカッションやロールプレイ等を交えながら体験的に学習する。	様々な心理学的支援の技法に触れることで学派にとらわれない心理学的支援法の理解を深めること、体験的な学習を通じて心理学的支援の在り方を自ら考え、クライエントやクライエントを支える周囲の人々にとってより適切な支援の方法を考えられるようになることを目標とする。

教授方法	講義形式で行う。必要に応じてペアワーク・グループディスカッションなどを通じた体験的な学習、ビデオ視聴も行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	心理学的支援とは？：心理学的支援の概念とあり方について概観し、全体像を理解する。	
2	カウンセリング：カウンセリングの基本的な概念、カウンセリングマインド、カウンセリングのプロセス、カウンセリングに伴う問題について理解する。	
3	コミュニケーションの技法：良好な人間関係を築き信頼関係を醸成するための関わりを学ぶ。	
4	精神分析的心理療法：精神分析の基礎的な考え方および治療同盟・転移／逆転移・治療抵抗など心理療法の重要な概念について理解する。	
5	行動療法・行動分析：行動療法の成り立ちと理論、現代の行動療法的アプローチについて理解する。	
6	認知療法・認知行動療法：認知療法の考え方、認知行動療法の現在について理解する。	
7	パーソンセンタードアプローチ：様々な人間性心理学的アプローチの技法とその考え方について理解する。	
8	集団精神療法：集団精神療法をはじめとしたグループアプローチの技法とその考え方について理解する。	
9	家族療法：システムズアプローチの考え方と治療プロセスについて理解する。	
10	芸術療法・遊戯療法：芸術を利用した表現技法やプレイセラピーについて体験を通じて理解する。	
11	訪問による支援や地域支援：コミュニティアプローチ、アウトリーチの考え方について理解する。	
12	関係者への支援：援助者への援助の方法とコンサルテーションの在り方について理解する。	
13	心の健康教育：ストレスマネジメントや予防教育について、その実践例の体験を通じて理解する。	
14	プライバシーへの配慮：心理学的支援に伴うプライバシーの問題と倫理的配慮のあり方について理解する。	
15	心理学的支援の包括的視点：様々な支援法を概観し、問題に対してエビデンスに基づく包括的な視点をもってアプローチすることの重要性について振り返る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	60	期末レポートのテーマや出題形式、配点等については、授業内で周知する。	振り返りシート	40	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内でペア・グループワーク等を実施した場合には、各種心理学的支援に関して自らがどのように感じたか、あるいはどのような場合に効用が発揮されるかを振り返って考えながら授業に臨むこと。その他、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。［30分程度］	振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。 期末レポートは次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするとともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。

受講生に望むこと	実際にカウンセリングや心理療法で用いる技法を学ぶ実践的な授業であるため、ペアワークやグループワークがある場合は積極的に参加するとともに、授業内での質問や発言を求める。	教科書・テキスト	教科書は特に定めず、教員が作成した資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／講義内で伝達する。『心理療法ハンドブック』乾吉佑・氏原寛・亀口憲治他（編）創元社，2005年，ISBN-13：978-4422113265など	その他・特記事項	シラバスの内容を話していくが、わかりやすく講義するために、サイコセラピーの原理などについて，その技法開発の歴史や系譜に沿って、また有名な事例研究など，具体例を織りまぜながら解説していく。そうすることで、解決すべきクライエントや地域の問題に対して柔軟に技法を選択し、介入・支援できる力を身に着けるようにする。

実務経験を活かした授業の概要

実務経験や研究実績に基づいて、サイコセラピーの原理などについて、その技法開発の歴史や系譜に沿って、また有名な事例研究など具体例を織りまぜながら解説する。そうすることで、解決すべきクライエントや地域の問題に対して柔軟に技法を選択し、介入・支援できる力を身に着けるようにする。

授業科目名	学校心理学（教育・学校心理学）			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	宇根本　聡						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
教育現場における現在の諸問題について理解し、子どもが学習面、心理・教育面、健康面などのおける課題への取り組みを、予防の視点も取り入れながら、そのプロセスで出会う問題状況を、チーム学校でアセスメントし、さまざまな職種、関係機関等と連携し、対応することを支える理論や考え方を具体的場面を示しながら解説する。 ※SDGs目標番号3、4、5、10、16関連科目	①教育現場において生じる心理教育的問題とその背景について説明できる。 ②教育現場における心理教育的課題とその支援について説明できる。

教授方法	講義を中心に、ワークやディスカッションを取り入れる。
履修条件	公認心理師または認定心理士を目指す者が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：教育・学校心理学を概観し、現在の実際の教育現場でのさまざまな課題について知る	
2	学校、学級等の就学のしくみについて知る。学校スタッフについて知る。	
3	子どもをめぐる課題①　いじめ　1回目：いじめの実情やとりまく法律について理解する。	
4	子どもをめぐる課題①　いじめ　2回目：　いじめの予防、介入・支援について理解する。	
5	学校心理学を支える要素（学校組織と教育制度、教育関連法規等）について理解する。	
6	発達障害という概念と代表的な発達障害について理解する。	
7	子どもをめぐる課題②　不登校：現代の不登校の実情とその支援について理解する。	
8	心理学的基盤①：学校心理学に関わる教育心理学、発達心理学について理解する。	
9	心理学的基盤②：学校心理学に関わる臨床心理学について理解する。	
10	アセスメント：生徒指導提要を理解し、アセスメントについて理解する。	
11	カウンセリング：学校におけるカウンセリングについて理解する。	
12	コーディネーション：コンサルテーション・コーディネーション（連携）について理解する。家庭をめぐる課題（虐待、DV,ヤングケアラー）の概要を知る。	
13	予防教育：生徒指導提要を理解し、心理教育、予防教育について理解する。	
14	子どもをめぐる課題③　メディア：ゲーム依存、インターネット依存について理解する。	
15	チーム学校や連携機関について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	40	学習内容の理解の程度を評価する。	提出物	40	授業中指示の提出物、ワークシートにより評価する。
授業への参加態度	20	授業中の質疑（ワークシートによる質疑）等での参加の程度により評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：事前に伝えた教科書の範囲を読んで、おおよその理解をしておく（30分／回）。 事後学習：授業で配布した資料等を活用し、授業内容を復習する（60分/回）。	随時行う。

受講生に望むこと	自身のこれまでの学校生活を振り返りながら、理解を深めてほしい。一方で近年の学校の抱える諸課題を意識し、積極的に参加してほしい。	教科書・テキスト	教育・学校心理学（公認心理師スタンダードテキストシリーズ18）下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫　監修　小野瀬雅人　編著　ミネルヴァ書房　　2021年出版　ISBN 978-4623086283
指定図書／参考書等	なし／「叱らない」が子どもを苦しめる　薮下遊・高坂康雅　著　ちくまプリマー新書　筑摩書房　2024年　ISBN　978-4480684745	その他・特記事項	この授業は、毎回PCを持参する必要がある。

実務経験を活かした授業の概要

スクールカウンセラーや発達相談センター相談員としての経験を教材として取り上げ、ディスカッションを通じて、学生の学びを深めていく。

授業科目名	心理演習			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	自由
担当教員名	齊藤　英俊・植田　峰悠 （代表教員　齊藤　英俊）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
心理面接の流れ、構造、理論、技法、アセスメント、法的義務、倫理について学習する。これまでに学習した心理学の講義内容を基にさらに理解を深め、演習を通じて技術を修得する。	1)心理面接の流れ、構造、理論、技法、アセスメント、法的義務、倫理を説明できること。 2)心理面接に必要な技術を修得すること。

教授方法	演習、講義。
履修条件	次の4科目全てについて「B以上」の単位を修得している者に限る。4科目は心理学実験Ⅰ，心理学実験Ⅱ，心理学研究法， 心理的アセスメントである。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：心理職における心理面接の役割	全員
2	心理面接の特徴（治療構造など他の面接との共通点や相違点）	全員
3	心理面接の開始（初回面接、受理面接）と終了（終結、中断など）	全員
4	アセスメントと心理検査	全員
5	基本的な傾聴スキル	全員
6	心理面接の基礎（マイクロカウンセリング）	全員
7	精神分析的心理療法における心理面接	全員
8	精神分析的心理療法の心理面接のプロセス	全員
9	クライアント中心療法の心理面接	全員
10	フォーカシング指向心理療法の心理面接	全員
11	行動療法の心理面接	全員
12	認知行動療法における心理面接	全員
13	その他の心理療法の心理面接	全員
14	多職種連携および地域連携	全員
15	心理面接の効果と課題	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート	30	講義において小レポートを課す。講義内容を踏まえ、自己の意見を論理的に記述すること。	講義参加態度	30	グループワークやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	講義内にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
与えられたテーマについて予習すること。[60分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[60分] 学んだ内容を修得するよう練習すること。[60分]	小レポートは次回授業時にフィードバックする。期末レポートについては、次学期始めに適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	公認心理師を目指す上で心理実習と同等の重要性を持つ科目である。努力の量ではなく結果を求められることを理解したうえで履修すること。	教科書・テキスト	講義開始時に適当なテキストが出版されている場合は、テキストを指定する可能性がある。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	・履修者数に制限のある科目である。心理学教員が合議の上、履修を認めた者のみ受講できる。学業成績と生活態度が優れ、かつ適性のある者のみ履修が認められる。 ・Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

齊藤：心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して心理面接の演習を行う。
植田：これまでの実務経験をふまえ、特に臨床を行う上で重要な視点については多側面から繰り返し取り上げつつ、授業で取り上げた内容がどのように臨床現場で活かされるのか具体的にイメージできるよう演習を行う。

授業科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要

授業を通して、ソーシャルワークの概念、範囲、形成過程、理念について学び、ソーシャルワーク・相談援助にかかる専門職としての役割、意義を理解する。また、ソーシャルワーク・相談援助専門職としての専門性と倫理を学ぶとともに、総合的かつ包括的なソーシャルワークの全体像と理論を理解する。
社会福祉士資格に係るソーシャルワーク実習、および国家試験受験を意識した専門的な内容を展開する。

授業の到達目標

1．社会福祉士の法的な位置付けについて理解し、説明できるようにする。
2．ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解し、説明できるようにする。
3．ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解し、説明できるようにする。
4．社会福祉士の職域と求められる役割について理解し、説明できるようにする。
5．ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解し、説明できるようにする。
6．ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解し、説明できるようにする。
7．総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解し、説明できるようにする。

教授方法	講義
履修条件	「現代社会と福祉Ⅰ」、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」の単位修得済みの者、または同時履修の者。加えて、「現代社会と福祉Ⅱ」の同時履修が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士の法的な位置付け：社会福祉士及び介護福祉士法、共生社会の実現に向けて活躍が期待されるソーシャルワーク専門職である国家資格の位置付け	
2	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士の法的な位置付け：社会福祉士の専門性、社会福祉士に求められるコンピテンシー、これからの社会福祉士に求められる能力	
3	ソーシャルワークの概念：ソーシャルワークの定義、ソーシャルワークの構成要素、任務や原理、ソーシャルワークの基盤となる知と実践	
4	ソーシャルワークの基盤となる考え方：ソーシャルワークの原理、ソーシャルワークの理念、現代社会状況との関係、ソーシャルワークの必要性	
5	ソーシャルワークの形成過程：ソーシャルワークの源流と基礎確立期、ソーシャルワークの発展期、ソーシャルワークの萌芽となった諸活動	
6	ソーシャルワークの形成過程：ソーシャルワークの展開期と統合化、日本におけるソーシャルワークの形成過程、救済から社会事業への展開、戦後のソーシャルワークの導入、国家資格化	
7	ソーシャルワークの倫理：専門職倫理の概念、倫理綱領、専門職倫理綱領の必要性、その意義や構成要素と機能・活用の仕方、倫理的ジレンマ	
8	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲：ソーシャルワーク専門職の概念と範囲、ソーシャルワーカーが専門職であるために必要な条件	
9	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲：社会福祉士の職域と役割、社会福祉士が働く職域の広がり	
10	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲：多様な組織・機関・団体における専門職、ソーシャルワークを担うさまざまな職種や職場、諸外国の動向	
11	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象、三つのレベルの相互関係	
12	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開、ソーシャルワークグローバル定義に基づいた実践	
13	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容：総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点、ジェネラリストの意味と視点	
14	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容：ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容、さまざまな人や組織との連携・協働	
15	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容：多職種連携およびチームアプローチの意義と内容	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内容の理解・提出物・授業への参加状況	50	毎回の小テスト（持ち込み不可）、確認テスト、提出物（ミニレポート、ワークシートなど）、受講態度	確認テスト	50	授業内容の理解（持ち込み不可）

授業外における学習（事前・事後学習等）

1．社会のなかで起こっている福祉に関する事象・問題について関心を持つ。
2．相談援助の基盤となる人間関係についてさまざまな機会をとおして学ぶ。
3．社会問題に関する新聞記事を読み、自分なりに考察し、まとめる。
［1～3の全体で30分以上］

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

確認テスト等は、結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	社会のなかで発生しているさまざま社会福祉の問題に関心をもち、なぜそのような事象が起こるのか、その問題の解決にはどのような方法があるのか、自分なりに問題意識をもちながら授業に臨んでください。 授業、および毎回の小テストと確認テスト（全て持ち込み不可）は、社会福祉士資格に係るソーシャルワーク実習と国家試験受験を意識した専門的な内容です。	教科書・テキスト	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、最新社会福祉士養成講座11『ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』中央法規出版、2021. ISBN978-4-8058-8241-2
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義内で配布します。	その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配布、説明します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
ソーシャルワーク専門職にとって必要な知識・技術に関する全体像を理解する。ソーシャルワークの構造、機能、展開過程を理解し、専門職として求められる基本的な理論と方法の習得を目指して授業を進める。 関連科目の内容を意識しつつ、社会福祉士資格に係るソーシャルワーク実習、および社会福祉士国家試験を意識した内容を展開する。	1．ソーシャルワークに関する基本的な知識と技術を理解し、説明できるようにする。 2．ソーシャルワーク専門職の役割と意義を理解し、説明できるようにする。 3．人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解し、説明できるようにする。 4．ソーシャルワークの過程と、係る知識と技術、および様々な実践モデルとアプローチについて理解し、説明できるようにする。 5．ソーシャルワーク実習に必要な基礎的内容を理解、習得する。

教授方法	講義
履修条件	「ソーシャルワークの基盤と専門職」の単位修得済みの者、または同時履修の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク：ソーシャルワーカーが学ぶ理論、ソーシャルワークの共通基盤、固有の視点	
2	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク：システム理論、生態学理論、バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、各理論・モデルの基本的な考え方と内容の理解	
3	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク：ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、ソーシャルワークの目標と展開過程、生活課題が「人と環境との交互作用」により生じることの理解	
4	ソーシャルワークの過程：ケースの発見、援助までのプロセス、エンゲージメント（インテーク）の意味と役割、クライエントとの関係構築の留意点	
5	ソーシャルワークの過程：アセスメントの意義と目的、アセスメントの方法、アセスメントの留意点、「生活者」や「生活」への接近の方法、アセスメントを支える理論・方法・構成要素、マッピング技法	
6	ソーシャルワークの過程：プランニングの意義と目的、ソーシャルワークにおけるプランニング	
7	ソーシャルワークの過程：プランニングのプロセスと方法、目的・目標・計画内容の設定、プランニングにおける留意点、倫理的な実践、包括的な支援のための連携・協働	
8	ソーシャルワークの過程：支援の実施、モニタリング、効果測定、モニタリングから再アセスメントまでの流れ、シングルシステムデザイン	
9	ソーシャルワークの過程：支援の終結と結果評価、ソーシャルワーカーとクライエント双方で行うことの意味、結果評価の意義・視点・方法、アフターケア、再支援を行う重要性	
10	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方、視点、モデル、アプローチ等の意味	
11	ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ：治療モデル、ストレングスモデル、生活モデル（ライフモデル）、実践モデル・アプローチの特徴と歴史的な概要、モデル・アプローチによる違い	
12	ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ：心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、実践モデル・アプローチの特徴と歴史的な概要、モデル・アプローチによる違い	
13	ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ：課題中心アプローチ、行動変容アプローチ、認知アプローチ、実践モデル・アプローチの特徴と歴史的な概要、モデル・アプローチによる違い	
14	ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ：危機介入アプローチ、エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ、実践モデル・アプローチの特徴と歴史的な概要、モデル・アプローチによる違い	
15	ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ：解決志向アプローチ、さまざまなアプローチ、実践モデル・アプローチの特徴と歴史的な概要、モデル・アプローチによる違い	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内容の理解・提出物・授業への参加状況	50	毎回の小テスト（持ち込み不可）、確認テスト、提出物（ミニレポート、ワークシートなど）、受講態度	確認テスト	50	授業内容の理解（持ち込み不可）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎回の授業後に、自身で振り返り、疑問点や不明な点を調べる。 2．社会の事象に関心を持ち、とくに福祉領域の特徴、問題等をまとめる。 3．社会福祉士の国家試験と関連したポイントを整理する。［1～3で30分以上］	確認テスト等は、毎回内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。	教科書・テキスト	ソーシャルワーク教育学校連盟編、最新社会福祉士養成講座12『ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規出版、2021. ISBN978-4-8058-8242-9
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義内で配布します。	その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配布、説明します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
ソーシャルワークの展開過程において必要な知識、技術について、その意義、目的、留意点を理解する。また、ソーシャルワーク専門職に必要な面接技術、記録の技術を学ぶ。加えて、ケアマネジメント（ケースマネジメント）方法、グループの活用、コミュニティワーク、スーパービジョンの意義について理解する。 関連科目の学びを意識しつつ、社会福祉士資格に係るソーシャルワーク実習、および国家試験を意識した内容を展開する。	1．ソーシャルワーク・相談援助にかかる基本的な面接技術を理解し、援助過程において活用できるようにする。 2．ソーシャルワーク・相談援助にかかる基本的な記録の技術を理解し、援助過程において活用できるようにする。 3．ケアマネジメント（ケースマネジメント）の意義と方法について理解し、説明できるようにする。 4．コミュニティワークの概念とその展開について理解し、説明できるようにする。。 5．ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解し、説明できるようにする。

教授方法	講義
履修条件	「ソーシャルワークの基盤と専門職」、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」の単位修得済みの者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ソーシャルワークの面接：面接の意義と目的、日常会話と面接の特徴と違い、ソーシャルワークにおける面接の意義、目的	
2	ソーシャルワークの面接：面接の方法と実際、ソーシャルワーク面接における形態や手段、場所の多様性、面接の基本的留意点、具体的な面接技法	
3	ソーシャルワークの記録：記録の意義と目的、記録の内容、専門職の記録に求められる倫理的責任	
4	ソーシャルワークの記録：記録のフォーマット、根拠のある記録の書き方	
5	ケアマネジメント（ケースマネジメント）：ケアマネジメント（ケースマネジメント）の歴史、ケアマネジメント（ケースマネジメント）の原則	
6	ケアマネジメント（ケースマネジメント）：ケアマネジメント（ケースマネジメント）の意義と方法、モデルとプロセス	
7	グループを活用した支援：グループワークの意義と目的、グループワークの展開過程、ジェネラリスト実践を意識したグループワーク、グループの発達段階に応じた介入	
8	グループを活用した支援：グループワークとセルフヘルプグループ、セルフヘルプグループへの向き合い方	
9	コミュニティワーク：コミュニティワークの意義と目的、住民が主体となる地域福祉活動の意義、コミュニティワークの展開、コミュニティワークの各技法の特徴、評価の視点・方法	
10	コミュニティワーク：コミュニティワークの理論的系譜とモデル、コミュニティワークの歴史、各モデルが必要とされた社会的背景	
11	ソーシャルアドミニストレーション：ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義、組織介入・組織改善の実践モデル、ピラミッド組織・フラット組織・ティール組織	
12	ソーシャルアドミニストレーション：組織運営における財源の確保、種類、ファンドレイジングの手法	
13	ソーシャルアクション：ソーシャルアクションの概念とその意義、事例を通じたソーシャルアクションの基本	
14	ソーシャルアクション：コミュニティ・オーガナイジング、コミュニティ・オーガナイジングの実例、展開過程	
15	スーパービジョンとコンサルテーション：スーパービジョンの意義・目的・方法・関係・形態・実施、コンサルテーションの意義・目的・方法、コンサルテーションとスーパービジョン	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内容の理解・提出物・授業への参加状況	50	毎回の小テスト（持ち込み不可）、確認テスト、提出物（ミニレポート、ワークシートなど）、受講態度	確認テスト	50	授業内容の理解（持ち込み不可）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎回、テキスト・資料等で授業を振り返り、学びを定着させる。[30分以上] 2．社会の事象に関心を持ち、福祉領域との関係を意識する、まとめる。 3．福祉現場への理解を深めるため可能な範囲で施設・機関への見学、ボランティアに参加する。	確認テスト等は、毎回内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	1．相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2．現代社会において社会福祉のニーズは多様化し、範囲も広がっています。他の科目との関係や関連するニュースには関心を持つようにしてください。	教科書・テキスト	ソーシャルワーク教育学校連盟編、最新社会福祉士養成講座12『ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規出版、2021. ISBN978-4-8058-8242-9 ※前期「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」と同じもの
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義内で配布します。	その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配布、説明します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。ソーシャルワーカーがクライエントや連携・協働を図る人との間で結ぶ援助関係の形成について学ぶ。そのため、ニーズの掘り起こしを行う知識と技術について理解し、援助関係を土台とした関係者・関係機関とのネットワークを構築していく方法等を学ぶ。	①ソーシャルワークにおける援助関係の形成について理解する。 ②ネットワークの形成について理解する。 ③ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際について理解する。

教授方法	講義、ワークシートによる課題等
履修条件	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得済みの者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際：総合的かつ包括的な支援の考え方（多様化・複雑化した生活課題への対応）	
2	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際：総合的かつ包括的な支援の考え方（今日的な地域福祉課題への対応、分野・領域を横断する支援）	
3	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際：家族支援の実際（家族が抱える複合的な生活課題）	
4	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際：家族支援の実際（家族支援の目的、方法、留意点）	
5	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際：地域支援の実際（地域が抱える課題、多機関協働）	
6	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際：地域支援の実際（地域住民との協働、地域アセスメント）	
7	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際：非常時や災害支援の実際（非常時や災害時の生活課題）	
8	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際：非常時や災害支援の実際（非常時や災害時における支援の目的、方法、留意点）	
9	ソーシャルワークにおける援助関係の形成：援助関係形成の意義と概念（ソーシャルワークの対象と援助関係等）	
10	ソーシャルワークにおける援助関係の形成：援助関係形成の意義と概念（クライエントシステムならびにソーシャルワークの実践レベルと援助関係等）	
11	ソーシャルワークにおける援助関係の形成：援助関係の形成方法と留意点（倫理綱領を踏まえた援助関係の形成方法と留意点、自己覚知と他者理解等）	
12	ソーシャルワークにおける援助関係の形成：援助関係の形成方法と留意点（対人関係の理論や方法から導かれる援助関係の形成方法等）	
13	ネットワークの形成：ネットワーキング（ネットワークとは何か、社会福祉分野におけるネットワーク等）	
14	ネットワークの形成：ネットワーキング（ネットワークの機能、ネットワーク構築のプロセスと手法等）	
15	ネットワークの形成：コーディネーション（コーディネーションの意義、目的、方法、留意点等） まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	80	授業内容についての理解度	授業参加状況	20	ワークシート等の提出物の記載内容（授業内容の理解度、考察や気づきの内容）や授業中の発言内容

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回、テキストを読んで予習・復習をする。（それぞれ30分以上） ②テキストで理解が難しい用語について、社会福祉に関する書籍や辞典等で調べる。 ③ソーシャルワーク演習や実習などの科目と関連づけて学ぶ。 ④国家試験を意識した専門的内容を理解する。	毎回の授業で用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の授業等でフィードバックを行う。

受講生に望むこと	受け身ではなく、能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んでほしい。	教科書・テキスト	『ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編　中央法規出版　2021　ISBN：978-4-8058-8249-8
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

ネットワークやカンファレンス等のソシャルワークの理論と方法について、毎年実施している施設職員向けの各種研修会の経験をもとに具体的なテーマを設定し、ディスカッションを取り入れている。

授業科目名	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。個別の事例の具体的な解決及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。	①ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発について理解する。 ②ソーシャルワークに関連する方法について理解する。 ③カンファレンスについて理解する。 ④事例分析について理解する。

教授方法	講義、ワークシートによる課題等
履修条件	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の単位を修得済みの者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発:社会資源の活用・調整	
2	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発:ソーシャルワーク実践と社会資源	
3	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発:社会資源開発のさまざまな方法	
4	カンファレンス:会議の種類と方法	
5	カンファレンス:ミクロ・メゾ・マクロの会議①	
6	カンファレンス:ミクロ・メゾ・マクロの会議②	
7	事例分析、事例検討、事例研究:事例分析	
8	事例分析、事例検討、事例研究:事例検討	
9	事例分析、事例検討、事例研究:事例研究	
10	ソーシャルワークに関連する技法:ネゴシエーション	
11	ソーシャルワークに関連する技法:コンフリクト・レゾリューション	
12	ソーシャルワークに関連する技法:ファシリテーション	
13	ソーシャルワークに関連する技法:プレゼンテーション	
14	ソーシャルワークに関連する技法:ソーシャル・マーケティング	
15	まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	80	授業内容についての理解度	授業参加状況	20	ワークシート等の提出物の記載内容（授業内容の理解度、考察や気づきの内容）や授業中の発言内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回、テキストを読んで予習・復習をする。（それぞれ30分以上） ②テキストで理解が難しい用語について、社会福祉に関する書籍や辞典等で調べる。 ③ソーシャルワーク演習や実習などの科目と関連づけて学ぶ。 ④国家試験を意識した専門的内容を理解する。	毎回の授業で用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の授業等でフィードバックを行う。

受講生に望むこと	受け身ではなく、能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んで欲しい。	教科書・テキスト	ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編　中央法規出版　2021　ISBN：978-4-8058-8249-8
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

社会資源の活用・調整・開発等のソシャルワークの理論と方法について、毎年実施している施設職員向けの各種研修会の経験をもとに具体的なテーマを設定し、ディスカッションを取り入れている。

授業科目名	福祉サービスの組織と経営			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜　和昭						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
社会福祉ニーズの広がりから、サービス提供主体が多様化してきており、新たな時代における福祉経営の確立を学ぶ。運営理念の確立をはじめとする、経営の基礎理論、質の高い人材確保、労働条件の改善をはじめとする労務管理、長期的・安定的な資金調達方法、外部資金導入など財務体質強化、イコールフィッティング論、経営意識改革、福祉リスクマネジメント、福祉経営コンプライアンス・ガバナンス、労働生産性と雇用管理、マッチングシステムなどを理解する。	①福祉サービスに関わる多様な組織を類型化し、その具体的特徴について理解できる。 ②福祉サービスが制度として提供されるべき社会的な背景について、歴史的経緯と特徴を正しく理解できる。 ③社会福祉法人をはじめとする非営利法人における、経営理論・組織論を理解できる。 ④福祉サービスを提供する組織・集団の理念などについて、実践理論を踏まえて理解できる。 ⑤福祉サービスを提供する組織・集団が抱えるところの今日的課題及び将来の動向などが理解できる。

教授方法	講義を中心に展開するが、提示課題によるグループディスカッションも含む。
履修条件	特にない

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「福祉サービスの組織と経営」について授業の教育目標、学習方法などについて概要説明を行ない、サービスとしての福祉実践のあり方を理解する。	
2	福祉制度や社会市場等の考え方を基に、現代社会における福祉サービスのあり方について学ぶ。	
3	福祉制度になぜ経営理論・組織論が求められるのかを理解する。	
4	社会福祉法人制度が創設された経緯、概要を理解しその意義、果たす社会的役割と税制、理事･評議員･監事などの役員の機能について学ぶ。実施事業や組織ガバナンスを学ぶ。	
5	社会福祉法人が展開する福祉サービスの具体的内容とその課題と将来像について学ぶ。	
6	ＮＰＯ法人、医療法人、営利法人、協同組合、ボランティア団体等の提供する福祉サービスの特長と役割を学ぶ。	
7	経営学の理論や技法を基に、福祉サービス経営の概要とその特長について学ぶ。	
8	福祉サービスをはじめとする非営利法人の組織構造について学ぶ。	
9	福祉サービスの組織論を基盤にし、リスクマネジメントの必要性とその対応について学ぶ。	
10	福祉サービスの集団理論とその理解、組織内部のグループダイナミクスについて学ぶ。	
11	福祉サービスの組織運営におけるリーダーシップ理論を学び、フォロワーシップと人材育成を理解する。	
12	福祉サービスの品質管理とＰＤＣＡサイクルを学び、その具体的展開を理解する。	
13	福祉サービスの品質管理における「ＩＳＯ認証制度」等の質保証に関する基本的な知識を学ぶ。	
14	福祉サービスの品質管理における「福祉サービス第三者評価制度」の概要、質向上の仕組みを学ぶ。	
15	福祉サービス利用者の権利擁護にかかる法律、権利擁護システムの在り方とその具体的内容を学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	学習内容を正しく理解した上で、自らの態度・意見を表明することができるような、記述を中心とする筆記試験を行う。	リアクションペーパー	30	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている。自らの課題が設定されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業で学習した福祉サービスに関わる用語や概念を正しく理解し、短い文章で説明できるように復習する。[30分] ②各回の授業で学習した福祉サービスに関わる用語や概念を、社会福祉全般の中で正しく位置付ける、あるいは他の各論領域と比較することができるように理解を深めるため、書籍や論文を積極的に読み込む。[30分] ③各回の授業で学習した組織経営に関わる用語や概念を正しく理解し、短い文章で説明できるように復習する。[30分] ④各回の授業で学習した組織経営に関わる用語や概念を、社会福祉全般の中で正しく位置付ける、あるいは他の各論領域と比較することができるように理解を深めるため、書籍や論文を積極的に読み込む。[30分] ⑤各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[30分]	・各回の授業で提出されるリアクションペーパーを活用し、そこでの質問等の内容について次回講義時及びGoogle Classroomにおいて全体共有する。

受講生に望むこと	・福祉的支援は決して一面的なものではなく、多様な視点から問題を考察することが大切である。本科目の学びの中心である「マネジメント」と「福祉サービス」の関係を理解いただきたい。	教科書・テキスト	教科書は特に使用しない。毎回の講義時に配布する資料により授業を行なう。
指定図書／参考書等	なし／最新 社会福祉士養成講座１『福祉サービスの組織と経営』社会福祉士養成講座編集委員会編　中央法規出版　2021年 ISBN:978-4-8058-8244-3	その他・特記事項	・「社会福祉学」と「経営学」の関係を学ぶ講義である。特に組織の人間関係論などについて言及し、実践的講義である。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	公的扶助論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	堂田　俊樹						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
社会保障・社会福祉制度の中で「最後のセーフティ・ネット」の役割を果たすのが公的扶助（生活保護含）である。公的扶助は様々な要因によって貧困状態に陥った人々を経済給付その他により保護し、相談支援により自立助長を図る。その中心である生活保護制度を理解するため、法制度や相談支援の実践方法を学ぶと同時に、貧困が生み出される社会的要因と実態、政治・経済・社会構造の中で救貧救済制度がどのような位置を占めるのかを考える。その上で、社会保障制度における生活保護制度の役割と社会的意義について考察する。 ※SDGs目標番号1関連科目	①現代社会における公的扶助の理念と意義について理解する。 ②貧困・低所得者の動向と社会的課題について理解する。 ③生活保護制度が発展してきた歴史を学ぶこと。 ④生活保護の原理および実施原則について正しく理解すること。 ⑤生活保護の動向や課題を理解すること。 ⑥生活保護の実施と関係専門職の役割について理解する。 ⑦現在の低所得者の支援に関する社会保障制度について理解する。

教授方法	講義を中心に展開するが、提示課題によるグループディスカッションも含む。授業前に前授業のフィードバックを行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方、成績評価について。公的扶助論の概要、社会福祉士国家試験について理解する。	
2	公的扶助の意義と役割。公的扶助とは何か、国民の生活とどのように関連しているか、国民的議論になるのは何故かを理解する。	
3	公的扶助の歴史（英国中心に）。公的扶助制度はどのように萌芽したのか、世界に影響を与えた流れ、貧困観を理解する。	
4	公的扶助の歴史（日本）。戦前から戦後、占領軍の社会保障政策を学び、現代に続く公的扶助制度の根幹を理解する。	
5	社会保険と公的扶助の違いとそれぞれの関係について理解する	
6	生活保護法を条文とともに概観する。法の目的、原理原則を理解する。	
7	生活保護制度（保護の種類、範囲、方法）。生活保護法及び運用規定等を含め、国家試験対策と絡めて理解する。	
8	生活保護ケースワークの概要。ソーシャルワーク実践としての事例を通して理解する。事例に基づきグループワークを通して理解を深める。	
9	生活保護受給額や最低生活費の算出について理解する。具体的事例から生活保護費の算定を行う。	
10	低所得者対策（ホームレス自立支援の施策等）。生活保護制度とホームレス対策を理解する。ソーシャルワーカーの実践活動からも学ぶ。	
11	生活保護の実施体制（福祉事務所の業務と組織）を学ぶ。生活保護ワーカーと組織体制、関係機関、外部機関との関りも理解する。生活保護の実施機関である福祉事務所が抱える課題についても理解を深める	
12	その他の低所得者支援の制度。生活困窮者自立支援法・生活福祉資金貸付・社会手当について理解する。	
13	低所得者に対するソーシャルワークの実践について理解する。具体的な手法について習得する。初回面談から終結の流れを理解する。	
14	生活保護をめぐる代表的な裁判例と	
15	生活保護制度（不服申立と制度の運用）。講義のまとめとして、公的扶助とは何か、国民の生活とどのように関連しているか、自分達の暮らしと「貧困」との関わりについて生活保護制度との関係を理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	75	学習内容を正しく理解した上で、国家試験同等の問題に解答する。	課題への取組	25	講義では、各々に課題を与え、ディスカッションを行いながらすすめる。したがって、問題意識を持っているか、積極的に講義に参加しているかを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
＜各回共通＞ 予習：各授業の学習内容を事前に調べ、不明点について調査し自分の考えに照らし合わせをすること。また、疑問点を明確にしておく。（90 分） 復習：配布したレジュメをもとに重要事項を確認し、不明点について再度調査し質問すること。学習した内容を深化させるため、論文や書籍に当たる事や新聞、インターネット等の記事を検索し、理解を深める。（90分）	課題については、採点後適切な時期にコメントつけて返却する。授業開始前に前回授業のフィードバックを行い、質問に答える。

受講生に望むこと	①人と環境について理性に照らし社会科学的視座を鍛えましょう。生活保護制度を取り巻く世論の実態とナショナルミニマムについて深く考える機会と捉えてください。 ②ソーシャルワーカーとして、クライエントに関わる場合、公的扶助を理解していないとどの分野においても丁寧なソーシャルワークはできません。 ③社会の貧困について様々な媒体から情報を取捨選択する力を身に着け、貧困の解消について理解を深めてください。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/最新　社会福祉士養成講座４『貧困に対する支援』第２版一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集　中央法規出版 2026年　ISBN：978-4-8243-0349-3	その他・特記事項	学籍番号順に席を指定

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	保健医療サービス			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	松多　岳史						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
保健医療サービスを構築する要素を理解し、今日的課題や、社会福祉士、精神保健福祉士、その他専門職の機能と役割を理解する。あわせて医療保険制度と診療報酬制度の概要、高齢者が増加する現代の医療保険制度と介護保険制度のつながりを理解する。社会福祉士がどのようにミクロ・メゾの支援をしているか、事例を交えて紹介する。 ※SDGs目標番号1、3、10、11関連科目	①保健医療サービスの変化と、提供する施設、システム及び社会福祉専門職（社会福祉士、精神保健福祉士）の役割を理解できる。 ②保健医療サービスを取り巻く法制度、仕組みを理解できる。 ③医療保険制度、介護保険制度、公費負担医療制度の概要を理解できる。 ④保健医療サービスにおける各専門職、関係機関の連携と、社会資源との結び付きを理解できる。

教授方法	講義に加えてグループディスカッションを取り入れる（アウトプットを心掛ける）。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	保健医療サービスの変化：保健医療サービスの概要、保健医療サービスの構成要素、整備・拡充、住民及び患者視点の尊重	
2	医療法改正に見る保健医療サービスの今日的課題、医療連携チームと社会福祉士と精神保健福祉士の役割	
3	医療法および保健医療政策による、医療施設の機能・類型	
4	診療報酬における医療施設の機能、介護保険における施設の機能・類型	
5	医療と介護の連携、地域包括ケアシステムの必要性	
6	医療ソーシャルワーカーの業務内容、経済的問題への支援、退院援助・社会復帰援助	
7	通院援助、組織における地域の窓口、保健医療サービスの専門職の外観、基本的姿勢	
8	保健医療サービスにおける各専門職の視点と役割：チームアプローチの実際	
9	医療保険制度と診療報酬の概要：保険料の負担と給付、診療報酬における在宅医療・終末期医療	
10	介護保険制度と介護報酬及び公的扶助の概要	
11	保健医療の専門職との連携方法：保健医療チームとの連携、他職種チームとの連携	
12	チームケア実現のための制度や連携機関：チームケアの基本となる制度、行政、社会福祉協議会、地域包括支援センター等との連携	
13	社会福祉協議会、職能団体、ボランティア、地域産業、学校と教職員	
14	保健医療の専門職との連携の実際：チームケアの類型、疾病・障害別のチームケア、クリティカルパスの実践と活用	
15	地域の保健医療ネットワーク構築のための連携方法：地域連携とネットワーキングとその原則	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業の取組み姿勢	40	授業の出席率および意欲的にディスカッションなどに参加する姿勢。	定期試験	60	保健医療サービスについての理解、知識の確認。 テキスト・講義資料・メモ（関連資料）の持込み可。 （実施回：16回）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・授業の前にテキストを読み疑問に感じたことをまとめておくこと（5分）。 ・授業の後には分からなかった点を、当日・次回の授業で質問（メールも可）すること。	・講義の前後に質疑応答の時間を設ける。 ・講義開始時には前回の講義内容を復習する。 ・適宜、テーマに沿ったグループワークを行い全体フィードバックを図る。

受講生に望むこと	・何事にも関心と疑問をもって、意欲的に取り組んでください。 ・分からない点はそのままにせず、講義中やその後、メール等で主体的に質問してください。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／「保健医療ソーシャルワークの知識と技術　キャリアアップのための実践力の構築」公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会＝編集　ISBN：978-4-8058-8886-5	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

実務経験をもとに、学生がイメージしやすいよう、病院で医療ソーシャルワーカーがどのような業務を行うか事例を紹介する。また、病院内連携、地域包括ケアシステムなどをミクロ・メゾ・マクロレベルに分けて情報提供し、学生の知識に落とし込めるようディスカッションを行う。

授業科目名	ソーシャルワーク演習Ⅰ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。	1. ケースワーク及びグループワークの理論や技術について、演習により基礎的な能力 を習得する。 2. ソーシャルワークの価値と倫理を実践的に理解できる。 3. 演習を通じて、利用者・家族等とのコミュニケーションに必要な能力を理解できる。 4. ソーシャルワークの展開過程に用いられる知識と技術を実践的に理解できる。

教授方法	個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定したロールプレイング等を中心とする演習形態
履修条件	社会福祉士またはスクールソーシャルワーカーの資格取得を目指している者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、受講の注意点、演習形態の重要性を理解する。	
2	自己覚知（自己理解と他者理解）について理解する。	
3	関係形成のための原則について学ぶ：バイスティックの７原則の理解	
4	基本的なコミュニケーション技術の習得：言語的、非言語的技術の理解	
5	基本的なコミュニケーション技術の習得：観察、傾聴、伝達等の技術の習得	
6	基本的な面接技術の習得：基本的応答技法の体験的な理解	
7	基本的な面接技術の習得：基本的応答技法の活用	
8	基本的な面接技術の習得：面接の構造化、場の設定、ツールの活用	
9	ソーシャルワークの展開過程の理解：ケースの発見、インテーク	
10	ソーシャルワークの展開過程の理解：アセスメント、プランニング	
11	ソーシャルワークの展開過程の理解：支援の実施、モニタリング	
12	ソーシャルワークの展開過程の理解：支援の終結と事後評価、アフターケア	
13	ソーシャルワークの記録の理解：支援経過の把握と管理	
14	グループダイナミクスの活用：グループワークの構成、グループワークの展開過程	
15	プレゼンテーション技術の理解：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
テスト	60	授業内容についてどれだけ理解しているか。	授業参加態度等	40	・演習の目的を理解し、積極的に自ら学びとろうとする姿勢。 ・ワークシート等の提出物（講義内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・授業の後に講義と演習内容を復習し、毎回の授業のねらい達成を確実なものとする。[30分以上] ・授業の後に課された課題に取り組み、次の授業に備える。[30分以上] ・分からない語句や興味の持てたことに関して、自分で調べて理解を深める。	・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。

受講生に望むこと	・授業では演習形態により、実際の状況を模擬的に体験すること等を通して、専門的な知識と技術を学んでいくために、毎回、積極的な姿勢で臨むこと。 ・ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目と関連づけるとともに、ソーシャルワーク実習に備えることを意識する。	教科書・テキスト	なし。ワークシート等を毎回配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

毎年実施している施設職員向けの研修や本学の出張講座等の経験をもとに、面接や記録等の相談援助についてのロールプレイやディスカッションを行っている。

授業科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 ケアマネジメントについて、事例や援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により習得する。	1.ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。 2.社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を習得する。 3.具体的な事例等を題材として、ソーシャルワークにおける展開過程、アプローチについて理解する。 4.ケアマネジメントについて、その誕生の背景、基本理念、目的、援助の視点を理解する。

教授方法	ワークシート等を用いて演習形式で行う。
履修条件	「ソーシャルワーク演習Ⅰ」の単位を修得済の者。「高齢者福祉論」の単位の修得済が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の流れと到達目標を把握し、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合について理解する。	
2	援助資源になるための自己覚知、他者理解と尊重、ソーシャルワーカーの使命と役割、価値基盤を理解する。	
3	ソーシャルワーク実践における専門的援助関係づくりと、そのために必要なコミュニケーション・かかわり行動について理解する。	
4	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。事例等：虐待（高齢者）	
5	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。事例等：認知症	
6	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。事例等：終末期ケア	
7	ケアマネジメントの基本的理念、意義と目的について理解する①。	
8	ケアマネジメントの基本的理念、意義と目的について理解する②。	
9	ケアマネジメントの過程とアセスメント、ケアマネジメントとソーシャルワークの関係について理解する。	
10	介護保険制度におけるケアマネジメント（居宅介護支援）について理解する。	
11	介護保険制度におけるケアマネジメント（施設介護支援）について理解する。	
12	介護保険制度におけるケアマネジメント（介護予防支援）について理解する。	
13	障害者領域におけるケアマネジメントについて理解する。	
14	子ども家庭福祉領域におけるケアマネジメントについて理解する。	
15	生活困窮者等に対するケアマネジメントについて理解する。まとめ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	毎回の授業内容についてどれだけ理解しているか。	授業参加状況	40	・授業への積極的な取り組み。 ・ワークシート等の提出物。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・授業の後に講義と演習内容を復習し、毎回の授業のねらい達成を確実なものとする。[30分以上] ・授業の後に課された課題に取り組み、次の授業に備える。[30分以上] ・参考書等の事例を読み込み、ソーシャルワークへの理解を深める。	・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。

受講生に望むこと	・授業では演習形態により、実際の状況を模擬的に体験すること等を通して、専門的な知識と技術を学んでいくために、毎回、積極的な姿勢で臨むこと。 ・ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目と関連づけるとともに、ソーシャルワーク実習に備えることを意識する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/『対人援助職をめざす人のケアマネジメント』 太田貞司 他編　みらい　2007年　ISBN:978-4-86015-109-6	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

毎年実施している施設職員向けの研修や本学の出張講座等の経験をもとに、ケアマネジメントの演習を行っている。

授業科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	前川　直樹						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的な事例等を通して学ぶ。支援を必要とする人などを中心としたソーシャルワークの展開過程、援助技術について、関連科目、およびソーシャルワーク実習との関連性も視野に入れつつ、分野横断的な総合的、かつ包括的な支援について事例等の検討を通して理解する。 社会福祉士国家資格に係るソーシャルワーク実習、および国家試験を意識した専門的な内容を展開する。	1．ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を習得する。 2．社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を習得する。 3．支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的、かつ包括的な支援について実践的に理解する。 4．具体的事例等を題材として、ソーシャルワークにおける展開過程、アプローチについて理解する。

教授方法	講義・演習
履修条件	「ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの基盤と専門職」、「ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」、「ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習Ⅰ・Ⅱ」の単位修得済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の流れと到達目標を把握し、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合について理解する。	
2	援助資源になるための自己覚知、他者理解と尊重、ソーシャルワーカーの使命と役割、価値基盤を理解する。	
3	ソーシャルワーク実践における専門的援助関係づくりと、そのために必要なコミュニケーション・かかわり行動について理解する。	
4	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：虐待（児童）、過程等：ケースの発見、インテーク、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング	
5	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：虐待（児童）、過程等：アセスメント、プランニング、支援の実施、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング	
6	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：虐待（障害者）、過程等：ケースの発見、インテーク、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング	
7	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：虐待（障害者）、過程等：アセスメント、プランニング、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング	
8	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：虐待（障害者）、過程等：支援の実施、モニタリング、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング	
9	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：ひきこもり、過程等：ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション	
10	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：ひきこもり、過程等：支援の実施、モニタリング、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション	
11	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：ひきこもり、過程等：事後評価、アフターケア、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション	
12	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：その他の危機状態にある事例、過程等：ケースの発見、インテーク、プランニング、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ファシリテーション	
13	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：その他の危機状態にある事例、過程等：プランニング、支援の実施、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ファシリテーション	
14	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：その他の危機状態にある事例、過程等：モニタリング、事後評価、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ファシリテーション	
15	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：その他の危機状態にある事例、過程等：アフターケア、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ファシリテーション	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	演習への参加態度（発言の程度、頻度、内容など）、提出物等	確認テスト・レポート等	50	授業内容の理解、レポート・ワークシート・小テストの記載内容

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎回、配布資料の見直しとともに授業・演習内容を振り返り学びを定着させる。[30分以上] 2．社会の事象に関心を持ち、福祉領域との関係を意識する、まとめる。 3．福祉現場への理解を深めるため施設・機関への見学、ボランティアに参加する。	課題等は、毎回結果とともに内容を解説し、疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	1．ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2．疑問点や深い洞察も含めた知識の探求を意識し学んで下さい。	教科書・テキスト	必要な資料を講義内で配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義内で配布する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

社会福祉の実施機関、事業所での相談員としての実務経験をもとに、近年の動向も取り入れながら、社会福祉の理論や歴史、制度、方法等について話をしている。

授業科目名	ソーシャルワーク演習Ⅳ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	前川　直樹						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要

ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的な事例等を通して学ぶ。支援を必要とする人、地域社会などを中心としたソーシャルワークの展開過程、援助技術について、関連科目やソーシャルワーク実習との関連性も視野に入れつつ、分野横断的な総合的、かつ包括的な支援について事例等の検討を通して理解する。
社会福祉士国家資格に係るソーシャルワーク実習、および国家試験を意識した専門的な内容を展開する。

授業の到達目標

1．ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を習得する。
2．社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を習得する。
3．支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的、かつ包括的な支援について実践的に理解する。
4．地域の特性や課題を把握し、解決するための地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。
5．具体的事例等を題材として、ソーシャルワークにおける展開過程、アプローチについて理解する。

教授方法	講義・演習
履修条件	「ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの基盤と専門職」、「ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」、「ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習Ⅰ・Ⅱ」の単位修得済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ソーシャルワークの対象、焦点、およびソーシャルワーカーの視点、立場、役割の特徴を理解する。	
2	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：災害時、過程等：ケースの発見、インテーク、アウトリーチ、ネットワーキング、ファシリテーション、ソーシャルアクション	
3	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：災害時、過程等：アセスメント、プランニング、支援の実施、アウトリーチ、ネットワーキング、ファシリテーション、ソーシャルアクション	
4	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：災害時、過程等：モニタリング、事後評価、アウトリーチ、ネットワーキング、ファシリテーション、ソーシャルアクション	
5	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：その他の危機状態にある事例、過程等：インテーク、アセスメント、プランニング、チームアプローチ、コーディネーション、ネゴシエーション、プレゼンテーション	
6	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：その他の危機状態にある事例、過程等：支援の実施、チームアプローチ、コーディネーション、ネゴシエーション、プレゼンテーション	
7	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：その他の危機状態にある事例、過程等：モニタリング、事後評価、チームアプローチ、コーディネーション、ネゴシエーション、プレゼンテーション	
8	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：その他の危機状態にある事例、過程等：アフターケア、チームアプローチ、コーディネーション、ネゴシエーション、プレゼンテーション	
9	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：地域福祉、場面・過程等：アウトリーチとニーズ把握	
10	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：地域福祉、場面・過程等：地域アセスメント	
11	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：地域福祉、過程等：地域福祉計画、組織化	
12	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：地域福祉、過程等：社会資源の活用	
13	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：地域福祉、過程等：社会資源の調整、開発	
14	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：地域福祉、過程等：サービス評価	
15	まとめ：ソーシャルワークにかかる専門職の意義と役割を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	演習への参加態度（発言の程度、頻度、内容など）、提出物等	確認テスト・レポート等	50	授業内容の理解、レポート・ワークシート・小テストの記載内容

授業外における学習（事前・事後学習等）

1．毎回、配布資料の見直しとともに授業・演習内容を振り返り学びを定着させる。[30分以上]
2．社会の事象に関心を持ち、福祉領域との関係を意識する、まとめる。
3．福祉現場への理解を深めるため施設・機関への見学、ボランティアに参加する。

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

課題等は、毎回結果とともに内容を解説し、疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	1．ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2．疑問点や深い洞察も含めた知識の探求を意識し学んで下さい。	教科書・テキスト	必要な資料を講義内で配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義内で配布する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

社会福祉の実施機関、事業所での相談員としての実務経験をもとに、近年の動向も取り入れながら、社会福祉の理論や歴史、制度、方法等について話をしている。

授業科目名	ソーシャルワーク演習Ⅴ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	前川　直樹						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的な事例等を通して学びます。関連科目やソーシャルワーク実習との関連性も視野に入れつつ、地域福祉の基盤整備と開発に係る事例等を活用した演習により、地域の特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解することをめざします。	①地域で展開されている援助技術について、具体的なレベルで理解する。 ②各理論・概念、技術や価値について、実践に適用する方法を理解できるようになる。 ③実習での体験や学習、日々の実践について、一般化・理論化する方法を理解できるようになる。

教授方法	講義と個人、グループでの演習。
履修条件	「ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習Ⅰ」、「ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習Ⅱ」、「ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習Ⅲ」、「ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習Ⅳ」を履修済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	演習実施のための枠組み（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握）：アウトリーチの概念とニーズ整理の方法について知る。	
2	相談援助事例（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握①）：アウトリーチ、ニーズ把握の実際について知る。	
3	相談援助事例（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握②）：アウトリーチの具体的実践について考える。	
4	演習実施のための枠組み（チームアプローチ）：チームアプローチの概念と実際について知る。	
5	相談援助事例（チームアプローチ）：チームアプローチを促進するコーディネーションの技術について考える。	
6	演習実施のための枠組み（ネットワーキング）：ネットワーキングの概念と実際について知る。	
7	相談援助事例（ネットワーキング①）：ソーシャルサポート・ネットワークの具体的実践について考える。	
8	相談援助事例（ネットワーキング②）：地域福祉を推進するための総合的なネットワーク形成について考える。	
9	演習実施のための枠組み（社会資源の活用・調整・開発）：社会資源の概要と活用・調整の方法について知る。	
10	相談援助事例（社会資源の活用・調整・開発①）：社会資源開発の具体的展開について考える。	
11	相談援助事例（社会資源の活用・調整・開発②）：ソーシャルアクションの具体的展開について考える。	
12	演習実施のための枠組み（サービスの評価）：サービスの評価の概念と実際について知る。	
13	相談援助事例（サービスの評価）：福祉サービスの評価制度の概要について知る。	
14	演習実施のための枠組み（地域福祉の計画）：コミュニティソーシャルワークの概念、地域福祉計画の概要について知る。	
15	相談援助事例（地域福祉の計画）：地域福祉の計画化、住民の主体化と住民参加について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	45	授業に対する取り組み姿勢を評価します。 ・講義、個人での演習時の学習態度 ・グループでの演習への参加態度	課題レポート	20	指定する書式にて期日までに提出し、自身の考察を加えてまとめていることを評価します。
期末試験	35	講義、演習内容の理解を筆記試験で評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習として、各回の内容を他の科目のテキスト、またはその他のテキスト（例：「最新・社会福祉士養成講座」日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規出版）等を参考にして確認しておく。[30分] ②事後学習として、毎回、配布資料等の見直しとともに授業・演習内容の振り返りを行う。[60分]	課題等は、毎回結果とともに内容を解説し、疑問・質問等には随時対応します。

受講生に望むこと	他の科目で習得した内容や実習での体験、学習等と関連づけながら、積極的に各作業や討議に参加して下さい。	教科書・テキスト	必要な資料を講義内で配布します。
指定図書／参考書等	授業中に適宜紹介します。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

社会福祉の実施機関、事業所での相談員としての実務経験をもとに、近年の動向も取り入れながら、社会福祉の理論や歴史、制度、方法等について話をしている。

授業科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
ソーシャルソーシャルワーク実習の意義について理解する。社会福祉士に求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。	①ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導の意義について理解できる。 ②実際の実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について理解できる。 ③社会福祉士に求められる役割の理解と、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を身につける。 ④ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。

教授方法	テキストをもとにした講義の他、実習ガイドブック、ワークシート等を用いた演習、ＤＶＤの視聴を行う。
履修条件	「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を履修中（履修登録済）の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導の意義の理解	
2	実際に実習を行う分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（事前リサーチ：分野）	
3	実際に実習を行う分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（事前リサーチ：施設）	
4	実際に実習を行う分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（概況表）	
5	実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解	
6	実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理･知識及び技術に関する理解	
7	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解	
8	実習目的と実習課題の明確化（個人票）	
9	実習目的と実習課題の明確化（実習計画）	
10	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解（実習記録の目的・内容）	
11	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解（記述方法）	
12	実習先への事前訪問の意義と留意点の理解	
13	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成及び実習後の評価への理解	
14	巡回指導	
15	実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	・授業への積極的な取り組み ・課題への取り組み状況	提出物	50	・提出物の内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にあらかじめ指示したテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持てたことや疑問点に関して自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③福祉現場におけるボランティアや自主的な見学等を経験しておくことが望ましい。	・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。

受講生に望むこと	・実習では、社会人としてのマナーも問われる。挨拶や身だしなみなどに日頃から気をくばること。規律のある態度で授業に臨むこと。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。	教科書・テキスト	『ソーシャルワーク実習・実習指導』　早坂聡久　他編　弘文堂　2023年 ISBN978-4-335-61227-5
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

職能団体である社会福祉士会の現場職員との定期的な交流、意見交換をもとに現場で求められる社会福祉士像について、ディスカッション等により指導をおこなっている。

授業科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」で学んだ「専門知識」「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、相談援助業務に必要となる資質・能力・技術を習得する。実習を行う分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について学ぶ。個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に学び実践的な技術等を体得する。	①「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を振り返り、実習Ⅱに向けた課題について改めて把握することができる。 ②実習を行う分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について理解できる。 ③個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得することができる。

教授方法	テキストをもとにした講義の他、実習ガイドブックを用いた演習、ＤＶＤの視聴、ワークシートによる課題。
履修条件	「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を履修済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「ソーシャルワーク実習Ⅰ」における実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理	
2	「ソーシャルワーク実習Ⅰ」における実習記録や実習体験を踏まえたレポートの作成（テーマ設定・アウトライン）	
3	「ソーシャルワーク実習Ⅰ」における実習記録や実習体験を踏まえたレポートの作成（資料・データ整理）	
4	「ソーシャルワーク実習Ⅰ」における実習記録や実習体験を踏まえたレポートの発表（第1グループ）	
5	「ソーシャルワーク実習Ⅰ」における実習記録や実習体験を踏まえたレポートの発表（第2グループ）	
6	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（事前リサーチ分野）	
7	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（事前リサーチ施設）	
8	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（概況表）	
9	実習目的と実習課題について（個人票）	
10	実習目的と実習課題について（実習計画）	
11	実習生に求められる姿勢	
12	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解（実習記録の目的・内容）	
13	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解（記述方法）	
14	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成	
15	巡回指導	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	・授業への積極的な取り組み ・ワークシート等への取り組み状況	提出物	50	・実習レポート等の提出物の内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「ソーシャルワーク実習Ⅰ」について、学びと課題を再確認しておく。 ②授業の前にあらかじめ指示したテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] ③授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持てたことや疑問点に関して自分で調べて理解を深める。[30分以上]	・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。

受講生に望むこと	・実習では、社会人としてのマナーも問われる。挨拶や身だしなみなどに日頃から気をくばること。規律のある態度で授業に臨むこと。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 ・「ソーシャルワーク実習Ⅱ」では、Ⅰに比べ実習期間が長くなる。実習の良い準備が出来るよう、意欲的な姿勢で授業に臨むこと。	教科書・テキスト	『ソーシャルワーク実習・実習指導』　早坂聡久　他編　弘文堂　2023年 ISBN978-4-335-61227-5
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

職能団体である社会福祉士会の現場職員との定期的な交流、意見交換をもとに現場で求められる社会福祉士像について、ディスカッション等により指導をおこなっている。

授業科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
「ソーシャルワーク実習Ⅱ」で学んだ「専門知識」「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、相談援助業務に必要となる資質・能力・技術を習得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	①「ソーシャルワーク実習Ⅱ」を振り返り、実習課題の達成状況の評価が適切にできる。 ②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的な能力を習得することができる。 ③具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立ててレポートにまとめることができる。

教授方法	テキストをもとにした講義の他、レポート作成、ワークシートによる課題。
履修条件	「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」、「ソーシャルワーク実習Ⅱ」を履修済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実習の価値と事後学習の意義	
2	「ソーシャルワーク実習Ⅱ」における実習課題の達成状況の評価	
3	「ソーシャルワーク実習Ⅱ」における課題や疑問点の言語化と整理	
4	実習評価と自己評価（ソーシャルワーク実習と評価）	
5	実習評価と自己評価（スーパービジョン）	
6	「ソーシャルワーク実習Ⅱ」における実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（テーマ設定）	
7	「ソーシャルワーク実習Ⅱ」における実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（アウトライン）	
8	「ソーシャルワーク実習Ⅱ」における実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（資料・データ収集・整理）	
9	「ソーシャルワーク実習Ⅱ」における実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（レポート作成）	
10	「ソーシャルワーク実習Ⅱ」における実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（見直し、プレゼン準備）	
11	実習総括レポートの発表とディスカッション（第1グループ）	
12	実習総括レポートの発表とディスカッション（第2グループ）	
13	実習報告会における実習総括レポート発表と指導者からの助言（第1グループ）	
14	実習報告会における実習総括レポート発表と指導者からの助言（第2グループ）	
15	実習指導のまとめ、総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	・授業への積極的な取り組み ・ワークシート等への取り組み状況	提出物	50	・実習レポート等の提出物の内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「ソーシャルワーク実習Ⅱ」について、学びと課題を再確認しておく。 ②授業の前にあらかじめ指示したテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] ③授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持てたことや疑問点に関して自分で調べて理解を深める。[30分以上]	・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。

受講生に望むこと	・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 ・実習全体のまとめ・整理を行って、今後の学びにつなげていく。	教科書・テキスト	『ソーシャルワーク実習・実習指導』　早坂聡久　他編　弘文堂　2023年 ISBN978-4-335-61227-5
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

職能団体である社会福祉士会の現場職員との定期的な交流、意見交換をもとに現場で求められる社会福祉士像について、ディスカッション等により指導をおこなっている。

授業科目名	ソーシャルワーク実習Ⅰ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
8日間(60時間）にわたる実習を通して、ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について 把握する。施設・機関等が地域社会の中で果たす役 割を実践的に理解する。総合的かつ包括的な支援における多職 種・多機関、地域住民等との連携のあり方 及びその具体的内容を実践的に理解する。	①利用者やその関係者との円滑な人間関係や援助関係が形成できる。 ②地域の課題や利用者のニーズ等について理解できる。 ③実習施設・機関の機能・役割について理解できる。 ④社会福祉士の業務内容や職業倫理について実際的に理解できる。 ⑤ソーシャルワークに関する基礎的な知識や技術が習得できる。

教授方法	実習施設の指導者による指導、担当教員による巡回指導等。
履修条件	「高齢者福祉論」、「障害者福祉論」、「児童福祉論」、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」、「ソーシャルワーク演習Ⅰ」の単位を修得済で、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」を履修中の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	利用者やその関係者(家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランテイア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成	実習指導者、担当教員
2	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成	実習指導者、担当教員
3	利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握	実習指導者、担当教員
4	多職種連携及びチームアプローチの実践的理解	実習指導者、担当教員
5	当該実習先が地域社会の中で果たす役割の 理解及び具体的な地域社会への働きかけ	実習指導者、担当教員
6	地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解	実習指導者、担当教員
7	施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理を含む）の理解	実習指導者、担当教員
8	社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解	実習指導者、担当教員
9	ソーシャルワーク実践に求められるアウトリーチ ・ネットワーキングなどの技術の実践的理解	実習指導者、担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習施設の指導者による評価	60	・実習の態度 ・専門的知識、技術の習得の状況	担当教員による評価	40	・実習記録の内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①実習の前に事前学習や実習計画、実習プログラム等の内容を再確認しておく。[30分] ②実習の後に実習課題に関する自己評価や内省を行うとともに疑問点等を調べ次に備える。[60分]	・実習記録等をもとに、実習指導者から指導を受ける。 ・巡回訪問時等の面接により、担当教員から気づきを促していく。 ・実習を終えての内省や自己評価を実習指導Ⅱ及び実習Ⅱに繋げていく。

受講生に望むこと	・実習ガイドブックを熟読し、意欲的に取り組む。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 ・社会福祉士の具体的なイメージを掴む。	教科書・テキスト	『ソーシャルワーク実習・実習指導』 早坂聡久　他編 弘文堂　2023年 ISBN978-4-335-61227-5
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	ソーシャルワーク実習Ⅱ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	4単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
24日間(180時間）にわたる実習を通して、ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士とし ての価値と倫理に基づく支援を行うため の実践能力を養う。支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について 把握する。さらに、支援を必要とする人の内的資源やフォ ーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。施設・機関等が地域社会の中で果たす役 割を実践的に理解する。総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方 及びその具体的内容を実践的に理解する。	①利用者やその関係者との円滑な人間関係や援助関係が形成できる。 ②地域の課題や利用者のニーズ等について理解できる。 ③社会資源を活用した支援計画の作成と実施及び評価ができる。 ④実習施設・機関の機能・役割について理解できる。 ⑤社会福祉士の業務内容や職業倫理について実際的に理解できる。 ⑥ソーシャルワークの知識や技術について、総合的に対応できる能力が習得できる。

教授方法	実習施設の指導者による指導、担当教員による巡回指導等。
履修条件	「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の単位を修得済の者。「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」を履修した者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	利用者やその関係者(家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランテイア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成	実習指導者、担当教員
2	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成	実習指導者、担当教員
3	利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価	実習指導者、担当教員
4	多職種連携及びチームアプローチの実践的理解	実習指導者、担当教員
5	当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ	実習指導者、担当教員
6	地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解	実習指導者、担当教員
7	施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理を含む）の理解	実習指導者、担当教員
8	社会福祉士の職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解	実習指導者、担当教員
9	ソーシャルワーク実践に求められる技術（アウトリーチ ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション）の実践的理解	実習指導者、担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習施設の指導者による評価	60	・実習の態度 ・専門的知識、技術の習得の状況	担当教員による評価	40	・実習記録の内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①実習の前に事前学習や実習計画、実習プログラム等の内容を再確認しておく。[30分] ②実習の後に実習課題に関する自己評価や内省を行うとともに疑問点等を調べ次に備える。[60分]	・実習記録等をもとに、実習指導者から指導を受ける。 ・巡回訪問時等の面接により、担当教員から気づきを促していく。 ・実習を終えての内省や自己評価を実習指導Ⅲに繋げていく。

受講生に望むこと	・「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の学びを踏まえ、より良い実習となるよう意欲的に取り組む。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 ・社会福祉士の具体的なイメージを掴む。	教科書・テキスト	『ソーシャルワーク実習・実習指導』 早坂聡久　他編 弘文堂　2023年 ISBN978-4-335-61227-5
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	精神保健学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。また、現代社会における精神保健の諸課題と精神保健の実際、および関連する専門職の役割、精神保健を維持、増進するために機能している専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。また、国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。 他のスクールソーシャルワーカー関連科目を意識した専門的な内容を展開する。	1．現代の精神保健分野の動向と課題を理解し、説明できるようにする。 2．精神保健の基本的考え方を理解し、説明できるようにする。 3．現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、説明できるようにする。 4．精神保健の保持・増進と発生予防のための支援および専門機関や関係職種の役割と連携について理解し、説明できるようにする。 5．スクールソーシャルワーカーに必要な基礎知識を習得する。

教授方法	講義
履修条件	「ソーシャルワークの基盤と専門職」、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」の単位修得済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	精神保健の概要：ライフサイクルと精神保健、生活習慣と精神の健康、講義オリエンテーション	
2	現代の精神保健分野の動向と基本的考え方：精神保健の動向、精神保健活動の三つの対象、精神の健康に関する心的態度、生活と嗜癖	
3	家族に関連する精神保健の課題と支援（１）：家族関係における暴力と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健、介護をめぐる精神保健、社会的ひきこもりをめぐる精神保健	
4	家族に関連する精神保健の課題と支援（２）：家族関係の課題、グリーフケア、精神保健支援を担う機関	
5	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ（１）：学校教育における精神保健的課題、教員の精神保健	
6	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ（２）：関与する専門職と関係法規、スクールソーシャルワーカーの役割、学校精神保健にかかわる社会資源	
7	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ：現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策、職場のメンタルヘルスのための相談、職場内の問題を解決するための機関および関係法規	
8	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ（１）：災害被災者の精神保健、犯罪被害者等の支援、自殺予防、身体疾患に伴う精神保健、貧困問題と精神保健、社会的孤立	
9	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ（２）：性的マイノリティと精神保健、多文化に接することで生じる精神保健上の問題、反復違法行為と精神保健、高齢化と精神保健	
10	精神保健に関する発生予防と対策（１）：精神保健の予防の考え方、アルコール関連問題に対する対策、薬物依存対策、ギャンブル等依存対策	
11	精神保健に関する発生予防と対策（２）：うつ病と自殺防止対策、子育て支援と暴力、虐待予防、認知症高齢者に対する対策、発達障害者に対する対策、社会的ひきこもりに対する対策、災害時の精神保健に対する対策	
12	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題：関連法規、精神保健に関わる人材育成、精神保健における偏見・差別	
13	精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携（１）：国の機関とその役割、精神保健に関係する法規、多職種の役割と連携	
14	精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携（２）：地域精神保健にかかわる行政機関の役割および連携、学会や啓発団体、セルフヘルプグループと地域精神保健を課題とした市民団体	
15	諸外国の精神保健活動の現状および対策：世界の精神保健の実情、WHOなどの国際機関の活動、諸外国の精神保健医療の実情	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、提出物等（課題、小テスト・ミニレポート・ワークシート含む）	レポート・授業内確認テスト	50	授業内容の理解、レポート・ワークシートの記載内容

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎回、テキスト・資料等で授業を振り返り、学びを定着させる。[30分以上] 2．社会の事象に関心を持ち、福祉・教育分野との関係を意識する、まとめる。 3．可能であれば社会福祉、教育現場への理解を深めるため、施設・機関への見学、ボランティアに参加する。	確認テスト等は、結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	1．相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2．現代社会では精神保健のニーズや課題は多様化し、範囲も広がっています。他の科目との関係や、関連するニュース・社会的事象に関心を持つようにしてください。	教科書・テキスト	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、最新　精神保健福祉士養成講座『２現代の精神保健の課題と支援』中央法規、2026. ISBN:978-4-8243-0350-9
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義毎に配布します。	その他・特記事項	必要に応じて授業内で資料を配布します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	スクールソーシャルワーク論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
講義を中心に、教育現場での子どもの現状、および家庭や地域社会の動向について理解するとともに、スクール（学校）ソーシャルワーカーとしての子どもを取り巻く環境との関係性のとらえ方について学ぶ。また、スクール（学校）ソーシャルワーカーの発展過程、役割、実践モデル、支援方法等を理解する。 必要に応じて、資料や事例検討、グループ協議等を用いる。	1．今日の学校教育現場にスクール（学校）ソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性を理解し、説明できるようにする。 2．スクール（学校）ソーシャルワークの発展過程について理解し、説明できるようにする。 3．海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動について理解し、説明できるようにする。 4．スクール（学校）ソーシャルワークの実践モデルについて理解し、説明できるようにする。 5．スクール（学校）ソーシャルワーカーへのスーパービジョンの必要性について理解し、説明できるようにする。

教授方法	講義
履修条件	「ソーシャルワークの基盤と専門職」、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」「精神保健学」の単位修得済みの者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	講義オリエンテーション スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程の内容、位置づけ	
2	今日の学校教育現場が抱える課題とその実態、及びスクール（学校）ソーシャルワーカーを導入する意義	
3	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の情勢①（不登校、非行、学齢期の児童虐待）	
4	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の情勢②（特別支援教育、学習遅滞・学習障害、教育福祉）	
5	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の情勢③（家族の抱える課題、外国児童の就学問題）	
6	スクール（学校）ソーシャルワークの価値・倫理	
7	スクール（学校）ソーシャルワークの発展過程、アメリカや他諸外国及び日本のスクール（学校）ソーシャルワークの発展過程の概要	
8	海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動、アメリカや他諸外国のスクールソーシャルワーカーの役割と活動	
9	スクール（学校）ソーシャルワークの実践モデル（生態学的視点、ストレングスの視点、エンパワメントの視点）	
10	スクール（学校）ソーシャルワークの支援方法、スクール（学校）ソーシャルワークの学校・家庭・地域共同支援の実際例（メゾ・レベル①）（学校内の支援ケース会議、校内協働、コンサルテーション）	
11	スクール（学校）ソーシャルワークの支援方法、スクール（学校）ソーシャルワークの学校・家庭・地域共同支援の実際例（メゾ・レベル②）（学校と関係機関の協働支援、校外協働）	
12	スクール（学校）ソーシャルワークの支援方法、スクール（学校）ソーシャルワークの学校・家庭・地域共同支援の実際例（メゾ・レベル③）（社会資源の開発）	
13	スクール（学校）ソーシャルワークの支援方法、スクール（学校）ソーシャルワークの教育行政への支援（マクロ・レベル①）（スクールソーシャルワーカー活用事業）	
14	スクール（学校）ソーシャルワークの支援方法、スクール（学校）ソーシャルワークの教育行政への支援（マクロ・レベル②）（教育委員会との協働、各地の教育委員会が実施するスクールソーシャルワークに関する事業）	
15	スーパービジョン、スクール（学校）ソーシャルワーカーへのスーパービジョン（スーパービジョン体制、スーパービジョンの方法）、全体まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、提出物等（課題、小テスト・ミニレポート・ワークシート含む）	確認テスト・レポート	50	授業内容の理解、レポート・ワークシートの記載内容

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎回、資料等で授業を振り返り、学びを定着させる。[30分以上] 2．社会の事象に関心を持ち、福祉・教育分野との関係を意識する、まとめる。 3．可能であれば社会福祉、教育現場への理解を深めるため、施設・機関への見学、ボランティアに参加する。	確認テスト等は、結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	1．学校教育における相談援助職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2．現代社会では教育現場におけるニーズや課題は多様化し、範囲も広がっています。他の科目との関係や、関連するニュース・社会的事象に関心を持つようにしてください。	教科書・テキスト	必要な資料を講義内で配布します。
指定図書／参考書等	なし／山野則子・野田正人・半羽利美佳編著『よくわかるスクールソーシャルワーク　第2版』ミネルヴァ書房、2016. ISBN: 978-4-623-07834-9	その他・特記事項	とくになし。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	スクールソーシャルワーク演習			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
スクール（学校）ソーシャルワーカーに必要な視点、および援助技術について、援助場面を想定した具体的な事例を用い考察を深め、理解する。また、個別性・共通性の理解とともに子どもを取り巻く環境との関係性、および学校教育現場の特性、当該地域の特性についても理解を深め、必要かつ適切な能力を習得する。 スクール（学校）ソーシャルワーク実習、および国家試験を意識した内容を展開する。	1．個別事例へのアセスメントのみでなく、ソーシャルワーカーとして、教育行政や学校の動き、地域を把握し、地域アセスメント、学校（地域機関）アセスメントができる力をつける。 2．スクール（学校）ソーシャルワーク実践、特にメゾ・マクロプラクティスについて実際に体験的に習得する。 3．記録化する手法を持たない学校のなかで、記録化するだけでなく、校内で記録用紙を創造し、蓄積していく力をつける。

教授方法	演習
履修条件	「ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の単位修得済みの者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ソーシャルワークの価値、福祉の価値、ミッションとは	
2	子どもを取り巻く地域の状況、インフォーマルな機関を含めた地域機関、教育委員会、学校の状況の把握、地域アセスメント、学校アセスメント	
3	ミクロプラクティス（具体的な問題解決能力、アウトリーチ）	
4	メゾプラクティス（チームアプローチ、マネジメント）	
5	メゾプラクティス（ケース会議、教育行政との協働）	
6	マクロプラクティス（市町村子ども家庭相談体制の位置づけ、福祉・教育協働の相談体制作り）	
7	マクロプラクティス（地域に根ざした活動展開、開発機能の意義と実践）	
8	記録、スーパービジョン、評価（スクール（学校）ソーシャルワークを維持発展させる力、実証的にソーシャルワーク行為を示す力）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	演習への参加態度（発言の程度、頻度、内容など）、提出物等	レポート・確認テスト	50	レポート・ワークシート・小テストの記載内容、授業内容の理解

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎回、資料等で授業を振り返り、学びを定着させる。[30分以上] 2．社会の事象に関心を持ち、福祉・教育分野との関係を意識する、まとめる。 3．可能であれば社会福祉、教育現場への理解を深めるため、施設・機関への見学、ボランティアに参加する。	確認テスト等は、結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	1．学校教育における相談援助職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2．現代社会では教育現場におけるニーズや課題は多様化し、範囲も広がっています。他の科目との関係や、関連するニュース・社会的事象に関心を持つようにしてください。	教科書・テキスト	必要な資料を授業内で配布します。
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を授業内で配布します。	その他・特記事項	とくになし。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	スクールソーシャルワーク実習指導			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
スクール（学校）ソーシャルワーク実習にかかる個別指導、並びに集団指導を通して学校における相談援助活動やソーシャルワーク実践にかかる知識と技術について、具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。また、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化、理論化し、体系立てていくことができる能力を養う。	1．スクール（学校）ソーシャルワーク実習の意義について理解する。 2．学校現場等を知り、学校組織を体験的に学ぶ。 3．教育の場において社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 4．用意された現場ではなく社会福祉が展開されるべく新しい現場に入るという意味を十分理解し、開拓の視点を養う。

教授方法	演習
履修条件	「スクール（学校）ソーシャルワーク演習」の単位修得済みの者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	スクール（学校）ソーシャルワーク実習の意義、学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解	
2	実習先で必要とされる相談援助（子ども、家族、教員対象）に係る知識と技術に関する理解、実習先で必要とされるチームで対応する力やケース会議に係る知識と技術に関する理解	
3	実習先の自治体等の子ども相談体制についての理解、現場体験学習（個別面接、ケース会議、連携会議など）、見学実習、実習における個人のプライバシー保護と守秘義務等の理解	
4	実習記録ノートへの記録内容、及び記録方法に関する理解	
5	実習生、実習担当専任教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成	
6	巡回指導	
7	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理、実習におけるスクール（学校）ソーシャルワーク実習としての不足分のレポート、実習総括レポートの作成	
8	実習の評価全体総括会（報告会）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	授業への参加態度（発言の程度、頻度、内容など）、提出物等	レポート・確認テスト	50	レポート・ワークシートの記載内容、授業内容の理解

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎回、資料等で授業を振り返り、学びを定着させる。[30分以上] 2．社会の事象に関心を持ち、福祉・教育分野との関係を意識する、まとめる。 3．可能であれば社会福祉、教育現場への理解を深めるため、施設・機関への見学、ボランティアに参加する。	実習計画、実習ノート、実習レポート作成、および成績評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	1．学校教育における相談援助職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2．現代社会では教育現場におけるニーズや課題は多様化し、範囲も広がっています。他の科目との関係や、関連するニュース・社会の事象に関心を持つようにしてください。	教科書・テキスト	必要な資料を授業内で配布します。
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を授業内で配布します。	その他・特記事項	とくになし。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	スクールソーシャルワーク実習			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
規定時間数のスクール（学校）ソーシャルワーク実習を通して、日々子どもたちが過ごす学校現場等を知り、学校組織を体験的に学び、理解を深める。併せて、ソーシャルワーク実践にかかる知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。	1．スクール（学校）ソーシャルワーカーとして求められる資質、技能、倫理から、福祉が一次分野でない教育現場における課題を見つけられる力を養う。 2．教職員、他との連携のあり方、及びその具体的内容を実践的に理解する。 3．子どもや家族、教職員から自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

教授方法	実習
履修条件	「スクール（学校）ソーシャルワーク演習」、「スクール（学校）ソーシャルワーク実習指導」の単位修得済みの者、または同時履修の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	子どもたち、教職員、教育委員会、事例や学校に関する関係者との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成	
2	子ども・家族の理解、学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解、そしてそのニーズ把握と支援計画の作成	
3	子ども・家族、そして学校、教育委員会などとの援助関係の形成、子ども・家族への権利擁護、そして学校、教育委員会など含めての支援（エンパワーメント含む）とその評価	
4	校内におけるケース会議や学年会議でのケース検討における進め方の実際	
5	校内や関係機関を含めた多職種によるチームアプローチの実際	
6	社会福祉士としての職業倫理、教員など学校関係者の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解	
7	学校運営、学校組織、教育委員会組織の実際	
8	市町村の子ども相談体制についての理解、学校がどのようにつながっているのか具体的なネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習指導者による評価	60	実習態度、専門的知識・技術の習得の状況	担当教員による評価	40	実習記録の内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．実習前においては、事前学習、実習計画、実習プログラムを確認する。［30分］ 2．実習後は、実習計画・課題に対する振り返りや自己評価を行い、有意義な学びにつながるように努める。［30分］	実習記録等については、指導者から適宜指導・助言を受ける。また、担当教員も巡回指導時に同様に適宜指導・助言を行う。

受講生に望むこと	1．子ども（家族含め）の権利を守る専門職として常に自覚しながら、謙虚で真摯な態度で実習に臨んでください。 2．学校教育における相談援助職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 3．現代社会では教育現場におけるニーズや課題は多様化し、範囲も広がっています。他の科目との関係や、関連するニュース・社会の事象に関心を持つようにしてください。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を授業内で配布します。	その他・特記事項	とくになし。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯学習概論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	高橋　律子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
生涯学習及び社会教育施設の本質と意義の理解を図り、学ぶことの楽しさを理解することから始めます。自分自身の学びを振り返りながら、今後の生涯学習社会の在り方について理解を深めます。 ※SDGs目標番号4関連科目	①生涯学習を通して「学ぶ」意味について理解する。 ②社会教育施設の役割について理解を図る。 ③社会教育施設の見学を通して現在の生涯学習の在り方について理解を図る。 ④今後の生涯学習社会の在り方について考察する。

教授方法	基本的に講義形式となりますが、ディスカッションやグループワークも併用し、積極的な参加を求めます。校外学習があります。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価について説明した後、「生涯学習」とは何かについて考えます。	
2	学習について：自分自身のこれまでの学びを振り返りながら、「学習」についての理解を深めます。	
3	芸術文化と生涯学習Ⅰ：生涯学習の視点から映画を視聴し、分析を試みます。	
4	芸術文化と生涯学習Ⅱ：視聴した映画の分析内容を共有することで学びを深めます。	
5	学習の内容Ⅰ：生涯学習において何を学ぶべきか考えます。	
6	学習の内容Ⅱ：生涯学習社会において何を学ぶべきか考えます。	
7	芸術文化と生涯学習Ⅲ：生涯学習の視点から映画を視聴し、分析を試みます。	
8	芸術文化と生涯学習Ⅳ：視聴した映画の分析内容を共有することで学びを深めます。	
9	生涯学習施設を知るⅠ：生涯学習施設を見学し、学習しやすい環境をどのように作っているのか理解します。	
10	生涯学習施設を知るⅡ：生涯学習施設を見学し、学習しやすい環境はどうあるべきか考えます。	
11	生涯学習施設を知るⅢ：生涯学習施設を見学し、学習しやすい環境はどうあるべきか考えます。	
12	生涯学習施設を知るⅣ：生涯学習施設を見学し、考えたことを共有し、学びを深めます。	
13	生涯学習プログラムについてⅠ：生涯学習プログラムをどのように企画実施するか、実践的に学びます。	
14	生涯学習プログラムについてⅡ：生涯学習プログラムをどのように企画実施するか、実践的に学びます。	
15	生涯学習についての総括：生涯学習について学んだことを総括し、最終レポートにまとめます。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への積極的な参加	50	出席だけでなく、ディスカッションやグループワークなどでの積極的な発言を評価します。	小レポート	20	授業内で数回実施する課題について、理解できているかどうか評価します。
最終レポート	30	最終授業で総括としてレポート提出を求めます。自分自身の課題として生涯学習をとらえることができているか評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
① 授業に参加する前に自分がこれまでどのように「学習」(学校内、学校外とも)してきたか、振り返っておいてください。[30分]	授業内でフィードバックを行います。

受講生に望むこと	集中講義のため1日の欠席が４回の欠席扱いとなります。体調管理にも留意してください。	教科書・テキスト	特に用いません。
指定図書／参考書等	なし/リンダ・グラットン『ライフ・シフト』東洋経済新報社、2016、ISBN13：978-4492533871	その他・特記事項	特になし。

実務経験を活かした授業の概要

学芸員としての経験をもとに、金沢市内の図書館及び美術館などの社会教育施設の現場見学を取り入れつつ、具体的な学習支援の方法と内容の理解を深められるよう講義を行う。

授業科目名	図書館サービス概論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目であり、図書館の中心的機能である情報提供について、その意義・種類・方法について理解を深めるとともに、多様な図書館サービスの形態を学ぶ。またそれぞれの図書館サービスの本質を理解することを目指す。	①図書館サービスの意義・構造について理解する。 ②資料提供サービスの基本について理解する。 ③様々な情報提供サービスの形態と機能について理解する。 ④図書館ネットワークについて理解する。 ⑤障碍者サービス、高齢者サービス、など利用対象に応じたサービスについて理解する。 ⑥図書館と著作権について問題意識を持って理解する。

教授方法	講義
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者または履修中の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	図書館サービスの意義（1）図書館の構成要素とサービスの役割	
2	図書館サービスの意義（2）図書館サービスの類型化	
3	図書館サービスとマネージメント（1）計画の立案と評価	
4	図書館サービスとマネージメント（2）図書館の「新・望ましい基準」	
5	来館者へのサービス	
6	利用空間の整備	
7	貸出サービスの構造	
8	資料提供の展開（1）リクエストサービス	
9	資料提供の展開（2）資料収集の方針	
10	情報提供サービス	
11	利用対象に応じたサービス（1）障碍者サービス、高齢者サービス	
12	利用対象に応じたサービス（2）児童サービス	
13	利用対象に応じたサービス・利用者とのコミュニケーション	
14	図書館サービスの課題：情報提供と著作権	
15	これからの図書館サービスのあり方について（まとめ）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	30	授業内で小テストを実施する。	授業内課題	10	授業内での作業・コメントなどの成果を評価する。
レポート	40	①授業で指定した内容をまとめ，②同一内容を扱う別の文献を探し，内容をまとめる。③双方の見解に基づいて意見をまとめ，④期限までに指定書式にて提出する。	授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業資料を活用した復習を推奨する。図書館を日常的(できれば週1回以上)に活用することを心がける。 また、図書館員には幅広い背景知識が求められるため、日頃から様々な領域に関心を持つことを求める。図書館利用の際は図書館がどのようなサービスを実施しているのか注目し、機会があれば積極的にサービスを利用すること。 各回の復習をノートや資料を用いて最低30分程度は行うこと。	希望に応じ小テスト終了後に問題の解説を行う。レポートは必要に応じてClassroomなども利用しフィードバックをする。

受講生に望むこと	履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	レポートは未提出の場合は単位認定を行わない。 必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	情報サービス論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目である。図書館における情報サービスの歴史や理念をふまえ、図書館情報サービスを形成する情報検索や各種のサービス（レファレンスサービス、カレントアウェアネスサービス、レフェラルサービス、利用者教育、SDIなど）について解説する。また各種情報源の種類や利用・検索方法について、文字情報、数値情報、映像・音声情報などの種類別やメディア別に解説する。	①図書館の理念を理解し、利用者サービスの重要性を理解する。 ②資料提供サービスと情報提供サービスの違いを理解する。 ③図書館サービスの中における情報サービスの位置づけを理解する。 ④各種情報源の特性を知り、情報源の利用について知識を身に付ける。

教授方法	講義，スライドを使用した形式で実施
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	情報サービスの概要：情報サービスの意義を理解する	
2	情報サービスの基礎：レファレンスサービスとはなにか	
3	情報サービスの展開：利用指導、レフェラルサービスとはなにか	
4	多様な情報サービス：読書相談、地域情報の発信、専門的な情報提供のあり方	
5	デジタルレファレンスサービス：デジタル環境でのサービスとは	
6	情報源整備の実際：印刷メディアと電子メディアの特徴、レファレンス情報源の構築と評価	
7	利用者の情報利用に対する理解：情報ニーズと情報探索行動	
8	レファレンス質問への対応：レファレンスプロセスの理解	
9	情報の検索と回答：検索戦略構築と情報検索を行うには	
10	情報検索のしくみ：レファレンスブックの構造、データベースの検索機能	
11	情報サービスの管理：情報サービスの組織化、人的な資質と能力	
12	情報源の特質：事実検索と文献検索、データベースの種類内容	
13	事実情報の検索の実際：言葉、統計、地理、人名などの調べ方	
14	文献情報の検索の実際：図書雑誌、雑誌記事などの調べ方	
15	情報サービスを行う意義：まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	60	記述式の筆記試験を行う。図書館における情報サービスの基本的な位置づけを理解できている必要がある。	授業内課題	20	授業中に小課題を行う。理解度の確認や各自の意見を記述してもらう。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内で紹介した各種情報源について、図書館やWebで実際に確認すること。 図書館のOPACなどデータベースを日常的に活用すること。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。	希望に応じ期末テスト終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をすること。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をすること。	教科書・テキスト	『情報サービス論』小田光宏編著．日本図書館協会，2012．（JLA図書館情報学テキストシリーズ 3；5）ISBN：978-4-8204-1211-3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	児童サービス論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	三田村　悦子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
児童サービスは全ての図書館サービスの中でも大変重要なサービスの一つである。サービスの対象者である児童は人として尊ばれ社会の一員として尊重されなければならず、よい文化環境（図書館）が必要だからである。その図書館を運営するのは子どもを知り、本を知り、子どもと本を結ぶことに使命感を持つ図書館職員である。そのような児童図書館員を養成するための授業を講義および実践を取り入れて実施する。	①児童サービスに必要な資料（絵本、児童文学、知識の本他）を知り、子どもを楽しく豊かな本の世界に導き、子どもが求める知識や情報を手に入れる方法を理解する。 ②子どもの発達段階および子どもを取り巻く環境を知り、最適な時に最適な本を提供することができることをめざす。 ③子どもと本をつなぐ手法を学び図書館および関連機関で実践できる基礎力を身につける。

教授方法	基本的に講義による授業および実践。レポート作成。
履修条件	「図書館概論」「図書館ｻｰﾋﾞｽ概論」の履修済みが望ましい。（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	児童サービスの意義・目的および歴史を説明する。（児童サービスの重要性・必要性を理解する。）	
2	子どもの発達および子どもを取り巻く社会・環境を説明する。（子どもを知ることができる。）	
3	児童資料の種類と特色①類型および絵本について説明する。（絵本を知り選書の力を習得する。）	
4	児童資料の種類と特色②児童文学について説明する。（子どもがよい物語を持つ意味について理解する。）	
5	児童資料の種類と特色③ノンフィクション他の資料およびレファレンスについて説明する。（子どもが図書館で情報処理能力を高める重要性を理解する）	
6	児童資料の選択および整理について説明する。（子どもが利用しやすい児童室づくりを習得する。）	
7	児童サービスの諸活動を説明する。（資料提供、フロアーワーク、集会行事、展示など実際に行われるサービスを知り実践に役立つ力を身に付ける。）	
8	児童サービスの運営について説明する。（運営計画および評価、市民との協働について理解し組織的にサービスを展開できる基礎力を養う。）	
9	子どもと本をつなぐ①読み聞かせ、ストーリーテリングを説明し実践する。（読み聞かせ、ストーリーテリングを学び実践できる基礎力を身につける。）	
10	子どもと本をつなぐ②ブックトークを説明し実践する。（ブックトークを理解し、実践力を養う。）	
11	乳幼児サービスについて説明する。（意義と現状を理解し、対象資料およびサービスの展開を知り実践力を養う。）	
12	ヤングアダルトサービスについて説明する。（意義と現状を理解し、対象資料およびサービスの展開を知り実践力を養う。）	
13	特別支援の必要な子どもたちへのサービスについて説明する。（意義と現状を理解し、対象資料およびサービスの展開を知り実践力を習得する。）	
14	学校図書館への支援と連携・協力および関係機関との連携について説明する。（子どもにとって本と出合う一番身近な学校図書館について理解し、どんな支援・連携・協力が必要かを理解する。）	
15	講義全体のまとめをし、児童サービス担当者の役割を再認識させる。（子どもと本をむすぶ仕事の重要性を理解し、キャリアアップする手立てを習得し今後に生かす。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	事前・事後学習も含めた授業への取り組み姿勢等	期末試験	40	筆記試験
実践・レポート	40	課題を的確に把握した内容であり、自分独自の考えがまとめられているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・身近な図書館を利用し児童室を配架・展示などに気をつけ見学する。利用案内、ブックリストなどを入手しおはなし会などのサービスを実際に見学する。（事前に開催日時を確認し図書館の了解を得ること）［60分］ ・指定図書、参考図書には目を通し、紹介されている本、講義中におすすめする本はできるだけ読むこと。［120分］ ・子どもと本を結ぶ技法（絵本の読み聞かせ、おはなし、わらべうた、ブックトークなど）を習得し実践できるようにする。［120分］	課題レポートは、3週間以内に評価やコメントをつけて返却する。なお、評価やコメントに対しての疑問・質問に対しての申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	本と子どもを知るためにできるだけ本を読み、本の楽しさを味わうとともに、身近な子どもを観察する。子どもと本を結ぶための技法を身につけるために自己研鑽をしてほしい。	教科書・テキスト	『児童サービス論　新訂版』JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ６ 堀川照代編著 日本図書館協会 2020年 ISBN 978-4-8204-1909-9
指定図書／参考書等	なし／『子どもと本の世界に生きて』E.コルウェル著 石井桃子訳 こぐま社 2018年 ISBN4-7721-9017-6『子どもと本』松岡享子著 岩波書店 2015年 ISBN978-4004315339/『幼い子の文学』瀬田貞二著 中公新書 1980年 ISBN 978-4121005632『児童文学論』ﾘﾘｱﾝ・H・ｽﾐｽ著 岩波現代文庫 2016年 ISBN 978-4-00-602282-2『新編子どもの図書館』『児童文学の旅』『エッセイ集』（石井桃子ｺﾚｸｼｮﾝⅢⅣⅤ）岩波現代文庫 2015年 ISBN Ⅲ978-4-00-602254-9 Ⅳ978-4-00-602255-6 Ⅴ978-4-00-602256-3	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

子どもたちへ、児童サービス（絵本の読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク、わらべうた）を数多く実践してきた経験から、学生たちにその手法を実際に見せ、より具体的に教えている。

授業科目名	情報資源組織論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目である。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報源からなる図書館情報資源の組織化と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法などについて理解することを目的とする。	①資料組織化の意義、書誌コントロールについて理解する。 ②記述目録法について学び、書誌記述法を理解する。 ③主題分析・分類法・索引法について理解する。 ④日本目録規則にもとづく目録法を理解する。

教授方法	講義
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	資料組織化の意義について	
2	書誌コントロール（1）書誌とは何か	
3	書誌コントロール（2）全国書誌・OPACとは	
4	書誌情報の作成・流通・管理	
5	記述目録法の基礎―概要と記述の範囲	
6	記述の単位と順序、記述ユニット方式と区切り記号	
7	記述目録法作成の実際（1）タイトルと責任表示、版表示に関する事項	
8	記述目録法作成の実際（2）出版頒布・形態に関する事項	
9	記述目録法作成の実際（3）シリーズ・注記・標準番号・入手条件に関する事項	
10	記述目録法作成の実際（4）標目と排列	
11	主題分析と分類法・索引法	
12	分類法の実際（1）分類総論	
13	分類法の実際（2）日本十進分類法	
14	分類法の実際（3）その他の分類法	
15	ネットワーク情報源の組織化とメタデータ・授業まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	60	筆記試験（持ち込み不可）を実施する。目録の基礎知識及び基本的な技術を習得している必要がある。	授業内課題	20	目録の知識を確認するため記述式などの形式で課題を授業内で行う。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか，教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
図書館を日常的に活用することを心がける。特に目録を活用し、OPACは日常的に利用すること。 履修までに大学図書館だけでなく、公共図書館のOPAC利用を経験しておくこと。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。	希望に応じ期末テスト終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	『情報資源組織論　三訂版』柴田正美，高畑悦子著．日本図書館協会，2020.（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3 ； 9） ISBN:978-4-8204-1915-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	図書館制度・経営論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	三田村　悦子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
図書館経営に関連する法律や制度、図書館政策などについて説明し、図書館の意義や社会的役割を理解させる。 図書館の組織および施設、サービス計画の実例を参考に説明し、図書館経営に必要な知識を習得させる。	①図書館に関連する法律、条例等を学び図書館の法的根拠を把握し、図書館の意義と社会に果たす役割を理解する。 ②図書館の組織・職員について学び運営方法を習得しサービス計画を立てる力を養う。 ③図書館の管理運営形態について学び、これからの図書館の在り方を考察する。

教授方法	基本的に講義による授業、レポート作成
履修条件	「図書館概論」「図書館ｻｰﾋﾞｽ概論」の履修済みが望ましい。（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	図書館をめぐる法体系を説明する。（日本国憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法を理解し図書館の法的位置づけを把握する。）	
2	図書館法について考察する①（図書館法第１条から９条までを学び図書館の目的・図書館奉仕などを理解する。）	
3	図書館法について考察する②（図書館法第１０条から２９条までを学び公立図書館の設置・職員・図書館協議会および無料の原則を理解する。）	
4	地方自治体の図書館関連条例などを説明する。（地方自治法、条例・規則・内規・要項・マニュアルを学び図書館運営の法的根拠を理解する。）	
5	他館種の図書館に関する法律などを説明する。（学校図書館・国立国会図書館・大学図書館などの法的根拠を理解し、他館種との連携、協力方法を習得する。）	
6	図書館サービス関連法規を説明する。（子どもの読書活動の推進に関する法律、文字・活字文化振興法、著作権、個人情報の保護に関する法律などを学び図書館サービスの法的根拠を理解する。）	
7	国、地方自治体の図書館政策を説明する。（国の政策、各自治体の政策の具体例を考察する。）	
8	公共機関・施設の経営方法と図書館経営を説明する。（公立図書館経営の理念と運営および危機管理について理解する。）	
9	図書館の組織・職員について説明する①（図書館の組織、館長の役割、図書館職員の在り方を理解し、求められる職員像を認識する。）	
10	図書館の組織・職員について説明する②（図書館協議会や図書館を支える団体、ボランティアについて理解し、図書館運営への関わり方を考察する。）	
11	図書館の施設・設備について説明する。（図書館建築のあり方を理解し、建築計画書の実例に基づき図書館施設のあるべき姿を認識する。）	
12	図書館サービス計画と予算の確保について説明する。（サービス計画の実例を考察し、実際に立案・策定できる能力を習得する。）	
13	図書館業務/サービスの調査と評価について説明する。（評価の実例を考察し、効率的・効果的な図書館運営を学ぶ。）	
14	図書館の管理形態の多様化について説明する。（業務委託、指定管理者制度、PFIの問題点について学び、望ましい図書館の管理運営について考察する。）	
15	講義全体のまとめをし、公立図書館の課題と今後の展望について説明する。（複本購入批判、貸出猶予問題、予約・リクエストの在り方などの課題を検討し、今後の図書館経営を考察する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	事前・事後学習も含めた授業への取り組み姿勢・発言等	期末試験	40	筆記試験
レポート	40	課題を的確に把握した内容であり、自分独自の考えがまとめられているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・県内外の図書館を見学、利用する機会をつくる。地元の図書館等の利用・見学をし、できれば条例・サービス計画の説明を聞く機会を持つ。［60分］ ・事前にテキストの章に目を通しておく。［120分］ ・参考図書および講義中に紹介する図書に目を通し講義内容を深める。［120分］	課題レポートは、3週間以内に評価やコメントをつけて返却する。なお、評価やコメントに対しての疑問・質問に対しての申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	図書館関係の雑誌や新聞の記事に関心を持ち最新の情報を得るように心掛ける。図書館情報学関係のウェブサイトにアクセスして情報の閲覧、理解に努める。	教科書・テキスト	『図書館制度・経営論 第２版』ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望５　手島孝典編著　学文社　2017年 ISBN 978-4-7620-2701-7
指定図書／参考書等	なし／『生きるための図書館』竹内 悊著 岩波新書 2019年 ISBN 978-4-00-431783-8/『読書からはじまる』長田弘著 日本放送出版協会 2004年 ISBN4-14-080564-1『つながる図書館』猪谷千香著 ちくま新書 2014年 ISBN 978-4-480-06756-2『新図書館法と現代の図書館』塩見昇他編著 日本図書館協会 2009年 ISBN 978-4820409151『図書館制度・経営論』糸賀雅児・薬袋秀樹編著 樹村房 2013 ISBN 978-4-88367-202-8	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

館長の経験を活かして、図書館制度の重要性および図書館経営の在り方を実例を挙げてより具体的に説明している。

授業科目名	情報サービス演習Ⅰ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目である。図書館での情報サービスにおいては、利用者が求める情報を適切に把握し、適切なツールを用いて情報を探し提供する能力と技能が必要となる。 情報サービス演習Ⅰでは、基礎科目で学んだ内容を元に、主にコンピュータを操作しデジタル情報源を用いる情報検索の演習を行う。演習内容を通じて、情報検索技術や情報源の評価技能を身につけ、多様な情報要求に対応できる能力と技能を習得することを目的とする。	①情報専門家として幅広い主題に対応できる情報検索技術の習得する。 ②一般的な情報リテラシー能力の習得と向上。 ③情報の評価能力 （情報内容の判断）の習得と向上。 ④情報発信能力 （回答の作成・提供）の習得と向上。

教授方法	演習中心に行う。コンピュータ室で情報検索演習を実施する。
履修条件	「司書資格」取得希望者かつ、原則として「情報サービス論」の単位を修得済みの者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	図書館の情報サービスと、情報検索の意義と内容	
2	ネットワーク、 ディジタル情報源の特性、 情報検索技術の基礎知識	
3	情報検索システムの基礎知識 （データベース構成／論理演算　等）	
4	ウェブ情報源の検索 （1） サーチエンジンの使い方とブール演算	
5	ウェブ情報源の検索 （2） サーチエンジンによるウェブ情報の検索	
6	ウェブ情報源の検索 （3） 検索結果と情報源の評価	
7	図書情報の検索 （1） 目録と書誌	
8	図書情報の検索 （2） 主題とアクセスポイント	
9	図書情報の検索 （3） 各図書館OPAC、 総合目録等	
10	時事情報の検索 新聞記事データベース、 ニュースサイト等	
11	雑誌記事の検索 （1） 雑誌記事データベース、 索引類	
12	雑誌記事の検索 （2） 引用の活用	
13	雑誌記事の検索 （3） 主題検索	
14	総合演習 （1） レファレンス質問を想定した実践演習　質問の分析と戦略立案	
15	総合演習 （2） レファレンス質問を想定した実践演習　検索と回答作成	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
演習課題	70	出題された演習課題は必ず全て提出すること。未提出がある場合は単位認定を行わない。また課題は出題に対して適切な内容であること。	小課題	10	授業内で実施、理解度を確認する。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
日常的に実際にインターネット上で利用できる情報源を使用してみること。さらに授業で紹介されたインターネット情報源は必ず自分自身で使用してみること。 また、情報検索には幅広い知識が求められるため、日頃からニュースなど世界の動向に気を配っておくこと。 課題とは別に、各回の復習を配布資料を用いて最低30分程度は行うこと。	必要に応じてレポートの添削結果を個別に伝達する。また適宜Classroomなども利用する。

受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をすること。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をすること。	教科書・テキスト	なし、授業内でプリントを配布
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	情報サービス演習Ⅱ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目であり、情報サービス演習のうち特にレファレンスブックを用いた情報探索について学ぶ。そのために情報源としてのレファレンスブック評価を行い、その特性について理解を深める。また実際にレファレンス質問に取り組むことにより情報探索を行い、レファレンスサービス全体のプロセスの理解とその技術を取得することを目的とする。授業は課題作成と発表を交互に行い進めていく。	①レファレンスサービスのプロセスを理解する。 ②レファレンスブックの評価を通じてその特性を理解する。 ③レファレンスブックに関するパスファインダーの作成を行う。 ④レファレンス質問に取り組むことにより、レファレンスサービス全体のプロセス理解に努める。 ⑤基礎的なレファレンス質問に回答する能力を習得する。

教授方法	演習、図書館でレファレンス資料を用い課題作成及び発表を行う。
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「情報サービス論」「情報サービス演習Ⅰ」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	レファレンスサービスの基礎・復習	
2	レファレンスブック評価の仕方	
3	情報源の評価（1）目録・書誌・索引	
4	情報源の評価（2）辞書・事典	
5	情報源の評価（3）便覧・年鑑類	
6	情報源の評価（4）地名・人名	
7	情報源の評価（5）各種の専門領域	
8	情報の探索（1）ことばの情報	
9	情報の探索（2）事柄・事物・現象の情報	
10	情報の探索（3）人物・団体の情報	
11	情報の探索（4）地名・地理の情報	
12	情報の探索（5）歴史・時事の情報	
13	情報の探索（6）統計の情報	
14	情報の探索（7）書誌情報	
15	情報の探索　まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
演習課題の作成	60	適切な課題作成を行い、期日までに必要な完成度で提出ができていること。	演習課題の発表	20	作成した課題を元に、発表が行えること。必要な質疑に応えることができること。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
課題以外でも図書館を日常的に活用することを心がける。 日常的に疑問に思ったことがあれば、すぐに調べる癖をつけることが望ましい。その際，ウェブ情報源以外も活用すること。図書館などのレファレンスツールに慣れておくこと。 各回の復習を配布資料を用いて最低30分程度は行うこと。	課題発表時に口頭でコメントをする形でフィードバックをする。

受講生に望むこと	課題が多く与えられるので，図書館情報資源を用いて課題作成に取り組むこと。授業では作成した課題を発表する機会があり，他の履修者や教員に分かりやすく説明することも求められる。	教科書・テキスト	なし、授業中に随時プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	情報資源組織演習Ⅰ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目であり、「情報資源組織論」で学んだ資料組織化の理論に基づき、図書をはじめとする多様な情報資源の書誌データの作成を演習する。時代に即した目録作成のためコンピュータを使用した演習を行う。	①多様な情報資源に関する書誌データの作成方法について、演習を通じて理解・取得する。 ②具体的な目録作成により、目録構築の意義や典拠コントロールの重要性を理解する。

教授方法	演習、主にコンピュータを使用する
履修条件	「司書資格」取得希望者かつ、原則として「情報資源組織論」の単位を修得済みの者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「情報資源組織論」で学んだ日本目録規則における記述目録法について復習する。	
2	図書資料の標題紙・奥付などを基に、手書きによる目録記述の演習を行う。	
3	コンピューターによる目録記述方法を学ぶ。	
4	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。（基礎的な資料）	
5	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。（応用的な資料）	
6	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。（応用的な資料）	
7	図書資料の現物を基に、目録記述の演習を行う。	
8	録音資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。	
9	映像資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。	
10	電子資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。	
11	これまで作成したデータの排列変更・検索の演習を行う。	
12	メタデータ記述方法を解説する	
13	インターネット情報源のメタデータ記述演習を行う。（Webサイトなど）	
14	インターネット情報源のメタデータ記述演習を行う。（データベースなど）	
15	これまで作成した書誌データをもとにした、まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	①授業課題に対し真摯に取り組んでいる。②教員の発問に対し意欲的に回答をしている。	授業前準備・復習	10	①授業実践のための事前学習を行っている。②授業後に作成した演習課題について再度振り返り、事後学習している。
演習課題内容	70	提出された演習課題が日本目録規則をはじめとする記述方法に沿って作成されているか、評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
図書館を日常的に活用することを心がける。 図書館のOPACを利用し、その記述内容についても関心を持つこと。日常的繰り返しに目録を利用し、目録と検索の関係性を経験から学ぶこと。 各回の課題を元に最低30分以上は予習・復習を行うこと。	課題の提出について随時添削を行い返却もしくは，直接説明を行う。

受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に過去の教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	履修生には参考図書「日本目録規則」を貸与する。 返却にあたり紛失・汚破損等があった場合には履修学生の責任において原状復帰し返却すること。 必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	情報資源組織演習Ⅱ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目であり、「情報資源組織論」で学んだ資料組織化の理論に基づき、図書資料の主題目録法（分類法）について演習を行う。	①主題分析について、演習を通じて理解する。 ②分類作業について、演習を通じて基本的な技能を習得する。 ③分類の規則について、演習を通じて理解を深める。

教授方法	演習
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「情報資源組織論」「情報資源組織演習Ⅰ」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「情報資源組織論」で学んだ日本目録規則における主題目録法について復習する。	
2	演習問題を基に主題分析・分類作業を行うとともに、「日本十進分類法」の構造を理解する。	
3	演習問題を基に一般的な主題分析・分類作業を行う。（基礎問題）	
4	演習問題を基に一般的な主題分析・分類作業を行う。（応用問題）	
5	演習問題（形式区分）を基に主題分析・分類作業を行う。	
6	演習問題（地理区分）を基に主題分析・分類作業を行う。	
7	演習問題（地理区分・海洋区分）を基に主題分析・分類作業を行う。	
8	演習問題（言語区分）を基に主題分析・分類作業を行う。	
9	演習問題（補助表を使用した総合課題）を基に主題分析・分類作業を行う。	
10	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。	
11	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。	
12	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。	
13	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。	
14	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。	
15	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	①授業課題に対し真摯に取り組んでいる。②教員の発問に対し意欲的に回答をしている。	授業前準備・復習	10	①授業実践のための事前学習を行っている。②授業後に作成した演習課題について再度振り返り、事後学習している。
演習課題内容	70	提出された演習課題が適切に主題分析され、分類・件名付与されていること。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
図書館を日常的に活用することを心がける。 図書館のOPACを利用し、その記述内容についても関心を持つこと。日常的繰り返しに目録を利用し、目録と検索の関係性を経験から学ぶこと。 各回の課題を元に最低30分程度は予習を行うこと。	課題発表を行い、その場で教員がコメントを行う。提出物についても、必要に応じて随時返却する。

受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	『日本十進分類法新訂10版　簡易版』もりきよし原編，日本図書館協会分類委員会改訂　日本図書館協会 2018年　ISBN:9784820418078
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	図書館情報資源概論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目である。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報源からなる図書館情報資源についてその類型と特質，生産・流通・選択・収集・保存に至るまでのプロセスなど、これら図書館業務に必要な情報資源に関する知識を解説する。	①印刷資料・非印刷資料について、政府刊行物等や電子資料、ネットワーク情報源を含めて学び、その理解を深める。 ②出版流通の在り方について学び、その理解を深める。 ③蔵書の形成、資料の収集の選択について学び、その理解を深める。 ④人文科学、社会科学、自然科学、日常生活などの情報資源について、その特性を理解する。 ⑤資料の受入・除籍・保存・管理について学び、その理解を深める。

教授方法	講義
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	図書館情報資源とは	
2	印刷資料について（1）印刷術の誕生と印刷の歴史	
3	印刷資料について（2）様々な印刷資料	
4	非印刷資料について	
5	灰色文献について	
6	政府刊行物・地域資料について	
7	映像資料・音声資料について	
8	電子資料・ネットワーク情報源について	
9	電子コンテンツと電子出版について	
10	出版と流通について（1）出版とはなにか・出版の意義	
11	出版と流通について（2）出版流通の経路・出版制度	
12	資料の収集と選択について	
13	人文科学分野の情報資源とその特性	
14	社会科学分野の情報資源とその特性	
15	自然科学分野の情報資源とその特性	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	60	筆記試験（持ち込み不可）を行う。図書館で取り扱う各種の情報資源について理解できている必要がある。	レポート	20	レポート課題について、課題の要件を満たしており十分な内容があること。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
図書館を日常的に活用することを心がける。資料を扱う上で求められる基礎的・教養的な知識を幅広く身につけること。 そのために、なるべく多種の情報メディアを扱うこと、図書館だけでなくインターネットも日常的に活用し情報源として評価すること。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。	希望に応じ期末テスト終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	『図書館情報資源概論　三訂版』馬場俊明著．日本図書館協会，2024.（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3；8） ISBN:978-4-8204-2309-6
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	図書・図書館史			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
人類の歴史の中で文字が生み出され、各種メディアに記録された情報資源が図書館に蓄積・保存されてきた。数千年の歴史を記録・継承する図書館のあり方や使命を学び、現代から未来の図書館に求められる役割と機能を学ぶ。	①各種記録媒体の歴史を学び、図書館の収集・保存すべき情報資源を理解する。 ②世界の図書館の歩みを考察し、図書館の存在意義を認識する。 ③図書館と図書館情報学の歴史を学ぶことにより、自らの将来を考える。

教授方法	講義
履修条件	原則として「司書資格」取得希望者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	メディアと図書館の歴史とは	
2	記録メディアの歴史1：紙以前の記録メディア・紙メディア	
3	記録メディアの歴史2：図書の形態史、印刷の発明	
4	記録メディアの歴史3：印刷の種類、大量印刷の時代	
5	記録メディアの歴史4：新聞雑誌の歴史、近代のマスメディア	
6	記録メディアの歴史5：メディアの多様化、新しいメディアの出現	
7	図書館史（世界）1：図書館の源流と図書館の使命	
8	図書館史（世界）2：中世の図書館、近世の図書館の歩み	
9	図書館史（世界）3：公共図書館の成立	
10	図書館史（世界）4：近代の図書館	
11	図書館史（日本）1：前近代日本の図書館、近代図書館の誕生	
12	図書館史（日本）2：民主主義と図書館、戦争と図書館	
13	図書館史（日本）3：第2次世界大戦後の図書館改革と戦後民主主義	
14	図書館史（日本）4：市町村立図書館と図書館政策、住民と図書館の関係	
15	図書館史まとめ：図書館と社会の関わりを歴史から考える	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。	授業内課題	30	授業中・授業後に小課題を行う。理解度の確認や各自の意見が論理的に記述されているかなどを評価する。
期末課題	50	図書・図書館史に関連したテーマでレポートが課される。適切な引用などを行い、自らの意見がまとめられているかを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
図書館を日常的に活用することを心がける。世界史及び日本史の基本的な知識を確認しておくこと。必要に応じて高校までの歴史教科書なども活用すること。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。	レポート評価後に電子的な添削・コメントを付与して返却する。その他、必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をすること。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をすること。歴史を学ぶことは現在の我々の立ち位置を考える上で、極めて重要なアプローチである。歴史的な事柄にも注意を払うようにすること。	教科書・テキスト	『図書・図書館史』小黒浩司編著. 日本図書館協会, 2013. （JLA図書館情報学テキストシリーズ 3；11）ISBN：978-4-8204-1218-2
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	図書館実習			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の選択科目である。図書館に関する科目で得た知識・技術を基にして、事前・事後の指導を受けつつ図書館業務を経験し、図書館業務全般に対する理解を深めることを目的とする。	①図書館実習事前準備を通じて、実習先の図書館業務について理解を深める。 ②図書館実習を通じて図書館業務全般を経験することでその理解を深める。 ③図書館実習事後レポートをまとめることにより、その成果を確認する。

教授方法	実習、学内での事前指導及び事後指導と図書館においての1週間の実習を行う
履修条件	「北陸学院大学　図書館実習実施規程」における実習参加資格を有するものに限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	図書館実習の概要	
2	図書館実習事前準備レポートの作成指導	
3	図書館実習事前準備レポートの提出・評価	
4	図書館実習直前指導	
5	公共図書館実習（原則として 7 日間、ただし実習受入館で特に指定がある場合はその日程で実施する）	
6	公共図書館実習	
7	公共図書館実習	
8	公共図書館実習	
9	公共図書館実習	
10	公共図書館実習	
11	公共図書館実習	
12	公共図書館実習	
13	公共図書館実習	
14	公共図書館実習	
15	図書館実習事後レポートの提出	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
図書館実習	70	図書館実習に参加し、受入館側の評価を考慮しつつ総合的に判断する。	図書館実習事前課題レポート	15	図書館実習受入館について、事前に調査を行いレポートとしてまとめる。なお、このレポートの未提出者、不合格者は図書館実習参加を認めない。
図書館実習事後レポート	15	図書館実習後に、実習内容及び実習で学んだことについてレポートとしてまとめる。なお、このレポートの未提出者、不合格者は単位修得できない。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
司書課程における科目を必ず復習すること。あらかじめ利用者として実習先の公共図書館を訪れて利用すること。 学外での実習であり、十分な準備を行った上で参加すること。（60分）	事前レポートは添削の上で評価を直接学生に伝達する。事後レポート及び図書館側の評価は希望に応じて個別に伝達する。

受講生に望むこと	司書資格取得を希望する学生のみを対象とする。図書館実習は公共図書館という学外において、公共図書館職員に準じる立場でさまざまな規程に基づいて実習にあたることになる。法令・規程を遵守するとともに、実習受入館に迷惑がかかることが無いように注意すること。また原則として実習中の遅刻・早退・欠席は認められない（事故・体調不良等を除く）。	教科書・テキスト	なし、授業時に随時配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	復習のためには、これまでの司書科目の教科書を参照すること。実習中図書館への自家用車利用は認められない。詳細な実習内容は実習先図書館によって異なる。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	公認心理師の職責			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	自由
担当教員名	植田　峰悠・齊藤　英俊　（代表教員　植田　峰悠）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
公認心理師の役割、責任、業務内容を学ぶ。心理学だけでなく倫理、医療、教育、福祉、司法、資格に関連する法律など、公認心理師に関わる広範な内容を学習する。	1)公認心理師の役割を説明できること。 2)公認心理師の法的義務及び倫理を説明できること。 3)心理に関する支援を要する者等の安全の確保を説明できること。 4)情報の適切な取扱いを説明できること。 5)各分野における公認心理師の具体的業務を説明できること。 6)自己課題発見・解決能力を説明できること。 7)生涯学習への準備を説明できること。 8)多職種連携及び地域連携を説明できること。

教授方法	講義、演習。
履修条件	公認心理師を目指す者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	公認心理師の職責：導入	全員
2	公認心理師の役割	全員
3	公認心理師の法的義務・倫理	全員
4	クライエント／患者らの安全の確保のために	全員
5	情報の適切な取り扱いについて	全員
6	保健医療分野における公認心理師の具体的な業務	全員
7	福祉分野における公認心理師の具体的な業務	全員
8	教育分野における公認心理師の具体的な業務	全員
9	司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務	全員
10	産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務	全員
11	支援者としての自己課題発見・解決能力	全員
12	生涯学習への準備	全員
13	多職種連携・地域連携	全員
14	公認心理師の今後の展開	全員
15	公認心理師の職責のまとめ	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小課題	30	講義中に提示する小課題の完成度をみる	講義参加態度	30	課題、発表、質問などの参加態度をみる
期末試験	40	講義内容の理解度をみる			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
与えられたテーマについて予習すること。[90分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[90分]	小レポートは次回授業時にフィードバックする。

受講生に望むこと	公認心理師の関連科目である。そのため、資格取得を目指す学生の真摯で積極的な学習が望まれる。	教科書・テキスト	『公認心理師の職責　第2版』　野島一彦（編）遠見書房 2023年（ISBN:978-4866161662）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	学習・言語心理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	菊池　義人						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
人間が経験に基づきどのように変化するかを、主に行動の変化と言語の習得を中心に学ぶ。基本的には講義形式で進めるが、必要に応じてディスカッションの機会を設ける。	(1) 経験を通して人の行動が変化する過程を説明できる。 (2) 言語の習得における機序について概説できる。

教授方法	講義形式
履修条件	「認定心理士」あるいは「公認心理師」資格取得希望者が望ましい

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：学習心理学および言語心理学について概説する。また、授業の進め方や成績評価基準などを説明する。	
2	学習・行動領域の心理学（パヴロフの条件反射，ソーンダイクの試行錯誤学習・効果の法則、ワトソンの恐怖条件づけ、トールマンの認知地図）	
3	行動の測定と実験デザイン（行動の定義、反応型と行動の機能、様々な観察法）	
4	生得性行動（生得性と学習性、刺激と反応の随伴性、刻印づけ、馴化の法則）	
5	レスポンデント条件づけ（無条件・条件刺激、無条件・条件反応、中性刺激）	
6	オペラント条件づけ（強化・弱化、強化子・弱化子、正の強化子・負の強化子、条件強化子）	
7	強化随伴性（確立操作、遮断化、飽和化、強化スケジュール）	
8	刺激性制御（弁別刺激、同時弁別、継時弁別、条件性弁別刺激）	
9	言語に関する理論と研究（言語の４領域（音韻・語彙・文法・語用論）、スキナーの言語学習理論・模倣言語行動、生成文法理論、普遍文法）	
10	言語に関する理論と研究（認知言語学、社会語用論的アプローチ、非言語的・前言語的コミュニケーション、ナラティブ、ディスコース、言語と推論、言語と文化）	
11	語彙の獲得過程（クーイング、喃語、初語、一語発話、二語発話、概念カテゴリー、理解語、産出語（表出語彙））	
12	語彙の獲得過程（語彙カテゴリー、指示対象と語のマッピング、相互排他性、社会的手がかり、語彙の爆発的増加、認知的制約）	
13	文法能力の発達（構文の発達、埋め込み文、語順、文法形態素の獲得（助詞、助動詞））	
14	言語の生物学的基礎と障害（言語における脳機能、失語症（ブローカ失語、ウェルニッケ失語、超皮質性運動失語、超皮質性感覚失語、伝導失語）、読字障害（ディスレクシア））	
15	全体のまとめ：学習心理学および言語心理学のまとめを行い、それぞれの心理学の社会での展開について説明する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	60	講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。	小レポート	40	毎回講義ごとに学んだことや印象に残ったことなど、簡単な小レポートを求める。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
シラバスを確認し、毎回扱う内容を予習すること。［30分］ 学習した内容が定着するよう復習すること。［60分］	小レポート等の提出物については、次回講義時にフィードバックを行う。

受講生に望むこと	この授業の配当年次までの心理学系の授業内容を理解していることが前提の講義であるため、事前によく復習をしておくこと。	教科書・テキスト	毎回、教員が作成した資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	シラバスの内容を話すが、さらにわかりやすく講義するために順番を変えたり、内容を拡充し、公認心理師等の資格にもつながるように工夫する。また，具体例などを補足し、歴史的な背景に関するエピソードなども盛り込んで話す予定である。課題などは、Google Classroomを通じて提示する。

実務経験を活かした授業の概要

実務経験に基づいて内容を拡充し、公認心理師等の資格にもつながるように工夫する。また、具体例などを補足し、歴史的な背景に関するエピソードなども盛り込んで話す。

授業科目名	神経・生理心理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	森　彩香						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本授業は公認心理師を目指すにあたり必要な科目である。 本授業では脳・神経の役割を理解し、患者さんの症状理解に必要な基礎知識を学ぶ。脳や神経が行動や心理・精神にどのような影響を与えているのかを知り、脳神経が障害された場合にはどのような症状が生じるのかを学ぶ。	以下の項目内容に関する知識を習得し、自らの言葉で概要を説明できるようになることを目標とする。 ①脳神経系の構造および機能について ②各種神経心理学的症候について ③神経心理学領域における心理的支援について

教授方法	基本的に講義形式を予定しているが、適宜ディスカッションやグループワークも取り入れる。
履修条件	公認心理師、認定心理士、社会福祉士または対人援助職を目指す者が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：授業の進め方や成績評価基準の説明	
2	神経・生理心理学の概要：神経系や高次脳機能について学ぶ	
3	脳神経の構造①：脳神経系の構造および機能について学ぶ	
4	脳神経の構造②：脳神経系の構造および機能について学ぶ	
5	神経心理学的アセスメント：高次脳機能障害のアセスメントについて学ぶ	
6	注意障害の概要：注意障害の症状について学ぶ	
7	注意障害の対応：注意障害の対応について学ぶ	
8	記憶障害の概要：記憶障害の症状について学ぶ	
9	記憶障害の対応：記憶障害の対応について学ぶ	
10	遂行機能障害の概要と対応：遂行機能障害の症状その対応について学ぶ	
11	社会的行動障害の概要と対応：社会的行動障害の症状とその対応について学ぶ	
12	失語の概要と対応：失語の症状とその対応について学ぶ	
13	失認・失行の概要と対応：失認・失行の症状とその対応について学ぶ	
14	神経心理学領域における各種支援法について学ぶ	
15	全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	授業で取り扱った内容を習得できているかどうかを評価する。	リアクションペーパー及び小テスト	40	リアクションペーパー（毎回）：授業内容をもとに自分自身の考えを述べることができるかどうかを評価する。 小テスト（不定期）：授業で取り扱った内容を習得できているかどうかを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業前にシラバスを確認し、該当する教科書のページを読んでおく［60分］。 授業後に、自分自身のこれまでの体験が授業で習得した内容とどのように関わっているのかを自分なりに考察する［60分］。	提出してもらったリアクションペーパーについては、次回講義時に全体に対してコメントをする。 小テストについても、次回講義時に全体に対して解説をする。

受講生に望むこと	脳の働きや脳損傷における心理・行動障害についてを学び、自分の言葉で他者に説明できるようになることを目指してください。	教科書・テキスト	教科書：『高次脳機能障害の病態・ケア・リハがトータルにわかる』浜松市リハビリテーション病院　高次脳機能センター, 照林社出版, 2021年出版 , ISBN:9784796525428.
指定図書／参考書等	指定図書：なし 参考書等：『公認心理師必携テキスト 臨床神経心理学［神経・生理心理学］』緑川晶・山口加代子・三村將,医歯薬出版,2018年出版 ,ISBN：978-4-263-26561-1.	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	人体の構造と機能及び疾病			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	中谷　壽男						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
医療を理解するには、人の体の構造と機能をある程度理解し記憶していることが重要になります。さらに、これらの理解を深めるために、少数の病気にも言及します。将来，皆さんが自分で病気などを調べる時の基礎知識と考え方を講義では示したいと思います。	人体の構造と機能の基礎知識を身につける。それをもとに，病気をどのように捉えるかの考え方を身につける。

教授方法	テキストと配布資料を教材提示装置とプロジェクターで映しながらテキストや資料に書き込みながら講義する。総論を主として、時間によって各論も講義する。理解を確認するために、講義内容に関する小テストを行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション．序章人体解剖の歴史の講義から解剖生理の重要性を理解してもらう。	
2	1章総論．筋骨格系を講義する。骨と筋の特徴を理解し知識を獲得する。	
3	1章総論．循環器系を講義する。血管の特徴と動脈と静脈の特徴そしてリンパ管の特徴を理解し知識を獲得する。	
4	1章総論．消化器系を講義する。消化器の消化吸収のしくみや動きを理解し知識を獲得する。	
5	1章総論．呼吸器系の構造と機能を理解し知識を獲得する。	
6	1章総論．泌尿生殖器系と内分泌の構造と機能を理解し知識を獲得する。	
7	1章総論．神経系と感覚器系の構造と機能を理解し知識を獲得する。	
8	２章頭部・頸部の構造と機能を骨、筋、血管、神経、内臓を一括して理解して知識を獲得する。	
9	２章頭部・頸部の構造と機能を骨、筋、血管、神経、内臓を一括して理解して知識を獲得する。	
10	3章胸部の構造と機能を骨、筋、血管、神経、内臓を一括して理解して知識を獲得する.	
11	3章胸部の構造と機能を骨、筋、血管、神経、内臓を一括して理解して知識を獲得する.	
12	4章腹部・背部の構造と機能を骨、筋、血管、神経、内臓を一括して理解して知識を獲得する。	
13	4章腹部・背部の構造と機能を骨、筋、血管、神経、内臓を一括して理解して知識を獲得する。	
14	5章上肢・下肢の構造と機能を骨、筋、血管、神経、内臓を一括して理解して知識を獲得する。	
15	5章上肢・下肢の構造と機能を骨、筋、血管、神経、内臓を一括して理解して知識を獲得する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	80	筆記試験の結果に基づいて評価する。	小テスト	20	各々の講義内容の理解度で評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
テキストは予習しておき、疑問点などがあれば自身で問いを立てておく。講義で自分でその解答を見つける（90分）。分からなければ、講師にその場で質問するか、時間がなければ、質問を用紙に書いて講師に渡すか、講師へメールで質問を送る。復習を行う（90分）。	試験後は答案用紙を返却し、解答を開示する。 提出物に関しては授業内に適宜フィードバックを行なう。

受講生に望むこと	テキストは最初から最後まで読むこと。人体の色々な部位の構造と機能は関連しあっているので、最初は理解が難しくても、他の部位の内容を読むことで、理解ができることがあるので諦めないこと。	教科書・テキスト	『ぜんぶわかる人体解剖図』　坂井健雄，橋本尚詞（著）成美堂出版　2010年　ISBN: 9784415306193
指定図書／参考書等	なし/『カラーアトラス　人体　解剖と機能』第4版、横地ら、医学書院、2013年、ISBN:978-4-260-01646-9,『ジュンケイラ組織学』　第6版、坂井ら、丸善出版、2024年、ISBN-13 :978-4621308851、『プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト』 第2版、中野ら、医学書院、2023年、ISBN-13: 978-4260052153,『好きになる病理学』　第2版、早川、講談社、2019年、ISBN:978-4-06-517109-7	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	福祉心理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	大矢　正則						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
福祉心理学は、福祉問題に関する心理学的研究であり、比較的歴史の浅い心理学の応用分野である。この学問で一定の理解を得るためには、社会福祉に関する基本的な知識と、心理学に関する基本的な理解の両方が必要になる。授業では、福祉の対象となる側(乳児・児童・障害者・高齢者・被災者)を軸に章立てをし、その分野の福祉的な諸問題に、心理学がどのように役立つのかを問いを交えながら、順を追って説明していく。	①福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 ②福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について概説できる。 ③虐待についての基本的知識を修得している。

教授方法	講義形式。質問およびディスカッションを積極的に取り入れる。
履修条件	公認心理師を目指す学生は必修。心理学と社会福祉学の境界学域でもあるので関心のある学生の受講可。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	現代社会における福祉をめぐる現状と課題(福祉心理学とは何か、現代社会の現状と課題、福祉心理学を学ぶにあたって)	
2	親子のアタッチメント関係と支援(アタッチメントの形成、アタッチメントの障害、アタッチメント形成を阻害する要因、アタッチメントの形成への支援)	
3	児童虐待の理解と支援(児童を取り巻く虐待の現状、虐待による発達上への影響、児童の虐待防止対策と被虐待児への支援)	
4	社会的養護の課題と支援(社会的養護に関わる児童福祉施設、社会的養護における心理職の役割)	
5	夫婦間・カップル間暴力への支援(ドメスティック・バイオレンスとは何か、DVのサイクル、DVへの社会的対応、DV家族への対応、デートDV)	
6	社会背景と家庭支援①(都市化、少子化、情報化・消費化)	
7	社会背景と家庭支援②(高学歴化、雇用問題、学力格差、多様な家庭)	
8	ライフコースと仕事・子育て(「母親のみによる育児」の広がりと見直し、共働き世帯の増加、出産と女性の就労継続、ライフキャリアと子育て、ジェンダーギャップ)	
9	自殺とその予防(統計、若者への関わり、代表的な理論、予防)	
10	障害と疾病の支援と理解(ノーマライゼーション、共生社会の構築に向けて、障害の種類)	
11	高齢者の心身機能の特徴(老年期の心理適応、老年期の心理的特徴、老年期の心理的アプローチ、高齢者福祉領域における多職種連携)	
12	認知症の理解と支援(認知症とは何か、軽度認知障害、認知症の周辺症状の理解とその対応、認知症高齢者とのコミュニケーション上の工夫と配慮、認知症高齢者の日常生活への援助の方法)	
13	高齢者虐待の現状と有効な対応(高齢者虐待とは何か、高齢者虐待の現状と実際の対応、高齢者虐待のリスク要因と予防及び再発防止に向けた対応)	
14	災害と福祉(災害と福祉心理学、こころのケアとウェルビーイング)	
15	多職種連携による支援(多職種協働に関わる専門職とその関わり、多職種協働とチームアプローチ、多職種連携と意思決定)	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	60	授業内容を理解できているか。毎日最後に実施する小テストの点数で評価する。	授業での取組	40	授業中のディスカッションでの発言および、質問に対する反応・回答内容より評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①集中講義であるので、予習は難しいかもしれないが、日ごろから福祉に関する報道に関心を持ち、自分なりの考えを持っておくこと。 ②毎回講義後に復習すること。不明な点はインターネット(信頼できるサイト)や図書館等で調べるなどすること。授業時も質問を受け付けます。	小テストは、採点の上、返却する。

受講生に望むこと	皆さんと一緒にディスカッションしながら楽しい授業を目指します。大いに発言してください。	教科書・テキスト	特に用いません。毎回、詳しいレジュメを配布します。
指定図書／参考書等	なし／『福祉心理学』渡部純夫・本郷一夫(編著)　ミネルヴァ書房　ISBN978-4-623-08627-6.　『生活支援の障害福祉学』奥野英子・結城俊哉(編著)　明石書店　ISBN978-4-75032-6-306.	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

小・中・高等学校の校長として勤務する中で、児童相談所等の職員との連携により子どもの安全・安心の確保に努めている。また、病院倫理委員として高齢者および家族に対する職員の倫理に関して心理学的観点から意見を発信している。
自身の経験を踏まえ、福祉の対象となる側(乳児・児童・障害者・高齢者)を軸に章立てをし，その分野の福祉的な諸問題に，心理学がどのように役立つのかをペア・グループワークやディスカッションを交えながら説明する。

授業科目名	司法・犯罪心理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	自由
担当教員名	宮城　徹						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
司法・犯罪心理学に関する一般的な知識とこの分野で働く心理職が身につけておくべき基礎的知識を学ぶ。 参加学生にテキスト内容の説明を求め、それに解説を加える。さらに理解を深めるためにディスカッションを行う。 ※SDGs目標番号3、5、11、16関連科目	（1）犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基礎知識を習得し、概要を説明できる。 （2）犯罪・非行分野における心理支援について、その特徴を学び、概要を説明できる。 （3）離婚問題を中心とする夫婦と子どもの心理的問題を学び、それらについて理解を深める。

教授方法	学生主導でテキスト内容の確認を中心とし、ペアワーク、グループワーク（学生間討議）も行う。
履修条件	認定心理士や公認心理士等、心理学に関連する職を目指す者、教職を目指す者が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	この授業の目的とゴール：イントロダクション、犯罪心理学の誕生と社会学的犯罪論（2-15）	
2	新しい犯罪心理学（16～29）	
3	犯罪原因論とリスクファクター（30～43）	
4	少年非行（44～59）	
5	刑事司法（60～73）	
6	アセスメント（74～87）	
7	精神障害（88～101）	
8	犯罪・司法臨床と認知行動療法（102～115）	
9	施設内処遇（116～131）	
10	社会内処遇（132～143）	
11	家事事件（166～180）注：テキストと順番が異なる。	
12	金沢家庭裁判所見学（家庭裁判所調査官、書記官から学ぶ）	
13	家庭裁判所見学振り返り 捜査と裁判（144～153）	
14	犯罪被害者支援　（154～165）	
15	補足および全体のまとめ、学生からのフィードバック、 期末レポート説明	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	30	最終日講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。	受講姿勢	30	グループ発表での役割、発言、質問、グループディスカッションなどの参加姿勢をみる。
毎回授業後課題(宿題)	40	授業内容と自己学習に基づく基礎知識と自分なりの意見を展開して答えているかどうかをみる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・シラバスを確認し、毎回行うテキストの内容を予習してくること［毎回60分x3回分］ ・発表担当のグループメンバーは役割分担、内容理解、進め方などについて、しっかりと事前の打ち合わせをしておくこと。 ・学習した内容のうち、自分が特に関心を持った項目について、文献探索、購読を行うこと。これが期末レポートの基礎になる。	・毎日の課題に関しては、次回授業冒頭でフィードバック（総評）を行う。 ・期末レポート（メール提出）に関しては、コメントをつけてメール返信を行う。

受講生に望むこと	・集中講義であり、1日でテキストの40ページ分を学習することになる。十分にテキストを読み込んで授業に参加すること。翌日の予習に加え、その日に出された課題を当日中に提出する必要がある。したがって、集中講義期間直前、期間中は極力アルバイトなどは入れず、予習、復習に打ち込めるようにしておくことが望まれる。 ・指定されたテキストはわかり易く書かれている。必ず予習をし、用語や概念を理解し、疑問点を明らかにして受講すること。 ・授業では事前学習で得た知識をもとにして、討議に積極的に参加すること。 ・オンライン授業となった場合には、必ずビデオカメラをオンにして参加すること(バーチャル背景は使用してよい)。	教科書・テキスト	『司法・犯罪心理学』（下山晴彦他監修、原田隆之編著）2024　ミネルヴァ書房　ISBN: 978-4-623-08629
指定図書／参考書等	なし／『犯罪心理学　ビギナーズガイド：　世界の捜査，裁判，矯正の現場から』　R. ブル、C.クック他著、仲真紀子監訳　2010　有斐閣 ISBN: 978-4-641-17369-9	その他・特記事項	本科目は集中講義であり、夏季に対面授業を実施する予定である。1回のフィールドワーク（金沢家庭裁判所見学）を計画している。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	精神疾患とその治療			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	曺 由寛						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
この授業の目的は、公認心理師として活動する上で関連の高い精神疾患について、特に心理師としての知識や理解を学習します。特には、①精神疾患総論、②薬剤による心身の変化、③医療機関との連携を含みます。 講義形式だけでなく、ペアワークやグループワーク、ディスカッション、体験等も用いながら行います。 ※SDGs目標番号3、5、8、10関連科目	①精神疾患総論（代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む。）についての理解及び説明をすることが出来る。 ②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について理解及び説明を することが出来る。 ③医療機関との連携について理解及び説明をすることが出来る。

教授方法	講義形式の授業
履修条件	学科指定の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	【精神疾患とは】精神疾患の概要、歴史的変遷、臨床心理学の歴史等を学び、理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
2	【精神症状のみかた】意識、知覚、思考、感情、意欲・意志の異常について理解し、それぞれ分類等を含めて説明することが出来ることを目標とします。	
3	【精神疾患の診断】診断時の面接の際に、注意すべき事項や、聴取・観察すべき事項、評価尺度や心理検査について理解をし、説明することが出来ることを目標とします。	
4	【精神疾患と薬物療法】抗うつ薬、抗不安薬・睡眠薬、抗精神病薬、気分安定薬、認知症治療薬の分類、作用機序、効果と使い方、副作用を理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
5	【心理療法・支援の基本】治療構造の重要性、支持的心理療法、精神分析的心理療法、認知行動療法のポイント、集団へのアプローチの基本を理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
6	【多職種連携とリエゾン精神医学】リエゾン精神医学の重要性、多職種連携の重要性について理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
7	【統合失調症】統合失調症の症状や操作的診断、伝統的診断、治療法、抗精神病薬の副作用について理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
8	【うつ病、双極症】うつ病、双極症の主な症状、治療法、患者と家族への支援の留意点を理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
9	【強迫症、不安症群】強迫症、不安症の症状、病態、治療について理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
10	【ストレス関連症群、解離症群】ストレス関連症群、解離症群の症状、病態、治療について理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
11	【神経発達症群】神経発達症群の代表的な疾患名と症状、診断手順、治療の基本方針について理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
12	【物質関連症、嗜癖症、秩序破壊的・衝動制御・素行症群】物質関連症群の代表的な疾患名と症状、診断手順、治療の基本方針について理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
13	【児童・思春期における心理的問題】児童・思春期の発達課題、特有な精神疾患、心理社会的治療について理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
14	【ジェンダーをめぐる問題】女性の心理的問題、LGBTQのメンタルヘルスについて理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
15	【高齢期における心理的問題】高齢者の心理的側面、不眠、うつ、認知症、家族に対する支援等について理解し、説明することが出来ることを目標とします。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
テスト	50	授業に関連した予習・復習、授業中の習熟度・理解度を見るテストを行います。	小課題	30	授業に関連した内容の思考力・考察力・活用力を見る課題を行います。
レポート	20	授業内容に関連した総合的な理解や整理、今後の活用についてみます。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・初回授業時に、指定教科書の各章末のQ&Aと同様の内容を、Qを問いとした小テストを行います。また、Q&Aに関連した小課題を行います。その為、初回授業までに、Q&AのAを回答出来るように準備すること、Q&Aの内容における疑問点を調べ、整理しておくこと。[計120分] ・テストや小課題・レポートに備えて、授業の予習・復習を行っておくこと。[30分]	・レポートは評価やコメントをつけて返却します。 ・評価やコメントに関する疑問・質問は応じます。 ・小課題に関しては、授業中に質問やフィードバックを行います。

受講生に望むこと	授業における知識技能を習得することは勿論のこと、それを今後どのように活かしていくかの想定や、活動イメージも作りながら受講してください。受講後にどのような変化、知識の活用を想定しているかを事前に持っておくことが望ましいです。	教科書・テキスト	「公認心理師カリキュラム準拠 精神疾患とその治療 第２版」 三村 将・幸田るみ子・成本 迅・新村 秀人 編 医歯薬出版　2025年 （ISBN 978-4-263-26685-4）
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	健康・医療心理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	森　彩香						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本授業は公認心理師を目指すにあたり必要な科目である。ストレスと心身反応との関連、保健・医療・災害等の現場における心理社会的課題についての理解を深める。また、心理職の実践的な支援方法を学ぶ。	以下の項目内容に関する知識を習得し、自らの言葉で概要を説明できるようになることを目標とする。 ①ストレスと心身の疾病との関係 ②医療現場における心理社会的課題及び必要な支援 ③保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援 ④災害時等に必要な心理に関する支援

教授方法	基本的に講義形式を予定しているが、適宜ディスカッションやグループワークも取り入れる。
履修条件	公認心理師、認定心理士、社会福祉士または対人援助職を目指す者が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：授業の進め方や成績評価基準の説明	
2	健康心理学①：健康心理学の特徴について学ぶ	
3	健康心理学②：健康心理学におけるアセスメントについて学ぶ	
4	健康心理学③：健康心理学における心理支援法について学ぶ	
5	ストレスとは何か①：ストレスと心身の疾病との関係について学ぶ	
6	ストレスとは何か②：ストレスの対処法について学ぶ	
7	医療心理学①：医療心理学の特徴について学ぶ	
8	医療心理学②：精神科・心療内科領域の疾患について学ぶ	
9	医療心理学③：児童精神科・小児科領域の疾患について学ぶ	
10	医療心理学④：医療心理学におけるアセスメントと心理支援法について学ぶ	
11	緩和医療：緩和医療現場での心理的援助について学ぶ	
12	災害心理学：災害時の心理状態の変化と心理支援法について学ぶ	
13	産業保健：産業保健現場での心理支援法について学ぶ	
14	地域保健活動：地域保健の現場での心理支援法について学ぶ	
15	全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	授業で取り扱った内容を習得できているかどうかを評価する。	リアクションペーパー	30	毎回の授業でリアクションペーパーを配布する。授業内容をもとに自分自身の考えを述べることができるかどうかを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義資料を読み、予習・復習を行う［60分］。 授業後に、自分自身のこれまでの体験が授業で習得した内容とどのように関わっているのかを自分なりに考察する［60分］。	提出してもらったリアクションペーパーについては、次回講義時に全体に対しコメントする。

受講生に望むこと	主に保健・医療現場の心理職には欠かせない知識や考え方を取り扱いますが、いずれも自分の言葉で他者に説明できるようになることを目指してください。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『公認心理師カリキュラム準拠 健康・医療心理学』宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫 編，医歯薬出版，2018年出版，ISBN-13:978-4263265772.	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	関係行政論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	自由
担当教員名	中野　修						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
この授業は公認心理師になるためのカリキュラム必修群の一つである。公認心理師が専門職として従事する分野の５つ：①保健医療分野、②福祉分野、③教育分野、④司法・犯罪分野、⑤産業・労働分野に分け、それぞれの分野に配置されている専門職とその役割、施設や整備されている各制度、法律を学ぶ。知識を取り入れるだけではなく、小テストの他、グループワークやペアワークなどを通じて、履修者同士での、相互の学び合いができるよう進めていく。 ※SDGs目標番号3関連科目	この授業を通して、公認心理師養成カリキュラムが定める次の５つの分野①保健医療分野②福祉分野③教育分野④司法・犯罪分野⑤産業・労働分野に関する政策や法律について知識を得て、具体的な適用について述べることができるようになる。

教授方法	講義・グループワーク・ペアワーク・小テスト
履修条件	公認心理師または対人援助職を目指す学生

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	はじめに：①公認心理師について（法的義務や倫理）②授業内容、課題、評価についての説明	
2	A.保健医療の分野について①どのような施設や専門家がいるのか？　②支える法律と政策	
3	A.保健医療の分野について③精神科医療と地域保健医療　④法律と政策の適用	
4	A.保健医療の分野について⑤保健医療の政策と法律のまとめ　⑥保健医療分野の振り返り（小テスト）	
5	B.福祉の分野について①どのような施設や専門家がいるのか？　②支える法律と政策	
6	B.福祉の分野について③生活保護、児童、障がい者、高齢者　④支える法律と政策	
7	B.福祉の分野について⑤保険制度　⑥支える法律と政策	
8	B.福祉の分野について⑦福祉政策と法律のまとめ　⑧福祉分野の振り返り（小テスト）	
9	C.教育の分野について①どのような施設や専門家がいるのか？　②支える法律と政策	
10	C.教育の分野について③いじめ、発達障がい　④支える法律と政策　⑤教育分野の振り返り（小テスト）	
11	D.司法・犯罪の分野について①どのような施設や専門家がいるのか？　②支える法律と政策	
12	D.司法・犯罪の分野について③刑事司法（成人）に関する法律と政策	
13	D.司法・犯罪の分野について④少年犯罪、犯罪被害者、家庭裁判所　⑤司法・犯罪分野の振り返り（小テスト）	
14	E.産業・労働の分野について①どのような施設や専門家がいるのか？　②支える法律と政策　③産業・労働分野の振り返り（小テスト）	
15	全体での振り返り（ペアワーク、グループワーク）（5分野）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加	40	授業における発言、課題への取り組み、グループやペアワークへの姿勢（詳細は授業オリエンテーションを参照）	課題	30	領域ごとに小テストを実施する。小テスト前までに、十分に復習しておくことを課題とする（詳細は授業オリエンテーションを参照）
全授業の振り返り	30	講義全体の振り返りをペア、グループワークを通して実施する。最終回授業にて行う（60分）			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事後学習：各授業の復習をして、制度や法律に関する知識を定着させること。他者に自分の言葉で説明できるようになることが望ましい（30分/回）	小テストは解答を行い、その都度、全体で各単元を復習する。 最終回の5分野の振り返りでは、ペアワーク、グループワークを行った後、全14回の講義の振り返りを全体で行う。

受講生に望むこと	関係行政論で学ぶ政策や法律は、あまりなじみがないかもしれません。しかし、クライエントやその関係者の生活を守り、支える上で非常に大切なものです。他の専門職と連携する上で必須の知識といえるでしょう。専門家を目指す仲間と学んだ内容を確認し合うなど、互いに学び合う姿勢で履修することを望んでいます。	教科書・テキスト	特になし
指定図書／参考書等	授業内で紹介する	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	心理実習			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	自由
担当教員名	植田　峰悠・齊藤　英俊・菊池　義人　（代表教員　植田　峰悠）						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
実習施設において、実習生が心理の支援を要する者及びその関係者に対して、実際に面接や検査を実施する、あるいは見学することを通じて、心理状態の観察及び分析並びに必要な支援（法第２条第１号から第３号までに規定する行為に相当するもの）を行う。また、実習担当教員や指導者が実習の前後に実習生に対して指導を行う。	1）心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析を説明できること。 2）心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助を説明できること。 3）心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助を説明できること。 4）心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を説明できること。

教授方法	実習施設の指導者による指導、実習担当教員の巡回指導。
履修条件	3年次までの公認心理師科目の単位を全て修得した者のうち、心理学教員が履修を認めた者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	事前指導：実習における注意点、実習に必要な知識を学ぶ。	
	実習：各施設において公認心理師の業務を体験的に学ぶ。	
	事後指導：各施設における実習の振り返り。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習施設における評価	50	実習施設の指導者による評定を基に評価する。	実習ノート	50	実践に繋がる学びを得たか、実習指導者の指示に従い実習したかを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
実習施設の指導者に従った課題をこなす。[90分]	実習指導者あるいは実習担当教員が適宜行う。

受講生に望むこと	臨床現場に出て体験的に心理師の仕事を学ぶ。努力の量ではなく結果を求められることを理解したうえで履修すること。予防接種など実習施設に指定された準備は自己負担である。	教科書・テキスト	テキストは担当教員から配付する
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	履修者数に制限のある科目である。心理学教員が認めた者のみ受講できる。学業成績と生活態度が優れ、かつ適性のある者のみ履修が認められる。

実務経験を活かした授業の概要

植田：実習生としての心構えやふるまい方、注意点、必要な知識、具体的な活動などについて、実務経験に基づく実践的な指導を行う。
菊池：実習を通じて観察し、体験した現場での臨床的な実践と講義等で得た知識や技術とが結びつけられるように、実務経験に基づく指導や解説を行っていく。
齊藤：実習生としての基本的な心構えやふるまい方、必要な知識、具体的な活動などについて、実践経験に基づいた指導を行う。

授業科目名	北陸学院セミナーⅠ			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	1年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教の学びに基づいた礼拝行事への参加、フレッシュマン・セミナー、オータム・セミナーへの参加を中心とする。授業時間を設けず、礼拝出席に伴う奨励感想小レポート、セミナー参加による課題提出により評価を行う。また、セミナーと礼拝以外に諸行事への参加を求める。 フレッシュマン・セミナーにおいては自己と他者を尊重する心をはぐくむ。学生同士、また教員との交流を通じ、学生生活の基本とする。オータム・セミナーにおいては、1・2年生合同で実施することにより学年を越えた学びと交流を通じ、多様な考え方について共有を図る。 ※SDGs目標番号3、12、13関連科目	1）聖書の言葉を、心を落ち着け、静かに聴いて親しみ、その意味を聴き取る方法を体得する。 2）賛美歌に親しみ、キリスト教精神を感得する。 3）祈りに加わり、有限な世界を越えた永遠の世界に思いを馳せる。 4）生の意味について考え、自分の存在の意味を考える。 5）世界と歴史の意味に触れる。 6）自己を発見し、職業選択を含めた、自分に与えられた使命を自覚する。 7）教職員や友人と交流し、価値観を広げるとともに、意思伝達能力や集団における行動力を育む。

教授方法	大学礼拝およびフレッシュマン・セミナーならびにオータム・セミナーへの参加
履修条件	宗教オリエンテーションおよび「キリスト教概論Ⅰ」で礼拝への参加方法を学び、セミナーについての学科オリエンテーションと準備作業に参加する。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	礼拝行事、セミナーの詳細は以下の通り。	
	1．大学礼拝	
	①礼拝：毎週平均2.5回以上、礼拝でメッセージを聴き、定期的にミニレポートを提出する。	
	②献金：礼拝でささげる献金をキリスト教行事や世界の子ども支援に用いる。	
	③花の日：６月　花を諸施設に届ける。	
	④特別伝道礼拝：牧師を招き春は１・３年生を対象に行う。１年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	⑤創立記念礼拝：９月　メッセージを通して学院の歴史、建学の精神に触れる。	
	⑥収穫感謝：11月　果物を各所に届ける。	
	⑦クリスマス礼拝：学外説教者を招き、特別な礼拝を行う。１年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	2．フレッシュマン・セミナー	
	全学科教員で実施に当たる本学独自の行事。全学科１年生が聖書から本学の歴史、精神を学び、学びの姿勢を整える。	
	3．各学部で実施されるオータム・セミナーには２年生と一緒に１年生も参加する。	
	①前期・後期それぞれ礼拝出席規程回数以上の礼拝出席をし、礼拝出席押印カードを提出すること、②フレッシュマン・セミナーに参加すること、③オータム・セミナーに参加すること、④クリスマス礼拝に出席することが本科目の単位認定要件となる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
礼拝ミニレポート	50	聖書・讃美歌を持参し、週平均2.5回以上大学礼拝でメッセージを聴き、定期的に感想レポートを提出している。	セミナー課題レポート	30	・セミナーでの講演を主体的に聴いて理解し、グループで話合いを行い、レポートで振り返りを行っている。 ・セミナーの課題やレポートが期日までに提出されている。指示どおり適切に作成されている。
クリスマス礼拝	20	クリスマス礼拝に出席する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1）日頃より、聖書・讃美歌に親しむことが望ましい。 2）地域の諸教会で行われている日曜日の礼拝に出席することが望ましい。出席する教会については学生要覧を参照、または宗教主事に質問する。 3）セミナーの準備に主体的に参加する。 4）セミナー参加後に、レポート等により問題意識を深める。	セミナーに対する感想や疑問の要点を捉え、大学礼拝での奨励の主題に取り入れて語る。

受講生に望むこと	1）毎日の大学礼拝に聖書と讃美歌を持って主体的に参加する。携帯電話等は持ち込まない。万が一持ち込んだ場合は電源を切り、鞄にしまう。私語を慎み、礼拝に集中する。終了時にカードに押印を受け、押印が終了したページを、裏面に感想を記し、前期・後期ともに、定められた提出期限内に提出する。私語や携帯使用など姿勢に問題がある場合、またカードが未提出の場合、欠席したとみなされる。 2）セミナーに主体的に参加することを望む。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会、2019年、ISBN978-4-8202-1344-4 『讃美歌21』日本基督教団出版局、2006年、ISBN978-4818437135
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	本科目は「北陸学院科目」として、全教職員の理解と協力の下における大学礼拝・セミナー準備・実施から成る。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教概論Ⅰ			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は全学生必修科目であり、北陸学院のキリスト教教育の基盤にある旧新約聖書について学ぶ入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。今日のグローバル・スタンダードの多くは、キリスト教の背景を持つ。本講義では、世界や人間存在の根幹にかかわる信仰および宗教とは何かを知ることから始める。続いて、キリスト教について、聖書に基づき、その概要を学び、他の宗教との違い、とくに各々の人間観・世界観・歴史観の相違を学ぶ。さらに、新約聖書の記述に直接触れつつ、代表的な主イエス・キリストのたとえ話に触れる。	北陸学院の建学の精神である「キリスト教の思想」を聖書によって知り、人間観、世界観、歴史観を広げる。 ①聖書について、キリスト教について、イエスの地上の生涯について、概略を理解することができる。 ②聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を身に付ける。 ③聖書を通して世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。 ④人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身に着ける。 ⑤他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。 ⑥北陸学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身につける。

教授方法	レジュメに基づく講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	・イントロダクション：自己紹介、本コースの概要説明、評価の仕方、使用テキストの説明。 ・礼拝の守り方、聖書の開き方、賛美歌の歌い方を学ぶ。大学礼拝の守り方、教会礼拝出席の姿勢について知る。	
2	・キリスト教、イスラム教、ユダヤ教、仏教をはじめとする世界の宗教状況について、基本知識を身につける。 ・自分自身の宗教観について改めて振り返ってみる。	
3	・世界宗教と呼ばれる諸宗教の中心的な教え（教理）を概観する。 ・マインドコントロールと信仰との違いについて考察する。	
4	・北陸学院の形成者たちと出会う。小テスト①準備。 ・史料編纂室特別講義	
5	・小テスト①：北陸学院の形成者 ・聖書という書物：聖書の描き出す神の大いなる物語（グランド・ストーリー）の大きな枠組みを理解し、それぞれの構成やジャンルを理解する。	
6	・小テスト②準備 ・主イエスのたとえ①：タラントンのたとえ　代表的な主イエスのたとえ話を通じて、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
7	・小テスト②：使徒信条 ・主イエスのたとえ②：放蕩息子を迎える父のたとえ　代表的な主イエスのたとえ話を通じて、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
8	・期末試験準備説明 ・授業評価アンケート	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	「振り返りシート」で授業内容について自分の言葉で感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。	小テスト	20	学期中2回（①「北陸学院の形成者」②「主の祈り」）、重要語句を書けるようにする小テストで評価。
教会出席レポート	20	教会の主日礼拝に出席し、説教内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。	学期末試験	40	講義内容の理解度を測る期末試験で評価。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。[30分] ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] ④収穫感謝・クリスマスにあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。[15分]	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「学期末試験」については全体講評をメソフィア等で告知する。

受講生に望むこと	・聖書・Chromebook を必ず持参すること。 ・遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ・本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『神学のよろこびーはじめての人のための「キリスト教神学」ガイド』新装増補改訂版、アリスター・Ｅ・マクグラス（芳賀力訳）、キリスト新聞社、2017年。ISBN: 978-4-87395-721-0　その他、授業内で紹介する。	その他・特記事項	・毎回、聖書並びに Chromebook を持参する。 ・授業中の他科目の内職、私語、スマホ操作など基本的社会マナー違反は放置せず注意する。繰り返されるマナー違反は厳しく減点する。他の受講生のためにも最低限のマナーは守ること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教概論Ⅱ			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は全学生必修科目であり、北陸学院のキリスト教教育の基盤にある旧新約聖書について学ぶ入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。今日の世界標準（グローバル・スタンダード）の多くは、キリスト教の背景を持つ。聖書はキリスト教の信仰と生活の基準であり、現在もっとも広く読まれているベストセラーでもある。本講義では、「キリスト教概論Ⅰ」の内容を前提として、聖書の大きなストーリーラインを学ぶ。旧約聖書の描き出す神の民の歴史から新約聖書の証しするイエス・キリストの出来事、創造から終末に至る聖書のグランド・ストーリーが自己の人生観・世界観にもたらすインパクトを探る。	北陸学院の建学の精神である「キリスト教の思想」を聖書によって知り、人間観、世界観、歴史観を広げる。 ①聖書について、キリスト教について、イエスの地上の生涯について、概略を理解することができる。 ②聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を身に付ける。 ③聖書を通して世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。 ④人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身に着ける。 ⑤他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。 ⑥北陸学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身につける。

教授方法	レジュメに基づく講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：担当教員自己紹介、本授業の概要、評価の仕方の説明。	
2	創造物語：この世界は神が造られた被造世界であり、神と人間が関わり合う舞台として形づくられたものであるという聖書の世界観を発見する。	
3	アブラハムの旅立ち：神の約束に信頼して旅立ったアブラハムの信仰物語を通じて、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
4	小テスト①準備 モーセの召命：モーセの物語を通じて、神に呼ばれその務めに立てられ、使命に生きるという人生観を発見する。	
5	小テスト①：十戒 出エジプト：神が苦しみ悩む者を解放し導く主であることを見出し、それが自らの人生に示唆するインパクトを探究する。	
6	小テスト②準備 イエス・キリストの誕生、その教えとわざ：イエス・キリストの生涯と働きを知り、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
7	小テスト②：使徒信条 十字架と復活：イエス・キリストの死と復活、そこから始まっていった教会の伝道のわざについて知り、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
8	・期末試験準備説明 ・授業評価アンケート	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	「振り返りシート」で授業内容について自分の言葉で感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。	小テスト	20	学期中2回（①「十戒」②「使徒信条」）、重要語句を書けるようにする小テストで評価。
教会出席レポート	20	教会の主日礼拝に出席し、説教内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。	学期末試験	40	講義内容の理解度を測る期末試験で評価。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。 ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[30分] ④収穫感謝・クリスマスにあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「定期試験」については全体講評をメソフィア等で告知する。

受講生に望むこと	・聖書・Chromebook を必ず持参すること。 ・遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ・本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。	教科書・テキスト	『聖書』（聖書協会共同訳）（日本聖書協会）
指定図書／参考書等	なし／授業の中で別途紹介する。	その他・特記事項	・聖書・Chromebookを必ず持参すること。 ・映像や音楽も取り入れた興味深い授業展開を目指す。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英会話入門			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	選択必修
担当教員名	豊田 春賀						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
「英会話Lv.1」受講者には同時履修を求める。英語初心者（CEFR-J: Pre A1～A1.1）を対象に、スピーキングとリスニングの基礎力を養う入門科目である。講義を通じて、発音・語彙・文法・日英変換のコツを学び、伝わりやすい話し方や英語学習のマインドセットを身につける。また、リスニング力向上に効果的なシャドーイング練習を取り入れ、音声の聞き取り能力を強化する。スピーキングに苦手意識を持つ学習者に特に推奨され、将来的に用いるであろう英会話能力習得の土台を築くことを目的としている。	この講義は、英語を話す際に必要な技術を学び、スピーキング力の土台を築くことを目的としています。英語でのコミュニケーション能力を上げ、最終的には仕事で英語が使えるようになることを目指します。 まずは講義を通して、英語学習の際のマインドセットや文法、発音、語彙、日英変換のコツを学びます。また、相手と円滑なコミュニケーションにはリスニング力が必要ですが、リスニング力の向上に効果があると言われている「シャドーイング練習」に取り組むことでリスニング力の素地を養います。

教授方法	オンライン形式による演習
履修条件	「英会話Lv.1」受講者には同時履修を求める。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	講義視聴：オリエンテーション	
2	講義視聴：英語学習の際のマインドセット、理解度テスト	
3	講義視聴：通じる英語を話すには？、理解度テスト	
4	講義視聴：これだけでもかなり伝わる！、理解度テスト	
5	講義視聴：出来る人が皆やっていること、理解度テスト	
6	講義視聴：次のレベルに行くには？、理解度テスト	
7	演習、シャドーイング課題１・２	
8	演習、シャドーイング課題３・４	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
平常点	10	受講認証を参考に、総合的に評価する	授業の理解	65	理解度テスト（全5回）と演習（シャドーイング課題の練習と提出／全4回）の提出状況および内容を評価する
最終試験	25	最終試験の提出状況および内容を評価する			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
前回授業の振り返りを行うこと（30分） 事後は当日授業のまとめと必要課題を行い次回に備える（30分）	閉講後に、提出物へのフィードバック ※閉講後に、課題4に対するフィードバックおこなう

受講生に望むこと	スピーキングに対する苦手意識を減らし、英語のリスニングでの課題を克服する	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／ 山田 暢彦 著.(2022).『中学英語をもう一度ひとつひとつわかりやすく。改訂版』. 学研プラス 竹村 和浩 著（2011）CDムック 「やり直し英語」から始める 「ビジネス英語」3か月トレーニング（語学シリーズ）	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英会話 Lv.1			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	選択必修
担当教員名	竹村　和浩・宇野 令一郎・豊田 春賀 （代表教員　竹村　和浩）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要

本科目の学習者の対象は、英語初心者レベル（CEFR-J: Pre A1～A1.1）です。このコースの目的は、基礎的な文法や表現の学習とともに「英語が必要なグロバールの現場で結果を出す力」を養うことです。まずは教科書に基づいて基礎的な文法・語彙・表現の学習を行い、それらの定着と応用練習を行います。さらに、ビジネスの現場でよくある場面での課題・問題を解決するタスクに取り組み、解決していただきます。タスクでは自分の言葉でそれらを解決するシミュレーションを行い、実践力を身につけていきます。
●本科目では、1対1のオンライン英会話を受講します。1レッスンは1セッション（25分）で終了するように設計されています
●1回目から3回目までは、3つの映像講義つき発音レッスンがあります。
●4回目以降27回目までのLesson 1-24は 25分のオンライン英会話1回で各内容をカバーします。
●レッスンはBBTオンライン英会話インストラクターが実施します。
●上記の活動への参加は、すべて成績評価の対象となります。
各セッションをスムーズに行うために、事前に学習内容を予習してください。セッション終了ごとにインストラクターのフィードバックがありますので、復習してください。

授業の到達目標

この講義の目的は、基礎的な文法や表現の学習とともに「英語が必要なグロバールの現場で結果を出す力」を養うことです。まずは教科書に基づいて基礎的な文法・語彙・表現の学習を行い、それらの定着と応用練習を行います。さらに、ビジネスの現場でよくある場面での課題・問題を解決するタスクに取り組み、解決していただきます。タスクでは自分の言葉でそれらを解決するシミュレーションを行い、実践力を身につけていきます。
●履修前にBESTを受験し、判定されたCEFR-Jレベルが上記に該当する場合は本科目を履修してください。ただし、レベルに違和感を覚える場合は、教務担当と相談のうえでレベルを決定し履修登録をしてください。
●自由予約制(6:00-24:00)。予約は1セッション＝25分単位。

●本レベル修了後は、 Lv2に進んでください。

教授方法	オンライン形式による演習
履修条件	「英会話入門」受講者には同時履修を求める。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1,2,3	1回目　発音,　　学習課題：映像講義を見ながら発音練習 2回目　発音,　　学習課題：映像講義を見ながら発音練習 3回目　発音,　　学習課題：映像講義を見ながら発音練習	
4,5	4回目　Lesson 1,　学習課題：Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 5回目　Lesson 2,　学習課題：Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
6,7	6回目　Lesson 3,　学習課題：Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 7回目　Lesson 4,　学習課題：Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
8,9	8回目　Lesson 5,　学習課題：Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 9回目　Lesson 6　Review,　学習課題：Unit 1-20の復習	
10,11	10回目　Lesson 7,　学習課題：Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 11回目　Lesson 8,　学習課題：Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
12,13	12回目　Lesson 9,　学習課題：Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 13回目　Lesson 10,　学習課題：Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
14,15	14回目　Lesson 11,　学習課題：Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 15回目　Lesson 12　Review,　学習課題：Unit 21-40の復習　※ Unit 41は自主学習	
16,17	16回目　Lesson 13,　学習課題：Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 17回目　Lesson 14,　学習課題：Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
18,19	18回目　Lesson 15,　学習課題：Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 19回目　Lesson 16,　学習課題：Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
20,21	20回目　Lesson 17　Review,　学習課題：Unit 42-57の復習 21回目　Lesson 18　,　学習課題：Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
22,23	22回目　Lesson 19　,　学習課題：Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 23回目　Lesson 20　,　学習課題：Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
24	24回目　　Lesson 21　,　学習課題：Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
25	25回目　Lesson 22　,　学習課題：Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
26	26回目　Lesson 23　,　学習課題：Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
27	27回目　Lesson 24 Review,　学習課題：Scene 1-12の復習 ※ Scene 13-15は自主学習	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
平常点	60	講義視聴、レッスンの受講　Lesson Attendance	授業の理解	40	4回分のレビュー Review Lessons（Lesson 6,12,17,24）

授業外における学習（事前・事後学習等）

各セッションをスムーズに行うために、事前に学習内容を予習してください。(30分)
セッション終了ごとにインストラクターのフィードバックがありますので、復習してください。(30分)

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

セッションごとに担当講師よりフィードバックがあります

受講生に望むこと	予習復習を行い、英会話レベルのステップアップを自分のペースで確実に進めてください。	教科書・テキスト	Ｚ会編集部 Adam Ezard 著. (2019).『英会話 Quick Response』. Z会__ISBN：9784862902689 初回のセッション受講までに必ず準備をお願いします。
指定図書／参考書等	なし／ 山田 暢彦 著.(2022).『中学英語をもう一度ひとつひとつわかりやすく。改訂版』. 学研プラス 竹村 和浩 著（2011）CDムック 「やり直し英語」から始める 「ビジネス英語」3か月トレーニング（語学シリーズ）	その他・特記事項	※1 Lesson (25min) = 1 sessions (25min x 1)

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英会話 Lv.2			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	選択必修
担当教員名	竹村　和浩・宇野 令一郎・豊田 春賀 （代表教員　竹村　和浩）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	3単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要

初級レベルの学習者（CEFR-J: A1.2）を対象に、日常生活や仕事の場に求められる英語スピーキング力を養う問題解決型のオンライン英会話コースである。本授業はオンライン会議システムを用いて行なう。授業は全体を通して講師との１対１のセッション形式で行われ、課題解決に取り組む。また実践的な課題を通じて語彙・表現を習得する。講師によるフィードバックや定期的な復習により、確実にスピーキング力を高める。
・本科目では、オンラインで英語の会話をマンツーマンで練習します。
・Lesson 1-24は 25分のオンライン英会話2回で各内容をカバーします。予習・復習が必要です。
・レッスンはBBTオンライン英会話インストラクターが実施します。
・上記の活動（会話練習および課題）への参加は、すべて成績評価の対象となります。

授業の到達目標

この講義の目的は、単に英語でスピーキングができるようになることではありません。「英語が必要なグローバルビジネスの現場で結果を出す力」をつけることです。
従って、ビジネスの現場で課題・問題を解決するタスクが出され、自分自身の言葉で解決するシミュレーションが含まれた、問題解決型スピーキングコースとなっています。
●履修前にBEST本を受験し、判定されたCEFR-Jレベルが該当する場合は本科目を履修してください。ただし、レベルに違和感を覚える場合は、教務担当と相談のうえでレベルを決定し履修登録をしてください。
教材内で、必要な単語・フレーズ・語法も身につけていきます。
●自由予約制(6:00-24:00)。予約は1セッション＝25分単位。
●本科目では、1対1のオンライン英会話（24レッスン）を受講します。1レッスンは50分（25分x2セッション）で終了するように設計されています（セッションは計48回受講）。
●各セッションをスムーズに行ううえで、事前に学習内容を予習してください。
●セッション終了ごとにインストラクターのフィードバックがありますので、復習してください。
●着実に話す力がつくよう、3レッスンごとに復習レッスンがあります。
●全48回のセッションを通して、当該レベルを終了します。
●本レベル修了後は、Lv3に進んでください。

教授方法	オンライン形式による演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1,2	1回目　Lesson 1,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 2回目　Lesson 2,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
3,4	3回目　Lesson 3,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 4回目　Lesson 4: Review of Lesson 1-3　,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
5,6	5回目　Lesson 5,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 6回目　Lesson 6,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
7.8	7回目　Lesson 7,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 8回目　Lesson 8: Review of Lesson 5-7,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
9.10	9回目　Lesson 9,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 10回目　Lesson 10,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
11,12	11回目　Lesson 11,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 12回目　Lesson 12: Review of Lesson 9-11　,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
13,14	13回目　Lesson 13,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 14回目　Lesson 14,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
15,16	15回目　Lesson 15,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 16回目　Review 16: Review of Lesson 13-15,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
17,18	17回目　Lesson 17,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 18回目　Lesson 18,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
19	19回目　Lesson 19,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
20	20回目　Lesson 20: Review of Lesson 17-19　,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
21	21回目　Lesson 21,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
22	22回目　Lesson 22,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習22回目	
23	23回目　Lesson 23,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
24	24回目　Review 24: Review of Lesson 21-23,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
平常点	48	講義視聴、レッスンの受講　Lesson Attendance	授業の理解	52	12回分のレビューReview Lessons（Lesson 4,8,12,16,20,24）

授業外における学習（事前・事後学習等）

各セッションをスムーズに行うために、事前に学習内容を予習してください。(30分)
セッション終了ごとにインストラクターのフィードバックがありますので、復習してください。(30分)

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

セッションごとに担当講師よりフィードバックがあります

受講生に望むこと	予習復習を行い、英会話レベルのステップアップを自分のペースで確実に進めてください。	教科書・テキスト	BBTオンラインの「レッスンマテリアル」 ＜オンライン提供により購入不要＞
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	※1 Lesson (50 min) = 2 sessions (25min x 2)

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英会話 Lv.3			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	選択必修
担当教員名	竹村　和浩・宇野 令一郎・豊田 春賀 （代表教員　竹村　和浩）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	3単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要

初級レベル後半（CEFR-J: A2.1）の学習者を対象に、日常生活や仕事の現場に必要な英語スピーキング力と問題解決能力を養う１対１のオンライン英会話コースである。この授業はオンライン会議システムを用いて行う。全体を通して講師との１対１のセッション形式で行われ、実践的な課題解決に取り組みながら、語彙・表現を身につける。講師によるフィードバックや定期的な復習により、確実にスピーキング力を高める。
・本科目では、オンラインで英語の会話をマンツーマンで練習します。
・Lesson 1-24は 25分のオンライン英会話2回で各内容をカバーします。予習・復習が必要です。
・レッスンはBBTオンライン英会話インストラクターが実施します。
・上記の活動（会話練習および課題）への参加は、すべて成績評価の対象となります。

授業の到達目標

この講義の目的は、単に英語でスピーキングができるようになることではありません。「英語が必要なグローバルビジネスの現場で結果を出す力」をつけることです。
従ってこの講義は、ビジネスの現場で課題・問題を解決するタスクが出され、自分自身の言葉で解決するシミュレーションが含まれた、問題解決型スピーキングコースとなっています。
●履修前にBBSTを受験し、判定されたCEFR-Jレベルが該当する場合は本科目を履修してください。ただし、レベルに違和感を覚える場合は、教務担当と相談のうえでレベルを決定し履修登録をしてください。
教材内で、必要な単語・フレーズ・語法も身につけていきます。
●自由予約制(6:00-24:00)。予約は1セッション＝25分単位。
●本科目では、1対1のオンライン英会話（24レッスン）を受講します。1レッスンは50分（25分x2セッション）で終了するように設計されています（セッションは計48回受講）。
●各セッションをスムーズに行ううえで、事前に学習内容を予習してください。
●セッション終了ごとにインストラクターのフィードバックがありますので、復習してください。
●着実に話す力がつくよう、3レッスンごとに復習レッスンがあります。
●全48回のセッションを通して、当該レベルを終了します。
●本レベル修了後は、Lv4に進んでください。

教授方法	オンライン形式による演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1,2	1回目　Lesson 1,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 2回目　Lesson 2,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
3,4	3回目　Lesson 3,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 4回目　Lesson 4: Review of Lesson 1-3　,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
5,6	5回目　Lesson 5,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 6回目　Lesson 6,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
7.8	7回目　Lesson 7,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 8回目　Lesson 8: Review of Lesson 5-7,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
9.10	9回目　Lesson 9,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 10回目　Lesson 10,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
11,12	11回目　Lesson 11,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 12回目　Lesson 12: Review of Lesson 9-11　,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
13,14	13回目　Lesson 13,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 14回目　Lesson 14,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
15,16	15回目　Lesson 15,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 16回目　Review 16: Review of Lesson 13-15,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
17,18	17回目　Lesson 17,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 18回目　Lesson 18,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
19	19回目　Lesson 19,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
20	20回目　Lesson 20: Review of Lesson 17-19　,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
21	21回目　Lesson 21,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
22	22回目　Lesson 22,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習22回目	
23	23回目　Lesson 23,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
24	24回目　Review 24: Review of Lesson 21-23,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
平常点	48	講義視聴、レッスンの受講　Lesson Attendance	授業の理解	52	12回分のレビューReview Lessons（Lesson 4,8,12,16,20,24）

授業外における学習（事前・事後学習等）

各セッションをスムーズに行うために、事前に学習内容を予習してください。(30分)
セッション終了ごとにインストラクターのフィードバックがありますので、復習してください。(30分)

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

セッションごとに担当講師よりフィードバックがあります

受講生に望むこと	予習復習を行い、英会話レベルのステップアップを自分のペースで確実に進めてください。	教科書・テキスト	BBTオンラインの「レッスンマテリアル」 ＜オンライン提供により購入不要＞
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	※1 Lesson (50 min) = 2 sessions (25min x 2)

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英会話 Lv.4			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	選択必修
担当教員名	竹村　和浩・宇野 令一郎・豊田 春賀 （代表教員　竹村　和浩）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	3単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要

英語初級者3（CEFR-J: A2.2）レベルの学習者を対象に、日常生活や仕事の現場で成果を出すための英語スピーキング力を養う1対1のオンライン英会話コースである。この授業はオンライン会議システムを用いて行ない、全体を通して講師との1対1のセッション形式で行われる。実践的な課題解決に取り組みながら、語彙・表現を身につける。講師によるフィードバックや定期的な復習により、確実にスピーキング力を高める。
・本科目では、オンラインで英語の会話をマンツーマンで練習します。
・Lesson 1-24は 25分のオンライン英会話2回で各内容をカバーします。予習・復習が必要です。
・レッスンはBBTオンライン英会話インストラクターが実施します。
・上記の活動（会話練習および課題）への参加は、すべて成績評価の対象となります。

授業の到達目標

この講義の目的は、単に英語でスピーキングができるようになることではありません。「英語が必要なグローバルビジネスの現場で結果を出す力」をつけることです。
従ってこの講義は、ビジネスの現場で課題・問題を解決するタスクが出され、自分自身の言葉で解決するシミュレーションが含まれた、問題解決型スピーキングコースとなっています。
●履修前にBEST-Jを受験し、判定されたCEFR-Jレベルが該当する場合は本科目を履修してください。ただし、レベルに違和感を覚える場合は、教務担当と相談のうえでレベルを決定し履修登録をしてください。
教材内で、必要な単語・フレーズ・語法も身につけていきます。
●自由予約制(6:00-24:00)。予約は1セッション＝25分単位。
●本科目では、1対1のオンライン英会話（24レッスン）を受講します。1レッスンは50分（25分x2セッション）で終了するように設計されています（セッションは計48回受講）。
●各セッションをスムーズに行うラスで、事前に学習内容を予習してください。
●セッション終了ごとにインストラクターのフィードバックがありますので、復習してください。
●着実に話す力がつくよう、3レッスンごとに復習レッスンがあります。
●全48回のセッションを通して、当該レベルを終了します。
●本レベル修了後は、Lv.5に進んでください。

教授方法	オンライン形式による演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1,2	1回目　Lesson 1,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 2回目　Lesson 2,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
3,4	3回目　Lesson 3,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 4回目　Lesson 4: Review of Lesson 1-3　,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
5,6	5回目　Lesson 5,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 6回目　Lesson 6,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
7.8	7回目　Lesson 7,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 8回目　Lesson 8: Review of Lesson 5-7,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
9.10	9回目　Lesson 9,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 10回目　Lesson 10,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
11,12	11回目　Lesson 11,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 12回目　Lesson 12: Review of Lesson 9-11　,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
13,14	13回目　Lesson 13,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 14回目　Lesson 14,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
15,16	15回目　Lesson 15,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 16回目　Review 16: Review of Lesson 13-15,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
17,18	17回目　Lesson 17,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 18回目　Lesson 18,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
19	19回目　Lesson 19,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
20	20回目　Lesson 20: Review of Lesson 17-19　,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
21	21回目　Lesson 21,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
22	22回目　Lesson 22,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習22回目	
23	23回目　Lesson 23,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
24	24回目　Review 24: Review of Lesson 21-23,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
平常点	48	講義視聴、レッスンの受講　Lesson Attendance	授業の理解	52	12回分のレビューReview Lessons（Lesson 4,8,12,16,20,24）

授業外における学習（事前・事後学習等）

各セッションをスムーズに行うために、事前に学習内容を予習してください。(30分)
セッション終了ごとにインストラクターのフィードバックがありますので、復習してください。(30分)

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

セッションごとに担当講師よりフィードバックがあります

受講生に望むこと	予習復習を行い、英会話レベルのステップアップを自分のペースで確実に進めてください。	教科書・テキスト	BBTオンラインの「レッスンマテリアル」 ＜オンライン提供により購入不要＞
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	※1 Lesson (50 min) = 2 sessions (25min x 2)

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英会話 Lv.5			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	選択必修
担当教員名	竹村　和浩・宇野 令一郎・豊田 春賀 （代表教員　竹村　和浩）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	3単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要

英語初中級者（CEFR-J: B1.1以上）レベルの学習者を対象に、日常生活や仕事の現場で成果を出すためのスピーキング力を養う１対１のオンライン英会話コースである。授業はオンライン会議システムを用いて行う。全体を通して講師との１対１のセッション形式で行われ、自分の言葉で問題に対応する力を身につける。語彙・表現も教材内で学習し、講師によるフィードバックや定期的な復習により、確実にスピーキング力を高める。

・本科目では、オンラインで英語の会話をマンツーマンで練習します。
・Lesson 1-24は 25分のオンライン英会話2回で各内容をカバーします。予習・復習が必要です。
・レッスンはBBTオンライン英会話インストラクターが実施します。
・上記の活動（会話練習および課題）への参加は、すべて成績評価の対象となります。

授業の到達目標

この講義の目的は、単に英語でスピーキングができるようになることではありません。「英語が必要なグローバルビジネスの現場で結果を出す力」をつけることです。
従ってこの講義は、ビジネスの現場で課題・問題を解決するタスクが出され、自分自身の言葉で解決するシミュレーションが含まれた、問題解決型スピーキングコースとなっています。
●履修前にBEST-Sを受験し、判定されたCEFR-Jレベルが該当する場合は本科目を履修してください。ただし、レベルに違和感を覚える場合は、教務担当と相談のうえでレベルを決定し履修登録をしてください。
教材内で、必要な単語・フレーズ・語法も身につけていきます。
●自由予約制(6:00-24:00)。予約は1セッション＝25分単位。
●本科目では、1対1のオンライン英会話（24レッスン）を受講します。1レッスンは50分（25分x2セッション）で終了するように設計されています（セッションは計48回受講）。
●各セッションをスムーズに行ううえで、事前に学習内容を予習してください。
●セッション終了ごとにインストラクターのフィードバックがありますので、復習してください。
●資実に話す力がつくよう、3レッスンごとに復習レッスンがあります。
●全48回のセッションを通して、当該レベルを終了します。
●本レベル修了後は、Lv.6に進んでください。

教授方法	オンライン形式による演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1,2	1回目　Lesson 1,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 2回目　Lesson 2,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
3,4	3回目　Lesson 3,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 4回目　Lesson 4: Review of Lesson 1-3　,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
5,6	5回目　Lesson 5,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 6回目　Lesson 6,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
7,8	7回目　Lesson 7,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 8回目　Lesson 8: Review of Lesson 5-7,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
9,10	9回目　Lesson 9,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 10回目　Lesson 10,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
11,12	11回目　Lesson 11,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 12回目　Lesson 12: Review of Lesson 9-11　,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
13,14	13回目　Lesson 13,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 14回目　Lesson 14,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
15,16	15回目　Lesson 15,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 16回目　Review 16: Review of Lesson 13-15,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
17,18	17回目　Lesson 17,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 18回目　Lesson 18,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
19	19回目　Lesson 19,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
20	20回目　Lesson 20: Review of Lesson 17-19　,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
21	21回目　Lesson 21,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
22	22回目　Lesson 22,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習22回目	
23	23回目　Lesson 23,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
24	24回目　Review 24: Review of Lesson 21-23,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
平常点	48	講義視聴、レッスンの受講　Lesson Attendance	授業の理解	52	12回分のレビューReview Lessons（Lesson 4,8,12,16,20,24）

授業外における学習（事前・事後学習等）

各セッションをスムーズに行うために、事前に学習内容を予習してください。(30分)
セッション終了ごとにインストラクターのフィードバックがありますので、復習してください。(30分)

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

セッションごとに担当講師よりフィードバックがあります

受講生に望むこと	予習復習を行い、英会話レベルのステップアップを自分のペースで確実に進めてください。	教科書・テキスト	BBTオンラインの「レッスンマテリアル」 ＜オンライン提供により購入不要＞
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	※1 Lesson (50 min) = 2 sessions (25min x 2)

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英会話 Lv.6			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	選択必修
担当教員名	竹村　和浩・宇野 令一郎・豊田 春賀 （代表教員　竹村　和浩）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	3単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要

英語中級者（CEFR-J：B1.2以上、B1.1以上も可）レベルの学習者を対象に、日常生活や仕事の現場で成果を出すためのスピーキング力を育成する１対１のオンライン英会話コースである。授業はオンライン会議システムを用いて行う。全体を通して講師との１対１のセッション形式で行われる。具体的には課題解決型の実践的タスクを通じて語彙・表現を習得し、予習・復習、定期的な確認レッスンにより着実な力を養成する。
・本科目では、オンラインで英語の会話をマンツーマンで練習します。
・Lesson 1-24は 25分のオンライン英会話2回で各内容をカバーします。予習・復習が必要です。
・レッスンはBBTオンライン英会話インストラクターが実施します。
・上記の活動（会話練習および課題）への参加は、すべて成績評価の対象となります。

授業の到達目標

この講義の目的は、単に英語でスピーキングができるようになることではありません。「英語が必要なグローバルビジネスの現場で結果を出す力」をつけることです。
従ってこの講義は、ビジネスの現場で課題・問題を解決するタスクが出され、自分自身の言葉で解決するシミュレーションが含まれた、問題解決型スピーキングコースとなっています。
●履修前にBEST-Sを受験し、判定されたCEFR-Jレベルが該当する場合は本科目を履修してください。ただし、レベルに違和感を覚える場合は、教務担当と相談のうえでレベルを決定し履修登録をしてください。
教材内で、必要な単語・フレーズ・語法も身につけていきます。
●自由予約制(6:00-24:00)。予約は1セッション＝25分単位。
●本科目では、1対1のオンライン英会話（24レッスン）を受講します。1レッスンは50分（25分x2セッション）で終了するように設計されています（セッションは計48回受講）。
●各セッションをスムーズに行うラえで、事前に学習内容を予習してください。
●セッション終了ごとにインストラクターのフィードバックがありますので、復習してください。
●着実に話す力がつくよう、3レッスンごとに復習レッスンがあります。
●全48回のセッションを通して、当該レベルを終了します。
●本レベル修了後は、Lv.7に進んでください。

教授方法	オンライン形式による演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1,2	1回目　Lesson 1,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 2回目　Lesson 2,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
3,4	3回目　Lesson 3,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 4回目　Lesson 4: Review of Lesson 1-3　,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
5,6	5回目　Lesson 5,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 6回目　Lesson 6,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
7.8	7回目　Lesson 7,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 8回目　Lesson 8: Review of Lesson 5-7,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
9.10	9回目　Lesson 9,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 10回目　Lesson 10,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
11,12	11回目　Lesson 11,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 12回目　Lesson 12: Review of Lesson 9-11　,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
13,14	13回目　Lesson 13,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 14回目　Lesson 14,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
15,16	15回目　Lesson 15,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 16回目　Review 16: Review of Lesson 13-15,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
17,18	17回目　Lesson 17,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 18回目　Lesson 18,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
19	19回目　Lesson 19,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
20	20回目　Lesson 20: Review of Lesson 17-19　,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
21	21回目　Lesson 21,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
22	22回目　Lesson 22,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習22回目	
23	23回目　Lesson 23,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
24	24回目　Review 24: Review of Lesson 21-23,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
平常点	48	講義視聴、レッスンの受講　Lesson Attendance	授業の理解	52	12回分のレビューReview Lessons（Lesson 4,8,12,16,20,24）

授業外における学習（事前・事後学習等）

各セッションをスムーズに行うために、事前に学習内容を予習してください。(30分)
セッション終了ごとにインストラクターのフィードバックがありますので、復習してください。(30分)

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

セッションごとに担当講師よりフィードバックがあります

受講生に望むこと	予習復習を行い、英会話レベルのステップアップを自分のペースで確実に進めてください。	教科書・テキスト	BBTオンラインの「レッスンマテリアル」 ＜オンライン提供により購入不要＞
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	※1 Lesson (50 min) = 2 sessions (25min x 2)

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英会話 Lv.7			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	選択必修
担当教員名	竹村　和浩・宇野 令一郎・豊田 春賀 （代表教員　竹村　和浩）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	3単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要

英語中上級者（CEFR-J：B2.1以上、B1.1以上も可）レベルの学習者を対象とした、1対1のオンライン英会話コースである。授業はオンライン会議システムを用い、全体を通して講師との1対1のセッション形式で行われる。ファイナンスを含むビジネス課題や日常生活における課題の解決を英語でシミュレーションし、実践的な表現力を養う。教材には必要な語彙や語法も含まれ、予習・復習や定期的な復習レッスンにより、着実なスピーキング力向上を図る。
・本科目では、オンラインで英語の会話をマンツーマンで練習します。
・Lesson 1-24は 25分のオンライン英会話2回で各内容をカバーします。予習・復習が必要です。
・レッスンはBBTオンライン英会話インストラクターが実施します。
・上記の活動（会話練習および課題）への参加は、すべて成績評価の対象となります。

授業の到達目標

この講義の目的は、単に英語でスピーキングができるようになることではありません。「英語が必要なグローバルビジネスの現場で結果を出す力」をつけることです。
従ってこの講義は、ビジネスの現場で課題・問題を解決するタスクが出され、自分自身の言葉で解決するシミュレーションが含まれた、問題解決型スピーキングコースとなっています。
●履修前にBEST-を受験し、判定されたCEFR-Jレベルが該当する場合は本科目を履修してください。ただし、レベルに違和感を覚える場合は、教務担当と相談のうえでレベルを決定し履修登録をしてください。
教材内で、必要な単語・フレーズ・語法も身につけていきます。
●自由予約制(6:00-24:00)。予約は1セッション＝25分単位。
●本科目では、1対1のオンライン英会話（24レッスン）を受講します。1レッスンは50分（25分x2セッション）で終了するように設計されています（セッションは計48回受講）。
●各セッションをスムーズに行ううえで、事前に学習内容を予習してください。
●セッション終了ごとにインストラクターのフィードバックがありますので、復習してください。
●着実に話す力がつくよう、3レッスンごとに復習レッスンがあります。
●全48回のセッションを通して、当該レベルを終了します

教授方法	オンライン形式による演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1,2	1回目　Lesson 1,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 2回目　Lesson 2,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
3,4	3回目　Lesson 3,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 4回目　Lesson 4: Review of Lesson 1-3　,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
5,6	5回目　Lesson 5,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 6回目　Lesson 6,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
7.8	7回目　Lesson 7,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 8回目　Lesson 8: Review of Lesson 5-7,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
9.10	9回目　Lesson 9,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 10回目　Lesson 10,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
11,12	11回目　Lesson 11,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 12回目　Lesson 12: Review of Lesson 9-11　,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
13,14	13回目　Lesson 13,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 14回目　Lesson 14,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
15,16	15回目　Lesson 15,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 16回目　Review 16: Review of Lesson 13-15,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
17,18	17回目　Lesson 17,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習 18回目　Lesson 18,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
19	19回目　Lesson 19,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
20	20回目　Lesson 20: Review of Lesson 17-19　,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
21	21回目　Lesson 21,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
22	22回目　Lesson 22,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習22回目	
23	23回目　Lesson 23,　学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	
24	24回目　Review 24: Review of Lesson 21-23,_学習課題Pre-tasks:予習 / Post-tasks:復習	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
平常点	48	講義視聴、レッスンの受講　Lesson Attendance	授業の理解	52	12回分のレビューReview Lessons（Lesson 4,8,12,16,20,24）

授業外における学習（事前・事後学習等）

各セッションをスムーズに行うために、事前に学習内容を予習してください。(30分)
セッション終了ごとにインストラクターのフィードバックがありますので、復習してください。(30分)

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

セッションごとに担当講師よりフィードバックがあります

受講生に望むこと	予習復習を行い、英会話レベルのステップアップを自分のペースで確実に進めてください。	教科書・テキスト	BBTオンラインの「レッスンマテリアル」 ＜オンライン提供により購入不要＞
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	※1 Lesson (50 min) = 2 sessions (25min x 2)

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	情報機器演習Ａ			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	必修
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義の目的は２つある。第１は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。代表的なアプリケーションである文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法を習得する。第２は、AI活用が前提となる社会で活躍できる基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。これらの目的を満たすために、コンピュータを用いた演習形式の授業を行なう。	学内ネットワークを活用できる。 ②情報モラルについてNESSを用いた小テストに合格できる。 ③ゼミ活動のレポート作成に必要な文章編集能力を身につける。 ④基本的なExcel操作ができる。 ⑤プレゼンテーションソフトを用いた発表ができる。 ⑥タッチタイピングの能力が身につく。

教授方法	演習形式でおこなう。MicrosoftOfficeとGoogle Workspaceを活用する。NESSを用いたテストと振り返りを行なう。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：15回の流れと授業実施方法、評価方法を伝える。 学内環境・課題提出法レクチャー：学内ネットワーク活用・Google Workspace課題提出・情報モラルについて学ぶ	
2	汎用技能習得　：Microsoft Office とGoogle Workspace間のデータ往還について学ぶ。Word・Excel・PowerPoint、Googleドキュメント・スプレッドシート・スライドの基本的な利用方法について学習する。	
3	汎用技能習得②：授業で活用できるように。Word・PowerPointの最低限の使い方について学ぶ。あわせてタッチタイピングの学習方法について紹介する。	
4	セキュリティと情報モラル　：セキュリティを高めるための知識と、情報モラルを身につける。	
5	セキュリティと情報モラル②：AI社会における情報モラルを身につける。	
6	Word　：Step2 Lesson2レポート作成に必要な機能について学ぶ。様々な授業で求められる最低限のレポート作成技術を身につける。	
7	Word②：Step2 Lesson2レポート作成に必要な機能について学ぶ。様々な授業で求められる最低限のレポート作成技術を身につける。	
8	Excel　：Step1 Excelの基本操作方法について学ぶ。データ入力やシート管理、ブック管理などの方法について学習する。	
9	Excel②：Step2 表の作成・関数の入力について学ぶ。基本的な関数の取り扱いに加えて、レイアウトやデザインについて学習する。	
10	Excel③：Step3 グラフの作成方法について学ぶ。汎用的に使われるグラフの作成方法を学び、見やすいグラフを作ることができるようになる。	
11	PowerPoint　：Step1 Lesson1 プレゼンテーションの骨格である構成作りの方法について学ぶ。言い回しやパラランゲージなどの効果についても学習する。	
12	PowerPoint②：Step2 Lesson1 新規スライドを作成し、スライドの編集ツールの使い方について学ぶ。	
13	PowerPoint③：Step3 発表するときの注意点について学ぶ。発声方法や視線の動かし方などについての注意点について紹介する。	
14	PowerPoint④：発表スライド準備をおこなう。「自分の持ち物の魅力」について、3分程度で紹介するスライドを作成する。	
15	PowerPoint⑤：相互発表と評価①をおこなう。少人数グループに分かれて発表を行ない、相互に評価をおこなう。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
NESSによる理解度テスト	40	NESSを用いた理解度テストにより評価する。セキュリティと情報モラル・Word・Excel・PowerPointそれぞれの指定された箇所について期日までに回答する。	成果物提出	20	Word、Excelそれぞれの成果物について習熟度の評価をおこなう。
プレゼンテーション評価	20	PowerPointスライド作成、発表、相互評価について評価をおこなう。	タッチタイピング	20	NESSで実施するタッチタイピングテストにおいて、向上度合いに基づいて評価をおこなう。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。（30分程度） ②PowerPointのプレゼンテーションがスムースに行えるように練習する。（30分程度） ③WordやExcelの操作が教師の指示なしでもできるように練習する。（30分程度） ④パソコンの操作は慣れることが重要である。特にキーボードからの日本語入力の速度が課題完成に大きく影響するので、入力速度の向上のためのタッチタイピング練習を行う。（20分程度）	課題は随時評価の上で返却する。

受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。	教科書・テキスト	『イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル Microsoft365・Officeバージョンフリー 【NESS付】』noa出版(2026年)ISBN978-4-911200-06-3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	情報機器演習Ｂ			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	必修
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義の目的は２つある。第１は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。「情報機器演習A」に続き、代表的なアプリケーションである文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方習得を深める。第２は、AI活用が前提となる社会で活躍できる基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。これらの目的を満たすために、コンピュータを用いた演習形式の授業を行なう。	学内ネットワークを活用できる。 ②情報モラルについてNESSを用いた小テストに合格できる。 ③ゼミ活動のレポート作成に必要な文章編集能力を身につける。 ④基本的なExcel操作ができる。 ⑤プレゼンテーションソフトを用いた発表ができる。 ⑥タッチタイピングの能力が身につく。

教授方法	演習形式でおこなう。MicrosoftOfficeとGoogle Workspaceを活用する。NESSを用いたテストと振り返りを行なう。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	前期の復習：Microsoft Office とGoogle Workspaceの往還とデータの取り扱い方法について復習する。Google Formsの作成方法について学習する。	
2	Excel④：Step2 Lesson1 表の書式設定と、Lesson2　印刷イメージについてより詳細な管理方法について学ぶ。Google Formsを用いたアンケートを実施する。	
3	Excel⑤：Step2 Lesson3　一般的によく使われる高度な関数の活用方法について学ぶ。Google Formsのデータ集計をおこなう。	
4	Excel⑥：Step3 Lesson1・2　分析やプレゼンテーションなどで用いられる高度なグラフを作成方法について学ぶ。	
5	Word③：Step2 Lesson2レポート作成に必要な機能について学ぶ。Excelで作成した表やグラフをWord文書内に取り入れたレポート作成の技術を身につける。	
6	セキュリティと情報モラル③：Step1 Lesson3　不正アクセスを防止する方法について詳しく学ぶ。	
7	セキュリティと情報モラル④：Step2 Lesson1・2・3　情報共有や論文作成の場面で求められる情報モラルを身につける。	
8	セキュリティと情報モラル⑤：Step3　AI社会で注意が必要な情報モラルを身につける。	
9	PowerPoint⑥：プレゼンテーションの骨格である構成作りの方法と、言い回しやパラランゲージなどの効果について復習する。	
10	PowerPoint⑦：スライドデザインの詳細な設定について学習する。図形描画機能について学習する。	
11	PowerPoint⑧：表やグラフを活用した効果的なプレゼンテーションを実現する方法について学習する。	
12	PowerPoint⑨：ノート機能を活用したスライド発表方法について学習する。表とグラフを用い、指定されたテーマで3分程度で紹介するスライドの構成を考える。	
13	PowerPoint⑩：発表スライド準備をおこなう。表とグラフを用い、指定されたテーマで3分程度で紹介するスライドを作成し、リハーサルをおこなう。	
14	PowerPoint⑪：相互発表と評価②をおこなう。少人数グループに分かれて発表を行ない、相互に評価をおこなう。	
15	PowerPoint⑫：相互発表と評価②をおこなう。少人数グループに分かれて発表を行ない、相互に評価をおこなう。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
NESSによる理解度テスト	40	NESSを用いた理解度テストにより評価する。セキュリティと情報モラル・Word・Excel・PowerPointそれぞれの指定された箇所について期日までに回答する。	成果物提出	10	Excel、Wordの成果物について習熟度の評価をおこなう。
プレゼンテーション評価	30	PowerPointスライド作成、発表、相互評価について評価をおこなう。	タッチタイピング	20	NESSで実施するタッチタイピングテストにおいて、向上度合いに基づいて評価をおこなう。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。（30分程度） ②PowerPointのプレゼンテーションがスムースに行えるように練習する。（30分程度） ③WordやExcelの操作が教師の指示なしでもできるように練習する。（30分程度） ④パソコンの操作は慣れることが重要である。特にキーボードからの日本語入力の速度が課題完成に大きく影響するので、入力速度の向上のためのタッチタイピング練習を行う。（20分程度）	課題は随時評価の上で返却する。

受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。	教科書・テキスト	『イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル Microsoft365・Officeバージョンフリー 【NESS付】』noa出版(2026年)ISBN978-4-911200-06-3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	基礎ゼミⅠ			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	必修
担当教員名	田中　純一・池村　努・井上　克洋　（代表教員　田中　純一）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
大学生としての基本的な学びの姿勢および知的探求の方法を修得することを目的とする。具体的には、①ノート・テイキングの基本的技術、②文章読解力の強化と文章作成能力の育成による要約力の強化、③図書資料などをはじめとする情報の収集方法と整理活用術、④レポート作成の基本的事項を修得する。また、ゼミ内での共同作業やディスカッションを通じて人間関係のあり方やコミュニケーションについても学ぶ。	①大学で学ぶために必要なスキルを身につけ、それを実践することができる。 ②学びに必要な情報の収集方法を知り集めることができる。 ③ポイントを正確に読み取ることができる。 ④書かれた内容を概要と意見に分けてまとめることができる。 ⑤学び合えるディスカッション方法を身につけ互いに学び合う姿勢を身につける。

教授方法	演習：毎回レジュメを作り、発表・ディスカッションをする形式で進める。
履修条件	社会学科1年生または社会学科の学生で再履修となった者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	期首オリエンテーション	全員
2	第5章　大学図書館における情報収集	全員
3	第１章　スタディスキルズとは：大学での学びに必要な事項を学び、長期目標を立てた上で、それを実現するための今学期の目標を立てる。	全員
4	第2章　ノート・テイキング	全員
5	フレッシュマン・セミナーにおける学部別協議の準備	全員
6	第3章　リーディングの基本スキル(1)：テキストを読むとはどういうことかを学ぶ。	各担当教員
7	第3章　リーディングの基本スキル(2)：二度読み方式について学ぶ。	全員
8	第4章　より深いリーディングのために	各担当教員
9	第1回発表：指定された課題についてレポートを作成し、発表する。	各担当教員
10	第8章　アカデミック・ライティングの基本スキル	各担当教員
11	第9章　効果的なアカデミック・ライティングのために	各担当教員
12	第11章　プレゼンテーションの基本スキル	各担当教員
13	第12章　わかりやすいプレゼンテーションのために	各担当教員
14	第2回発表：指定された課題についてレポートを作成し、発表する。	各担当教員
15	期末オリエンテーション	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	①指定した書式・字数・枚数にならっている。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文章になっている。	レジュメ作成とレポート発表	20	①分かりやすくポイントをまとめたレジュメ（含ノート・テイキング練習課題） ②第9回に提出する進捗状況レポート ③聞き手が理解しやすい発表
授業参加態度	20	①ディスカッションへの積極的な参加をしている。 ②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べている。 ③課題にまじめに取り組んでいる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①基礎ゼミⅠで学んだ事柄・スキルを他の授業でも活かすこと。 ②図書館やインターネットなど様々な文献・情報により視野を広め、知識を増やすと共に、集めたものは整理しておくこと。 ③学内外での学びは「ソーシャルサイエンス」の対象の1つと捉え、分析的に観察し、気づいたことはノートにメモしておくこと。 …上記①～③を踏まえつつ、 ・レポートのためにリサーチを重ね、執筆に取り組むこと。［60分］ ・学んだことはその日のうちに復習すること。［30分］	個々の教員の指導に従うこと。

受講生に望むこと	基礎ゼミⅠは大学の学びの最も土台となる科目である。これからの4年間を有意義に過ごすか否かがかかっていると言っても過言ではない。大学およびそれ以降の社会で必要なスキルを中心に学ぶので、この授業で学んだスキルが身につくよう積極的に授業に臨むこと。	教科書・テキスト	『知へのステップ』（第5版）学習技術研究会/編著 くろしお出版　2019年　ISBN：978-4-87424-789-1
指定図書／参考書等	特になし	その他・特記事項	課題提出日、発表日などに欠席することは評価に大きくかかわるので注意すること（なお、配慮される欠席理由については学生要覧を参照すること）。 不明な点は自分の所属するゼミ担当教員に問い合わせをすること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	基礎ゼミⅡ			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	必修
担当教員名	俵　希實・池村　努・井上　克洋　（代表教員　俵　希實）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は初年次教育科目の一つとして開講する。大学生としての主体的・自主的な学びの姿勢・知的探求の方法及びアカデミックライティング技術を習得することを目的とする。具体的には、①文献・データの検索と整理、②レポートの文章作成（前期からの継続と発展）、③プレゼンテーションのしかた、④ディスカッションのしかた（１１月の「オータム・セミナー」でのグループ討論を念頭）に重点をおいて学ぶ。テーマに沿ったレポートを作成し、発表する。	①大学で学ぶために必要なスキルを身につけ、それを実践することができる。 ②文献の調べ方とデータの検索方法を身につける。 ③レポートの書き方を身につける。 ④プレゼンテーションのスキルを身につける。 ⑤新しいアイディアを生み出すためのグループ・ディスカッションのスキルを身につける。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	全体オリエンテーション：授業概要を理解する。	全教員
2	テキスト第6章　インターネットによる情報収集：レポート作成のために必要な情報をインターネットで収集する方法を習得する。 レポート課題の選定	全教員
3	テキスト第7章　情報の整理：レポート作成に用いる文献の整理方法と文献リストの作成方法を習得する。	各担当教員
4	レポートテーマについての検討。「基礎ゼミⅡ」で取り上げるテーマについて検討し、課題設定を行なう。	各担当教員
5	レポートの構想発表。前回に引き続き、レポートテーマを検討し、方針を報告する。	各担当教員
6	テキスト第8章　アカデミックライティングの基本スキル：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。	各担当教員
7	グループ・ディスカッション：オータム・セミナーのグループ討論を念頭に置いてディスカッションスキルを学ぶ。オータムセミナー開催時期に合わせて、実施内容は前後する。	全教員
8	オータム・セミナーグループ討議のふりかえりを行なう。オータムセミナー開催時期に合わせて、実施内容は前後する。	各担当教員
9	テキスト第9章　効果的なアカデミックライティングのために：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。	各担当教員
10	テキスト第11章　プレゼンテーションの基本スキル：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。各ゼミ必要に応じてレポート中間発表	各担当教員
11	レポート中間発表	各担当教員
12	テキスト第12章　わかりやすいプレゼンテーションのために：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。レポート内容の発表準備	各担当教員
13	レポート内容の発表準備　各ゼミ必要に応じてレポート最終発表	各担当教員
14	レポート最終発表	各担当教員
15	履修指導、プロゼミ説明会、学期末授業評価アンケート	全教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	①指定された書式・字数・枚数になっているか。②ポイントを押さえ、事実・データと意見を分けた文になっているか。	授業参加態度	20	①ディスカッションに積極的に参加したか。②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。③課題にまじめに取り組んでいるか。
レジュメ作成と発表	20	①わかりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業で指定された課題を事前に行う。[30分以上] ②レポート作成のための文献・情報の収集と整理を十分に行う。[30分以上] ③レポートの中間発表でのコメントを踏まえて、必要な文献等を読み、内容を改訂する。必要に応じて調査なども行う。 ④図書館やインターネットなどさまざまな文献・情報により視野を広め、知識を増やすとともに、集めたものは整理しておく。 ⑤学内外の学びは社会学の対象の一つととらえ、観察して気づいた点をメモする習慣をつける。	ゼミ・グループ活動、レポート、パワーポイントなど必要に応じて対応する。また、成績評価等の疑問・質問等には随時応じる。

受講生に望むこと	「基礎ゼミⅡ」は、「基礎ゼミⅠ」とともに大学の学びの土台となる科目である。大学およびそれ以降の社会で必要なスキルを中心に学ぶので受講生に 、学んだスキルが身につくよう積極的に授業にのぞむこと。	教科書・テキスト	『知へのステップ』（第5版）学習技術研究会/編著 くろしお出版　2019年　ISBN：978-4-87424-789-1
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	特になし。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	オンラインディスカッション概論			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	必修
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は大学共通科目として開講する。オンライン学習において、効果的に仲間と一緒に学習をし、良いアウトプットを出していくための方法を学ぶ科目である。オンライン学習の導入と共に、対面ではない講義参加者とも積極的に関係する方法について練習する。2年次以降増えていくオンライン科目において、馴れていない環境の中でもフリーライダーとなってしまうことなく、ディスカッションでより良い結果を生み出す方法についての手法を学ぶ。	・Air Campusの利用方法について理解できるようになる。 ・グループディスカッションにおける自己の役割を理解している。 ・オンラインで行われるディスカッションで積極的に参加できるようになる。 ・オンライン会議の主催方法について理解できるようになる。

教授方法	講義形式で基本的知識を学び、演習しながらグループワークのスキルを身につける。またGoogle WorkspaceとAir Campusを使用するしながらオンラインディスカッションのスキルを身につける。
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：本授業の全体の流れを理解する。また、ルーブリックを用いた目標達成の方法について理解する。	
2	グループワークの基礎１：グループワークの全体像をつかむと共に、ブレーンストーミングの方法と、メンバーの役割について理解する。	
3	グループワークの基礎２：様々なグループワーク事例の特徴を理解し、場面に応じて使い分ける基礎を築く。	
4	グループワーク応用１：実践形式で、グループワークを体験し、メンバーの役割の中から自分の位置を見つけ出す。	
5	グループワーク応用２：グループワークにおける自分のグループ内でのスキルを向上させる。	
6	グループワークのまとめ：全体に対するグループの提案と共有化を行う。2回目から5回目を踏まえ、グループワークについて個人とグループで振り返ると共に、知識を共有する。	
7	オンライン会議システムの特徴と注意点：Google MeetとZoom、Air Campusの使用方法について理解する。	
8	オンラインディスカッション１：Google Meetを用いてオンラインミーティングの運営について練習を行う。	
9	オンラインディスカッション２：Google Meetを用いてオンラインミーティングの運営について練習を行う。	
10	オンラインディスカッション３：Google Meetを用いてオンラインミーティングの運営について練習を行う。	
11	Air Campus活用１：Air Campusの利用方法について学習する。	
12	Air Campus活用２：Air Campusの利用方法について学習する。	
13	オンラインディスカッション４：Google Meetを用いてオンラインミーティングの運営を行ない、相互評価する。	
14	オンラインディスカッション５：Google Meetを用いてオンラインミーティングの運営を行ない、相互評価する。	
15	オンラインディスカッション６：Google Meetを用いてオンラインミーティングの運営を行ない、相互評価する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
オンラインディスカッション主催	60	オンラインディスカッションを主催し、コントロールする能力について評価する。	グループ活動評価	20	グループ活動に積極的に参加しているかをルーブリックを使用して評価する
授業への積極的取り組み	20	授業に対する積極的取り組みをもとに評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
次週の予告を行うので、指示された内容に従って課題の準備を行うこと[30分] 授業終了後はレジュメとメモの整理を行うこと。[30分]	授業振り返りにより質問などを募り、翌週回答を行う。 また、授業時間外の質問も随時受け付け回答する。

受講生に望むこと	Air Campusを用いた授業の中には、オンラインでディスカッションを行う科目が多くあります。この科目では、対面でグループディスカッションの基本を学び、それを応用してオンラインによるディスカッションに臨むので、目的意識をもって受講してください。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/『学習設計マニュアルVer.2 （改訂新版）』鈴木克明・美馬のゆり編著,北大路書房（2026年）ISBN:9784762833144	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	データサイエンス入門			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	必修
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は学部共通科目として開講する。我々が生活する社会には多くの情報やデータが存在する。これからの社会はデータを正しく取り扱い、適切に分析し、価値のある情報を見出すことが求められていく。本科目ではAI利活用に関わる理解、データを扱うための知識、統計的な考え方と、統計解析の手法を学ぶ。これらを学ぶことにより、データサイエンス時代に対応できる知識と技術を身につける。 学習効果を高めるため、適宜反転学習や、グループディスカッション、Google Workspaceを活用する。	データサイエンスの時代とも言える21世紀を生きるうえで必要な、社会におけるデータ・AIの利活用について正しい知識を得て、説明できるようになる。 データリテラシーを身につけ、データの読み方、データの特徴抽出、データ分析を行ない、分析した内容について説明できるようになる。 データ・AI利活用における留意事項について理解し、説明できるようになる。

教授方法	テキスト・スライドを用いた講義形式で実施する。Google スプレッドシートを用いてデータ加工について学修する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	【導入・社会で起きている変化】現代社会はSociety5.0とも呼ばれ、仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の両立が求められている。社会に起きている変化について具体的内容について学ぶとともに、「データサイエンス入門」の概要について説明する。	
2	【社会で活用されているデータ】社会で活用されているデータの種類、データごとの取得方法、所有者について学習する。またデータを扱う上での注意点についても学習する。	
3	【データサイエンスにおける心得−１】データサイエンス本編について学ぶ前に、データ・AIを扱う上での留意事項について学習する。AIを使うことによるメリットも大きいが、倫理面の問題などについて正しく扱う必要もある。	
4	【データサイエンスにおける心得−２】データサイエンス本編について学ぶ前に、データ・AIを扱う上での留意事項について学習する。データ・AI活用における負の事例を紹介し、データを守るための留意事項について学ぶ。	
5	【データとAIの活用領域】事業活動と、活用目的ごとにデータ・AI活用の広がりについて学習する。反転授業（LITE)を行う。 【中間レポート１】反転授業を受けてレポートを作成する。	
6	【データ・AI利活用のための技術−１】データを解析し、可視化する方法について学ぶ。この回は特にデータ解析の方法と、それにまつわる話題について触れる。 【振り返り小テスト１】５回までの学習内容についての振り返り小テストを行う。	
7	【データ・AI利活用のための技術−２】データを解析し、可視化する方法について学ぶ。この回は特に画像や音などの非構造化データ処理、グラフ作成などによるデータ可視化、画像処理などで用いられるパターン認識技術について触れる。	
8	【データ・AI利活用のための技術−３】データを解析し、可視化する方法について学ぶ。この回は特に人工知能について扱う。今のAIで出来ること、出来ないことなどについても触れる。	
9	【データ・AI活用の現場】データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれ、そのような価値を生むために何に気を付けるべきかについて考える。	
10	【データ・AI利活用の最新動向】AIを活用した新しいビジネスモデルを紹介する。そして、今後ビジネスなどにも広く活用されるであろうAIに関する最新技術を紹介する。	
11	【データを守る上での留意事項】セキュリティ・プライバシーを守ることと、社会でデータを活用することの両立について学習する。反転学習を行う。 【中間レポート２】反転授業を受けてレポートを作成する。 【振り返り小テスト２】６～１０回までの学習内容についての振り返り小テストを行う。	
12	【データリテラシー−１】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。この回は「データを読む」ための基本事項について説明する。	
13	【データリテラシー−２】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。この回は特に調査などに用いられる方法について説明する。	
14	【データリテラシー−３】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。この回は特に図解などを用いて判りやすく説明するデータ表現の方法について説明する。	
15	【データリテラシー−４】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。この回は特に表計算ソフトをデータ解析ツールとして扱う方法について説明する。 【振り返り小テスト３】全15回を通した学習内容についての振り返り小テストを行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
振り返り小テスト	30	節末の練習問題から出題する3回の小テストによって理解度を評価する。	レポート	40	学期内に二度課す。設定されたテーマに沿ってレポートを作成する。これにより理解度を評価する。
課題学習	10	課題に対し、積極的に取り組んでいること。	授業への積極的関与	20	反転授業・反転学習でのグループワークにおいて、積極的に関与していることを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：予告した箇所について通読する。[30分] 反転学習として指示があった場合は、その指示に従い準備をする。[60分] 事後学習：指示された振り返り課題に取り組む。[30分]	授業時間内の振り返りと、Google Classroomを通じてフィードバックを行う。

受講生に望むこと	Society5.0とも呼ばれる情報化社会でこれからの時代を担う人材となるべく、データサイエンスに関する知識を正しく身につけられるよう、興味を持って取り組んでほしい。	教科書・テキスト	『教養としてのデータサイエンス　改訂第2版』北川源四郎・竹村彰通編,講談社,2024年,ISBN978-4-06-537939-4
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	レジュメはGoogle Classroomから配信する。 毎回行う振り返りもGoogle Classroom経由で実施する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	食と健康			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	必修
担当教員名	俵　万里子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は一般教養科目として開講する。食事には、単に空腹を満たすだけではなく、生命維持や健康増進、活動のエネルギー源になることをはじめ、生活リズムの形成、人間関係やコミュニケーションの形成、食文化の継承など様々な役割がある。本科目では食事の栄養的側面や食事と健康との関わりを中心に学ぶ。また文化としての食事や生活を豊かにする食事について知り、理解を深める。他に、食品ロスや食の安全安心など食をとりまく今日的な課題についても知り、興味関心を高める。これらの学びを通して、自分自身の「健やかな食生活」について考える。	①食事の栄養的側面や食事と健康との関わりについて理解している。 ②食事の様々な役割や、食をとりまく課題について知り、興味関心が高まっている。 ③①②を踏まえ自分自身の「健やかな食生活」について考え、実践のきっかけを持つ。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業の概要、進め方、評価の方法等について理解している。） 食生活の変遷（戦前から現代までの日本人の食生活の変遷について理解している。）	
2	何をどのくらい食べたらよいか①：自分の食事を振り返る（食事記録や写真から自分の食べたものを整理することができる。）	
3	何をどのくらい食べたらよいか②：「食事バランスガイド」とその活用法（「食事バランスガイド」の活用法を理解し、自分の食事をセルフチェックできる。）	
4	何をどのくらいいつ食べたらよいか：時間栄養学（時間栄養学の視点から、主に朝食摂取の利点について理解している。）	
5	食べたものがはたらくしくみ①：三大栄養素の吸収、代謝（三大栄養素の消化吸収、代謝について知り、食と健康の関わりについて興味関心を持っている。）	
6	食べたものがはたらくしくみ②：ビタミン、ミネラルの消化吸収、代謝（ビタミン、ミネラルの吸収、代謝について知り、食と健康の関わりについて興味関心を持っている。）	
7	日常生活と栄養（生活活動・運動と栄養の関わり、ストレスと食欲や栄養との関わりについて理解している。）	
8	生活習慣病と栄養（生活習慣病とその予防につながる食生活について理解している。）	
9	日本の伝統的な食文化「和食」（和食文化について知る。）	
10	金沢の食文化（金沢の伝統食や食文化について知る。）	
11	食品ロス（食品ロスについて理解し、自分の身の周りの食品ロスとその削減を考えるきっかけを持っている。）	
12	食の安全安心（食中毒、食品添加物、食品表示などの知識を習得し、安全で安心な食生活について考えることができる。）	
13	食情報とのつきあい方（氾濫する食情報の取捨選択の方法を理解し、つきあい方を考えることができる。）	
14	食生活の多様化と共食（食生活の多様化と共食やこ食について理解し、共食の意義について考えることができる。）	
15	まとめ：健やかな食生活とは（これまで学んできたことを踏まえ、自分自身の「健やかな食生活」について考えている。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	授業内容の把握とそれらに対しての自分の考えを適切にまとめている	授業参加状況	10	積極的に参加している
課題	30	食事記録とセルフチェックに取り組み、期限までに提出している			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前に資料が配布された場合、授業内で内容に関連する資料等が紹介された場合は目を通す。［60分］	授業内で適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	授業をきっかけに食生活と健康の関わりについて興味関心を持ち、望ましい食生活に向けて行動してみて下さい。	教科書・テキスト	なし（必要に応じて資料を配布する。）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	統計データの読み方			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	必修
担当教員名	細貝　亮						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
社会の様々な現象を理解する上で、統計データや調査資料を利用することが多い。この授業では、官庁統計・資料や、それを利用した調査報告・研究論文が読めるようになることを目的とする。具体的には、（1）単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計データの読み方や算出方法、（2）様々なグラフの読み方やその作成方法、（3）相関係数などの基礎的統計手法や相関関係と因果関係の違い、（4）質的データの読み方と分析のための利用法について学習する。	①単純集計、度数分布、代表値、そしてクロス集計などの記述統計データの読み方や算出方法を習得する。 ②グラフの読み方や特性、さらに作成の仕方について習得する。 ③質的データの読み方と基本的なまとめ方について習得する。 ④日常生活の様々な側面で利用されている統計データの利用のされ方の正誤を判別できるようになる。

教授方法	基本的に講義形式による授業と並行して、Excelやフリーの統計ソフトHADを利用した実習を行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価の方法について説明した後、統計データとは何か、社会調査法とは何か、そしてなぜ社会調査法を学ぶ必要があるのかについて考える。（統計データの読み方や社会調査法を学ぶ意義を理解する。）	
2	データの特徴：データにはどのような特徴があるのか、変数と尺度という言葉を用いながら説明する。（統計データの特徴について理解する。）	
3	単純集計：世論調査等の統計データを単純に集計し、それを一覧表にまとめた度数分布表とヒストグラムについて説明した後、その作成法の実習を行う。（度数分布表とヒストグラムについて理解し、それらを作成できるようになる。）	
4	記述統計Ⅰ：データの中心的傾向を見る指標として平均、中央値、そして最頻値について説明した後、それらの算出法の実習を行う。（記述統計データからデータの中心的傾向を把握できるようになる。）	
5	記述統計Ⅱ：データのばらつきの大きさを測る指標として範囲、分散、そして標準偏差について説明した後、それらの算出法の実習を行う。（記述統計データからデータのばらつきの大きさを把握できるようになる。）	
6	クロス集計Ⅰ：二種類のデータの関係を捉える方法として、クロス集計表について説明する。（クロス集計表から 2 つのデータの関係を捉えることができるようになる。）	
7	クロス集計Ⅱ：世論調査等の統計データを使用したクロス集計表を作成する実習を行う。（クロス集計表を作成することで、2つの回答の関係性を推測できるようになる。）	
8	相関Ⅰ：二つのデータの直線的な関係を捉える方法として、相関の考え方と相関係数について説明する。（相関関係の基本的な考え方と、それを表す相関係数の算出法について理解する。）	
9	相関Ⅱ：二つのデータの関連性を見極める上で理解しておく必要のある相関関係と因果関係の違いや、擬似相関について説明する。（二つのデータの関連性を見極めることの難しさを理解する。）	
10	相関Ⅲ：実際の統計データを利用し、EXCELを使った散布図の描き方や相関係数の算出法などの実習を行う。（散布図の作成法や相関係数の算出法を実習することで、二つのデータの関連性の有無を自身で判断できるようになる。）	
11	様々なグラフ：実際の統計データを利用し、様々なグラフを作成する実習を行う。（適したグラフの選択とわかりやすいグラフについて理解する。）	
12	質的データの読み方Ⅰ：質的調査と呼ばれる研究法について説明した後、観察調査の諸類型やまとめ方について紹介する。（質的調査法と量的調査法の違いを理解する。そして観察調査の種類やまとめ方を理解する。）	
13	質的データの読み方Ⅱ：インタビュー調査とその手順について説明し、実際にインタビュー番組を見ながらインタビュー調査の有用性について考える。（インタビュー調査の意義を理解する。）	
14	質的データの読み方Ⅲ：ドキュメントの諸類型について説明した後、ドキュメント分析の方法を紹介し、その意義について考える。（ドキュメントを分析することの意義を理解する。）	
15	全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	30	授業に積極的に取り組んでいるか。	課題	40	授業内容を理解しているか。
期末レポート	30	ポイントを押さえた読みやすいレポートを書くことができているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業で使用するレジュメ（資料）は、Google Classroom等を通じて配布するので必ず目を通しておくこと。[30分] ②講義後に統計データの読み方に関する練習問題を課題として出すので、期日までに提出すること。[50分]	①課題およびそれに付属するリアクションシートは、採点およびコメントを付けるなどして適切な時期に返却する。②到達度確認テストは、採点して返却する。

受講生に望むこと	統計データは、日常生活のあらゆる側面で使われている。日頃からそうした統計データの利用のされ方に注目するようにしよう。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『社会調査の基礎－社会調査士 A・B・C・D 科目対応』篠原清夫・清水 強志・榎本環・大矢根淳著　弘文堂　2010 年　ISBN-13: 978-4335551338.『社会調査の方法論』松本渉　丸善出版　2021 年 ISBN-13: 978-4621306314.『入門・社会調査法　2 ステップで基礎から学ぶ』第4版　轟亮・杉野勇（編）法律文化社　2021年　ISBN-13: 978-4589041418.	その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのC 科目「基本的な資料とデータの分析に関する科目」に準拠している。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	キャリアデザインⅠ			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	必修
担当教員名	乾　祐哉						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
「将来を見据える」をテーマに、大学卒業後の進路を主体的に考えるために、「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。働くことの意味や社会における職業の役割、多様な生き方について理解を深め、自分自身の価値観やライフスタイルとキャリアの関係性を考察する。講義・ワーク・ディスカッションを通じて、自らの将来像を描く意識を高め、長期的な視点でキャリアを見つめる基礎を築く。キャリア設計の第一歩として、将来の選択肢を広く捉える柔軟な思考と探求心を育てる	①自身の大学卒業後の姿をイメージし言語化する ②自己理解について、長所短所という表現にとどまらず、自身の才能をニュートラルに言語化する ③多様な生き方があることを理解する

教授方法	講義・演習
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容とゴール、評価基準について理解する。キャリアとは何か理解する	
2	人生100年時代の今、今後の80年をイメージし豊かなキャリアの多様性と、キャリア形成の偶然性・必然性に関して自分なりに考察して言語化する	
3	自己理解初級:これまでキャリアの振り返り①：【ライフキャリアチャート】の記入と考察を行う	
4	自己理解初級:これまでキャリアの振り返り②：【経験メモ】の考察と【人生の羅針盤(大事・得意・好き)】の分析記入・考察を行う	
5	自己理解の重要性とポイント理解①：【ジョハリの窓】の考え方を活用して自己肯定感を上げる。個性の質と価値には色はない【太陰太極図】が示すものを肚落ちさせる	
6	自己理解の重要性とポイント理解②：【ポジティブ転換】を実践する。ポジティブ転換思考の訓練実践を行う	
7	自己理解中級①:1対1ゲームと観察者を活用した【1on1フィードバックワーク】実施とフィードバックを心で受け取れるようにする	
8	自己理解中級②:身近な家族・友人からの【1on1フィードバックワーク】の実施とフィードバックを心で受け取れるようにする	
9	【ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸを活用した自己理解①】 課題とは何か？：「課題」とは何かを理解し、「課題」に取り組むために必要なディスカッションの基本的な手法を学ぶ。Missionを受け取る：企業Aの担当者からMissionを受け取る。課題や目標となるゴールを正しく理解する。	
10	【ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸを活用した自己理解②】第１次提案に向けて：チーム活動。第１次提案の目的や心構え、準備について理解し、どのように議論を進めるべきかをチームで検討する	
11	【ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸを活用した自己理解③】第１次提案：企業担当者の前でプレゼンを行う。企業担当者からのフィードバック、他のチームのプレゼンなどから議論を再構築する。	
12	【ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸを活用した自己理解④】第２次提案に向けて：チーム活動。簡潔にわかりやすく伝えるプレゼンをするための注意事項を理解し、準備を整える。	
13	【ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸを活用した自己理解⑤】第２次提案：プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。チームで自分たちの議論および活動を振り返る。	
14	【ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸを活用した自己理解⑥】相互フィードバックの実施、自己理解からの未来設計について分析を行う	
15	まとめ、自己理解と未来設計の発表とフィードバック、まとめを行う	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	授業中の講義・演習（グループワーク含む）に積極的に参加し、質問、フィードバックを積極的に丁寧に行う。	講義外ワークの内容充実	30	講義外でのワークに積極的に取り組み充実した内容で実行している
提出物	30	①自己理解とキャリアに関する課題に対して適切な内容となっている。 ②定められた期間内に提出している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
自己理解に関して、友人や家族からのヒアリングを複数回実施する(60分) 自身の祖先に関し調べ適切に言語化する(60分)	授業内でコメントする

受講生に望むこと	・他社の声に耳を傾ける習慣を身に着ける ・言語化する力を理解する	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／LIFE SHIFT(ライフ・シフト) 東洋経済新報社 リンダ グラットン（著), アンドリュー スコット（著), 池村 千秋（翻訳） 2016年　ISBNコード　9784492533871	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会学概論A			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	必修
担当教員名	内田　啓太郎						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では社会学の基本的な理論と概念、そして社会学の基本的な考え方を理解し、現代社会の捉え方を学ぶ。授業では、具体的に社会問題や人々の生活を取り上げ、社会学の視点から解説する。それらを踏まえて社会学とはどのような学問であるのか、どのように社会に貢献しているのかについて考える。	①社会学の基本的な理論と概念について理解する。 ②社会学の基本的な考え方ができるようになる。 ③現代社会が直面する問題を社会学の理論や概念を用いて説明することができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	社会学とはどのような学問なのか①：社会学が対象としている「社会」とは何か、社会と人間との関わりについて考える。	
3	社会学とはどのような学問なのか②：他の社会科学との違いから社会学を捉える。社会学における「前近代」「近代」「脱近代」ついて理解する。	
4	【人と社会の関係を捉える】 行為論①：行為と行動の違い、行為の種類、行為の４類型について理解する。	
5	行為論②：準拠集団、社会規範について理解する。	
6	行為論③：社会化、個人主義、パーソナリティについて理解する。	
7	相互作用論①：地位と役割、役割の分類、役割葛藤、役割演技、ダブルコンティンジェンシーについて理解する。	
8	相互作用論②：予言の自己成就について理解する。	
9	【現代社会への理解を深める】 集団論①：集団とは何かを学び、その上で個人と集団との関係、社会と集団との関係を理解する。	
10	集団論②：内集団と外集団、集団の諸類型について学ぶ。	
11	集団論③：最も大規模な機能集団である官僚制組織の特徴やその組織の構成員に与える影響について理解する。	
12	【生活を理解する】 家族と社会：社会の基礎集団である家族について理解する。	
13	生活と社会：男女共同参画社会に着目して生活時間について考える。	
14	【社会学ア・ラ・カルト】 メディア文化：文化社会学の視点から現代社会におけるメディア文化について理解する。	
15	若者と社会：コミュニケーション論の視点から現代社会における若者のあり方について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	授業内容について理解しているか。	授業への参加態度	30	毎回の授業で提出するリアクションペーパーの提出状況およびその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
定期試験の準備は授業外で行うこと。授業中に配布するレジュメを事後に確認し、復習すること。講義内容にとどまらず、様々な情報を通じて、現代社会のあり方、諸問題の背景と原因について自己学習すること。[45分]	定期試験の終了後にコメントする。もしくは書面でコメントを提示する。

受講生に望むこと	意欲的な態度で授業に参加すること。	教科書・テキスト	教科書は指定しない。
指定図書／参考書等	なし/授業中に随時紹介する。	その他・特記事項	毎回の授業資料（スライド／レジュメ）はオンラインで公開する（印刷物を配布しない）。資料の閲覧、ノートテイキングのためノートPCやChromebookを持参することを推奨する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会学概論Ｂ			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	必修
担当教員名	内田　啓太郎						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では社会学における「コミュニケーション」の基本的な理論と概念を理解し、現代社会そのものを捉えなおしていく。授業では、具体的なコミュニケーション状況を取り上げ、社会学の視点から解説する。それらを踏まえて社会とはどのようなものであるのかについて考える。	①社会学におけるコミュニケーションに関する理論と概念について理解できるようになる。 ②社会学の応用的な考え方ができるようになる。 ③現代社会が直面する問題を社会学のコミュニケーションに関する理論や概念を用いて説明することができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方や成績評価について説明し、なぜ「コミュニケーション」をキー概念とするのかについて解説する。 教科書 → 第1章「いろいろあるメディア、いろいろあるコミュニケーション」	
2	メディア・コミュニケーションと人間関係（社会関係）について解説する。 教科書 → 第3章「スマホを使い続ける私たち」	
3	現代の大学生における日常生活のあり方について解説する。 教科書 → 第4章「運動部の学生にとっての大学生活とは？」	
4	流行のファッションを通して自己呈示とアイデンティティの関係について解説する。 教科書 → 第5章「『見せる』のではなく『見る』ためのロリータファッション」	
5	身近なキャラクターを題材により良い人間関係を構築するためのコミュニケーション戦略について解説する。 教科書 → 第6章「キャラに溢れた世界」	
6	ビデオゲームを題材にメディア・コンテンツの社会的影響とそれに対する社会的言説について解説する。 教科書 → 第7章「ビデオゲームに暴力的影響はあるのかないのか？」	
7	社会的行為としての「恋愛」を通して現代社会におけるジェンダー／セクシュアリティのあり方について解説する。 教科書 → 第11章「恋愛関係と出会いの変化」	
8	「近代家族」の成立過程をふまえ、現代社会における家族イメージと家族規範の変容について解説する。 教科書 → 第12章「家族は仲良くなければいけないのか」	
9	現代社会における労働観の変容を通じて、社会関係としての「労働」について解説する。 教科書 → 第13章「『好き』を仕事にする」	
10	現代社会におけるアイドル・ファン関係を通じて、ポップ・カルチャーとしてのアイドル文化／ファンダム文化について解説する。 教科書 → 第15章「それでもファンはアイドルを求める」	
11	ディズニーを題材に、プロパガンダとしてのポップ・カルチャーについて解説する。 教科書 → 第17章「ディズニーは『夢』を描く」	
12	マスメディア理論を通じて、フェイクニュース／うわさの社会的影響について解説する。 教科書 → 第18章「カウンターナレッジの強力効果」	
13	コト消費・体験型消費を題材に、古典的消費社会論から現代社会に適合した消費社会論への変容について解説する。 教科書 → 第19章「消費社会とモノの現在」	
14	現代社会のメディア環境を題材に、監視社会としての現代社会のあり方について解説する。 教科書 → 第20章「すすんで監視するアンバランスな私たち」	
15	総まとめ：授業において取り上げた様々な話題を振り返り、社会学的思考としての「コミュニケーションの社会学」について解説する。また定期試験について説明を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	授業内容について理解しているか。	調査発表	30	授業で解説した各内容をふまえ、各自が調べた内容を発表する。学期中に複数回実施する。
授業への参加態度	10	毎回の授業で提出するリアクションペーパーの提出状況およびその内容を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
定期試験の準備は授業外で行うこと。授業中に配布するレジュメを事後に確認し、復習すること。講義内容にとどまらず、様々な情報を通じて、現代社会のあり方、諸問題の背景と原因について自己学習すること。[45分]	定期試験の終了後にコメントする。もしくは書面でコメントを提示する。

受講生に望むこと	意欲的な態度で授業に参加すること。	教科書・テキスト	有田亘・松井広志（編著）2024年『いろいろあるコミュニケーションの社会学 Ver.3』北樹出版 （ISBN：9784779307492）
指定図書／参考書等	なし/授業中に随時紹介する。	その他・特記事項	毎回の授業資料（スライド／レジュメ）はオンラインで公開する（印刷物を配布しない）。資料の閲覧、ノートテイキングのためノートPCやChromebookを持参することを推奨する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会調査論			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	必修
担当教員名	俵　希實						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
社会学の基礎的な知識と関連させながら、学問の方法としての社会調査法を学ぶ。経験的社会学研究の方法論として、社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する。社会調査の種類・目的、実例、社会調査の倫理、社会調査の歴史等についての基礎知識を学び、これからの社会調査のあり方について考える。社会調査の方法の概要について、社会調査の全体像と個別作業との結びつきを実際例から把握する。以上によって、社会学を自ら学んでいく基礎を確立することを目指す。	①社会学の基礎的知識、特に経験的社会学の成果について説明できるようになる。 ②社会調査の意義、目的、種類、歴史について説明できるようになる。 ③現代の社会環境のなかで社会調査を実施する際の気をつけるべきポイントを理解する。 ④社会調査の全体像と、個別作業の結びつきについて理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	社会学の見取り図（理論社会学と経験社会学）と社会調査の位置について理解する。	
3	社会調査の定義と目的、歴史について知り、意義を構築する。	
4	調査倫理、統計法と個人情報保護、そして統計リテラシーについて知識を習得する。	
5	社会調査（質的調査）の種類と実際例を学ぶ。	
6	社会調査（量的調査）のプロセスの全体像を把握する。	
7	社会学の理論とリサーチクエスチョン、そして問題発見の仕方について理解し、実践的に考察する。	
8	社会調査（量的調査）の実際例を学び、その意義について考え、理解する。	
9	調査課題の設定について実践的に検討する。	
10	様々な実査の方法の長所と短所について理解する。	
11	調査票の構成について理解する。	
12	質問文の作成と、社会学で使われてきた尺度について具体例に基づいて理解する。	
13	サンプリングの概念について学び、調査対象者を決めるということの意味を理解する。	
14	サンプリングの実際の場面を模擬的に経験し、ポイントを理解する。	
15	調査の実施（郵送法）の具体的な手続きと注意点を理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
提出物	30	①課題に対して適切な内容になっているか。 ②定められた期間内に提出しているか。	期末試験	70	各回の講義内容について理解しているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書の該当範囲を事前に読んで、疑問点を考えてくる。 ②配付資料を事後に確認し、復習を行う。[60分]	課題についての解説を授業中に行う。

受講生に望むこと	①講義内容に関して疑問点があれば、積極的に質問してください。 ②社会学と社会調査の結びつきについて、常に念頭におくようにしてください。	教科書・テキスト	『入門・社会調査法』（第5版）轟亮・杉野勇・平沢和司　編 法律文化社　2026年 ISBN：9784589044730
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのA科目に準拠している。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会調査法			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	必修
担当教員名	俵　希實						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく基本的な知識と具体的な方法を学ぶ。 構想・計画→準備→実査→データの入力と点検→分析→報告という社会調査（量的調査）の全過程について順を追って解説する。 実際に、仮説を立てたり、質問文を作成したりすることで理解を深める。	①社会調査（量的調査）の全過程についての基礎知識を習得する。 ②量的調査に係る実施作業のイメージをつかむことができるようになる。 ③他の人がおこなった調査データや分析結果を適切に読みとることができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	社会調査のデザイン：リサーチ・クエスチョンを立てる。	
3	社会調査のデザイン：仮説とは何かを学び、実際に仮説を立てる。	
4	実査の方法：量的調査における方法の選択について学ぶ。	
5	調査票の作成：調査票の構成、質問文の形式、質問文・回答選択肢の作成の手順について学び、実際に質問文と回答選択肢を作成する。	
6	調査の実施（1）：郵送法実査の具体的な手順と注意点について理解する。	
7	調査の実施（2）：個別面接法実査の具体的な手順と注意点について理解する。	
8	データの電子ファイル化（1）：データ構造化の流れについて理解する。	
9	データの電子ファイル化（2）：エディティングとコーディングについて学ぶ。	
10	データの電子ファイル化（3）：データ入力とデータクリーニングについて学ぶ。	
11	ウェブ調査の方法と実施：ウェブ法の利点および実際、ウェブ調査の標本抽出枠の側面について学ぶ。	
12	データの基礎的集計（1）：変数の種類、質的変数の要約、量的変数の要約（代表値）について学ぶ。	
13	データの基礎的集計（2）：量的変数の要約（散布度）について学ぶ。	
14	変数間の関連：相関係数とクロス表の作成について学ぶ。	
15	調査倫理とデータの管理：調査のフィナーレであるデータ管理と、社会調査のすべてのプロセスにかかわる調査倫理について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	授業内容を理解しているか。	提出物	30	①適切な回答を記述しているか。 ②定められた期間内に提出しているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習としてテキストの該当箇所を読んでくること。事後学習として授業中に配付されたレジュメを確認すること。ワークシートを指示されたところまで仕上げること。[60分]	課題についての解説を授業中に行う。

受講生に望むこと	粘り強く学習してください。 授業で得た知識を他の授業や授業外でも活用するようにしてください。	教科書・テキスト	『入門・社会調査法』（第5版）轟亮・杉野勇・平沢和司　編 法律文化社　2026年 ISBN：未定
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムの B科目に準拠している。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	データ処理基礎			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	必修
担当教員名	細貝　亮						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
ビッグデータなどが簡単に入手できるようになった現在、社会の様々な現象を理解する上でデータを適切に処理することのできる能力は社会でますます求められるようになっています。この授業の目的は、大学で社会調査を学んでいく前に求められるデータ分析に関する基本的な知識を学習することにあります。具体的には、データを実証的に分析する際に求められる方法論や分析を行うに際して求められるデータの基本的な見かた等を統計ソフトを用いたデータの簡単な処理を通じて学んでいきます。	①データを実証的に分析する方法論を習得する。 ②グラフの読み方や特性、さらに作成の仕方の基本について習得する。 ③日常生活の様々な側面で利用されている統計データの利用のされ方の正誤を判別できるようなデータリテラシーを身につける

教授方法	講義と演習によって進行します。演習は、ExcelあるいはExcelベースのフリー統計ソフトHADを用いて行う実習が中心になります。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価の方法について説明した後、データ分析を学ぶ意義について検討します。（データ分析を学ぶ意義を理解する。）	
2	データとは何か①：実際のデータをみながら、定義や基本構造を説明します。（データの定義や基本構造を理解する）	
3	データとは何か②：実際のデータを自分で作成したり、探してみることでデータの定義や基本構造について学びます。	
4	変数の中心を把握する：変数の平均的な傾向を確認する平均値、中央値、最頻値について学びます。（変数の中心を把握する方法を理解する）	
5	変数のばらつきを把握する：変数のばらつきを確認する範囲、分位数、分散、標準偏差などについて学びます。（変数のばらつきを把握する方法を理解する）	
6	相関分析①：二つの変数の双方向の関係を分析する相関分析について学びます。（相関分析の基礎を理解・習得する）	
7	相関分析②：Excelを使った相関分析の方法について学びます。	
8	クロス集計表分析①：二つの変数の関係を分析するクロス集計表分析について学びます。（クロス集計表分析の基礎を理解・習得する）	
9	クロス集計表分析②：Excelを使ったクロス集計表分析の方法について学びます。	
10	実証分析の基礎①：社会現象をデータによって明らかにするとはどういうことか。実証分析の枠組みについて説明します	
11	実証分析の基礎②：因果関係の解明を目的とする理論とは何か、仮説とは何かについて説明します。（理論と仮説の意味を理解する）	
12	実証分析の基礎③：社会現象を事例としていくつか取り上げ、それがなぜ生じたのか、各自で仮説を立てて考えてみることで、理論や仮説について学びます。	
13	レポート課題の提示：社会問題をテーマに課題を提示します。受講者は、実証的な方法論に基づいて個人でこの課題に取り組んでいきます。	
14	個人学習：提示されたレポート課題に個人で取り組みます。	
15	まとめ：授業全体のふりかえりとして、データ処理を行うにあたって注意すべき点について説明します。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	ポイントを押さえた読みやすいレポートを書くことができているか。	各回の課題	60	毎回の内容を理解できているかをみる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業で使用する資料は、Google Classroomから提供するので事前に必ず目を通しておいてください。[30分] ②毎回の講義後に課題をGoogle Classroomから出すので、期日までに提出してください。[60分]	課題のフィードバックは、適切な時期にGoogle Classroomで公開します。

受講生に望むこと	①統計データは、日常生活のあらゆる側面で使われています。日頃からそうした統計データの利用のされ方に注目するようにしてください。 ②教室内での私語やスマホの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。	教科書・テキスト	特に用いません。授業資料（自作テキスト）を配布します。
指定図書／参考書等	なし／『Excelで今すぐはじめる心理統計 第2版 簡単ツールHADで基本を身につける』　小宮あすか・布井雅人著　2024年　講談社　ISBN:978-4065371800.　『社会調査のための統計データ分析』　廣瀬毅士・寺島拓幸著　2010年　オーム社　ISBN:978-4274067631	その他・特記事項	授業資料や授業の感想や疑問を記入するリアクションシートなどは、Google Classroomから提供します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	家族社会学			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	必修
担当教員名	俵　希實						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
現代の社会変動の中で、家族の形態と社会的機能、および個々人にとっての家族の意味は大きく変わってきた。過去および現在における日本の家族に関する様々な現象を取り上げ、その実態とメカニズムを解説する。さらに、家族社会学の基本的な概念や理論をふまえながら、現代社会における家族の諸相について考える。授業の前半は受講生による発表、後半は講義を行う。	①家族社会学に関する基本的な用語や概念を理解する。 ②現代日本における家族の動向を知る。 ③家族について、常識にとらわれない見方・考え方ができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	家族社会学の基礎（1）：家族の類型について学ぶ。	
3	家族社会学の基礎（2）：家族の機能について学ぶ。	
4	主婦の誕生：近代化と女性の主婦化について理解する。	
5	家事の誕生：家事とは何かを「主婦論争」から考える。	
6	少子化：戦後の合計特殊出生率の推移から少子化の変遷を捉える。	
7	近代化と子どもの数の減少(1)：産業構造の変化と子どもの価値について理解する。	
8	近代化と子どもの数の減少(2)：「子ども」の概念の誕生と子どもの価値について理解する。	
9	母の誕生：「母親」という役割について考える。	
10	核家族化：人口学的特殊性から考える。	
11	高齢化社会と家族(1)：現状と今後の見通しについて理解する。	
12	高齢化社会と家族(2)：家制度の崩壊による家族の変容について考える。	
13	結婚の動向(1)：恋愛結婚、婚姻率、離婚率、初婚年齢、未婚率についてのデータを読む。	
14	結婚の動向(2)：結婚への志向、収入と結婚についてのデータを読む。	
15	多様化する家族：家族単位の社会から個人単位の社会への変容について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
発表	10	①テーマ選択は適切か。 ②論理的な構成となっているか。 ③指定された時間以上の発表になっているか。	提出物	30	①指定された期日に提出しているか。 ②指定された書式にしたがっているか。 ③自分の意見を書くことができているか。
期末試験	60	授業内容について理解しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
個人発表を課すので、テーマを決め、それについて調べ、発表準備を行うこと。配付資料を事後に確認し、復習を行うこと。[60分]	各発表に対してコメントする。

受講生に望むこと	授業に関連するニュース等に関心を持ち、それについて考えるようにしてください。 発表についてのディスカッションでは、積極的に発言するように心がけてください。	教科書・テキスト	レジュメを配付する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	メディア文化論			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	選択
担当教員名	内田　啓太郎						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
「授業の到達目標」で示した目的を達成するために情報社会学と関連領域（メディア論、コミュニケーション論、理論社会学、文化社会学など）における基本概念（専門用語・学術語）や言説（すでにある研究成果）を解説する。また授業では内容への理解をスムーズにするためできる限り最新の事情を取り上げてケーススタディを行う。	現代社会においてインターネット、特にソーシャルメディアは情報が生産される場所であり、生産された情報が拡散、共有される場所である。同時にソーシャルメディアが情報の生産、拡散、共有を通じて人びとが相互につながり、集団を作り上げていく手段としても利用されている。したがって本授業の目標は、ソーシャルメディアを対象とした社会学の理論と方法について先行研究をふまえて学び、社会学の視点からソーシャルメディアのあり方とそこで生じる多様な社会現象を理解する力を修得することである。

教授方法	講義
履修条件	無し

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	【イントロダクション】 教科書序章「今、ソーシャルメディアを論じることについて」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
2	【ソーシャルメディアのプラットフォーム（1）】 教科書第1章「ソーシャルメディアとフェイクニュース・デマ情報の拡散」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
3	【ソーシャルメディアのプラットフォーム（2）】 教科書第2章「動画視聴は自由な意思でなされているのか?」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
4	【ソーシャルメディアのプラットフォーム（3）】 教科書第3章「小説投稿サイトがひらいた読書・創作・コミュニケーション」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
5	【ソーシャルメディアのプラットフォーム（4）】 教科書第4章「ソーシャルメディアと現実空間を横断するあらたな『場所』」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
6	【ソーシャルメディアと文化（1）】 教科書第5章「インターネットは音楽から何を奪ったか?」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
7	【ソーシャルメディアと文化（2）】 教科書第6章「ソーシャルゲームというメディア」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
8	【ソーシャルメディアと文化（3）】 教科書第7章「アニメ・マンガのソーシャルな体験」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
9	【ソーシャルメディアと文化（4）】 教科書第9章「YouTubeにおけるリアクターとエモ消費」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
10	【ソーシャルメディアと政治・経済（1）】 教科書第10章「プラットフォーム経済」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
11	【ソーシャルメディアと政治・経済（2）】 教科書第11章「ネット炎上の政治学」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
12	【ソーシャルメディアと政治・経済（3）】 教科書第12章「ソーシャルメディアが起こすフェミニズムの『波』」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
13	【ソーシャルメディア研究法入門】 指定図書の「はじめてのソーシャルメディア研究（飯田豊）」章の内容をふまえ、ソーシャルメディアで生じた社会現象やソーシャルメディアそのものを対象とする研究を行ううえで必要な概念となる「マスメディアとの共振作用」について社会学および社会心理学の知見より解説する。	
14	【ソーシャルメディアと「地域」】 教科書でも言及されている「プロト・ソーシャルメディア」概念をふまえ、ソーシャルメディアを含むインターネットによる地域社会／コミュニティの変容について、授業担当者が過去に実施したフィールドワークの成果をもとに解説する。	
15	【今学期のまとめ】 第14回の授業までに学んだ内容をふりかえり「いま・ここで」ソーシャルメディアを対象とした社会学を学ぶ意味を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	授業内容について理解しているか。	授業への参加態度	30	毎回の授業で提出するリアクションペーパーの提出状況およびその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
定期試験の準備は授業外で行うこと。授業中に配布する資料を事後に確認し、復習すること。講義内容にとどまらず、様々な情報を通じて現代社会におけるソーシャルメディアのあり方、諸問題の背景と原因について自己学習すること。[45分]	定期試験の終了後にコメントする。もしくは書面でコメントを提示する。

受講生に望むこと	意欲的な態度で授業に参加すること。	教科書・テキスト	松井広志・岡本健（編著）2021年『ソーシャルメディア・スタディーズ』北樹出版（ISBN：9784779306617）
指定図書／参考書等	浪田陽子・福間良明（編）2021年『はじめてのメディア研究〔第２版〕』世界思想社（ISBN：9784790717478）/授業中に随時紹介する。	その他・特記事項	毎回の授業資料はオンラインで公開する予定。資料の閲覧、ノートテイキングのため、Chromebook、タブレットPC、ノートPCを持参することを推奨する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	地域社会貢献論			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	選択必修
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この講義では災害ボランティアを中心に、行為的主体としてのボランティアの特質、ボランティアの社会的役割・機能、課題等について考える。	①ボランティア行為の社会的意義について、自分のことばで説明できる。 ②受講者自身が地域の社会的課題に関心を持ち、積極的に参加する。

教授方法	講義、グループディスカッション、講義内プレゼンテーション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	自発性　　ボランティアの特質としての自発性概念について理解する。	
3	利他性　　ボランティアの特質としての利他性概念について理解する。	
4	共同性・公共性　ボランティアの特質としての共同性概念及び公共性概念について理解する。	
5	非営利性　　ボランティアの特質としての非営利性概念について理解する。	
6	先駆性・継続性・責任性　　ボランティアの特質としての先駆性概念、継続性概念、責任性概念について理解する。	
7	臨床性　　ボランティアの特質としての臨床性概念について理解する。	
8	映像研究：ここまでの講義で学んだ理論的視点を踏まえつつ、映像資料を通して学びを深める。	
9	自助・共助・公助とは　　自然災害緒の発災から復旧・復興過程における自助、共助・互助、公助の機能、役割、課題等について理解する。	
10	自然災害とボランティア（1）　　災害フェーズごとのボランティアの役割について理解する。	
11	自然災害とボランティア（2）　　災害フェーズごとのボランティアの役割について理解する。	
12	映像研究２：災害ボランティアの役割・意義について映像資料を通して理解を深める。	
13	事例研究①：国内外の具体的実践事例を通し、社会貢献活動の意義について考察する。	
14	事例研究②：国内外の具体的実践事例を通し、社会貢献活動の意義について考察する。	
15	最終レポート、総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加態度	10	講義への積極的参加	小レポート	20	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの資料作成、プレゼン内容となっている。
レポート	40	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考ができている	小テスト	30	講義で学んだことの習熟度を確認する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前配布資料は、次回講義までに目を通し内容を理解する。［30分以上］ ②講義中に紹介した資料や書籍については目を通す。［30分以上］	講義時間内に小テストを実施（複数回予定）し、答え合わせ・解説する。 講義期間中小レポート課題を複数回提示する。 最終回にレポート課題を課す。

受講生に望むこと	関心のある分野での社会貢献活動に積極的に取り組む。 あらゆる事象や考え方を相対化して捉える視点を持つ。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/講義時に適宜紹介する。	その他・特記事項	学内または学外のボランティア活動に積極的に参加して欲しい。 次年度「社会貢献実習」受講を検討している学生は、この講義の受講を強く推奨する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	インターネットとITリテラシー			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	選択
担当教員名	飯塚 康至・上野 大樹 （代表教員　飯塚 康至）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要

【オンデマンド型講義】IT初心者を対象に、インターネットやデジタルツールを効果的に活用するための基本的なスキルを学ぶ。目的は、学生がデジタルリテラシーを身につけ、日常生活でITを活用できる能力を養うことである。具体的には、PC操作の基本スキルを習得していることを前提に、インターネットでの情報収集・発信を適切に行えるようになることを目指す。また、さまざまなデジタルツールの活用法や、デジタルトランスフォーメーション（DX）の基本を学び、さらにインターネットの仕組みやサービス開発の基礎を理解し、新しいサービス創出に向けた基盤をつくる。オンデマンド型講義を用いているため、くり返し視聴することでより理解を深めることができる。また、オンライン会議システムを用いてのディスカッション実施や、講師からのフィードバックを与える。
（オムニバス形式／全15回）

授業の到達目標

スタートアップ（起業・創業）や既存のビジネスを進化・加速させるためには、インターネットやデジタルツールを理解して活用していくことが必須となってきています。また日常生活の中でも必要な情報を得たり、便利な生活を享受したりするためには、デジタルリテラシーが必要となってきています。
本科目は、こういった社会の中で、IT初学者やITに苦手意識のある方が基本的なデジタルリテラシーを身に着け、ビジネスおよび日常生活においてデジタルを活用できるようになることを目的としています。
本科目の到達目標は次のとおりです。
・PC操作の基本的なスキルを身につけ、効率良くPC作業ができるようになる
・インターネットのリテラシーを身につけ、適切に情報の取得および発信ができるようになる
・さまざまなデジタルツールを知り、デジタル化やDX（Digital Transformation）を進めるための基本を身につける
・インターネットの仕組みや開発の方法の基礎を知り、新しいデジタルサービスを作っていくための基礎を身につける

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	デジタルの活用と社会 ・講義の概要と進め方を理解する・DXを知り、ビジネス社会におけるデジタルの意味を考える	全員
2	PCリテラシー1 ・基本的なPCリテラシーを身につける	飯塚 康至
3	PCリテラシー2 ・基本的なPCリテラシーに加えて、Microsoft Office系ソフトの使い方がわかる	上野 大樹
4	インターネットリテラシー ・インターネットを利用してさまざまな情報を得たり、検索したりするためのコツを身につける	全員
5	SNSリテラシー ・SNSを活用するための最低限のリテラシーを理解する・フェイクニュースや炎上、フィルターバブルなどについて理解をする	全員
6	ICTサービスとツールの活用1 ・さまざまな便利なデジタルツールやWebサービスを知る	全員
7	ICTサービスとツールの活用2 ・さまざまな便利なデジタルツールやWebサービスを知り、活用するスキルを身につける	全員
8	生成AIと最新のデジタルツール ・生成AIや最新のデジタルツール事情をキャッチアップする	全員
9	インターネットの仕組み ・インターネットの仕組みを理解する・IPアドレス、DNS、サーバなどを理解する	飯塚 康至
10	セキュリティ対策 ・PC、スマートフォンの利用者として、基本的なセキュリティ対策ができるようになる	飯塚 康至
11	クラウドとは ・クラウドとは何か理解をする・Xaasについて知る・AWSを知る	全員
12	開発の依頼の仕方・開発に関わる人々と依頼先としてどんなところがあるか理解をする ・依頼の仕方やコミュニケーションのとり方を学ぶ	全員
13	開発方法と開発技術 ・開発方法と開発に関わる基本的な技術を学ぶ	全員
14	働き方と学び方 ・デジタルに関して、継続的に学習していけるようになる・デジタルに関する働き方やキャリアについて知る	全員
15	まとめ ・FB・講義のまとめと最終課題に対するフィードバックを行う	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
平常点	20	受講認証を参考に、平常点を総合的に評価する。	ディスカッション	10	オンライン学習システムAirCampus上での発言の回数と内容を元に評価する。
演習課題	30	演習課題の内容を評価する。	最終課題	40	最終課題の内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事後学習：講義の復習と講義への質問、コメントをオンライン学習システムAirCampus上でのディスカッション欄に毎回記載する（60分）	・オンライン学習システムAirCampus上でのディスカッション ・フィードバック講義の実施

受講生に望むこと	・主体的にITの仕組みや開発の方法の基礎を知り、新しいデジタルサービスを活用する基礎を身につけていただく	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	会計入門			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	選択
担当教員名	乾　祐哉						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
企業や組織における会計の基本を、これまで会計に触れたことのない学生を対象に、基礎から丁寧に学ぶ。会計とは何か、なぜ企業にとって重要なのかを中心に、会計の役割や目的、財務諸表（損益計算書・貸借対照表）の仕組みや読み方について理解を深める。企業活動におけるお金の流れを捉え、数値に基づく意思決定の重要性を学ぶことで、ビジネスにおける会計リテラシーの土台を築くことを目指す。専門知識がなくても理解でき、すべての学生にとって必要不可欠なビジネススキルとしての会計の全体像を掴む。	①会計とは何かを理解する ②損益計算書の基本を理解する ③貸借対照表の基本を理解する ④キャッシュフロー計算書の概要を理解する

教授方法	講義
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容とゴール、評価基準について理解する 会計を学ぶことの意味、会計の活用と重要性を理解する	
2	会計に関する表の名称と意味（PL,BS,CF）を理解する 会計の種類と違い（財務会計、管理会計、税務会計）を理解する	
3	PL_STEP１（儲けの計算式）の基本をワークの中で理解する	
4	PL_STEP２（仕入と支払・販売と代金回収の時間差）の基本をワークの中で理解する	
5	PL_STEP３　数年間使うもの（資産）を購入した場合のお金の流れと費用の考え方の基本をワークの中で理解する	
6	PL_STEP４　損益計算書が示すものの基本をワークと解説の中で理解する	
7	PL_STEP５　損益計算書について実企業の損益計算書をテーマにして分析を行う	
8	PL･BS_STEP１　在庫管理の基本を損益計算書と貸借対照表のワークの中で理解する	
9	PL･BS_STEP２　儲ける在庫管理、うまい商売のやり方の基本をワークの中で理解する	
10	PL･BS_STEP３　設備管理に関し損益計算書と貸借対照表にどのように表現するかの基本をワークの中で理解する	
11	PL･BS_STEP４　売上金回収に関し損益計算書と貸借対照表にどのように表現するかの基本をワークの中で理解する	
12	PL･BS_STEP５　売上金回収にイレギュラーが起きたらについて、損益計算書と貸借対照表にどのように表現するかの基本をワークの中で理解する	
13	PL･BS_STEP６　資金調達について、損益計算書と貸借対照表にどのように表現するかの基本をワークの中で理解する	
14	PL･BS_STEP７　貸借対照表の詳細について、損益計算書と貸借対照表にどのように表現されているかの基本をワークの中で理解する	
15	PL･BS･CF　キャッシュフロー計算書についてどのように表現されているかの基本を理解する	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	授業中の講義・演習（グループワーク含む）に積極的に参加し、質問、フィードバックを積極的に丁寧に行う。	講義外ワークの内容充実	30	講義外でのワークに積極的に取り組み充実した内容で実行している
提出物	30	①サンプル企業の会計分析に関する課題に対して適切な内容となっている。 ②定められた期間内に提出している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義で実施した講義内容の復習を行う(60分) 指定した企業の財務諸表分析を行い、財務諸表に関して基礎的な理解を深める(60分)	授業内でコメントする

受講生に望むこと	・財務3表の基本を理解する	教科書・テキスト	特になし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	マーケティング入門			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	必修
担当教員名	菅野　誠二						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
マーケティングを初めて学ぶ学生を対象に、マーケティングの基本的な概念や理論を体系的に学ぶことを目的としている。マーケティングとは何か、なぜ企業にとって重要なのかといった本質的な問いから始まり、STP（セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング）や4P,4C（製品・価格・流通・プロモーション）といった基本フレームワークを理解する。また身近な事例や企業の取り組みを通して、顧客視点に立った価値創造のあり方を学ぶ。この講義では、マーケティングに関する基礎知識を身につけるだけでなく、論理的に考え、他者に伝える力も養う。対面授業を中心に、一部メディアを取り入れた講義を行うことで、学修効果を高める。	●　目的：マーケティング・マネジメントとは「消費者、顧客、パートナー、および社会全体にとって価値のある提供物を創造、伝達、流通、交換するための活動、一連の制度、およびプロセス」を管理することである。企業経営の中核を成すもので、その巧拙が企業経営・組織の命運を分ける。マーケティングの概念と企業・組織におけるその役割などの理論に加え、身近な事例について考えさせることで効果的、且つ実践的な管理運営手法を学ぶ。また、自らのアイディアで周囲を説得しマーケティングプランを成就するための論理構成の基礎を体得する。 ●設定：実在する事業の担当者から、その事業の成長計画を策定してほしいという出題を受ける。　自ら担当者になったと想定してマーケティングプランを提案する。レポート優秀者には、その担当者に直接プレゼンテーションをしてフィードバックを受ける機会を設ける。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容とゴール、評価基準について理解する 事業におけるマーケティングの重要性を理解する	
2	近年の経営環境変化と、マーケティングの進化 経営理念、戦略、マーケティングの関連とマーケターの役割	
3	あなたがブランド○○のマーケティング責任者だとしたら、どのようなマーケティングプランを提案する？ ●ブランドの理念は？●歴史的に、ブランドの成功の理由、失敗の理由は？● マーケターが抱える課題は？● そのブランドを試しその感想をマーケティングミックスの観点から何が課題か？	
4	3回目からの課題の発表とフィードバック ●ブランド理念●ブランド成功理由●マーケッターの課題●試してみての感想、ブランドの課題	
5	●自社の事業・マーケティング課題特定 当該カテゴリー各社の市場ポジションを調べ、課題特定を行う。ブランド○○と競合していると想定される企業、ブランド、を２つを調査し、業界のトレンドを考察する。市場の全体感の把握を行う。選択したブランドの顧客価値を考察する。	
6	●仮説設定・調査・検証プロセスと顧客ニーズの特定 顧客を中心に考察し、マーケティング上の課題は何か考える。 周囲5人以上の人にインタビューをしてみる。	
7	5-6回目からの課題の発表とフィードバック ●特定したマーケティング課題●課題仮説の検証、顧客ニーズの特定	
8	●顧客理解のためのインサイト探索 顧客のインサイトは何だと思うか？ ブランド○○と競合ブランドに対する顧客の意識の差は何か？	
9	●セグメンテーションとターゲティング：カテゴリーに関して、競合ブランドそれぞれにターゲット・セグメンテーションの違いを考察する　●ポジショニングとブランディング、ビジネスモデル：競合各社の主製品それぞれにポジショニングの違いを考察し、マッピングしてみる	
10	8-9回目からの課題の発表とフィードバック ●顧客ニーズのインサイト探索●セグメンテーションとターゲティング●ポジショニングとブランディング	
11	●マーケティングミックス：Customer　Solution を創造する顧客価値戦略　商品・サービスコンセプトを作る ●マーケティングミックス：Cost　to the Customer　顧客コストの最適化戦略	
12	●マーケティングミックス：Convenience　入手利便性を設計する流通戦略 ●マーケティングミックス：Communication の最適化を図る顧客接点構築戦略	
13	11-12回目の課題の発表とフィードバック　ブランドの現実の責任者へプレゼンテーションするつもりで、マーケティングプランをまとめ発表・議論する ●全体のマーケティング課題～マーケティングミックスまで	
14	●マーケティングミックスの修正議論、他のメンバーの意見も参考にマーケティングミックスをブラッシュアップする	
15	まとめ　ブランドの現実の責任者からフィードバックをもとに最終マーケティングプランをまとめる	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	授業中の講義・演習（グループワーク含む）に積極的に参加し、質問、フィードバックを積極的に丁寧に行う。	講義外ワークの内容充実	30	講義外でのワークに積極的に取り組み充実した内容で実行している
提出物	30	①企業のマーケティングに関する課題に対して適切な内容となっている。 ②定められた期間内に提出している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義で実施した講義内容の復習を行う(60分) 取り上げた企業のマーケティング分析を行い、基礎的な理解を深める(60分)	授業内でコメントする

受講生に望むこと	・事業におけるマーケティングの基本を理解する	教科書・テキスト	講義用テキストは、講義内で講師より配布する
指定図書／参考書等	なし／マーケティング〈第2版〉（日経文庫）新書 – 2019/2/16 恩蔵 直人（著）	その他・特記事項	

実務経験を活かした授業の概要

石川県の企業の事業責任者から依頼を受けたという設定とする。その現実の商品、サービスに対してマーケテイングプランの提案、プレゼンテーションを行う。優秀な提案には企業のマーケティング責任者からフィードバックを受けることができる

授業科目名	プロジェクトマネジメント			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	選択
担当教員名	三城　雄児						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
【オンデマンド型講義】日常業務ではない、特定の目的を達成するために特別に組成された業務のことをプロジェクトと言う。本講座では、プロジェクトを立ち上げ、円滑に実行し、無事に完了させるために必要な、仕事の段取りと仕切りの具体的手法を実践的に学ぶ。また、成果を上げ続けることができるプロジェクトリーダーが持っている素養についてゲスト講師から学び、受講生一人ひとりが、身近なプロジェクトを通じて、リーダーとしてのあり方、フォロワーとしてのあり方を見直す機会も提供する。オンデマンド型講義を用いているため、くり返し視聴することでより理解を深めることができる。また、オンライン会議システムを用いて講師からのフィードバックを与える。	本講座では、プロジェクトの一員として活動する「プロジェクトメンバー」であっても、リーダーを務める「プロジェクトマネジャー」であっても、どちらの立場でも重要なプロジェクトマネジメントの本質を学ぶことを目的としています。プロジェクトの企画・計画・実行・終了の4つの段階において、持っておきたい「考え方」を知り、場面に応じて活用できる「手法」を習得します。 プロジェクトが人間活動である限り、プロジェクトで起こる問題は複雑です。従って、講義で一つの答えを伝えることは不可能です。そのため、LAや皆さんのAir Campus上のディスカッションによって、一人ひとりが自分なりの学びを得ることをゴールとしています。プロジェクトマネジメントは実践体験によって得られた「経験」が最も重要だと考えます。そこで、数々のプロジェクトを成功・失敗してきた経験を持つゲストも招いて、ゲストの「経験」から学ぶということも目指しています。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	プロジェクトマネジメントとは何か 1-(1) 自己紹介、1-(2) Why are you here?、1-(3) Whyを持つことの重要性、1-(4) プロジェクトマネジメントはビジネスの段取り術、1-(5) プロジェクトマネジメントの定義、1-(6) プロジェクトマネジメントが必要な世界、1-(7) プロジェクトの4つの段階、1-(8) 本講座で学ぶこと、1-(9) 受講生との対話	
2	自己のプロジェクト経験からの教訓 2-(1) プロジェクトは「失敗＝学び」の宝庫、2-(2) 経験学習サイクル、2-(3) 自己のプロジェクト経験を振り返る、2-(4) 講師から過去の教訓を共有、2-(5) チェンジマネジメントの重要性、2-(6) 「見えないもの」の重要性、2-(7) ディスカッション「プロジェクトで得た教訓を共有する」"	
3	プロジェクトの企画① 3-(1) プロジェクトの意義を考え抜く、3-(2) プロジェクトの目的と目標を明文化する、3-(3) メンバー選定、3-(4) リスクマネジメント、3-(5) プロジェクト憲章をつくる、3-(6) プロジェクト実施を決定する、3-(7) プロジェクトの撤退基準を決めておく、3-(8) 受講生との対話"	
4	プロジェクトの企画② 4-(1) プロジェクトを立ち上げる、4-(2) プロジェクトの真の目的を感じとる、4-(3) 目的を感じとる方法　ジャーナリング、4-(4) 存在意義を全員が感じるチームづくり、4-(5) コミットメントのあるプロジェクトへ、4-(6) 自分自身のプロジェクトをみつける、4-(7) ディスカッション「人生におけるプロジェクトをみつける」	
5	プロジェクトの計画① 5-(1) WBS、5-(2) ガントチャート、5-(3) 作業日数とバッファの設定、5-(4) クリティカルパスの検討、5-(5) プロジェクト体制、5-(6) 役割分担、5-(7) 工数見積り、5-(8) 予算計画、5-(9) 受講生との対話	
6	プロジェクトの計画② 6-(1) PDSはサイクル、6-(2) ウォーターホール vs アジャイル、6-(3) ヒエラルキー vs ホラクラシー、6-(4) 組織モデルの違いとプロジェクト体制、6-(5) 予算・工数とスコープマネジメント、6-(6) 計画の副作用、6-(7) ディスカッション　その３「組織モデル別の最適プロジェクト体制のあり方」	
7	プロジェクトの実行① 7-(1) キックオフミーティング、7-(2) 進捗管理、7-(3) 変更管理、7-(4) 課題管理、7-(5) 中間報告会、7-(6) 集中討議会、7-(7) 受講生代表との対話	
8	プロジェクトの実行② 8-(1) プロジェクト実行段階で必要なスキル、8-(2)ミーティングは発散から収束へ、8-(3) ミーティングファシリテーション、8-(4) 行動分析学でモチベーション向上、8-(5) アサーティブコミュニケーション、8-(6) 、8-(7) ディスカッション「ミーティングの改善を実行する」	
9	プロジェクトの終了 9-(1) プロジェクト完了報告、9-(2) プロジェクト評価、9-(3) プロジェクトの振り返りができるチームとできないチームの違い、9-(4) 学習する組織、9-(5) プロジェクトはなぜ同じ失敗を繰り返すのか、9-(6) メタ認知、9-(7) プロジェクト・リフレクション・ラウンドテーブル	
10	プロジェクトチームコーチングの実践（生講義） 10-(1) 相互コーチングの解説、10-(2) 相互コーチングの実施、10-(3) 相互コーチングの振り返り	
11	プロジェクトの企画実現力（ベストセラー編集者　杉浦氏からの学び） 11-(1) プロジェクトを企画して実現するために、11-(2) ゲスト講師から学ぶ　杉浦博道氏、11-(3) 杉浦氏からの学びの振り返り	
12	プロジェクトマネジメント専門家に聞く（プロマネ専門会社社長　下田氏からの学び） 12-(1) プロジェクトマネジャーとしてのあり方、12-(2) ゲスト講師から学ぶ　下田幸祐氏、12-(3) 下田氏からの学びの振り返り	
13	世界を変えるプロジェクトリーダーになる（カンボジアコットンクラブ　古澤氏からの学び） 13-(1) 世界を変える意義ある仕事をしよう、13-(2) ゲスト講師から学ぶ　古澤敦氏、13-(3) 古澤氏からの学びを振り返る	
14	新時代のプロジェクトマネジメント（テレワーク伝道師　田澤氏からの学び） 14-(1) 新しい働き方を実現しよう、14-(2) ゲスト講師から学ぶ　田澤由利氏、14-(3) 田澤氏からの学びを振り返る	
15	まとめ 15-(1) 総括、15-(2) 最終課題の説明	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
平常点	20	講義の受講認証の結果を評価します。	講義に関する発言・質問・議論	50	発言の「量」と「質」を評価します。発言は気負いなく実施いただきたいため、発言の「量」を重視します。また、発言の「質」は加点評価のみで減点評価はしません。
最終課題	30	最終課題の内容を評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事後学習：講義の復習と講義への質問、コメントをオンライン学習システムAirCampus上でのディスカッション欄に毎回記載する（60分）	・オンライン学習システムAirCampus上でのディスカッション ・最終課題に対するフィードバックコメント

受講生に望むこと	・講義内容に関し、不明な点は積極的に質問し理解を深めていただく。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／「リーダーに強さはいらない フォロワーを育て、最高のチームをつくる 」三城雄児（著） あさ出版（2017/5/23） ISBN：9784860638931	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	問題解決入門			開講学科	社会学部 社マネ	必修・選択	必修
担当教員名	冨岡　武						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要

初年次教育科目として大学での学修および今後の専門科目履修の基盤となる「問題解決の考え方」を身につけることを目的とする。学生自身の日常生活、学生生活、アルバイト、趣味、地域・社会課題など、身近で具体的なテーマを出発点とし、「当事者意識（自分事として考える姿勢）」を重視しながら、問題解決プロセスを段階的に学んでいく。日常生活で起こる課題に対して、感情や思い込みではなく、筋道を立てて冷静に考える力を養うため、物事の構造をとらえる視点や、原因と結果の関係を明確にする手法を修得する。授業では、あるべき論ではない身近で個人的な実感からスタートし、それらを理論的な問題解決プロセス（①問題定義、②課題発見、③解決策立案、④プレゼンテーション、⑤実行）の理解へと繋げていく。

授業の到達目標

【基本知識】
・問題解決の基本的なプロセス（①問題定義～②課題発見～③解決策立案～④プレゼンテーション～⑤実行）が理解できている

【問題解決スキル】
・問題定義：身近なテーマで自分の問題を定義する
・課題発見：事実ベースで「解決の鍵」を発見する感覚を体験する
・解決策立案：誰かのコピペではない「自分の答え」を創る感覚を体験する
・プレゼンテーション：結論と理由を整理して自分の言葉で表現できる
・実行：可能な場合は解決策を実行してみる（失敗してもＯＫ）

【姿勢】
・他責や批評家にならない「解決する当事者」の姿勢を身につける
・「できるできない」ではなく「難しいけど何とかしたい」思いが持てる
・論理的思考の基本（結論と理由、事実ベース）を身につける
・他者との違いを楽しみ、自分の気づき・学びにつなげる姿勢を身につける

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	■オリエンテーション： 授業の目的とゴール、評価方法、全体像（アジェンダ）、授業形式（ワークショップ）等を理解する	
2	■問題解決の全体像： 自分が「問題解決に取り組んだ」体験を振り返り、どんなときに、どうやって問題解決をしているのかを考え、共有する。体験を概念化しながら、問題解決を進めていく基本的な手順を理論として理解する	
3	■振り返り： これまでの学びの気づき・学びを言語化し、整理する。振り返りシートを作成し、共有する。事後課題を理解する	
4	■前回の事後課題共有： 1-3回の事後課題を共有し、「問題解決の全体像」の理解を定着する	
5	■問題定義①： これまでの自分の体験を紐解き「問題とは何か？」を考え、共有する。現在問題と将来問題の違いを理解する	
6	■問題定義②： 自分事として「何が問題なのか」を定義する型を学ぶ。物語の主人公にヒントを得て、自分の問題を定義してみる ■振り返り： 4－6回の気づき・学びを言語化し、整理する。振り返りシートを作成し、共有する。事後課題を理解する	
7	■事後課題共有： 4－6回の事後課題を共有し、「問題定義」の理解を定着する	
8	■課題発見①： 身近なテーマを題材に「問題と課題の違い」を理解する。「課題をどう発見するかによって解決策が変わる」感覚を持つ	
9	■課題発見②： 課題を発見するために大切な「事実ベース」を理解する。１次情報（インタビュー）と２次情報（生成AI利用）を体験練習する ■振り返り： 7－9回の気づき・学びを言語化し、整理する。振り返りシートを作成し、共有する。事後課題を理解する	
10	■事後課題共有： 7－9回の事後課題を共有し、「課題発見」の理解を定着する	
11	■解決策立案①： 身近なテーマを題材に「解決策は１つではない」ことを理解する。「解決策を探すのではなく創る」感覚を持つ	
12	■解決策立案②： 解決策を立案するために大切な「論理と創造」を理解する。論理（ロジックツリー）と創造（ブレインストーミング）を体験練習する ■振り返り： 10-12回の気づき・学びを言語化し、整理する。振り返りシートを作成し、共有する。事後課題を理解する	
13	■事後課題共有： 10-12回の事後課題を共有し、「解決策立案」の理解を定着する	
14	■プレゼンテーション①： 身近なテーマを題材に「プレゼンと説明の違い」を理解する。「自分の言葉で相手に価値をプレゼントする」感覚を持つ	
15	■解決策立案②： プレゼンテーションで大切な「構成（結論＋理由ストーリー」を理解する。５分プレゼンテーションを体験練習する ■振り返り： 13－15回の気づき・学びを言語化し、整理する。振り返りシートを作成し、共有する。事後課題を理解する	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義出席	20	出席80%（12/15回 ※集中3/4回）以上	提出物	50	・課題に沿った内容となっているか ・自分にしか書けない内容を自分の言葉で書いているか ・指定した内容以外の生成ＡＩ回答は減点対象とする
講義受講姿勢	30	・講義へのワークや質問への積極的な参加 ・違いから学び合うクラス／グループへの貢献 ・解決する当事者姿勢（自分事として考える・実行する）	レポート内容、クラス貢献	alpha	・課題レポート内容が特に優れた者 ・クラス／グループ貢献が特に優れた者

授業外における学習（事前・事後学習等）

・事後課題：授業内容の定着を目的とした自主学習（反復練習）
・事前課題：次回授業の準備を目的とした学習（事前練習）
【各60分～120分程度】

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

・事前事後課題については、クラスの学びを深めるものを選び、授業中にフィードバックを行う
・最終回については、後日教務部を通じてフィードバックコメントを届ける

受講生に望むこと	スポーツや音楽と同様に問題解決も反復練習によって誰でも身につけることができます。だから、間違っても失敗してもＯＫです。一緒に楽しく真剣に練習していきましょう！	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／必要に応じて都度紹介する	その他・特記事項	事前事後課題における事実ベースの調査等においてはChatGPT等の生成AIの利用を推奨します。一方、レポート課題では「自分にしか書けないことを自分の言葉で表現する」ことを最重視し、生成AIによる文章回答は認めません ノートＰＣまたはタブレット端末必須

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	北陸学院セミナーⅠ			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	1年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教の学びに基づいた礼拝行事への参加、フレッシュマン・セミナー、オータム・セミナーへの参加を中心とする。授業時間を設けず、礼拝出席に伴う奨励感想小レポート、セミナー参加による課題提出により評価を行う。また、セミナーと礼拝以外に諸行事への参加を求める。 フレッシュマン・セミナーにおいては自己と他者を尊重する心をはぐくむ。学生同士、また教員との交流を通じ、学生生活の基本とする。オータム・セミナーにおいては、1・2年生合同で実施することにより学年を越えた学びと交流を通じ、多様な考え方について共有を図る。 ※SDGs目標番号3、12、13関連科目	1）聖書の言葉を、心を落ち着け、静かに聴いて親しみ、その意味を聴き取る方法を体得する。 2）賛美歌に親しみ、キリスト教精神を感得する。 3）祈りに加わり、有限な世界を越えた永遠の世界に思いを馳せる。 4）生の意味について考え、自分の存在の意味を考える。 5）世界と歴史の意味に触れる。 6）自己を発見し、職業選択を含めた、自分に与えられた使命を自覚する。 7）教職員や友人と交流し、価値観を広げるとともに、意思伝達能力や集団における行動力を育む。

教授方法	大学礼拝およびフレッシュマン・セミナーならびにオータム・セミナーへの参加
履修条件	宗教オリエンテーションおよび「キリスト教概論Ⅰ」で礼拝への参加方法を学び、セミナーについての学科オリエンテーションと準備作業に参加する。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	礼拝行事、セミナーの詳細は以下の通り。	
	1．大学礼拝	
	①礼拝：毎週平均2.5回以上、礼拝でメッセージを聴き、定期的にミニレポートを提出する。	
	②献金：礼拝でささげる献金をキリスト教行事や世界の子ども支援に用いる。	
	③花の日：６月　花を諸施設に届ける。	
	④特別伝道礼拝：牧師を招き春は１・３年生を対象に行う。１年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	⑤創立記念礼拝：９月　メッセージを通して学院の歴史、建学の精神に触れる。	
	⑥収穫感謝：11月　果物を各所に届ける。	
	⑦クリスマス礼拝：学外説教者を招き、特別な礼拝を行う。１年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	2．フレッシュマン・セミナー	
	全学科教員で実施に当たる本学独自の行事。全学科１年生が聖書から本学の歴史、精神を学び、学びの姿勢を整える。	
	3．各学部で実施されるオータム・セミナーには２年生と一緒に１年生も参加する。	
	①前期・後期それぞれ礼拝出席規程回数以上の礼拝出席をし、礼拝出席押印カードを提出すること、②フレッシュマン・セミナーに出席すること、③オータム・セミナーに参加すること、④クリスマス礼拝に出席することが本科目の単位認定要件となる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
礼拝ミニレポート	50	聖書・讃美歌を持参し、週平均2.5回以上大学礼拝でメッセージを聴き、定期的に感想レポートを提出している。	セミナー課題レポート	30	・セミナーでの講演を主体的に聴いて理解し、グループで話合いを行い、レポートで振り返りを行っている。 ・セミナーの課題やレポートが期日までに提出されている。指示どおり適切に作成されている。
クリスマス礼拝	20	クリスマス礼拝に出席する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1）日頃より、聖書・讃美歌に親しむことが望ましい。 2）地域の諸教会で行われている日曜日の礼拝に出席することが望ましい。出席する教会については学生要覧を参照、または宗教主事に質問する。 3）セミナーの準備に主体的に参加する。 4）セミナー参加後に、レポート等により問題意識を深める。	セミナーに対する感想や疑問の要点を捉え、大学礼拝での奨励の主題に取り入れて語る。

受講生に望むこと	1）毎日の大学礼拝に聖書と讃美歌を持って主体的に参加する。携帯電話等は持ち込まない。万が一持ち込んだ場合は電源を切り、鞄にしまう。私語を慎み、礼拝に集中する。終了時にカードに押印を受け、押印が終了したページを、裏面に感想を記し、前期・後期ともに、定められた提出期限内に提出する。私語や携帯使用など姿勢に問題がある場合、またカードが未提出の場合、欠席したとみなされる。 2）セミナーに主体的に参加することを望む。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会、2019年、ISBN978-4-8202-1344-4 『讃美歌21』日本基督教団出版局、2006年、ISBN978-4818437135
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	本科目は「北陸学院科目」として、全教職員の理解と協力の下における大学礼拝・セミナー準備・実施から成る。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	北陸学院セミナーⅡ			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教の学びに基づいた礼拝行事への参加、オータム・セミナーへの参加を中心とする。授業時間を設けず、礼拝出席に伴う奨励感想小レポート、セミナー参加による課題提出により評価を行う。オータム・セミナーにおいては上級生としてセミナー運営にかかわることで、調整力と実行力を身につける。セミナー活動を通じて自己と他者の違いを尊重する心をはぐくみ、キリスト教精神についての学びを深める。またセミナーと礼拝以外に実施される大学礼拝と諸行事への参加を求める。 ※SDGs目標番号3関連科目	1）聖書の言葉を、心を落ち着け、静かに聴いて親しみ、その意味を聴き取る方法を体得する。 2）賛美歌に親しみ、キリスト教精神を感得する。 3）祈りに加わり、有限な世界を越えた永遠の世界に思いを馳せる。 4）生の意味について考え、自分の存在の意味を考える。 5）世界と歴史の意味に触れる。 6）自己を発見し、職業選択を含めた、自分に与えられた使命を自覚する。 7）教職員や友人と交流し、価値観を広げるとともに、意思伝達能力や集団における行動力を育む。

教授方法	大学礼拝および秋のセミナーへの参加
履修条件	「北陸学院セミナーⅠ」を修得済であること。「キリスト教概論Ⅰ」および「キリスト教概論Ⅱ」の単位を取得していることが望ましい。オータム・セミナーについての学科オリエンテーションと準備作業に参加する。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	礼拝行事、セミナーの詳細は以下の通り。	
	1．大学礼拝	
	①礼拝：毎週平均2.5回以上礼拝でメッセージを聴き、定期的にミニレポートを提出する。	
	②献金: 礼拝でささげる献金をキリスト教行事や世界の子ども支援に用いる。	
	③花の日：6月　花を諸施設に届ける。	
	④特別伝道礼拝：牧師を招き秋は２・４年生を対象に行う。２年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	⑤創立記念礼拝：９月　メッセージを通して学院の歴史、建学の精神に触れる。	
	⑥収穫感謝：11月　果物を各所に届ける。	
	⑦クリスマス礼拝：学外説教者を招き、特別な礼拝を行う。２年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	2．オータム・セミナー	
	全学科教員で実施に当たる本学独自の行事。全学科１・２年生が聖書の世界に触れ、自分の生き方を考える。学科ごとに準備を行う。	
	①前期・後期それぞれ礼拝出席規程回数以上の礼拝出席をし、礼拝出席押印カードを提出すること、②オータム・セミナーに参加すること、③クリスマス礼拝に出席することが本科目の単位認定要件となる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
礼拝ミニレポート	50	聖書・讃美歌を持参し、週平均2.5回以上大学礼拝でメッセージを聴き、定期的に感想レポートを提出している。	セミナー課題レポート	30	・セミナーでの講演を主体的に聴いて理解し、グループで話合いを行い、レポートで振り返りを行っている。 ・セミナーの課題やレポートが期日までに提出されている。指示どおり適切に作成されている。
クリスマス礼拝	20	クリスマス礼拝に出席する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1）日頃より、聖書・讃美歌に親しむことが望ましい。 2）地域の諸教会で行われている日曜日の礼拝に出席することが望ましい。出席する教会については学生要覧を参照、または宗教主事に質問する。 3）セミナーの準備に主体的に参加する。 4）セミナー参加後に、レポート等により問題意識を深める。 5）１年生もオータム・セミナーに参加する。	セミナーに対する感想や疑問の要点を捉え、大学礼拝での奨励の主題に取り入れて語る。

受講生に望むこと	1）毎日の大学礼拝に聖書と讃美歌を持って主体的に参加する。携帯電話等は持ち込まない。万が一持ち込んだ場合は電源を切り、鞄にしまう。私語を慎み、礼拝に集中する。終了時にカードに押印を受け、押印が終了したページを、裏面に感想を記し、前期・後期ともに、定められた提出期限内に提出する。私語や携帯使用など姿勢に問題がある場合、またカードが未提出の場合、欠席したとみなされる。 2）セミナーに主体的に参加することを望む。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会、2019年、ISBN978-4-8202-1344-4 『讃美歌21』日本基督教団出版局、2006年、ISBN978-4818437135
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	本科目は「北陸学院科目」として、全教職員の理解と協力の下における大学礼拝・セミナー準備・実施から成る。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教概論Ⅰ			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は全学生必修科目であり、北陸学院のキリスト教教育の基盤にある旧新約聖書について学ぶ入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。今日のグローバル・スタンダードの多くは、キリスト教の背景を持つ。本講義では、世界や人間存在の根幹にかかわる信仰および宗教とは何かを知ることから始める。続いて、キリスト教について、聖書に基づき、その概要を学び、他の宗教との違い、とくに各々の人間観・世界観・歴史観の相違を学ぶ。さらに、新約聖書の記述に直接触れつつ、代表的な主イエス・キリストのたとえ話に触れる。	北陸学院の建学の精神である「キリスト教の思想」を聖書によって知り、人間観、世界観、歴史観を広げる。 ①聖書について、キリスト教について、イエスの地上の生涯について、概略を理解することができる。 ②聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を身に付ける。 ③聖書を通して世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。 ④人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身に着ける。 ⑤他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。 ⑥北陸学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身につける。

教授方法	レジュメに基づく講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	・イントロダクション：自己紹介、本コースの概要説明、評価の仕方、使用テキストの説明。 ・礼拝の守り方、聖書の開き方、賛美歌の歌い方を学ぶ。大学礼拝の守り方、教会礼拝出席の姿勢について知る。	
2	・キリスト教、イスラム教、ユダヤ教、仏教をはじめとする世界の宗教状況について、基本知識を身につける。 ・自分自身の宗教観について改めて振り返ってみる。	
3	・世界宗教と呼ばれる諸宗教の中心的な教え（教理）を概観する。 ・マインドコントロールと信仰との違いについて考察する。	
4	・北陸学院の形成者たちと出会う。小テスト①準備。 ・史料編纂室特別講義	
5	・小テスト①：北陸学院の形成者 ・聖書という書物：聖書の描き出す神の大いなる物語（グランド・ストーリー）の大きな枠組みを理解し、それぞれの構成やジャンルを理解する。	
6	・小テスト②準備 ・主イエスのたとえ①：タラントンのたとえ　代表的な主イエスのたとえ話を通じて、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
7	・小テスト②：使徒信条 ・主イエスのたとえ②：放蕩息子を迎える父のたとえ　代表的な主イエスのたとえ話を通じて、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
8	・期末試験準備説明 ・授業評価アンケート	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	「振り返りシート」で授業内容について自分の言葉で感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。	小テスト	20	学期中2回（①「北陸学院の形成者」②「主の祈り」）、重要語句を書けるようにする小テストで評価。
教会出席レポート	20	教会の主日礼拝に出席し、説教内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。	学期末試験	40	講義内容の理解度を測る期末試験で評価。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。[30分] ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] ④収穫感謝・クリスマスにあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。[15分]	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「学期末試験」については全体講評をメソフィア等で告知する。

受講生に望むこと	・聖書・Chromebook を必ず持参すること。 ・遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ・本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『神学のよろこびーはじめての人のための「キリスト教神学」ガイド』新装増補改訂版、アリスター・Ｅ・マクグラス（芳賀力訳）、キリスト新聞社、2017年。ISBN: 978-4-87395-721-0　その他、授業内で紹介する。	その他・特記事項	・毎回、聖書並びに Chromebook を持参する。 ・授業中の他科目の内職、私語、スマホ操作など基本的社会マナー違反は放置せず注意する。繰り返されるマナー違反は厳しく減点する。他の受講生のためにも最低限のマナーは守ること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教概論Ⅱ			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は全学生必修科目であり、北陸学院のキリスト教教育の基盤にある旧新約聖書について学ぶ入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。今日の世界標準（グローバル・スタンダード）の多くは、キリスト教の背景を持つ。聖書はキリスト教の信仰と生活の基準であり、現在もっとも広く読まれているベストセラーでもある。本講義では、「キリスト教概論Ⅰ」の内容を前提として、聖書の大きなストーリーラインを学ぶ。旧約聖書の描き出す神の民の歴史から新約聖書の証しするイエス・キリストの出来事、創造から終末に至る聖書のグランド・ストーリーが自己の人生観・世界観にもたらすインパクトを探る。	北陸学院の建学の精神である「キリスト教の思想」を聖書によって知り、人間観、世界観、歴史観を広げる。 ①聖書について、キリスト教について、イエスの地上の生涯について、概略を理解することができる。 ②聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を身に付ける。 ③聖書を通して世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。 ④人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身に着ける。 ⑤他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。 ⑥北陸学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身につける。

教授方法	レジュメに基づく講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：担当教員自己紹介、本授業の概要、評価の仕方の説明。	
2	創造物語：この世界は神が造られた被造世界であり、神と人間が関わり合う舞台として形づくられたものであるという聖書の世界観を発見する。	
3	アブラハムの旅立ち：神の約束に信頼して旅立ったアブラハムの信仰物語を通じて、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
4	小テスト①準備 モーセの召命：モーセの物語を通じて、神に呼ばれその務めに立てられ、使命に生きるという人生観を発見する。	
5	小テスト①：十戒 出エジプト：神が苦しみ悩む者を解放し導く主であることを見出し、それが自らの人生に示唆するインパクトを探究する。	
6	小テスト②準備 イエス・キリストの誕生、その教えとわざ：イエス・キリストの生涯と働きを知り、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
7	小テスト②：使徒信条 十字架と復活：イエス・キリストの死と復活、そこから始まっていった教会の伝道のわざについて知り、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
8	・期末試験準備説明 ・授業評価アンケート	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	「振り返りシート」で授業内容について自分の言葉で感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。	小テスト	20	学期中2回（①「十戒」②「使徒信条」）、重要語句を書けるようにする小テストで評価。
教会出席レポート	20	教会の主日礼拝に出席し、説教内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。	学期末試験	40	講義内容の理解度を測る期末試験で評価。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。 ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[30分] ④収穫感謝・クリスマスにあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「定期試験」については全体講評をメソフィア等で告知する。

受講生に望むこと	・聖書・Chromebook を必ず持参すること。 ・遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ・本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。	教科書・テキスト	『聖書』（聖書協会共同訳）（日本聖書協会）
指定図書／参考書等	なし／授業の中で別途紹介する。	その他・特記事項	・聖書・Chromebookを必ず持参すること。 ・映像や音楽も取り入れた興味深い授業展開を目指す。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教人間論Ⅰ			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	髙田　恵嗣						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、聖書およびキリスト教思想に基づいて、人間とは何者であるのかを根本から問い直す。キリスト教は、人間を単なる理性的存在や社会的存在としてではなく、「神によって創造され、愛され、関係の中で生きる存在」として理解してきた。本講義では、「創造」「自由」「罪」「弱さ」「赦し」「愛」といった主題を通して、キリスト教的人間観の基礎を学ぶとともに、現代を生きる私たち自身の生き方や価値観との関係を考察する。宗教的前提を強いることなく、人間理解の一つの視座としてキリスト教思想に触れ、主体的に考える力を養うことを目指す。	① キリスト教における人間理解の基本的枠組みを理解する ②「神のかたち」「自由」「罪」などの概念を、現代的課題と関連づけて考察できるようになる ③ 人間の弱さや有限性を否定ではなく問いとして捉える視点を身につける ④ 自分自身の人間観を言語化し、他者と共有する力を養う

教授方法	毎回の授業では資料プリントを配布し、PowerPointを用いた講義を中心に進める。 加えて、理解の定着と主体的な学びを促すため、質疑応答やグループワークを適宜取り入れ、学生同士の対話を重視した授業を行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：本授業の目的と進め方を確認するとともに、「人間とは何者か」という本講義全体を貫く問いを提示し、キリスト教人間論を学ぶ意義について考察する。	
2	創造された存在としての人間：創世記を手がかりに、人間が「神のかたち」として創造された存在であるというキリスト教的人間理解を学び、人間の尊厳の根拠について考える。	
3	自由と責任：自由意志と責任の問題を取り上げ、人間が自由を与えられた存在であることの意味と、その自由がもたらす可能性と困難について考察する。	
4	罪とは何か：キリスト教における「罪」の概念を、道徳的過失ではなく関係の破れとして理解し、人間の自己中心性や孤立の問題を検討する。	
5	弱さ・有限性としての人間：人間の弱さや有限性に注目し、死・病・限界と向き合う存在としての人間をどのように理解するかをキリスト教的視点から考える。	
6	赦しと回復：赦しの思想を中心に、人間が失敗や罪を抱えながらも回復へと導かれる存在であることについて、聖書の物語を通して学ぶ。	
7	愛される存在としての人間：無条件の愛（アガペー）の概念を取り上げ、人間が努力や成果以前に「愛される存在」であるという人間観について考察する。	
8	前期まとめ、定期考査：授業の前半は前期の内容を総括し、キリスト教的人間理解の全体像を整理するとともに、自らの人間観を言語化するための振り返りを行う。後半の４５分で定期考査を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
到達度テスト	50	前期の授業内容に関する基本的理解度を到達度テストによって評価する。授業で扱った主要概念（創造・自由・罪・赦し・愛など）を的確に説明できているかを基準とする。	ミニレポート	30	授業内容について、自らの考えや疑問を自分の言葉で表現できているかを評価する。単なる要約ではなく、授業内容と自己の経験や問題意識との関連づけが見られるかを重視する。
参加態度	20	授業への主体的な関与を評価する。具体的には、質疑応答や意見交換への積極的な参加、グループワークにおける協働的姿勢から総合的に判断する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。 ②その週の授業内容をプリントで復習し、到達度テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げる。［30分］ ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。 ④花の日礼拝にあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。	講義後に提出されるミニレポートを確認し、学生の疑問や意見を授業に反映させる形でフィードバックを行う。

受講生に望むこと	授業に主体的に参加し、他者とともに問いを探究する姿勢を大切にしてほしい。自分なりの関心を持ち、楽しみながら学びに取り組むことを期待する。	教科書・テキスト	『聖書　聖書協会共同訳』日本聖書協会
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	指定日開講

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教人間論Ⅱ			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	髙田　恵嗣						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
後期の授業では、前期で学んだキリスト教的人間理解を基盤として、イエス・キリストの生と教え、さらに現代社会における人間の課題へと視野を広げていく。苦しみ、排除、沈黙、死といった人間の根源的問題に対し、キリスト教はどのようなまなざしを向けてきたのかを考察する。また、平和、人権、隣人愛といった社会的テーマを取り上げ、キリスト教人間論が現代世界にどのような示唆を与えうるのかを検討する。信仰の有無にかかわらず、現代人が直面する問いに対して思考を深めることを目指す。	① イエス・キリストの言動を通して、人間理解の具体的展開を学ぶ ② 苦しみや沈黙といったテーマを、人間存在の問題として考察する ③ 他者・社会・世界との関係の中で人間を捉える視点を養う ④ 現代社会における価値観や生き方を批判的かつ建設的に考える力を身につける ⑤ キリスト教人間論を踏まえ、自らの生き方について深く省察す

教授方法	毎回の授業では資料プリントを配布し、PowerPointを用いた講義を中心に進める。 加えて、理解の定着と主体的な学びを促すため、質疑応答やグループワークを適宜取り入れ、学生同士の対話を重視した授業を行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イエスは人間をどう見たか：イエス・キリストの言動を通して、人間を評価や能力ではなく存在そのものとして受けとめるまなざしについて考察する。	
2	沈黙・苦しみの中の人間：十字架の出来事を中心に、苦しみや沈黙の中に置かれた人間と神の関係について考え、人間存在の痛みと向き合う視点を学ぶ。	
3	他者と生きる存在としての人間：隣人愛の教えを通して、他者と共に生きる存在としての人間のあり方を考え、違いをもつ他者との関係性について検討する。	
4	社会の中の人間：社会の中で生きる人間に焦点を当て、正義、平和、人権といったテーマとキリスト教人間論との関係を考察する。	
5	現代社会と人間理解：現代社会における成果主義や競争の問題を取り上げ、評価や有用性に基づく人間理解をキリスト教的視点から問い直す。	
6	死と希望：死と希望の問題を扱い、キリスト教における復活信仰が人間の生と死にどのような意味を与えてきたのかを考える。	
7	現代人への問い：キリスト教人間論が現代社会において持つ意義と限界について批判的に検討し、多様な価値観との対話を試みる。	
8	総まとめ、到達度テスト：授業の前半は授業全体を振り返り、人間とは何者であるのかという問いに対する各自の到達点を整理し、学びの総括を行う。後半の４５分間の到達度テストを実施する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
到達度テスト	50	後期の授業内容に関する理解度を到達度テストによって評価する。イエスの人間理解、苦しみ・沈黙の問題、隣人愛、平和や人権などを的確に説明し、自らの言葉で整理できているかを基準とする。	ミニレポート	30	授業内容について、自らの考えや疑問を自分の言葉で表現できているかを評価する。単なる要約ではなく、授業内容と自己の経験や問題意識との関連づけが見られるかを重視する。
参加態度	20	授業への主体的な関与を評価する。具体的には、質疑応答や意見交換への積極的な参加、グループワークにおける協働的姿勢から総合的に判断する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。 ②その週の授業内容をプリントで復習し、到達度テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げる。［30分］ ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。 ④クリスマス礼拝にあたり、神に感謝し、諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。	講義後に提出されるミニレポートを確認し、学生の疑問や意見を授業に反映させる形でフィードバックを行う。

受講生に望むこと	授業に主体的に参加し、他者とともに問いを探究する姿勢を大切にしてほしい。自分なりの関心を持ち、楽しみながら学びに取り組むことを期待する。	教科書・テキスト	『聖書　聖書協会共同訳』日本聖書協会
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	指定日開講

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	郷土の文学			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	中島　賢介						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
石川県は、金沢の三文豪をはじめ散文韻文ともに数多くの作家を輩出している。本講義では、小説やエッセイのみならず、短歌・俳句・川柳・自由詩なども紹介しながら「郷土の文学の楽しみ方」を提案する。ただ、担当教員が地元ゆかりの文学作品を紹介するだけでなく、受講生が金沢市内の文学館・博物館や文学碑を巡るフィールドワーク、調査研究や創作発表を通して体験的に郷土の文学を学び、より身近に感じる。	①石川県ゆかりの作家や作品について理解し、わかりやすく説明することができる。 ②フィールドワークによって、テーマに沿って金沢市内の文学館や博物館を巡り、作品や作家をより身近に感じることができる。 ③自分の深めたい作品作家について研究し、その成果を効果的にプレゼンテーションすることができる。

教授方法	プリントを使用した講義、フィールドワーク、研究発表会
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要、成績評価方法などの説明を行った上で、受動的態度から能動的態度をもって文学に関わる楽しさについて考える。	
2	江戸期以前の文学：歌枕として親しまれて、さまざまな古典文学に登場する北陸の地について理解する。	
3	江戸期の文学：松尾芭蕉、加賀千代女、勧進帳などを取り上げ、近世文学に登場する北陸の地について理解する。	
4	金沢の三文豪①：泉鏡花の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
5	金沢の三文豪②：徳田秋声の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
6	金沢の三文豪③：室生犀星の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
7	加賀の作家と作品①：加賀出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
8	加賀の作家と作品②：加賀出身ゆかりの詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
9	能登の作家と作品①：能登出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
10	能登の作家と作品②：能登出身ゆかりの詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
11	金沢の作家と作品①：金沢出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
12	金沢の作家と作品②：金沢出身ゆかりの詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
13	北陸学院の作家と作品：北陸学院ゆかりの作家詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
14	研究発表会１：これまでの学びをさらに発展させ、各自が研究成果を発表する。	
15	研究発表会２：これまでの学びをさらに発展させ、各自が研究成果を発表する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	課題提出状況、グループディスカッションへの参加。	課題	30	授業を理解した上で適切に記述されているか。
研究発表会	40	研究した内容について、独自の手法で成果を報告する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回、指定された作品箇所を読み、内容を把握する。［30分］ 各自、半日から一日をかけて金沢市内の文学館・博物館・文学碑を巡るフィールドワークを行う。［180分～240分］	毎回の冒頭に、前回提出されたコメントペーパーの内容を紹介しコメントする。

受講生に望むこと	この機会に郷土の文学に触れてほしい。 フィールドワークにかかる費用（交通費、入館料など）は実費とする。	教科書・テキスト	なし。適宜プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし／『ミリアニア　石川の近代文学』金沢近代文芸研究会編　能登印刷出版　2001年　ISBN：978-4890103898『文学への旅　金沢・名作の舞台』「文学への旅　金沢・名作の舞台』編集委員会　2000年　ISBN4－89010－335-XC0095	その他・特記事項	金沢の三文豪を始め、郷土作家の作品は、「青空文庫」（https://www.aozora.gr.jp）でも読むことができる。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	日本国憲法			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	土屋　仁美						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は一般教養科目として開講する。憲法と法律の違いや、憲法が目指すもの、憲法が自分たちの生活にどのように関わっているのか、憲法が定める平等などについて学び、実際に裁判となった事案や社会で議論されている事柄などをもとに学習する。現代社会を生きるうえで基盤となる憲法学的な視点や考察力を身につける。憲法を知ることで良き市民として社会に出て行くための知識と考える力を身につけることを目的とする。 ※SDGs目標番号1～17関連科目	①憲法の役割と機能を理解する。②憲法の基本的な知識や論点を理解する。 ③個人情報のデータ化、性的マイノリティ、子どもの貧困といった身近にある問題に対して、憲法学的な観点から考察する力を身につける。

教授方法	講義毎にレジュメと資料を配布します。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	憲法とは何か？：憲法の基礎知識について学びます。（授業の進め方と成績評価の方法について説明した後に、法と道徳の違い、法律と憲法の違い、日本国憲法の特徴について理解する。）	
2	日本国憲法がめざすもの：日本国憲法の基本原理について学びます。（日本国憲法の基本原理(基本的人権の尊重、国民主権、平和主義)とその関係性について理解する。）	
3	平和に生きる：平和主義、国際貢献について学びます。（前文と第9条から、平和主義と国際貢献、自衛隊について理解する。）	
4	「個」性のために：個人の尊重、憲法上の権利について学びます。（基本的人権総論として、人権の類型、享有主体、適用範囲について理解する。）	
5	データ化された個人情報：プライバシーの権利について学びます。（個人情報のデータ化に伴う問題点について、プライバシーの権利から理解する。）	
6	自分のことは自分で決める：自己決定権について学びます。（医療分野の患者の意思について、自己決定権の観点から理解する。）	
7	すぐそばにある差別：法の下の平等、不合理な差別について学びます。（性的マイノリティに関わる裁判例をもとに、法の下の平等について理解する。）	
8	なぜ差別は起きるのか？：「無意識の差別」について考えます。（第7回の授業内容に基づき、具体的な出来事を通して憲法学的な考察力を向上させる。）	
9	胸の内にあるもの：思想・良心の自由について学びます。（日の丸・君が代の強制の問題について、思想・良心の自由の観点から理解する。）	
10	信じていてもいなくても：信教の自由について学びます。（信教の自由、政教分離の原則について理解する。）	
11	インターネットで広がる表現空間：表現の自由について学びます。（表現の自由の意義、内容とその限界について理解する。）	
12	憲法と経済の関係は？：職業選択の自由について学びます。（職業選択の自由、規制目的と審査基準について理解する。）	
13	どうする？　子どもの貧困：生存権について学びます。（社会権の原則的な権利である生存権について、子どもの貧困の観点から理解する。）	
14	教えること、いじめのこと：教育を受ける権利について学びます。（教育を受ける権利の内容と「いじめ」について理解する。）	
15	基本的人権をまもるために:統治機構について学びます。（権力分立と立法、行政、司法の役割について理解する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト／確認テスト	70	授業内容の基本的な知識や論点の理解度についての評価します。	小レポート	5	具体的な出来事を通して憲法学的な考察力について評価します(第8回)。
期末テスト	25	憲法の基本的な知識や論点の理解度について評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習として、教科書の該当箇所を事前に読んで、授業に臨むことが望まれます。［20分］教科書の該当箇所は、第1回目の授業時で指示します。事後学習として、その日のうちに配布プリント・資料をもとに復習しましょう。［30分］	小テストの答え合わせは次回の講義時に掲載・解説します。

受講生に望むこと	日ごろから時事問題に関心を持ちましょう。授業内容に関連する出来事については、授業内で積極的に取り上げます。自身の生活とのつながりを意識しましょう。	教科書・テキスト	『基本的人権の事件簿――憲法の世界へ』第7版,棟居快行・松井茂記・赤坂正浩・笹田栄司・常本照樹・市川正人著,有斐閣,2024年,ISBN978-4-641-28155-4
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	小テスト、確認テスト、小レポートは、Google Classroomを用います。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	青年の心理			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	宇根本　聡						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
青年心理学は、青年期の心理や行動を研究対象とする発達心理学の一領域であり、この領域の知見によって青年が自分自身の心理や行動を振り返り、より良く生きるきっかけをつかむことができる。この授業では、生涯発達の途上にある青年期の心理と行動について解説するとともに、青年期の心理臨床や援助について講義する。 ※SDGs目標番号3、4、5、10、16関連科目	①青年期の心理と行動について理解する。 ②青年の心理や行動を青年心理学の知見で説明できる。 ③自分自身の心理や行動を、青年心理学の知見を用いて振り返ることができる。

教授方法	講義を中心に、ワークを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	青年期とは：青年期の成立過程と時代的変化を理解する。	
2	思春期・青年期の心の在り方やともだち関係について振り返り理解する。	
3	青年期の発達課題：エリクソンのライフサイクル理論を理解する。	
4	発達障害：発達障害という概念や代表的な発達障害について理解する。	
5	学校と思春期・青年期①：学校における思春期の問題である「いじめ」について理解する。	
6	思春期・青年期と「異界」①：前思春期から思春期における「異界」の意味を理解する。	
7	思春期・青年期と「異界」②：「異界」を文学・芸術等を通して理解する。	
8	思春期・青年期と身体：思春期・青年期における身体的およびその変化がもたらす心理的影響、精神障害について理解する。 LGBTQ＋について理解を深める。	
9	学校と思春期・青年期②：増加する不登校や青年期以降のひきこもりについて理解する。	
10	思春期・青年期と家族：親からの分離個体化に関わる心理や行動について理解する。	
11	思春期・青年期とメディア：心理や行動に対して、コミュニケーションメディアの変化が与える影響について考える。	
12	青年期と非行：非行の実態を知り、非行に関わる心理を理解する。	
13	青年期の支援①：心理療法について理解する。発達障害の心理療法について理解する。	
14	ライフサイクルと、大人の思春期：社会の変化による青年期の変化をライフサイクル理論から捉える。	
15	青年期への支援とリソース：青年期への支援とリソース（社会資源）について知る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	40	講義内容に関する筆記テストを行い、講義内容の理解の程度を評価する。	提出物	40	授業中指示の提出物、ワークシートにより評価する。
授業への参加態度	20	授業中の質疑（ワークシートによる質疑）等での参加の程度により評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：事前に伝えた教科書の範囲を読んで、おおよその理解をしておく（30分/回）。 事後学習：授業で配布した資料等を活用し、授業内容を復習する（60分/回）。	随時行う。

受講生に望むこと	①授業内容と、自身の日常の生活とのつながりを意識し、自分自身の心理と行動に興味を持ち、積極的に参加してほしい。 ②ワークやディスカッションは、真剣に自身の心理や行動を振り返りながら行なってほしい。	教科書・テキスト	新訂　思春期・青年期の心理臨床（放送大学教材）　大山泰宏　著　放送大学教育振興会　2019年　ISBN 978-4595319259
指定図書／参考書等	なし/『よくわかる青年心理学［第2版］』　白井利明編　ミネルヴァ書房　2015年　ISBN: 978-4623072491	その他・特記事項	この授業は、毎回PCを持参する必要がある。

実務経験を活かした授業の概要

青年期の課題について、スクールカウンセラーや発達相談センター相談員としての経験を教材として取り上げ、ディスカッションを通じて、学生の学びを深めていく。

授業科目名	政治学			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	髙木 顕心						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要

この授業では、政治学の基礎的な知識を身につけることで、現代の政治を理解する上で、重要なことがらを理解できるようになることを目標とします。民主主義とはどのようなものか。政治を担う人は私たちとどのようにつながっているのか、などの事柄を、政治学の基本的な理論、分析枠組み、事例に基づいて概説します。様々な政治的な現象がなぜ起きているのか、その背景にはどのようなことがあるのかを考える材料を得ることを目指します。
各回の授業では、政治学の中の個別分野を1つずつ取り上げて、その内容について深く掘り下げる形で解説していきます。まずは、民主主義の在り方に関する議論をします。その後、政党・政治家・国会・行政・地方政治・有権者の各アクターに焦点を当てて詳しく説明をしていきます。

※SDGs目標番号5、8、10、16関連科目

授業の到達目標

・基礎的な政治的知識・政治学の知識を身に着け、現実の政治現象に対して政治学的な観点から分析・理解する能力を身につける。
・民主主義のシステムが政治過程に与える影響について理論的に説明することができる。
・ニュースを見たときに政治に関する現象をこの授業で学んだ政治学の言葉を用いて説明できるようになる。

教授方法	授業はスライドを使った講義形式を中心に行います。
履修条件	受講にあたって、前提知識や条件はありません。初回授業で皆さんの興味関心をおたずねします。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション＆政治とは、政治学とは何か？：講義を始めるにあたって、注意事項や授業の進め方を説明します。また、そもそも政治とは、政治学とは何かについて学習します。	
2	民主主義体制：民主主主義体制の多様性（直接・間接、エリート、参加型）など、現代を動かすルールについて学びます。	
3	権威・全体主義体制と民主主義体制：民主主義体制以外の国の在り方について学びます。政治権力の類型についても学習します。	
4	地方自治　中央－地方関係：官僚と呼ばれる人々が果たす役割と、地方自治体の機能について学習します。	
5	政治参加と選挙：選挙制度の類型、選挙が政治過程に与える影響などを学習します。また、デモなどの投票外参加についても学びます。	
6	オンデマンド授業の振り返りと質疑応答	
7	投票行動：政党に対する投票、価値観、イデオロギー、合理的投票といった投票行動の類型について学びます。	
8	政党・政治家：政党・政治家が果たす役割に加えて、日本政治の特色についても学習します。	
9	国会：私たちの生活のルールである法律がどのように形成されていくのか、また議会内で政党はどのように競合し、協力しているのかについて学習します。	
10	議院内閣制と大統領制：トップリーダーが果たす役割とその違いについて学習します。	
11	政治とマスメディア：「第四の権力」といわれるマスメディアが、政治とどのようにかかわり、監視してきたかについて学びます。	
12	利益集団：利益集団が、政治的な決定や政治家の行動に与える影響について学びます。	
13	政治学方法論入門（科学としての政治学）：政治学は、その誕生以来長い歴史において、「因果関係の特定」を目指してきました。ここでは、科学としての政治学のたどった歴史について大まかに学習します。	
14	授業の振り返りと全体のまとめ：ここまで学習してきたことを自らの手でまとめて、到達度テストに取り組みます。	
15	政治学から見えるもの：到達度テストの振り返り・講評とともに、政治学を学んだ先に見える世界について学習します。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
確認クイズ	20	オンデマンド授業では毎回、講義の理解度を確認するためにの確認クイズを行う。	小テスト	40	集中講義1日目と2日目の終わりに、その日の内容をまとめた小テストを実施する。
到達度テスト	40	集中講義最終日に、到達目標を達成（理論の理解と実際の政治への応用）ができているかを評価するテストを実施する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）

・講義で使用するスライド資料は、Google Classroomを通じて授業前に配布するので必ず目を通しておいてください。[30分]
・毎日、新聞・ニュース等に目を配り、政治に関する様々なニュースに触れること。授業で学んだ理論に合致する現象かどうかを自分なりに考えるようにしてください。[60分]

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

・オンデマンド授業での課題は、対面授業初回に講評（答え合わせや解説）を行います。
・小テストは翌日の初めに講評（答え合わせや解説）を行います。
・授業では、Google Classroomを使用して授業内容について質問受付をする予定ですが、皆さんの意見をうかがい、他のシステムなどでの質問受付をすることも検討します。
・その他、提出する／しないは任意で、授業中あるいは授業後にネット上で取り組むExtra Credit課題を出します。この点数を成績評価項目の点数合計に加算します。

受講生に望むこと	・世界や日本の日々の政治ニュースに可能な限り目を配るようにしてください。 ・ほかの受講生の学びの権利を侵害する行為（授業の妨害、おしゃべり、においの伴う飲食…etc）を行った学生に対しては、退室等の厳しい処置を取ることがあります。	教科書・テキスト	特に指定しない。
指定図書／参考書等	特に指定しない。／坂本治也・石橋章市朗 編 『ポリティカル・サイエンス入門』(法律文化社、2020)ISBN:9784589041005．砂原庸介・稗田健志・多湖淳 『政治学の第一歩』(有斐閣、2020)ISBN:9784641150782．飯田健・松林哲也・大村華子 『政治行動論－有権者は政治を変えられるのか－』(有斐閣、2015)ISBN:9784641150294 ．宇野重規 『民主主義とは何か』(講談社現代新書、2020)ISBN:9784065212950．待鳥聡史 『代議制民主主義とは何か－「民意」と「政治家」を問い直す」(中公新書、2017)ISBN:9784121023476.	その他・特記事項	「政治」は、これから皆さんがどのようなキャリアを歩み、どのような分野に進まれるとしても必ずついてくる事柄です。皆さんの中には、「政治」は近づきにくく、理解しづらいもの、と考える人も多いかもしれません。本講義では、「政治」が皆さんの近くにあることを出発点とします。新聞・テレビ・ネットニュースを見る際にも、どの情報を取捨選択すればよいかについて、この講義はきっと皆さんのお役に立てると考えています。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＡＩ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	リチャード ポーター						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語科目最上位として位置づけられており、ＣＥＦＲＢ２＋～Ｃ１の能力を有すると判断された者、また英語BI, BIIを学修した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く)の向上を目指す。	・現代社会のさまざまな問題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。 ・それぞれのテーマについてデータからの情報を利用して論理的なディスカッションを行うことができる。 ・ディスカッションや新たな情報も取り入れて自分の意見をまとめ、スピーチ、プレゼンあるいはライティングで発表できる。 ・CEFRのB2+～C1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	1年次に「英語BI」「英語BII」を履修し、少なくとも1科目単位修得済みの者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等) Self-introduction	
2	Unit 1 (1)Pandemic and People's Lifestyleをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
3	Unit 1 (2) Pandemic and People's Lifestyleについてデータを用いて意見を発表する。	
4	Unit 2 (1) The Circular Economyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
5	Unit 2 (2) The Circular Economyについてデータを用いて意見を発表する。	
6	Unit 3 (1) Road to Decarbonizationをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
7	Unit 3 (2) Road to Decarbonizationについてデータを用いて意見を発表する。	
8	Unit 4 (1) Online Learning and School Lifeをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
9	Unit 4 (2) Online Learning and School Lifeについてデータを用いて意見を発表する。	
10	Unit 5 (1) Delivery Robotsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
11	Unit 5 (2) Delivery Robotsについてデータを用いて意見を発表する。	
12	Unit 6 (1) Discrimination against Asian Americansをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
13	Unit 6 (2) Discrimination against Asian Americansについてデータを用いて意見を発表する。	
14	Unit 7 Gendered Division of Houseworkをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、自分の意見をまとめる。	
15	Unit 1～Unit 7で学んだテーマから1つを選び、スピーチまたはプレゼンテーションを行う。 これまでに学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、前期の振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『CLIL Discuss the Changing World 2』. Miyako Nakaya et al. 2023. 成美堂. ISBN:978-4791972685
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＡⅡ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	リチャード ポーター						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＡⅠを学修した者を対象に開講する。またCEFRのB2+～C1程度の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す〈やり取り/発表〉・書く）の向上を目指す。	・現代社会のさまざまな問題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。 ・それぞれのテーマについてデータからの情報を利用して論理的なディスカッションを行うことができる。 ・ディスカッションや新たな情報も取り入れて自分の意見をまとめ、スピーチ、プレゼンあるいはライティングで発表できる。 ・CEFRのB2+～C1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語 AI」を履修した者(単位未修得可)

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション Unit 8（1）Preparing for Emergenciesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
2	Unit 8（2） Preparing for Emergenciesについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
3	Unit 9（1）Ukraine and Afghanistanをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
4	Unit 9（2）Ukraine and Afghanistanについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
5	Unit 10（1）Digital Societyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
6	Unit 10（2）Digital Societyについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
7	Unit 11（1）Climate and Infectious Diseasesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
8	Unit 11（2） Climate and Infectious Diseasesについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
9	Unit 12（1） Overtourism and Undertourismをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
10	Unit 12（2） Overtourism and Undertourismについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
11	Unit 13 Multicultural Exchange in Japanをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、自分の意見をまとめる。	
12	Unit 14 Changing Africaについて内容を理解した後、データを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
13	Unit 15 Helping People Make Better Choicesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う。	
14	Unit 8～Unit 15で学んだテーマから1つを選び、データを用い反論も考慮に入れてプレゼンテーションを行う。	
15	これまでに学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、後期の振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『CLIL Discuss the Changing World 2』. Miyako Nakaya et al. 2023. 成美堂. ISBN:978-4791972685
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＢⅠ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	グレン　ノリス						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者CEFR B2の能力を有すると判断された者、また英語ＣⅠ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業ではSDGsに関連するテーマを様々な活動を通して学び発信することにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。 *SDGs関連科目	・SDGsに関連するテーマについて映像教材も利用して情報を得て、グローバル、ローカルの両方の視点から理解する。 ・統計データを利用してディスカッションやライティングを行い、自分の考えを発信することができる。 ・CEFR B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい、履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1) Good Health and Well-beingをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
3	Unit 1 (2)　Good Health and Well-beingについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
4	Unit 2 (1) Life on Landをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
5	Unit 2 (2) Life on Landについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
6	Unit 3 (1) Reduced Inequalityをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
7	Unit 3 (2) Reduced Inequalityについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
8	Unit 4 (1) Climate Actionをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
9	Unit 4 (2) Climate Actionについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
10	Unit 5 (1) Sustainable Cities and Communitiesをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
11	Unit 5 (2) Sustainable Cities and Communitiesについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフライティンを行う。	
12	Unit 6　Gender Equalityをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、テーマについてデータも用いて意見交換する。	
13	Unit 7　Quality Educationをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、意見交換する。	
14	Unit 1～Unit 7でこれまで学んたことがらから各自 1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする。	
15	Unit 1～Unit 7でこれまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］ ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。［30分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Facing Challenges』. 2025. Peter J. Collins・小林めぐみ. 金星堂. ISBN: 978-4764742239
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＢⅡ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	グレン　ノリス						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者CEFR B2の能力を有すると判断された者、また英語ＣⅠ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業ではSDGsに関連するテーマを様々な活動を通して学び発信することにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。 *SDGs関連科目	・SDGsに関連するテーマについて映像教材も利用して情報を得て、グローバル、ローカルの両方の視点から理解する。 ・統計データを利用してディスカッションやライティングを行い、自分の考えを発信することができる。 ・CEFR B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語ＢⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、Unit 8 (1) Responsible Consumption and Productionをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
2	Unit 8 (2)　Responsible Consumption and Productionについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
3	Unit 9 (1) Life Below Waterをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
4	Unit 9 (2) Life Below Waterについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
5	Unit 10 (1) Decent Work and Economic Growthをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
6	Unit 10 (2) Decent Work and Economic Growthについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
7	Unit 11 (1) No Povertyをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
8	Unit 11 (2) No Povertyについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
9	Unit 12 (1) Affordable and Clean Energyをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
10	Unit 12 (2) Affordable and Clean Energyについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
11	Unit 13 (1) Clean Water and Sanitationをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
12	Unit 13 (2) Clean Water and Sanitationについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
13	Unit 14 Industry, Innovation and Infrastructureをテーマにビデオ視聴、リーディング、リスニング活動を通じて内容理解し、それについての意見交換を行う。	
14	Units 8-14からテーマを各自一つ選びスピーチ/プレゼンテーションをする。Peer reviewを行う。	
15	Unit 8～Unit 14の復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］ ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。［30分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Facing Challenges』. 2025. Peter J. Collins・小林めぐみ. 金星堂. ISBN: 978-4764742239
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＣＩ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	カーラ　カリー						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者、CEFR B1～ B2の能力を有すると判断された者、また英語　ＤＩ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力が求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・日常的な身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。 ・得た情報をもとに言語使用ができる。 ・会話ストラテジーや適切な文法を用いてコミュニケーションが行えるようになる。 ・CEFR B1～B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1: Staying Connected (1) smartphonesをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､現在進行形・過去進行形が正しく使えるようになる。	
3	Unit 1: Staying Connected (2) リーディングによりsmartphonesの問題について理解し、グループディスションやライティングを通じて自分の考えをまとめ、発信する。グループワークでリサーチ、ディスカッションを行い、クラスで共有する。	
4	Unit 2: Eat Your Way around the World (1) international foodをテーマにリスニング、英会話、内容を理解する。必要語彙、分詞形容詞が正しく使えるようになる。	
5	Unit 2: Eat Your Way around the World (2) リーディングによりtable mannersについて理解し、グループディスカッションやライティングを通じて自分の考えをまとめ､発信する。グループワークでdinner menuを考案しクラスで共有する。	
6	Unit 3: The Magic of Music (1) musicをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､関係代名詞が正しく使えるようになる。	
7	Unit 3: The Magic of Music (2) リーディングによりmusic festivalについて理解し、グループディスカッションやライティングを通じて自分の考えをまとめ､発信する。グループワークでmusicについての共通点を見つけ、クラスで共有する。	
8	Unit 1 ～Unit 3の復習 Unit 1～Unit 3で学んだテーマから1つを選び､ショートスピーチを行う。	
9	Unit 4: It's Travel Time (1) travelをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､現在完了が正しく使えるようになる。	
10	Unit 4: It's Travel Time (2) リーディングによりbackpacking tripsについて理解し、グループディスカッションやライティングを通じて自分の考えをまとめ､発信する。グループワークで旅の経験を質問し合い、クラスで共有する。	
11	Unit 5: For the Love of Shopping (1) shoppingをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙、take/cost/spend等の動詞が正しく使えるようになる。	
12	Unit 5: For the Love of Shopping (2) リーディングによりshopping habitsについて理解し、グループディスカッションやライティングを通じて自分の考えをまとめ､発信する。グループワークで買物行為の共通点を見つけ共有する。	
13	Unit 6: A Nod to Nature (1) natureをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､倒置文､時を表す従属節が正しく使えるようになる。	
14	Unit 6: A Nod to Nature (2) リーディングによりThe Northern Lightsについて理解し、グループディスカッションやライティングを通じて自分の考えをまとめ､発信する。グループワークでSeven Natural Wondersをリサーチし共有する。	
15	Unit 4～Unit 6で学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションをする。 これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末ト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Live　Horizons, Book 2』. Teruhiko Kadoyama et al. 2026. 成美堂. ISBN: 978-4-7919-7333-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＣⅡ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	カーラ　カリー						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＣⅠを学修した者を対象に開講する。またCEFR B1～B2程度の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力が求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・日常的な身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。 ・得た情報をもとに言語使用ができる。 ・会話ストラテジーや適切な文法を用いてコミュニケーションが行えるようになる。 ・CEFR B1～B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語ＣⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、 Unit 7:People's Many faces (1) people's looksをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､It's … that等の分裂文が正しく使えるようになる。	
2	Unit 7: People's Many Faces (2) リーディングによりfirst impressionsについて理解し、グループディスションやライティングを通じて自分の考えをまとめ、発信する。グループワークで人物描写のゲームを行い、クラスで共有する。	
3	Unit 8: Fighting for Wildlife (1) endangered animalsをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､used to/be used to/get used to等が正しく使えるようになる。	
4	Unit 8: Fighting for Wildlife (2) リーディングによりfights for wildlifeについて理解し、グループディスションやライティングを通じて自分の考えをまとめ、発信する。グループワークでリサーチを行い、クラスで共有する。	
5	Unit 9: Sweeping through the Supermarket (1) grocery shoppingをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､可算/不可算名詞が正しく使えるようになる。	
6	Unit 9: Sweeping through the Supermarket (2) リーディングによりself-checkout machines等について理解し、グループディスションやライティングを通じて自分の考えをまとめ、発信する。グループワークでshoppingのゲームを行い､クラスで共有する。	
7	Unit 7～Unit 9の復習 Unt 7～Unit 9から1つのテーマを選び､スピーチを行う。	
8	Unit 10: When Disaster Strikes (1) natural disastersをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､条件文が正しく使えるようになる。	
9	Unit 10: When Disaster Strikes (2) リーディングによりpreparation for disasterについて理解し、グループディスションやライティングを通じて自分の考えをまとめ、発信する。グループワークでリサーチを行い､クラスで共有する。	
10	Unit 11: The Heart of Art (1) artをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､冠詞 a/an/theが正しく使えるようになる。	
11	Unit 11: The Heart of Art (2) リーディングによりartistsについて理解し、グループディスションやライティングを通じて自分の考えをまとめ、発信する。グループワークでexhibitionについてリサーチを行い、クラスで共有する。	
12	Unit 12: Essential Everyday Devices (1) electric appliancesをテーマにリスニング、英会話の活動を通じて内容を理解する。必要語彙､句動詞が正しく使えるようになる。	
13	Unit 12: Essential Everyday Devices (2) リーディングによりsmart homesについて理解し、グループディスションやライティングを通じて自分の考えをまとめ、発信する。グループワークでsmart home designを行い、クラスで共有する。	
14	Review (Unit 7 - Unit 12)に取り組む。プレゼンテーションの準備をする。	
15	Unit 7～Unit 12から1つのテーマを選び、プレゼンテーションを行う。 これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Live Horizons, Book 2』. Teruhiko Kadoyama et al. 2026. 成美堂. ISBN: 978-4-7919-7333-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＤⅠ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	エリック　モーニン						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当する者、CEFR A2+ ～ B1の能力を有すると判断された者、また英語ＥⅠ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力が求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・海外メディアのビデオ映像を手がかりに現代社会の様々なトピックについて知り、リスニング、リーディングを通じて理解を深め、発信に活かすことができる。 ・得た情報を元に批判的思考ができる。 ・CEFR A2+～B1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい、履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1) Unique Travel Experiences　旅行について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
3	Unit 1 (2) Unique Travel Experienceについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
4	Unit 2 (1) Our Future Under Water? 気候変動について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
5	Unit 2 (2) Our Future Under Water?について要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
6	Unit 3 (1) A DIY-Sushi Party with Friends 和食について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
7	Unit 3 (2) A DIY-Sushi Party with Friendsについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
8	Unit 1～Unit 3の中から1つのテーマを選びショートスピーチを行う Unit 4 (1) Australia's Cockatoos ペットについての質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する	
9	Unit 4 (2) Australia's Cockatoosついてビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。 Unit 5 (1) How to Become a Good Journalist 報道について質問に答えた後でビデオ視聴する。	
10	Unit 5 (2) How to Become a Good Journalistについてリーディング、要約で理解を深め、職業について自分の意見をまとめる。	
11	Unit 6 (1) Universal Credit 貧困問題について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する。	
12	Unit 6 (2) Universal Creditについてビデオ視聴で理解を深め、リサーチをして意見をまとめる。	
13	Unit 7 Cooling is Heating? エネルギー問題についてリーディング、要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
14	Unit 1～Unit 7で学んだテーマから一つを選びプレゼンテーションを行う。Peer reviewを行う。	
15	前期の学習の確認(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Integrity　Beginner』竹内理他. 2023年.　金星堂 ISBN:9784764741744
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＤⅡ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	エリック　モーニン						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語DIを学修した者を対象に開講する。またCEFR A2+～B1程度の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す〈やり取り/発表〉・書く）の向上を目指す。	・海外メディアのビデオ映像を手がかりに現代社会の様々なトピックについて知り、リスニング、リーディングを通じて理解を深め、発信に活かすことができる。 ・得た情報を元に批判的思考ができる。 ・CEFR A2+～B1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語ＤⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 8（1）Fashion's Resale Revolution ファッションに関連する質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
2	Unit 8（2）Fashion's Resale Revolutionについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
3	Unit 9（1）Finding Treasures in the Trash リサイクルについて質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
4	Unit 9（2）Finding Treasures in the Trashについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
5	Unit 10（1）Climate Protesters Going to Prison 社会運動について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
6	Unit 10（2）Climate Protesters Going to Prisonについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
7	Unit 8～Unit 10の中から1つのテーマを選び、ショートスピーチを行う。 Unit 11（1）The Changing Meaning of "Home" 家庭について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
8	Unit 11（2）The Changing Meaning of "Home" 家庭について要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
9	Unit 12（1）Women Still Dying in Pregnancy 発展途上国に関連する質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する。	
10	Unit 12（2）Women Still Dying in Pregnancyについてビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
11	Unit 13（1）Struggling to Gain the Right to Vote　参政権について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する。	
12	Unit 13（2）Struggling to Gain the Right to Vote　ビデオ視聴で理解を深め、リサーチをして意見をまとめる。	
13	Unit 14　Feeling Alive throughout Life 長寿についてリーディング、要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
14	Unit 8～Unit 14で学んだテーマから一つを選びプレゼンテーションを行う。Peer reviewを行う。	
15	後期の学習の確認（定期試験に向けての質問タイムを含む）、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	（小テスト・発表・タスク・リフレクション等） ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	（単元テスト/中間テスト + 定期テスト） 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Integrity Beginner』竹内理他. 2023年.　金星堂 ISBN:9784764741744
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＥⅠ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者、CEFR A2程度の能力を有すると判断された者、また英語　ＦⅠ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法等を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す〈やり取り/発表〉・書く)の向上を目指す。	・日常のさまざまなテーマについて、リスニング、リーデングにより正しく内容理解ができる。 ・学んだ内容について、要点を確認した後、発信に用いることができる。 ・CEFR A2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等) Self-introduction	
2	Module 1 人物紹介 Unit 1 Match,Scan,Focus,Listenの活動で紹介の仕方を学び、自己紹介の準備をする。	
3	Module 1 人物紹介　 Unit 1 Communicateの活動で実践。Unit 2 Readの活動で自己紹介文を理解する。	
4	Module 1 人物紹介 Unit 2　Readの内容確認、Writeの活動のあと、3段落の自己紹介を書く。	
5	Module 1 人物紹介 Unit 2　Writeで書いた自己紹介を修正し、Vocabulary、言語形式を確認する。	
6	Module 1 到達度確認テスト Module 2 ファッション　Unit 3 Match,Scan,Focus,Listenの活動でファッションについての表現を学ぶ。	
7	Module 2 ファッション　Unit 3 Listen, Communicationの活動でファッションについてペア活動をする。	
8	Module 2 ファッション　Unit 4 Readの活動で内容を確認し、Writeの活動の後、自分のファションスタイルについて書く。	
9	Module 2 ファッション　Unit 4　Writeで書いた英文を修正し、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
10	Module 2 到達度確認テスト Unit 1～Unit 4から1つテーマを選び､ショートスピーチをする。	
11	Module 3 食べ物 Unit 6 Match,Scan,Focus,Listenの活動で外国の料理について学ぶ。	
12	ModModule 3 食べ物 Unit 6 Listen, Communicationの活動で食べ物についての好みについて､及びCommunication Bの追加質問を用いて世界の料理についてペア活動をする。	
13	Module 3 食べ物 Unit 7 Readでレストランについての文章を理解し、Writeの活動の後、お気に入りのレストランについて英文を書く。	
14	Module 3 食べ物 Unit 7　お気に入りのレストランについての英文を修正して口頭発表する。Vocabulary、言語形式の確認をする。	
15	Unit 6～Unit 7から1つテーマを選び、プレゼンテーションを行う。 これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Framework English A』 Colin Thompson, Tim Woolstencroft著. 2024年.　金星堂 ISBN:9784764742000
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＥⅡ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＥⅠの単位を修得した者を対象に開講する。またCEFR A2程度の能力を有すると判断された者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法等を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・日常のさまざまなテーマについて、リスニング、リーデングにより正しく内容理解ができる。 ・学んだ内容について、要点を確認した後、スピーキング、ライティングに適切に用いることができる。 ・CEFR A2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語EⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション、前期の振り返り等 Module 4 ライフスタイル　Unit 8 Match, Scanの活動でライフスタイルについての表現を学ぶ。	
2	Module 4 ライフスタイル　Unit 8 Focus, Listenの活動でライフスタイルについての表現を学美、ペア活動をする。	
3	Module 4 ライフスタイル　Unit 9 Readの内容確認、Writeの活動の後、自分のライフスタイルについて書く。	
4	Module 4 ライフスタイル　Unit 9　英文修正の後、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
5	Module 4 到達度確認テスト Module 5 旅行　Unit 11 Match, Scan, Focus, Listenの活動で世界の観光地について学ぶ。	
6	Module 5 旅行　Unit 11 Listenの活動を参考に自分の意見をまとめ、Communicateでグループ活動を行う。	
7	Module 5 旅行　Unit 12 Readで旅行についての文章を理解し、Writeの活動の後、旅行について3段落の英文を書く。	
8	Module 5 旅行　Unit 12 Writeで書いた英文を修正し、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
9	Module 5 到達度確認テスト Unit 8～Unit 12から1つテーマを選び、ショートスピーチをする。	
10	Module 6 規則　Unit 13 Match, Scan, Focus, Listenの活動で世界のさまざまな規則について学ぶ。	
11	Module 6 規則　Unit 13 Communicateで規則についてのペア活動を行う。	
12	Module 6 規則　Unit 14 Readで高校・大学の規則について読み、Writeの活動の後、高校・大学の規則について英文を書く。	
13	Module 6 規則　Unit 14　Writeで書いた英文を修正し、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
14	これまで学んだテーマから1つを選び、プレゼンテーションを行う。Peer reviewをする。	
15	これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Framework English A』 Colin Thompson, Tim Woolstencroft著. 2024年.　金星堂 ISBN:9784764742000
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＦⅠ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者を対象に開講する。またCEFR A1程度の能力を有する者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能(聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く)の向上を目指す。	・自己紹介など日常生活で使用する身近な表現や簡単な語彙、基礎的表現を用いて、理解、発信できるようになる。 ・基本文型、現在形、過去形等、文法の基礎を理解し、発信に用いることができるようになる。 ・CEFR A1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。または「英語基礎」の単位を修得済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい、履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1) 動詞の現在時制(be動詞)の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて朝の日課の表現を学ぶ。	
3	Unit 1 (2) 人物紹介の英文を理解し、自己紹介と朝の日課についてのライティングと発表を行う。	
4	Unit 2 (1) 動詞の現在時制(一般動詞)の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて朝食についての表現を学ぶ。	
5	Unit 2 (2) 朝食について述べる英文を理解し、朝食についてのライティングと発表を行う。	
6	Unit 3 (1) 名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて通学準備についての表現を学ぶ。	
7	Unit 3 (2) 通学準備について述べる英文を理解し、自分の通学準備についてのライティングと発表を行う。 Unit 1 ～ Unit 3の振り返り、到達度確認テスト	
8	Unit 4 (1) 代名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて大学の授業についての表現を学ぶ。	
9	Unit 4 (2) アメリカの大学授業について述べる英文を理解し、自分の大学の授業についてのライティングと発表を行う。	
10	Unit 5 (1) 前置詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて昼食についての表現を学ぶ。	
11	Unit 5 (2) アメリカの大学での昼食について述べる英文を理解し、自分の大学での昼食についてライティングを行う。 Unit 6 (1) Wh-疑問文の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてショッピングについての表現を学び、ライティングを行う。	
12	Unit 6 (2) 様々な活動を通じてさらにショッピングについての表現を学び、ライティングの発表を行う。 Unit 7 (1) 過去時制の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて街の様子や交通機関についての表現を学び、ライティングを行う。	
13	Unit 7 (2)様々な活動を通じてさらに街の様子や交通機関についての表現を学び、ライティングの発表を行う。	
14	Unit 4 ～ Unit 7の振り返り、到達度確認テスト。 Unit 1～Unit 7で学んだことから各自 1つのテーマを選び、スピーチ/プレゼンテーションを行う。Peer review を行う。	
15	これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『English Day!』,Robert Hickling著,2023年,金星堂,ISBN: 9784764741690
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＦⅡ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＦⅠの単位を修得した者を対象に開講する。またCEFR A1程度の能力を有すると判断された者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・自由時間の過ごし方など日常生活で使用する身近な表現や語彙を用いて、理解、発信できるようになる。 ・現在完了形、受動態等を理解し、適切に用いることができるようになる。 ・CEFR A1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト等）。
履修条件	「英語ＦⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 8（1）現在進行形/過去進行形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて美術/芸術についての表現を学ぶ。	
2	Unit 8（2）美術/芸術について述べる英文を理解し、自分の趣味についてライティングと発表を行う。	
3	Unit 9（1）未来表現の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてカフェについて述べる。	
4	Unit 9（2）アメリカのカフェについて述べる英文を理解し、レストラン/カフェについてのライティングと発表を行う。	
5	Unit 10（1）現在完了形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてアルバイトについて述べる表現を学ぶ。	
6	Unit 10（2）アメリカのアルバイトについて説明する英文を理解し、自分の経験についてライティングと発表を行う。	
7	Unit 11（1）助動詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて趣味についての表現を学ぶ。	
8	Unit 11（2）様々な活動を通じて自由時間についての表現を学び、自分ことについてのライティングと発表を行う。 Unit 8～Unit 11の復習、振り返り。　到達度確認テスト	
9	Unit 12（1)不定詞と動名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて家事についての表現を学ぶ。	
10	Unit 12（2）家事について述べる英文を理解し、自分のことについて発表を行う。 Unit 13（1）比較級と最上級の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて自宅での自由時間について説明する表現を学ぶ。	
11	Unit 13（2）リーディング活動の後、自宅での自由時間について発表を行う。 Unit 14（1）接続詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて余暇についての表現を学び、ライティングの準備をする。	
12	Unit 14（2）余暇についての英文を理解し、ライティングの発表を行う。 Unit 15（1）受動態の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて運動についての表現を学び、ライティングの準備をする。	
13	Unit 15（2）運動について　ライティングを行い、お互いに発表し合う。	
14	Unit 12 ～ Unit 15の振り返り、到達度確認テスト。 これまでに学んだテーマから各自が選んだテーマについてプレゼンテーションを行う。Peer reviewを行う。	
15	これまでに学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	小テスト・発表・タスク・リフレクション等） ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	（単元テスト/中間テスト + 定期テスト） 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①1回目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『English Day!』,Robert Hickling著,2023年,金星堂,ISBN: 9784764741690
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	アクティブ・イングリッシュC			開講学科	健康科学	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	2・3・4年	開講時期	通年	単位	3単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は，大学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。 本科目は、学内の手続きを経て承認された学生が、本学の提携校で、英語力向上をめざして3週間以上の研修を行う。学生は担当教員の指導の下、計画段階（事前学習）から実施（留学）及び終了段階（事後学習）まで見通しをもって主体的に取り組む。留学先では、英語研修、寮滞在の経験を通じ、また留学先アドバイザーの指導の下で、英語力や専門に関する学びを深めるだけでなく、現地の人々等と交流し、国際的な視野を広げる。帰国後は、事後学習においてレポートを作成、発表し、個々の学びの共有化を図る。	・留学目的を明確にし、指導教員等のアドバイスに留意しつつ留学計画立案・諸準備等に計画的かつ主体的に取り組むことができる。 ・事前学習では、英語力を高め、異文化理解への態度・スキルを養うとともに、授業の全体計画や留学先での研修内容や記録の仕方を理解することができる。 ・提携校での研修では、研修の目的や計画に沿った研修を行うとともに地域の人々との交流を英語で積極的に実行することができる。また、日々の研修内容を英文で記録するなど、帰国後の発表活動の準備も自力で行うことができる。 ・事後学習では、研修中の記録をもとにレポートを英文で作成する。その際、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。作成したレポート内容をもとに海外留学報告を英語で行うことができる。

教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、提携校での研修(オリエンテーション、提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)
履修条件	英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、大学および施設でのルールが守れる者。以上の条件を満たして、学科指定の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前学習① オリエンテーション：渡航・留学先での研修及び事後学習までの本授業の目標と内容を正しく理解するとともに、主体的に取り組む姿勢や意欲を高める。	
2	事前学習②　研修先で自己紹介、故郷紹介、日本文化紹介がスムーズにできるようにグループで役割分担して練習をする。また、留学先及び現地での生活や学修に必要な英語表現を学ぶ。	
3	事前学習③　留学先機関・地域についての調査を行いまとめる。研修先での学修についての自己のテーマや計画を明確にし、英文にまとめ、研修先に伝えられるようにする。	
4	提携校での研修、オリエンテーション、ホームステイまたは寮滞在	
5	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
6	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
7	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
8	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
9	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
10	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
11	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
12	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
13	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
14	事後学習①　研修中の記録に基づき、英文でレポートを作成する。その際に、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。また、海外留学報告会を学生主体で準備をする。(開催案内のチラシ作成と告知)	
15	事後学習② 海外留学報告会において、作成したレポートをもとに、英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行う。運営全般や進行なども学生主体で行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	15	①留学への取り組み､計画書等諸書類作成に適切かつ積極的に取り組んでいるかどうかを評価する ②英語運用力測定	留学先での英語学習・調査研究に関する評価	60	研修先での成績や活動に基づき総合的に評価する
留学中の報告書	10	定期的に留学に関する報告書が提出されているかどうかを評価する	事後学習	15	①帰国後にレポートを提出するとともに日本語と英語で留学の報告を行い、これを評価する ②英語運用力測定

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
留学の目的を明確にし、1年以上前から継続して英語の学習をすること。［毎日40分］英語研修が目的の学生は目的とするレベルを明確にし、英語の授業等をできるだけ多く履修し、積極的に参加すること。調査研究が目的の学生はアドバイザーの指導の下、専門的な内容をまとめておき、渡航先での調査目的・方法等を明確にしておくこと。英語で説明できるように準備する。［毎日30分］	適宜行う。

受講生に望むこと	現地では独力で問題解決する必要に迫られるため、日ごろから情報収集・計画の立案・実施・評価等をする力を養うこと。英語力は4技能が必要である、会話だけではなく読み書き・論理的思考力向上にも励むこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『今日から使える! 留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、バーウィック妙子・著、アルク、2016年（ISBN: 978-4757426658）	その他・特記事項	・提携校指定英語集中クラスについてはアドバイザーから別途詳細についてのガイダンスを受ける。 ・英検2級程度の英語力がある者に限る。準備の過程で、学生生活および学業の面で問題があると判断した場合には、留学を中止することもある。「留学の手引き」をよく読むこと。 ・事前・事後学習の一環として英語力測定を受ける ・留学時期によって報告会が年度内に不可能な場合は別途指示する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	中国語Ⅰ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	渡邉　彩奈						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、中国語の「話す・聞く・読む・書く」技能をバランスよく身につけ、自らの考えを口頭や文章によって他者に伝えられるようになることを目的とする。中国語を単に「知識」として知るだけでなく、実際に運用できる能力を習得し、社会においてもこれを活用できるようにする。実際の授業では、まず単語と文法を学び、その後対話文や長文を通して文法の定着を図る。中国語を学びながら中国の文化や社会に関する理解を深める。	①発音の基礎を身につけ、中国語を正確に発音できるようになる。 ②中国語を用いてコミュニケーションがとれるようになる。 ③中国語の文法を理解する。 ④中国語の基本的な知識を身につけ、文章を作ることができるようになる。

教授方法	基本的に講義形式による授業となるが、学生同士でのロールプレイなどの表現練習も行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス(授業の進め方と成績評価の方法についての説明)後、声調（音の高低）・軽声・単母音を習得する。	
2	声調・軽声・単母音を復習後、子音の発音を習得する。	
3	子音を復習後、複母音と鼻母音の発音を習得する。	
4	声調変化やｒ化など、ピンインを読む際のルールを習得する。	
5	発音編を総復習後、簡単な日常会話を習得する。 自分の名前を中国語で言えるようになる。	
6	第1課「我是中国留学生」（新出語句・文法要点・会話文） 中国語を用いた自己紹介、さらに相手の専攻を尋ねたり自分の身分を言えるようになる。	
7	第1課「我是中国留学生」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
8	第2課「你今年多大？」（新出語句・文法要点・会話文） 年齢や誕生日、出身の尋ね方と答え方などを習得する。	
9	第2課「你今年多大？」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
10	第3課「你会做包子　？」（新出語句・文法要点・会話文） 曜日、時刻の言い方、助動詞“会”と“能”「～できる」の使い方を習得する。	
11	第3課「你会做包子　？」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
12	第4課「我　去快餐店」（新出語句・文法要点・会話文） 進行形、指示代名詞、連動文、比較文を習得する。	
13	第4課「我　去快餐店」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
14	前期に学んだ学習内容をもとに、自己紹介文を作成する。	
15	期末試験に備えて、前期の学習内容の総復習を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内の活動・課題（毎回）	10	授業内で行われる質疑応答やペアでの表現練習などに積極的に参加する姿勢、課題の完成度で評価する。	小テスト（適宜）	30	1課が終了するごとに、学習到達度確認のための小テストを行う。
自己紹介文の完成度（第14回）	10	前期に習得した文法を用いて自己紹介文を作成する。その完成度で評価する。	期末試験（第16回）	50	授業内容を十分に理解できているか確認するために、筆記試験を実施する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それから音声を聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[30分] ②授業後は新出単語（発音、ピンイン、簡体字）、新たに学習した文法項目を復習し、授業で課された練習問題に取り組むこと。[50分] ③自己紹介文を作成することを考えて、あらかじめ内容を準備すること。[10分]	①小テストや課題は添削・採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 ②第14回授業で作成する自己紹介文は添削後に返却する。 ③採点や評価等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	語学は積み重ねが大事です。多くの中国語を聞き、積極的に話すようにしてください。授業後は復習をしっかりおこない、語彙や文法の知識を積み上げていきましょう。単語を調べるときは辞書を用いてください。	教科書・テキスト	『バンバン（棒棒）！中国語』　艾玉霞・符麗紅・渡邉彩奈・趙菁 著　朝日出版社　2026年　ISBN 978-4-255-45422-1
指定図書／参考書等	なし／『日中辞典[第３版]』小学館　2015年　ISBN 978-4095-156538 『中日辞典[第３版]』小学館　2016年　ISBN 978-4095-156040 『Ｗｈｙ？にこたえるはじめての中国語の文法書＜新訂版＞』相原茂・石田知子・戸沼市子 著　同学社　2016年　ISBN 978-4-8102-0327-1	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	中国語Ⅱ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	渡邉　彩奈						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では中国語を用いて自らの考えや意見を表現できるようになることを目的とする。前期に習得した「話す・聞く・読む・書く」スキルをさらにレベルアップさせ、表現の幅を広げる。実際の授業では、まず単語と文法を学び、その後対話文や長文を通して文法の定着を図る。語学を身につけると同時に、教科書の会話や本文を通して、中国への知識や理解をより一層広める。中国語を単に「知識」として知るだけでなく、実際に運用できる能力を習得し、社会においてもこれを活用できるようにする。	①中国語を正確に発音できるようになる。 ②中国語でコミュニケーションを取れるようになる。 ③中国語の構造に関する知識を身につけ、いくつかの文法が混在した複雑な構造の文を作ることができるようになる。 ④習得した文法や語彙を用いて、自分の考えを他者に伝えられるようになる。

教授方法	基本的に講義形式による授業となるが、学生同士でのロールプレイなどの表現練習も行う。
履修条件	「中国語Ⅰ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス(授業の進め方と成績評価の方法についての説明)後、前期学習内容（第1課から第4課）を復習する。	
2	第5課「　来的礼物」(新出語句・文法要点・会話文) 方向補語、結果補語、動詞の重ね型、動詞“喜　”「好む」、“是～的”構文を習得する。	
3	第5課「　来的礼物」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
4	第6課「去百元店」(新出語句・文法要点・会話文) 助動詞“想”「～したい」、形容詞述語文、可能補語、お金の言い方、数量詞、存現文を習得する。	
5	第6課「去百元店」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
6	第7課「一定会　得更好的」(新出語句・文法要点・会話文) 選択疑問文、“因　”、主述述語文、様態補語、断定を表す助動詞“会”を習得する。	
7	第7課「一定会　得更好的」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
8	第8課「在听中国歌曲」(新出語句・文法要点・会話文) 使役文、連体修飾語、助詞“　”「～したことがある」、受け身文、二重目的語構文を習得する。	
9	第8課「在听中国歌曲」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
10	第9課「成人　快要到了」(新出語句・文法要点・会話文) 近未来表現、助動詞“要”、反復疑問文、処置文、離合動詞を習得する。	
11	第9課「成人　快要到了」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
12	第10課「越学越有意思」(新出語句・文法要点・会話文) 比喩表現、「少し」を表す副詞“有点儿”と数量詞“一点儿”などを習得する。	
13	第10課「越学越有意思」（復習・練習問題） 文法と会話文を復習後、練習問題や表現練習で文法の定着を図る。	
14	前期と後期の学習内容をもとに、自由なテーマで長文を作成する。	
15	期末試験に備えて、後期の学習内容の総復習を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内の活動・課題（毎回）	10	授業内で行われる質疑応答やペアでの表現練習などに積極的に参加する姿勢、課題の完成度で評価する。	小テスト（適宜）	30	1課が終了するごとに、学習到達度確認のための小テストを行う。
自由テーマ文の完成度（第14回）	10	習得した文法を用いてテーマを自由に文章を作成する。その完成度で評価する。	期末試験（第16回）	50	授業内容を十分に理解できているか確認するために、筆記試験を実施する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それから音声を聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[30分] ②授業後は新出単語（発音、ピンイン、簡体字）、新たに学習した文法項目を復習し、授業で課された練習問題に取り組むこと。[50分] ③自由テーマ文を作成することを考えて、あらかじめ内容を準備すること。[10分]	①小テストや課題は添削・採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 ②第14回授業で作成する自由テーマ文は添削後に返却する。 ③採点や評価等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	前期に比べて複雑な文法項目が多いので、必ず復習をしましょう。 学期末には一年間で習得した文法を用いて文章を作成してもらいます。 あらかじめどのような内容にするのかを考えておきましょう。	教科書・テキスト	『バンバン（棒棒）！中国語』　艾玉霞・符麗紅・渡邉彩奈・趙菁 著　朝日出版社　2026年　ISBN 978-4-255-45422-1
指定図書／参考書等	なし／『日中辞典[第３版]』小学館　2015年　ISBN 978-4095-156538 『中日辞典[第３版]』小学館　2016年　ISBN 978-4095-156040 『Ｗｈｙ？にこたえるはじめての中国語の文法書＜新訂版＞』相原茂・石田知子・戸沼市子 著　同学社　2016年　ISBN 978-4-8102-0327-1	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	フランス語Ⅰ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	ロイック　メノウ						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語科目として開講される。前期にフランス語を学んだ学生を対象に、基礎の上に更に時制やテキストの後半部分の文法や基本文型などを一通り説明する。前期と同じく口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学ぶ。また言葉だけでなく言葉の背景となるフランスの文化について様々な角度から知り、体験していく。フランス社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学ぶ。	①フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要なフランス語表現を理解できるようにする。 ②言葉だけではなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することはその国の文化を深く知り、また世界的な視野が展がることあり、言語を通してその実感を体験する。

教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	フランス語の基礎，アルファベ，綴り字の読み方，発音のルール，リエゾン・アンシェヌマン Eléments de base / prononciation	
2	挨拶，授業で使う表現　Salutations Bonjour, Madame.　Salut, Paul.　Ça va?	
3	自己紹介・国籍・身分・名前の言い方，人称代名詞　je/tu の使い方，動詞　êtreの活用形・否定形・疑問形 Est-ce que tu es japonais?　verbe négation, questions fermées	
4	名詞の性・数　masculin/féminin canadien（s）　canadienne（s）chinois (e)(s)	
5	定冠詞・不定冠詞　un, une, des, le, la, l', les C'est une école.	
6	住んでいるところ・言語・学科を言う，第一群規則動詞，否定形ne...pas J'habite à Tokyo.　Je parle français.　Je n'habite pas à Paris.	
7	第一群規則動詞 -er　疑問形・否定形の口頭練習 Vous parlez français?　Non, je ne parle pas français.	
8	動詞 avoirの活用，年齢・好みをいう，数(11～20) J'ai un frère.　J'ai vingt ans.　J'aime le cinéma	
9	動詞 avoirの否定形・疑問形の口頭練習，不定冠詞，否定文中のde，avoirを使った表現 Je n'ai pas de frère.　j'ai faim.　J'ai froid.	
10	食べる，飲む，たずねる（何？　いくつ？），部分冠詞 Tu manges du fromage.　Je prends du café.	
11	部分冠詞の否定形，カフェでの飲み物の注文の仕方の口頭練習 Je bois de l'eau. Je ne bois pas d'eau. Il y a une voiture. Il n'y a pas de voiture. Qu'est-ce que tu prends le matin? Je prends du café au lait.	
12	人・物を描写する，たずねる（誰？，どんな？），形容詞の性・数・位置，指示代名詞，所有形容詞 Il est grand. Elle est gentille. C'est un étudiant intelligent.　C'est mon père. Ce sont mes amis.	
13	形容詞の女性/男性形の例外 beau-belle gentil-gentille ennuyeux-ennuyeuse	
14	動詞aller/venirの活用　行先・国名，冠詞縮約(à) à+le-au/ (de) de+le-du Je vais en France.　Je vais à l'école.　Je vais aux Etats-Unis.　Je viens du bureau.	
15	行く・来る，人称代名詞強勢形，数（60～） Je suis étudiant.　Et toi?	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	学習内容をきちんと習得している。	受講態度	30	講義に積極的に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。 自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]	テキスト中にある練習問題を自主学習し、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします

受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び、理解することが容易になります。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	授業中に随時紹介します。	その他・特記事項	プリントや資料等は随時配布します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	フランス語Ⅱ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	ロイック　メノウ						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語科目として開講される。前期にフランス語を学んだ学生を対象に、基礎の上に更に時制やテキストの後半部分の文法や基本文型などを一通り説明する。前期と同じく口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学ぶ。また言葉だけでなく言葉の背景となるフランスの文化について様々な角度から知り、体験していく。フランス社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学ぶ。	①フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要なフランス語表現を理解できるようにする。 ②言葉だけではなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することはその国の文化を深く知り、また世界的な視野が展がることあり、言語を通してその実感を体験する。

教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。
履修条件	『フランス語Ⅰ』の単位を修得済みの者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	動詞aller/venirを使った近接未来・近接過去　futur proch/passé récent Tu vas sortir ce week-end ?　Je viens de finir mon travail.	
2	時刻，たずねる（何時？何時に？いつ？）（何をする？），第二群規則動詞finir/faireの慣用表現，家事について Quelle heure est-il?　Il est trois heures. A quelle heure …? quel? quand?　Je fais　la cuisine.	
3	代名動詞（再帰動詞）の疑問形 se coucher/s'appeler Je me couche à dix heures. Je m'appelle Sophie.	
4	時制や頻度を表す名詞や副詞　toujours, souvent, tous les jours, aujourd'hui, hier, demain	
5	pouvoir/vouloirの活用と表現　Je veux voyager.　Je peux sortir.	
6	たずねる（なぜ？），痛みに関する表現，Pourquoi?に対して　～ Parce-que の答え方 J'ai mal à la tête.	
7	日常の行動をいう，午前・午後・週などをいう，代名動詞／指示形容詞 Tu te lèves tôt?　A　quelle heure vous vous couchez?	
8	天気をいう，季節・月・週・午前・午後などの語彙 Il fait beau.　Il neige.　lundi,　hiver,　janvier	
9	場所をいう，道順をいう，冠詞の縮約(de)，前置詞，序数 Où est le café?　Il est en face de la maison.　dans, sur,　sous	
10	命令・義務の表現　命令形／il faut… Allez tout droit.　Il faut travailler.　Sois sage!	
11	過去のことを語る（1）-1　複合過去(passé composé) avoir + pp.　様々な否定（1） J'ai fait du tennis.　Je n'ai pas téléphoné.	
12	過去分詞の作り方，中性代名詞en Il a travaillé.　J'ai fini mon étude.　Je n'en ai plus.	
13	過去のことを語る（2）-1　複合過去(passé composé) être + pp.　様々な否定（2）・ être動詞を伴う動詞の種類 aller/venir/sortirなど・過去分詞は主語の性・数に一致する　Elle est allée au musée.	
14	複合過去(passé composé)の疑問分・否定文の作り方 Il est venu de la piscine?　Non, il n'est pas venu	
15	外国に行ったことがありますか？Il y aの使いかた（過去を表現する場合），中性代名詞　場所を表す副詞 y，半過去形 Tu　est déjà allé(e) à l'étranger?　Quad ça?　Il y a dix ans, j'étais à Paris.（10年前私はパリにいました	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	学習内容をきちんと習得している。	受講態度	30	講義に積極的に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。 自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]	テキスト中の練習問題を自主学習し、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。

受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び理解することが容易になります。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	授業中に随時紹介します。	その他・特記事項	プリントや資料等は随時配布します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	韓国語Ⅰ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	金　正逸						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語科目として開講される。韓国語を初めて学ぶ学生を対象に、ハングルの読み方や書き方、発音の基礎などを中心に、文法表現など一通りを学ぶ。韓国語はアルタイ語に属する子音１９個母音２１個で構成されている表音文字である。日本語と同じく漢字の音読みや固有語で形成されているために言語としての共通点が非常に多いのが特徴である。前期では１課から６課を中心に文字の練習を重点的に行う。各単語に付けられているイラストによって楽しく反復学習ができる。言語の学習は何よりも興味を持つことが大事で、ネットを通じる情報の確認や映画、ドラマ、歌など自分の好みに基づく様々なことに接するのを授業に応用する。	ハングルの子音と母音の読み書きができると共に簡単な単語の構成について理解ができる。言語学的に日本語や英語との共通点と違いを理解する。２１個の母音と１９個の子音の組み合わせによる文字としての表現の学習力を高めて後期から始める会話学習に備えることができる。自分の名前や簡単な単語の表現ができるようになる。

教授方法	グループ授業を原則として与えられた課題をグループの中で解決する方式で行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ハングルとは何?/ハングルの基本構成を理解して日本語との共通点と違いを理解する。	
2	ハングルの基本母音について/基本母音を理解し、読み書きができる。	
3	ハングルの母音の活用について/母音の役割を理解し、言語としての活用法を理解する。	
4	ハングルの基本子音について/基本子音を理解し、読み書きができる。	
5	ハングルの子音の活用について/子音の役割を理解し、言語としての活用法を理解する。	
6	子音と母音の組み合わせについて/子音と母音を組み合わせて自分の名前や家族の名前が書ける。	
7	子音と母音の復習/子音と母音を理解し、読み書きができる確認をする。	
8	パッチムとは?/日本語にはないパッチムの構造を理解する。	
9	パッチムの役割について/単語の練習を通じてパッチムの役割が理解できる。	
10	簡単な単語の練習/教科書を中心にグループ別に書く練習をする。	
11	ハングルキ-ボ-ドの打ち方/携帯電話やパソコンを用いてハングルキ-ボ-ドの打ち方ができる。	
12	韓国の文化について①/韓国の食文化や地域の特徴について理解する。	
13	韓国の文化について②/韓国の社会や教育、大学の文化を理解する。	
14	前期の復習①/前期の全般的な内容を理解する。	
15	前期の復習②/前期の全般的な内容についてグループ別に理解度を確認する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業の参加態度	20	授業に積極的に参加し、グループ内で活発な意見交換などを行う。	レポート	30	与えられたレポートを自分の意見として作成する。
試験	50	ハングルの読み書きに対する理解を基準とする。 １６回目に実施する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教科書を中心として予習と復習を前提とする。[30分] ハングルは漢字を使わないので英文字やひらがなのように基礎の段階では書く練習に基づく事前学習が必要である。[60分]	レポートは子音と母音に対する理解を確認する内容や単語の書く練習を兼ねたことが主になる。試験はハングルの音読みを基本として子音、母音、パッチムの理解を確認する。

受講生に望むこと	ハングルは基本子音と母音が理解できれば一年ほどで簡単な日記を書くことや基本会話ができる言語で、初めての言葉に対する難しそうという先入観を捨てることが大事である。 韓国語に興味を持ち韓国の様々な文化に対する知識を高めたいという意識を持って受講してほしい。	教科書・テキスト	『マルプンソンで学ぶ韓国語初級』李熙卿・白　仁子著,白帝社,2016年,ISBN9784863982093 必要に応じてプリントなどを用いる。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	韓国語Ⅱ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	金　正逸						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語として開講される。前期の韓国語Ⅰを学んだ学生を対象に、口頭表現の発展を目指す。日常的に用いられるハングル文字の読み方や書き方を中心として、簡単な会話ができることをめざす。韓国語はアルタイ語に属する子音１９個母音２１個で構成されている表音文字である。日本語と同じく漢字の音読みや固有語で形成されているために言語としての共通点が非常に多いのが特徴である。後期では７課から１８課までに至る日常会話を中心とする授業になる。自己紹介から趣味などの多様な会話を身に付けることができる。言語の学習は何よりも興味を持つことが大事で、ネットを通じる情報の確認や映画、ドラマ、歌など自分の好みに基づく様々なことに接するのを授業に応用する。	個性的な自己紹介ができる。簡単な買い物ができる会話力を身につける。学校生活や週末、日常日課のことが表現できる。食べものの選び方や家族の呼び名、旅行時の簡単な会話ができる。交通手段の利用方法、約束のやり方、自分の能力の表現ができる。様々な趣味のことや自分のことが言えるようになる。

教授方法	グループ授業を原則として与えられた課題をグループの中で解決する方式で行う。
履修条件	「韓国語Ⅰ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	前期の全般的な復習/ハングルの基礎について理解している。	
2	自己紹介/みんなの前で自己紹介ができる。	
3	ショッピングのやり方/自分でショッピングができる。	
4	学校生活について/学校内にある色々な場所が言える。	
5	週末の時間過ごしの表現/週末の過ごし方が表現できる。	
6	一日の日課の表現/自分の日課の表現ができる。	
7	食べ物について/韓国の食べ物を言えることや味の表現ができる。	
8	家族の呼び名/自分の家族関係や数字が言える。	
9	旅行関係の表現/旅行時の簡単な会話ができる。	
10	交通便について/交通手段による乗り方ができる。	
11	約束の仕方/約束する時の表現ができる。	
12	自分の能力を表現する/自分ができることの能力について言える。	
13	趣味に対する表現/自分の趣味について言える。	
14	後期の復習①/後期に学習した会話の全般的なことが分かる。	
15	後期の復習②/後期に学習した会話をグループ別の理解度として確認する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業の参加態度	20	授業に積極的に参加し、グループ内で活発な意見交換などを行う。	レポート	30	与えられたレポートを自分の会話力を活用して作成する。
試験	50	聞き取りと会話力を基準とする。16回目に実施する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教科書を中心として基本会話の予習と復習を徹底して行う。[30分] 映画やドラマ、ネットなどを通じて聞き取りを反復して練習する。[30分] 授業時の会話文は次の時間まで覚えて置くこと。[30分]	レポートは自分と関わりを持つ内容として会話文を作成する。 試験は会話テストとして口述試験を行う。

受講生に望むこと	ハングルの語順は日本語と同じなので、単語力と助詞の活用法が分かれば簡単な日常会話を身に付けることができる。 韓国語に興味を持ち韓国の様々な文化に対する知識を高めたいという意識を持って受講してほしい。	教科書・テキスト	『マルプンソンで学ぶ韓国語初級』李熙卿・白　仁子著,白帝社,2016年,ISBN9784863982093 必要に応じてプリントなどを用いる。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯スポーツA（ゴルフ）			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要

本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。
健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。
ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ゴルフ」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ゴルフ」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。

授業の到達目標

① ゴルフの競技特性を理解する。
② ゴルフの基本的技術を習得する。
③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。
④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。
⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	スポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ゴルフ競技の説明、用具の説明。ゴルフというスポーツを理解する。	
2	パッティングゲーム：パッティングゲームを通してゴルフのゲーム性に触れる。	
3	ショットの基礎①：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング 正しいグリップ、ポスチャー及びエイミングを理解し、ショートスイングを通して習得する。	
4	ショットの基礎②：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング ～ ハーフスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくしハーフショットまでの技術を習得する。	
5	ショットの基本①：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング ～ ハーフスイング ～ フルスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくしフルショットまでの技術を習得する。	
6	ショットの基本②：ボール弾道の法則とフェースコントロール･･･スイング及びフェースの向きによって生じる９種類の弾道を理論として理解し、各自のスイングの修正に結びつけることができるようになる。	
7	ショットの基本③：ＶＴＲによる視覚的フィードバック。 自分のスイングを映像で見ることで、体内感覚と実際の運動のずれを確認し、修正することに結びつける。	
8	ショットの基本④：アプローチ 練習グリーンに向かってショットを行うことで、具体的な距離と方向をコントロールする技術を習得する。	
9	ショットの基本⑤：グリーン周りの技術 ～ パッティング グリーン周りの各種ショット技術及びパッティングの基礎技術を習得する。	
10	講義：ゴルフの歴史、ルールを理解する	
11	ショットの基本⑥：ショートアイアンとミドルアイアン～ウッドクラブ クラブを使い分けることで飛距離をコントロールする	
12	ターゲットバードゴルフ①：ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのゲーム性に触れる。	
13	ターゲットバードゴルフ②：ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのルール、ラウンド方法、マナーを学習する。また、一回目のスコアを元に個人的に目標を立ててラウンドする。	
14	ショートゲームテストとまとめ	
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現ついて考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	種目毎に実施するスキルテスト	30	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）

運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につく。授業中に学んだことを自主練習することを勧める。その際の用具の貸し出しは行う。［準備体操を含め60分程度］ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行うこと。

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目のため、出席し、実技に参加することを原則とする。 運動のできる服装で参加する。 主にグランドで実技を行うので、外履きの運動靴を用意する。また、必要に応じて帽子、ゴルフグローブなどを用意する。 詳しくは初回ガイダンスにて説明する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／US PGA TOUR Golf Lesson Vol.1 ～ 7　MICO　ケンメディア	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出ること。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意する。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯スポーツA（テニス）			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一・熊谷　史佳　（代表教員　永山　亮一）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、大学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 生涯スポーツとして実戦人口の多い「テニス」を実技種目とし、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「テニス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。	① テニスの競技特性を理解する。 ② テニスの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	対面授業によるスポーツ実技。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、用具の説明	熊谷
2	グリッピング、ラケットワーク	熊谷
3	基本ストローク（フォア）1：フォアハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。	熊谷
4	基本ストローク（フォア）2：フォアハンドストロークの打ち方の習得を目指す。	熊谷
5	基本ストローク（バック）：バックハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。	熊谷
6	基本ストローク（フォア・バック）：簡易ルールでフォアとバックを用いたゲームを楽しむ。	熊谷
7	基本ストローク（ボレー）：ボレーの打ち方を理解し、習得する。	熊谷
8	基本ストローク（サーブ）：サーブの打ち方を理解し、習得する。	熊谷
9	簡易ゲーム（フォア・バック・ボレー・サーブ）：簡易ルールでフォア、バック、ボレー、サーブを用いたゲームを楽しむ。	熊谷
10	講義：ルール説明と審判法：テニスの正式なルールと審判法を理解し、実際のゲームで活用できるようにする。	熊谷
11	ゲーム 1 ：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに審判の方法についてお互いに確認し合う。	熊谷
12	ゲーム 2 ：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに一人で審判ができるようにする。	熊谷
13	ゲーム 3 ：クラス内でダブルスのリーグ戦を行う。	熊谷
14	ゲーム 4 ：クラス内でダブルスのリーグ戦の続きを行う。	熊谷
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現ついて考える。	熊谷

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する ・実技に対して積極的に参加しているか ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか	種目毎に実施するスキルテスト	30	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につく。授業中に学んだことを自主練習することを勧める。その際の用具の貸し出しを行う。［準備体操を含め 60分程度］ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行うこと。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目のため、出席し実技に参加することを原則とする。 運動ができる服装で参加する。 主に屋外テニスコートで実技を行う。外履き用の運動靴を用意する。また、必要に応じて帽子など用意する。 詳しくは初回ガイダンスにて説明する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出ること。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意する。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯スポーツB			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、大学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 ここでは生涯スポーツとして実践人口も多く、社会体育としても積極的に導入されている「ニュースポーツ」を実技種目として採用する。 ニュースポーツは軽度な運動量に加え、初歩的な技術レベル及び筋力が低い者でも十分に楽しむ事ができるスポーツ群であると考えられ、スポーツに対して苦手意識を持つ者でも参加しやすく、スポーツの楽しみや喜びを感じやすいカテゴリーであると考えられる。そこからスポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的生活を営む能力と習慣の獲得につなげる。	① 各種ニュースポーツの競技特性を理解する。 ② 各種ニュースポーツの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	スポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：ニュースポーツというスポーツカテゴリーを理解する。	
2	フライングディスク①：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 各種投法を理解し、ディスクをコントロールして投げられるようになる。	
3	フライングディスク②：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 前回習得した技術を基に、ドッヂビーなどのゲームを楽しむ。。	
4	ソフトバレーボール①：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 オーバーパス、アンダーパスなどの基礎技術を習得する。	
5	ソフトバレーボール②：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基に簡易ゲームを行い、ルールを覚える。	
6	ソフトバレーボール③：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 リーグ戦形式で複数のゲームを楽しむ。	
7	インディアカ①：インディアカという競技を理解し、実践する。 インディアカボールを扱う基本的技術を習得する。	
8	インディアカ②：インディアカという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
9	フレッシュテニス①：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。 フレッシュテニスの基礎的技術を習得する。 （ラケットワーク、フォアストローク、バックストローク）	
10	フレッシュテニス②：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
11	ユニホック①：ユニホックという競技を理解し、実践する。 ユニホックの基礎的技術を習得する。（スティックワーク、パス、ショット）	
12	ユニホック②：ユニホックという競技を理解し、実践する。　習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
13	タグラグビー①：タグラグビーという競技を理解し、実践する。　タグラグビーの基礎的技術を習得する。	
14	タグラグビー②：タグラグビーという競技を理解し、実践する。　習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
15	講義：小・中・高と体験してきた学校体育とは違ったスポーツの体験をまとめ、 今後、生涯スポーツとしてスポーツに親しむ礎とする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	70	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	授業中に実施するミニスキルテスト	20	スポーツ技術の習熟度をスキルテストによって確認する。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につく。授業中に学んだことを自主練習することを勧める。その際の用具の貸し出しを行う。〔準備体操を含め 60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行うこと。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目のため、出席し実技に参加することを原則とする。運動のできる服装で参加する。主に体育館にて行うので、内履きの運動靴を用意する。 詳しくは初回ガイダンスにて説明する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出ること。 （事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意する。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	健康科学			開講学科	健康科学	必修・選択	選択
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 現在我々を取りまく生活環境は刻々と変化し、少子・高齢化社会・労働内容の合理化・自由時間の増大・食生活環境の変化といった様々な変化に適応・対処して行かなければならない。その中で健康的な生活を営んでいくためには、個人が自立して体力や健康の維持増進を図ることができる知識・能力を身につけること、各種スポーツの特徴を理解し積極的に余暇時間にスポーツ活動を取り入れていくこと、バランスのとれた運動と休養のタイミングを理解すること、肥満の解消に有効な運動の内容を理解し実践することなど、様々な事柄に対する理解を深める必要がある。本講義において、これらの基礎的な知識を学習することで、様々な環境に適応し、健康的で豊かな生活を送って行くための自己管理能力を身につける。	① 健康的な生活の意義を理解する。 ② 健康的な生活を営むために必要な事柄を理解する。 ③ 健康的な生活を自らデザインし、実践していく態度を身につける。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	健康の意義：健康的な生活の意義について理解を深める。	
2	健康的な生活①：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「栄養（食生活）」についての理解を深める。	
3	健康的な生活②：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「運動」についての理解を深める。	
4	健康的な生活③：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「休養」についての理解を深め、三大要素のバランスについて考える。	
5	健康を脅かすもの①：健康を脅かすものとして、「飲酒」「喫煙」に対する理解を深める。	
6	健康を脅かすもの②：健康を脅かすものとして、「薬害」「アレルギー」に対する理解を深める。	
7	健康を脅かすもの③：健康を脅かすものとして、「感染症」に対する理解を深める。	
8	健康を脅かすもの④：健康を脅かすものとして、「性感染症」について学ぶとともに「免疫機能」に関して理解を深める。	
9	健康を脅かすもの⑤：健康を脅かすものとして「生活習慣病」について理解を深める。 「肥満」「糖尿病」「高脂血症」「高血圧」	
10	健康を脅かすもの⑥：生活習慣病の理解とともに、代表的な死因との関係を学ぶ。 「虚血性心疾患」「脳血管障害」「悪性腫瘍」	
11	運動習慣と疾病の関係①：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。	
12	運動習慣と疾病の関係②：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。 「生活習慣病」と「肥満」の関連性を理解し、疾病予防についての運動習慣の有効性を学ぶ。	
13	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方① :健康を目的とした運動プログラミングの基本理論を理解する。	
14	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方②：健康を目的とした運動プログラミングの内容を考え、自分に合ったプログラムを作成できるようになる。	
15	まとめ：これまでに学習してきた内容をまとめ、各自において健康的な生活を営む計画を立案する。 また、その計画を実践できるような心構え・態度を獲得する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	40	受講態度を重視する。 ・学んだ内容を基に自分自身の生活を振り返り、健康的なモノへと変化させている。	学期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各講義を振り返り、分からなかった用語などを調べ、理解を深める。[30分] ②各講義の内容を自分の生活と結びつけ、健康的な生活へと改善を図る。[30分] なお、事前事後学習内容の詳細に関しては授業内で説明する。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	本講義で学ぶ内容を各々の生活に還元し、健康的な生活を営む礎とする。	教科書・テキスト	教員が作成するプリントを使用する。
指定図書／参考書等	なし／「現代人のための健康づくり」 石川県大学健康教育研究会編著　北國新聞社　2014年 ISBN：978-4-8330-1972-9	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	情報機器演習Ａ（健康科学部）			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
本講義の目的は２つある。第１は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。代表的なアプリケーションである文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法を習得する。第２は、AI活用が前提となる社会で活躍できる基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。これらの目的を満たすために、コンピュータを用いた演習形式の授業を行なう。	学内ネットワークを活用できる。 ②情報モラルについてNESSを用いた小テストに合格できる。 ③ゼミ活動のレポート作成に必要な文章編集能力を身につける。 ④基本的なExcel操作ができる。 ⑤プレゼンテーションソフトを用いた発表ができる。 ⑥タッチタイピングの能力が身につく。

教授方法	演習形式でおこなう。MicrosoftOfficeとGoogle Workspaceを活用する。NESSを用いたテストと振り返りを行なう。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：15回の流れと授業実施方法、評価方法を伝える。 学内環境・課題提出法レクチャー：学内ネットワーク活用・Google Workspace課題提出・情報モラルについて学ぶ	
2	汎用技能習得　：Microsoft Office とGoogle Workspace間のデータ往還について学ぶ。Word・Excel・PowerPoint、Googleドキュメント・スプレッドシート・スライドの基本的な利用方法について学習する。	
3	汎用技能習得②：授業で活用できるように。Word・PowerPointの最低限の使い方について学ぶ。あわせてタッチタイピングの学習方法について紹介する。	
4	セキュリティと情報モラル　：セキュリティを高めるための知識と、情報モラルを身につける。	
5	セキュリティと情報モラル②：AI社会における情報モラルを身につける。	
6	Word　：Step2 Lesson2レポート作成に必要な機能について学ぶ。様々な授業で求められる最低限のレポート作成技術を身につける。	
7	Word②：Step2 Lesson2レポート作成に必要な機能について学ぶ。様々な授業で求められる最低限のレポート作成技術を身につける。	
8	Excel　：Step1 Excelの基本操作方法について学ぶ。データ入力やシート管理、ブック管理などの方法について学習する。	
9	Excel②：Step2 表の作成・関数の入力について学ぶ。基本的な関数の取り扱いに加えて、レイアウトやデザインについて学習する。	
10	Excel③：Step3 グラフの作成方法について学ぶ。汎用的に使われるグラフの作成方法を学び、見やすいグラフを作ることができるようになる。	
11	PowerPoint　：Step1 Lesson1 プレゼンテーションの骨格である構成作りの方法について学ぶ。言い回しやパラランゲージなどの効果についても学習する。	
12	PowerPoint②：Step2 Lesson1 新規スライドを作成し、スライドの編集ツールの使い方について学ぶ。	
13	PowerPoint③：Step3 発表するときの注意点について学ぶ。発声方法や視線の動かし方などについての注意点について紹介する。	
14	PowerPoint④：発表スライド準備をおこなう。「自分の持ち物の魅力」について、3分程度で紹介するスライドを作成する。	
15	PowerPoint⑤：相互発表と評価①をおこなう。少人数グループに分かれて発表を行ない、相互に評価をおこなう。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
NESSによる理解度テスト	40	NESSを用いた理解度テストにより評価する。セキュリティと情報モラル・Word・Excel・PowerPointそれぞれの指定された箇所について期日までに回答する。	成果物提出	20	Word、Excelそれぞれの成果物について習熟度の評価をおこなう。
プレゼンテーション評価	20	PowerPointスライド作成、発表、相互評価について評価をおこなう。	タッチタイピング	20	NESSで実施するタッチタイピングテストにおいて、向上度合いに基づいて評価をおこなう。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。（30分程度） ②PowerPointのプレゼンテーションがスムースに行えるように練習する。（30分程度） ③WordやExcelの操作が教師の指示なしでもできるように練習する。（30分程度） ④パソコンの操作は慣れることが重要である。特にキーボードからの日本語入力の速度が課題完成に大きく影響するので、入力速度の向上のためのタッチタイピング練習を行う。（20分程度）	課題は随時評価の上で返却する。

受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。	教科書・テキスト	『イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル Microsoft365・Officeバージョンフリー 【NESS付】』noa出版(2026年)ISBN978-4-911200-06-3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	情報機器演習Ｂ（健康科学部）			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
本講義の目的は２つある。第１は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。「情報機器演習A」に続き、代表的なアプリケーションである文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方習得を深める。第２は、AI活用が前提となる社会で活躍できる基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。これらの目的を満たすために、コンピュータを用いた演習形式の授業を行なう。	学内ネットワークを活用できる。 ②情報モラルについてNESSを用いた小テストに合格できる。 ③ゼミ活動のレポート作成に必要な文章編集能力を身につける。 ④基本的なExcel操作ができる。 ⑤プレゼンテーションソフトを用いた発表ができる。 ⑥タッチタイピングの能力が身につく。

教授方法	演習形式でおこなう。MicrosoftOfficeとGoogle Workspaceを活用する。NESSを用いたテストと振り返りを行なう。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	前期の復習：Microsoft Office とGoogle Workspaceの往還とデータの取り扱い方法について復習する。Google Formsの作成方法について学習する。	
2	Excel④：Step2 Lesson1 表の書式設定と、Lesson2　印刷イメージについてより詳細な管理方法について学ぶ。Google Formsを用いたアンケートを実施する。	
3	Excel⑤：Step2 Lesson3　一般的によく使われる高度な関数の活用方法について学ぶ。Google Formsのデータ集計をおこなう。	
4	Excel⑥：Step3 Lesson1・2　分析やプレゼンテーションなどで用いられる高度なグラフを作成方法について学ぶ。	
5	Word③：Step2 Lesson2レポート作成に必要な機能について学ぶ。Excelで作成した表やグラフをWord文書内に取り入れたレポート作成の技術を身につける。	
6	セキュリティと情報モラル③：Step1 Lesson3　不正アクセスを防止する方法について詳しく学ぶ。	
7	セキュリティと情報モラル④：Step2 Lesson1・2・3　情報共有や論文作成の場面で求められる情報モラルを身につける。	
8	セキュリティと情報モラル⑤：Step3　AI社会で注意が必要な情報モラルを身につける。	
9	PowerPoint⑥：プレゼンテーションの骨格である構成作りの方法と、言い回しやパラランゲージなどの効果について復習する。	
10	PowerPoint⑦：スライドデザインの詳細な設定について学習する。図形描画機能について学習する。	
11	PowerPoint⑧：表やグラフを活用した効果的なプレゼンテーションを実現する方法について学習する。	
12	PowerPoint⑨：ノート機能を活用したスライド発表方法について学習する。表とグラフを用い、指定されたテーマで3分程度で紹介するスライドの構成を考える。	
13	PowerPoint⑩：発表スライド準備をおこなう。表とグラフを用い、指定されたテーマで3分程度で紹介するスライドを作成し、リハーサルをおこなう。	
14	PowerPoint⑪：相互発表と評価②をおこなう。少人数グループに分かれて発表を行ない、相互に評価をおこなう。	
15	PowerPoint⑫：相互発表と評価②をおこなう。少人数グループに分かれて発表を行ない、相互に評価をおこなう。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
NESSによる理解度テスト	40	NESSを用いた理解度テストにより評価する。セキュリティと情報モラル・Word・Excel・PowerPointそれぞれの指定された箇所について期日までに回答する。	成果物提出	10	Excel、Wordの成果物について習熟度の評価をおこなう。
プレゼンテーション評価	30	PowerPointスライド作成、発表、相互評価について評価をおこなう。	タッチタイピング	20	NESSで実施するタッチタイピングテストにおいて、向上度合いに基づいて評価をおこなう。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。（30分程度） ②PowerPointのプレゼンテーションがスムースに行えるように練習する。（30分程度） ③WordやExcelの操作が教師の指示なしでもできるように練習する。（30分程度） ④パソコンの操作は慣れることが重要である。特にキーボードからの日本語入力の速度が課題完成に大きく影響するので、入力速度の向上のためのタッチタイピング練習を行う。（20分程度）	課題は随時評価の上で返却する。

受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。	教科書・テキスト	『イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル Microsoft365・Officeバージョンフリー 【NESS付】』 noa出版(2026年)ISBN978-4-911200-06-3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	基礎ゼミⅠ（健康科学部）			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	三田　陽子・中谷　壽男・三沢　典彦・矢澤　励太・俵　万里子・西　正人　（代表教員　三田　陽子）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は初年次教育科目の一つとして開講する。大学生の学びを進めていくに当たり必要となる基礎的な能力を身につける。具体的にはノートテイキング・文献講読・レポート作成・プレゼンテーション・グループディスカッションなどについて演習を通して学習する。グループディスカッションを通じて人間関係のあり方や、コミュニケーションについても学ぶ。	①大学での学び方について理解している。 ②図書館やインターネット等を利用した情報収集の方法を習得する。 ③ゼミの運営や参加方法を理解し、積極的に関わろうとする。 ④レポートの書き方を理解している。

教授方法	各ゼミごとの演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	（前半合同）ゼミの進め方や履修登録の確認を行う。（後半）ゼミごとに自己紹介を行う。	担当教員
2	（合同）図書館利用オリエンテーション：情報収集の仕方を具体的に学ぶ。（テキスト第５章に該当）	全員
3	ゼミごとに図書館から借りた食に関する本を紹介する。	各担当教員
4	（合同）スタディ・スキルズとは？：自己の目標設定、大学での学びについて考える。（テキスト第１章に該当）	全員
5	（合同）ノートテイキングのスキル：ノートテイキングの方法について学び、理解する。（テキスト第２章に該当）	全員
6	（合同）円滑なグループディスカッションの方法について学ぶ。	全員
7	（合同）レポートと感想文の違い、対比思考を活用し論理的な文章を書く方法を知る。（テキスト第８章に該当）	全員
8	レポートの構成を理解する。（テキスト第８章に該当）	各担当教員
9	（合同）テキストを読み、要約する方法を理解する。（テキスト第３章に該当）	全員
10	テキストを読み、要約する。（テキスト第４章に該当）	各担当教員
11	（合同）情報収集、文献調査、情報の整理の仕方について学び、理解する。（テキスト第６．７章に該当）	全員
12	教員が提示した文章を読み要約する。	各担当教員
13	第12回で読んだ文章をもとに、自分の考えをレポートにまとめ、発表する	各担当教員
14	（合同）後期の履修登録、履修モデルの選択等の説明を行う。	全員
15	教員が提示した文章を要約し、自分の考えをレポートにまとめる。	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	50	意欲的に参加・発言していることを 100％として、積極的な姿勢を評価する。	レポート	50	①内容はオリジナルなものか。 ②参考文献の選定や引用は適切か。 ③時間内に収まる構成だったか。 ④他者に伝わるような話し方、内容だったか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各自レポート作成のための「問い」を立て準備を進めていくので、授業外において積極的に図書館やインターネットなどを利用して、オリジナルな報告を目指す。そのためには日頃から「食」への関心を持ってニュースなどに触れること。 ②レポート作成や資料の準備など、発表期日までに余裕をもって取り組む。［60分～］ ③学内の環境（ILCやLLCなど）を有効に活用し、レポート作成ができるように準備する。	その都度、ゼミ内で研究の進行状況把握し、他者の研究の進め方等も参考にして自分の学びを深めていくように指導する。

受講生に望むこと	主体的、対話的で深い学びを実現するために、情報の活用はもちろんのこと、オフィスアワーなどを利用して教員からアドバイスを受けるようにしてほしい。ゼミ中は、メンバーの報告や発言に対して積極的に応答し、議論の活性化に積極的に寄与することを望む。	教科書・テキスト	『知へのステップ』（第5版）学習技術研究会/編著,くろしお出版,2019年,ISBN978-4-87424-789-1
指定図書／参考書等	担当教員の指示に従うこと。／担当教員の指示に従うこと。	その他・特記事項	テキスト及び各回のゼミの進め方については担当教員の指示に従うこと。 合同で実施する回の授業内容は、日程によって前後する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	基礎ゼミⅡ（健康科学部）			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵・榎本　俊樹・田中　弘美・中谷　壽男・矢澤　励太・西　正人　（代表教員　新澤　祥恵）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は初年次教育科目の一つとして開講する。大学生としての主体的・自主的な学びの姿勢および知的探求の方法を習得することを目的とする。具体的には、①文献・データの検索と整理、②レポートの文章作成（前期からの継続と発展）、③プレゼンテーションの方法、④ディスカッションの方法（11月の「オータム・セミナー」でのグループ討論を念頭）に重点をおいて学ぶ。テーマに沿ったレポートを作成し、発表する。また PROGテストを用いた学生指導についてもゼミ活動内で実施する。	①大学で学ぶために必要なスキルを身につけ、それを実践することができる。 ②文献の調べ方とデータの検索方法を身につける。 ③レポートの書き方を身につける。 ④プレゼンテーションのスキルを身につける。 ⑤新しいアイディアを生み出すためのグループ・ディスカッションのスキルを身につける。 ⑥正しい文法に基づいた分かりやすい文章を書く日本語力を身につける。

教授方法	各ゼミごとの演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	（全体）全体オリエンテーション（履修登録の確認等）：授業概要を理解する。成績指導を受け、履修登録確認を行う。	全員
2	インターネットによる情報収集：レポート作成のために必要な情報をインターネットで収集する方法を習得する（テキスト第６章）。日本語表現：漢字	全員
3	アセスメント解説会：各ゼミにおいて担当教員がリテラシーとコンピテンシーの修得状況に応じたアドバイジー学修指導を行う。	全員
4	レポート・テーマの選定	全員
5	情報の整理：レポートの作成に用いる文献の整理方法と文献リストの作成方法を習得する（テキスト第７章）。	全員
6	レポートの構想発表	全員
7	グループ・ディスカッション：オータムセミナーのグループ討論を念頭に置いて、ディスカッションスキルを学ぶ。	全員
8	オータムセミナーグループ討議の振り返り；日本語表現：文法① アカデミックライティングの基本スキル：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める（テキスト第８章）。	全員
9	効果的なアカデミックライティングのために：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める（テキスト第９章）。 日本語表現：文法②・③	全員
10	プレゼンテーションの基本スキル：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。各ゼミ必要に応じてレポート中間発表（テキスト第11章）。日本語表現：語彙①	全員
11	レポート中間発表	全員
12	わかりやすいプレゼンテーションのために：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。レポート内容の発表準備（テキスト第12章）。日本語表現：語彙②	全員
13	レポート内容の発表準備：各ゼミ必要に応じてレポート最終発表	全員
14	レポート最終発表	全員
15	（全体）履修指導、授業評価アンケート調査、プロゼミ説明会	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 ②人の意見に聴きつつ、自分の意見もきちんと述べているか。 ③課題に真剣に取り組んでいるか。	提出課題	30	レポート・テーマや構想、中間発表原稿、日本語表現の各課題を締め切りまでに提出しているか。
レポート・発表	50	①内容はオリジナルなものか②文献の選定や引用は適切か③適切な構成か④他者に伝わるような話し方か⑤指定された形式か⑥事実・データと意見を分けた文			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業に示されているテキストの章をあらかじめ読んでおくこと［30分］。 ②レポート作成のための文献・情報の収集と整理を十分行う［30分］。 ③レポートの中間発表でのコメントを踏まえて、必要な文献等を読み、内容を改訂する［30分］。 ④図書館やインターネットなどさまざまな文献・情報により視野を広め、知識を増やすとともに、集めたものは整理しておく［30分］。	その都度、ゼミ内で研究の進行状況把握し、他者の研究の進め方等も参考にして自分の学びを深めていくように指導する。

受講生に望むこと	少人数のゼミ形式で行うため、ゼミの時間は遅刻せず、積極的に仲間の話を聞き、かつ自分の意見も述べるように努めてほしい。また、提示された課題に対しては、責任をもって期日までに仕上げ提出すること。ゼミ運営上妨げになるような行為は慎むこと。	教科書・テキスト	『知へのステップ』（第5版）学習技術研究会/編著,くろしお出版,2019年,ISBN978-4-87424-789-1 ※基礎ゼミⅠから引き続き使用
指定図書／参考書等	なし／日本語検定公式テキスト『日本語中級３・４級』ISBN　978-4487802906、日本語検定領域別問題集『敬語』ISBN　978-4487802760、日本語検定領域別問題集『語彙・言葉の意味』ISBN　978-4487802784、日本語検定領域別問題集『文法』ISBN　978-4487802777、日本語検定領域別問題集『漢字・表記』ISBN　978-4487802971	その他・特記事項	・テキスト及び各回のゼミの進め方については担当教員の指示に従うこと。 ・本科目は授業の事前課題として日本語表現に関わる課題に取り組み、日本語表現の基礎を修得するための内容も担保している。 ・合同で実施する回の授業内容は、日程によって多少前後する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教といのち			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
１・２年次で得たキリスト教人間観の基礎理解を土台として、学生が自分の人生観や価値観を聖書的理解に基づいてかたちづくり、聖書的人間理解を携えて「食」に関わるプロフェッショナルとして歩んでいくために助けとなる素材を提供する。ねらいは①学生が健康科学部での学びをキリスト教人間観の視点から見つめ直し、社会での働きに対する構えを形成すること、②学生が聖書の使信（メッセージ）との関わりの中で自らの人生を主体的に形成していけるようになること、である。 ※SDGs目標番号2、3、12関連科目	①北陸学院の「建学の精神」を理解し本学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、教会・学校・人生を通して礼拝者として生きる姿勢を習得する。 ②人間を聖書的平和（シャローム）の視点からホーリスティックに理解し、他者の本当の健やかさに寄与する「食」のプロフェッショナルの姿勢を修得する。 ③キリスト教人間観の視点から、健康科学部における学びの成果を総括できるようになる。

教授方法	レジュメに基づく講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：本コースの概要説明。Google Classroom 設定クラス参加手続。健康科学部での学びを本学の「キリスト教人間観」の視点から総括するキャップストーン科目としての本科目の位置づけを理解する。	
2	キリスト教と科学①：キリスト教と科学との関係を歴史的に概観する。両者の関係が常に対立的であったわけではなく、親和性もあることを発見する。	
3	キリスト教と科学②：キリスト教と科学との関係を科学哲学・世界観の視点から概観する。科学的探究が神の造られた世界を探究し、神の栄光を現す営為となることを発見する。	
4	キリスト教における「いのち」：聖書を通して示される「いのち」の理解を探究し、生物学的生命と霊的いのちとの区別と関連を探る。	
5	キリスト教とSDGs①:健康科学の視点から、SDGsのゴールを検討し、「食」に携わる者として何ができるかを考える。	
6	キリスト教とSDGs②:健康科学の視点から、SDGsのゴールを検討し、「食」に携わる者として何ができるかを考える。	
7	「シャローム」と「食」：聖書における「平和」（シャローム）を理解し、その中に「食」がどのように位置づけられるのかを探究する。	
8	聖書における「食物規定」について、その理解がどのように変化してきたのか、それがキリスト教の「救い」の理解とどうつながっているのかを理解する。	
9	いのちのパンであるキリスト：マナから聖餐のパンに至る神のいのちの系譜を発見する。	
10	いのちの水であるキリスト：荒れ野の水からキリストにある生ける水に至る神のいのちの系譜を発見する。	
11	「バベットの晩餐」①：ストーリーの場面を取り上げ、「食」がひとのホーリスティックな健やかさに寄与することを発見する。	
12	「バベットの晩餐」②：ストーリーの場面を取り上げ、「食」がひとの身体・精神・霊の健やかさに寄与することを発見する。	
13	「キリスト教人間観」に生きる食のプロフェッショナル：Vocation、Calling としての職業理解に触れ、その具体的な働きの現れ方を考察する。	
14	献立・食卓の先を思い遣る：ホーリスティック（全体的）な健康といのちの理解を持って相手に食のサービスを提供できるようになる視点を発見する。	
15	まとめ：本科目における学びを振り返りまとめつつ、学期末試験の準備説明を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	20	「振り返りシート」で授業内容を自分の言葉でまとめて感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。	教会出席レポート	20	地域教会の礼拝に出席し、メッセージ内容について「食といのち」の視点からの感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。
SDGsレポート	20	「食」に係わる視点でSDGsのゴール１つを取り上げて、学期中に自分の生活の中で取り組んだ活動とその成果をまとめた小レポートにおいて、自分が学び取った内容を的確に表現できているかを評価。	定期試験	40	講義内容の理解度を測る記述試験により評価。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への積極的参加を求める（30分）。 ②その週の授業内容をプリントで復習し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる（30分）。 ③日頃より聖書に親しみ、本学のキリスト教諸行事への積極的参加を求める（30分）。 ④神に感謝し、献金先の活動を理解しつつ、礼拝献金に加わる（10分）。	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「学期末試験」については全体講評をメソフィア等で告知する。

受講生に望むこと	・遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ・本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／授業内で紹介する。	その他・特記事項	・毎回聖書ならびに Chromebook を持参すること。 ・授業中の他科目の内職、私語、スマホ操作などのマナー違反が繰り返される場合は厳しく減点する。他の受講生のためにも最低限のマナーは守ること。 ・視聴覚教材も積極的に導入する。”

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	データサイエンス入門			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は学部共通科目として開講する。我々が生活する社会には多くの情報やデータが存在する。これからの社会はデータを正しく取り扱い、適切に分析し、価値のある情報を見出すことが求められていく。本科目では1年前期の「情報機器演習A」を受け、ICT機器の取扱について一定の知識を得たことを前提に、AI利活用に関わる理解、データを扱うための知識、統計的な考え方と、統計解析の手法を学ぶ。これらを学ぶことにより、データサイエンス時代に対応できる知識と技術を身につける。 学習効果を高めるため、適宜反転学習や、グループディスカッション、Google Workspaceを活用する。	データサイエンスの時代とも言える21世紀を生きるうえで必要な、社会におけるデータ・AIの利活用について正しい知識を得て、説明できるようになる。 データリテラシーを身につけ、データの読み方、データの特徴抽出、データ分析を行ない、分析した内容について説明できるようになる。 データ・AI利活用における留意事項について理解し、説明できるようになる。

教授方法	テキスト・スライドを用いた講義形式で実施する。Google スプレッドシートを用いてデータ加工について学修する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	【導入・社会で起きている変化】現代社会はSociety5.0とも呼ばれ、仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の両立が求められている。社会に起きている変化について具体的内容について学ぶとともに、「データサイエンス入門」の概要について説明する。	
2	【社会で活用されているデータ】社会で活用されているデータの種類、データごとの取得方法、所有者について学習する。またデータを扱う上での注意点についても学習する。	
3	【データサイエンスにおける心得−１】データサイエンス本編について学ぶ前に、データ・AIを扱う上での留意事項について学習する。AIを使うことによるメリットも大きいが、倫理面の問題などについて正しく扱う必要もある。	
4	【データサイエンスにおける心得−２】データサイエンス本編について学ぶ前に、データ・AIを扱う上での留意事項について学習する。データ・AI活用における負の事例を紹介し、データを守るための留意事項について学ぶ。	
5	【データとAIの活用領域】事業活動と、活用目的ごとにデータ・AI活用の広がりについて学習する。反転授業（LITE)を行う。 【中間レポート１】反転授業を受けてレポートを作成する。	
6	【データ・AI利活用のための技術−１】データを解析し、可視化する方法について学ぶ。この回は特にデータ解析の方法と、それにまつわる話題について触れる。 【振り返り小テスト１】５回までの学習内容についての振り返り小テストを行う。	
7	【データ・AI利活用のための技術−２】データを解析し、可視化する方法について学ぶ。この回は特に画像や音などの非構造化データ処理、グラフ作成などによるデータ可視化、画像処理などで用いられるパターン認識技術について触れる。	
8	【データ・AI利活用のための技術−３】データを解析し、可視化する方法について学ぶ。この回は特に人工知能について扱う。今のAIで出来ること、出来ないことなどについても触れる。	
9	【データ・AI活用の現場】データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれ、そのような価値を生むために何に気を付けるべきかについて考える。	
10	【データ・AI利活用の最新動向】AIを活用した新しいビジネスモデルを紹介する。そして、今後ビジネスなどにも広く活用されるであろうAIに関する最新技術を紹介する。	
11	【データを守る上での留意事項】セキュリティ・プライバシーを守ることと、社会でデータを活用することの両立について学習する。反転学習を行う。 【中間レポート２】反転授業を受けてレポートを作成する。 【振り返り小テスト２】６～１０回までの学習内容についての振り返り小テストを行う。	
12	【データリテラシー−１】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。今回は「データを読む」ための基本事項について説明する。	
13	【データリテラシー−２】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。この回は特に調査などに用いられる方法について説明する。	
14	【データリテラシー−３】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。この回は特に図解などを用いて判りやすく説明するデータ表現の方法について説明する。	
15	【データリテラシー−４】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。この回は特に表計算ソフトをデータ解析ツールとして扱う方法について説明する。 【振り返り小テスト３】全15回を通した学習内容についての振り返り小テストを行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
振り返り小テスト	30	節末の練習問題から出題する3回の小テストによって理解度を評価する。	レポート	40	学期内に二度課す。設定されたテーマに沿ってレポートを作成する。これにより理解度を評価する。
課題学習	10	課題に対し、積極的に取り組んでいること。	授業への積極的関与	20	反転授業・反転学習でのグループワークにおいて、積極的に関与していることを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：予告した箇所について通読する。[30分]反転学習として指示があった場合は、その指示に従い準備をする。[60分] 事後学修：指示された振り返り課題に取り組む。[30分]	授業時間内の振り返りと、Google Classroomを通じてフィードバックを行う。

受講生に望むこと	Society5.0とも呼ばれる情報化社会でこれからの時代を担う人材となるべく、データサイエンスに関する知識を正しく身につけられるよう、興味を持って取り組んでほしい。	教科書・テキスト	『教養としてのデータサイエンス　改訂第2版』北川源四郎・竹村彰通編,講談社,2024年,ISBN978-4-06-537939-4
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	レジュメはGoogle Classroomから配信する。 毎回行う振り返りもGoogle Classroom経由で実施する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	健康とデータ解析			開講学科	健康科学	必修・選択	選択
担当教員名	新澤　祥恵						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
私達の健康は様々な指標により評価することができる。また、食生活の状況や変化を把握し、評価するためにもこれらに関するデータが不可欠である。この授業では、健康、食生活を把握し、評価するためのデータを的確に処理するための手法を学び、さらに、私達が入手できる統計データを分析することにより、的確に今日の健康に関する状況、食生活の現状を理解する能力を修得する。前半では基礎的なデータ処理方法を、後半ではいくつかの調査データを取り上げて検討する。	①量的データと質的データがあり、その特徴を理解できる。 ②データの縮約化の理論と方法を理解できる。 ③検定の考え方と、データの比較方法が理解できる。 ④食事摂取基準など管理栄養士業務に必要なデータの特徴を理解できる。 ⑤様々な保健統計を理解できる。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：この授業で学ぶことの概要を理解する。	
2	データの種類と縮約化：量的データ・質的データの特徴や代表値、ばらつきなどを理解する。	
3	データの種類と縮約化の演習	
4	単純集計、クロス集計、検定などを理解する。	
5	単純集計、クロス集計、検定の演習	
6	食事摂取基準と献立1	
7	食事摂取基準と献立2	
8	官能検査の分析1	
9	官能検査の分析2	
10	健康・食に関する統計の分析1	
11	健康・食に関する統計の分析1	
12	健康・食に関する統計の分析3	
13	健康・食に関する統計の分析4	
14	健康・食に関する統計の分析5	
15	まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
筆記試験	60	問題の正答率に基づいて評価する	課題レポート	30	課題への取組とまとめ方の基づいて評価する
授業態度	10	授業への参加意欲をもとに評価する			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①テキストや配付資料を事前に読み込み、大凡の内容を理解しておく。［30分］ ②与えられた課題などは的確にレポートする。［40分］	次回授業時に返却し、解説する。

受講生に望むこと	①授業の中で取り上げる例題の理論を理解しながら解答できるようにする。 ②メディアで出される健康情報に関心を持ち、自身で積極的にデータを集めるようにしてほしい。	教科書・テキスト	『管理栄養士・栄養士のための統計処理入門』武藤志真子編著,建帛社,2012年,ISBN　978-4-7679-4636-8
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインⅠ			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	田中　康司						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キャリアデザインの授業の目的は、社会的・職業的自立を目指し、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な能力を育成することである。この授業では、キャリアデザインの意義と目的、働くということの意義と目的、そして21世紀の産業社会を生き抜くために必要な能力について学ぶ。	この授業の到達目標は、下記のとおりである。 ①働くことの意義を理解し、自らが果たすべき役割との関連を踏まえて働くことを位置付け、自ら主体的に判断してキャリアを形成していくことを理解する。 ②キャリア発達の基本的な考え方を理解する。 ③働くことの多面的な意味を理解する。 ④勤労観・職業観について理解する。 ⑤21世紀の産業社会を生き抜くために必要な能力として、キャリアプランニング能力、専門的な職業能力等について理解する。 ⑥私たちを取巻く外的環境即ち経済・社会状況等に対する関心を育てる。

教授方法	基本的には講義形式で行う。必要に応じてグループワーク等を実施する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション ： 授業の進め方とその目的について理解する。 キャリアデザインの基礎理解①　キャリアデザインの基本について下記の項目から理解する。 ・キャリアデザインの意味　・キャリアデザインが必要とされる背景　・キャリアデザインの対象等	
2	キャリアデザインの基礎理解②　現代社会におけるキャリアデザインの必要性とその課題について下記の項目から理解する。 ・キャリアデザインの課題　・なぜ働くのか等	
3	キャリアの広がりとライフロールについて学ぶ①　キャリア発達の基本的な考え方を理解する。 D.E.スーパーのキャリア発達理論から学ぶ。	
4	キャリアの広がりとライフロールについて学ぶ②　「ライフ・キャリア・レインボー」を用いて自分のライフロールを考える。 【working】自分のライフロールについて過去・現在を振り返り、未来をイメージすることにより、自らのキャリアをデザインする。	
5	『レビンソンの発達段階説』を通して、キャリアの生涯発達と下記の３つの節目（若年・中年・老年）について学ぶ。 （1）人生の形成期とその課題　・「新米成人時代」の３つの過渡期　・職務適応と職場適応　（2）人生の後半への出発　・中年期の発達課題：過去と未来をつなぐ現在　（3）人生の終盤への課題　・新しい自我と生活構造の形成	
6	働くことの意味を学ぶ①　「マズローの欲求の5段階説」と「職業のもつ多面的な意味」から働くことの多面的な意味を理解する。 【working】「人はなぜ仕事をするのか？（領域別・ライフステージ別・担い手別・職業形態別）」を使って、さまざまな視点から検証していき、職業の持つさまざまな意味を理解する。	
7	働くことの意味を学ぶ②　「職業観」について下記の項目から学ぶ。 ・職業観が持つ３つの側面　・職業観についての歴史的な考察　・職業観を持つことが大切な理由	
8	外的環境について学ぶ―私たちが生きる現代社会①　自らのキャリアデザインをする時に、自らを取り巻く外的環境、即ちわが国の経済や社会、組織の在り方や仕組み等に関する知識やそれらに対する意見を持っていることが重要である。この講義では、第２次世界大戦終了後から現在までの歴史を概観する。切り口として、経済的な視点、具体的には「経済成長」の推移を見ていく。	
9	外的環境について学ぶ―私たちが生きる現代社会②　第２次世界大戦終了後から現在までの歴史を概観する。この講義では、切り口として、社会的な視点、具体的には「少子高齢化」問題について概観する。	
10	外的環境について学ぶ―私たちが生きる現代社会③　第２次世界大戦終了後から現在までの歴史を概観する。この講義では、切り口として、第２次世界大戦終了後80年間のわが国の経済的社会的変化に伴う「日本型経営」の推移を見ていく。	
11	外的環境について学ぶ―私たちが生きる現代社会④　下記の項目から「少子高齢化」問題について掘り下げて考える。 ・少子高齢化問題の原因　・少子高齢化対策	
12	外的環境について学ぶ―私たちが生きる現代社会⑤　下記の項目から「女性の社会進出」について考える。 ・女性と職業	
13	外的環境について学ぶ―私たちが生きる現代社会⑥　下記の項目から女性の社会進出について考える。 ・就業と子育ての両立	
14	あなたに求められる４つの能力開発①　日本の産業構造・企業組織・労働市場の在り方が変容し、人の働かせ方も個々人の自立性・多様性・社会性を重視したものに変化してきている。この講義では、このような社会を生き抜いていくための「キャリアプランニング能力」と「自己管理能力」について学ぶ。	
15	あなたに求められる４つの能力開発②　日本の産業構造・企業組織・労働市場の在り方が変容してきている社会を生き抜いていくための「政治的能力」と「専門的な職業能力（「エンプロイアビリティ」）」について学ぶ。 キャリデザインⅠ講義全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	授業への参加態度及びディスカッションについて、テーマの内容を理解し、他者の意見を尊重しながら、論理的な発言ができているかという観点等から評価する。	講義内容に関する課題・レポート	80	講義内容に関する課題或いはレポートについて、授業内容を十分に理解した上で、論理的に表現しているかという観点等から評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・事前に提示したレジュメ（テキスト）の内容について、授業前に目を通しておくこと。[30分] ・授業終了後、レジュメ（テキスト）をもとに、授業の中で紹介した書籍、雑誌、論文等に目を通して、授業内容を復習しておくこと。[60分] ・新聞（「日本経済新聞」等の全国紙）を読む習慣を身に付けることは、良識ある社会人になるための必要条件である。自らの価値観や職業観を身に付けるためにも、独自の視点から新聞を通して社会との関わりを持つことが大切である。[毎日30分]	・講義終了後に実施する授業評価を通して、授業内容の理解度や要望・質問等を把握し、以降の授業に反映させる。

受講生に望むこと	・毎回出席確認を行う。 ・授業中の私語や携帯電話の使用は、周囲の学生にとって迷惑行為にあたるので禁止する。	教科書・テキスト	・事前にレジュメ（テキスト）・資料を送付する。
指定図書／参考書等	なし／『働くひとのためのキャリア・デザイン』　金井壽宏著 PHP研究所　PHP新書187　ISBN-13　978-4569619415 他に、講義時に紹介する。	その他・特記事項	PCを授業で使用するので、必ず持参すること

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインⅡ			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	田中　康司						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、生涯にわたり多様なキャリアを形成する過程で常に深めていく必要のある「自己理解」について、様々な科学的な手法を用いて学ぶ。更に、「職業能力としての基礎力（仕事において高い成果を上げるための行動特性のこと）」の内の「人間関係形成・社会形成能力」、「自己管理能力」そして「課題対応能力」について学ぶ。このように内的キャリアへの認識を高めた上で、組織との関わり、即ち働くことについて考える。	この授業の到達目標は、下記のとおりである。 ①様々な科学的な手法を用いて、長所・短所を中心とした自分の性格、好き嫌い、適性、希望などを明確化して把握する「自己分析」を行い、自己理解を深める。 ②職業能力としての基礎力の内の人間関係形成・社会形成能力、自己管理能力そして課題対応能力について学ぶ。 ③組織と人間の関わりについて学ぶ。更に、会社、公務員そしてＮＰＯ（非営利団体）が直面している課題等についての学びを通して、働くことについての理解を深める。

教授方法	基本的には講義形式で行う。必要に応じてグループワーク等を実施する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション ： 授業の進め方とその目的について理解する。 自己理解を深める①　「自己分析」とは、自分の本質を探る作業のことで、長所・短所を中心とした自分の性格、好き嫌い、適性、希望などを明確化して把握することである。この講義では、自己分析の目的と効果的な方法について理解する。	
2	「新聞を読もう」：新聞を身近なものとするために、新聞の意義やその読み方を学ぶ。 自己理解を深める②　【working】時間軸を通して自分を知るという目的から「自分史」を作成する。即ち、自分の外的キャリア（経験、体験等）を整理すること（自分史の作成）を通して、内的キャリア（能力、興味、価値観、性格等）を理解する。	
3	自己理解を深める③　【working】自分が残してきた自分だけの道筋を振り返ることを通して自分を知るという目的から「ライフライン分析」を行う。様々なエピソードの中から印象的な事実を選び出しそれらを分析することから、自分の性格等を認識する。 効果的な他己分析としての『ジョハリの窓』についても理解する。	
4	自己理解を深める④　「産業」（産業分類）と「職業」（職業分類）の視点から自己分析を行う。自己分析に先立ち、下記の項目について理解する。・産業の意義と役割等を理解する。　・職業の意義と役割等を理解する。　・産業と職業の関係を理解する。	
5	自己理解を深める⑤　【working】職業との関わりから自分を知るという目的から、どんな業種（業界）に「興味がある・興味がない」のか、業務の内容によって分けられた仕事の内、どんな業務が「できる・できない」のか、という視点等から自分の性格等を認識する。	
6	自己理解を深める⑥　【working】「キャリアアンカー」により自己分析を行う。キャリアアンカーとは、あなたが何を最も大切にして仕事に取り組むのか、その「コンピタンス（成果を生み出す能力）」「動機（何がやりたいか）」および「価値観（何に価値を感じるか）」を明らかにしようとするものである。	
7	自己理解を深める⑦　「社会人基礎力」を理解する。これは「多様な人々と仕事をしていく上で必要な基礎的な力」と定義されている。学生の間に身につけておいてほしい能力水準とされている。コミュニケーション能力やコンセプチュアルスキル（概念化能力）等がある。	
8	自己理解を深める⑧　「職業能力としての５つの基礎力」を理解する。これは「対人能力」「対自己能力」「対課題能力」「思考力」そして「処理力」から成り、仕事において高い成果を上げるための行動特性といわれている。この講義では対人能力を理解する。これは、仕事に必要な基礎力の中でもとりわけ中核となるものである。	
9	自己理解を深める⑨　職業能力としての５つの基礎力を理解する。この講義では対自己能力を理解する。	
10	自己理解を深める⑩　職業能力としての５つの基礎力を理解する。この講義では対課題能力、思考力そして処理力を理解する。	
11	働くことについて学ぶ①　「組織と人間の関わり」を理解する。このテーマを下記の項目から理解する。 ・組織の特徴　・組織の構造　官僚制組織等　・経営組織論から見る組織と人間との関わりの変遷等	
12	働くことについて学ぶ②　　組織の種類（企業、公務員そしてNPO）とそれらの活動意義について、下記の項目から理解する。 ●企業について　・企業活動の目的等　・株式会社の基本的特質と証券取引所の役割等	
13	働くことについて学ぶ③　組織の種類（企業、公務員そしてNPO）とそれらの活動意義について、下記の項目から理解する。 ●中小企業について　・中小企業が抱えている課題と対策等　●わが国の産業構造を支える製造業の新たな動き　・第4次産業革命という試練　・日本の製造業が解決すべき大きな3つの課題　・サービタイゼーションという変革	
14	働くことについて学ぶ④　組織の種類（企業、公務員そしてNPO）とそれらの活動意義について、下記の項目から理解する。 ●公務員について　・公務員の仕事内容　・わが国の公務員が直面している課題と対策等 「栄養士」と「管理栄養士」の職務内容について理解する。	
15	働くことについて学ぶ⑤　組織の種類（企業、公務員そしてNPO）とそれらの活動意義について、下記の項目から理解する。●NPOについて　・NPO法人とは　・NPOが直面している課題と対策等 キャリデザインⅡ講義全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	20	授業への参加態度及びディスカッションについて テーマの内容を理解し、他者の意見を尊重しながら、論理的な発言ができているかという観点から評価する。	講義内容についての課題・レポート	80	講義内容についての課題・レポートについて、授業内容を理解した上で論理的に表現しているかという観点から評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・事前に提示したレジュメ（テキスト）の内容について、授業前に目を通しておくこと。[30分] ・授業終了後、レジュメ（テキスト）をもとに、授業の中で紹介した書籍、雑誌、論文等に目を通して、授業内容を復習しておくこと。[60分] ・「日本経済新聞」等の全国紙を読む習慣を身に付けることは、良識ある社会人になるための必要条件である。自らの価値観や職業観を身に付けるためにも、独自の視点から新聞を通して社会との関わりを持つことが大切である。[毎日30分]	・講義終了後に実施する授業評価を通して、授業内容の理解度や要望、質問等を把握し、以降の授業に反映させる。

受講生に望むこと	・毎回出席確認を行う。 ・授業中の私語や携帯電話の使用は、周囲の学生にとって迷惑行為にあたるので禁止する。	教科書・テキスト	・事前にレジュメ（テキスト）・資料を送付する。
指定図書／参考書等	なし／『働くひとのためのキャリア・デザイン』　金井壽宏著 PHP研究所　PHP新書187　ISBN-13　978-4569619415 他に、講義時に紹介する。	その他・特記事項	PCを授業で使用するので、必ず持参すること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインⅢ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択
担当教員名	田中　康司						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キャリアデザインⅡの「働くことについて学ぶ」を「概論」とし、この授業を「各論」と位置付ける。 わが国の産業構造の特徴、職種分類による職業の働き、業界の働き、企業・公務員・NPO（非営利団体）の働きと特徴、そして個別の職業として特に栄養士・管理栄養士の働きについて学ぶ。	この授業の到達目標は、下記のとおりである。 ①働くことを理解する。「労働力調査」「雇用動向調査」等の統計データを用いて、労働市場の現状を学ぶ。 ②産業については「日本標準産業分類」を用いて、職業については「日本標準職業分類」を用いて、産業構造を理解する。 ③企業、公務員そしてNPO（非営利団体）について理解を深める。 ④個別の職業として栄養士・管理栄養士の働きについて理解を深める。

教授方法	基本的には講義形式で行う。必要に応じてグループワーク等を実施する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション ： 授業の進め方とその目的について理解する。 働くことを知る① 「就業状態」を通して様々な働き方があることを学ぶ。「労働力調査」「雇用動向調査」等の統計データを用いて、労働市場の現状を学ぶ。	
2	働くことを知る② 「従業上の地位」「雇用形態」を通して様々な働き方があることを学ぶ。労働力調査、雇用動向調査等の統計データを用いて、労働市場の現状を学ぶ。	
3	職業理解を深める① 産業と職業❶ 「日本標準産業分類」を俯瞰し、どのような産業分野があるのかを探索することを通して、将来の仕事について産業の面から考える。	
4	職業理解を深める② 産業と職業❷ 「日本標準職業分類」を俯瞰し、どのような職業分野があるのかを探索することを通して、将来の仕事について職業の面から考える。	
5	職業理解を深める③ 産業とは何か 企業、特に「株式会社」についての基本的理解を図る。様々な部門の役割・機能について理解する。	
6	職業理解を深める④ 株式会社の抱える今日的な課題を学ぶ。会社経営を管理・監督するコーポレートガバナンスや企業の社会的責任等について理解する。	
7	職業理解を深める⑤ 中小企業の抱えている今日的な課題を学ぶ。脆弱な経営基盤や事業継承の困難さ等の課題について理解する。	
8	職業理解を深める⑥ 製造業を中心とする石川県の産業の特徴と今日的な課題について学ぶ。能登半島地震による産業基盤（伝統工芸や水産業や観光業等）の崩壊からの復興について考える。	
9	職業理解を深める⑦ 国家・地方公務員についての基本的理解を図る。公務員の業務内容について理解する。	
10	職業理解を深める⑧ 国家・地方公務員制度の抱える今日的な課題を学ぶ。対応すべき課題が多様化し、専門化している状況について理解する。	
11	職業理解を深める⑨ NPOについての基本的理解を図る。会社や行政が手の届かないニーズに対する専門性や行動力について理解する。	
12	職業理解を深める⑩ NPOの抱える今日的な課題を学ぶ。資金活動の不足と人材不足と高齢化が大きな課題であることを理解する。	
13	職業理解を深める⑪ 栄養士・管理栄養士の働きについて学ぶ。栄養士・管理栄養士の職業内容について理解する。	
14	職業理解を深める⑫ 栄養士・管理栄養士の抱える今日的な課題を学ぶ。超高齢社会やデジタル化、持続可能性といった社会構造の変化に伴い、職務内容が高度化・多様化してきていることを理解する。	
15	職業理解を深める⑬ 【グループディスカッション】 ディスカッションを通して、栄養士・管理栄養士の未来予想図を描く。 キャリアデザインⅢ講義全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	授業への参加態度及びディスカッションについてはテーマの内容を理解し、他者の意見を尊重しながら、論理的な発言ができているかという観点から評価する。	講義後の課題・レポート	80	レポートについては、授業内容を十分に理解した上で、論理的に表現しているかという観点から評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・事前に提示したレジュメ（テキスト）の内容について、授業前に目を通しておくこと。[30分] ・授業終了後、レジュメ（テキスト）をもとに、授業の中で紹介した書籍・雑誌・論文等に目を通して、授業内容を復習しておくこと。[60分] ・新聞（「日本経済新聞」等の全国紙）を読む習慣を身に付けることは良識ある社会人になるための必要条件である。自らの価値観や職業観を身に付けるためにも、独自の視点から新聞を通して社会との関わりを持つことが大切である。[毎日30分]	・毎回実施する授業評価シートを通して、授業内容の理解度や要望・質問等を把握し、以降の授業に反映させる。

受講生に望むこと	・毎回出席確認を行う。 ・授業中の私語や携帯電話の使用は、周囲の学生にとって迷惑行為にあたるので禁止する。	教科書・テキスト	・事前にレジュメ（テキスト）・資料を送付する。
指定図書／参考書等	なし／『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書187 金井壽宏著　PHP研究所　ISBN-13　978-4569619415 他に、講義時に紹介する。	その他・特記事項	chromebookを授業で使用するので、必ず持参すること

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインⅣ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択
担当教員名	田中　康司						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、自己理解に基きキャリデザインを行う。その際、あなたを支えてくれる他者との良質な人間関係の構築が必要であることを学ぶ。あなたが所属しようとしている仕事の世界はグローバル化とICT化が進み大きく変貌してきていることを学ぶ。それにより、働き方の多様化に注目しながら職業理解を深める。この授業のもう一つの注目点は、自己表現力を高め、来るべき就職活動に備えることである。	この授業の目指すところは、下記のとおりである。 ①キャリア設計能力を高め、自己理解に基づいて自分の将来を考える。 ②グローバル化とICT化が進み大きく変貌してきている仕事の世界を知る。 ③キャリアデザインの実践としてのインターンシップに備える。 ④自己表現力を高め、社会人としてのマナーを身に付ける。

教授方法	基本的には講義形式で行う。必要に応じてグループワーク等を実施する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション ： 授業の進め方とその目的について理解する。 職業興味から自己理解を深めよう。　『ホランドの六角形モデル』を手掛かりに、キャリアの方向を定める。	
2	人間関係とコミュニケーション　　アサーティブ（自分の感情や考えをその場に相応しい方法で表現すること）なコミュニケーションを学ぶ。	
3	人間関係とコミュニケーション②　・メンター（自分のキャリアに影響を与えてくれる人のこと）との出会いの大切さについて学ぶ。　・レジリエンス（落ち込んでもしなやかに立ち直る力のこと）を有することの大切さについて学ぶ。	
4	働くことについて学ぶ　　グローバル化とICT化に伴って求められる新しい人材像について学ぶ。	
5	働くことについて学ぶ②　雇用する会社側のニーズと雇用される個人の側のニーズを共に充足させる、人材の募集・採用方法について学ぶ。	
6	働くことについて学ぶ③　働き方が、1950年代から1980年代にかけての「終身雇用制度」や「年功序列賃金制度」等を特徴とする「古い働き方」から、1990年代には「働き方の多様化」を特徴とする「新しい働き方」に大きく変わったことを理解する。	
7	働くことについて学ぶ④　働き方の多様化について学ぶ❶　・非正規雇用とは	
8	働くことについて学ぶ⑤　働き方の多様化について学ぶ❷　・雇用される側（個人）からみた非正規雇用のメリットとデメリット ・雇用する側（会社）からみた非正規雇用のメリットとデメリット	
9	働くことについて学ぶ⑥　【グループディスカッション】　若者の非正規雇用、特にフリーターについて討議する。	
10	インターンシップ事前研修①	
11	インターンシップ事前研修②	
12	マナー講座①　社会人としての必要なマナーを身に付ける❶	
13	マナー講座②　社会人としての必要なマナーを身に付ける❷	
14	マナー講座③　社会人としての必要なマナーを身に付ける❸	
15	インターンシップ事前研修③　まとめ キャリアデザインⅣ講義全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	授業への参加態度及びディスカッションについてはテーマの内容を理解し、他者の意見を尊重しながら、論理的な発言ができているかという観点から評価する。	講義後の課題・レポート	80	レポートについては、授業内容を十分に理解した上で、論理的に表現しているかという観点から評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・事前に提示したレジュメ（テキスト）の内容について、授業前に目を通しておくこと。[30分] ・授業終了後、レジュメ（テキスト）をもとに、授業の中で紹介した書籍・雑誌・論文等に目を通して、授業内容を復習しておくこと。[60分] ・新聞（「日本経済新聞」等の全国紙）を読む習慣を身に付けることは良識ある社会人になるための必要条件である。自らの価値観や職業観を身に付けるためにも、独自の視点から新聞を通して社会との関わりを持つことが大切である。[毎日30分]	毎回実施する授業評価シートを通して、授業内容の理解度や要望・質問等を把握し、以降の授業に反映させる。

受講生に望むこと	・毎回出席確認を行う。 ・授業中の私語や携帯電話の使用は、周囲の学生にとって迷惑行為にあたるので禁止する。	教科書・テキスト	事前にレジュメ（テキスト）・資料を送付する。
指定図書／参考書等	なし／『働くひとのためのキャリア・デザイン』　金井壽宏著 PHP新書187　PHP研究所　ISBN-13　978-4569619415 他に、講義時に紹介する。	その他・特記事項	chromebookを授業で使用するので、必ず持参すること

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインⅤ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択
担当教員名	田中　康司						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
産業構造・企業組織・労働市場の在り方が変化し、「男女共同参画社会の実現」が希求されている。他方では、若者の労働環境に起因するさまざまな労働問題、女性の社会地位に基づく労働問題を始めとするさまざまな社会問題等、解決を求められている課題は多い。この講義では、これらの課題に対する認識を図り、解決の糸口に触れることを目指す。	この授業の目指すところは、下記のとおりである。 ①若者を取り巻く労働環境について理解する。 ②若者に係る労働問題について考える。 ③女性の社会進出の現状と問題点について理解する。 ④労働の実態と貧困について考える。 ⑤男女雇用等格差の現状について理解する。

教授方法	基本的には講義形式で行う。必要に応じてグループワーク等を実施する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション ： 授業の進め方とその目的について理解する。 働く世界への理解を深める①　若者を取り巻く労働環境について理解する❶　慢性的な人手不足と高い離職率について考える。	
2	働く世界への理解を深める②　若者を取り巻く労働環境について理解する❷　「ゆるい職場」の出現とキャリアの不安について考える。	
3	働く世界への理解を深める③　若者を取り巻く労働環境について考える❸　【グループディスカッション】　第1・2回の授業で取り上げたテーマについて討議する。	
4	働く世界への理解を深める④　若者に関わる労働問題について理解する❶　若者の早期離職問題について理解する。	
5	働く世界への理解を深める⑤　若者に関わる労働問題について考える❷　【グループディスカッション】　若者の早期離職問題について討議する。	
6	女性の社会進出について考える①　女性の社会進出の現状と問題点について理解する。	
7	女性の社会進出について考える②　女性の社会進出促進要因である「クオータ制」について、ノルウェーや北欧諸国の実例を参考に学ぶ。	
8	女性の社会進出について考える③　【グループディスカッション】　「クオータ制」導入に係る利点と問題点である「逆差別」について討議する。	
9	女性の社会進出について考える④　「女性の活躍から男女の働き方改革へ」の移行に伴い実施されている様々な女性支援策について理解する。	
10	女性の社会進出について考える⑤　【グループディスカッション】　「女性の活躍から男女の働き方改革へ」の移行に伴う「男性の役割」について討議する。	
11	女性の社会進出について考える⑥　まとめとして、「男女共同参画社会」の実現に向けた動きについて学ぶ。	
12	雇用の実態について学ぶ①　「労働の実態と貧困」のテーマの下に「相対的貧困」について理解する。	
13	雇用の実態について学ぶ②　【グループディスカッション】　「子どもの貧困」について考える。	
14	雇用の実態について学ぶ③　ひとり親世帯、特に『全国ひとり親世帯等調査』の結果から見えてくる「シングルマザー世帯」の実情について理解する。	
15	雇用の実態について学ぶ④　【グループディスカッション】　「グローバル・ジェンダー・ギャップ指数」と「性別賃金格差」等のデータを用いて、男女雇用等格差の現状について討議する。 キャリアデザインⅤ講義全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	授業への参加態度及びディスカッションについてはテーマの内容を理解し、他者の意見を尊重しながら、論理的な発言ができているかという観点から評価する。	講義後の課題・レポート	80	課題・レポートについては、授業内容を十分に理解した上で、論理的に表現しているかという観点から評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・事前に提示したレジュメ（テキスト）の内容について、授業前に目を通しておくこと。[30分] ・授業終了後、レジュメ（テキスト）をもとに、授業の中で紹介した書籍・雑誌・論文等に目を通して、授業内容を復習しておくこと。[60分] ・新聞（「日本経済新聞」等の全国紙）を読む習慣を身に付けることは良識ある社会人になるための必要条件である。自らの価値観や職業観を身に付けるためにも、独自の視点から新聞を通して社会との関わりを持つことが大切である。[毎日30分]	毎回実施する授業評価シートを通して、授業内容の理解度や要望・質問等を把握し、以降の授業に反映させる。

受講生に望むこと	・毎回出席確認を行う。 ・授業中の私語や携帯電話の使用は、周囲の学生にとって迷惑行為にあたるので禁止する。	教科書・テキスト	事前にレジュメ（テキスト）・資料を送付する。
指定図書／参考書等	なし／『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書187　金井壽宏著　PHP研究所　ISBN-13　978-4569619415 他に、講義時に紹介する。	その他・特記事項	chromebookを授業で使用するので、必ず持参すること

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインVI			開講学科	健康科学	必修・選択	選択
担当教員名	田中　康司						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
私たちの生活は「法律」という大きな枠組みの中で営まれている。普段の生活では気に掛けることの少ない事柄について「法的な視点」から確認する姿勢の重要性を学ぶ。長時間労働の是正や同一労働同一賃金の実現といった「働き方改革」が進行している。これらの社会の大きな流れに関心を持ち、本質をしっかりと把握する。	①日本国憲法の基本的人権の内、社会権（第25条、第27条、第28条）を通して、労働権や労働基本権について学ぶ。 ②労働基準法は、労働時間や賃金等、働く際にもっとも重要な労働条件を定めていることを学ぶ。 ③男女雇用機会均等法は、働く上での男女の差別を禁止しており、性別役割分業意識の強いわが国において重要な働きをしていることを学ぶ。 ④労働者派遣法は、働き方の多様化に伴い解決を求められている多くの課題に対処していることを学ぶ。 ⑤「働き方改革」の具体例として、長時間労働の是正、柔軟な働き方の選択、同一労働同一賃金の実現といった重要な課題に対して、それらの背景を理解し、どのような取組みがなされているのか認識する。

教授方法	基本的には講義形式で行う。必要に応じてグループワーク等を実施する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	就職活動に備えた事前準備講座①	
2	就職活動に備えた事前準備講座②	
3	働く上で必要な法律の基礎知識を学ぶ①　「労働」について憲法上の基本的人権規定から学ぶ。	
4	働く上で必要な法律の基礎知識を学ぶ②　働く人の「人間らしい生活」を守ることを目的とする「労働基準法」の概要を理解する❶	
5	働く上で必要な法律の基礎知識を学ぶ③　「労働基準法」を理解する❷　賃金、労働時間、休日等労働基準の最も重要な項目について学ぶ。	
6	働く上で必要な法律の基礎知識を学ぶ④　性別に関わらず能力を発揮できる雇用環境の整備を目的とする「男女雇用機会均等法」の概要を理解する。	
7	働く上で必要な法律の基礎知識を学ぶ⑤　男女雇用機会均等法が規制する、雇用の場面における様々な差別的な取り扱いやハラスメントついて理解する。	
8	働く上で必要な法律の基礎知識を学ぶ⑥　派遣労働者の保護や雇用安定等を目的とする「労働者派遣法」の概要を理解する。	
9	働く上で必要な法律の基礎知識を学ぶ⑦　働くときに知っておかなければならないルールについて理解する。	
10	大きく変化してきている労働環境について考える①　「長時間労働是正」の目的とその意義を理解する。	
11	大きく変化してきている労働環境について考える②　【グループディスカッション】　長時間労働是正の背景とその効果について討議する。	
12	大きく変化してきている労働環境について考える③　「同一労働同一賃金」の意義および導入の目的とその進捗状況を理解する。	
13	大きく変化してきている労働環境について考える④　【グループディスカッション】　「同一労働同一賃金」の意義とその進捗状況について討議する。	
14	大きく変化してきている労働環境について考える⑤　新しい働き方について、「柔軟な働き方」の選択の背景と概要について理解する。	
15	大きく変化してきている労働環境について考える⑥　新しい働き方について、職務給制度、職能給制度及び役割等級制度について理解する。 キャリアデザインVI講義全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	20	授業への参加態度及びディスカッションについてはテーマの内容を理解し、他者の意見を尊重しながら、論理的な発言ができているかという観点から評価する。	講義後の課題・レポート	80	課題・レポートについては、授業内容を十分に理解した上で、論理的に表現しているかという観点から評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・事前に提示したレジュメ（テキスト）の内容について、授業前に目を通しておくこと。[30分] ・授業終了後、レジュメ（テキスト）をもとに、授業の中で紹介した書籍・雑誌・論文等に目を通して、授業内容を復習しておくこと。[60分] ・新聞（「日本経済新聞」等の全国紙）を読む習慣を身に付けることは良識ある社会人になるための必要条件である。自らの価値観や職業観を身に付けるためにも、独自の視点から新聞を通して社会との関わりを持つことが大切である。[毎日30分]	毎回実施する授業評価シートを通して、授業内容の理解度や要望・質問等を把握し、以降の授業に反映させる。

受講生に望むこと	・毎回出席確認を行う。 ・授業中の私語や携帯電話の使用は、周囲の学生にとって迷惑行為にあたるので禁止する。	教科書・テキスト	事前にレジュメ（テキスト）・資料を送付する。
指定図書／参考書等	なし／『働くひとのためのキャリア・デザイン』　金井壽宏著 PHP研究所　IPHP新書187　SBN-13　978-4569619415 他に、講義時に紹介する。	その他・特記事項	chromebookを授業で使用するので、必ず持参すること

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	プロゼミA			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	田中　弘美・三沢　典彦・中谷　壽男・矢澤　励太・西　正人・三田　陽子　（代表教員　田中　弘美）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
３年次から始まる「専門ゼミ」の前段階として位置づけられている「プロゼミ」は、「生命倫理」「健康と栄養」「病気と栄養」「食品と栄養」「調理と栄養」の５分野から自分の興味関心のある分野を選び、「基礎ゼミ」で培ったスキルをさらに高めるとともに、専門性の高い内容について学ぶ。「プロゼミＡ」は２年次前期に開講し、２年次後期の「プロゼミＢ」とは異なる分野を選択する。またＰＲＯＧテストを用いた学生指導についてもゼミ活動内で実施する。	①ゼミに積極的に参加し学びが深めることができる。 ②文献を読み自分の意見をまとめることができる。 ③自分が担当する部分について、レジュメに基づき発表できる。 ④他者の発表を聞いて自分の考えを持ち、ディスカッションに参加できる。

教授方法	ゼミごとによる演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「プロゼミＡ」の概要説明	全員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
12	ゼミ内発表	全員
13	ゼミ内発表と総括	全員
14	プロゼミＡ振り返り（リテラシー・コンピテンシーアセスメント）	全員
15	前期のまとめ	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	①ゼミ内で指定した書式・文字数・枚数になっているか。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けて記載しているか。	授業参加状況	30	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 ②人の意見を聞いたり自分の意見を述べているか。 ③課題に意欲的に取り組み学ぼうとする姿勢があるか。
レジュメ作成・発表	30	①分かりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①学内外のセミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の購読など(60分～) ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、レポートを作成する（90分～）	質問には適宜対応する。

受講生に望むこと	積極的な姿勢で参加すること。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	各ゼミ担当教員の指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	プロゼミB			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	俵　万里子・新澤　祥恵・榎本　俊樹・矢澤　励太・中川　明彦　（代表教員　俵　万里子）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
３年次から始まる「専門ゼミ」の前段階として位置づけられている「プロゼミ」は、「生命倫理」「健康と栄養」「病気と栄養」「食品と栄養」「調理と栄養」の５分野から自分の興味関心のある分野を選び、「基礎ゼミ」で培ったスキルをさらに高めるとともに、専門性の高い内容について学ぶ。２年次後期開講の「プロゼミＢ」は２年次前期の「プロゼミＡ」で選択した分野とは異なる分野を選択し、「専門ゼミ」につなげる。また ＰＲＯＧテストを用いた学生指導についてもゼミ活動内で実施する。	①ゼミに積極的に参加し学びが深めることができる。 ②文献を読み自分の意見をまとめることができる。 ③自分が担当する部分について、レジュメに基づき発表できる。 ④他者の発表を聞いて自分の考えを持ち、ディスカッションに参加できる。

教授方法	ゼミごとによる演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「プロゼミＢ」の概要説明	全員
2	各ゼミ担当教員の指導にしたがう。	各ゼミ担当教員
3	各ゼミ担当教員の指導にしたがう。	各ゼミ担当教員
4	各ゼミ担当教員の指導にしたがう。	各ゼミ担当教員
5	リテラシー・コンピテンシーアセスメントの解説会	全員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	ゼミ担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各ゼミ担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各ゼミ担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各ゼミ担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各ゼミ担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各ゼミ担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各ゼミ担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各ゼミ担当教員
14	ゼミ内発表	各ゼミ担当教員
15	総括	各ゼミ担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 ②人の意見を聞いたり自分の意見を述べているか。 ③課題に意欲的に取り組み学ぼうとする姿勢があるか。	スライド作成・発表	30	①分かりやすくポイントをまとめたスライドを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。
レポート	40	①ゼミ内で指定した書式・文字数・枚数になっているか。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けて記載しているか。 ③論文形式のレポートとなっているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①学内外のセミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の購読など。[30分] ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、レポートを作成する。[30分]	質問には適宜対応する。

受講生に望むこと	積極的な姿勢で参加すること。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	各ゼミ担当教員の指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	専門ゼミⅠ			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	榎本　俊樹・新澤　祥恵・相良　多喜子・田中　弘美・中谷　壽男・三沢　典彦・中川　明彦・俵　万里子・西　正人・三田　陽子　（代表教員　榎本　俊樹）						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
３年次の「専門ゼミⅠ」では、１・２年次の「基礎ゼミ」「プロゼミ」で身につけた学習及び研究方法を土台として、各自が関心をもつ研究テーマをより深く考察するために、選択したゼミ担当教員のもとで、学習及び研究を進める。具体的には、各ゼミで示されるゼミプランに従い、専門分野に関する文献講読、演習形式で文献の輪読と発表、ディスカッションを中心に理解を深め、ゼミレポートを作成する。またＰＲＯＧテストを用いた学生指導についてもゼミ活動内で実施する。	①ゼミに積極的に参加し学びが深めることができる。 ②文献を読み自分の意見をまとめることができる。 ③自分が担当する部分について、レジュメに基づき発表できる。 ④他者の発表を聞いて自分の考えを持ち、ディスカッションに参加できる。

教授方法	ゼミごとによる演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「専門ゼミⅠ」の概要説明	各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
15	前期のまとめと振り返り	担当教員
16	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
20	ＰＲＯＧテストの解説会	全員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
28	ゼミ内発表	各担当教員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
30	ゼミ内発表と総括	担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	①ゼミ内で指定した書式・文字数・枚数になっているか。②ポイントを押さえ、概要と意見を分けて記載しているか。	レジュメ作成・発表	30	①分かりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。
授業参加状況	30	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。②人の意見を聞いたり自分の意見を述べているか。 ③課題に意欲的に取り組み学ぼうとする姿勢があるか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①学内外のセミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の購読など（30分）。 ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、レポートを作成する（60分）。	質問には適宜対応する。

受講生に望むこと	望むこと 積極的な姿勢で参加すること。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	各ゼミ担当教員の指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	専門ゼミⅡ			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵・榎本　俊樹・相良　多喜子・田中　弘美・中谷　壽男・三沢　典彦・中川　明彦・俵　万里子・西　正人・三田　陽子　（代表教員　新澤　祥恵）						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
４年次には「専門ゼミ」の最終段階として、「専門ゼミI」に引き続き、「専門ゼミⅡ」としてそれぞれの専門分野で設定したテーマに沿って研究を深める。具体的には口頭発表の方法(効果的な発表方法、プレゼンテーション技術等)を身につけ、調査研究、文献研究、ゼミ生相互の検討、意見交換などを通して、レポート執筆などを行う。大学での学びを集約し、その成果をレポートとしてまとめ、卒業発表として各自が発表することを課している。またＰＲＯＧテストを用いた学生指導についてもゼミ活動内で実施する。	①ゼミに積極的に参加し学びが深めることができる。 ②文献を読み自分の意見をまとめることができる。 ③自分が担当する部分について、レジュメに基づき発表できる。 ④他者の発表を聞いて自分の考えを持ち、ディスカッションに参加できる。

教授方法	ゼミごとによる演習
履修条件	「専門ゼミＩ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「専門ゼミⅡ」の概要説明	各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
15	「専門ゼミⅡ」中間のまとめ	各担当教員
16	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。各担当教員	各担当教員
20	ＰＲＯＧテストの解説会	全教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。各担当教員	各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。各担当教員	各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。各担当教員	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。各担当教員	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。各担当教員	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。各担当教員	各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。各担当教員	各担当教員
28	専門ゼミⅡレポート報告会での報告準備	各担当教員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	専門ゼミⅡレポート報告会での報告	全教員
30	全体の振り返り	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	①ゼミ内で指定した書式・文字数・枚数になっているか。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けて記載しているか。	レジュメ作成・発表	30	①分かりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。
授業参加状況	30	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 ②人の意見を聞いたり自分の意見を述べているか。 ③課題に意欲的に取り組み学ぼうとする姿勢があるか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①学内外のセミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の購読など。［30分］ ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、レポートを作成する。［30分］	質問には適宜対応する。

受講生に望むこと	積極的な姿勢で参加すること。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	各ゼミ担当教員の指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	卒業研究			開講学科	健康科学	必修・選択	選択
担当教員名	新澤　祥恵・榎本　俊樹・田中　弘美・俵　万里子・中川　明彦・中谷　壽男・西　正人・三沢　典彦・三田　陽子　（代表教員　新澤　祥恵）						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
これまでの専門分野での学習を総合的に生かし、自ら研究テーマを設定し、その研究テーマの探究を通して、研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。具体的には、研究方法の選択、先行研究の検討、研究上の仮説の構築、適切な方法論の構築などを行った上で、データ収集、分析、解釈を実施し合理的な結論を導き、卒業論文を執筆する。また、卒業論文報告会で研究成果を報告する。	①現代社会が抱える様々な問題に対しての関心を高め、研究テーマを設定し、それについて論理的に考えることができるようになる。 ②専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ③既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できるようになる。 ④研究内容について、論文執筆および口頭発表という形で的確に表現することができ、さらに他者と討論ができるようになる。

教授方法	演習
履修条件	3年次終了時点で累積GPAが2.5以上であること。3年次までに開講されている全必修科目の単位を修得していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：卒業研究の概要および注意事項等について説明する。	全教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
16	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
28	卒業論文報告会での報告準備	各担当教員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	卒業論文報告会での報告	全教員
30	卒業研究の総括	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	10	①研究に意欲的に取り組んでいるか（報告会を含む）。 ②積極的にディスカッションに参加しているか（報告会を含む）。	卒業論文	80	①期限内に提出しているか。 ②指定された字数、書式にしたがっているか。 ③適切な内容となっているか。
成果報告	10	①卒業論文の内容を効果的に伝えることができているか。 ②報告態度は適切か。 ③質疑への応答ができているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
卒業論文の作成および卒業論文報告会での報告準備は、ほぼ授業外で行う。［30分］	卒業論文報告会において行う。

受講生に望むこと	卒業論文の作成は、早めに着手し、主体的に進めて欲しい。	教科書・テキスト	担当教員の指示にしたがう。
指定図書／参考書等	担当教員の指示にしたがう。	その他・特記事項	担当教員の指示にしたがう。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	管理栄養士への道Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵・三田　陽子・俵　万里子　（代表教員　新澤　祥恵）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、管理栄養士・栄養士が栄養の指導と給食管理業務を通して人々の健康増進に寄与するための、現場で利用する技術の基礎を習得する。「食品成分表」や「日本人の食事摂取基準」とそれぞれの活用法について基礎知識を習得する。また、食品の概量把握を体験、食品への興味関心を高めると共に、献立作成や栄養指導時の食事量把握や提案力の初歩を築く。さらに自分自身の食事を記録し、評価することで、食事評価のための基礎的な技術を習得、その学びを自身や周囲の人の健康に興味関心を持つことにつなげ、職業意識を高めていく。	①食品に興味関心を持ち、概量把握力を高める意欲がある。 ②食品成分表と活用について、初歩的な知識と技術が身についている。 ③日本人の食事摂取基準と活用について基本的な知識がある。 ④食事評価の方法について、基礎的な知識や技術が身についている。自分自身や周囲の人の健康に興味関心を持っている。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食品の概量：食品の概量把握を体験する。（身近な食品の概量を把握することに興味関心を持っている。）	全員
2	食品成分表と使い方①：食品成分表について学修する。（食品成分表とその活用方法を理解する。食品成分表で食品を探すことができる。）	全員
3	食品成分表と使い方②：食品成分表と食品群について学修する。（食品群とその栄養的特徴を理解する。）	全員
4	食品成分表と使い方③：食品成分表を用いた栄養価計算の方法を学修する。（食品成分表を用いて食品の栄養価を計算できる。）	全員
5	食事摂取基準①：『日本人の食事摂取基準』について学修する。（『日本人の食事摂取基準』について基礎知識を得る。）	全員
6	食事摂取基準②：『日本人の食事摂取基準』の活用について学修する。（活用について基礎知識を得る。自身の年齢・性別・身体活動量に合った指標を調べて整理できる。） 食事調査と食事評価①：食事を記録する準備をする。（食事を記録する方法を理解する。）	全員
7	食事調査と食事評価②：自身の食事内容を記録する。（2日分の食事を留意点に従って記録している。）	全員
8	食事調査と食事評価③：食事記録をもとに、栄養量を算出する技術を学ぶ。（自身の食事記録を栄養量算出のために整理できる。）	全員
9	食事調査と食事評価④-1：自身の食事記録の栄養価計算をする。（食品成分表を用いて自身の食事の栄養価計算ができる。）	全員
10	食事調査と食事評価④-2：自身の食事記録の栄養価計算をする。（食品成分表を用いて自身の食事の栄養価計算ができる。）	全員
11	食事調査と食事評価⑤：食事記録より算出した摂取栄養量との比較により、評価する技術を学ぶ。（食事摂取基準に基づいて自身の食事を評価できる。）	全員
12	食事調査と食事評価⑥：食品群別摂取量について学修する。（食品群と食品群別摂取量について理解する。）	全員
13	食事調査と食事評価⑦：食品群別摂取量の指標と、食事記録より算出した摂取栄養量との比較により、評価する技術を学ぶ。（自身の食事を食品群別摂取量から評価できる。）	全員
14	食事調査と食事評価⑧：栄養比率について学修する。（栄養比率とその計算方法について理解する。）	全員
15	食事調査と食事評価⑨：栄養比率を求め、食事記録より算出した摂取栄養量との比較により、評価する技術を学ぶ。（自身の食事の栄養比率を求め、評価できる。） 食事調査と食事評価⑩：総合評価（自分の食事内容を総合的に評価する。）	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題	80	授業内容の目的に応じて、量・質とも適切に作成し、期日までに提出できたか。	授業参加状況	20	積極的に参加しているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回の演習課題を整理し、着実に仕上げる。（60分）	演習課題は確認後返却する。返却後も授業で活用する場合があるため、ファイルに綴り毎回持参すること。

受講生に望むこと	①各段階で出される課題に丁寧に取り組み、期限を守って提出する。 ②授業中は説明をよく聞き、わからないことがあれば積極的に質問する。 ③家庭での調理や食事の際、使用される食品やそこからできる料理に興味関心を持つ。 ④食品や食事、食事と健康の関わりに興味関心を持つ。	教科書・テキスト	『日本食品成分表2026 八訂 』医歯薬出版編,医歯薬出版株式会社,2026年,ISBN 9784263701751 『管理栄養士・栄養士必携２０２６年版』日本栄養士会監修,第一出版,2025年,ISBN9784804115207
指定図書／参考書等	なし／『調理のためのベーシックデータ』第6版　松本仲子監修　女子栄養大学出版部 ISBN 978-4789503259	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	管理栄養士への道Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
管理栄養士への道Ⅰにつづき、管理栄養士像を学生自身の中で明確にし、目指す気持ちを育み、これからの学びへの意欲を高めることを目的としている。まず、栄養の専門職としての役割を自覚するため、社会環境の中での、健康、食生活、栄養を考え、管理栄養士の法的位置づけや使命・役割から、多職種連携を視野に入れた関連職種との関わりを理解する。また、栄養学、栄養士・管理栄養士制度や栄養改善活動の歴史を知り、今日の日本さらにグローバルな視点での栄養の課題を考える。また、人間の営みの根源である生命倫理から、管理栄養士の職業倫理、研究倫理などへの理解も深める。	①今日の食生活の状況や課題を説明できる。 ②管理栄養士の役割や業務を、多職種協働という考え方を理解する。 ③生命倫理、研究倫理、職業倫理を理解する。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食べ物、食生活、健康を考える	
2	食べ物、食生活、健康を考える：グループワーク	
3	管理栄養士の役割と業務	
4	管理栄養士の使命と役割・関連業務との関わり	
5	栄養士の役割・業務、多職種協働について考える：グループワーク	
6	栄養学の歴史	
7	栄養士・管理栄養士制度の歴史	
8	日本における栄養課題	
9	地球レベルでの栄養課題	
10	現代医学と生活習慣病	
11	生命の尊厳と生命倫理	
12	生命の尊厳と生命倫理	
13	管理栄養士の職業倫理と研究倫理	
14	生命倫理・職業倫理・研究倫理について考える：グループワーク	
15	まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学期末レポート	50	授業内容を理解し、適切に説明されている。	毎回レポート	50	①量的、質的に適切である。 ②提出期限が守られている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎週の演習課題を整理し、着実に仕上げる。（90分）	演習課題は確認後返却する。返却後も授業で活用する場合があるため、ファイリングし、毎回持参すること。

受講生に望むこと	①各段階で出される課題に丁寧に取り組み、期限を守って提出する。 ②授業中は説明をよく聞き、分からないことがあれば、積極的に質問する。 ③家庭での調理や食事の際、使用される食品やそこからできる料理に興味・関心を持つ。 ④食品や食事、食事と健康の関わりに興味・関心を持つ。	教科書・テキスト	『導入教育』伊達ちぐさ・木戸康博編　医歯薬出版 2021年　ISBN　978-4-263-70680-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	分析化学			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	榎本　俊樹						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
本科目では食品中に含まれている各成分の特徴を理解し、それらを分離、分析する方法を解説する。まず、分析化学の基礎的知識の習得を目標に、単位、濃度、活量、酸・塩基、平衡定数、酸・塩基解離定数、緩衝液、有効数字などについて解説し、理解を深める。次いで、分離分析、クロマトグラフィー、高速液体クロマトグラフィー、ガスクロマトグラフィー、電気泳動、比色定量、質量分析などの実際の食品成分分析法について説明すると共に、具体的な食品分析実施例についても解説する。	①食品分析の必要性について理解できる。 ②化学反応速度、化学平衡の基礎理論を理解できる。 ③成分の分離方法を理解できる。 ④食品成分の分析方法と原理を説明できる。 ⑤データの取り扱いを正しくできる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション（分析化学って何？、食品と分析化学、国際単位、濃度、分析法等）	
2	基本の化学（溶液の化学、酸と塩基、錯形成反応、酸化と還元）	
3	基本の化学（溶解度と沈殿、極性、分配）	
4	試薬・器具（実験器具の使用方法と使用方法、試薬の選び方と使い方、液体試薬、電子天秤の使用方法）	
5	試料採取と前処理（分離・溶解、沈殿・再結晶と分離、固形物からの抽出、液相抽出、固相抽出、濃縮、蒸留）	
6	クロマトグラフィーの基礎	
7	ガスクロマトグラフィーと液体クロマトグラフィー	
8	ガスクロマトグラフィー質量分析装置と液体クロマトグラフィー質量分析装置	
9	電気泳動	
10	分光学の基礎	
11	蛍光、原子吸光分析	
12	食品分析（水分、タンパク質、脂質、食物繊維、炭水化物、灰分）	
13	データ処理と品質保証（有効数字、平均と標準偏差、最小二乗法、標準とトレーサービリティ）	
14	グループワーク（演習）	
15	グループワーク（演習）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	30	課題を適切に理解し、的確に応えているかを評価基準とする。	期末試験	70	選択肢で解答する問題と論述する問題療法を出題する。評価は、試験の正答率により行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義資料は事前にClassroomに投稿するのでダウンロードし目を通しておくこと。［30分］ 毎回、課題をClassroomに投稿し、期日内に提出を課す。［30分］	課題は、期日内に提出すること。また、課題の記載内容については、インターネット情報やAIの切り貼りではなく、本人自身が考えて作成すること。

受講生に望むこと	①事前に学習する内容について予習すること。 ②講義で不明な点等については、必ず質問し、理解すること。質問は随時受け付ける。	教科書・テキスト	図説入門よくわかる最新分析化学の基本と仕組　第3版（秀和システム）ISBN：9784798072708
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	食事計画論			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵・田中　弘美・俵　万里子・三田　陽子　（代表教員　新澤　祥恵）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
日々の食事の内容は私たちの健康を左右するものの一つである。献立は様々な要素を持ち合わせており、その作成は、文化的、健康的、嗜好的、調理機能的、環境的要素を考慮することが求められる。本授業では、主食・主菜・副菜と揃った食事を考えることから始め、給与栄養目標量・嗜好・食費等作成時に考慮しなければならない条件を勘案して献立を作成する方法の基礎を講義と実習を通して学び、食事計画の基礎的実践力を養うことを目指す。	①献立作成の意義と手順を理解し、栄養計画・栄養管理の基礎が身についている。 ②食品成分表を用いて栄養価計算ができる。 ③１日分から連続した数日分の献立を食品構成に基づいて作成できる。

教授方法	講義、実習を組み合わせて行う
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食事計画論の内容と意義：栄養計画、献立作成の意義とその手順を学修する。（栄養計画、献立作成の意義と手順を理解する。）	全員
2	食品の概量：食品の概量や常用量を会得し、献立作成に必要な食品の数量化を学ぶ。（代表的な食品の概量や常用量を把握する力を調べたり実測したりして身につける。今後さらに高めるためのきっかけを持つ。）	全員
3	栄養価計算①：栄養価計算（廃棄率や正味重量を求める計算を含む）の方法を学修する。（食品成分表を用いて、食品の栄養価計算ができる。結果をルールに従って記すことができる。）	全員
4	栄養価計算②：献立の栄養価計算の方法を学修する。（献立の栄養価を計算できる。結果をルールに従って記すことができる。）	全員
5	献立作成の基本①：献立の形式、バランスのとれた献立に必要なこと、作成の手順など、献立作成に必要な基本的技術を学ぶ。（献立作成に必要な基本的技術を理解している。）	全員
6	献立作成の基本②：主食、主菜、副菜とそろった和洋中の献立を１食分×16回考える。（連続した献立を作成する際の要点を踏まえながら考えることができる。）	全員
7	献立作成の基本③：献立作成のヒントとなる料理を挙げる。（資料等を参考にしながら多くの料理を知る。）	全員
8	献立作成と食品構成①：献立作成と食品構成について学修する。（給与栄養目標量から食品構成を用いて献立作成をする、その一連の流れについて理解している。）	全員
9	献立作成と食品構成②：食品構成に基づいた一日分の献立作成の準備をする。（給与栄養目標量から食品構成を用いて献立作成ができる。）	全員
10	基本献立の作成①：食品構成に基づいた一日分の献立作成をする。（給与栄養目標量から食品構成を用いて献立作成ができる。）	全員
11	基本献立の作成②：一日分の献立の栄養価計算をする。（これまでに学んだ栄養価計算の方法により、一日分の献立の栄養価計算ができる。）	全員
12	調理実習献立の作成①：調理実習用に献立を選び、栄養価計算と評価をする。（調理実習を前提に献立を選ぶことができる。栄養価計算し、評価と調整ができる。）	全員
13	調理実習献立の作成②：食品の購入計画を立て、作業工程を考える。（購入量を求め、発注票を作成できる。制限時間や使用する器具・熱源の数に合わせて作業工程を検討できる。）	全員
14	作成献立の調理：献立、レシピに沿って調理を行い、試食などにより、評価する。（作成したレシピや作業工程に合わせて調理できる。試食により味のバランス等の評価ができる。）	全員
15	まとめ：献立作成から調理実習までの反省とまとめを行う。（ペアまたはグループで協力しながら反省とまとめをし、スライドを活用しながら適切に発表できる。）	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題	60	授業内容の目的に応じて、量・質とも適切に作成し、期日までに提出できたかについて評価する。	調理実習	30	メンバー同士協力しながら時間内に作ることができたかについて評価する。
授業参加状況	10	積極的に参加しているかについて評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回の演習課題を整理し、着実に仕上げる。（90分）	演習課題は確認後返却する。返却後も授業で参照する場合があるため、ファイルに綴り毎回持参すること。

受講生に望むこと	①各段階で出される課題に丁寧に取り組み、期限を守って提出する。 ②授業中は説明をよく聞き、わからないことがあれば積極的に質問する。③家庭での調理や食事の際、使用される食品やそこからできる料理に興味関心を持つ。④様々な場面で提供される食事の内容に興味関心を持つ。	教科書・テキスト	『日本食品成分表2026 八訂 』医歯薬出版編,医歯薬出版株式会社,2026年,ISBN 9784263701751 『調理のためのベーシックデータ』第6版,松本仲子監修,女子栄養大学出版部,2022年,ISBN978-4789503259
指定図書／参考書等	なし／「管理栄養士・栄養士必携」日本栄養士会　第一出版 「日本調理」実習テキスト「西洋調理」実習テキスト「中華調理」実習テキスト 「調理と理論」山崎清子他著　同文書院	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	健康管理概論			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
少子高齢社会となり、社会環境が変化する中で、私達の健康がどのように規定されるかを理解し、特に集団を対象とした健康管理を実践するために必要な知識や考え方を学習する。今日的課題である健康寿命延伸のための健康づくりの基礎は栄養・食生活である。健康とは何か、今日の健康の現状から、栄養・食生活を中心に身体活動・運動や休養とストレス、喫煙・飲酒などの要因から、疾病予防に理解を深め、さらに健康づくりの施策や健康管理の進め方を学修することから、管理栄養士の役割を理解する。	①生態系における人間の位置づけや行動特性を理解する。 ②健康の概念や健康の現状、疾病構造と併せて、これらをもたらす我々の食生活をはじめとする生活習慣を理解する。 ③健康づくりの施策を理解する。 ④各地域・分野毎の健康管理の方法を理解する。 ⑤グローバルな視点からＳＤＧｓなどから国際保健について理解する。 ⑥ＥＢＭに基づく健康管理の重要性を理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	健康の概念：「健康管理概論」を学ぶにあたり、生態系における人間の位置づけや行動特性を取り上げ、「健康」とは何か、特に主観的健康観の意味を考える。また、「健康」が成立する条件、さらに、「健康」の度合いを判定する様々な指標を学修する。	
2	健康の現状1：人口動態統計より、日本の人口構成の特徴と過去、現在、未来の人口構成の変化を知る。高齢社会の要因を考え、健康寿命の意義を考える。	
3	健康の現状2：人口動態統計の、死亡に関する指標より、地域の健康状況を把握する。我が国の主要な死因の現状とその国際比較を行う。また、様々な死亡に関する指標を学修する。	
4	栄養と健康：生活習慣病の要因の一つである栄養・食生活の現状から課題を見いだし、健康管理の視点から、目標とする食生活のあり方を考える。	
5	運動と健康：今日の生活環境における身体活動・運動の状況と生活習慣病との関係を考え、健康作りのための運動を学修する。	
6	睡眠・休養・ストレスと健康：ストレスが問題となっている社会環境と、健康づくりのために必要な休養や睡眠のあり方を考える。	
7	睡眠・休養・ストレスと健康：ストレスが問題となっている社会環境と、健康づくりのために必要な休養や睡眠のあり方を考える。	
8	睡眠・休養・ストレスと健康：ストレスが問題となっている社会環境と、健康づくりのために必要な休養や睡眠のあり方を考える。	
9	健康づくりの施策：わが国における国民健康づくり運動の沿革を海外の動きと関連しながら理解し、健康日本21や健康フロンティア戦略などの今日の健康施策を学修する。	
10	健康づくりの施策：健康づくりのための法的対応を理解するため、地域保険法、健康増進法他の国の法律を中心に学修する	
11	健康管理の進め方：健康管理の定義と考え方を理解し、健康管理体系のモデルを学修する。	
12	健康管理の進め方：健康管理の実際として、健康教育、健康相談、健康診査などを学修する。	
13	健康管理の進め方：地域保健、産業保健など、各分野における健康管理の実際を学修する。	
14	ＥＢＮに基づく栄養管理と健康情報：科学的根拠にもとづく健康管理の意義を理解し、いくつかの研究手法を学修する。	
15	授業の総括：これまでの授業での学びより、健康管理の今日的意義と管理栄養士の役割を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
筆記試験	70	問題の正答率に基づいて評価する	課題レポート	20	課題への取組とまとめ方に基づいて評価する
授業態度	10	授業への参加意欲を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業開始前に、教科書全体をさっと読んで、健康管理概論の学びを把握する。（30分） ②毎授業前に授業予定の部分を読んでくる（60分）。 ③授業で取り上げることの出来る部分は限られるが、授業終了後、その単元全体を復習する。（60分）	レポートは次の授業時に返還する。

受講生に望むこと	食と健康に関する話題に関心を持ち、新しい情報に留意する。	教科書・テキスト	栄養・スポーツ・保健分野のための『健康管理概論』 香川靖雄監修　建帛社　2024年 ISBN　978-4-7679-0578-1　C3047
指定図書／参考書等	なし／『国民衛生の動向』厚生労働統計協会	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	公衆衛生学			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	木村　敏行						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
公衆衛生学は，社会を反映しており、実社会で活用できる学問でもあります。一辺倒な暗記に走らず、最新の社会状況を知ることに加え，今後の健康社会のあり方を考えるて行きます。 ※SDGs目標番号6、13関連科目	公衆衛生とは、地域社会の組織的な努力によって疾病を予防し、寿命を延長し、身体的並びに精神的能力を増進するための技術であり科学であると定義されている。公衆衛生活動は、主に衛生行政のなかで行われ、その課題は社会状況とともに変化し、健康増進、疾病予防に加え、重症化予防さらには社会復帰へと広がりをみせており、栄養士になるための基本的な知識を習得することを目的としている。

教授方法	講義・課題
履修条件	講義への出欠・遅刻及び態度・課題提出を総合的に判定するので真剣に受講すること

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	公衆衛生学概要：公衆衛生学とは	
2	公衆衛生学序論：健康をめぐって（健康の定義、健康と疾病の生物心理社会（BPS）モデル、機能障害と生活機能）、生活と健康（健康を維持するうえでの生活の役割、慢性疾患と生活改善）、健康問題の変遷，公衆衛生と医療の歴史（健康問題の変遷、公衆衛生と医療の歴史、日本の衛生学・公衆衛生学）、公衆衛生活動（公衆衛生活動の基本、公衆衛生活動の分類）、生命倫理―保健医療福祉の倫理	
3	保健統計：健康の測定と健康指標（健康水準、健康指標）、人口統計（世界と日本の人口の歴史、人口統計―人口静態・動態統計、出生率）、その他の統計	
4	疫学：疫学とは（疫学の定義、疫学の特徴、疫学調査の手順と留意事項、疾病の分類（疾病分類とは何か、国際疾病分類）、疾病量の把握、危険曝露人口の把握、全数調査と標本調査、異常者数の把握、比率のいろいろ、人年法、比率の調整（標準化））、疫学の方法（疫学研究の分類、観察研究、介入研究、EBMとエビデンス・レベル）	
5	疾病予防と健康管理：疾病リスクと予防医学、健康管理（健康管理とその発展、健康管理のスペクトラムと活動の構成、スクリーニング検査、健康管理の技法、健康管理の今後）、健康増進（ライフスタイルとその改善、栄養と食事、食生活、公衆栄養と行政の取り組み、身体活動・運動、休養・余暇・趣味、適正飲酒、喫煙と健康、健康の社会的決定要因、生活習慣病）、健康日本21、健康づくりの新しい動き	
6	主な疾病の予防：感染症の予防、循環器系の疾患の予防、糖尿病・脂質異常症・痛風・メタボリックシンドロームの予防（糖尿病、脂質異常症、痛風、メタボリックシンドローム）、がんの予防、腎疾患の予防、アレルギー疾患の予防、不慮の事故と自殺の防止	
7	環境保健：環境の把握とその評価・対策、物理的・化学的・生物的環境要因（主な病原微生物、感染症の病態・疫学の基本、感染症疫学の基本概念、感染経路、微生物と環境要因、環境要因と感染症の発生）、大気汚染、水の衛生と水質汚濁（水と健康、上下水道、水質汚濁）、廃棄物（一般廃棄物、産業廃棄物の現状と処理、不法投棄の現状と対策、有害廃棄物の越境移動の管理、マイクロプラスチックによる海洋汚染）、公害と環境問題	
8	地域保健と保健行政：地域社会と地域保健（地域・コミュニティについて、地域アセスメント、地域保健の特徴と展開）、地域保健活動と行政（地域保健活動と実施機関、地域保健活動の進め方）、消費者保健（生産者と消費者、消費者運動、消費者の健康被害―薬害を中心に、消費者保護の対策、インターネットと健康）	
9	母子保健：母子保健の水準（出生に関する指標、死産，死亡に関する指標、発育に関する指標、授乳の状況）、母子保健の課題（母子保健課題の変化、少子化、児童虐待、発達障害、低出生体重児、メンタルヘルス、子どもの貧困、　健康格差、子ども（幼児）の事故）、母子保健活動と行政（母子保健行政、母子保健活動）	
10	学校保健：子どもの健康状況、学校保健とは、学校保健の組織と運営、学校保健管理（健康診断、健康観察、健康相談、障害者差別解消法に基づく合理的配慮）、歯科保健―小児を中心として、学校環境管理（学校環境管理とは、学校環境衛生基準、学校環境管理のための検査項目）、学校保健教育（学校保健教育の機会、保健授業、総合的な学習の時間、保健指導、学校における健康づくり、地域社会と学校保健活動）	
11	産業保健：働くとはどういうことか―職業と産業、働く人々の健康問題史と産業保健、最近の労働情勢と勤労者保健、労働災害・事故（安全対策と労災保険）、職業病、職場における健康診断と健康増進（職場における健康管理、健康診断（一般健康診断，特殊健康診断，臨時の健康診断）、勤労者の労働時間と余暇（休養時間の確保、余暇、ワーク・ライフ・バランス、ハラスメント防止と女性の職場活躍に関する法的整備など）、職場復帰	
12	高齢者の保健・医療・介護：老化とは（老化と加齢、老化の特徴、老化に伴う問題―老年症候群，フレイル，廃用症候群）、高齢者の生活と健康、高齢者の健康状態（健康寿命、高齢者の受療状況）、高齢者の保健と医療（期高齢者医療制度と特定健診・保健指導）、認知症と対策、介護保険（高齢者福祉の基本的方向とあゆみ、介護保険制度の趣旨と経緯、介護予防の取り組み）、地域包括ケアシステム	
13	精神保健：精神保健と心の働きの理解、精神障害の分類と疫学（精神障害の診断と分類、精神障害の患者数、地域住民における精神障害の頻度）、主な精神疾患と精神保健の課題（うつ病、双極性障害、統合失調症、心的外傷後ストレス障害、発達障害、依存症）、精神保健福祉活動（精神障害者の治療と社会復帰、発達障害の支援、周産期のメンタルヘルス、職場のメンタルヘルス）	
14	国際保健医療：国際保健とは、人種と民族と国（人　種、民　族、地理的区分と食の生態、宗　教、国と地域）、開発途上国の健康問題とその対策（健康転換、健康問題の悪循環，家族計画の重要性、開発に伴う新たな健康問題）、日本の保健医療の国際協力（際交流と国際協力、JICA）、国際機関を通じた協力―国連，WHOなど（国　連、WHO、UNICEF、FAO）、国際保健医療の展望	
15	保健医療福祉の制度と法規：保健医療行政の概要と基礎知識、保健制度の仕組み―行政組織、医療制度の仕組み、保健医療行政に関するその他の事項、医療保障・年金の仕組み（社会保障の中の医療保障・年金、医療保険の仕組み、公費医療制度、国民医療費、年金制度）、社会福祉の仕組みと障害者福祉（社会福祉とは、社会福祉制度の概要、障害者福祉）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験	80	記述式により評価する	態度・課題	20	講義に対する態度、課題の提出・内容により評価する

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義内容に関する課題提出により予習・復習を行うとともに知識の定着をはかる。［5分］	講義の冒頭にてコメント

受講生に望むこと	講義中の飲食は禁止。特別な理由がある場合は要相談。栄養士に相応しい態度。	教科書・テキスト	シンプル衛生公衆衛生学2026　監修　辻　一郎 編集　上島　通浩　　大久保孝義 ISBN978-4-524-27424-6
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	この授業は、栄養士の免許を取得するための必須科目であり、ほとんどの医療職および健康に関する学部の学生が学んでいます。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生化学Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	三沢　典彦						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
生化学（Biochemistry）とは、生物・生命現象を、複雑で高度な化学反応系と見なし、化学の言葉・レベルで理解することをめざす壮大な学問領域ということができる。「生化学Ⅰ、生化学Ⅱ」では、食品・栄養及び人間環境に関わる生化学を受講する。食事等から摂取された栄養素とは、そもそもどのようなものなのか、そして、どのように代謝され、生命の恒常性が維持されていくのかを中心に学ぶ。「生化学Ⅰ」では、化学の基本の確認から始まり、栄養素として利用される分子の構造と機能、生体のエネルギー源、及び生体内化学反応系を担う酵素や補酵素、その分子生物学的基盤、さらには、感染症の微生物学的基盤について理解する。	1.　各種栄養素の構造と機能を理解している。 2.　生体のエネルギー源について説明できる。 3.　酵素、補酵素、酵素反応について基本を理解している。 4.　生化学に関わる分子生物学的基盤となる知識を身に付けている。 5.　感染症の微生物学的基盤となる知識を身に付けている。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	生化学とは何か、化学構造式に関する基本的知識を習得する。	
2	糖質の化学、構造と機能について理解する。	
3	脂質（脂肪酸）の化学、構造と機能について理解する。	
4	脂質（脂肪酸以外）の化学、構造と機能について理解する。	
5	アミノ酸・タンパク質の化学、構造と機能について理解する。	
6	酵素・酵素反応、補酵素について理解する。	
7	ビタミンとミネラルについて理解する。	
8	生体のエネルギー源と酸化的リン酸化について理解する。	
9	生体酸化と抗酸化分子について理解する。	
10	核酸の構造と機能、すなわち、分子生物学の基本（複製、修復）について理解する。	
11	分子生物学の基本（転写、翻訳）について理解する。	
12	分子生物学の基本（ドライ解析、遺伝子組換え）について理解する。	
13	微生物学の発展の歴史を知り、病原性微生物について理解する。	
14	ウィルスに関する基本的知識を習得し、感染症の概要を理解する。	
15	全体の振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポートまたは非定期試験	15	適切に理解し、的確に記載されているかを評価する。	定期試験	70	筆記試験の正答率により評価する。
授業への積極性	15	授業に参加し、積極的に学習しているかを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎授業前に授業予定の部分を読んでくる。（30分） 2．授業終了後、その単元全体を復習する。（1時間）	質問については、授業終了時またはメール等で対応する。

受講生に望むこと	講義の内容を定着させるために、教科書や配布資料を繰り返し読んでほしい。	教科書・テキスト	『健康・栄養科学シリーズ　生化学　人体の構造と機能及び嫉病の成り立ち』石堂一巳、福渡 努 編，南江堂，2024，ISBN978-4-524-24182-8
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	指定された教科書だけでは不十分なので、効率的に学習するための資料をほぼ毎回、配布する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	解剖生理学Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中谷　壽男						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
健康の保持・増進、傷病者の療養のための栄養管理・教育の主役である管理栄養士にとって、本科目は人間生活を支える栄養や健康、疾病の成り立ちを理解するためには必須の科目である。人の生命活動の基盤となる栄養について科学的に理解するための生理学・解剖学という視点から、人体の構造と機能を密接に関連付けて学ぶ。人体の構成単位である細胞レベルから組織・器官・器官系レベルまでの構造や機能を、栄養という事象の理解を念頭に体系的に学ぶ。「解剖生理学Ⅰ」では、総論と運動系、循環器系、神経系と内分泌系の内容を講義する。	「解剖生理学Ⅰ」「解剖生理学Ⅱ」を通して、細胞、組織、器官からなる人体の正常な構造と機能を理解し、記憶し、疾病を理解するための基礎学力を築き、非専門家には優しい言葉で説明ができ、専門家とは専門学用語を用いての十分な討論ができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	第1章　細胞から人間まで　解剖学用語を覚える	
2	第１章　細胞の細胞から人間まで　細胞の構造と機能、組織と器官を理解し覚える。	
3	第2章　神経系　神経の基本構造を理解し覚える。	
4	第2章　神経系　中枢神経系の構造と機能を理解し覚える。	
5	第2章　神経系　抹消神経系の構造と機能を理解し覚える。	
6	第3章　運動系　骨の構造と機能を理解し覚える。	
7	第3章　運動系　筋の構造と機能を理解し覚える。	
8	第4章　感覚器系　感覚の総論と視覚と聴覚平衡覚を理解し覚える。	
9	第4章　感覚器系　味覚と嗅覚と体性感覚と内臓感覚の構造と機能を理解し覚える。	
10	第5章　循環器系　循環器の総論と心臓の構造と機能を理解し覚える。	
11	第5章　循環器系　抹消血管とリンパ管の形態と機能、循環調節を理解し覚える。	
12	第6章　血液と生体防御機構　血液の形態と機能を理解し覚える。	
13	第6章　血液と生体防御機構　免疫系の機能を理解し覚える。	
14	第12章　局所解剖　骨と筋を局所解剖学的に理解し覚える。	
15	第12章　局所解剖　神経を局所解剖学的に理解し覚える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	80	筆記試験の結果に基づいて評価する。	課題提出物	20	適宜課す課題提出物に基づいて評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の範囲の教科書を読んで講義に出席する［1時間］。 講義後は講義の範囲の教科書に再度目を通す［1時間］。 テキストなどの問題集を解いて内容の記憶と理解を自習する［30分］。	試験は答案の返却と解答を示し学生からの疑問を対面またはメールで受け付けてフィードバックを行なう。 提出物に関しては授業内に適宜フィードバックを行なう。

受講生に望むこと	教科書をしっかりと読むこと。 最初は分かりにくくても、予習、講義、復習を通して、教科書を読むことで、だんだんと理解でき記憶に残るようになってくる。	教科書・テキスト	人体の構造と機能 第6版　内田ら（著者）医歯薬出版 2023年　ISBN-13 ： 978-4263710616
指定図書／参考書等	なし／『カラーアトラス　人体　解剖と機能』第4版、医学書院、2013年、ISBN:978-4-260-01646-9,『ジュンケイラ組織学』　第6版、丸善出版、2024年、ISBN-13 ： 978-4621308851、『プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト』 第2版、医学書院、2023年、ISBN-13: 978-4260052153	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	医学一般Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中谷　壽男						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
「医学一般Ⅰ」「医学一般Ⅱ」「医学一般Ⅲ」では、臨床上の各疾患とその病態生理・疾患成立機序を網羅していく。その正しい理解と栄養学との関わりの中で、総合的かつ臨床応用学的な理解を深めていく。「医学一般Ⅰ」では、特に、病理学の総論を学ぶことで、疾病発生を形態学的、生理学的、生化学的、細菌ウイルス学的、免疫学的に理解するための基礎を確立する。疾病の発症を病理学的な視点でみることで、疾病をより良く理解して、他の人に易しく正確に説明することができるようになる。	疾病の発症を病理学的な視点でみることで、疾病をより良く理解して、他の人に優しく正確に説明することができる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：病理学の領域の内容を理解して覚える。	
2	細胞・組織とその障害の内容を理解して覚える。	
3	再生と修復の内容を理解して覚える。	
4	循環障害の内容を理解して覚える。	
5	炎症が人体への損傷や毒性物質や感染症に対する生体防御反応として起こることを理解して覚える。	
6	炎症にかかわる細胞や物質の役割や急性慢性炎症の違いを理解して覚える。	
7	人体への微生物や毒性物質にさらされる時に起きる免疫とアレルギーの反応機構の内容を理解して覚える。	
8	感染症の内容を理解し、人体に病原微生物が感染し感染症が発症、人体が炎症や免疫といった防御機構で対応することを理解して覚える。	
9	代謝異常の内容を理解して覚える。	
10	老化と老年病の内容を理解して覚える。	
11	新生児の病理の内容を理解して覚える。	
12	先天異常の内容を理解して覚える。	
13	腫瘍の定義と分類を理解して覚える。	
14	腫瘍が人体にどのような作用を及ぼしそれに対して生体がどのように防御機構を働かせるのかを理解して覚える。	
15	生命の危機とまとめ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	80	筆記試験の結果に基づいて評価する。	課題提出物	20	適宜課す課題提出物に基づいて評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の範囲の教科書を読んで講義に出席する［1時間］。 講義後は講義の範囲の教科書に再度目を通す［1時間］。 問題集を解いて内容の記憶と理解を自習する［30分］。	試験は答案の返却と解答を示し学生からの疑問を対面またはメールで受け付けてフィードバックを行なう。 提出物に関しては授業内に適宜フィードバックを行なう。

受講生に望むこと	講義の内容を定着させるために、教科書を繰り返し読んでほしい。	教科書・テキスト	疾病のなりたちと回復の促進[1]『病理学』　第6版、大橋健一ら著、医学書院、2021年、ISBN:978-4-260-04203-1/　微生物学　改訂第2版（栄養科学イラストレイテッド）大橋 典男　編、羊土社、2023年、ISBN-13:978-4758113731
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	食品学Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	榎本　俊樹						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、管理栄養士養成課程教育カリキュラムにおける「食べ物と健康」分野の科目に位置づけられ、管理栄養士を目指す学生の基礎知識として、食品成分の化学、食品の味・色・香り・有害成分、食品成分の変化などについて解説し、食品を化学的側面から理解する。さらに、食品の物性や官能評価、食品の表示についても述べ、理解を深める。なお、本科目を通して食品を総合的に考える能力を養うため、15回目の講義においてグループワークとディスカッションを実施する。また、講義ごとに課題を出し、期日内にレポートの提出を課す。	①人間と食品のかかわりを理解することができる。 ②食品成分を化学的に理解することができる。 ③食品成分の変化、食品の物性や官能評価、食品の表示について理解することができる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	人間と食品①	
2	人間と食品②	
3	水	
4	アミノ酸、タンパク質①	
5	アミノ酸、タンパク質②	
6	炭水化物①	
7	炭水化物②	
8	脂質	
9	無機質	
10	ビタミン	
11	嗜好成分①	
12	嗜好成分②	
13	有害成分	
14	酵素及び化学反応による成分変化	
15	総合学習（グループワーク及びディスカッション）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	30	正しく理解・記述されているかを評価基準とする。	期末試験	70	選択肢で解答する問題と論述する問題を出題する。評価は、試験の正答率により行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義資料は事前にClassroomに投稿するのでダウンロードし目を通しておくこと。［30分］ ②毎回、課題をClassroomに投稿し、期日内に提出を課す。［30分］	課題は、期日内に提出すること。また、課題の記載内容については、インターネット情報やAIの切り貼りではなく、本人自身が考えて作成すること。

受講生に望むこと	①事前に学習する内容について予習すること。 ②講義で不明な点等については、必ず質問し、理解すること。質問は随時受け付ける。	教科書・テキスト	『食品学総論』第3版、森田潤司・成田宏史編、化学同人、2016年、ISBN：9784759816402
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	食品衛生学			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	矢野　俊博						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
食の安全安心を確立するために必要な食品と微生物の基礎を理解し、さらに食品の変質、各種の食中毒、食品汚染物質及び食品添加物について理解を深める。また、管理栄養士及び食品衛生監視員・管理者として知っておくべき食品衛生法を含む食品安全関連法規を学ぶ。そして、食品衛生管理に必要なHACCP、一般的衛生管理プログラム、食品の規格基準及び各種の微生物検査について理解を深めることで、食品衛生を総合的に理解できることを目標とする。 ※SDGs目標番号6関連科目	・食の安全安心の目的を理解する。 ・食品衛生と微生物についてその重要性を理解する。 ・各種の食中毒について理解を深める。 ・食品汚染物質、残留物質及び食品添加物について理解する。 ・HACCPや一般的衛生管理などの食品衛生管理の重要性を理解する。 ・食品安全行政及び食品安全関連法規を理解する。

教授方法	授業は教科書、プリント、パワーポイント、板書などを使った講義形式によって行う。
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食品の安全性：食品衛生と微生物：食品の安全性の確保、食品衛生の目的、微生物の種類や分類を理解する	
2	食中毒Ⅰ：食中毒の分類と発生、細菌性食中毒の種類、特徴、病原性、症状を理解する	
3	食中毒Ⅱ：細菌性食中毒の種類、特徴、病原性、症状を理解する	
4	食中毒Ⅲ：ウイルス、寄生虫、自然毒による中毒を理解する	
5	食中毒Ⅳ：寄生虫の種類、生態、食中毒の感染経路、予防法を理解する	
6	食品と感染症：経口感染症と病原体、人獣共通感染症、プリオン感染症を理解する	
7	食品の変質と変質の防止：食品成分の変化、腐敗・鮮度の判定、油脂の変敗を理解する。変質の原理、変質の制御法を理解する	
8	食品汚染物質・残存物質：カビ毒、農薬、ＰＣＢ、ダイオキシンについて理解する	
9	食品添加物：食品添加物の種類、性質、役割、安全性の評価、使用基準を理解する	
10	食品の包装：機能、種類、性質、衛生性、安全性を理解する	
11	食品衛生管理Ⅰ：コーデックス、ＨＡＣＣＰシステム、一般的衛生管理プログラムを理解する	
12	食品衛生管理Ⅱ：ＨＡＣＣＰシステム、衛生検査、微生物検査を理解する	
13	食品の表示と規格：表示法の概略、規格基準、成分規格を理解する	
14	食品安全行政：食品安全行政の対象と範囲について理解する	
15	食品安全関連法規：食品安全基本法、食品表示法、調理師法、製菓衛生師法などを理解する	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	70	筆記テストにより、学習したことが身についているか確認する。	取り組む姿勢・態度	30	客観的に履修の意欲低下と判断された場合は減点の対象となる場合がある。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
この講義の開始前に高校で履修した理科（化学、生物）に関する部分を再度通読しておく。［30分］ また、分からない用語はインターネット、辞典等で調べ、疑問点を後に残さないようにする。［30分］	特定の項目の問題に関して、正答率が低かった場合は、理解の補強のために補講を行う場合がある。

受講生に望むこと	食品衛生に関する基礎的な事項を理解し、さらにその内容が私たちの日々の生活にどのように関連しているかを考える。そして、本講義における学習が将来、専門分野を学ぶにあたっての基礎力となることを目標とする。また、学んだことを日常の食生活、自分の健康維持に活かして欲しい。	教科書・テキスト	Visual栄養学テキスト『食べ物と健康Ⅲ 食品衛生学』 岸本満著,中山書店,2018年,ISBN978-4-521-74290-8
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	調理学			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
調理は、日常生活では実習が先になるが、合理的に美味しく調理しようとすれば、科学的な理論を理解することが調理技術の効果的な習得に繋がる。特に将来栄養士として食の指導に携わる場合、技術のみならず理論を熟知することが必要となる。調理の過程は、食事計画→食材調達→調理操作→供食であり、これにより食品を料理（食物）とすることになり、栄養素の摂取を具現化することができる。この授業では、①調理の概念②食事計画③美味論④調理操作論⑤各食品の調理特性⑥調理器具⑦食文化について学修する。	①調理の概念と食生活における位置づけ、栄養士の学びでの位置づけを把握する。 ②おいしいとはどういうことかを科学的に理解する。 ③調理の課程とその中の調理操作の特徴を理解し、適切な調理操作を選択できるようにする。 ④調理に必要な機器や設備を理解する。 ⑤食品毎の調理性を理解する。 ⑥食文化（郷土食、行事食）を理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	調理学の意義、食事計画論、調理文化論：この授業への導入として調理学で何を学ぶかを把握する。さらに、食事計画の概念、調理の文化的視点を理解する。	
2	調理操作論－非加熱操作：「洗浄」「浸漬」「攪拌・混合」など、各非加熱操作の目的や特徴・留意点など理解する。	
3	調理操作論－加熱操作Ⅰ（湿熱加熱）：「茹でる」「煮る」「蒸す」など、湿熱加熱の特徴や留意点などを理解する。	
4	調理操作論－加熱操作Ⅱ（乾熱加熱）：「揚げる」「焼く」炒める」など、乾熱加熱の特徴や留意点などを理解する。	
5	食べ物のおいしさⅠ（化学的要因）：おいしさについて、味覚で感ずる味を中心に、その種類や感じ方を理解する。	
6	食べ物のおいしさⅡ（物理的要因）：おいしさについてテクスチャーや温度との関係などを理解する。	
7	食品の調理性（砂糖、でんぷん　ゲル化剤）：砂糖が様々な食品の調理に及ぼす影響や、でんぷんの糊化や老化のの過程や意義を理解する。	
8	食品の調理性（穀類）：炊飯、米粉、小麦粉の調理に関わる特徴を理解する。	
9	食品の調理性（穀類　芋類、豆類）：小麦粉、じゃがいも、 さつまいもなどの芋類と大豆や小豆などを調理する際の特徴を理解する。	
10	食品の調理性（野菜類、果実類）調理におけるたんぱく質の変性：野菜の調理とあくの除去、果実の調理の特徴を理解する。動物性食 品の調理性を学ぶにあたりたんぱく質の変性を理解する。：	
11	食品の調理性（獣鳥肉類・魚介類）：牛肉、豚肉、鶏肉などの調理と魚介類の調理の特徴と差異を理解する。	
12	食品の調理性（卵類・乳類）：卵と牛乳の調理性を理解する。	
13	食品の調理性（油脂類・ゲル化材料）：調理に関連する油の特徴とゲル化材料の差異を理解する。	
14	調理の設備、器具、エネルギー：調理場、台所における貯蔵設備、加熱器、熱源、その他の調理器具などの特徴を学ぶ。	
15	食事計画、共食、食事環境：食事設計の意義と日本・西洋・中華料理の食卓構成などに理解を深める。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
筆記試験	70	問題の正答率に基づいて評価する。	課題レポート	20	課題への取り組み方とまとめ方について評価する。
授業態度	10	授業への参加意欲をもとに評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業開始前に、教科書全体をさっと読んで、調理学の学びを把握する(30分）。 ②毎授業前に授業予定の部分を熟読する（30分）。 ③授業終了後、その単元全体を復習する（30分）。	レポートは次の授業時に返却する。

受講生に望むこと	調理学実習との関連で理解をして欲しい。さらに、食品学や栄養学とも関連させて学びを深めて欲しい。	教科書・テキスト	『新調理の科学』第2版　吉田勉監修　学文社 ISBN　9784762034466
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	基礎栄養学			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員・社会福祉主事任用				

授業の概要	授業の到達目標
栄養とは生物が外界から必要物質を取り入れて生命活動を営むことである。人間が健康な生活を営むためには、適切な食物摂取が必要であり、取り入れたものを消費するための生活活動など広い視点からの取組が求められる。この授業では、これらを考える上での基礎として、栄養の意味から、人間の摂取行動、栄養素の消化・吸収、各栄養素の機能と体内における代謝、エンルギー代謝の仕組みをとおして人体と栄養素の関わりについて理解を深める。健康の保持増進、疾病の予防・治療における栄養の役割やエネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義を理解する。	①栄養とは何か、その意義を理解する。 ②栄養と遺伝素因との関連を理解する。 ③健康の保持・増進、疾病予防・治療における各栄養素の役割を理解する。 ④人間の摂食行動から消化・吸収、代謝と栄養素の流れを理解する。 ⑤エネルギー代謝、各栄養素の代謝とその意義を理解する。 ⑥講義や事前学習によって学んだ知見をふまえて考察し、自らの所見を表現することができる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	栄養の概念：栄養、栄養素、健康と食生活、各年齢ステージの栄養、栄養学の歴史などを理解する。	
2	食物の摂取と栄養素の補給：人間の食物摂取行動とその調節の仕組みを理解する。	
3	消化吸収と体内動態：栄養素の消化吸収など摂取後の体内動態の仕組みを理解する。	
4	糖質の栄養Ⅰ：糖質の種類と代謝の仕組みを理解する。	
5	糖質の栄養Ⅱ：糖質代謝と他の栄養素との関連を理解する。	
6	脂質の栄養Ⅰ：脂質の構造と代謝の仕組みを理解する。	
7	脂質の栄養Ⅱ：脂質の体内動態と他の栄養素との関連を理解する。	
8	たんぱく質の栄養Ⅰ：たんぱく質の構造とたんぱく質の代謝を理解する。	
9	たんぱく質の栄養Ⅱ：たんぱく質の栄養価や他の栄養素との関連を理解する。	
10	ビタミンの栄養：脂溶性ビタミンと健康との関連を理解する。	
11	ビタミンの栄養：水溶性ビタミンと健康との関連を理解する。	
12	無機質の栄養：無機質の意義、各無機質の特徴、過不足による健康障害の理解する。	
13	無機質の栄養：無機質の機能、代謝などを理解する。	
14	水・電解質等の代謝と食物繊維：水の役割、水・電解質・アルコールの代謝と食物繊維を理解する	
15	エネルギー代謝：エネルギーの概念、エネルギー代謝とそれに及ぼす要因などを理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	筆記試験問題の正答率に基づいて評価する。	課題レポート	20	課題への取組とまとめ方について評価する。
授業態度	10	授業への参加意欲をもとに評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業開始前に、教科書全体を読み、基礎栄養学の学びを把握する（30分）。 ②毎授業前に授業予定の部分を熟読する（30分）。 ③授業終了後、その単元全体を復習する（30分）。	レポートは次回の授業時に返却する。

受講生に望むこと	①他の学科目とも関連させながら勉強して欲しい。 ②健康関連の情報（新聞・雑誌等）に関心を持つこと。	教科書・テキスト	『イラスト　基礎栄養学　第3版』田村明他　東京教学社　ISBN：978-4-8082-6066-8
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	応用栄養学Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	相良　多喜子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では身体状況や栄養状態に応じた栄養管理と、栄養管理プロセスを活用するための基本的概念を理解することを目指し、個人または集団の栄養スクリーニングの評価方法と栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）、栄養ケア計画の実施、モニタリング、評価とフィードバックの考え方や手法を学ぶ。また、栄養管理のための基本指針である「食事摂取基準」の基本的な考え方や各指標の概念について学ぶ。ここでの学修は、各ライフステージの栄養管理の展開の基礎となる。	①栄養管理プロセスの意義を理解し、栄養アセスメントの方法について説明できるようになる。 ②「日本人の食事摂取基準」の目的や策定方針、各栄養素の摂取基準の策定の科学的根拠について説明でき、さらに活用の方法についても説明できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	栄養マネジメントの概念	
2	栄養アセスメントとその方法	
3	栄養ケア・栄養プログラムの計画と目標設定	
4	栄養ケア・栄養プログラムの実施と行動科学理論	
5	評価のデザインとフィードバック	
6	食事摂取基準の目的と意義、策定の基本方針	
7	食事摂取基準における各指標の意義	
8	食事摂取基準における策定の基本事項	
9	食事摂取基準における指標別に見た活用の留意点	
10	食事摂取基準における目的に応じた活用の留意点	
11	食事摂取基準各論：エネルギー必要量策定の科学的根拠	
12	食事摂取基準各論：たんぱく質、脂質、炭水化物の摂取基準策定の科学的根拠	
13	食事摂取基準各論：ビタミンの摂取基準策定の科学的根拠	
14	食事摂取基準各論：ミネラルの摂取基準策定の科学的根拠	
15	食事摂取基準の具体的活用	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	筆記試験問題の正答率に基づいて評価する	課題レポート	20	課題への取組とまとめ方に基づいて評価する
授業参加意欲	10	授業への参加意欲をもとに評価する			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎授業前に授業予定の部分を熟読する。［60分］ ②授業終了後、その単元全体を復習する。［90分］	授業内で適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	①他の学科目と関連させながら勉強してほしい ②健康関連の情報（新聞・雑誌等）に関心を持つこと	教科書・テキスト	『応用栄養学』第3版　第2刷発行（栄養科学イラストレイテッド）栢下 淳、上西 一弘　編集　羊土社　2025年10月1日　ISBN-13：978-4-7581-1379-3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	栄養教育論Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	相良　多喜子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
栄養教育は、人々の生涯にわたる健康の保持・増進あるいは疾病の予防に寄与し、QOLの向上を目指すものである。対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントでき、健康やQOLの向上につながる主体的な実践力形成の支援に必要な健康・栄養教育の理論や方法を修得する。本授業では栄養教育の定義・目的、法的根拠、行動科学やカウンセリングの理論と方法を修得する。	1.栄養教育を行う目的を説明できる。 2.栄養教育のアセスメントおよび実施において必要となる行動　科学の理論を説明できる。 3.栄養教育に必要なカウンセリング技法の理論を説明できる。 4.組織や地域づくりと食環境づくりの関係を説明できる。 5.栄養教育マネジメントの目的を理解し、計画が立てられる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	栄養教育の定義・目的と目標	
2	食行動変容と栄養教育1（刺激・反応理論、ヘルスビリーフモデル）	
3	食行動変容と栄養教育2（計画的行動理論と自己効力理論）	
4	食行動変容と栄養教育3（トランスセオレティカルモデル）	
5	食行動変容と栄養教育4（社会的認知理論、行動科学技法1）	
6	食行動変容と栄養教育5（行動科学技法2）	
7	食行動変容と栄養教育6（栄養カウンセリング技法1　カウンセリングの基本テクニック）	
8	食行動変容と栄養教育7（栄養カウンセリング技法2　行動カウンセリングの基本テクニック）	
9	食行動変容と栄養教育8（コミュニティオーガニゼーション）	
10	食行動変容と栄養教育9（イノベーション普及理論とソーシャルマーケティング）	
11	食行動変容と栄養教育10（エコロジカルモデル、ナッジ、ヘルスリテラシー）	
12	食行動変容と栄養教育11（プリシード・プロシードモデル）	
13	栄養教育マネジメント　PDCA　アセスメントの種類と方法	
14	栄養教育マネジメント　個人要因のアセスメント	
15	栄養教育マネジメント　環境要因のアセスメント　　全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	健康・QOLの向上につなぐ主体的な実践力形成の支援に必要な栄養教育の理論と方法、術を修得できたか。	積極性	10	積極的に授業参加できたか。
課題レポート	20	自身の食生活上の課題を見つけ、PDCAのプロセスで改善プログラムの立案・実践・評価を試みる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習［30分］：教科書の該当範囲を読んでおく。事後学習［90分］：授業内容を振り返り、要点を整理する。	レポートは次の授業時に返却する。

受講生に望むこと	他科目との関連を意識しながら学んで欲しい。	教科書・テキスト	『栄養科学イラストレイテッド栄養教育論』辻雅子、岡崎光子　編集　羊土社　2026年　ISBN978-4-7581-1384-7
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	臨床栄養学Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中川　明彦						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
傷病者の病態に応じた治療、薬剤の服用、臨床症候および栄養状態の評価に基づいて、適切な栄養管理を行うための臨床栄養管理の基礎を学習する。栄養アセスメント、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する臨床栄養管理の考え方を解説する。医療チームのスタッフの一員である管理栄養士として、提案する栄養管理の具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養投与計画などについて講義する。さらに、傷病者に適切な栄養管理を行うために必要な栄養計画（知識）と栄養処方（技術）を修得することを目標とする。	医療チームのスタッフの一員である管理栄養士として、傷病者に適切な栄養管理を行うために必要な栄養計画（知識）と栄養処方（技術）を習得することを目標とする。 ①疾病の治療状況から栄養スクリーニングツールが利用できる。 ②栄養スクリーニングから栄養評価が把握できる。 ③疾病・身体状況に対応した栄養補給方法を説明できる。 ④栄養評価に基づき、栄養介入計画を栄養計画書が作成できる。 ⑤栄養計画の経過の再評価ができる。 ⑥栄養ケアマネジメントと栄養管理プロセスから疾病レポートが作成できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	医学史と臨床栄養学史 臨床栄養学の基礎、意義と目的、疾患と栄養について	
2	医療法によるチーム医療（医療保険制度）と在宅医療（介護保険制度）の栄養管理について	
3	栄養ケアマネジメントについて① 概要・過程（栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケア計画、栄養ケアの実施、モニタリング、再評価） 国際的低栄養の診断基準「 GLIM基準」	
4	栄養ケアマネジメントについて② 傷病者の栄養ケアマネジメントの構成 国際標準化のための栄養ケアプロセスの構成 栄養診断	中川
5	栄養アセスメントについて③ 栄養スクリーニング、栄養アセスメント	
6	栄養アセスメントについて④ 臨床診査・臨床検査	
7	栄養アセスメントについて③ 身体計測・食事摂取量調査・栄養必要量の算定	
8	栄養ケア計画のプロセスについて 目標設定・栄養診断の実施・栄養診断に基づく栄養介入計画・栄養ケアの実施・モニタリング	
9	栄養・食事療法，栄養補給法の方法 について① 日本人の食事栄養基準 各医療福祉施設で策定される施設の食事栄養基準と栄養管理・給食管理 各医療・疾病の専門学会のガイドラインの栄養管理	
10	栄養・食事療法，栄養補給法の方法 について① 経口栄養補給法・経腸栄養補給法・経静脈栄養補給法	
11	栄養・食事療法，栄養補給法の方法 について② 経口栄養補給法・経腸栄養補給法・経静脈栄養補給法	
12	薬と栄養・食物の相互作用について 薬と栄養・食物の相互作用・栄養・食物が医薬品に及ぼす影響	
13	栄養ケアの記録について POS・問題志向型システムの記録形式：患者の抱える問題を整理し，計画，評価する体系的な思考について SOAPの記録形式：S/主観的情報・O/客観的情報・A/アセスメント（問題の分析）・P/計画について PES［P（問題）、E（原因）、S（症状）］記録形式について：栄養管理や医療の文脈で使用される記録について	
14	栄養教育の実施について 診療報酬制度の栄養教育（栄養食事指導） 介護保険制度の栄養教育（訪問栄養食事指導／居宅療養管理指導）	
15	栄養管理に関する栄養管理報告書、症例レポートについて	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加意欲	10	授業の取り組み、態度、姿勢について評価する	課題評価	20	前回の授業内容に基づく課題の提出
期末テスト	70	期末テストにおける得点に基づいて評価する			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
期末テストにおける得点に基づいて評価する	次回の授業時に、添削し、返却する。 課題の理解度が低い場合には、講義の冒頭で解説し、または学習用資料を配布する。

受講生に望むこと	臨床栄養学は、1年次の講義の集体系した教科であるため、理解を深めるために、1年次で学修した関連教科を十分に復習すること。	教科書・テキスト	栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学　基礎編　第３版本田佳子，曽根博仁編：羊土社,2022年，ISBN 9784758113694／栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学　疾患別編　第３版本田佳子，曽根博仁編：羊土社,2022年，ISBN 9784758113700／メディカルスタッフのための栄養療法ハンドブック(改訂第3版)，佐々木雅也（編集）：南江堂,2024年,ISBN-13978-4524206841／日本人の食事摂取基準〈2025年版〉厚生労働省：第一出版，2025.4.1
指定図書／参考書等	『栄養管理プロセス』公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1385-2）／『国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル』公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1270-1	その他・特記事項	臨床栄養学は、医療専門関連学会のガイドラインの改訂により、その栄養管理指針などが変更される。その都度、新しいガイドラインに準じて、授業を進める。

実務経験を活かした授業の概要

医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。各疾患、症状、合併症、栄養摂取量（投与）身体指標、検査値などにより標準的な栄養養評価による栄養管理を学習する。医療現場では、標準化に属さない個々に状態に応じた栄養評価や実際の症例により栄養管理を学習する。

授業科目名	公衆栄養学Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	長井　直子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
公衆栄養学Ⅰでは公衆栄養学の概念、公衆栄養活動の歴史、栄養行政関連法規、わが国や諸外国における健康・栄養問題の現状と課題及びそれを取り巻く社会的・経済的・文化的要因について、情報収集、分析、評価判定し、その改善のための健康・栄養施策、健康・食育対策と地方計画などの公衆栄養活動について学ぶ。 さらに地域住民の健康づくり及び栄養・食生活改善を担う管理栄養士として、地域や職域等の保健・医療・福祉・介護システムにおけるハイリスク集団の特性、あらゆる健康・栄養状態の対象者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的マネジメントに必要な理論と方法を学ぶ。	1.わが国や諸外国の健康・栄養問題に関する現状と課題を把握し、関連する政策について理解する。 2.地域や集団の特性に基づいた実際の公衆栄養活動について理解する。 3.地域や集団の健康・栄養問題に対し、適切なプログラムの作成・実施・評価を行う理論を理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	公衆栄養学の概念①　公衆栄養学の意義と目的、生態系と食料・栄養	
2	公衆栄養学の概念②　保健・医療・福祉・介護システムと公衆栄養学、コミュニティと公衆栄養活動、公衆栄養活動の歴史	
3	公衆栄養学の概念③　少子・高齢社会における健康増進、疾病予防・ヘルスプロモーション・住民参加・持続可能性等を踏まえた活動、ソーシャルキャピタルの醸成、多職種連携	
4	わが国の健康・栄養問題の現状と課題①（少子・高齢社会の現状と課題、食事の変化、食生活の変化）	
5	わが国の健康・栄養問題の現状と課題②（食行動、健康格差、食環境の変化、フードシステム、食料需給、諸外国の健康・栄養問題）	
6	栄養政策①　わが国の公衆栄養活動（栄養行政、食料安全保障）	
7	栄養政策②　公衆栄養関連法規（地域保健法、健康増進法、食育基本法、高齢者医療確保法、母子保健法）	
8	栄養政策③　管理栄養士・栄養士制度と職業（栄養士法、養成制度、職業倫理）	
9	栄養政策④　国の健康増進基本方針、健康日本21（第三次）、自然に健康になれる持続可能な食環境づくり	
10	栄養政策⑤　地方健康増進計画、地方食育推進計画、食育白書	
11	栄養政策⑥　国民健康・栄養調査、実施内容、結果の概要	
12	栄養政策⑦　国民の健康づくり対策と栄養施策（スマートライフプロジェクト、健康な食事、特定健診）諸外国の健康・栄養施策	
13	栄養政策⑧　健康危機管理における栄養・食生活支援と管理栄養士活動の実際	
14	栄養政策⑨　食環境整備と食品表示の基礎	
15	栄養政策⑩　高齢社会の健康・栄養課題（在宅ケアなど）、公衆栄養学Ⅰまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	栄養政策の法的根拠や公衆栄養活動の内容やプロセスを理解する。	課題レポート	30	課題内容を理解し適切にまとめる。提出期限を守る。
授業参加意欲	20	学習への取り組み姿勢			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書を予習して授業に臨む。［30分］ ②事後学習：学習内容を確認しながら、資料整理やレポート作成に取り組む。［45分］	課題レポートは解答例を添えて随時返却する。

受講生に望むこと	・他科目との関連を意識しながら学ぶ。 ・配付資料やレポートはファイリングして復習に役立てる。 ・日頃から健康・栄養に関する情報に関心を持つ。	教科書・テキスト	「基礎から身につく公衆栄養学」2026年2刷　訂正版 同文書院　ISBN 978-4-8103-1525-7
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

自治体勤務管理栄養士として経験した実務内容を各授業の解説に加えて理解を深める。

授業科目名	給食経営管理論Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	田中　弘美						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
円滑な給食経営のためには、給食運営や関連の資源(食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等)を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力が求められる。 本授業では、各特定給食施設における給食利用者の身体状況、栄養状態等に応じて食事を計画する栄養・食事管理、給食の運営を効率的に行うための生産(調理)管理、それらのシステム構築を理解する。さらに施設管理や調理機器の構造と特徴、新調理システムなどについても学び、幅広い知識を習得する。 ※SDGs目標番号12関連科目	①特定給食施設における給食の目的や管理栄養士や栄養士の役割について説明できる。 ②給食の定義を理解し、給食経営管理に関わる関連法規について説明できる。 ③食材料管理について流通と購買管理の概要が理解でき、購入量の計算ができる。 ④HACCPの概念を理解し、給食現場での衛生管理の重要性と関連付けることができる。 ⑤経営管理の視点から給食運営の全体像を理解できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：給食経営管理論の全体像を理解する。	
2	特定給食施設と給食の意義について学ぶ。	
3	健康増進法と管理栄養士の役割について学ぶ。	
4	給食経営管理の概要と給食システムについて学ぶ。	
5	食材料管理(1) ：食材料管理の目的、購買計画について学ぶ	
6	食材料管理(2) ：検収、在庫管理、評価について学ぶ。	
7	生産管理(1) ：給食のオペレーション、生産計画について学ぶ。	
8	生産管理(2) ：大量調理の特性、生産性、評価について学ぶ。	
9	安全・衛生管理(1) ：安全・衛生管理の概要について学ぶ。	
10	安全・衛生管理(2) ：給食の安全・衛生の実際について学ぶ。	
11	施設・設備管理について学ぶ。	
12	提供管理について学ぶ。	
13	栄養・食事管理(1) ：栄養・食事管理の概要とアセスメントについて学ぶ。	
14	栄養・食事管理(2) ：栄養・食事計画と実施、評価について学ぶ。	
15	品質管理 ：品質管理の意義と改善のためのPDCAサイクルの仕組みについて学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	試験形式で、栄養士・管理栄養士に必要な知識が理解できているかを評価する。	課題	30	①質的量的に適切である。 ②指定期日までの提出。
授業参加意欲	10	授業態度も含み、学ぶ姿勢を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義内容に関する部分はテキストを読んで予習、復習すること。［30分］ ②課題は、テキスト以外にも資料を参考にして取組み、知識を定着させる努力をすること。［30分］	①課題レポートはコメントを入れて返却する。 ②授業に関する質問には随時対応する。

受講生に望むこと	臨地実習を意識して、基本的事項を十分に理解し、関連科目とリンクさせ、主体的に学んでほしい。	教科書・テキスト	栄養科学シリーズNEXT『給食経営管理論第4版』幸林友男・曽川美佐子他編著,講談社　ISBN978-4-06-14066-6 『給食経営管理用語辞典 第3版』日本給食経営管理学会監修,第一出版　ISBN978-4-8041-1420-0 『管理栄養士・栄養士必携』日本栄養士会,2026年度版, 第一出版　ISBN:978-4-8041-1409-5
指定図書／参考書等	なし／『給食の運営―栄養管理・経営管理―』長田早苗,大原栄二編著,中村眞樹子他共著,建帛社　ISBN978-4-7679-0777-2　『日本人の食事摂取基準』［2025年版］,第一出版　ISBN978-4-8041-1492-7 『食事療養のための食品交換表』第 7 版,日本糖尿病学会編,文光堂　ISBN978-4-8306-6046-7	その他・特記事項	Google Classroomから課題を配信します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	公衆衛生学実験			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	林　宏一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実験
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
人の健康は身の回りの自然や社会環境との相互関係で成り立っている。本授業では、空気、水質、食品などの衛生試験法に関する実験と発表・討論を行う。各試験法の原理を理解しその技術を習得するとともに、社会や環境中の因子が人間の健康をどう規定し影響を与えるか、その健康を保持増進するための環境因子の排除はいかにあるべきか等を考察する。また、社会環境と健康に関する演習も行う。さらに、国、都道府県が公表する統計データを用い、地域の健康課題と生物学的要因（生活習慣・感染症）との関連性の分析を行い、地域の健康課題を解決するための健康づくり対策について検討を行う。 ※SDGs目標番号3、6関連科目	①各種環境因子の評価方法、健康への影響について理解する。 ②国、都道府県が公表している統計データを用い、地域の健康課題とその要因の分析方法を修得する。

教授方法	実験
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の進め方、班決め、実習の注意事項、器具の使い方、レポートのまとめ方等	
2	国民健康・栄養調査の経時変化から高血圧の発症リスクを分析	
3	社会生活統計指標を用いた生活習慣病の死亡リスク要因を分析	
4	社会生活統計指標を用いた生活習慣病の死亡リスク要因の分析結果から健康づくり対策を作成	
5	室内環境の測定（気温、気湿、気流、感覚温度、不快指数）	
6	室内・屋外の環境測定（照度）	
7	室内・屋外の環境測定（騒音）	
8	音源からの距離による音量の変化	
9	紫外線の身体への影響について実測する。 手洗い実習 普段行っている手洗いが有効なのか実測する。	
10	水質試験水道水（飲料水の残留塩素、理化学試験項目）と雨水（pH）	
11	河川の水の指標には何があるか、身近な河川の水を調べる。	
12	水質試験 市販されている水の性質を調べる。	
13	空気環境の測定 学内の環境を例に空気環境を測定する。 呼吸商（食物の何が燃焼しているか確かめる）。	
14	タバコと健康への影響を実際に測定する。	
15	フリッカーテスト、自覚症状スクリーニングテストによる疲労測定	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	30	課題に対して、的確に記載されているかを評価基準とする。	期末テスト	70	この実習において、修得状況を記述式でテストを行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前：授業テーマを予め知らせるので、インターネットや図書館資料等を利用し、専門用語を中心に意味を調べておく（30分） ②事後：レポートをまとめる（60分）	レポート、試験ともに全体的なコメントをメール等で行う。学生からの質疑を随時、対面またはメールで受け付けてフィードバックを行う。

受講生に望むこと	日頃から人を取り巻く自然環境、社会環境について、興味を持って生活してほしい。	教科書・テキスト	なし。必要に応じてプリント、インターネット情報を使用する。
指定図書／参考書等	なし／なし シラバス内には記載しないが、学習の参考となる図書等は授業内で随時、紹介する。	その他・特記事項	管理栄養士、食品衛生管理者、食品衛生監視員には必須の内容である。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会福祉概論			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、わが国の社会福祉の理論や歴史的経緯、援助の視点、制度や実施体制等の現状について、広く学ぶ。日常生活を支える社会保障の体系、社会福祉援助技術の基本的な考え方にも触れつつ、高齢者や障害者、児童家庭福祉等の各対象分野別の内容を中心に、新たな制度改正の経過や動向も取り入れながら学習をすすめ、社会福祉全般の実践の場を整理し、管理栄養士・栄養士の社会福祉分野における役割や実務を理解することをめざす。	①社会福祉の理論や歴史、現状を理解する。 ②社会福祉の援助と視点を理解する。 ③社会福祉分野における管理栄養士・栄養士の役割を理解できるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業のすすめ方、社会福祉を学ぶ意義と目的：社会福祉を学ぶ意義と目的を考える。	
2	社会福祉の意味と対象：社会福祉の歴史や定義、理念と対象となる人たちについて学ぶ。	
3	社会保障制度の概要Ⅰ：社会保障制度の全体像を学ぶ。	
4	社会保障制度の概要Ⅱ：社会保険制度について学ぶ。	
5	生活保護制度のしくみ：生活保護の基本原理・原則、生活保護の実際について学ぶ。	
6	高齢者の福祉Ⅰ：高齢者を取り巻く状況について学ぶ。	
7	高齢者の福祉Ⅱ：介護保険制度の概要について学ぶ。	
8	児童と家庭の福祉：少子化の進行と家庭環境の変化、児童家庭福祉の動向について学ぶ。	
9	障害者の福祉Ⅰ：障害者福祉の理念、障害者の状況について学ぶ。	
10	障害者の福祉Ⅱ：障害者総合支援法の概要について学ぶ。	
11	地域福祉：今日の生活問題や地域福祉の内容、担い手等について学ぶ。	
12	社会福祉基礎構造改革と権利擁護：成年後見制度や利用者保護のしくみについて学ぶ。	
13	社会福祉援助の方法：社会福祉の援助と方法、視点について学ぶ。	
14	社会福祉の機関と専門職：社会福祉の実施機関や施設、専門職について学ぶ。	
15	社会福祉分野における管理栄養士・栄養士：社会福祉分野で働く管理栄養士・栄養士の立場と役割を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	80	講義内容の理解を筆記試験で評価する。	授業参加状況	20	授業内小テスト、小レポートの提出、および意見や質問を行い積極的に授業に参加しているか等、受講態度を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
テキストを読み、各回の内容の予習、復習に努めること。[30分以上]	講義後に提出された意見や質問には、次回の授業でコメントを行う。

受講生に望むこと	社会福祉をより身近なものとしてとらえ、管理栄養士・栄養士の業務や他の科目で学んだ内容と関連づけながら、関心をもって授業に臨んでほしい。	教科書・テキスト	『七訂 栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉』岩松珠美・三谷嘉明 編,株式会社みらい,2025年, ISBN：978-4-86015-656-5 ※2025年度テキスト改訂（七訂）
指定図書／参考書等	なし／授業中に適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生化学Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	三沢　典彦						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
生化学（Biochemistry）とは、生物・生命現象を、複雑で高度な化学反応系と見なし、化学の言葉・レベルで理解することをめざす壮大な学問領域ということができる。「生化学Ⅰ、生化学Ⅱ」では、食品・栄養及び人間環境に関わる生化学を受講する。食事等から摂取された栄養素とは、そもそもどのようなものなのか、そして、どのように代謝され、生命の恒常性が維持されていくのかを中心に学ぶ。「生化学Ⅱ」では、「生化学Ⅰ」をふまえ、各種栄養素の代謝や代謝系の関わり合いを中心に学ぶ。さらに、免疫系（炎症やアレルギーの概要を含む）や情報伝達の機構について学び、生命の恒常性について理解する。	1.　各種栄養素の代謝を理解している。 2.　代謝系の関わり合いについて説明できる。 3.　免疫系、及び炎症、アレルギーの概要を理解している。 4.　情報伝達の機構について概要を理解している。 5.　生体内の恒常性維持機構について概要を理解している。

教授方法	講義
履修条件	生化学Ⅰを履修していること

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	代謝の概要を学ぶ。	
2	糖質の代謝(解糖系～TCA回路～電子伝達系）について理解する。	
3	糖質の代謝(糖新生、グリコーゲン代謝）について理解する。	
4	糖質の代謝(ペントースリン酸回路、ウロン酸回路等）について理解し、糖質代謝の全体像を把握する。	
5	脂質の代謝（トリアシルグリセロール、脂肪酸の分解･合成)について理解する。	
6	脂質の代謝(ケトン体の生成、エイコサノイドの合成、コレステロール代謝)について理解する。	
7	核酸の代謝、及びたんぱく質の分解について理解する。	
8	アミノ酸の代謝（生理活性窒素化合物の合成）について理解する。	
9	アミノ酸の代謝(アミノ基の代謝、尿素回路等）について理解する。	
10	栄養素全体の代謝の関わり合いとその調整について理解する。	
11	免疫細胞の種類と機能について理解する。	
12	免疫系、及び炎症、アレルギーの概要を理解する。	
13	人体や細胞の構成と役割、及び情報伝達機構について概要を理解する。	
14	恒常性維持機構と生体防御について概要を理解する。	
15	全体の振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポートまたは非定期試験	15	適切に理解し、的確に記載されているかを評価基準とする。	定期試験	70	筆記試験の正答率により評価する。
授業への積極性	15	授業に参加し、積極的に学習しているかを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎授業前に授業予定の部分を読んでくる。（30分） 2．授業終了後、その単元全体を復習する。（1時間）	質問については、授業終了時またはメール等で対応する。

受講生に望むこと	講義の内容を定着させるために、配布資料や教科書を繰り返し読んで、要点を覚えてほしい。	教科書・テキスト	『健康・栄養科学シリーズ　生化学　人体の構造と機能及び嫉病の成り立ち』石堂一巳、福渡 努 編，南江堂，2024，ISBN978-4-524-24182-8
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	指定された教科書だけでは不十分なので、効率的に学習するための資料をほぼ毎回、配布する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生化学実験			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	西　正人						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実験
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
生化学は生体内の化学成分や代謝機能を知るうえで重要な学問である。生化学の知識なくして、栄養学は成立しない。糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル、遺伝子の性質について様々な実験を通してより深く学修し、「生化学」の講義の学習内容を、机上の理論だけではなく実験を通して、知識をより確実なものにすることを目的とする。また、試験管内の化学反応を実際の生体反応と関連付けて考察することにより、細胞、または分子レベルでの人体の機能への理解につなげる。さらに、実験で得られた結果について、栄養代謝の観点からも考察することにより各種病態の理解に必要な知識を養う。	1.汎用的な技能を用いて得られた実験データなどを実験レポートとしてまとめることができるようになることとにより、論理的思考の育成を目標とする。 2.実験の原理が理解でき、必要な技術の習得を目標とする。 3.実験を円滑に進めることができるよう、実験内容を的確に理解し、各自の役割を理解することができる（チームワーク力の育成を目標とする）。 4.生体分子や酵素、核酸などの化学的性質と生体におけるそれらの機能や代謝における働きなどを関連付けて理解することにより人体機能の理解につなげる。

教授方法	実験
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：生化学実験に関する基礎的な内容を理解する。	
2	pHと緩衝液に関して理解する。（天然物から抽出した色素の呈色変化）	
3	アミノ酸およびタンパク質の性質 - 等電点 , 加熱変性 - アミノ酸およびタンパク質の基本性質を知る。	
4	アミノ酸およびタンパク質の性質　-凝固・沈殿-　アミノ酸およびタンパク質の基本性質を知る。	
5	アミノ酸およびタンパク質の呈色反応 アミノ酸およびタンパク質の基本性質を知る。	
6	糖質の定性反応 糖質の基本性質を知る。	
7	まとめ実験Ⅰ　タンパク質、糖質の未知試料について定性反応から物質を同定する。未知試料中の物質の同定から学んだことを確認する。	
8	脂質および脂溶性ビタミンの定性反応　脂質や脂溶性ビタミンの基本性質を知る。	
9	まとめ実験Ⅱ 未知試料中の脂質および脂溶性ビタミンを同定する。未知試料中の物質の同定から学んだことを確認する。	
10	水溶性ビタミンおよび無機質の定性反応　水溶性ビタミンおよび無機質の基本性質を知る。	
11	まとめ実験Ⅲ　未知試料中の水溶性ビタミンおよび無機質をの同定する。未知試料中の物質の同定から学んだことを確認する。	
12	酵素による糖質の分解実験から、酵素の基本的な性質を知る。	
13	DNAの抽出　PCR法、電気泳動法（１）DNAの性質、PCR法の原理を理解する。	
14	DNAの抽出　PCR法、電気泳動法（２）電気泳動法を理解する。	
15	全実験のまとめ（講義含む）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	授業内容の理解度と実践力を評価する。	実験レポート	50	実験内容の理解度とレポート作成における達成度を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
実験に関連する生化学や化学などの知識を事前学習で確認する(45分)。事後学習では、実験で学んだことを実際の生体反応との関連性を考える（50分）。	質問がある場合は個別に対応する。また、解説が必要と思われる場合は授業時間内に説明を行う。

受講生に望むこと	実験結果が予想されたものにならなかった場合の考察こそ学ぶことが多い。失敗を恐れずに実験に積極的に参加し、本実験から新しい技術や知識、論理的思考を身につけてもらいたい。	教科書・テキスト	実験プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	解剖生理学Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中谷　壽男						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
解剖生理学の学修範囲は非常に幅広いため、「解剖生理学Ⅱ」では「解剖生理学Ⅰ」では学修できなかった消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、皮膚、免疫、代謝と運動、体温調節、発生と老化の分野について学修する。本科目は人間生活を支える栄養や健康、疾病の成り立ちを理解するためには必須の科目である。人の生命活動の基盤となる栄養について科学的に理解するための生理学・解剖学という視点から、人体の構造と機能を密接に関連付けて学ぶ。	「解剖生理学Ⅰ」と「解剖生理学Ⅱ」を通して、細胞、組織、器官からなる人体の正常な構造と機能を理解し、記憶し、疾病を理解するための基礎学力を築き、非専門家には優しい言葉で説明ができ、専門家とは専門学用語を用いての十分な討論ができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	第7章　呼吸器系　呼吸の構造を理解し覚える。	
2	第7章　呼吸器系　呼吸器の機能を理解し覚える。	
3	第8章　泌尿器系と体液　泌尿器の構造と機能を理解し覚える。	
4	第8章　泌尿器系と体液　体液とその調節を理解し覚える。	
5	第9章　消化器系と代謝・栄養　消化器の構造の総論と口腔から食道までの機能を理解し覚える。	
6	第9章　消化器系と代謝・栄養　胃から大腸の機能を理解し覚える。	
7	第9章　消化器系と代謝・栄養　肝臓膵臓の構造と機能を理解して覚える。	
8	第9章　消化器系と代謝・栄養　代謝と栄養、三大栄養素・ビタミン・ミネラル、を理解して覚える。	
9	第10章　内分泌系、体温と生体リズム　内分泌系の総論と各内分泌気管の構造と機能を理解し覚える。	
10	第10章　内分泌系、体温と生体リズム　体温と生体リズムの機序を理解し覚える。	
11	第11章　生殖器系と加齢　女性生殖器系の構造と機能を理解し覚える。	
12	第11章　生殖器系と加齢　男性生殖器系の構造と機能を理解し覚える。	
13	第11章　生殖器系と加齢　身体の加齢に伴う変化を理解し覚える。	
14	第12章　局所解剖学　臓器の血管系のまとめを理解し覚える。	
15	第12章　局所解剖学　臓器の血管系のまとめを理解し覚える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	80	筆記試験の結果に基づいて評価する。	課題提出	20	適宜課す課題提出物に基づいて評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の範囲の教科書を読んで講義に出席する（60分）。 講義後は講義の範囲の教科書に再度目を通す（60分）。 問題集を解いて内容の記憶と理解を自習する（60分）。	試験は答案の返却と解答を示し学生からの疑問を対面またはメールで受け付けてフィードバックを行う。 提出物に関しては授業内に適宜フィードバックを行なう。

受講生に望むこと	教科書をしっかりと読むこと。 最初は分かりにくくても、予習、講義、復習を通して、教科書を読むことで、だんだんと理解でき記憶に残るようになってくる。	教科書・テキスト	人体の構造と機能　第６版　上田ら、医歯薬出版、2025年、ISBN978-4-263-71061-6 C3047
指定図書／参考書等	なし／『カラーアトラス　人体　解剖と機能』第4版、横地ら、医学書院、2013年、ISBN:978-4-260-01646-9,『ジュンケイラ組織学』　第6版、坂井ら、丸善出版、2024年、ISBN-13:978-4621308851、『プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト』　第2版、中野ら、医学書院、2023年、ISBN-13: 978-4260052153	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	解剖生理学実験			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	西　正人						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実験
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、正常な人体の構造・機能を学修する科目であり、管理栄養士養成課程における”人体の構造と機能及び疾病の成り立ち”を学ぶ科目群に配置されている。食物を提供される側の人体の基本的な構造と機能を理解することは重要である。ヒトが食物を摂取することは消化吸収、排せつの一連の過程と関連しており、栄養となることと、すべての器官、組織、細胞の構造と機能との関連を実験をとおして理解を深めることをねらいとしている。実験では骨標本、組織標本などを使いながら構造や機能的特徴などを学修する。	1.人体の構造を巨視的（系統的）および微視的（顕微鏡的）に説明できる。 2.人体の臓器や組織、細胞さらには遺伝子レベルにおける特徴的な構造とその機能を関連付けて理解する。また、人体の構造と機能について体系的に理解する。

教授方法	実験
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	本実験のガイダンス、生体組織の構造と成り立ち	
2	顕微鏡の取り扱い	
3	骨格標本の観察１（上肢帯、上肢骨、頭蓋骨）	
4	骨格標本の観察２（椎骨、寛骨、下肢骨）	
5	人体模型の観察（胸部）	
6	人体模型の観察（腹部）	
7	組織標本の観察１呼吸器系：肺胞、気管支	
8	組織標本の観察２循環器系：心臓、心筋	
9	組織標本の観察３消化器系：肝臓、膵臓	
10	組織標本の観察４泌尿器系：腎臓	
11	組織標本の観察５神経系：中枢神経	
12	内分泌系：内分泌器官とホルモンの働き、ホルモン分泌の調節などについて学修する。	
13	皮膚感覚の触 圧点、痛点、温点、および冷点の分布や閾値の部位差の検討。重量感覚と空間閾値の実験からウェーバー・ヘクナーの精神物理的法則とその適応範囲を理解する。	
14	生体の観察：血圧の測定、脈拍の測定、運動負荷後の脈拍、血圧の測定	
15	総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	授業内容の理解度と実践力を評価する。	レポート	50	課題が求めている内容とレポート作成の達成度を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
実験後に解剖生理学や生化学など関連があると思われる授業のテキストなどを使い、実験で得た知識を深めてください（60分）。	質問や疑問があれば積極的たずねてください。重要なポイントなどは授業中に解説します。

受講生に望むこと	実験結果が予想されたものにならなかった場合の考察こそ学ぶことが多い。失敗を恐れずに実験に積極的に参加し、本実験から新しい知識や技術、論理的思考を身につけてもらいたい。	教科書・テキスト	実験プリントを配布します。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	医学一般Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中谷　壽男						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
「医学一般Ⅰ」「医学一般Ⅱ」「医学一般Ⅲ」では、臨床上の各疾患とその病態生理・疾患成立機序を網羅していく。その正しい理解と栄養学との関わりの中で、総合的かつ臨床応用学的な理解を深めていく。「医学一般Ⅱ」では、疾病の成り立ち、診断、治療に関する総論から始めて、代謝疾患、消化器疾患、循環器疾患、泌尿器疾患に関する重要な疾患を取り上げて、「医学一般Ⅰ」も参考にしながら疾患の病態生理、症状、治療を講義する。これらの各疾病の病態生理学を知ることで、それに対応する妥当的栄養代謝学の視点から総合医学として理解でき、実際上の臨床応用問題（症例の問題点把握力）を自らの力で解決できるようになる。	各疾病の病態生理学を知ることで、それに対応する妥当的栄養代謝学の視点から総合医学として理解でき、実際上の臨床応用問題（症例の問題点把握力）を自らの力で解決できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	序章．疾病の成り立ち、疾患診断の概要（一般的診療、主な症候）の内容を理解して覚える。	
2	疾患診断の概要（臨床検査、画像検査）の内容を理解して覚える。	
3	疾患治療の概要（種類と特徴、治療計画・実施・評価）の内容を理解して覚える。	
4	疾患治療の概要（治療の方法、終末期患者の治療、根拠に基づいた医療）の内容を理解して覚える。	
5	栄養障害と代謝疾患の内容を理解して覚える。	
6	肥満と代謝疾患（肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病、脂質異常症）の内容を理解して覚える。	
7	肥満と代謝疾患（高尿酸血症、痛風、先天性代謝異常）の内容を理解して覚える。	
8	消化器系疾患（嚥下障害、口内炎、舌炎、胃食道逆流症、胃・十二指腸潰瘍）の内容を理解して覚える。	
9	消化器系疾患（たんぱく漏出性胃腸炎、炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）、過敏性腸症候群、便秘、下痢、急性肝炎、慢性肝炎）の内容を理解して覚える。	
10	消化器系疾患（肝硬変、脂肪肝、非アルコール性脂肪肝炎、胆石症、胆嚢炎、膵炎、消化器系の悪性腫瘍）の内容を理解して覚える。	
11	循環器系疾患（虚血、充血、うっ血、血栓、塞栓）の内容を理解して覚える。	
12	循環器系疾患（動脈硬化、血圧）の内容を理解して覚える。	
13	循環器系疾患（狭心症、心筋梗塞、不整脈、肺塞栓症、心不全）の内容を理解して覚える。	
14	腎・尿路系疾患（急性・慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎障害、慢性腎臓病）の内容を理解して覚える。	
15	腎・尿路系疾患（糖尿病性腎症、慢性腎不全、尿路結石、血液透析、腹膜透析、アシドーシス、アルカローシス）の内容を理解して覚える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	80	筆記試験の結果に基づいて評価する。	課題提出物	20	適宜課す課題提出物に基づいて評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の範囲の教科書を読んで講義に出席する［1時間］。 講義後は講義の範囲の教科書に再度目を通す［1時間］。 問題集を解いて内容の記憶と理解を自習する［30分］。	試験は答案の返却と解答を示し学生からの疑問を対面またはメールで受け付けてフィードバックを行う。 提出物に関しては授業内に適宜フィードバックを行なう。

受講生に望むこと	講義の内容を定着させるために、各自の手持ちの臨床医学のテキストと解剖生理学、生化学、病理学、微生物学のテキストを繰り返し読んでほしい。	教科書・テキスト	臨床医学　改訂第2版　羽生/河手（編集）南江堂 2025年　ISBN：978-4-524-20663-6
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	医学一般Ⅲ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中谷　壽男						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
「医学一般Ⅰ」「医学一般Ⅱ」「医学一般Ⅲ」では、臨床上の各疾患とその病態生理・疾患成立機序を網羅していく。その正しい理解と栄養学との関わりの中で、総合的かつ臨床応用学的な理解を深めていく。「医学一般Ⅲ」では、「医学一般Ⅱ」の続きとして、内分泌疾患、神経疾患、呼吸器疾患、運動器疾患、生殖器疾患、血系疾患、免疫アレルギーそして感染症疾患に関する重要な疾患を取り上げて、「医学一般Ⅰ」も参考にしながら疾患の病態生理、症状、治療を講義する。これらの各疾病の病態生理学を知ることで、それに対応する妥当的栄養代謝学の視点から総合医学として理解でき、「医学一般Ⅰ」「医学一般Ⅱ」「医学一般Ⅲ」を学び終えることで、広い視野に立って、実際上の臨床応用問題（症例の問題点把握力）を自らの力で解決できるようになる。	各疾病の病態生理学を知ることで、それに対応する妥当的栄養代謝学の視点から総合医学として理解でき、実際上の臨床応用問題（症例の問題点把握力）を自らの力で解決できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	内分泌系疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺中毒症、甲状腺機能低下症、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫）の内容を理解して覚える。	
2	内分泌系疾患（クッシング病・症候群、その他の内分泌疾患）の内容を理解して覚える。	
3	神経疾患（脳出血、脳梗塞）の内容を理解して覚える。	
4	神経疾患（認知症、パーキンソン病、パーキンソン症候群）の内容を理解して覚える。	
5	呼吸器系疾患（慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息）の内容を理解して覚える。	
6	呼吸器系疾患（肺炎、肺がん）の内容を理解して覚える。	
7	運動器（筋・骨格）系疾患（骨粗鬆症、骨軟化症、くる病、変形性関節症）の内容を理解して覚える。	
8	運動器（筋・骨格）系疾患（サルコペニア、廃用性筋萎縮、ロコモティブシンドローム、フレイル）の内容を理解して覚える。	
9	生殖器系疾患（妊娠高血圧症候群、子宮頸部がん・子宮体部がん）の内容を理解して覚える。	
10	生殖器系疾患（乳がん、前立腺がん）の内容を理解して覚える。	
11	血液系疾患（貧血、鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、その他の貧血）の内容を理解して覚える。	
12	血液系疾患（出血性疾患、白血病、悪性リンパ腫）の内容を理解して覚える。	
13	免疫・アレルギー疾患（食物アレルギー、膠原病、自己免疫疾患、免疫不全）の内容を理解して覚える。	
14	感染症（病原微生物と感染・感染症、病原微生物の感染経路、性感染症・性行為感染症、日和見感染症）の内容を理解して覚える。	
15	感染症（院内感染、新興感染症、再興感染症、抗菌薬・抗生物質、薬剤耐性菌・多剤耐性菌）の内容を理解して覚える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	80	筆記試験の結果に基づいて評価する。	課題提出物	20	適宜課す課題提出物に基づいて評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の範囲の教科書を読んで講義に出席する［1時間］。 講義後は講義の範囲の教科書に再度目を通す［1時間］。 問題集を解いて内容の記憶と理解を自習する［30分］。	試験は答案の返却と解答を示し学生からの疑問を対面またはメールで受け付けてフィードバックを行う。 提出物に関しては授業内に適宜フィードバックを行なう。

受講生に望むこと	講義の内容を定着させるために、各自の手持ちの臨床医学のテキストと解剖生理学、生化学、病理学、微生物学のテキストを繰り返し読んでほしい。	教科書・テキスト	臨床医学　改訂第2版　羽生/河手（編集）南江堂 2025年　ISBN：978-4-524-20663-6
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	食品学Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	榎本　俊樹						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、管理栄養士養成課程教育カリキュラムにおける「食べ物と健康」分野の科目に位置づけられ、1年時前期で学習した食品学Ⅰの知識を基礎に、食品の分類や各食品の特性を学習、理解することを目的とする。具体的には、植物性食品、動物性食品、その他の食品（油脂、甘味料、調味料、香辛料、嗜好飲料等）の分類や特性について学習する。また、食品の三次機能に関与する成分が健康に与える影響について述べるとともに、これらの特性を活用した保健機能食品などの新規食品についても解説する。なお、本科目を通して食品を総合的に考える能力を養うため、2回の講義で、グループワークとディスカッションを実施する。さらに、毎回、課題を出し、期日内の提出を課す。	①食品成分表について理解することができる。 ②植物性食品の分類や特性について理解することができる。 ③動物性食品の分類や特性について理解理解することができる。 ④その他の食品（油脂、甘味料、調味料、香辛料、嗜好飲料等）の分類や特性について理解することができる。 ⑤保健機能食品について，表示の規格を含め説明できる。また、いわゆる健康食品との違いについて説明できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食品の分類・食品成分表	
2	植物性食品（穀類）	
3	植物性食品（いも類）	
4	植物性食品（豆、種実類）	
5	植物性食品（野菜類）	
6	植物性食品（果実類）	
7	植物性食品（キノコ類、藻類）	
8	動物性食品（肉類）	
9	動物性食品（乳類、卵類）	
10	動物性食品（魚介類）	
11	その他の食品（油脂類、甘味料、調味料、嗜好飲料）	
12	機能性食品とその素材	
13	食品の保存及び加工技術	
14	グループワーク及びディスカッション	
15	グループワーク及びディスカッション	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	30	課題に関して、的確に理解し・記載されているかを評価基準とする	期末試験	70	選択肢で解答する問題と論述する問題を出題する。評価は、筆記試験の正答率により行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義資料は事前にClassroomに投稿するのでダウンロードし目を通しておくこと。［30分］ ②毎回、課題をClassroomに投稿し、期日内に提出を課す。［30分］	課題は、期日内に提出すること。また、課題の記載内容については、インターネット情報やAIの切り貼りではなく、本人自身が考えて作成すること。

受講生に望むこと	事前に学習する内容について予習すること。 講義で不明な点等については、必ず質問し、理解すること。質問は随時受け付ける。	教科書・テキスト	『食品学各論』第3版、瀬口正春・八田一編、化学同人、2016年、ISBN：9784759816419
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	食品機能学			開講学科	栄養	必修・選択	選択
担当教員名	榎本　俊樹						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
食品の有する機能性について理解することを目的とする。特に、三次機能である生体調節機能および関係する疾患や人体の構造と生理機能についての知識を習得する。さらに、食品における機能性表示や医薬品と食品との違いについて学ぶとともに市場に溢れる健康食品についての問題点についても考察する。	①食品が有する3 つの機能について説明できる。 ②保健機能食品制度を説明できる。 ③各生体調節機能について作用メカニズムを含めて説明できる。 ④生理機能別に人体の構造を説明できる。 ⑤生活習慣病について説明できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食品機能学とは	
2	抗酸化機能①	
3	抗酸化機能②	
4	消化吸収促進と代謝改善機能①	
5	消化吸収促進と代謝改善機能②	
6	難消化、吸収阻害および微生物活性機能①	
7	難消化、吸収阻害および微生物活性機能②	
8	脂質関連代謝機能	
9	酵素後害、酵素活性化機能①	
10	酵素阻害、酵素活性化機能②	
11	免疫系に及ぼす機能①	
12	免疫系に及ぼす機能②	
13	神経系に及ぼす機能①	
14	神経系に及ぼす機能②	
15	グループワーク及びディスカッション	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	30	課題に関して、的確に理解・記載されているかを評価基準とする。	期末試験	70	選択肢で解答する問題と論述する問題療法を出題する。評価は、筆記試験の正答率により行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義資料は事前にClassroomに投稿するのでダウンロードし目を通しておくこと。［30分］ ②毎回、課題をClassroomに投稿し、期日内に提出を課す。［30分］	課題は、期日内に提出すること。また、課題の記載内容については、インターネット情報やAIの切り貼りではなく、本人自身が考えて作成すること。

受講生に望むこと	事前に学習する内容について予習すること。 講義で不明な点等については、必ず質問し、理解すること。質問は随時受け付ける。	教科書・テキスト	改定　食品機能学　第4版、建帛社、ISBN: 978-4-7679-0716-1
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	食品分析学			開講学科	栄養	必修・選択	選択
担当教員名	三沢　典彦						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
本科目では、日本食品標準成分表に記載されている５大栄養素であるたんぱく質、脂質、炭水化物、無機質、ビタミンに水を加えた一般６成分の代表的な分析方法を中心に紹介する。その都度、呈味成分、香気成分、色素成分、機能性成分の分析法やガスクロマトグラフィー、高速液体クロマトグラフィー、質量分析法などの使用機器の紹介と測定原理、機器の構造を含めて、具体的にわかりやすく解説する。分析法の妥当性確認法や精度管理などについても説明する。	①化学物質・化合物である栄養成分を分離・分析するために必要な考え方を理解している。 ②機器分析を含む分析手法に関する知識が身についている。 ③食品標準成分表の成り立ちを理解している。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食品分析の基礎（食品成分の特徴、分析試料としての食品素材の取扱い、基本的な分析原理）	
2	食品分析の基礎（質量パーセント濃度、モル濃度、有効数字等）	
3	たんぱく質の代表的な分析手法1（分離、組成）	
4	たんぱく質の代表的な分析手法2（分子量、構造）	
5	糖質の分析法1（概要、酵素法）	
6	糖質の分析法2（各種機器分析法）	
7	ビタミンの基礎知識と分析法	
8	活性酸素種（ROS）の基礎知識と抗酸化活性の測定法	
9	脂質分析に役立つ脂質の基礎知識	
10	食品成分表策定に用いられる脂質分析法1（脂質の定量）	
11	食品成分表策定に用いられる脂質分析法2（脂肪酸の定量）	
12	その他の脂質分析法	
13	食品中の水分の主な定量分析	
14	ミネラル成分の分析試料調製方法、原子吸光法とスペクトル	
15	全体のまとめ・振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポートまたは非定期試験	15	適切に理解し、的確に記載されているかを評価基準とする。	定期試験	70	筆記試験の正答率により評価する。
授業への積極性	15	授業に参加し、積極的に学習しているかを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
① 毎授業前に授業予定の部分を読んでくる。（30分） ② 授業終了後、その単元全体を復習する。（1時間）	質問については、授業終了時またはメール等で対応する。

受講生に望むこと	講義の内容を定着させるために、教科書と配布資料を繰り返し読んでほしい。	教科書・テキスト	『基礎から学ぶ　食品分析学』谷口亜樹子編著,建帛社,2022年,ISBN978-4767906720
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	食品加工学			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	榎本　俊樹						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、さまざまな加工食品の理解を深めるために、食品保存（貯蔵）法の原理を化学的・物理的観点から習得する。また、微生物の力を利用した発酵食品を含む身近な加工食品の加工原理・製造方法について学ぶ。さらに、加工食品を正しく選択するために、加工食品の規格・表示と安全性について概説し、栄養面・安全面・嗜好面の各特性を高める食品の加工の方法を総合的に理解し、修得する。	1.食品の保存方法について理解できる。 2.各加工食品の加工原理・製造方法について理解できる。 3.加工食品の規格・表示制度について理解できる。 4.授業で扱った内容について、自主学修によって得た知識をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食品加工の意義・目的、食品加工の方法	
2	食品保存の原理①　食品保存の方法	
3	食品保存の原理②　流通環境と食品・栄養成分変化（温度、光、気相）	
4	食品保存の原理③　保存条件と食品・栄養成分変化（水分活性、保存による変化、食品成分間反応）	
5	食品の劣化原因（脂質の酸化など）とその防止方法	
6	食品加工の原理（食品加工の新技術）	
7	食品の包装による成分及び品質変化	
8	加工食品の規格基準と品質表示	
9	加工食品の安全性とその評価	
10	農産物加工食品とその利用	
11	畜産物加工食品とその利用	
12	水産物加工食品とその利用	
13	食用油脂、コピー食品、調味料およびし好食品とその利用	
14	微生物利用食品とその利用	
15	新規加工食品（保健機能食品・特別用途食品）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	30	適切に理解し、的確に記載されているかを評価基準とする	期末試験	70	選択肢で解答する問題と論述する問題両方を出題する。評価は、筆記試験の正答率により行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義資料は事前にClassroomに投稿するのでダウンロードし目を通しておくこと。［30分］ ②毎回、課題をClassroomに投稿し、期日内に提出を課す。［30分］	課題は、期日内に提出すること。また、課題の記載内容については、インターネット情報やAIの切り貼りではなく、本人自身が考えて作成すること。

受講生に望むこと	①事前に学習する内容について予習すること。 ②講義で不明な点等については、必ず質問し、理解すること。質問は、随時受け付ける。	教科書・テキスト	栄養科学シリーズNEXT『食品加工・保蔵学』,海老原清編,講談社,2017年,ISBN978-4-06-155395-8
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	分析化学実験			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	三沢　典彦						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実験
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
本学科では、食や健康に関する様々な領域を学習していくが、専門領域を学ぶ上で生物、化学の基礎知識が重要となる。本実験は、化学に関する基礎知識・理解を深め、また、他の化学実験にも応用できる基本的な実験技術について習得することを目的とする。また、実験と理論とを結びつけて理解することにより、近代科学の基盤である「科学的方法」について意識する。 実験を通じて化学分析の原理を習得するとともに、科学的視点から物事を捉え、考察する能力も養う。	身近な食品などを題材とし、科学の基礎となる実験を行う。化学実験（主に分析化学）に習熟すると共に実験化学的なアプローチ法、科学理論と実験の関係を理解する。 ・化学実験の多岐にわたる基本的操作を安全かつ合理的に行なうことが出来るようになる。 ・実験の目的、方法、結果、その解釈を整合的・有機的に理解することが出来るようになる。 ・行った化学実験の内容を、一般的形式に則って簡潔且つ適切・適正にレポートとしてまとめることが出来るようになる。

教授方法	実験
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実験ガイダンス	
2	ガラス器具の取り扱い方	
3	シュウ酸標準液および水酸化ナトリウム溶液の調製	
4	シュウ酸標準液および水酸化ナトリウム溶液の標定	
5	食品のpH測定、酸度測定	
6	容量分析（油脂の酸化）	
7	容量分析（油脂の過酸化物価）	
8	重量分析（水分の定量）、過マンガン酸カリウム溶液の力価測定	
9	重量分析（灰分、脂質の定量）	
10	比色分析、鉄の定量	
11	ペーパークロマトグラフィー①（食品色素の抽出と分離）	
12	ペーパークロマトグラフィー②（食品色素の同定）	
13	薄層クロマトグラフィー（TLC）（食品色素の分離・分析）	
14	ガスクロマトグラフィー（GC)/マススペクトロメトリー（MS)、データ処理	
15	まとめ、グループワークおよびディスカッション	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実験レポート	70	実験レポートは基本的な構成に則って記述されているか。結果の表記が適切・適正に記載されているか。結果導かれる考察が仮説・理論から考えられることと結果との比較など客観的且つ論理的な主張がなされているかなど	授業への積極性	30	授業に参加し、積極的に実習しているかを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前にテキストなどを熟読し、実験内容や操作などの流れを把握してから実験に臨む（1時間）。予習により実験を安全かつ手早く合理的に進めることができる。レポート作成はテキストなどを参照し、基本的な構成に則って記述する。	質問や疑問がある場合には担当教員に尋ねること。 受講生全員に説明した方がいいと判断した場合は授業中に説明する。

受講生に望むこと	レポート作成にあたり、実験内容等を友人と議論することは有益であるが、レポートは必ず各自作成すること。実験操作はテキストを丸写しするのではなく実際に行った操作を簡潔に記載する。実験後は実験項目ごとにレポートを作成し期限までに提出する。実験レポート提出とその合格をもって化学実験の終了となる。	教科書・テキスト	実験プリントを配布して行う。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	食品学実験			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	西　正人						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実験
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
食品学や関連領域で学んだ知識をより一層深く理解するためには、一人ひとりが実際に実験を行い、体験的に食品成分の特性や含有量を知ることが重要である。本実験の目的は、「日本食品標準成分表2015」で採用されている分析法（重量分析、容量分析、機器分析）を用いて、食品の一般成分である水分、たんぱく質、脂質、炭水化物および灰分の測定を行う。また、それらの分析や測定方法をとおして食品成分の化学的な性質や構造などと健康への影響や疾病予防との関連について関連付けて理解を深める。また、嗜好成分の定量実験および食品成分の性質と変化に関する実験も行い、食品を多角的に観察し、評価する能力を養う。これらの実験をとおして実験の進め方、分析機器の原理や操作方法、結果の解析方法などを習得し、論理的な思考力も身につける。	1.授業の解説や実験を通じて習得した食品分析および食品成分について学んだ知識を踏まえ、食品成分の栄養特性や健康に与える影響、疾病予防などを関連づけて理解する。また、栄養、安全、嗜好などの面から、食品成分を活かすための技術との関連について理解する。 2.授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができるようになる。

教授方法	実験
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実験ガイダンス	
2	化学実験の基礎知識説明、中和滴定による酸力価とアルカリ力価検定。今後の実験に使う基本となる酸、アルカリ試薬を調整し、力価計算ができるようになる。	
3	中和滴定による酸力価検定、食酢中の酢酸の定量 ①中和滴定によりさらに実験技法を高める。	
4	酢酸の定量② 塩分の定量 身近な食品の化学成分も定量できることを知り、実験技法のさらなる上積みをする。	
5	水酸化ナトリウム再滴定 総窒素の定量・水分の定量 濃度が高い酸、アルカリ試薬の取り扱いの技法を習得する。蒸留装置を組めるようになる。	
6	菓子類と栄養 パン、ケーキ、クッキー類に使われているバター、マーガリンのケン化価、ヨウ素価による油脂の化学的特徴を測定によって明らかにする。還流装置を組めるようになる。	
7	ソモギー変法による清涼飲料水、機能性飲料水中の還元糖の定量 短時間に多くの操作を行える力をつける。	
8	牛乳、乳飲料、機能性飲料中のカルシウムの定量 キレート滴定の原理を理解し、滴定における微妙な色の変化を識別出来るようになる。	
9	ほうれん草中の鉄の定量①　シュウ酸の定量①　灰化操作、化学成分の抽出を習得する。	
10	ほうれん草中の鉄の定量②　分光光度計の原理と使い方を習得する。	
11	食品の酵素的褐変、非酵素的褐変を再現し、そのしくみと防止する条件を探る。	
12	菓子類と栄養　菓子類に使われているイチゴ、柑橘類にビタミンCが本当に多いのか？　数種類のものを対象に測定し、比較する。	
13	ワイン中に含まれるアルコールの定量　ワインを対象として、ラベルに記載されているアルコール濃度と測定結果を比較し、考察する。	
14	ポリフェノールの定量	
15	抗酸化活性の測定	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実験レポート	50	実験内容と実験データを的確にまとめたレポートにより授業の理解度を評価する。	定期試験	50	授業内容の理解度と実践力を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
食品学やその他の科目で学んだこととの関連性を考えることにより学修が深まり、実践力が高まります(60分)。	質問や疑問があれば個別に対応する。その中で受講者全員に説明した方がよいと思われることは授業時間に解説する。

受講生に望むこと	実験には積極的に参加してください。実験で得られた体験と机上で学んだ知識とのつながりから専門知識を深めてください。	教科書・テキスト	実験プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	食品加工学実習			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	西　正人						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
食品加工は食品の栄養的価値を可能な限り変えず、食する時の物性面を考慮した技術である。本授業では、各種加工食品の製造法の原理をふまえて、食品の調理、加工に伴う食品成分の物性的・化学的変化と栄養、嗜好性、安全性への影響を、実習を通して学ぶ。また、殺菌、滅菌などの衛生管理、製品管理の技術などを習得する。実習では、家庭、学校現場、食品製造メーカー等で扱う加工食品や、微生物の力を利用した発酵食品などの身近な加工食品の加工・製造技術を学ぶ。	1.食品の生育・生産から加工・調理を経て、人に摂取されるまでの過程における、食材の成分の変化と加工の関係が理解できる。 2.各加工食品の加工原理が理解できる。 3.作業手順に基づき加工食品を完成することができる。

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、実習講義	
2	果実類の加工（１）：イチゴジャムの瓶詰【実習】【レポート】	
3	果実類の加工（２）：マーマレードの瓶詰【実習】【レポート】	
4	穀類の加工（１）：うどん【実習】【レポート】	
5	穀類の加工（２）：パスタ【実習】【レポート】	
6	豆類の加工（１）：木綿豆腐、寄せ豆腐【実習】【レポート】	
7	豆類の加工（２）：充填豆腐、がんもどき【実習】【レポート】	
8	いも類の加工：こんにゃく【実習】【レポート】	
9	野菜類の加工（１）：ピクルスの瓶詰 きのこ類の加工：なめたけの瓶詰【実習】【レポート】	
10	野菜類の加工（２）：レトルト食品（カレー）【実習】【レポート】	
11	海藻類の加工：ところてん【実習】【レポート】	
12	乳類の加工：ソフトクリーム【実習】【レポート】	
13	自主テーマによる食品製造実習【実習】【レポート】	
14	発表【プレゼンテーション】	
15	総まとめ【相互評価】	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	70	説明を聞き、適切に実習がなされているか評価する。	実習態度	30	安全面に配慮しながら主体的に取り組んでいるかを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1.毎授業前に授業予定の部分を読んでくる 2.授業終了後、その単元全体を復習する （50分）	質問については、授業終了時またはメール等で対応する。 レポートは次の授業時に返却する。

受講生に望むこと	講義の内容を定着させるために、教科書を繰り返し読んでほしい。	教科書・テキスト	適宜プリントを使用する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	食品衛生学実験			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	榎本　俊樹						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実験
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
実験を通じて、食品の安全性を確保するための原理を理解するとともに、食品の安全と密接に関与する食品中の化学物質、アレルゲン及び微生物（細菌）、さらには食品の安全に寄与する添加物について、その取り扱い方、検出方法、同定や定量方法などの基本的な技術を修得することを目的とする。	①食品の安全性を評価するための技術を使うことができる。 ②微生物の取り扱い手法及び検出法の技術を使うことができる。 ③生活環境には食品の安全性を脅かす様々なリスクが存在することを理解し、食品の安全を判断できる。

教授方法	実験
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実験に関する注意事項、レポートの書き方などについての説明。スプレッドシートを使用したデータ整理やグラフ作成方法の習得。	
2	簡易測定キットによる水道水などの水質検査	
3	過酸化物価測定による油脂の劣化評価	
4	コンウェイ微量拡散法による食品中の揮発性塩基窒素量の測定①	
5	コンウェイ微量拡散法による食品中の揮発性塩基窒素量の測定②	
6	ELISA法を用いた食品中のアレルゲンの測定①	
7	ELISA法を用いた食品中のアレルゲンの測定②	
8	比色法による魚醤油中のヒスタミン含量の測定	
9	食品中の一般生菌数及び大腸菌群の測定①	
10	食品中の一般生菌数及び大腸菌群の測定②	
11	薄層クロマトグラフィーによる食品中の合成着色料の同定①	
12	薄層クロマトグラフィーによる食品中の合成着色料の同定②	
13	比色法による食品添加物（合成保存料）の測定①	
14	比色法による食品添加物（合成保存料）の測定②	
15	ATPふき取り法による適切な手洗い方法と手洗い効果の確認	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	70	適切に実験がなされているか、科学的な考察がなされているか、実験レポートとしての体裁が整っているかなどを評価する。	実験への参加度	30	取り組み姿勢、授業態度などを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前に配布した実験テキストを読み、内容を把握しておくこと。[30分]	レポートは示された期日までにclassroomに提出すること。

受講生に望むこと	実験は危険を伴うこともあるので、遅刻せず、説明をすべて聞いたうえで実験を行うこと。大幅な遅刻の入室は認めない。	教科書・テキスト	作成したテキスト。
指定図書／参考書等	なし／食品衛生学実験　杉山章、岸本満、和泉秀彦　編　みらい 2016年　　ISBN 978-4-86015-396-0	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	調理学実習Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	俵　万里子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
調理は献立作成から始まり、適切な食品を選び、それに調理操作を行って、美味しい食べ物に仕上げ、盛り付けし喫食するまでが対象になる。管理栄養士には、食材に関する知識や調理技術を身につけ、健全で安全な食生活を実践、管理する能力が求められる。そのため本授業では、調理の際の衛生管理、食材の調理特性と扱い方および加熱調理、非加熱調理などの調理操作の原理など基本的な調理技術の習得を目標に、日本料理、西洋料理、中国料理の代表的な料理を取り上げて実習を進める。	①基礎的な調理方法を理解し、その技術を習得する。 ②基本的な切り方などは、一定の水準に達すること（適度なスピードで正しい包丁の使い方が出来る）。 ③日常的に利用する食材の使い方を習得する。 ④栄養面、安全面、嗜好面を考慮し調理することができる。

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	調理の概要：調理の目的・実習の心得を理解する。	
2	食材の切り方・計量の仕方：野菜の基本的な切り方、計量の仕方を学ぶ。	
3	日本料理：炊飯・すまし汁（混合出し）・卵の調理・浸し：炊飯とその理論、だし汁のとり方、卵の扱い方、青菜の茹で方を学ぶ。	
4	日本料理：味付け飯・酢の物（二杯酢）・煮物・味噌汁：炊き込みご飯の副材料の使い方、酢の物の合わせ酢の比率、煮物の調理比率の計算、味噌汁の調理を学ぶ。	
5	日本料理：味付け飯・炒り煮・即席漬・フルーツ白玉：味付け飯の調理比率と留意点、炒り煮の留意点、漬物の原理、もち米粉の調理を学ぶ。	
6	西洋料理：魚の蒸し料理・ソース・サラダ・冷菓：魚の蒸し料理の留意点、基本のソース（ホワイトソース）、ゼラチンの調理性を学ぶ。	
7	日本料理：煮魚：酢の物（三杯酢）・卵の調理（蒸し物）・柏餅：煮魚の方法、三杯酢の調味、卵の蒸し物の留意点、うるち米粉の調理を学ぶ。	
8	日本料理：煮魚・酢の物（酢味噌和え）・潮汁：魚の三枚おろし、魚の酢締めの理論と方法、魚介類の旨味について学ぶ。	
9	西洋料理：ソース・挽肉料理・魚介のマリネ：基本のソース（トマトソース）、挽肉調理の留意点、イカの扱い方、マリネの方法について学ぶ。	
10	日本調理：揚げ物（天ぷら）・あんかけ料理：揚げ物の理論と調理、あんかけ料理の調理について学ぶ。	
11	日本料理：焼き物・麺類：魚の姿焼きの留意点、麺類の扱い方を学ぶ。	
12	西洋料理：フライ料理・スープ・冷菓：フライの留意点、野菜の旨味を生かしたスープの調理、コーンスターチの糊化について学ぶ。	
13	中国料理：炒菜・溜菜・桧菜・点心：中国料理の炒め物、あんかけ料理について学ぶ。	
14	中国料理：焼菜・桧菜・炒菜・点心：中国料理の煮しめ料理、薄くず料理について学ぶ。	
15	中国料理：湯菜・拌菜・点心：中国料理の和え物、スープ、点心について学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習状況	50	実習に取り組む態度や毎回の実習レポートの記載状況	実技試験	50	調理操作の習熟度を評価する

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①実習前にテキストで予習し、調理の段取りを把握する。（30分） ②実習内容をまとめる。	レポートは学期内にコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	①調理前にテキストを読み、内容を理解して実習に臨む ②食材に関心を持ち、出回り時期や価格に注意する。 ③常に計量する習慣をつける ④実習で行った料理の復習をする。	教科書・テキスト	本学で作成したテキストを使用する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	初回の授業時に実習計画を配布するが、食材の出回り等により変更することがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	調理学実習Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	俵　万里子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
「調理学実習Ⅰ」で習得した食材の調理特性を生かした取り扱い方や基本的な調理技術を土台に、日本料理、西洋料理、中国料理の代表的な料理や季節の献立や行事食などについて実習を行い、食事様式や食文化など、より広く調理学について学習する。応用的、発展的な実習を通して、調理の知識・技術を高め、食品の調理性、調理操作（炒める、煮る、蒸す、揚げるなど）、栄養バランス、喫食者の嗜好、食文化に配慮して、献立作成および調理する力を習得する。	①基礎的なものに加え、応用的な調理方法を理解し、その技術を習得する。 ②多様な調理器具の使い方を会得する。 ③日常的に利用する食材に加え、特殊食材の使い方を習得する。 ④理論と実技を関連させて理解し、実践できる。

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	日本料理：すし・寄せもの・わらびもち：すし飯の調理、でんぷん（わらび粉）の糊化について学ぶ。	
2	西洋料理：チャウダー・ピカタ・クッキー：貝の調理、豚肉の調理、クッキーの留意点について学ぶ。	
3	日本料理：蒸しもの調理、酢の物（胡麻酢和え）・羊羹：赤飯、茶碗蒸しの調理を通して、蒸し物の原理と材料による才を理解する。またゲル化材料としての寒天の調理性を理解する。	
4	西洋料理：カレー・ムニエル・サラダ：カレーのルーの特徴、ムニエルの調理、サラダの留意点について学ぶ。	
5	日本料理：味付け飯、炊き合せ、和え物（白和え）：栗、蓮根など季節の食材の調理を理解する。	
6	西洋料理：スパゲティ・フリッター・サラダ：パスタの扱い方、ミートソースの調理、フリッターと天ぷらとの違いについて学ぶ。	
7	日本料理：おでん：おでんの調理、季節の食材を利用した合理的な調理方法を学ぶ。	
8	西洋料理：包み焼き・スクランブルエッグ・ポタージュ：包みや焼きの留意点、スクランブルエッグ、ポタージュの調理について学ぶ。	
9	中国料理：炒菜・焼菜・点心：牛肉、豚肉、魚介類を生かした中国料理の手法を学ぶ。	
10	日本料理：刺身・粕汁・田楽・だし巻き卵：さしみの基本を学ぶ。	
11	西洋料理：デコレーションケーキ：スポンジケーキの膨化原理を理解し、調理する。各自デコレーションを工夫する。	
12	日本料理：正月料理：おせち料理の意義を理解し、その調理法を知る。	
13	西洋・ロシア料理：ボルシチ・コキール・シュークリーム：ロシア料理を体験する。シュークリームの膨化原理を理解し調理する。	
14	中華料理：溜菜・拷菜・拌菜・点心：鯵の三枚おろしの技術を習得する。	
15	日本料理：鍋料理：寄せ鍋の特徴と調理法を学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習状況	50	実習に取り組む態度や毎回の実習レポートの記載状況	実技試験	50	調理操作の習熟度を評価する

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①実習前にテキストで予習し、調理の段取りを把握する。（30分） ②実習内容をまとめる。	レポートは学期内にコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	①調理前にテキストを読み、内容を理解して実習に臨む。 ②食材の出回り時期や価格に関心を持つ。 ③常に計量する習慣をつける。 ④実習で行った料理の復習をする。	教科書・テキスト	本学で作成したテキストを使用する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	初回の授業時に実習計画を配布するが、食材の出回り等により変更することがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	調理学実習Ⅲ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	俵　万里子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
「調理学実習Ⅰ」および「調理学実習Ⅱ」で習得した知識・技術を土台に、調理科学実験や災害時の食事、郷土料理、コース料理等の実習を行う。調理科学実験では調理操作過程における諸現象について理解し、科学的、合理的に調理を行う力を身につける。調理実習では、調理の理解を深めるとともに、多様な喫食者の栄養状態や要望、環境に応じ、衛生管理、安全、栄養バランス、嗜好性に配慮しながら、幅広い視野で食事の提供ができる実践力を身につける。	①食材の調理特性を科学的な視点で理解できる ②喫食者や環境の状況に応じ、食事提供するための知識を習得する ③郷土料理を知り、その調理法を習得する

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	調理科学実験：小麦粉の膨化を理解する。	
2	災害時の食事：ポリ袋調理を体験し、災害時に必要な食事支援について考えるきっかけとする。	
3	調理科学実験：揚げ物における吸油率の測定方法や調理法による吸油率の違いを理解する。	
4	3・１・2弁当箱法：3・1・2弁当箱法の理論を学び、実践する。	
5	味覚に関する実験：味覚の閾値測定、味の相互作用、官能評価（順位法による嗜好検査等）について理解する。	
6	介護食：介護食に適した食材の調理法について学ぶ。	
7	パン・ジャム：果実類の加工、パン生地の膨化について学ぶ。	
8	エコクッキング：環境に負担をかけない調理法について考えるきっかけとする。	
9	電子レンジ料理：電子レンジを活用した調理法について学ぶ。	
10	郷土料理1：祭礼献立（押し寿司など）、供応食（じぶ煮など）の調理を学ぶ。	
11	郷土料理2：いわしの団子汁、イカ飯など総菜的な郷土食を学ぶ。	
12	会席献立1：会席献立を調理し、献立の内容を理解する。	
13	会席献立2：会席献立を調理し、献立の内容を理解する。	
14	正餐コース1：正餐のテーブルセットをマナーについて学ぶ。	
15	正餐コース2：ステーキの焼成の要点について学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習状況	50	実習に取り組む態度や実習レポートの記載状況	課題	50	質的量的に適切であるかを評価する

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「調理学実習Ⅰ」「調理学実習Ⅱ」で学んだ知識を生かせるよう復習しておく（30分） ②実習内容をまとめる	レポートは学期内にコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	学んだ内容をより深く理解し、実践に生かせるよう、家庭でも実践することを望む。	教科書・テキスト	本学で作成したテキストを使用する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	初回の授業時に実習計画を配布するが、食材の出回り等により変更することがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	基礎栄養学実験			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実験
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
栄養とは、生命を維持して活動するために、必要な物質（栄養素）を体外から摂取して活用し、不要なものを排出する一連の流れのことである。本授業では基礎栄養学での栄養と栄養素の関わりの学びをもとに栄養素の役割への理解を深めることをねらいに、栄養素別の性質や消化について実験を通して学ぶ。また、行動時間調査からエネルギー消費量を推定し、基礎代謝量や推定エネルギー必要量、身体活動レベルを算出し、食事量と体格との関係なども含めて、栄養素等の摂取から消費までの概念に理解を深める。	1.課題内容を理解し、安全に配慮して行うことができる。 2.各テーマの実験目的および手順を理解し、正しく実験を行うことができる。 3.得られた結果を客観的かつ適正に考察することができる。

教授方法	実験
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実験ガイダンス（基礎栄養学実験の目的と概要を理解している。実験室の使い方、実験器具の取り扱い方を理解している。）	
2	エネルギー代謝の実験①　体組成測定	
3	エネルギー代謝の実験②　体組成測定	
4	糖質の実験①：糖質の判定	
5	糖質の講義	
6	糖質の実験②③：でんぷん、アミラーゼ	
7	たんぱく質の講義	
8	たんぱく質の実験①②：カゼイン、濃度定量	
9	エネルギー代謝の実験③　体組成測定	
10	たんぱく質の実験③④：消化、アミノ酸	
11	脂質の講義	
12	脂質の実験①②：溶解性、乳化	
13	授業のまとめ①：三大栄養素についてまとめる	
14	エネルギー代謝の実験④：体組成測定	
15	授業のまとめ（2）：三大栄養素についてまとめるを発表	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	80	必要事項を適正にまとめ、提出期限までに提出しているか	授業参加姿勢	20	メンバーと協力しながら積極的に取り組んでいるか

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書、資料を読み、実験内容を把握する（30分）。 ②事後学習：授業内容を振り返り、要点を整理する。授業時間内に終わらなかったことは次の授業までに完了しておく（60分）。	授業内で適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	各回の実験に丁寧に取り組み、また日常生活においても食品や栄養に興味関心を持つことを心がけて下さい。	教科書・テキスト	『基礎栄養学実験』木元幸一・鈴木和春編著,建帛社,2009年,ISBN978-4-7679-0383-5
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	応用栄養学Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	相良　多喜子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、「応用栄養学Ⅰ」の学修をふまえ、ライフステージに応じた栄養管理を実践するために、ライフステージ別食事摂取基準の要点、成長・発達、加齢に関する概念と加齢に伴う身体的変化・精神的変化について学ぶ。さらに、妊娠・授乳期、新生児・乳児期、幼児期、学童期から思春期にいたるまでの成長期について各ステージの生理的・身体的特徴、栄養アセスメント、疾患と栄養との関連を取り上げ、それに対応した栄養管理の特徴を学ぶ。	①成長・発達、加齢に関する概念を説明できる。 ②妊娠期～思春期までの各ライフステージの生理的・身体的特徴、疾患と栄養との関連、それに対応した栄養管理の特徴について理解し、説明できる。

教授方法	講義
履修条件	管理栄養士・食品衛生管理者及び食品衛生監視員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	成長、発達、加齢、ライフサイクルの概念	
2	妊娠期の生理的特徴	
3	妊娠期の栄養アセスメントと栄養ケア	
4	授乳期女性の生理的特徴	
5	授乳期女性の栄養アセスメントと栄養ケア	
6	新生児期・乳児期の生理的特徴	
7	新生児期・乳児期の栄養上の課題	
8	新生児期・乳児期の栄養アセスメントと栄養ケア	
9	幼児期の生理的特徴	
10	幼児期の栄養上の課題	
11	幼児期の栄養アセスメントと栄養ケア	
12	学童期の生理的特徴	
13	学童期の栄養アセスメントと栄養ケア	
14	思春期の栄養上の課題	
15	思春期の栄養アセスメントと栄養ケア	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
筆記試験	70	問題の正答率	課題レポート	20	課題への取組とまとめ方
授業態度	10	授業への参加意欲			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎授業前に授業予定の部分を熟読する。［60分］ ②授業終了後、その単元全体を復習する。［90分］	授業内で適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	①他の学科目と関連させながら勉強してほしい ②健康関連の情報（新聞・雑誌等）に関心を持つこと	教科書・テキスト	『応用栄養学』第3版　第2刷発行（栄養科学イラストレイテッド）栢下 淳、上西 一弘　編集　羊土社　2025年10月1日　ISBN-13：978-4-7581-1379-3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	応用栄養学Ⅲ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	相良　多喜子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
「応用栄養学Ⅱ」に続き、成人期、更年期、高齢期の生理的・身体的特徴、疾患と栄養、それに対応した栄養管理の特徴について学ぶ。特に成人期・更年期に特徴的な食生活、食習慣、生活習慣と生活習慣病との関連を取り上げ、高齢期は今日的な課題である低栄養、フレイル等の問題を取り上げる。また、身体活動時のエネルギー代謝や生理的特徴、栄養ケアを学ぶ。さらに、ストレス応答と代謝の特徴や特殊環境下での栄養ケア、災害時の栄養ケアも取り上げる。	①成人期から高齢期までのライフステージ毎の生理的・身体的特徴、疾患と栄養、それに対応した栄養管理の特徴について理解し、説明できる。 ②運動時の栄養管理の特徴を説明できる。 ③ストレス・特殊環境下での栄養ケアを説明できる。 ④災害時の栄養ケアを理解できる。”

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	加齢、老化の生理	
2	成人期の生理的特徴	
3	成人期の栄養上の課題	
4	成人期の栄養アセスメントと栄養ケア	
5	更年期の生理的特徴	
6	更年期の栄養アセスメントと栄養ケア	
7	高齢期の生理的特徴	
8	高齢期の栄養上の課題	
9	高齢期の栄養アセスメントと栄養ケア	
10	健康増進と運動	
11	運動時の生理的変化の特徴とエネルギー代謝	
12	運動と栄養ケア	
13	特殊環境と栄養ケア	
14	ストレスと栄養ケア	
15	災害時の栄養ケア	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
筆記試験	70	問題の正答率	授業参加意欲	10	授業への参加意欲
課題レポート	20	課題への取組とまとめ方			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎授業前に授業予定の部分を熟読する。［60分］ ②授業終了後、その単元全体を復習する。［90分］	授業内で適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	①他の学科目と関連させながら勉強してほしい ②健康関連の情報（新聞・雑誌等）に関心を持つこと”	教科書・テキスト	『応用栄養学』第3版（栄養科学イラストレイテッド）栢下 淳、上西 一弘　編集　羊土社　2025年2月 ISBN-13：978-4-7581-1379-3　※応用栄養学Ⅰ・Ⅱで使用した教科書と同じ
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	応用栄養学実習Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	相良　多喜子・俵　万里子　（代表教員　相良　多喜子）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
応用栄養学で学んだ知識を基に、妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期の各ライフステージの生理的・身体的、栄養学的特徴を踏まえた適正な栄養管理の一連の流れについて、演習や実習を通して習得することを目的とする。対象者の栄養状態を評価および判定し、食事計画、食品構成、献立の立案を行う。さらに調理、栄養評価の実施を行い、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理について理解を深め、実践的な技術、知識を身につける。	①妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期における特性と問題点を理解し、それに応じた栄養管理ができるようになる。 ②対象者の身体状況、栄養状態を捉え、栄養学的配慮がなされた献立を作成することができるようになる。 ③各ライフステージの栄養管理に必要な衛生上、調理上の技術を習得する。

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス:栄養ケア・マネジメントの概要、目的、方法について理解する。	相良
2	妊娠期の栄養管理１：妊娠期の特性と栄養ケアのあり方について理解する。	相良
3	妊娠期の栄養管理２：妊娠期の症例（事例）について栄養ケア計画を作成し、食品構成・献立作成のプロセスを演習する。	相良
4	妊娠期の栄養管理３：妊娠期の食事の特徴や留意点を調理実習を通して理解する。	相良
5	授乳期の栄養管理１：授乳期の特性と栄養ケアのあり方について理解する。	相良
6	授乳期の栄養管理２：授乳期の症例（事例）について栄養ケア計画を作成し、食品構成・献立作成のプロセスを演習する。	相良
7	授乳期の栄養管理３：授乳期の食事の特徴や留意点を調理実習を通して理解する。	俵
8	乳児期の栄養管理１：乳児期の特性と栄養ケアのあり方について理解する。	俵
9	乳児期の栄養管理２：乳児期の症例（事例）について栄養ケア計画を作成し、食品構成・献立作成のプロセスを演習する。	俵
10	乳児期の栄養管理３：調乳の方法や離乳食の進め方について調理実習を通して理解する。	俵
11	乳児期の栄養管理４：離乳食の進め方や留意点について調理実習を通して理解する。	俵
12	幼児期の栄養管理１：幼児期の特性と栄養ケアのあり方について理解する。	俵
13	幼児期の栄養管理２：幼児期の症例（事例）について栄養ケア計画を作成し、食品構成・献立作成のプロセスを演習する。	俵
14	幼児期の栄養管理３：幼児期（3歳未満児）の食事の特徴や留意点を調理実習を通して理解する。	俵
15	幼児期の栄養管理４：幼児期（3歳以上児）の食事の特徴や留意点を調理実習を通して理解する。	俵

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
献立演習	40	各ライフステージの特性に応じた献立を立てる。	授業参加意欲	20	受講態度、調理実習中の取り組み。
実習レポート	40	テーマの特徴を講義やテキスト、他の図書等を参考にして記載する。調理実習のポイント、反省、盛り付け図などを記載する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「応用栄養学Ⅰ」および「応用栄養学実習Ⅱ」で学んだ知識を生かせるよう復習しておく。[30分] ②レポートをまとめ、1週間以内に提出する。	レポートは学期内に評価とコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	①実習の目的と内容を十分に理解して授業に臨むこと。 ②提出物は期限までに必ず提出すること。	教科書・テキスト	『スタンダード人間栄養学『これからの応用栄養学演習・実習』第2版　渡邊早苗・宮崎由子編　朝倉書店 2025年　ISBN978-4-2546-1070-3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	応用栄養学実習Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	相良　多喜子・俵　万里子　（代表教員　相良　多喜子）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
応用栄養学で学んだ知識を基に、学童期、思春期、成人期・更年期、高齢期の各ライフステージの生理的・身体的特徴、栄養学的特徴を踏まえた適正な栄養管理の一連の流れについて、演習や実習を通して習得することを目的とする。対象者の栄養状態を評価および判定し、食事計画、食品構成、献立の立案を行う。さらに調理、栄養評価の実施を行い、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理について理解を深め、実践的な技術、知識を身につける。	①学童期、思春期、成人期・更年期、高齢期における特性と問題点を理解し、それに応じた栄養管理ができるようになる。 ②対象者の身体状況、栄養状態を捉え、栄養学的配慮がなされた献立を作成することができるようになる。 ③各ライフステージの栄養管理に必要な衛生上、調理上の技術を習得する。

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	学童期の栄養管理１：学童期の特性と栄養ケアのあり方について理解する。	相良
2	学童期の栄養管理２：学童期の症例（事例）について栄養ケア計画を作成し、食品構成・献立作成のプロセスを演習する。	相良
3	学童期の栄養管理３：学童期の食事の特徴や留意点を調理実習を通して理解する。	相良
4	思春期の栄養管理１：思春期の特性と栄養ケアのあり方について理解する。	相良
5	思春期の栄養管理２：思春期の症例（事例）について栄養ケア計画を作成し、食品構成・献立作成のプロセスを演習する。	相良
6	思春期の栄養管理３：思春期の食事の特徴や留意点を調理実習を通して理解する。	相良
7	成人期の栄養管理１：成人期の特性と栄養ケアのあり方について理解する。	俵
8	成人期の栄養管理２：成人期の症例（事例）について栄養ケア計画を作成し、食品構成・献立作成のプロセスを演習する。	俵
9	成人期の栄養管理３：成人期の食事の特徴や留意点を調理実習を通して理解する。	俵
10	高齢期の栄養管理１：高齢期の特性と栄養ケアのあり方について理解する。	俵
11	高齢期の栄養管理２：高齢期の症例（事例）について栄養ケア計画を作成し、食品構成・献立作成のプロセスを演習する。	俵
12	高齢期の栄養管理３：高齢期の食事の特徴や留意点を調理実習を通して理解する。	俵
13	スポーツ選手の栄養管理１：スポーツ選手の食事の特徴や留意点を調理実習を通して理解する。	俵
14	スポーツ選手の栄養管理２：スポーツ選手について栄養ケア計画を作成し、食品構成・献立作成のプロセスを演習する。	俵
15	スポーツ選手の栄養管理３：スポーツ選手の食事の特徴や留意点を調理実習を通して理解する。	俵

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
献立演習	40	各ライフステージの特性に応じた献立を立てる。	実習レポート	40	テーマの特徴を講義やテキスト、他の図書等を参考にして記載する。調理実習のポイント、反省、盛り付け図などを記載する。
授業参加意欲	20	受講態度、調理実習中の取り組み。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎授業前に授業予定の部分を熟読する。［60分］ ②レポートをまとめ、期日までに提出する。［60分］	レポートは学期内に評価とコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	①実習の目的と内容を十分に理解して授業に臨むこと。 ②提出物は期限までに必ず提出すること。	教科書・テキスト	『スタンダード人間栄養学『これからの応用栄養学演習・実習』第2版　渡邊早苗・宮崎由子編　朝倉書店 2025年　ISBN978-4-2546-1070-3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	栄養教育論Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	相良　多喜子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
栄養教育は、人々の生涯にわたる健康の保持・増進あるいは疾病の予防に寄与し、QOLの向上を目指すものである。本授業では、対象に応じたプログラム作成のために必要な、健康・栄養状態、食行動等の情報収集・分析方法を学ぶ。さらに、目標の設定、計画やカリキュラム立案の方法、教材作成やプレゼンテーション技術、改善に向けた評価など一連のマネジメントサイクルを体系的に修得する。	1、栄養教育に必要なアセスメントの種類とその特徴を説明し、計画に活かすことができる。 2. 対象に応じた栄養教育の目標の種類とその特徴を説明し、計画に活かすことができる。 3. 対象に応じた栄養教育の方法とその特徴を説明し、実施することができる。 4. 栄養教育プログラムの評価の種類とその特徴を説明し、評価・改善に活かすことができる。 5. 栄養教育プログラムを作成し、PDCAを回すことができる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	栄養教育マネジメント　栄養教育の目標設定	
2	栄養教育マネジメント　栄養教育の計画とカリキュラム	
3	栄養教育マネジメント　栄養教育の計画と教材	
4	栄養教育マネジメント　栄養教育の形式	
5	栄養教育マネジメント　栄養教育の計画と指導案の作成	
6	栄養教育マネジメント　栄養教育の実施　プレゼンテーション	
7	栄養教育マネジメント　栄養教育のバイアス	
8	栄養教育マネジメント　栄養教育の評価の種類	
9	栄養教育マネジメント　栄養教育の実践方法1	
10	栄養教育マネジメント　栄養教育の実践方法2　プログラムの準備	
11	栄養教育マネジメント　栄養教育の実践方法3　プログラムの実施	
12	栄養教育マネジメント　栄養教育の実践方法4　プログラムの評価	
13	栄養教育マネジメント　栄養教育の実践方法5　プログラムの改善	
14	栄養教育マネジメント　栄養教育の実践方法6　プログラム事業の全体評価	
15	栄養教育マネジメント　全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	栄養教育マネジメントの一連の流れを理解し説明できるか。栄養教育の計画立案ができるか。栄養教育プログラム全体の評価・改善を行うことができるか。	積極性	10	積極的に授業参加できたか。
課題レポート	20	対象・場に応じた栄養教育マネジメントプログラムの計画立案・実施・評価・改善の一連の栄養教育実践展開ができるか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習［30分］：教科書の該当範囲を読んでおく。事後学習［90分］：授業内容を振り返り、要点を整理する。	レポートは次の授業時に返却する。

受講生に望むこと	他科目との関連を意識しながら学んで欲しい。	教科書・テキスト	『栄養科学イラストレイテッド栄養教育論』辻雅子、岡崎光子　編集　羊土社　2026年　ISBN978-4-7581-1384-7
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	栄養教育論Ⅲ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	相良　多喜子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
栄養教育の概念と基礎理論を理解し、人の行動変容に関する理論を学んだ上で、身体的、精神的、社会的状況等ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育の方法について学ぶ。各ライフステージの特徴と栄養教育マネジメントの概念及びプログラム作成の意義を理解し、人々の健康の保持増進とQOL向上につながる栄養教育を多様な場で実践できるように、プログラム事例展開により計画立案・実施・評価の一連の方法と応用を修得する。	1、対象者の特性に応じた栄養教育の特徴を説明できる。 2. テーマごとの適切な栄養教育プログラムの作成、展開、評価法を理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	栄養教育の概念と基礎理論（栄養教育マネジメントの基礎的理解、ライフステージ別栄養教育プログラム作成の要点）	
2	栄養教育プログラムと行動科学理論、栄養カウンセリング技法の概念・活用の要点	
3	妊婦・授乳期の特徴と栄養教育マネジメント（プログラム・実践・評価・改善の概念と特徴）	
4	妊婦・授乳期の特徴と栄養教育マネジメント（プログラム事例展開）	
5	乳児期の特徴と栄養教育マネジメント（プログラム・実践・評価・改善の概念と特徴）	
6	授乳期の特徴と栄養教育マネジメント（プログラム事例展開）	
7	学童・思春期の特徴と栄養教育マネジメント（プログラム・実践・評価・改善の概念と特徴）	
8	学童期・思春期の特徴と栄養教育マネジメント（プログラム事例展開）	
9	成人期・中壮年期の特徴と栄養教育マネジメント（プログラム・実践・評価・改善の概念と特徴）	
10	成人期・中壮年期の特徴と栄養教育マネジメント（プログラム事例展開）	
11	高齢期の特徴と栄養教育マネジメント（プログラム・実践・評価・改善の概念と特徴）	
12	高齢期の特徴と栄養教育マネジメント（プログラム事例展開）	
13	生活習慣病の一次予防、二次予防、三次予防、スポーツ時の特徴と栄養教育マネジメント（プログラム・実践・評価・改善の概念と特徴）	
14	生活習慣病の一次予防、二次予防、三次予防、スポーツ時の特徴と栄養教育マネジメント（プログラム事例展開）	
15	対象別栄養教育マネジメント（プログラム・実践・評価・改善の概念と特徴）のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	ライフステージ別の特徴と栄養教育マネジメントの概念、プログラム作成の意義が理解できたか。	積極性	10	積極的に授業参加し、学修できたか。
課題レポート	30	ライフステージ別の特徴と栄養教育マネジメントのプログラム・実践・評価ができ、フィードバック・改善法が理解できる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習［30分］：教科書の該当範囲を読んでおく。事後学習［90分］：授業内容を振り返り、要点を整理する。	レポートは次の授業時に返却する。

受講生に望むこと	他科目との関連を意識しながら学んで欲しい。	教科書・テキスト	『栄養科学イラストレイテッド栄養教育論』辻雅子、岡崎光子　編集　羊土社　2026年　ISBN978-4-7581-1384-7
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	栄養教育論実習Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	相良　多喜子・三田　陽子　（代表教員　相良　多喜子）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
栄養教育においては、対象者自身が自らの課題に気づき、行動変容により課題を解決しようとする対象者中心の支援が求められている。そのためには理論を把握し、その技法を修得した栄養教育の実践が必要となる。この実習では食生活に影響する様々な因子を理解した上で、効果的な食行動変容の栄養教育を探り、ライフステージ・ライフスタイル別の栄養改善を目的とする実践活動の技法や方法を学ぶ。また上記を修得するためにグループワーク、プレゼンテーションを行う。	1.栄養教育を実施する上での栄養カウンセリングの必要性が理解できる。 2.行動科学理論、カウンセリング理論・行動変容技法を理解し、知識を基にライフステージ別にPDCAサイクルに基づいて栄養教育を計画することができる。 3.集団や個人を対象とした効果的な栄養教育を実践できるようになる。 4.栄養カウンセリングの技法、行動変容技法とコミュニケーションのスキルを活用できるようになる。 5.ロールプレイング発表を通じてプレゼンテーション能力を身につけることができる。 6.栄養教育を進めるためにグループ内で協力し合うことができる。

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業の方法、成績評価等について）、栄養教育におけるカウンセリング（知識・基本的態度）、コミュニケーション演習・診断	相良
2	集団を対象としたポピュレーションアプローチにおける栄養教育の展開（1）・対象者の設定、対象地域の設定　・栄養教育計画に必要な情報収集　・健康・栄養課題の抽出	相良
3	集団を対象としたポピュレーションアプローチにおける栄養教育の展開（2）・栄養教育目標の設定・栄養教育目標の設定　・栄養教育計画立案　・学習形態の設定	相良
4	集団を対象としたポピュレーションアプローチにおける栄養教育の展開（3）・教育目標に合わせた適切な媒体の作成	相良
5	集団を対象としたポピュレーションアプローチにおける栄養教育の展開（4）・指導案、シナリオ、媒体を見直し改善する（発表準備）・ロールプレイの役割を決めて予行を行う（リハーサル）。予行後の教育内容の見直し・改善を行う。	相良
6	集団を対象としたポピュレーションアプローチにおける栄養教育の展開（5）・ロールプレイ（模擬指導実習）・評価　・振り返り	相良
7	栄養アセスメント演習・事例検討（日常の食生活・栄養状態を整理、栄養リスクの問題点を抽出）・医療モデルと生活モデルの両面からのアプローチ実践　・栄養計画書に基づきロールプレイ演習	相良
8	行動科学理論に基づく個人を対象とした栄養教育（1）・症例検討および栄養アセスメント・健康・栄養課題の抽出　・教育目標の立案	相良
9	行動科学理論に基づく個人を対象とした栄養教育（2）・栄養教育計画の作成　・教育目標に合わせたシナリオの作成　・教育目標に合わせた適切な媒体の選定	相良
10	行動科学理論に基づく個人を対象とした栄養教育（3）・ロールプレイ（模擬指導実習）・評価・振り返り	相良
11	個人を対象とした栄養カウンセリングを用いた栄養教育の展開（1）・症例検討・栄養アセスメント・健康・栄養課題の抽出・場面の設定	三田
12	個人を対象とした栄養カウンセリングを用いた栄養教育の展開（2）・栄養教育指導案の作成・学習目標、行動目標の設定　・教育目標に合わせた栄養指導の流れの作成	三田
13	個人を対象とした栄養カウンセリングを用いた栄養教育の展開（3）・教育目標に合わせた適切な媒体の作成	三田
14	個人を対象とした栄養カウンセリングを用いた栄養教育の展開（4）・ロールプレイ（模擬指導実習）	三田
15	個人を対象とした栄養カウンセリングを用いた栄養教育の展開（5）・模擬指導実習の評価・振り返り	三田

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題レポート①	40	毎回の授業目的を理解し、適切にまとめることができる。行動変容手法やカウンセリング技法の応用ができる。	課題レポート②	50	毎回の授業目的を理解し、適切にまとめることができる。課題抽出、一連のマネジメント法への展開が理解できる。
授業参加意欲	10	積極的に取り組んでいるか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習［30分］：授業日の単元のテキストに目を通しておく。 ライフステージ別の栄養教育の基礎理論をまとめておく。 事後学習［90分］：授業内容を振り返り、要点をまとめる。	レポートは次の授業時に返却する。

受講生に望むこと	授業で実施したことを自身の生活で振り返ること。	教科書・テキスト	三訂「マスター栄養教育論実習」佐藤香苗・ 安達内美子 編著　建帛社　2025年 ISBN 978-4-7679-0785-7
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	栄養教育論実習Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	相良　多喜子・三田　陽子　（代表教員　相良　多喜子）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
栄養教育は、対象者の健康増進やQOL向上のために、行動科学理論と教育学の基礎をふまえ、カウンセリング技法を応用し、マネジメントサイクルにより行動変容に導くような栄養教育プログラムの実践により行われる。ライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする方法や技術を、実習を通して学ぶ。具体的には栄養教育の場面を設定し、実施において必要となる栄養カウンセリング技法を用いた個別栄養教育実習を行う。また、集団を対象とした栄養教育プログラムの計画、立案により適切な教材や教育媒体を作成、模擬栄養教育を行う。これらを通し、指導におけるコミュニケーション力・プレゼンテーション力を高める。	1.ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育に関して、修得した知識に基づき、実際の教育の要点をふまえて展開することができる。 2.テーマ別の栄養教育のあり方について、論理的簡潔に自らの所見を表現することができる. 3.個人を対象とする栄養教育のためのアセスメントができる. 4.アセスメント結果に基づいて、個人に適した手法を用いた栄養教育の企画、立案ができる。 5.個人を対象に適した教材を用いて栄養カウンセリング、教育を行うことができる. 6.集団を想定した栄養教育の企画、立案ができる。 7.対象集団に適した手法を用いて、栄養教育を実際に行うことができる。

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	個別栄養カウンセリング（1）栄養カウンセリングの理論と方法、栄養評価	相良
2	個別栄養カウンセリング（2）問診票作成、栄養アセスメント用紙作成	相良
3	個別栄養カウンセリング（3）個別指導カウンセリングデモンストレーション	相良
4	個別栄養カウンセリング（4）個別指導プランニング	相良
5	個別栄養カウンセリング（5）指導教材作成	相良
6	個別栄養カウンセリング（6）指導教材を用いた練習	相良
7	個別栄養カウンセリング（7）個別栄養教育の実際	相良
8	集団栄養教育（1）（乳児期・幼児期・学童期・青年期・壮年期・高齢期）設定	三田
9	集団栄養教育（2）集団栄養教育デモンストレーション	三田
10	集団栄養教育（3）栄養アセスメントのプレゼンテーション	三田
11	集団栄養教育（4）行動科学理論に基づく栄養教育プログラムの立案	三田
12	集団栄養教育（5）指導教材作成	三田
13	集団栄養教育（6）指導教材を用いた練習	三田
14	集団栄養教育（7）集団栄養教育の実際	三田
15	個別栄養カウンセリングおよび集団栄養教育のフィードバック	相良

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題レポート①	40	毎回の授業目的を理解し、適切にまとめることができる。行動変容手法やカウンセリング技法の応用ができる。	課題レポート②	50	毎回の授業目的を理解し、適切にまとめることができる。課題抽出、一連のマネジメント法への展開が理解できる。
授業参加意欲	10	積極的に取り組んでいるか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習［30分］：授業日の単元のテキストに目を通しておく。 ライフステージ別の栄養教育の基礎理論をまとめておく。 事後学習［90分］：授業内容を振り返り、要点をまとめる。	レポートは次の授業時に返却する。

受講生に望むこと	授業で実施したことを自身の生活で振り返ること。	教科書・テキスト	三訂「マスター栄養教育論実習」佐藤香苗・ 安達内美子 編著　建帛社　2025年 ISBN 978-4-7679-0785-7
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	臨床栄養学Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中川　明彦						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
「解剖生理学Ⅰ」「臨床栄養学Ⅰ」などで学んだ知識に基づき、各疾病と栄養状態との関係を理解し、疾病に対する臨床栄養学的なアプローチを実践するために基礎知識を学習する。栄養管理を必要とする主要疾病の発症機序および病態生理を概説し、食事療法の意義とその内容を解説する。医療チームのスタッフの一員である管理栄養士として、各疾病と栄養状態との関係を理解し、疾傷病者に適切な栄養管理を行うために必要な栄養計画と栄養処方を修得することを目標とする。	医療チームのスタッフの一員である管理栄養士として、各疾病と栄養状態との関係を理解し、疾傷病者に適切な栄養管理を行うために必要な栄養計画と栄養処方を修得することを目標とする。 ①疾病の治療状況から栄養スクリーニングツールが利用できる。 ②栄養スクリーニングから栄養評価が把握できる。 ③疾病・身体状況に対応した栄養補給方法を説明できる。 ④栄養評価に基づき、栄養介入計画を栄養計画書が作成できる。 ⑤各疾病の病態や栄養状態の特徴を概説できる。 ⑥各疾病の発症機序と栄養障害に基づく、栄養管理が説明できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	栄養代謝・内分泌代謝疾患（糖尿病、肥満症、メタボリックシンドローム他）	
2	栄養代謝・内分泌代謝疾患（脂質異常症、高尿酸血症）	
3	栄養代謝・内分泌代謝疾患（甲状腺機能障害、副腎疾患、他）	
4	循環器疾患（高血圧症、動脈硬化症、脳血管障害、摂食・嚥下障害）	
5	循環器疾患（虚血性心疾患、心不全）	
6	消化器疾患（口腔疾患、摂食・嚥下障害、胃食道逆流症、胃炎、胃・十二指腸潰瘍）	
7	消化器疾患（肝炎、肝硬変、脂肪肝、胆嚢炎、膵炎）	
8	消化器疾患（過敏性腸症候群、炎症性腸疾患、タンパク漏出性腸症）	
9	腎疾患（糸球体腎炎・急性腎障害・糖尿病性腎症、慢性腎臓病、透析療法）	
10	呼吸器系疾患（気管支炎、肺炎、慢性閉塞性肺疾患）	
11	外科分野、悪性腫瘍（消化管がん、肝臓がん・膵臓がん・肺がん）	
12	妊産婦の疾患（妊娠特有の疾患、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病）	
13	精神・神経疾患（摂食障害、認知症、パーキンソン病）	
14	免疫・アレルギー疾患（食物アレルギー、リウマチ性疾患、免疫不全、皮膚炎）	
15	乳幼児・小児疾患（先天性代謝異常、小児肥満、小児糖尿病）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加意欲	10	授業の取り組み、態度、姿勢について評価する	課題評価	20	前回の授業内容に基づく課題の提出
期末試験	70	期末試験における得点に基づいて評価する			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
【事前学習】「解剖生理学Ⅰ」「生化学Ⅰ・Ⅱ」「基礎栄養学」「応用栄養学」「臨床栄養学Ⅰ」の学修内容を十分に復習してから講義に臨むこと。（30分） 【事後学習】疾患別、病態別栄養管理を行うために、栄養スクリーニングから栄養評価できるように毎回十分に復習する。（30分）	次回の授業時に、添削し、返却する。 課題の理解度が低い場合には、講義の冒頭で解説し、または学習用資料を配布する

受講生に望むこと	「臨床栄養学Ⅰ」の栄養評価のための指標を基準に、各疾患による身体機能低下に必要な栄養素摂取（投与）量を加減、制限することの理解を目指して学んでほしい。	教科書・テキスト	栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学　基礎編　第３版本田佳子，曽根博仁／編：羊土社,2022年，ISBN 9784758113694/栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学　疾患別編　第３版本田佳子，曽根博仁／編：羊土社,2022年，ISBN 9784758113700/メディカルスタッフのための栄養療法ハンドブック(改訂第3版)，佐々木雅也（編集）：南江堂,2024年,ISBN-13978-4524206841/日本人の食事摂取基準〈2025年版〉厚生労働省：第一出版，2025.4.1
指定図書／参考書等	『栄養管理プロセス』公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1385-2）／『国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル』公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1270-	その他・特記事項	臨床栄養学は、医療専門関連学会のガイドラインの改訂により、その栄養管理指針などが変更される。その都度、新しいガイドラインに準じて、授業を進める。

実務経験を活かした授業の概要

医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。各疾患、症状、合併症、栄養摂取量（投与）身体指標、検査値などにより標準的な栄養養評価による栄養管理を学習する。医療現場では、標準化に属さない個々に状態に応じた栄養評価や実際の症例により栄養管理を学習する。

授業科目名	臨床栄養学Ⅲ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中川　明彦						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
「臨床栄養学Ⅰ」「臨床栄養学Ⅱ」「臨床栄養学演習」「臨床栄養学実習Ⅰ」などで学んだ知識を基に、各疾病と栄養面との関係を整理し、疾病に対する臨床栄養学的なアプローチを実践するための応用力を身につける。栄養管理を必要とする主要疾病の発症機序および病態生理、基礎疾患と合併症による疾患による相互的な食事療法の意義とその内容を整理する。医療チームのスタッフの一員である管理栄養士として、医師、看護師、歯科医師、薬剤師、理学療法士、その他医療スタッフの治療の方針を相互的に理解し、必要な栄養管理を提案することを目標とする。	①各疾病の病態や栄養状態の特徴を概説できる。 ②各疾病の発症機序と食事療法との関係を説明できる。 ③基礎疾患と合併症による食事療法が提案できる。 ④チーム医療における管理栄養士の立場から、疾病に対する臨床栄養学的なアプローチが提案できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	医療法、厚生労働省・医療の診療報酬制度について	
2	医療法に基づく厚生労働省の医療監視の役割、栄養部門に必要な業務記録の保存、管理栄養士が診療報酬に必要となる各諸団体の認定資格等について	
3	医療法に基づく診療記録と電子カルテ及び栄養部門の給食管理システムについて	
4	医療法に基づいた栄養部門業務及び医療施設の食事栄養基準の策定における管理栄養士の責務について	
5	診療報酬制度にチーム医療の参画による治療計画［PFM（Patient Flow Management）、クリニカルパス］と栄養管理事例報告（臨床栄養分野）のPOS：問題志向型システムを用いたPOMR：問題志向型診療録について	
6	医療施設における栄養管理報告の栄養診断とS：Subject（主観的情報・データ）、O：Object（客観的情報・データ）、A：Assessment（評価）、P：Plan（計画・治療［Mx：Monitoring plan（モニタリング計画）、Rx：Therapeutic plan（栄養治療計画）、Ex：Educational plan（栄養教育計画）］について　1	
7	医療施設における栄養管理報告の栄養診断とS：Subject（主観的情報・データ）、O：Object（客観的情報・データ）、A：Assessment（評価）、P：Plan（計画・治療［Mx：Monitoring plan（モニタリング計画）、Rx：Therapeutic plan（栄養治療計画）、Ex：Educational plan（栄養教育計画）］について　2	
8	医療施設における栄養管理報告の栄養診断とS：Subject（主観的情報・データ）、O：Object（客観的情報・データ）、A：Assessment（評価）、P：Plan（計画・治療［Mx：Monitoring plan（モニタリング計画）、Rx：Therapeutic plan（栄養治療計画）、Ex：Educational plan（栄養教育計画）］について　3	
9	医療施設の医療安全対策、感染対策に係わる栄養部門における管理栄養士の栄養管理と給食管理の業務と責務について	
10	栄養サポートチーム、褥瘡チーム、嚥下障害チーム、チーム医療による特定集中栄養管理（CCU）チームによる早期経腸栄養管理に係わる評価についてなどの診療報酬に基づくチーム医療の役割について	
11	周術期（胃・腸切除後）の栄養管理、がん治療中の栄養管理と緩和ケア（緩和ケアチーム）について　1	
12	周術期（胃・腸切除後など）の栄養管理、がん治療中の栄養管理と緩和ケア（緩和ケアチーム）について　2	
13	医療施設における災害時における栄養部門の危機管理体制、一般的な備蓄食品管理、各疾患の栄養管理に基づく備蓄食品管理における管理栄養士の役割について	
14	医療施設における在宅訪問の栄養管理及び都道府県の栄養ケアステーションにおける管理栄養士の役割について	
15	診療報酬以外の実費診療における抗加齢医学の栄養管理と管理栄養士の役割について	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加意欲	10	授業の取り組み、態度、姿勢について評価する	課題評価	20	前回の授業内容に基づく課題の提出
期末試験	70	期末試験における得点に基づいて評価する			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
【事前学習】「解剖生理学Ⅰ」「生化学Ⅰ」「生化学Ⅱ」「基礎栄養学」「応用栄養学Ⅰ」「応用栄養学Ⅱ」「臨床栄養学Ⅰ」「臨床栄養学Ⅱ」の学修内容を十分に復習してから講義に臨むこと。（30分） 【事後学習】チーム医療における栄養管理ができるように毎回十分に復習する。（30分）	次回の授業時に、添削し、返却する。 課題の理解度が低い場合には、講義の冒頭で解説し、または学習用資料を配布する。

受講生に望むこと	医療法の診療報酬に基づく栄養評価のための指標を基準に、各疾患による身体機能低下に必要な栄養素摂取（投与）量を加減、制限することを理解し、チーム医療において活用できることを目指して学んでほしい。	教科書・テキスト	栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学　基礎編　第３版本田佳子，曽根博仁編：羊土社,2022年，ISBN 9784758113694/栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学　疾患別編　第３版本田佳子，曽根博仁編：羊土社,2022年，ISBN 9784758113700/メディカルスタッフのための栄養療法ハンドブック(改訂第3版),佐々木雅也（編集）：南江堂,2024年,ISBN-13978-4524206841/日本人の食事摂取基準〈2025年版〉厚生労働省：第一出版，2025.4.1
指定図書／参考書等	『栄養管理プロセス』公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1385-2）/『国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル』公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1270-1	その他・特記事項	臨床栄養学は、医療専門関連学会のガイドラインの改訂により、その栄養管理指針などが変更される。その都度、新しいガイドラインに準じて、授業を進める。

実務経験を活かした授業の概要

医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。各疾患による身体機能低下に必要な栄養素摂取（投与）量を加減、制限することを理解し、チーム医療のスタッフとの連携を計るために必要な食事・栄養管理の評価、計画、栄養教育などの知識、実際の医療施設のマニュアル用いて、管理栄養士の業務について総合的に学習し、実習に繋げる。

授業科目名	臨床栄養学演習			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中川　明彦						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
基礎】臨床栄養管理に必要な各疾患の病態に応じた治療、各治療のガイドラインに準じた食事療法、栄養状態を把握し治療経過に基づく栄養評価、栄養ケアプロセスを用いた栄養管理計画書の作成に至る知識を集約し、理解する。 【応用】病院の運営に係わる栄養部門の一連の業務で、管理栄養士の役割と責務を理解する。なお、病院実習でのチーム医療の医療スタッフの意見や考え方による栄養管理の方針の決め方、適切な栄養サポート、栄養教育（栄養指導）などについては、担当者が現場で実践したことを授業の症例検討に応用する。	1.授業で解説を受けた内容について80％の事項を理解し、回答することができる。 2.臨床栄養学の実践は、病院の栄養部門の総合的な業務運用の一部である。現状の医療法に合わせた病院システムの中で患者情報を集約化し、各部門へのオーダーが指示し、それらの一部の情報を栄養・給食システムに読み込み、栄養部門全体の業務運用体制を行っている。この一連の病院システムの基礎を習得し、栄養管理の運用を理解し、栄養管理を行うために必要とされる知識及び技術の統合の必要性を理解する。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：医療法に準じた病院栄養士の栄養管理業務、給食管理業務、チーム医療業務など理解する	
2	医療施設：医療安全対策管理、感染制御対策管理、栄養部門の衛生管理、患者さん対応マナー等の取り組みの確認	
3	給食管理1：日本糖尿病治療ガイドラインに準じた糖尿病食（エネルギーコントロール食）献立作成	
4	給食管理1：日本糖尿病治療ガイドラインに準じた糖尿病食（エネルギーコントロール食）献立作成	
5	給食管理2：日本腎臓病学会 CKD 診療ガイドラインに準じた腎不全食（低たんぱく質コントロール）献立作成	
6	給食管理3：日本摂食嚥下リハビリテーション学会　嚥下調整食分類に準じた嚥下機能調整食　献立作成	
7	給食管理4：栄食養補助食品、低たんぱく質調整食品、嚥下調整食品、濃厚流動食品、治療食宅配など利用方法	
8	給食管理5：栄養投与（静脈、経腸、経口）の確認、栄養剤（食品、薬剤）、輸液製剤の確認	
9	危機管理：院内（機器停止）及び院外（災害・停電）緊急対策の給食対応、備蓄食品・備蓄飲料水の長期保管	
10	栄養管理1　記録：POS方式問題志向型システム（POS）［基礎情報・問題・栄養計画・経過記録・退院］ 栄養管理2　記録：客観的栄養評価（SGA）、主観的栄養評価（ODA）	
11	栄養管理3　栄養管理プロセス（NCP：国際基準）と栄養ケアプロセス（NCM：日本）の手法の違いについて理解	
12	症例対応1：外来・肥満の治療 →　外来・糖尿病の治療　模擬栄養食事指導、栄養指導記録の作成	
13	症例対応2：外来・糖尿病 →　入院・糖尿病/糖尿病性腎症　クリニカルパス、入院栄養管理計画書の作成	
14	症例対応3：輸液の投与について理解する　中心静脈栄養（TPN）→ 高血糖の対応、経腸栄養（EN）→ 下痢の対応	
15	法令に準じた管理栄養士の業務管理：組織運営、各帳票の管理・保存［給食管理・献立表、衛生管理報告書、納品関係等］［栄養管理・栄養指導記録等］、特定給食施設栄養管等報告書作成、監視時の準備と当日の対応等	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加意欲	10	授業の取り組み、態度、姿勢について評価する	定期試験	50	期末テストにおける得点に基づいて評価する
課題の達成度(給食管理)	20	食事摂取基準、治療食指針、献立作成などについて理解できたか総合的に評価する	課題の達成度(栄養管理)	20	栄養評価、栄養記録、栄養管理計画などについて理解できたか総合的に評価する

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
「臨床栄養学」「応用栄養学」「解剖生理学」「食事計画論」「調理学実習」「給食経営管理論」「栄養教育論」について十分に復習し、授業に臨むこと。（30分） 医療施設は医療法に基づき、栄養管理業務と給食管理業務の相互が運営されていることを念頭に置き、実務をイメージし、授業に取り組むこと。（30分）	次回の授業時に、添削し、返却する。 課題の理解度が低い場合には、講義の冒頭で解説し、または学習用資料を配布する。

受講生に望むこと	実際のチーム医療の病院栄養士の業務をイメージし、ベッドサイドの栄養管理を行うための基本的知識や技術の習得を目指してほしい。 各疾患の基本的な栄養管理を説明でき、コミュニケーション力と対応力を身につけてほしい。	教科書・テキスト	実践臨床栄養学実習 第3版，第一出版，2022年，ISBN-10-4804114513/糖尿病食事療法のための食品交換表第7版，日本糖尿病学会編，文光堂，2013年，ISBN978-4306604674/糖尿病食事療法のための食品交換表 活用編：献立例　とその実践管，日本糖尿病学会（編集）：文光堂，2015年，ISBN-13978-4830660474/腎臓病食品交換表9版，黒川清監修，医歯薬出版，2016年，ISBN978-4-263-70674-9/カーボカウントの手びき，日本糖尿病学会（著）：文光堂，2017，ISBN-13978-4830660641/メディカルスタッフのための栄養療法ハンドブック(改訂第3版)，佐々木雅也(編集)：南江堂，2024年，/ISBN-13978-4524206841/日本人の食事摂取基準（2025年版）厚生労働省：第一出版，2025.4.1
指定図書／参考書等	『栄養管理プロセス』公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1385-2） 『国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル』公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1270	その他・特記事項	CP室：栄養算出ソフトによる食事栄養摂取量の演習をする。

実務経験を活かした授業の概要

医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療施設は医療法に基づき、栄養部門では栄養管理業務と給食管理業務の相互が運営されている。栄養部門の業務が適正に行われ、業務の結果を帳票で保存され、実務（栄養管理、給食管理、衛生管理など）が確認できるまでの、実務の基本を演習を通して、学習する。

授業科目名	臨床栄養学実習Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中川　明彦						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
【基礎】傷病者の病態に応じた治療、薬剤の服用、臨床症候および栄養状態の評価に基づいて、適切な栄養管理を行うための臨床栄養管理の基礎を学習する。栄養管理に必要な院内食事栄養基準、食種、主食形態、献立、栄養補助食品、栄養指導媒体などの基本的な業務の関連を習得し、チーム医療のスタッフの一員として、連携することを学習する。 【応用】病院医療システムによる電子カルテ、栄養・給食システムの標準的な運用、給食タイムスケジュール、栄養管理画面、情報収集画面など、栄養部門のIT実務を運用するための知識を習得する。	1.授業で解説を受けた内容について80％の事項を理解し、回答することができる。 2.臨床栄養学の実践は、病院の栄養部門の総合的な業務運用の一部である。現状の医療法に合わせた病院食に関連する治療食指針である院内食事栄養基準を策定することが基本である。 現在では、病院医療システムIT化が進展しているため、その電子カルテシステム、栄養部門システムの基本運用を習得する。また患者情報、医療スタッフの診療の情報を集約する手段の基礎知識を習得する。

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実習の概要説明 医療法、病院組織と栄養部門、管理栄養士・栄養士の管理する業務（事務・給食・栄養管理等）診療報酬の理解	
2	病院食の分類：栄養委員会の設置、院内食事栄養基準の作成、食事摂取基準、給与目標量、献立作成前準備	
3	基本作業1：調理システム、出食数、作業人員、厨房機器の種類、食器の種類・数量、職員教育システムなど	
4	基本作業2：主食の種類・量・水分量、塩分、飲料の種類、食器種類、料理の種類、食品材料費など	
5	献立作成1：普通食（常食）基本献立作成　栄養素エネルギー比率、栄養素量、栄養補助食品、食材費	
6	献立作成2：常食から各治療食への展開、特別食：栄養成分別管理による各治療食の分類、検査食	
7	献立作成3：全粥、5分粥、3分粥、重湯、嚥下調整食学会分類、胃腸疾患、消化器系術後食、化学療法対応食、口内炎食、対応食などへの検査食（ヨード制限食、注腸食など）	
8	献立作成4：胃腸疾患、消化器系術後食、化学療法対応食、口内炎食、対応食などへの検査食（注腸食など）	
9	献立作成5：エネルギーコントロール食、塩分制限食：糖尿病食、高血圧食、循環器疾患、貧血食などへの展開	
10	献立作成6：エネルギーコントロール食　　糖尿病食品交換表を用いた実習	
11	献立作成7：たんぱく質コントロール食：慢性腎臓病、末期腎不全、肝疾患などへの展開	
12	献立作成8：たんぱく質コントロール食　腎臓病食品交換表、糖尿病腎症交換表を用いた実習	
13	調整粉ミルク、特殊ミルク、離乳食、幼児食、食物アレルギー食などへの展開	
14	栄養管理：栄養投与（静脈、経腸、経口）、栄養剤（食品、薬剤）、輸液製剤	
15	経腸栄養剤　天然濃厚流動食/人工濃厚流動食　①半消化態栄養剤　②消化態栄養剤　③成分栄養剤	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加意欲	10	授業の取り組み、態度、姿勢について評価する	定期試験	50	期末テストにおける得点に基づいて評価する
課題の達成度(給食管理)	20	食事摂取基準、治療食指針、献立作成などについて理解できたか総合的に評価する	課題の達成度(栄養管理)	20	栄養評価、栄養記録、栄養管理計画などについて理解できたか総合的に評価する

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
「臨床栄養学」「応用栄養学」「解剖生理学」「食事計画論」「調理学実習」「給食経営管理論」「栄養教育論」について十分に復習し、授業に臨むこと。（30分） 医療施設は医療法に基づき、栄養管理業務と給食管理業務の相互が運営されていることを念頭に置き、実務をイメージし、授業に取り組むこと。（30分）	次回の授業時に、添削し、返却する。 課題の理解度が低い場合には、講義の冒頭で解説し、または学習用資料を配布する

受講生に望むこと	実際のチーム医療の病院栄養士の業務をイメージし、ベッドサイドの栄養管理を行うための基本的知識や技術の習得を目指してほしい。 各疾患の基本的な栄養管理を説明でき、コミュニケーション力と対応力を身につけてほしい。	教科書・テキスト	実践臨床栄養学実習 第3版，第一出版，2022年，ISBN-10-4804114513/糖尿病食事療法のための食品交換表第7版，日本糖尿病学会編，文光堂，2013年，ISBN978-4830660467/糖尿病食事療法のための食品交換表 活用編：献立例　とその実践書，日本糖尿病学会（編集）：文光堂，2015年，ISBN-13978-4830660474/腎臓病食品交換表9版，黒川清監修，医歯薬出版，2016年，ISBN978-4-263-70674-9/カーボカウントの手びき，日本糖尿病学会（著）：文光堂，2017，ISBN-13978-4830660641/メディカルスタッフのための栄養療法ハンドブック(改訂第3版)，佐々木雅也(編集)：南江堂，2024年，ISBN-13978-4524206841/日本人の食事摂取基準〈2025年版〉厚生労働省：第一出版，2025.4.1
指定図書／参考書等	『国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル』公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1270-1）/栄養と料理,月刊誌（雑誌）,監修：女子栄養大学出版部/調理のためのベーシックデータ第6版,女子栄養大学短期大学部調理学研究室女子栄養大学出版部,2022年,ISBN-13978-4789503259,	その他・特記事項	CP室：栄養算出ソフトによる食事栄養摂取量の演習をする。

実務経験を活かした授業の概要

医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療施設は医療法に基づき、栄養部門では栄養管理業務と給食管理業務の相互が運営されている。栄養部門の業務が適正に行われ、業務の結果を帳票で保存され、教科書には記載されていない、実際の厚労省の医療監視における管理栄養士の対応、役割を学習する。

授業科目名	臨床栄養学実習Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中川　明彦						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
【基礎】臨床栄養学は、単なる病態の栄養管理を学習するのではなく、病院システムに関わる栄養部門の運用と診療報酬に準ずる業務などに管理栄養士が責務を担う役割を総合的に行うことを学習する。 【応用】病院システムの管理栄養士の業務を総合的に理解し、実務に関わることを実習で体験し、学習する。 ①食事栄養基準を策定　②医師の食事オーダ③栄養指導予オーダ④電子カルテ：入院診療計画書　⑤電子カルテ：栄養管理計画書　⑥電子カルテ：栄養記録カルテ　⑦栄養サポートチーム画面　など”	1.授業で解説を受けた内容について80％の事項を理解し、回答することができる。 2.病院医療システムIT化が進展し、その電子カルテシステム、栄養部門システムの基本運用を習得し、患者情報、医療スタッフの診療の情報を集約する手段の基礎知識を習得したことを、実際の病院システムに準じた患者情報画面から情報を共有し、栄養管理業務に必要な情報を集約する知識を習得する。”

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	病院医療システムⅠ　電子カルテシステムと栄養・給食システム用いた栄養部門の標準的な運用	
2	病院医療システムⅡ　電子カルテシステムと栄養・給食システムの入力画面、出力帳票など	
3	普通食（常食、全粥食、5分粥食、3分粥食、流動食、嚥下調整食など）　不足しやすい栄養素算出 特別食（エネルギーコントトロール食、たんぱく質コントロール食など）　不足しやすい栄養素算出”	
4	病院食で使用される既製品、栄養補助食品・飲料、栄養機能食品、特定保健用食品、特別用途食品	
5	全粥食、5分粥食、3分粥食、重湯食、嚥下調整食などの実習	
6	エネルギーコントロール食の献立　塩分コントロール食の実習　［塩分量＝食品中Na量＋調理用負荷食塩量］①普通食7.5g（厚労省・男性）　② 6g未満	
7	”たんぱく質コントロール食40g（末期腎不全）、60g（末期腎不全・透析治療）の献立 塩分コントロール食の実習　［塩分量＝食品中Na量＋調理用負荷食塩量］①6g未満 ②3g未満”	
8	小児食物アレルギー　食物アレルギーの診療の手引きに準じたリスク因子、発症予防、食物経口負荷試験	
9	栄養管理記録：POS方式問題志向型システム（POS）［基礎情報・問題・栄養計画・経過記録・退院］記録を作成 栄養評価記録：主観的栄養評価（SGA）、客観的栄養評価（ODA）	
10	栄養管理プロセス（NCP：国際基準）と栄養ケアプロセス（（NCM：日本）　手法の違いについて理解	
11	栄養指導1　媒体、栄養教育資料の作成、集団栄養食事指導プログラム（糖尿病、腎臓病、心臓病など）	
12	栄養指導2　入院、外来栄養食事指導　初回時の準備、指導中、指導後の業務、2回目以降の計画と進め方	
13	栄養指導3　模擬個人栄養食事指導による指導の実際、指導後の記録業務の実習	
14	食生活聞き取り調査1　手法、調査方法の種類の演習、模擬食習慣調査、栄養摂取量算出の実習	
15	チーム医療　入退院マネジメント・PFM（Patient Flow Management）、クリニカルカルパス、入院時栄養管理計画書	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加意欲	10	授業の取り組み、態度、姿勢について評価する	定期試験	50	期末テストにおける得点に基づいて評価する
課題の達成度(給食管理)	20	食事摂取基準、治療食指針、献立作成などについて理解できたか総合的に評価する	課題の達成度(栄養管理)	20	栄養評価、栄養記録、栄養管理計画などについて理解できたか総合的に評価する

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
臨床栄養学、応用栄養学、解剖生理学、食事計画論、調理学実習、給食経営管理論、栄養教育論、臨地実習について学習、復習すること。（30分） 医療施設は医療法に基づき、栄養管理業務と給食管理業務の相互が運営されていることを念頭に置き、実務をイメージし、授業に取り組み、学習すること。（30分）	”次回の授業時に、添削し、返信する。 課題の回答、理解度が低い場合には、講義の冒頭で解説し、または学習用資料を返信する。”

受講生に望むこと	実際のチーム医療の病院栄養士の業務をイメージし、ベッドサイドの栄養管理を行うための基本的知識や技術を理解する。 各疾患の基本的な栄養管理を説明でき、コミュニケーション力と対応力を身につけておくこと。	教科書・テキスト	実践臨床栄養学実習 第3版，第一出版，2022年，ISBN-10-4804114513/糖尿病食事療法のための食品交換表第7版，日本糖尿病学会編，文光堂，2013年，ISBN978-4830660467/糖尿病食事療法のための食品交換表 活用編：献立例　とその実践管，日本糖尿病学会（編集）：文光堂，2015年，ISBN-13978-4830660474/腎臓病食品交換表9版，黒川清監修，医歯薬出版，2016年，ISBN978-4-263-70674-9/カーボカウントの手びき，日本糖尿病学会（著）：文光堂，2017，ISBN-13978-4830660641/メディカルスタッフのための栄養療法ハンドブック(改訂第3版)，佐々木雅也(編集)：南江堂，2024年，ISBN-13978-4524206841/日本人の食事摂取基準〈2025年版〉厚生労働省：第一出版，2025.4.1
指定図書／参考書等	『栄養管理プロセス』公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1385-2）/『国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル』公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1270-1）/栄養と料理,月刊誌（雑誌）,監修：女子栄養大学出版部/調理のためのベーシックデータ第6版,女子栄養大学短期大学部調理学研究室女子栄養大学出版部,2022年,ISBN-13978-478950325	その他・特記事項	CP室：栄養算出ソフトによる食事栄養摂取量の演習をする。

実務経験を活かした授業の概要

医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療施設は医療法に基づき、栄養部門では栄養管理業務と給食管理業務の相互が運営されている。栄養部門の業務が適正に行われ、業務の結果を帳票で保存され、教科書には記載されていない、実際の厚労省の医療監視における管理栄養士の対応、役割を学習する。

授業科目名	公衆栄養学Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	長井　直子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
公衆栄養学Ⅱでは、公衆栄養学の概念に基づき、地域社会の健康・栄養問題及び関連要因の把握、分析を行い、健康・栄養施策の計画立案、実践、評価、フィードバックまでの一連の公衆栄養マネジメントに必要な理論を学ぶ。 さらに栄養疫学や各種食事調査法を学び、公衆栄養活動として展開されているプログラム事例を理解するとともに、栄養行政での管理栄養士の役割、疫学手法を用いた地域診断と、地域診断に基づく健康づくり計画の概要を通して実際の計画を考察する。	1.生活習慣病などの健康問題と食事、運動等の因果関係を検討する方法などについて理解する。 2.授業内での課題について自主学習を行い、地域診断に基づく模擬的な健康づくり計画の作成を試みる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	栄養疫学の概要（目的、意義、役割）、栄養疫学の指標と方法（基本的概要、論文の読み方、論文レビューの分類）	
2	疫学研究の分類（観察研究、介入研究など記述疫学、横断研究、生態学的研究、症例対照研究、コホート研究）	
3	栄養疫学における食事調査法（24時間食事思い出し法）、暴露情報と食事摂取量	
4	栄養疫学における食事調査法（食事記録法、秤量法、食物摂取頻度調査法、陰膳法） 食事摂取量の評価方法（食事調査と食事摂取基準）	
5	食事摂取量の評価方法（データーの処理と解析） 公衆栄養マネジメントの定義、対象、過程（プリシード・プロシードモデルとヘルスプロモーション）	
6	公衆栄養アセスメントの目的と方法（地域診断と食事摂取基準）	
7	公衆栄養プログラムの目標設定（改善課題の抽出）	
8	公衆栄養プログラムの評価の方法と実際（社会資源と住民参加）	
9	地域特性に対応したプログラムの展開①　健康づくり、食育推進	
10	地域特性に対応したプログラムの展開②　地域包括ケアシステム、介護予防	
11	地域特性に対応したプログラムの展開③　健康・食生活の危機管理と食支援	
12	地域特性に対応したプログラムの展開④　食環境づくり、健康な食事、栄養成分表示	
13	地域集団の特性別プログラムの展開①　母子保健、健やか親子21、思春期・青年期、成人期（若年、壮年、中年期）	
14	地域集団の特性別プログラムの展開②　高齢者、障害者、生活習慣病ハイリスク者	
15	栄養疫学、地域診断、特性別公衆栄養プログラム展開のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	栄養疫学の重要性を理解し、様々な公衆栄養活動のプロセス及びプログラムの展開を考察できる。	課題 レポート	30	課題内容を理解し適切にまとめる。提出期限を守る。
授業参加意欲	20	学習への取り組み姿勢			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書予習をして授業に臨む。［30分］ ②事後学習：学習内容を確認ながら、資料整理やレポート作成に取り組む。［45分］	課題レポートは解答例を添えて随時返却する。

受講生に望むこと	・他科目との関連を意識しながら学ぶ。 ・配付資料やレポートはファイリングして復習に役立てる。 ・日頃から健康・栄養に関する情報に関心を持つ。	教科書・テキスト	『基礎から身につく公衆栄養学』逸見幾代編著 同文書院　2024年　ISBN　978-4-8103-1525-7
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	2年後期で購入した教科書を引き続き使用するので、新たな購入は不要である。

実務経験を活かした授業の概要

自治体勤務管理栄養士として経験した実務内容を各授業の解説に加えて理解を深める。

授業科目名	公衆栄養学実習			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	三田　陽子・長井　直子　（代表教員　三田　陽子）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では「公衆栄養学Ⅰ」「公衆栄養学Ⅱ」での学習内容を踏まえ、地域や職域等の集団を対象に公衆栄養活動をするための公衆栄養マネジメント法を修得することを目指す。地域社会における健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報収集・分析の方法、ニーズに応じた課題分析・地域診断の方法、課題解決策としての公衆栄養プログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法をグループでの演習や実習を通して学ぶ。	1.公衆栄養マネジメントを行うための知識や手法を理解し、演習課題を通して実践できる。 2.事業計画等について、適切に提示することができる。

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　公衆栄養学実習の目的と概要、進め方、グループワーク・フィールドワークの心得	全員
2	公衆栄養プログラム実践のための基礎演習①　グループワーク：地域の情報（関連する機関・組織）の収集、調査対象の選定、調査計画	全員
3	公衆栄養プログラム実践のための基礎演習②　グループワーク：地域への直接的支援（健康・栄養相談）、間接的支援（住民参加とネットワーク）の理解、調査票・課題分析の作成	全員
4	公衆栄養プログラム実践のための基礎演習③　グループワーク：地域の食環境整備の取組の調査、調査票・課題分析の作成、災害時に想定される課題の収集、居住地のハザードマップや地域防災計画の調査	全員
5	公衆栄養アセスメントの実際①　グループワーク：地域診断の方法、既存資料の活用、地域の基本データの収集	全員
6	公衆栄養アセスメントの実際②　グループワーク：地域の社会調査（量的調査）の検討、調査の枠組みの作成、調査票（健康・食生活アンケート）の作成	全員
7	公衆栄養アセスメントの実際③　グループワーク：地域の社会調査（質的調査）の検討、インタビューガイド（シナリオ）作成、インタビューの実践（住民役と管理栄養士役）	全員
8	公衆栄養アセスメントの実際④　グループワーク：地域の食事調査（栄養摂取状況調査）の実践、調査データの作成（計算）	全員
9	公衆栄養アセスメントの実際⑤　グループワーク：地域の食事調査の分析、食事摂取基準を用いた結果の評価	全員
10	公衆栄養アセスメントの実際⑥　グループワーク：地域の健康・栄養アセスメントの実際、アセスメント表の作成	全員
11	公衆栄養プログラムの目標設定　グループワーク：目標設定の手順、目標設定表・目標関連図の作成	全員
12	公衆栄養プログラムの計画策定　グループワーク：事業計画の策定方法、各自で集団を対象とした事業（食育、生活習慣病予防、母子保健）計画の作成	全員
13	公衆栄養プログラムの評価①　グループワーク：健康増進計画と事業計画の評価、各自の事業計画の評価表作成	全員
14	公衆栄養プログラムの評価②　グループワーク：食事調査結果説明資料及び事業計画のクラス内発表準備	全員
15	公衆栄養活動の実際　食事調査結果説明資料及び事業計画のクラス内発表、評価、総括	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題レポート（公衆栄養プログラム）	50	公衆栄養活動のための情報収集、課題分析、健康・栄養施策の計画立案ができる。	課題レポート（食事調査）	40	食事調査に関する知識および技能を修得する。
授業参加意欲	10	積極的に課題に取り組む。 グループワークでは発言しやすい雰囲気作りに協力しながら前向きに参加する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前予習：教科書予習をして授業に臨む。［30分］ ②事後学習：学習内容を確認ながら、資料整理やレポート作成に取り組む。［45分］	課題レポートは解答例を添えて随時返却する。

受講生に望むこと	・他科目との関連を意識しながら学ぶ。 ・配付資料やレポートはファイリングして復習に役立てる。 ・日頃から健康・栄養に関する情報に関心を持つ。	教科書・テキスト	『公衆栄養学実習（第三版）』手嶋哲子・田中久子編著　同文書院　（2025年2刷　訂正版）ISBN　978-4-8103-1516-5
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

自治体勤務管理栄養士として経験した実務内容を各授業の解説に加えて理解を深める。（長井）

授業科目名	給食経営管理論Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	田中　弘美						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士				

授業の概要

管理栄養士は、保健、医療、介護、福祉、教育など多様な分野で高度な専門知識と技能が求められる。給食運営や関連の資源(食品流通や食品開発の状況、給食にかかわる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養うことをねらいとし、経営管理や人事管理、財務会計管理の理論を給食に応用展開しながら学ぶ。
また、災害対策や事故対策、各種給食施設(病院・学校･児童福祉施設・事業所・高齢者･介護施設等)の特徴と経営の実際についても学ぶことで、給食経営をする上で必要とされる専門分野の知識・技能を身に付ける。

※SDGs目標番号4、12関連科目

授業の到達目標

①栄養面からだけでなく経営としての視点で給食管理をとらえ、給食を運営する組織や経営資源を総合的に判断し、給食管理のトータルマネジメントについて説明できる。
②財務諸表についての概要と損益分岐点分析の手法が理解できる。　③マーケティングのプロセスについて理解でき、様々な給食経営の場面でマーケティングミックスを応用できる。
④各種給食施設として、食中毒を含む事故や災害が起こった場合に備え必要な対策が理解できる。
⑤各給食施設の特徴を理解し、給食計画に必要な情報、分析について説明できる。

⑥経営の概略を理解し、社会貢献という側面から管理栄養士として求められる業務について考えることができる。
⑦管理栄養士としての職業倫理を遵守し，対象および多職種とのコミュニケーションの必要性を説明できる。

教授方法	講義
履修条件	「給食経営管理論Ⅰ」を履修済みである。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	給食施設ごとの栄養計画・献立計画の特徴について学ぶ。	
2	給食におけるHACCPシステムの重要性ついて学ぶ。	
3	危機管理とリスク管理について学ぶ。	
4	給食とマーケティングについて学ぶ。	
5	給食施設の組織について学ぶ。	
6	会計・原価管理について学ぶ。	
7	情報管理について学ぶ。	
8	各施設における給食経営管理の特徴と要点（1）：児童福祉施設給食について学ぶ。	
9	各施設における給食経営管理の特徴と要点（2）：学校給食について学ぶ。	
10	。各施設における給食経営管理の特徴と要点（3）：事業所給食について学ぶ。	
11	各施設における給食経営管理の特徴と要点（4）：医療施設給食(病院給食)について学ぶ。	
12	各施設における給食経営管理の特徴と要点（5）：高齢者施設給食、介護保険施設給食について学ぶ。	
13	各施設における給食経営管理の特徴と要点（6）：障害者福祉施設給食について学ぶ。	
14	各施設における給食経営管理の特徴と要点（7）：その他の給食施設について学ぶ。	
15	持続可能な給食経営の組織管理とマネジメントを学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験	60	試験形式で、栄養士・管理栄養士に必要な知識が理解できているかを評価する。	課題	30	①質的量的に適切である。 ②指定期日までの提出。
授業参加意欲	10	授業態度も含み、学ぶ姿勢を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）

①講義内容に関する部分はテキストを読んで予習、復習すること。［30分］
②課題は、テキスト以外にも資料などを参考にして取組み、知識を定着させる努力をすること。［30分］

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

①課題レポートはコメントを入れて返却する。
②授業に関する質問には随時応じる。

受講生に望むこと	臨地実習を意識して、基本的事項を十分に理解し、関連科目とリンクさせ、主体的に学んでほしい。	教科書・テキスト	栄養科学シリーズNEXT『給食経営管理論 第4版』幸林友男他編著,講談社2023年,ISBN978-4-06-14066-6 『給食経営管理用語辞典 第3版』日本給食経営管理学会監修,第一出版,2020年,ISBN978-4-8041-1420-0 『2025年度版 管理栄養士・栄養士必携』日本栄養士会編,第一出版,2025年,ISBN978-4-8041-1491-0
指定図書／参考書等	なし／『日本人の食事摂取基準（2025年版）』伊藤貞嘉・佐々木敏監修,第一出版,2025年,ISBN978-4-8041-1408-8 『給食の運営―栄養管理・経営管理―』長田早苗,大原栄二編著,中村眞樹子他共著,建帛社　ISBN978-4-7679-0777-2　『食事療養のための食品交換表』第 7 版,日本糖尿病学会編,文光堂　ISBN978-4-8306-6046-7	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	給食経営管理実習Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	田中　弘美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
「給食経営管理論Ⅰ」を踏まえ、栄養・食事管理、献立作成、食材料管理、生産管理、大量調理の方法、衛生管理、帳票管理など特定給食施設の給食経営管理業務の運営計画から実施・評価までの一連のマネジメントサイクルの流れを学ぶ。本実習では給食管理の基本的あり方の理解とその実践力を養うことをねらいとし、大量調理の実習を行う。栄養・食事管理、調理作業管理と大量調理施設衛生管理マニュアルに準拠した衛生管理に着目し、内部、外部の評価の実際を体得する。 講義・演習以外はクラスをグループに分けて実習を行う。 ※SDGs目標番号12関連科目	①特定給食施設について説明できる。 ②食事摂取基準を使って給与栄養目標量を設定することができる。 ③食品構成をもとに献立を考えることができる。 ④大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生管理の重要性が理解できる。 ⑤実習においてコミュニケーションの必要性が理解できる。 ⑥献立管理ソフトを使って献立作成ができる。

教授方法	講義・演習と実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実習オリエンテーションを行う。大量調理における献立計画の基本、献立表の記載方法、栄養計算ソフト（エクセル栄養君）の操作を学ぶ。	
2	大量調理における切り方の練習、機器の取り扱いについて学ぶ。	
3	基本献立実習と献立作成演習A-1（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
4	基本献立実習と献立作成演習B-1（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
5	基本献立実習と献立作成演習C-1（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
6	基本献立実習と献立作成演習D-1（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
7	実習献立の栄養出納表を作成・評価する。1回目の実習の振り返りをする。献立作成の演習をする。	
8	作業管理、衛生管理（大量調理施設衛生管理マニュアル、HACCP）、諸帳票類（栄養出納表ほか）について再確認する。	
9	基本献立実習と献立作成演習A-2（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
10	基本献立実習と献立作成演習B-2（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
11	基本献立実習と献立作成演習C-2（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
12	基本献立実習と献立作成演習D-2（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
13	実習献立の栄養出納表を作成・評価する。2回目の実習の振り返りをする。	
14	厨房機器（スチームコンベクションの使い方）及び新調理システム、嗜好調査、残量調査について学ぶ。	
15	課題の献立作成の整理。全体の振り返りと発表。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験	40	筆記試験の正答率により評価する。	レポート	20	①質的量的に適切である。 ②指定期日までの提出。
課題	30	①献立作成と栄養評価の確認。 ②実習後のレポートの指定期日までの提出。	授業参加態度	10	①授業に積極的にかかわる姿勢。 ②授業に向けての準備。 ③あいさつ、身なりなどの基本的な態度。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①食材の出回り時期や価格について日頃から関心を持つこと。 ②食材を使用する際には、はかりで測ることを心掛け、目安量を把握できるように努力すること。 ③大量調理では、食材を早くていねいに切ることが求められるので、包丁をうまく使えるように繰り返し練習すること。［30分］ ④実習前の準備や持ち物の確認すること、翌日までの課題になります。時間を確保して丁寧に記載すること。［30分］	実習中及び実習後の課題は、合同授業時に返却する。 課題及びレポートについては、添削後内容に不備がある場合は再提出、返却を繰り返す。 授業に関する質問には随時応じる。

受講生に望むこと	①グループ作業では役割分担し、常に協力して行う姿勢で取り組むこと。 ②調理中は危険を伴うので、緊張感を持って実習を行うこと。 ③体調管理し実習に臨むこと。	教科書・テキスト	『給食経営管理実習ワークブック第4版』藤原政嘉編著　（株）みらい　ISBN978-4-86015-643-5 栄養科学シリーズNEXT『給食経営管理論第4版』幸林友男・曽川美佐子他編著　講談社ISBN978-4-065-14066-6 『給食経営管理用語辞典』第3版 日本給食経営管理学会監修　第一出版　ISBN978-4-8041-1420-0 『管理栄養士・栄養士必携　2025年版』日本栄養士会　第一出版　ISBN978-4-8041-1460-6
指定図書／参考書等	なし／日本人の食事摂取基準[2025年版]　　第一出版	その他・特記事項	授業参加態度や課題提出等で問題があり、指摘されても改善しない場合は、単位認定されない場合があります。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	給食経営管理実習Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	田中　弘美						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
「給食経営管理論Ⅰ」「給食経営管理論Ⅱ」「給食経営管理実習Ⅰ」で学んだ知識をもとに計画（plan）、実施（do）、検討（check）、修正のための実行（action）のPDCA サイクルを活用し、給食対象者に適切で、豊かな食事を提供できるように、自主テーマに沿って実習する。 グループ別に計画した給食を学生・教職員等に提供し、栄養教育を実施する。実施後は、個人評価及びグループ評価をすることで管理栄養士として給食経営管理業務全般をマネジメントする実践力を修得する。講義・演習以外は、クラスをグループに分け業務を分担して実習を行う。 ※SDGs目標番号12関連科目	①給食業務を行うために必要な食事の計画や、調理を含めた給食サービス提供に関する知識が理解できる。 ②栄養管理、事務管理、作業管理、衛生管理、施設管理等の特定給食の普遍的な知識をもとに、給食管理の基本的あり方を理解し、実践することができる。 ③対象者と環境の条件に応じた給食の食品構成の立案及び期間献立が作成できる。 ④授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

教授方法	講義・演習と実習
履修条件	「給食経営管理実習Ⅰ」を履修済みであること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	調理作業計画：栄養管理（実施献立表と給与栄養目標量の評価・嗜好調査及び残食調査のまとめ）を理解する。	
2	調理作業計画：食材管理（食材日計表による材料費の評価・食材在庫管理）を理解する。	
3	食数管理（発注作業など）、栄養指導媒体作成を行う。	
4	自主テーマに基づく大量調理実習、マネジメント演習A-1（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
5	自主テーマに基づく大量調理実習、マネジメント演習B-1（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
6	自主テーマに基づく大量調理実習、マネジメント演習C-1（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
7	自主テーマに基づく大量調理実習、マネジメント演習D-1（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
8	評価、振り返り、栄養指導媒体作成を行う。	
9	食数管理（発注作業など）、調理作業計画、HACCP に基づく衛生管理チェックを理解する。	
10	自主テーマに基づく大量調理実習、マネジメント演習A-2（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
11	自主テーマに基づく大量調理実習、マネジメント演習B-2（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
12	自主テーマに基づく大量調理実習、マネジメント演習C-2（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
13	自主テーマに基づく大量調理実習、マネジメント演習D-2（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
14	評価、振り返り。	
15	グループ発表と相互評価を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験	40	試験形式で、管理栄養士として必要な知識が理解できているかを評価する。	レポート	20	①質的量的に適切である。 ②指定期日までの提出。
課題・発表	30	①献立作成と栄養評価の確認。 ②実習後のレポートの指定期日までの提出。 ③発表、相互評価での積極的な姿勢。	授業への参加態度	10	①授業に積極的にかかわる姿勢。 ②授業に向けての準備。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①栄養比率を理解して対象者に合わせた献立作成ができるようにしてください。 ②媒体作成等は、授業時間のほか授業外の学習時間を利用して丁寧に仕上げてください。［30分］ ③実習後のレポート提出は、翌日までの課題になります。校外実習においても重要なため丁寧に見やすく書いてください。［30分］ ④実習前の準備や持ち物の確認をしてください。	実習中及び実習後の課題は、合同授業時に返却する。 課題及びレポートについては、添削後内容に不備がある場合は再提出、返却を繰り返す。 授業に関する質問には随時応じる。

受講生に望むこと	①グループ作業では役割分担し、常に協力して行う姿勢で取り組むこと。 ②調理中は危険を伴うので、緊張感を持って実習を行うこと。 ③体調管理し実習に臨むこと。	教科書・テキスト	『給食経営管理実習ワークブック第3版』藤原政嘉編著　（株）みらい　ISBN978-4-86015-343-4 栄養科学シリーズNEXT『給食経営管理論第4版』幸林友男・曽川美佐子他編著　講談社ISBN978-4-065-14066-6 『給食経営管理用語辞典』第3版 日本給食経営管理学会監修　第一出版　ISBN978-4-8041-1420-0 『管理栄養士・栄養士必携　2025年度版』日本栄養士会　第一出版　ISBN978-4-8041-1460-6
指定図書／参考書等	なし／日本人の食事摂取基準[2025年版]　第一出版 『食事療養のための食品交換表』第 7 版,日本糖尿病学会編,文光堂　ISBN978-4-8306-6046-7　　他、献立作成等で各自が必要とする参考文献	その他・特記事項	授業参加態度や課題提出等で問題があり、指摘されても改善しない場合は、単位認定されない場合があります。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	総合演習Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	田中　弘美・榎本　俊樹・俵　万里子・中川　明彦・新澤　祥恵　（代表教員　田中　弘美）						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、各臨地実習に向けて、実践活動の場における課題発見(気づき)・問題解決と専門的知識と技術の統合を図るために、これまで学習した専門基礎分野および専門分野の講義内容を応用しながら、実習先に即した研究課題を設定し、課題解決のための方法を習得する。さらに、各臨地実習で得た実践体験を客観的に考察し、自らの学びの課題を明確にし、管理栄養士の役割や栄養管理を行うために必要とされる知識と技術について総合的な理解を深める。	①実習内容や研究課題について適切にまとめることができる。 ②グループで協力して発表準備をし、適切にプレゼンテーションし、相互評価ができる。 ③臨地実習から得た知識やスキルを共有するとともに、専門分野を横断した広い視野で管理栄養士の社会的役割を理解する。

教授方法	演習
履修条件	関連教科の必要単位を履修済みである。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：臨地実習及び校外実習の意義と目的を理解する。（心構え、厨房作業の服装、マナー、事前挨拶など）	全員
2	調理学：調理学に関する課題の提示を受け、これまでに学修した内容の確認、知識の整理を行う。	新澤
3	食品衛生学：食品衛生学に関する課題の提示を受け、これまでに学修した内容の確認、知識の整理を行う。	榎本
4	給食経営管理論：給食経営管理論に関する課題の提示を受け、これまでに学修した内容の確認、知識の整理を行う。	田中
5	実習ノートの書き方を学ぶ。	田中・中川
6	事前準備を理解する。挨拶、プロフィール票、礼状の書き方を学ぶ。	田中・中川
7	実習施設の特徴や業務について調べて理解する。（1）	田中・中川
8	実習施設の特徴や業務について調べて理解する。（2）	田中・中川
9	自主課題の設定と取り組みについて学ぶ。	田中・中川
10	実習期間中に学びたい課題を設定し、実習テーマを決める。	田中・中川
11	実習テーマについて事前学習を行う。（1）	田中・中川
12	。実習テーマについて事前学習を行う（2）	田中・中川
13	事前あいさつの準備をする。	田中・中川
14	実習施設からの課題に取り組む。（1）	田中・中川
15	実習施設からの課題に取り組む。（2）	田中・中川
16	実習終了時の対応と実習の自己評価をする。	田中・中川
17	実習記録をもとに報告書を作成する。	田中・中川
18	報告書をスライドに要約する。（説明はノート部分に記入する）	田中・中川
19	成果発表の準備・役割分担をする。	田中・中川
20	成果発表の準備（グループ活動）（1）	田中・中川
21	成果発表の準備（グループ活動）（2）	田中・中川
22	成果発表のリハーサル	田中・中川
23	成果発表と評価（1）	田中・中川
24	成果発表と評価（2）	田中・中川
25	成果発表と評価を通して、管理栄養士として求められる資質・能力について理解を深める	田中・中川
26	成果発表と評価を通して、栄養管理の基本と行動変容の理論の実際を学び、考察を深める	田中・中川
27	成果発表と評価を通して、ライフステージ別栄養管理の実際を学び、考察を深める	田中・中川
28	成果発表と評価を通して、病態に応じた栄養管理の実際を学び、考察を深める（1）	田中・中川

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	成果発表と評価を通して、病態に応じた栄養管理の実際を学び、考察を深める（2）	田中・中川
30	成果発表と評価を通して、連携と協働の実際を学び、考察を深める	田中・中川

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習前の提出物	20	①実習施設からの課題及び自主課題を適切にまとめている。 ②指定期日までの提出。	実習後の提出物	50	①実習記録を適切にまとめている。 ②事後レポートを適切にまとめている。 ②指定期日までの提出。
取り組み姿勢	30	①担当教員より出される課題を理解しながら取り組んでいる。 ②自主課題に対して自主的、積極的に取り組んでいる。 ③連絡や報告を適切におこなっている。 ④時間を守って行動できる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①関連科目のテキスト、ノートの内容を確認した上で授業に臨む（60分）。 ②臨地実習の要項を読み、関連法規や実習内容を理解しておく（60分）。 ③実習の目的、課題等をまとめて施設訪問の準備をし、訪問後は内容をまとめておく（60分）。 ④実習報告会の準備や整理をする（60分）。	随時、対応する。

受講生に望むこと	日頃から健康管理を十分行い、体力をつけておくこと。	教科書・テキスト	『六訂 臨地実習ガイドブック』前田佳予子・高岸和子編著,建帛社,2025年,ISBN9784767907871 随時、プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし／担当教員が必要に応じ指示する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療機関における各疾患における各献立の栄養算出量において、ビタミン13種類、ミネラル13種類などのが過不足量を評価し、不足する場合、どのような栄養補助食品を利用し、不足量を改善するのかを検討する。管理栄養士の業務の基本であり、栄養素の過不足が検査データに反映されるため、栄養算出は大切なであることを理解する。

授業科目名	総合演習Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	田中　弘美・俵　万里子・中川　明彦・中谷　壽男・三田　陽子　（代表教員　田中　弘美）						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
「総合演習Ⅱ」は、４年次の臨地実習の事前事後指導科目である。臨地実習の教育目標は、実践活動の場における課題発見(気づき)・問題解決と専門的知識と技術の統合を図ることである。総合演習Ⅱでは、専門分野を横断して、栄養評価や様々な管理業務が行える総合的な能力を養う。事前教育では、実習の目的、目標の理解、心構え、準備の徹底、知識の整理、研究課題の設定等を学ぶ。事後教育では、臨地実習終了後、実習内容や研究課題の報告書作成、報告発表会等の実施を通して、学内での学習と実習の成果を結びつけ、栄養管理を行うために必要とされる知識と技術の統合の必要性を理解する。	①臨地実習の意義を理解し、説明できる。 ②履修した学科目を横断的に捉えた上で、実習の目標やねらいを理解する。 ③専門職として職業倫理が説明できる。 ④実習内容や研究課題について適切にまとめることができる。 ⑤グループで協力して発表準備をし、適切にプレゼンテーションし、相互評価ができる。

教授方法	演習
履修条件	「総合演習Ⅰ」の単位を取得している。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	管理栄養士・栄養士の活動状況と役割を学び、臨地実習の目的・意義を理解する。プロフィールの準備。	全員
2	臨地実習施設に関する情報収集を行い、理解を深める。（臨地実習Ⅲ、Ⅳ）	全員
3	臨地実習施設に関する情報収集を行い、理解を深める。（臨地実習Ⅲ、Ⅳ）	全員
4	テーマ設定（臨地実習Ⅲ、Ⅳ）	全員
5	臨地実習施設の対象者に対する知識や技術を理解する。（臨地実習Ⅲ）	全員
6	臨地実習施設の対象者に対する知識や技術を理解する。（臨地実習Ⅲ）	全員
7	臨地実習施設の対象者に応じた献立作成を行い、応用力を身につける。（臨地実習Ⅲ）	全員
8	臨地実習施設の対象者に応じた献立作成を行い、応用力を身につける。（臨地実習Ⅲ）	全員
9	臨地実習施設の対象者に対して適切なアセスメントができるように確認する。（臨地実習Ⅲ）	全員
10	臨地実習施設の対象者に対して適切なアセスメントができるように確認する。（臨地実習Ⅲ）	全員
11	実習施設からの課題に取り組む。（臨地実習Ⅲ） 臨地実習施設と地域とのかかわりを理解する。（臨地実習Ⅳ）	全員
12	実習施設からの課題に取り組む。（臨地実習Ⅲ） 臨地実習施設と地域とのかかわりを理解する。（臨地実習Ⅳ）	全員
13	実習施設からの課題に取り組む。（臨地実習Ⅲ） 臨地実習施設と地域とのかかわりを理解する。（臨地実習Ⅳ）	全員
14	各自の研究課題についてまとめる。	全員
15	各自の研究課題についてプレゼンテーション手法を検討する。	全員
16	各自実習終了時の対応と実習の自己評価をする。	全員
17	各自実習記録をもとにまとめ資料を作成する。	全員
18	各自テーマのまとめ資料を作成する。	全員
19	各自まとめ資料をスライドに要約する。（説明をノート部分に記載する）	全員
20	各自まとめ資料をスライドに要約する。（説明をノート部分に記載する）	全員
21	成果発表の準備、役割分担をする。	全員
22	成果発表の準備（グループ活動）	全員
23	成果発表の準備をする。（グループ活動）	全員
24	成果発表の準備をする。（グループ活動）	全員
25	成果発表及び評価。	全員
26	成果発表と評価を通して、管理栄養士として求められる資質・能力について理解を深める。	全員
27	成果発表と評価を通して、栄養管理の基本と行動変容の理論の実際を学び、理解を深める。	全員
28	成果発表と評価を通して、ライフステージ別栄養管理の実際を学び、理解を深める。	全員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	成果発表と評価を通して、病態に応じた栄養管理の実際を学び、理解を深める。	全員
30	成果発表と評価を通して、連携と協働の実際を学び、理解を深める。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習前の提出物	30	①実習施設からの課題及び自主課題を適切にまとめている。 ②指定期日までの提出。	実習後の提出物	50	①実習記録を適切にまとめている。 ②事後レポートを適切にまとめている。 ③指定期日までの提出。
取り組み姿勢	20	①課題に対して自主的、積極的に取り組んでいる。 ②チームをリードして進める努力をしている。 ③連絡や報告を適切におこなっている。 ④時間を守って行動できる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①臨地実習の要項を読み、関連法規や実習内容を理解しておく。［60分］ ②実習の目的、課題等をまとめて施設訪問の準備をする。「60分］ ③訪問後は内容をまとめておく。［30分］ ④実習報告会の準備や整理をする。［120分］	随時、対応する。

受講生に望むこと	日頃から健康管理を十分行い、体力をつけておくこと。	教科書・テキスト	『六訂 臨地実習ガイドブック』前田佳予子・高岸和子編著,建帛社,2025年,ISBN9784767907871 随時、プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。各献立の栄養算出量において、ビタミン13種類、ミネラル13種類などのが過不足量を評価し、不足する場合、どのような栄養補助食品を利用し、不足量を改善するのかを検討し、食事摂取基準（2025年版 ）と比較し場合、過不足について、統計処理し、その有意差の有無を統計的に評価する作業能力を身に付けることにより、研究、調査が進展する。

授業科目名	臨地実習Ⅰ（給食の運営）			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	田中　弘美						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
「臨地実習Ⅰ（給食の運営）」は、病院・福祉施設・事業所・学校などの特定給食施設における、給食管理業務に必要な知識及び技能を習得する。また、特定給食施設の実際を通して、栄養面、安全面、経済面全般を配慮した食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する知識や技術を理解するとともに、給食実務の実際を学ぶ。また、給食現場での課題発見、解決を通して、給食の運営を効率的に行うための生産（調理）管理、それらのシステム構築を実践的、総合的に学ぶ。	①特定給食施設(学校・事業所・福祉施設など)の目的、特性について説明することができる。 ②給食施設においてどのような法律に基づいて給食が提供されているかを説明することができる。 ③献立の作成から栄養・食事管理、給食の提供までの一連の業務の流れを説明することができる。 ④大量調理の特性と留意点が生産(調理)作業にどのように反映されているかを考察することができる。 ⑤衛生管理が給食の現場で具体的にどのように実施されているかを理解することができる。

教授方法	実習
履修条件	関連教科の必要単位を履修済みである。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実習先(事前訪問)：実習上の説明および諸注意	実習先管理栄養士
2	実習先：特定給食施設の概要	実習先管理栄養士
3	実習先：特定給食施設における管理栄養士・栄養士業務と役割等	実習先管理栄養士
4	実習先：栄養・食事管理業務	実習先管理栄養士
5	実習先：食材料管理（発注及び検品・検収など）	実習先管理栄養士
6	実習先：生産管理、品質管理（作業管理及び大量調理の特性など）	実習先管理栄養士
7	実習先：施設・設備管理業務	実習先管理栄養士
8	実習先：安全・衛生管理、危機管理等	実習先管理栄養士
9	実習先：事務管理（帳票管理・コンピューターの活用など）	実習先管理栄養士
10	実習先：対象者の嗜好、喫食状況を調査・集計	実習先管理栄養士
11	実習先：栄養教育業務	実習先管理栄養士
12	実習先：栄養アセスメント・ケアプラン等	実習先管理栄養士
13	実習先：実習課題・実践テーマへの取り組み	実習先管理栄養士
14	実習先：実習課題の発表	実習先管理栄養士
15	実習先：反省会とまとめ	実習先 管理栄養士

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習先からの評価	60	実習先担当管理栄養士による評価	事前課題・実習記録	30	課題の取り組み状況及び実習記録の内容による評価
基本的マナー	10	服装や言葉遣いなど、実習生としてのマナーが適切であったか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：実習先についてホームページ等で調べ、概要や特徴について理解する。給食の運営分野の管理栄養士・栄養士の役割について復習する。［60分］ 栄養士・管理栄養士の役割について復習する。［60分］ 事後学習：栄養士・管理栄養士業務全般を通して課題を発見し、問題の解決策を検討する。［60分］	提出物は内容を確認し、フィードバックする（必要に応じ再提出を求める）。 実習についての質問には随時対応する。

受講生に望むこと	本実習は、栄養士が給食業務を行うのに必要な給食サービスの提供に関する技術を学ぶ実習です。これまでの学習内容をまとめ、実習先で学びたいことを明確にして実習に臨んで下さい。	教科書・テキスト	『六訂 臨地実習ガイドブック』前田佳予子・岸本三香子編著,建帛社,2025年,ISBN978-4-7679-0787-1 必要に応じて本学作成資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／給食の運営分野のテキスト	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	臨地実習Ⅱ（給食経営管理論分野）			開講学科	栄養	必修・選択	選択必修
担当教員名	田中　弘美						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
「臨地実習Ⅱ（給食経営管理論分野）」は、「給食の運営」を基本とし、「給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力」が求められる。マーケティングの原理や応用を理解し、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を経験する場となる。管理栄養士業務全般を通して課題を発見し、問題の解決策を検討することで、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。	①給食経営管理の理論と実践を結びつけて説明できる。 ②給食全般のマネジメントを確認し、説明できる。 ③保健・医療・福祉現場における管理栄養士の主な活動を把握する。 ④専門職としての使命、習得すべき資質・知識・技術を考え、カリキュラムとの関連性を把握する。 ⑤自己の課題を明確にし、目標を設定することができる。

教授方法	実習
履修条件	関連科目の必要単位を履修済みである。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実習先：(事前訪問)実習上の説明および諸注意、実習課題・実践テーマへの確認	実習先管理栄養士
2	実習先：特定給食施設における管理栄養士の業務と役割	実習先管理栄養士
3	実習先：栄養部門の給食運営の概要説明	実習先管理栄養士
4	実習先：経営管理に基づいた栄養・食事管理・食材料管理等	実習先管理栄養士
5	実習先：経営管理に基づいた生産管理、品質管理等	実習先管理栄養士
6	実習先：経営管理に基づいた原価管理・人事管理等	実習先管理栄養士
7	実習先：経営管理に基づいた施設・設備管理等	実習先管理栄養士
8	実習先：経営管理に基づいた安全・衛生管理、危機管理等	実習先管理栄養士
9	実習先：給食経営管理システムに関する発表およびディスカッション	実習先管理栄養士
10	実習先：実習課題・実践テーマへの取り組み	実習先管理栄養士
11	実習先：実習課題・実践テーマへの取り組み	実習先管理栄養士
12	実習先：実習課題・実践テーマへの取り組み	実習先管理栄養士
13	実習先：実習課題・実践テーマへの取り組み	実習先管理栄養士
14	実習先：実習課題・実践テーマへの取り組み	実習先管理栄養士
15	実習先：実習課題・実践テーマへの取り組み	田中

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習先からの評価	60	実習先担当管理栄養士による評価	事前課題実習記録	30	課題の取り組み状況及び実習記録の内容による評価
基本的マナー	10	服装や言葉遣いなど、実習生としてのマナーが適切であったか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：実習先についてホームページ等で調べ、概要や特徴について理解する。［60分］給食経営管理論分野の管理栄養士の役割について復習する。［60分］ 事後学習：管理栄養士業務全般を通して課題を発見し、問題の解決策を検討する。［60分］	提出物は内容を確認し、フィードバックする（必要に応じ再提出を求める）。 実習についての質問には随時対応する。

受講生に望むこと	本実習は、医療・福祉・介護システムにおける栄養・給食関連サービスのマネジメントについて学ぶための実習です。これまでの学習内容をまとめ、実習先で学びたいことを明確にして実習に臨んで下さい。	教科書・テキスト	『六訂 臨地実習ガイドブック』前田佳予子・岸本三香子編著,建帛社,2025年,ISBN978-4-7679-0787-1 必要に応じて本学作成資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／給食経営管理論分野のテキスト	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	臨地実習ⅢA（臨床栄養学分野）			開講学科	栄養	必修・選択	選択必修
担当教員名	中川　明彦						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
「臨地実習ⅢA（臨床栄養学分野）」は、臨床栄養分野における管理栄養士の役割および知識と技術について総合的な理解を深める。実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能の習得を目的とする。本実習は、学内での授業・実習で学んだ知識技術を再認識し、病院または老人保健施設等の医療提供施設での課題発見、解決の学びを通して、適切な栄養管理を行うために必要とされる知識及び技術の統合を図る。	①病院又は介護老人保健施設における医療倫理を理解し、管理栄養士業務について説明できる。 ②栄養アセスメントに基づいた栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、説明できる。　③入院患者または入居者に対する個別対応や集団での教育を理解し説明できる。　④各種医療(介護)チームにおけるhttps://uc-mathfia.hokurikugakuin.ac.jp/stf/view/MFUFT12310.xhtml#管理栄養士の役割を理解し、説明できる。"

教授方法	実習
履修条件	関連科目の必要単位を履修済みである。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実習先：(事前訪問)実習上の説明および諸注意、実習課題・実践テーマへの確認	実習先管理栄養士
2	実習先：栄養部門業務の概要、施設見学	実習先管理栄養士
3	実習先：栄養指導やベッドサイド訪問の準備（担当症例の割り振り・把握）	実習先管理栄養士
4	実習先：摂食量調査（担当症例の把握）	実習先管理栄養士
5	実習先：担当症例検討会	実習先管理栄養士
6	実習先：栄養必要量判定と摂取量調査による栄養評価	実習先管理栄養士
7	実習先：食事オーダー、栄養食事指導の依頼オーダーなどの栄養部門電子カルテのシステムと給食管理システムについて	実習先管理栄養士
8	実習先：個人・集団栄養食事指導の見学	実習先管理栄養士
9	実習先：個人・集団栄養食事指導（指導記録や逐後録の作成実習）	実習先管理栄養士
10	実習先：ベッドサイド訪問（患者とのコミュニケーション実習）	実習先管理栄養士
11	実習先：チーム医療の関わり（NSTや褥瘡対策チーム、病棟カンファレンスの参加など）	実習先管理栄養士
12	実習先：栄養・食事補給、栄養食事指導による評価（カルテによる総合評価の実習）	実習先管理栄養士
13	実習先：摂食量調査のまとめ	実習先管理栄養士
14	実習先：症例課題・栄養管理報告書に基づく報告会（担当症例報告会）	実習先管理栄養士
15	実習先：反省会と実習のまとめ	実習先管理栄養士

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習先からの評価	60	実習先担当管理栄養士による評価	事前課題実習記録	30	課題の取り組み状況及び実習記録の内容による評価
基本的マナー	10	服装や言葉遣いなど、実習生としてのマナーが適切であったか			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：実習先についてホームページ等で調べ、概要や特徴について理解する。臨床栄養学分野の管理栄養士の役割について復習する。 事前学習：実習予定表に準じた必要な臨床栄養学の知識を予習する。（60分） 事後学習：実習ノートを確認し、理解していないことは、再度、学習する。（60分）	提出物は内容を確認し、フィードバックする（必要に応じ再提出を求める）。実習についての質問には随時対応する。

受講生に望むこと	本実習では、チーム医療の必要性、管理栄養士と他職種との連携、患者とのコミュニケーションの取り方などの実践について学びます。これまでの学習内容をまとめ、実習先で学びたいことを明確にして、実習に臨むこと。	教科書・テキスト	実践臨床栄養学実習 第3版，第一出版，2022年，ISBN-10-4804114513/糖尿病食事療法のための食品交換表第7版，日本糖尿病学会編，文光堂，2013年，ISBN978-4830660467/糖尿病食事療法のための食品交換表 活用編：献立例　とその実践管，日本糖尿病学会（編集）：文光堂，2015年，ISBN-13978-4830660474/腎臓病食品交換表9版，黒川清監修，医歯薬出版，2016年，ISBN978-4-263-70674-9/カーボカウントの手びき，日本糖尿病学会（著）：文光堂，2017，ISBN-13978-4830660641/メディカルスタッフのための栄養療法ハンドブック(改訂第3版)，佐々木雅也(編集)：南江堂，2024年，ISBN-13978-4524206841/日本人の食事摂取基準〈2025年版〉厚生労働省：第一出版，2025.4.1
指定図書／参考書等	『栄養管理プロセス』公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1385-2）/『国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル』公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1270-1	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療・介護施設の10日間の実習期間において、医療チームの一員である管理栄養士の実務（栄養管理、給食管理、衛生管理など）を確認し、理解することにより、教科書に記載されていない、管理栄養士の集約的な実務と責務を学習する。 全ての患者さんは、両親と想い、心から接することにより手厚い栄養管理ができることを実感することが大切である。

授業科目名	臨地実習ⅢＢ（臨床栄養学分野）			開講学科	栄養	必修・選択	選択必修
担当教員名	中川　明彦						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
「臨地実習ⅢＢ（臨床栄養学分野）」は、臨床栄養分野における管理栄養士の役割および知識と技術について総合的な理解を深める。実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能の習得を目的とする。本実習は、病院での課題発見、解決の学びを通して、適切な栄養管理を行うために必要とされる知識及び技術の統合を図る。	①病院における医療倫理を理解し、管理栄養士業務について説明できる。 ②栄養アセスメントに基づいた栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、説明できる。 ③入院患者に対する個別対応や集団での教育を理解し説明できる。 ④医療チームにおける管理栄養士の役割を理解し、説明できる。

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実習先：(事前訪問)実習上の説明および諸注意、実習課題・実践テーマへの確認	実習先管理栄養士
2	実習先：栄養部門業務の概要、施設見学	実習先管理栄養士
3	実習先：栄養指導やベッドサイド訪問の準備（担当症例の割り振り・把握）	実習先管理栄養士
4	実習先：摂食量調査（担当症例の把握）	実習先管理栄養士
5	実習先：栄養必要量判定と摂取量調査による栄養評価	実習先管理栄養士
6	実習先：栄養必要量判定と摂取量調査による栄養評価	実習先管理栄養士
7	実習先：食事オーダー、栄養食事指導の依頼オーダーなどの栄養部門電子カルテのシステムと給食管理システムについて	実習先管理栄養士
8	実習先：個人・集団栄養食事指導の見学	実習先管理栄養士
9	実習先：個人・集団栄養食事指導（指導記録や逐後録の作成実習）	実習先管理栄養士
10	実習先：ベッドサイド訪問（患者とのコミュニケーション実習）	実習先管理栄養士
11	実習先：チーム医療の関わり（NSTや褥瘡対策チーム、病棟カンファレンスの参加など）	実習先管理栄養士
12	実習先：栄養・食事補給、栄養食事指導による評価（カルテによる総合評価の実習）	実習先管理栄養士
13	実習先：摂食量調査のまとめ	実習先管理栄養士
14	実習先：症例課題・栄養管理報告書に基づく報告会（担当症例報告会）	実習先管理栄養士
15	実習先：反省会と実習のまとめ	実習先管理栄養士

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習先からの評価	60	実習先担当管理栄養士による評価	事前課題実習記録	30	課題の取り組み状況及び実習記録の内容による評価
基本的マナー	10	服装や言葉遣いなど、実習生としてのマナーが適切であったか			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：実習先についてホームページ等で調べ、概要や特徴について理解する。臨床栄養学分野の管理栄養士の役割について復習する。 事前学習：実習予定表に準じた必要な臨床栄養学の知識を予習する。（60分） 事後学習：実習ノートを確認し、理解していないことは、再度、学習する。（60分）	提出物は内容を確認し、フィードバックする（必要に応じ再提出を求める）。 実習についての質問には随時対応する。

受講生に望むこと	本実習では、チーム医療の必要性、管理栄養士と他職種との連携、患者とのコミュニケーションの取り方などの実践について学びます。これまでの学習内容をまとめ、実習先で学びたいことを明確にして実習に臨んで下さい。	教科書・テキスト	実践臨床栄養学実習 第3版，第一出版，2022年，ISBN-10-4804114513/糖尿病食事療法のための食品交換表第7版，日本糖尿病学会編，文光堂，2013年，ISBN978-4830660467/糖尿病食事療法のための食品交換表 活用編：献立例　とその実践管，日本糖尿病学会（編集）：文光堂，2015年，ISBN-13978-4830660474/腎臓病食品交換表9版，黒川清監修，医歯薬出版，2016年，ISBN978-4-263-70674-9/カーボカウントの手びき，日本糖尿病学会（著）：文光堂，2017，ISBN-13978-4830660641/メディカルスタッフのための栄養療法ハンドブック(改訂第3版)，佐々木雅也(編集)：南江堂，2024年， ISBN-13978-4524206841/日本人の食事摂取基準〈2025年版〉厚生労働省：第一出版，2025.4.1
指定図書／参考書等	『栄養管理プロセス』公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1385-2）/『国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル』公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1270-1）	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療・介護施設の10日間の実習期間において、医療チームの一員である管理栄養士の実務（栄養管理、給食管理、衛生管理など）を確認し、理解することにより、教科書に記載されていない、管理栄養士の集約的な実務と責務を学習する。 全ての患者さんは、両親と想い、心から接することにより手厚い栄養管理ができることを実感することが大切である。

授業科目名	臨地実習Ⅳ（公衆栄養学分野）			開講学科	栄養	必修・選択	選択必修
担当教員名	三田　陽子・長井　直子　（代表教員　三田　陽子）						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
「臨地実習Ⅳ（公衆栄養学分野）」は、公衆栄養活動の現場における栄養行政のあり方について認識し、現場の課題発見、改善計画の実施を通して、適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。また、各種プログラムの調整、社会的資源の活用、栄養情報やコミュニケーションの管理の仕組みの実際を学ぶ。実習を有意義なものとし、実習の目標を達成するために事前学習を行う。実習終了後は各自およびグループ毎に実習のまとめと振り返りを行う。	①保健所・保健センターにおける役割及び業務を理解する。 ②保健所・保健センターの活動の実際と栄養行政に基づいたマネジメントの重要性を理解する。 ③栄養行政の現場における栄養・食生活情報の収集・分析、総合的な評価・判定について学ぶ。

教授方法	実習
履修条件	関連科目の必要単位を履修済みである。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実習先での実習（事前訪問:実習上の諸注意等）	実習先管理栄養士
2	実習先での実習（保健センターの組織体制、市町村の概要等）	実習先管理栄養士
3	実習先での実習（保健センターの業務の概要等）	実習先管理栄養士、三田、長井
4	実習先での実習（実習で学びたいことについての意見交換等）	実習先管理栄養士、三田、長井
5	実習先での実習（母子保健事業の概要等）	実習先管理栄養士
6	実習先での実習（乳幼児健診の見学・実習等）	実習先管理栄養士
7	実習先での実習（健康づくり事業の概要等）	実習先管理栄養士
8	実習先での実習（保健所の組織体制・業務の概要等）	実習先管理栄養士
9	実習先での実習（保健所の栄養・食生活改善事業の見学・参加等）	実習先管理栄養士
10	実習先での実習（特定健診・特定保健指導の概要等）	実習先管理栄養士
11	実習先での実習（特定健診・特定保健指導の見学等）	実習先管理栄養士
12	実習先での実習（介護予防事業の概要等）	実習先管理栄養士
13	実習先での実習（食生活改善推進員養成講座や食に関わる様々なボランティア活動の見学等）	実習先管理栄養士
14	実習先での実習（食生活改善推進員養成講座や食に関わる様々なボランティア活動の参加等）	実習先管理栄養士
15	実習先での実習（実習のまとめ、反省会）	実習先管理栄養士

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習先からの評価	60	実習先担当管理栄養士による評価	事前課題 実習記録	30	課題の取組み状況及び実習記録の内容による評価
基本的マナー	10	服装や言葉遣いなど、実習生としてのマナーが適切であったか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習・実習先について理解するため、概要や施策を調べる【90分】 ・実習先への訪問【60分】 事後学習・各自の研究課題まとめ【90分】報告資料作成【90分】報告会【90分】	提出物は内容を確認し、フィードバックする（必要に応じ再提出を求める）。 実習についての質問には随時対応する。

受講生に望むこと	本実習は、公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ、公衆栄養学実習の内容を理解した上で行う実習です。これまでの学習内容をまとめ、実習先で学びたいことを明確にして実習に臨んで下さい。	教科書・テキスト	臨地実習・校外実習ハンドブック［第２版］―より深い学びのために― 編集：藤原政嘉・田中俊治・赤尾正 発行所：株式会社みらい ISBN978-4-86015-646-6
指定図書／参考書等	なし／公衆栄養学及び公衆衛生学分野のテキスト	その他・特記事項	実習時期は9月であるため、教科書は前期に購入し、事前学習に備える。

実務経験を活かした授業の概要

自治体勤務管理栄養士として経験した実務内容を各授業の解説に加えて理解を深める。（長井）

授業科目名	地域の食と健康・環境Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵・田中　弘美・俵　万里子・三田　陽子　（代表教員　新澤　祥恵）						
標準履修年次	1年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
前半：地域の食を加賀と能登という地域性でとらえて理解を深める。まず、特に、歴史的な視点からとらえ、それぞれの地で育まれてきた食文化への理解を深める。次に、各地の特産物を取り上げ、石川県の中での地域による差違と共通性、さらにこれらの健康に与える影響を学びながら、実際の体験による理解に繋げていく。 後半：用意された食育等の体験プログラムより、一つを選んで取り組む。2年生、3年生との協働の取組となる。	①石川県の加賀と能登の食の歴史とその背景を理解する。 ②地域の農畜水産物や様々な加工食品などに理解を深める。 ③上記について説明ができ、体験学習に活かすことができる。 ④体験プログラムへ参加する初心者として、上級生の指導によりプログラム概要を理解しながら活動できる。 ⑤食を通じて地域社会と人々の健康な生活を培う力を養う。

教授方法	演習、体験学習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	新澤
2	加賀と能登の食の歴史1	新澤
3	加賀と能登の食の歴史2	新澤
4	石川の食材に関する講義	新澤
5	石川の食材に関する講義	新澤
6	石川の食材に関する講義	新澤
7	石川の食文化に関する講義	新澤
8	石川の食文化に関する講義	新澤
9	石川の食文化に関する講義	新澤
10	コミュニケーションスキルの関する演習	外部講師
11	コミュニケーションスキルの関する演習	外部講師
12	【体験学習】ガイダンス	全員
13	【体験学習】提示された各プログラム内容の理解と選択を行う	全員
14	【体験学習】コミュニケーションスキルの関する演習	全員
15	【体験学習】選択したテーマについて実施内容を検討する	全員
16	【体験学習】教材等の準備を行う	全員
17	【体験学習】教材等の準備を行う	全員
18	【体験学習】予行練習を行う	全員
19	【体験学習】予行練習を行う	全員
20	【体験学習】実施	全員
21	【体験学習】実施	全員
22	【体験学習】実施	全員
23	【体験学習】実施	全員
24	【体験学習】実施	全員
25	【体験学習】実施	全員
26	【体験学習】実施後のまとめと課題の整理	全員
27	【体験学習】発表準備	全員
28	【体験学習】発表準備	全員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	発表会	全員
30	総括	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加状況	50	①授業に積極的に関わる。 ②授業に向けて十分に準備する。	提出課題	50	①量的、質的に適切である。 ②提出期限が守られている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
前半の講義等では、毎回の内容をまとめて理解しておく。(30分) 後半の体験学習では、事前の準備に意欲的に取組む。終了後は発表できるように体験内容をまとめておく。（60分）	記載内容を確認の後、返却する。

受講生に望むこと	体験学習が中心になるので、他者との積極的な関わりに努めること。	教科書・テキスト	特になし。 必要に応じて、手稿の資料を配付。
指定図書／参考書等	なし／必要に応じて、案内する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	地域の食と健康・環境Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵・田中　弘美・俵　万里子・三田　陽子　（代表教員　新澤　祥恵）						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
前半：地域の食と健康を理解するため、環境問題との関わりを考える。まず、食品ロスの視点より「エコクッキング」を取り上げ、食料資源や飢餓の問題、格差社会における子どもの貧困についても考えたい。さらに、災害時における対応として、災害食調理を体験し、食料の備蓄についても考えながら、地域から地球規模の問題に展開していきたい。 後半：用意された食育等の体験プログラムより、一つを選んで取組む。1年生、3年生と協働の取り組みとなる。	①食に関わる環境問題として、食品ロスについて問題意識を持ち、自身の生活の中での課題を見いだすことができる。 ②食と貧困の問題に、目を向け、課題解決にあたろうとする。 ③災害時の栄養問題を理解し、対応策を考えることができる。 ④体験プログラムへの参加に際して、上級生として1年次の経験を活かして活動するのみでなく、1年生に対しても適切に指導できる。 ⑤食を通じて地域社会と人々の健康な生活を培う力を養う。

教授方法	演習、体験学習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	全員
2	いしかわの環境問題に関する講義	田中
3	いしかわの環境問題に関する講義	田中
4	体験学習：エコクッキング	田中
5	体験学習：エコクッキング	田中
6	体験学習：エコクッキング	田中
7	体験学習：災害食	外部講師
8	体験学習：災害食	外部講師
9	体験学習：災害食	外部講師
10	コミュニケーションスキルに関する演習	新澤・田中
11	コミュニケーションスキルに関する演習	新澤・田中
12	【体験学習】ガイダンス	全員
13	【体験学習】提示された各プログラム内容の理解と選択を行う	全員
14	【体験学習】選択したテーマについて事前学習、情報交換を行う	全員
15	【体験学習】選択したテーマについて実施内容を検討する	全員
16	【体験学習】教材等の準備を行う	全員
17	【体験学習】教材等の準備を行う	全員
18	【体験学習】予行練習を行う	全員
19	【体験学習】予行練習を行う	全員
20	【体験学習】実施	全員
21	【体験学習】実施	全員
22	【体験学習】実施	全員
23	【体験学習】実施	全員
24	【体験学習】実施	全員
25	【体験学習】実施	全員
26	【体験学習】実施後のまとめと課題の整理	全員
27	【体験学習】発表準備	全員
28	【体験学習】発表準備	全員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	【体験学習】発表会	全員
30	【体験学習】総括	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加状況	50	①授業に積極的に関わる。 ②授業に向けて十分に準備する。	提出課題	50	①量的、質的に適切である ②提出期限が守られている

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①前半の講義等では、毎回の内容をまとめて理解しておく（60分）。 ②後半の体験学習では、事前の準備に意欲的に取組む（60分）。 ③終了後は発表できるように体験内容をまとめておく（60分）。	記載内容を確認の後、返却する

受講生に望むこと	体験学習が中心になるので、他者との積極的な関わりに努めること	教科書・テキスト	特になし　必要に応じて、手稿の資料を配付
指定図書／参考書等	なし／必要に応じて案内する	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	地域の食と健康・環境Ⅲ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵・田中　弘美・俵　万里子・三田　陽子　（代表教員　新澤　祥恵）						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
前半：地域の食と健康を理解するため、行政における健康（栄養）施策を学び、地域住民の食に関連する健康問題を様々な視点から取り上げ、地域と人々の健康実現のために積極的に寄与・貢献できる高度な専門知識を学び、課題を見いだし、その対策を考える。さらに、各地の特産物を取り上げ、これらの健康に与える影響を学びながら、実際の体験による理解に繋げていく。 後半：用意された食育等の体験プログラムより、一つを選んで取組む。 １年生、２年生と協働の取り組みとなる。	①石川県の健康問題を理解し、地域毎の課題の差違を見つけ出す。 ②地域の農畜水産物や様々な加工食品などに理解を深める。 ③上記について説明ができ、体験学習に活かすことができる。 ④体験学習では、２年間の経験を活かしながら、１・２年生の指導に当たると同時にプログラムの目的に沿った活動ができる。 ⑤地域と人々の健康実現のために積極的に寄与・貢献できる専門知識と実践力を身につける。

教授方法	演習、体験学習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	全員
2	いしかわの健康推進行政に関する講義１	外部講師
3	いしかわの健康推進行政に関する講義2	外部講師
4	加賀と能登の食品1	全員
5	加賀と能登の食品2	全員
6	加賀と能登の食品3	全員
7	加賀と能登の食品4	全員
8	地域の伝統食に関する実習1	全員
9	地域の伝統食に関する実習2	全員
10	地域の伝統食に関する実習3	全員
11	地域の伝統食に関する実習4	全員
12	【体験学習】ガイダンス	全員
13	【体験学習】提示された各プログラム内容の理解と選択を行う	全員
14	【体験学習】選択したテーマについて事前学習、情報交換を行う	全員
15	【体験学習】選択したテーマについて実施内容を検討する	全員
16	【体験学習】教材等の準備を行う	全員
17	【体験学習】教材等の準備を行う	全員
18	【体験学習】予行練習を行う	全員
19	【体験学習】予行練習を行う	全員
20	【体験学習】実施	全員
21	【体験学習】実施	全員
22	【体験学習】実施	全員
23	【体験学習】実施	全員
24	【体験学習】実施	全員
25	【体験学習】実施	全員
26	【体験学習】実施後のまとめと課題の整理	全員
27	【体験学習】発表準備	全員
28	【体験学習】発表準備	全員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	【体験学習】発表会	全員
30	【体験学習】総括	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加状況	50	①授業に積極的に関わる。 ②授業に向けて十分に準備する。	提出課題	50	①量的、質的に適切である ②提出期限が守られている

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①前半の講義等では、毎回の内容をまとめて理解しておく。[30分] ②後半の体験学習では、事前の準備に意欲的に取組む。終了後は発表できるように体験内容をまとめておく。	記載内容を確認の後、返却する

受講生に望むこと	体験学習が中心になるので、他者との積極的な関わりに努めること	教科書・テキスト	特になし 必要に応じて、手稿の資料を配付
指定図書／参考書等	なし／必要に応じて案内する	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	健康・栄養総合演習Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵・榎本　俊樹・田中　弘美・俵　万里子・中川　明彦・中谷　壽男・西　正人・三沢　典彦・三田　陽子　（代表教員　新澤　祥恵）						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、栄養と健康に関する専門的知識及び実践力を身につけることを目的としている。これまでの学びと管理栄養士に必要な専門基礎分野と専門分野の内容とも関連させながら、まず、「生命倫理」「健康と栄養」「病気と栄養」「食品と栄養」「調理と栄養」の５分野について、提示された課題に各自取り組む。次に、取り組んだ内容をグループ内で評価し合う。さらに、グループ内で協議した内容を発表し、相互評価する。これらの取り組みを通して、各分野を関連付けて理解を深める。	管理栄養士課程の専門基礎分野と専門分野等での学びを総体的に理解しながら、自主的に学びを進めることができる。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「生命倫理」①各自で提示された課題に取り組む。	全員
2	「生命倫理」③グループ内で協議した内容を発表し、相互評価する。	全員
3	「生命倫理」③グループ内で協議した内容を発表し、相互評価する。	全員
4	「健康と栄養」①各自で提示された課題に取り組む。	全員
5	「健康と栄養」②①で取り組んだ内容をグループ内で評価し合う。	全員
6	「健康と栄養」③グループ内で協議した内容を発表し、相互評価する。	全員
7	「病気と栄養」①各自で提示された課題に取り組む。	全員
8	「病気と栄養」②①で取り組んだ内容をグループ内で評価し合う。	全員
9	「病気と栄養」③グループ内で協議した内容を発表し、相互評価する。	全員
10	「食品と栄養」①各自で提示された課題に取り組む。	全員
11	「食品と栄養」②①で取り組んだ内容をグループ内で評価し合う。	全員
12	「食品と栄養」③グループ内で協議した内容を発表し、相互評価する。	全員
13	「調理と栄養」①各自で提示された課題に取り組む。	全員
14	「調理と栄養」②①で取り組んだ内容をグループ内で評価し合う。	全員
15	「調理と栄養」③グループ内で協議した内容を発表し、相互評価する。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
発表	30	事前準備を行い、適切にプレゼンテーションできているか	課題	50	①量的、質的に適切である ②提出期限が守られている
授業参加状況	20	課題に意欲的に取り組み、積極的に参加しているか			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
紹介されたテキスト等を読む、資料等で調べるなど自主的・積極的に課題を進める。［90分］	質問には適宜対応する。

受講生に望むこと	計画を立て、自身で進捗を確認しながら進めてほしい。	教科書・テキスト	適宜資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／担当者が適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。厚生労働省の健康日本21・第2次の食事・栄養項目の達成度が低い結果、第3次の目標設定、国民健康・栄養調査結果により管理栄養士はどのように啓発が必要なのかを理解する。健康になる栄養管理ができる方と栄養教育を受けていない一般の方とは、食習慣や食事バランス（1日に摂取する栄養素）の違いを評価、調査依頼する。　食事調査を行い、摂取するエネルギー量、各栄養素量の過不足を評価する。

授業科目名	健康・栄養総合演習Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵・榎本　俊樹・相良　多喜子・田中　弘美・俵　万里子・中川　明彦・中谷　壽男・西　正人・三沢　典彦・三田　陽子　（代表教員　新澤　祥恵）						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は栄養と健康に関する専門的知識及び実践力を身につけることを目的としている。「健康・栄養総合演習Ⅰ」での取り組みを活かして、まず自身でテーマを設定し、アセスメントにより課題を抽出し、計画を立てて課題解決に取り組む。次に取り組み内容を発表し、相互評価をする。結果をフィードバックし内容改善に活かし、最終発表につなげ、総括する。これら一連の取り組みを通して、4年間の学びの集大成として知識の統合を図る。	管理栄養士課程の専門基礎分野と専門分野等での学びを総体的に理解しながら、自主的に学びを進めることができる。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	課題設定：提示された資料等を参考に、各自課題を設定する。	全員
2	各自課題に取り組む。	全員
3	各自課題に取り組む。	全員
4	各自課題に取り組む。	全員
5	各自課題に取り組む。	全員
6	中間報告の準備	全員
7	中間報告、相互評価	全員
8	相互評価の内容をフィードバックし、課題を進める。	全員
9	各自課題を進める。	全員
10	各自課題を進める。	全員
11	各自課題を進める。	全員
12	各自課題を進める。	全員
13	最終報告の準備	全員
14	最終報告、相互評価	全員
15	相互評価、双方向評価、総括	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
発表	30	事前準備を行い、適切にプレゼンテーションできているか	課題	50	①量的、質的に適切である ②提出期限が守られている
授業参加状況	20	課題に意欲的に取り組み、積極的に参加しているか			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
紹介されたテキスト等を読む、資料等で調べるなど自主的・積極的に課題を進める。［90分］	質問には適宜対応する。

受講生に望むこと	計画を立て、自身で進捗を確認しながら進めてほしい。	教科書・テキスト	適宜資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／担当者が適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。厚生労働省の健康日本21・第2次の食事・栄養項目の達成度が低い結果、第3次の目標設定について、国民健康・栄養調査結果、国立がん研究センター、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所による日本の健康・栄養、各学会のガイドラインなどから、日本人に必要な栄養管理と運動指針を集約し、評価することにより、日本人の総合的な健康・栄養指針を検討する。さらに健康度は、個人差があるが、個人の遺伝子検査結果に基づく、疾患のリスク、栄養管理リスクなどを認識　することにできるようになった。　新しい栄養管理については、教科書には反映されていないが、個人レベルの検査として、通販の検査で容易にでき、検査結果は医学的に確立されている。このように常に最先端の栄養管理について、個人へのエイジングケアに移行している背景を学習し、管理栄養士の視野を広げる。

授業科目名	教職論			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	中島　賢介						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭及び栄養教諭の免許状取得に関わる科目で、教師という仕事の概観をつかみ、自らの適性を問う。教職の意義及び教員の今日的役割、それを実現するための職務内容の実際を知り、教職に対する適性について考え、教師としての意義を自覚を形成する。子どもとしての体験から形成されている教職観、あるいはメディアを通じて形成されている一般的教職観がそれぞれの内にあるだろう。本科目では、それぞれのもつ教職観を、社会が求める今日的教職観へと変容させることが目指される。教師に求められる資質能力、社会性・人間性、指導力、職務内容、家庭や地域との連携のあり方、学校間連携によって一人一人の学びと育ちをつなぐことなどについて考える。	1 幼・小・中・高・栄の校種を超えて教職の意義と専門性いついて理解する。 2 教員の職務と服務について理解する。 3 教師をめぐる現状と課題について知る。 4 教師の求められる資質能力について理解し、自らの進路として教職を選択することの可否を考える。

教授方法	講義とワークを組み合わせた方法を採用する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	これからの時代を生きる子どもにとっての教師のあり方についてについて理解する。	
2	子どもの主体的で多様な学びを生み出すための教職者としてあるべき姿について考える。	
3	教育の専門職としての社会的意義、資格・要件、役割・職務内容、専門性等について理解する。	
4	教員としての職務の全体像、校務分掌上の職務の全容と各人が分担する分掌を理解する。	
5	現代の教育に求められる「資質・能力」とは何かについて幼小接続の観点から理解する。	
6	幼児教育から学校教育へ：幼児教育がなぜ教育の原点であると言われるのか、その理由について考える。	
7	研修の必要性と教員研修制度　研修の意義や重要性等を法規定を通して理解する。	
8	教員の義務と身分保障　服務上の義務と身分上の義務、待遇等を法規定を通して理解する。	
9	チーム学校の組織と指導体制　共通理解の下で対応する事例と、その指導体制を理解する。	
10	公教育の理念と学習指導要領　公教育の理念等を、学習指導要領の記載を通して理解する。	
11	教育制度関係法規の理解　教育法規の記載を通して、我が国の教育制度を理解する。	
12	我が国の教育制度と課題　現代教育制度が抱える課題を知り、その改善方針を理解する。	
13	地域連携と特色ある学校づくり　地域連携の重要性を知り、必要な手法を理解する。	
14	学校の危機管理と安全教育　安全管理の重要性と、必要な具体的取り組みを理解する。	
15	これまでの学びを踏まえて、改めて教師の使命について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度・授業参加状況	50	将来教職に就こうとする者としてふさわしい姿勢で授業に臨んでいる。	課題レポート	50	授業における気付き・発見・学びや討議のまとめと考察（授業内のワーク、自分に対する省察を含む）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各授業回での理解に必要な用語・法令等についての事前調べや事後確認をミニレポートにまとめる。［30分から60分］ ②園行事や学校公開週間など、保育者・教育者の姿を見ることができる機会を逃さない。［適宜］	当日提出、あるいは授業外課題としてのミニレポートに記される履修者の興味・関心・疑問を次回の授業に反映させる。

受講生に望むこと	取得を希望する資格・免許に対応する年齢の子どもだけでなく、乳児から青年までの幅広い年齢層の生活と環境に興味を持つこと。夏休みや春休みの現場体験（幼稚園・放課後等児童クラブその他）を経験していることが望ましい。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814475 『教職論　（ミネルヴァ教職専門シリーズ３）』津田徹・広岡義之　2021年　ISBN：9784623089567
指定図書／参考書等	なし／『小学校学習指導要領解説　総則編』『中学校学習指導要領解説　総則編』『高等学校学習指導要領解説　総則編』	その他・特記事項	毎回PCを持参すること

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	特別活動の理論と方法			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
学校（小学校、中学校、高等学校）は子どもたちにとって楽しい場であることが前提である。この前提となるものの一つが特別活動である。特別活動は学級活動、ホームルーム、児童会活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事の領域がある。この領域について学びながら、自己が小中高校生だった頃の活動を思い出し、各領域の活動内容や意義について考える。また、自己が取得を希望している免許種からどのような取組ができるかについても考える。	①教育課程における特別活動の位置づけについて知る。 ②各領域の目標や内容について知る。 ③各領域の活動について自分が児童生徒だった頃のことを思い出しながら、その意義について考えることができる。 ④学校教育における特別活動の意義についてレポートにまとめることができる。

教授方法	講義
履修条件	栄養教諭一種免許状の取得を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教育課程と特別活動：教育課程における特別活動の位置づけ（学習指導要領に見る歴史的変遷を知る。）	
2	特別活動とは何か①：特別活動の今日的意義と目的論（自己実現等について理解する。）	
3	特別活動とは何か②：小中高等学校における特別活動の領域（各活動と内容について理解する。）	
4	学級活動・ホーム：小中学校の学級活動と高校のホームルーム活動（内容と展開の方法について理解する。）	
5	児童会・生徒会活動：小学校の児童会活動と中高校の生徒会活動（内容と展開の方法について理解する。）＋小学校のクラブ活動	
6	小中高等学校における学校行事（行事の種類と内容について理解する。）	
7	体育的行事におけるジェンダー教育：運動会の種目（種目によって男女別になっていたことについて考える。）	
8	学習のまとめとレポート（学習を振る返りながら特別活動の意義について再考し、レポート作成する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート	30	特別活動の各領域の目標や内容を理解している。	期末レポート	30	特別活動の意義について自分なりに考えている。
グループ討論	30	自分の考えを述べたり、討論の進行に寄与したりしている。	授業態度	10	積極的に授業に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
次時の授業で取り上げる内容について資料等を読んで予習する。(30分) 授業内容の復習をする。（30分）	レポート作成の観点をもとに提出されたレポートについて講評する。

受講生に望むこと	小中学校の頃の学校生活で、なぜ、特別活動が楽しかった思い出として残っているのかを考えながら学んでほしい。	教科書・テキスト	小学校学習指導要領解説特別活動編、文部科学省、2017年、ISBN978-4-491-03469-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

小学校、中学校、高等学校の教育課程に関する資料を収集し、特色ある教育課程やカリキュラム・マネジメントなどを提示して理解を促したり、グループ討論したりしている。

授業科目名	道徳教育指導論			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
道徳教育の重要性が叫ばれている。新学習指導要領において道徳の時間が「特別の教科　道徳」になり、「考え、議論する道徳」の授業が求められている。道徳は人間としてどうよりよく生きるか子どもたち一人一人が考え議論しながらそれぞれに自分らしい生き方を目指していくよう育むことが重要である。そこで本科目では、道徳教育とは何か、道徳性はどのように発達するか、道徳教育がどのように行われてきたか諸外国の例も参考にして考える。また、現在、どのような道徳教育が行われているかについて考え、議論する授業を目指す。そして、終盤では多様な道徳授業についても探究する。	①道徳教育とは何か：道徳教育の今日的意義と重要性について理解している。 ②心の成長と道徳性の発達：心の成長とはどういうことなのか、道徳の意味内容と道徳性の発達とはどういうことなのかについて理解している。 ③道徳教育の歴史：道徳教育はどのように行われてきたか、歴史的な観点から理解している。 ④現在の道徳教育：現在の道徳教育がどのように行われているか様々な観点から考えることができる。 ⑤多様な道徳授業：多様な道徳授業について具体例をもとに自分なりに考えることができる。

教授方法	講義
履修条件	栄養教諭一種免許状の取得を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業の概要と評価方法について知る。）／道徳教育とは何か（道徳教育の本質について考える。）	
2	道徳教育の意義（日本社会に求められる人間像と道徳教育の必要性についてテキストをもとに考える。）	
3	道徳性の発達（道徳性はどのように発達するか、ピアジェとコールバーグの理論について知る。）	
4	道徳教育の歴史①（明治時代の道徳教育についてテキストをもとに考える。）	
5	道徳教育の歴史②（大正時代、昭和時代戦前までの道徳教育についてテキストをもとに考える。）	
6	道徳教育の歴史③（昭和時代戦後の道徳教育についてテキストをもとに考える。）	
7	特別の教科　道徳①（学校における道徳教育の基本的押さえについて知る。）	
8	特別の教科　道徳②（道徳の特質と内容についてテキストをもとに考えながら実際の教材について知る。）	
9	特別の教科　道徳の指導過程（道徳の指導過程について学習指導案をもとに考える。）	
10	特別の教科　道徳の指導方法（道徳指導におけるさまざまな方法にテキストや解説「道徳編」をもとに知る。）	
11	道徳の授業の実際（小学校の道徳の授業でどのように考え議論する道徳が行われているか知る。）	
12	幼・小・中連携による道徳教育（異年齢の子供同士の交流で育まれる道徳性について考える。）	
13	外国の道徳教育（アメリカ、ドイツ、韓国から１つ選んで資料を読み自分なりに考えて議論する）	
14	多様な道徳授業の探究①（対話を促す道徳授業について中学校の授業例をもとに考える。）	
15	多様な道徳授業の探究②（デジタル道徳教材の開発と道徳授業について資料や自身の経験から考える）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
ミニッツコメント	20	道徳教育について自分の考えを持っている。	小テスト	15	道徳教育についての基礎的知識を有している。
授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。	定期試験	50	道徳教育についての知識・理解を有している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。［30分］ ②各回の授業で配付するワークシート内のミニッツコメントにコメントする。［20分］ ③「特別の教科　道徳」に関し、インターネット検索して調べる。［20分］	①小レポートについての質問に応じる。 ②小テストの結果について解説する。 ③第15回授業時に定期試験の観点を示す。

受講生に望むこと	自己の小学校時代、中学校時代に「どのような道徳の授業があったか」の意識で受講してほしい。	教科書・テキスト	『自ら学ぶ道徳教育』〔第1版〕，押谷由夫編著，教育情報出版，2021年12月発行，ISBN978-4-909378-40-8
指定図書／参考書等	『小学校学習指導要領解説特別の教科　道徳編』，文部科学省，2017年告示，ISBN978-4-908255-35-9，『中学校学習指導要領解説特別の教科　道徳編』，文部科学省，2017年告示，ISBN978-4-316-30084-9　※小学校、中学校いずれかで可／なし	その他・特記事項	小レポート課題はClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

小学校や中学校の道徳科の授業を動画記録して視聴させて、グループ討議したりレポート作成したりしている。

授業科目名	教育課程編成論			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
学校（小学校、中学校、高等学校）は子どもたちに何を教え、子どもたちは何を学ぶのか。この「何を」に当たるものが小学校、中学校、高等学校の教育課程（カリキュラム）である。そこで、本科目においては、教育課程の概念と構造、学習指導要領の歴史的変遷と教育課程、教育課程編成の方法、小学校、中学校、高等学校それぞれの教育課程編成の実際、教科と教科外活動の教育課程、社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価などについて学ぶ。これらを通して小学校、中学校、高等学校の教育課程についての理解を深める。	①教育課程：教育課程の概念と構造や学習指導要領をもとに、小学校、中学校、高等学校の教育課程について理解することができる。 ②学習指導要領の変遷：我が国最初の学習指導要領から最新の学習指導要領の変遷を概観し、現在の「令和の日本型教育」が目指す教育について知る。 ③教育課程の編成：小学校、中学校、高等学校における教育課程編成の方法と実際について理解することができる。 ④教育課程のマネジメント：カリキュラム・マネジメントの理論と実際及びカリキュラム評価について理解することができる。

教授方法	講義
履修条件	栄養教諭一種免許状の取得を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業計画と評価の方法について知る）／教育課程（問いを解決しながら、教育課程（カリキュラム）について知り、カリキュラムの構造と類型について理解する。）	
2	教育課程行政（問いを解決しながら、教育課程行政の構造や法体系及び教育の目的について理解する。）	
3	学習指導要領の歴史的変遷１（問いを解決しながら、我が国最初の学習指導要領と戦後教育について教科課程と教育課程の面から理解する。）	
4	学習指導要領の歴史的変遷２（問いを解決しながら、学習指導要領の改訂と戦後教育の見直しについて教育内容の現代化から理解する。）	
5	学習指導要領の歴史的変遷３（問いを解決しながら、「新しい学力観」「生きる力」「ゆとり教育」をもとに平成時代の教育課程について理解する。）	
6	学習指導要領の歴史的変遷４（問いを解決しながら、「ゆとり教育」から「確かな学力」へと移った経緯について知り、「令和の日本型教育」を目指していることを理解する。）【レポートＡ】	
7	教育課程編成の方法（問いを解決しながら、教育課程の意義と教育課程編成の原則及び教育課程編成の手順について理解する。）	
8	学校におけるカリキュラム開発（問いを解決しながら、学校や地域の実態を踏まえたカリキュラム開発の必要性、学習指導要領の記述に見るカリキュラム開発の留意点について理解する。）	
9	小学校の教育課程（問いを解決しながら、小学校の教育課程の過去から現在まで通観し、現在の教育課程の内容と特徴について理解する。）	
10	中学校・高等学校の教育課程（問いを解決しながら、学校教育法体制下の中学校と高等学校の歩みを通観し、新学習指導要領による中学校と高等学校の教育課程について理解する。）	
11	教科と教科外活動の教育課程（問いを解決しながら、教科と教科外の教育課程の特徴をつかみ、教科外の教育課程の内容について理解する。）	
12	地域と連携した教育課程編成（問いを解決しながら、従前の学習指導要領をもとに学校と家庭・地域社会の連携による教育課程の重要性について理解する。）【レポートＢ】	
13	カリキュラム・マネジメントの理論（問いを解決しながら、カリキュラム・マネジメントが生まれた背景を知り、カリキュラム・マネジメントの可能性と課題について理解する。）	
14	カリキュラム・マネジメントの実際（問いを解決しながら、小学校と中学校における地域連携カリキュラムの取り組みや高等学校における中高一貫教育の取り組みを知る。）	
15	カリキュラム評価（問いを解決しながら、カリキュラム評価の意義、対象、方法について理解する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	授業の到達目標（①～④）を達成している（達成状況：40点以上「十分達成している」、30～39点「概ね達成している」29点以下「努力を要する」）。	グループ討論	30	積極的に発言してグループ討論に貢献している。【自己評価、相互評価、教師評価】
レポート	20	レポート観点をもとに自己の考えを明解に書いてある。【レポートＡＢ】			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
テキストを用いて「問い」を解決する授業が毎回続くので、次回の範囲を読んで予習する。(40分) 授業内容の復習をする。（30分）	・定期試験の範囲と出題方法を提示する。 ・レポート作成の観点をもとに提出されたレポートについて講評する。

受講生に望むこと	小中高等学校における教科等の学習指導は、各学校ごとに編成する教育課程によって行われていたことについて認識する機会としてほしい。	教科書・テキスト	『教育課程編成論』改訂版、森山賢一編著、学文社、2021年、ISBN978-4-7620-3073-4
指定図書／参考書等	なし／小学校学習指導要領（2017）、中学校学習指導要領（2017）、高等学校学習指導要領（2018）	その他・特記事項	レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

小学校、中学校、高等学校の教育課程に関する資料を収集し、特色ある教育課程やカリキュラム・マネジメントなどを提示して理解を促したり、グループ討論したりしている。

授業科目名	教育社会学			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	内田　啓太郎						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
わたしたちの社会において教育は必要なもの、欠かせないものだと思われている。確かに教育のあり方が社会へ大きな影響を与える一方で、社会もまた教育のあり方へ強い影響を与えている。では、教育と社会はお互いどのように結びつき、影響を与える関係であるのか。この授業の目的は、教育にまつわる様々な要素（子ども、教師、制度、集団、労働など）を社会学の考え方を通じて理解することである。	1.教育を構成する諸要素について社会学の考え方から理解する。 2.近代以降の社会において学校教育がどのように制度設計され、実践されてきたのか理解する。 3.わたしたちの社会が抱えている教育問題について社会学の考え方から理解する。 4.わたしたちの社会、特に地域社会のあり方と教育の関わりについて社会学の考え方から理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の概要と目的、到達目標を理解し、「教育を社会学するとは何か」について学ぶ	
2	学説史①：教育社会学の誕生から「新しい教育社会学」への転換、文化的再生産論の登場まで、主要な学説を学ぶ	
3	学説史②：「新しい教育社会学」以降、現代の社会問題に答える形で登場した主要な学説を学ぶ	
4	階層と教育①：社会における階層の構造と移動について理論・概念と事例から学ぶ	
5	階層と教育②：社会階層の問題を格差問題と捉え、問題発生のプロセスと解決に向けて理論・概念と事例から学ぶ	
6	マイノリティ／ジェンダーと教育：現代社会においてマイノリティが抱える問題、またはジェンダーに起因する問題について理論・概念と事例から学ぶ	
7	教師と子どもの社会学：学校教育または学校現場において教師と子どもの役割・機能について理論・概念と事例から学ぶ	
8	ライフコース：ライフコース形成における教育の主要な役割・機能について理論・概念と事例から学ぶ	
9	非行／逸脱と教育問題：教育問題としての非行／逸脱が持つ構造について理論・概念と事例から学ぶ	
10	教育改革：これまで日本社会にて議論され、実施されてきた教育改革について政策と実践の両面よりそのあり方と問題点を学ぶ	
11	学校教育（初等・中等教育）：学校教育の成立と発展の歴史を学び、その構造と問題点についても学ぶ	
12	高等教育（大学教育）：高等教育の成立と発展の歴史を学び、その構造と問題点についても学ぶ	
13	労働市場へのトランジション：日本社会の雇用慣行・市場に対して教育（特に高等教育）があたえる影響について理論・概念と事例から学ぶ	
14	教育と経済：「社会と経済」の視点から学校教育および高等教育が抱える問題点について理論・概念と事例から学ぶ	
15	全体のまとめ：今学期の授業を振り返り、「教育を社会学するとは何か」について再考する	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	授業の到達目標および内容をふまえつつ、設問に対する自らの考えを論理的な解答としてまとめることができるか評価する。	授業への参加態度	30	毎回の授業で提出するリアクションペーパーの提出状況およびその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．教科書の該当する範囲を事前に公開、配布する資料とあわせて読む［45分］ 2．授業中の解説を配布資料や自分で取ったノートとあわせて読む。［45分］	授業に関する質問および期末レポートの講評などを対面またはオンラインで集約したうえで、受講者全体と共有する。

受講生に望むこと	教育は日常生活や人生のさまざまな場面において、わたしたちの誰もが関わりを持ちます。受講生の皆さんへは、自分がこれまで受けたきた、また今受けている教育に関心を持ちつつ、わたしたちの社会が抱えている教育問題に対し、社会学の考え方を学び、その解決に向かおうという積極性を望みます。	教科書・テキスト	酒井朗・中村高康・多賀太編『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房，2012年、ISBN 9784623062935
指定図書／参考書等	なし／相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子『これからの教育社会学』有斐閣，2023年、ISBN 9784641200036 （参考書）中村高康・松岡亮二編『現場で使える教育社会学』ミネルヴァ書房，2021年、ISBN 9784623092604	その他・特記事項	毎回の授業資料（スライド／レジュメ）はオンラインで公開します（印刷物を配布しません）。資料の閲覧、ノートテイキングのためChromebookを持参することを推奨します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	発達心理学			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
人間がどのような発達過程をたどるかを理解することは、保育や教育に携わるうえで重要な視点である。本講義では、発達心理学の具体的成果をもとに、乳幼児期から青年期を中心に、人間の心理的発達のしくみについて学ぶ。	①発達心理学の諸理論に関する基礎知識を答えられる。 ②生涯における心身の発達について答えられる。 ③各年齢期において達成されるべき発達課題を答えられる。 ④発達心理学の知見を踏まえ、乳幼児期から青年期の子どもに対する基本的な関わりについて考察できる。

教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問なのか。発達心理学を学ぶ意義を理解する。	
2	「発達」を考える①：人の発達において、各発達段階で達成しておくことが望まれる「発達課題」について理解する。また、発達課題と教育との関連について考える。	
3	「発達」を考える②：「発達を決めるのは遺伝か環境か」、「年をとるのは衰退か成熟か」などの疑問をもとに、人の「発達」について考える。	
4	胎児期～乳児期①：お腹のなかにいる赤ちゃんに意識はあるのだろうか。生後間もない赤ちゃんはただ泣いているだけだろうか。胎児や新生児の発達と有能さについて理解する。	
5	胎児期～乳児期②：赤ちゃんはどのように外界と関わっているか。乳児期の情動、認知、言語の発達について考える。	
6	胎児期～乳児期③：対人関係の基盤となるものは何か。情緒的な絆である「愛着（アタッチメント）」について考える。	
7	幼児期①：「ぼく・わたし」はいつ成立するか。子どもの言語発達や自己概念の成立について考える。	
8	幼児期②：なぜ子どもにとって「遊び」は重要なのか。「象徴機能」や社会性の発達を通して考える。	
9	幼児期③：子どもはどのように「賢く」なっていくか。幼児期における認知発達について考える。	
10	児童期①：子どもの対人関係はどう変わっていくか。友人関係の展開を中心に、学童期の子どもが抱えやすい問題について考える。	
11	児童期②：物事の善し悪しや思いやりはどのように育つか。学童期の子どもの「道徳性」や「向社会性」の発達について考える。	
12	児童期③：子どもはどのように物事を捉え、思考していくのだろうか。児童期の認知発達について考える。	
13	青年期：青年期における身体と心の変化、周囲との関係の変化について考える。また、「自分らしさ」とは何だろうか。青年期の重要な発達課題とされる「自我同一性（アイデンティティ）」について考える。	
14	成人期・老年期：家庭を持ち親になることの意味、老いや病がもたらすもの、死を目前にした人間について考える。	
15	「発達障害」の理解と対応：発達障害は親のしつけや本人の性格が原因ではない。では、発達障害とは何だろうか。発達障害など非定型発達の基礎的な知識や考え方について理解し、適切な関わりを考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	20	講義内容に対する意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	ブックレポート	20	発達心理学に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。
定期試験	60	発達心理学の諸理論、発達課題、子どもに対する適切な関わりなど、授業で取り上げる内容の知識が獲得されていることが評価基準となる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、発達心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] ③発達心理学の下位領域・関連領域である「乳幼児心理学」「児童心理学」「青年心理学」「発達障害」などの参考書を用いて、知識を深める。[60分]	①毎回の授業レポートについては、次回の授業時に内容に関する振り返りを行う。 ②定期試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応する。

受講生に望むこと	授業の内容が今後の自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的に受講することを望む。	教科書・テキスト	坂上裕子・山口智子・林 創・中間玲子（2024）．『問いからはじめる発達心理学　改訂版』 有斐閣　ISBN: 978-4641151291
指定図書／参考書等	なし／本郷一夫・飯島典子編　（2019）．『保育の心理学』　建帛社　ISBN：978-4767950914、若尾良徳・岡部康成　（2010）．『発達心理学で読み解く保育エピソード』　北樹出版　ISBN：978-4779302510、岡本祐子・深瀬裕子編　（2013）．『エピソードでつかむ生涯発達心理学』　ミネルヴァ書房 ISBN: 978-4623065318、伊藤亜矢子編　（2011）．『エピソードでつかむ児童心理学』　ミネルヴァ書房 ISBN:978-4623058259	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。

授業科目名	教育相談			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	植田　峰悠						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
子どもたちを取り巻く諸問題についての実情を把握し、教育相談の目的や意義を学ぶ。また、教育相談における幼児・児童・生徒への関わり方を対象問題別に学ぶとともに、幼児・児童・生徒の理解及び支援のいくつかのアプローチを学び、教育相談について理解を深める。	1)教育現場で遭遇する問題を理解すること。 2)基本的な相談技術を理解すること。 3)多職種の連携・協働を理解すること。 4)科学研究の知識を修得すること。 5)科学研究の技術を修得すること。

教授方法	演習、講義、ディスカッション。
履修条件	教職課程登録者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教育相談とは：教育相談の目的、意義、方法について考える。	
2	現代社会と子どもたち：子どもの貧困や、子どもを取り巻く社会状況について理解を深める。	
3	自閉スペクトラム症：自閉スペクトラム症（ASD）の特徴と支援について理解を深める。	
4	その他の発達障害：限局性学習症（LD）や注意欠如多動症（AD/HD）などの特徴と支援について理解を深める。	
5	不登校：不登校とその支援について理解を深める。	
6	いじめ：いじめとその支援について理解を深める。	
7	非行：非行とその支援について理解を深める。	
8	虐待：虐待とその支援について理解を深める。	
9	自殺：自殺とその予防、支援について理解を深める。	
10	統合失調症：統合失調症の特徴および支援について理解を深める。	
11	抑うつ障害：うつ病の特徴と支援について理解を深める。	
12	カウンセリングの理論と態度：教育相談において求められるカウンセリングの知識と技術を理解する。	
13	カウンセリングの実践：教育相談においてカウンセリングをどのように実践するかについて理解する。	
14	連携・協働：教育相談において求められる多職種の連携や協働について理解を深める。	
15	総括：教育相談の目的、意義、方法について改めて考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の意見や感想を記述すること。講義内容のメモではなく、内容から発展させた自分の考えなどを記述することが求められる。	講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時までにテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
与えられたテーマについて予習し、レジュメを作成すること。[90分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[90分]	講義中に課す小レポートについては次回授業時に適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	各回の学びを通じ、教員として修得することが推奨される科学研究の知識と技術を身に着けることを目指す。毎回相当量の予習と講義における他者との協働が不可欠である。	教科書・テキスト	なし。必要な資料は随時配布する。
指定図書／参考書等	なし／『絵本とともに学ぶ　発達と教育の心理学』、増田梨花（編著）、晃洋書房、2018年、ISBN:978-4-7710-2932-3	その他・特記事項	受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育の方法・技術（幼栄）			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
「子どもは環境で育つ」と言われます。そして、環境はヒト・モノ・コトに大別することができます。これらは子どもの育てるための方法、すなわち、教育の方法にもなります。そこで、幼児や児童に対する教育方法について、物的環境、人的環境、社会的環境、さらにICT環境から学びます。。履修生は幼稚園教諭、栄養教諭の免許状取得を希望する学生なので、幼稚園や小学校の子どもたちの教育の方法や技術について理論だけでなく、実際に教材を作ってみましょう。とりわけ、幼稚園や小学校ではICTを活用した教育の方法も見られるので、履修生自らがICTを使って教材を作ることにもチャレンジしてみましょう。	①子どもの学びの場の始まりとしての幼稚園の教育方法の基礎理論や歴史について理解している。 ②子どもの育ちにはさまざまな環境が影響することを理解している。 ③「生きる力」「主体的・対話的で深い学び」について理解している。 ④アフォーダンスやシグニファイアの理論を用いて手作り教材を考えることができる。 ⑤ICTを活用した幼児教育、食に関する教育の教材を作成することができる。

教授方法	講義・演習
履修条件	幼稚園教諭一種免許状の取得を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業の概要、到達目標、授業計画、評価計画、使用テキスト）／２つの学科が一緒に学ぶ理由（本科目では、幼児期と児童期の子どもを対象とする。子どもの育ちには「幼児教育」とともに「食に関する教育」も重要である。これらのことを共通理解する。）	
2	幼稚園の目的（現代的な幼児教育を作り出したことで有名なフレーベルの教育思想と教育方法について学び、フレーベルが使った幼稚園の目的について理解する。）	
3	幼稚園教育の方法（日本における幼稚園教育の方法である「環境を通して行う教育」の考え方について理解する。）	
4	子どもとモノとの関係（子どもが周囲のさまざまなモノと適切に関われるよう、子どもとモノlとの関係に焦点化して考える。）	
5	「環境」とは何か（子どもの経験を理解するためのアフォーダンス、環境との関わり方を示すためのシグニファイアについて知り、手作りのアフォーダンス教材、シグニファイア教材を考える。）【教材作成Ａ】	
6	手作り教材の作成と紹介（前時で考えたアフォーダンス教材、または、シグニファイア教材を作成し、お互いに見合う。）	
7	子どもの育ちと社会的環境（子どもの周囲にある社会的環境に着目し、地域社会を中心とした子どもの育ちについて考える。）	
8	「生きる力」とカリキュラム・マネジメント（幼稚園教育と「生きる力」、食に関する指導と「生きる力」について考え、そのための方法としてのカリキュラム・マネジメントについて知る。）	
9	「主体的・対話的で深い学び」（幼稚園教育における「主体的・対話的で深い学び」、食に関する指導における「主体的・対話的で深い学び」について考える。）	
10	ICTの活用（幼稚園や小学校におけるICT活用の意義について考える。）	
11	情報活用能力の必要性（情報社会の進展に主体的に対応できる子どもを育むためのあり方について考える。）	
12	教材の計画（ICTを活用した幼児教育、食に関する授業のための教材をフラッシュ型教材の観点から計画する。）【教材作成Ｂ】	
13	教材の作成（計画に基づきフラッシュ型教材を作成し、完成させる。）	
14	教材発表会（フラッシュ型教材を完成させ、お互いに見合う。）	
15	学習のまとめとレポート（これまで学んだ内容の要点を整理し、レポートする。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	30	教育の方法や技術について理解している。	教材作成Ａ	20	フラッシュ型教材の要件に合う教材を作成している。
教材作成Ｂ	30	教育の方法や技術についての知識を有し、自分なりの考えを持っている。	授業態度	20	積極的に授業に臨んでいる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。［30分］ ②幼稚園や小学校の教育方法に関しインターネット等で調べる。［30分］	①小レポートについての質問に応じる。 ②作成した教材について講評する。

受講生に望むこと	幼稚園、小学校において「どのような教育の方法が採られているか」の意識で受講してほしい。	教科書・テキスト	『幼児教育・保育のための教育方法論』，垂見直樹・池田竜介編著，ミネルヴァ書房，2021年出版，ISBN978-4-623-09091-4
指定図書／参考書等	なし／『幼稚園教育要領解説』文部科学省2018年，ISBN978-4-577-81447-5、『小学校学習指導要領』文部科学省2017年,ISBN978-4-491-03460-7	その他・特記事項	小レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

幼稚園、小学校、中学校の教育方法について取材（写真、動画、資料収集）して提示し、各校種における教育方法の特徴について理解を促したり、レポート作成したりしている。

授業科目名	総合的な学習の時間の指導法			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
総合的な学習の時間の時間の創設の経緯を知り、目標について考えながら、実践例によって総合的な学習の時間の意義について考える。その過程で自己の経験を思い出しながら意見交換し、現在における総合的な学習の時間の課題について考える。このような授業を総合的な学習の時間の目標に照らし、自己の学びの目標を設定したり、事例を調べて考えたことをグループで話し合ったりレポートしたりすることで、総合的な学習の時間の目標や意義を体得する。	①この授業における自己の学びの目標を設定し、見通しを持って、調べたり考えたり、話し合ったりすることができる。 ②「総合的な学習（探究）の時間」の全体計画や年間指導計画の例を総合的な学習の時間の目標に照らして考え、議論することができる。 ③自己の学びの過程を振り返り、レポートにまとめることができる。

教授方法	講義・演習
履修条件	栄養教諭一種免許状取得を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業の概要・目標・授業計画・評価方法）／総合的な学習の時間の創設（総合的な学習の時間が創設された経緯について知る。）	
2	総合的な学習の時間の変遷（創設後の総合的な学習の時間の取り組みと当時の課題を知り、第１次改訂、第２次改訂の趣旨をもとに総合的な学習（探究）の時間の意義について考える。）	
3	総合的な学習の時間の学習経験（自己が小中高等学校のときの総合的な学習の時間の学習経験を思い出し、グループで各々の経験を紹介し合う。）	
4	総合的な学習の時間の計画（現在の小中高等学校の総合的な学習（探究）の時間の全体計画や年間指導計画の考え方を理解する。）	
5	総合的な学習の時間の実践例１（小学校の総合的な学習の時間の実践例を共通資料として読み調べ、感想等について話し合う。）	
6	総合的な学習の時間の実践例２（小中高等学校の総合的な学習（探究）の時間のいくつかの実践例から選択して読み調べ、自分なりに考える。）	
7	グループ討論（調べて考えたことをグループで紹介し合い、話し合う。）	
8	学習のまとめとレポート（学習のまとめを行い、その内容をレポートする。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
グループ討論	20	積極的にグループ討論に参加している。	小レポート	40	授業の過程でグループで話し合ったことをもとに書いてある。
期末レポート	30	自己の学びの過程を振り返って書いてある。	授業態度	10	積極的に授業に臨んでいる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業で終末に、次時までに考えたり調べてきてほしいことの指示に対して事前学習する。［30分］ ②何回の授業の終末に、本時の感想（小レポート）を求めるので解決してclassroomに提出する。［30分］	①提出された小レポートについて講評する。 ②提出された期末レポートについて講評する。

受講生に望むこと	小中高等学校において「どのような総合的な学習の時間の学習が行われていたか」の意識で受講してほしい。	教科書・テキスト	小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編、文部科学省、ISBNISBN978-4-491-03469-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	小レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

総合的な学習の時間の指導経験があり、その取り組みがいくつかの書籍に事例として掲載されていることから、書籍内容を通して本来求められている総合的な学習の時間の学習を紹介し、深い理解に繋げる。

授業科目名	生徒指導論			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	石上　佐知子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要

生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、その個性の伸長を図りながら、社会的資質及び行動力を育成することを目的とする教育活動である。生徒指導は、特定の問題場面への対応にとどまらず、日常の教育活動全体を通して行われるものであり、学習指導と並んで学校教育の基盤をなす重要な機能を担っている。
本授業では、生徒指導の意義・役割及び方法原理について理論的に理解するとともに、「いじめ」「不登校」「SNS利用」等の現代的課題を取り上げ、具体的事例を通して生徒指導の在り方を考察する。さらに、生徒指導と法との関係や、教師・学校組織が連携して取り組むことの重要性について理解を深める。
れらを通して、小学校段階から高等学校段階に至るまでの生徒指導を、専門性を有する教育実践として捉え、教師としての判断力及び対応力の基盤を育成することを目指す。

授業の到達目標

① 生徒指導の意義・役割及び目的について理解するとともに、生徒指導の３機能及び教育相談との関係を説明することができる。
② 教育課程全体における生徒指導の位置づけを理解し、各教科及び教科外活動との関連から生徒指導の意義を捉えることができる。
③ 集団指導及び個別指導の方法原理について理解し、学級担任・教科担任の役割や教師間の連携について考えることができる。
④ いじめ問題の現状と課題を理解し、事例をもとに適切な対応の在り方について考えることができる。
⑤ 不登校の背景や変遷を踏まえ、児童生徒の心理に配慮した支援や対応の在り方について考えることができる。
⑥ インターネット社会における生徒指導の課題を理解し、SNS利用等への指導の在り方について考えることができる。
⑦ 生徒指導と法との関係について理解し、校則・体罰・懲戒等をめぐる判断の難しさと教師の責任について説明することができる。

教授方法	講義
履修条件	栄養教諭一種免許状の取得を希望する者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション／生徒指導の意義と役割 生徒指導の目的、３機能、生徒指導と教育相談の関係を理解する。	
2	教育課程と生徒指導 各教科・道徳・特別活動・総合的な学習（探究）の時間における生徒指導の位置づけを理解するる。	
3	生徒指導の方法 集団指導と個別指導の方法原理を、「成長を促す指導」「予防的な指導」「課題解決的な指導」の観点から捉え、教師間連携の重要性を考える。	
4	いじめ問題と生徒指導 いじめの定義・認知件数を踏まえ、事例分析を通して対応の在り方を考える。	
5	不登校問題と生徒指導 不登校の概念と変遷を理解し、背景に応じた支援の在り方を考える。	
6	インターネット社会における生徒指導 SNS利用の実態やリスクを理解し、現代に求められる指導の在り方を考える。	
7	生徒指導と法・連携 校則、体罰、懲戒等に関する法的枠組みを理解し、「チーム学校」による生徒指導の重要性を考える。	
8	学修のまとめ 第1回～第7回の学修を振り返り、生徒指導に対する自らの考えを整理・表現する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	20	積極的にディスカッションに参加し、議論の深まりに寄与している。振り返りシートに考えを書き表している。	小レポート	30	課題に沿って自己の考えを明解に書き表している。
テスト	50	生徒指導についての知識・理解を有し、生徒指導に対する考えを表現している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）

①テキストや「生徒指導提要」の内容を事前に読み、授業に臨む。[30分]
②課題に応じ、振り返りシートやレポート等を作成する。[30分]
③学修のPDCAサイクルを踏まえたノートテイクや記録作成に取り組む[20分]

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

①レポートの観点や質問に応じる。
②グループワークを行う際にはテーマや観点を示す。
③テスト（第8回）の観点について事前に示す。

受講生に望むこと	①毎回の授業における学修の記録を、自分なりのノートテイク等を通して主体的に作成する。 ②毎回の授業内容について、自分が教師だったらという視点で考える。	教科書・テキスト	『生徒指導・進路指導の理論と方法』、会沢信彦・渡部昌平編著、北樹出版、2021年、ISBN978-4-7793-0648-8
指定図書／参考書等	なし/「生徒指導提要」（令和４年12月　文部科学省）※授業内でQRコードを提示する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	学校栄養指導論Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	三田　陽子・畑山　千春　（代表教員　三田　陽子）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
栄養教諭は管理栄養士・栄養士免許を持ち、教育に関する資質と栄養に関する専門性を併せ持つ職員として、学校で食育推進の中核的な役割を担うことを期待されている。本授業では、食に関する指導と学校給食の管理を一体的に展開し、学校給食を「生きた教材」として活用した効果的な指導を行うために必要な知識や技術を学ぶ。特に食に関する指導の方法については、指導案作成の手順に基づき教材作成も含め演習を通して学ぶ。発表と相互評価も行い、作成から実施、評価の方法への考察を深める。	①栄養教諭制度の概要と関連法規を理解している。 ②栄養教諭の職務内容を説明できる。 ③（学校給食の管理）栄養管理、衛生管理、物品管理を理解している。 ④（食に関する指導）給食の時間をはじめ、体育科、家庭科及び特別活動の時間、各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な時間と指導内容との関わりを理解している。 ⑤食に関する指導の全体計画作成とその展開の学びを通して「生きた教材」としての給食の意義を理解している。

教授方法	講義
履修条件	栄養教諭一種免許状取得を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	栄養教諭誕生の背景と意義	三田
2	児童・生徒への食に関する指導の現状と課題	三田
3	日本及び世界の食文化と歴史、学校給食の歴史と意義	三田
4	学校組織と栄養教諭の位置づけ及び役割	畑山
5	食に関する指導の全体計画（作成の必要性、作成の手順、評価）	畑山
6	給食の時間における食に関する指導	畑山
7	教科における食に関する指導（生活科、家庭科、技術・家庭科（家庭分野））	畑山
8	教科における食に関する指導（体育科、保健体育科、保健）	畑山
9	教科における食に関する指導（総合的な学習の時間、特別活動、社会科、理科、道徳）	畑山
10	学校・家庭または学校・地域と連携した食に関する指導（食物アレルギーや肥満傾向などの個別指導を含む）	畑山
11	食に関する指導とその方法　演習①指導案作成	畑山・三田
12	食に関する指導とその方法　演習②指導案完成	畑山・三田
13	食に関する指導とその方法　演習③教材作成	畑山・三田
14	食に関する指導とその方法　演習④教材完成	畑山・三田
15	食に関する指導とその方法　演習⑤指導案発表、相互評価、まとめ	畑山・三田

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験	30	設問を理解した解答がされているかを評価する。	演習課題	30	発表の内容と相互評価への参加態度を評価する。
レポート課題	30	①質的量的に適切であるかを評価する。 ②指定期日までの提出について評価する。	授業参加意欲	10	指導案作成・教材作成への意欲を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義内容に関する部分はテキストを読んで予習してください。[20分] ②指導案作成、教材作成は授業時間も確保しますが、授業外の学習時間をしっかり確保してください。[60分～]	指導案作成や教材作成のサポートをします。 授業に関する質問には随時応じます。

受講生に望むこと	栄養教諭の役割を理解し、学校の場で授業を行うことを自覚した授業参加姿勢を望みます。	教科書・テキスト	『四訂 栄養教諭論 第2版 -理論と実際-』金田雅代著,建帛社,2022年 ,ISBN978-4-7679-2119-8 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』文部科学省,東洋館出版社,2018年 ,ISBN978-4491034607 『中学校学習指導要領（平成29年告示）』文部科学省,東山書房,2020年 ,ISBN978-4827815795 『食に関する指導の手引―第二次改訂版―』著作権所有　文部科学省，発行所(株)東山書房，ISBN978-4-8278-1575-7
指定図書／参考書等	なし／『食に関する指導の手引き―第二次改訂版―』文部科学省『栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育～チーム学校で取り組む食育推進のPDCA～』文部科学省	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

教育委員会指導主事の経験から、栄養教諭の職務内容について伝える。また、教科における栄養教諭の関わりについて事例を紹介し、栄養教諭としての在り方や課題についてディスカッションさせる。

授業科目名	学校栄養指導論Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	相良　多喜子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
栄養教諭一種免許取得のための科目である。「学校教育指導論Ⅰ」の内容を踏まえ、食を通じて健康教育を行う重要性を理解し、食に関する指導（食育）の実践をめざし、その考え方、手法を検討する。学習指導要領や食に関する指導の手引きを踏まえ、栄養教諭が実際に食に関する指導を行う意義、機会、方法を探る。栄養教諭としての役割、専門性を活かし、より望ましい食生活をめざすための指導を企画し、その配慮、技法も追及していく。最終的には模擬授業を実施する。	1．学校における栄養教諭の役割および職務、その専門性を理解する。 2．栄養教諭として、自らの「食に関する指導」が立案できる。 3．模擬授業を通して指導力を身に付ける。

教授方法	講義
履修条件	栄養教諭一種免許を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食に関する指導の展開・食の指導に関する指導の手引き	
2	学習指導要領・学習指導案	
3	給食の時間における食に関する指導	
4	「家庭科」「生活科」における食に関する指導	
5	「体育科・保健体育科」「総合的な学習の時間」における食に関する指導	
6	「道徳」「特別活動」における食に関する指導	
7	「理科」「社会」における食に関する指導	
8	発達に応じた食に関する指導と食育教材および食生活学習教材	
9	学習指導計画の検討　①学習指導計画（模擬授業の内容）の発表	
10	学習指導計画の検討　②模擬授業の「学習指導案」の作成と修正	
11	模擬授業（1）小学校低学年を対象に指導力を身に付ける	
12	模擬授業（2）小学校高学年を対象に指導力を身に付ける	
13	模擬授業（3）中学生を対象に指導力を身に付ける	
14	模擬授業の評価、振り返り	
15	食に関する指導における個別指導・まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	発表や模擬授業の取り組み	試験	60	総合評価

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業終了後、その単元全体を復習する。［60分］	授業内で適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	栄養教諭の実習（栄養教育実習）にも活かせるよう，積極的に取り組んでください。	教科書・テキスト	『四訂 栄養教諭論　第2版-理論と実際-』金田雅代編著,建帛社,2024年,ISBN978-4-7679-2119-8 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』文部科学省,東洋館出版社,2018年,ISBN978-4491034607 『中学校学習指導要領（平成29年告示）』文部科学省,東山書房,2020年,ISBN978-4827815795 『食に関する指導の手引-第二次改訂版-』著作権所有　文部科学省,発行所（株）東山書房,ISBN978-4-8278-1575-7
指定図書／参考書等	食に関する指導の手引きー第二次改訂版ー平成31年　文部科学省 健学社版,ISBN978-4-7797-0496-3 『栄養教諭論Ⅱ～実践研究～』金田雅代編著　（建帛社）	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	栄養教育実習指導			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	相良　多喜子						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、栄養教諭一種免許の資格取得を目指す学生が、栄養教育実習の円滑な実施ならびに実習成果の確実な定着のために学ぶ科目である。事前学習では実習に臨むに際しての準備や心構え、学校の実務、学習指導案づくり等を学ぶほか、模擬授業により実際の指導を演習する。事後学習では研究授業の振返り等による課題の明確化を行うとともに、実習報告書の作成・発表などを通して、必要な実践的指導力を確実に定着させる。	①教育実習の意義や目的、心構えなどを理解する。 ②学習指導案作成、教材・ 教具の作成など、実習に必須の基本的な知識・技術を習得する。 ③教職に対する自己の適性を再認識し、教職への意識を一層高める。

教授方法	演習
履修条件	栄養教諭一種免許を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、採用と配置　　科目の概要、科目の到達目標、学習方法、評価方法等について理解するとともに、栄養教諭の採用状況や採用の方法等を理解する。	
2	教育実習の目的・意義　　教育実習の目的や意義を深く理解し、必要な準備に積極的に取り組む。	
3	教育実習の形態　　校種別、教科別の教育実習の一般的な形態及び栄養教育実習特有の形態について理解する。	
4	教育実習の事前準備　　教育実習の開始までに必要な準備と事前打合せ、実習校の概要の調べ方等について理解する。	
5	研究授業と整理会の進め方　　教育実習における研究授業の位置づけや進め方について学ぶとともに、その重要性を理解する。	
6	学習指導案の基本　　一時間の授業で使用する学習指導案の構成（形式）や記載内容について、必要な事項を確認する。	
7	学習指導案づくり①　　学習指導案の原案を作成し、グループで話し合ったり担当教官の指導を受けて検討を進める。	
8	学習指導案づくり②　　学習指導案を完成させるとともに、指導案に基づき必要な教材・教具の準備、板書計画を立てる。	
9	模擬授業①　　作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。	
10	模擬授業①　　作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。	
11	実習成果の振返り①　　教育実習の概要報告・総括を行うとともに、意見交換や指導講評を通じて課題の整理や明確化を行う。	
12	実習成果の振返り②　　教育実習の概要報告・総括を行うとともに、意見交換や指導講評を通じて課題の整理や明確化を行う。	
13	教育実習報告会準備①　　成果発表の資料や原稿づくりを通して、実習成果を定着させるとともにプレゼン能力を向上させる。	
14	教育実習報告会準備②　　準備した資料に基づいてリハーサル発表を行い、全員が各自の分担を最終確認する。	
15	栄養教育実習報告会　　資料を提供し実習成果を発表し合う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題レポート及び演習成果	40	課題レポートの期限までの提出と質的・量的な内容、模擬授業での成果と指導案の完成度	実習成果としての報告や発表	40	実習成果としての報告書、研究授業、成果発表の取組状況や発表技能
授業への参加状況	20	授業への能動的な参加（発言・応答）＋グループ活動等における積極的な役割分担＋実習準備			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
課題レポートや模擬授業のための準備等は、期限を守ること。[30分]	提出をうけた課題等は、原則としてコメントを付したり添削した上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する。

受講生に望むこと	栄養教育実習で最も重要なのは研究授業に対する周到な準備・実施と事後の振り返りである。このため、時間を惜しまず万全の準備を整えて真摯な態度で模擬授業等に臨むことが大切である。	教科書・テキスト	特に指定せず、適宜資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／「教育実習の常識～事例にもとづく必須６６項～」教育実習を考える会編、蒼丘出版、2008、ISBN978-4-915442-11-7 「栄養教諭養成における実習の手引」（第二版）市場ほか、東山書房、2011年、ISBN978-4-8278-1444-6 『栄養教諭養成のための栄養教育実習ﾏﾆｭｱﾙ』赤松利恵 他著、現代図書、2009年、ISBN978-4-86299-015-0	その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭一種免許の取得にはこの科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	栄養教育実習			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	田中　弘美						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、栄養教諭一種免許の資格取得を目指す学生が、大学で学んだ知識・ 技術を実地に応用し、体験を通して確実に習得するための科目である。このため、学校現場での児童・生徒への食に関する指導の基本、校務分掌、給食指導など栄養教諭に求められる様々な知識・技術を、実習を通して深化・総合化する。なお、実習は小学校（中学校）における１週間の臨地実習Ⅰ（給食の運営分野）と１週間の栄養教育実習から成る。	①大学で学んだ知識・技術を学校現場で実際に応用できる。 ②実習校での教育活動及び給食管理実務で基本的な知識・技術を定着させる。 ③児童・生徒との直接の触れ合いを通して、教職への意識を一層高める。

教授方法	栄養教育実習（研究授業、給食指導、授業参観など）
履修条件	科目「栄養教育実習指導」「実践栄養教育」の履修

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実習オリエンテーション及び実習校の学校経営　　服務等の諸注意並びに実習校の管理・運営方針等について説明を受ける。	実習先担当栄養教諭
2	学校の概要と校務分掌　　児童生徒の現状や校務分掌組織等の説明を受け、実習に関わる連絡等が必要な部署を確認する。	実習先担当栄養教諭
3	教育活動の参観・補助①　　学級活動や給食の時間（配膳指導や後片付け指導）等での、食に関する指導の参観、補助を行う。	実習先担当栄養教諭
4	教育活動の参観・補助②　　朝の会や終わりの会、担任の授業、特別活動、清掃、他学年の授業などの参観、補助を行う。	実習先担当栄養教諭
5	給食管理作業の参観・補助　　厨房における調理作業の確認・補助と、各教室への配送までの経路を参観・補助する。	実習先担当栄養教諭
6	学習指導案づくり①　　教育実習校での研究授業テーマの決定と、必要な準備や手順について担任・栄養教諭から指導を受ける。	実習先担当栄養教諭
7	学習指導案づくり②　　研究授業用指導案の作成を進め、疑問点を相談するなどして担任・栄養教諭から必要な指導を受ける。	実習先担当栄養教諭
8	教材・教具等の作成①　　学習指導案に基く板書計画、教材プリント等について、担当教諭に原案を示して必要な指導を受ける。	実習先担当栄養教諭
9	学習指導案づくり③　　研究授業指導原案を完成させて提出するとともに、関係者に回覧し必要な指導を受ける。	実習先担当栄養教諭
10	学習指導案づくり④　　指摘を受けた箇所を改善して学習指導案を完成させ、校長等への配付を兼ねて当日の参観を依頼する。	実習先担当栄養教諭
11	教材・教具等の作成②　　当日の授業をイメージして、教材・教具を完成させ、必要数を期限までに確実に準備する。	実習先担当栄養教諭
12	研究授業の準備　　準備した学習指導案および教材・教具、教室等の最終確認と、本番をイメージしてのリハーサルを行う。	実習先担当栄養教諭
13	研究授業の実施　　学習指導案に基づいて、参観者を前にして児童・生徒を対象とした45(50)分間の授業を実践する。	実習先担当栄養教諭
14	研究授業反省会　　授業終了後、関係者に授業所感を発表するとともに、改善点等の指導を受けて指導力の一層の向上を図る。	実習先担当栄養教諭
15	実習記録簿等の整理　　研究授業準備等の実習記録、日々の学びや所感等の記録を行い、毎日放課後に担当者の指導を受ける。	実習先担当栄養教諭

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習状況	70	実習校で誠実に勤務し、かつ研究授業をはじめとする実習プログラムに積極的に取組んで実習成果を得るとともに、学校教職員と望ましい人間関係を保つ。	実習記録簿	15	実習記録簿の各項目及びまとめ報告に正確かつ十分な記載があり、指定期日までに提出する。
実習校での研究授業	15	研究授業における成果、研究授業のために作成した学習指導案			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①期間中における翌日の実習ための事前準備［60～120分］ ②実習中及び実習後の提出課題の作成［30分］	実習校における研究授業を担当教官が参観するとともに、大学へ戻ってからのクラス報告発表では、課題の整理や指導講評を行う。

受講生に望むこと	誠実な態度で、時間に余裕をもって教育実習に臨むことが重要である。特に研究授業に必要な学習指導案の作成や教材・教具の準備に関しては万全を期す必要がある。また、児童・生徒や実習校の教員に関わる問題については、自分勝手な判断をしないで、必ず教職員の誰かに速やかに連絡・相談して、指示を受けて対処することが必須である。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／食に関する指導の手引き（文部科学省）　健学社　2019　ISBN 978-4-7797-0496-3	その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭一種免許の取得には、この科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教職実践演習（栄養）			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	茶谷　信一・畑山　千春						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、栄養教諭一種免許の資格取得を目指す学生が、４年間の教職課程学習のまとめとして、実際の教育現場で役立つ知識・技術を、総合的 かつ実践的に身につけるために学ぶ科目である。このため、具体的な課題 に基づくグループディスカッション、模擬授業、プレゼンテーション等の 演習等により、栄養教諭の職務に必要な様々な指導力の定着を図る。	①学校組織の一員として、指導に必要な基本的な知識・技術を身につける。 ②食育にかかる学習指導案と教材の作成、それらを使った指導ができるようになる。

教授方法	演習
履修条件	栄養教諭一種免許を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　　本授業のねらいの説明と「履修カルテ」の確認。	茶谷・畑山
2	教員としての倫理・服務について考える。	茶谷
3	教員としての使命感等について考える（地域社会との連携，等を含む）。	茶谷
4	食に関する指導の意義と内容　学校における食育推進の今日的意義とその内容、課題について理解する。	畑山
5	食に関する指導の実際①　給食指導(準備、食事、後片付け）、栄養指導について、ICTを活用するなど、実際的な方法を学ぶ。	畑山
6	食に関する指導の実際②　ロールプレイング等を通して、児童・生徒や保護者に対する個別対応の指導力を育成する。	畑山
7	学級経営のヒント　学級経営に関する場面指導の課題について、グループ討議等を通して自分の考えを深める。	茶谷
8	特別支援教育　特別な配慮を要する児童への支援についてICT等も活用しながら学び、栄養教諭としての関わり方を考える。	茶谷
9	優れた授業から学ぶ①　優れた模擬授業を教材で視聴後、学習指導案と対比しながら指導法を学ぶ。	畑山
10	優れた授業から学ぶ②　優れた研究授業を学習指導案に基づいて教材で視聴し、指導の工夫や気づきを通して指導力を養う。	畑山
11	給食指導案と評価表の作成　既習事項やネット情報等を参考に対象校種や学年に相応しい給食指導案とその評価表を作成し、指導案作成力と評価力を磨く。	畑山
12	給食指導案と評価表の作成　既習事項やネット情報等を参考に対象校種や学年に相応しい給食指導案とその評価表を作成し、指導案作成力と評価力を磨く。	茶谷・畑山
13	まとめと振り返り　子供たちを取り巻く現代の食環境について考察し、食にかかわる社会人としての義務と役割について考える。また、学校における栄養教諭の役割と意義について確認する。	茶谷・畑山
14	補完指導①「履修カルテ」を記入し、教科指導力を中心に，学生個別の課題を見つける。	茶谷
15	補完指導②「履修カルテ」の内容について共有化を図るため意見交換する。	茶谷

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
演習成果	40	模擬授業や場面指導など、様々な演習における成果	課題レポート	40	課題レポートの提出状況（期限、量、質）
授業への参加態度	20	授業への能動的な参加（発言・応答）			

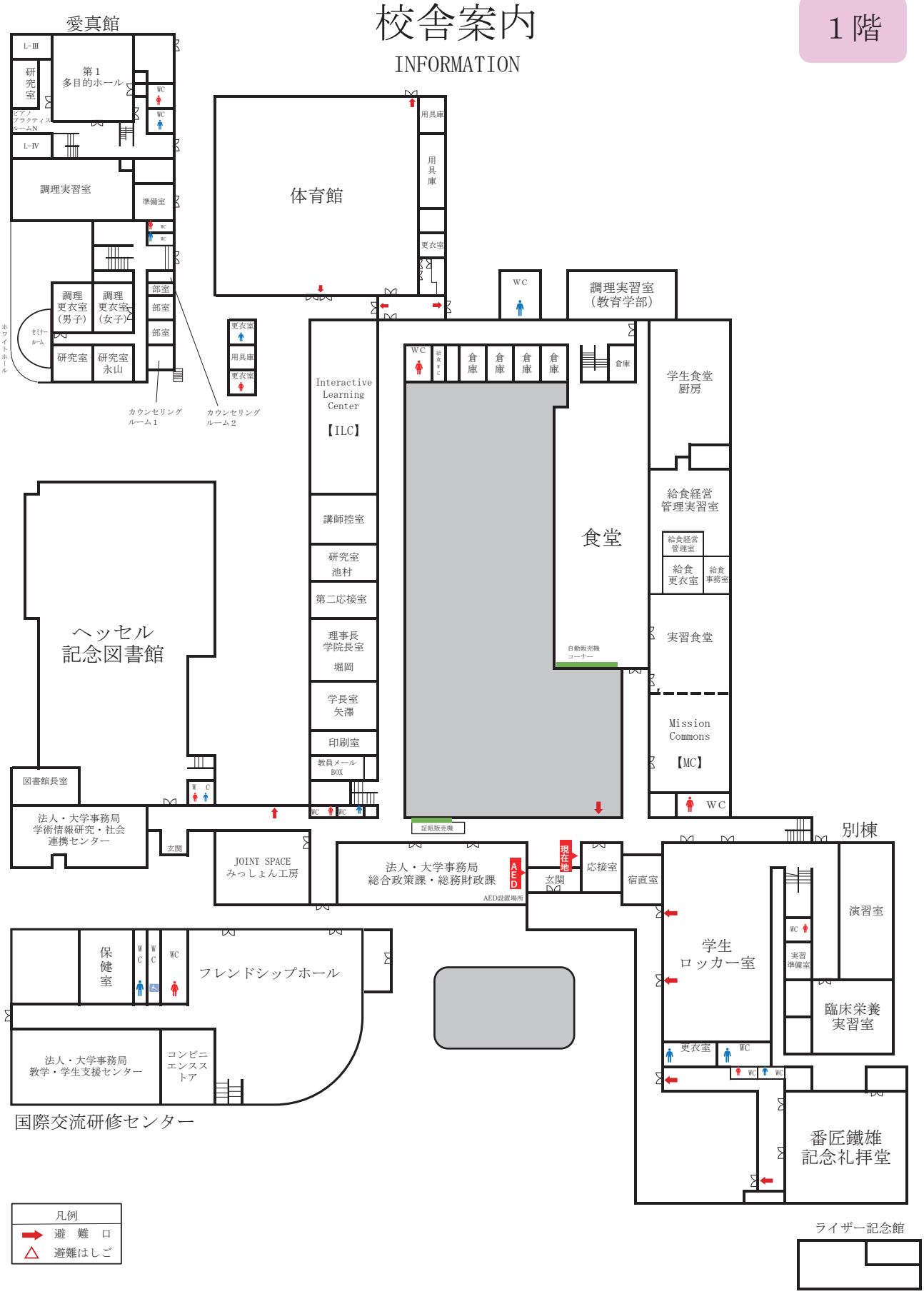
授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教育実習に係わって、指導案作りや教材準備など、授業における指導を踏まえた準備が、授業外にも必要になってくるため、準備の様子などを経過観察しながら、タイムリーなアドバイスを行っていく。［60分］	提出された課題にきちんと目を通し、授業の中で個別にフィードバックしていく。

受講生に望むこと	「栄養教諭」という具体的な目標から目を離さず、なすべきことを自身で考えながら授業に臨んでほしい。	教科書・テキスト	なし（必要に応じて資料を準備する）
指定図書／参考書等	なし／『教育実践の理論と方法』長瀬善雄編　教育出版　2017　　ISBN 978-4-316-80450-7	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

校舎案内
INFORMATION

1階



校舎案内
INFORMATION

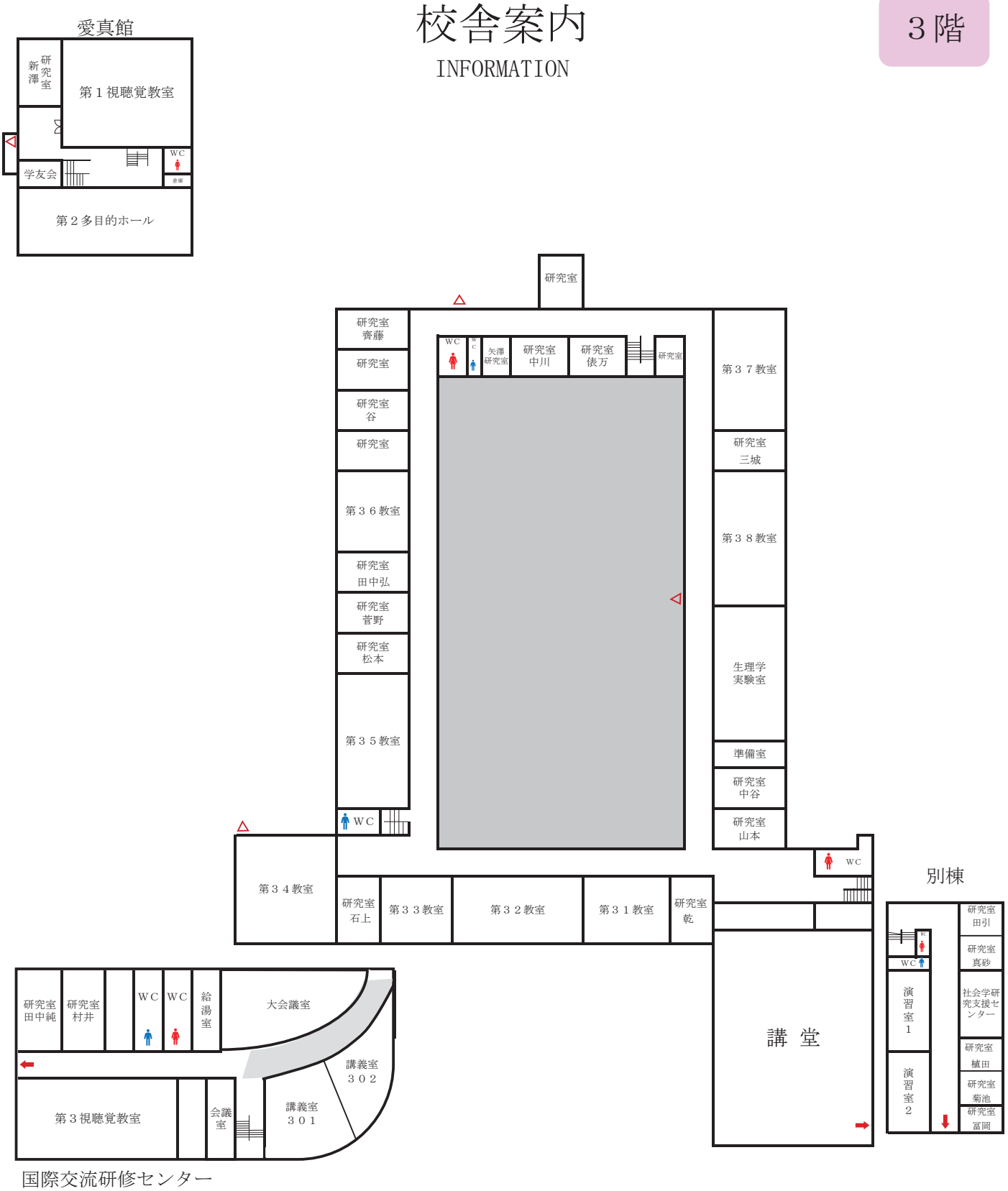
２階

凡例	
➡	避　難　口
△	避難はしご

校舎案内

INFORMATION

３階



HOKURIKU GAKUIN Univ.
hgu
KANAZAWA JAPAN